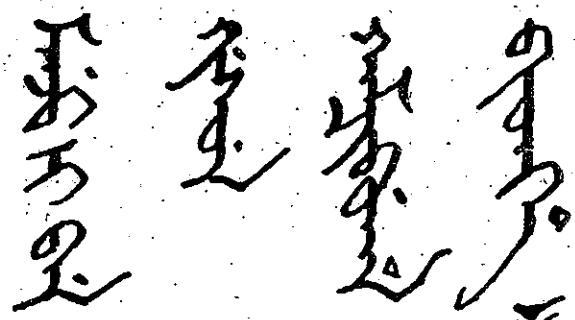
MANJU ŽI-BEN GISUN KAMCIBUHA BITHE

滿和辭典



文學博士

羽田亨編

国書刊行会

序　言

我が國に於ける滿洲語學は文化元年露西亞の國使が日露兩文の外に滿洲文で書いた國信を齎して，德川幕府に開國を求めたのを契機として，同五年その飜譯の命を蒙つた日官高橋景保によつて始められた．滿文輯韻二十七卷，增訂滿文輯韻十二卷；清文鑑名物語抄六卷等の著述はこの難業に成功した景保が，更に斯學に精進した苦心の結晶に外ならぬ．別に同じ機緣に由つて，幕府は長崎の譯官等にも同語の研究を命じ，辭書の編纂に從事せしめたがこれは容易に進捗せず，約五十年後の嘉永四年以來安政二年にかけて清文鑑和解または飜譯清文鑑と題する四卷五冊と飜譯滿語纂編五卷十冊とを作り得たに止まつて，計畫した辭書の完成を見るには至らなかつた．此の如く我が國に於ける滿洲語の研究は江戸と長崎との兩地に發芽したのであつたが，本來露西亞との政治的交涉に促されて播かれた種であつただけに，その後この語が國交上に用無きことが認められると共に，折角萠え出した若芽に培ふものもなく，無殘に枯死の情態に陷れてしまつたのは，惜しみても餘りあることと言はねばならぬ．

明治の末期以來我が國の東洋學研究の勢は駸々として進境を示し，滿洲語の如きも新に一個の學術として研究するものが輩出した．併し乍らその進步はまだ遲々たる有樣で，到底歐洲に於ける斯學の發達に拮抗する程度には達せず，僅にその成績に

依頼して當面の研究に資するに過ぎなかつた．然るに輓近東亞の政治事情が一大變轉を示し，滿洲國の成立を見るに及んで，今日に在りては殆んど死語に等しい滿洲語で書かれた文獻の研究熱が勃然として起り，これに伴うて適當なる辭書を要求する聲が高まつて來た．この要求に應ずるものとしては，清朝の盛時康熙時代に於て編纂せられた清文鑑，ついで乾隆時代にそれを補うた增訂清文鑑，並に清文彙書の類，別にこれ等の書に依據した歐人の述作，卽ち佛のアミオ (Amyot) 露のザハロフ (Zakharoff) 獨のガベレンツ (Gabelentz) 等が各，自國語に譯した辭書を以てせねばならぬ．然も清文鑑は各語を部門別に羅列した語彙で，辭書としての使用には甚だ不適當であるのみならず，その滿文解釋は初學者には了解し難く，彙書やアミオ，ザハロフの書はこれを改め，滿洲語の字頭に從つた排列法を採つて居るけれども，彙書の譯註には難解のもの少からず，歐人の書はその言語を解するものには便利であるが，然も既に稀購に屬すると共に，譯語に於ても必ずしもすべて正鵠を得て居るとはいはれない．茲に於てか余は京都帝國大學滿蒙調査會の一事業として，新に邦語譯の滿洲語辭典の編纂を企て，昭和九年同會の賛成を得てこれに着手することになつた．着手の初に當つては，現存滿洲語の資料を出來得る限り廣い範圍に亙つて搜求し，一々適當の譯語を施すを目的としたが，この方針の下に編纂を進める間に，それが甚だ困難な事業で，容易に完成を見るに至らないことを覺つた一方に，會の事情としては成るべく早

くこれを成就したい希望であつたので，半程に於て方針を改め増訂清文鑑を基にし，その上に四體・五體清文鑑に收められた總べての語と，別にこれ等の書に見ないで清文彙書に載せられてある語とだけを蒐錄し，これ等の書に施された各語の漢・滿譯解を一々參照して，及ぶ限り適當の邦語譯を施す程度に止めることにした．蓋し清文鑑は周知の如く，康熙より乾隆時代に亙り，逐次增訂を經て，遂に滿・漢・蒙・藏・回五族の語を對照せしめた五體清文鑑にまで發展したのであるが，然もその單語は滿・漢兩語だけを對譯した增訂清文鑑正編三十二卷補編四卷中に收載したものと大差なく，これに各々對應の蒙・藏・回語を增對せしめたものに外ならぬ．ところで增訂清文鑑に收められた滿洲語彙は日常使用せられる語ばかりでなく，漢語を滿譯する爲に特に案出せられたものをも多分に含んで居るから，これを以て大概滿洲語を網羅したものと考へて大過ない．その缺漏を補ふべき最も重要な書としては，清文彙書十二卷を推さねばならぬ．從つて增訂清文鑑に基づき，これに四體・五體清文鑑及び清文彙書の語彙を收めるに止めた本書編纂の方針は大體上是認を得ることと信ずる．若し夫れ本書所載以外の特種語の蒐錄に至つては，これを更に一層精細な辭書編纂の機運の回り來る日に讓らねばならぬ．

この書の編纂は，余と共に我が東洋史研究室に於て研鑽に從事した山本守君の助力に依りて着手せられ，同君の去るや藤枝晃君がこれに代り，更に今西春秋・三田村泰助兩君の非凡の努

力が加はつてここに完成を見ることになつた．その成績の如何については固より嚴正なる世の批判に待たねばならぬ．たゞ中絶した先人の研究を繼承し，我が國に於ける斯學將來の發展の爲に，聊たりとも寄與し得るところありと認められるならば，從事者等三年有半の忍苦は永く快い回想となるであらう．

昭和十二年十一月二十日

於京都帝國大學東洋史研究室

羽　田　亨

凡　例

1. 本辭典の語彙は，增訂・四體・五體の三清文鑑及び清文彙書中から蒐錄し，之をメルレンドルフの滿洲文法 (P. G. von Möllendorff, A Manchu Grammar) に載せた音譯法に從つて羅馬字化し (別表參照)，アルファベット順に配列したものである.

2. 每語其の出所並びに支那譯語を併記して，譯語の原據を明らかにすると共に，支那譯語を參照して本書に用ゐた譯語の意味を補ふ一助たらしめた. 乃ち每譯語後尾の括弧中

   ㋑ 羅馬數字は清文鑑卷數 (數字の前に補の字あるは清文鑑補編の意)，次に，「畋獵一」「武器八」等とあるはその類別，更にその次に二重點を置いて記したのが支那譯語であり，

   ㋺ 羅馬數字及び類別に相當する部分に「彙」とのみあるは，其語並びに其譯が清文彙書中にあることを示し，

   ㋩ 卷數指示の位置に「續」とあるは增訂清文鑑續入新語篇を，「續2」とあるはその二次續入新語篇を指すものである.

   增訂・四體・五體三清文鑑の滿洲語彙及び其の支那語譯には，十數語の外殆んど異同あるを見ず，分類配列の方法に至つては全然差異が無い. 但だ增訂清文鑑に添加されてゐる續入新語と稱するもののみは四體・五體兩清文鑑に具はらない所であるが，それは語數も僅少である. 則ち本辭典中，譯語の出所を示した卷數，類別，並に附記した處の支那語譯は，增訂・四體・五體の三清文鑑に共通するものである. 但し上記の如く，數語共通しないものがあるので，それ等の語に限り，出所を示す卷數字の前に 增訂，四體，五體 等と記して夫々增訂・四體・五體清文鑑の第何卷にある語であるかを明らかに示した.

3. 併し乍ら，本書の譯語中には，支那譯語と相合せざるものもあり，又支那譯語の意義を補ふに足るものもある. これは清文鑑の滿文の說明に依據した爲に外ならぬ.

4. 或る語句の最初の語がその前に掲げた語，又は語句の最初の語と同一である場合には，再度記入の煩を省き，凡て—を以て表はした．例へば Aba の下の — saha は Aba saha を，又 Ai gelhūn akū の次の — geli は Ai geli を表はすが如きである．

5. 譯語は成るべく原義に近からしめんことを期し，平易なる現代語を以てした．但し間、説明等の文句の長きに亙るものは文章體の簡便なるを採用した．

6. 一語で數義を有つものは，1. 2. 3 等の數字でそれを區別したが，然しこれは必ずしも第一義第二義等を示すものではなく，大體の場合に於て異義を區別するだけのものに過ぎない．

7. 動詞は基本形以外一切の變化形を，凡て清文鑑或は清文彙書に記載されてあるが儘に採錄してアルファベット順に並べ，格別の整理を試みることはしなかつた．但し複數共同形語尾として -ndumbi, -numbi の兩形を取るものは特に並列して掲出した．

8. 官衙・官職・儀仗・器具等の名に付した簡單な説明は概ね增訂清文鑑に據るもので，古官・古冠冕等特別の指示なき限り，凡て清朝に行はれたものの説明である．地名に就いても亦同じ．

9. 動植物名には能ふ限り和名を付する樣試みたが，尚解明を得ないもの少からず，これ等は暫く增訂清文鑑の奇怪なる説明を譯載しおくの外なかつた．

10. 清文鑑及び清文彙書中の支那譯語で全く和譯語と一致するもの，例へば「天文」「地理」「形狀」「弓」「靴」等の如き語は特別の場合を除くの外は，只支那譯語を掲出したのみで，和譯語を重出することはしなかつた．

滿洲字母表

母音字

	獨立	語頭	語中	語尾
a	ᠠ	ᠠ	ᠠ	(ᠨ)
e	ᠡ	ᠡ	ᠡ	(ᠨ)
i	ᠢ	ᠢ	ᠢ	ᠨ
o	ᠣ	ᠣ	ᠣ	ᠣᠨ
u	ᠤ	ᠤ	ᠤ	ᠤᠨ
ū	ᠥ	ᠥ	ᠥ	ᠥᠨ

子音字

	語頭	語中	語尾
n	ᠨ	ᠨ	ᠨ(ᠩ)
k	ᠺ(a.o.ū.) ᠻ(e.i.u.)	ᠺᠺ ᠻ	ᠺ ᠻ
g	ᠭ(a.o.ū.) ᠸ(e.i.u.)	ᠭ ᠸ	— —
h	ᠬ(a.o.ū.) ᠾ(e.i.u.)	ᠬ ᠾ	— —
b	ᠪ	ᠪ	ᠪ
p	ᠫ	ᠫ	—
s	ᠰ	ᠰ	ᠰ
š	ᠱ	ᠱ	ᠱ
t	ᠲ(a.o.ū.) ᠳ(e.i.u.)	ᠲ ᡨ ᠳ	ᡨ
d	ᠳ(a.o.ū.) ᠳ(e.i.u.)	ᠳ ᠳ	—
l	ᠯ	ᠯ	ᠯ
m	ᠮ	ᠮ	ᡩ
c	ᠴ	ᠴ	—
j	ᠵ	ᠵ	—
y	ᠶ	ᠶ	—
r	—	ᠷ	ᡵ
f	ᠹ(a.e.) ᠸ(i.o.u.ū)	ᠹ ᠸ	—
w	ᠸ(a.e.)	ᠸ	—
ng	—	ᠩ	ᡭ

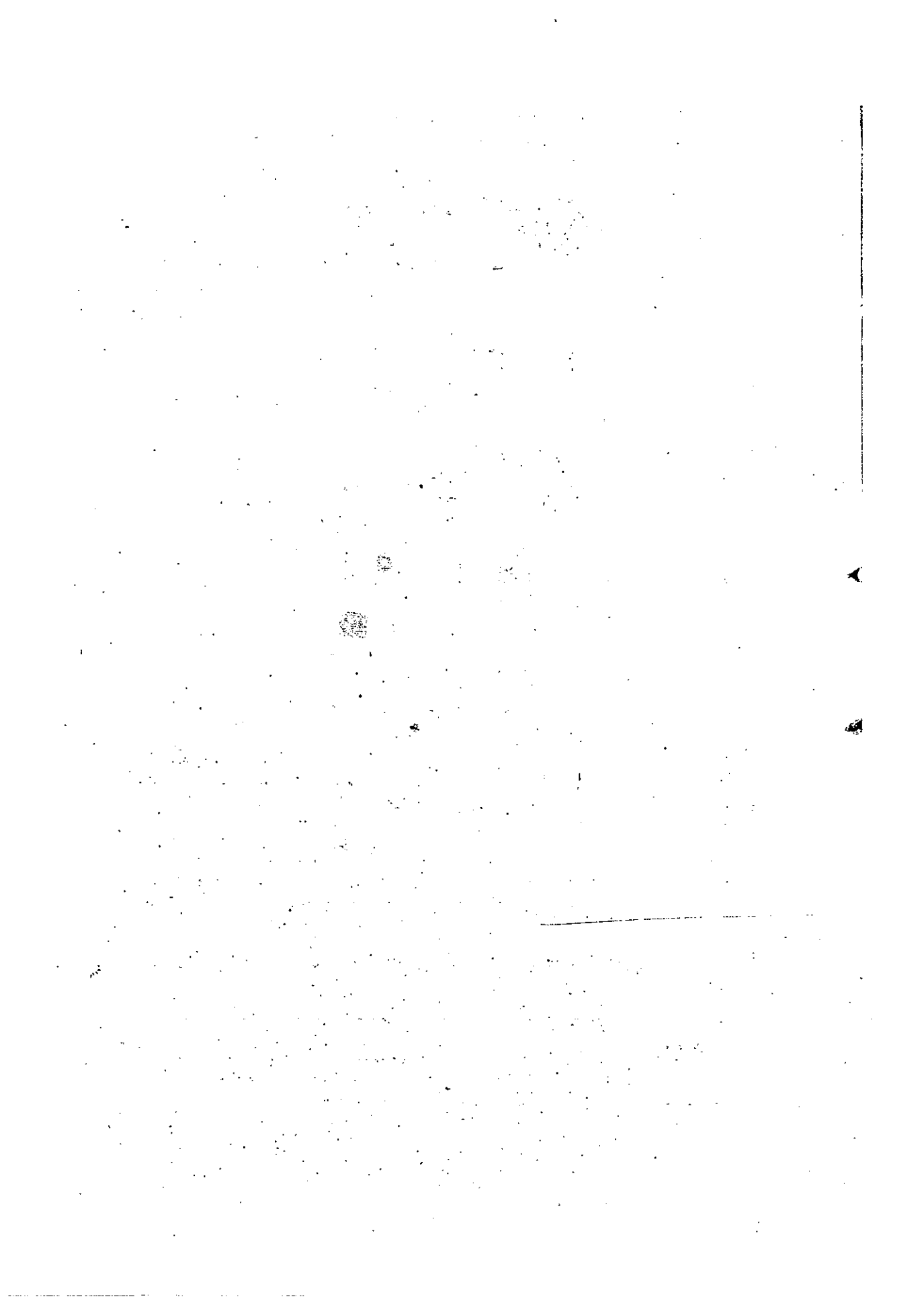
特定字

(支那音を寫すもの)

k'	ᠺ᠋	ts	ᡮ	sy	ᡯ
g'	ᠭ᠋	dz	ᡰ	c'y	ᡱ
h'	ᠬ᠋	ž	ᡲ	jy	ᡳ
ts'	ᡴ᠋				

備考

1. a 母音の語尾形 ᠊ᠠ は ᠨ, ᠩ 子音の後に限り又, e 母音の語尾形 ᠊ᠡ は ᠨ, ᠩ, ᠴ, ᠵ, ᠽ 子音の後に限り用ゐるものとす。
2. (a.o.ū) (e.i.u) 等と記せるは語中に夫々a. o. u 又はi. e. u等の母音字を有する場合の形なることを示す。
3. n の語尾形は ᠊ᠨ, ᠊ᠩの二種あれ共普通には ᠊ᠨ が用ゐらる。
4. k の語中形 ᠻ, ᠺ は母音を伴ふ場合には何れも用ゐられ、母音を伴はざる場合には必ず ᠺ の形が用ゐらる。
5. t の語中形 ᡨ は母音の後、子音の前に用ゐらる。



A

A 1. 太極動き生ずる氣〔2. 時令一：陽〕陰陽の陽．陰の反〔7. 書五：陽〕2. 滿蒙字の書〔7. 書八：字牙〕3. あー．おー〔12. 問答二：慢應聲〕あつ！おや！〔14. 驚嘆一：驚惶聲〕

— **a** はいはい．あいあい〔12. 問答二：隨便答應聲〕

— **fa sere onggolo** どんなだか分らない前に〔18. 散語一：未見怎麼樣〕

— **i bukdan** （折疊んだ紙の）表の面〔7. 文學什物一：陽扣〕

— **jijun i acangga** 陽字の合ひふだ．銅で陽文字を鑄出し夜間の開城に備ふる合符〔3. 諭旨：陽文合符〕

— **si** あっしっしっ．ほいほい〔14. 驚嘆一：逐雞鳥聲〕

— **si seme** わいわいがやがやと〔彙：胡亂鬧鬧貌〕

— **ta** わいわい．がやがや〔5. 爭鬪一：亂鬧狀〕

— **ta seme** あったったと．ほいほいと〔彙：趕雞雀聲〕

Aba 1. 獵．卷狩り〔9. 畋獵一：畋獵〕2. 何處に〔12. 問答一：在何處〕

— **bargiyambi** 狩を收める．卷狩を引き揚げる〔9. 畋獵一：收圍〕

— **saha** 獵．卷狩り〔彙：田獵．打圍．與 Aba 同〕

— **sarambi** 卷狩の列が兩邊に散開する〔9. 畋獵二：撒圍〕

— **sindambi** 狩りの圍みを置く．中央の旗から兩方に勢子の列を配置する〔9. 畋獵二：放圍〕

Abai ebubun 易卦の名〔補 1. 書二：歸妹〕

Abalabumbi 獵をさせる．卷狩りをやらす〔9. 畋獵一：使打圍〕

Abalambi 獵をする．卷狩りをする〔9. 畋獵一：打圍〕

Abalanambi 獵に行く．卷狩りに行く〔9. 畋獵一：去打圍〕

Abalandumbi Abalanumbi 一齊に狩りをする〔9. 畋獵一：一齊打圍〕

Abalanjimbi 獵をしに來る．卷狩に來る〔9. 畋獵一：來打圍〕

Abdaha 草木の葉〔29. 樹木八：葉〕

— **aisin** のべ金〔22. 貨財一：葉子金〕

— **efen** 稷麵をこねまぜて小豆の餡をおき根樹の葉で包んだ團子〔27. 餑餑一：葉子餑餑〕

Abdahaname banjiha 葉の出るまでに生長した．生長して葉の出來た〔彙：生長成葉子〕

Abdangga afaha 折り本〔7. 文學什物二：册頁〕

— **fungnehen** 册封の文書〔3. 封表一：册〕

— **moo** びらう．びれう〔補 2. 樹木一：蒲葵〕

Abdari くめぎ〔29. 樹木四：婆羅柯〕

Abgari 任官せず閑居せる人〔10. 人五：閑居〕

— **banjimbi** 官を退いて閑居する．閑に暮す〔彙：無官守言責之逸人．暇逸之暇．與 Baisin 同〕

Abišaha dabišaha よそよそしい．知らぬ顏の〔18. 散語一：不甚相干〕

Abka 天．そら〔1. 天文一：天〕

— **be ginggulere yamun** 天文觀測の官署〔20. 部院七：欽天監〕

— **be ginggulere yamun i aliha hafan** 欽天監の長官〔4. 臣宰八：欽天監監正〕

— **be ginggulere yamun i ilihi hafan** 欽天監の次官〔4. 臣宰八：欽天監監副〕

— **eherehe** 天候の惡くなつた〔彙：天變了〕

— **farhūn oho** 天が暗くなつた〔彙：天暗了〕

— **fundehun** 空が澄み渡つた〔1. 天文一：天氣清肅〕

— **gereke** 天晴れた〔彙：天亮了〕

— **heyenehebi** 空に雲の少々ある〔1.

天文四：天帶微雲〕

Abka saru 天ぞ知る！天も照覽あれ！罰あたりめ！（人を罵る語）〔16. 咒罵：天知道〕

— **šu na i giyan** 〔彙：天文地理〕

— **tulhun oho** 空の曇つてきた〔彙：天陰了〕

— **tulhušembi** 空が曇る〔彙：天陰〕

— **tusihiyen oho** 霧や雲が空を遮つて昏くなつた〔彙：霧雲遮天昏暗了〕

Abkai ari 1. 狂妄輕佻な人〔彙：狂妄很壞之人．無一處不到喃氣輕佻人〕2. 天の鬼〔彙：通天鬼名〕Ari に同じ

— **banjibungga enduri** 海神の名〔19. 神：天後神〕

— **buhū** 一角の Bucin（挑拔）〔31. 獸一：天鹿〕

— **buhūngge kiru** 天鹿を刺繍した旗〔6. 鹵簿器用三：天鹿旗〕

— **buten** 空のはて〔1. 天文一：天涯〕

— **buyecukengge inenggi** 正月乙亥，二月甲戌，三月乙酉，四月丙辰，五月丁未，六月戊午，七月己巳，八月庚辰，九月辛卯，十月壬寅，十一月癸丑，十二月甲子の各日をいふ〔2. 時令六：天願日〕

— **cooha** 天の兵．即ち清皇帝の兵に對する尊稱〔8. 兵：天兵〕

— **daila** 天の誅討〔彙：天討〕

— **dengjan** 庭中の杆上に吊つて供へる燈籠．高燈籠〔23. 燈火一：天燈〕

— **duka be neire mudan** 禮部が新進士を筵宴する時奏する樂章の名〔補1. 樂：啓天門之章〕

— **durungga tetun** 天體の模形〔7. 儀器：天體儀〕

— **fejergi** 天下．天の下〔彙：天下〕

— **gurgu** 崑崙山に出づる奇獸．虎に似て九首，その首は人面に似たり〔補4. 異獸五：開明獸〕

— **guwebuhen inenggi** 春の戊寅の日，夏の甲午の日，秋の戊申の日，冬の甲子の日をいふ〔2. 時令六：天赦日〕

— **han** 天の汗．天帝〔19. 神：上帝〕

— **han i ordo** 天帝を祭る圓形の建物〔20. 壇廟：皇穹宇〕

— **horgikū** 天の樞軸〔彙：天之樞〕

— **imiyangga fu** 奉天府（滿洲の地名）〔續2. 地輿：奉天府〕

— **indahūn** 陰山に出で，野猫に似て首の白い奇獸〔補4. 異獸二：天狗〕

— **jui** 皇帝．天子〔3. 君一：天子〕

— **kesingge inenggi** 甲子の日より戊辰の日に至る五日，己卯より癸未に至る五日，己酉より癸丑に至る五日，この十五日の日をいふ〔2. 時令六：天恩日〕

— **morin** 奇獸の名．白狗に似て肉翅あり，人を見るときは飛ぶ，馬戎山に出づと〔補4. 異獸三：天馬〕

— **moringga kiru** 天馬の像を刺繍した旗〔6. 鹵簿器用三：天馬旗〕

— **sihiyakū** 天の樞軸〔彙：天之樞．與 Abkai horhikū 同〕

— **šu i hontoho** 欽天監に屬し天文觀測のことなどを掌る役所〔20. 部院七：天文科〕

— **šurdejen usiha** 北斗七星〔1. 天文二：帝車〕

— **ten i usiha** 北辰．北極星〔1. 天文二：天極星〕

— **turai alin** 山名〔續2. 地輿：天柱山〕

Abkana 1. 天と地と〔彙：天地〕2. どつさり．たんとたんと（小兒の云ふ言葉）〔25. 多寡一：一天二地〕

Absa 1. 河の地曳き網を張るのに使用する板型の漁具．船尾に裝置してある〔22. 打牲器用一：脚船〕2. 樺の木の皮で作つた桶〔25. 器用六：樺皮桶〕

Absalan 人體の下橈骨〔10. 人身六：棒子骨〕動物の前膊骨〔27. 飯肉二：前腿小骨〕

Absambi 骨と皮ばかりに痩せる．痩せ干からびる〔16. 疾痛三：痩乾〕

Absi 1. どこ．何處に〔12. 問答一：那里〕2. どうだ．何といふことだ〔15. 責備：怎麼說〕3. 何とまあ！〔18. 散語一：何其〕

— **feciki** まあ好い！何と珍らしい！〔彙：很好事異樣事則云〕

Absi genembi 何處へ行くのか．何と

どこへ行くのか〔彙：往那裡去〕
Absi hihanakū 何といふ値のない！何とつまらぬ！〔彙：好不值錢〕
— **hojo** 1. 何と美しい！〔12. 稱奬：贊好詞〕 2. 何と快い！〔15. 憎嫌二：好暢快〕
— **kesi** 何と運のよい！何と恵まれた！〔11. 福祉：甚是造化〕
— **koro** 何といふ怨みぞ！〔彙：好不受虧〕
— **ojoro** どういふことにならう！〔彙：怎樣處若何〕
— **ojoro be sarkū** どういふ事になるのだか分らない．どんな風だか知らない〔彙：不知怎麼樣〕
— **oho** 何といふことになつた！〔彙：怎麼樣了〕
— **serengge** 何といふことを言ふものぞ！どうと云ふのだ〔彙：怎麼說〕
— **simeli** 何と貧乏な！〔彙：好不淒涼窮苦〕
— **yabsi** 何とまあ！何とつまらぬ！〔彙：好不口氣．與 Yabsi 同〕
Abtajambi 1. 破れ目が出来て崩れ落ちる〔25. 斷折：物破自落〕 2. 箭の羽が脫け落ちる〔彙：箭翎脫落斷了〕
Abtala 樹枝を整へよ．間伐せよ〔25. 斷折：修樹枝〕
Abtalambi 樹枝を整へる．間伐する〔25. 斷折：修去樹枝〕
Abtarambi 怒つて騒ぐ．狂激する〔17. 暴虐：嗾鬧〕
Abtukūlaha 急處を射中てなかつた．急處を外れた〔9. 攻獵三：中非致命處〕
Abu 僅かに足りぬ．すんでに……する處．もう一息で〔15. 拿放：未拿及〕
Abuci ilha つるむらさき〔29. 花五：天葵花〕
Abuha なづな〔27. 菜穀一：薺菜〕
— **ilha** 草花の名．莖直く葉大きく，花は芍藥花より小さくして、數個叢生し或ひは單一に開く〔29. 花五：蜀葵花〕
Abulikabi 疲れ果てた．すつかり疲れた〔15. 疲憊：乏透了〕
Abuma いぬなづな〔29. 草三：葶藶〕
Aburakabi 無暗矢鱈と引つばり散らした〔彙：胡亂去拉扯〕
Aburambi 目茶苦茶に引つばり散らす〔5. 爭鬪一：亂揪扯〕
Aburame tantambi 騒ぎ引つばり亂打する〔彙：胡鬧亂打〕
Aburi ehe 1. よろづ悪しき．ひどく悪しき 2. 嫉妬の〔18. 兇惡一：萬惡〕
Acabufi bodoro fiyenten 內務府に屬し會計のことを掌る役所〔20. 部院七：會計司〕
— **wecere wecen** 合祀祭〔6. 祭祀一：給祭〕
Acabuha jakdan i šugi 松やに〔22. 貨財二：遲青〕
Acabuki 迎合する者．諂諛する者〔17. 讒諂：迎合的〕
Acabukū Acabuki に同じ〔17. 讒諂：迎合的〕
Acabumbi 1. 會はせる．會見させる〔15. 遇合：使會見〕迎合する．調子を合はせる〔17. 讒諂：迎合〕合はす．調合する〔22. 趕拌：合〕心に合はせる〔13. 喜樂：合〕 2. 夫婦盃をする〔6. 筵宴：合巹〕 3. 木を接ぐ〔彙：接樹木之接〕
Acabume arara hafan 副總裁官の次の修史官〔4. 臣宰十：纂修官〕
— **banjibukū** 翰林院の修撰 (Banjibume dasakū) の次の官〔4. 臣宰四：編修〕
— **bure falgangga** 貢院の供給を處理する役所〔20. 部院十：供給所〕
— **bure hafan** 貢院內の供給を掌る官〔4. 臣宰十：供給官〕
— **hūlara falgangga** 會試の墨卷と硃卷との對讀事務を掌る役所〔20. 部院十：對讀所〕
— **hūlara hafan** 會試の墨卷と硃卷とを對讀する官〔4. 臣宰十：對讀官〕
— **tuwara bithei kunggeri** 日月の蝕を救護せんため朝鮮及び各省の吝行を掌る役所〔補2. 衙署二：勘合科〕
Acabun 1. 報ひ．應報〔12. 助濟：效驗〕 2. 合ふこと．應ずること〔彙：合．宜．應〕

Acabun i ulhun 音律の名. 六呂の一〔7. 樂二：應鐘〕
Acabungga boji 勘合の證文. 契約の證文〔22. 貿易：合同〕
— **fukjingga hergen** 周時婚姻の時に書いて符信となした字〔補1. 書三：墳書〕
— **inenggi** 陰陽相宜しく妨碍なき日〔補1. 時令二：不將日〕
Acabure tungken 鼓の一種. 大きさ三尺餘，胴に穴あり，柱のある座に置いて打つ〔7. 樂器一：應鼓〕
Acalambi 互ひに氣が合ふ〔11. 親和：共合〕
Acalame simnembi 會試を行ふ〔4. 考選：會試〕
Acambi 氣が合ふ〔11. 親和：合好〕會ふ. 會見する〔15. 遇合：會見〕該當する. 當たる〔18. 散語一：該當〕
Acamjabumbi 集める〔21. 收藏：使洽〕
Acamjambi 集まる. 集合する〔21. 收藏：洽〕
Acamjangga besergen 數個の寢臺を合はせて一個の寢臺とし用ふるもの〔25. 器用二：娉牀〕
— **mulan** 數個の床几を合はせて一個の床几とし用ふるもの〔25. 器用二：娉凳〕
Acan 1. 和合. 親和〔11. 親和：合〕2. 法會〔19. 佛二：會〕
— **beidesi** 府の長の補佐官. 同知の次の官〔4. 臣宰十二：通判〕
— **giranggi** 肩の骨〔彙：千斤骨〕
Acanambi 行つて會ふ. 會ひに行く〔15. 遇合：去會見〕
Acandumbi Acanumbi 一齊に會ふ. 共共に會ふ〔15. 遇合：一齊會〕
Acangga 合ふもの. 宜しきこと. 元亨利貞の利〔7. 書五：利〕
— **inenggi** 干支五行相會する日〔補1. 時令二：專日〕
Acanjimbi 來て會ふ. 會ひに來る〔15. 遇合：來會見〕
Acanjime isanjire tulergi gurun i bithe ubaliyambure kuren 來呈の外國文書を飜譯する役所〔20. 部院十一：會同四譯館〕
Acara acarakū babe 合ふと合はざる處とを. 應否を〔彙：應否〕
— **be tuwame** 合ふを見て. 酌量して. 斟へて〔彙：酌量. 斟配〕
Acibumbi 馬駝に荷を載せさせる. 駄せしめる〔32. 騎駝二：使駝〕
Aciha 馬駝に積んだ荷物〔32. 騎駝二：駄子〕
— **fulmiyen** 棚. 荷駄. 行李〔32. 騎駝二：行李〕
Acihi jafambi 賭け事に集まる. 賭博の場所に集まる〔19. 賭戲：會場子〕
Acihilabumbi 1. 兩人共同で耕作させる〔21. 農工一：使夥種〕2. 分ち取らせる〔彙：使分取. 使分得〕
Acihilambi 1. 等分に分ける〔12. 分給：平分〕2. 各自の農具家畜を持ちより兩人共同で耕作する〔21. 農工一：夥種〕
Acika 微動せる〔15. 搖動：微動〕
Acilambi 首投げにかける. 首を挾んで投げ倒す〔8. 撩跤一：使絆子〕
Acimbi 荷駄を着ける. 荷を負はす〔32. 騎駝二：駝〕
Acin temen 荷をつける騸駝〔31. 馬四二：騸駄〕
Acindumbi 一齊に荷を着ける〔32. 騎駝二：齊駝〕
Acinggiyabumbi 搖すらせる. 動かさす〔15. 搖動：使搖動〕
Acinggiyambi 搖する. 動かす〔15. 搖動：搖動〕
Acinggiyan 易卦の名〔補1. 書一：成〕
Acire kiyoo 荷を積む轎〔26. 車轎一：駄轎〕
Acu 熱い！ あつッ！〔16. 疼痛三：燙着犖〕
— **facu** 食べてしまひたい程. 目に入れても痛くない程(嬰兒を可愛がる貌)〔13. 生產：極愛惜〕
Acuhiyadabumbi 讒言させる. 惡口を云はす〔17. 讒詔：使人行讒〕人に讒謗される〔彙：被人讒謗調唆〕
Acuhiyadambi 讒言する. 惡口を云

ふ〔17.譏謂：行譏〕
Acuhiyan 譏言．悪口〔17.譏謂：譏〕
Acuhūn 仲の善い．睦み合つた〔彙：和睦〕
— **akū** 不和の．睦まない．不仲の〔13.怒惱：不睦〕
Acun de cacun あれもあれならこれもこれ．あれこれと．ああがうと〔18.散語一：彼此相左〕
Ada 1.筏〔26.船二：筏子〕2.木の牌〔彙：木牌〕
— **facikū** 竹を並べて作つた十六管の簫〔7.樂器二：排簫〕
Adabufi wesimbure bithe 上奏文や奏章の副本〔5.事務二：副本〕
Adabuha amban 大臣の大臣．家來の家來〔補1.古大臣官員：陪臣〕
Adabumbi 1.次席に擬定する〔4.陞轉：擬陪〕2.巻狩りの勢子を列ばせる〔9.畋獵一：使排列行圍〕
Adada ebebe おやおや．あらあら〔18.散語一：驚訝〕
— **ebebe seme** おやまあと〔彙：嘖々稱奇的口氣〕
Adafi kadalara amban 宗人府の侍郎．宗正の次の職〔4.臣宰一：宗人〕
— **simnere hafan** 正考官（Alifi）の次の官〔4.臣宰十：副考官〕
Adage 老人や子供の背をポンと打つて可愛いがる〔彙：手拍老人家並小孩子背背疼愛〕
Adaha 1.車の物を容れる所〔26.車轎一：車箱〕2.繕つた〔彙：碎物湊成了．拼搭了〕3.官に就いた〔彙：放官放陪了〕
— **bithei da** 〔彙：侍讀學士〕
— **giyangnara bithei da** 〔4.臣宰四：侍講學士〕
— **giyangnara hafan** 侍講學士の次の官〔4.臣宰四：侍講〕
— **hafan** 第六等の封爵．これに亦三等あり〔4.臣宰三：輕車都尉〕
— **hūlara bithei da** 內閣大學士の次の官．翰林院にも亦この官あり〔4.臣宰四：侍讀學士〕
— **hūlara hafan** 侍讀學士の次の官〔4.臣宰四：侍讀〕
— **kadalara da** 副將の次の官〔4.臣宰十三：參將〕
— **tukiyesi** 鄉試の定員合格者以外に若干採用する補缺員〔4.臣宰十一：副榜〕
Adaki 1.隣り．隣りの〔19.城廓：隣〕2.縫ひつけたい．付きたい．陪從したい〔彙：欲縫搭．欲附幫〕
— **boo** 〔彙：隣家．隣居〕
— **falan gašan falga** 〔彙：隣里鄉黨〕
Adali 相同じく．同樣に．……の如く〔25.同異：相同〕
Adalikan 略々同じく．略々似たる〔25.同異：略同〕
Adaliliyan 僅かばかり同じき．一寸ばかり似た〔25.同異：微同〕
Adalingga 相同じきもの．同似のもの〔25.同異：相同的〕
Adalio 同じきか．一樣か〔彙：同麼．樣麼〕
Adališambi 彷彿とする．相似る〔25.同異：彷彿〕
Adambi 1.巻狩りに勢子が列んで圍みを作る〔9.畋獵一：排列行圍〕2.縫ひつける．縫ひあはす〔24.剪縫二：鈐接〕3.附く．從ふ．陪從する〔彙：陪之．附之〕
Adanambi 狩りの圍みを作りに行く〔9.畋獵一：去排列行圍〕
Adanumbi 一齊に狩りの圍みを作る〔9.畋獵：一齊排列行圍〕
Adarame 如何．如何に．どんな風の〔12.問答二：怎麼〕如何にして．どうして〔18.散語一：如何〕
— **bahafi** 如何に得て〔彙：怎得〕
— **hamimbi** 如何にして手に入れるか〔彙：怎樣弄得來．怎麼受得〕
— **mutembi** 如何に出來るか．どうして出來るか〔彙：怎得能彀〕
— **ohode sain** 如何なればよきか．どうしたら好いか〔彙：怎麼樣纔好〕
— **ohoni** どんなだつたか．如何だつた〔彙：怎麼樣了呢〕
— **seci** 如何にと謂はば．何となれば〔彙：何則何謂〕

Adasun おくみ〔24. 衣服三：大襟〕
Adislame dobombi 僧侶が飯を捧げ乍ら經を讀み，讀み終つてからその飯を食ふ〔19. 佛二：戒食〕
Adu 衣服．着物．〔24 衣服一：服〕
Aduci 牧馬守り．〔10. 人三：放馬人〕
Aduhi 皮の股引．皮ずぼん〔24. 衣服二：無毛皮褌〕
Adulabumbi 放牧させる〔32. 牧養一：使牧放〕
Adulambi 放牧する．放ち飼ひする〔32. 牧養一：牧放〕
Adun 牧畜の群〔32. 牧養一：牧群〕
— **be kadalara yamun** 宮廷の牧畜事務を掌る官署〔20. 部院六：太僕寺〕
— **i amban** 上駟院を總管する長官〔4. 臣宰一：上駟院卿〕
— **i da** 放牧馬の親方〔彙：牧放馬的頭目〕
— **i hiya** 上駟院に務める侍衛〔4. 臣宰七：上駟院侍衛〕
— **umiyaha** いねくひむし〔32. 虫一：食苗蟲〕
Adunggiyabumbi 苦しめさす．虐めさす〔16. 折磨：使挫磨〕苦しめられる．虐められる〔彙：被人折挫作踐〕
Adunggiyambi 虐める．挫く．苦しめる〔16. 折磨：挫磨〕
Adurambi 腫物が大きくなる〔16. 瘡瞲一：瘡興了〕
Afabumbi 1. 交付する．わたす〔5. 辦事一：交付〕任用する．寄托する〔彙：任用．寄托〕2. 攻めさせる〔8. 征伐四：使攻伐〕
Afabume unggire bithe 上司が屬員に交付する文書〔5. 事務三：劄付〕
Afaha 1. 目錄．名簿〔5. 事務二：單子〕書の一篇二篇の篇〔7. 書三：篇子〕一枚の紙〔7. 文學什物一：一張紙〕2. 攻めた．戰つた〔彙：攻了．戰了〕
Afahabi 衝にあたつた．擔當した〔5. 辦事一：職掌〕
Afahari 紙を細長く切り文字を書いて書類にはさみ又は貼付して使用するもの．紙札〔5. 事務二：簽子〕紙の小片〔7. 書三：簽子〕
— **dahabure ba** 內閣に屬し，奏事批本に關する事務を處理する役所〔20. 部院二：票簽處〕
Afakiyambi 忙しく奔り廻る〔14. 行走三：行走打奔〕
Afambi 1. 攻伐する．攻める〔8. 征伐四：攻伐〕挑みかゝる．喧嘩をしかける〔15. 責備：鬪〕2. 馬がつまづき倒れる〔彙：馬蹄顚蹶之也〕
Afan amba 出しやばり．世話焼きの(人)〔17. 輕狂：好攪事〕
Afanambi 1. 撲る．打つ〔5. 爭鬪一：撲打〕2. 攻めに行く〔8. 征伐四：去攻伐〕
Afandumbi Afanumbi 一齊に攻め伐つ〔8. 征伐四：一齊攻伐〕
Afanggala A fa sere onggolo に同じ〔18. 散語一：未見怎麼樣〕
— **jabdumbi** 人に先立つて矢を放つ．とかう見ないで矢を射る〔彙：圍場中射禽獸時在人之先放箭〕
— **uthai waha** よくも見ずして殺した．狩場で人に先達つて獸を殺した〔彙：圍場中在人之先就殺獸了〕
Afanjimbi 來り戰ふ〔彙：來戰〕
Afatambi 1. 馬の奔るとき足がもつれる〔31. 馬匹動作一：打奔〕2. 大勢が攻める〔彙；衆戰之．衆攻之〕
Afin 皮の長上衣につけた絹などの裏地〔24. 衣服三：皮襖下邊裏子〕
Afiya 豆のさや〔29. 草一：連角豆稍〕
— **tura** 束?．梁上の短柱〔21. 室家一：排山柱〕
Aga 雨〔1. 天文五：雨〕
— **baire dorolon** 雨乞ひ祭〔6. 祭祀一：常雩禮〕
— **daha** 雨が物を種えられる程地に浸み透つた〔1. 天文五：雨透足〕
— **galaka** 雨が止んだ〔1. 天文五：雨晴〕
— **hafuka** 雨が地の下まで浸み透つた〔1. 天文五：雨透〕
— **jelaha** 雨が小降りになつた〔1. 天文五：雨少停〕
— **muke** 季節名〔彙：雨水乃令節也〕
— **simeke** 雨地に潤ひ（穀類元氣にな

つた). 雨が浸みた〔1. 天文五：雨浸潤〕

Agabusba 果實の名. 大きさ東瓜の如く，うちに雞卵大の小果十數個あつて食ふことが出來，味甚だ佳し〔補3. 異樣果品二：那核婆〕

Agada 海の東北に出で，手に蛇を取り左耳に青く，右耳に赤き蛇を穿着した奇獸. 雨神と謂ふ〔補4. 異獸五：屏翳〕

Agahai 只管雨降るまゝ. 只管雨降り乍ら〔彙：儘着只管下雨口氣下有話〕

Agambi 雨が降る〔1. 天文五：下雨〕

Agangga sara 雨傘〔25. 器用二：油單傘〕

Age 1. 皇子. 太子〔3. 君：皇子〕 2. 兄. Ahūn に同じ〔10. 人倫二：兄〕 3. 兄長（人を尊敬して呼ぶ語）〔10. 老少一：兄長〕

Ageli 落葉松の瘤（醫料に用ふ）〔29. 樹木九：樹包〕

Agese Age の複數形〔10. 人倫二：衆兄〕〔10. 老少一：衆兄長〕

Agu 老兄. 兄長（人に對する尊稱）Age に同じ〔10. 老少一：老兄〕

Agusa Agu の複數形〔10. 老少一：衆老兄〕

Agulabumbi 別人を以て長とさせる〔彙：以別人使爲長爲頭〕

Agūra 1. 豹の尾を結びつけたる槍〔6. 鹵簿器用一：豹尾鎗〕 2. 道具. 器械〔彙：凡用的物件. 器械之械. 器皿之皿〕

— **enduri** 神の名. 牛神の第廿八. 旌旗の神象〔補2. 神三：豹尾〕

— **hajun** 武器. 軍器〔9. 軍器一：器械〕

Agūrai hiya 豹尾槍を取り持つ侍衛〔4. 臣宰七：後護侍衛〕

Aha 奴僕. 召使ひ〔10. 人五：奴僕〕

— **sengse** なまけ女. げす女（罵言）〔16. 咒罵：懶婦〕

Ahada gurjen えんまこほろぎ〔32. 蟲二：油蛉蟲〕

— **šusiha** 天子登殿の際に鳴らす鞭〔6. 鹵簿器用五：靜鞭〕

Ahadan 老むじな〔31. 獸五：老貛〕

Ahantumhi 奴僕の如くこき使ふ〔16. 折磨：當奴才使〕

Ahasi Aha の複數形〔10. 人五：衆奴僕〕

Ahita 衣服の裾の兩側にある切れこみ〔24. 衣服四：衣兩邊短褂〕

Ahūcilabumbi 長上の位置に居らす. 上に立たせる〔11. 友悌：使居長〕

Ahūcilambi 兄の道を以て居る. 上に立つ〔11. 友悌：居長〕

Ahūlabumbi 兄とし長とし振舞はせる〔11. 友悌：使爲兄長〕

Ahūlambi 兄とし長とし振舞ふ. 兄長の道を行て行動する〔11. 友悌：兄長自居〕

Ahūn 兄. 一族同輩中己れより年長なるもの〔10. 人倫二：兄〕

Ahūngga 長子〔10. 人倫二：長子〕

— **jui**〔彙：大兒子. 長子. 與 Ahūngga 同〕

Ahūrambi 臥せる獸を嚇す. 臥せる獸を嚇して狩の圍みの中に追ひやる〔9. 畋獵二：嚇伏臥獸〕

Ahūri hūyari ほーい ほーい（勢子が獸を驅りたてる聲）〔9. 畋獵三：嚇臥獸聲〕

Ahūšambi 兄の禮もて年長者に對する兄事する〔11. 友悌：兄禮相待〕

Ahūta Ahūn の複數形〔10. 人倫二：衆兄〕

Ai 1. 何. 何の. 如何〔12. 問答一：甚麼〕 2. 嗚呼！〔13. 悔嘆：嘆聲〕 おや！ あれ！（人を嫌ひ或ひは怪しむ言葉）〔15. 責備：厭怪詞〕

— **ai** 樣々の. 色々の〔18. 完全：樣樣〕

— **ai jaka** 諸物. 色々のもの〔彙：諸物. 各樣物件〕

— **baita** 何用か. 何事か〔彙：何用. 何事〕

— **be** 何を〔彙：把甚麼〕

— **dalji** 何の關りがあるか（關りはない）〔25. 同異：何涉〕

— **demun** 何の異端ぞ. 何の樣ぞ（人を斥ける言葉）〔彙：甚麼樣子乃斥人之詞〕

— **gajiha** 何しに來た. 何の用だ〔18. 散語一：做甚麼〕

— **ganaha** どうしようと云ふのか. 何

といふことか〔18.散語一：何必〕
Ai gelhun akū 何ぞ敢てせんや．敢てしない〔彙：不敢．何敢〕
— **geli** 何として又．どうして又（そんなことあらうか）〔18.散語一：豈敢〕
— **hacin i** 如何様な．どの種の〔彙：那様的．何等的〕
— **hala** 1. 何と大變な！〔18.散語一：有甚要緊〕 2. 何姓の 何といふ姓の〔彙：何姓〕
— **hendure** 何をか言はう．言を待たない〔彙：何況．不待言〕
— **hihan** 何の値打ちがあるか．つまらん！〔13.悔嘆：甚麼希罕〕
— **hihan uttu yabumbi** 何の益があつてこんなことをするか〔彙：甚麼趣兒這様行〕
— **joboro** 何と少い！何と乏しい！〔18.散語一：有甚麼〕
— **jojin** 何をしに來たのか知ら．どうしてこんな事になつたのか知ら〔13.悔嘆：爲甚麼來呢〕
— **maktahai** Ai jojin に同じ〔13.悔嘆：爲甚麼來呢〕
— **ocibe** 何とあらうとも．拘はらず〔彙：不拘〕
— **sere** 何を云ふか．何と云ふ〔13.怒惱：說甚麼〕
— **turgun** 何の理由か．何故に．何用か〔彙：何故．何用〕
— **turgun de** 何の理由で．如何なわけで〔彙：甚麼緣故〕
— **uttu geli seme wajirakū** 何をかく又話し終らないのか．何をながながが喋つてゐるのか〔彙：爲甚麼這様說話纏綿〕
— **yadara** 何と渺い！とても渺い〔18.散語一：值甚麼〕
— **yokto** どういふ心算か〔13.悔嘆：甚麼意思〕
Aibaci Aibici に同じ〔18.散語一：從何處〕
Aibi 何がある．何の妨げがあるか．何の關りがあるか〔18.散語一：有甚麼〕
Aibici 何處から〔18.散語一：從何處〕
Aibide 何處に〔18.散語一：何處〕
Aibihabi 腫れた．腫物が出來た〔16.腫脹：腫了〕
Aibimbi 腫れる．腫物が出來る〔16.腫脹：腫〕
Aibingge 何處の者か〔12.問答一：何處的〕
Aibishūn 少しく腫れた〔16.腫脹：微腫〕
Aici 如何な風の．如何な様子の〔12.問答一：何様〕
Aidagan 1. 雄の野猪〔31.獸四：公野猪〕 2. かた〔彙：肩〕
— **i kalka** 猪の腿より胸にかけた部分の肉が冬になつて厚くなつたもの〔27.飯肉三：掛甲的野猪肉〕
Aidahan i sencehe 星の名〔1.天文三：天家星〕
— **sika** 馬の尾の短い縮れ毛〔31.馬四肢體二：賊毛〕
Aidahašambi 横暴に振舞ふ〔17.强凌：發豪横〕
Aide 1. 何處に．何に〔12.問答一：何處〕 2. 何に因つて．何故に〔18.散語一：因甚麼〕
— **afahabi** 何處に．何事に(當つたか)〔彙：何處．何項．與 Ya ba, Ai hacin 同〕
— **uttu oho** 如何してこの様になつたか〔彙：怎麼這様了〕
Aifini はや已に．疾くに〔2.時令二：早已〕
Aifumbi 食言する．背約する〔17.奸邪：食言〕
Aigan 標的．箭の的〔9.製造軍器四：箭把子〕
Aiha 1. 色硝子〔22.貨財二：瑠璃〕 2. 滿洲の地名〔續2.地輿：鹽河〕
— **deijire kūwaran** 硝子類のものを焼く工廠〔補2.衙署四：琉璃廠〕
Aiha sirgei dengjan 瑠璃の糸を重ね合はせ木臺に着けて中に蠟を燃やす様に作つた燈籠〔23.烟火一：料絲燈〕
— **šušu** なんばんきび〔28.米穀一：玉秫〕
Aihadambi 跳躍する．跳ね廻る〔31.走獸動息：跳躍〕跳ね遊ぶ〔31.馬四

動作一：撒散〕

Aihaji 硝子焼きに用ふる原料（浙江の沙を焼いて作る）〔22. 貨財二：定元子〕

Aihana うはぐすり．釉藥〔22. 貨財二：釉子〕

Aihanaha 炕内の煤の燃え碎けて光れるもの〔23. 烟火四：焦烟釉子〕

Aihu 黑河（河の名）〔彙：關東江名〕

Aihū 雌の貂〔31. 獸六：母貂〕

Aihūju 人首龜身，艾を灸せば鳴き出す奇獸〔補4. 異獸七：在子〕

Aihūma すつぽん〔32. 河魚四：鼈〕

Aihūn hoton 滿洲の城名〔續2. 地輿：愛琿城〕

Aijirgan 全身黃色の燕〔30. 雀三：金燕〕

Aika 若しも……なら．或ひは〔17. 猜疑：若是〕

— **baita bio** 何事かあるか．何かあるか〔彙：有甚事麼〕

— **jaka** ひと揃ひ．全てのもの〔彙：一應物件〕

— **ohode** どうなつたとて．若しもの時に，如何にならうとも〔18. 散語一：動不動的〕

— **uttu aika tuttu** 或ひはかう或ひはああ．かうもあらうか，ああもあらうか〔彙：想是這樣想是那樣〕

Aikabade 若しも．假りに．時に〔18. 散語一：設若〕

Aikan faikan i adali Aikan i gese に同じ〔13. 愛惜：看怎麼樣〕

— **i gese** 若しものことでもあるかの樣に（愛好するものを如何樣かと注意して見る樣子）〔13. 愛惜：看怎麼樣〕

Aikanaha 若しさうなるなら．その樣な時には〔18. 散語一：倘若〕

Aikanarahū 失錯あらんかと恐れる．若しものことがありはしまいかと心配する〔13. 愛惜：恐有失錯〕

Ailime 正道を避けて．廻り道して．間道から〔14. 行走三：躲着正路走〕

— **genehe** 正路を避けて行つた．廻り路して行つた〔彙：避着正路走去了〕

Ailungga 奇麗な．美しい．風流な〔24. 梳粧：俏麗〕

Aimaka 大抵．多分〔17. 猜疑：好像是〕

— **baita bifi jihe dere** 恐らくば事あつて來りしものぞ．ことあつて來たものに違ひあるまい〔彙：莫非有事而來〕

Aiman 1. 部族．部落〔19. 城郭：部落〕 2. 外蕃外夷の長．外夷の君長〔彙：外番外夷之主〕

— **i adaha jorisi** 土司長官（Aiman i ahūcilaha hafan）の次の官〔4. 臣宰十三：土司指揮僉事〕

— **i ahūcilaha hafan** 外蕃外夷の酋長を以て任ずる土府土州土縣等の長官〔4. 臣宰十：土司長官〕

— **i elbire hafan** 外蕃外夷招討のことを司る官〔4. 臣宰十三：土司招討使〕

— **i hafan** 外蕃外夷を治める官〔4. 臣宰十：土司〕

— **i hafan i kunggeri** 外夷文官の繼任を請求する等の事務を司る役所〔補2. 衙署一：土官科〕

— **i minggada** 外夷千戶を治める官〔4. 臣宰十三：土司千戶〕

— **i selgiyere bilure hafan** 外夷外蕃宣撫のことを司る官〔4. 臣宰十三：土司宣撫使〕

— **i selgiyere tohorombure hafan** 外夷外蕃宣慰のことを司る官〔4. 臣宰十三：土司宣慰使〕

— **i tanggūda** 外夷百戶を治める官〔4. 臣宰十三：土司百戶〕

— **i toktobure bilure hafan** 外夷安撫のことを司る官〔4. 臣宰十三：土司安撫使〕

Aimika cecike みそさざい〔30. 雀四：鷦〕

Ainaci ainakini ある樣にある可し．如何あるとも構はない〔18. 散語一：無論怎麼罷〕

Ainaci ojoro 如何したらよからう〔18. 散語一：怎麼處〕

Ainaha 1. 如何だつたか〔12. 問答一：怎樣了〕 2. どうして……しなからうや．豈……せずしてあらうか〔18. 散語一：豈不〕

Ainaha seme 如何あらうとも. 断然. 必ず〔彙：断然. 必然〕
Ainahabi 如何だつたか〔彙：怎麼的了〕
Ainahai 如何してあり得よう（ありはしまい）〔18. 散語一：未必〕
— **ombini** 如何してある可き. どうして出來ようか〔彙：怎麼使得〕
— **uttu ni** 如何してかくの如くに. こんな理があらうか〔彙：豈有此理呢. 爲何這樣呢〕
Ainahani 如何だつたかい. どうだつた〔17. 猜疑：怎麼樣呢〕
Ainaki sembi 如何したいと云ふのか. 如何せんと欲するか〔彙：欲何爲〕
Ainambahafi 如何にして得て〔18. 散語一：怎能得〕
Ainambi 1. 何をするか. どうするか〔12. 問答一：做甚麼〕〔15. 憎嫌二：做甚麼〕 2. 如何に. 何とかなるか（出來まいといふ調子）〔18. 散語一：能怎樣〕
Ainambihe どうなつたか. どうしたか〔彙：怎麼樣來着〕
Ainame ainame かりそめに. 怠け怠け〔17. 怠慢迂疏：苟且〕
— **okini** 如何樣にあるとも〔彙：不拘怎麼樣罷〕
Ainara 如何な樣子か. どんな風か〔18. 散語一：怎麼樣呢〕
Ainarahū 如何樣かと恐れる〔彙：恐怕怎麼樣〕
Ainarangge 何をするものぞ（人を非難する言葉）〔18. 散語一：做甚麼的〕
Ainci 想ふに. 恐らくは〔17. 猜疑：想是〕
Ainu 何の爲に. 何故に〔12. 問答一：爲何〕
— **maimadambi** 何故にふらふらとして行くのか〔彙：爲甚麼頭肩動踉蹌走〕
Aise そうか. こうか. どうか〔17. 猜疑：或是〕
Aisembi 何と云ふ. 何を云ふ〔12. 問答一：說甚麼〕
Aiseme 何と云つて. どう云つて〔12. 問答一：怎麼說來〕
— **gisurehe** 何と話したか〔彙：怎麼說了〕
Aiserengge 何を話すか. 如何な話か〔彙：說的甚麼. 甚麼話〕
Aisha ひわ. まひわ〔30. 雀四：金翅〕
Aisi 利. 利益〔12. 分給：利〕〔22. 貿易二：利〕
Aisilabukū 輔弼の臣. 宰相〔補1. 古大臣官員：相〕
Aisilabumai 助けさせる. 幇助させる〔12. 助濟：使幇助〕
Aisilakū hafan 郎中 (Icihiyara hafan) の次の官〔4. 臣宰六：員外郎〕
Aisilambi 幇助する. 援助する. 輔佐する〔12. 助濟：幇助〕
Aisilame jafara baita be icihiyara boo 戸部に屬し捐官錢收納の事務を扱ふ役所〔20. 部院三：捐納房〕
— **kadalara da** 總兵 (Uheri kadalara da) の次の官〔4. 臣宰十三：副將〕
— **tacibure hafan** 貢生官學生を敎ふる官〔4. 臣宰五：助敎〕
— **tuwara hafan** 總裁官 (Uheri tuwara hafan) の次の官〔4. 臣宰十：副總裁官〕
Aisilandumbi Aisilanumbi 一齊に幇助する〔12. 助濟：一齊幇助〕
Aisilara cooha 敗れたる兵を援ける兵. 援兵. 救援兵〔8. 兵：接應兵〕
— **hafan** 通政副使 (Ilhi hafumbure hafan) の次の官〔4. 臣宰五：參議〕
Aisilatambi 常に幇助する〔12. 助濟：常幇助〕
Aisimbi 天が佑ける〔11. 福祉：佑〕
Aisimu ilha あまな〔補3. 異花一：金燈花〕
Aisin 1. 金. 黃金〔22. 貨財一：金〕 2. 金（五行の金）〔2. 時令一：金〕
— **argacan** 儀仗用の金のまさかり〔6. 鹵簿器用五：金鉞〕
— **badiri ilha** 小鉢層疊鉢の如く色紅艷の奇花〔補3. 異花二：金鉢盂花〕
— **be dushume ilha weilembi** 金を細工して花を造る〔彙：金上做起花〕

Aisin cecike ilha えにしだ〔29.花三：金雀花〕
— **ceri ilha** だうくわんさう〔29.花四：剪金羅花〕
— **cifeleku** 金の灰吹き〔6.鹵簿器用一：金唾盂〕
— **dengjan ilha** あまな〔29.花四：金燈花〕
— **dere obokū** 金の洗面器〔6.鹵簿器用一：金盆〕
— **enduri** 年神の第三十一．兵革水旱瘟疫等のことを主る神〔補2.神三：金神〕
— **gioro** 愛親覺羅（清朝の姓）〔彙：本朝國姓〕
— **gurun i suduri i jalan i hergin i bithe** 書名〔續.書：金史世紀〕
— **hergen i nomun i kuren** 金字佛經を書寫する役所〔補2.衙署七：金字經館〕
— **hiyahalangga fukjingga hergen** 支那古錢に見える一書體の名〔補1.書四：金錯篆〕
— **hiyan i hoseri** 金の香箱〔6.鹵簿器用一：金香盒〕
— **hoošan** 金箔〔22.貨財二：飛金〕
— **hūntahan ilha** きんせんくわ〔29.花四：金盞花〕
— **ilhangga sakū** 金で花の模樣をつけた皮〔補三.貨財：金花皮〕
— **jalasu** 金の旌節〔6.鹵簿器用二：金節〕
— **jeo** 滿洲の地名〔續2.地輿：金州即海寧縣〕
— **jofohori** きんかん〔28.果品一：金橘〕
— **kanggiri** 昔の冠につけた小さい金の鈴〔補1.古冠冕三：金璫〕
— **lakiyangga hiyan dabukū** 金の手持ち爐〔6.鹵簿器用一：金提爐〕
— **lashangga osé loho** 金鐵をも切る倭國の刀〔補1.軍器：金削倭刀〕
— **lūjen** 頂上に金四塊を嵌めた鑾駕〔6.鹵簿器用五：金幹〕
— **malu** 金の酒瓶〔6.鹵簿器用一：金瓶〕
— **muduri poo** 銅製の大砲．長さ五尺八寸重さ三百斤〔補1.軍器二：金龍礮〕
— **mulan** 金龍を畫いた踏み臺〔6.鹵簿器用一：金馬杌〕
— **nenden ilha** きんばい草の花〔補3.異花三：金梅花〕
— **nikekungge mulan** 金龍を畫いた脊掛椅子〔6.鹵簿器用一：金交椅〕
— **niyanjan** 頂に金を嵌めた鐸〔6.鹵簿器用五：金鐸〕
— **sese noho suje** 金絲を混ぜて織つた緞子〔23.布帛二：金線緞〕
— **šu ilha** のうぜんはれん〔補三.異花一：金蓮花〕
— **šugin i iletu kiyoo** 金と漆とで塗つた轎〔26.車轎一：金漆亮轎〕
— **ujima** 雞の一種，金を生むといふ〔補四.諸畜二：金斎〕
— **ujungga garu** 頭の黃色い鷲鳥〔補4.鳥三：金頭天鷲〕
— **ujungga yengguhe** 頭の黃色い鸚鵡〔補4.鳥八：金頭鸚鵡〕
— **usiha** 〔1.天文二：金星〕
Aisingga 有利な．利益のある〔22.貿易二：有利的〕
Aisirgan カナリヤ〔補4.雀四：金絲料〕
— **ilha** 奇花．形蝶に似て風吹けば翅舞ふが如くその花を破れば金と異ならない〔補3.異花二：金蕊花〕
Aisiri toro ilha びやうやなぎ〔29.花二：金絲桃花〕
Aisuri きんめふくろ〔30.雀四：金眼〕
Aitubumbi 一旦抹削した字に圍を附して生くることを示す〔7.書七：圍活〕救護する．助ける〔12.助濟：救護〕治療する．治す〔19.醫治：救治〕
Aituha 病後顏色が好くなつて又肥え出した．豫後好調の〔彙：人病瘦後顏色又好了又肥肚了〕
Aituhabi 病氣が好轉して來た〔19.醫治：轉過來了〕
Aitumbi 息を吹きかへす〔彙：死而復甦〕
Aituri 野生の金柑〔28.果品二：金豆〕

Aiyongga ilha べにひとへばら〔29. 花三：金沙花〕
Aja 母親〔10. 人倫一：娘〕
Ajabumbi 1. 始める. 端を開く〔5. 辨事一：開端〕 2. 傷を受ける〔16. 傷痕：被劃破〕少しく切り割く〔28. 剝割二：些微劃破〕
Ajabume gisurembi 話を切り出す〔彙：凡事始起頭說話〕
Ajaja おやおや. あらあら〔18. 散語一：驚訝〕
Ajambi 切り裂く. 切り破る〔16. 傷痕：劃破〕
Aji 總領. 第一子〔10. 人倫二：頭生〕
— **muyari** 龍眼〔28. 果品二：隰枝〕
Ajida 小さい. 細かい. Ajige に同じ〔25. 大小：小〕
— **jofohori** からたちの實〔28. 果品二：枸橘〕
Ajigan 稍々小さい〔25. 大小：略小〕幼い. 幼年の〔10. 老少二：幼〕
Ajige 小さい. 細かい〔25. 大小：小〕
— **arbun** 易卦の象〔補1. 書一：小象〕
— **bileri** 小瑣琯〔7. 樂器二：海笛〕
— **bukdari** 1. 大臣の手許まで差出す小形の上奏文書〔5. 事務三：摺子〕 2. 小形の折本〔7. 書三：摺子〕
— **buren** Buleri に同じ. 喇叭〔7. 樂器二：小銅角〕
— **daban** 易の卦の名〔補1. 書二：小過〕
— **gasihiyan enduri** 年神の第廿六. 耗損の神〔補2. 神三：小耗〕
— **giyalakū moo** 帆柱の先につけた副へ木〔26. 船三：馬口〕
— **halhūn** 季節の名〔彙：小暑〕
— **hefeli** 下腹〔10. 人身四：小肚〕
— **hiya silmen** 猛禽類の一種. Hiya silmen の雄〔30. 鳥四：鷙兒〕
— **hošo** 目尻. Amba hošo(目頭)に對す〔彙：人眼外邊小眼角〕
— **ilibun** 易の卦の名〔補1. 書一：小畜〕
— **jalu** 季節の名. 陰曆四月三日〔彙：小滿〕
— **jergingge** 本官の方が高く彙官の方が低いこと〔4. 臣宰十四：小銜〕
— **konggoro niongniyaha** 雁の一種〔30. 鳥二：小黃枴雁〕
— **kūrcan** 頂黑く嘴長く眼角に白毛一根あつて頂の後に到る鶴の一種〔30. 鳥一：小灰鶴〕
— **mama** 吹出物. はしか〔彙：疹子〕
— **nimanggi** 季節の名. 陰曆十月十一日〔彙：小雪〕
— **ningge eršembi** 小さい吹出物が出る. 疱瘡が出る〔16. 瘡膿二：出蓋痘疹〕
— **niyo coko** くひなの一種〔30. 鳥六：小水雞〕
— **suri** さや. さあやの一種〔23. 布帛三：小潞紬〕
— **suseri** いのんど〔續. 菜穀：蒔蘿〕
— **šahūrun** 季節の名〔彙：小寒〕
— **šošobun** 文章中の小段落〔7. 書六：小結〕
— **yangsimu niyehe** 頭に冠のある鴨の類の鳥〔30. 鳥七：小冠鴨〕
Ajigen 幼少の〔10. 老少二：幼〕小さい. 小さいもの〔25. 大小：幼小〕
Ajigesi 1. 些さか小さいもの〔25. 大小：小些的〕 2. 幼き者共〔彙：衆幼小. 衆小者〕
Ajilabumbi 籾殻を取らせる〔21. 碾磨：使輾粗皮〕
Ajilaha bele 玄米. ぬかごめ〔彙：糙米乃去粗殻者〕
Ajilambi 1. 籾殻を輾く〔21. 碾磨：輾粗皮〕 2. 皮をあらかたなめす〔24. 熟皮革：荒熟〕
Ajin てふざめ. 脾臟を取つて醃物の藥とする〔32. 河魚一：鰾鰉魚〕
Ajirgalambi 馬が交尾する〔31. 牲畜孳生：馬交〕
Ajirgan 1. 牡犬〔五体31. 諸畜二：牙狗〕 2. 牡馬〔31. 馬匹二：兒馬〕
注意：— Ajirhan を見よ.
— **sogi** ちどめぐさ〔27. 菜穀三：鷄腸菜〕
Ajirhalambi 雄馬が雌馬に挑みかゝる. 馬が交尾する〔彙：兒馬交跳騾馬〕
Ajirhan 牡犬〔増訂31. 諸畜二：牙狗〕雄

〔彙：雄狗之雄．兒馬之兒．兒騾之兒〕

Ajirka 人違ひをした．他人と見違へた〔17.過失：認錯了〕

Ajisi 小指大の奇果．味柿の如し〔補3.異樣果品三：猴總子〕

Ak あっ．おやっ〔14.聲響一：乍驚聲〕

Aka niyehe 野鴨の一種〔30.鳥八：落河〕

Akabumbi 耐え得ないまでに困苦せしめる〔16.折磨：勒掯〕人をして心傷ましめる〔彙：使人傷心〕

Akacuka 悲しむ可き．傷ましい〔13.愁悶：可傷〕

Akacun 悲しみ．悲嘆．傷心〔13.愁悶：傷感〕

Akambi 心傷む．嘆く〔13.愁悶：傷心〕

Akame gecehe 川底まで凍り詰めた氷が底まで割れ裂けた〔2.時令九：氷裂到底〕

— **ureme** 〔彙：與 Akara urere 同〕

Akara urere 傷み悲しむ．傷心の〔彙：傷心〕

Akdabumbi 頼りにさせる．信じさせる〔12.倚靠：使靠著〕

Akdacuka 信ずべき．頼り得べき〔12.倚靠：可信〕

Akdacun 信頼し得べき處のある．頼り處のある〔12.倚靠：可靠處〕

— **akū** 頼るべき處が無い．信ずるに足りない〔彙：無依賴．不足信〕

Akdahabi 頼りにした．信じたる〔12.倚靠：靠著了〕

Akdambi 頼る．信じて疑はない〔12.倚靠：靠著〕

Akdame gūniha 頼みに思つた．任せ得ると思つた〔12.倚靠：眞靠得〕

Akdan 信頼．寄頼〔12.倚靠：靠頭〕

Akdukan 常に信頼し得べき人〔11.厚重一：頗信得〕

Akdulabumbi 護らせる．所を固めさせる〔8.防守：使保護〕

Akdulambi 1. 護る．所を固める〔8.防守：保護〕 2. 善きものとして推擧し奏上する〔4.陞轉：保舉〕 3. 保證する．請人になる〔13.當借：保〕

Akdulandumbi Akdulanumbi — 齊に防護する．一齊に固め守る〔8.防守：一齊保護〕

Akdulara niyalma 保證人〔彙：保人．與 Boji 同〕

Akdun 1. 堅固な．丈夫な〔26.營造：結實〕〔31.馬匹三：結實〕 2. 信用ある．言行信實なる〔11.厚重一：信實〕 3. 强弓を脇深くかいこんでしつかり射る．弓を射ることのたしかな〔8.步射一：結實〕

— **girdan** 緞子の布地の上に信の字を繡ひ取りした幡〔6.鹵簿器用二：信幡〕

— **jurgangga sargan jui** 結納して後夫死すれば舅姑に孝順に事へ節を守つて生きる女〔3.封表二：節儀女〕

— **sargan jui** 結納して後夫死すれば身を終る迄節操を守つて他に嫁せざる女〔3.封表二：貞女〕

— **temgetu** 龍牌に皇帝信牌といふ滿蒙漢の刻字を施し，邊外に使節を差遣する如き場合に執照として用ふるもの〔3.論旨：信牌〕

Ake あ痛っ！ あっ！〔16.疼痛三：碰疼聲〕

Akiya Kiyakū に同じ〔32.河魚二：昂刺〕

Akiyaha 木の乾ききつた〔29.樹木十：木乾透〕油や水のすつかり乾いた〔彙：水與油完了自已乾了〕

Akiyame gecehe 氷が底まで凍つた〔2.時令九：氷凍到底〕

Akiyan nimaha 氷に挾まれて凍死した魚〔27.飯肉三：夾氷魚〕〔彙：與 Akiyan 同〕

Akjaba しゆろさう〔29.草四：蒺藜草〕

Akjambi 雷が鳴る〔1.天文四：雷鳴〕

Akjambulu むさゝび〔31.獸七：肉翅鼠〕

Akjan かみなり〔1.天文四：雷〕

— **darimbi** 雷が擊つ．落雷する〔1.天文四：電擊〕

Akjuhiyan 1. 無茶怒りする人〔17.暴虐：暴怒〕 2. 脆くて堅くない〔25.破壞：物脆不堅〕

Aksabumbi 畏れ避けさす〔13.怕懼二：使畏避〕

Aksaka (鳥などが) 驚き逃げた. 驚き飛んだ〔30. 飛禽動息二：鳥驚飛〕
Aksakabi 畏れ避けた〔13. 怕懼二：畏避了〕
Aksambi 畏れ避ける〔13. 怕懼二：畏避〕
Aksara sirga 蠶のこと. 蠶は性質臆病なるためかく「驚く蠶」といふ〔補4. 獸一：驚蠶〕
Aksargan えびらを掛ける皮帶〔9. 撒袋弓靫：鞢帶〕
Akšakabi 油臭い. 油が腐つた〔28. 滋味：哈辣了〕
Akšan 出水のあとで河岸の木に引つ掛つた草木〔2. 地輿九：發水後樹木上掛的紫草〕水上の浮草浮木〔彙：苴〕
— **taha gese** 浮木の懸つた如く〔彙：似棲苴〕
Akšulabumbi 人に罵られる〔16. 咒罵：被人話噎〕人をして酷いことを言はす〔彙：使人說利害刻薄話〕
Akšulambi 口汚く云ふ. 罵る〔16. 咒罵：說噎人話〕
Akšun 1. 口の汚い (人). 口の惡い (人)〔16. 咒罵：話噎人〕2. 油臭ひにほひ〔28. 滋味：哈辣〕
— **be** この野郎！〔彙：罵人把這個奴才之語〕
— **da** 喉頸(ᵍᵃᵒ)〔10. 人身三：嗓根〕
— **gisun** 酷い言葉. 口汚い言葉〔彙：利害燥暴刻薄壞話〕
Akta 去勢された牲畜〔31. 馬四二：騸〕
— **uše** 鞍の上にかけ渡した皮紐〔9. 鞍轡一：鞍板過樑皮〕
Aktalabumbi 1. 去勢させる〔彙：使騸〕2. 跨らす〔彙：使編跨〕
Aktalakū moo 門の窓の上に横に渡した木〔21. 室家二：過木〕
Aktalambi 1. 跨がる〔14. 坐立二：跨着〕2. 去勢する〔32. 馬畜殘疾二：騸〕宮刑を施す〔補1. 古刑罰：宮〕
Aktaliyan 大きな雜嚢 (Dabargan よりも大きな袋)〔25. 器用七：搭連〕
Akū 無い〔13. 貧乏：沒有〕
— **oho** 亡くなつた. 死んだ〔6. 喪服一：沒了〕
Akūci かくなければ. でなくば〔彙：若不是口氣. 不則口氣〕
Akūi ten Amba ten に同じ〔7. 書四：無極〕
Akūmbumbi 心を盡す. 孝を盡す〔11. 孝養：盡心〕
Akūmi 魚皮をなめして作つた衣服〔24. 衣服二：魚皮衣〕
Akūn 無いか〔12. 問答一：沒麼〕
Akūnambi 對岸に到る〔2. 地輿十二：到對岸〕
Akūnarakū ba akū 到らぬ所なし. 周く到らぬ所がない〔彙：無所不到. 無不周到〕
Akūngge なきもの. なきこと〔彙：沒有的〕
— **akū** 有らざるものなし〔彙：無不有者〕
Akūnjimbi 此方 (の岸) に來る〔2. 地輿十二：來此岸〕
Ala 1. 低く平らなる山. 平頂山〔2. 地輿三：平矮山〕2. 告げよ〔12. 問答二：使告訴〕3. 樺の皮を卷きつけよ〔彙：令樺樺皮〕
— **gasha** Ala ulhūma (原鳥) の別名〔補4. 鳥六：原禽〕
— **šala** 多くの子供の內で一人だけを可愛いがる. 偏愛する〔13. 生產：偏疼〕
— **ulhūma** 鳥名. 窪處に降りず常に高原に止る〔30. 鳥七：原鳥〕
Alabumbi 告げさせる〔12. 問答二：使人告訴〕
Alaha uihe beri 水牛の角を表面に貼つた弓〔9. 軍器三：花水牛角面弓〕
Alajan 鎖骨〔10. 人身六：鎖子骨〕鳥の肩の骨〔30. 羽族肢體二：膊子〕
Alakdaha asu 野兎を捕へる網〔22. 打牲器用四：跳兎網〕
Alakdahan 野兎〔31. 獸六：跳兎〕
Alambi 1. 告げる〔12. 問答二：告訴〕訴へる. 申[illegible]でる〔5. 辨事二：告訴〕2. 樺の皮[illegible]卷きつける〔彙：樺皮樺之〕
Alamimbi 背負ふ. 擔ふ〔21. 扛臺：斜背〕
Alan 1. 鎧の肩あて〔9. 軍器二：甲前

肩〕 2. 樺の木の皮〔29. 樹木八：樺皮〕
Alan alambi 樺の皮を巻きつける〔9. 製造軍器一：畫樺皮〕
— **erembi** 樺皮を剝ぎ取る〔彙：揭剝樺皮乃一層一片剝之也〕
— **weihu** 樺の皮で作つた舟. Tolhon weihu に同じ〔26. 船二：樺皮船〕
Alanambi 行つて告げる. 告げに行く〔12. 問答二：去告訴〕
Alandumbi Alanumbi 各自一齊に告げる〔彙：各自齊告訴〕
Alanggibumbi 甲に命じ乙を遣はし告げさせる〔彙：使差人去說去報〕
Alanggimbi 人を遣はし告げる. 告げに行かせる〔12. 問答二：使去告訴〕
Alanjimbi 告げに來る. 來り告げる〔5. 辦事二：來告訴〕〔12. 問答二：來告訴〕
Alarame 平たく低い山を通つて〔2. 地輿三：走平矮山〕
Alari ilha さんだんくわ〔29. 花五：山丹花〕
Alašan 1. やくざ馬〔31. 馬匹三：駑馬〕 2. 馬鹿力の者〔彙：駑駘乃言人無能而出力者〕
— **i ūlet emu gūsa** 康熙年間阿蘭善山地方に設置せる厄魯特の一旗〔3. 旗分佐領二：阿蘭善山厄魯特一旗〕
Albabun 外國或ひは臣工進獻の貢物〔5. 官差：貢〕
Alban 1. 公けの事務.〔5. 官差：公務〕 2. 賦課〔彙：正賦〕
— **benere hūdun jahūdai** 貢物を運送する黃塗りの船〔26. 船一：貢舫黃快船〕
— **booi turigen i namun** 內務府官房借貸の銀銅錢を收貯する庫〔20. 部院十二：官房租庫〕
— **de yabumbi** 役に赴く〔彙：官差上行走〕
— **gaimbi** 賦課を取り立てる〔彙：征正賦〕
— **halan akū** Buta halan akū に同じ〔13. 悔嘆：有要無緊的〕
— **i acangga enduri** 年神の第二十一. 兒神にして嗣訟を掌る〔補2. 神三：官符〕
— **i usin** 官有田〔21. 田地：公田〕軍の屯田〔彙：軍屯田〕
— **i usin i bolgobure fiyenten** 工部に屬し屯種抽分, 薪炭夫役, 墳塋の事務を掌る役所〔20. 部院五：屯田清吏司〕
— **jafambi** 貢物を齎す. 進貢する〔6. 朝集：進貢〕
— **jafame hengkilenjire ūlet** 貢物を齎し叩頭し來たれる厄魯德人〔彙：厄魯德等九人各自帶部落來降給印封王貝勒住口外進貢末編牛彔〕
— **jafamjimbi** 貢を齎して來る. 進貢して來る〔彙：來進貢〕
— **jafanjire hoise** 貢を奉る回々人. 進貢し來る回々人〔3. 旗分佐領二：進貢回子〕
— **šulehen** Šulehen に同じ〔5. 官差：賦〕
— **tacikū** 滿蒙八旗子弟中優秀なるものを選び官費を以て敎育する學校〔20. 部院十二：官學〕
— **weilembi** 役に就いて暮す. 官途に働く〔彙：做官活計〕
Albani cece 內廷使用の紗〔23. 布帛四：官用紗〕
— **lamun hoošan** 藍色にして緣取りなどに使用する紙〔7. 文學什物一：官青紙〕
Albasi 當番の者. 當事者〔10. 人二：當差人〕
Albatu 粗野な. 物知らずの (人)〔18. 鈍繆：村粗〕
albatukan 稍々粗野な〔18. 鈍繆：略村粗〕
Albatulambi 粗野な振舞ひをする〔18. 鈍繆：言行村粗〕
Alcu gacuha (背式骨) の側面の凹み〔19. 戲具一：針兒〕
Alcuka 滿洲の地名〔續2. 地輿：阿爾楚喀〕
Alda 1. Kurka, Page (共に賭戲の具) を足の裏で踏みかくせ〔19. 賭戲：使攧馬兒〕 2. 未だ成長しきらぬ豚〔31. 諸畜一：半大猪〕

Aldahi ahūn deo またいとこ〔10. 人倫二：再從弟兄〕
Aldakū 弓の射場の標的の後方の墻壁〔9. 製造軍器四：箭攔子〕
Aldangga 世代隔りたる（もの）．世代遠き（もの）〔10. 人倫二：遠〕
— **dalan** 水流から隔つた堤防〔補1. 地輿二：遙堤〕
— **mukūn** 遠縁の族〔彙：遠族〕
Aldanggakan やや疎遠の．やや世代遠き〔彙：略遠．略疎〕
Aldasi 半途．中道〔12. 遲悞：半途〕
— **genehe** 命の短い．定命にまで到らなかつた〔彙：短命的〕
Aldasilambi 半途で事を廢する．中途で止める〔12. 遲悞：半途廢事〕
Aldungga 奇怪な（人）．怪しげな（人）〔18. 厭惡：奇怪〕〔19. 鬼怪：奇怪〕
Algan 鵪鶉(うづら)を捕へる網〔彙：撈鵪鶉網名〕
Algimbi 名が揚る．評判になる〔12. 名聲：宣揚〕
Algimbumbi 名を揚げる〔12. 名聲：使宣揚〕
Algin 1. 聲名．令名．評判〔12. 名聲：聲名〕2. 雄のかわうそ〔31. 獸五：公水獺〕
Algingga 有名な．名聲のある〔12. 名聲：有聲〕
— **jubengge** 聲名揚れる．評判高き〔12. 名聲：聲揚〕
Algintu 名聲のある（もの）．著名な（もの）〔12. 名聲：有名望〕
Algišambi 評判する．取沙汰する〔12. 名聲：張揚〕
Algiyabumbi 浮いた油を取らせる〔28. 器盛：使撇浮油〕
Algiyambi 浮いた油を取り去る．表面の油を取る〔28. 器盛：撇去浮油〕
Alha 1. 二色の緞を混織して花模様地を織り出せるもの．花模様の緞〔23. 布帛一：閃緞〕2. 雜色の馬．黃白毛雜りの馬〔31. 馬匹毛片：花馬〕3. 花紋．花模様〔彙：花牛馬之花．花物之花〕
— **bulha** 色とりどりの．華麗な〔23. 采色三：華麗〕
— **cibirgan** Alin cibirgan（山火燕）の別名．Alin cibirgan は五色全きが故にこの名あり〔補4. 雀三：五色子〕
— **ihan** 雜色の牛〔32. 牛：花牛〕
— **indahūn** 二色雜りの犬〔補4. 諸畜一：鵲〕
— **niongniyaha** 花紋のある鳧鳥〔補4. 諸畜一：花鳧〕
— **niyehe** 全身に花紋のある鴨〔30. 鳥八：花鴨〕
— **saman cecike** 全身に花紋のある Saman cecike（阿蘭）〔補4. 雀三：鳳頭花阿蘭〕
— **šufa** 模様のある手巾〔24. 巾帶：花手帕〕
— **tashari** 全身に花紋のある鷲〔補4. 鳥三：花鷲〕
— **toiton** 全身花紋のあるかつこく鳥〔補4. 鳥九：花雞〕
— **ujungga huweten** 頭に花斑のある Huweten（花豹）〔補4. 鳥四：雲頭花豹〕
— **wehe** 花紋のある石〔彙：文石．花石〕
Alhabumbi 巫人神憑りするの時，衆人をして齊しく叫唫の聲を發せしめ，己が體中に神を入らしめる．神憑りの狀態に惹き入れさす〔彙：巫人學跳神時使衆人圍着齊吶喊使神入體〕
Alhacan niyehe 白斑のある鴨〔30. 鳥七：羅紋鴨〕
— **ulhūma** 雉の一種．背廣く胸紅く項綠色なり〔補4. 鳥六：鷩雉〕
Alhambi 巫人神憑りするとき衆共に叫唫して巫人の體中に神を入らしめる．神憑りの狀態に惹き入れる〔6. 祭祀二：領神〕
Alhangga anahūn moo 樹皮に花紋のある楠の古木〔29. 樹木二：豆瓣楠〕
Alhari coko 福建に産する雉の一種〔30. 鳥六：山花雞〕
— **niyehe** 白斑のある鴨〔30. 鳥八：建華鴨〕
Alhata ばらばら．散り散り．ひらひら〔12. 落空：花花塔塔〕

Alhata yali 脂肪分の層々混りあつた肉〔27. 飯肉三：五花肉〕
Alhatanaha ちらほらと生じた．斑點の出來た〔彙：生花花的了〕
Alhatu cecike 雀類の小鳥．その羽毛黒白雜はり，白中に又黒斑あり〔30. 雀六：山花雀〕
Alhuru dudu しろこばとの一種〔補4. 鳥九：火紋斑〕
Alhūdabumbi 手本にさせる．倣はせる〔7. 文教：使效法〕
Alhūdambi 倣ふ．手本にする．則る〔7. 文學：效法〕
Alhūdan 手本．模範〔7. 文教：法則〕
Alhūji 鬼婆．醜婆の幽靈〔19. 鬼怪：老女醜鬼〕
— **mama** 醜い婆．おにばば〔彙：生的醜老婦人．醜鬼．老秋狐〕
Alhūwa 1. 人間の肝臟腎臟を包む膜 2. 腦膜〔10. 人身七：包絡嫩皮〕 3. 獸類の横隔膜〔27. 飯肉一：羅裁肉〕 4. 竹紙．竹の幹の内の薄皮〔彙：竹內竹末〕
— **buriha** 眼球に白い膜の出來た〔16. 殘缺：翳瞖〕
— **yali** 人身の横隔膜〔10. 人身七：羅裁肉〕
Ali 1. 承けよ．支へよ〔21. 例支：擎〕盛れ〔彙：令盛〕 2. 擔當せよ．〔彙：令擔當〕
Alibumbi 1. 長上に書を呈する〔7. 書七：呈遞〕手渡しする〔12. 取與：呈送〕授ける〔彙：授也〕 2. 獻じさせる〔彙：使獻之〕
Alibume wesimbure bithe 君主に賀禮を奉る書〔5. 事務二：箋〕
Alibun 下々の意を上達する文書〔7. 書三：呈〕
Alibunjimbi 來り獻ずる〔彙：來獻〕
Alibure bithe icihiyara kunggeri 內外各行の書を收發し各官の告暇等の事務を掌る役所〔補2. 衙署一：都書科〕
— **bukdan** 下官の上官に會ふ時，姓名及び官職を記して差し出すもの〔5. 事務三：手本〕
Alifi baicara amban 都察院の事務を總管する役人〔4. 臣宰一：左都御史〕
— **bošoro falgangga** 各官衙の事務を督催する役所〔20. 部院三：督催所〕
— **dasara hafan** 春秋時代楚國執政者の稱〔補1. 古大臣官員：令尹〕
— **hafumbure hafan** 通政使司の長官〔4. 臣宰五：通政使〕
— **kadalara amban** 宗人府のことを總管する役人〔4. 臣宰一：宗令〕
— **simnere hafan** 考試に主役として當る大官〔4. 臣宰十：正考官〕
— **tacibure hafan** 助教（Aisilame tacibure hafan）の次の官〔4. 臣宰五：學正〕
Aligan Emu aligan を見よ．
— **i tura** 天安門の內外に立てる龍を彫りたる四本の高大な石柱〔20. 官殿：擎天柱〕
Aliha amban 一部の事を總管する大官〔4. 臣宰一：尙書〕
— **bithei da** 君主を輔け內閣のことを總管する大臣〔4. 臣宰一：大學士〕
— **cooha** 滿蒙人の騎兵〔8. 兵：驍騎〕
— **da**〔彙：宰相．中堂．大學士〕
— **hafan** 一衙門のことを承管する官〔4. 臣宰四：卿〕
— **tacibure hafan** 國子監の事を承管する役人〔4. 臣宰五：祭酒〕
Alihabi 命ぜられたことに當つた．擔當した〔5. 辦事一：承當了〕
Alihan 衣服のつぎあて〔24. 衣服三：衣貼襪〕
Alihantu enduri 日神の首．四時の氣斗柄指す所を掌る神〔補2. 神一：建〕
Alikiyari Garukiyari（綠毛公鳳）に似てそれより小さい小鳥〔補4. 雀五：羅浮鳳〕
Alikū 1. 天秤の物を載せる皿〔22. 衡量一：盤〕 2. 盤．大皿〔25. 器用三：盤子〕
Alimbaharakū たまらない．耐えられない〔18. 散語一：不勝〕
Alimbi 承る．ことを承けて身之に當る〔5. 辦事一：承當〕（神が供物を）受ける〔6. 祭祀一：受〕（倒れさうなものを下から）支へ受ける．うけとめる〔21.

倒支：擎着〕(鷹を手に)うける．とまらせる〔9. 頑鷹狗：架鷹〕

Alime gaimbi 受け取る．接取する〔彙：領受接之．受之．接取〕

Alin 山．山嶽〔2. 地輿二：山〕

— **bira giyalabumbi** 幾山河を隔てる〔彙：間隔山河乃言親朋遠居之說也〕

— **cibirgan** 小鳥の一種．嘴黒く頭青紫に背の翅黒くして細かき白斑あり，尾は棕色にしてさき黄色し〔30. 雀三：山火燕〕

— **efimbi** 山に蜃氣樓が現はれる〔19. 鬼怪：山蜃〕

— **i bethe** 山の崖〔2. 地輿四：山腿〕

— **i boso** 山かげ．裏山〔彙：山背陰〕

— **i bukūri** 奇獣の名．獄法山に出で狗に似て人面，人を見れば笑ふ〔補4. 異獣二：山獰〕

— **i cai ilha** さざんか〔29. 花三：山茶花〕

— **i cecike** やまがら〔30. 雀六：山雀〕

— **i ebci** 山腹の傾斜．勾配〔2. 地輿三：山肋〕

— **i hisy** 山腹の険峻な處〔2. 地輿四：山傍険峻處〕

— **i jukidun** しやこの一種〔30. 雀五：山鷓〕〔補4. 雀五：山鷓〕

— **i kiongguhe** ははつちやうの一種〔補4. 鳥八：山鸐鴣〕

— **i mudan** 山くま〔2. 地輿四：山灣〕山の曲り路〔彙：山之曲彎路〕

— **i niowanggiyangga cecike** 鳩に似た小鳥．頭項綠に背は藍色，尾青し〔30. 雀三：綠山鳥〕

— **i oforo** 山の尾根〔2. 地輿四：山嘴〕

— **i saiha** 嶺の下の平坦な處〔2. 地輿三：山嶺下坡處〕

— **i saksaha** てうせんからすの一種〔30. 鳥九：山喜鵲〕

— **i šuru cecike** がらん鳥の一種〔30. 雀三：山鶺〕

— **i suwayangga cecike** ぬへじないに似た小鳥．頭背尾共に金黄色，尾は開いて掌狀になつてゐる〔30. 雀三：黄山鳥〕

— **i šu ilha** 山に生ずる草本の一種．その形蓮の花に似たり〔29. 花三：山蓮花〕

— **i ulhūma** 雉の一種．尾の長いもの〔30. 鳥七：山雉〕

— **i wai** 山くまの隠れた處〔2. 地輿四：山灣曲僻處〕

— **i yabulan** ふくろうの一種〔補4. 鳥四：山鵂〕

— **jakaraha** 日出づるに先立ち東方の天と山とが鮮かに見えた．明るみ初めた〔1. 天文一：東方明〕

— **jalgangga moo** にはうるしの一種〔補3. 樹木三：山桐〕

— **yadali cecike** ぬへじないの一種〔30. 雀三：山畫眉〕

Alintu niongniyaha 雁の一種〔補4. 鳥三：鶤鶤〕

Alioi 律呂の律．音律〔7. 樂三：律〕

— **hūwaliyasi** 樂律に關することを掌る官〔4. 臣宰八：協律郎〕

Alirame 山を歩き．山を通り〔2. 地輿三：走山〕

Alisun 稻や麥の落穗の水に遇ひ再び生え出たもの〔29. 草三：落籽苗〕

Ališabumbi 悶えさせる．心を苦しませる〔13. 愁悶：致于悶〕

Ališacuka 憂ふ可き．心苦しき〔13. 愁悶：可悶〕

Ališaka Ališacuka に同じ〔13. 愁悶：可悶〕

Ališambi 悶える．心の中苦しむ〔13. 愁悶：悶〕

Ališatambi 只管煩悶する．常に心苦しむ〔13. 愁悶：只是煩悶〕

Aliyabumbi 1. 後悔させる〔13. 悔咷：使後悔〕2. 待たせる〔14. 行走三：使等候〕

Aliyacun 1. 悔ゆること．後悔すること〔7. 書五：悔〕〔13. 悔咷：悔〕2. 待つこと．人待ち〔彙：等候〕

Aliyakiyambi ぼつぼつ歩き乍ら待つ〔14. 行走三：慢走等候〕

Aliyambi 1. 後悔する〔13. 悔咷：後悔〕2. 待つ．待ち合はす〔14. 行走三：等候〕

Aliyan 易卦の名〔補1. 書一：需〕

Aljabuha gūwasabuha に同じ〔19. 鬼怪：神鬼見怪〕。
Aljabumbi 離開する. 離す〔15. 遷移：使離開〕。
Aljambi 1. 離開する. 離れる〔15. 遷移：離開〕 2. 色が變る. 色を失ふ〔彙：失色之失. 變色之變〕。
Alkūn 馬の歩巾〔彙：馬性口的過歩〕
— **amba** (馬などの) 歩巾が大きい〔31. 馬四驅走：過歩大〕。
Almin indahun 日の長い犬〔補4. 諸畜一：獵〕
Alun indahūn 日の短い犬〔補4. 諸畜二：獵〕
Ama 父. 父親〔10. 人倫一：父〕
Amaga 後ろの. 後ろに. 將來〔2. 時令三：後來〕
— **inenggi** 後日〔2. 時令六：日後〕
— **jalan** 〔彙：後代. 後世〕
Amagangga 後のもの. 後來のもの〔2. 時令三：後來的〕
— **tusa inenggi** 奇數月では子の日より巳の日まで, 偶數月では午の日より亥の日までの日をいふ〔補1. 時令二：盆後日〕
Amaka 夫の父. 舅〔10. 人倫一：公公〕
Amala うしろ. 後ろの〔2. 地輿十四：後〕後來の. のち〔彙：然後之後. 後頭〕
— **fiyanjilambi** 味方の軍の殿りをうけたまはる〔8. 征伐四：斷後〕
— **tutaha** 後に殘つた. 落後した〔彙：落在後頭了〕
Amargi 1. 北. 北方〔2. 地輿十三：北〕 2. 後方.〔2. 地輿十四：後邊〕
— **fisembuhe boo** 房後の建物〔20. 墳廟：廂座〕
— **fiyentehe** 巾胯 (Dulimbai fiyentehe) に繼き兩行に並書したる文章〔7. 書六：後胯〕
— **ice calu** 北京にあり, 戶部の糧食米を貯へたる倉〔20. 部院十二：北新倉〕
— **juwere jekui kunggeri** 戶部雲南司に屬し漕運に關する事務を掌る役所〔補2. 衙署二：北漕科〕
— **nahan** 北側の温床〔彙：北炕〕
— **suduri su sosohon i ulabun i tucin i bithe** 〔讀書：北史文苑傳敘〕
Amargici dorime fiyelembi 馬の後より鞦を摑み走つて飛び乘る〔8. 騎馬：挿柳〕
— **dorime tonggolime fiyelembi** 馬の後より鞦を摑み筋斗うつて飛び乘る〔8. 騎馬：筋斗柳〕
Amarginggge kubulin mudangga cecike もずの一種〔補四. 雀一：北百舌〕
— **wasika** 後産が下りた. 胞衣が下りた〔13. 生産：胞包下了〕
Amariha 後れた. 落後した〔12. 遲悞：落後了〕
Amasi 後に. 後方に〔2. 地輿十四：往後〕以來. 以後〔彙：以後〕
— **bumbi** Jugembi に同じ〔6. 祭祀二：夜祭七星〕
— **dushumbi** 弓を射るとき右手を後方にひく〔彙：射箭右手往後掙〕
— **julesi** 戻りつ往きつ〔彙：來往. 往返〕
Amba 大. 大きい〔25. 大小：大〕
— **arbun** 易卦の象〔補1. 書一：大象〕
— **baita** 大事. 大業〔5. 事務一：大事〕
— **bayara** 精兵の軍隊〔彙：大擺牙喇〕
— **beikuwen** 大いに冷たい. 大變寒い〔2. 時令八：大冷〕
— **bithei niyalma** 大文人. 大讀書人. 大儒〔10. 人一：大儒〕
— **boihon enduri** 大地の神〔19. 神：太社〕
— **budere enduri** 年神の第十. 刑罰爭鬪を掌る神〔補2. 神二：大煞〕
— **buren** 大喇叭〔7. 樂器二：大銅角〕
— **cooha** 大兵. 大軍〔8. 兵：大兵〕
— **daban** 易卦の名〔補1. 書一：大過〕
— **duwalinaha** 樂律の名. 六律の一〔7. 樂二：大簇〕
— **elhe calu** 朝陽門の外にあり, 戶部の糧米を收貯する倉〔20. 部院十二：太平倉〕
— **elioi** 音律の名. 六呂の一〔7. 樂三：大呂〕
— **etuhun** 易卦の名〔補1. 書二：大壯〕

Amba garma 大きな黄色の蚊〔32. 蟲三：大黃蚊子〕
— **gasihiyan enduri** 年神の第三. 耗散を主る神〔補2. 神二：大耗〕
— **halhūn** 大いに暑い〔2. 時令八：大熱〕
— **hošo** 目頭. Ajige hošo に對す〔彙：人眼裡邊大眼角〕
— **hiyoošun** 皇帝の孝〔彙：大考乃德爲聖人貴爲天子富有四海承宗廟保子孫也〕
— **hiyoošungga** 大孝. 至聖の孝. 皇帝の孝〔11. 孝義：大孝〕〔彙：與 Amba hiyoošun 同〕
— **holbonggo hoošan** 紙銭に作つて燃やすに用ふる紙〔7. 文學什物一：元連紙〕
— **ija** あぶ. おほあぶ〔32. 蟲三：青頭大蜻虻〕
— **ilibun** 易卦の名〔補1. 書一：大畜〕
— **jalungga calu** 湖南にある米倉の名〔補2. 衙署八：大盈倉〕
— **jeku enduri** 食物の神〔19. 神：太稷〕
— **jergingge** 本官の方が低く兼官の方が高いこと〔4. 臣宰十四：大衙〕
— **jiyanggiyūn enduri** 年神の第四. 武職の首たり〔補2. 神二：大將軍〕
— **jobolon enduri** 年神の第九. 陰氣に屬し刑殺を掌る〔補2. 神二：大禍〕
— **kesi** 大いなる惠み. 鴻恩〔彙：鴻恩〕
— **konggoro niongniyaha** 色黃に嘴の黑い雁〔30. 鳥二：黃杓雁〕
— **koolingga hafan** 國事を省察し文書の收納等を掌る古昔の官〔補1. 古大臣官員：太史〕
— **kumun** 宮廷音樂の一種〔彙：筵宴登殿回宮內外大臣官員及外國王子使者來朝謝恩奏的樂共四段〕
— **kūwaran i calu** 江南にある貯糧倉の名〔補2. 衙署八：大軍倉〕
— **lampa** 大いなる混沌さ〔彙：混沌〕
— **mukūn i jingkini gargan** 大宗の正嫡の系統〔續2. 人倫：大宗嫡派〕
— **muru** 大概. 大方〔彙：大概. 大摸兒〕
— **nimanggi** 〔彙：大雪〕
— **suri** さや. さあやの一種〔23. 布帛三：大溜紬〕
— **šahūrun** 大いに寒い〔彙：大寒〕
— **šoge** 五十兩の銀塊〔22. 貨財一：元寶〕
— **šošobun** 文章の一段落の終りに總括して書いた文言. 文章の大結び〔7. 書六：大結〕
— **tacin i bithe** 書名〔7. 書一：大學〕
— **ten** 天地陰陽未だ分たざる前の貌〔7. 書四：太極〕
— **tusangga calu** 地方の省の貯糧倉の名〔補2. 衙署八：大濟倉〕
— **yali** 神に供した餘りの肉. 家人の料理して食ふ肉〔6. 祭祀二：大肉〕
Ambakaliyan 少しだけ大きい. 僅かに大きい〔25. 大小：略大些〕
Ambakan 稍々大きい〔25. 大小：略大〕
Ambakasi 稍々大きなもの〔25. 大小：大些的〕
Ambaki 威張つた. 尊大な. 不遜の〔17. 驕矜：大樣〕
Ambakilambi 威張る. 尊大ぶる〔17. 驕矜：擡大款〕
Ambalinggū 體軀堂々として色美はしき人〔11. 容貌二：大方〕〔11. 厚重一：大方〕氣慨莊だ大なる. 魁偉なる〔彙：氣慨莊大. 魁偉〕
— **alin** 北京宮の後ろにある山の名〔補1. 地輿一：景山〕
— **alin i alban tacikū** 包衣三旗の俊秀を教習する所〔20. 部院十二：景山官學〕
Amban 〔4. 臣宰一：大臣〕
— **i manambi** おほざつぱにする. 事を疎略にする〔17. 怠慢迂疏：大方摸〕
Ambarambi 大きくする. 多くする〔25. 大小：張大〕
Ambarame 大いに〔彙：大計之大. 大閱之大〕
— **simnembi** 三年に一度宛地方文官の賢否を試驗する〔4. 考選：大計〕
— **waha** 大いに殺した〔8. 征伐七：大殺〕
— **wecere wecen** 王者の大祭〔6. 祭

紀一：禘〕

Ambasa Amban の複數形〔4. 臣宰一：大臣等〕

— **saisa** 〔10. 人一：君子〕

Ambu 母親の姉. 伯母〔10. 親戚：大姨母〕

Ambula 甚だ多き. 廣大な〔25. 多寡一：廣〕甚だ. 大いに〔彙：甚. 最〕

— **asarara calu** 江南鳳陽府にある貯糧倉の名〔補2. 衙署八：廣儲倉〕

— **asarara fiyenten** 內務府に屬し衣帽製作等のことを總管する役所〔20. 部院七：廣儲司〕

— **beikuwen** 甚だ冷たい. 甚だ寒い〔2. 時令八：甚冷〕

— **belhere namun** 江北省の銀庫の名〔補2. 衙署八：廣儲庫〕

— **bisiren** 易卦の名〔補1. 書一：大有〕

— **elgiyen calu** 山東濟南府にある糧倉の名. 廣東にもこの名の庫あり〔補2. 衙署八：廣豐倉〕

— **halhūn** 甚だ暑い〔2. 時令八：甚熱〕

— **iktaka calu** 地方の省の糧倉の名〔補2. 衙署八：如京倉〕

— **iktambure calu** 黑流江省にある糧倉の名. 陝西にも亦同名の官倉あり〔補2. 衙署八：廣積倉〕

— **iktambure namun** 工部に屬し火藥硝磺を收貯する庫〔補2. 衙署八：廣積庫〕

— **jalungga calu** 直隸保定府にある糧倉の名. 山西江西にも亦同名の倉あり〔補2. 衙署八：廣盈倉〕

— **jalungga namun** 河南にある銀庫の名〔補2. 衙署八：巨盈庫〕

— **niktongga** 奉天府屬の縣名〔續2. 地輿：廣寧縣〕

Ambuma 母の姉の夫. 伯父〔10. 親戚：大姨父〕

Ambumbi 追手に捕へられる. 追ひつかれて捕虜になる〔8. 征伐六：追獲〕

Ambuta Ambu の複數形〔10. 親戚：諸大姨母〕

Amcabuhabi 極度に饑えた. 饑餓迫つた〔13. 饑饉：致饑餓〕

Amcabumbi 1. 追擊させる〔8. 征伐六：使追〕人に追はれる. 逼られる〔彙：被人逼趕〕2. 追ひ錢を賭けさせる. 元金を回收させる〔19. 賭戲：使撈本〕

Amcakūšambi 1. 人の無理を通す. 人の無理に逆らはぬ〔17. 讒諂：上趕著人〕2. 試みに問ふ. 探り訊く〔12. 問答一：趕著問〕

Amcambi 1. 追ふ. 追擊する〔8. 征伐六：追〕屆かす. 及ぼす. 近付かす〔18. 散語一：彀得着〕2. 審訊の了つた後又細かく追問する〔5. 詞訟二：追問〕3. 賭に負けて更に追錢を賭ける. 元金の回收を企てる〔19. 賭戲：撈本〕

Amcame fungnembi 追封する〔3. 封表一：追封〕

— **gebu bumbi** 諡號を與へる〔3. 封表一：給諡號〕

Amcanambi 追ひ行く〔8. 征伐六：去追〕

Amcangga jahūdai 大軍船の名〔26. 船一：趕繪船〕

Amcanjimbi 追ひ來る〔彙：趕來〕

Amcatambi 1. 怒れる人に向ひ先づ話し出す〔14. 言論二：上趕着〕2. 分に過ぎた振舞ひをする〔17. 輕狂：攀高〕

Amda musihi 1. 僅かに充し得る. どうにか足りる. やつと屆く〔13. 貧乏：剛數過〕2. 情味のない. 淡々とした〔17. 驕矜：寡情〕

Amdula 膠で粘れ〔26. 膠粘：鰾粘〕

Amdulabumbi 膠で粘らせる〔26. 膠粘：使用膠粘〕

Amdulambi 膠で粘りつける〔26. 膠粘：用鰾粘〕

Amdun 1. とりもち〔22. 打牲器用三：黏子〕2. 膠. にべ〔26. 膠粘：鰾〕

— **bilcambi** 膠を塗りつける〔26. 膠粘：抹鰾〕

Amgabumbi 睡らせる〔15. 睡臥二：使睡〕

Amgacahabi 一齊に睡つた. 皆睡つた〔15. 睡臥二：一齊睡〕

Amgambi 睡る. 睡眠をとる〔15. 睡臥二：睡〕

Amganambi 眠りに行く. 行つて眠る

〔15. 睡臥二：去睡〕
Amha 夫の父〔10. 親戚：丈人〕
Amhabumbi 睡らす. 子供を關して睡らず〔彙：使睡. 關小孩子睡〕
Amhacaha 衆人皆睡つた〔彙：衆人皆睡了〕
Amhambi 睡る. 眠る〔彙：睡之〕
Amhanambi 睡りに行く〔彙：去睡〕
Amhūlan 呼び笛〔22. 打牲器用四：口哨子〕
Amida どろのき〔29. 樹木四：小葉楊〕
— **nimalan** にまくわ〔29. 樹木三：雞桑〕
Amihūn 硫黄〔22. 貨財二：雄黄〕
Amila 雄. 牡（禽鳥のをすに就いてのみいふ）〔31. 諸畜三：雄〕
Amilambi 開眼供養をする〔19. 佛二：開光〕
Amilame cashūn fiyelembi 鞍轡を歷へ後向きになつて乘つて行く〔8. 騎馬：攜鞍反背〕
Amin 後の鞍轡. 後のくらはし〔9. 鞍轡一：後鞍肷〕
Amji 母の兄. 伯父〔10. 人倫一：伯父〕
Amjita Amji の複數形〔10. 人倫一：衆伯父〕
Amsu 皇上に進める料理〔27. 飯肉一：膳〕
— **i da** 皇上の膳を調理する官〔4. 臣宰七：尙膳正〕
Amsulambi 皇帝が食事を攝る〔27. 飲食一：用膳〕
Amsun 神の供物〔彙：酒食乃獻神者. 餚〕
— **dagilara boo** 神の供物の準備をする處〔20. 壇廟：神厨〕
— **gaimbi** 福を祖先の靈に受けて, 供物の肉を先づ食ふ. 祭禮の供へ物を食ふ〔彙：受蓋家主先嗜肉食〕
— **i da** 祭禮の神物を豫備辨理する官〔4. 臣宰七：司牲長〕
— **i janggin** 祭禮の神物を豫備する官〔4. 臣宰七：司牲官〕
— **i yali** 神に供へる肉〔6. 祭祀二：祭神肉〕
— **jafambi** 祭酒を釀し祭米の糠を去つて預め供物の調理をする. 供物の用意をする〔6. 祭祀二：整理祭物〕
Amtalambi 1. 弦を彈き弓の調子を試べる〔9. 製造軍器一：彈弦試弓〕 2. 味を見る. 味を試みる〔27. 飲食一：嗜滋味〕
Amtan 食物の味〔28. 滋味：味〕
— **acabumbi** 味を合はせる. 味加減する〔彙：和味〕
— **akū** 味がない. 趣きがない〔彙：沒有趣〕
— **bi** 趣きあり. 味あり〔彙：有趣兒〕
— **simten** 美味の. 味のうまい〔彙：滋味. 旨味乃物吃之有味也〕
— **tuheke** 落膽した. がつかりした〔13. 悔嘆：吊味兒〕
Amtangga 趣きのある. 味のある〔13. 喜樂：有趣〕〔18. 器一：有趣〕美味の. 味のよい〔28. 滋味：有味〕
Amtasambi 細かに味ふ. よくよく味ふ〔27. 飲食一：細嘗滋味〕
Amtun 古代祭器の名〔6. 祭祀器用一：俎〕
Amu 1. 母の兄の妻. 伯母〔10. 人倫一：伯母〕 2. 眠い. 困憊した〔15. 睡臥一：困〕 3. 豚の腸に出來る Cilcin の如く細長きもの. このものに鹽などを混じて洗面に用ふ〔27. 飯肉二：腴子〕
— **mangga** 甚しく眠がる. 眠いこと甚しい〔15. 睡臥一：困大〕
— **sektu** 睡りの淺い〔15. 睡臥一：睡的輕〕
— **sureke** 眠氣の醒めた〔彙：醒了沒有困了〕
— **suwaliyame** 眠氣まじりに. 朦朧として〔15. 睡臥二：帶着困〕
— **šaburambi** 眠くなつてくる〔彙：困起來. 困倦〕
Amuran …好きの. 好み〔17. 淫蹟：好〕
Amurangga 好きな. …の好きな人〔17. 淫蹟：所好的〕
Amurgan 箭桿に使用する色黄にして質密なる木〔29. 樹木五：毒木〕
Amurtu sarla 灰色の駿馬〔31. 馬匹一：山子〕

Amuta Amu の複数形〔10. 人倫一：衆伯母〕
An 通常. 常. 普通. 通例の. 庸の〔5. 政事：常〕
— **akū** 定規が無い. 定例でない〔彙：無定規〕
— **be tuwakiyambi** 本分を守る. 素を守る〔11. 厚重二：守分〕
— **ciktan i tanggin** 皇帝が親臨して書を講ずる大堂〔20. 部院六：彝倫堂〕
— **coko** 普通の雞〔31. 諸畜三：雜雞〕
— **dulimba bithe** 書名〔7. 書一：中庸〕
— **i** 常に照して. 常道で〔彙：照常〕
— **i baita** 常の事〔5. 事務二：常事〕
— **i jergi** 平常. 普通. 中等〔彙：中等. 平常〕
— **i wesimbure bithe** 內容を隱さない通常の上奏文〔5. 事務二：奏本〕
— **kemun**〔彙：常制. 規矩〕
— **kooli** 風俗. 舊例. 常規. 常格. 常例〔增四5. 政事：風俗〕
— **wehe** 木の變じて石となれるもの. 木化石〔2. 地輿六：木變石〕
Anabumbi 1. 兄弟互ひに推し讓る〔11. 友悌：推讓〕押させる〔15. 搖動：使推〕2. 遷延させる〔彙：使遷延〕3. 敗れる〔彙：勝敗之敗〕
Anabure etere〔彙：勝負. 輸贏〕
Anafu cooha 防禦の兵〔8. 兵：戍守兵〕
Anafulabumbi 守らせる. 防守させる〔8. 防守：使戍守〕
Anafulambi 守る. 戍守する〔8. 防守：戍守〕
Anagan 1. 口實. 逃げ口上〔17. 懶惰：借端〕2. 乘じて. 藉りて〔彙：乘便乘空之乘. 乘機〕
— **arame** 假りて. 藉口して〔彙：假推. 推故. 藉口〕
— **i biya**〔2. 時令五：閏月〕
Anahūn moo くすのき〔29. 樹木二：楠木〕
Anahūnjambi 恭々しく讓る. 謙讓する〔11. 友悌：謙讓〕
Anahūjan 謙讓〔11. 友悌：讓〕
Anakū 鍵. あひ鍵〔25. 器用一：鑰匙〕
— **arambi** 口實を作る. 逃げ口上を云ふ〔17. 懶惰：借端〕
— **fa** 推して開閉する窓〔21. 室家二：推窗〕
— **jui** 生れる前に父の亡くなつた子. 父親が亡くなつて十ケ月以內に生れたる子〔10. 老小二：沒生子〕
— **sejen** 一輪の手押し車〔26. 車轎一：推車〕
Anakūi da 宮廷の門の鍵をあづかる武人〔4. 臣宰九：司鑰長〕
Anambi 1. (卷狩りの圍みを) 推し擴げる〔9. 畋獵二：推圍〕押す. 推す〔15. 搖動：推〕(一輪車を) 推す〔26. 車轎二：推傍車〕2. 託つける. 人におしつける〔17. 懶惰：推托〕3. 日限を延ばす. 遷延する〔彙：遷延日期之遷延〕
Anami Kandahan (堪達漢) の大なるもの〔31. 獸三：大堪達漢〕
Anan 1. 輦. 皇帝の車〔彙：輦乃輓車〕2. Emu anan を見よ.
— **šukin** 柔に隨ひおづおづしたる〔17. 懦弱一：隨柔〕
— **i silgasi** 廩生の錢糧とる年を算り順番に補ひ取りたる貢生. 廩生候補の貢生〔4. 臣宰十一：挨貢〕
Anatambi 1. 一齊に推す. 共に押す〔15. 搖動：齊推〕2. 人に推し委せる. おしつける〔17. 懶惰：推委〕
Ancu hiyan 香草の一種. 祭時この葉を燃く〔29. 草一：七里香〕
Ancun 二個の眞珠を嵌めた耳環. 耳飾り〔24. 飾用物件：耳墜〕
— **gūwara** 猛禽の一種. みみづくの類〔30. 鳥五：狼鵠〕
— **i bohori** 耳飾りについた玉に嵌めこんだ金瑠璃等の花〔24. 餙用物件：墜子寶蓋〕
— **ilha** りうきうわうばい〔29. 花一：探春花〕
— **umiyaha** 家に生ずる黃色い蟲〔32. 蟲一：蟑螂〕
Anda 篤き交はり. 朋友の誼み〔10. 朋友：賓友〕

Anda jafambi 篤き交りを結ぶ. 兄弟の交りをする〔10. 朋友：結賓友〕
— **saikan** 誠に好い. 實に好い〔12. 稱奨：果眞好〕
Andala ことの半ば. 中途〔12. 遲悞：半路〕路の半ば. 途中〔19. 街道：半途〕
— **giyamun** 中間の驛站. 途中の宿場〔彙：腰站〕
Andan 瞬時. 極く僅かの間〔2. 時令三：頃刻〕
Andande 瞬時に. 忽ちにして〔彙：倏忽間一會兒〕
Andarambi 小兒が人見知りする〔10. 老少二：認生〕
Andubumbi 心をまぎらし慰める〔5. 安慰：慰止〕
Anduhūri 冷淡な〔17. 驕矜：疎淡〕
Anduhūrilambi 人を待つに情が淡い. 厚遇しない〔彙：待人情淡〕
Anfan 海魚の一種〔彙：海魚身與樺水似花鮮只長而圓〕
Ang わあッ（喊声の聲）〔14. 聲響一：喊聲〕ひひーん〔14. 聲響五：駝驢叫聲〕
Angga 人の口〔10. 人身三：口〕關口. 山の隘口〔19. 城廓：口子〕
— **akšun** 口汚い. 口やかましい〔彙：人嘴科害刻薄燥暴不好〕
— **aljambi** 許しが出る〔12. 取與：應許〕
— **baimbi** 犯人の言葉を問取する〔彙：問取犯人口詞〕
— **baimbi miosiri miosirilambi** 常ににこにこと笑みを含んでゐる〔彙：肯笑的人白常帶笑〕
— **cakcahūn** 馬の口の堅い. 開閉を肯じない〔31. 馬匹動作一：嘴況〕
— **cira** 馬の口の力強い〔31. 馬匹動作一：嘴硬〕
— **cira morin** 口の力の強い馬〔彙：嘴硬的馬〕
— **cukcuhun oho** 口をとがらしゆがめた（不平で）〔彙：惱了嘴尖拱蠟着了〕
— **duyen** 馬が口を上に擡げ弛める〔彙：馬口抬口鬆〕
— **ergi milahūn ferei ergi sibsihūn** 口の方大きく開き底の方の窄んだ〔彙：口裡底撮〕
— **fodorokobi** 口尖らせた〔11. 容貌四：撅嘴〕
— **fulgiyan itu** 嘴の赤い野雞〔彙：紅嘴山雞〕
— **gaimbi** 〔彙：與 Angga ojombi 同〕
— **gakahūn** 口を大きく開いて聲を出さない〔彙：張着嘴不出聲〕
— **hetumbumbi** 口を糊する. たつきを立てる〔彙：糊口〕
— **hotohon** 唇の上向きに捲れ上つた〔彙：嘴唇高捲起生者〕
— **i anakū** 口から出まかせの云ひ逃れ〔彙：有可譏笑短處人無數言講〕
— **i hošo** 〔彙：口角. 嘴岔子〕
— **ici** 口にまかせて. 口から出まかせに〔彙：信着口〕
— **isi** どうぞ召し上つて下さい（丁寧に勸める言葉）〔27. 飲食一：請嘗〕
— **isibumbi** 先に箸をつけさせる. 先づ食はせる〔27. 飲食一：使先嘗〕
— **isika** 先に箸をつけた. 先づ食べた〔27. 飲食一：先嘗了〕
— **isimbi** 先に口つける. 先に食ふ〔27. 飲食一：先嘗〕
— **jasimbi** 傳言を寄せる. 傳言する〔彙：寄口信〕
— **johimbi** 腫物の口が收まる〔彙：瘡口收了〕
— **juwambi** 口を開く〔彙：張開口〕
— **labdahūn** 唇の下に垂れた. 口の下向きの〔彙：嘴唇生的往下垂着〕
— **mentuhun** 馬の口が手綱かけるに熟れてゐない〔31. 馬匹動作一：嘴生〕
— **mimifi ilenggu halgibufi** 口を緘し舌を結びて. 堅く口を閉して〔彙：緘口結舌〕
— **mimimbi** 口を緘する. 口を閉ぢる. 默して云はず〔彙：緘口. 閉口〕
— **ojombi** 接吻する〔彙：親嘴. 與 Angga gaimbi 同〕
— **sonjombi** 女が妊娠して食物の好惡が出來る. 惡阻する〔13. 生產：害口〕
— **sula morin** 口を上にあげる馬. 口

の弛い馬〔彙：口瘦的馬．口鬆的馬〕
Angga sulfambi 辛じて口を餬する．漸く日日の命をつなぐ〔13. 貧乏：餬口〕
— **šukšuhun oho** (怒つて) ふーと息を吐いた．口をとがらした〔彙：口長氣乃惱怒貌．惱了嘴尖着〕
— **tucike** 腫物が口を開いた〔16. 瘡瘭二：出頭〕
Anggai anakū 口實．云ひ逃れ〔15. 鄙薄：口實〕
— **hošo** 口の兩角〔10. 人身三：口角〕
— **jasimbi** 傳言をする．言づてする〔7. 書七：寄口信〕〔12. 問答二：口寄信〕
Anggakū 洵山に出で羊に似て口無く色黑き奇獸〔補4. 異獸一：糕〕
Anggala 1. 人口．人數〔10. 人五：人口〕 2. よりは．のみならず．寧ろ〔18. 散語一：與其〕
Anggalambi 求め歩く〔12. 勗勉：求告著走〕乞ひ求める〔13. 求望：開口求告〕
Anggalinggū 口先きの上手な者〔14. 言論一：佞口〕
Anggara 甕〔25. 器用六：缸〕
Anggari janggari 竪横亂雜に．縱横とり散して〔15. 撕撒：横竪亂放〕
Anggasi 後家．寡婦〔10. 人五：寡〕
— **hehe** 〔彙：寡婦〕
Anggasilambi 後家を守る．後家を通す〔彙：守寡〕
Anggatu 家畜が勝手に物を食へぬ樣口に被せる網．口網〔32. 牲畜器用二：箆嘴〕
Anggir niyehe Lama niyehe に同じ〔30. 鳥八：黃鴨〕
Anggiyan めかぢき〔32. 海魚二：洋魚〕
Anggūta 1. 刀の柄の上端につけた鐵〔9. 製造軍器四：釘刀根鐵〕 2. Anggatu に同じ．口網〔32. 牲畜器用二：箆嘴〕
Aniya 年〔2. 時令四：年〕
— **aliha gūsai siden yamun** 八旗騸騎衞にある衙門で八旗の司令本部〔20. 部院九：值年旗衙門〕
— **biya** 〔2. 時令五：正月〕
— **hūsime** 全一年．一年經て〔2. 時令四：整年〕
— **inenggi** 〔2. 時令六：元旦〕
Aniyadari 年每に．每年〔2. 時令四：每年〕
Aniyai budere enduri 年神の第七．陰氣の大凶神〔補2. 神二：歲煞〕
— **efujentu enduri** 年神の第二．破敗を主る〔補2. 神二：歲破〕
— **enduri** 太歲以下三十四柱の年神〔補2. 神二：年神〕
— **eruntu enduri** 年神の第十一．この神に遇へば臨陣動土修造に宜しくない〔補2. 神二：歲刑〕
Aniyaingge (この年のこと，その年のことなどいふ時の) 年のこと〔2. 時令四：某年的〕
Aniyalame 一年經て．まる一年〔2. 時令四：經年〕
Aniyangga (十二支の) 某年生れの．某年に屬する〔2. 時令四：屬相年〕
— **sakda** 老ひ耄れ〔18. 厭惡：老積年〕
Anja 犁〔21. 農器：犁杖〕
— **ušambi** 犁を牽く〔彙：拉犁〕
Anji 手斧で削れ〔26. 截錛：錛〕
Anjibumbi 手斧で削らせる〔26. 截砍：使錛去〕
Anjikū 手斧〔22. 工匠器用一：小錛子〕
Anjimbi 手斧で削る〔26. 截砍：錛去〕
Anju 酒の肴．なまぐさもの〔27. 飯肉四：葷〕
— **belhere ba** 光祿寺に屬し皇上調理のことを掌る役所〔補2. 衙署七：葷局〕
Antaha 宴席に招ける客〔6. 筵宴：賓客〕
— **i kuren** 外國使節の宿泊する所〔補2. 衙署七：賓館〕
— **be boigojilara bolgobure fiyenten** 外國使節に關する用件を總管する役所〔20. 部院四：主客清吏司〕
Antaharambi 裝ふ．取りつくらふ．ごまかす〔17. 欺哄：粧假〕
Antahasa Antaha の複數形〔6. 筵宴：衆賓客〕
Antaka 如何に．如何なる〔12. 問答一：

何如〕

Antarhan cecike Fiyasha cecike (家雀) の別名〔30. 雀六：賓雀〕〔補4. 雀五：賓雀〕

Antu 山の南側〔2. 地輿四：山陽〕

Anwan さけの類〔32. 海魚一：海鰕魚〕

Ar あっ. あー〔14. 聲響二：叫喊聲〕

— **seme** あっと. やっと. それっと〔彙：高聲很叫. 厲聲〕

Ara 1. あー. うーむ (苦痛の聲)〔16. 疼痛三：嗳氣聲〕あら. おや〔彙：驚訝〕 2. ぬか〔28. 米穀二：糠〕 3. 寫せ. 書け〔彙：令寫〕 4. 做せ. 爲よ〔彙：令做〕

— **fara** うんうん. あーあー〔彙：或病或唾或湯疼大喊叫聲〕

Arabumbi 1. 造らせる〔26. 營造：使造作〕書かせる〔彙：使寫〕 2. 粉飾させる. 振りをさせる〔彙：使粉飾做作〕

Araha bayarai jalan i janggin 副護軍參領 (Ilhi bayarai jalan i janggin) の次の官〔4. 臣宰九：委護軍參領〕

Arambi 1. (文を) 作る〔7. 書七：作文〕字を書く〔7. 書七：寫字〕造る. 造作する〔26. 營造：造作〕 2. 粉飾する. 振りをる. 本性を變へる〔18. 厭惡：做作〕

Arandumbi Aranumbi 一齊に造作する. 同時に造る〔26. 營造：齊造作〕各自が一齊に書く〔彙：各自齊寫〕

Arašan aga 時にかなつて降る雨〔1. 天文五：甘雨〕

— **agangga kiru** 灰色にして龍像を縫ひとつた旗〔6. 鹵簿器用四：甘雨旗〕

Arbun すがた. あらはれ〔7. 書五：象〕身體の形相. からだの樣子〔11. 容貌一：形相〕

— **be tuwame** 樣子を伺つて. 形勢を見て〔彙：看勢頭. 看光〕

— **dursun**〔彙：容貌. 形狀〕

— **giru** 姿と骨組と. 容姿骨相〔彙：形容骨格〕

— **i angga** 二つの河の合流點〔2. 地輿八：兩河會處〕

— **i ba** 緊要の地方〔彙：地方緊要去處〕

— **i ulabun** 易卦の彖〔7. 書四：彖傳〕

Arbungga からだつきの好い. かくこうの好い. 立居振舞ひの美事な〔11. 容貌一：形相好〕

Arbušambi 動く. 動作する〔15. 搖動：動作〕

Arca burga Aršan burga に同じ〔29. 樹木三：大葉柳〕

Arcambi 獸の先廻りして射る. 路を斷つ〔9. 畋獵三：截岔〕

Arcilan burga Aršan burga に同じ〔29. 樹木三：大葉柳〕

Arda 苦勞の足りない子供〔10. 老小二：未經勞苦〕

Ardashūn 脆弱なる. 甘える〔17. 懦弱一：嬌嫩〕

Are あれ. うーむ. むむう〔彙：病的疼的受不得的聲〕

Arfa からすむぎ〔28. 米穀一：鈴鐺麥〕

Arfukū 蠅はたき〔25. 器用二：蠅尾〕

Arga 策略. 計略. 策謀〔11. 性情二：計策〕〔17. 奸邪：計〕

— **jali** 陰謀術策〔彙：奸計術〕

Argabuha dalan 三日月形の堤〔補1. 地輿二：月堤〕

Argabumbi 山上で獸を追はす〔9. 畋獵一：使山上趕獸〕

Argacan まさかり〔9. 軍器六：鉞〕

Argadabumbi 人に謀られる〔彙：被人算計〕人をして計を設けさす〔彙：使人設計〕

Argadambi 計略を用ひる. 計を廻らす. 策を用ひる〔8. 征伐三：用計〕〔17. 奸邪：用計〕

Argali 牝の Uhūlja (盤羊)〔31. 獸四：母盤羊〕

Argambi 山上で獸を追ふ〔9. 畋獵一：山上趕獸〕

Argan 1. 植物の芽〔21. 農工二：芽〕 2. 獸の牙〔31. 走獸肢體：獐牙〕 3. 鋸の齒〔彙：鋸齒〕

— **mudun** 目の細かいやすり〔22. 工匠器用一：馬牙磋〕

— **ošoho** 牙と爪〔彙：虎牙爪之牙爪〕

Arganaha 新月. 三日月〔彙：月芽乃月出如鈎之光也〕

Arganambi 發芽する〔21. 農工二：發

芽〕

Argangga 弄巧の（人）．奸智に長けた（人）〔17. 奸邪：慣使奸計〕

Argat moo らかんじゆ〔補3. 異木：羅漢木〕

Argatu 雄ののろ〔31. 獣三：公麝〕

— **sirga** 背高く大なる灰色の馬〔31. 馬匹一：月鼬騅〕

Argiya 削れ〔25. 斷折：削〕

Argiyabumbi 削り取らせる〔25. 斷折：使削去〕削られる〔彙：被削〕

Argiyambi 削り取る〔25. 斷折：削去〕

Argūma sarla 渥洼（甘肅省安西縣に在る河）の水中に出たと傳ふる神馬〔31. 馬匹一：浴洼駿〕

Ari 1. 甚だしき輕佻者〔17. 輕狂：難纏〕 2. 天にまで到るといふ鬼の名〔19. 鬼怪：通天鬼〕

Arjan Ayara（酸奶子）で作つた燒酎〔27. 茶酒：奶子酒〕

Arkan 多からず少なからず．やつと．やうやく〔25. 多寡二：將將的〕

— **karkan** Arkan に同じ．Arkan karkan と連用する〔25. 多寡二：將將的〕

Arke あ痛っ！〔16. 疼痛三：碰疼聲〕

Arki 燒酎．蒸溜酒〔27. 茶酒：燒酒〕

— **burambi** 燒酎を造る〔彙：做燒酒〕

Arsalan しし〔31. 獸一：獅子〕

Arsari 尋常の人．並の人〔18. 散語一：尋常〕

— **banjimbi** 尋常人として暮す．通常人に生れる〔彙：混帳過日．中等人家〕

— **šanyan bele** なみの白米〔28. 米穀一：次白米〕

— **šarkan** 半白の．白まじりの〔彙：頒白〕

— **tuwabungga hoošan** 榜紙（tuwabungga hoošan）の小形で薄いもの〔7. 文學什物一：夾榜紙〕

Arsumbi 根もとの所から芽が出る〔21. 農工二：根發芽〕

Arsun 根もとから出た芽〔21. 農工二：根芽〕

— **arsukabi** 芽が出た〔29. 樹木七：發了芽〕

— **i cai** 上等な芽の茶〔茶：芽茶〕

Aršan burga 樹名．森林日蔭に生じ皮黒く葉圓く弓を作るに用ふる木〔29. 樹木三：大葉柳〕

Aršu うづらの一種〔補4. 雀二：淳〕

Artabuha 暇取つた．ぐづぐづした〔12. 遲悞：就擱〕

Artabumbi 暇取る．ぐづつく〔彙：彼此游移兩可之間就悞了〕

Artu 三歲の馬〔31. 馬匹二：三歲馬〕

Arun durun akū 影も形もない〔18. 散語一：無踪影〕

— **durun akū oho** 忽然として影も形も見えなくなつた〔彙：凡近處放的物件忽然間尋不着〕

— **furun** 便り．音信〔彙：信息〕

— **furun akū** 便りが無い．音沙汰が無い〔18. 散語一：無信息〕

Asaha fasaha せつせと．あくせくと．忙しく〔15. 急忙：匆匆忙忙〕

Asara 收藏せよ〔彙：令入收藏之收〕

Asarabumbi 收藏させる．貯へさせる〔21. 收藏：使收貯〕

Asarambi 收め貯へる．收藏する〔21. 收藏：收貯〕

Asari 殿閣．樓閣〔20. 宮殿：閣〕

— **i baita be alifi kadalara amban** 閣事を承管する大臣〔續．臣宰：領閣事〕

— **i baita be dame kadalara amban** 閣事を管治する大臣〔續．臣宰：提擧閣事〕

— **i baita be sirame kadalara hafan** 閣事に直る役人〔續．臣宰：直閣事〕

Asha 1. 鎧の Meiretu（肩あて）のうしろ，Gaba（脇翅）の下の鐵〔9. 軍器一：膊翅下鐵〕 2. 帶びよ〔24. 梳掠：帶〕 3. 翅〔30. 羽族肢體一：翅〕 4. 佩帶物〔彙：凡物拴繫跨骨上佩帶〕

Ashabuha gisun 文王周公易を作りて繫けしところの辭〔7. 書四：繫辭〕

— **gisun i ulabun** 易の篇名．孔子が繫辭を敷述した文〔7. 書四：繫辭傳〕

Ashabukū 皮で作つた Toohan（帶板）〔24. 巾帶：皮蝦蟆〕

Ashabumbi 腰につけさせる. 佩帶させる〔24. 梳粧：使佩帶〕.
Ashambi 腰につける. 帶びる. 佩帶する〔24. 梳粧：佩帶〕.
Ashan 旁らの. 側. 侍側〔彙：侍坐之侍. 旁. 側〕
— **da** 〔彙：內閣學士〕
— **i amban** 尙書 (Aliha amban) の次の官〔4. 臣宰一：侍郎〕
— **i baicara amban** 左都御史 (Alin baicara amban) の次の官〔4. 臣宰一：副都御史〕
— **i bithei da** 侍郎 (Ashan i amban) の品級を兼ね內閣のことを辨理する官〔4. 臣宰一：學士〕
— **i duka** 宮殿の傍門〔20. 宮殿：翼門〕
— **i hafan** 世襲官 (Jalan sirara hafan) の第五品, これに又三等あり〔4. 臣宰三：男〕
Ashaname 翅を生やし. 翅を出し〔彙：生出翅〕
Ashangga 翅のある. 翅あるもの〔30. 羽族肢體一：有翅的〕
— **mahala** 兩邊に靑い翅のある古制の帽〔補1. 古冠冕三：紗帽〕
— **singgeri** かうもり〔31. 獸七：飛鼠〕
— **yerhuwe** はねあり〔32. 虫四：飛螞蟻〕
Ashara fungku 飾り帶の解き目の垂れ布〔彙：帶子上的擺帶子手帕〕
— **šusihe** 書吏等が夜城門を入るとき帶用する證據の木牌〔5. 事務四：腰牌〕
Ashargan 身に佩帶する諸物の總稱〔24. 梳粧：佩〕
Ashūmbi (箭を番へ) 右手を後に引いて放す〔8. 步射一：撑手撒放〕遺棄する. 遺留する〔15. 留遺：屛棄〕
Ashūme sindambi 手をひき箭を放つ〔彙：撒放放箭〕
Ashūn 易卦の名〔補1. 書二：夬〕
Asiha 些きか幼き. やや小さい〔彙：略幼. 略小〕
Asihaki 若く見える〔11. 容貌八：少相〕
Asihan 幼者. 少年〔10. 老小二：少〕
— **a** 易の語〔補1. 書一：少陽〕
— **aisin hūntahan ilha** 金盞花に似た花. 春の初めに開く〔29. 花四：側金盞花〕
— **e** 易の語〔補1. 書一：少陰〕
— **sa[illegible]gan** 妾[illegible]〔10. 人倫二：妾〕
Asihata Asihan の複數形〔10. 老少二：衆少年〕
Asihiya 小枝を剪り取れ. 削れ〔25. 斷折：劈細枝〕
Asihiyabumbi (小枝を) 剪り取らせる〔25. 斷折：使人劈細枝〕(惡い肉の浮き出た所を) 削り取らせる. 割き取らせる〔28. 剝割二：使割去浮層〕
Asihiyambi (樹枝を) 剪り取る〔25. 斷折：劈去細枝〕(木の枝の所だけを) 削る〔26. 截砍：削樹枝〕(惡い肉の浮き出た處を) 切り取る〔28. 剝割二：割去浮層〕
Asikaliyan 僅かばかり小さい. 心持小さい〔25. 大小：略小些〕
Asikan 略〻小さい. 稍〻小さい〔25. 大小：略小〕
Asikasi 稍〻小さいもの〔25. 大小：略小的〕
Asu 鳥獸魚類を捕へる網〔22. 打牲器用一：網〕
— **wešen** 鹿や兎を捕へるわな網〔彙：捕麂獐兎等獸之套網大小長短不一〕
Asuci 網で魚を捕へる人間. 漁師. 網打ち〔10. 人二：網戶〕
Asuki 小聲〔14. 聲響一：聲氣〕ぼそぼそ聲〔彙：一點々聲音〕
— **akū** ぼそとの音もない〔彙：四顧寂寥無聲. 與 Asuki wei akū 同〕
— **wei akū** 寂として音の無い. 何の氣配も無い〔18. 散語一：無動靜〕
Asukilabure fu 上に瓦を葺いた土塀〔21. 室家四：蠻墻〕
Asukilabumbi 小聲を出させる〔14. 聲響一：使作聲氣〕
Asukilambi 小聲を出す〔14. 聲響一：作聲氣〕
Asukingga 聲の僅かに大きい(もの)〔14. 聲響一：聲氣大〕
Asumi 着物を縫ひ上げせよ. 短かくせよ〔24. 穿脫：使提衣服〕

Asuršambi 手足を動かして撲り合はうとする氣配を見せる〔5. 爭鬪一：要動手脚〕
Asuru 甚だ. 大いに〔25. 多寡一：甚〕
— **encu ba akū** 大いに異る處は無い. 甚しい違ひはない〔彙：不大異樣. 無甚異處〕
Ašа あによめ〔10. 人倫二：嫂〕
Ašata Ašа の複數形〔10. 人倫二：衆嫂〕
Aššabumbi 動かす. 搖る〔15. 搖動：使動採〕
Aššalaha 微動した. 少しく動いた〔15. 搖動：微動〕
Aššambi 動く. 搖れる〔15. 搖動：動採〕
Aššan 動き〔15. 搖動：行動〕易にいふ動. 卽ち陽〔7. 書五：動〕易卦の震〔7. 書四：震〕〔補1. 書二：震〕
Aššandumbi 一齊に動く. 物齊しく動く〔15. 搖動：齊動採〕
Aššara arbušara〔彙：行動. 擧動. 動作〕
Ašu 含め〔27. 飮食一：含〕
Ašumbi 口に含む〔27. 飮食一：口含〕
Ašumbuha fadu jan Fadu jan (合包哨箭) に似て, 箭柄に鏃の根元をさし込む所がなく鏃が箭柄に被ひかぶさる式になつたもの〔9. 軍器四：鴨嘴合包哨箭〕
Ašumbumbi 口に含ませる〔27. 飮食一：使含〕
Atahasi 筆錄官. 秘書官. 右筆〔10. 人一：幕賓〕
Atan 釣針のさき〔22. 打牲器用二：釣尖〕
Atanggi いつ. 何時. 何日に〔12. 問答一：幾時〕
— **bicibe** 何時になつても. 終に久しくとも〔彙：憑他到幾時. 終久. 皆將來後日之說〕
Atarambi 喧しく騷ぐ〔17. 暴虐：壞鬧〕
Atmula 橄欖の異名〔補3. 異樣果品二：餘甘子〕
Atu 雌の魚〔32. 海魚二：母魚〕
Atuha 雄の魚〔32. 海魚二：公魚〕
— **dafaha** 雄の Dafaha (方口鯿頭)〔32. 河魚三：公方口鯿頭〕
Atuhūn fudembi 嫁入り道具を送る〔6. 筵宴：嫁粧〕
Aya おや！ あら！ (稱讚の言葉)〔12. 稱奬：於戲〕
Ayalaha ilhangga hoošan 毛邊紙に色々の花模樣を捺して蠟をなすりつけた紙〔7. 文學什物一：蠟花紙〕
Ayalambi 痘瘡が化膿する〔16. 瘡膿二：灌漿〕
Ayambi (鷹などが) 羽搏して飛び上る〔30. 飛禽動息一：撲拉〕魚が鈎にかかつてピンピン跳ねる〔彙：魚上了鈎拖拉着走〕
Ayan 1. 蠟?〔22. 貨財二：蠟〕 2. 大きい〔彙：大小之大. 與 Amba 同〕 3. 鹿の一種〔彙：鹿名身大色黃者〕
— **buhū** 大鹿〔31. 獸三：馬鹿〕
— **coko** 身の肥えて大きい鷄〔補4. 諸畜二：鶤鷄〕
— **damin** くまたか〔彙：皂鳴〕
— **dengjan**〔23. 烟花二：蠟燭〕
— **dobokū** 燭臺. 蠟燭立て〔23. 烟火二：蠟臺〕
— **edun**〔1. 天文七：大風〕
— **fodoho** あかやなぎ. かはやなぎ〔29. 樹木三：杞柳〕
— **gaha** 老鴉. 身大きく頸白きもの〔30. 鳥九：花脖鴉〕
— **gintehe** 樹名. 皮青く葉小さく木質細かくして黃色い. 弓胎, 刀柄などに用ふる木〔29. 樹木五：靡木〕
— **gurjen** おほこほろぎ〔32. 虫二：金鍾兒〕
— **harsa** 貂の一種. 又その皮. 普通の貂皮よりは毛が厚い〔24. 皮革一：掃雪〕〔31. 獸六：掃雪〕
— **hiyan** 祭祀の時に焼く香ひ草の名〔29. 草一：芸香〕
— **i calu** 內務府に屬し種々の蠟を藏めたる倉〔20. 部院十二：蠟倉〕
— **i hafirakū** 蠟の心を剪り取る具. 蠟剪り〔23. 烟火二：蠟剪〕
— **i niyaman tebuku** 剪り取つた蠟の心をいれる小さい容器〔23. 烟火二：剪蠟嚢〕

Ayan jancuhūn usiha 交趾に產する奇果. 大きさ鷄卵に似て味は栗の如し〔補3. 異樣果品四：國樹子〕
— **jelken** とらふねずみ〔31. 獸六：花金鼠〕
— **malanggū** ごま〔28. 米穀二：胡蔴〕
— **malanggū inenggi** ごまあぶら〔補3. 蓓蓓：胡麻油〕
— **silmen** はいだかの雄〔30. 鳥四：細雄〕
— **suwayan** 眞正貴重な〔彙：凡言眞正貴重之物〕
— **tashari** おほくまたか〔30. 鳥三：老皂鵰〕
— **toktokū** 〔23. 烟火二：燈籠〕
— **wehe** 光澤ある滑らかな石〔2. 地輿六：光潤石子〕
Ayao …であるまいか. …かと恐れる〔18. 散語一：惟恐口氣〕
Ayara 家畜の乳を酸くした飲料〔27. 茶酒：酸奶子〕
Ayari ilha 奇花の名. 梅花に似て黃色ろく四五花かたまり開く〔補3. 異花三：撚蠟花〕
Ayoo Ayao に同じ〔18. 散語一：惟恐口氣〕

B

Ba 1. 地方. 所在. 場所〔2. 地輿一：地方〕 2. 一里二里の里〔19. 街道：里數〕
— **ara** 席をあけよ. 場所をあけよ〔14. 坐立一：挪空〕
— **ba i** 所々の. 各處の〔18. 散語四：各處的〕
— **bade** 處々に. 各處に〔18. 散語四：處處〕
— **na i nirugan nirure boo** 輿地圖を描く役所. 造辦處に屬す〔20. 部院八：輿圖房〕
— **sulabu** 席を空けておけ〔彙：站着坐着之處令留餘空〕
— **wang asu** 捕魚網の一種〔彙：覇王網似旋網順大流捕魚者〕
Babade Ba bade に同じ〔彙：到處. 凡處〕
Babe (此の)處を. (彼の)處を〔18. 散語四：將此〕
Babuhan 鷹匠の使用する五本指の皮製手袋〔9. 頑鷹狗：五指把掌〕
Babun 1. 馬のしりがひを騎座の後部に取りつける皮紐〔9. 鞍轡二：鞦稍鐵牌〕 2. 桶などの提げ手〔25. 器用七：桶樑〕
Babungga soro 手提げ籃〔25. 器用七：提籃〕
Babušan soro 手提げ籃〔彙：有提梁的筐子〕
Bacihi 幼きより結ばれたる夫婦〔10. 人倫二：結髮夫妻〕
Bada 分に過ぎて僭越に振舞ふこと〔17. 僭奢：張大〕
Badalambi 度に過ぎて費ふ. 無駄費ひする〔17. 僭奢：用度張大〕
Badalarakū 無駄費ひをしない. 分に過ぎて費はない〔11. 省儉：不濫費〕
Badar seme 口から出まかせに〔14. 言論四：信口亂道〕
Badaraka 充ち足りた. 裕かな〔11. 富裕：充裕〕
Badarambi 廣がる. 大きくなる. ふくれる〔25. 大小：開廣〕
Badarambumbi 廣くする. 大きくする〔25. 大小：使開廣〕
Badarambungga buleku 〔25. 器用八：顯微鏡〕
Badaran 事の廣がり始めること〔5. 事務一：漸〕
Bade 1. …の所に. …に於て 2. …とき

に. ...の場合に(況んや). ...處なるに於て(況んや)〔18.散語四：處〕
Badiri 〔19.佛一：鉢〕
Badun 容量の單位. 十 Hiyase (板斗)〔22.衡量一：大石〕
— **jahūdai** 艫の所が枡形になつた船〔26.船一：巴斗船〕
Bafi buju 肉がよく煮える樣處々に庖刀を入れて煮る〔28.煮煎：扎幾刀煮〕
Bagiyambi 小供に大小便をさせる〔13.生產：手把小兒〕
Baha 得た. 入手した〔彙：得失之得〕
— **bahai** 何の氣なしに. 深く考へずに〔18.散語四：捞着〕
Bahabuhabi 酒氣を帶びた. 御機嫌になつた〔27.飲食四：有些酒意〕
Bahabumbi 1. 得させる. 取らせる〔12.分給：使得〕 2. 夢を見る〔15.睡臥二：夢見〕
Bahaci tuttu 得られたら此の樣なものを！是非欲しい！是非かくぞ！願くば！〔18.散語四：巴不得一聲〕
Bahambi 得る. 取る〔12.分給：得〕
Bahana 蒙古包の柱〔24.氈屋帳房：挑杆子〕
Bahanambi よく人の意を揣度してそれに合はせる〔11.性情二：算著了〕理會する. 了解する. 曉る〔11.聰智：會〕〔12.聆會：會〕
Bahanjimbi (路や家を)尋ね探す〔14.行走三：找尋〕
Bahara songko 得ることの出來る歌の足跡(亂れ交錯した足跡で,歌が重傷を負つてゐることが分る)〔9.畋獵三：可得的踪跡〕
Baharakū songko 得ることの出來ない歌の足跡(血もこぼれてをらず,足跡も亂れてゐず,逃げ去つてしまつたことの明白な足跡)〔9.畋獵三：不得的踪跡〕
Bahiya まつかさ〔28.果品四：松塔〕
Bai 1. まゝよ！しまひだ！〔18.散語四：罷〕 2. 閑の. ことなき〔彙：等閑. 無事. 平白〕 3. 地方の. 所の〔彙：地方的〕
— **niyalma** 閑な人. 無職の人〔10.人五：閑人〕
— **tehede** 閑に居るとき. 無爲家居のとき〔彙：燕居〕
Baibi 1. 空しく. ことなく〔13.悔嘆：白白的〕 2. わけなく. 故なく〔18.散語四：只是〕
— **niyalma waka** 輕々の人ではない. 普通の人ではない〔12.稱奬：非等閒人〕
Baibula さんこうちよう. さんじやく〔30.鳥九：練鵲〕
Baibumbi 1. 求めさせる〔13.人四：求望：使求〕尋ねさせる〔彙：使尋〕 2. 需める. 須ひる〔18.散語四：需用〕用ひる〔26.營造：用〕
Baibure ba akū 須ひない. 尋ねさせ求めさせる處が無い〔彙：不須. 無使尋使求處〕
Baica 査べよ. 驗査せよ〔5.巡邏：查〕
Baicabumbi 査べさせる〔5.巡邏：使查看〕
Baicabure temgetu 檢察を行ふものに與へる證票〔5.事務四：驗票〕
Baicambi 1. 査べる. 驗査する〔5.巡邏：查看〕 2. 省みる〔彙：省耕之省〕
Baicame beidere hafan 一省の刑罰事務を承辨する官〔4.臣宰十二：按察使〕
— **tuwara hafan** 諸省官衙のことを辨理し,條書して上奏する任にある官〔4.臣宰六：監察御史〕
— **wakalara kunggeri** 不遜の官吏を糺察する役所. 鴻臚寺に屬す〔補2.衙署六：糾察科〕
Baicanabumbi 査べに行かせる. 行つて査べさせる〔彙：使去查察〕
Baicanambi 査べに行く. 行つて査べる〔5.巡邏：去查看〕
Baicandumbi Baicanumbi 一齊に査べる. 各人何れも査べる〔5.巡邏：一齊查看〕
Baicanjimbi 査べに來る. 來て査べる〔5.巡邏：來查看〕
Baicasi 各府の照磨(Kimcisi)の次の官〔4.臣宰十二：檢校〕
Baidalambi 刑法に從つて打ち懲す

〔5. 捶打：用刑擺布〕

Baihanabumbi 探しに行かせる．尋ねに行かせる〔12. 詳驗：使找去〕行つて求めさせる〔13. 求望：使人求〕

Baihanambi 探しに行く．尋ねに行く〔12. 詳驗：去找〕求めに行く．行つて求める〔13. 求望：去求〕

Baihanjimbi 探しに來る．尋ねて來る〔12. 詳驗：來找〕求めに來る．來たり求める〔13. 求望：來求〕

Baikū 淫婦め！〔16. 咒罵：淫婦〕

Baili なさけ．恩〔12. 助濟：恩情〕

— **jafambi** 恩に報ひる．恩返しする〔12. 助濟：報恩〕

Bailingga 恩情ある人．恩人〔12. 助濟：有恩情的〕

Bailisi 求福の人．即ち僧道巫師の類〔10. 人四：祈禱送紙人〕

Baimbi 探す．尋ねる〔12. 詳驗：尋找〕求める〔13. 求望：求〕

Baime suime あちらこちらと探し廻り〔13. 求望：各處央求〕

Baingge …處のもの．…地方のもの〔2. 地輿—：某處的〕

Bainumbi 1. 衆人辯論して是非を定める．討論する．議論する〔5. 辨事—：討論〕 2. 互ひに求める．共に求める〔13. 求望：共求〕

Baise 〔彙：與 Lafu sogi 同．白菜〕

Baisin 公務なく，閑に暮す人〔10. 人五：白丁〕暇な〔彙：暇逸之暇〕

Baisu 尋ねよ．探せ〔12. 詳驗：使尋找〕求めよ〔13. 求望：令人求〕

Baita 事．事務〔5. 事務—：事〕

— **be dara fiyenten** 宗人府にあつて出納移文のことを掌る役所〔20. 部院二：經歷司〕

— **be kadalara hafan** 修書院の事務一切を主る官〔4. 臣宰十：提調官〕

— **belheku** 翰林院の雜事を主る官〔4. 臣宰四：孔目〕

— **de afaha hafan** 貢院内の書記，事務の官〔4. 臣宰十：供事官〕

— **de dara hafan** 通政使司の雜事を辨理する官．宗人府，都察院にも亦この官あり〔4. 臣宰五：經歷〕

— **de hamirakū** 事に適合しない．事情適せず〔彙：事情上弄不來〕

— **ejere boo** 提督衙門に屬し收賄毆打盜僞等の事件を記錄に留めることを掌る役所〔補2. 衙署七：掛號房〕

— **ejere hafan** 書籍を校讐する官〔續．臣宰：校理〕

— **hacin i boo** 諸處より齎らされた文書を記錄に留ることを掌る役所〔補2. 衙署二：案房〕

— **i sekiyen** 摺稿内に入るゝ所の原案〔5. 事務三：案呈〕

— **sita** Baita 又は Sita に同じ．二語連用せるのみ〔5. 事務—：事〕

— **tušaha niyalma** 事件の被害者〔續2. 竊奪：事主〕

— **tušara niyalma** 當事者．主務者〔續．政事：事主〕

— **wesimbure ba** 地方よりの奏上を取り扱ふ役所〔20. 部院二：奏事處〕

Baitai icihiyasi 布政使衙門，按察使衙門の司事を承辨する官〔4. 臣宰十二：經歷〕

— **sarasi** 按察使衙門又は各府の經歷(Baitai icihiyasi)の次の官〔4. 臣宰十二：知事〕

Baitakū 用の無い．無用の〔18. 散語四無用〕

Baitala 用ひよ〔彙：令用〕

Baitalabu 用ひさせよ〔彙：令使用之〕

Baitalabumbi 官に取り立てられる〔4. 陞轉：得錄用〕用ひさす〔彙：使用〕

Baitalabure hafan 世襲官(Jaran sirara hafan)の第七品のもの〔4. 臣宰三：騎都尉〕

Baitalambi 官に取り立てる．用ひる〔4. 陞轉：錄用〕

Baitalan 日用の必要品．必需品〔22. 貨財一：用度〕

— **de acabure namun** 顏料庫に屬し，香料や蠟などを造る所〔20. 部院十二：供用庫〕

— **de tusangga namun** 雲南省の銀收藏庫〔補2. 衙署八：濟用庫〕

Baitangga 公事に與りたる品級なき小役人〔4. 臣宰十三：執事人〕

Baitasi 布政使衙門の理問 (Fonjisi) の次の官〔4. 臣宰十二：都事〕
Bajar seme こまごまと．ごたごたと〔25. 大小：物繁碎〕
Bajargi Bajila に同じ〔2. 地輿十一：彼岸〕
Baji 僅かの間．今少しばかりの間〔2. 時令三：少時〕もう少しばかり〔彙：再少加添些一卽 Baji nuhggi. 再少停些卽 Baji okini〕
— **nonggi** もう少し添へよ．もう少し欲しい〔18. 貪婪：少添些〕
Bajikan Baji に同じ〔2. 時令三：少時些〕もう少しばかり〔彙：啥々的〕
— **bu** もう一寸與へよ．今少し與へよ〔18. 貪婪：給些〕
Bajila 河の向ふ岸．對岸〔2. 地輿十一：對岸〕
Bajima 少しく遲く〔2. 時令三：少遲〕
Baju 燒酎の糟〔27. 茶酒：燒酒糟〕
Bakalji 馬畜の踵の上部の骨〔31. 馬匹肢體一：七寸子〕
Bakcila 相手をせよ〔彙：令人作對〕
Bakcilabumbi 角力を取り組ませる〔8. 撩跤一：放對〕敵對させる〔15. 讐敵：使作對〕
Bakcilambi 對手になる．敵對する〔15. 讐敵：作對〕對座する〔彙：對座之〕
Bakcin 訴訟の原告と被告と兩方〔5. 詞訟一：對頭〕對のもの．一對〔25. 雙單：對手〕敵手．相手〔彙：敵手〕
— **waka** 相手にならぬ．對等にはゆかぬ〔8. 撩跤二：不是對等〕
Bakja bakjalame ilimbi 〔彙：與 Bakjalame ilimbi 同〕
Bakjabumbi 凝固させる．凝結させる〔28. 生熟：使凝定〕
Bakjaka 凝固した．凝結した〔28. 生熟：凝定了〕
Bakjalame ilimbi 驅け出した馬がぴたりと止まる〔31. 馬匹馳走二：一勒猛站住〕
Bakjambi 凝固する．凝結する〔28. 生熟：凝定〕
Baksalabumbi 1. 兵を一隊一隊に分けさせる〔彙：使其分隊〕 2. 束ねさせる〔彙：令束〕
Baksalambi 1. 兵を一隊一隊に分ける〔8. 征伐一：打僊〕 2. 束包みにする〔22. 捆堆：捆把〕
Baksan 1. 兵の一隊．一群〔8. 征伐一：僊〕 2. 束包み〔22. 捆堆：把子〕
— **meyen** 〔彙：隊伍〕
Baksangga ficakū 笙（管樂器の名）〔7. 樂器二：笙〕
Baksatu 千總 (Minggatu) の次の官〔4. 臣宰十三：把總〕
Baksi 儒者．學者．讀書人〔10. 人一：儒〕
Baktakū 內臟．五臟〔10. 人身七：臟〕
Baktambi 這入る〔25. 盈虛：容得〕
Baktambumbi 容赦する．互ひに相容れる〔11. 友悌：包涵〕容れる．容赦する〔彙：包容之容．包涵．赦之〕
Baktambun 寬容．包容．容赦〔11. 仁義：包容〕
Baktan 容れもの．容器〔25. 盈虛：容〕
Baktandambi 入れる〔彙：容之〕
Baktandarakū 1. 鷹揚振つた．尊大振つた．容赦せぬ〔17. 驕矜：容不下〕 2. 入れりきらぬ．容れることの出來ない〔25. 大小：容不下〕
— **arahabi** 事實は具はらないが，見かけだけは大仰で立派である〔彙：凡人粧大模大樣〕
— **bayan** 入れりきらぬ程富んだ．非常に富裕な〔11. 富裕：極富〕
Baktangga buleku 磁石．羅針盤〔7. 儀器：羅經〕
Balai 妄りの．放肆な〔18. 兇惡二：妄〕
— **akūtun** 易卦の名〔補1. 書一：无妄〕
— **femen** 濫りな言說．妄言〔彙：妄言胡說〕
— **ici sindambi** 四方八方あたり構はず放置する〔彙：胡亂四下放着〕
— **ondombi** 妄りな振舞ひをする．恣に行動する〔彙：胡亂動作〕
Balakta 胎衣(衣)の中の血塊〔31. 走獸肢體：衣胎膞〕
Balama 言行狂妄なる(人)．狂人．妄人〔17. 輕狂：狂〕

Balamadambi 狂妄な振舞ひをする〔17. 輕狂：狂妄〕
Balbo 眼の悪い．それと見分け得ぬ〔17. 愚昧：眼拙〕
Balda 1. 獣の胸の真中の白い毛〔24. 皮革一：獣胸前白毛皮〕 2. 蹄の白い豚〔31. 諸畜一：白蹄猪〕
Baldargan 猛禽の一種．眼脚倶に黄色にして青蛙蝦蟆を食ふ〔30. 鳥三：青鸇〕
Baldasitambi 雨で雪の表面が解けてぬめる．泥濘るみ滑る〔2. 時令九：滑濘〕
Balhambi 疱瘡にかゝり神に平癒を祈る〔6. 祭祀二：痘後還願〕
Baliya 1. がつかりした！ あーあー〔13. 悔嘆：可惜詞〕 2. だめだめ！ 何しとる！〔15. 鄙薄：笑人不能事〕
Baljun 〔19. 鬼怪：妖怪〕
— **i tuwa** おに火〔19. 鬼怪：鬼火〕
Balta 鼻先きに模様のある犬〔31. 諸畜二：花鼻梁子狗〕
Baltaha 貂の下顎の毛〔24. 皮革一：貂鼠下顎〕
Balu Dogo に同じ〔16. 殘缺：跛〕
Bambi 1. 倦む〔17. 懶惰：倦〕 2. 鼠が穴を掘る〔31. 走獣動息：鼠盜洞〕
Banaje tebumbi 病氣除けの祈禱をする．厄拂ひの祈りをする〔19. 醫治：安宅〕
Banaji 土地の神〔19 神：土地〕
Banasi 奇果の名．落葉せず花は橘に似實は綠色にして，味甘い．この實の油を治療に用ひる〔補3. 異樣果品一：磐磐檜樹〕
Bancan duha 馬騾驢等の厚い腸〔棄：馬騾驢的板腸．與 Maca duha 同〕
Bancuka 怠ける．倦怠の〔17. 懶惰：倦〕
Banda hara うしくさ．にはやなぎ〔29. 草一：蒿苦〕
— **mafa** 獵人の神．狩りの神〔19. 神：獵神〕
Bandambi 倦む．怠ける〔棄：心上倦怠〕
Bandan 細長い木の腰掛け．縁臺〔25. 器用二：板凳〕
— **asu** 兩端に木をくゝり，二人水中を渉り乍ら魚を掬ひ上げる樣に作つた網〔22. 打牲器用一：撈網〕
Bandarakū 倦まない．撓まない〔12. 黽勉：不倦〕
Bando 奇樹の名．根もとより梢に至るまで凡て樹皮上に果を生じ，その果は橘大である．花を開かない〔補3. 異樣果品一：磐多樹〕
Bang 揭示〔棄：榜〕
Bangguhe はつか鳥．渡り鴉〔30. 鳥九：八哥〕
Bangka 1. 倦んだ〔17. 懶惰：倦了〕 2. 鼠のあけた穴〔31. 走獣動息：盜開洞〕
Bangkakū 倦まなかつた．よく努めた〔12. 黽勉：無倦〕
Bangse hoton 滿洲の地名〔續2. 地輿：邦色城〕
Bangtu 1. 鐙の上の雲の模樣の飾り〔9. 鞍轡一：鐙上雲頭〕 2. 肘木．ますがた〔21. 室家一：斗拱〕
Baniha 謝禮．感謝〔12. 助濟：生受了〕
— **bumbi** 禮を云ふ．感謝する〔12. 助濟：道謝〕
Banihūn 手負ひの獣（傷重く必ず捕へ得るもの）〔9. 敬獵三：傷重必得〕
Banihūnjambi 優待する．手厚くもてなす〔11. 敬愼：優待〕
Banin 1. 容姿．すがた〔11. 容貌一：生相〕 2. 性情．性質〔11. 性情一：性〕
— **be dahara tanggin** 國子監東廊の第一堂〔補2. 衙署六：率性堂〕
— **ehe** 容姿の醜い〔11. 容貌一：生相醜〕
— **hiyan i narhūn jurgan i bithe** 書名〔續2. 書：性理精義〕
— **mafa** 父の父．祖父〔10. 人倫一：親祖〕
— **mama** 父の母．祖母〔10. 人倫一：親祖母〕
— **sain** 容姿の美しい〔11. 容貌一：生相好〕
— **wen** 相貌．形容骨格〔11. 容貌一：相貌〕
Baninarakū 倦まない〔棄：不倦．與 Bandarakū 同〕

Baningga 物が形を具へること．本來具はつた性質．本來のもの〔15. 諸物形狀一：剛毅〕
Banirke eniye 後の母．繼母〔10. 人倫一：後母〕
Banitai 生れ乍らの性質．本性．本質〔11. 性情一：稟性〕
Banitaingge 性質の．本性の．生れ乍らの〔彙：性之也．生成的〕
Banji 黒白二十四個の碁石を以てする遊び〔19. 戲具一：聯生碁〕
— **efimbi** Banji を遊ぶ〔彙：與 Banjime efimbi 同．以黑白兩樣二十四個棋子〕
Banjibumbi 1. 育てる．養ふ〔13. 生育：長養〕生れさせる〔彙：使之生〕2. 編纂する〔7. 書七：編纂〕創作する〔彙：作文章詩賦之作〕3. 組み分けする．隊を編む〔12. 分給：編派〕
Banjibume dasakū 侍講 (Adaha giyangnara hafan) の次の官〔4. 臣宰四：修撰〕
Banjibun 書物の一編〔7. 書三：編〕
Banjiha ahūn 同母兄〔彙：胞兄〕
— **ama** 實父．眞の父〔彙：生父〕
— **deo** 同母弟〔彙：胞弟〕
— **eniye** 實母．眞の母〔彙：生母〕
Banjimbi 日を過す．暮す〔11. 富裕：過日子〕成長する〔13. 生育：生長〕生む．生れる〔彙：生人生物之生〕
Banjime Banji に同じ〔19. 戲具一：聯生碁〕
Banjin 1. 身容骨相．容姿．Banin に同じ〔11. 容貌一：生相〕2. 生計．暮し向き〔11. 富裕：生計〕3. 成長．生育〔13. 生育：生〕
Banjinambi 1. 暮しに行く．他の處に行つて暮す〔13. 生育：去營生〕2. 生成する．造り成す〔彙：生成．染藍之靛做成之〕
Banjinjimbi 暮しに來る．來て暮す〔13. 生育：來營生〕
Banjire were Banjimbi に同じ〔11. 富裕：過日子〕
Banjirke eniye Banirke eniye に同じ〔10. 人倫一：後母〕
Banjishūn 非常に富んでゐるわけではないが，まづは安穩に生活し得る〔11. 富裕：過得〕
Banjitai 生れつきの．生れ乍らの〔11. 性情一：生性〕
— **dalangga** 天然に出來た堰堤．自然の堰堤〔補1. 地輿二：天然壩〕
Banuhūn 懶惰な〔17. 懶惰：懶〕
Banuhūšambi 懶ける．何事にも努めない〔17. 懶惰：懶惰〕
Banuhūšarakū 懶惰でない〔12. 黽勉：不懶惰〕
Bar bir seme どつさりと．澤山に〔25. 多寡一：很多〕
Barabufi 一切混ぜて．何もかも一緒にして〔彙：俗語一攪裹兒乃一總口氣〕
Barabumbi 攪きまぜる．混ぜあはす〔22. 趕拌：攙和〕泡立てる〔27. 飲食三：使泡〕
Barag'alanda 佛經で鴛鴦を呼ぶ語〔補4. 鳥七：婆羅伽鄰提〕
Barambi 泡立つ〔27. 飲食三：泡〕
Baramida 奇果の名．大きさ冬瓜の如く，形長く，味甘い〔補3. 異樣果品一：波羅密〕
Baran 兵の形勢〔8. 征伐一：勢派〕
Barbehe はつかちよう〔補4. 鳥八：喇喇鳥〕
Bardanggi 狂妄誇張の(人)〔17. 驕矜：矜〕
Bardanggilambi 誇る．威張る〔17. 驕矜：矜誇〕
Bargiyabumbi 收めさせる．收藏させる〔21. 收藏：使收〕
Bargiyafi afabure kunggeri 吏部に屬し會計を司る役所〔補2. 衙署一：收發科〕
Bargiyaha temgetu 各處よりの納入品に對し，その品名を記し收領の印を押して交付する證票．領收證〔5. 事務三：批廻〕
Bargiyambi 1. 矢柄の兩端を細く削る〔9. 製造軍器三：刮箭桿兩頭〕2. 兄弟親戚を近づけて親愛する．一族を收める〔12. 助濟：收攬〕3. 穀物を收め入れる〔21. 農工三：收成〕收める．收藏する〔21. 收藏：收〕

Bargiyantu enduri 月神の第十一成神の次，事成れば收む，故にこの神あり〔補2. 神一：收〕
Bargiyara asarara calu 廣東惠州にある貯糧倉〔補2. 衙署八：受納倉〕
— **asarara falgangga** 1. 試卷收發のことを掌る役所〔20. 部院十：收掌所〕 2. 使用して殘つた器皿物料を收貯する役所〔補2. 衙署四：收掌所〕
— **asarara hafan** 修書檔案册子を收藏する官〔4. 臣宰十：收掌官〕
Bargiyashūn 收の字んだ〔25 諸物形狀三：略收些〕
Bargiyatambi 1. 親戚朋友などの面倒を見る．世話をする〔12. 助濟：常收攬〕 2. 一ケ處に集め收める〔21. 收藏：收攬〕 3. 身の廻りを整へる．身づくろひする〔24. 梳裹：整理〕
Bargiyatara dalangga 水流の緩い所で流れを速めるために築いた堰堤〔補1. 地輿二：束水期〕
Barkiyahakū 覺らない．氣が付かない〔17. 怠慢迂疏：沒理會〕
Barkiyambi 覺る．氣がつく〔彙：意覺〕
Barkiyame gūnihakū Barkiyahakū に同じ〔17. 怠慢迂疏：沒理會〕
Bartanaha 汗で汚れた〔18. 邋遢：汗汚濁〕
Baru …に向つて．…に向ひ〔18. 散語四：向〕
Barun 滿一年〔2. 時令四：週年〕
Basa 工錢．手間賃〔22. 貿易二：工錢〕
— **bumbi** 手間賃を與へる．工錢を給與する〔彙：給工錢〕
— **wecembi** （求雨後雨を得れば天帝に）感謝の祭りをする〔6. 祭祀一：謝降〕
— **werimbi** 山路神のある處を過ぎるとき，何かものを置いて謝意を表す〔19. 神：留謝儀〕
Basan 1. 馬の胸部を結ぶ小さい肚帶〔9. 鞍轡一：弔肚〕 2. 家の頂上にかぶせる柳で編んだ蓆の如きもの〔21. 室家二：柳條笆〕
Basubumbi 笑はれる．嘲笑される〔15. 鄙薄：被恥笑〕 人をして譏り笑はせる〔彙：使人譏笑〕
Basucun 可笑しい．笑ふ可き〔15. 鄙薄：可笑的〕
Basumbi 嘲笑する．譏り笑ふ〔15. 鄙薄：恥笑〕
Basunggiyambi 寢言をいふ〔15. 睡臥二：說夢話〕
Basunggiyara mangga よく寢言をいふ〔彙：肯說夢話〕
Basunumbi 一齊に嘲笑する〔15. 鄙薄：一齊恥笑〕
Baša 1. 妻の妹．義妹〔10. 親戚：小姨〕 2. 逐ひ出せ〔彙：令人逐〕
Bašambi 1. 逐ひ出す〔15. 留送：逐出〕 2. 車を押しやる．Jafambi に同じ〔26. 車轎二：趕車〕
Bata 敵．仇敵．寇〔10. 人五：敵寇〕〔15. 讐敵：敵〕
Batalabumbi 敵にまはす．双向かはす〔15. 讐敵：使爲敵〕
Batalambi 敵になる．双向ふ〔15. 讐敵：爲敵〕
Batangga 敵手．敵人〔15. 讐敵：敵家〕
Batkalaha 騙つた．騙り取つた〔17. 欺哄：騙〕
Batmaga 色赤くして光輝ある寶石の名〔22. 貨財一：映紅〕
Batun 地上の氷が表面は解けて泥水になつてゐるのに，下の方はまだ氷の儘でゐる．半解け半凍りの．凍地が未だ解けきらぬ〔2. 時令九：地未化透〕
Baturu 勇ましい．勇ましい人．豪傑〔12. 勇健：勇〕
— **kiyangkiyan**〔彙：豪傑．才勇兼全者〕
Baturulambi 事に勇む．勇み立つ〔12. 勇健：勇往〕
Bayabumbi 富ませる．富裕ならしめる〔11. 富裕：使富〕
Bayaka 富んだ．富裕な〔11. 富裕：已富〕
Bayambi 富む．金持になる〔11. 富裕：富了〕
Bayambumbi 富ませる〔彙：使富〕
Bayan 1. 富．財豐かなこと．富める．

金持の．富人．金持ち〔11.福祉：富〕〔11.富裕：富〕 2. 疱瘡の發疹が多い．びつしり發疹した〔16.瘡腫二：花兒多〕

Bayan aniya 豐年〔2.時令四：富歲〕

— **oforo jase** 滿洲の一邊疆名〔續2.地輿：巴延鄂佛羅邊〕

— **wesihun** 富貴．富貴の〔彙：富貴〕

Bayara 護衛兵．精兵〔8.兵：護軍〕

Bayarai jalan i janggin 護軍を統率する官〔4.臣宰九：護軍參領〕

— **kūwaran i turun** 近衛の大旗〔6.鹵簿器用二：羽林大纛〕

Bayasa 富人達．金持ち共．Bayan の複數形〔11.富裕：衆富家〕

Be 1. 世襲官 (Jalan sirara hafan) の第三品．これに亦三品あり〔4.臣宰三：伯〕 2. 我等．私共．吾々〔18.爾我一：我們〕 3. …を．…をして．…を以て〔18.散語四：把〕 4. 車の轅(ながえ)の先の横木〔26.車轎二：轅頭橫木〕 5. 鳥の餌〔32.牲畜器用二：禽鳥食〕

— **dahame** …に從ひ．に依り．に因つて以つて〔彙：依着．跟着．順着．因爲乃虛因爲意〕

— **hiyan** しろきじ〔彙：白鷳身白翅與羽毛上有橫黑斑文尾二尺長嘴掌純紅〕

Bebeliyeke 寒くて聲もよく出ない〔13.寒戰：凍木了〕

Beberekebi 寒くて聲もよく出ず手足も凍え痺れてしまつた〔13.寒戰：凍拘攣了〕

Beberembi 寒さに聲も出ず手足も凍え痺れてしまふ〔13.寒戰：凍的拘攣〕

Bebu ねんねんよ．ねんころり（嬰兒を眠らせる言葉）〔13.生產：哄睡語〕

Bebušembi ねんねんと赤ん坊を寢かしつける〔13.生產：連聲哄睡〕

Bece 責めよ〔15.責備：責備〕

Becebumbi 責めさせる〔15.責備：使責備〕責められる〔彙：被責〕

Becembi 責める．責任を問ふ〔15.責備：責〕

Becen 言ひ爭ひ．いさかひ〔5.爭鬪一：辦嘴〕

— **acambi** 口喧嘩する．言ひ爭ひをする〔5.爭鬪一：辦起嘴來〕

— **jaman** Jaman に同じ．Becen jaman と連用する〔5.爭鬪一：嚷〕

Becun coko 爭鬪の強い雞．軍雞〔31.諸畜三：鬪雞〕

— **ulhūma** 爭鬪好きの雉〔30.鳥七：奮雉〕

Becuntu 西域に出づる奇獸の名．鬪爭を好み虎に似て人面猪口，性靈妙よく未來を知る〔補4.異獸五：檮杌〕

Becunubumbi 殿り合ひをさせる〔5.爭鬪一：使鬪毆〕

Becunumbi 殿り合ふ〔5.爭鬪一：鬪毆〕

Bederceku 尻込みする（人）．畏縮した（人）〔17.懶惰：退縮人〕

Bedercembi 尻込みする．畏縮する〔17.懶惰：退後〕

Bedere 退班せよ．退ぞけ．回れ〔彙：贊禮令退班．令回．令退〕

Bederebumbi 歸す．歸らす〔15.去來：使歸〕徹回する．取り回す〔5.辦事二：毀回〕（客が主人に盃を）返す．返盃する〔6.延宴：回敬〕位の順によつて兩側に並び立たせる．退班さす．退かす〔6.禮儀：贊退〕

Bedereburakū sirdan 古箭の名．慣中〔補1.軍器一：忘歸箭〕

Bederehe 薨じた．薨じ給ふた〔6.喪服一：薨〕

Bederembi 歸る．戻る〔15.去來：歸〕退出する．退く〔6.朝集：退〕王貝勒大臣官人等禮終つて後兩側に並び立つ．退班する．退く〔6.禮儀：退〕

Bedereme katarambi 馬がゆるゆると步む．漫步する〔31.馬匹馳走一：軟顛〕

Bederi 鳥獸の身體の斑紋．ぶち．まだら〔31.走獸肢體：斑紋〕

— **cecike** 小鳥の名．嘴長大で眼皮上に一道の白毛あり，身に黑白の斑紋がある小鳥〔30.雀六：花斑〕

— **moo** 海南に產し虎斑に似たる斑紋のある木〔補3.樹木一：虎斑木〕

Bederingge 斑紋のある．花文あるもの〔彙：有花文的〕

Bedu 虎の別名〔補4. 歌一：伯都〕
Bedun あら造りで堅固な〔26. 營造：粗壯〕
Bedune hoton 滿洲の地名〔續2. 地輿：伯都訥城〕
Behe 〔7. 文學什物二：墨〕
— **i hūcin** 泉の名. 泉に墨の如き石あるに因つてこの名あり〔補1. 地輿一：墨井〕
— **suimbi** 墨を磨る. Behelembi に同じ〔彙：研墨〕
Behei araha bukdarun 鄉試會試の受驗者自ら作る所の墨書の答案. 墨卷. 謄錄官墨卷を朱寫して硃卷を作る〔7. 書六：墨卷〕
— **foloro falga** 御書處 (Dergi bithe foloro ba) の彫字石によつて白紙に印刷することを掌る役所〔補2. 衙署六：墨刻作〕
— **namu** 圓い大きな硯〔7. 文學什物二：墨海〕
— **tehe** 墨を載せる臺〔7. 文學什物二：墨床〕
Behelebumbi 墨を磨らす〔26. 油畫：使上墨〕
Behelembi 墨を磨る〔26. 油畫：上墨〕
Bei 碑 (碑字の音寫)〔彙：碑文之碑〕
Beibun i efen 祭神のとき神板(Wecekui sendehen) の上に供へる團子〔27. 餑餑一：神板上供的餑餑〕
Beide 審らかにせよ. 訊ねよ〔彙：令審. 令訊〕
Beidebumbi 訊問させる. 審問させる〔5. 詞訟二：使審訊〕審問される〔彙：被斷. 被審〕
Beidehe gisun 訊ねて確かめ得た返辭〔5. 事務三：勘語〕
Beidembi 訊問する. 審問する〔5. 詞訟二：審訊〕
Beiden 審問. 訊問. 取り調べ〔5. 詞訟二：審〕
— **be aliha amban** 古制官名. 刑罰を司る職〔補1. 古大臣官員：司寇〕
— **be tuwancihiyara yamun** 審判を司る役所〔20. 部院六：大理寺〕
Beidere amban 古制官名. 周禮秋官の屬にして獄のことを掌るもの〔補1. 古大臣官員：士師〕
— **boo** 理藩院に屬する役所. 刑務支處の如きもの〔補2. 衙署五：刑房〕
— **jurgan** 六部の一. 司法の官署〔20. 部院四：刑部〕
— **jurgan i kungge yamun** 勅書奏章を刑部に發抄し, 刑部の政務を監察し其非違を糾劾する等のことを掌る役所〔20. 部院五：刑科〕
Beidesi 罪を審訊する官〔4. 臣宰十三：審事人〕
Beiduri 寶石の名. 璧瑠璃〔22. 貨財一：映青〕
Beiguwe からしなの根〔27. 菜殽一：芥菜格搭〕
Beihe 昆布〔27. 菜殽三：海帶菜〕
Beihuwe 案山子〔21. 農器：草人〕
Beikuwen 冷たい. 寒い〔2. 時令八：冷〕
Beile 滿洲蒙古の爵位の名〔彙：貝勒〕
— **i faidan i da** 貝勒貝子の門のことを總管する官〔4. 臣宰七：司儀長〕
— **i fujin** 貝勒の妻〔3. 君二：貝勒福晉〕
— **i jui doroi gege** 貝勒の女〔3. 君二：郡君〕
— **i sargan doroi fujin** 貝勒の夫人. 貝勒の妻〔彙：貝勒夫金〕
Beileci 秋に剝いだ獸皮. 毛が短い〔24. 皮革一：秋板〕
Beise 滿洲蒙古の一爵位名. Beile の次〔彙：貝子〕
— **i fujin** 貝子の夫人. 貝子の妻〔3. 君二：貝子福晉〕
Beje 炕の內側〔21. 室家三：炕裏邊〕
Beji maktambi Gacuha (背式骨) を投げる遊びに勝つ〔19. 賭戲：彈針兒輸兒〕
Bejihiyebumbi 慰めさせる. 憂ひをやらす〔5. 安慰：使解憂〕
Bejihiyele 慰さめてやれ. 惱みを忘れるように云へ〔5. 安慰：解憂〕
Bejihiyembi 慰める. 安心さす. 憂を釋く〔5. 安慰：釋憂〕
Bejilembi 隱語を話す. 暗語で會話する

〔14. 言論二：謂市語〕
Bekdun 負債. 借財〔13. 賞借：債〕
一 gakdun 負債の多い. 多額の負債〔13. 賞借：債累〕
Bekdun sindambi 金を貸し出す〔彙：放債〕
Beki 固堅な. 堅固に〔26. 營造：堅固〕
Bekiken 略ぼ堅固な. やゝ堅い〔彙：略堅固〕
Bekilebumbi 固守させる〔8. 防守：使固守〕
Bekilembi 固守する〔8. 防守：固守〕
Bekitu 筋骨强壯な人〔12. 勇健：壯實人〕强く堅固な〔26. 營造：磁實〕
Bekte bakta ばたばたうろうろ(忙しくうろたへた貌)〔13. 怕懼二：楞怔樣〕
Bektelembi 足斬りの刑に處する〔補1. 古刑罰：刖〕
Bekterekebi うろたへた. まごついた〔13. 怕懼二：怔了〕
Bekterembi うろたへあはてる. 度を失ふ. 驚いて處するところを知らぬ〔13. 怕懼二：嚇的發怔〕
Belci 人の擧動言說などを眞似るもの. 人眞似するもの〔13. 戲要：癩子〕
Belcidembi 人の眞似をする〔13. 戲要：撒癩〕
Bele 米. 米穀〔28. 米穀：米〕
Belebumbi 誣ひられる. 誣ひ陷れられる〔17. 讒諂：被誣害〕弑殺される. 殺される〔彙：被弑〕誣ひさす〔彙：使誣〕殺さす〔彙：使殺〕
Belei sihabukū 穀類を移し入れる際に使用する所の漏斗〔22. 衡量一：米漏子〕
Belembi 誣ひ陷れる. 誣謗する〔17. 讒諂：誣害〕弑する〔彙：弑之〕
Belemimbi 籾を碾く. 米の籾穀を取り去る〔21. 碾磨：碾米〕
Beleni 今出來た. 丁度成つた〔18. 散語四：現成〕
Beleningge 今現に出來た. 丁度出來た. 出來上つたばかりのもの〔彙：現成的〕
Belge 1. 米粒. 米一粒〔28. 米穀二：米粒〕米の一粒にて量目の基本單位〔22. 衡量一：粟〕 2. 果實のしん〔28. 果品四：果渣子〕
Belgeci 皮黃色にして, 肉は米粒の如き奇果〔補3. 異樣果品四：古米子〕
Belgembi 鞍に物をくゝりつける〔32. 騎駝二：鞍鄂拴攬物件〕
Belgenembi 一粒一粒になる. 粒になる〔彙：一粒粒的結粒子〕
Belgeri ilha けしのはな〔29. 花五：罌粟花〕
Belhe 預め備へよ. 備へをせよ〔8. 防守：預備着〕
Belhebumbi 備へをさせる. 預備させる〔8. 防守：使預備〕
Belhehekū 預備しなかつた. 備へなかつた〔彙：不曾預備. 沒有預備〕
Belhembi 預備する. 備へをする〔8. 防守：預備〕
Belheme asarara calu 福建にある備荒倉庫〔補2. 衙署八：備貯倉〕
Belhen 備へ. 防備〔8. 防守：備〕
Belhendumbi Belhenumbi 一齊に備へをする. 各々誰もが備へをする〔8. 防守：一齊預備〕
Belhenembi 備へに行く. 行つて備へる〔8. 防守：去預備〕
Belhenjimbi 備へに來る. 來て備へる〔8. 防守：來預備〕
Belhere cooha 不意の用に備へる兵〔8. 兵：備用兵〕
一 hafan 外國の使臣に應給する物類を辦理する官〔4. 臣宰十三：供奉官〕
Belhesi 誦經等の處で各種の準備をする人〔10. 人二：鋪排〕
Belhetu 官名〔續2. 臣宰：儲將〕
Beliyeken いくらか馬鹿の. 若干馬鹿の〔17. 愚昧：略獃〕
Beliyen 馬鹿な. 呆けた〔17. 愚昧：獃〕
Bemberekebi 老耄して同じことを繰返し話す樣になつた. くどくなつた〔10. 老少一：絮叨了〕
Ben 技倆. 才能〔11. 德藝：本領〕技倆のある人. 有能人〔彙：有本領之人. 與 Bengsen 同〕
Bene 送れ. 送りやれ〔12. 取送：送去〕
Benebumbi 送らせる〔12. 取送：使送〕

Benembi 送る〔12.取送：送〕
Benebume simnembi 舉人考試に遣はす爲に試驗する〔4.考選：錄科〕
Bengneli 忽然．にはかに．暇無く〔2.時令三：猝然〕
Bengsen Ben に同じ〔11.德藝：本事〕
— **akū** 才幹才能が無い〔彙：無本領〕
Bengsengge 才幹ある人〔11.德藝：有本事〕
Benji 送つて來い〔彙：令送來〕
Benjibumbi 送つて來させる〔12.取送：使人送來〕
Benjihe bithe bargiyara boo 造辨處 (Weilere arara ba) の諸處より齎し來たつた書の管理を掌る役所〔補2.衙署六：來文房〕
Benjihengge 送り來たつた處の．送り來たつたもの〔彙：送來的〕
Benjimbi 送つて來る〔12.取送：送來〕
Benju 送つて來い．送り戻けよ〔12.取送：使送來〕
Beo ….をか．…をや．…で以てか〔彙：彼哉之哉．把麼〕
Berebumbi 心大いに驚き手足措く處無からしめる〔彙：使心狼怕着急無措〕
Berekebi 手のつけ様も無い程混亂した〔5.繁冗：惛亂無措〕驚ろき呆然としまつた．如何してよいか分らぬ程驚いた〔13.怕懼二：驚獃了〕
Berembi 驚き呆然とする．驚きうろたへる〔13.怕懼二：驚獃〕
Beren 門や窓の上部のかまち〔21.室家二：門窓檻框〕
Berge 馬の脚を絆ぐ綱を結びつける木〔32.牲畜器用二：絆划子〕
Bergelembi 馬の脚をつなぐ綱を Berge に結びつける〔彙：扣絆上滑子〕
Berhe 1. 絃樂器の柱〔7.樂器二：絃馬〕 2. Tasha gida (虎鎗) につけた小さい横木〔9.軍器六：虎鎗划子〕
— **eyembi** 眼脂や涙が流れる〔10.人身八：流眵淚〕
Berhelembi 樂器の柱をつける〔彙：安上絃馬子〕
Berhu 1. 妻が夫の妹をいふ語．こじうとめ 2. 姉が弟の妻を指していふ語〔10.親戚：小姑小妗〕
Beri 〔9.軍器三：弓〕
— **arambi** 弓をしぼる〔8.騎射：開弓〕
— **belhere ba** 皇帝の使用する種々の弓を作り備ふる處〔補2.衙署六：備弓處〕
— **beri** 1. 散り散りばらばら．蜘蛛の子を散らす樣〔8.征伐六：紛紛散〕 2. 各自各自．各々めいめい〔彙：各自各自．與 meni meni 同〕
— **ca** 弓に弦を張れ〔彙：令人上弓〕
— **cira** 弓の張りの強い〔彙：弓硬．與 Beri mangga 同〕
— **dobton** 弓の袋ひ．弓袋〔9.製造軍器三：弓套子〕
— **faksi** あめんぼう．かはぐも〔32.蟲二：賣糖的〕
— **jafakū** 弓の把手〔彙：弓把子〕
— **giru** 弓の心棒〔彙：弓胎〕
— **tabumbi** 弓に弦を張る〔彙：上弓．與 Beri cambi 同〕
— **tata** 弓をひけ〔彙：令人拉扯弓〕
— **tatabumbi** 弓をひかす〔彙：使扯弓〕
— **tatambi** 弓をひく〔彙：扯弓〕
— **uhuken** 弓の張りの弱い〔彙：弓軟〕
Berileku 牛馬の肋骨又は曲つた木に革紐の弦を張り雜をまはすに使用する道具〔22.工匠器用二：鑽弓〕
Berten 垢．手垢．汚れ〔25.新舊：髒垢〕
Bertenehebi 手垢のついた．塵垢のたまつた．汚れのついた〔25.新舊：髒垢了〕
Beserei Taiha (臺哈狗) と普通の犬との混血種〔31.諸畜二：二姓子狗〕
Besergen 寢室〔25.器用二：牀〕
Beserhen 寢室〔彙：牀〕
Bešehun 酒色の度を過して呆然とした．いろぼけしたる〔17.愚昧：迷透了〕
— **oho** 呆然としてしまつた〔彙：糊塗昏聵呆了〕
Bešeke しこたま酒を飲んだ．酒浸りになつた〔27.飲食四：酒糟透了〕
Bešekebi 地に雨水が浸み込んだ〔2.地輿二：雨水過透〕酒浸りになつた〔彙：

肯過于吃酒酒精透之人〕食物に水氣が多すぎて味のなくなつた〔彙：吃的各樣物水浸太過無味了〕

Bešembi 浸み透る〔18. 濕潮：浸透〕

Bešeme agambi 地の浸み壞れる程多量の雨が降る〔2. 天文五：霪雨〕

Bete 能なしの．砿でなしの人〔17. 懦弱二：無能爲的〕

Beten 1. 釣の餌〔22. 打牲器用二：釣魚食〕 2. みゝず〔32. 蟲四：曲蟺〕

Bethe あし．脛の部分〔10. 人身五：腿〕椅子や机などの脚〔彙：椅棹等物四條脚腿之脚〕

— **bukdambi** 1. 片膝をつく．足を折る〔6. 禮拜：單腿跪〕 2. 簸をひく（俗語）〔彙：俗語打簸兒〕

— **demniyeme cashūn fiyelembi** 馬の側に馬の尻の方に向つて立ち兩手で鞍を壓へ，兩足を振り上げ躍り乘る〔8. 騙馬：捽腿反背〕

— **gocime fiyelembi** 馬の鞍を壓へ片足をひいて飛び乘る〔8. 騙馬：偷腿大小〕

— **i fatan i hergen** 脚の裏の紋〔彙：脚底板紋〕

— **tukiyehei fiyelembi** 馬の鐙の紐を摑み取り身を横ざまにし足を擧げ馬の意の儘に馳け走る〔8. 騙馬：順風旗〕

Bethei fileku 脚あぶり〔25. 器用六：脚爐〕

— **jafašakū** 官名〔積2. 臣宰：掌書〕

Betheleku 鷄鷹を捕へる罠．牛の角で作られる〔22. 打牲器用三：打鷄鷹的囮子〕

Bethelembi 1. 兩足を揃へて眠る〔15. 睡臥一：通脚睡〕 2. 刈り取つた穀物を一把づつ地に立てかけて乾かす〔22. 捆堆：捆穀立曬〕

Bethengge 脚のある．脚あるもの〔30. 羽族肢體：有腿的〕

Beye 身體．からだ〔10. 人身一：身〕

— **amba** 身體が大きい〔10. 人身一：身量大〕

— **be dasambi** 身を淨める〔彙：大監淨身〕

— **cihakū** 身不快で煩に耐えない〔彙：身子不快不耐煩〕

— **de bifi** 孕んで．懷妊して〔彙：婦人身有孕〕

— **de oho** 孕んだ．懷妊した．Beye jursu 又は Fejile bi に同じ〔13. 生產：有孕〕

— **dekdereleme kurbume fiyelembi** 片手で鞍のあふりの前部を摑み取り，身を浮かして馬上に飛び乘る〔8. 騙馬：擎身滾上〕

— **fiyangga** 德あり身の輝ける．身の潤つた．〔彙：德潤身之潤身〕

— **isihiha** 分娩した．身二つになつた〔13. 生產：分娩了〕

— **jursu** 妊娠した．懷妊した〔13. 生產：雙身子〕

— **mehumbi** 身をかゞめて禮をする．身をかゞめる〔6. 禮拜：鞠躬〕

— **niohušun** 赤裸の．眞つ裸かの〔10. 人身一：赤身〕

— **osohon** 身體が小さい〔10. 人身一：身量小〕

— **teksin** 身體の均齊のとれた．骨格の整つた〔10. 人身一：身體停勻〕

Beyebumbi 冷やす．寒くする．凍えさす〔13. 寒戰：著冷〕

Beyehebi 身の凍えた．身の冷えた〔13. 寒戰：冷了〕

Beyeingge 自己の．自らのもの．身のもの〔彙：自己的〕

Beyembi 身凍える．冷える〔13. 寒戰：寒冷〕

Bi 1. 私．我．妾（一人稱單數代名詞）〔18. 稱我一：我〕 2. 有り．在る．である．存する〔18. 散語四：有〕

— **sini meifen be** 首ねつこをいはすぞ！〔彙：即砍頭之罵話〕

Bibu 留めよ．遺せ〔15. 留遺：留下〕

Bibumbi 留める．遺留する〔15. 留遺：留住〕

Bici …あれば．…なれば〔18. 散語四：若有〕

Bicibe …であるとも．…と雖も〔18. 散語四：雖〕

Bidere …であらう．…であるらしい〔18. 散語四：想是有〕

Bigan 野．野原〔2. 地輿二：野〕

Bigan i cai 茶の木の一種〔29. 樹木二：野茶〕
— **i coko** 野生の雞〔彙：野雞〕
— **i gintala** せり，のぜり〔27. 菜殽三：野芹菜〕
— **i hukšen** 山野に在つて年經た鷹〔30. 鳥四：山鷂〕
— **i hutu** 山野森林に現はれる妖怪〔19. 鬼怪：野鬼〕
— **i ibagan** 山野に現はれる妖怪〔彙：野妖〕
— **i mucu** やまぶどう〔28. 果品二：野葡萄〕
— **i niongniyaha** 雁の總稱〔30. 鳥二：鴻雁〕
— **i niyehe** 鴨の總稱〔30. 鳥七：野鴨〕
— **i singgeri** たねずみ〔31. 獸七：田鼠〕
— **i ulgiyan** いのしし〔彙：野猪〕
— **i weceku** 薩滿教の神にて，狐馮き等を追ひ拂ひ病を治すときにこの神を祭る〔19. 鬼怪：野神〕
— **tala** 路のついた野原〔彙：草野地有路者〕
— **urangga moo** やらぼ，てりはぼく〔29. 樹木一：胡桐〕
Bigarame 野原を通り，野原を行き〔2. 地輿二：出外〕
Bigarara mahatun 古人出遊の時用ひた冠〔補1. 古冠冕一：遠遊冠〕
Bigatu niyehe かも，野鴨〔補4. 鳥七：鳧〕
— **uniyehe** 鴨の一種〔補4. 鳥七：野鶩〕
Biha 肉等の非常に小さい片，小片〔27. 飯肉四：一點子〕
Bihe …であつた，…があつた〔18. 散語四：來着〕
Bihebi あつたのである，あり來たつた〔彙：有來着煞尾字〕
Bihebici あつたのであるならば，なつてきてゐるのならば〔彙：若有來着，是事後而設言已前之事也〕
Bijabumbi 折る〔25. 斷折：使折〕
Bijambi 折れる，折斷する〔25. 斷折：折〕
Bikini ある可し，あらばあれ〔彙：隨他罷了口氣，由他有着罷，聽其自便口氣〕
Bikita 東方七宿星の第七〔1. 天文二：壁〕
Bila 折れ〔彙：令折之〕限れ〔彙：令限之〕
— **ilha** 奇花の名，山丘に生じ葉に光澤あり花は白く秋開く〔補3. 異花五：波羅花〕
Bilabumbi 期限をきらせる，期限を定めさせる〔彙：使定期限〕折らせる，折られる〔彙：使折，被折〕
Bilagan 期限，日限〔5. 官差：限期〕
— **i temgetu** 期限の月日を記入した印證ある文書〔5. 事務四：限票〕
Bilambi 期限を定める，限る〔5. 官差：定限〕折斷する〔25. 斷折：撅〕（銳氣を）挫く〔彙：挫折銳氣之挫折〕
Bilame gaimbi 折り取る〔彙：折取常米子之折取〕
Bilasi 合唱する人〔10. 人四：合唱人〕
Bilca 豆の粉をかきまぜよ〔22. 趕拌：攪豆麵〕
Bilcambi 膠をつける〔9. 製造軍器一：下膠〕
Bilembi 鳥が卵を生む，家畜が仔を生む〔31. 牲畜孳生：下蛋下崽〕
Bilerhen ひばり〔補4. 雀五：天鵝〕
Bileri さるな（樂器の名）〔7. 樂器二：琐喃〕
Bilgacungga 食ひしんぼうの人，食ひ意地の汚い人〔29. 飲食三：貪嘴的〕
Bilgešembi 水が溢れるばかりになる〔2. 地輿十：水滿將溢〕
Bilha 人身の咽喉〔10. 人身三：咽喉〕城の咽喉，隘口狹路〔19. 城廓：咽喉處〕竈の中の烟の進む穴〔彙：灶內進烟之孔〕
— **ilengku i gese amban** 樞要を掌る元老大臣〔彙：元老大臣之稱〕
Bilhacungga 食り食ふ人〔彙：貪吃東西之人〕
Biljaka 滲み擴がつた，滲んだ〔18. 濕潮：薩大了〕
Biljambi 油や水などが滲み擴がる〔18. 濕潮：薩大〕
Bilteke 水が溢れ出た〔2. 地輿七：水漫出〕

Biltembi 處々に水がみだれ流れる．水が溢れる〔2.地輿十：水泛溢〕
Bilten さわ．湖沼〔彙：澤〕
Bilubumbi 1.手を以て摩でさせる〔彙：使手摩之〕愛撫して育て養はしめる〔彙：使疼愛養育長成〕2.肉を薄く切らせる〔彙：使切薄小的片〕
Bilukan 密かに．覺られぬ様に．氣取られぬ樣に〔15.侵犯：暗招惹〕
Bilukū 甘言を以て人を欺く者．腹黒い人間〔17.欺哄：善哄人的〕
Bilumbi 1.愛撫する．撫育する．手で摩でる〔11.仁義：撫養〕〔13.生產：撫育〕2.肉を薄く切る〔28.剝割二：切肉片〕
Bilurjambi 眞實らしく見せかけて人を誑かしこむ，甘言を以て誑かす〔17.欺哄：假粧老實〕
Bilušambi 只管愛撫する〔13.生產：長撫育〕
Bimbi ある．存する．居る〔15.留遺：存著〕
Bimbime あつて．存して〔彙：有而之意乃承上接下之字〕
Bime あつて．であり．にて．であるのに〔彙：而字意．在字意〕
Bimšu うづらの雌〔30.雀二：鶉〕
Bin dz 餅菓子〔彙：槓子乃菓子名〕
Bing biyang ブーブービーヒー（笛，さるな等の音）〔14.聲響三：簫管項喉聲〕
Binggiya くろぐわゐ〔28.果品三：學舌〕
Bingha 西方七宿星の第五〔1.天文二：畢〕
Bingsiku あきぜみ〔32.蟲二：秋涼兒〕
Bio 有るか．…であるか〔12.問答二：有麼〕
Bir biyar seme ずるずると（衣服を地にひきずる形容）〔14.行走四：衣拖地〕
Bir sembi ずるずると帶をひきずる〔彙：腰帶寄着拖落着〕
Bira 河．川．Ula（江）より小さきもの〔2.地輿八：河〕
— **be kadalara tinggin** 治水に關する事を掌る同知，通判等の勤務を辨理する衙門〔20.部院十：河廳〕
Bira doo 河を渡れ〔2.地輿十二：敎渡河〕
Birai cargi 河の向ふ岸〔2.地輿十一：河那邊〕
— **dalin i falgangga** 河の埠頭で漕運のことを取締る公所〔20.部院十：河泊所〕
— **dengjan** 油紙で蓮の花の形を作り內に油を燃し河に流して遊ぶ燈籠〔23.烟火一：河燈〕
— **ebergi** 河のこちらの岸〔2.地輿十一：河道邊〕
— **hūya** たにし〔32.河魚四：螺螄〕
— **jugūn be uheri kadalara amban** 河道の治作を總管する官〔4.臣宰十二：河道總督〕
— **seremšen i kunggeri** 諸省治水の事務を管掌する役所．工部に屬す〔補2.衙署四：河防科〕
— **weilen i falga** 吏部に屬し，上命を以て依托されたる事務を整掌する役所〔補2.衙署一：河工甲〕
Birangga kiru 幅(はゞ)白くして中心の綠緞上に流水の形を繡ひとれる旗〔6.鹵簿器用四：河旗〕
Birbin 奇獸の名．姑逢山に出で狐に似て翅あり．聲は雁の如し〔補4.異獸三：獨獨〕
Birca hiyan moo 奇木の名．高山に生じ葉は椿の如く此の木を以て畫幅の軸と爲せば蠹魚紙を食はず〔補3.異木：必栗香〕
Birebumbi 1.衝かせる．攻撃させる〔8.征伐四：使衝闖〕衝かれる〔彙：被衝〕2.（麵粉を）こねさせる〔22.趕拌：使趕麵〕（氈を）こねさせる〔23.紡織二：使捍氈子〕
Biregen 邊界の木柵〔19.城廓：柳條邊〕
Bireku 1.斗掻(ばい)．ますかき．かいならし〔22.衡量一：米盤子〕2.麵棒．うどん粉をこねる棒〔25.器用五：趕麵杖〕
— **moo** 種子を蒔いた上から壓へて表面をならす棒〔21.農器：轄子木〕

Birembi 1. 衝く．攻撃する〔8. 征伐四：衝闘〕 2. 麵粉をこねる〔22. 趕拌：趕麵〕 餈をこねる〔23. 紡織二：棹餈子〕
Bireme 全て．一概に．おしなべて〔18. 完全：一概〕
— **hereme** Bireme に同じ〔18. 完全：有的沒的〕
— **tusa arara namun** 總督倉場衙門の益銀を收貯する倉〔補2. 衙署八：通濟庫〕
+ **yabubure bithe icihiyara ba** 修書處より受けたる種々の書籍を裝釘し之が販賣方を掌る役所〔補2. 衙署六：通行書籍處〕
Biren 雌の虎〔31. 獸二：母虎〕
— **i hūya** にし．みなさざえ〔棄：螺螄乃河裡生者肉可吃〕
— **tasha** 雌の虎〔棄：母虎〕
— **yarha** 雌の豹〔棄：母豹〕
Birendumbi 一齊に衝く．一齊に攻撃する〔8. 征伐四：一齊衝闘〕互ひに相衝く〔棄：彼此衝撞〕
Birenembi 行つて衝く．衝きに行く〔8. 征伐四：去衝闘〕
Biretei 普く．普遍して．盡く〔18. 完全：普遍〕
Birgan 小川．溝〔2. 地輿八：小河溝〕
Birgešembi 1. ゆるやかに動く．悠然と動く〔15. 搖動：動蕩〕 2. 食ひ過ぎる〔27. 飲食三：喫過餘了〕 Birhešembi に同じ
Bisaka 出水した〔棄：澇了〕
Bisambi 水が溢れる．出水する〔2. 時令四：澇了〕
Bisan 雨水多き年〔2. 時令四：澇〕出水．洪水〔棄：旱澇之澇．水澇〕
Bisantu 刻山に出づる奇獸．猪に似て色黃に人面，人を食ふ．見はるれば雨水多しといふ〔補4. 異獸四：合窳〕
Bisarambi 水が漲る．水が處々にみだれ流れる〔2. 地輿十：水散流〕
Bisari ilha 奇花の名．色白く幹上に集り開く．河に沿うて生ず〔補3. 異花五：散水花〕
Bisi 蟻に似た蟲〔32. 蟲四：八脚子〕
Bisin 轡，しりがひ，刀劍等に取りつけた平たい鐵片．飾りの鉸〔9. 鞍轡二：平飾件〕
— **durdun** 縮み絹より地の平らな絹．織物の一種〔23. 布帛三：平地縐〕
— **eldengge loho** 刀の名．刀背平直にして，光滑らかな刀〔補1. 軍器一：素光刀〕
Bisire ある所の．居る處の〔18. 散語四：所有〕
— **akū** 有る處ない〔棄：有無〕
Bisirelengge 凡て有るもの．存するもの〔棄：凡有的〕
Bisirengge 有るもの．ある處のもの〔棄：有者．有的〕
Bisu 留まれ．在れ〔15. 留遣：使留〕
Bišu 撫でよ．こすれ〔棄：令人手摩〕
Bišubumbi こすらせる．撫でさせる〔15. 拿放：使摩〕
Bišukan 1. 左程は食ひ意地でない．ひどくは食ひしんぼうでない〔27. 飲食二：不甚饞〕 2. 樹に枝少く略ゝ滑らかな．略ゝ平らかな〔29. 樹木九：略光滑〕 3. 馬などのからだつきの一寸よい〔31. 馬匹三：有捻相〕
Bišumbi こする．撫でる〔15. 拿放：摩〕
Bišun 1. 平らかな．平面の〔25. 諸物形狀三：平面〕樹皮なめらかな．小枝などのない〔29. 樹水九：樹皮光滑〕 2. 食ひ意地の張つてはゐない．食ひしんぼうではない〔27. 飲食二：不饞〕
Bišuri moo たらの木〔補3. 樹木二：穗木〕
Bišušambi 只管摩する．只管撫でる〔15. 拿放：只管摩〕
Bita 河の片側深く片側淺くなつた所〔2. 地輿八：河一邊深一邊淺處〕
Bitele 恰度…まで．Jing otolo と同じ〔2. 時令三：正在間〕
Bithe 書物．本．文書〔7. 書一：書〕書信．手紙〔7. 書七：書札〕
— **fucihi doose** 儒教と佛教と道教〔棄：儒釋道三教〕
— **hūlara hafan** 祭文を讀む官〔4. 臣宰六：讀祝官〕
— **noho suje** 金絲で字を織り出した

緞〔23. 布帛二：金字緞〕
Bithe šuwaselara falga 御製の書を彫板印刷する處〔補2. 衙署六：刷書作〕
— **wesimbure enduri** 牢神の第十二. 奏記査核を掌る〔補2. 神二：奏書〕
— **yabubure boo** 御藥房の一切往來の文書を掌る役所〔補2. 衙署六：咨文房〕
Bithei amban 大學士，九卿等の大臣の總稱〔4. 臣宰一：文大臣〕
— **hafan** 卿 (Alifa hafan) より以下，小職官人 (Buya tušan i hafan) より以上凡ての官〔4. 臣宰四：文官〕
— **hafan i fungnehen i kunggeri** 中書科の科房名. 內外文官の勅書のことを掌る役所〔補2. 衙署一：文誥科〕
— **hafan i temgetu** 地方文官に證として給與する書〔3. 論旨：憑〕
— **hafan sindara bolgobure fiyenten** 文官の選用を專掌する役所. 吏部に屬す〔20. 部院三：文選清吏司〕
— **niyalma** 〔10. 人一：文人〕
— **niyalmai šufatu** 古儒者の着けた頭巾〔補1. 古冠冕三：儒巾〕
— **šungsi** 侍讀學士 (Adaha hūlara bithe da) より下，庶吉士 (Geren giltusi) より上の官〔4. 臣宰四：翰林〕
— **tacikū** 各省の文武生員を教育する處〔20. 部院十二：儒學〕
— **tacin coohai erdemu** 〔彙：文學武畧〕
— **yamun** 〔20. 部院六：翰林院〕
Bithelembi 書を寄せる. 手紙をやる〔7. 書七：寄字〕
Bithesi 部院の書記に與かる官〔4. 臣宰六：筆帖式〕
— **i kunggeri** 筆帖式の試驗任用等のことを掌る役所. 吏部に屬す〔補2. 衙署一：筆帖式科〕
Bitubuha 1. 夢にまで見た〔彙：行的事心裡想的夢見了〕 2. 緣をとらした〔彙：使緣〕
Bitubumbi 1. 夢に見る. 夢にまで見る〔15. 睡臥二：夢見〕 2. 緣をとらせる〔24. 剪縫三：使緣邊〕
Bituhan 衣服の窄い緣取り〔24. 衣服四：緣的窄邊〕
Bitumbi 緣をつける. 緣取りする〔24. 剪縫三：緣邊〕飾る〔彙：飾〕
Biturame 山に沿うて行き. 山沿ひに途を取り〔2. 地輿四：沿山走〕
Biya 月. 天體の月. 時の月〔1. 天文一：月〕〔2. 時令五：月〕
— **aliha ba** 各處よりの奏本を大臣に上達しその裁斷を得て後又夫々各處に傳達辨理せしめる等のことを掌る役所〔補2. 衙署五：當月處〕
— **aliha fiyenten** 日々の奏本を引き取り諸處より齎したる事件をそれぞれに處理し，死傷等のものあらば其を見にゆく等の事務を承辨する役所〔20. 部院四：當月司〕
— **amban** 大の月〔2. 時令五：月大〕
— **arganaha** 月が鉤形になつた. 三日月になつた〔1. 天文一：月牙〕
— **biyargiyan** 月の色淡い〔1. 天文一：月色淡〕
— **buruhun** 月が暗い. 月が明るくない〔1. 天文一：月暗〕
— **fekuhe** 臨月を通り越した〔13. 生產：過了月〕
— **gehun** 月明るい. 月明の〔1. 天文一：月朗〕
— **i kiru** 幅(はば)の上に月像を縫ひとつた旗〔6. 鹵簿器用四：月旗〕
— **i manashūn** 月の終り. 月末〔彙：月盡頭〕
— **jembi** 月食になる. 月が食はれる〔1. 天文一：月食〕
— **hūwaraha** 月に暈がかゝつた〔1. 天文一：月暈〕
— **manara isika** 月が終らうとする. 月末近い〔2. 時令五：月將盡〕
— **muheliyen oho** 月が圓くなつた〔1. 天文一：月圓〕
— **osokon** 小の月〔2. 時令五：月小〕
Biyabiyahūn 顏色の白い. Biyahūn に同じ〔11. 容貌八：氣色煞白〕
Biyadar seme Badar seme に同じ〔14. 言論四：信口亂道〕
Biyadari 每月. 月每に〔2. 時令五：每月〕

Biyahūn 顏色の白い〔11.容貌八：氣色煞白〕色の淡い〔23.采色三：顏色淡〕色の褪せた〔25.新舊：物落色〕
Biyai dašuran usiha 星の名〔1.天文二：月孛星〕
— **hafan ilgara boo** 內務府の官吏の陞級轉移等を處理する役所〔補2.衙署六：月官房〕
— **icereme** 月の初めに〔2.時令五：月初〕
— **kesingge inenggi** 正月の丙，二月の丁，三月の庚，四月の己，五月の戊，六月の辛，七月の壬，八月の癸，九月の庚，十月の乙，十一月の甲，十二月辛の各日を云ふ〔2.時令六：月恩日〕
— **manashūn** 月の廿日より以後．月の下旬〔2.時令五：月盡〕
Biyaingge …月のこと．何某の月のこと〔2.時令五：某月的〕
Biyalame 月經て．月を重ねて〔2.時令五：累月〕
Biyalanggi 口先輕くぺらぺらと喋る人．口の輕い人〔17.輕狂：嘴快人〕
Biyalari ilha ちやうしゆん．ひめがさかづき〔29.花四：月季花〕
Biyaldasitambi 始終變る．反覆常が無い〔17.輕狂：反覆無常〕
Biyalumbi 躲し避けて逃走する〔8.征伐六：溜邊敗走〕
Biyalume yabumbi こそこそとかくれ行く〔彙：溜邊而走〕
Biyangga efen 麥粉に油をまぜ捏ねて色々の餡を入れ餅の樣にして燒いたもの〔27.餑餑一：月餅〕
— **fa** 圓窓〔21.室家二：月窓〕
— **inenggi** 八月十五日．この日餅を供へて月を祭る〔2.時令六：中秋〕
— **longkon** 手踊りに使用する銅鑼の名．手に持つて打つ〔7.樂器一：月鑼〕
— **tungken** 手に持つて打つ鼓〔7.樂器一：月鼓〕
Biyanggidei Junggiri coko（錦雞）の一種〔補4.鳥五：蠟蛾〕
Biyangsikū あきぜみ〔32.蟲二：蛄蚱〕
Biyangsiri ilha せみたけ〔補3.異花二：蟬花〕
Biyantaha 頭の上の瘡の痕跡．毛髮の薄い所〔16.瘡膿二：頭上瘡疤〕
Biyantu 鐵眞鍮にて作りたる鞭．兵器の名〔9.軍器六：鞭〕
Biyar seme ゆたりゆたりと〔2.地輿十一：水漫流貌〕
Biyara 寒地に產し燕より大きい鳥〔30.雀二：塞燕〕
Biyargiyan 淡曇りの〔彙：淡〕
Biyargiyašambi 風雲を吹き日月の色薄くなる〔1.天文一：風曀〕
Biyarišambi 光が目を刺す．目をまばゆくする〔12.觀視二：耀眼〕
Biyohalaha 歌などが網や罠にかかつて又脫れ去つた〔22.打牲：打住又脫落〕
Biyolokošombi 出鱈目を言ひ散らす〔17.欺哄：混撒謊〕
Biyolumbi 削つて平らにする〔彙：削平之．平之〕
Biyombi 鉋をかけて平らにする〔26.塞決：鏟平〕肉の盛れ上りを削つて薄く平らにする〔28.剝割二：剔去浮層〕
Biyoo 表．表文（表字の音寫）〔彙：表文之表〕
— **bithe wesimbufi** 表文を上つて〔彙：上表〕
— **enduri** 年神の第十六．蠶絲のことを掌る神〔補2.神三：蠶宮〕
— **i ergen i enduri** 年神の第十七．蠶の命を掌る神〔補2.神三：蠶命〕
— **umiyaha** かひこ〔32.蟲一：蠶〕
— **ūlen enduri** 年神の第十五．蠶絲綿のことを掌る兒神〔補2.神三：蠶室〕
Biyooha 1. 鼻の先に小さい白點のある馬〔31.馬匹毛片：鈎鼻馬〕 2. かひこのまゆ〔32.蟲一：蠶繭〕
— **suje** 山繭の絲で織つた緞〔23.布帛二：繭緞〕
— **suri** 山繭の絲で織つた紬〔23.布帛三：繭紬〕
Biyoohari ilha 奇花の名．山中に生じ，色白くして蕊は茸毛に似たり〔補3.異花五：繭漆花〕
Biyor seme だらだらと（膿の流れる形）〔16.瘡膿二：膿直流〕ぐづぐづと．

のろのろと（愚軟の人間をいふとき）〔17. 懦弱一：癡軟〕ぞろりと〔24. 衣服四：衣服太長〕たらりと（汁など薄い形）〔28. 主熟：精稀〕

Biyor seme etuhebi ぞろりと着てゐる〔彙：衣服穿的長了〕

— **seme eyembi** たらたらと流れる〔彙：水細流. 濃水只管細流〕

— **seme uyan** だらりと軟かい〔彙：很稀很軟〕

Biyoran 赤土の匡〔2. 地輿四：紅土坎〕

Biyorung seme のろのろと. だらだらと. のんべんだらりと（行動のしつかりしない貌）〔17. 懦弱一：行動鬆懈〕

Bo ioi 饅飩粉の團子を汁の中に浮かした食物〔彙：鉢魚〕

Boboršombi 手放すに忍びぬ. 大いに愛惜する〔13. 愛惜：愛不忍釋手〕

Boceri ilha せんをうけの花〔29. 花四：剪秋羅花〕

Bocihe 容貌醜い. 性情の醜い〔11. 容貌二：醜〕

Boco 顏の色. 物の色〔11. 容貌八：顏色〕〔23. 采色一：顏色〕

— **hacin i namun** 戸部の諸局より送來する眞鍮, 鐵, 香, 燭, 紙, 茶葉等を收貯する處〔20. 部院十二：顏料庫〕

Boconggo 彩色した. 色のある〔23. 采色一：彩色〕

— **arsalangga kiru** 幅(旗)に獅子像を綉ひとつた旗〔6. 鹵簿器用三：彩獅旗〕

— **nisiha** 〔32. 河魚四：金魚〕

— **šugin i iletu kiyoo** 五色に漆で塗つた轎〔26. 車轎一：彩漆亮轎〕

— **tugi** 色のある雲. 彩色美はしい雲〔1. 天文四：彩雲〕

— **ulhūmangga kiru** 幅(旗)に色々の蠶を綉ひ取つた旗〔6. 鹵簿器用三：華蠶旗〕

— **wehe** 色のある石〔2. 地輿六：采石〕

Bodisatu 〔彙：菩薩. 與 Pusa 同〕

Bodisu 菩提珠〔22. 貨財二：菩提子〕

Bodo 謀れ. 料れ〔彙：叫人謀. 叫人料算〕

Bodobumbi 畫策させる〔11. 性情二：使籌畫〕人に計られる〔17. 讒諂：被人算計〕

Bodofi bure kunggeri 戸部に屬し役人の支給を掌る役所〔補2. 衙署二：支科〕

Bodogon 謀. 計略〔11. 性情二：謀〕

— **i bithei kuren** 方略の編纂處〔20. 部院十一：方略館〕

Bodohon 數珠の Tuhebuku (墜角) を受けとめる金銀製の金具〔24. 冠帽二：墜角寶蓋〕

Bodohonggo 策略を用ひる(人). 計謀ある(人)〔11. 性情：有謀略〕

Bodokū 計算器. そろばん〔22. 衡量一：算盤〕

Bodombi 1. 一方で歌を追ひ出すとともに他方で其歌の出てきさうな處に待伏せする〔9. 畋獵一：相地驅歌〕 2. 籌畫する. 畫策する〔11. 性情二：籌畫〕

Bodomime 獨り言を云つて. 獨り語りして〔14. 言論三：自言自語〕

Bodon 策略. 計略〔11. 性情二：謀略〕計謀を記述した書〔7. 書二：策〕

Bodonggiyambi 獨り言を云ふ. 獨り喋りする〔14. 言論三：自言自語〕

Bodonggo 書經の大禹王, 皐陶, 益稷等の事蹟言語を記錄した篇〔7. 書一：謨〕

Bodonombi 各々畫策する. 一齊に計畫する〔11. 性情二：一齊籌畫〕

Bodor seme ぶつぶつと（口の中で云ふ）〔14. 言論四：咕噥狀〕

Bodori 犂の把手〔21. 農器：犂鬳〕

Bodoro boo 工部に屬し銀錢のことを掌る役所〔補2. 衙署四：算科〕

— **tacikū** 算法を教習する處〔20. 部院十二：算學〕

Bofula 包め〔24. 包裹：使包〕

Bofulabumbi 包ます〔彙：使包〕

Bofulambi 包む〔24. 包裹：包起〕

Bofun ふくさ. 風呂敷〔24. 包裹：包袱〕

Bohibumbi 卷脚絆を穿かせる〔24. 穿脫：使裹脚〕

Bohikū 婦人用の卷脚絆〔24. 靴襪：女裹脚〕

Bohimbi 婦人が卷脚絆を穿く〔24. 穿脫：婦人裹脚〕（男女とも）卷脚絆を穿く. 足をつつむ〔彙：男女裹脚之裹〕

Bohokon 色が少しくぼんやりした．色の稍々うすぼけた〔23. 采色三：略涅〕
Bohomi 高粱や胡麻などを風に吹かし飛ばした際，飛び散つた實入りの充分でない粒〔28. 米穀二：秕子〕
Bohon 色のうすぼけた．色のぼんやりした〔23. 采色三：色涅〕眼の濁つた〔彙：人眼珠生的昏糊塗〕
Bohori えんどう〔28. 米穀二：豌豆〕
— **debse** 豌豆を潰し油で揚げた團子．大變うまい〔27. 餑餑三：豌豆黃〕
Bohoto 駱駝の背の瘤〔31. 馬匹肢體一：駝峯〕
Boifuka 土製で六つの孔ある笛〔7. 樂器二：壎〕
Boigocilambi 穀類を間をおいて收獲する．全部を一度にでなく半分宛收獲する〔21. 農工三：半收〕
Boigoji 1. 宴席の主人〔6. 筵宴：主人〕2. 奥さん．おかみさん．令夫人〔彙：主人婆乃稱人之妻〕
Boigojilambi 宴席の主人となる〔6. 筵宴：作主人〕
Boigon 家族．家產．一戸〔21. 室家一：產〕
— **anggala** 戸口．人口．Anggala に同じ〔10. 人五：家口〕
— **be aliha amban** 刑法のことを掌る古の官〔補1. 古大臣官員：司徒〕
— **i boo** 地方戸口のことを掌る役所〔補2. 衙署五：戸房〕
— **i jurgan** 〔20. 部院三：戸部〕
— **i jurgan i kungge yamun** 勅書奏章を戸部各衙門に發抄し，戸部各衙門の政務を監察する役所〔20. 部院五：戸科〕
— **salimbi** 家產を承受する．家を承け繼ぐ〔彙：承受家產〕
Boihocilambi Boigocilambi に同じ〔彙：種的糧食間着得了〕
Boihoju cibin 燕の異名．燕は春社日に來たり秋社日に去るが故に此名あり〔30. 雀二：社燕〕
Boiholohobi 一度網や罠にかゝつた獸が又脫れた．Biyohalaha に同じ〔22. 打牲：打住又脫落〕
Boihon 土．土地．五行の土〔2. 地輿一：土〕〔2. 時令一：土〕
— **i hoton** 土で築いた城〔彙：土城〕
— **i buktan** 出水時の用に備へて河岸に堆積してある土〔2. 地輿十一：土牛〕
— **i karman** 土のとりで．土築の小城〔19. 城廓：土堡〕
— **i kemneku** 地面の高低を量る器具〔22. 工匠器用三：圭〕
— **i mutun** 高さ一尺にして一丈四方の土堆〔2. 地輿十一：土方〕
— **usiha** 星の名〔1. 天文二：土星〕
— **usihangga kiru** 黃色の幅(ぢ)に土星の像を繡ひとつた旗〔6. 鹵簿器用四：土星旗〕
Boisile 〔22. 貨財一：琥珀〕
Boisiri ilha とさみづき，しろむら〔補3. 異花四：蠟瓣花〕
Boje 出納簿．帳簿〔22. 貿易二：賬目〕
Boji 1. 保證人〔10. 人四：中保人〕2. 證文〔彙：券〕
— **bithe** 家，田地，人間等を賣買するとき賣る方より買ふ方に渡す手形證書〔22. 貿易一：文約〕
— **ilimbi** 證文を入れる．又證文を入れさす〔13. 賞借：立券〕
— **sekiyen** 家屋や土地を數度に亙つて質入れし又は賣却するとき初度に立てる契約〔22. 貿易一：契根〕
— **uncehen** 家屋や土地を數度に亙つて質入れし又は賣却するとき，其最後に立てる契約〔22. 貿易一：契尾〕
Bojilambi 質入れする〔22. 貿易一：典〕
Bojina keire 薄栗毛の駿馬〔31. 馬匹一：褭遠騮〕
Bojiri ilha きくのはな〔29. 花五：菊花〕
Bokida 數珠につけた眞珠の垂れ飾り〔24. 冠帽二：瓔珞垂珠〕
— **ilha** 奇花の名．しだれ柳の如く柔かく色は黃綠，清香あり〔補3. 異花三：瓔珞花〕
Bokidangga fukjingga hergen 書體の名．古篆に似て後，漢の劉伯升夜星象を觀て作る處〔補1. 書四：纓絡篆〕
Bokirshūn 身のかがまつた．手足縮ま

つて伸びない〔16. 残缺：拘攣〕
Bokori gaimbi 人の臀を蹴る〔13. 戯要：撥臀〕
Boksoη 1. 弓筈の小彎曲した部分〔9. 製造軍器二：弓腭〕 2. 門のしきみ. 戸ぼそ〔21. 室家二：門摇〕
Boksokon 身のひきしまつた〔11. 容貌二：緊恰〕精緻な. 緻密な〔25. 諸物形狀三：秀緒〕
Boksoη 胸骨〔10. 人身六：胸尖骨〕
Bokto せむしの人〔彙：駝背人. 駝子〕
Bola あぶれ. 焼け〔28. 燒炒：烙〕
Bolabumbi 焼かせる. あぶらせる〔28. 燒炒：使燒烙〕
Bolambi 焼く. あぶる〔28. 燒炒：燖烙〕
Bolgangga moo 奇木の名. 高さ百丈, 葉に線と紅と二種あり〔補3. 異木：丹青木〕
Bolgo 清浄な. 清潔な〔6. 灑掃：潔淨〕弓の手裁きに汚い所がない. 手裁き清らかな〔8. 步射一：乾淨〕清廉の. 清忠の〔11. 忠清：清〕聲清い. 聲の澄んだ〔14. 聲音一：聲清〕
— **duingge hoošan** 木皮を清水に流し綺麗に作つた四枚續きの紙〔7. 文學什物一：清水連四紙〕
— **hican** 食量の少い人〔彙：凡吃物吃的少的人〕
Bolgobumbi 1. 勝負を決めさす〔19. 賭戯：使決勝負〕 2. 清潔にさせる. 潔淨ならしめる〔彙：使潔淨〕
Bolgobure obohon 音律の名. 十二律呂の一〔7. 樂二：姑洗〕
Bolgoki 勝敗を決め度い〔彙：辨雌雄之辨. 決勝負之決〕
Bolgokon 稍々清い. 稍々清忠の〔11. 忠清：略清的〕
Bolgombi 1. 勝負を決する〔19. 賭戯：決勝負〕 2. 清潔にする. 淨める〔彙：潔淨〕
Bolgomi targa 齋時に堂門又は人の胸間などにかける牌〔6. 祭祀器用一：齋戒牌〕
Bolgomimbi 齋戒する. 潔齋する〔19. 佛二：齋〕
Bolgon ilha 色黄に, 常の花に比して大いに清雅なる花〔補3. 異花五：御仙花〕
Bolgosu 代々奴僕たりし家の第三代の奴僕〔五体10. 人五：三輩奴〕
Bolhoko 一切完成した. きれいに終つた〔26. 完成：淨了〕
Bolhosu Bolgosu に同じ〔四増体訂10. 人五：三輩奴〕〔彙：三代的奴僕家人〕
Boli 玻璃. 硝子〔彙：玻璃乃外國出者〕
Bolibumbi 餌で鷹を喚ばせる〔9. 頑鷹狗：使喚鷹〕
Bolikū 1. 鷹を喚ぶ餌〔9. 頑鷹狗：詭皮〕 2. 店舗の門の邊りに掛けた賣物の看板〔22. 貿易二：幌子〕
Bolimbi 餌で鷹を喚ぶ〔9. 頑鷹狗：喚鷹〕
Bolin 1. Jalakū に同じ〔22. 打牲器用三：鳥媒子〕 2. 緞子の上に織り出した二對の龍〔彙：蟒緞織的有欄對蟒〕
— **gecuheri** 對ひ合つた龍を刺繍した緞子〔23. 布帛一：小團龍粧緞〕
Boljobumbi 預約させる〔5. 官差：使約會〕
Boljoci ojorakū 料られない. 預測出來ない. 算量し得ない〔彙：料不定. 未可量. 算不定〕
Boljohon 約. 約束. 預約〔5. 官差：約〕
Boljombi 預約する. 約する〔5. 官差：約會〕期を定める〔彙：定期. 會之〕
Boljon 風の吹き起こす浪. 小波〔2. 地輿九：浪〕
— **dekderakū** 波揚がらず〔彙：不揚波〕
— **gidakū** 小船の前底部の先端〔26. 船三：劈水〕
— **weren**〔彙：水波. 波浪〕
Boljonggo 常法に適つたもの. 規矩あるもの〔11. 厚重一：簡約〕
Boloko 綺麗にかたついた. すつかり完成した〔26. 完成：淨了〕
Bolokon 淨らかな. さつぱりした. 綺麗な〔6. 灑掃：淨淨的〕
Bolori 季節の秋〔2. 時令五：秋〕
— **be bodoro hafan** 秋季の日月の交食七政を算看する官. 欽天監に屬す〔4. 臣宰八：秋官正〕

Bolori beidere baita be uheri icihiyara ba 朝廷の秋の裁判に具へる黄册及び口供册を造る處〔20. 部院四：總辨秋審處〕
— **dosimbi** 秋が立つ〔彙：立秋〕
— **dulin** 季節の名〔彙：秋分〕
— **fulana ilha** しうかいだう〔29. 花二：秋海棠〕
— **modan ilha** しうめいぎく、きぶねぎく〔29. 花二：秋牡丹〕
Bolorikten 秋に執行する祖先の祭り〔6. 祭祀一：嘗〕
Bolosu 玻璃. 硝子〔22. 貨財二：玻瓈〕
— **deijire kūwaran** 造辨處に屬し種々の硝子器具類を製造する處〔20. 部院八：玻璃廠〕
Bombi 錐で穴をあける〔26. 塞決：鑽〕
Bombokon 意欲の無い. 欲しない. 好まない〔17. 羞愧：沒意思〕
Bombonohobi (蜘や蟻等が) 群り集つた〔32. 蟲動：蜘蟻堆集〕堆積した〔25. 多寡二：堆疊〕雲層々と重なつた〔彙：雲層層〕
Bombonombi 雲層々と重なる. むらがる〔彙：雲層々. 擠也〕
Bombori ilha 籬に纏つて生え, 春紅黄白三色の花を開く奇花〔補3. 異花三：雪踏花〕
Bombornohobi 老耄して頭を搖る様になつた〔10. 老少一：老了搖頭〕
Bon 錐〔22. 工匠器用三：鐵鑽〕
— **i bombi** 錐で穴をあける〔彙：以鑽鑽之〕
Boncihiyan 破れ銅鑼の聲〔14. 聲響三：破羅聲〕
Bongcilihi 東海に産し肉と骨とは鼈に似て, 子は魚身の魚〔32. 海魚一：海鼈〕
Bonggibu 送り遣らせよ〔彙：使令遣去〕
Bonggibumbi 遣はさす. 送つて遣らす〔彙：使遣之. 使送去〕
Bonggimbi 送り遣る. 送り遣はす〔彙：打發去. 凡物送去遣去〕
Bonggo 先頭. 第一. 眞先〔2. 時令二：頭一個〕
— **de genehe** 先頭に行つた. 眞先に行つた〔2. 時令二：頭一個去了〕
— **dosikasi** 會試の首席合格者. 第一位の進士〔4. 臣宰十一：會元〕
— **morin** 先頭に立つて群馬を導く一匹の馬〔32. 騎駝一：頂馬〕
— **sonjosi** 殿試の首席及第者〔4. 臣宰十一：狀元〕
— **šusai** 童生を試驗して第一位に取つた生員〔4. 臣宰十一：案首〕
— **tukiyesi** 鄉試の首席及第者. 舉人の第一位〔4. 臣宰十一：解元〕
Bongjonggi 無雜な人間. 無作法な人〔18. 鈍繆：粗蠢人〕
Bongko 1. Garma (笛の名) の鐵根と笛柄の合せ口を結合する粗末な木片〔9. 製造軍器四：兎兒叉上圓鼓肚〕 2. 蕾〔29. 花六：咕嘟〕
— **dalangga** 河の岐れ目の堰堤〔補1. 地輿二：雞心壩〕
— **sukiyara duka** 正門を入つて次にある門〔21. 室家二：垂花門〕
Bongkon 冕の兩側に垂れ耳を覆つておるもの〔補1. 古冠冕三：黈纊〕
Bongkonohobi 蕾を結んだ〔29. 花六：結咕嘟〕
Bongsimu niyehe あをくびの一種〔補4. 鳥七：賓鴨〕
Bonio 猷のさる. 又十二支のさる〔31. 獸五：猿〕〔2. 時令一：申〕
— **biya** 申の月. 七月〔補1. 時令一：相〕
Bonionggo aniya 申の年〔補1. 時令一：涒灘〕
Bonitun 猿に似て黒く西域に出づる奇獸〔補4. 異獸五：蠱〕
Bonme 錐で孔をあけ〔彙：鑽之〕
— **gabtambi** 下方に向つて射る〔8. 步射一：往下射〕
— **wasika** 高く險しい處から縋り下りた〔14. 行走二：從險處下來〕
Bono 〔1. 天文五：雹〕
— **de foribuha** 雹に打たれた〔1. 天文五：被雹打了〕
— **de foribuhakū** 未だ雹に打たれない〔1. 天文五：未被雹打〕
Bonombi 雹が降る〔1. 天文五：下雹〕
Bontoho 裸馬〔32. 騎駝一：騍馬〕

Bontoholobumbi 得られるものを得さゝない〔12. 落空：使落空〕獨りにだけ得さゝない〔彙：使其獨不得〕
Bontoholombi 得られるものが空しく得られない〔12. 落空：落空〕獨りにだけ無い〔彙：別人皆有他獨無〕
Boo 家. 家屋. 房屋〔21. 室家一：房〕
— **ciowan jihai kūwaran** 寶泉の二字ある貨幣を鑄る官署. 戶部に屬する〔20. 部院三：寶泉局〕
— **giyalan** 柱と柱との間. 一間〔21. 室家一：房間〕
— **i hošo** 室の西北の隅〔彙：屋漏. 室西北隅〕
— **nimaha** くじら〔32. 海魚一：房魚〕
— **yuwan jihai kūwaran** 工部に屬し, 寶源といふ二字のある貨幣を鑄る官署〔20. 部院五：寶源局〕
Boobai 皇帝の玉璽〔3. 諭旨：寶〕寶. 寶物〔22. 貨財一：寶貝〕
— **malu acire sufan** 背に金瓶を載せて儀仗に隨ふ象〔6. 鹵簿器用五：寶象〕
— **soorin** 玉座. 帝王の座〔20. 宮殿：寶座〕
Booci tucike temgetu 官より出家のものに給する文憑〔19. 佛一：度牒〕
Booha 酒の肴〔27. 菜殽三：殽饌〕
— **belhere falgari** 光祿寺に屬して料理のことを掌る役所〔20. 部院六：珍饈署〕
Boohalabumbi 馳走を食はす. 馳走する〔彙：使就菜吃〕
Boohalambi 1. Sišantumbi に同じ〔6. 喪服二：上墳次日祭〕 2. 馳走を食ふ〔27. 飲食一：用餚饌〕
Booi amban 內府のことを總管する役人〔4. 臣宰一：內務府總管〕
— **buhū** 家飼ひの鹿〔補4. 獸二：家鹿〕
— **da** 內府の管領を掌る官〔4. 臣宰七：管領〕
— **da sai baita be icihiyara ba** 內府の役人のことを管理する役所〔20. 部院七：掌關防管理內管領處〕
— **durugan** 家の系譜〔5. 事務二：家譜〕
— **gubci** 家中. 一家. 全家〔彙：家閭. 全家〕
— **hafan** 大臣の家のことを管理する臣〔補1. 古大臣官員：家臣〕
— **ilan gūsa** 內府の鑲黃, 正黃, 正白の三旗〔3. 旗分佐領一：內府三旗〕
— **ilan gūsai aliha coohai kūwaran** 內府三旗の兵事を掌る官署〔20. 部院七：內府三旗驍騎營〕
— **niru** 內府の佐領〔3. 旗分佐領一：內府佐領〕
— **nirui bayara** 內府佐領の精兵. 護軍〔彙：包衣擺牙喇〕
— **ilan gūsai bayara i kūwaran** 內府三旗護軍のことを管理する官署〔20. 部院七：內府三旗護軍營〕
— **niyalma** 一家の人. 又家の僕, 召使ひの類〔彙：家人〕
Boolambi 知らす. 報告する. 報知する〔彙：稟報詳報塘報報信申報之報〕
Boongga jahūdai やかた船〔26. 船一：樓船〕
Booši 〔彙：寶石〕
Borbo アキレス筋〔10. 人身五：攪筋〕〔31. 馬匹肢體一：攪筋〕
Borboki niyehe あをくびの一種〔30. 鳥七：泥乾路〕
Borcilaha Borcilaha yali に同じ〔彙：牛羊肉吊的半乾兒切四方塊子和對白肉湯即. Borcilaha yali〕
— **yali** 吊り下げて生乾きにした肉〔27. 飯肉三：晾乾肉〕
Bordobumbi 飼養させる. 飼はせる〔32. 牧養二：使喂肥〕
Bordokū 飼料. かひば〔32. 牲畜器用二：料〕
Bordombi 飼養する. 養ふ. 家畜を飼ふ〔32. 牧養二：喂肥〕
Borhoho nimaha 楽め積みあげた魚〔彙：垛摞之魚〕
— **tugingge fukjingga hergen** 黃帝のとき瑞雲現はれしを見て作られし書體の名〔補1. 書三：垂雲篆〕
Borhombi (秣などを一處に高く) 積み上げる〔22. 捆堆：攢立秣稭〕
Borhon (秣などの) 堆積〔22. 捆堆：秣

積濱〕
Borhon borhon 堆み堆みて．積み積んだ〔彙：星聚．積．堆堆〕
Borhoto 葉硬くして濕地に叢生する灌木〔29.樹木五：荊條壩〕
Borimbi 小兒を搖り籠に入れねんねんころりと口誦み乍ら籠を搖り動かす〔13.生產：搖聲哄小兒睡〕
Borinahabi 1. 上流から次第に凍結した〔2.時令九：漫流積凍〕 2. 鼻汁が乾いてこびりついた〔18.邋遢：鼻涕糊住〕
Borinambi 鼻汁が汚くこびりつく〔18.邋遢：鼻涕邋遢〕
Borjin niyehe あをくび〔30.鳥七：蒲鴨〕
Boro 夏の帽子〔24.冠帽一：涼帽〕
— **dobihi** 青毛と黃毛との混つた狐の皮〔24.皮革一：倭刀〕
— **fulan** 白毛黑毛の混つた青馬〔31.馬匹毛片：沙青〕
— **ihan** 頭の薄黑く身體の薄紅い牛〔32.牛：黑頭紅牛〕
— **lefu** 僅かばかり色の白い熊〔補4.獸一：青熊〕
— **siberi** 青馬にして左足白きもの〔彙：騏驎乃青馬左足白者〕
— **yarha** 淡青色の豹〔31.獸二：青豹〕
Boroko mucu 熟して黑變した葡萄〔28.果品二：黑葡萄〕
Borton 顏中垢だらけの〔18.邋遢：面垢〕
Bortonohobi 顏中垢のたまつた．〔18.邋遢：面目積垢〕
Bosho 腎臟〔10.人身七：腎〕
Boshonggo hoseri 腎臟の形に眞似て作つた小箱〔25.器用一：腰子盒〕
— **tampin** 腎臟形の壺〔25.器用三：腰子壺〕
Boso 1. 山の北側〔2.地輿四：山陰〕 2. 布．布帛〔23.布帛六：布〕
— **aigan** 布で作つた弓の的〔9.製造軍器四：布把子〕
Bosoro なつめやし〔補3.異樣果品一：波斯棗〕
Bošo 催促せよ．迫ひ立てよ〔12.催逼：使催迫〕逐ひ去れ〔15.留遣：逐去〕
Bošobumbi 催促させる〔12.催逼：使人催迫〕催促される〔彙：被催〕
Bošoku 八旗制の官．公文書の記錄及び俸給の支拂ひを掌るもの〔8.兵：領催〕
Bošombi 催促する〔12.催逼：催迫〕驅逐する．逐ひ遣る〔15.留遣：驅逐〕
Bošondumbi Bošonumbi 一齊に催促する〔12.催逼：一齊催迫〕
Bošonjimbi 催促しに來る．來て催促する〔12.催逼：來催迫〕
Bošonombi 催促しに行く．行つて催促する〔12.催逼：去催迫〕
Bu 1. 與へよ．給與せよ〔12.取與：使給〕 2. 動詞の語中に用ひて「使める」又は「被られる」の意を表はす〔彙：用于字中爲使字又爲被字〕
Bubu baba ぶつぶつ（言語の明晰でない貌）〔14.言論四：言語拙鈍不清狀〕
Bubumbi 與へさせる．給せしめる〔12.取與：使人給〕
Buburšembi 遲滯する．敏捷に手に入れない〔15.拿放：遲滯〕
Buca 雌羊〔31.諸畜一：母羊〕
Bucehe 死んだ．亡くなつた〔6.喪服一：死〕
Bucehengge 死に損ひ奴！くたばれ！〔16.咒罵：該死的〕
Buceli 幽魂．魂魄〔19.鬼怪：鬼魂〕
— **benembi** 病人に死人の魂が祟りをする時，紙を燒き飯水を供へてその祟りを拂ひ除ける．祟りを拂ふ〔19.醫治：送祟〕
— **dosika** 死人の魂が人に取り憑き物を言つた．幽魂がからだに入つた〔19.鬼怪：鬼魂附體〕
Bucembi 死ぬ〔彙：死〕
Buceme susame ひどくうろたへ騷いで．倉皇として〔8.征伐六：倉皇急奔〕
Bucetei 死を賭して．命がけで〔8.征伐四：撲命〕〔12.黽勉：撲命〕
— **afambi** 死を賭して戰ふ．命を棄てゝ戰ふ〔彙：死戰〕
Bucetele 死に至るまで〔彙：至於死〕
Bucetu acangga enduri 年神の第

二十五. この神の居る方には安葬し得ない〔補2. 神三：死符〕
Bucilebumbi 帽子の耳覆ひを下ろさせる〔24. 穿脫：使放護耳帽沿〕
Bucileku 頂無く耳覆ひだけの婦人用の帽子〔24. 冠帽一：女腦包〕
Bucilembi 帽子の耳覆ひを垂れる〔24. 穿脫：放護耳帽沿〕
Bucin 獸名. 鹿に似て尾長く西海に出づ〔31. 獸一：挠拔〕
Buculimbi Bukulembi 又 Ukulembi に同じ〔24. 穿帽：放帽沿〕
Buda めし〔27. 飯肉一：飯〕
— **belhere ba** 皇帝皇后の飯を準備する處〔補2. 衙署七：飯局〕
— **muke waliyambi** 米を煮たあとに殘つた水を取り薬てる〔彙：撒涼漿水飯〕
— **nimeku** 胃擴張〔彙：食廣病〕
Budai muke 米を煮たあとに殘つた水（この水を捨てゝ更に其米を蒸して食ふ）〔27. 飯肉一：米湯〕
Budalambi 飯を食ふ〔27. 飲食一：喫飯〕
Budehe Bucehe に同じ〔6. 喪服一：死〕
Buduhu はぜ. すなぼり〔32. 河魚四：大船釘魚〕
— **moo** 野生の茶の木〔29. 樹木二：烏茶〕
Budukan 稍々臆病な〔17. 懦弱一：庸懦些〕
Budun 臆病な〔17. 懦弱一：庸懦〕
— **eberhun** 頓馬の者. 愚鈍の人〔彙：闇茸〕
Budurhūna 形狀樹木に似，濕地に生じ豚鼈に食はす草〔29. 草二：萬年蒿〕
Bufaliyambi 二枚舌を使ふ〔17. 奸邪：改嘴〕
Bufuyen 言語不明晰の〔14. 言論三：話不清楚〕
Buge 軟骨〔10. 人身六：脆骨〕
— **monggon** のどぼとけ〔10. 人身三：氣喉〕
— **muke** 葛布の染料水〔彙；染葛布的水〕
— **yasa** 馬騾等の眼の中が突然腫れ上つて軟骨の如く堅くなる病氣〔32. 馬畜殘疾一：骨眼〕
Buha gurgu さい. 犀〔31. 獸一：兕〕
— **singgeri** うしねずみ. うごろもち〔31. 獸七：鼹鼠〕
— **uihe beri** 犀の角で作つた弓〔9. 軍器三：野牛角面弓〕
Buhe 與へた〔彙：與了〕
— **muke** 藍の染料水〔26. 油漆：靛清〕
Buheliyebumbi 蓋をかぶらせる. 蓋をさせる〔24. 鋪蓋：使幪蓋〕
Buheliyembi 蓋をする. かぶせる〔24. 鋪蓋：幪蓋〕
Buhere かはせみ〔30. 鳥五：魚狗〕
Buhi 1. 大腿の內側. うちもも〔10. 人身五：馬面〕 2. 毛を抜き去つた鹿の皮〔24. 皮革二：去毛鹿皮〕
— **adame** 膝を揃へて. 兩膝をくつゝけ〔14. 坐立一：並膝坐〕
— **adame tehe** 互ひに膝つけぎつしり坐つた〔彙：近坐着. 與 Hanci tehe 同〕
— **adame tembi** 兩膝をくつゝけて坐る. 兩膝揃へて坐る〔彙：兩膝附帮着坐〕
— **arambi** 膝を曲げて坐る〔6. 禮拜：屈膝坐〕
— **gūlha** 鹿皮の靴〔彙：皐鹿皮靴〕
— **i sosonggo mahala** 古冠の名. 鹿皮で作つたもの〔補1. 古冠冕二：綦弁〕
Buhiye 疑へ〔彙：令人猜〕
Buhiyebumbi 疑をうける. 疑はれる〔17. 猜疑：被猜疑〕疑はす〔彙：使猜〕
Buhiyecun 嫌疑. 疑ひ〔17. 猜疑：嫌疑〕
Buhiyembi 疑ふ〔11. 性情二：猜想〕猜疑する〔17. 猜疑：猜疑〕
Buhiyen i efin 四角の小木片を半ば黒に半ば赤に染め，これを箱の中にてふり，赤の向く方をあてゝ勝負を決める賭戲〔19. 賭戲：押寶〕
Buhiyendumbi Buhiyenumbi 齊しく疑ふ. 各々が疑ふ. 互ひに疑ふ〔17. 猜疑：齊猜疑〕
Buhū しか〔31. 獸三：鹿〕
— **i sukū** 鹿の皮〔彙：鹿皮〕

Buhū i weihe suhe 鹿の角の脫落した〔彙：鹿解了角了〕
Bujaka 假死の〔6.喪服一：詐屍〕
Bujan 林. 樹林〔29.樹木六：平地樹林〕
Bujantu ulhūma やまどり〔補4.鳥六：鶤雉〕
Bujihilambi 口に出さずして心中に怒る. 怒つてむつとする〔3.怒惱：暗怒〕
Buju 煮よ〔28.煮煎：煮〕
— **baja** 數の單位名. Samina (不可思議) の十倍〔7.數目二：無量數〕無數の. 無數に〔25.多寡一：數不盡〕
Bujubumbi 煮させる〔28.煮煎：使煮膏〕
Bujumbi 煮る〔28.煮煎：煮膏〕
Bujun 十萬〔彙：億乃十萬也〕
Bujuri 鹿首龍身の奇獸〔補4.異獸七：飛遞〕
Buka 雄羊〔31.諸畜一：公羊〕
Bukari 奇獸の名. 崑崙山に出で羊に似て四角あり, 人を食ふ〔補4.異獸一：土螻〕
Bukda 折り曲げよ〔26.煨折：折〕屈せよ. たゝめ〔彙：令摺. 令屈. 令疊脚跪之疊〕
Bukdabumbi 敵の銳氣を挫く. 敵の銳氣挫けて敗退する〔8.征伐六：銳氣挫折〕折りたゝませる〔18.抽展：使折疊〕折り曲げさせる〔26.煨折：使折囘〕屈せられる〔彙：被屈〕
Bukdambi 1. 折り疊む〔18.抽展：折疊〕折り曲げる〔26.煨折：折囘〕 2. 道理あつて罪を受くるを肯じない者を罪する〔5.詞訟二：揆斷〕 3. 兩膝で弓を曲げて弦を張る〔9.製造軍器一：撓上弓〕
Bukdan Emu bukdan を見よ.
Bukdangga dengjan 渦卷き形の燈籠〔23.烟火一：盤香燈〕
Bukdara acabure falga 書物の卷分け表紙付けなどする處. 修書處に屬する〔補2.衙署六：摺配作〕
Bukdari 上奏文. 摺奏〔5.事務二：摺子〕紙を層々折り疊んで字を書くもの〔7.書三：摺子〕
— **arara kunggeri** 理藩院に屬し上奏文を書く役所〔補2.衙署五：本科〕
— **icihiyakū** 翰林院にあつて奏本などのことを掌る官〔4.臣宰四：待詔〕
— **icihiyakū i tinggin** 理藩院に屬し上奏文のことを處理する役所〔20.部院六：待詔廨〕
— **icihiyasi** 書記. 書吏〔續2.臣宰：書寫〕
Bukdarun bargiyara hafan 考試の試卷を承取する官〔4.臣宰十：收卷官〕
— **de doron gidara hafan** 考試の試卷をあらため印を押す官〔4.臣宰十：印卷官〕
— **i jumanggi** 官吏試驗の答案を入れる袋〔7.書六：卷袋〕
— **i talgari** 官吏試驗の答案中違式ならざるもの, 卽ち彌封官の封緘を爲す所のもの〔7.書六：卷面〕
Bukdašambi ねぢ倒す. 只管壓へつけて倒す〔8.撩跤一：折挫〕馬の手綱を摑み馬を順壓操縱する〔32.騎駝一：壓馬〕
Bukdu bakda ぞろりぞろり. べたりべたり (足をひきずる貌)〔14.行走四：一磕一絆〕
Buksa 1. 水溜りと乾いた所との入り混つた場所〔2.地輿二：乾濕花塔處〕 2. 刈り殘しのある田畑〔21.田地：未割淨地〕燒け殘りのある草地〔彙：放火燒草燒着多的去處燒着少的去處〕
— **buksa** Buksa に同じ. Buksa Buksa と連用す〔2.地輿二：乾濕花塔處〕
Buksi 伏兵をおけ〔彙：令埋伏兵〕
Buksibumbi 伏兵をおかせる〔8.征伐三：使埋伏〕
Buksiha cooha〔8.兵：伏兵〕
— **coohai enduri** 年神の第八. 陰氣に屬し兵革を掌る神〔補2.神二：伏兵〕
Buksimbi 兵を伏せる. 伏兵を置く〔8.征伐三：埋伏〕
Buksin 伏兵〔彙：埋伏兵〕
Buksinambi 伏兵をおきに行く. 行つて兵を伏せる〔8.征伐三：去埋伏〕
Buksindumbi Buksinumbi 各處一齊に伏兵をおく. 同時に兵を伏せる

〔8. 征伐三：各處埋伏〕

Buksu 臀部. しり〔10. 人身五：尾骨兩旁〕

Buksuri 疑はしい. はつきりしない. 曖昧な〔17. 猜疑：含糊〕

Buktakabi 枕を外して頸が痛む〔16. 疼痛一：落枕〕

Buktalimbi 糧食などを一處に堆む〔22. 捆堆：堆糧〕

Buktalime waha 山を築く程殺した. 死人の山を築いた〔8. 征伐七：殺死成堆〕

Buktan 土の堆積. つちやま〔2. 地輿一：土堆〕ひと積み. ひとやま〔22. 捆堆：一堆〕

— **buktan** 積み積んで〔彙：發々. 凡堆. 累累〕

Buktu せむし〔16. 殘缺：雞胸〕雞胸は所謂はとむねの意であるけれ共, 增訂清文鑑には Buktu を說いて 'Tunggen dara bungjanaha niyalma, (胸腰すぼめたる人)とあり, 清文彙書にも '心坎腰向前偃着的人. 龜背人. 佗子, 等とあれば, 五體清文鑑及び增訂清文鑑に見ゆる雞胸なる譯語は何かの誤りかと思はれる.

Buktulin 衣服, 蒲團等を入れる袋. 皮製布製のものあり〔25. 器用七：皮包〕

Buku 角力とり〔8. 撩跤一：撩跤人〕

Bukulembi Ukulembi に同じ〔24. 穿脫：放帽沿〕

Bukūn かもしか〔31. 獸四：麞羊〕

Bukūri 鄂山に出でかもしかに似て四角馬尾の奇獸〔補4. 異獸二：麝〕

Bula 木の針. とげ〔29. 樹木五：棘刺〕

— **hailan** しゆ〔29. 樹木三：刺槭〕

— **ilha** 花の名. 黃花白花あり, 叢生し梗上莉あり〔29. 花三：黃白刺蘼花〕

— **sogi** はうれんさう〔27. 菜穀一：菠菜〕

— **u hederebuhe** 莉に刺された〔彙：被莉括了〕

— **urangga moo** でいこ. で一ぐ〔補3. 樹木一：刺桐〕

Bulaci ilha 奇花の名. 幹に莉あり小さい黃花を開く〔補2. 異花三：查爾花〕

Bulahan 奇獸の名. 郎山に出で牛に似て刺あり, 蝟の如く, 尾長く人を食ふ〔補4. 異獸二：窮奇〕

Bulangga 莉あるもの. 莉のある〔29. 樹木九：有刺的〕

— **sogi** 野菜の一種. 葉に小莉あり〔27. 菜穀三：野刺菜〕

Bulari 奇獸の名. 梁渠山に出で, はりねずみに似て, 尾は紅く, 聲は猪の如し〔補4. 異獸二：居暨〕

— **moo** ありどほし〔補3. 樹木一：虎刺〕

Bulca yali 手足全ての肉〔10. 人身七：髏子肉〕

Bulcakū 事を避け怠ける人〔17. 懶惰：慣脫滑的人〕

Bulcakūšambi しきりに怠ける. 事事に怠ける〔17. 懶惰：肯脫滑〕

Bulcambi 事を避け怠ける〔17. 懶惰脫滑〕

Bulcandumbi 一齊に怠ける. 衆共に怠ける〔17. 懶惰：齊脫滑〕

Bulcarakū 事を避けない. 怠けない〔12. 黽勉：不躲懶〕

Bulcatambi 甲を避け乙を躲し, しきりと怠ける〔17. 懶惰：只管脫滑〕

Bulcatarakū 少しも避け怠ける所がない〔12. 黽勉：總不躲懶〕

Buldu 小さい雄の猪〔31. 諸畜一：小牙猪〕

Bulduri 北海東海に產する麅 (Gio) の一種〔31. 獸三：海游麅〕

Buldurimbi 馬が前足を折る〔31. 馬四動作一：打前失〕

Bulehen つる〔30. 鳥一：鶴〕

— **ujungga fukjingga hergen** 篆書の一體. 起筆輕きこと雀口の如く落筆重きこと鶴の頭の如きもの〔補1. 書四：鶴頭篆〕

Bulehengge kiru 幅(はゞ)に鶴の像を繡ひとりした旗〔6. 鹵簿器用三：仙鶴旗〕

Buleku 鏡. 姿見〔24. 飾用物件：鏡〕鎧の胸に四個の釘でとめた鏡〔9. 軍器二：護心鏡〕

— **dobton** 鏡ばこ〔24. 飾用物件：鏡袋〕

Bulekušebumbi 鏡に照さしめる〔彙：使照鏡〕
Bulekušembi 鏡で照す．明らかに鑒る〔12. 覲親一：洞鑑〕鏡に姿をうつす〔24. 梳粧：照鏡〕
Buleri 〔7. 樂器二：喇叭〕
Bulgiyambi 鍍金する．メツキする〔26. 雕刻：鍍金〕
Bulha あやある．綵ひとりある〔彙：文綵〕
— **orho** 草名．幹葉細く小さく諸色あやなし，印綬の如く叢垂して生ず〔29. 草二：蘿〕
Bulhacan niyehe 鴨の一種．羽に花斑あり〔30. 鳥七：文蘿鴨〕
— **ulhūma** 雉の一種〔補4. 鳥六：鳥雉〕
Bulhūmbi 1. 水が湧き出る〔2. 地輿十：水冒〕2. 食つたものがこみ上げる〔16. 疾病二：漾〕
Buli butu 知られず覺られずして（侵犯する）〔15. 侵犯：不明不白〕
Bulimbi 魚が水面に口を出して餌をパクつく〔32. 鱗甲肢體：水面吞食〕
Buling seme はっと．ぎやっと．おやっと（恐れ驚く）〔17. 懦弱一：怔忡何的〕
Bulinjambi 1. 膽を潰す，目を瞠つて驚く〔17. 懦弱一：發怔〕2. 怠ける．ぶらぶらする〔17. 懶惰：獃懶〕
Buliyambi 呑む．嚥み下す〔27. 飲食二：呑〕
Buljanahabi 傷口腫物の口が癒着した〔16. 殘缺：疙疸癒住了〕
Bulji 單一の色．雜りのない色〔23. 采色三：純色〕
Buljin Bulji に同じ〔23. 采色三：純色〕
— **yacin** 純青色（の）〔彙：純青〕
Bultahūn 明瞭に出る．明ら様に露はれる〔14. 隱顯：明露出〕
tucinjihe 明ら様に現はれ來たつた．くつきりと浮び出た〔彙：凡物浮面努出〕
Bultahūri 明瞭に現はれた．全く露出した〔14. 隱顯：全露出〕
Bultari 突として出てきた．忽然と出る〔14. 隱顯：突出〕
Bulukan 温い〔28. 主熟：温和〕
— **šeri** 温泉（熱泉でない）〔2. 地輿八：温泉〕
Bulumbi 草を高く圓く堆み上げる〔22. 捆堆：垛草〕
Bulun 1. 草積み．草の山〔22. 捆堆：草垛〕2. こしき．車輪の中心の圓き木〔26. 車轎二：車頭〕
— **jafambi** Bulumbi に同じ〔22. 捆堆：垛草〕
Buluntumbi （蛇などが）交尾する〔彙：蛇等物公母相交〕
Bumbi 給する．與へる〔12. 取與：給〕
Bumbuku わか芽．つぼみ芽〔29. 樹木九：柳艾梃上結的包〕
Bumbuli 油，麥，麵で作つた圓い團子〔27. 餑餑三：油麥麵餅子〕
Bunai 十萬〔7. 數目二：億〕
Bunasu 奇果．形烏梅の如く核は數珠に作る〔補3. 異樣果品四：不納子〕
Buncuhūn 冷たからず熱からざる．生温なの〔28. 生熟：不冷不熱的〕
Bung bung ぶーぶー（法螺貝を吹く音）〔14. 聲響三：吹海螺聲〕
Bunggibu 送つて行け〔12. 取送：使送往〕
Bunggimbi 送つて行く〔12. 取送：送往〕
Bungjanahabi 肩をすぼめた〔16. 殘缺：孿結了〕
Bungjan 肩をすぼめた人〔16. 殘缺：孿結〕
Bungnambi 是を以て非とする．壓迫する〔5. 詞訟二：壓派〕
Bunjiha すゞめの一種〔30. 雀五：虎頭雀〕
Bur bar seme どつさりと．澤山に〔25. 多寡一：物多〕
— **bur seme** ぶくぶくと．ごぼごぼと〔2. 地輿十一：泉水湧出貌〕
— **seme** だらりと．だらだらと（膿の出る貌）〔16. 瘡膿二：膿冒出〕ぶくぶくと〔彙：泉水湧出〕むくむくと〔彙：雲從石縫〕
Bura 水をかけよ〔28. 澆漬：澆〕
Burabumbi 水をかけさす〔28. 澆漬：使澆水〕

Buraki ちり．ほこり〔2.地輿一：塵埃〕
Burakišambi 風が塵埃を吹き揚げる．ほこり立つ〔1.天文七：風揚塵〕
Burambi 1.水を灌ぎかける 2.（燒酎を造るとき瓶の外側に水をふり灌ぐより）燒酎を造る〔28.澆漬：澆水〕
Buran taran 散り散りに．ばらばらに〔8.征伐六：亂奔狀〕
Buranggiyambi 肉を熱湯にさつとつける〔28.煮煎：滾湯炸肉〕
Burašambi 降り積つた雪を風が吹き上げる〔1.天文六：風揚雪〕
Burdebumbi 法螺貝を吹かせる〔8.征伐三：使吹海螺〕
Burdembi 法螺貝を吹き鳴らす〔8.征伐三：吹海螺〕
Burdenumbi 一齊に法螺貝を吹き鳴らす〔8.征伐三：一齊吹海螺〕
Bure 與へよう．支給しよう．與へる所の．支給する處の〔彙：與之．給之〕
Buren 法螺（樂器に作つたもの）〔9.軍器七：畫角〕法螺貝〔32.海魚二：海螺〕
— **umiyaha** かたつむり〔32.蟲一：蝸牛〕
Burenehebi 水溜りが乾いて地表面の皮が剝げ起きた〔2.地輿二：地起皮〕
Burga 柳の枝（天幕を張るのに使用する）〔29.樹木三：柳條〕
Burgašambi 烟が棚びく〔23.烟火四：烟氣線繞〕
Burgašame niyamniyambi 人々馬上より爭ひ射る〔9.畋獵二：爭射〕
Burgatu hoton 滿洲の地名〔續2.地輿：布爾噶圖城〕
Burgibumbi 不意討ちをかける．誓を結ぶに遑なからしめる〔8.征伐三：使乍誓〕あはてふためかす〔彙：使倉皇驚亂〕
Burgimbi 驚倒混亂する．あはてふためく〔8.征伐六：驚亂〕
Burgin 1.機會．機〔2.時令三：時會〕 2. Emu burgin を見よ．
— **bargin** ざわざわ．ごたごた〔15.急忙：亂亂紛紛〕
Burgindumbi Burginumbi 一齊に驚倒混亂する．衆共にあはてふためく〔8.征伐六：一齊驚亂〕
Burgišambi 頻々として驚倒混亂する〔8.征伐六：頻驚亂〕
Burgiyeleme cashūn fiyelembi 鞍はしを摑み馬の尻向きに身を飜し乘る〔8.騎馬：攀鞍反背〕
Burgiyen 1.前の鞍輪．前のくらはし〔9.鞍轡一：鞍香〕 2.吝嗇の．物おしみする〔11.省儉：嗇〕 3. Jibca（裏に毛皮をつた衣服）の表〔24.衣服三：皮襖面〕
Buribumbi 1.水中に沒する〔2.地輿十三：淹沒〕 2.毛皮に表を張らせる（Burimbi を見よ）〔24.剪縫二：使綳面〕 3.蒙らされる〔彙：被蒙着〕
Burimbi 物の表面に皮を張る．大鼓の皮を張る〔26.膠粘：鞔〕毛皮に表を張る（Jibca を作るため毛皮の裏に布を張ることをいふ）〔24.剪縫二：綳面〕
Burkimbi 埋葬する．葬る〔6.喪服一：下葬〕
Burtei 普く．全て〔18.完全：普遍〕
Burtuku jase 滿洲の邊疆名〔續2.地輿：布爾圖庫邊〕
Buru bara ぼんやり．薄ぼけて（見える）〔12.觀視二：渺茫〕うつとり（とする）〔彙：恍惚〕
Burubuha 消えた．あとかた無い〔彙：虹消之消．無踪無跡了〕
Buruhun 茫とした ばつきり見えぬ〔12.觀視二：看不眞切〕月の暗い〔彙：月暗〕
Burulabumbi 敗走させる．伐ち破る〔8.征伐六：使敗走〕
Burulambi 敗走する〔8.征伐六：敗走〕
Burulandumbi Burulanumbi 一齊に敗走する．衆共に敗走する〔8.征伐六：一齊敗走〕
Burulu 紅白の毛混り生えた馬〔31.馬匹毛片：紅沙馬〕
Busajaha 眼が潰れた．眼を怪我した〔16.殘缺：瞎了子〕
Busanggiyambi 共々に急いで探し尋ねる〔12.詳驗：共相急找〕

Buse da ゆりね〔27. 菜穀三：百合根〕
Busehe ilha ゆりのはな〔27. 菜穀三：百合花〕〔29. 花五：百合花〕
Busereku 言行粗野な人〔18. 鄙瑣：混賬人〕
Buserembi 1. 粗野な振舞ひをする. 粗雑な行爲に出る〔18. 鄙瑣：混賬行爲〕 2. 雞姦する. 男色する〔彙：雞姦〕
Bushenehebi 火傷して水腫れになつた〔16. 腫脹：燙成燎泡了〕
Bushenembi 火傷して水腫れを生ずる〔16. 腫脹：燙成燎泡〕
Busu busu agambi しとしとと雨が降る〔1. 天文五：細雨濛濛〕
Busubumbi 病氣がぶり反へす〔16. 疼痛三：病重落〕
Busumda ゆり〔27. 菜穀三：百合〕
Buša 更に多く〔25. 多寡一：多些〕
Bušakan 些さか多く. 僅かばかり多い〔25. 多寡一：略多些〕
Bušuhūn 齷齪で下賤な. 物をしみして賤しい〔18. 鄙瑣：齷齪下賤〕
Bušuku 狐の精〔19. 鬼怪：狐魅〕
— **dondon** ひとりむし〔32. 蟲三：撲燈蛾〕
— **yemji** 怪けもの. 憑きもの〔彙：妖魅〕
Bušukudembi 狐の精に取り憑かれる〔19. 鬼怪：使狐魅〕
Bušukulembi 妖法を行ふ. 怪しげな術を行ふ〔彙：作妖法〕
Buta 捕へよ. 網を打て〔彙：令捕. 令打〕
Butabumbi 網を打たせる. 罠をかけさせる〔22. 打牲：使打牲〕
Butalin 箭柄の端に取りつけた鐵片で, 矢筈の根元をさし込む所〔9. 製造軍器四：箭鐵信根〕
Butambi (鳥獸魚類を) 網や罠などを仕掛けて捕へる〔22. 打牲：打牲〕
Butan halan あーあー. 悔しい. 無念〔彙：追責嘆悔之詞〕
— **halan akū** 後悔する所ない. 無念がることない〔13. 悔嘆：有要無緊的〕
Butemji 陰險な(人)〔17. 奸邪：陰險〕
Buten 1. 山の麓〔2. 地輿四：山根〕 2. 着物の裾〔24. 衣服三：衣邊〕
Buterembi 1. 山麓に沿ふて行く〔彙：沿山根走〕 2. 着物の裾をつける〔彙：衣沿着邊兒〕
Butereme 山の麓傳ひに〔2. 地輿四：走山根〕
Butha 漁獵せよ〔22. 打牲：漁獵〕
Buthai niyalma 漁獵をする人. 獵師. 漁師〔10. 人三：打牲人〕
— **ulai hoton** 滿洲の地名〔續2. 地輿：打牲烏拉城〕
Buthašabumbi 漁獵に行かせる〔22. 打牲：使行漁獵〕
Buthašambi 漁獵に行く〔22. 打牲：行漁獵〕
Buthašara be kadalara fiyenten 內務府に屬し府屬武官職の銓選, 官兵の俸餉賞卹を檢閱する等のことを掌る役所〔20. 部院七：都虞司〕
Butu 暗い. 暗がりの. 暗くて見えぬ〔14. 隱顯：暗昧〕
— **hūlha** 兇器などを用ひず竊かに盜み取ること〔16. 竊奪：竊盜〕
— **sabirgi noho suje** 金絲を織り込まない緞子〔23. 布帛二：暗補緞〕
Butuha cibin 秋になつて山或ひは海岸の閑處に入蟄する燕〔30. 雀二：蟄燕〕
Butulebumbi 物の口に蓋をさせる〔14. 隱顯：使掩蓋物口〕へだて塞がせる. 垣して塞がせる〔21. 開閉：使堵塞〕
Butulembi 物の口に蓋をする. 口をおほう〔14. 隱顯：掩蓋物口〕へだて塞ぐ. 垣つくり塞ぐ〔21. 開閉：堵塞〕
Butumbi 冬眠する〔32. 龍蛇：入蟄〕
Butun 冬眠〔32. 龍蛇：蟄〕
Buturi 發疹. はしか〔16. 瘡膿一：熱斑疽〕
Butūn 罐〔25. 器用六：罐子〕
Buya 小さい. 細かい〔25. 大小：碎小〕氣の小さい. 小氣の〔18. 鄙瑣：小氣〕
— **juse** 十歳になるまでの小供〔10. 老少二：孩子〕
Buyakasi 小さい. 細かいもの〔25. 大

小：碎小的〕氣の小さい人．小氣の人〔18.鄙瑣：略小氣〕

Buyarambi びくびくする．氣の小さいことをする〔18.鄙瑣：行止小氣〕小さくする〔彙：小做小用小器之小．零星．雜碎〕

Buyarame 細々した．小さくした．零碎の〔25.大小：零碎〕

— **baita icihiyara boo** 道具類を調備する房．諸部院司廨館倉みなこの房あり〔20.部院三：火房〕

— **hacin i kunggeri** 木の課稅の帳面及び日除け蓆，飾懸物等をかける職人等の錢穀の帳面を收貯する役所．工部其他にこの役所あり〔補2.衙署四：雜科〕

— **hafan** 下級の官吏〔彙：雜職〕

— **jaka** 細々したもの．小さくしたもの〔彙：小什物兒〕

— **jujurame** びくびくおづおづして〔彙：小樣小氣乃言行小樣小氣也〕

— **sarkiyan** 題奏論旨などの寫しで，各役所に送つて讀ませるもの〔5.事務三：小抄〕

Buyebumbi 愛せしめる．大事にさせる．可愛いがらす〔13.愛惜：使愛〕

Buyecuke 可愛い．愛す可き（人に就いても物に就いてもいふ）〔13.愛惜：可愛〕

Buyecun 愛．愛情〔13.愛惜：愛欲〕

Buyembi 愛する〔13.愛惜：愛〕願ふ．欲する〔彙：願之．欲之〕

Buyen 願ひ．愛．欲〔13.愛惜：欲〕

— **ciha** 愛欲．欲望〔彙：私欲〕

— **cisui** 〔彙：與 Buyen ciha 同〕

Buyendumbi Buyenumbi 相愛する．一同共に愛する〔13.愛惜：共愛〕

Buyenin 性情．天性より出づるもの〔11.性情一：情〕

Buyeri 奇果の名．不周山に出で形は棗の如く，食へば饑えず〔補3.異樣果品一：不周山果〕

Buyerŝembi 際えきれぬ程望み想ふ．大いに羨慕する〔13.愛惜：羨慕〕

Būrtu kara 黑色の駿馬〔31.馬匹一：流騮〕

C

Ca 1. Sube に同じ．Sube ca と連用する〔10.人身七：筋〕 2. Cambi の命令形．天幕をはれ〔24.氈屋帳房：支帳房〕弓の弦をはれ〔彙：上弓之上，與 tabu 同〕

— **mangga** 强情な．ひねくれた〔18.鈍繆：難纏〕

Cabdara 1. 鬃の白い（馬）〔31.馬匹毛片：銀鬃馬〕 2. 羊に似た體で鬃の紅い奇獸〔補4.異獸一：葱韓〕

Cabgan suru 全身眞白の駿馬〔31.馬匹一：雪團花〕

Cabi 獸の下腹部の邊の毛皮〔24.皮革二：膆皮〕

Cabihan 魚釣のうき〔22.打牲器用二：跑釣漂兒〕

Cabumbi 天幕をはらせる．弓の弦をはらせる〔彙：使支搭．使上弓〕

Cacaraku いなごの一種．體は灰色で翅の內側が赤い〔32.蟲二：灰色蚱蜢〕

Cacari 布製の四角な天幕（垂れ幕のないもの）〔24.氈屋帳房：布涼棚〕

— **boo** 幕舍．四方布圍ひの天幕〔24.氈屋帳房：有墻布涼棚〕

Cacubumbi 神前に酒をふりそゝがせる〔6.筵宴：使灑酒祭天〕

Cacumbi 神前に酒をふりまく〔6.祭祀二：灑酒祭神〕（婚禮の宴席で酒肉を天に供へ幼時より婚約の花嫁が禱りながら）酒をふりまく〔6.筵宴：灑酒祭天〕血を滴らす〔彙：滴血之滴〕

Cada 絲をまきつけよ〔26.捻結：纏〕
Cadabumbi 絲をまきつけさせる．絲でからげさせる〔26.捻結：使纏繞〕
Cadambi (弓等の物の傷んだ個所に)絲をまきつける〔9.製造軍器一：勒綻處〕(鞭の尖に革のふさを)括りつける〔26.捻結：纏繞〕(鳥籠を作るのに)割り竹を組む〔彙：把竹篾子揷雀籠〕
Cafur cifur seme さらさらと．つるつると(食物の口あたりの滑かな形容)〔27.飲食四：食物滑溜〕
Cagaci 諸官廳の書記〔10.人二：供事〕
Cagan 書籍．書物〔7.書一：書籍〕
Cagatu ulhūma 白色の雉．Šeyeken ulhūma に同じ〔補4.鳥六：鶉〕
Cahar jakūn gūsa 太宗の時清に投降した察哈爾蒙古人を以て編成した八旗兵〔3.旗分佐領二：察哈爾八旗〕
Cahara 携帯用の水呑み碗〔25.器用三：椰瓢〕
Caharnahabi (馬が)水鼻汁を垂らした〔32.馬畜疾疾一：噴嚏〕
Cahin 1. 井桁(井の底より地表まで交錯して積上げた木)〔2.地輿八：井盤架〕 2. 廐．穀物倉の一區劃(倉内を幾つも板で仕切つた一仕切り)〔20.部院一：廐〕
— **i usin** 〔21.田地：井田〕
— **usin i hontoho** 官有井田と旗分の領地に關する事務を扱ふ役所．戸部に屬す〔20.部院三：井田科〕
Cahū 亂暴でお喋舌りの(女)．蓮葉な(女)〔17.暴虐：潑婦〕
Cahūšambi (婦人が)騒々しくお喋舌りをする〔17.暴虐：婦人撒潑〕
Cai 〔27.茶酒：茶〕
— **abdaha** 茶の葉〔彙：茶葉〕
— **abdaha i kunggeri** 安徽省より進獻する茶を收める等の事務を扱ふ役所．禮部に屬す〔補2.衙署二：茶科〕
— **i boo** 天子に進むる茶，乳，乾酪の類を調へる所〔20.部院八：茶房〕
— **i da** 官名．天子に進むる茶を調へる役人〔4.臣宰七：侍茶正〕
— **morin be kadalara yamun** 外蒲と茶馬を交易する事務を扱ふ役所〔20.部院九：茶馬司〕
— **nenden ilha** さゞんくわ．ひめつばきの花〔29.花一：茶梅花〕
— **taili** 茶盆〔25.器用三：茶盤〕
Caida 茶の煮出汁〔27.茶酒：茶湯〕
Caidu 一種の豆．之を煮て茶を飲む時に食ふ〔28.米穀二：茶豆〕
Caise 平打ち簪〔24.飾用物件：簪釵〕
Cak seme 1. きちんと(整列する)〔9.畋獵三：整齊貌〕しつかりと(包む．しばる)〔24.包裹：緊々的〕 2. ひしひしと(寒い)〔彙：很冷貌．烈々〕
— **sere beikuwen** 至つて寒い．ひしひしと寒い〔2.時令八：嚴寒〕
Cakcahūn 弓が短くて充分に引き絞れぬ〔9.製造軍器二：弓挺〕
Cakcin 數の單位．Teribun (垓)の十倍〔7.數目二：壤〕
Cakilgatu kuluk 兩後腿の毛並に日月の如く捲毛のある駿馬〔31.馬匹一：步影〕
Cakiri 1. 狐や貂等の毛皮の白毛の雜つたもの〔24.皮革一：銀針毛〕 2. (飯が)半煮えの．しんのある〔28.生熟：飯夾生〕
— **damin** 鷲の類．黑，白，暗紅の三色の毛の雜つたもの〔30.鳥三：花白鵰〕
— **šongkon** 鷹の類．頭に白斑あり背と翼は黑と白の毛が雜つたもの〔30.鳥四：蘆花海靑〕
Cakjakabi 積雪の表面が堅く凍つた〔1.天文六：雪面堅凍〕
Caksaha Saksaha (喜鵲)の別名〔補4.鳥八：音干〕
Caksikū 銅製の打樂器．鉞の大形のもの〔7.樂器一：鐃〕
— **ucun amba kumun** 音樂の名．天子の行幸，獻俘，閱武の際に奏する〔7.樂一：鐃歌大樂〕
— **ucun narhūn kumun** 凱旋將軍に宴を賜ふ時に奏する音樂の名〔7.樂一：鐃歌淸樂〕
Caksimbi 1. 鐃鉞等をたゝく〔7.樂三：拍鉞〕 2. 聲を立てゝ感嘆する〔12.稱奬：歎聲美聲〕 3. (かさゝぎが)噪る〔14.聲響六：喜鵲噪〕 4. 骨節が

痛む〔16. 疼痛二：骨節疼〕 5. 石の駒(Page)を投げる（先づ一人が駒を遠く投げ，別の者がそれに向つて投げて，中れば其駒をとり，其處から別の駒を又遠くに投げてそれにあてさせる遊び）〔19. 賭戯：打遠馬兒〕

Cakū 1. 頸の白い犬〔31. 諸畜二：白頸子狗〕 2. 頸の白い鳥．（鳥の）頸が白い〔彙：頸白老鴉之頸白〕

Cakūha Saksaha の別名〔補4. 鳥八：飛鼠鳥〕

Cakūlu cecike 嘴黒く頭項の白い小鳥〔30. 雀五：白頭郎〕

— **honggon cecike** Honggon cecike（金鈴）より小さく頭が淡黄で頸に白毛のある小鳥〔補4. 雀四：白頭金鈴〕

— **kiongguhe** 扁建產のひわ類の鳥．項が白く黄毛あり翅と尾は黒色で端が白い〔補4. 鳥八：白哥〕

— **kurehu** 項の白いけらつゝき〔30. 雀一：白頭喙木〕

Cakūlun 烏の類，體黒く頸のまはりに白い圈がある〔補4. 鳥九：白頸〕

Cakūltu cecike むくどり〔30. 雀五：白頭翁〕

Cakūran をのをれかんば．みねばり．（材質の堅い木．木材を種々に利用する）〔29. 樹木四：樟木〕

Cakūri hiyan 檀香．白檀，黄檀の木を細く割つた香〔6. 祭祀器用一：檀香〕

Cala 1. Cargi に同じ〔2. 地輿十四：那邊〕 2. 先年．數年前〔彙：幾年已前〕

Calabuha 間違つた〔彙：差錯了〕

Calabumbi 間違ふ．間違をやる．錯誤を犯す〔17. 過失：致外錯〕

Calabun 過失．錯誤〔17. 過失：外錯〕

Calaburakū 間違はない〔彙：不得差〕

Calambi 相違する〔17. 過失：差錯〕

Calcin 春に氷の上を流れる水〔2. 時令九：淹凌水〕

Calfa Alan に同じ〔29. 樹木八：樺皮〕

Calgari 念をいれぬ．不注意な．迂濶な．間の抜けた〔17. 怠慢迂疏：迂濶〕

Calgibumbi 1. 小波に岸が洗はれる．〔彙：被風吹河水推岸〕 2. 器に容れた水を搖りこぼす〔彙：使把盛于器內之物擧起搖動或弄撥或撒〕

Calgimbi 風の爲に河水が漾ふ．小波が岸を洗ふ〔2. 地輿十：水況出〕水が零れる．器が搖れて水がこぼれる〔28. 潑潑．水況出〕

Calgin 1. 漣〔2. 地輿十：水況〕 2. 河岸の緩い勾配．傾斜の緩い土堤〔2. 地輿十一：河岸堤坡〕

Calihabi 暑氣にあたつた〔15. 疲倦：熱極了〕

Calihūn 雀に似て頭が紅く體は栗色の小鳥〔30. 雀四：朱頂紅〕

Calimbi 暑氣にあたる〔15. 疲倦：熱極〕（馬等が）疲勞の餘り倒れる〔32. 馬畜殘疾一：乏透〕

Caliyan 軍用の錢と糧米〔4. 臣宰十四：錢糧〕

— **i boo** 修書處に屬する役所．匠人工人に給する銀を庫より出して調へる所〔補2. 衙署六：錢糧房〕

— **i fiyenten** 盛京戶部の俸錄，錢糧等の事を掌管する役所〔20. 部院九：經會司〕

— **i kunggeri** 一司の人頭稅，兵馬の錢糧等の事を扱ふ處．戶部に屬す〔補2. 衙署二：金科〕

Caliyangga šusai 給費を受ける生員．廩膳生員．即ち生員の廩錄を給せられる者〔4. 臣宰十一：廩生〕

Calmahūn 餘巍山に出る兎身鳥喙蛇尾の奇獸〔補4. 異獸三：九徐〕

Calmari gurgu Calmahūn の別名〔補4. 異獸三：徐獸〕

Calu 米倉．穀物倉．政府の米倉（一倉を數個乃至百餘の Cahin 廠に區分する）〔20. 部院一：倉〕

— **cahin i baita be uheri kadalara yamun** 京師及通州に在る諸官倉の事務を總管する役所．戶部に屬す〔20. 部院三：總督倉場衙門〕

— **i kunggeri** 一司の錢糧，繕造所への支給等の事務を扱ふ役所．戶部に屬す〔補2. 衙署二：倉科〕

Calungga bele 倉に積んであつた舊米〔28. 米穀一：倉米〕

Cambi 1. (Yoro, Kacilan 等の尖の鋭くない矢が) 物に中つてはね上る〔8. 歩射二：箭扛起〕 2. 弓に弦をはる (Tabumbi に同じ)〔9. 製造軍器一：上弓〕 3. 天幕をはる. 蒙古包をたてる〔24. 氈屋帳房：支起帳房〕 4. 馬がはやる. いきり立つ. 止めやうとしても止らぬ〔31. 馬匹馳走二：跑震〕

Camci 婦人が Sijigiyan (袍) の下に着るもの. Juyen より稍長い〔24. 衣服一：襯衣〕

Camda 1. もや〔1. 天文七：靄氣〕 2. 皮襯. 牛等の皮で作つた蓋つきの長櫃〔25. 器用一：皮櫃〕

Came gecehe (河, 池が) 一夜の内に急に凍つた〔2. 時令九：忽然凍殺〕

Camhan 街上や門口に立てた門. 牌坊〔19. 街道：牌樓〕

Camhata 馬等の毛並に斑點のあるもの. 連錢の馬〔31. 馬匹毛片：點子馬〕

Camnambi (猛禽が獲物を襲つて失敗し) 更に摑みなほす〔30. 飛禽動息二：復抓住〕

Camsi 日除け幕や飾懸物をかける職人〔10. 人二：搭綵匠〕

Can 1. 銅鑼に似た打樂器〔7. 樂器一：金〕 2. 口が寬く底の窄い小さな椀. 小鉢〔25. 器用二：小撇椀〕

— **nimaha** Duwara (すゞき) や Akiya (あゆ) に似た淡水魚. 此魚の肝は珍重せらる〔32. 河魚二：龍肝魚〕

Cananggi 1. 一昨日. おとゝひ〔2. 時令六：前日〕 2. 前者. さきの者〔彙：前者〕

Cang cang ちやんちやん. かんかん (鐘の音)〔14. 聲響三：鐘聲〕

— **cing** ちやんちん. ちやらんちりん (鐘と磬の鳴る音)〔14. 聲響三：鐘磬聲〕

— **seme** 1. びーんと (強く張つた弓弦を彈く音)〔8. 歩射二：彈硬弓弦聲〕 2. かんかんに. こちこちに〔28. 軟硬：很硬〕

— **seme gecehe** かんかんに氷がはつた〔2. 時令九：氷凍結實〕

Cangga 鉦. たゝきがね (一種の打樂器)〔7. 樂器一：鉦〕

Canggali 辛抱がない. 疲れ易い (人)〔15. 疲倦：不耐乏〕

Canggalimbi 疲勞する. へとへとになる〔15. 疲倦：肯乏〕

Canggi (他のものはなくて) たゞ……ばかり. …あるのみ〔18. 散語六：純是〕〔25. 多寡二：純是〕

Cangka 1. (Cambi の過去形) はね上つた〔8. 歩射二：扛起去了〕 2. 眼, 鼻の赤い白馬〔31. 馬匹毛片：燒嘴燒眼〕

Cangkai 一徹な. 强情な. (一旦云ひ出したら後へひかぬのを Cangkai tuttu と云ふ)〔18. 鈍蠢：只管〕

Cangkambi Tangkambi に同じ〔22. 打牲器用二：撞石擊氷震小魚〕

Cangkir niongniyaha 青海地方に産する一種の雁〔30. 鳥二：灰雁〕

Canjurabumbi お辭儀をさせる. 挨拶をさせる〔6. 禮拜：使作揖〕

Canjurambi 揖禮を行ふ. お辭儀をする. 挨拶をする〔6. 禮拜：作揖〕

Cao seme まつしぐらに. わき目もふらずに〔14. 行走四：徑直行〕

Car cir 1. ちりぢり. ちゅーちゅー (肉の燒け, 焦げる音)〔14. 聲響四：炒肉燒肉聲〕 2. づきづきと. ひりひりと (傷の痛む形容)〔16. 疼痛二：破處疼〕

Car seme 1. 一氣に. まつしぐらに〔14. 行走四：一氣跑去〕 2. ひりひりと. ひりひりと (火傷や創傷の痛む形容)〔16. 疼痛二：燒的疼〕

Cara 1. 金, 銀, 錫製の高杯〔25. 器用三：酒海〕 2. Cangka (2) に同じ〔31. 馬匹毛片：燒嘴燒眼〕

— **aniya** 一昨年〔2. 時令四：前年〕

— **ihan** 斑點のある牛〔32. 牛：豹花牛〕

Caranahabi 1. しろなまづが生じた〔11. 容貌一：白癜風〕 2. 若白髪の生えた〔11. 容貌八：天老〕

Carcinahabi 1. 細長く凍つた. 氷が一筋一筋凍つた〔2. 時令九：氷凍成縷〕 2. 水腫が生じた. 水腫れになつた〔16. 腫脹：起漿漿泡〕

Cargi 1. 彼方. あちら〔2. 地輿十四：那邊〕 2. 先に. …より以前に. …の前に

〔彙：已前〕 3. 花火をあげよ〔彙：令人放花砲〕

Cargi aniya 明後年. 再來年〔2. 時令四：後年〕

— **biya** 先々月. 前々月〔2. 時令五：前月〕

Cargilakū 花火. 打上げ花火. 花火玉〔19. 戲具二：花筒〕

Carki 一種の打樂器. 多くの牌の形をした木に紐を通したもの〔6. 祭祀器用二：札板〕〔7. 樂器三：柝板〕

— **tūmbi** Carki を打ち鳴らす〔7. 樂三：打札板〕

Carkidambi Carki tūmbi に同じ〔7. 樂三：打札板〕

Carkimbi 1. 物を云ふ時に二樣の聲を出す 2. (身に佩びた玉等が) ヂャラヂャラ音がする〔14. 聲響一：聲彷〕

Caru 油であげよ〔28. 燒炒：烹〕

Carubumbi 油であげさせる. 油でいためさせる〔28. 燒炒：使烹炸〕

Carumbi 油であげる. 油でいためる〔28. 燒炒：烹炸〕

Cas seme ふと. ぼんやりと (聞く). 聞くともなく (聞く)〔12. 聆會：恍忽聽見〕

Cashūlabumbi 1. 背中合せにならせる〔彙：使背脊. 背彼此不看背向之〕 2. 背かせる〔16. 叛逆：使背〕 背かれる〔彙：被背〕

Cashūlambi 1. 背中合せになる. 背を向ける〔14. 坐立二：背着〕 2. 背く. 叛く〔16. 叛逆：背〕

Cashūn edun 追風〔1. 天文七：背風〕

Casi 其處に. 其處へ. 其方に. 一寸其處に〔15. 留遣：往那邊些〕

— **akū ebsi akū** 進むでもなく退くでもない. 行くでもなく來るでもない.〔彙：莫往莫來〕

— **foro** 其方を向け〔彙：叫人臉身回向那裡〕

Casiba ilha 邊外の地に產する白い花の名〔補3. 異花五：長十八花〕

Casikan 一寸其方に. 一寸其處に〔15. 留遣：略往那邊些〕

Cata 數の單位. Mišun (載) の十倍〔7. 數目二：極〕

Ce 1. 彼等. 其等〔18. 爾我二：他們〕 2. 「册」の音譯. Abdangga fungnehen に同じ〔彙：册乃金葉黃紙上寫諸封〕

Cebke cabka 選り取りして厭さうに (食ふ)〔27. 飮食二：挑揀懶喫〕

Cece 紗〔23. 布帛四：紗〕

— **dardan** 紬緞の如く織つた紗〔23. 布帛四：紬紗〕

— **gecuheri** 蝣緞の如く織つた紗〔23. 布帛四：蝣紗〕

— **undurakū** 龍緞の如く織つた紗〔23. 布帛四：龍紗〕

Cecercuke 機嫌が悪い. 今にも憤激し出しさうな (人)〔15. 憎嫌二：很可惱〕

Cecerembi 1. (久しぶりに遇つて) かたく抱き合ふ〔15. 拿放：久別緊抱〕 2. (强弓を) 力をこめて引く〔彙：弓硬難拉〕

Ceceri 無地の絹織物〔23. 布帛四：絹〕

— **šošontu** 古制の頭巾. 形は冕に似る〔補1. 古冠冕三：帢〕

Ceceršembi 强弓を手を震はせて一生懸命引き絞る〔8. 步射二：拉硬弓費力貌〕 怒つて手足をうち震はす.〔13. 怒惱：氣的打戰〕

Cecike 小鳥〔30. 雀一：雀〕

— **be fulgiyere sihan** Cecike fulgiyeku に同じ〔彙：吹筒乃吹雀鳥頑者〕

— **be latubure darhūwan** 小鳥を捕る鷓竿〔彙：粘竿子. 乃粘雀者〕

— **bocoi šošonggo mahala** 古制の冕. 冔冕に同じ. 雀の如き色のもの〔補1. 古冠冕二：雀弁〕

— **fulgiyeku** 吹き筒. 土の彈丸を吹き出して小鳥を捕る筒〔22. 打牲器用三：吹筒〕

— **mimi** すゞめあみ. あみのめ (野菜の名)〔27. 菜穀三：雀舌菜〕

— **tatara asu** 小鳥を捕へる網. かすみ網 (長さ十尋餘りの眼の細かな網. 小鳥が掛つた時は取りつけた針金をひくと網が閉ぢる仕掛のもの)〔22. 打牲器用三：拉雀網〕

Cecikelembi 親指と人差指で矢を番へて射る〔8. 步射一：二指捏扣射〕

Cehede hoton 地名〔續2. 地輿：徹赫德城〕
Cehun 食物が消化せずに腹にもたれること．胸苦しくなること〔16. 疾病二：胸膈發脹〕
Cejehen 船の曳き綱をつける板〔26. 船四：縴板〕
Cejeleku 立て襟のついた袖なしシャツ〔24. 衣服二：領衣〕
Cejen 胸．胸板〔10. 人身四：胸膛〕
— **anambi** 胸を張る．胸を反らす〔17. 驕矜：挺胸自大〕
— **telebumbi** 胸が痛む．胸の中が痛む〔16. 疼痛一：胸膈脹疼〕
Cekceri 銅製の深い小鍋〔25. 器用四：銅鋗子〕
Ceke 1. Gacuha (骨の駒) の上側の面〔19. 戲具一：稍兒〕 2. 猪鹿等の皮で作つた馬掛．皮製の短い羽織〔24. 衣服二：野獸皮馬褂〕
Cekemu ビロードの類の織物，厚いけばの立つた絨〔23. 布帛一：倭緞〕
Cekjehun 胸の高くはつた．胸の反つた．鳩胸の〔11. 容貌二：胸膛高〕
Ceku ぶらんこ〔19. 戲具二：鞦韆〕
Cekudembi 鞦韆に乗る．鞦韆遊びをする〔19. 戲具二：打鞦韆〕
Cele (煉瓦，石を) 鋪け〔彙：令人鋪磚石之鋪〕
Celebumbi 1. (遠路を戻り來つた後などに) 疲れが出る〔15. 疲倦：歇後轉乏〕 2. Celeku (一種の物指) で計らせる〔25. 量度：使拿五尺杆量〕 3. (煉瓦，石を) 鋪かせる〔彙：使鋪磚石〕
Celehe jugūn 宮中の中庭の中央の通路〔20. 宮殿：甬路〕
Celehen (宮殿の) 煉瓦，石を鋪いた中庭．宮殿の前面の土壇〔20. 宮殿：丹陛〕
— **i amba kumun** 宮中の常宴に皇帝の升座還宮に際し，又上朝の日には內外諸臣の謝恩拜謁に際して奏する音樂の名〔7. 樂一：丹陛大樂〕
— **i bolgonggo kumun** 宮中の大宴の時奏する諸音樂の總名〔7. 樂一：丹陛清樂〕
— **i hūwa** 宮中の庭．九重奥深き所の庭〔20. 宮殿：丹墀〕
Celeku 物指〔25. 量度：五尺杆〕壯丁の身長を計る物指〔彙：比壯丁的棍子〕
Celembi 1. ぐつたりと疲れる．困憊する〔16. 疼痛一：倦軟〕 2. Celeku で計る．物指で計る．長短高低を計る〔25. 量度：拿五尺杆量〕 3. 煉瓦や石を鋪く〔彙：地下鋪慢磚石〕
Celheri 宮殿の前面の石積みの土壇．基壇〔20. 壇廟：月臺〕
Celin 卷脚絆の類，靴の上部と股引の紐とを結びつける帶〔24. 靴襪：扯靴帶〕
Celmen 毛織物の表面のけば〔23. 布帛六：絨頭〕
Celmeri 華奢な．纖弱な〔11. 容貌二：窺窕〕
Cembe 彼等を．其等を〔18. 爾我二：把他們〕
Cen Cudu に同じ．「塵」の音譯〔彙：塵渺之塵〕
Cenci 彼等より．彼等に比べて〔18. 爾我二：比他們〕
Cende 1. 試驗せよ〔4. 考選：試〕 2. 彼等に．彼等の許に．彼等にとつて〔18. 爾我二：在他們〕
Cendebumbi 試みさせる．試驗させる〔4. 考選：使試看〕
Cendehe de sambi 量り知る．試みて知る．過たず知る〔彙：與 Enderakū sambi 同．估量就知〕
Cendeku sihan さし．こめさし．俵の中の米等をとり出して檢査するに用ひる筒〔22. 衡量一：探筒〕
Cendekušembi 知つてゐながら故意に訊ねる．知らぬ振りして故意に試問する〔17. 欺哄：明知故問〕
Cendembi 試みる．試驗する〔4. 考選：試看〕
Cendeme tuwacina 量つて見るがいい．試みて見たいものだ〔彙：估量着瞧是呢〕
Cendendumbi Cendenumbi 一齊に試驗する．同時に試驗する〔4. 考選：一齊試看〕
Cene Sodan ilha に同じ〔彙：芍藥花．乃

蒙古語. 與 Šodan ilha 同〕

Cengme Puru に同じ〔23. 布帛五：毳毸〕

Ceni 彼等の. 其等の〔18. 爾我二：他們的〕

Ceningge 彼等のもの. 其等のもの. 彼等のこと〔18. 爾我二：是他們的〕

Cerguwe 魚の卵〔32. 海魚二：魚子〕〔彙：與 Cerhuwe 同〕

— **waliyambi** 魚が卵を産む〔彙：魚等物下子〕

Cerhuwenehebi 瘡疱になつた〔16. 瘡膿一：惡指〕

Ceri うすぎぬ. うすはた〔23. 布帛四：羅〕

— **suje** 羅に似た厚い緞〔23. 布帛二：羅緞〕

Ceringge ilha がんぴの花. せんのうの花〔29. 花四：剪羅花〕

Cese 役所の帳簿. 事務帳簿〔5. 事務四：册子〕〔7. 書三：册子〕

— **i namun** 吏部に屬し中央地方官吏の昇進，任用の詮衡等の事務に携はる役所〔補2. 衙署一：册庫〕

Ci **1.** Si と同じ. 字と字の間の空處〔7. 書八：留空處〕 **2.** Si と同じ. 隊伍の間隔〔8. 征伐一：隊伍間處〕 **3.** ……より. ……から. ……よりも. ……に比べて. ……以來〔18. 散語六：從來〕 **4.** ……番目. ……回目〔彙：第幾之第〕 **5.** 「漆」の音譯. Šugin に同じ〔彙：漆物用之漆〕

Cib cab ひつそり. 蕭然. 何の物音もない〔18. 散語六：靜悄々〕

— **seme** **1.** ひゅーっと. 颯と（矢が目にも止らぬ程早く飛ぶ）〔8. 步射二：箭急貌〕 **2.** ひつそりと. 蕭然とした〔18. 散語六：悄然〕

Cibahanci 喇嘛の尼〔10. 人四：女喇嘛〕

Cibiha こくるまがらす. せんぢやうがらす〔補4. 鳥九：燕鳥〕

Cibin つばめ〔30. 雀二：紫燕〕

Cibingga kiongguhe はゝつちやうの一種. 形が燕に似たもの〔補4. 鳥八：燕八哥〕

Cibirgan 燕の類の小鳥の名〔30. 雀三：燕雀〕

Cibiri ilha 花の名. 莖は地面に匍匐し，春の末に黄色の花が咲く〔補3. 異花四：燕翁花〕

Cibsembi 靜まる. 蕭然とする〔18. 散語六：靜悄〕

Cibsen 靜かなること. 易經に云ふ「靜」，即ち陰〔7. 書五：靜〕

Cibsidambi 只管嗟嘆する〔13. 悔嘆：只是嗟嘆〕

Cibsimbi 嘆く. 嗟嘆する〔13. 悔嘆：嗟嘆〕

Cibsin 傷歎文〔7. 書三：歎〕

Cibsindumbi Cibsinumbi 共に嘆く. 一齊に嘆く〔13. 悔嘆：一齊嗟嘆〕

Cibsonggo 昭穆の穆. 廟の位次を示す語. 二世の先祖をいふ〔20. 境廟：穆〕

Cibtui 再三. 繰返し繰返し〔18. 完全：再三〕

Cibumbi （狹い所に）つまる. 溜る〔26. 寢決：擠住〕

Cici goci おづおづ. びくびく（進退谷まり長縮する）〔17. 懦弱一：長首長尾〕

Cicihar hoton 滿洲の地名〔續2. 地輿：齊齊哈爾城〕

Cifabumbi 壁，漆喰をぬらせる〔26. 砌苦：使抹泥〕

Cifaha 壁をぬつた〔彙：泥墁了〕

Cifahan これた壁土〔26. 砌苦：和的泥〕〔彙：與 Cifaha 同〕

Cifahangga aisin 金泥〔22. 貨財二：泥金〕

Cifambi 壁，漆喰等を塗る〔26. 砌苦：抹泥〕

Cifeleku 痰壺〔25. 器用八：吐沫盒〕

Cifelembi 唾を吐く〔10. 人身八：吐唾沫〕

Cifenggu 唾. 唾液〔10. 人身八：唾沫〕

Cifun 稅. 稅課〔5. 官差：稅〕

— **gaijara yamun** 稅を取る役所の汎稱〔20. 部院九：官課司〕

— **gaimbi** 稅をとる. 稅を課する〔彙：抽稅. 課稅〕

Cifuri niyehe Borboki niyehe の別名〔補4. 鳥七：泥鴨〕

Cigu niru 內府の漢人を以て編成した佐領〔3. 旗分佐領一：旗鼓佐領〕
Ciha 欲望. 願望. 欲する所の〔18. 散語六：任意〕〔彙：與 Cihan 同〕
Cihai 任意に. 思ふまゝに. 我儘な. 勝手な〔18. 散語六：任意〕
— **cihai** 思ふ儘に〔彙：陶陶〕
Cihakū 1. 厭々ながら. 欲しない〔15. 憎嫌二：不願意〕 2. 不快. 氣分がよくない〔16. 疾病一：不爽快〕
Cihalambi 1. 好む. 求める. 欲する. 心に思ふ〔13. 愛惜：嗜好〕 2. 他人の缺點を探す〔15. 侵犯：尋趁〕
Cihalan 望み. 好み〔13. 愛惜：嗜欲〕〔彙：與 Buyen cihalan 同〕
Cihalšambi 1. 只管求める. しきりに欲しがる〔13. 愛惜：乘勢〕 2. しきりに他人のあらを探す〔15. 侵犯：只管尋趁〕
Cihan buyen akū 欲しない. 乘氣にならぬ. 興味を持たぬ〔17. 懦弱一：無情趣〕
Cihangga 願ふ所の. 欲する所の〔13. 愛惜：情願〕
Cihe しらみ〔32. 蟲四：虱子〕
Cihetei 野生の騾〔31. 獸一：野騾〕
Cik 1. 句讀點〔7. 書八：句讀〕 2. ふと. 俄かに〔11. 性情一：忽想起〕
— **cak seme** べちゃべちゃと. ざわざわと〔彙：凄々差々〕
— **cik** 絕えず. 斷續して(想ふ). 時々に(想ひ起す)〔11. 性情一：不時的想〕
— **cik seme** 不安に. 陰氣に. 憂鬱に〔彙：慘々憂貌〕
— **cik seme gūnimbi** 時々に想ひ起す〔彙：忽然忽然常想〕
— **seme gūninaha** ふと思ひついた〔彙：忽然想起了〕
Cikeku 稻, 草等の葉の一本〔29. 草四：席箕子〕
Cikešembi 馬等の脚に小さい瘤が生ずる (Nikešembi より輕い)〔32. 馬畜殘疾二：略點〕
Cikiha ぴったり欲つた〔26. 裁砍：合榫〕
Cikin 河の邊〔2. 地輿十一：河崖〕物の緣〔彙：凡物之沿兒〕
Cikingge fu 土や煉瓦で築いた低い圍墻〔20. 墻廟：坎墻〕
Cikirakū きちんと欲らぬ〔26. 裁砍：不合榫〕
Cikirame 河沿ひに. 河岸に沿つて〔2. 地輿十一：沿河崖〕緣に沿つて. 沿邊を通つて〔彙：順沿走卽 Cikirame yabumbi 也〕靴底の緣に沿つて〔彙：順靴鞋底邊兒〕
Cikirhū 尸胡山に出る奇獸. 形は Suwa に似て魚目のもの〔補4. 異獸三：蛩胡〕
Cikiri 1. 鉋屑〔29. 樹木十：鉋花〕 2. 眼珠の白い犬〔31. 諸畜二：玉眼狗〕白藍の眼の馬〔31. 馬匹毛片：玉眼〕 3. 白毛雜りの(毛皮). 白い雜り毛〔彙：皮張內的白珍珠毛〕
— **dobihi** 黑毛に白毛の雜つた狐の毛皮〔24. 皮革一：白毛梢黑狐皮〕
— **niyehe** 眼頭に一塊の白い羽毛のある野鴨, 形は Dudu niyehe に似る〔30. 鳥八：玉眼鴨〕
Cikiršambi (婦人が) はにかむ. はぢらふ〔17. 羞愧：婦女面覩〕
Cikjalahabi 土中で芽を出した〔21. 農工二：土內發芽〕
Ciksika 1. 壯年に達した〔10. 老少二：年壯〕 2. 生長した. 成育した〔彙：與 Ciksikabi 同；凡物長々大了〕 3. 實を結んだ〔彙：五谷菜子結實了〕
Ciksikabi 1. 筋骨の發育した. 成育し切つた〔10. 老少二：筋骨長足〕 2. 稔つた. 生育した〔21. 農工二：長足了〕
Ciksimbi 1. (植物が)稔る. 生育する. 成熟する〔21. 農工二：長足〕 2. (人が)發育する. 成長する. 壯年に達する. 成人する〔彙：人筋骨很硬長定〕
Ciksin 壯年の(人). 三四十歲前後の(人)〔10. 老少二：壯年〕
Ciktan 倫常. 人の常道. 道理. Giyan に同じ.〔11. 仁義：倫〕
Ciktaraka 1. 富裕な. 家具の揃つた. 繁昌した〔11. 富裕：便當〕 2. 繁茂した〔彙：滋蔓〕
Cikten 1. 幹. 莖〔29. 樹木八：幹〕 2. 干 (干支の干)〔2. 時令一：干〕 3. 矢

柄. 矢竹〔彙：箭桿子〕
Cikteneme 莖に沿つて. 莖の上に〔彙：順着莖〕
Cilba 兩人同名〔12. 名辭：同名〕
Cilburi Yarfun に同じ〔9. 鞍轡二：偏韁〕
Cilcika 潮が滿ちた〔2. 地輿七：潮來〕
Cilcin 1. 瘰癧. 頸等に生じた肉核〔10. 人身七：肉核〕 2. 馬のあごの下に生じた肉核〔32. 馬畜殘疾一：槽口搭搭〕
— **akū** 明快な. 手際のよい. 言語明晰な. 文章の達者な. 器用な〔11. 德藝：無肱星〕
Cilcinahabi 瘰癧が出來た〔16. 腫脹：生了瘰癧〕
Cilebumbi 漆を塗らせる〔彙：使漆〕
Cilembi 漆を塗る. Šugilembi に同じ〔彙：凡物上用漆之〕
Cilikū 食物が咽喉につかへる事〔16. 疾病一：噎膈〕〔彙：與 Cilikū mimeku 同〕
Cilimbi 食物が咽喉につかへる. むせる〔27. 飲食二：噎住〕
Cimaha Cimari に同じ〔2. 時令六：明朝〕
Cimari 1. 明日. 翌日. 明朝〔2. 時令六：明日〕 2. 朝. 早朝 3. Emu cimari を見よ.
— **erde** 明け方. 明朝〔彙：清晨. 明早. 清早〕
Cimaridari 每朝々々. 朝な朝な〔2. 時令六：每日早晨〕
Cimarilame 早朝に. 明けがた頃に〔2. 時令七：傍早〕
Cime ますに似た魚. 東海より河を上つて來る. 雄を Niyekji, 雌を Muhuru と云ふ〔32. 河魚三：鱒鮇魚〕
Cimeke giranggi 1. 豚の Lobo (背式骨) より下の骨の總稱. 此の骨を小布で包み女兒の玩具とする 2. 獸の蹄の中の小骨〔27. 皷肉二：附筋骨〕
Cimikū 嬰兒に呑ませる人工乳の容器〔13. 生產：喂的假乳〕
Cimilan 鹿を呼ぶ爲の吸つて鳴らす呼子〔22. 打牲器用四：倒吸哨子〕
Cimkišame (一向に味はひなく) 僅かに箸をつけ〔27. 飲食二：帶喫不喫〕
Cin 1. 正面 (の). 南面 (の)〔2. 地輿十四：正面〕 2. 白鵞 Šanyan weijun に似た水鳥〔30. 鳥二：鴈鵞〕
— **i boo** 正面の母屋. 南面して建てた棟〔21. 室家一：正房〕
— **i duka** 〔20. 宮殿：正門〕
Cincila、つぶさに見よ〔12. 觀視一：使詳看〕
Cincilabumbi つぶさに見させる〔12. 觀視一：使詳細看〕
Cincilambi 仔細に看る. つぶさに見る〔12. 觀視一：詳細看〕
Cindahan 大兎 (密林中に棲み, 冬に毛が甚だ白くなる)〔31. 獸六：天馬〕
— **cabi** 大兎の下腹部の毛皮〔24. 皮革二：天馬皮膝〕
Cing cang かちんかちん (氷に穴をあける音)〔14. 聲響四：鑿氷聲〕
— **k'o muji** 青稞麥. Murfa に同じ. 大麥の一種〔彙：西邊寒處種的大麥. 如今中國甚多〕
— **seme** しゅつと. ぱつと (火がつく)〔23. 烟火三：火著起〕
— **seme banjimbi** 裕福に暮す〔11. 富裕：儘過得〕
— **seme daha** ぱつと火がついた〔彙：火驟然燃着了〕
Cinggilakū 鈴. 鈴鐸. 僧が手に持つて振り鳴らす鈴〔19. 佛二：鑒鈴〕
Cinggiri ilha つりがねさう (桔梗科)〔補3. 異花三：紫鐸花〕
Cinggiya 1. 心の狹い (人)〔17. 懦弱二：鼠淺〕 2. さう遠いとは思はぬ. 實際の距離ほどには感ぜぬ〔19. 街道：路不覺遠〕 3. 不充分な. 不足した〔彙：分兒短之短〕
Cinggiyakan 稍々窄い〔彙：略窄〕
Cingiri 了哥 (Cinjiri 九官鳥) の別名〔補4. 鳥八：秦吉了〕
Cingkabumbi 一杯につめこまれる〔彙：被飽塞〕
Cingkai はるかに (異る). 相違が甚しい〔25. 同異：迥然〕
Cingkambi 1. 貂鼠, 狐, 狸の毛皮を剝ぎとつて, 草や木を腹中につめこむ〔24. 熟皮革：揑皮〕 2. 器に充たす. 一

杯に容れる〔彙：凡器皿内満々塡塞之〕 3. 腹一杯につめこむ〔彙：吃的很飽了. 即 Cingkame jeke 也〕

Cingkame 腹一杯につめこんで〔27. 飲食三：喫的撐住〕

Cingkašame 一杯に盛り上げて〔22. 衡量二：盛實着〕

Cingkatala 一杯になるまで〔彙：至于塡塞〕

Cingnembi 矢筈 (Surbejen) を矢柄に挿込み膠でつける〔9. 製造軍器三：下鰾安筒信子〕

Cinjiri 九官鳥〔30. 鳥九：了哥〕

Cinuhūlambi 矢筈の溝 (Wen) に朱を塗る〔9. 製造軍器三：點眼硃扣〕

Cinuhūn 朱. 朱錠〔22. 貨財二：銀硃〕

— **i araha bukdarun** 郷, 會試の答案を朱寫して審査用に充つるもの. (受驗者の筆跡をかくす爲に斯くする)〔7. 書六：硃巻〕

Cinurgan 雀に似て頭, 背が黒く硃砂の如き赤い毛のある小鳥〔補4. 雀三：朱衣燕〕

Cir seme 1. ちょろちょろと. しゅーしゅーと (小さな孔や裂け目より水の湧き出る形容)〔2. 地輿十一：水從石縫直射〕 2. すたすたと. さつさと〔14. 行走四：走的平穩急狀〕

— **seme hūdun** すたすたと. さつさと〔彙：平々走的快〕

Cira 1. 血色. 顔色. 面持〔11. 容貌七：氣色〕 2. (角力で) 隙のない. 一歩も譲らぬ〔8. 撹跤二：嚴密〕 3. 固い (結び目が). かたく. しっかり. きちんと〔26. 捻結：捻的緊〕 4. 強壯な (馬)〔31. 馬匹三：強壯〕 5. Angga cira に同じ〔彙：馬嘴硬之硬〕

— **aljaha** 顔色が變つた (怒り又は驚きの爲に)〔11. 容貌七：氣色變了〕

— **elheken oho** 顔に突然怒氣を現した. 氣色立つた〔11. 容貌七：面有嗔色〕

— **feherekebi** 顔色が怫然となつた (Munahūn よりも怒が大きいのを云ふ)〔11. 容貌七：氣色憤懣〕

— **mangga** 色難し (論語爲政篇に見える語)〔11. 孝養：色難〕

— **sindaha** 顔色の晴々した. 顔が福福とした〔11. 容貌七：氣色開展〕

— **takara niyalma** 人相を觀る人〔10. 人四：相面人〕

Ciralabumbi 警戒を嚴重にさせる〔8. 防守：使嚴禁〕

Ciralambi 警戒を嚴重にする. 守りを固くする. 嚴にする〔8. 防守；嚴禁〕

Cirangga ……なる顔色の〔11. 容貌七：氣色的〕

Circan 〔22. 貨財二：磚陀僧〕

Cirgabukū miyoocan 空氣銃〔9. 軍器七：風鎗〕

Cirgabumbi 水が堰き止められる〔2. 地輿十：水壅住〕 (息が) つまる〔彙：閉住氣之閉〕

Cirgashūn 1. 身體のかじまつた (人). せむし〔16. 殘缺：身子發縮〕 2. 鷹揚でない (人). こせついた〔彙：凡無寬裕者〕

Cirge 土を搗き固めよ〔彙：令人杭築磚之杭〕

Cirgebumbi 1. 土を搗き固めさせる〔26. 砌筈：使打夯〕 2. 弓弦を外させる〔彙：使卸弓〕

Cirgeku 1. 搗子. 撞槌 (土塀等をつき固める道具, 丸太の下端がラッパ狀に擴がつたもの)〔22. 工匠器用二：夯〕 2. 棚杖. こみや〔9. 軍器七：鎗探子〕

Cirgembi 1. 弓の弦を外す〔9. 製造軍器一：卸〕 2. 土を搗き固める〔26. 砌筈：打夯〕

Cirhūbumbi 1. 弓をひき絞つて又もどさせる〔8. 步射二：致拉滿又退回〕 2. 話させる〔彙：說〕

Cirhūmbi 1. 弓を引絞つて又もどす〔8. 步射二：拉滿又退回〕 2. 話す〔彙：說〕

Cirku 枕〔24. 鋪蓋：枕頭〕

— **hengke** とうぐわ. かもうり〔27. 菜蔬二：冬瓜〕

— **moo** 1. 門の閾の枕木. 閾の下の兩端に横たへた木〔21. 室家二：門枕木〕 2. Sihiyahū に同じ〔彙：枕木上的圓眼窩, 即 Sihiyahū 也〕

— **wehe** 門の閾の兩端の枕石〔彙：門

樞兩邊橫放的石枕〕

Cirubumbi 枕にさせる．よりかゝらせる〔24.鋪蓋：使枕〕

Cirumbi 枕にする．頭をのせる．物の上に倚りかゝる〔24.鋪蓋：枕〕

Cise 畑．菜園．Iri に同し（「畦子」の音譯）〔彙：種菜地〕

Cistan 奏本の出語（Toktobure gisun）の所に挟む厚紙の条〔5.事務二：看語條〕

Cisu akū 私心がない〔11.忠清：無私〕

— **baita**〔5.事務一：私事〕〔彙：與 Cisui baita 同〕

Cisudembi 私情に依り行動する．私情に囚はれる〔5.詞訟二：狥私〕

Cisui 私の．勝手の．獨自の．自己の〔彙：私．自然．卽 Ini cisui 也〕

— **boji** 不動產，奴婢の賣買の時に賣主より出した證文（官印のないもの）〔22.貿易一：白契〕

Cisulembi Cisudembi に同じ〔5.詞訟二：狥私〕

Ciyalibumbi（喧嘩して）頭髪を摑ませる〔5.爭鬪二：使採頭髮〕頭髪を摑まれる〔彙：被揪髮相打〕

Ciyalimbi（喧嘩して相手の）頭髪を摑む〔5.爭鬪二：採頭髮〕

Ciyalindumbi 互に頭髪を摑んで毆り合ふ〔彙：彼此齊揪髮相打〕

Ciyanliyang（「錢糧」の音譯）Caliyan に同じ〔彙：錢糧．乃給兵馬者〕

Cob ポツカリと（一旦水に沈んで又浮び出る形容）．屹然．屹々と（峯のそばだつた形容）〔18.散語六：突出貌〕嶄然（衆よりぬきん出た形容）〔彙：從衆人之中一人超群獨出．卽 Cob seme tucike 也〕

— **seme** ポッカリと（浮び出る）〔14.隱顯：物沈水冒出〕嶄然（他人より先んじた）〔14.行走四：突出〕

Cobalabumbi こぢ起させる〔15.搖動：使撬起〕

Cobalambi（挺子で）こぢる．こぢ起す．挺子で動かす〔15.搖動：撬起〕

Coban 挺子〔22.工匠器用三：千金〕

Cobangga gin はねつるべ式に重い物を吊し上げる仕掛になつた道具〔22.工匠器用三：天秤〕

Cobdaha sungkeri ilha 花の名．形は蘭に似て色は紫，香のないもの〔29.花一：箬蘭〕

Cobolan 鵂鳥（Yabulan）の別名〔補4.鳥四：鵂鶹〕

Cobto 逃れて．捕まらずに〔14.行走一：跑脫了〕

— **cobto** ぼろぼろ．方々孔のあいた〔25.破壞：處處破爛〕

Cobtojombi 衣服に穴があく．ぼろぼろに破れる〔25.孔裂：衣刮破〕

Cocarambi 1.戰陣で勝手に先驅けをする〔8.征伐六：不聽令亂進〕2.規律をやぶる．秩序を紊す〔18.兇惡二：破壞事體〕

Coco 陰莖〔彙：陽物〕

Codoli 1.見栄を張つた（人）．意大ぶつた（人）〔17.驕矜：輕狂〕2.逞り立つた（馬）〔31.馬匹三：猖狂〕

Cohombi 長官に任命する〔4.陞轉：擬正〕

Cohome 1. Cohotoi に同じ〔14.言論一：特意〕2.長官に爲し．正位の〔彙：放官正陪之正．正陪卽 Cohome adabume 也〕

Cohonggo kingken 石製の打樂器．（十二個の石より成り，其の音律が十二支に應ずるもの）〔7.樂器一：特磬〕

Cohoro 毛並に豹の如き斑點のある馬〔31.馬匹毛片：豹花〕

Cohoto 眞鍮，錫等で作り叉をつけ，指で抓んで投げる玩具〔19.戲具一：銅錫餠子〕

Cohotoi 特に．特別に．專ら〔14.言論一：特意〕

Cokcihiyan 頂き．頂上〔2.地輿五：頂〕

Cokcohon 直立した．高く突出した．高くそゝり立つた〔2.地輿五：直竪〕

— **godohon** 高く聳え立つた〔彙：漸々山高峻貌〕

Coki 額の高く出た．出額の〔10.人身一：前奔顱〕

Cokimbi（矢等を）地につき立てる〔9.製造軍器三：插箭〕

Coko にはとり〔31. 諸畜三：雞〕酉（十二支の）〔2. 時令一：酉〕
— **biya** 酉の月. 陰暦八月〔補1. 時令一：酉〕
— **ilha** いぬごまの花〔29. 花五：雞蘇花〕
— **megu** Coko sence に同じ〔彙：糞土壓的朽木生的磨姑頂白裡黑者〕
— **nakambi** （日が暮れて）雞が止り木に止る〔31. 牲畜孳生：雞上架〕
— **sence** 糞土に埋まつた朽木に生ずる一種の茸. かさが淡白で内部は黒い〔27. 菜蔬二：鷄腿蘑〕
— **umagan i toholiyo** 雞卵，蜜，砂糖を糯米の粉とまぜ，核桃の餡をいれて豚の油で揚げたもの〔彙：雞蛋蜜白糖和糯鉢米麵放核桃餡猪油札的麵食〕
Cokonggo aniya 酉年〔補1. 時令一：作噩〕
Cokto 驕慢（な）〔17. 驕矜：驕〕
Coktolombi 驕る. 傲慢に振舞ふ〔17. 驕矜：驕傲〕
Cola 煎れ〔28. 燒炒：炒〕
Colabumbi 煎らせる〔28. 燒炒：使煎炒〕
Colambi 煎る. 炒る. 醤油で味をつけ，煮立てゝ攪攙ぜる〔28. 燒炒：煎炒〕
Colgogan fulan Ainugan aiman（地名）より産する青毛の駿馬〔31. 馬匹一：超洱驄〕
Colgoroko 聳え立つた. 高くつき出た〔2. 地輿五：超出〕群を抽んでた〔彙：超群〕
Colgorokobi 群を抽んでた〔11. 德藝：超群〕
Colho moo あづき〔29. 樹木二：梓木〕
Colhon 山の峰. 山巓〔2. 地輿五：高峰尖〕
Colhoroko 〔彙：Colgoroko 同〕
Colhorokongge 群を抽んでた（もの）. 抜群の（もの）〔彙：出類的. 超群的〕
Colhoron 沂山，霍山，醫巫閭山，會稽山の四山〔2. 地輿三：鎮〕
Colibumbi 彫刻させる. 彔らせる〔26. 雕刻：使雕〕
Coliha umiyahangga fukjingga hergen 魯の秋胡の妻の考案に成るといふ漢字の書體の名，形が蠶に似たもの〔補1. 書三：雕蟲篆〕
Colikū 彫刻用の小刀. 五寸許りの扁平な鐵の尖に刃を斜めにつけたもの〔22. 工匠器用二：劃刀〕
Colimbi 彫刻する. 雕琢する. 彔る〔26. 雕刻：雕〕
Colkon 大波〔2. 地輿九：大浪〕
— **cecike** 背が黒く嘴長く松の實を食ふ小鳥〔30. 雀五：長喙鳥〕
Colo 號. 稱號. 別號〔12. 名爵：號〕
— **bumbi** （天子が臣下に對して）稱號を與へる〔彙：賜號〕
Coman 大盃. 口の開いた小碗〔25. 器用三：大酒盃〕
Comari ilha くちなしの花〔29. 花三：梔子花〕
Comboli 1. 脇腹（人の）〔10. 人身五：脇下軟處〕 2. 脇腹（馬等の）〔彙：馬軟肷〕
Comlimbi 幾重にも裏うちした紙に透し彫りをする〔26. 雕刻：剡〕
Conggai しぎ鷸の小鳥. Cunggai と同じ〔彙：雀名似 Yaksargan 略大些長生的蛋有鷰蛋大〕
Conggiri 打樂器の名. 眞鍮製で椀の形をして居り，之を兩手に持つて撃ち合はす〔7. 樂器一：星〕
Congkibumbi 1. 鶉を鬪はせる〔彙：鬪鵪鶉之鬪〕 2. 杵で搗かせる〔彙：使舂米穀〕
Congkimbi 1. （餌を）啄む. 嘴でつゝく〔30. 飛禽動息一：啄〕（鳥が鬪つて）嘴でつゝきあふ.（うづらが）つゝき合ふ〔彙：鳥雀等物鬪嘴相咬. 鵪鶉鬪〕 2. 杵で搗く〔彙：手舂米穀〕
Congkiri gūwasihiya 鷫鸘（Gūwasihiya）の別名〔補4. 鳥二：獨舂〕
Congkišakū 〔21. 農器：杵〕
Congkišambi 1. しきりに啄む. せつせと啄む〔30. 飛禽動息一：啄食〕 2. しきりに杵で搗く〔21. 碾磨：擣米〕
Contoho 土塀，土堤等の上の小さな崩れ穴〔25. 孔裂：豁口〕
Contohojombi 物の上が崩れる〔25.

孔裂：成器口〕

Coo 鋤. シャベル〔22. 工匠器用二：鐵鏊〕

Coociyanli しぎの屬, Yaksargan に似, 嘴と脚が長い〔30. 雀一：沙溜子〕

Coogan 低濕地に棲むあをさぎに似た鳥〔30. 鳥二：鸛鴒〕

Cooha 兵. 兵隊. 軍隊〔8. 兵：兵〕軍事〔彙：武〕

— **bargiyambi** 軍隊を撤退する.（戰終つて）軍を引揚げる〔8. 征伐七：收兵〕

— **be aliha amban** 古官名. 周制六卿の一. 軍事を掌る〔補1. 左大臣官員：司馬〕

— **be kadalara tinggin** 地方の各省におかれ軍規違犯に關する事務を掌る役所. 憲兵隊に當る〔20. 部院九：清軍廨〕

— **bederembi** 凱旋する. 軍隊が歸る〔8. 征伐八：回兵〕

— **dain** 軍隊. 戰爭. 戰亂〔彙：軍旅〕

— **gocimbi** 撤兵する. 軍隊を引揚げる〔彙：撤兵〕

— **huwekibure temgetu** 兵士に與へる銀の賞牌. 勳章〔8. 征伐八：獎武牌〕

— **obumbi**（罪人を）邊軍に編入する〔5. 刑罰二：充軍〕

— **obume banjibure kunggeri** 各省の駐屯兵の數, 邊軍に充てる罪人の屯地を定める等の事を掌る役所. 兵部に屬す〔補2. 衙署三：編軍科〕

— **obure weile** 邊軍に充てらるべき罪〔彙：軍罪〕

Coohai agūra i kunggeri i baita alire boo 軍裝, 軍火（銃砲火藥, 旗纛, 帳房の類）の頒給を掌る役所. 工部に屬す〔補2. 衙署四：軍器科值房〕

— **agūra i kunggeri i baita hacin i boo** 軍裝, 軍火類の製造, 會計事務を掌る役所. 工部に屬す〔補2. 衙署四：軍器科案房〕

— **agūra i kunggeri i bodoro boo** 軍裝, 軍火類の製造費の支拂事務を掌る役所. 工部に屬す〔補2. 衙署四：軍器科算房〕

— **amban** 武官の大臣〔4. 臣宰二：武大臣〕

— **baitai kunggeri** 土司の承襲, 賞罰, 武擧及び千總の任命等を掌る役所. 兵部に屬す〔補2. 衙署三：軍務科〕

— **baitalan i namun** 軍需品類を製造, 收藏する所. 工部に屬す〔20. 部院十二：軍需庫〕

— **belhen i bolgobure fiyenten** 兵部の一司. 兵籍, 軍器, 武擧に關する事務を掌る〔20. 部院四：武庫清吏司〕

— **boo** 理藩院の軍事を掌る役所〔補2. 衙署五：兵房〕

— **dasan i simnembi**（五年毎に）武官の治績を監察する〔4. 考選：軍政〕

— **erdemungge kunggeri** 武官の昇進任命等に關する事務を扱ふ役所. 兵部に屬す〔補2. 衙署三：將材科〕

— **fafun** 軍令. 軍紀. 軍法〔8. 征伐一：軍令〕

— **fiyan** 軍容. 軍の形勢〔彙：兵之形勢〕

— **fiyan be nonggibure mudan** 天子が閲兵の爲に宮を出る時奏する音樂の名〔補1. 樂：壯軍容之章〕

— **hafan**〔4. 臣宰九：武官〕

— **hafan i temgetu** 外任武官に與へる身分證明書〔3. 鑑旨：劄付〕

— **hafan sindara bolgobure fiyenten** 兵部の一司. 武官の任用, 營制並に土司等に關する事務を掌る〔20. 部院四：武選清吏司〕

— **jurgan** 兵部（六部の一）〔20. 部院四：兵部〕

— **jurgan i kungge yamun** 都察院に屬し兵部の政務を監察する役所〔20. 部院五：兵科〕

— **moringga fiyenten** 皇城の內外を坊に區劃し各坊の警備を掌る役所, 警察署に當る〔20. 部院一：兵馬司〕

— **nashūn** 軍國の機務〔彙：軍機〕

— **nashūn i amban** 軍機處出仕の大臣〔4. 臣宰一：軍機大臣〕

— **nashūn i ba** 軍政上の機密事を議する役所. 雍正帝の時に置かれ, 後に文武一切の機務を綜攬するに至つた

〔20. 部院二：軍機處〕

Coohai niyalma 兵卒〔10. 人二：兵丁〕

— **tusangga inenggi** 其月の支の一つ前の支に當る日. 即ち丑の月の子の日, 寅の月の丑の日等〔補1. 時令二：兵賽日〕

Coohalambi 軍隊をやる. 武力を用ひる〔8. 征伐二：行兵〕

Coohan 易卦の名〔補1. 書一：師〕

Coohiyan 「朝鮮」の音譯〔彙：朝鮮卽 Solho 也〕

Coolon gaha 鳥の一種. 嘴が赤く身體が黑い〔補4. 鳥九：鷸〕

Cor seme しゅーしゅーと（水が絶えずふき出る形容）〔2. 地輿十一：水直冒不斷〕

Corboho tura 獸に藥を飲ませる時獸を繫ぐ杭〔32. 牲畜器用一：獸醫樁〕

Corbokū 馬等の上唇を挾る道具. 曲げ撓めた木の尖に孔をあけ紐をつけたもの〔32. 牲畜器用一：擰鼻〕

Corbombi （馬等の家畜に藥を飲ませ, 蹄をきる時に）Corbokū にて上脣を挾る〔31. 套備馬匹：擰馬脣〕

Cordombi （Coron 胡笳, Mekeni 鐵口琴等を以て）蒙古の音樂を奏す〔7. 樂器三：奏蒙古樂〕

Corho 1. 兜の頂の纓を挿す鐵管〔9. 軍器一：盔頂上管子〕 2. 燒酎を蒸溜する時に用ふる木管〔25. 器用六：燒酒溜子〕

Corhon Fiyorhon（啄木鳥）の別名〔補4. 雀一：劉水〕

Coro 明後日〔2. 時令六：後日〕

Corodai Garudai（鳳）の別名〔補4. 鳥一：鵬鷲〕

Coron 四つの孔のある木製の管樂器〔7. 樂器二：胡笳〕

— **gocika** 馬の腹が出た. 腹が垂れ下つた〔32. 馬畜殘疾一：弔膝〕

— **tatan** 蒙古テントの樣な形に木を組合せて作つた小屋〔24. 氈屋帳房：木架窩舖〕

Cos ちゆっ. どっ（塞きとめられてゐたものがつきぬけて出る音）〔14. 聲響四：冒出聲〕

Cosho 1. 銷の石突〔9. 軍器六：鑌子〕 2. Niyaman hadahan に同じ〔彙：拉車鞍上正中釘的鐵釘鑌掛車絆者〕

Cotho 卵の殼〔31. 牲畜孳生：蛋殼〕

Cu 1. うーし！（獵犬をけしかける聲）〔9. 畋獵三：嗾狗聲〕 2. しっ！（犬や猫を逐ひやる聲）〔14. 聲響一：逐猫犬聲〕〔彙：Cu seme 同〕

— **ca** ひそひそ（怕れて低聲に話す樣）〔14. 言論四：怕極低聲狀〕

— **niru** 火矢. 鐵に火藥を仕掛けたかずや〔9. 軍器七：火箭〕

Cuba 婦人の大禮服の一種. 龍緞（Undurakū）で作り, 飾をつけた袖なしの長上着〔24. 衣服一：女齊肩朝褂〕

— **sijigiyan** 婦人の大禮服の一種. 龍緞で作り, 襟, 肩あて, 裾をつけ飾付けをした Doroi etuku（朝服）の如き Ergume（朝衣）〔24. 衣服一：女朝衣〕

Cubuhe つまつた. 溜つた〔彙：擠住了. 與 Cibuhe 同〕

Cubumbi Cibumbi に同じ〔26. 塞決：擠住〕

Cubume tembi （場所が狹く）詰めて坐る〔14. 坐立一：擠着坐〕

Cucu caca ひそひそ.（密談をする形容）〔14. 言論四：悄語狀〕

Cudu 重量の單位. 一沙（Libu）の十分の一に當る〔22. 衡量二：廌〕

Cuiken 形は Cociyanli に似て, それより稍大きく, これが鳴くと雨が降るといふ小鳥〔30. 雀一：水鷺鳥〕

Cuikengge mahatun 古代の天文學者の被る冠〔補1. 古冠冕二：鶡冠〕

Cuk cak seme どたんばたんと（物凄く爭ふ形容）〔5. 爭鬪一：相鬪兇惡狀〕

Cukcaha weihe 八重齒〔10. 人身三：重牙〕

Cukcuhun 1.（人又は馬等の）耳が前を向いた. 耳が前向きについた〔11. 容貌四：耳向前〕〔31. 馬匹肢體一：兩耳向前〕 2. 口を尖らした. 口を歪めた（急に機嫌を惡くして）〔13. 怒惱：咕嘟着嘴〕

Cuku 1. 少し尻を上げよ（兩人が一所

に坐り一方が他方の着物をしいた時に云ふ語)〔14. 坐立一:令揸起〕 2. しんこもち. 糯米等の粉を煮て搗り,碗に盛つたもの〔27. 飾々二:黏糕托子〕

Cukuhebi 疲れきつた〔15. 疲倦:疲敝了〕

Cukulembi 1. "Cu" と云つて獵犬をけしかける〔9. 畋獵三:嗾狗〕 2. 人を唆かして怒らす. 離間する〔17. 譏誚:擾掇〕

Cukumbi 疲れる. へとへとに疲れる. 疲れ弱る〔15. 疲倦:疲敝〕

Cukūfi donjifi 伏して聞くならく〔彙:伏聞〕

Cukūlu 1.〔11. 容貌三:近視眼〕 2. とり眼〔彙:雀盲眼. 卽 Genggiyen Cukūlu 也〕 3. 前半身が低く,常に頭を垂れて歩む(馬)〔31. 馬匹三:沁頭馬〕

Cukūmbi 俯す. うつむく. 頭を垂れる〔14. 坐立二:俯着〕

Cukūšambi 遮二無二突進する. 向ふ見ずに突進する〔14. 行走三:亂撞〕

Culgambi 1. Culgan acambi に同じ 2. 天子が閲兵を行ふ. 親閲する〔8. 征伐一:大閲〕

Culgan 1. 閲兵. 天子の親閲〔8. 征伐一:閲兵〕 2. 會盟〔彙:會. 盟〕

— **acambi** 1. 會盟を行ふ. (清代に蒙古族が定期に盟毎に集つて政治軍事を議し,裁判を行ふ)〔8. 征伐一:會盟〕 2. 閲兵する〔彙:亮兵〕

Culin cecike Gūlin cecike の別名〔補4. 雀二:楚雀〕

— **gaha** 鳥の一種. 灌木上に棲む〔補4. 鳥九:楚鳥〕

Culuk seme ひよつこり. 不意に. 突然(行く,或は来る)〔15. 去來:忽來忽去〕

Cumcume 膝を抱へて(坐る)〔14. 坐立二:抱膝坐〕

Cumcurambi 1. (目上の人の前等を)身を屈めて小走りに歩む〔14. 行走一:俯身趨走〕 2. (獣が)こそこそと叢の中に隠れる〔31. 走獣動息:獣蹟草〕

Cun cun i だんだんと. 次第々々に〔2. 時令三:漸次〕

Cunceo Turtun に同じ(「春紬」の音譯)〔彙:春紬〕

Cung seme 向ふ見ずに. 遮二無二(頭を下げて突進する形容)〔14. 行走四:低頭直行〕

Cunggai しぎの類の鳥. 頸赤く嘴黒く頭に長い冠毛があり,人を見て啼く時は冠毛が逆立つ〔30. 鳥十:水花冠〕

Cunggur niyehe 野鴨の一種. 極めて小さく,嘴の尖つたもの. 肉は腥い〔30. 鳥八:油葫蘆〕

Cungguru 1.〔10. 人身四:腑〕 2. 果實の帯〔28. 果品四:果子帯〕

Cunggūšambi 頭でつきかゝる. 頭を下げてぶつかつて行く〔5. 爭鬪二:撞頭〕

Cunu gasha かはせみ類の鳥. Curbi gasha より小さなもの〔30. 鳥五:翠奴〕

Cur car seme しゅつしゅつと(火矢,花火の火薬に火の着く音)〔14. 聲響三:藥信點着聲〕

— **seme** 1. しゅーと(火矢の飛ぶ音)〔8. 歩射二:火箭去的聲〕 2. つるりと(滑る)〔21. 倒攴:直溜〕

— **seme genehe** つるりと滑つた〔彙:出溜去了〕

Curbi gasha 藍色の小さなかはせみ〔30. 鳥五:翠碧〕

Curgimbi 喧しく騒ぐ. がやがやと喋舌る〔14. 言論二:喧譁〕(鳥が)ぎゃーぎゃー騒ぎ立てる〔彙:鳥齊叫〕

Curgin 喧噪. 喧嘩. やかましい騒ぎ〔14. 言論二:譁〕

— **akū** 喧しくない〔彙:無濟說話〕

Curgindumbi 一齊に騒ぎ立てる〔14. 言論二:共喧譁〕

Curhū Geošen (狗魚) の幼魚〔32. 河魚二:狗魚牸子〕

Curhūn (雉等の)一飛び〔30. 飛禽動息二:飛一翅〕

Curun 長さの單位. 三丈に當る〔25. 量度:雉〕

Cuse 1. 料理人. Mucesi に同じ(「厨子」の音譯)〔彙:厨子〕 2. 紬. Suri に同じ(「紬子」の音譯)〔彙:紬子〕

— **moo**〔29. 樹木一:竹〕

Cuse mooi arsun 筍〔27. 菜穀二：筍〕
— **moo i itu** 鶉の類の鳥．竹林に棲み，形は雞の如く，褐色多斑，よく鳴きよく闘ふ〔30. 鳥六：竹雞〕
— **moo i undehen** 竹を切割つた扁條．(刑に用ふ)〔彙：竹板子乃打人者〕
— **singgeri** 形は小猫に似て竹の根を食ふ動物．四川封溪縣に出る〔31. 獸七：竹鼠〕
Cuseingge hoošan 竹を搗碎いたものを原料にして漉いた紙〔7. 文學什物一：竹紙〕
Cusengge nicuhe 竹の內に生ずる珠．形は東珠に似，眞圓くはなく光澤がない〔22. 貨財一：竹珠〕
Cuseri cecike 體は灰色で脚の赤い小鳥〔30. 雀六：竹葉雀〕
— **duingge hoošan** 竹を原料にして作つた普通の紙の四枚大の紙〔7. 文學什物一：竹料連四紙〕
— **hoošan** 竹を原料として作つた白紙〔7. 文學什物一：川連紙〕
— **toro ilha** けふちくたうの花〔29. 花二：夾竹桃花〕
Cusile 〔22. 貨財二：水晶〕
Cuwan Jahūdai に同じ(「船」の音譯)〔彙：船．舟〕
— **fekumbi** Jahūdai fekumbi に同じ〔彙：水戰跳船〕
Cuwangnambi 掠奪する〔16. 竊寇：搶掠〕
Cūn ša Turtun cese に同じ〔彙：川紗〕
— **moo** 椿の木〔彙：椿木〕

C'y

C'y 1. 篪．Ficari に同じ〔彙：樂器內之篪粗而短有五眼者〕 2. 一尺．Jušuru に同じ〔彙：尺〕 3. 笞．刑に用ふるもの．Saihūwada に同じ〔彙：笞杖之笞乃細荊條所做大頭橫二分七厘小頭橫一分七厘長三尺五寸笞輕罪者〕
C'ylebumbi 笞うたせる，笞うたれる〔彙：使笞．被笞〕
C'ylembi 笞うつ．Saihūwadalambi に同じ〔彙：笞之〕
C'yming Tacibure fungnehen に同じ〔彙：勅命〕

D

Da 1. 首領．かしら．をさ〔4. 臣宰十三：頭目〕 2. 草木の根本〔29. 樹木八：本〕 3. 起源．始め．根本．もと〔5. 事務一：本〕 4. (矢の)一本．一筋〔9. 軍器五：一枝〕 5. 長さの單位．兩腕を擴げた長さ．一尋．五尺〔25. 量度：庹〕 6. Dambi の命令形．掌れ．管理せよ〔彙：照管．凡管事之管〕
— **an i** 元の樣に．いつもの通り〔彙：照常．照舊〕
— **be elgiyen obure calu** 清河縣にある官倉〔20. 部院十二：本裕倉〕
— **dube** 本と末．始末〔彙：本末〕
— **futa** Dangdali 綱の大綱(一端を船の Absa に括りつけ他端を綱の Torho moo に括りつける)〔22. 打牲器用一：

綱杆總繩〕
Da jiha 銅錢の原型〔22. 貨財一：錢錢〕
— **jokson** 騎射の士が馬に乘つて立ち並ぶ所〔8. 騎射：撒馬處〕
— **mafa** 曾祖 (Unggu mafa) の父〔10. 人倫一：高祖〕
— **mama** 曾祖の母〔10. 人倫一：高祖母〕
— **sekiyen mafa** 始祖. 鼻祖〔四五種通10. 人倫一：始祖〕〔續. 人倫：始祖〕
— **sunto** 一斛枡の原器〔22. 衡量一：祖斛〕
— **tolombi** 射る每に命中する. (矢が)一本一本命中する〔8. 步射一：箭箭中〕
— **ujui usiha** 星の名〔1. 天文二：太乙星〕
— **uše** 轡に通して手綱を繫ぐ紐〔9. 鞍轡二：繮水〕
— **sargan** 第一の妻. 最初の妻. 正夫人〔彙：原配之妻〕
Daba 越えよ〔彙：令人越過〕
Dababumbi 1. 越えさせる. 過ぎさせる〔14. 行走二：使踰過〕 2. 奢侈に過ぎる. 費ひ過ぎる〔17. 僭奢：過踰〕 3. 誇張する. 誇大に云ふ〔17. 欺哄：言過其實〕
Dababurakū 省らぬ. 無駄費をせぬ〔11. 省儉：不過費〕
Dabagan 峠〔2. 地輿三：嶺〕
Dabaha nimeku 過勞. 勞苦の餘りの病氣. 肺病〔16. 疾病一：勞病〕
Dabakū 門の閾を車輪が通り越える爲に閾の兩側に置き並べる楔形の木材〔19. 城廓：踏梁〕
Dabala ……ならばよし. ……ばかり. ……するのみ. まづよし！ (是の前に來る動詞は -ra, -re, -ro の語尾をとる)〔18. 散語五：罷了〕
Dabali 1. (官位, 級の) 順を越えて〔4. 陞轉：超越〕越えて. 跳び越えて. 飛び越えて〔14. 行走一：越過〕 2. 傲慢な. 尊大な 3. 僭越な. 分に過ぎた. 差出た〔17. 僭奢：僭〕
— **duleke** (鳥が山を) 越えて飛んだ〔30. 飛禽動息二：漫山飛〕
— **fekuhe** (溝等を) 跳び越えた〔彙：越過去了〕
— **flyelembi** 馬を跳び越える (曲馬で)〔8. 騎馬：過梭〕
— **uše** 挽馬の鞍を越えて掛け, 轅をうける紐〔26. 車轎一：搭膜皮〕
— **wesike** 級を越えて昇進した〔彙：超陞了. 越級陞了〕
Dabambi 越える〔14. 行走二：踰過〕
Daban 超過. 過度. 過分〔彙：大過乃整字〕
Dabanahabi 超過して了つた. 多すぎた. 越えた〔25. 多寡二：已過踰〕
Dabanambi 1. 超過する〔25. 多寡二：過踰〕 2. 越えて行く〔彙：過高處去了〕
Dabara oloro 山を越え川を渡り〔彙：跋涉〕
Dabargan 銀貨入れ. 巾着. 小袋〔25. 器用七：梢馬子〕
Dabašakū 分を越えた奢り者〔17. 僭奢：越分的〕
Dabašambi つけ上る. 僭越な振舞をする〔17. 僭奢：僭越〕
Dabatala 過度に. 過ぎる程に迄. 分を越す程に〔17. 僭奢：太過〕
Dabci 瞼の歪んだ (人)〔11. 容貌三：茄皮眼〕
Dabcikū 兩刃の劍〔9. 軍器六：劍〕
Dabcilakū Seleme の小形のもの. 匕首〔9. 軍器六：攮子〕
Dabcilambi 歪める〔彙：扯歪之〕
Dabdali 人を乘せた馬が嘶き足掻いてはやる. 逸り立つた〔31. 馬匹三：咆哮〕
Dabduri 性急な. 氣短かな. 躁急な〔17. 暴虐：躁〕
Dabdurišambi 苛立つ. 落着かぬ振舞をする. 粗暴な振舞をする〔17. 暴虐：發躁〕
Dabgibumbi 田の雜草を拔かせる〔21. 農工二：使人手拔草〕
Dabgimbi 田の雜草をとる. 田の草取りをする〔21. 農工二：手拔草〕
Dabkambi 祟る〔19. 鬼怪：作祟〕
Dabkimbi 1. (折れた弓等を) 嚴重に繕ふ. 膠で固く接ぐ〔9. 製造軍機一：重貼裏處〕 2. しつかりと裏うちをする〔彙：隔背重加麵糊粘結實〕 3. 鞭をあ

てる〔31. 馬匹馳走一：拍馬〕
Dabkūri 二重の〔25. 雙單：重〕
— **dalan** 二重になつた堤防の外方の堤〔補1. 地輿二：隔堤〕
— **dorgi hoton** 大内裏. 皇居〔19. 城郭：紫禁城〕
— **duka** 二重門〔彙：重門〕
— **kotoli** 船の篷の上に重ねて掛ける覆ひ布〔26. 船二：頭巾〕
— **leose** 二層樓. たかどの〔彙：重樓〕
— **omolo** ひまご. 孫の子〔四五體體10. 人倫二：曾孫〕
— **taili** 叢生した群（花の）〔29. 花六：重臺〕
Dabkūrilambi 重なる. 重複する. 層を爲す〔25. 雙單：重重〕
Dabsi 肩胛. 肩の附け根〔10. 人身四：肩膀〕
Dabsiha Šun dabsiha を見よ〔彙：日偏的很多了. 卽 Šun dabsiha〕
Dabsitala （日が）傾く迄〔彙：至于偏多〕
Dabsulabumbi 鹽漬にさせる〔27. 菜殽四：使用鹽淹〕
Dabsulambi 鹽漬にする. 鹽に漬ける〔27. 菜殽四：用鹽淹〕
Dabsun 〔27. 菜殽四：鹽〕
— **be giyarire yamun** 鹽の私製, 私販を取締る役所〔20. 部院十：巡鹽司〕
— **be yabubure bithe be pilere baicara falgangga** 各省に於て鹽引（鹽の小賣鑑札）を檢査する役所〔20. 部院十：批驗鹽引所〕
— **i baita be baicara hafan** 鹽の專賣事務の長官〔4. 臣宰十二：鹽政〕
— **i cifun** 鹽の製造又は販賣を爲すの特權を得た者に對する公課〔彙：鹽課〕
— **juwere baita be kadalara hafan** 鹽の運搬事務の長官〔4. 臣宰十二：鹽運使〕
— **juwere beidesi** 運副の次の官〔4. 臣宰十二：運判〕
— **juwere ilhici** 運同の次の官〔4. 臣宰十二：運副〕
— **juwere kadalasi** 鹽稅をとる事務を管理する官〔4. 臣宰十二：提擧〕
— **juwere uheci** 鹽運使の次の官〔4. 臣宰十二：運同〕
— **tucire ba** 鹽を産出する地〔2. 地輿一：產鹽地〕
— **tuyeku yonggan** 形狀, 色が鹽塊に似た鹵砂〔補3. 貨財：鹽滷砂〕
Dabta 1. 膠鰾を煮る鍋〔22. 工匠器用二：鰾鍋〕 2. (Dabtambi の命令形) 打ち伸ばせ〔26. 折鎚：折〕
Dabtabumbi （金屬を）打ち伸ばさせる〔26. 折鎚：使折打〕
Dabtambi 1. 重ね重ね幸運に出遇ふ〔11. 福祉：屢受福祉〕 2. 重ねて言ふ. 幾度も繰返して言ふ〔14. 言論二：屢說〕 3. （金, 銀, 銅, 鐵等の金屬を）平に打ち伸ばす〔26. 折鎚：折打〕
Dabtara folho 金屬を打ち伸ばす大金鎚〔22. 工匠器用一：折鎚〕
Dabu （火, 燈を）點けよ〔彙：令點燈點火點烟之點〕
Dabumbi 1. 班 (Idu) の定員中の一員とする. 班に入れる. 與らしめる〔5. 輪班行走：算入〕 勘定に入れる〔12. 分給：算入數內〕 2. （火, 燈火を）點ける. 燃す〔23. 烟火三：點火〕
Daburakū 1. 相手にせぬ. 數に入れぬ. 見くびる〔17. 驕矜：不算數〕 2. 火を點けぬ〔彙：不點着〕
Daci 始めから. もとから〔彙：平昔. 向來. 從前. 原了兒. 起源兒〕
— **dubede isitala** 始より終り迄. 徹頭徹尾〔彙：從頭至尾〕
Dacila 問ひ糺せ〔12. 問答一：使請示〕
Dacilabumbi 問ひ糺させる〔彙：使打聽消息〕
Dacilambi 問ひ糺す. 重ねて問ふ〔12. 問答一：請示〕
Dacukan 稍鋭利な. 稍敏捷な〔彙：略果. 略快〕
Dacun 1. 鋭利な〔9. 軍器六：快〕 2. 敏捷な. 氣の利いた. 才のある. 手ばやい. 果敢な. 果斷な〔11. 德藝：敏捷〕
— **jeyengge amba jangkū** 非常に鋭利な大刀〔補1. 軍器一：銛鋒刀〕
— **sukdun** 秀でた才氣〔彙：英氣〕
Dadage Adage に同じ〔彙：手拍脊背疼

愛老人家並小孩子. 與 Adage 同. Madage 同〕

Dadarakabi 1. 口を廣く開いた. 大きく口を開けた〔11. 容貌四：大裂著嘴〕 2. 大きく擴がつた〔26. 營造：物做咧了〕

Dadarambi 1. 口を廣く開く〔彙：嘴張開了〕 2. 大きく擴がる〔彙：凡物比樣子寬大了. 與 Dadarakabi 同〕

Dadari Solohi (いたち) を捕る道具〔22. 打牲器用四：打騷鼠的器〕

Dade 1. 始め. 根元. 初めに〔2. 時令二：起根〕 2. Tere dade を見よ.

Dadun 手足の不具の(人). 手なえ足なえ〔16. 殘缺：手足殘疾〕

Dafaha しべりあ鮭. しろざけ〔32. 河魚三：方口.旁頭〕

Dafun ehe (獸を射て) 矢の中りが淺い. 深く突刺さらぬ〔9. 畋獵三：中獸淺〕

— **sain** (獸を射て) 筈深(ふか)に中る. 矢が深く刺さる〔9. 畋獵三：中獸深〕

Dagila とゝのへよ〔彙：令整理. 令備辦〕

Dagilambi とゝのへる. 支度する. 準備する〔彙：整理. 備辦〕祭の道具をとり揃へる〔6. 祭祀二：豫備祭物〕

Daha 1. (Dahambi の命令形) 隨へ. 降服せよ〔彙：叫人投順〕 2. (Dambi の過去形). 火がついた. 指圖した. 到達した〔彙：燒着了. 干預. 着了〕

Dahabi 燒けた. 火がついた〔彙：燒着了〕

Dahabumbi 1. 招降する. 降服させる. 從はせる〔8. 征伐八：招降〕 2. 隨はせる. 隨行させる〔彙：使隨〕 3. 「保題」を行ふ(官吏特別任用の手續. 特別の技能, 功績ある者を試驗に依らず長官が推薦する)〔4. 陞轉：保題〕 4. (角力で) 相手が自分の足を拂ふのを外して, 逆に此方がその足を拂ふ(柔道の「遲れ足拂ひ」の如し)〔8. 撲跤一：還蹚脚〕

Dahabure afaha 貨物の送り狀に添ふ細目を記した傳票〔5. 事務三：發單〕

— **afahari** 各官廳よりの奏文に對する天子の批答を內閣に於て擬定して簽に書き奏上文に夾んだもの〔5. 事務二：票簽〕

— **gisun tucibumbi** 上官が下役の無試驗昇進について意見書をつけて上申する〔4. 陞轉：出具考語〕

Dahacambi 出迎へる〔彙：逢迎〕

Dahalabumbi 1. 後に隨へる. 隨行させる〔彙：使跟隨〕 2. 追擊させる. 後を追はす〔8. 征伐六：使尾隨追趕〕 3. 訴へかへさせる〔彙：使報復告〕

Dahalambi 1. 後に隨ふ. 後を追ふ. 〔彙：跟隨〕 2. 敵の後を追ふ. 追擊する. 追擊して討ちとる〔8. 征伐六：尾隨追趕〕 3. 手負ひの獸を追ふ〔9. 畋獵三：追趕傷獸〕 4. 一方が訴へ出た後に相手方も訴へ出る. 訴へかへす〔5. 詞訟一：訴告〕

Dahalan 易の卦の名〔補1. 書一：隨〕

Dahali 賭戲で親の次に坐つた者. 二番目の者〔19. 賭戲：二家〕

— **sonjosi** 殿試に第二席で及第した者〔4. 臣宰十一：榜眼〕

Dahalji 下僕. 終生雇はれる契約の下男. (一種の賤民)〔10. 人五：長隨〕

Dahaltu 清朝の官名〔續2. 臣宰：隨征〕

Dahambi 1. 投降する. 降服する〔8. 征伐八：投降〕 2. 隨行する. 附き隨ふ. 後より行く〔14. 行走二：跟隨〕

Dahame ……に從つて. ……に依り. ……に降り (此の字の前に Be を用ゐる)〔彙：從. 降. 隨. 因此口氣. 上用 Be 字〕

Dahan 仔馬. 駒. (二歳より五歳迄のもの)〔31. 馬匹二：小馬〕

Dahanduhai 直ぐ後に. 引き續いて. 踵を接して〔15. 急忙：隨即〕

Dahandumbi Dahanumbi 1. 一齊に降服する〔8. 征伐八：一齊投降〕 2. 皆一齊に隨行する〔彙：衆齊跟隨〕

Dahanjimbi 1. 降服して來る〔8. 征伐八：來投降〕 2. 隨いて來る〔彙：來跟隨〕

Dahashūn 從順な〔11. 孝養：遵從〕

— **hehe** 七品の文武官の妻の封號〔3. 封表二：孺人〕

Dahasi 清代の常關の書吏. 官倉の小役

人〔10.人二：舎人〕

Dahasu おとなしい．人に逆らはぬ〔11.友悌：和順〕

Dahasun 易の卦の名〔7.書四：坤〕〔補1.書一：坤〕

Dahata やなぐひ (Jebele) の内側にぬひつけた皮の袋．Yoro, Garma 等の類の矢をさすもの〔9.撒袋弓靫：挿靫〕

Dahi やり直せ．も一度やれ．も一度云へ〔彙：令復．令再〕(角力を) とり直せ．もう一番やれ〔8.撩跤二：使再撩〕

Dahimbi 再びする．繰返す．やり直す〔彙：重複〕(角力を) とり直す．更に一番やる〔8.撩跤二：再撩跤〕

Dahime 重ねて．繰返して．やり直して〔彙：重複．再拝之再．與 Dahūmbi 同．Dahimhi 同〕

Dahin 繰返し．〔彙：復〕

— **dahin i** 幾度も繰返して．おし返し繰返し〔18.完全：再四再四的〕

Dahū 縁飾りのついた毛皮の短い羽織 (Kurume 掛より長く作り毛を外むきにして Doroi etüku 朝服に合せて着るもの)〔24.衣服一：皮端罩〕

Dahūhan 易卦の名〔補1.書一：復〕

Dahūlambi Dahū を着る〔24.穿脱：穿皮端罩〕

Dahūmbi 1. Dahimbi に同じ〔8.撩跤二：再撩跤〕〔彙：與 Dahimbi 同〕 2. 破れた蓆を繕ふ〔24.鋪蓋：補破蓆〕

Dahūme 再三．繰返して〔彙：復．再三．與 Dahimbi 同〕

Dahūn 繰返して．重ねて〔彙：復．與 Dahin 同〕

— **dahūn i** 幾度も繰返して．屢々．重ね重ね〔18.完全：再三再三的〕

Dahūngga jeo 滿洲の地名〔續2.地輿：復州〕

Dahūr 滿洲黑龍江の東北の部族，地名〔續2.地輿：達呼爾〕

Dai mai 「玳瑁」の音譯．Hurugan に同じ〔彙：玳瑁〕

— **šeng** 「載勝」の音譯．Indahūn cecike に同じ〔彙：雀名．與 Indahūn cecike 同〕

— **tung doohan i tuwame kadalara hafan i yamun** 大通橋に集つた米穀を京師に運送する事を掌る役所．戸部の総督倉場に隷屬す〔20.部院三：大通橋監督衙門〕

Daibihan 1. 框 (扉，窓，牀，卓等の)〔21.室家二：邊框〕 2. 矢袋や信玄袋等の側面のふちどりの布〔24.衣服四：針札荷包的壊子〕

Daicilambi 斜めにする〔21.倒支：斜排着〕

Daidan doholon 葉の形が柳に似て酸味のある野菜〔27.菜穀二：酸留菜〕

Daifaha 葦や柳枝を編んだ垣根 (茅葺の家の墻とする)〔21.室家四：荊笆墻〕

Daifan 卿の下，士の上なる官〔補1.古大臣官員：大夫〕

Daifu 醫者．「大夫」の音譯．Oktosi に同じ〔彙：大夫．醫生〕

— **i doro** 醫學．醫術〔彙：醫理．醫道〕

Daifurabumbi 治療させる．治療してもらふ〔彙：使醫往醫治病〕

Daifurambi 治療する〔彙：醫治乃用藥醫之也〕

Daifurara bithe 醫學の書〔彙：醫書〕

Daifusa Daifu の複數形〔彙：醫生們〕

Daihan 袋の形をした網．河流の兩側を籬で堰き中央をあけて其處に網の口をあてゝ魚をとる仕掛のもの〔22.打牲器用一：簏網〕

Dailabumbi 征伐させる．兵を出す〔8.征伐二：使征討〕討たれる〔彙：被征伐〕

Dailaha indahūn 狂犬〔彙：瘋狗〕

Dailahabi 發狂した．物に憑かれた〔16.疾病一：中了邪〕

Dailambi 1. 征伐する．討つ．討ち平げる〔8.征伐二：征討〕 2. 氣が狂ふ．發狂する〔彙：狂病〕

Dailan 征伐．征討．出兵〔5.政事：伐〕

Dailanabumbi 討伐に行かせる〔8.征伐二：使去征討〕

Dailanambi 討伐に行く．討ちに行く〔8.征伐二：去征討〕

Dailanjimbi 討ちに來る〔彙：來征伐〕

Dain 戰．軍隊．軍旅〔8.兵：戎〕

— **i haha** 兵卒〔彙：征夫〕

Daipun おほとり〔30.鳥一：鵰〕
Daiselabumbi 臨時に或る職に就かせる〔4.陞轉：使署理〕
Daiselambi 臨時に或る職に就く〔4.陞轉：署理〕
Daišambi 亂暴な振舞をする．無茶な眞似をする〔5.爭鬪一：亂鬧〕
Dakda dakda びよんびよんと〔14.行走一：急的高跳〕
Dakdahūn 1.着物の短か過ぎる．つんつるてんの〔24.衣服四：短促促的〕2.ぶらりと垂れた．上に吊上げられた〔彙：往上吊起之貌〕
Dakdari 1.眞先に．先登に〔14.行走二：獨自先登〕2.恰度嚊をしてゐる所に．恰度好い所に〔15.去來：恰好撞來〕
— **tafaka** 眞先に登つた〔彙：凡人之先就上去〕
Dakūla (獸,魚の)下腹部の皮〔27.飯肉一：肚囊〕
Dala 頭と爲れ〔彙：令人爲首〕
Dalabumbi 1.頭とならせる．長官に任ずる〔5.辨事一：使爲首〕2.兩腕を伸して長さを計らせる〔25.量度：使度量〕
Dalaha 頭となつた〔彙：爲首者〕
Dalambi 1.首領となる．長官になる〔5.辨事一：爲首〕2.兩腕を伸して長さを計る．幾尋(Da)あるかを計る〔25.量度：度量〕
Dalan 1.堤．堤防．土堤〔2.地輿十一：堤〕2.馬等のくびすぢ(鬣の生えた所)〔31.馬匹肢體一：脖頸〕
Dalangga 堰堤．河流を堰き止める爲の石や土の堤〔2.地輿十一：壩〕
Dalba 傍．側方．兩傍〔2.地輿十四：旁〕
Dalbade 傍らに〔彙：傍邊〕
Dalbai boo 正面の母屋の兩傍の棟〔21.室家一：耳房〕
— **moo** 船の兩側の欄杆の外に張出した緣〔26.船三：巴邊〕
Dalbaki 傍に在るもの．兩側のもの〔2.地輿十四：旁邊〕
Dalbarame 傍より．側方より．側方を通つて〔2.地輿十四：從旁邊〕
Dalbashūn 1.傍の方に．側近く〔2.地輿十四：旁邊些〕2.横ざまに(寢る)．横向きに〔15.睡臥一：側臥〕
— **dedumbi** 横むきに寢る〔彙：側睡〕
Dalda 1.隱せ〔16.逃避：隱〕2.蔭になつた曲り角．目につかぬ片隅〔21.室家四：隱僻處〕
Daldabumbi 隱させる(物を,事を)〔16.逃避：使隱瞞〕
Daldahan 1.鈴を掛けて鷹の尾に結びつける平らな骨の板〔9.頑鷹犬：墊板〕2.鏑矢(Mumuhu)の口を閉ぢる皮片〔19.戰具二：皮墊子〕
Daldakū 天子の行幸の時に小巷の入口等を隱す垂れ幕〔26.間隔：街帳〕
Daldambi 隱す．物を隱す．事を隱す〔16.逃避：隱瞞〕
Daldangga 門の內側に衝立の如く立てた障壁〔20.墻廂：影壁〕
Daldarakū つゝみ隱さぬ．正直な〔11.忠清：不藏匿〕
Dalgan 塊．一かたまり〔彙：一塊之塊．結成一處〕
— **boihon** 土の塊〔2.地輿一：土泥〕
— **dalgan i** 幾塊も．一塊々々と．一塊づつ〔彙：一塊塊的〕
Dalganahabi (毛等が)もつれかたまつた．〔24.皮革二：結成搭搭了〕
Dalgiyan wehe 代赭．天然の赤鐵鑛．(顏料に用ひる)〔22.貨財二：赭石〕
Dalhi しつこい．うるさい．煩はしい．面倒な．くどい〔17.淫蠹：煩瀆〕
Dalhidambi 何度も繰返す．しつこくうち續ぶ〔17.淫蠹：只管煩瀆〕
Dalhūdambi くどくどと話す．しつこく話す〔14.言論三：絮叨〕
Dalhūkan 1.しつこい(人)．うるさい(人)〔15.侵犯：只管黏滯〕〔17.淫蠹：黏抓〕2.黏り氣のある〔彙：略黏〕
Dalhūn 1.煩い(人)．話のくどい(人)．執念深い(人)．何處にでも出しやばる(人)〔14.言論三：話煩〕〔15.侵犯：黏滯〕2.黏り强い．黏り氣が多い〔28.生熟：黏〕
— **cifenggū** 〔10.人身八：痰〕
Dalhūwan Latubukū に同じ．藕竿〔22.打牲器用三：黏杆子〕

Dalibumbi 1. 遮蔽させる 2. 物に遮られる．隠される〔26. 間隔：使遮蔽〕3. (巻狩で) 逃げた獣を後に追ひ歸させる〔彙：使走的獸使趕往回裡來〕
Dalibun 蔽つた處〔26. 間隔：遮擋〕
Dalikū 門の内側の衝立の如き塀，衝立〔彙：塞門．屏〕
— **uce** 觀音開きになつた欄間つきの扉．雨戸〔21. 室家二：風門〕
Dalimbi 1. 遮蔽する〔26. 間隔：遮蔽〕2. (巻狩で) 逃げた獣を追ひ返す〔9. 畋獵三：趕獸使回〕
Dalin 〔2. 地輿十一：河岸〕
Dalingho hoton 滿洲の地名〔續2. 地輿：大凌河城〕
Dalirame 河岸に沿つて，河岸を通つて〔2. 地輿十一：沿河岸〕
Dalitungga mahatun 古制の武官の冠．耳を覆ふ様になつたもの〔補1. 古冠冕二：武弁大冠〕
Daliyan Aktaliyan に同じ〔彙：搭連乃裝衣服被褥等物之大搭連也〕
— **etumbi** 角力の裝束をつける〔彙：拌跤穿搭連〕
Daljakū 關係がない．異つた (もの)〔18. 散語五：無干涉〕〔25. 同異：無涉〕
Dalji かゝはり．關係〔18. 散語五：干涉〕
— **akū** Daljakū に同じ〔彙：不相干〕
Daljingga 關係ある (もの．こと)〔18. 散語五：有干涉的〕〔25. 同異：干涉〕
Dalukan Dalhūkan に同じ〔15. 侵犯：只管黏滯〕
Dalumbi 屠殺した家畜の毛をとる時，かけた湯が熱すぎて毛がとれ難くなる〔28. 剝割一：水熱燙住毛不下〕樺の木が古くなりすぎて樹皮が剝ぎ難くなる〔29. 樹木八：樺皮過時老住〕
Dambagu たばこ〔29. 草三：菸〕
— **gocikū** 長煙管〔25. 器用八：烟袋〕
— **omi** 煙草を吸へ〔彙：吃烟〕
— **tebu** 煙草を煙管につめよ〔彙：裝烟〕
Dambi 1. 指圖する．支配する．世話する．掌る．干與する〔彙：管人事之管〕2. 救ふ．助ける〔15. 侵犯：救援〕3. 火がつく．燃える〔23. 烟火三：火著〕4. (風が) 吹く〔彙：刮風之刮〕
Dambumbi 添える．加へる〔彙：加于其身之加．菜餚々等食物上加油之加〕
Damdan 數の單位．溝 (Jabsun) の十倍〔7. 數目二：澗〕
Damin わし．いぬわし〔30. 鳥三：鵰〕
Damjala 天秤棒を擔げ〔21. 扛擡：一人挑〕
Damjalabumbi 天秤棒を擔がせる〔21. 扛擡：使挑〕
Damjalahabi 天秤棒を肩に擔つた〔21. 扛擡：挑着呢〕
Damjalambi 1. 天秤棒を擔ぐ〔21. 扛擡：挑着〕2. 獸に中つた矢の尖が向側につき抜ける〔彙：獸着了箭兩頭看見〕
Damjalame 矢の尖がつき透つて〔9. 畋獵三：箭穿透橫擔〕
— **goiha** 矢の尖が向側につき透る程に中つた〔彙：獸着了箭兩頭俱見〕
Damjan 天秤棒〔25. 器用七：扁擔〕
— **sebsehe** いなごの屬の蟲，身體が扁たく翅が長い〔32. 蟲二：扁擔〕
— **sele** 海老錠〔21. 室家二：釘吊〕
Damjatala Damjalame に同じ〔9. 畋獵三：箭穿透橫擔〕
Damnambi 目の細かな篩にかける〔21. 碾磨：重篩〕
Damtulabumbi 質に入れさせる〔13. 當借：使當〕
Damtulambi 質に入れる．質におく〔13. 當借：當〕
Damtun 質種(しち)〔13. 當借：當頭〕
Damu 唯．僅かに．たつた．……のみが〔25. 雙單：俱只〕
Dan 1. 野鴨，雁，雉等をさし捕るわな．2. 狼，狐，狸等を捕へるわな〔22. 打牲器用三：打鵝雁的套子〕
— **bi amba kumun** Celehen i amba kumun (丹陛大樂) に同じ〔彙：陛殿平常筵宴進宮上朝日內外番蘇大小臣工來朝勤奏的樂共四章〕
— **daburakū** 斷じて相手にせぬ．全然無視する〔17. 驕矜：總不算數〕
Dana 行つて掌れ．助けに行け〔彙：令人去管．幫助去〕

Danahūn cecike Indahūn cecike (載勝)の別名〔補4.雀一：載南〕
Danambi 1. 掌りに行く．行つて掌る．干與しに行く〔5.辨事一：去管〕 2. 助けに行く 行つて救ふ〔15.侵犯：去救援〕
Danara hafan 四品の督官．Dasihire hafan (游擊)の次〔4.臣宰十三：都司〕
Dancalambi 里歸りをする〔10.親戚：娘家去〕
Dancan 妻の親族．嫁の實家〔10.親戚：娘家〕
— **i boo** 上に同じ〔彙：娘家〕
Dang 只．獨り．辛うじて．僅かに (Damu に同じ)〔25.雙單：惟止〕
— **seme emu morin funcembi** 辛うじて一匹の馬が剩る (常に一匹の馬を乘廻し，乘換の馬のないのを云ふ)〔彙：只剩一個馬〕
Dangdaka 1. 脚を擴げて(寢る)．大の字になつた〔15.睡臥一：伸腿臥下〕 2. 伸び擴がつた〔18.抽展：舒坦〕
Dangdali 河川用の曳網．一個の幅十尋許り，上下三尋許り；之を幾個もつないで用ひ，大綱を船の Absa に結びつけ，兩岸より人が曳いて魚を捕るもの〔22.打牲器用一：攔河網〕
Dangdalilambi 河用の曳網を曳く〔22.打牲：下攔河網〕
Dangga Ungga に同じ〔10.親戚：長輩〕
Danggi ……だけ．……さへ．まづそれだけ〔18.散語五：就是那個〕
Danggiri 木の鈎に吊して打鳴す小さな銅鑼．僧の用ふるもの〔7.樂器一：鐺〕
Dangkan 譜代の下僕〔10.人五：世僕〕
Dangna 交代せよ〔彙：差事上替人差遣〕代りに射よ (競射に敗れ次の番の者を出て來させる)〔19.賭戲：替攢〕
Dangnaci ojorakū 代らうとしても代れぬ．代る譯に行かぬ〔彙：代替不得〕
Dangnahan 靴の裏の皮〔24.靴襪：皮牙子〕
Dangnambi 代る．交代する．當番が交代する〔5.輪班行走：代替〕
Dangniyabumbi 球を蹴上げさせる〔19.賭戲：使踢行頭〕
Dangniyambi 蹴球 (Mumuhu) を蹴上げる〔19.賭戲：踢行頭〕
Dangpuli 質屋〔13.當借：當舖〕
Dangsaha 樺皮製の口の開いた桶〔25.器用六：撇口樺皮桶〕
Dangse 檔子．檔案．役所の往復文書〔5.事務四：檔子〕〔7.書三：檔案〕
— **asarara kunggeri** 工部に屬する役所．書類，帳簿の出納，並に印信の鈐用等の事を掌る．又工部以外にもある〔補2.衙署四：樞科〕
— **bargiyara hafan** 內閣の檔案を扱ふ官〔4.臣宰四：典籍〕
— **bargiyara tinggin** 內閣の檔案の收藏等を掌る役所〔20.部院二：典籍廳〕
— **efulere ba** 各官廳の政務を調べ所定の期限內に終つた事柄を帳消しする事務を行ふ役所〔補2.衙署七：註銷處〕
— **ejere hafan** 檔案の事務を辨理する官〔4.臣宰六：典簿〕
— **ejere tinggin** 太常寺にある役所．文書の出納，祭祀の牲牢の事等を辨理する．又太常寺以外にもある〔20.部院六：典簿廳〕
— **faksalambi** 扉を開く〔彙：開戶〕
— **jafašakū** 知縣衙門の文書を扱ふ書記〔4.臣宰十二：主簿〕
— **jafašara hafan** 檔案の事を扱ふ官〔4.臣宰六：主簿〕
— **jafašara kunggeri** 盛京の總管衙門 (Uheri da yamun) に屬する役所〔補2.衙署七：司案科〕
— **jafašara tinggin** 大僕寺等にある役所．文書の出納其他の庶務を辨理する〔20.部院六：主簿廳〕
Dangsi 詰責せよ〔15.責備：使搶白〕
Dangsibumbi 1. 詰責させる 2. 詰責される．非難される〔15.責備：被搶白〕
Dangsimbi 詰責する．非違をあげたてる．非難する〔15.責備：搶白〕
Dangsan 1. 絲の切れ端．絲の使ひ殘り〔23.絨棉：線頭〕 2. 草の一本〔29.草四：草介〕
Daniyalabuha wai i ba 蔭に隱れた

曲り角〔彙：凡造背彎曲處〕

Daniyalabumbi 掩ひ隠させる〔15. 逃避：使掩避〕

Daniyalambi 物蔭に隠す．掩ひ隠す．掩蔽する．(風を)遮る〔16. 逃避：掩避〕

Daniyan 物蔭．蔽はれた場所〔16. 逃避：掩避處〕〔21. 室家四：遮餅處〕

Daniyartu 腰長く甚だ弱い獣の名〔補4. 異獣六：威夷〕

Danjimbi 1. 助けに來る〔15. 侵犯：來救援〕2. 指圖しに來る．來て掌る〔彙：來管人事〕

Danosg'a ilha 日が照れば開くといふ奇花〔補3. 異花一：提羅迦花〕

Danumbi 1. 互に助けあふ〔彙：相救應〕2. 人々が同時に指圖する．同時に掌る〔彙：凡事大家維持〕

Dar seme ぶるぶると(寒さの爲に震へる)〔13. 寒戰：冷極戰樣〕ぶるぶると(怖れの爲に震へる)〔13. 怕懼二：膽戰〕

— **seme šurgembi** (寒さ又は怖れの爲に)ぶるぶると震へる〔彙：很冷了身子打顫．很怕了心打顫〕

Dara 腰．骨盤の上部〔10. 人身五：腰〕

— **cooha** 援兵．備への兵〔8. 兵：援兵〕

— **goloho** (突然身體を動かした時に)腰が痛んだ〔16. 疼痛一：腰閃了〕

Darabumbi 客に人々が代る々々酒を飲ませる〔6. 筵宴：讓酒〕

Daradu 基山に出るといふ奇獣，羊の形をしてゐて九尾四眼四耳あり，眼が腰にあるもの〔補4. 異獣一：獨駱〕

Darakabi 1. よく馴れた．よく訓練された(獵犬，獵鷹が)〔9. 頑鷹犬：鷹狗熟練〕2. つけ上つた．増長した〔15. 侵犯：尋趁慣了〕

Darakai 弓を引絞つて〔彙：弓僅着滿滿拉着定着〕

Darakū (Dambi の否定形)掌らぬ．干與せぬ．火がつかぬ．矢がつきさゝらぬ．刀が切れぬ〔彙：不管．點火不着．箭射不進去．砍不入〕

Darakūlambi 無禮な振舞をする〔5. 爭鬧一：無禮〕

Darama Dara に同じ〔10. 人身五：腰〕

Darambi 弓を引絞る〔8. 步射一：拉滿〕

Darambumbi (獵鷹，獵犬を)訓練する〔9. 頑鷹犬：調練鷹狗〕

Darang seme 1. 長々と伸びて(寢る)〔15. 睡臥一：直挺挺的〕2. 長く伸びた．だらりと伸びた〔25. 諸物形狀一：挺長〕

— **seme deduhebi** 長々と足腰を伸して寢た〔彙：脚伸直睡〕

— **seme golmin** (人や物が)非常に長い〔彙：凡人物長〕

Daranumbi 互に酒を勸めあふ〔6. 筵宴：對讓酒〕

Darbahūn 仰向けに(寢る)〔15. 睡臥一：仰面挺身臥〕

Dardan 1. 金絲を織り込んだ緞〔23. 布帛一：粧緞〕2. Gin alha に同じ〔彙：草片金．與 Gin alha 同〕

— **seme** がたがたと(全身が震へる)〔13. 寒戰：渾身打戰〕

— **seme šurgembi** (寒さの爲に)がたがたと震へる〔彙：冷凍不能勉强打顫兒〕

Dargalaha amban 職を罷めて猶俸祿を給せられる大臣〔4. 臣宰一：原品致仕大臣〕

Dargimbi 震へ戰く〔彙：戰兢之戰〕

Dargime aššambi ぶるぶると動く．おのゝき動く〔彙：身子打戰兒動〕

— **šurgime olhome geleme** 戰々兢々として．震へ戰き〔彙：戰々兢々〕

Dargiya 頸動脈〔10. 人身八：脖項跳脈〕

Dargiyambi 1. 拳をふり上げる〔5. 爭鬧二：揚拳〕2. (刀，棍棒等を)ふりかぶる．ふり擧げる〔8. 征伐五：擧刀棍〕

Dargūwan 木の鋤．滿洲式の鋤．(往昔滿洲に鐵の鋤がない時に用ひたもの)〔21. 農器：關東鋤〕

— **yangsambi** 長い木で田を鋤く〔彙：古時滿洲無鋤鎒用長木舍鎒一樣者往前推耘田〕

Darha cecike Fenehe cecike に似た小鳥．此の鳥の巢はフェルトの如く，婦人が産の時に燒き，酒に和へて食ふ〔30. 雀四：蘆草鳥〕

Darhūwa をぎ．よし〔29. 草二：蘆草〕

Darhūwa cecike 小鳥の名. Baibula より小さく二本の長い羽根があり葦の葉に巣を作る〔30.雀四：地鳥〕
Darhūwan 1. 細長い木. 木の竿〔29.樹木九：杆子〕 2. 竿秤の竿〔22.衡量一：桿子〕 3. Dargūwan に同じ〔彙：犂田的竿子〕
Dari ……毎に〔18.散語五：毎〕
Daribuha (獣を射て) 矢が掠つた〔9.畋獵三：些微射着〕
Daribumbi 立寄らせる. 經由させる〔彙：使順便. 使經〕
Darimbi 1. (巻狩で) 澤山の獣が人に觸れて通過ぎる〔9.畋獵二：獣擦人過〕 2. 立寄る. 經由する. 通過ぎる〔彙：順便到去〕 3. 馬に鞍ずれ (Darin) が生ずる〔彙：馬打磨出瘡〕 4. あてこする. 皮肉を云ふ〔彙：譏刺之譏〕
Darin 1. 馬の背の鞍擦れ, 又は擦傷〔32.馬畜残疾一：迎鞍瘡〕
— **i teisu** 鞍擦れや擦傷の傷口〔彙：牲口打破瘡之大小分兒〕
Darka cecike Karka cecike の別名〔補4.雀四：鴉鵲〕
Dartai 暫時. 少しのあひだ〔2.時令三：暫時〕
Daru 掛けで買へ〔彙：令人賒物之賒〕
Darubuhabi 又もや病氣になつた. 病み勝ちの. 多病の〔16.疾病一：肯病〕
Darubumbi 1. 掛けで買はせる〔22.貿易二：使賒〕 2. 屢々腫物を生ずる. 又もや病氣に罹る〔彙：累出瘡疾. 動不動就病. 卽 Nimeku de darubuhabi 也〕
Darudai 鳳 (Garudai) の別名〔補4.鳥一：鵬〕
Daruha 人違ひした. Ajirka と同じ〔17.過失：認錯了〕
— **urun** 幼時より引取つて養つておいた嫁〔10.人倫二：童養媳婦〕
Daruhai いつも. 常に. 始終. 全く〔18.完全：常常的〕
— **hūsun** 常傭の人夫. 長期契約の職人〔10.人三：長工〕
— **jekei** 始終食つてばかり居て〔彙：只管常常吃〕
Darumbi 掛けで買ふ. 代金を後拂にする〔22.貿易二：賒〕
Darun 馬牛に水を飲ませる所. (河の) 水汲み場. 棧橋〔2.地輿十一：馬頭〕
Dasabumbi 1. 治療させる. 治療してもらふ〔19.醫治：使醫治〕 2. 治めさせる〔彙：使之治〕 3. 修理させる〔彙：使修理〕
Dasaha 1. 改めた. 修理した. 治めた〔彙：更改了. 修理了〕 2. (巻狩の勢子の列が) 整つた〔彙：圍場看中攢各自管着齊齊均勻了〕 3. 修業した. 上達した. 進歩した〔彙：滿漢學問漸長了. 人學好了更改了〕
— **jugūn** 天子の通る道〔19.街道：御道〕
Dasambi 1. 治める. 統治する〔5.政事：治〕 2. 改める. 改正する. 改良する〔5.辨事二：改正〕 3. 推敲する. (文字を) 改める〔7.書七：改正〕 4. 巻狩の勢子が中攢を基準に列を整へる〔9.畋獵二：整圍〕 5. 治療する〔19.醫治：醫治〕 6. なほす. 修理する〔彙：修理〕
Dasame 改めて. 治めて. 重ねて. 改むべく〔彙：重復. 治. 修理. 更〕
Dasan 政務. 統治〔5.政事：政〕
— **be hafumbure yamun** 地方官の上奏文を接受校閲して内閣に送り, 兼ねて民間の冤枉を明かにする事を掌る役所〔20.部院六：通政使司〕
— **be selgiyere hafan** 督撫の下にあつて各省の財政其他の民政を掌る官〔4.臣宰十二：布政使〕
— **de aisilara oyonggo tuwabun i bithe** 書名〔續2.書：資政要覽〕
— **i nomun** 書名〔7.書一：書經〕
Dasargan 處方箋〔19.醫治：藥方〕
Dasatambi 1. 整へる. 整理する〔彙：整理〕 2. 身づくろひをする. 身形(なり)を整へる〔24.梳粧：收拾〕
Dashūwan 1. 弓袋〔9.撒袋弓靫：弓靫〕 2. ゆんで. (八旗の) 左翼〔彙：左翼. 卽 Dashūwan i gala 也. 東嘎喇乃鑲黃正白鑲白正藍四旗〕
— **dube** 一旗 (Gūsa) 内の第五甲喇 (Jalan)〔3.旗分佐領一：五甲喇〕
— **gala** 八旗の左翼 (鑲黃, 正白, 鑲白,

正藍の四旗)〔3. 旗分佐領一：左翼〕
Dashūwan i gala 上に同じ〔彙：左翼. 東噶喇〕
— i muheren 弓袋につけた環. 戦の時刀を鞘に入れる暇のない場合に刀をさす爲のもの〔9. 撒袋弓靫：鳥翅環〕
— meiren 一旗(Gūsa)内の第四甲喇(Jalan)〔3. 旗分佐領一：四甲喇〕
Dasi 蓋へ. 門を閉めよ〔24. 鋪蓋：蓋〕
Dasibumbi 1. 門を閉めさせる〔21. 開閉：使掩門〕 2. 被ひをさせる〔24. 鋪蓋：使遮蓋〕被をされる〔彙：被蓋着〕
Dasihikū gasha 猛禽. 食肉鳥〔30. 鳥三：鷙鳥〕
Dasihimbi 1. (猛禽が)翅で獲物をうち落す. とびかゝる〔30. 飛禽動息二：鷹撃物〕 2. 犠牲を刺殺す〔彙：征. 祭〕
Dasihire hafan 三品の營官. 參將の下の官〔4. 臣宰十三：遊撃〕
Dasihiya 埃を拂へ〔6. 灑掃：撣〕
Dasihiyabumbi 埃を拂はせる〔6. 灑掃：使撣除〕
Dasihiyakū はたき〔25. 器用二：撣子〕
Dasihiyambi 埃をはたく. 埃を拂ふ〔6. 灑掃：撣除〕
Dasikū ふた. 被ひ〔25. 器用八：罩子〕
Dasimbi 1. 門, 窓を閉す〔21. 開閉：掩門〕 2. 被ひをかぶす〔24. 鋪蓋：遮蓋〕
Dasin Emu dasin を見よ
Dasu 子供達. Juse と同じ〔10. 人倫二：衆子〕
— maktambi 根元より切つた木の根を手前にし梢を敵の方に向けて置く(敵の矢を防ぎ同時に味方の矢の狙ひが定め易い)〔8. 征伐五：用整樹撐箭〕
Dasukū みさご(Suksuhu)のくまたか(Damin)に似たもの〔30. 鳥五：鵰鶚〕
Dašurambi 侵害する. 害なふ. 毒する〔15. 侵犯：作害〕
Dašuran 侵害. 害毒(のある)〔15. 侵犯：為害〕
Dayabumbi Fafun i gamambi に同じ〔5. 刑罰二：正法〕
Dayambi 依附する. 頼りにする. 附和する〔12. 倚靠：依附〕
Dayanambi 頼つて行く〔12. 倚靠 去：依附〕
Dayancambi 馬が首を兩側に盛にふる〔31. 馬匹動作一：馬揺脖子〕
Dayandumbi 互に頼り合ふ. 一齊に附和する〔12. 倚靠：互相依附〕〔彙：Dayanumbi〕
Dayanjimbi 頼つて來る〔12. 倚靠：來依附〕
De ……に. ……にて. ……に於て. ……の時に. ……に對して. ……に依り〔18. 散語五：承上起下〕
Debderembi (雛が巢の中で)羽搏きする〔30. 飛禽動息一：雛鳥搧翅〕
Debe daba うぢゃうぢゃ(虫が群つた様)〔32. 蟲動：虫蟲衆拱〕
Debeke 溢れ出た〔2. 地輿七：水漲出〕
Debembi 溢れ出る. 漲り出る(河の水, 鍋の水等が)〔28. 煮煎：漲出〕
Debere be gidara jahūdai 洪水の時に出す救助船〔26. 船一：漲船〕
Deberen 動物の仔, 雛〔31. 諸畜三：崽子〕
— gūlin cecike Gūlin cecike の雛. 嘴は赤味を帶びて體は淺黄色のもの〔30. 雀一：鶯雛〕
Debeye orho Nišikte に同じ〔29. 草四：席草〕
Debkebumbi 一旦濟んだ事を更めて云はせる〔彙：使悔. 使復言〕前言を飜へさせる〔5. 詞訟二：使刁登〕
Debkejehebi ほどけた. 開いた〔25. 破壊：披散開了〕
Debkejembi (荷造りが)ほどける. 繩がとける. 絲目が解ける〔25. 破壊：披散開〕
Debkele 繩, 絲の撚りを戻せ〔23. 絨棉：劈繩線〕
Debkelebumbi 繩, 絲の撚りを戻させる〔26. 殘毀：使劈繩線〕
Debkelembi 繩や絲の撚りを戻す. 撚りを解く〔26. 殘毀：劈繩線〕
Debkembi 一旦濟んだ事を更めて言ふ. 蒸返す〔5. 辨事二：更張〕前言を飜す〔5. 詞訟二：刁登〕
Debse 1. 薩滿の祈りに用ふる白麻をつけた矢〔6. 祭祀器用二：神箭〕 2. 果實

を用ひて作つた餡〔27.餡々三：雜果糕〕

Debsehun 1. 眼瞼の垂れ下つた(人)〔11.容貌三：眼皮下垂〕2. 眠さうな顔の(人)〔15.睡臥一：眼矇困〕

— oho 疲れて眠きうな眼付になつた〔彙：困了眼皮只往下垂了. 卽 Yasa debsehun oho 也〕

Debsibuku 旗地. 旗の布〔9.軍器七：蓄旗幅〕

Debsiku 羽根扇〔25.器用二：翎扇〕

Debsimbi 1. 羽搏く〔30.飛禽動息一：搧翅〕2. 羽根扇で煽ぐ〔15.歇息：搧翎扇〕

Debsire garunggū kiru (儀仗の名) 鷺の模様を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：翔鷺旗〕

Debsitehe miyehudehe (鳥が)羽搏き(獣が)跳び廻つた〔彙：蹁蹮卽禽獸舞〕

Debsitembi 1. しきりに羽搏きする〔30.飛禽動息一：不住的搧翅〕2. 旗がはためく〔彙：旗纛展擺〕

Debtele 絲の縺れを解け〔23.絨棉：理亂絲〕

Debteleme dasambi 絲の縺れを綜理に解く〔彙：線絨絲等細物亂了令解開〕

Debtelin (書物の)一冊. 一巻. 綴ぢた本〔7.書三：本子〕

— i bulgiyen 本の表紙〔7.書三：書殼子〕

Debumbi (Dembi の使役形) 班の一員となさしめる〔5.輪班行走：准補數〕

Dede dada そわそわと. 立つたり坐つたり〔17.輕狂：不穩重〕

Dedenggi 蓮葉な. 輕薄な. 浮氣な(婦人)〔17.輕狂：婦女輕薄〕

Dedubumbi 1. 寢かせる. 寢かしつける〔15.睡臥一：使臥〕2. 物を横向きに置く. 横に倒す〔21.倒攴：放倒〕3. 練つたうどん粉を醱酵させる爲に温處におく〔22.趕拌：發麵〕

Deducehebi 一齊に臥した〔15.睡臥一：一齊臥〕

Deducembi 一齊に臥す〔彙：衆齊睡〕

Dedumbi 臥す. 横になる. 寢轉ぶ(人又は馬等の家畜が)〔15.睡臥一：臥〕〔31.馬匹動作二：臥〕

Dedun 1. 宿場. 驛. 宿り. 2. 一日の行程〔19.街道：宿處〕

Dedungge hengketu (儀仗の名) 瓜の形に彫つた木に金を被せ横向きに桿にさしたもの〔6.鹵簿器用五：臥瓜〕

Dedure biya 産み月〔13.生産：臨月〕

Defe 一反(織物の)〔23.布帛六：布帛副子〕

Defelinggu まるのまゝの反物. 反物の寸法の一定恰度あるもの〔23.布帛一：整疋〕

Defere やぶそてつ〔27.菜殽三：貫衆菜〕

Defu 「豆腐」の音譯. Turi miyehu に同じ〔彙：豆腐〕

Degetu konggoro 白民國に出る奇獸, 狐に似て居り背に角のあるもの〔補4.獸一：乘黃〕

Dehe 1. (Dembi の過去形). 班の一員とした〔5.輪班行走：已補數〕2. 釣り針〔22.打牲器用二：釣魚鉤〕

Dehebumbi 1. 金を精煉させる〔26.折鎚：使煉熟金〕2. 葉煙草を蒸して黄色にさせる〔彙：使壓烟葉變黃〕

Dehehe aisin 精煉した金. 良質の黄金〔22.貨財一：精金〕

Dehekū 班の一員に任命しなかつた〔5.輪班行走：未補數〕

Dehele 袖無し上衣. Olbo (馬掛)の袖の無いもの〔24.衣服一：齊肩短褂〕

Dehelembi 鉤で引懸ける〔8.征伐五：用鉤鉤〕

Deheli sonjosi 殿試に第三位で及第した者. 榜眼の次位〔4.臣宰十二：探花〕

Dehema 母の妹の夫〔10.親戚：姨父〕

Dehembi 1. 金を精煉する. 精製する〔26.折鎚：煉熟金〕2. 葉煙草を蒸して黄色にする〔29.草三：們菸葉〕

Deheme 母の妹〔10.親戚：姨母〕

Dehemete Deheme の複數形〔10.親戚：衆姨母〕

Dehengge šurukū 尖に鉤をつけた竿〔26.船四：挠子〕

Dehi 四十(數詞)〔7.數目二：四十〕

Dehi uyun gūsa 內蒙古の四十九旗〔3. 旗分佐領二：四十九旗〕
Dehici 四十番目〔彙：第四十〕
Dehite 四十毎に〔彙：各四十. 毎四十〕
Dehurembi 方々で物を求める〔13. 求望：徧求〕
Deide 黒い蕎麥粉. 麩を共に捏いたもの〔28. 米穀二：黑蕎麥麵〕
Deiji 焚け〔23. 烟火三：燒〕
Deijibumbi 焚かせる〔23. 烟火三：使焚燒〕
Deijiku 柴. 薪〔29. 樹木十：燒柴〕
— **be kemnere kūwaran** 工部に屬し, 官工場に用ふる古繩席, 木炭類を收藏する所〔補2. 衙署四：惜薪廠〕
Deijimbi 焚く. 燒く〔23. 烟火三：焚燒〕
Deijin i hija 紙陌等の物を焚く鐵の爐〔6. 祭祀器用一：燎爐〕
— **i ukdun** 煉瓦, 瓦の類を燒く窯〔2. 地輿五：磚瓦窑〕
Deisun 屨ひも〔24. 衣服三：靴褲屨〕
Deji 1. 初穗. 上等の物. 最も好い部分〔11. 孝養：上分〕2. 圖抜けて衆より優れた者. Haha i deji〔11. 德藝：出類〕
— **bumbi** 長上に初穗を與へる〔彙：凡得之物給長上有年人送去〕
— **jafambi** 上等の物をとる〔彙：凡物取拿貴重的上等. 抽拿頭兒〕
Dekdebumbi 1. 浮べる〔2. 地輿十二：使浮漂〕2. 事を起す. 一旦治まつた事を又起す〔5. 詞訟一：生事〕3. 飛びたたせる〔彙：使飛起〕
Dekdehun 背が稍高い〔11. 容貌五：略高些〕
Dekdeku 魚釣のうき〔彙：釣魚竿上的水浮子〕
— **doohan** 浮き橋〔19. 街道：浮橋〕
Dekdeljembi (眠つてゐて)はつとして身を動かす〔13. 怕懼一：驚悸〕
Dekdembi 1. 浮く. 浮き漂ふ〔2. 地輿十二：浮漂〕2. (鳥が)飛びたつ〔30. 飛禽動息一：飛起〕
Dekden i gisun 風說. 浮語. 無稽の言〔14. 言論一：流言〕
Dekdengge dabagan 滿洲の山名〔補1. 地輿一：興隆嶺〕
Dekdenggi 肉汁の表面に浮いてゐる油〔27. 飯肉二：浮油〕
Dekdeni gisun 諺. 言ひならはした言葉〔14. 言論一：常言〕
Dekderhūn Mederi kilahūn (海鯨)の別名〔補4. 鳥五：鯨〕
Dekdersembi 叛心を起す〔16. 叛逆：起叛心〕
Deken 1. 稍高い. 小高い〔彙：高些處之高. 卽 Deken i ba 也〕2. Emu deken を見よ.
Dekjike 1. 家運が興隆した. 繁昌した〔11. 富裕：興旺〕2. 成人した. 發育した〔13. 生育：長進了〕
Dekjiltu konggoro Degetu konggoro (乘黃)の別名〔補4. 獸一：騰黃〕
Dekjimbi 大夫に成人する. 成長する〔13. 生育：長進〕
Dekjin tuwa 野火〔23. 烟火一：荒火〕
Dekjiraku 1. 一向成人せぬ. 少しも大人らしくならぬ〔18. 鄙瑣：沒出息〕2. 一向火がつかぬ〔23. 烟火四：不起火〕
Dekjire jalungga namun 兩浙地方より運び出す鹽を沿路の驛に於て貯へる官庫〔補2. 衙署八：將盤庫〕
Delbin 帽子の緣〔24. 冠帽一：帽沿〕
Dele 1. 上. 物の上. Dergi (1) に同じ〔2. 地輿十三：上〕2. 主上. 天子〔3. 君一：皇上〕
— **hargašambi** 天子に謁見する. 天子を拜する〔6. 朝集：陛見〕
Delejen 溝や垣の無い庭〔彙：房園無圍籬無挖壕溝光場々的〕
Deleken 少し上. 稍上方. 稍上等〔2. 地輿十三：略上些〕
Delen 獸の乳の內部の肉枝〔31. 產獸體：奶枝子〕
Delerekebi 木器の繼目が離れた. 箍などが脫けた〔25. 諸脫：箍子開了〕
Deleri 1. 勝手な. 許可なしに. 獨斷で〔17. 强凌：越分專行〕2. 仕事に身をいれぬ. 浮調子な. 氣にかけぬ〔12. 怠慢迂疎：浮〕3. 馬上で腰が落着かぬ〔彙：騎馬身上之上〕
Delferi 輕率な(人)〔17. 輕狂：狂淫〕
Delfiyen だぶだぶの(衣服が)〔24. 衣

服四：衣帽篤大〕

Delhe 1. Delhen に同じ〔彙：田一塊兩塊之塊〕 2. Emu delhe を見よ.

Delhebumbi 1. 屠殺した家畜の骨節を切り離す〔28. 剝割一：卸骨縫〕 2. 分家させる〔彙：使分家〕

Delhembi 1. 分れる. 分散する〔18. 散語五：分開〕 2. 分家する. 家産を分ける〔彙：弟兄分家之分〕

Delheme fakcame 別れ別れになつて. 分離して〔彙：分離. 離別〕

Delhen 田地の一區劃〔21. 田地：塊數〕

Delhentumbi 遺言する. 遺囑する〔6. 喪服一：遺言〕

Delhetu niru Booi niru に同じ〔3. 旗分佐領一：內府佐領〕

Deli wehe 大石〔2. 地輿六：磐石〕

Delihum 脾臟〔10. 人身七：脾〕

— **madaha** 馬の腹が脹れた〔32. 馬畜殘疾一：肚脹〕

Delišembi (水が) だぶつく. 湛へた水が動く〔2. 地輿十：水滿泚動〕

Deluleme fiyelembi 鬣を摑んで馬に跳乘る(曲馬で)〔8. 騙馬：抓鬃大上〕

Delun 鬣〔31. 馬匹肢體二：脖鬃〕

— **gidame fiyelembi** (曲馬で) 左手で鞍橋を抱き, 右腕で鬣を壓へて跳乘る〔8. 騙馬：壓鬃大上〕

Dembei 甚だ. 大層. 誠に. 非常に. 極めて. 度々〔25. 多寡一：著實〕

— **mangga** 極めて堅い. 大層强い. 非常に好い. 非常にきつい〔彙：很硬健. 很好. 很利害〕

Dembi 班 (Idu) の一員となす. 當直員に任命する〔5. 輪班行走：補數〕

Demesi 威張つた (人)〔17. 驕矜：怪樣人〕

Demesilembi 威張る. 虛勢を張る〔17. 驕矜：怪樣〕

Demniyebumbi 手で持擧げて重さを計らせる〔彙：使試看〕

Demniyecembi (轎等が) ゆらゆら搖れる〔26. 車轎二：轎顚搖〕

Demniyembi 手で持擧げて重さを大體計る〔22. 衡量二：掂估輕重〕

Demtu 星座の名. 二十八宿の一〔1. 天文二：斗〕

Demun 異樣な (行爲). 異端 (の). 風變りな (行爲)〔18. 厭惡：怪樣〕

Demungge 變り者. 異樣な行の (人). 異端の (者). 奇妙な〔18. 厭惡：怪物〕

— **feksin** 曲馬〔8. 騎射：立馬伎〕

Den 1. 高い〔2. 地輿五：高〕 2. 背が高い〔11. 容貌五：高〕

— **bojiri ilha** 幹長く, 大きな黃色の花〔29. 花五：丈菊花〕

— **i ici** 高い方に. 高い所に向つて〔彙：向高〕

Dende 分けよ〔彙：令分〕

Dendebumbi 分けさせる〔12. 分給：使分〕

Dendecembi 共に分ける. 分けあふ. 皆集つて分ける〔12. 分給：共分〕

Dendembi 分ける. 分つ〔12. 分給：分〕

Dendeme kadalara yamun 分司. 出張所〔20. 部院九：分司〕

— **tacibure hafan** 國子監の官名. Alifi tacibure hafan (學正) の次の官〔4. 臣宰五：學錄〕

Dendenumbi 各自が分ける. 互に分け合ふ. 同時に分ける〔12. 分給：同分〕

Deng 次に同じ〔彙：止住〕

— **seme** 1. ぐっと (言葉につまる)〔12. 問答二：詞窮了〕 2. 困窮の極に達した形容〔13. 貧乏：窘住了〕

— **seme iliha** (馬が疲れて) ぐったりとして立止つた〔31. 馬匹馳走二：馬乏不走〕

— **seme oho** 1. ぐっと言葉につまつた〔彙：言窮了不能答了〕 2. 困窮の極に達した. 困窮して如何とも出來なくなつた〔彙：艱難困迫沒奈何翻白瞪眼了〕

Dengge 遠くに投げよ〔15. 擲撒：往遠撒〕

Denggebumbi 石を遠くに投げさせる〔15. 擲撒：使撒遠〕

Denggembi 1. 石を遠くに投げる〔15. 擲撒：撒遠〕 2. (角力で) 投げとばす〔8. 撩跤一：輪摔〕

Dengjan 燈. 燈火〔23. 烟火一：燈〕

— **dabu** 燈火をつけよ〔彙：令點燈〕

— **i sindakū** 燭蛩〔23. 烟火二：燈儿〕

Dengji orho 燈心草〔29.草二：燈草〕
Denglu Ayan toktokū に同じ．「燈籠」の音譯〔彙：燈籠〕
Dengne (力量を) 比較せよ．勝負せよ〔19.賭戲：比較〕
Dengnebumbi 小形のちぎ秤で量らせる〔22.衡量二：使用戲稱〕
Dengnehen 長靴の胴〔24.靴襪：皮掌子〕
Dengneku 貴金屬等を計るに用ふる小さなちぎ秤〔22.衡量一：戔子〕
Dengnembi 1. 小形のちぎ秤で量る〔22.衡量二：戔子稱〕2. 馬につけた荷駄の左右の釣合をはかる〔32.騎駝：頴均駄子〕3. 賭をする．勝負をする〔彙：兩人彼此不服比較勝負〕
Dengniyembi (遊戲) 人々が兩側に向ひ合つて立ち，相手側から投げた球を奪ひ合ふ〔19.賭戲：搶行頭〕
Dengse Dengneku に同じ．「戔子の音譯」〔彙：戔子乃稱金銀者〕
— **i ilga** ちぎ秤の錘〔彙：戔星〕
Dengselembi Dengnembi と同じ〔彙：稱戔子之稱〕
Dengsibumbi 車に搖られる〔26.車轎二：被車顛況〕
Dengsimbi 車がぐらぐら搖れる．がたがた搖れる〔26.車轎二：車顛況〕
Dengsitembi 1. びくびくする．憂懼する〔13.怕懼一：憂懼〕2. 盛に搖れる〔彙：忽上忽下〕
Deo 1. 弟．實弟 2. 一族中の同輩弟〔10.人倫二：弟〕
Deocilembi 弟の道を盡す．兄長に仕へる．兄事する〔11.友悌：行弟道〕
Deocin 兄長に仕ふるの禮〔11.友悌：悌〕
Deocingge 兄長に善く仕へる所の(者)〔11.友悌：盡弟道的〕
Deone 四歲の牛〔32.牛：四歲牛〕
Deote Deo の複數形〔10.人倫二：衆弟〕
Der seme 1. 甚だ(白い)．眞白なことの形容〔11.容貌八：雪白的〕2. 紛々と．澤山に〔彙：紛紛．濟濟〕
— **seme šanyan** 眞白な．雪の樣に白い．甚だ白い〔23.采色二：甚白〕
Derakū 面目を無くした(者)〔16.咒罵：沒體面〕
Derakūlambi 面目を失はす．面目を潰す．侮辱する〔16.咒罵：不留體面〕
Derbebumbi 濕氣を含ませる〔18.濕潮：使潮〕
Derbeburakū 濕らせぬ〔彙：不致潮濕〕
Derbehun 濕氣(を帶びた)．稍じめじめした〔18.濕潮：潮〕
— **sukdun** 濕り氣〔彙：濕氣〕
Derbembi 少しく濕る．濕氣を帶びる〔18.濕潮：發潮〕
Derbeme usihihe じめじめと濕つた〔彙：霉濕了〕
Dercilembi (死者を棺に入れる前に，顏を洗ひ服を着せて) 牀の上に置く〔6.喪服一：停床〕
Derden dardan ぶるぶると(震へる)〔15.搖動：顫動〕
— **dardan aššambi** ぶるぶる動く．顫動する〔彙：顫動〕
— **seme** ぶるぶると〔13.寒戰：戰動樣〕〔15.搖動：顫動〕
Derdu 腹掛け〔24.衣服二：兜々〕
— **cecike** Dertu cecike に同じ〔四體30.雀五：兜兜雀〕
Dere 1. 方．方角．……の方〔2.地輿十三方〕2. 顏．顏面．面目．名譽〔10.人身二：臉〕3. 卓．食卓〔25.器用二：桌〕4. ……であらうか．……ではあるまいか．……かも知れぬ〔17.猜疑：想是呢〕5. ……であるぞ．……なるのみ．〔彙：乎字罷了耳字歟字口氣用于話尾〕
— **banjimbi** 偏頗な裁きをする〔5.詞訟二：看情面〕
— **felembi** 恥を構はずに願ひ求める〔13.求望：捨臉〕
— **funceburakū** 面目を丸潰れにする．(辱しめて) 面目を剩す所がない〔彙：不給人剩留臉面〕
— **mangga** 面皮が厚い〔17.羞愧：臉厚〕
— **sibsihūn** 顏が下すぼみの〔彙：臉下窄〕
— **silemin** 厚顏で一向動じない．恥を

恥と思はぬ〔17.羞愧：臉慙〕

Dere šehun 顔が白い(赤くならぬ). 恥かしがらぬ. 平然とした〔17.羞愧：皮臉〕

— **šehun girurakū** 顔色平然として恥ぢぬ〔彙：臉光亮亮的舍着不害羞〕

— **tokome** 面前に. 眼の前に. 當面して〔5.辨事一：當面〕

— **waliyatambi** 1. 立腹して互に見合はぬ〔13.怒惱：摺臉子〕 2. 面目を失ふ. 恥かしさに顔を蔽ふ〔17.羞愧：丟臉〕

Derei bangtu 卓子の幕板. 卓子の側面の板〔25.器用二：桌牙子〕

— **bethe** 卓子の脚〔25.器用二：桌腿〕

— **hašahan** 卓子掛〔24.鋪蓋：桌幃〕

— **sidehun** 卓子の脚と脚の間に渡した横木〔25.器用二：桌撐子〕

— **šuwase** Derei hašahan に同じ〔彙：桌圍〕

— **talgari** 卓子の甲板(ぶた). 卓子の上面の板〔25.器用二：桌面子〕

Derencumbi 私情にとらはれる. 依怙贔屓をする〔5.詞訟二：狥情〕

Derencurakū 情にとらはれぬ. 公平な〔11.忠清：不狥情〕

Dereng darang 見榮をはる形容. 體裁を繕ふ形容〔18.散語五：粧體面〕

Derengge 名望ある(人)〔11.忠清：體面〕

— **jan** Fadu jan より稍大きく, 四面に四個の孔のある矢〔9.軍器四：方哨箭〕

Deresu はねかや類の草. をぎに似, 夏帽(Boro)を編むに用ゐる草〔29.草二：玉草〕

Deretu 長方形の物置机〔25.器用二：案〕

Derge simhun Moco simhun に同じ〔10.人身四：食指〕

Dergi 1. 上. 上方. 高い〔2.地輿十三：上〕 2. 主上. 天子〔3.君一：上〕 3. 東方. 東〔2.地輿十三：東〕

— **abka** 上なる天. 昊天〔1.天文一：上天〕

— **adun i jurgan** 天子の御馬に關する事務を掌る役所, 內務府に屬す〔20.部院七：上駟院〕

— **amba fukjingga hergen** 漢字の書體の一種. 通常の篆書に修飾を加へたもの〔補1.書四：上方大篆〕

— **amsu cai i boo be uheri kadalara ba** 宮中の飲食を供する事を掌る役所〔20.部院八：總管御膳房茶房處〕

— **asari** 東閣(內閣中の一閣)〔補2.衙署一：東閣〕

— **ashan** 國子監祭酒の事務所〔補2.衙署六：東廂〕

— **bithe foloro ba** 天子の御書を鐫摹し, 御用の硃墨を製する事を掌る役所, 內務府に屬す〔20.部院八：御書處〕

— **bithei boo** 皇子の學問所〔20.部院二：尙書房〕

— **bithei taktu** 殿版の書籍の版木を藏する所〔20.部院六：御書樓〕

— **buthai hacin belhere ba** 天子の御用の狩獵具を製造, 收藏する所〔20.部院七：上虞備用處〕

— **colhon i kiru** 儀仗の名. 藍地に山の形を刺繍した旗〔6.鹵簿器用四：東嶽旗〕

— **ergi munggan i baita be alifi icihiyara yamun** 清の東陵の諸陵の管理, 奉祠の事務を掌る役所〔20.部院九：東陵承辦事務衙門〕

— **ergi munggan i booi amban i yamun** 東陵の諸陵の掃除, 供物を行ふ役所〔20.部院九：東陵內務府總管衙門〕

— **ergi munggan i weilere jurgan** 東陵の諸陵の營繕事務を掌る役所〔20.部院九：東陵工部〕

— **ergi simnere bithei kūwaran** 貢院內の明遠樓の東側の受驗場〔20.部院十：東文場〕

— **ergici** 東方より〔彙：自東方〕

— **femen** 上唇〔彙：上嘴唇〕

— **gurung ni baita be aliha yamun** 東宮職. 皇太子に關する事務を掌る役所〔20.部院六：詹事府〕

— **gurung ni baita be aliha yamun i aliha hafan** 詹事府の長官

〔4. 臣宰四：詹事府詹事〕
Dergi gurung ni baita be aliha yamun i ilhi hafan 詹事府の次官〔4. 臣宰四：詹事府少詹事〕
— **hecen** 滿洲の地名. 遼陽の東北に在る〔續2. 地輿：東京〕
— **hese be ginggūleme dahara baita hacin be kimcime baicara ba** 部, 院, 八旗が上諭をよく奉行せるや否やを調査して其結果を三月毎に上奏する役所〔20. 部院二：稽察欽奉上諭事件處〕
— **horon be badarambure mudan** 天子の閲兵の後に奏する音樂の名〔補1. 樂：惇皇威之章〕
— **nahan** 西側の屋壁の温突. 又 Amba nahan とも云ふ〔彙：西山墻邊的炕. 又名大炕〕
— **oktoi boo** 宮中の藥局〔20. 部院八：御藥房〕
— **šongge inenggi** 陰陽の德が全く窮まつた日〔2. 時令六：上朔日〕〔補1. 時令二：上朔日〕
Dergiken 稍高い. 稍上方〔彙：略上〕
Dergingge 東方の(もの). 上方の(もの)〔彙：東邊的. 上頭的〕
Derhi むしろ〔24. 鋪蓋：蘆席〕
— **orho** Nisikte に同じ〔29. 草四：席草〕
Derhuwe はへ〔32. 蟲三：蒼蠅〕
— **bašakū** 1. 蠅たゝき〔25. 器用二：蠅帚〕 2. 拂子(儀仗)〔6. 鹵簿器用一：拂塵〕
— **ija** 蠅に似た一種の虻〔32. 蟲三：蠅虻〕
Deri ……より. ……から. ……より以來〔18. 散語五：由〕
Deribumbi 始める〔彙：凡事始作始創起〕音樂を奏し始める〔7. 樂三：奏樂〕
Deribume ilibure kunggeri 文官の增減, 任命を行ふ役所, 吏部に屬す〔補2. 衙署一：開設科〕
Deribun 始め. 始まり〔5. 事務一：始〕
— **duben** 始めと終り. 始から終まで〔彙：始末. 始終〕
Deribure fiyentehe 領題(Joringga i yarun)の次に對に書いた二節の句〔7. 書六：起股〕
— **giyangnan** 承題(Joringga i acabun)につゞけて一章の大意を書いた一節の詞〔7. 書六：起講〕
Derike 1. 老眼になつた〔10. 老少一：眼花〕 2. 心變りした〔彙：人的心腸比往常改變了〕
Derimbi 氣が變る. 心變りする〔16. 叛逆：心離〕
Derishun 心變りした. 異心のある(こと)〔16. 叛逆：叛離〕
Derkimbi 高く騰る〔14. 行走二：高縱〕
Derkišembi 旗が風にはためく. 飜る〔15. 搖動：旗颺動〕
Dersen gabsihiyari 毛並が白く足の速い犬〔補4. 諸畜一：白望〕
— **hoošan** 純白な一種の紙〔7. 文學什物一：白鹿紙〕
Dertu cecike 鶺鴒に似た小鳥. 鳴聲が "Dertu" と聞える〔五增體訂30. 雀五：兜兜雀〕
Desereke 汪洋とした. (大水が)ひろびろとした〔2. 地輿七：大水汪洋〕
Deserepi (Deserembi の過去分詞形). 汪洋とした. 瀰漫した〔彙：汪洋. 滔洋洋〕
Desihi 貂等をとる罠. 丸木橋を川に渡し之を通る貂鼠, 鼬をとる仕掛のもの〔22. 打牲器用四：打騷鼠的弸子〕
Desihimbi (角力で) 相手を差上げて振廻す〔8. 撩跤一：輪〕
Desiku Debse に同じ〔6. 祭祀器用二：神箭〕
Desunggiyembi 1. 塵をあげて掃き立てる〔6. 灑掃：揚灰塵〕 2. 高聲で叫ぶ〔14. 聲響一：高聲叫喚〕
Dethe 羽根. 翅の上の翎〔30. 羽族肢體一：翅翎〕矢の羽〔彙：箭翎〕
Dethengge kiltan 儀仗の名. 五個の紅纓をつけた幢〔6. 鹵簿器用二：羽葆幢〕
Detu dambi 低濕な荒地の草を根ごと燒く(開墾の爲に)〔23. 烟火二：藪澤荒蠆〕
Deyebumbi (鳥を) 飛ばせる〔彙：使飛〕

Deyembi (鳥が)飛ぶ〔30. 飛禽動息一：飛〕
Deyen 御殿. 宮殿〔20. 宮殿：殿〕
— **de simnembi** 殿試を行ふ〔4. 考選：殿試〕
— **de tembi** (朝拜をうける爲に天子が)殿に坐す. 御殿に出御になる〔6. 禮儀：陞殿〕
Deyenggu 1. 合唱〔7. 書二：謳〕 2. 紙鳶〔19. 戲具二：風箏〕
Deyenggulembi 合唱する. 謳歌する〔7. 樂三：謳〕
Deyere dobi むささび〔31. 獸七：鼯鼠〕
— **gūwasihiyangga kiru** 儀仗の名. 鷲の形を刺繍した旗〔6. 鹵簿器用三：振鷺旗〕
— **morin** Abkai morin (天馬) の別名〔補4. 異獸三：飛廬〕
— **singgeri** Deyere dobi の別名〔補4. 獸二：鼯生〕
— **šanyangga fukjingga hergen** 漢の蒼頡の案出せる飛白といふ漢字の書體〔補1. 書四：飛白書〕
Dilbihe 星座の名. 廿八宿の一〔1. 天文二：氐〕
Dingse orho 罌粟科の草の名. 此の根をとつて腫物につける膏藥を作る〔29. 草四：地丁草〕
Dise ㄴ底子┐の音譯. 草稿. 原稿〔彙：底子卽文章底子. 文稿之稿〕
Diselambi 草稿を作る〔彙：打草稿. 寫草稿〕
Diyan ㄴ殿┐の音譯. Deyen に同じ〔彙：宮殿之殿〕
— **de tembi** Deyen de tembi に同じ〔彙：登殿〕
Diyandz ㄴ點子┐の音譯. 賽やカルタ等に附したる點〔彙：攙色子抹骨牌等物的點子〕
Diyanlambi (Diyan はㄴ墊┐の音字) カルタを切る. 繰りまぜる〔彙：墊紙牌之墊減紙牌之減〕
Diyansi ㄴ典史┐の音譯. 官名. (Hiyan i eješi)〔彙：典史〕
Do 1. 內臟〔10. 人身七：臟腑總名〕 2. 餡. 凡て饅頭, 團子, 餠々類の中に包んだもの〔27. 餠々三：餡子〕
Dobi きつね〔31. 獸五：狐〕
— **yasha** 狐を捕る網 (狐の穴の口に仕掛けておき, 別の口より穴を燻べ, 出て來た狐を捕る道具)〔22. 打牲器用四：打狐狸的套子〕
Dobiha 耿山に出る奇獸. 形は狐に似て背に魚の如き刺あり〔補4. 異獸三：朱獳〕
Dobihi 狐の毛皮〔24. 皮革一：狐皮〕
Dobiri 狐に似た獸, 能く木に登る〔31. 獸五：射干〕
Dobke Hūšahū の別名〔補4. 鳥四：鵁鶄〕
Dobombi 供へる〔6. 祭祀二：供獻〕
Dobon dulin Dobori dulin に同じ〔2. 時令七：夜半〕
— **i šu ilha** 木で作り金箔をはつた蓮の花〔19. 佛一：把蓮〕
Dobonio まる一夜. 一晩中〔2. 時令七：整夜〕
Dobori 〔2. 時令七：夜〕
— **abkai tampin** 漏壺(滴)の第二個の壺〔7. 儀器：夜天壺〕
— **dulime** 夜を徹して〔彙：連夜〕
— **dulime jihe** 夜通しでやつて來た〔彙：連夜而來. 星夜而來〕
— **dulin** 夜の半ば. 子の刻〔2. 時令七：夜半〕
— **jetere giyahūn** Fu gūwara の別名〔補4. 鳥四：夜食鷹〕
Dobtokū 被ひ. かぶせ (小さい物の)〔25. 器用七：套兒〕
Dobtolobumbi 被ひをつけさせる〔彙：使裝套內〕
Dobtolokū 被ひ. かぶせ〔25. 器用七：套子〕
Dobtolombi かぶせる. 被ふ, 書物に書套を被せる〔7. 書七：裝套〕
Dobton 書套. 帙〔7. 書三：套〕外包み. 外袋. 鞘〔彙：印囊. 鞘. 凡物浮外遮套之套. 甲包〕
Dobukū 鷹を据ゑる止り木〔9. 頑鷹犬：鷹架子〕
Dobumbi 止り木に鷹を据ゑる〔9. 頑鷹犬：蹲鷹〕

Dodangga 1. 怪人. 變な奴. 怪しげな奴〔16. 咒罵：怪物〕 2. 盲人〔16. 殘缺：瞎子〕
Dodo 胎兒〔13. 生產：胎〕
Dodobumbi 1. 蹲らせる〔彙：使人蹲着〕 2. 打擲して身をすくめさせる〔5. 捶打：打抽抽了〕 3. (角力で)壓へて屈ませる〔8. 撩跤二：按蹲下〕
Dodombi 蹲る〔14. 坐立一：蹲着〕
Dodori 緣の寬い皮帽子〔24. 冠帽一：寬沿帽〕
Dogo 盲目(の)〔16. 殘缺：瞎〕
— **ija** 淡白色の上に縞模様のある虻〔32. 蟲三：花頭小蝱虻〕
Dogon 渡し場. 川の渡り得る處〔19. 街道：渡口〕
— **jafaha** 河が凍つて歩いて渡れる樣になつた〔2. 時令九：氷結成渡〕
Doha 1. だに？(體は圓形に近く，灰色，人や獸の身體に取附く蟲)〔32. 蟲四：狗蝨〕 2. (Dombi の過去形) 鳥が木に止つた〔彙：鳥雀在樹等物上落站着了〕
Doho 漆喰. 石灰〔26. 砌苫：石灰〕
— **muke hungkerembi** 石灰をといた水を流しこむ〔26. 砌苫：灌漿〕
Dohodombi 片足を手に持つて片足で跳ぶ〔13. 戲要：格蹬〕
Doholobumbi 漆喰を塗らせる〔26. 砌苫：使用灰〕
Doholombi 1. 漆喰を塗る〔26. 砌苫：用灰〕 2. (角力で)足をかける〔彙：跛跤從胯外用脚拌進〕
Doholon 跛〔16. 殘缺：瘸子〕
— **yoo** 馬の蹄の上の瘡〔32. 馬畜殘疾一：蹄漏〕
Dohošombi 跛をひく(人が，又馬が)〔14. 行走三：瘸〕〔32. 馬畜殘疾二：瘸〕
Doidon Doholon に同じ〔16. 殘缺：瘸子〕
Doigomšombi 豫め用意をする. 先んずる〔2. 時令二：預先備用〕
Doigon 先んじた. 先んずる事. それより前(の)〔彙：預先之預〕
Doigonde 豫め. 前以て. かねて〔2. 時令二：預先〕
Doingge leke 棗の餡を入れて作つた扁平な饅頭〔27. 餑々二：夾餡扁條〕
Dojihiyan Mujihiyan (狗熊)の別名〔補4. 獸一：白狐〕
Dokdo dakda がさがさした. 騷々しい〔17. 輕狂：抖抖擻擻〕
Dokdohon 突出した. 浮き出た. 盛上つた〔2. 地輿五：突起貌〕
— **furgi** 堤防より水流に斜めに突出した堤〔補1. 地輿二：磯嘴埽〕
Dokdohori 高い處にずらりと並んだ. 目白押し〔14. 坐立二：高處坐立〕
Dokdolaha びっくりした. どきりとした〔13. 怕懼二：嚇一跳〕
Dokdorgan 牛に似て，角はなく，足は一本，東海島の流波山に住むといふ奇獸〔補4. 異獸五：夔〕
Dokdori すっくと(起上る)〔14. 坐立二：猛站起〕
Dokdorilaha Dokdolaha に同じ〔13. 怕懼二：嚇一跳〕
Dokdorjambi 落着なく振舞ふ. 輕はづみな振舞をする〔17. 輕狂：輕佻〕
Dokdoršombi 上に同じ〔17. 輕狂：輕佻〕
Dokdoslaha Dokdolaha に同じ〔13. 怕懼二：嚇一跳〕
Dokita Kitari の別名〔補4. 獸二：獯獫〕
Dokjihiyan 頭のかど〔10. 人身一：頭角〕
— **niru** 先端の尖つた稍小さいかりや〔9. 軍器四：尖披箭〕
Doko 1. 裏. 內側〔彙：表裡之裡〕衣服の裏〔24. 衣服三：衣裏〕 2. 小道. 裏道. 近道〔19. 街道：抄道〕
— **jugūn** 小路. 近路〔彙：小路. 捷徑. 與 Talu jugūn 同. Dute talu 同〕
Dokolombi 1. (角力で)股の內側より脚をかけて外に拂ふ. 「內股」をかける〔8. 撩跤一：裹勾子〕 2. 多くの人を慫しみ世話する〔11. 友悌：另相親對〕 3. 近道を行く.〔14. 行走二：抄近走〕
Dokomimbi 着物に裏地をつける〔24. 剪縫三：綳裏子〕
Doksin 亂暴な(人が)〔17. 暴虐：暴〕從順でない. 手におへぬ(馬等が)〔31. 馬四三：劣蹶〕

Doksintu enduri 第廿九の歲神，凶殺の氣を司る神〔補2. 神三：飛廉〕
Doksirambi 亂暴する〔17. 暴虐：行暴〕
Doksoho weihe 出齒〔10. 人身三：包牙〕
Doksohon 露出した〔彙：露齒之露〕
Dolbi niru 鏑に稜 (Meiren) のない矢〔9. 軍器四：小披箭〕
Doli 1. ふくべ〔28. 果品四：瓤〕2. (馬の) ふらついた足並〔31. 馬匹三：頭的硬〕
Dolmobumbi 酒を酌み添へさせる〔彙：使斟酒在鐘裡復添酒〕
Dolmombi (盃の酒がなくならぬ先に) 更に酌み添へる〔6. 筵宴：斟酒〕
Dolo 中. 內. 內側. 內部〔14. 隱顯：內〕腹の中〔彙：腹中〕(心の) 中〔彙：心內之內〕
— **gosimbi** 空腹に耐えられなくなる〔13. 饑饉：餓的心慌〕
— **ilimbi** 弓が引き難い. 弓が强くて引けぬ〔9. 製造軍器二：弓有底子〕
— **ping sembi** 腹が脹れた樣に感ずる〔彙：腹內脹滿不思飲食〕
— **tatabumbi** 氣にかゝる. 不安に思ふ. 人の事が氣に懸つて離れぬ〔13. 愁悶：罣懷〕
— **tokobumbi** 腹が刺された樣に痛む〔彙：腹內刺痛〕
Dolori 1. 心の中で. ひそかに〔11. 性情二：默默的〕2. 內部 (で). 內面の (に).〔14. 隱顯：裏邊〕
Dombi (蟲や鳥が) 止る〔30. 飛禽動息二：落着〕
Domno 蹲拜を行へ〔彙：令女人行禮萬福〕
Domnobumbi 蹲拜の禮を行はせる〔6. 禮拜：使蹲拜〕
Domnombi 1. 婦人が兩手を膝にあてて三度叩首する (滿洲の禮). 蹲拜の禮を行ふ〔6. 禮拜：婦女蹲拜〕2. 蜻蛉が水面をうつ. 水面に止りに行く〔彙：蜻蜓戲水之戲〕
Domnon singgeri 形は普通の鼠に似て居て人を見ると前足をあげる小動物〔31. 獸七：拱鼠〕
Domo etuku 婦人用の下着. (單に Domo とも云ふ)〔24. 衣服二：女裏衣〕
Don 一本の翅. 拔けおちた羽根〔30. 飛禽動息二：一翅落地〕
— **hadambi** 河岸より十五尋許りの長さに沈めた丸太の尖端に柳枝製の籠を釘づけて網を張る (丸太に沿つて泳ぐ魚をとる仕掛)〔22 打牲器用二：釘樁下廻網〕
Dondoba つちばち. あかすちばち〔32. 蟲三：土蜂〕
Dondon てふてふ〔32. 蟲三：小蝴蝶〕
Dongmo 圓い茶壺〔25. 器用三：茶桶〕
Dongniyorombi (手網を控へた時に) 馬が頭を擧げる〔31. 馬匹動作一：項軟〕
Donji 聞け〔12. 聆會：聽〕
Donjibumbi 聞かせる. 聞いてもらふ〔12. 聆會：使聽〕
Donjici 聞くならく. 聞けば〔彙：臣聞之聞乃奏章首語. 如 Amban bi donjici 也〕
Donjihale 聞く者は誰でも〔彙：凡所聞〕
Donjimbi 聞く〔12. 聆會：聽見〕
Donjin 聞いた事〔12. 聆會：聽見的〕
Donjinambi 1. 聞きに行く. 行つて聞く〔12. 聆會：去聽〕2. 廣く聞えて行く〔彙：聞於外. 聞於天下〕
Donjindumbi Donjinumbi 同時に聞く. 一齊に聞く〔12. 聆會：一齊聽〕
Donjinjimbi 聞きに來る. 來て聞く〔12. 聆會：來聽〕
Doo 渡れ〔彙：令渡. 令渡河卽 Bira doo 也〕
Doobumbi 渡らせる〔2. 地輿十二：使渡河〕
Doobunggo jahūdai 渡し船〔26. 船二：渡船〕
Doocang arambi 道場を作る〔彙：做道場〕
Doohan 〔19. 街道：橋〕
— **jugūn i kunggeri** 驛站，船の修造，氷の貯藏等を掌る役所. 工部に屬す〔補2. 衙署四：橋道科〕
Doola 水をあけよ〔28. 澆溼：倒〕

Doolabumbi 1. 寫させる〔7. 書七：使謄寫〕 2. (器の中の) 水をあけさせる〔28. 澆注：使倒水〕
Doolambi 1. 謄寫する. 寫す〔7. 書七：謄寫〕 2. 水をあける. (器の中の) 水をすてる〔28. 澆注：倒水〕
Dooli hafan 道員. 布政, 按察使の下の地方官〔4. 臣宰十二：道〕
— **yamun** 都察院に屬する道廳〔20. 部院一：道〕
Doombi 渡る. 河を渡る〔2. 地輿十二：渡河〕
Doorambi 模倣する. 手本にする. 同一にする〔25 同異：宗照〕
Dooran 1. (開墾の爲の火に) 燃え殘つた荒地〔2. 地輿二：荒火未燒地〕 2. 未開墾の荒地〔21. 田地：未開墾地〕 3. 未だ火をかけぬ荒野の草. 又は青草の中に混つた枯草. Hakda と同じ〔29. 草一：荒餘草〕 4. 天然痘に未だ罹らぬ小兒〔10. 老少二：未出花小兒〕
Doorin 渡り板(船と埠頭の間にかける)〔26. 船四：跳板〕
— **i hūsun** 渡り板をかける人夫. 波止場人足〔10. 人二：躥跳夫〕
Doose 道教の僧. 道士〔10. 人四：道士〕
— **be kadalara fiyenten** 道教に關する事務を掌る中央官廳〔補2. 衙署二：道錄司〕
Dooseda 道士を取締る官〔4. 臣宰八：道官〕
Doosi 貪慾(な)〔18. 貪婪：貪〕
— **akū** 貪慾でない〔彙：無貪〕
— **nantuhūn** 貪慾で意地汚い〔彙：貪汚〕
Doosidaha weile araha ulin i namun 沒收した贓物並に罰, 贖銀をいれる官庫. 刑部に屬す〔20. 部院十二：贓罰庫〕
Doosidambi 貪取る〔18. 貪婪：貪取〕
Doosidarakū 貪らぬ〔11. 忠清：不貪〕
Dorakūlame 道理を無視して〔彙：做沒道理〕
Doran 鎧の札の一列〔9. 軍器二：一排甲葉〕
Dordon dardan ぶるぶると. がたがたと. Dardan に同じ〔13. 寒暑：亂戰〕
Dorgi 內. 內側. 內部〔14. 隱顯：內裏〕
— **amban** 領侍衛處の次官〔4. 臣宰一：內大臣〕
— **amsu i boo** 天子の御膳を掌る役所, 內外二ケ所ある中の內側のもの, 內務府に屬す〔20. 部院八：內膳房〕
— **baita be uheri kadalara yamun** 我が宮內省に當る役所〔20. 部院七：內務府〕
— **belhere yamun** 內務府に屬し, 園圃の禁令を掌る役所〔20. 部院七：奉宸苑〕
— **bithe ubaliyambure boo** 軍機處に屬し, 諭旨等を繙譯する事務を掌る役所〔20. 部院二：內繙書房〕
— **bithesi** 誥勅の書寫, 內閣の奏本の繙譯を爲す官〔4. 臣宰四：中書〕
— **bodogon** 戰略. 謀策. 朝廷にての謀略〔8. 征伐一：廟算〕
— **calu** 北京及び盛京の戶部內に在る官倉〔20. 部院十二：內倉〕
— **calu be kadalara yamun** 盛京戶部の內倉を管理する役所〔20. 部院九：內倉監督衙門〕
— **efen i boo** 宮廷にて用ひる餠々類を調へる處, 內外二ケ所ある中の內側のもの〔補2. 衙署七：內餠餠房〕
— **faidan be kadalara yamun** 皇帝の行幸や皇后等の巡行の際の鹵簿儀仗を掌る役所〔20. 部院八：鑾儀衛〕
— **faidan sindara namun** 儀仗類を收藏する宮城內の官庫〔20. 部院十二：內駕庫〕
— **hoton** 宮城〔19. 城廓：皇城〕
— **jijuhan** 易の內卦. 六爻の內の下の三爻〔補1. 書一：內卦〕
— **kadalan i yamun** 盛京の東, 西陵の清掃, 供物を取計らふ役所〔20. 部院九：內關防衙門〕
— **koolingga hafan** 周代の宮內官〔補1. 古大臣官員：內史〕
— **kūwaran i simnere baita be baicara hafan** 科擧の答案を檢閱する官〔4. 臣宰十：內簾監試官〕
— **namun** 宮城內に在る內務府の銀庫

〔20. 部院十二：內庫〕
Dorgi oktosi 侍醫〔4. 臣宰八：御醫〕
— **simnengge kunggeri** 京師の書吏の成績を視る事務を扱ふ役所〔補2. 衙署一：內考科〕
— **suri** 緞よりも薄く，稍粗い織物〔23. 布帛三：宮紬〕
— **tanggingge boo** 吏部に屬する役所の名〔補2. 衙署一：內堂房〕
— **unenggin** 易卦の名〔補1. 書二：中孚〕
— **yamun** 〔20. 部院二：內閣〕
Dorgici goholombi 股の內側より脚を掛ける（角力の手．柔道の「小內刈」の如し）〔8. 撩跤一：裏坎子〕
— **halgimbi** 相手の首を抱え，股の內側より脚をからませる（角力の手．柔道の「大內刈」の如し）〔8. 撩跤一：裏纏勾〕
Dorgideri 1. 裏で．こつそりと．內緒で〔11. 性情二：暗暗的〕 2. 內より．裏から〔彙：從內裡〕
Dorgoloho 發育の惡い（穀物等の）〔21. 農工三：不發生〕
Dorgon あなぐま．まみ〔31. 獸五：獾〕
— **i uncehen** 野菜の名．莖は一本，葉の形は百合に似て，穗を生ず．生のまゝ食ふ〔27. 菜蔬二：獾尾菜〕
Dorgori Kitari の別名〔補4. 獸二：狪豬〕
Dorimbi （馬等が）疾驅する〔31. 馬匹動作一：躥跳〕
Doro 1. 道．道理．常道．常例〔5. 政事：道〕 2. 禮儀．禮拜〔彙：禮〕
— **arambi** 最敬禮をする．拜禮をする〔6. 禮拜：施禮〕
— **be dasara tanggin** 國子監の西廊の第一の堂の名〔補2. 衙署六：修道堂〕
— **be mukdembuhe alin** 奉天の西北に在る山の名〔續2. 地輿：隆業山〕
— **be songkoloro mudan** 鄉飲酒の禮の時に奏する音樂の名〔補1. 樂：由庚章〕
— **de aisilaha amban** 正一品の文官の封號〔3. 封表一：光祿大夫〕
— **de hūsun akūmbuha amban** 正三品の文官の封號〔3. 封表一：通議大夫〕
— **de hūsun buhe amban** 從三品の文官の封號〔3. 封表一：中議大夫〕
— **de tusa araha amban** 正二品の文官の封號〔3. 封表一：資政大夫〕
— **de tusa obuha amban** 從二品の文官の封號〔3. 封表一：通奉大夫〕
— **de wehiyehe amban** 從一品の文官の封號〔3. 封表一：榮祿大夫〕
— **jorire yamun** 朝會及饗宴の儀禮を掌る役所〔20. 部院七：鴻臚寺〕
— **yangse** 道理と文采〔彙：理文．理體〕
— **yoso** Doro に同じ〔5. 政事：道〕
Dorohon 身體の小さい（子供が）〔10. 老少二：身小〕
Doroi amba faidan 法駕鹵簿，騎駕鹵簿，鑾駕鹵簿の三つを合せた最上級の鹵簿．天壇，社稷壇，常雩禮等の大祭のに用ひらる〔6. 禮儀：大際駕鹵簿〕
— **amba kiyoo** 金漆を塗り黃色の垂幕をつけた十六人で舁ぐ轎〔6. 鹵簿器用五：大禮轎〕
— **beile** 第五級の宗室封號〔3. 君一：多羅貝勒〕
— **beile i efu** 多羅貝勒の婿〔3. 君一：郡君儀賓〕
— **dengjan** 大きな儀式の時に宮殿の門の兩側に點す燈〔23. 烟火一：朝燈〕
— **efu** 郡王の婿〔3. 君一：縣主儀賓〕
— **etuku** 大禮服〔24. 衣服一：朝服〕
— **faidan** 大廟其他の諸壇廟の祭，陞殿の禮の時に用ひる鹵簿〔6. 禮儀：法駕鹵簿〕
— **faidan i kiyoo** 十六人で舁ぐ垂幕のない轎〔6. 鹵簿器用五：法駕步輿〕
— **fujin** 郡王の夫人〔3. 君二：郡王福晉〕
— **gege** 多羅郡王の女〔3. 君二：縣主〕
— **giyūn wang** 第三級の宗室封號〔3. 君一：多羅郡王〕
— **jaka** 禮物．進物〔彙：禮物〕
— **mahatun** 殷代の冠の名〔補1. 古冠冕一：章甫冠〕
— **niru** 鏃に稜の四つある矢．四稜鏃のついた矢〔9. 軍器四：大禮披箭〕

Doroi sara i fiyenten 傘, 蓋等の儀仗を修造, 保管する事を掌る役所. 鑾儀衛に屬す〔20. 部院八：鞏蓋司〕
— **suhen girdangga** 儀仗の名. 竿の尖は槍の如く, すげ口に五色の蘚を下げたもの〔6. 鹵簿器用二：儀鍠鞳〕
— **umiyesun** 朝服の帶. (品級に依つて制式が異る)〔24. 巾帶：朝帶〕
— **yoro** 禮裝の靫にさしておく蕪矢. 鏃は骨製, 四面で各面に孔がある〔9. 軍器五：大禮箙頭〕
Dorolobumbi 禮を行はしめる〔6. 禮拜：使行禮〕
Dorolombi 禮を行ふ. 儀式を行ふ. 禮拜する〔6. 禮拜：行禮〕
Dorolon 禮. 儀禮. 典禮. 禮式〔5. 政事：禮〕〔6. 禮儀：禮〕
— **amba faidan** 皇太后, 皇后の鹵簿〔6. 禮儀：儀駕〕
— **be aliha amban** 周代の祭祀を司る官〔補1. 古大臣官員：宗伯〕
— **be kadalara fiyenten** 內廷の禮樂に關する事務を掌り兼ねて太監の品級を考察し, 果園の收入を檢閱する役所. 內務府に屬す〔20. 部院七：掌儀司〕
— **faidan** 皇貴妃, 貴妃の鹵簿〔6. 禮儀：儀仗〕
— **i amba kiyoo** 皇太后, 皇后の乘用の十六人で舁く黃色の垂幕のついた金漆塗りの轎〔6. 鹵簿器用五：大儀轎〕
— **i boo** 理藩院に屬し, 典禮, 考試等の事務を掌る役所〔補2. 衙署五：禮房〕
— **i ejehen** 典禮を行ふに就ての規則〔6. 禮儀：儀注〕
— **i jurgan** 禮部(六部の一)〔20. 部院四：禮部〕
— **i jurgan i kungge yamun** 都察院に屬する六科の一, 禮部, 宗人府其他の役所の政務を監察する等の事務を掌る役所〔20. 部院五：禮科〕
— **i nomun** 書名〔7. 書一：禮記〕
— **i tetun i bithei kuren** 禮器の圖を畫く事等をする役所〔20. 部院十一：禮器館〕〔續2. 衙署：禮器館〕
— **kooli i kunggeri** 鴻臚寺に屬し, 典禮, 鹵簿, 謁見等の事務を扱ふ役所〔補2. 衙署六：禮儀科〕
— **kumun gabtan jafa bithe ton** 禮樂射御書數〔彙：六藝乃禮樂射御書數也〕
Dorolonjimbi 禮拜, 敬禮を行ひに來る〔6. 禮拜：來行禮〕
Dorolonombi 禮拜, 敬禮を行ひに行く〔6. 禮拜：去行禮〕
Doroloro sektefun 祭祀の時に敷く褥〔6. 祭祀器用一：拜墊〕
— **temgetu** 祭祀の時に跪く場所に置く牌〔6. 祭祀器用一：拜牌〕
Doron 印. 印章〔3. 諭旨：印〕
— **be dara ba** 吏部に屬し, 官印を捺し, 筆墨類を備へる等の雜務を行ふ所〔補2. 衙署一：印管處〕
— **be tuwakiyara kunggeri** 理藩院に屬し, 通達書に官印を捺す事を掌る役所〔補2. 衙署五：知印科〕
— **be tuwašara ba** 戶部の堂官の印を監する處〔補2. 衙署二：監印處〕
— **gidaha boji** 不動產, 奴婢の賣買に官府が承認の印を捺して買主に與へる證文〔22. 貿易一：紅契〕
— **hungkerere kūwaran** 禮部に屬し, 寶印, 關防印等の鑄造事務を取計らふ役所〔20. 部院四：鑄印局〕
— **i boco** 印肉〔7. 文學什物二：印色〕
— **i boo** 錢局の印を捺す事務を掌る處〔補2. 衙署二：印房〕
— **i hergen mumurhūn** 捺印不鮮明〔3. 諭旨：印信模糊〕
— **i hoošan** 印だけ捺した白紙(封緘後の緊急の用に備へたもの)〔5. 事務三：空白〕
— **i tuwakiyasi** 官印を掌る小官〔續2. 臣宰：知印〕
— **i uncehen** (滿蒙字の)楷書の字の末端〔7. 書八：楷字尾〕
— **i wesimbure bithe** 印を捺した官吏の上奏書〔5. 事務二：題本〕
— **temgetu i kunggeri** 禮部に屬し, 寶印, 官印の鑄造, 頒給等をする役所〔補2. 衙署二：印信科〕
Doronggo 1. 道理に從ふ(人). 禮儀正しい(人). 端正で重々しい(人)〔11. 仁

義：有道理〔11.厚重一：端莊〕 2. おとなしい(馬)〔31.馬匹三：馬穩重〕

Dosholobumbi 寵愛される〔11.友悌：被寵愛〕

Dosholombi 寵愛する．殊の外愛する〔11.友悌：寵愛〕

Doshon 寵愛〔11.友悌：寵〕

Dosi 1. 內に．中へ．……の中の方に〔14.隱顯：向內〕 2. (Dosimbi の命令形)入れ〔彙：令入．令進〕

— **gocimbi** 煙草の煙を深く吸ひ込む〔彙：口吃烟向裡抽〕

— **gocime guwembumbi** 呼子を吸つて鳴らす〔彙：向裡抽着响．乃口吹哨子向裡抽也〕

— **tulesi** 內も外も．內にも外にも〔彙：裡裡外外〕

Dosika 騎射の時，馬が內側に(標的に近い方に)外れて走つた〔8.騎射：褰了〕

Dosikabi 1. 巻狩の列の一ケ所が前方に出過ぎた〔9.畋獵二：進去了〕 2. 沒頭した．沒入した〔17.淫黷：貪進去了〕

Dosikan 一寸內に〔14.隱顯：略向內〕

Dosikasi 進士(會試に及第した者)〔4.臣宰十一：進士〕

Dosila 和服の「したまえ」に當る部分〔24.衣服三：底襟〕

Dosimbi 入る．進む．進入する〔15.去來：進〕前進する(軍隊が)．進軍する〔8.征伐二：進〕隊を見て押し進む(角力で)〔8.撩跤二；跟進去〕

Dosimbumbi 1. はいらせる〔彙：叫進去〕はいつてもらふ(宴席に)．客を招じ入れる〔6.筵宴：請進〕 2. 象嵌する〔26.彫刻：鋟〕

Dosin 易卦の名〔7.書七：巽〕〔補1.書二：巽〕

Dosinambi 1. 進み入る．はいつて行く〔15.去來：進去〕 2. 推測が的中する〔11.聰智：進得去〕

Dosinjimbi 進み來る．はいつて來る〔15.去來：進來〕

Dosire de ilibure kiru 天子が入御する時群臣を起立せしむる合圖の旗．黃地に「入蹕」の字を繡つたもの〔6.鹵簿器用四：入蹕旗〕

Dosobumbi 1. 耐えさせる〔彙：使耐〕 2. 怺える．我慢する〔彙：能耐〕長途に耐える(馬が)〔31.馬匹三：能耐遠〕

Dosombi 苦勞に耐える．忍ぶ〔12.勇健：耐得住〕

Dosorakū 耐えられない．忍びない〔彙：受不得．不堪．耐不得〕

Dotori akū 才の無い(人)〔17.懦弱二：無內囊〕

— **bi** 才能がある(見かけはさうでなくても)〔11.德藝：有內囊〕

Doyoljombi (馬等の)後脚が挫ける〔31.馬匹動作一：後踡寬〕

Doyonggo 金絲で龍の模樣を織出した緞〔23.布帛一：寸蟒緞〕

Du 腰．腰骨．骨盤(人の)〔10.人身五：胯〕骨盤(動物の)〔27.飯肉二：窟窿骨〕

— **de gaimbi** 「首投げ」をかける(角力の手)〔8.撩跤一：老牛背〕

— **ergi** 支那服の側面の打裂(ㇲ)〔彙：衣之叉角〕

— **giranggi** 骨盤〔10.人身六：胯骨〕

— **sele** 腰の兩側の弓袋，矢袋を括る金具〔9.撒袋弓靫：帶旁飾件〕

Dube 1. 尖端．刀の切尖〔9.軍器六：尖子〕枝の尖〔29.樹木八：枝尖〕 2. 終．末端．末節．末のこと〔5.事務一：末〕

— **akū** 果しがない．きりがない(話，又は仕事が)〔18.散語五：無了期〕

— **bele** 穀物の胚芽〔彙：米頭兒〕

— **tucike** ほゞ終つた．あらまし出來上つた〔26.完成：有頭緒了〕

Dubede 末に．最後に〔彙：終．末尾處〕

Dubehe 大往生を遂げた．世を終つた(高齡に達して死んだ場合に云ふ)〔6.喪服一：終〕

Dubeheri 終．最後〔2.時令三：末尾〕

Dubei jecen 國の果て．極界．邊境の果の地〔19.城廓：盡邊〕

— **toldohon** 鐺〔9.製造軍器四：刀鞘底束〕

Dubeingge 最終の(もの)〔彙：末尾的〕

Duben 終末．最後〔5.事務一：終〕

— **deribun** 終と始〔彙：事有終始之終始〕

Dubengge 尖つた(もの). 切尖のついた(もの)〔9.軍器六：有尖〕
Dubentele 終まで〔2.時令三：直到末尾〕
Dubesilehe 終に近づいた. 末になつた〔26.完成：將終〕
Dubesilembi 末になる. 暮になる. 終りかける〔彙：暮年. 時令至終. 春盡夏盡秋盡冬盡之盡. 凡做的物件將完了〕
Dubi 豆の粉. 黄粉〔27.餠々三：豆麪子〕
Dubibumbi 1. 慣れさせる. 馴らす〔彙：使慣. 使習以爲常〕 2. 仲よくさせる〔彙：使相熟〕
Dubike 1. 仲のよい. よく知り合つた〔11.親和：熟練〕 2. (動物が)よく人に慣れた〔30.飛禽動息二：熟化了〕 3. よく慣れた. 習慣になつた〔彙：習以爲常〕
Dubise 小豆をつけた圓い蒸し餠. Dubise efen とも云ふ〔27.餠々二：豆麪糕〕
Dudu 1. しろこばと〔30.鳥九：斑雀〕 2. 官名. 「都督」の音譯〔彙：都督〕
— **dada** 幼兒の廻らぬ舌で出す聲〔14.言論四：小兒學語狀〕
— **niyehe** 一種の野鴨. 頭は紫色, 嘴は寬く, 身體, 翼は Borboki niyehe に似たもの〔30.鳥七：紫頭鴨〕
Dudungge cecike Kūbulin ilenggu cecike の別名〔補4.雀一：紀鳩〕
Dufe 節度のない(こと)〔17.淫黷：淫〕
Dufedembi 度を過す. 耽溺する〔17.淫黷：貪淫〕
Dugūi cohoro 毛並に斑點のある騅馬〔31.馬四一：驄騮〕
Duha 〔10.人身七：腸〕
— **do** 臟腑. 臟物〔27.飯肉二：雜碎〕
Duhan singgeri 鼠に似た黒い小動物, 腹の傍に出た肉が腸に似てゐる〔31.獸七：唐鼠〕
Duhembi 終へる. 濟む〔26.完成：終局〕
Duhembumbi 終らせる〔26.完成：使終局〕
Duhembume ujimbi 父母の孝養の爲に退官する〔彙：終養〕
Duibulebumbi 比較させる〔彙：使磨對〕
Duibulembi 比較する. 譬へる〔25.同異：比並〕
Duibulen 詩の六義の一. 物に譬へて情を述べたもの〔7.書二：比〕
Duici 四番目〔彙：第四〕
— **jalan i omolo** Jidere omolo に同じ〔增四訂體10.人倫二：四世孫〕
Duilebumbi 裁判させる. 審理させる〔5.詞訟二：使勘斷〕
Duilembi 裁判する. 審理する〔5.詞訟二：勘斷〕
Duilen 審問〔5.詞訟二：勘〕
— **i ejeku** 大理寺に屬する裁判官〔4.臣宰六：評事〕
Duin 〔7.數目一：四〕
— **aisilangga inenggi** 春の丙丁, 夏の戊己, 秋の壬癸, 冬の甲乙の日〔2.時令六：四相日〕
— **arbun** 萬の四象〔7.書四：四象〕
— **bilten** 江, 淮, 河, 濟の四大河〔2.地輿八：四瀆〕
— **biya** 〔彙：四月〕
— **dere** 〔彙：四面. 四方〕
— **durbejen monggo boo** 四角形の蒙古包〔24.氈屋帳房：方氈房〕
— **ergi** 四方〔彙：使于四方之四方〕
— **ergi aiman i kunggeri** 禮部に屬し四夷の朝貢に關する事務を扱ふ役所〔補2.衙署二：四夷科〕
— **erin** 春夏秋冬〔2.時令二：四時〕
— **erin i ilhangga tumin lamun sara** 儀仗の名. 青藍色の緞の日傘の垂れ布に四時の花の模樣を刺繍したもの〔6.鹵簿器用一：青四季花傘〕
— **forgon** 四季. 春夏秋冬〔2.時令二：四季〕
— **hoso** 四つの角, 卽ち東南, 東北, 西南, 西北の四方向〔彙：四方. 乃東南東北西南西北也〕
— **ici** 四方向に〔彙：四下. 四向〕
— **irungge mahatun** 頂に四つの梁をつけた冠〔補1.古冠冕一：四梁冠〕
— **namun i yooni bithe** 〔續.書：四庫全書〕

Duina 重量の單位. Miburi の十分の一〔補3.衡量：清淨〕
Duingge hoošan 大判の紙. 普通の紙の四枚大の紙〔7.文學什物一：連四紙〕
Duinggeri 四度〔7.數目一：四次〕
Duite 四つ宛〔7.數目一：各四〕
Duka 門. 表門. 城門〔21.室家二：院門〕
— **be kadalara hafan** 貢院の門を取締る官〔4.臣宰十：監門官〕
Dukai bongko 門扉の楣に挿込んだ飾り〔21.室家二：門贊〕
— **enduri** 1. 門を掌る武神. 仁王. 2. 門に懸けた神像〔19.神：門神〕
— **enduri namun** 宮殿の諸門に懸ける門神, 對聯類を藏めた工部の倉庫〔補2.衙署八：門神庫〕
— **kiru** 儀仗の名. 赤地に金絲で「門」の字を刺繍した旗〔6.鹵簿器用四：門旗〕
— **senggele** 門の兩端の框のわきにつけた板〔21.室家二：魚腮板〕
Dukduhun (苗が發芽しかけて) 土が少し盛上つた(狀態)〔21.農工一：苗拱土〕(饅頭が蒸され)膨れ上つた〔彙：發麵圓饅頭頂上高鼓起〕
— **oho** (苗が發芽しかけて)土が少し盛上つた〔彙：粮食種子墊起了土畧一點高了〕
Dukdurekebi (苗が芽を出しかけて)土が盛上つた. 苗が土を押上げた〔21.農工一：苗拱出土〕尖が突出た〔彙：如奶頭嘴高出了〕
Dukdurhun boihon 盛上つた土地〔2.地輿一：鼓推土〕
Dukjimbi がやがや云ふ. 喧しく騒ぐ〔14.言論二：喧嚷〕
Dukjime durgimbi 上に同じ〔14.言論二：喧嚷〕
Duksekebi 顔が赤くなつた〔11.容貌八：臉飛紅〕
Duksembi 赤面する〔17.羞愧：羞的面紅〕
Duksi 野葡萄に似た果實〔28.果品三：皂李子〕
Dulan nimaha さめ. (皮を矢柄を磨くに用ひる)〔32.海魚一：砂魚〕
Dulba 1. 魯鈍な(人) 2. 粗忽な(人)〔17.愚昧：懵懂〕
Dulbakan 少々馬鹿な(人). 稍粗忽な(人)〔17.愚昧：畧懵懂〕
Dulduri 九個の鐶のついた錫杖〔19.佛一：九鐶錫杖〕
Dule 1. やはり. もとより. もともと(句尾に ni, nikai, heni 等の語を用ひる) 2. それなのに. 然るに. 所が〔18.散語五：原來〕
Dulefun 一度(角度の)〔1.天文三：度〕
— **sandalabure durungga tetun** 天體觀測用の角度計〔7.儀器：距度儀〕
Duleke 1. 過ぎ去つた. 濟んで了つた. 去……(去年, 去月等の去)〔彙：過了. 往年之往〕2. 燃えた. 火が着いた〔彙：火燃了. 火着了〕3. 病が愈つた〔19.醫治：全愈了〕
— **aniya** 昨年〔2.時令四：去年〕
— **biya** 先月. 去月〔2.時令五：上月〕
Dulembi 1. 過ぎる. 過ぎ行く. 經る. 通過する〔15.去來：過去〕2. 燃える. 焼ける〔23.烟火三：火焼着〕
Dulembuhe 1. 經驗した. 經た〔彙：人經過事了〕2. 火をつけさせた. 燃させた〔彙：叫人放火了〕
Dulembuhebi 1. 多くの事を經驗した〔彙：事經過的很多了. 人凡事見過聞過很多〕2. 燃して了つた. 焼いて了つた〔23.煙火三：已焼着〕
Dulembumbi 1. 通過させる. 過ぎ行かせる〔15.去來：使過去〕2. (過失を責めずに)看過する〔彙：過失不究放過去〕3. 多くの事を經驗する. 多くの事を見聞する〔彙：人凡事見過聞過很多〕4. 燃す. 焼く〔23.烟火三：使焼着〕
Dulemšeku 疎畧(な). 無思慮(な). 杜撰(な)〔17.怠慢迂疏：疎畧〕
Dulemšembi 疎畧にする. 忽せにする〔17.怠慢迂疏：行事疎略〕
Dulemšerakū 苟且にしない. 愼重な〔彙：言動不苟〕
Dulendere 過ぎて. 通過して. 越えて〔彙：從此過. 踰. 過于此之過〕
Dulga 一杯でない. 半分餘り. 盛りの少い〔25.增減：盛的淺〕
Dulgakan 非常に盛りの少い. (器に)

半分足らず〔25.增減：淺々的〕
Dulibumbi 徹夜させる〔15.遷移：使連夜〕
Dulimba 中央．眞中〔2.地輿十三：中〕
— **be aliha usiha** 星名〔補1.天：司中〕
— **be bodoro hafan** 欽天監時憲科の官の名〔4.臣宰八：中官正〕
— **hūwaliyasun bolgonggo kumun** 宮中の大饗宴の際膳を進むる時に奏する音樂〔7.樂一：中和清樂〕
— **hūwaliyasun sirabungga kumun** 天子の陞殿，慶事の際に奏する音樂〔7.樂一：中和韶樂〕
— **hūwaliyasun šoo kumun** 上に同じ〔彙：朝廷陞殿喜慶奏的韶樂共八段．八佾樂〕
— **hūwaliyasun šunggiya kumun** 天，地，社稷の各壇，太廟，文廟等の祭の時奏する音樂〔7.樂一：中和雅樂〕
— **hūwaliyasun ya kumun** 上に同じ〔彙：雅樂乃祭天地祈穀各壇太廟文廟奏的樂共四十八段〕
— **i gurun** 〔彙：中國〕
— **i tu** 卷狩の中蘿〔彙：圍場打的中蘿〕
— **jugūn** 中庭の中央の鋪道（正房と正門をつなぐ）〔21.室家四：甬路〕
— **sele** 石帶，矢袋，弓袋等の中央の金具〔9.攜帶弓靫：中間飾件〕
Dulimbai elioi 音樂の調子．六呂の一〔7.樂二：仲呂〕
— **falgangga** 鑾儀衞に屬する役所〔補2.衙署七：中所〕
— **fiyentehe** 出題（Joringga i tucibun）の次に對にして記した二節の語〔7.書六：中股〕
— **fulhun** 音樂の調子．六律の一〔7.樂二：黃鐘〕
— **hecen i baicara yamun** 京師を五城に分ち，各城の行政事務を統轄する役所の中，中城を管轄するもの．都察院に屬す〔20.部院五：中城察院〕
— **hecen i cooha moringa fiyenten** 京師の五城を更に坊に分ち各坊を巡邏する事務を掌る役所の中，中城を管轄するもの．（警察署に當る）〔20.部院五：中城兵馬司〕
— **simhun** 〔10.人身四：中指〕
Dulimbaingge 中央のもの〔彙：中的．中者〕
Dulimbangge 上に同じ〔彙：中者〕
Dulimbi 徹夜する〔15.遷移：連夜〕
Dulime 徹夜して〔彙：凡事夜間不睡連夜之連．連夜卽 Dobori dulime 也〕
Dulin 半分．半ば〔25.增減：一半〕
Dumin cecike Kekuhe の野生でないもの〔補4.雀四：鵪雀〕
Duna 車碾具〔22.貨財一：車碾〕
Dundabumbi 豚に餌を與へさせる〔彙：使喂猪食〕
Dundambi 豚に餌を與へる〔32.牧養一：喂猪〕
Dundan 豚の餌〔32.牲畜器用二：猪食〕
Dung 「洞」の音譯．Dunggu に同じ〔彙：洞．地下掘洞人可住者亦云洞〕
Dungga すゐくわ〔28.果品四：西瓜〕
— **use** 西瓜の種子〔28.果品二：瓜子〕
Dunggami 同年生れ（の人）〔10.老少一：同歲〕
Dunggu 洞．洞穴〔2.地輿五：洞〕
Dungki 物判りの惡い（人）〔17.愚昧：渾〕
Dungšun 數の單位．Jurun（京）の十倍〔7.數目二：秭〕
— **alin** 滿洲海城縣にある山〔補1.地輿一：東水山〕
Dur **1.** わいわい．がやがや〔14.聲響二：衆人說話聲〕 **2.** どっと（人々が一時に笑ふ形容）〔彙：衆人齊笑之聲〕 **3.** どんどん（多くの太鼓の鳴る音）〔14.聲響三：衆鼓聲〕
— **dar seme** ぶるぶると．がたがたと〔15.搖動：震動象〕
— **seme imjembi** どつと笑ふ〔13.嘻笑：衆人齊笑〕
Durahūn じっと見つめた〔彙：眼直直看．卽 Yasa durahūn 也〕
Duranggi **1.** 濁り．濁つた〔2.地輿七：濁〕 **2.** 酒に耽溺した（人）〔17.淫黷：困于酒〕
Duranggilambi 酒に耽溺する〔27.飲食四：溺于酒〕

Durbe 目の上に斑點のある犬〔31.諸畜二：四眼狗〕
Durbejen 1. 四角形〔25.諸物形狀一：四楞〕2. 角．かど〔彙：三楞子四楞子之楞〕
— **dere** 八人掛けの四角な卓子〔25.器用二：八仙桌〕
— **simelen** 地壇内にある四角な池〔20.壇廟：方澤〕
Durbejengge 四角な(物)．角のある(物)〔25.諸物形狀一：有楞的〕
— **šufatu** 古制の方形の頭巾〔補1.古冠冕三：方巾〕
Durbejitu さしがね〔22.工匠器用三：矩〕
Durbembi 人々が驚く〔四五改題13.怕懼：衆人驚〕
Durdun 縮緬の類〔23.布帛三：縐紬〕
— **ša**〔彙：縐紗〕
Durdung 泰戴山に出るといふ羊に似た奇獸の名〔補4.異獸三：辣辣〕
Durgebumbi 震動させる．鳴動せしめられる〔15.搖動；被震動〕
Durgecembi 身體がしきりに顫へる(熱等の爲に)〔16.疼痛二：身子抖顫〕
Durgembi 1. 音響の爲に震ふ．鳴動する．聲く．震動する〔15.搖動；震動〕2. 身體が打ち顫へる〔彙：肉身颭動〕
Durgeme akjambi 轟音を立てゝ雷が鳴る．雷が轟く〔1.天文四：轟雷〕
Durgimbi しろこばと(Dudu)が鳴く〔14.聲響六：斑鳩鳴〕
Durgire dutu 耳鳴りのする聾〔16.殘缺：聾子打岔〕
Durgiya 明星．金星〔1.天文二：亮星〕
— **usiha** 上に同じ〔彙：明星卽天明出現之星也．金星．與 Durgiya 同〕
Durha からざを(Tūku)にとりつけた四本の短い木製の齒〔21.農器：連枷齒〕
Duri 搖り車(嬰兒を寢かせる爲の)．乳母車．搖籃〔13.生產：搖車〕
— **de dedubumbi** 嬰兒を搖り車で寢かせる〔彙：小孩子上搖車睡〕
Duribuhe ejen 遺失主〔續．竊奪：失主〕
Duribumbi 1. 奪はれる 2. 奪はせる〔16.竊奪：被奪〕3. 搖り車を搖らせる〔彙：使上搖車〕
Durimbi 1. 奪ふ〔16.竊奪：奪〕2. 搖り車を搖る〔13.生產：上搖車〕
Dursuki 容貌のよく似た．似てゐること〔11.容貌一：面貌相似〕
— **akū** 不肖(の)．愚な〔18.兇惡一：不肖〕
Dursukilebumbi 手本にさせる〔彙：使効法．使照樣．與 Dursulebumbi 同〕
Dursukilembi 倣ふ．手本にする．倣はうと努める〔7.文學：倣効〕
Dursulembi 手本にする．模倣する〔7.文學：體驗〕
Dursulen i wecen 戰の時に上帝を祀る祭〔6.祭祀一：類〕
Dursun 1. 體格．すがた〔11.容貌一：體〕2.(易の語) 卦の奇耦の質〔7.書五：體〕
Durugan 圖譜．圖を畫いて說明をつけたもの〔7.文學什物二：譜〕
Duruhabi 老耄した〔10.老少一：老朽〕
Durujun Weijun の別名〔補4.鳥二：冠雀〕
Durun 1. 型．型式．規範．典式〔5.政事：樣子〕2. 鑄型〔22.工匠器用一：銀模子〕
— **hiyan** 型でおした練香〔6.祭祀器用一：香餠〕
— **i efen** 型でおした餠々〔27.餠々一：印子餠々〕
— **i hiyan** Durun hiyan に同じ〔24.飾用物件：香餠〕
— **i matan** 型に入れて色々の形に作つた砂糖菓子〔27.餠々三：八寶糖〕
— **i yaha** 炭團〔23.烟火一：炭餠〕
— **kemun** 一定の法則．型と物指〔彙：規矩〕
— **sindame** 標準にして．手本にして〔彙：粧樣〕
— **tuwakū** 儀表．模範〔5.政事：榜樣〕
Durungga dobtolon 厚紙で獸の首を作つて頭に被つて遊ぶ玩具．獅子頭〔19.戲具二：套頭〕
— **tetun** 觀測器〔7.儀器：儀器〕
Durusga moo 多羅樹．摩揭陀國に產

する木．葉を佛經を書くに用ひる〔補3.異木：貝多樹〕

Dushubumbi 1. 手を振拂はせる〔彙：使捭〕 2. 金屬に浮彫をさせる〔26.雕刻：使起平花〕

Dushumbi 1. 手を振りはらふ．袖を振つて人を拂ひのける〔彙：捭之．不能勝之氣捭袖退之〕（角力で）組み合つてゐた相手を振放す〔8.撩跤一：頓〕（矢を射る時に）矢を引絞つた右手を後に放す〔彙：射箭右手往後捭．卽 Amasi dushume 也〕 2. 金屬に浮彫をする〔26.雕刻：起平花〕

Dushun 1. 暗色(の)．光澤のない〔23.采色三：色暗〕 2. 譯の判らぬ(人)．愚昧な(人)〔17.愚昧：暗昧〕

Dushutembi 盛に手を振る（怒つて人を拂ひ退ける動作）〔13.怒惱：亂撥捭〕

Dusihi 1. 着物の上前〔24.衣服三：衣前襟〕 2. 布又は皮製の男子用の袴．裳．腰衣〔24.衣服二：男裙〕 3. 鎧の草摺〔9.軍器二：甲裙〕

Dusihilebumbi 懐に入れさせる〔21.收藏：使兜〕

Dusihilembi 懐に入れる〔21.收藏：兜着〕

Dusihiyen 1. 濁つた〔彙：激濁之濁〕 2. 薄暗い．はつきりしない〔彙：霧雲遮昏晴之昏暗〕 3. 愚昧な(人)．馬鹿(な)〔17.愚昧：渾濁〕

Dute talu 近道．Doko に同じ〔19.街道：抄道〕

— yali 剝いだ皮に附着した肉〔27.飯肉一：剝皮帶的肉〕

Duteleme yabumbi Dokolombi に同じ．近道を行く〔14.行走二：抄近走〕

Duthe 1. 窓の縦の櫺子〔21.室家二：窓竪櫺〕 2. Niomšon に似た淡水魚．鱗に斑點がある〔32.河魚二：花點魚〕

Dutu 孽〔16.殘缺：孽子〕

Duturehebi 話を聞き違へた〔14.言論三：話聽舛錯了〕

Duturembi 聞えぬふりをする〔14.言論三：粧聾〕

Duwali 1. 同類．仲間．同志〔10.朋友同類〕 2. 同類．一類(物の)〔25.同異：同類〕

— acabumbi 對にする．同じ物を作つて一對とする〔26.營造：配對〕

Duwalibun 文體の一種．類を按じて篇を分つたもの〔7.書三：類〕

Duwalingga 同類の(もの)〔25.同異：同類的〕

Duwara あゆ〔32.河魚二：鮎魚〕

Duyembumbi 不意討をする〔8.征伐三：襲住〕

Duyen 1. 冷淡(な)．薄情(な)．人に親しまぬ〔17.驕矜：冷淡〕 2. よく口を擧げる性質の(馬)〔31.馬匹三：馬嘴亂〕

Duyun cecike Simatun cecike の別名〔補4.雀五：杜宇〕

Dz

Dzanse 指を絞附ける手枷，婦人を拷問する爲のもの〔5.刑罰一：梻子〕

Dzanselebumbi 梻子をかけて指を絞めさせる〔5.刑罰一：使梻〕

Dzanselembi 梻子をかけて指を絞めつける〔5.刑罰一：梻〕

Dzun hūwa majan Sirdan の鏃より稍大きな平根鏃をつけた矢．夜警に携行し，又戰にも用ひる〔補1.軍器一：遵化長披箭〕

Dzusen 形は猿に似て牛尾，馬蹄，馬鬣，蓬聯山に出るといふ奇獸〔補4.異獸二：足訾〕

E

E 1. 大極靜まつて生ずる氣. 陽の反. 陰陽の陰〔2. 時令一：陰〕〔7. 書五：陰〕 2. えっ！ おやまあ！ これはこれは〔12. 稱奬：驚奇聲〕えへー. (人を輕視する時の言葉)〔14. 聲響二：輕視人的聲〕〔15. 鄙薄：不足人聲〕ええ. はい. ええさう〔彙：卽此的口氣〕

— i bukdan 折り疊んだ紙の內側. 折り本の裏面〔7. 文學什物一：陰扣〕

— jijun i acangga 陰文字の合ひ札. 陽文合符 (A jijun i acangga) に對するもので, 夜間の開城に備ふるためこの合符を城門に存置し, 城門開扉を求める者の帶來する陽文合符に合はせて見るなり〔3. 諭旨：陰文合符〕

Ebci 1. 肋骨. あばら骨〔10. 人身六：肋〕〔17. 飯肉二：肋〕 2. 船の肋骨. 肋材〔26. 船三：船肋〕 3. 山腹の傾斜. 山腹. 山の八合目〔彙：山傍不平處〕

Ebcileme 山腹を通つて. 山腹の坂を過ぎり〔2. 地輿三：走山肋〕

Ebdereku 常に害毒ある行爲をする者. 不道德者. 悖德者〔18. 兇惡二：賊賊〕

Ebderembi 害毒ある行爲をする. 不道德な行ひをする. 人を害ふ〔18. 兇惡二：行賊害〕

Ebderen 毒を流す者. 德に悖る者. 人に害を及す者. 不道德者〔18. 兇惡二：賊害〕〔彙：與 Ebdereku 同〕

— i deribun 十二律呂の一〔7. 彙二：夷則〕

Ebebe おやおや！ あれあれ！〔彙：嘖々喟然稱讚. 與 Ajaja 同〕

Ebdererakū nionggalarakū 身體髮膚全きを保つて恙ない. 敢て毀傷しない〔11. 孝養：不敢毀傷〕

Ebebumbi 水に浸して膨らし軟かくする〔18. 濕潮：使滫〕

Ebegei Emekei に同じ〔18. 散語二：可畏的口氣〕

Ebeke 鈍がのびた. ふやけた〔28. 滋味：麵糟了〕水に浸つて軟かくなつた. 水膨れになつた〔彙：凡物水浸泡爛了軟了〕

Ebele Ebergi に同じ〔2. 地輿十四：這邊〕

Ebembi 水に浸つて膨れ軟かくなる. 水膨れになる〔18. 濕潮：滫〕

Ebeniye 水に浸せ. 浸しふやかせ〔彙：令浸之. 令泡之〕

Ebeniyebumbi 水に浸させる〔18. 洗澡：使浸滫〕ふやかさす〔彙：使泡〕

Ebeniyembi 水につける. 浸す〔18. 洗澡：浸滫〕水にふやかす. 水にふり出す〔彙：泡茶之泡. 麥子泡了磨之泡. 水泡着〕

Ebereke 衰へた, 減じた. 損じた. 消えた. 前の如くではなくなつた〔彙：有年紀人身衰了. 乏極了. 價值減了之減. 損之. 消怒之消. 衰弱之衰. 不如先前了. 與 Eberekebi 同〕

Eberekebi 老衰した. 衰へつかれた〔10. 老小一：衰憊〕疲れ倦んだ. 困憊した〔15. 疲倦：疲倦了〕

Eberembi 疲れ倦む〔15. 疲倦：疲倦〕減る. 衰へる〔彙：減之. 衰之〕

Eberembu 減らせ. 損減せよ〔25. 增減：減去〕

Eberembumbi 減らす. 損減する〔25. 增減：使減去〕人の心を挫く. 銳氣を損する〔16. 折磨：折磨〕衰へさす〔彙：致使其衰〕

Eberere mudere 草木盛衰の. 消長ある〔彙：陰陽消長之消長〕

— yendere 道の興り又衰ふる〔彙：道之興衰〕

Ebergi 此方. 此處. こちらの方〔2. 地輿十四：這邊〕...の後 (時間的にいふ後, 卽ちこちら)〔彙：赦後之後〕

Eberhuken あまり役立たぬ. 大して能のない (人)〔17. 懦弱二：微懦〕

Eberhun 能なしで弱い. 懦弱で役に立たない (人)〔17. 懦弱二：懦〕

Eberi 德材人に劣つた. 懦弱な〔17. 懦

弱二：懦弱〕力及ばぬ．力足りぬ〔8. 捺跤二：不及〕

Eberi akū 劣らぬ．亜っがぬ．ひけとらぬ〔彙：不亞．不減〕

Eberiken 稍々懦弱な．徳材稍々人に劣つた〔17. 懦弱二：微懦弱〕

Eberingge （徳或ひは力の）人に及ばぬ者〔彙：不及者〕

Ebi habi ぼんやりした．呆然とした〔彙：人糊塗昏瞶呆迷．卽 Ebi hábi akū 也〕

Ebi habi akū 力抜けて呆然とした．腑抜けてしまつた〔17. 懦弱一：無精打彩〕

Ebibumbi 飽食させる〔27. 飲食三：使飽〕

Ebihe 飽いた．飽食した〔彙：飽了〕

Ebilun 小兒の弱々しく可憐な〔10. 老小二：單弱〕

Ebimbi 飽食する．滿腹する〔27. 飲食三：飽〕

Ebišebumbi 沐浴させる〔彙：使洗浴〕

Ebišembi 沐浴する．入浴する〔24. 梳粧：盆水沐浴〕

Ebišenembi 沐浴に行く．行つて入浴する〔彙：沐浴去〕

Ebišenumbi 衆人會して共に沐浴する〔彙：會衆齊洗浴〕

Ebišere oton 浴槽．風呂桶〔24. 飾用物件：澡盆〕

Ebitele 飽きるに至るまで．飽くまで〔彙：至於飽〕

Ebsi 1. …より以來．…よりこのかた〔2. 時令三：以來〕 2. こゝへ．一寸こちらへ．こちらの方へ（來い）〔18. 散語二：往這裡些〕

— **casi akū** かうでもない．あゝでもない．何とも心が決まらぬ．決斷がつかない〔17. 猜疑：無定向〕〔彙：與 Ebsi akū cabsi akū 同〕

— **foro** 此方を向け．此方へ廻れ〔彙：叫人臉身回向這裡〕

— **jio** 此方へ來い〔彙：人前來乃叫人之語也〕

— **oso** こゝに居れ．まあ此方へ〔彙：這樣阿．令人之口氣〕

Ebsihe …の儘に．…に任せて．…である限り〔2. 時令三：儘着〕

Ebsiken 一寸此方へ．少々此方に（來い）〔18. 散語二：略往這裡些〕

Ebšembi Ekšembi に同じ〔15. 急忙：忙〕

Ebšu うづらの一種〔補4. 雀二：羅鶉〕

Ebte 雛の時より養ひ育てた鷹〔30. 鳥四：窩雛〕

Ebu 止まれ．留まれ〔15. 遞移：下〕（馬を）下りよ〔32. 騎駝一：下馬〕

Ebubumbi 下りさせる．下らせる〔14. 行走二：使下來〕止らせる．留らせる〔15. 遞移：使下著〕天幕を下ろす．天幕をねかす．天幕をほどく〔24. 庭屋帳房：拆帳房〕荷駄をおろす〔32. 騎駝二：卸下〕

Ebubun 旅の客や官吏に贈る食物．はなむけの食料〔27. 飯肉四：下程〕

— **i kunggeri** 筵宴及び使臣への給供等を掌る役處〔補2. 衙署二：下程科〕

Ebuburé ba i cifun 入市稅．大都市に到着した貨物に課する稅〔彙：落地租稅〕

— **camhari** 宮門の兩側に立てゝある下馬札〔19. 城廓：下馬牌〕

Ebuhu sabuhū せかせかと．そわそわと．あはてふためき〔15. 急忙：急急忙忙〕

Ebumbi 止まる．立ち止まる〔15. 遞移：下著〕下りる．降る〔14. 行走二：下〕馬を下りる〔32. 騎駝一：下牲口〕

Ebundumbi Ebunumbi 一齊に止まる．一齊に留まる〔15. 遞移：齊下着〕衆人一齊に（馬又車を）下りる〔彙：衆齊下馬下車〕

Ebunembi 行つて止まる．行つて留まる〔15. 遞移：去下着〕行つて下りる〔彙：去下〕

Ebunjimbi 來て止まる．來て留まる〔15. 遞移：來下着〕神降ります．神うつりとまる〔6. 祭祀一：神格〕下りて來る．來て下りる〔彙：下來〕

Eci 左樣．其通り．然り．正しく是だ〔18. 散語二：正是〕

— **ainara** で，どうなのか．左樣，それ

でどうなるのか〔彙：可怎樣口氣〕
Ecike 父の弟．叔父〔10.人倫一：叔父〕
Ecikese Ecike の複數形．叔父達〔10.人倫一：衆叔父〕
Ede これに．これに因り．この爲に．これに就いて〔18.散語二：因此〕
— **ainambi** これに因つて如何なことがあらうか．これが爲に何事があらう．これで以て如何しようといふのか〔彙：這事上頭何妨之口氣〕
Ededei ぶるぶる．がたがた（寒さに身振ひする音）〔13.寒暑：打寒噤聲〕
Edekebi （飯，牛乳等の）味が變つた〔28.滋味：飯奶子的味變了〕
Edkirakū ものにならない人間．全く役立たずの人〔18.鄙瑣：總不成器〕
Edelehe nimeku 不具．不具殘疾〔彙：殘疾〕
Edelehengge 不足した所のもの．缺けたもの．具はらないもの〔彙：所少欠的．欠缺了的〕
Edelehebi 不具になつた〔16.殘缺：殘疾了〕不足した．足らない．屆かない〔彙：如銅錢短底兒之類〕缺けた．殘缺した〔彙：虧缺．殘缺．少欠．欠該〕
Edelembi 不足する．缺ける〔彙：虧欠．殘缺．少欠．欠該〕
Eden 不具．かたわ．不完全な．缺損のある〔16.殘缺：殘疾〕〔25.諸物形狀三：殘缺〕
— **dadan** Eden に同じ〔25.諸物形狀三：殘缺〕
Edeng 背に鋭い刺のある魚〔32.海魚一：水虎〕
Ederi tederi ああかうと．此をかはし彼を避け．機を俟ち安易に就き〔17.懶惰：支語〕
— **tederi bulcambi** 彼を避け此を怠ける．何彼とごまかし怠ける〔彙：人尋出空兒躲避之〕
Edulehe nimeku 中風病．卒中〔16.疾病一：痰火病〕
Edulehebi 半身不隨になつた．中風を患つた〔16.疾病一：中風〕
Edumbi 風が吹く Edun dambi に同じ〔1.天文七：刮風〕

Edun 〔1.天文七：風〕
— **dambi** 風が吹く〔1.天文七：刮風〕
— **dasihikū** 鷹や鳥の左の翅（翮）にある二本の羽〔30.羽族肢體一：撩風〕
— **de šasihalabufi** 風に打たれて〔彙：被風打了〕
— **dekdehe** 1. 風が吹き起つた〔1.天文七：風起〕2. 風邪を引かれた（貴人に就いていふ語）〔16.疼痛二：冒風〕
— **faitakū** 墻などの横に出た梁の端に打ちつけた板〔20.墻廂：博縫板〕
— **faitambi** 風に向つて帆を斜めに垂れ縫ふが如くに船を進める〔26.船四：折橋〕
— **faitame yabure jahūdai** 大風浪の時に用ゐる戰船〔26.船一：拖風船〕
— **fur sembi** 夏の風がそよそよと吹く．風薰る〔1.天文七：薰風〕
— **goiha** 風邪をひいた〔彙：傷風了．風吹病了〕
— **i temgetu** 風の方向を見る旗．風見〔7.儀器：順風旗〕
— **nakaha** 風が息んだ〔1.天文七：風息〕
— **nesuken oho** 風が靜まつてきた．穩かになつた〔1.天文七：風平了〕
— **nesuken šun genggiyen i mudan** 耕籍の禮後の宴に奏する樂章の名〔補1.樂：風和日麗之章〕
— **seremšere furgi** 塲（護岸用の材料）の上に更に土，柳條等を重ね置いて風波の打つに備へるもの〔補1.地輿二：防風塲〕
— **toroko** 風が定まつた．風が止んだ〔1.天文七：風定〕
— **tuwambi** 大小便する．用便する〔彙：出恭〕
Edungge gasha 鷹の一種〔補4.鳥四：風禽〕
— **hiyebele** はいたか．はいたかの風を起して飛ぶを見て越人がかく名付けた〔補4.鳥四：風伯〕
— **šungkeri ilha** ふうらん〔29.花一：風蘭〕
Edunggiyebumbi （籾殻や稭を）簸り出させる〔21.農工三：使颺場〕

Edunggiyembi (籾殻や糠を) 簸り出す〔21. 農工三：農場〕
Eduntu 奇獣の名. 几山に出で見はるれば大風有りといふ〔補4. 異獣四：聞獣〕
Efebuhe 失明した. 盲目になつた〔16. 殘缺：失明〕
Efehen 大きい手斧. てうなの大きいもの (Anjikū より大きいもの)〔22. 工匠器用一：錛子〕
Efen 1. 食物の名. 飩餺粉をねつて手又は型によつて種々の形に作り, これを蒸したり焼いたり或ひは又油で揚げたり其他色々の方法で作り上げる. 混入する材料によつて種類多し〔27. 餑餑一：餑餑〕 2. 歌留多に書いた圓形の紋様〔彙：紙牌的餅子〕
Efibumbi 遊ばせる. 戯れさす〔13. 戯要：使頑要〕
Eficembi 共に遊ぶ. 一緒に戯れる〔13. 戯要：共頑要〕
Efiku 遊戯. たはむれ〔13. 戯要：頑戯〕
— **injeku** Efiku に同じ. 二語連用せるのみ〔13. 戯要：頑戯〕
Efimbi 遊ぶ. 戯れる〔13. 戯要：頑要〕
Efin 遊戯. 遊藝. Efiku に同じ〔13. 戯要：頑藝〕
Efisi injesi 遊藝を以て人を笑はす者. 道化者〔13. 戯要：頑笑人〕
Efu 1. 姉の夫〔10. 親戚：姐夫〕 2. 妻の兄〔彙：大舅子乃妻之兄〕 3. 妻の姉の夫〔彙：大姨夫乃妻之姐夫〕 4. 王公の婿〔彙：王公之壻. 駙馬〕
Efujembi 名と行ひとを壊る. 品行を破る〔17. 過失：敗壊〕 破壊する. くずす. 壊る〔25. 破壊：壊〕
Efujen 1. 名と行ひとを壊ること. 不道徳. 不品行〔17. 過失：壊〕 2. 易卦の名〔補1. 書一：蠱〕
Efujendere sunja hutu 年神の第三十二. 五行精氣消耗等のことを掌る神〔補2. 神三：破敗五鬼〕
Efujentu enduri 日神の第七. この神の日は悪い〔補2. 神一：破〕
Efule 壊せ. 毀て〔彙：令毀. 令弄壊. 令拆〕
Efulebumbi 毀たせる. 壊させる〔26. 殘毀：使毀壊〕
Efulehe 壊した. 毀つた. 破壊した〔彙：弄壊了. 已成之事改悔了. 破了. 壊了〕
Efulembi 1. 毀つ. 壊す〔26. 殘毀：毀壊〕 2. 革職する. 官職より退かす. 免職する〔4. 陞轉：革職〕
Efun belhere ba 帝后の間食を作る處〔補2. 衙署七：點心局〕
Efute Efu の複數形〔10. 親戚：衆姐夫〕
Eguletu alha 雲霞の如き花斑のある駿馬〔31. 馬匹一：錦雲騮〕
Ehe 悪い. 不善の. 性悪の. 悪辣な〔18. 兇悪一：悪〕 不吉の. 兇悪の〔7. 書五：凶〕
— **boco menggun** 黄銅の混つた悪質の銀〔22. 貨財一：潮銀〕
— **hafan** 不良の官吏. 劣等の官吏〔彙：劣員〕
— **inenggi** 不吉な日. 事を行ふに悪き日〔2. 時令六：凶日〕 風雨冷たき日. 天候の悪い日〔彙：冷風雨的日子〕
— **sukdun** 〔彙：瘴氣. 悪氣〕
— **wa** 〔彙：悪臭〕
Ehecubumbi 蔭で悪口を云はす. 誹謗さす〔17. 讒諂：使毀謗〕 誹謗される. 誣ひられる〔彙：被陷于誣謗〕
Ehecumbi 誹謗する. 蔭口をきく〔17. 讒諂：毀謗〕
Ehecun 互ひに隙あること. 仲違ひ. 違和〔16. 叛逆：嫌隙〕
Ehelinggu 庸愚懦弱な人間〔17. 懦弱一：庸劣〕
Eheo 好くないか. 悪いか〔彙：不好麼〕
Eherebumbi 悪化させる〔16. 叛逆：致於變臉〕 人をして不和ならしめる. 人の仲を悪くする. 離間する〔17. 讒諂：使人不和〕
Eherembi 悪化する. 狀態が悪變する〔16. 叛逆：變臉〕 反目する. 互に好くなくなる〔彙：兄弟夫妻不相好. 反目〕
Eherendumbi 一齊に悪化する. 一齊に反目する〔彙：衆齊變不好了〕
Ehetu 奇獣の名. 形虎豹に似て小さく生後其の母を食ふ〔補4. 異獣六：獍〕
Ehurhen 小鳥の名. 嘴淡黄, 頭は微か

に黒く，眼黄色く，背紅くして翅に斑紋あり〔補4. 雀三：鶸鳳〕

Ei おい（目下の者をよぶ聲）〔12. 喚招：呼下人口氣〕わーい．えーい（人を嗤ふ聲）〔彙：笑話人的口聲〕

— ei おいおい〔14. 聲響二：哭聲〕わーい，わーい．えーい，えーい（人を嗤ふ聲）〔15. 鄙薄：恥笑聲〕

Eici 或ひは．若しかしたら．それとも〔17. 猜疑：或者〕

Eicibe 假令…であらうとも．何であらうと必ず〔18. 散語二：總得〕

Eifu 墓．墳墓〔6. 喪服二：墓〕

Eifun 癩病〔16. 疾病一：鬼風疣疽〕

Eifunehe 癩病を患つた〔16. 疾病一：起鬼風疣疽〕

Eigen 夫婿〔10. 人倫二：夫〕

Eihen 騸馬．うさぎうま〔31. 馬匹二：騸〕

— boco 晴紅色．濃紅色〔彙：絳色．即茜色．緋．與 Misun boco 同〕

— cuse 濃紅色の紬〔彙：茜色紬子〕

Eiheri 1. しゆろ色．濃紅色．晴紅色〔23. 采色一：棕色〕2. Wahangga singgeri（鼠鼠）の別名〔補4. 獸二：騸鼠〕

Eihume かめ〔32. 河魚四：龜〕

— usiha 星の名．銀河の前方にあり〔1. 天文三：龜星〕

Eihumengge fukjingga hergen 禹王が水を治めたとき洛水より出現した龜の背に書かれてあつたと傳ふる文字〔補1. 書三：龜書〕

Eihun 1. 愚鈍蒙昧の．ものの分らない〔17. 愚昧：愚蒙〕2. 易卦の名〔補1. 書一：蒙〕

Eihuri 即公山に出づる奇獸の名．能く火を止め，形は龜に彷彿として首紅く身白し〔補4. 異獸四：蛫〕

Eikte 色紅く味の酸い果實の名〔28. 果品三：杜棣〕

Eimebumbi 嫁はれる．厭はれる〔15. 憎嫌一：惹人嫌〕

Eimeburu 厭な奴！好かない！（罵詞）〔15. 咒罵：厭物〕

Eimecuke 厭ふ可き．嫌な〔15. 憎嫌一：可厭〕

Eimecun 嫌惡．厭はしい〔彙：厭〕

Eimede 厭ふ可き人．嫌な人間〔18. 厭惡：討厭人〕嫌な兒（小供の怜悧達者なのを愛撫して逆にいふ言葉）〔10. 老少二：討人嫌〕

Eimederakū 嫌でない．厭はしからぬ〔彙：不厭〕

Eimedere jaka 嫌な物．厭はしい物〔彙：厭物〕

Eimembi 嫌ふ．厭ふ〔15. 憎嫌一：厭〕

Eimpe ちしや．ちさ〔27. 菜殺三：萵苣菜〕

Eite はづな．馬勒〔32. 牲畜器用二：繮頭〕

Eiten 一切．凡ての．一般の〔18. 完全：一切〕

— baita 〔彙：諸事．凡事〕

— jaka 〔彙：庶物．凡物．諸物〕

Eiterebumbi 欺かせる．欺かれる〔17. 欺哄：使人欺〕

Eitereci 1. 若し欺けば．詐れば〔彙：若欺詐〕2. 大抵は．之を總ぶれば．總じて〔彙：大抵．總之〕

Eiterecibe 大抵．大體云へば．一括して云はんか〔18. 散語二：總說了罷〕

Eitereku 詐僞．嘘つき〔17. 欺哄：慣欺騙的〕

Eiterembi 欺く．詐る〔17. 欺哄：欺詐〕

Eitereme 1. 如何に…とも．何事を…とも〔18. 散語二：儘着〕2. 欺き．誑かし〔彙：欺誑〕3. 大抵は．おほよそ〔彙：大抵〕

— yabumbi 欺き事を行ふ〔彙：欺誑行事〕

Eitersembi 暗に人を欺く．それと知らしめずして欺く〔17. 欺哄：暗欺哄〕

Eje 去勢した牛〔32. 牛：騬牛〕

Ejebumbi 記臆させる．諳記させる〔7. 文教：使記〕

Ejebun 記錄〔7. 書一：記〕

Ejehe 勅書．世襲官差使官に與ふる旨書〔3. 諭旨：勅書〕

Ejehen 注釋〔7. 書二：注〕

Ejeke 眞面目に懸命の．專心せる．精進せる〔12. 勤勉：肫肫的用心〕

Ejeku 1. 通政使司の都事廳のことを掌

る官〔4. 臣宰五：知事〕2.〔彙：主事. 翰林院侍讀〕

Ejeku hafan 各部の員外郎の次の官〔4. 臣宰六：主事〕

— i tinggin 都察院に屬して都御史等の官を發遣し又その陞轉等のことを統掌する官署〔20. 部院五：都事廳〕

Ejelebumbi 占據される〔17. 强凌：被覇佔〕占據させる. 占めさせる〔彙：使佔〕

Ejelembi 占據する. 占める. 掌握する〔17. 强凌：覇佔〕

Ejelendumbi Ejelenumbi 共に占める. 衆一齊に占據する〔17. 强凌：齊覇佔〕

Ejembi 記臆する. 諳記する. 憶える〔7. 文學：記〕

Ejen 主君. 天子. 君主〔3. 君一：主〕

Ejesu 物憶えのよい〔11. 性情一：記性〕

Ejete Ejen の複數形〔彙：主子們. 人主們〕

Ejetun 地誌〔7. 書二：誌〕

— bithei kuren 雜志を纂修する官署〔20. 部院十一：志書館〕

Ejihe クリーム (Sun i da) を乾かして作つた食物. 乾酪の類〔27. 餑餑三：奶渣子〕

Ek sembi 厭がる. いとましがる〔15. 憎嫉二：厭憎〕煩はしがる. 面倒がる〔17. 懶惰：厭煩〕

— tak seme えいこらと. こらこらと〔15. 責備：叱咤〕

Ekcin 1. 河の岸〔2. 地輿十一：河坎〕2. 醜怪な鬼〔19. 鬼怪：醜鬼〕鬼の様な奴！ 醜鬼め！(人を罵る言葉)〔彙：醜鬼乃罵語〕

— jolo 姿態性情醜き人. 鬼の様な人〔11. 容貌二：醜鬼〕

Eke こーつと. えーと (思ひ出さうとする言葉)〔11. 性情一：尋思的口氣〕あのー. えー (話し出さうとする言葉)〔18. 散語二：想話的口氣〕ちよっと. もし (相手の名を忘れたとき思ひ出さうとし乍ら呼びかける言葉)〔12. 喚招：這個〕

— ya えーと誰だつたケ. もし誰方でしたか〔彙：這個誰的口氣〕

Ekidun cecike Gidun cecike (相思鳥) の別名〔30. 雀五：倡鳳述〕

Ekikebi Ekiyehebi に同じ〔16. 腫脹：腫消了〕

Ekisaka 悄然とした. 沈默した〔14. 言論三：悄悄的〕

— oso 靜かにせよ〔彙：叫人靜靜的阿〕

Ekiyehe 減つた. 腫れがひいた〔彙：減了. 與 Ekiyehebi 同. 瘡的平服了. 與 Ekikebi 同〕

Ekiyehebi 缺けた. 不完全になつた. 減つた〔25. 增減：已缺〕腫れがひいた〔16. 腫脹：腫消了〕

Ekiyehun 缺乏 (した). 不如意 (の).〔13. 貧乏：缺〕不足 (の). 缺け足らぬ〔25. 多寡二：缺少〕

Ekiyembi 缺ける. 減る. 少くなる. 不足してくる〔25. 增減：缺〕

Ekiyebu 減らせ. 缺け〔25. 增減：缺着〕

Ekiyembumbi 減らす. 少くする. 缺く〔25. 增減：使缺着〕

Ekiyembure dalangga 河の水量を調節する堰〔補1. 地輿二：滾水壩〕.

Ekiyen 缺乏. 不足〔彙：缺〕

Ekiyendere gucu 有害の友. 惡友〔彙：損友. 俗語篾片〕

Ekiyeniye 減らせ. 少くせよ〔25. 增減：減〕

Ekiyeniyebumbi 減らさせる. 損減させる〔25. 增減：使損減〕

Ekiyeniyembi 減らす. 段々少くする〔25. 增減：損減〕

Ekiyeniyen 易卦の名〔補1. 書二：損〕

Ekiyeniyere nonggire cese 戸口の消長を記錄する帳面. 戸籍簿〔5. 事務四：消長册〕

Ekšembi 急ぐ. 慌てる〔15. 急忙：忙〕

Ekšeme saksime Ebuhu sabhū に同じ〔15. 急忙：急急忙忙〕

Ekšendumbi Ekšenumbi 一齊に急ぎ慌てる〔15. 急忙：一齊忙〕

Ekšun 1. 厭惡すべき俗人〔18. 厭惡：厭惡人〕2. Ule (黃酒) の糟. 酒糟〔27. 茶酒：黃酒糟〕

Ektembi 1. 馬などが前足の一本で土

を蹴る〔31. 馬匹動作一：單蹄刨〕 2. Kebsimbi に同じ〔32. 騎駝一：腿磕馬粘〕

Ekteršembi 强行する．押通して行ふ．强引に事を行ふ〔17. 驕矜：豪强〕

Elbebumbi 茅を葺かせる〔26. 砌苫：使苫茅草〕蓋をさせる．覆はせる〔彙：使蓋之〕

Elbefembi 口から出まかせに喋り散らす〔彙：信口胡說．與 Elben fembi 同〕

Elbeku 船の日除けの蓆〔26. 船二：船棚子〕蓋〔彙：幪蓋者〕

Elbembi 覆ふ．蓋する〔24. 鋪蓋：覆蓋〕茅を葺く．茅草で屋根を覆ふ〔26. 砌苫：苫茅草〕

Elben かや．ちがや〔29. 草二：茅草〕

— **fembi** 1. かや草を刈り取る〔21. 割採：芟茅草〕 2. 口から出まかせに喋り散らす．眞實でもなく知りもしないことを喋り散らす〔彙：信口胡說．不眞實不知道胡說〕

— **gūwara** このはづく〔30. 鳥五：茅鴞〕

— **i boo** 茅葺きの家〔彙：茅盧．草房〕

— **i jeofi** 草葺き圓屋根の庵〔21. 室家一：草圓瓢〕

Elbenfembi 出鱈目の話をする．出任せの事を云ふ〔14. 言論三：話無論次〕

Elbesu 妄言胡動の人〔17. 愚昧：愍人〕

Elbetu 1. 不細工な．粗末粗雜な〔25. 諸物形狀二：東西儀〕 2. 祭祀の時に着用する殷代古冠の名〔補1. 古冠冕一：冕〕

Elbibumbi 招かせる．招撫させる〔8. 征伐八：使招安〕

Elbihe 1. むじな〔31. 獸五：貉〕貉の皮〔24. 皮革一：貉子皮〕 2. 招いた〔彙：招了〕

Elbimbi 招く．招安する．招撫する〔8. 征伐八：招安〕人を招聚する〔彙：招聚人〕

Elbime tohorombure inenggi 奇數月の寅から未，偶數月の申から丑に至る間の日〔補1. 時令一：要安日〕

Elbindumbi Elbinumbi 各自共に招安する．一齊に招撫する〔8. 征伐八：一齊招安〕

Elbinembi 行つて招安する．招安に行く〔8. 征伐八：去招安〕

Elbišebumbi 河で水浴びさせる〔2. 地輿十二：使河內洗澡〕

Elbišembi 河で水を浴びる．身を洗ふ〔2. 地輿十二：河內洗澡〕

Elbišenembi 河へ水浴に行く．河に行つて水浴する〔2. 地輿十二：去河內洗澡〕

Elbišenumbi 河中で一齊に水浴する〔2. 地輿十二：一齊河內洗澡〕

Elbitun 奇獸の名．扶豬山に出で貉に似て人眼を具ふ〔補4. 異獸四：譽〕

Elcin 國外に使ひする臣〔4. 臣宰十三：使臣〕

— **cecike** Mejige cecike（信鳥）の別名〔補4. 雀三：使鳥〕

Eldedei Wenderhen（阿蘭）の一種〔補4. 雀三：鷬鸘堆〕

Eldehen 易卦の名〔7. 書四：離〕〔補1. 書一：離〕

Eldei 神獸の名．驕山に出で人面羊角．虎の爪を具へ淵に出入するとき光有りと〔補四：異獸四：蠻圖〕

Eldeke 光り耀いた〔1. 天文一：光耀〕

Eldembumbi 輝かせる．光らす〔彙：使光亮〕親の名を顯はす．親の名を輝かす〔11. 孝養：顯親〕

Eldemu i etehe poo 砲の名．長さ六尺三寸四分，根經一尺七寸，重さ三百六十斤〔補1. 軍器二：德勝礮〕

Elden 光り．光線．智慧の光．德の光〔1. 天文一：光〕〔11. 聰智：光〕

— **gabtabuha** 光が射した〔1. 天文一：光射〕

Eldengge 光輝ある．びかびかした〔23. 采色三：光華〕容姿光り輝いた．立派な．軒昂の〔11. 容貌二：軒昂〕

— **ambalinggū** 威儀旺んなる．威風堂々の〔彙：穆々之王之穆々〕

— **jeo** 盛京省內の地名〔續2. 地輿：雞州〕

— **saracan usiha** 星座の名．上の七星蓋頂の形をなし下の九星蓋柄の形をなす．共に十六星紫宮內に在り〔1. 天文三：華蓋〕

Eldengge wargi ergi munggan 孝莊文皇后（太宗の皇后）の陵の名〔續. 地輿：昭西陵〕
— **wehe** 故人を表彰するため官の手によつて立てられた碑. 私に立てたものは Temgetu wehe (碣) といふ〔6. 喪服二：碑〕
Eldentu 奇獣の名. 形豹に似，夜白氣を吹けば月の如くよく數十畝を照す〔補4. 異獣六：噉月〕
Elderhen Wenderhen（阿蘭）の一種〔補4. 雀三：鵷鶵〕
Elderi moo 奇木の名. 暘谷に出で高き數千餘丈，形桑に似たり〔補3. 異木：扶木〕
Elderi usiha 北斗七星の第七〔1. 天文二：瑤光〕
Ele 1. あらゆる，皆の. …所のもの凡て〔18. 完全：所有〕 2. 益々. 愈々〔18. 散語二：益發〕
— **mila** 洒落な. 磊落な〔11. 性情二：灑落〕
Elebumbi 充分にする. 盈たす〔12. 取與：使敷〕足らしめる. 腹一杯に食はす〔27. 飲食三：使足〕
Elecun 足つた. 滿足した. 滿足〔彙：知足之足. 厭足之足〕
— **akū** 饜くなき. 足ることなき〔18. 貪婪：無饜〕
Elehe 足りた. 盈ちた〔彙：足了〕
Elehun 心寬い. 晏如たる〔11. 性情二：自如〕親近に對して淡々たる. 心勞せぬ〔17. 驕矜：寵褻〕
— **sula** 安舒閑々たる. 悠々たる〔彙：優游〕
Elei 1. 殆んど. いま一息の〔18. 散語二：幾乎〕 2. 愈々. 益々〔彙：愈加. 越發〕
— **elei** 愈々. 屢次〔彙：愈加. 屢屢〕
— **elekei** 今一寸で. もう少しの處で〔彙：幾幾乎〕
Elekei 今少しで. 殆んどの處で. あぶなく〔18. 散語二：幾幾乎〕
Elemangga 反つて. 之に反して. 反つて益々. 反對に愈々〔18. 散語二：反倒〕
Elembi 滿ち足る. 充分になる. 盈ちる〔12. 取與：敷〕食ひ足りる. 滿腹する〔27. 飲食三：足〕
Elemimbi 船を綱で牽く〔26. 船四：拉縴〕
Elen de 足りる迄に. 充分に〔18. 散語二：至足〕
— **de isika kai** 已にもう十二分に近い. 殆んどもう充分だ〔18. 散語二：足已敷了〕
— **de isinaha** 滿足する程になつた. 殆んど充分になつた〔彙：意念足了〕
— **oho kai** Elen de isika kai に同じ〔18. 散語二：足已敷了〕
— **telen akū** 力量に甲乙が無い〔8. 撩跤二：不差上下〕
Elenggi 懶惰な婦人. だらしない女〔17. 怠慢迂疏：婦人懶散〕
Elengtu 奇獣の名. 野猪に似て小さく性懶惰，好んで禾穀を傷つける〔補4. 異獣六：懶婧〕
Elerembi 1. 胸をはだける. 胸もとを露はす〔24. 穿脫：厥胸〕 2. 急ぎ歩いて動悸が激しくなる〔15. 疲倦：走急疲乏〕肥馬が急ぎ歩いて胸打たせ疲れる〔32. 馬畜殘疾一：肥馬熱極疲乏〕
Eletele 充ちるまで. 充分になるまで. 足るまで〔12. 取與：敷敷的〕
— **bumbi** 充分に與へる. 滿足するまで與へる〔彙：足足給〕
— **gaimbi** 充分に取る. 滿足するまで取る〔彙：足足取〕
Elgebumbi 手綱を牽かせる〔彙：使套韁頭轡頭步行牽着走〕
Elgembi 手綱を取る. 馬を牽く〔31. 套備馬匹：溜牲口〕
Elgiyeken 稍々豐かな. 略々餘りある〔11. 富裕：略寬裕〕
Elgiyen 1. 豐かな. 餘りある. 豐足の〔11. 富裕：寬裕〕 2. 易卦の名〔補1. 書二：豐〕
— **aniya**〔2. 時令四：豐年〕
— **i fusembure fiyenten** 內務府に所屬し牧養のことを司る役所〔20. 部院七：慶豐司〕
— **ice calu** 京城內にある貯米倉. 戶部に屬する〔20. 部院十二：富新倉〕

Elgiyen jalungga calu 直隸省正定府に置いた貯米倉〔補2. 衙署八：豐盈倉〕
— **nelhe hiyan** 新疆省內縣名〔續. 地輿：阜康縣〕
— **tesuhe namun** 山西の銀庫の名〔補2. 衙署八：豐膳庫〕
— **tumin** 豐富な. 豐饒の〔11. 富裕：饒裕〕
— **tumin calu** 北京東便門外にある貯米倉. 戶部に屬する〔20. 部院十二：裕豐倉〕
— **tusangga calu** 安保橋にあり. 佐領の糧米を貯藏する倉〔20. 部院十二：豐益倉〕
Elgiyengge ilha 珍花の名. 木は桃に似て葉に曲齒あり, 花瓣多くして圓く色は紅い〔補3. 異花四：鸞枝花〕
Elhe 安らかな. 平安の〔11. 屬祉：安〕緩やかな. 徐ろの〔12. 遲悞：緩〕
— **alhai** 緩くりと. ゆるゆると. 穩かに〔14. 行走四：安詳〕
— **nuhan** 從容たる. 急がない〔彙：從容乃不急之貌〕
— **dergi ergi munggan** 孝聖憲皇后(世宗の皇后)の陵名. 易州にある〔續. 地輿：泰東陵〕
— **obume tusa araha bithe** 書名〔續2. 書：康濟錄〕
— **taifin** 太平の. 平安の〔彙：太平〕
Elhebure hiyan moo 波斯に產する奇木の名〔補3. 異木：安息香木〕
Elheken 稍々緩くりした〔12. 遲悞：略緩些〕
Elheo 御無事か. 達者か〔12. 問答一：安康〕
Elherhen Wenderhen (阿蘭) の一種〔補4. 雀三：鷓雀〕
Elhešebumbi ゆつくりさせる. 緩慢ならしめる〔12. 遲悞：使緩慢〕
Elhešembi ゆつくりする. 遲れる〔12. 遲悞：緩慢〕
Eli 厘. 重量の單位. 分の十分一〔22. 衡量二：釐〕〔彙：與 Li 同〕
Elin 家の棟木に設へた棚〔21. 室家三：暗樓〕
Elintu おほざる. 大猴〔補4. 獸二：獼〕
Elintumbi 遠くから樣子を眺める. 遠くに立つて樣子を眺め動く〔12. 觀視一：遠望動靜〕
Elioi 律呂の呂〔7. 樂二：呂〕
Elje beri 鯨の腮で作つた弓〔9. 軍器三：魚腮弓〕
Eljembi 抗ふ. 拒ぐ. 敵對する〔15. 警敵：抗拒〕
Eljendumbi 相敵對する. 互ひに抗爭する〔15. 警敵：相抗拒〕
Elki さし招け〔12. 喚招：使招呼〕
Elkibumbi 1. さし招かせる〔12. 喚招：使人招呼〕 2. 刀を揮はせる〔彙：使搖刀〕
Elkimbi 1. さし招く. 手招きする〔12. 喚招：招呼〕 2. 刀を揮つて敵中に直入する. 刀をふりまはす〔8. 征伐四：舞刀直入〕
Elkindumbi Elkinumbi 1. 衆人一齊に手招きする. 一齊にさし招く〔12. 喚招：一齊招呼〕 2. 各自一齊に刀を舞はす. 一齊に刀を揮ふ〔彙：各自齊搖刀舞刀〕
Elmin 新馬. 未教調の仔馬〔31. 馬匹二：未搭鞍馬〕
Elu ねぎ〔27. 菜穀四：葱〕
Eluri 年齡不相應に聰明な(子供)〔10. 老小二：聰慧〕
Embici Aici に同じ〔17. 猜疑：或者〕
Emde 一緒に. 一同で. 協同して〔18. 散語二：一同〕〔彙：與 Emgi 同〕
Emdubei ひたすら. 繰返し繰返し. 頻々. 只是れ〔18. 完全：只管〕
Eme Eniye 又 Aja に同じ. 母親〔10. 人倫一：母〕
Emeke 夫の母. 姑〔10. 人倫一：婆婆〕
Emekei ...かと大いに畏れる〔18. 散語一：可畏的口氣〕
Emembihede 或る時に. 時あつて. 平常でない或る時に〔18. 散語二：或有一時〕
Ememu 或る〔18. 散語二：或〕
— **fonde** 或る時. 或る時に〔彙：或時〕
— **urse** 或る人々. 或る者共〔彙：或人〕
Ememungge 或る者. 或ること〔18.

散語二：或者〕

Emete Eme の複數形〔10. 人倫一：諸母〕

Emgeri 一度．一回〔7. 數目一：一次〕

Emgi 共に．一緒に (i, ni の助詞に續く)〔11. 親和：共〕

— **simnere hafan** 官吏試驗の答案を調べる官〔4. 臣宰十：同考官〕

Emgilembi 共同でする．共にする．一緒になる〔11. 親和：共同〕

Emhe 妻の母〔10. 親戚：丈母〕

— **soro** 吉林省內の地名〔續2. 地輿：額木赫索羅〕

Emhulembi 獨占する．獨り貪る．獨り擅にする〔18. 貪婪：獨佔〕

Emhun 老いて子無き者〔10. 人五：獨〕只一つの．單一の〔25. 雙單：孤〕

Emile 鳥類の雌〔31. 諸畜三：雌〕

Emilebumbi 遮蔽する．蔽ひかくす〔26. 間隔：遮住〕

Emke 一個．一件．一口〔7. 數目一：一箇〕

— **emken i** 一つ一つに．逐次〔彙：一個個．逐件．逐一．一件件〕

Emken emke に同じ〔7. 數目一：一箇〕

Empi あかざの類〔27. 菜穀三：藜蒿菜〕

Empirembi 妄談する．出鱈目をいふ〔14. 言論三：妄談〕

Emte 一個宛．一個毎に．各一つ一つ〔7. 數目一：各一〕

Emteli 係累緣族の無い者．孤獨の者〔10. 人五：單身〕

Emtenggeri 一次毎に．一回宛に．一度宛〔7. 數目一：各一次〕

Emtungge jodon 着物一襲分の葛布〔23. 布帛五：單料葛〕

Emu 一つ．一個〔7. 數目一：一〕

— **aligan** 一基．一臺〔7. 文學什物二：一座〕

— **anan** 一つ一つ．次々に．順々に〔5. 辨事二：挨次〕〔18. 散語二：一順兒〕

— **biha** 一小片．一小塊．一細片〔彙：很小小片兒一塊〕

— **bukdan** 折り本の一葉〔7. 文學什物一：一扣紙〕

— **burgin** 一陣(の雨，風など)〔彙：一陣雨〕

— **cimari** 一日に耕作し得る地．乃ち六畝〔21. 田地：一晌〕

— **dasin** 柄のついたものを數へる單位名〔7. 文學什物二：一柄〕

— **dedun** 一日行程．一日の道程〔彙：一宿．一站路程〕

— **deken usin** 一畝の田地〔彙：一畝田．與 Emu mo usin 同〕

— **delhe** 一頃．面積の單位名．百畝に當る〔21. 田地：一頃〕

— **ergen i** 一息に．一氣で以て〔彙：如飲茶酒等物一氣兒飲乾之一氣兒〕

— **erguwen** ひとまはり．乃ち十二年〔彙：一紀乃十二年也〕

— **fehun** 一と足．一歩〔彙14. 行走一：跬步〕〔續. 行走：跬步〕

— **fiyen** 一本の箭についた三枚の羽．(一本の箭には三枚一組の羽をつける)〔彙：一枝箭上翎的三皮翎〕

— **futa** 田地測量の單位．十八丈の長さ〔21. 田地：一繩〕

— **futa jiha** Emu ulcin jiha に同じ〔22. 貨財一：一串錢〕

— **gala** 兩手を擴げた半分の長さ．乃ち二尺五寸〔25. 量度：半庹〕

— **gargan** 1. 門扉等を數へるときの單位名〔21. 室家二：一扇〕 2. 樹枝を數へる時の單位名〔29. 花六：一枝〕

— **gargan i cooha** 一分隊の兵〔8. 兵：一枝兵〕

— **gargan i ilha** 一枝の花．一本の花〔彙：花枝折取了一梗上有許多花〕

— **haha** 男一人分の田地．乃ち三十畝〔21. 田地：一個漢子〕

— **hungken jiha** 五千六百九十二串(一串は一千文) 三百六十九文の錢〔22. 貨財一：一卯錢〕

— **hūfan** 一組の商賣組合〔彙：合夥作買賣．與 Hokilambi 同〕

— **i ginggulere ordo** 支那歷代の碑文を藏貯した亭〔20. 部院六：敬一亭〕

— **i hafure** 一貫して．只一筋に〔彙：一貫吾道之一貫〕

— **ici** ひたすらに．ひたむきに．一意專心〔彙：一向．一順子．志意同向〕

Emu ikiri 一連の. 一つながり〔彙：凡一連. 一接連〕
— **imari** 一畝. 土地面積の單位名. 幅三丈長さ十八丈の地〔21. 田地：一畝〕
— **irungge mahatun** 古制の冠. 頂に一筋の高みがある〔補1. 古冠冕一：一梁冠〕
— **jemin i okto** 一服の藥〔19. 醫治：一服藥〕
— **jukte** 肉の長く厚い一片〔27. 飯肉四：一長塊〕
— **julehen i yabumbi** 傍事に關せず一意直行する. 專心以て行ふ〔11. 厚重二：一意行走〕
— **juwe giyan** 一二の件. 一二の事〔彙：一兩件〕
— **king** 土地面積の單位名. 一頃〔彙：一頃乃百畝也〕
— **kiya** 蜜蜂の巢の一窩〔彙：蜜蜂做的蜜坯一間. 若兩隔卽 Juwe kiya. 而 Juwe kiya 之中間間隔者卽 Hitha 也〕
— **mari** 一度. 一回〔彙：一次. 一遭. 與 Emu jergi 同〕
— **mo** 田地の一畝〔彙：寬三丈長十八丈爲一畝乃量田地〕
— **oci** 一たらば卽ち. 一ならば〔彙：一則〕
— **okson** 人や動物の一步. 一と足〔彙：人牲口脚步一步兩步之一步也〕
— **sefere saliyan** 一把みに丁度. うまく一と握りに〔彙：恰好攥一把兒〕
— **suihen i banjimbi** (無用のことに關係せず吾がことに) 一意專心して日を過す〔11. 厚重二：一意度日〕
— **šuru saliyan i cikten** 丁度一šuru (親指と食指とを伸しただけの長さ)の長さの竿, 棒〔彙：剛剛恰好攥大指食指伸開一札長的桿子〕
— **talgan** 一面. 一枚 (平たい物を數へるときの單位名)〔7. 文學什物二：一面〕
— **temuhen** 一軸. 一本. 軸物を數へるときの單位名〔7. 文學什物二：一軸〕
— **udu** 一連の. 數個の〔彙：一連〕
— **ufuhi sulabu** (紬緞等のものを裁つとき) 一分程寬くとつておけ. 一分程あましておけ〔彙：裁紬緞尺頭等物放寬出一分兒〕
— **uhun** 一包み〔24. 包裹：一包〕
— **ulcin jiha** 一さしの錢. 一千文〔22. 貨財一：一串錢〕
— **urhun** 長さの單位. 五分に當る〔彙：五分卽 Sunja fun〕
— **yabun emu aššan** 一擧一動〔彙：一行一動〕
— **yohi** (書物などの)一部. 一揃ひ. 完全組揃ひのもの. 一組〔彙：書一全部之一全部. 多樣物合做或一物全有爲一全物〕
Emuci 第一の. 一番目の〔彙：第一〕
Emursu 一重の. 單層の〔25. 雙單：單層〕
— **etuku** ひとへもの〔24. 衣服二：單衣〕
En えん. うん. ふん〔彙：人說話而隨應之音. 與 En en seme 同〕
— **en seme** えんえんと. うんうんと.〔彙：隨應之音〕
— **jen** たちどころに. 瞬く間に. いとも手輕に〔15. 急忙：現成〕
— **jen i bisire** 旣に備はつてゐる. ちやんと出來てゐる〔彙：預備的有. 與 Belherengge bi 同〕
Encebumbi 給仕させる. 膳を出させる. もてなさす〔6. 筵宴：使放分〕
Encehedembi Encehešembi に同じ〔5. 詞訟二：鑽營〕
Encehen 才幹. 才能 (のある)〔11. 德藝：能幹〕
Encehengge 才幹才能のある人〔11. 德藝：能幹人〕行ひ亂れて才ある人間. 才走つた者〔18. 兇惡一：鑽幹人〕
Encehešembi 罪の故に人に求め人を煩はす〔5. 詞訟二：鑽營〕行爲正しからず陰にことを行ふ〔18. 兇惡二：鑽幹〕
Encembi 客に給仕をする. 膳を出す. もてなす〔6. 筵宴：放分〕
Encu 別の. 別樣の. 異なつた〔25. 同異：另樣〕
— **facu** 目に入れても痛くない程. たゞもう見境ひもなく (小兒を愛撫する貌)

〔彙：很仔細憐惜小孩子之貌〕
Encu inenggi 〔彙：另日．異日〕
— **demun** 異端．邪道〔彙：異端乃非正道者〕
Enculebumbi 異ならしめる．別にさせる〔彙：使之異〕
Enculembi 別にする．異を立てる〔25. 同異：另樣行〕異心を有つ〔彙：有異心〕異を立てゝ行ふ．自分だけで行ふ〔彙：承當專擔行之〕
Encutu 角が胸に生えた奇獸の名〔補4. 異獸六：貌〕
Endebuku 過失．間違ひ〔17. 過失：過〕
— **be mishalara tinggin** 國子監の牌名〔20. 部院六：繩愆廳〕
— **ufaracun** 過失過誤〔彙：過失〕
Endebumbi 1. 過失を犯す．誤る〔17. 過失：過誤〕2. 飲食のためにむせる．せきする〔彙：人馬嗆水草之㕑〕
Endehe 死んだ〔6. 喪服一：死〕
Endembio 違ふものか．間違はないぞ．瞞されるものか．ちやんと知つてゐるぞ．Endereo に同じ〔12. 問答二：還得錯麼〕
Enderakū 間違ひない．調べて知つてゐる〔12. 問答二：瞞不得〕考へ方が差はない．推察正しい．物判りよい〔11. 聰智：料事不差〕
Endereo 瞞されるかい．調べてあるぞ．過つてゐるものか〔12. 問答二：瞞得過麼〕
Enderi senderi ぼろぼろの．がたがたの〔25. 孔裂：殘破不齊〕
Endeslaha 一寸錯つた．一寸違つた〔17. 過失：錯了些〕
Enduhen 鶴の別名〔補4. 鳥一：仙子〕
Enduri 〔19. 神：神〕
— **cecikengge loho** 刃に神雀を刻んだ刀〔補1. 軍器一：神雀刀〕
— **girdan** 神佛の前に吊した幡〔19. 佛一：神幡〕
— **hutu** 鬼神〔彙：神鬼〕
— **namun** 祭器を藏する庫〔20. 壇廟：神庫〕
— **nikebun** 壇廟内に供ふる處の帝王神佛等の位牌〔20. 壇廟：神牌〕
— **niyalma** 〔彙：仙人〕
— **urgunjebure kumun** 小祭に奏する音樂の名〔7. 樂一：慶神歡〕
— **wecekū** 神の祭り〔彙：神祇〕
Endurin 〔19. 佛一：神仙〕
— **soro** 奇果の名．三百年に一度開花し九百年に一度果を結ぶ．人これを食へば僊人となるといふ〔補3. 異樣果品一：如何樹實〕
— **tubihe** いぬびはの實〔補3. 異樣果品一：天仙果〕
Enduringge 神の．聖(ひじり)の．至尊の〔彙：聖〕
— **ejen** 〔3. 君二：聖主〕
— **erdemu ambula selgiyere mudan** 功のあつた將軍大臣等に宴を賜ふとき奏する音樂の名〔補1. 樂：聖德誕敷之章〕
— **fulehungga bithei boo** 書院の名〔20. 部院十二：聖澤書院〕
— **niyalma** 〔彙：聖人〕
Enen 子孫．後裔〔10. 人倫二：子嗣〕
Enenggi 1.〔2. 時令六：今日〕2. しまつた！いけない！(過失を犯したときに嘆く言葉)〔13. 悔嘆：嘆詞〕
— **cimari** 今朝〔彙：今早〕
Eneshuken 非常に緩い勾配．僅かに勾配のある〔2. 地輿五：漫坡〕
Eneshun 緩い勾配．かたひくみの〔2. 地輿五：偏坡〕
— **tafukū** 壇廟等の臺の前に勾配緩やかにつけた平らな段〔20. 壇廟：姜礓〕
Enetkek hergengge loho 刃に梵字を彫つた刀〔補1. 軍器一：梵字刀〕
Eng seme ふんと．うーんと(厭厭乍ら返答する聲)〔12. 問答二：懶應聲〕
Engge 鳥の嘴〔30. 羽族肢體一：鳥嘴〕
— **fulgiyan itu** 雞の一種．身體は褐色で嘴が紅い〔30. 鳥六：石雞〕
Enggelcembi 分に過ぎたことをする．度を過したことをする〔17. 僭奢：越分〕
Enggele senggele akū 親類と親しまない(人)〔17. 驕矜：生分〕
Enggelebumbi 1. 價を上げる〔22. 貿易一：使價昂〕2. 頭を前方につき出

し探らせる．臨ましめる〔彙：使向前探．使臨〕
Enggelekū 上の方が前方に出張つた崖〔2.地輿四：懸崖〕
Enggelembi 1.價が昂る．騰貴する．〔22.貿易一：價昂〕2.（よく見るために）頭を突き出す．身體をのり出す〔12.觀視一：探著身看〕臨む〔彙：臨御之臨〕
Enggeleme tuwambi 身體を前方にのり出して見る〔彙：身往前探頭看〕
Enggelen 易卦の名〔補1.書一：臨〕
Enggelenembi 行つて臨む．行つて見下ろす〔彙：去臨．如臨深淵之臨〕
Enggelenjire be yarure girdan 形は信幡（Akdun girdan）に似て五色の紐の垂れた幡〔6.鹵簿器用二：降引幡〕
Enggeleshun 上部が僅かばかり前方に出張つた崖〔2.地輿四：山峯微懸處〕
Enggemu 馬の鞍〔9.鞍轡一：鞍〕
Enggete moo 河の前方に曲り突出てゐる木〔29.樹木四：臨河樹〕
Enggetu cecike 小鳥の名．眼は淡紅色，嘴は淡黒色，身は黒くて白毛を雜へてゐる〔30.雀五：喙叭嘴〕
Enggici 背後から．こつそり．ひそかに〔18.散語二：背後〕
Enggule ぎようじやにんにく〔27.菜殽三：沙葱〕
Engki congki 丁度（滿ちる）．どうやらうまく．Araka isika の意〔12.均賑：將敷〕
Enihen 雌犬〔31.諸畜二：母狗〕
Enihun 繩糸等の撚りが弱い〔23.紡織二：線力鬆〕
Enirhen やまふぢ〔29.樹木四：山藤〕
Eniye 母親．生みの母〔10.人倫一：母〕
Eniyehen 雌犬〔彙：母狗〕
Eniyen 雌の Kandahan（堪達漢）〔31.獸三：母堪達漢〕
— **buhū** 雌の鹿〔31.獸三：母鹿〕
Eniyeniye 蛇の冬眠せる〔32.龍蛇：蛇入蟄〕
Enji 精進もの．精進料理〔27.飯肉四：素〕
— **belhere ba** 天子御料の精進料理を用意する處〔補2.衙署七：素局〕
Enteheme 永へに．久遠に．永久の〔11.福祉：長遠〕
— **asarara calu** 黒龍江省にある貯糧倉〔補2.衙署八：永積倉〕
— **elgiyen calu** 滿洲三姓にある貯糧倉〔補2.衙署八：永豐倉〕
— **elgiyengge calu** 山東青州府にある貯糧倉〔補2.衙署八：永阜倉〕
— **elhe calu** 廣東高州府の貯糧倉〔補2.衙署八：永安倉〕
— **ginggun calu** 外省にある貯糧倉〔補2.衙署八：永敬倉〕
— **iktambure calu** 黒龍江省の貯糧倉〔補2.衙署八：恒積倉〕
— **jalungga namun** 江蘇省にある銀庫〔補2.衙署八：永盈庫〕
— **julge** 上古．悠久の昔〔彙：盤古．上古〕
— **taifin calu** 吉林省の貯糧倉〔補2.衙署八：永寧倉〕
— **tusa arara namun** 東陵の經費銀を收貯する庫〔補2.衙署八：永濟庫〕
— **tusangga calu** 國内各處にあり．緊急事，軍事，賑濟等の用に備へて糧米を收貯せる倉〔補2.衙署八：永濟倉〕
Entehen 易卦の名〔補1.書二：恒〕
Enteke 斯樣の．此の如き〔18.散語二：這樣〕
Entekengge 此の如きもの．斯樣のもの〔18.散語一：這樣的〕
Erde 日の出る前．夜明け前〔2.時令七：早〕
— **baicara dangse** 官廳の出勤簿．勤怠簿〔5.事務四：卯簿〕
Erdeken 朝稍々早く〔2.時令七：早早的〕
— **i oso** も少し早くせよ〔彙：叫人早些兒口氣〕
— **oso** も少し早くせよ〔12.催逼：早着些〕
Erdelehe 明け方になつた．夜が明けかかつた〔2.時令七：早了〕
Erdemu 德．才〔11.德藝：德〕
— **be aliha hiyan** 盛京省縣名〔續2.地輿：承德縣〕

Erdemu be neileku 春坊の官名. Tuwancihiyakū (庶子) の次の官〔4. 臣宰四：諭德〕
— **gasha** 雞の別名〔補4. 諸畜二：德禽〕
— **muten** 〔彙：才能〕
Erdemungge 有德の(人). 有能の(人)〔11. 德藝：有德〕
Erdeo 早いか. 朝早いか〔彙：早麼〕
Ergeletei 强壓の. 壓迫する〔17. 强凌：强派〕
Ere この. これ〔18. 爾我二：這個〕
— **ai demun** これは何と異樣な! こりや何とをかしい!〔彙：說人這是什嗎異樣子的口氣〕
— **ainahabi** これ何とした. これどうだ. どれどれ. どうしたの. これどう(通常夫婦が互に呼びかける言葉)〔12. 喚招：夫妻相呼口氣〕
— **aniya** 〔2. 時令四：今年〕
— **biya** 〔2. 時令五：今月〕
— **cimari** 今朝. 今日の明け方〔2. 時令六：今早〕〔彙：與 Enenggi erde 同〕
— **foni** 此の度. 此の時〔18. 散語二：這一次〕
— **mini nimeku** こりやわしの病ぢや(事に專心になれぬときいふ言葉)〔彙：此我之病乃專心行事未就而言也〕
— **niyalma de dotori bi** (見かけは左樣でないが) 此の人にはなかなか才能がある. 人に見えぬ働きがある〔彙：這人浮面不覺才優而能事者〕
— **niyalma fisikan** 此の人は一寸暮し向きが好い〔彙：這人過日子家計還可矣〕
— **uju be tongki** 此奴の頭をどやせ!〔彙：罵人砍頭之語〕
Erebe 此を. 此をば〔彙：將此. 把這個〕
— **ainambi** 此を何とするか. 此を何としよう. 此を如何する〔彙：這做什嗎的口氣. 把這個怎麼樣〕
Erebumbi 1. 望みに想はせる. 望ませる〔13. 求望：使指望〕 2. 樺の皮を薄く剝がせる〔彙：使剝薄樺皮〕
Ereci 此より. 此から〔18. 散語二：從此〕
— **amasi** 此より以後〔彙：自此以後〕
Erecuke 望ましい. あり度い〔13. 求望：可望〕
Erecun 1. 希望. 期待〔13. 求望：期望的〕 2. 衆人想望の人. 德望ある人〔11. 德藝：人望〕
— **akū** 望みがない. 期待せられない〔彙：沒指望. 與 Usembi 同〕
Erehunjebumbi 常に望みをかけさせる. 始終希望させる〔13. 求望：使常指望〕
Erehunjembi 常に望み思ふ. 常に希望する〔13. 求望：常指望〕
Erei jalin この爲に. この故に〔彙：爲此. 爲這個〕
Ereingge 此の人のもの〔18. 爾我二：這個人的〕
Erembi 1. 望む. 希望する〔13. 求望：指望〕 2. 樺の皮を剝ぐ〔26. 剖解：揭樺皮〕
Eremu よもぎの一種. 人程の大きさのものあり〔29. 草三：黃艾〕
Ereni 此を以て. 此の故に. そこで〔彙：以此〕
Ereo これが. これかどうか〔彙：這個呢. 卽此否〕
Ergece niyehe〔彙：鴛鴦. 與 Irfun niyehe 同. 與 Hi cy 同〕
Ergecun 安息(の). 安逸(の)〔13. 喜樂：安息〕
Ergeke 安息した. 安逸にした〔15. 歇息：已安息〕
Ergelebumbi 壓迫される. 强ひられる〔17. 强凌：被壓派〕
Ergelehebi (肩や手を病んで) 腕を結び吊した〔19. 醫治：拎疼手〕
Ergelembi 1. 壓迫する. 强ひる〔17. 强凌：壓派〕 2. (肩や手を病んで) 腕を結び吊す〔彙：肩手痛拴上帶子挿進掛着〕
Ergembi 安逸に暮す. 安樂に過す〔13. 喜樂：安歇〕安息する. 休息する〔15. 歇息：安息〕
Ergembumbi 安逸ならしめる. 息はせる〔13. 喜樂：使安歇〕
Ergemburakū 安逸たらしめない. 息はさない〔彙：不叫人安逸. 不叫歇息〕

Ergen 人身の根氣. 生命〔10. 人身八：呼吸氣〕Emu ergen i を見よ
— **beye** 生命と身體〔彙：身命〕
— **gaimbi** 呼吸する. 息を吸ふ〔彙：呼氣〕
— **hetumbi** 辛ふじて命をつなぐ. 其の日暮しをする〔13. 貧乏：度命〕
— **šelembi** 命を捨てる. 生命を賭けて事を行ふ〔18. 兇惡一：捨命〕
— **temšembi** 息が絶えさうになる. はっはっと危い息をする〔16. 疼痛三：掙命〕
— **yadaha** 息が斷えた. 息を引き取つた〔6. 喪服一：氣盡了〕
Ergendembi 休息する. 安逸にする〔彙：安逸之. 與 Ergembi 同〕
Ergenderakū (勤勉にして) 少しも休まぬ〔12. 勤勉：總不安息〕
Ergendumbi Ergenumbi 各自一齊に休息する. 衆共に安逸にする〔13. 喜樂：共安歇〕
Ergengge 生命ある(もの). 生きとし生ける(もの)〔31. 牲畜孳生：生靈〕
— **jaka** 生命あるもの〔彙：生靈〕
Ergerakū 息まぬ. 勤勉にして安逸を求める〔12. 勤勉：不安息〕
Ergešembi 食べすぎてげっぷが出る. おくびが出る〔27. 飲食三：喫的發喘〕
Ergi 方. 方向. 邊. 側. ...の方の. ...の側の〔2. 地輿十三：邊〕
Ergide ...の方に. ...の側に〔彙：在這邊那邊之邊上〕
Ergule oho 手本を離れた. 型はずれの〔18. 散語二：走了樣了〕
Ergume 參朝の禮服. 蟒緞 (Gecuheri) 等の織物にて作り, 襟をつけ裳にひだを取つたもの〔24. 衣服一：朝衣〕
Erguwejitu ぶんまはし〔22. 工匠器用三：規〕
Erguwembi 繞る. 取り巻く〔26. 拴結：周繞〕
Erguwen 一まはり. 十二年〔2. 時令四：紀〕圓口のまはり. 周圍〔25. 諸物形狀一：口面〕
— **aniya** 人各自の生れ歳. まはり年〔2. 時令四：本命年〕
— **de torhome** 圓りを繞り. 周りを旋轉し〔彙：周圍之旋轉〕
— **i aniya** Erguwen aniya に同じ〔彙：人各自行年初週〕
Erguwere garunggū fukjingga hergen 鴈の飛べるが如き形の一書體の名〔補1. 書四：廻鴈書〕
Erhe かへる. あをがへる〔32. 河魚四：田雞〕
Erhuwe 蒙古包の頂上の突出しの外面を被ふ紅い毛氈〔24. 氈屋帳房：紅氈頂〕
Eri 1. 掃除せよ〔6. 灑掃：掃〕 2. こうではないか. これではないか. これさうではないか. Ere wakao に同意〔12. 問答一：這不是麼〕これでないか. これだね〔18. 散語二：這裡呢〕
Eribumbi 掃除させる. 掃かせる〔6. 灑掃：使掃除〕
Erihe 1. 數珠. 念珠〔24. 冠帽二：數珠〕 2. 掃いた. 掃除した〔彙：掃了〕
Eriku 箒. 竹箒. 草箒〔25. 器用二：笤箒〕
— **šušu** ははきもろこし〔28. 米穀一：笤箒高粱〕
— **usiha**〔1. 天文三：彗星〕
Erilembi 時に應ずる. 時期に合する〔彙：以時. 應合其時. 與 Erileme 同〕
Erileme 時を按じ. 時を計り〔2. 時令八：按時〕
— **guwendere jungken** ボンボン時計〔7. 儀器：自鳴鐘〕
Erilere niongniyaha 雁の一種〔補4. 鳥三：鴾鴾〕
Erimbi 掃除する. 掃く〔6. 灑掃：掃除〕
Erimbu ilha 奇花の名. 花は紅色で寶石の如き光澤あり, 枝葉はせめたけに似る〔補3. 異花二：七寶花〕
— **wehe**〔22. 貨財一：寶石〕
Erin 時. 季節. 時機〔2. 時令二：時〕時刻. 一時. 一刻(今の二時間)〔2. 時令八：時辰〕
— **fonjire jungken** 目覺時計〔7. 儀器：問鐘〕
— **forgon** 時の運. 好機〔彙：時運乃人之時運也〕
— **forgon i ton i bithe** 曆書. こよ

み〔3. 論旨：時憲書〕
Erin forgon i ton i bithe de afaha hafan 曆書の印刻を事とする官〔4. 臣宰八：司書〕
— **forgon i ton i bithe weilere tinggin** 曆書印刻等のことを掌る役所．欽天監に屬する〔20. 部院七：司書廨〕
— **forgon i ton i bithei kunggeri** 禮部に屬し，頒曆耕藉養蠶等のことを掌る役所〔補2. 衙署二：時憲科〕
— **forgon i ton i hontoho** 欽天監に屬し，七政日月五星合離等のことを掌る役所〔20. 部院七：時憲科〕
— **i kemun** 時計の總稱〔7. 儀器：表〕
— **i kemneku** 小型の日時計〔7. 儀器：圭表〕
— **nimaha** ひら〔32. 河魚三：鮮魚〕
— **sonjoro tacikū** 天文のことを教習する學校〔20. 部院十二：陰陽學〕
— **tuwara hafan** 欽天監の官名．Kemu tampin tuwara hafan (契壺正) の次の官で同じく時刻の觀測に從事する〔4. 臣宰八：司晨〕
— **tuwara hontoho** 欽天監屬の役所．時を測り時を報ずる等のことを掌る所〔20. 部院七：漏刻科〕
Erindari 毎時．時毎に．一時毎に〔2. 時令八：時時〕
Eringge gasha 雞の別名〔補4. 諸畜二：知時鳥〕
— **niongniyaha** Kanjiha niongniyaha (賓鴻) の別名〔30. 鳥二：候雁〕
Eritun むくろじ〔補3. 異樣果品四：無患子〕
Erke 雄壯な．雄壯な人〔12. 勇健：雄壯〕
Erken terken あれこれと〔18. 散語二：這們那們〕
Erki 1. 少兒が父母につかまつて歩く．つかまり歩きの〔10. 老小二：小兒倚仗父母行〕 2. 氣儘な．勝手な〔17. 强凌：任性〕
Erkilembi 勝手なことをする．專斷な振舞ひをする〔彙：用强〕
Erpe 唇の上に出來た瘡〔16. 瘡膿一：齲唇〕〔彙：與 Jerpe 同〕
Erpenehebi 唇に瘡が出來た〔16. 瘡膿一：生齲唇〕
Erse 此等．此等の．Ere の複數形〔18. 散語二：這些〕〔彙：與 Ere jergi 同〕
Erselen 獅子．Arsalan に同じ〔31. 獸一：狻猊〕
Ersulen 柳の一種．籠等の細工に用ゐるもの〔29. 樹木三：隨河柳〕
Ersun 醜い．醜陋の．醜く厭はしい〔11. 容貌二：醜陋〕
Eršebumbi 子守りをさせる〔13. 生產：使照看〕
Eršeku 地方の役所の小使〔10. 人二：門子〕
Eršembi 1. 親に仕へる．親の面倒を見る〔11. 孝養：服事〕子の面倒を見る．子守りをする〔13. 生產：照看〕 2. 發疹する〔彙：出痘．出水痘子．出疹子．卽 Ajige ningge eršembi〕
Ertele 今に至るまで．今まで．これまで〔2. 時令三：至今〕
Ertuhebi 恃みとした．賴りとしてゐる〔12. 倚靠：倚仗着了〕
Ertumbi 恃みとする．依賴する．賴る〔12. 倚靠：倚仗着〕
Ertun 恃み．信賴．依賴〔12. 倚靠：倚仗〕
Eru 全く疲るゝ所のない．壯健な．元氣一杯の〔8. 撩跤二：健壯〕
Erulebumbi 刑を行はせる〔5. 刑罰一：使用刑〕
Erulembi 刑を用ゐる．刑に處する〔5. 刑罰一：用刑〕
Erun 刑．刑罰〔5. 刑罰一：刑〕
— **be getukelere tacihiyan de aisilara temgetun** 敎孝表節旌に似て幅(はゞ)上に「明刑弼敎旌」と刺繍しある旌〔6. 鹵簿器用二：明刑弼敎旌〕
— **be ginggulere fiyenten** 內務府に屬し，刑罰を司る役所〔20. 部院七：愼刑司〕
Erun koro 刑罰．處罰．處刑〔5. 刑罰一：刑罰〕
— **nikebumbi** 刑を執行する．刑に處する〔彙：著刑〕
— **sui** 罰あたり奴！(怨恨の言葉)〔13. 怨恨：罪孽〕

Eruwedebumbi 錐で穴をあけさせる〔26.鏤鑽：使鑽眼〕
Eruwedembi 錐で穴をあける〔26.鏤鑽：鑽眼〕
Eruwen 錐〔22.工匠器用二：鑽〕
Ese 此等の人々．此の輩〔18.爾我二：這些人〕
Eseingge 此の輩のもの．此等の人々のもの〔18.爾我二：這些人的〕
Eshen Ecike に同じ〔10.人倫一：叔父〕
Eshete Eshen の複數形〔10.人倫一：衆叔父〕
Eshuken やゝ生の．やゝ熟さない〔28.生熟：略生〕
Eshun 生の．熟さない〔28.生熟：生〕未熟な．生半可の〔8.騎射：生疎〕野生の．馴れてゐない〔衆：生物生獣之生〕
— **ceceri** すゞし〔23.布帛四：生絹〕
— **giowanse** Eshun ceceri に同じ〔衆：生絹〕
— **lingse** 生絲で織つた白綾〔衆：生綾子乃没有熟絲者〕
— **suberi** 生絲で織つた白綾〔23.布帛四：生綾〕
Eshurebumbi 突然に惡化させる〔16.叛逆：使變性〕
Eshurembi 突然に惡化する．急に粗暴になる〔16.叛逆：變性〕(人に馴れてゐた生物類が)急に生地を出す．亂暴になる〔衆：丢生了．熟鳥弄生了〕
Esi 當然．勿論．正しく〔12.問答二：自然〕
— **seci ojorakū** 已むを得ない．まゝならぬ．如何ともし難い〔18.散語二：不由的〕
Esihe うろこ．魚鱗〔32.鱗甲肢體：鱗〕
Esihengge 鱗の有るもの〔32.鱗甲肢體：有鱗的〕
Esihūn 深山に出づる奇獸の名．形犬に似て鱗が生えてゐる〔補4.異獸四：獅〕
Esike 一杯になつた．もう澤山だ(辭退の言葉)〔12.取與：發了的口氣〕もう食べられません〔衆：不吃了〕
Esukiye 怒鳴りつけよ〔15.責備：吆喝〕
Esukiyebumbi 怒鳴りつけさす〔15.責備：使嚇〕
Esukiyembi 怒鳴りつける．高聲に叱り飛ばす〔15.責備：嚇〕
Esunggiyembi 惡聲叱咤する．怒りを發して怒鳴りつける〔15.責備：怒嚇〕
Ese 1. 夫の弟〔10.人倫二：小叔〕2. 鱗を剝げ．鱗をおろせ〔28.剝割二：刮魚鱗〕
Esebumbi 1. 斜めにする〔21.倒攴：使斜着〕2. 魚の鱗をおろさせる〔衆：使刮之〕
Esembi 1. 斜になる〔21.倒攴：斜着〕2. 魚の鱗をおろす〔28.剝割二：刮去魚鱗〕
Eseme acabuha hergen 滿洲語に於ける拗音の字．Niya, Kuwa 等の如く二音節に書いて一音節の如く發音する字〔7.書八：切音字〕
Esemeliyen 稍々斜めになつた．若干斜めの〔衆：略斜斜的〕
Esen 斜めの．斜めになつた〔2.地輿十四：斜〕斜め〔衆：整斜字〕
— **i boo** 宮殿の斜めの方角に建てた棟．偏殿〔20.宮殿：斜廊〕
Esengge fu 正面の堂の兩端から斜めに八字形に建てた墻垣〔20.墳廟：八字墻〕
— **moo** 船の Sektere moo (鎖裙)の兩傍の板〔26.船三：舷幫〕
— **mudan** 四聲中の仄聲〔14.聲音一：仄聲〕
Esenju boo 斜めに建てた棟〔21.室家一：斜房〕
— **jugūn** 〔19.街道：斜路〕
Eserge moo ねぢき．ぬりで．木目の盤曲した木〔補3.樹木二：楔木〕
Esete Ese の複數形〔10.人倫二：衆小叔〕
Etehe 勝つた〔8.征伐五：勝了〕
Etembi 1. 勝つ．勝利を得る〔8.征伐五：得勝〕敵手になり得る．負けをとらぬ〔12.勇健：敵得住〕2. 弓身の一方が堅い〔9.製造軍器二：弓半邊硬〕
Etenggi 强盛の．强い．有力な〔12.勇健：强盛〕

Etenggilebumbi 强きを恃みとさせる．威勢を恃みとさせる〔17. 强凌：致恃强〕
Etenggilembi 强きを恃む．强きを恃みとして無理を通す．勢力を利して無理强ひする〔17. 强凌：恃强〕
Etere be toktobure poo 大砲の名．銅製，長さ五尺，砲身根元の周圍二尺五寸，重さ五百斤，火藥一斤半を盛り彈丸の重さ三斤〔補1. 軍器二：制勝礮〕
Eteri ilha 色の深い山茶花〔補三. 異花一：都勝花〕
Etu 枷を穿めよ．着物を着よ．帽子を被れ〔彙：令枷枷之．令人穿衣戴帽〕
Etubumbi 着させる〔24. 穿脫：使穿〕戴かせる．枷を穿めさせる〔彙：使戴之．使枷之〕
Etuhengge niyere 着物を着ることが薄い〔彙：衣服穿的單薄〕
Etuhuken 1. 稍々强壯な．少々强い〔8. 撩跤二：略强壯〕2. 秤の尖が少々上つた．目方のやゝ强い〔22. 衡量二：高些〕
— **i** etuhuken に同じ〔彙：略强壯些．稍的略高些〕
Etuhun 1. 强壯なる．力强き〔8. 撩跤二：强壯〕勇壯な．元氣ある〔12. 勇健：壯〕2. 秤の先が上る．目方の强い〔22. 衡量二：高〕
— **dahabumbi** 花嫁に付き添ふ〔6. 筵宴：陪嫁人〕
— **dahabume niyalma** 花嫁の附添人〔彙：女出嫁時跟隨送親人〕
Etuhušebumbi 强壓させる．無理强ひさせる〔17. 强凌：致用强〕
Etuhušembi 强壓する．逞しくする．無理强ひする〔17. 强凌：用强〕
Etuku 衣服．着物．衣類〔24. 衣服一：衣〕
— **dusihi**〔彙：衣裳〕
— **etu** 着物を着よ〔彙：衣服〕
— **halarakū** 衣服を更めぬ．（女の月經がない．月のものを見ない）〔彙：女人月經不至〕
Etukulere buleku 姿見．衣粧鏡〔24. 飾用物件：穿衣鏡〕
Etumbi 衣服を着ける．着用する〔24. 穿脫：穿〕頭に戴く．枷を穿める〔彙：戴上．以枷枷之〕
Eye 食糧等を貯藏する穴藏〔21. 室家四：窖〕
Eyebuku asu 手網．たま．水面近くの魚を捕るもの〔22. 打牲器用一：黏網〕
Eyebumbi 1. 滯つた水を放出する．放水する．物を水に流す〔26. 塞決：放水〕2. 秤のはねたるを低くする〔彙：戥秤使稍低〕
Eyefi sekiyefi 愚圖々々して．しつかりした所のない．だらりとして〔17. 懦弱一：獃頭獃腦〕
Eyehe sohin 流氷〔彙：流的氷凌雜〕
Eyehebi 墮落した〔17. 淫蕩：下流了〕
Eyembi 1. 水が流れる〔2. 地輿九：水流〕2. 秤のはねたのが低くなる．秤のさきが下がる〔22. 衡量二：低〕
Eyemeliyan 秤のさきの少しく下つた〔22. 衡量二：低些〕
Eyen 流れ．水流〔2. 地輿九：流〕
— **seyen akū** 冷淡な．素氣ない．情味のない〔17. 驕矜：無情趣〕
Eyer hayar Eyeri hayari に同じ〔14. 行走四：飄逸〕
Eyere usiha〔1. 天文三：流星〕
Eyeri hayari しゃなりしゃなり（歩き振りの好い形容）〔14. 行走四：飄逸〕
Eyerjembi 顏色白く艶のある．血色美はしい〔11. 容貌八：鮮明〕
Eyeršebumbi 氣持を惡くさせる〔15. 憎嫌二：使惡心〕厭ひ惡まれる〔彙：被厭惡〕
Eyeršecuke 厭はしい．厭惡すべき〔15. 憎嫌二：可惡心〕
Eyeršembi 氣持が惡くなる．吐き氣を催す（厭はしい人間のために，又病氣のために）〔15. 憎嫌二：惡心〕〔16. 疾病二：惡心〕
Eyun 1. 父の兄弟に生れたる女にして己より年長の者 2. 親族の同輩行中にあつて自分より年長の女．〔10. 親戚：姐姐〕
Eyungge〔10. 親戚：長女〕
Eyute Eyun の複數形〔10. 親戚：衆姐姐〕

F

Fa 1. 窓. 明り採り〔21. 室家二：窓〕2. 「法」の音譯. Fadagan に同じ〔彙：僧道巫人作術之法〕

— **cikin** 窓壺. 窓の闕〔21. 室家三：窓下坎塘〕

— **i orolokū** 窓を開けたあとに嵌める網戸(紗等の透通つた布で作る)〔21. 室家二：替窓〕

— **i sangga** 窓の格子の眼〔21. 室家二：窓櫺子〕

— **ulhūma** 鶉雉科の鳥. 色薄黒く身體は扁たく尾が短い, 樹上に巢を作る〔30. 鳥七：鳥雉〕

Fabumbi 1. 河や池の水を乾す〔2. 地輿十：使水乾〕2. 敵を追窮する〔8. 征伐六：追到盡頭〕

Facabumbi 解散させる〔彙：使散〕

Facambi 散る. 解散する〔彙：散聚之散〕退朝する. 退出する(役所より). 〔6. 朝集：散〕(宴席より)退出する〔6. 筵宴：散席〕絲屑が散らばる〔23. 絨棉：絨散〕

Facihiyašabumbi 焦らしめる. 慌てさせる〔15. 急忙：使着急〕

Facihiyašambi 1. 焦る. 氣が急く〔15. 急忙二：着急〕2. 身に餘る仕事に一生懸命になる. 無理な仕事をする〔12. 勗勉：把捉〕〔17. 懦弱二：把捉〕

Facihiyašandumbi Facihiyašanumbi 共に焦慮する〔15. 急忙：一齊着急〕

Facuhūn 1. 紊亂(した). 無秩序(な). 亂雜(な)〔5. 繁冗：紊亂〕2. 叛亂. 亂れた〔16. 叛逆：亂〕

— **i ba** 心臟, 肺臟, 肝臟の中間の箇所〔27. 飯肉二：心肝案〕

Facuhūrambi 1. 亂を起す. 亂す. 秩序を壞す〔16. 叛逆：作亂〕2. (痛の爲に)とり亂す. 平靜を失ふ〔16. 疼痛三：迷亂〕

Fadagan 妖術. 法術〔19. 鬼怪：法術〕

Fadambi 妖術を使ふ. 紙人形を埋めて人を呪ふ〔19. 鬼怪：使法術〕

Fadarhūn Corhon の別名〔補4. 雀一：鶺〕

Fadu 1. 腰につける袋. 雜嚢〔24. 巾帶：荷包〕2. 鎧の前と左側の合せ目の革び〔9. 軍器二：遮縫〕3. 弓袋, 空穗を容れる包〔9. 撒袋弓靫：盛弓箭單的荷包〕

— **jan** 一種の鳴鏑. 下方は四角で, 四個の圓孔をあけ, 鴨の鼻の如き鐵鏃をつけたもの〔9. 軍器四：合包哨箭〕

Fadulabumbi 雜嚢にいれさせる〔24. 穿脫：使裝荷包〕

Fadulambi 1. Fadu に物をいれる. 雜嚢に詰める〔24. 穿脫：荷包裏裝〕2. 辨當を腰につける. 口糧を携帶する〔8. 征伐六：裹帶口糧〕

Fafaha さくらんぼ〔28. 果品三：紅櫻〕

Fafula 禁止せよ〔彙：令禁約〕

Fafulabumbi 禁止させる. 軍令を示さしむる〔彙：使禁. 使號令〕

Fafulambi 1. 禁止する. 法度を示す〔5. 政事：禁止〕2. 軍を戒める(出征の際に). 軍令を傳へる〔8. 征伐二：傳令〕

Fafun 法度. 法律〔5. 政事：法度〕

— **i gamambi** 死刑に處す. 法規により處分する. (「殺す」と言ふのを忌んで言ふ言葉)〔5. 刑罰二：正法〕

— **kooli** 法律典例〔彙：法度〕

— **kooli bithei kuren** 刑部に屬し, 律例を編纂する役所〔20. 部院十一：律例館〕

— **selgiyen** 布告. 布令〔彙：布告. 與 Selgiyen 同. 傳諭通曉〕

— **šajin** 禁令〔彙：法度. 禁約〕

Fafungga 法度の嚴格な〔5. 政事：嚴肅〕

— **baibula** Golmin uncehenggc šanyan baibula の別名〔補4. 鳥九：冠鳥〕

— **inenggi** 干が支に剋つ日〔補1. 時令二：剋日〕

Fafuri 1. 勇ましい(人)〔12.勇健:勇健〕 2. 粗暴な(人)〔17.暴虐:躁急〕
Fafuršambi 發奮する. 勇み立つ〔12.勇健:發奮〕
Fafushūn 出征の際に軍を戒しめ誓ふ言(書經の泰誓,牧誓等の誓)〔7.書一:誓〕
Faha 1. (Fambi の過去形)乾いた. 渇いた〔2.地輿十:乾了〕 2. (Fahambi の命令形)投げよ〔15.擲撒:擲下〕 3. 果實の核〔28.果品四:果仁〕眼珠〔彙:眼珠之珠〕
— **sindambi** 結實する(穀物が). 穗に穀粒が生ずる〔21.農工二:作粒〕
Fahabi 疲れ且渇き切つた〔15.疲倦:乏渇極了〕
Fahabumbi 投げさせる〔15.擲撒:使擲〕
Fahala 1. 暗紫色(の)〔23.采色一:青蓮紫〕 2. 强烈な(酒が)〔27.茶酒:醲酒〕 3. 濃い米の漉水.(米の漉水が)濃い〔32.牲畜器用二:泔水底子〕
— **nure** 强い酒〔彙:略濃厚的酒〕
— **suran** 濃い米の漉水〔彙:濃厚的米泔水〕
Fahambi 投げる. 投げ下す. 投げつける〔15.擲撒:擲〕投倒す(角力で)〔8.撩跤二:摔〕
Fahame どつかりと(坐る)〔14.坐立一:實坐〕
— **injembi** 帽子をとばす程にまで仰向いて大笑ひする〔13.嘻笑:仰面大笑〕
— **tehebi** (疲れて)どつかりと坐つて了つた〔彙:乏困跌倒坐下了〕
Fahanambi 穀物が實を結ぶ. 稔る〔21.農工三:結子〕
Fahara gida 投げ槍〔續2.軍器:梭標〕
Faharambi 松,榛の實の皮を剝いで種子を取出す〔26.剖解:剖取松子榛仁〕
Fahari 梨に似た果實〔補3.異樣果品三:五都子〕
Fahartu 猿に似た奇獸. よく石を投げる〔補4.異獸一:舉父〕
Fahi 內股〔10.人身五:馬面裏邊〕
Fahūn 1. 肝臟〔10.人身七:肝〕 2. 車輪の外周部〔26.車轎二:車輞〕
— **akū** 膽力のない〔13.怕懼二:無膽氣〕
— **amba** 1. 膽の太い. 豪膽な〔12.勇健:膽大〕 2. 厚顏な. でしやばり〔17.輕狂:膽大〕
— **i alhūwa** 橫隔膜. Alhūwa に同じ〔彙:凡野獸牲畜肝上生的薄肉,與 Alhūwa 同〕
Faida 並べ〔8.征伐二:排列〕
Faidabumbi 品級の順に整列させる〔6.禮儀:贊排班〕整列させる(軍隊を)〔8.征伐二:使排開〕
Faidambi 列ぶ.(官吏が上奏文に)名を列ねる. 連名する〔4.陞轉:開列〕(官吏が品級の順に)整列する〔6.禮儀:排班〕(軍隊が)整列する〔8.征伐二:排開〕
Faidan 行列. 儀仗〔6.禮儀:執事〕兵隊の列〔8.征伐二:陣〕(樂器等を)並べた列〔彙:擺的樂器等物〕
— **be dasara hafan** 五品の儀仗官〔4.臣宰七:治儀正〕
— **be kadalara hafan** 三品の儀仗官〔4.臣宰七:冠軍使〕
— **be jorire hafan** 四品の儀仗官〔4.臣宰七:雲麾使〕
— **be tuwacihiyara hafan** 六品の儀仗官〔4.臣宰七:整儀尉〕
— **be tuwara hafan** 鑾儀衞の次官,二品〔4.臣宰七:鑾儀使〕
— **i da** 王府の事を總管する官. 宮家の別當〔4.臣宰七:王府長史〕
— **i dabcikū i fiyenten** 蘆,瓜等の儀仗を製造收藏する所. 鑾儀衞に屬す〔20.部院八:班劍司〕
— **i etuku** 儀仗官の服. 供奉服〔6.鹵簿器用五:駕衣〕
— **i hafan** 王,貝勒,貝子の儀仗の事務に携る官〔4.臣宰七:典儀〕
— **i kiyoo** 皇太后,皇后乘用の八人で舁ぐ轎〔6.鹵簿器用五:儀轎〕
— **i niyalma** 肇を舁ぎ儀仗を持つ者〔10.人二:校尉〕
— **i sejen** 皇太后,皇后乘用の輿〔6.鹵簿器用五:儀輿〕
— **i tungken** 長さ二尺,中央が細く兩

端が太い太鼓〔7.樂器一：仗鼓〕
Faidan i yamun Dorgi faidan be kadalara yamun に同じ〔彙：鑾儀衞〕
Faidandumbi Faidanumbi 一齊に整列する〔8.征伐二：一齊排開〕
Faidangga dengjan 燈明．神燈（墳廟の祭に，供物臺の前に立てる一對の燈）〔23.烟火一：紙燈〕
Faidasi 侍班，齊班等の儀式を掌る鴻臚寺の官〔4.臣宰八：序班〕
— **mahatun** 古制の供奉官の用ひた冠〔補1.古冠冕二：巧士冠〕
Faifan 手拍子〔彙：蜡式唱撲手掌合曲韻．即 Falanggū faifan 也〕
Faifuhalambi 1. 藍に染める〔26.油畫：染藍〕 2. 手足，衣服が藍の水で汚れる〔彙：漚染之時穢汚男女看就不成〕
Faihacambi 焦慮する．煩悶する〔13.愁悶：煩躁〕
Faijuma いけない．駄目．思はしくない．不都合な〔13.愁悶：不妥詞〕
Faisha 木柵．柜根．（Faishan とも云ふ）〔21.室家四：木柵子〕
Faishalabumbi 木柵を立てさせる〔彙：使做木院牆〕
Faishalambi 木柵を立てる〔26.間隔：夾木柵〕
Faita 肉を切れ．裁て．切れ〔28.剝割一：割〕〔彙：令裁〕
Faitabumbi 裁斷させる〔24.剪縫一：使裁〕肉を切らせる〔28.剝割一：使割片〕
Faitaburu 碎けて死ね！〔16.呪罵：碎剮的〕
Faitakū 骨等を切る小鋸〔22.工匠器用一：小鋸〕
Faitambi 布を裁つ〔24.剪縫一：裁〕肉を切る．肉塊を切取る〔28.剝割一：割片〕（俸給を）削る〔彙：罰俸之罰〕
Faitan 〔10.人身二：眉〕
— **feherekebi** 眉を寄せた．眉を顰めた〔13.怒惱：皺眉〕
Faitanumbi 各自が肉を切る〔28.剝割一：齊割片〕
Faitarabumbi 肉を一片一片切らせる〔28.剝割一：使碎割〕
Faitarambi 肉等を一片一片切る．小さく切る〔28.剝割一：碎割〕
Faitarame wambi 刻み殺しにする〔5.刑罰二：凌遲〕
— **wara weile** 凌遲刑に處すべき罪〔彙：凌遲罪．磔罪〕
Fajambi （鳥が）糞をする〔30.羽族肢體二：撒糞〕
Fajan 糞（鳥獸の）〔30.羽族肢體二：糞〕
— **fuhešembi** （鳥獸の）糞が轉がる〔彙：滾糞彈乃糞螂滾彈也〕
— **onggoho** 糞詰りになつた（馬等が）〔32.牲畜殘疾一：糞結〕
Fajiran 1. 壁．外壁．建物の外廻りの壁〔21.室家三：簷墻〕 2. 方形の蒙古包及幕舍の周圍部の幕．垂れ幕〔24.氈屋帳房：氈墻〕
Faju 叉．岐れた部分．叉になつた〔彙：凡物兩叉之相連相合處〕指の叉〔10.人身四：手了〕木の叉〔29.樹木八：樹椏杈〕
Fajukū 肛門〔彙：穀道〕
Fak fik ぽたりと（果實の落ちる音）〔14.聲響四：果落聲〕
— **seme** 1. 小ぢんまりと．小さく且丈夫な〔11.容貌五：敎實〕 2. どつかりと（疲れ切つて坐る形容）〔14.坐立一：乏坐樣〕ばつたりと（突然倒れる形容）〔16.疼痛三：忽然迷倒〕
— **seme banjimbi** 小さい乍らも丈夫に育つ〔彙：凡矮敦々實々着生者〕
— **seme faraka** ばつたり卒倒した〔彙：乏了昏了〕
— **seme tehe** どつかりと坐つて了つた（疲れて）〔彙：乏了坐着〕
Faka 尖が叉になつた木（物を懸けるに用ひるもの）〔25.器用七：木叉子棍〕
Fakaca 矮少な（人）〔11.容貌五：矮子〕
Fakadambi 球を棒で打つ．Fakašambi とも云ふ．（遊戲）〔19.賭戲：打嘎嘎〕
Fakari coko ちやぼ〔補4.諸畜二：矮鷄〕
Fakcabumbi 離す．分散させる〔彙：使離．使離散．使分散〕
Fakcambi 分れる．離れる．裂ける．分散する．別れる〔25.孔裂：離開〕

Fakcame delheme 離れ離れに．別れ別れに〔彙：分離．離別〕
Fakcan 分裂．分離〔25.孔裂：開〕
Fakcashūn 心が離れた．仲のよくない(事)〔13.怒惱：心離〕
Fakdangga cecike Kūbulin ilenggu cecike の別名〔補4.雀一：鶺鴒〕
Fakiri gasha 鶏の別名〔補4.諸畜一：窺食〕
Fakjilambi 1. 頼る．頼りにする〔彙：藉傍之．與 Fakjilame nikembi 同〕2. (角力で) 四つに組んで押し合ふ〔8.撩跤二：抵住〕
Fakjin 1. 頼り．頼み所．頼りになる．支へになる〔12.倚藉：憑倚〕2. けづめ〔30.羽族肢體二：距〕
— **akū** 力がはいらぬ(物を持つのに)．手がかりがない．頼りにならぬ〔15.拿獲：無拿手〕手足に力がない．力がはいらぬ(疲労の爲)〔15.疲倦：無力支持〕
— **baharakū** 頼りにならぬ．力がはいらぬ〔彙：凡物拿着走着沒有藉傍．與 Mašan baharakū 同〕
— **bi** 頼りになる．力になる．支持を得る〔11.德藝：有主宰〕
— **nikeku** 依頼〔彙：依藉〕
Faksa 1. まつしぐら〔8.征伐四：直入〕2. 激しい(怒りが)〔13.怒惱：暴怒〕
— **bayaka** 大に富んだ〔11.富裕：巨富了〕
— **faksa kuren kuren, curgin akū bardanggi akū** 詩經の「烝烝皇皇．不叟不揚」の逐語譯〔彙：烝烝皇皇不叟不揚〕
— **jili banjimbi** 激しい怒を生ずる〔彙：忽然很盛怒了〕
Faksalabumbi 分散させる．分れさせる〔12.分給：使分開〕
Faksalambi 分れる．分散する．解散する．分家する〔12.分給：分開〕
Faksalan 文體の一種．是非功罰を批判した文章〔7.書三：判〕
Faksi 1. 工匠．職人〔10.人三：匠人〕2. 巧(な)．上手(な)．技の優れた〔11.德藝：巧〕巧みな(角力の)．力は然程強くなくとも技の勝れた〔8.撩跤二：巧〕3. 口先の巧な．奸巧(な)〔17.奸邪：巧〕
— **bošoro da** 工部製造庫の工人の取締官〔4.臣宰六：司匠〕
— **cecike** Jirha cecike の別名〔補4.雀四：巧婦〕
— **jurgan** 內務府に屬する內三院の一，武器の繕治を掌る所〔20.部院七：武備院〕
Faksidambi 甘言を弄する．巧に辯ずる〔14.言論二：巧辯〕駈引を用ひる．惡巧みをする〔17.奸邪：弄巧〕巧にやる．うまくやる〔彙：用巧．巧於用〕
Faksikan i forgošome fiyelembi 鐙の紐を引張り身を縮して飛乘る(曲馬の手)〔8.騎馬：巧轉身〕
— **i gamambi** 巧に處理する〔5.辦事二：巧爲料理〕
Faksisa Faksi の複數形〔10.人三：衆匠人〕
Faksisai kunggeri 文武大官の墳墓，碑其他の事を取計らふ役所．工部に屬す〔補1.衙署四：匠科〕
Fakū やな(川を石や瓦で堰き止め一部をあけ其處に陷る魚をとる仕掛)〔22.打牲器用二：魚梁〕
— **jase** 法庫の邊界〔續2.地輿：法庫邊〕
Fakūri ずぼん．股引〔24.衣服二：褲〕
— **ferge** ずぼんの中央の縫合せ〔24.衣服三：褲襠縫〕
Falabumbi 流罪に處す〔5.刑罰二：流〕
Falabume mayambume 思を晴らし憂を消し〔彙：消遣愁煩之消遣〕
Falan 1. 土間〔21.室家三：屋內地〕2. 村里〔彙：隣里之里〕
— **sombi** 秋の取入の後，俥々を土間に供へて神を祭る〔6.祭祀二：祭場院〕
Falangga dengjan 土間に挿立てた燈火〔23.烟火一：戳燈〕
— **nahan** 土間に作つた温突．爐〔21.室家三：地炕〕
Falanggū 掌〔彙：手掌心〕
— **faihan** 手拍子〔7.樂三：鼓掌〕
— **forimbi** 手拍子を打つ〔7.樂三：鼓掌〕
— **usiha** 雲南に産する掌の如き形の奇

果〔補3.異様果品四：抹猛子〕
Falasu 〔22.貨財：弦鄒〕
Falga 1. 一族.同族〔10.人倫二：族〕2. 部落. 一街上にある家の集團〔19.城廓：黨〕3. 書記が事務を執る所. 役場〔20.部院一：甲〕4. Nirui falga に同じ. 村の集會所〔彙：本佐領人衆寨會議話的去處. 卽 Nirui falga 也〕
— **falga** Falha falha に同じ〔彙：凡草木生的一片一片〕
— **falga dambi** 一陣一陣斷續して風が吹く〔1.天文七：陣陣刮風〕
Falgangga 役場. 公田の千總を取締る役所. 官物を收藏する所〔20.部院一：所〕
Falgari 光錄寺,禮部等の分課〔20.部院一：署〕
— **i aisilakū** 光錄寺の七品の官. 署正の次〔4.臣宰五：署丞〕
— **i icihiyakū** 光錄寺の六品の官,大官署,珍羞署等の長官〔4.臣宰五：署正〕
Falha falha 一叢一叢. 幾つもの叢を爲して. ぽつりぽつりと(樹,草の叢が散在せる形容)〔29.樹木六：一片一片〕
Fali 1. ...個〔18.散語六：個數〕2. 結べ〔彙：合扣結弓弦扣之結〕
Falibumbi 1. 結ばせる. 結はへさせる〔23.紡織二：使打搭搭〕2. 親しく交はらせる〔12.倚靠：使結交〕
Falimbi 1. 結ぶ. 結へる. 結び合はす〔23.紡織二：打搭搭〕〔26.拴結：結繩〕2. 契を結ぶ. 親しく交はる〔12.倚靠：結交〕
Falindumbi 互に親しくする〔12.倚靠：互相結交〕
Falingga 親交. 友交〔12.倚靠：交結的〕
Falintambi 脚が縺れる〔14.行走三：兩腿絆纏〕
Falintu monio 猿の別名〔補4.獸二：猱〕
Falmahūn 星座の名. 廿八宿の一〔1.天文二：房〕
Falu Haihūwa に似た形の黑色の淡水魚. (病人,不具者は之を食はぬ)〔32.河魚一：黑鱗花魚〕
Famaha 道に迷つた〔14.行走三：走迷了〕
Fambi 1. 疲れ且咽喉が渴く〔15.疲倦：乏渴〕2. (池,河の)水が涸れる〔2.地輿十：水乾〕
Fambumbi 路に迷ふ〔14.行走三：迷路〕
Famha 紡錘〔23.紡織一：絲團子〕絲捲板(繰機の)〔23.紡織二：纏線的板子〕Sijin を捲きつける棒〔9.頭鷹犬：繞線木軸〕
Fan 盆(木製の)〔25.器用三：木方盤〕
— **dasafi tukiyehe** 種々の御馳走を取揃へて盆に盛つて進めた〔彙：凡吃的各色好物收拾放在盤內敬客〕
— **fere** 谷の深く入り込んだ所〔2.地輿四：山谷深容處〕
Fancabumbi 1. 癇癪を起させる. 立腹させる〔16.折磨：使忿怒〕2. 頸を締める. 咽喉を扼す〔彙：相鬪捋頸氣扼勢子〕3. 紫禁城の門を閉して鎖を下す〔21.開閉：下錢糧〕
Fancacuka 腹立たしい. 恨めしい〔13.怨恨：可氣〕
Fancahabi 1. 癇癪を起した〔彙：悶氣了〕2. 暑さにあたつた. 日射病になつた〔15.疲倦：熱昏了〕
Fancakū nimeku 癲癇〔16.疾病一：羊叫風〕
Fancambi 耐え難い迄に憤り恨む. 極度に不快になる. 氣がむしやくしやする〔13.怨恨：生氣〕
Fancame halhūn 耐えられぬ程暑い. 目の眩む程暑い〔2.時令八：煩熱〕
— **injembi** 大に笑ふ〔13.嘻笑：大笑〕
Fandi 船の篷の上の短い横木〔26.船四：篙上拐木〕
Fang seme ぢつと(坐る)〔14.坐立一：穩坐〕
Fangga niyalma 方士. 法術を行ふ人. 魔術師〔10.人四：法術人〕
Fangka 投下せ〔15.撂撒：摔下〕
Fangkabumbi かたに取られる. 物で負債を還す〔13.當借：抵還〕
Fangkakū 土を高く搗固める道具,搥臼形の石,鐵に綱を附けたもの〔22.工

匠器用二：鋏〕

Fangkala 1. 低い〔2.地輿五：低〕 2. 背が低い〔11.容貌五：矮〕 3. 聲が低い〔14.聲音一：聲低〕

Fangkambi 投げ下す〔15.撲撒：捭〕(角力で) 相手を投げつける〔8.撩跤一：往下掼〕

Fangkame きちんと(坐る)．端坐して〔14.坐立一：端坐〕

Fangnai 頑固な．斷乎とした．決して(如何としても不可能なのを Fangnai ojorakū といふ)〔18.鈍繆：執定〕

Fangnambi 二枚舌を使ふ．誣ひる．嘘を云ふ．胡魔化す〔18.兇惡一：强是爲非〕〔18.鈍繆：饒賴〕

Fangname laidambi 上に同じ〔18.鈍繆：饒賴〕

Fangse 「紡絲」の音譯．Sirgeri に同じ〔棄：紡絲〕

Fangsikū 籠の兩傍の麵を懸けて乾す道具〔21.室家三：燻架〕

Fangša 燻べよ〔23.烟火四：燻著〕

Fangšakū 狐，獾等の穴を燻べる道具〔23.烟火四：燻狐穴器〕

Fangšambi 1. 燻べる．穴をいぶす．薫らす〔23.烟火四：燻〕 2. Fangnambi に同じ〔18.兇惡一：强是爲非〕

Fangšangga tubi 肉等を燻べるのに用ひる籠〔25.器用六：燻籠〕

Fanihiyan 俎板〔25.器用五：案板〕

Far seme どつさりと．ごちやごちやと (人，動物，物の多い形容)〔9.畋獵二：人馬衆多〕〔25.多寡一：物繁多〕

— **seme labdu** (禽獸が)幾群も澤山に〔棄：禽獸一群々滿擠〕

Fara 1. 弓の筈を除いた中央部(牛の角を貼つた部分)〔9.製造軍器二：弓胎兩身〕 2. 車や轎の轅(ながえ)〔26.車轎一：轎杆車轅〕 3. 積雪の上を牛が曳いて草木を運ぶ繩の如きもの〔26.車轎二：牛拉的爬力〕

Faradambi 車輪が廻らぬ(氷や泥濘の爲に)〔26.車轎三：車誤住〕

Farakabi 失神した〔16.疼痛三：發昏〕

Farambi (俵に詰める前に)穀物を乾す〔21.農工三：散晒〕

Farang seme Fang seme に同じ〔14.坐立一：穩坐〕

Farangga dukai takūrsi 官名〔積2.臣宰：轅門材官〕

Farfabuhabi (事が)攪亂された．混淆された〔5.繁冗：迷亂了〕

Farfabumbi 1. (事が)攪亂される．亂雜にされる〔5.繁冗：迷亂〕 2. 走り乍ら駒を投げさせる〔19.賭戲：使撂馬兒〕

Farfambi 1. 亂雜にする〔棄：混淆．雜亂〕 2. 走り乍ら駒を投げ合ふ〔19.賭戲：撂馬兒〕

Fargabumbi 追跡させる．追撃させる〔8.征伐六：使追趕〕追撃される〔棄：被追〕

Fargambi 追ふ．追跡する．追撃する〔8.征伐六：追趕〕

Farganambi 追つて行く〔8.征伐六：去追趕〕

Fargara cooha 追兵．追撃する兵〔棄：追兵卽後追之兵也〕

Fargi 雞の止り木〔32.牲畜器用一：雞架〕

Farha cecike 滿洲に棲む一種の鷦鷯〔補4.雀四：工雿〕

Farhūdambi 無智な振舞をする．譯判らずにやる〔17.愚昧：行事昏暗〕

Farhūkan 1. 稍暗い．小暗い〔棄：略昏暗〕 2. 稍蒙昧な〔17.愚昧：略昏暗〕

Farhūn 1. 闇黑(の)．眞暗な〔棄：天昏黑．幽暗〕 2. 無智蒙昧な(人)．全く道理の判らぬ(人)〔17.愚昧：昏暗〕

— **oho** 暗くなつた〔1.天文一：昏暮〕

— **suwaliyame** 未だ夜が明けず眞暗な時に〔1.天文一：黑朦朧〕

Farsa 1. 〔27.菜穀一：薄荷〕 2. Haihūwa に似，非常に小さな淡水魚，下等なものとされる〔32.河魚三：葫蘆片〕

— **giranggi** 肋骨弓(肋骨の下端の彎曲した部分)〔10.人身六：胸岔骨〕

Farsi 一片．塊〔棄：一塊之塊．一片之片〕肉塊．肉片〔27.飯肉四：肉塊〕

— **farsi** 數塊．若干塊．幾塊も．幾片も．一塊一塊〔棄：一塊塊．一片片〕

Farsilabumbi 塊にさせる〔棄：凡物

使做一片片一塊塊的〕肉を塊に切らせる〔28.剝割一：使切成塊〕

Farsilaha cinuhūn 朱墨(ぼく)〔7.文學什物二：硃錠〕

— **hiyan** 瓢香．香木を細かく切つたもの〔6.祭祀器用一：馬牙香〕

— **okto** 丸藥．錠劑〔19.醫治：錠子藥〕

Farsilambi 切れ切れにする．細かく分ける〔彙：凡物做一片片一塊塊的〕肉を塊に切る．賽の目に切る〔28.剝割一：切成塊〕

Farsinahangge 塊となつた(もの)〔彙：成塊的〕

Farsambi 命を賭す〔18.兇惡一：捨命〕

Farsatai 刀を揮つて．奮ひ勇んで〔8.征伐四：奮刀〕

Fartahūn ラッパ狀の．末廣形の．下擴がりの〔25.諸物形狀三：喇叭嘴〕鼻孔の大きな．獅子鼻〔11.容貌四：鼻札〕

Farudai 鳳の異名〔補4.鳥一：發叨〕

Fasak がさがさ．ばさばさ(原野，密林で突然獸が跳出す形容)〔14.聲響五：獸猛起聲〕

Fasan iren Huwejen に同じ〔22.打牲器用二：攔魚箚子〕

Fasar seme 1. どつさりと(物，鳥獸の多い形容)〔25.多寡一：物繁盛〕2. ぼろぼろに(壞れる)．粉微塵に〔25.破壞：稀碎〕3.(飯が硬く)ぼろぼろした．しんのある〔28.軟硬：飯粒碎硬〕

— **seme genehe** (粘ついた物と陶器等とが共に碎けて)じゃりじゃりとなつた〔彙：凡粘的物與泥做的物碎了〕

— **seme hūwajaha** ぼろぼろに壞れた〔彙：凡物稀爛破碎〕

— **seme labdu** どつさりと多い〔彙：凡物衆多〕

Fase 1. 筏(「筏子」の音譯)〔26.船二：木牌〕2. 天秤の分銅(「法子」の音譯)〔彙：天平內的法馬〕

Fasilan 又になつた(木の枝)〔29.樹木八：樹杈枝〕又になつた(路)〔彙：兩岔路之兩岔〕別々の原因より出た(事)〔5.詞訟一：又股事〕

— **niru** 一種の雁股の矢．(此の鏃の小形のものを Karbikū にもはめる)〔9.軍器四：燕尾披箭〕

— **salja** 三叉路〔彙：三岔路〕

Fasilangga 又になつた(もの)．又をもつた(もの)〔彙：有兩叉的．有兩岔的〕

Fasimbi ぶら下る．懸垂する．首を縊る〔彙：上吊．自縊之縊．攀〕

Fasime bucehe 縊死した〔彙：縊死．吊死〕

Faššabumbi 勉めさせる．骨を折らせる〔12.黽勉：使奮勉〕

Faššambi 勉める．骨を折る．盡力する．功績がある〔12.黽勉：奮勉〕

Faššan 功業．功績〔12.黽勉：功業〕

— **baicara bolgobure fiyenten** 吏部の一司．官吏の守制，終養及戶籍上の異動等の事務を掌る〔20.部院三：稽勳淸吏司〕

Faššandumbi Faššanumbi 共に盡力する〔12.黽勉：一齊奮勉〕

Faššangga 功勞のある(人)．手柄のある(人)〔12.黽勉：有功業的〕

Fašu Aršu の別名〔補4.雀二：白塘〕

Fata 摘取れ〔21.割採：摘〕

Fatabumbi 摘取らせる〔21.割採：使摘取〕

Fatak ポロリと．バタリと．ストンと(物を取落す音)〔14.聲響四：物墜聲〕

Fatambi 1. 抓る(婦人が)〔5.爭鬪二：摘〕2. 摘取る(花，果實等を)〔21.割採：摘取〕

Fatan 1. 足のうら．蹠〔10.人身五：脚底〕2. 靴の底〔24.紕撱：底子〕3. 足のうらめ！(人を卑しめて罵る詞)〔16.咒罵：下賤〕4. 織機の經(たて)を理める道具〔23.紡織二：竹筬〕

Fatanambi 摘取りに行く〔21.割採：去摘取〕

Fatanjimbi 摘取りに來る〔21.割採：來摘取〕

Fatanumbi 一齊に摘取る．各自が摘取る〔21.割採：一齊摘取〕

Fatar seme 1. 非常に親密な形容〔11.親和：親熱樣〕2. ピチピチと(魚の跳ねる形容)〔32.鱗甲肢體：活跳〕

— **seme aššambi** (魚等が)ピチピチ

と身を動かす〔彙：魚等物翻身跳動〕

Fatarambi 1. 續けさまに掲る〔5.爭鬪二：連掲〕2. 吝む．少しづゝ用ひる〔11.省儉：掲算著用〕

Fatarame baitalambi ちびりちびりと吝んで用ひる〔彙：一點一點的省用〕

Fatari ilha 梔子に似た珍花〔補3.異花二：象蹄花〕

Fataršabumbi 始終儉約させる〔11.省儉：使常掲算著用〕

Fataršambi 1. 始終吝み用ひる．始終儉約する〔11.省儉：常掲算著用〕2. しきりに抓る〔彙：兩指甲只管掲〕

Fatha 蹄．熊等の趾〔31.走獸肢體：蹄〕〔27.飯肉二：蹄〕鳥の趾〔30.羽族肢體二：掌〕

— **beri** 牛蹄を面に貼つた弓〔9.軍器三：牛蹄弓〕

Fathašambi 心配する．苛立つ．不安に思ふ〔13.愁悶：焦躁〕〔16.疼痛二：煩躁〕

Fayabumbi 1. 濫費させる〔17.僭奢：致耗費〕2. 賣らせる〔彙：使賣之〕

Fayabun 〔17.僭奢：費用〕

Fayambi 1. 費す．濫費する〔17.僭奢：耗費〕2. 賣る〔彙：賣凡物之賣．與 Uncambi 同〕

Fayangga 靈魂〔10.人身八：魂〕

— **gaimbi** (小兒がむづかる時に巫人が)小兒の魂を呼びとる〔19.醫治：叫魂〕

— **hūlambi** 上に同じ〔19.醫治：叫魂〕

— **oron** 魂と魄．陽の精氣と陰の精氣〔彙：人之陰陽精氣〕

— **tucimbi** 憑き物がとれる．惡靈が退散する〔彙：出殃〕

Fayarakū 1. 消費しない〔11.省儉：不耗費〕2. 賣らぬ〔彙：不賣〕

Fe 舊．古い．もとの〔25.新舊：舊〕

— **amba calu** 皇城内にある戸部の糧米倉の名〔20.部院十二：舊太倉〕

— **gucu** 舊友．年來の友〔10.朋友：故友〕

— **jase giyamun** 滿洲の地名〔續2.地輿：老邊站〕

— **kooli** 〔彙：舊例〕

— **yamji** 除夜．大晦日の夜〔2.時令六：除夕〕

Febgiyembi 1. 譫言(うわごと)を云ふ．寢言を云ふ〔15.睡臥二：睡着說譫語〕2. たわごとを云ふ〔15.鄙薄：說譫語呢〕

Febigi しころ蟲．地蟲(黄金蟲の幼蟲)〔32.蟲四：蟒蟲〕

Febumbi 向ひ風を受けて立止る〔1.天文七：風頂住〕

Feciki 1. 下司．下卑た〔18.鄙瑣：卑鄙〕2. 驚嘆すべき．驚異すべき(非常に惡い事物に對しては "Ere ai hacin i feciki biheni!" と云ひ，好い事物に對しては "Absi feciki" と云ふ)〔12.稱奬：驚異詞〕

Fecuhun 隱し事をする(者)．裏切つた(者)〔18.鄙瑣：行醜事的〕密か男の有る(女)〔彙：女有外遇〕

Fede (鼓舞する詞)．頑張れ．しつかりやれ．進め〔7.文教：使發奮〕

Fefe 〔彙：陰門〕

Feherekebi 怒氣が和いだ．靜まつた〔彙：惱過了不生氣了〕

Feheren 〔10.人身二：眉間〕

Fehi 腦．腦漿〔10.人身七：腦子〕

— **akū** 頭腦が惡い．物覺えの惡い〔17.儒弱二：無記性〕

Fehubumbi 1. 足を踏まれる〔14.行走一：被踹〕踏ませる〔彙：使跐〕2. 敵に追はれる〔8.征伐六：趕上〕

Fehuhen 足臺．腰掛の前に置いて足をのせる臺〔25.器用二：脚踏〕

Fehumbi 1. 踏む〔14.行走一：踹〕2. 交合する(鳥が)〔31.牲畜孳生：採榮〕

Fehun 1. 易卦の名〔補1.書一：履〕2. Emu fehun を見よ．

Fehutembi 一齊に足踏みする〔14.行走一：一齊踹〕

Fei 〔3.君二：妃〕

Feigin 「飛金」の音譯．Aisin hoošan に同じ〔彙：飛金〕

Feingge 舊い(もの)〔彙：舊的〕

Feise 磚．煉瓦〔26.砌苫：磚〕

— **mooi kunggeri** 工部に屬し磚の製造其他の事務を扱ふ役所〔補2.衙署四：磚木科〕

Feise wehe cele 煉瓦,石を鋪け〔彙:令鋪磚石〕
Feisei duka 貢院の大門外の左右にある煉瓦の門〔20.部院十:磚門〕
Fejergi 下.下方(の)〔2.地輿十三:下〕
— **femen** 下唇〔彙:下嘴脣〕
Fejergingge 下にある(もの)〔彙:下頭的〕
Fejile Fejergi に同じ〔2.地輿十三:下〕
— **baha** 懐姙した〔彙:女人腹內受孕了〕
— **bi** 孕んでゐる〔13.生產:有孕〕
Fejilebumbi Fejilen を仕掛けさせる〔彙:使下套子〕
Fejilembi Fejilen を仕掛ける〔彙:下套子〕
Fejilen 馬の尾で作つた鳥を捕る罠〔22.打牲器用三:打雀鳥馬尾套子〕
Fejun 1. 卑劣な(人)〔18.兇惡一:賤惡人〕 2. 隱し事.裏切り〔18.鄰瑣:瞞人醜事〕
Fekceku 捕魚藥(胡桃に似た或る木の皮と葉を碎いて水にとき,之を水中に流す)〔22.打牲器用二:毒魚藥〕
Fekcembi ピクピクと動く(筋肉等が).動悸が高まる〔彙:卽 Fekceme aššambi 也.心肉等動跳〕
Fekcuhun 澁味.澁い〔28.滋味:澀〕
Fekcuri 果實の名.味甘く少々澁味を帶びたもの〔補3.異樣果品三:槎椏子〕
Feksi 馬で駈けよ〔彙:令人跑馬〕
Feksibumbi 1. 馬で駈けさせる〔31.馬匹馳走一:使跑〕 2. 夜間に犬を放つて貂,獾を捕らせる〔22.打牲:夜間放犬捕牲〕
Feksiku 五尺餘の棒に釣竿をつけて水中に沈めておき鯉を釣る仕掛けのもの〔22.打牲器用二:跑鈎子〕
Feksimbi (馬等が)馳ける.馬に乘つて疾驅する〔31.馬匹馳走一:跑〕
Feksime šodome 馳驅して〔彙:馳驅.載馳載驅〕
Feksindumbi (馬が)一齊に驅ける〔31.馬匹馳走一:齊跑〕
Fekšulehe duingge hoošan 大判の礬水(ﾐｽﾞ)紙〔7.文學什物一:礬連四紙〕
Fekšun 明礬〔22.貨財二:礬〕
Fekubumbi 跳ばせる〔14.行走一:使跳〕
Fekucembi 1. 足踏みする. 2. (興奮して)雀躍する.地團駄ふむ〔14.行走一:踴躍〕
Fekumbi 1. 跳ねる.跳ぶ.跳上る.跳降りる.跳込む〔14.行走一:跳〕 2. (絹織物が水に浸されて)織目が亂れる〔14.抽展:絲縱了〕
Fekumbumbi 馬をとばす(Šodombi よりも速いのを云ふ)〔31.馬匹馳走一:躍馬〕
Fekun 1. 跳躍.一跳び〔14.行走一:一跳遠〕 2. 馬が跳ぶ樣にして駈ける事〔彙:馬縱跑之縱〕
— **waliyabuha** 俄に驚いて度を失つた〔13.怕懼二:嚇迷了〕
Fekunembi 跳んで行く.飛越えて行く〔14.行走一:跳過去〕
Fekunjimbi 跳んで來る〔14.行走一:跳過來〕
Fekuri Fara の四本の短柱の上に橫に渡した棒〔26.車轎二:爬力柱上橫樣〕
Felebumbi 髮を捲かせる.髮をたばねさせる〔24.梳粧:使盤髮〕
Felefi yabumbi 決死の覺悟でやる〔彙:人捨命冒冒行事〕
Felehudembi 冒瀆する.差出た振舞をする〔17.輕狂:冒瀆〕
Felehun 冒瀆.冒瀆者.でしやばり〔17.輕狂:冒犯〕
Feleku おもがひ.轡から馬の頭にかけた皮紐〔9.鞍轡二:搭腦〕
Felembi 1. 捨身になる.決死の覺悟をする〔18.兇惡二:捨着〕 2. 恥を構はず懇求する〔15.侵犯:行刺〕 3. 髮を捲く.髮をたばねる〔24.梳粧:盤髮〕
Felere ataha 〔10.人五:刺客〕
Felhen 家畜小屋の草葺の軒.草葺きの柵〔32.牲畜器用一:牲口草棚〕葡萄棚〔28.果品四:葡萄架〕藤棚.花の棚〔彙:花架〕
Felheri ilha ときんいばらの花〔29.花三:酴醾花〕
Feliye 步け〔彙:令人走〕

Feliyebumbi 歩かせる，行かせる〔14.行走一：使走〕
Feliyembi 1. 歩く．行く〔14.行走一：走〕(幼兒が) よちよちと歩く〔10.老少二：小兒纔會走〕 2. 嫁に所望する．縁談をする〔6.筵宴：說親〕
Fembi 1. 本當の事を知らずに居て出鱈目に話す〔14.言論三：信口說〕 2. 秣を刈つて散らかしておく〔21.割採：撒荄草〕
Femen 〔10.人身三：唇〕
— **acabumbi** 縫ひ合はす〔24.剪縫一：對縫〕
— **kamnimbi** 唇を結ぶ．口を閉ぢる〔彙：並着嘴不張開〕
Fempi 封皮．封印．閉ぢた所に貼る細長い紙〔21.開閉：封條〕
— **dobton i kunggeri** 理藩院に屬し，通達嘗の封筒の印刷，封印等の事を扱ふ役所〔補2.衙署五：封筒科〕
Fempile 封をせよ〔彙：令封〕
Fempilebumbi 封印をさせる．封條を貼らせる〔21.開閉：使封〕
Fempilehe dobton 奏本，諭旨等をいれる封筒〔5.事務三：封套〕
— **dobtonoho bithe** 封筒に入れ封印をした公文書〔5.事務三：釘封文書〕
Fempilembi 封をする．封印をする．封條を貼る〔21.開閉：封〕
Fen 1. 魚肉の一片．魚の切身〔27.飯肉四：一段魚〕 2. 四角に切つた撒糕(Feshen efen)〔27.餑々三：糕塊〕
Fenehe ほくち．(さるのこしかけ」を乾燥し，或は菖蒲の穂，艾の葉を硝石水に浸して作る)〔23.烟火三：火茸〕
— **cecike** 毛色が Fiyabkū に似て居り，極めて小さい小鳥〔30.雀六：槐串〕
Fenfuliyer tuheke 只一矢の下に倒れた〔五體9.畋獵三：一箭即倒狀〕
Fengse 陶製の盆．盤〔25.器用六：瓦盆〕
— **i tuwabun** 〔19.戲具二：盆景〕
Fengseku 小陶盆〔25.器用六：小盆子〕
Fengšen 幸福．福祿〔11.福祉：福祉〕
— **be aliha usiha** 星の名〔補1.天：司祿〕
Fengšengge 幸福な(人)．福のある(人)〔11.福祉：有福祉〕
— **elgiyen calu** 山東萊州に在る官倉の名〔補2.衙署八：慶豐倉〕
— **gurgu** Abkai buhū に同じ〔補4.獸一：天祿〕
Fengtu 形は牛に似，肉上に目の二つある奇獸〔補4.異獸六：封〕
Fenihe ulhūma 一種の雉，大さは鴈程，群を爲して飛ぶ〔30.鳥七：寬雉〕
Fenihiyen 香爐を置く小さな机〔25.器用八：香几〕
Feningge 舊い(もの)〔25.新舊：舊的〕
Feniyeku weijun 旱天に群を爲して飛ぶ鶴〔補4.鳥二：旱群〕
Feniyelembi 群を爲す．群れ集ふ．群がる〔25.多寡一：成群〕參集する(朝廷に)〔6.朝集：成群〕
Feniyembi Weniyembi に同じ〔彙：取磺燒煉之〕
Feniyen 群．一群〔25.多寡一：群〕群衆．(參集した朝臣の)群〔6.朝集：群〕
— **feniyen** 數群．幾群も．彼方に一群此方に一群と〔25.多寡一：一群一群〕
Fepi 秣を刻む俎板〔32.牲畜器用一：剗刀床〕
Fer far seme 1. ひよろひよろした(病弱で力の無い樣)〔16.疼痛二：軟弱無力〕 2. ひらひらと(蝶等の飛ぶ形容)〔32.蟲動：蝴蝶等物緩飛〕
— **seme** ふわふわと．ひらひらと〔彙：浮然〕
Ferahe gidambi Ferhe gidambi を見よ〔五體18.貪婪：留後手〕
Fere 1. 底．物の底〔25.器用八：底〕船の底〔26.船三：船底〕車，轎の底〔26.車轎一：車底板〕 2. 卷狩の勢子の圍みの中央，中藏のある所〔9.畋獵一：圍底〕 3. 蒙古包の正面の突當りの幕〔彙：後毡墻〕
— **jalan** 一旗(Gūsa)内の第一甲喇〔3.旗分佐領一：頭甲喇〕
— **sele** 矢袋(Jebele)の底の細長い金具〔9.撒袋弓靫：兜底飾件〕
Ferehe singgeri こうもり．かはほり〔31.獸七：蝙蝠〕
Ferei bele 倉の底にこぼれた米〔28.米

穀一：廒底米〕

Ferei boo 正房の後側の棟〔21.室家一：照房〕

— **moo** 机，牀等の下端の横木〔25.器用二：托泥木〕

Ferekebi 1. 古びた．舊くなつた〔25.新舊：舊了〕2. 眩暈した〔16.疼痛三：頭碰暈〕耳がくらんだ(大きな音の爲に)〔彙：雷與炮的大聲震耳〕

Ferembi 1. 古くなる．古び行く〔25.新舊：往舊了去〕2. (大きな音の爲に)耳が震ふ．耳を聾する (Sicambi よりも强い)〔12.聆會：狠震耳〕

Feretu 總督，巡撫，綠營官の下で役所の庶務を司る官〔4.臣宰十三：中軍〕

Ferge 1. 鳥の後趾〔30.羽族肢體二：後蹬〕2. ずぼんの中央の縫目〔彙：褲襠的兩半相合處〕

Fergetun 弓を引く時右手の親指にはめる角製のもの．玦〔9.製造軍器四：搬指〕

Fergihe 1. 痺れた．無感覺になつた〔彙：口上身上麻了〕2. 蟲に螫された〔彙：螫了〕

Fergime nimembi 蟲に螫されて痛む〔16.疼痛二：螫的疼〕

Ferguwebumbi 驚嘆させる．珍らしがられる〔12.稱奬：使驚奇〕

Ferguwecuke 珍奇な．驚嘆すべき．並外れた〔12.稱奬：奇〕

— **baita** 珍しい事〔彙：奇事〕

— **fukjingga hergen** 石鼓に書かれた一種の篆書〔補1.書三：奇字篆〕

— **gungge poo** 銅製の大砲の名，長さ七尺，重さ一千斤〔補1.軍器二：神功砲〕

— **horonggo bakcin akū poo** 銅製の大砲の名，長さ七尺九寸，重さ二千斤のもの〔補1.軍器二：神威無敵砲〕

— **horonggo enduri** 北方を司る神の名〔19.神：神武〕

— **horonggo kiru** 儀仗の名．青地に龜と蛇の圖を刺繍した旗〔6.處簿器用三：神武旗〕

— **horonggo poo** 銅製の大砲の名，長さ六尺四寸，重さ四百斤のもの〔補1.軍器二：神威砲〕

— **jaka** 珍しい物〔彙：奇物〕

— **karan** 觀象臺の別稱〔20.部院七：靈臺〕

— **karan i hafan** 觀象臺の天文觀測技師〔4.臣宰八：靈臺郎〕

— **karangga hiyan** 地名(新疆省)〔續.地輿：奇臺縣〕

— **niyalma** 變り者〔彙：奇人〕

— **sabingga sence i fukjingga hergen** 芝英篆の別稱〔補1.書四：瑞芝篆〕

Ferguwecun 奇瑞．奇蹟．瑞象〔11.禋祉：瑞〕

Ferguwembi 驚嘆する．珍らしがる．〔12.稱奬：驚奇〕

Ferguwen 靈智．聰明〔11.聰智：靈〕

Ferguwendumbi Ferguwenumbi 齊しく驚嘆する．皆が驚嘆する〔12.稱奬：齊驚奇〕

Ferhe 手，足の親指〔10.人身四：大指〕

— **gidambi** 1. 物を分ける時に最も好い部分を取る．2. 物を平均に分ける時に餘分に取る〔四增體訂18.貪婪：留後手〕

— **sirge** 琵琶等の絃樂器の最も太い絃〔7.樂器三：老絃〕

Ferhelembi 親指を弓弦に掛ける〔8.步射一：大指勾弦〕

Feri 馬，騾，驢等の毛を取去つた皮の尻以外の部分のもの〔24.皮革二：滑面胯子皮〕

Ferkingge 博識の(人)〔11.聰智：多見識〕

Ferten 小鼻〔10.人身二：鼻翅〕

Feser seme 1. どきりと．ぎくりと(驚く)〔13.怕懼二：驚駭心動〕2. 粉微塵に．ばらばらに〔25.破壞：粉碎〕

— **seme hūwajaha** ばらばらに壞れた．ぼろぼろに破れた〔彙：粉々碎了〕

— **seme meijehe** (磁器等が)粉微塵に破れた〔彙：凡磁器粉碎了〕

Feshebumbi 人を苦します．人に苦しめられる〔16.折磨：擺布〕

Feshelebumbi 蹴られる〔5.爭鬪二：被踢〕蹴らせる〔彙：使踢〕

Feshelembi 蹴る〔5.爭鬪二：踢〕球を

蹴る〔19.賭戯：踢毽兒〕(馬が)蹴る〔31.馬匹動作二：踢〕

Fesheleme tabumbi 弓弭を足で踏まへ片手で弓把を握り他の片手で弦をかける〔9.製造軍器一：脚蹬上弓〕

Feshembi 苦しむ．惱む〔13.愁悶：苦了〕

Feshen こしき．蒸籠（木の圓筒を鍋の中に入れ簾を敷いたもの）〔25.器用四：籠屜〕

— **efen** 練つたうどん粉を幾重にも蒸籠の中に重ね上に小豆をおいて蒸して作つた餅〔27.餑々一：撒糕〕

Feshešembi 續け樣に蹴る〔5.爭鬪二：連踢〕

Fesin 柄．(刀．槍等の)〔9.軍器六：把子〕鞭の柄．鞭の竿〔9.鞍轡二：鞭桿〕

— **i toldohon** 刀の柄の締め金（鍔に接した部分の）．目貫〔9.製造軍器四：刀把束〕

Fešsembi Feshešembi に同じ〔5.爭鬪二：連踢〕

Fete 掘れ〔彙：令刨〕

Fetebumbi 1. 掘らせる．扶らせる〔26.塞決：使刨〕2. 探求させる〔彙：使推求〕3. 缺點を非難される．缺點を非難させる〔15.揹薄：被揭短〕

Fetecun 缺點．短所〔15.揹薄：可揭處〕

Feteku 耳掻き〔彙：耳挖〕

Fetembi 1. 掘る．掘りとる．穴を掘る扶る．かきとる〔26.塞決：刨〕矢袋(Jebele)の孔をあける〔9.製造軍器三：劃虎眼〕2. 探究する．推し究める．根本を探る〔7.文學：究原〕3. 人の短所を非難する〔15.揹薄：揭短〕

Feteme niyamniyambi (騎射の時)標的の帽子の下邊を狙つて射る〔8.騎射：究底射〕

Feten Sunja feten を見よ〔彙：五行之行〕

Fetenumbi 互に非難し合ふ〔15.揹薄：互相揭短〕

Fetereku 口の惡い人．常に他人の缺點を探す人〔18.兇惡二：慣會苛求〕

Feterembi 1. 他人の缺點を容赦せずに追求する．酷評する〔18.兇惡二：苛求〕2. (馬等が)後足で土を掘る〔31.馬匹動作一：刨〕

Feteri feterilembi 小鼻を動かして笑ふ．くすりと笑ふ〔18.散語六：要笑鼻翅動〕

Fethe 脊鰭〔32.鱗甲肢體：後分水〕

Fetheku 櫓〔26.船四：櫓〕

Fethekulembi 櫓を漕ぐ〔26.船四：搖櫓〕

Feye 1. 傷．傷口〔16.傷痕：傷〕2. 家禽の巢〔32.牲畜器用一：窩〕3. 針でついた孔〔彙：下針的針眼〕

— **tuwara bithe** 書名〔續2.書：洗冤錄〕

Feyelehebi 傷いた〔16.傷痕：中傷〕

Feyelembi 1. 傷つく〔彙：受傷〕2. 巢をかける(家禽が)〔彙：搭巢〕

Feyesi 檢屍人〔10.人二：仵作〕

Fi 〔7.文學什物二：筆〕

— **i dube** 筆の尖．筆の毛〔7.文學什物二：筆尖〕

— **i homhon** 筆の鞘．筆のかさ〔7.文學什物二：筆帽〕

— **i nenggeleku** 筆かけ．筆を横たへる臺〔7.文學什物二：筆架〕

— **i obokū** 〔7.文學什物二：筆洗〕

— **i sihan** 筆を挿しておく小さな鞘〔7.文學什物二：筆筒〕

— **i ulgakū** 1. 筆濕し 2. 硯の池〔7.文學什物二：筆蘸〕

— **kitala** 筆の軸〔7.文學什物二：筆管〕

— **šurgebuhengge fukjingga hergen** 筆を震はせて書いた篆書(雕蟲篆の別名)〔補1.書三：戰筆書〕

Ficakū 管樂器の一種〔7.樂器二：簫〕

— **orho** Darhūwa (をぎ)に似，それより短い草，山地に生ずる〔29.草二：短荻草〕

Ficambi 1. 吹く(簫等を)．吹奏する〔7.樂三：品〕鹿笛を吹く(Gio の仔が生れる頃に仔の啼聲に似た音の樺皮製の笛を吹いて牝の Gio を呼び寄せて射る)〔9.畋獵一：哨鹿〕2. 口笛を吹く〔14.聲響一：打哨子〕

Fican 管樂器．吹奏樂器〔7.樂三：品吹〕

Ficari 太く短く，五孔を有する管樂器

〔7. 樂器二：笼〕

Fidembi 1. 動員する(軍隊を)．軍隊を移動させる〔8. 征伐一：調兵〕 2. 不利ならしめる．不利な地位に陥れる．左遷する〔16. 折磨：調置惡地〕

Fideme kadalara amban 一省の緑旗兵を總管する官〔4. 臣宰十三：提督〕

Fidenembi 行つて動員する〔8. 征伐一：去調兵〕

Fidere unggire 軍隊を派遣する．軍隊を出動させる〔彙：調遣．調發〕

Fifaka fosoko 散り散りに逃げた．逃げて四散した〔16. 逃避：東逃西散〕

— **fosokongge** 散り散りに逃げた者〔彙：逃躲了忽在此忽在彼．與 Fifaka fosoko 同〕

Fifambi 1. はね返る〔彙：投物此處而激往他處〕(一度物に中つた矢が)はね返る〔8. 步射二：箭碰回來〕 2. 群から離れる．群より脫する〔16. 逃避：流散〕

Fifan 〔7. 樂器三：琵琶〕

Fifangga niyehe Bigan i niyehe の別名〔補4. 鳥七：琵琶鴨〕

Fifari 琵琶に似た形の二絃の樂器〔7. 樂器三：虎拍〕

Fiha yoo Nikan yoo に同じ〔16. 瘡瘤一：天疱瘡〕

Fihali 馬鹿．痴者〔17. 愚昧：獃子〕

Fihašambi 啞然と口をあく(返答が出來ずに)〔17. 懦弱二：乾張着口〕

Fihe 前肢の上部．上膊部(動物の)〔31. 馬匹肢體一：前腿上節〕前肢の肉〔27. 飯肉二：前腿上肉〕

Fihebumbi 詰込む〔26. 塞決：使塡〕

Fihekebi 充滿した．ぎっしり詰つた〔25. 盈虛：已塡滿〕(人が)充滿した〔6. 朝集：擁擠〕

Fihembi 詰る．充滿する〔26. 塞決：塡〕

Fiheme labdu 一杯詰る程多い〔彙：擁擠多〕

Fihenembi 詰つて行く．詰めに行く〔26. 塞決：去塡〕

Fihenjimbi 詰つて來る．詰めに來る〔26. 塞決：來塡〕

Fihete 魯鈍な(人)〔17. 愚昧：無眼識〕

Fihetele 一杯に詰る迄．一杯になる程に〔25. 盈虛：至於塡滿〕

Fijirembi (矢が)地を擦つて飛ぶ〔8. 步射二：地出溜〕(鳥が)地に擦れ擦れに飛ぶ〔30. 飛禽動息一：擦地飛〕

Fijireme goiha 矢が地に擦れ乍ら飛んで中つた〔彙：箭挨地擦溜中著〕

Fijirhi 狸(Ujirhi)の別名〔補4. 獸二：狸〕

Fijiri 麻の實(Kima, Hūnta, Meihe geleku 等各種の麻の)〔28. 米穀二：各樣麻子〕

Fik こんもりした．よく繁つた〔29. 樹木六：叢茂〕

— **seme** ぎつしりと(詰つた)〔25. 多寡一：稠密〕

— **seme banjiha** こんもりとよく繁つて生じた〔彙：凡草木等生的狠稠密之貌〕

— **seme jalukabi** ぎつしりと詰つた〔彙：塡塞的狠多滿了〕

Fika 橄欖の實〔28. 果品二：橄欖〕

— **dengjan** 橄欖の實の如く兩端が尖つた燈籠〔23. 烟火一：橄欖燈〕

— **jahūdai** 兩端の尖つた船〔26. 船一：兩尖船〕

— **jinggeri** 兩頭の尖つた釘〔22. 工匠器用三：棗核釘〕

— **nimeku** 便秘〔16. 疾病一：痞疾〕

— **šoro** 上下が細く中央の太い竹筐〔25. 器用七：大肚竹筐〕

— **tungken** 胴の中央が太くなつた太鼓(首に懸けて打つ)〔7. 樂一：搏拊鼓〕

Fikaci 形は橄欖に似て，七層の皮を有する奇果〔補3. 異樣果品三：羅晃子〕

Fikanahabi 腹の脹れた(肥えた人を惡く云ふ詞)〔11. 容貌六：胖腹腆類〕

Fikatala うねうねとして遠い(路が)〔19. 街道：遠的極遠〕

Fiktu 隙．不和〔彙：間隙．嫌隙〕

— **baimbi** 關係の無い人のあら探しをする〔15. 侵犯：尋因由〕

Fila 皿〔25. 器用三：碟子〕

Filebumbi 火にあたらせる〔彙：使人烤火〕

Fileku 火鉢〔25. 器用六：火盆〕

— **i tubi** 火鉢の上にかぶせる鐵網〔25.

器用六：火盆罩〕

Filembi 火にあたる〔23. 烟火三：烤火〕

Fili 1. 堅固な. 中空でない. 緻密な〔25. 諸物形狀三：著實〕 2. 剛毅な. しつかりした〔彙：心實. 心不動. 剛毅之毅〕

— **feise** 普通より稍大型で堅い磚〔26. 砌苫：金磚〕

— **feisei kūwaran** 工部に屬する官工場の名〔補2. 衙署四：金磚廠〕

— **fiktu akū** 全く關係がないにも拘らず〔15. 侵犯：無緣無故〕

Filingga moo したん〔29. 樹木二：紫檀〕

Filtahūn 空地. 一物もない(地)〔2. 地輿二：空地〕

Fimebumbi 1. 試みさせる〔彙：使試看〕 2. 折返して縫はせる〔24. 剪縫一：使縐邊〕

Fimeci ojorakū 近付き得ない. 相手に出來ない〔17. 暴虐：惹不得〕

Fimembi 1. 可否を試みる. 吟味する〔4. 考選：試看可否〕 2. 折返して縫ふ(着物の裾等を)〔24. 剪縫一：縐邊〕

Fimerakū 手に合はない(事). 不可能な(事)〔17. 懦弱二：不能事〕

Fina 鞦の根元に附けた環の有る金具(之に Mita uše を通す)〔9. 鞍轡二：鞦鎖子〕

Fing seme 穩かで眞面目な形容〔11. 厚重二：敦厚樣〕

Fingkabumbi 疝氣が起る〔16. 疾病一：下墜〕

Fintambi 骨を刺す程に痛む. 耐えられぬ程痛む〔16. 疼痛二：刺骨疼〕

Finteme genehe (獸が)驚いて逃げ去つた〔31. 走獸動息：獸驚奔避〕

Fioha 若雞. 雛(Sorho)より稍大きくなつた雞〔31. 諸畜三：笋雞〕

Fior seme ukiyembi (粉, 麵類, 粥等を)ずるずると啜る. つるつると啜る〔27. 飲食四：抽著喝〕

Fir fiyar seme 楚々とした. しやなりしやなりとした(婦人の振舞の優雅なる形容)〔14. 行走四：行動文雅〕

— **seme** おつとりとした(落着いて鷹揚な形容)〔11. 厚重二：莊重樣〕

— **seme arambi** すらすらと書く〔7. 書七：寫作敏捷〕

— **seme joolafi** 何事もせずに手を拱いた〔彙：垂拱〕

Firfin fiyarfin Porpon parpan に同じ〔13. 哭泣：涕淚交流〕

Firgembi 秘密が洩れる〔14. 隱顯：洩露〕

Firgembumbi 秘密を洩らす〔14. 隱顯：致於洩露〕

Firubumbi 1. 呪はせる. 2. 呪はれる〔16. 咒罵：使咒〕

Firumbi 1. 禱る(巫祝が)〔6. 祭祀二：祝贊〕 2. 呪ふ〔16. 咒罵：咒〕

Fisa 背. 背中〔10. 人身五：背〕

— **wašakū** 背を掻く道具. 麻姑. 孫の手〔25. 器用八：癢癢撓〕

Fisai nikeku 轎の笼れ〔26. 車轎一：蓋背〕

Fiseke 枝の分れた. 小枝の出た〔29. 花六：分枝〕

— **fasilan** 枝の岐れた. 岐れた小枝〔彙：斜岔乃樹之斜岔也〕

Fiseku Fisengge sihin に同じ〔20. 宮殿：飛簷〕

— **boro** 古制の幾の張出した夏帽〔補1. 古冠冕三：凉笠〕

Fisekuleme tuwambi 手をかざして見る〔12. 觀視一：手遮日光看〕

Fisembuhe gisun 易の文言. 乾坤二卦の經文の註釋〔7. 書四：文言〕

— **jugūn** 險崖等に設けたかけはしの道〔19. 街道：棧道〕

Fisembumbi 1. (服地を裁斷する時)布の端を廣く殘す. 餘裕をとる. 2. 靴, 鞋の底を大きくする〔24. 剪縫三：留扎分〕 3. 敷衍して說明する〔7. 書七：述說〕

Fiseme agambi 風の爲に斜に雨が降る〔1. 天文五：颳風雨〕

Fisengge sihin 高い張り出した軒〔20. 宮殿：飛簷〕

Fisha かやのみ〔28. 果品三：榧子〕

Fishaci かやの實に似た果實〔補3. 異樣果品四：特乃子〕

Fisihe 粟の類の穀物. 穆〔28. 米穀一：

小黄米〕

Fisihibumbi 1. 水を打たせる〔6. 灑掃：使撩水〕2. 袖をふらせる〔彙：使拂袖〕

Fisihimbi 1. 水を打つ. 水を手でふりまく〔6. 灑掃：撩水〕2. 袖をふる〔14. 行走三：拂袖〕

Fisikan 1. 稍稠密な〔彙：畧稠. 畧密〕2. 稍精良な(肉)〔27. 飯肉三：精些的肉〕3. 暮しに餘裕のある〔11. 富裕：厚實〕4. 一寸おつとりした(人)〔11. 厚重一：畧厚重〕

Fisiku 愚圖ついた(人)〔12. 遲悞：慢性〕

Fisin 1. 稠密な. めの細かい(布の織目, 網の眼, 人口密度, 草木等が).〔23. 布帛六：密實〕〔29. 樹木六：密〕〔彙：網眼密. 人民住坐稠密〕2. 精良な(肉). 脂肪の少い(肉)〔27. 飯肉三：精肉〕3. おつとりした(人). 鷹揚な(人). 誠實な(人)〔11. 重厚一：厚重〕

— **boso** 目の細かな厚い白布〔23. 布帛六：油教布〕

— **cece** 目の細かな紗〔23. 布帛四：實地紗〕

— **halfiyan sese giltasikū** 扁平な金絲を緻密に織込んだ片金〔23. 布帛一：扁金素片金〕

— **hoošan** 北京産の一種の粗紙〔7. 文學什物一：呈文紙〕

— **muheliyen sese giltasikū** 圓い金絲を緻密に織込んだ片金〔23. 布帛一：圓金素片金〕

Fisitun 麥稷を盛る祭器. 外側は圓く内側は方形で容量は一斗二升〔6. 祭祀器用一：簠〕

Fišur seme 愚圖々々と. だらだらと. のろのろと〔12. 遲悞：摸索樣〕

Fita 緊密な(に). しつかりと(縛る). 固く〔26. 拴結：拴結實〕

— **hadaha** しつかりと取付けた. 固く釘づけた〔彙：緊々釘住了〕

— **hūwaita** 固く縛れ〔彙：令緊々拴〕

— **hūwaitaha** 固く縛つた. しつかり括つた〔彙：緊々拴縛住了〕

— **jafa** しつかり持て〔彙：令緊々拿着〕

— **mampirakū** 固く結ばぬ. しつかり結びつけぬ〔彙：不打緊兒落〕

Fithe 綿を打て〔23. 紡織一：撣〕彈け(絃樂器を)〔彙：令彈琵琶絃琴瑟之彈〕

Fithebumbi 1. 彈かせる〔彙：使彈〕2. 花火をあげる〔彙：燈花爆〕3. 綿をうたせる〔23. 紡織一：使撣棉花〕

Fithejembi (炒つた豆が)はぢける〔彙：炒豆子爆之爆〕

Fitheku beri はぢき弓〔9. 軍器三：弩弓〕

Fithembi 1. 彈く. 背式骨(Gacuha)を彈く. 彈け返る.〔19. 賭戲：彈背式骨〕〔彙：彈之. 拋磚石擊物激回之意〕2. 火がはぢける. はぜる〔彙：火爆之爆〕3. 彈く. 彈奏する〔7. 樂三：彈〕4. 綿をうつ〔23. 紡織一：撣棉花〕

Fitheme acanambi きちんと合ふ〔18. 散語六：至當〕

Fithengge yaha 灼熱した時にはぢける炭〔23. 烟火一：爆炭〕

Fituhan 絃樂器の一種〔7. 樂器二：月琴〕

Fiya 樺の木(樹皮を Tolhon と呼び種々に用ひる)〔29. 樹木四：樺皮樹〕

Fiyabkū 小さな淡褐色の渡り鳥〔30. 雀六：穿草鵐〕

Fiyacumbi 唸る. 呻く〔16. 疼痛三：疼的出聲〕

Fiyada 無能な人を罵る詞〔16. 咒罵：嘴巴骨〕

Fiyagahabi 1. (手足の皮が)硬化した胼胝が出來た〔16. 疼痛二：成腦子〕2. (腫物の治つた跡に)硬皮を生じた〔16. 瘡腫二：瘡疤發癟〕3. (溝や穴を塡めた跡が)乾いて硬くなつた〔彙：溝眼塡塞晒着硬了〕

Fiyaganjabumbi 交換させる. 互に融通させる〔12. 均賑：使彼此對挪〕

Fiyaganjambi 互に融通する. 交換する.〔12 均賑：彼此對挪〕

Fiyahan 1. 手足の皮の厚くなつたもの. 角質. 胼胝〔16. 腫脹：腦子〕2. 足の裏(人の). 蹄の裏(獸の)〔31. 馬四肢體一：蹄掌〕〔彙：人牲口獸畜脚底板〕3. 玉, 石, 玳瑁等の模樣のある

もの (Gu fiyahan と連用する). 瑪瑙〔22. 貨財一：紋貝〕〔彙：瑪瑙〕

Fiyahanahabi 皮膚や肉が硬化した. 厚くなつた〔16. 腫腫：皮皴厚了〕

Fiyahanambi 皮膚や肉が硬化する. 厚くなる〔16. 腫腫：皮皴厚〕

Fiyaju 鹿の仔〔31. 歌三：鹿羔〕

Fiyajumbi (別の仕事を吩咐けられるのを避ける爲に) 忙しさうに立廻る〔17. 懶惰：事前著急〕

Fiyak fik 1. ひらりひらりと (飛ぶ. 身を躱す)〔31. 馬匹動作二：東躲西閃〕2. 嘘を吐いて信用出來ぬ事の形容〔18. 散語六：閃爍〕

— **seme** 馬が突然跳ねる形容〔31. 馬匹動作二：忽驚閃〕

Fiyakiyame halhūn 焼きつけられる様に暑い (こと)〔2. 時令八：炎熱〕

Fiyakiyan 酷熱 (の)〔1. 天文一：暘〕

— **i dalikū** 日覆ひ〔26. 間隔：遮暘〕

Fiyaksa いちゐ. あらゝぎ〔29. 樹木三：紫杉〕

Fiyakū 火に焙れ〔18. 乾燥：烤〕

Fiyakūbumbi 焙らせる〔18. 乾燥：使烤著〕〔28. 燒炒：使烤〕日光にあてさせる〔彙：使晒〕

Fiyakūmbi 焙る. 火にあてる〔18. 乾燥：烤著〕〔23. 烟火三：烤物〕〔28. 燒炒：烤〕日光にあてる. 日光に晒す〔彙：日下晒東西之晒〕

Fiyakūngga tubi 焙籠(ざる). ふせご〔25. 器用六：烘籠〕

Fiyalanggi 前後を考慮せず輕率に話す (人)〔17. 輕狂：亂言人〕

Fiyalar seme 話の輕率な. 無思慮に〔14. 言論四：話無忌憚〕

Fiyalhū 無性(ぶしょう)な (者)〔17. 懶惰：滑透了的〕

Fiyalhūn 易卦の名〔補1. 書二：遯〕

Fiyan 1. 顔の色〔11. 容貌七：臉色〕2. 紅. 口紅. 頬紅〔24. 飾用物件：胭脂〕3. 馬の毛色. 毛並〔彙：馬之毛片〕

— **gūwaliyaka** 顔色が變つた〔11. 容貌七：顔色改變了〕(布の) 色が變つた〔23. 采色三：色變了〕

— **ilha** 野菜, 果實を盛つた上に添えてのせる飾りの花〔續. 器用：頂花〕

— **sain** 顔色が好い〔彙：顔色好〕馬の毛色が好い〔彙：馬之毛片好〕

— **tuwabumbi** (戰の前に) 敵に向つて示威運動をする. 武威を示す〔8. 征伐三：揚威〕

— **tuwara jebele** 陣を布く時に使用する矢袋, Šulihun yoro を挿すもの〔彙：擺陣掛的撒袋. 挿 Šulihun yoro 者〕

Fiyana 背負ひご (山道等で物を運ぶに用ひる道具, 二本の木で作り之を負ひ繩で物を縛りつける)〔25. 器用五：背物架子〕

Fiyanarakū 火熨斗〔22. 工匠器用三：熨斗〕

Fiyanarambi 1. 假託する. 口實を設ける. 心にもない事を云ふ〔17. 欺哄：虛詞假作〕2. 火熨斗をかける.〔24. 剪縫二：熨〕

Fiyancihihiyan 小食な (人)〔27. 飲食二：食量小〕

Fiyangga 1. 好い色の (物). 美しく彩色した (物)〔23. 采色三：鮮亮〕2. 好い顔色の (人). 立派な樣子の (人). 顔色好く鷹揚な (人)〔11. 容貌七：相貌軒昂〕

— **faidan** 妃嬪の儀仗〔6. 禮儀：彩仗〕

— **lakiyan** 彩絲で花の形に作つた懸物 (慶事の際に門, 扉口に吊す)〔6. 筵宴：綵子〕

— **ordo** 高卓の上に Ordo 形の臺を彩色した紬の紐で括りつけ封誥扁額等をのせるもの〔26. 車轎一：彩亭〕

— **tuhebuku** 帳, 幄等の上に垂らした色絹〔26. 間隔：流蘇〕

— **ulhūma** 五色の雉〔30. 鳥七：雉〕

Fiyanggū 1. 末子〔10. 人倫二：老生子〕2. Fiyanggū simhun に同じ〔彙：第五指頭〕

— **simhun** 小指. 第五指〔10. 人身四：小指〕

— **sirge** 絃樂器の最も細い絃〔7. 樂器三：子絃〕

Fiyanggūšambi Halašambi に同じ. 子供があまへる.〔10. 老少二：撒嬌〕

Fiyangtahūn (人が)頑丈な. 大きく力強い(こと)〔11. 容貌五：壯大〕
Fiyangtahūri 頑丈で大きな(人)〔11. 容貌五：壯大大的〕
Fiyangtanahabi 肥え且頑丈な〔11. 容貌六：胖壯了〕
Fiyanji 1. 信頼. 恃み〔彙：父怙之怙〕 2. 後尾. 殿り〔彙：護後尾. 奔而殿之殿〕
— **cooha** 1. 後尾を護る兵 2. 護衛兵. 掩護兵(輜重, 渡河, 陣地構築等の)〔8. 兵：斷後兵〕
— **dalikū** 信頼出來る人. 恃みになる人〔12. 倚靠：保障〕
— **dalikū i gese** かき, へだての如く(恃みになる者)〔彙：與屏藩相似乃可倚靠者〕
— **ertun** 父と母. 父母に對する信頼〔彙：怙恃. 乃父怙母恃也〕
Fiyanjilambi 1. 退却の後尾となる. 掩護する〔彙：斷後. 殿〕 2. 藩屏となる. 保護する〔彙：爲屏藩〕
Fiyantoro ilha 八重咲の桃の花〔補3. 異花三：蟠桃花〕
Fiyar fir seme 立ち所に(終つた)〔26. 完成：立刻作完〕
— **seme** 上に同じ〔26. 完成：立刻作完〕
Fiyaratala 非常に多い(く)〔12. 分給：狠多〕(打つことが)非常に多い. 非常に激しい〔5. 捶打：很很的打〕
Fiyaringgiyabumbi 日光に晒させる〔18. 乾燥：使弸晒〕
Fiyaringgiyambi 日光に晒す. 日光で乾かす〔18. 乾燥：弸晒〕
Fiyartun 1. 腫物, 灸, 傷等の痕跡〔16. 瘡膿二：瘡疤〕 2. 瑕瑾〔彙：白圭玷之玷. 斯言之玷之玷〕
— **giyalu** 骨, 角のひゞ〔25. 孔裂：骨角皴裂〕
Fiyartunaha 腫物の痕が生じた〔彙：有疤喇了〕
Fiyartunahabi かさ痕が出來た. (腫物が癒つて)痕跡を生じた〔16. 瘡膿二：成瘡疤〕
Fiyaru 蛆蟲〔32. 蟲四：蛆毛蟲〕
Fiyarunahangge 蛆蟲のわいた奴め!〔16. 咒罵：長蛆蟲的〕
Fiyarunarangge 蛆蟲のわいてゐる奴め!〔彙：罵人生蛆蟲之語〕
Fiyarunaru (汝の身體に)蛆蟲がわけ〔16. 咒罵：蛆蚘的〕
Fiyasakabi 弓が乾燥した(使用出來る樣になつた)〔18. 乾燥：弓已乾透〕
Fiyasambi 出來上つた弓が乾燥する〔18. 乾燥：弓乾〕
Fiyasha 切妻の壁(家の棟から梁までの間の三角形の壁)〔21. 室家三：山墻〕
— **cecike** すゞめ〔30. 雀六：家雀〕
Fiyatarakū 野葡萄に似た木(燒けば爆ける, Murakū を作るのに用ひる)〔29. 樹木五：爆木〕
Fiye くず. まくず(葛布の原料)〔23. 絨棉：野麻〕〔29. 草二：葛藤〕
Fiyegu moo 虎が血を擦りつけた木(非常に堅い)〔29. 樹木五：虎威樹〕
Fiyehu mama 山路の神. 道祖神(森の入口, 峠の頂等に紙錢が掛けてあり, 此處を通る時に供へ物をして謝意を示す)〔19. 神：山路神〕
Fiyelebuku 曲馬の練習用の鞍〔8. 騎馬：驌架〕
Fiyeleku 絶壁〔2. 地輿四：斗壁〕
— **hada** 高く險しい峯〔彙：陡巖高險峯. 與 Fiyeleku 同〕
Fiyelembi 1. 馬の曲乘りをする. 飛乘る〔8. 騎馬：騎馬〕 2. 鷹が外れる(鷹狩の時, 放たれた鷹が獲物を捕へずに高く飛上る)〔30. 飛禽動息二：鷹蹶起〕
Fiyelen 1. 章. 節. 篇(文の)〔7. 書三：章〕 2. 疥癬. 皮癬〔16. 瘡膿一：癬〕 3. ひゆ. ひやうな〔27. 菜殺三：莧〕 4. 雛の黄色の嘴〔30. 羽族肢體二：嘴丫黃〕
Fiyelenggu やまどりの類. Alile itu によく似た鳥〔30. 鳥六：樹雞〕
Fiyelesu やまごぼう〔29. 草三：商陸〕
Fiyelfe 1. 傾斜地(山の). 稍なだらかになつた處〔2. 地輿三：山險微平處〕 2. 河岸の傾斜地. 河の水に近い平地〔2. 地輿十一：河坡〕

Fiyen 1. 矢の羽根の一組（三枚）〔9. 製造軍器四：一副箭翎〕 2. 白粉(おしろい)〔24. 飾用物件：粉〕
— **akū** そはそはした．立坐振舞に落着きのない〔17. 輕狂：擧止不定〕
— **i ijukū** 牡丹刷毛．白粉刷毛．〔24. 飾用物件：粉撲〕
— **nehebi** 馬の蹄の上方の毛が逆に生えた〔32. 馬畜殘疾二：刺蝟蹄〕
Fiyenggu 熊の腹部(肉の厚くなつた部分)〔27. 飯肉三：熊肚領〕
Fiyengseri 皮が黃色で內部の白い珍果〔補3. 異樣果品四：粉骨子〕
Fiyentehe 1. 分隊．支隊〔3. 旗分佐領一：分管〕尖の岐れた．分れた〔彙：纖線未捻合一處兩股分開者〕 2. 花瓣．花瓣の一片〔29. 花六：花瓣〕 3. 矢の羽根の一片（三片合せて一Fiyenとなる）〔9. 製造軍器四：一扱箭翎〕
Fiyentehejehe 既に罅のあつた物が遂に破れた〔彙：凡磁器器有小隙縫突破壞了〕
Fiyentehejembi 罅のあつた陶磁器類が破れる〔25. 孔裂：裂縫〕
Fiyentembi 1. 事實から離れる．誤り傳はる〔12. 名聲：訛傳〕 2. 話が筋道から離れる〔14. 言論三：支離〕
Fiyenten 課，局等に當る役所(部，院の內の)〔20. 部院一：司〕
— **i aisilakū** 寺丞に次ぐ官〔4. 臣宰五：寺副〕
— **i icihiyakū** 大理寺の屬官，少卿の下の者〔4. 臣宰五：寺丞〕
Fiyeolehe あめのうを(鱒に似て大きい海魚)〔32. 海魚二：青鮫〕
Fiyerehe 罅がいつた〔彙：裂了〕
Fiyeren 山の裂け開けた處〔2. 地輿五：山縫〕
Fiyerenembi 罅がいる．龜裂を生ずる〔25. 孔裂：裂璺〕
Fiyohombi 背式骨(Gacuha)を指で抓んで投げる〔19. 賭戲：挑針兒〕
Fiyokocombi (馬等が)後脚を揃へて擧げる〔31. 馬匹動作二：撂蹶子〕
Fiyokorombi 出鱈目を云ふ．無駄口をきく〔14. 言論三：胡謅〕
Fiyolor seme 口から出まかせに〔17. 狀貌：信口撒謊〕
Fiyoo 1. 柳枝で作つた獸頭，舞ひ乍ら之を鳴らす〔7. 樂器三：簸箕〕 2. 柳枝製の箕〔21. 農器：簸箕〕
Fiyoose 瓢を二つ割りにして柄をすげた柄杓〔25. 器用五：瓢〕
Fiyorhon きつゝき〔30. 雀一：山啄木〕
Fiyotcho gisun くだらぬ話〔彙：屁話〕
Fiyotokū へひりむし．行夜〔32. 蟲四：屁板蟲〕
Fiyotombi 放屁する〔彙：放屁〕
Fo 河の氷をすくひとる手網〔22. 工匠器用三：氷筢〕
— **ulebumbi** 飯等を嚙んで軟くして嬰兒に食べさせる〔13. 生產：嚼喂食物〕
Fodo 1. 薩滿の祈禱の時に立てる柳の枝〔6. 祭祀器用二：求福柳枝〕 2. 各種の色の紙錢を棒に附けたもの（淸明節に墓前に供へる）〔6. 喪服二：佛花〕
— **wecembi** 柳枝を立てゝ祭をする〔6. 祭祀二：樹柳枝祭〕
Fodoba 體が淡綠色の小鳥の名〔30. 雀六：柳葉雀〕
Fodoho しだれやなぎ〔29. 樹木三：柳〕
— **abdaha i fukjingga hergen** 一種の篆字（字劃の兩端が柳の葉の如く尖つたもの）〔補1. 書四：柳葉篆〕
— **inggari** 柳のわた〔彙：柳絮〕
Fodombi 喘ぐ．せわしい息遣ひをする（病氣或は疲勞の爲）〔16. 疾病二：急喘〕
Fodoroko 1. 息をはずませた〔彙：氣急了〕 2. 逆毛の生えた〔彙：皮毛不順〕
Fodorokobi 1. (怒つて)息をはずませた．口を尖らせた〔13. 怒惱：撅起嘴來了〕 2. 毛の逆立つた．逆毛の生えた〔24. 皮革二：毛槍了〕
Fohabi (寒さの爲に)皮膚が荒れた〔16. 麗賑：皴了〕
Fohodombi 機嫌を損ふ．腹を立てる〔13. 怒惱：使性氣〕
Foholokon 稍短い．少々短い〔25. 諸

物形狀一：略短〕
Foholon 短い〔25. 諸物形狀一：短〕
Foifo 磨け．研げ〔26. 錠磨：磨〕
Foifobumbi 研がせる〔26. 錠磨：使磨小刀〕
Foifokū 剃刀等を研ぐ布〔22. 工匠器用三：錫刀布〕
Foifombi 刀を研ぐ〔26. 錠磨：磨小刀〕
Foihori 疎略(な)．好い加減な．念を入れぬ〔17. 怠慢迂疏：疎忽〕
Foihorilambi 事を疎略にする．等閑に附する．善惡を關はず手早く事を片附ける〔17. 怠慢迂疏：行事疏忽〕
Foji 皮製の靴被ひ(寒い時に靴の上に重ねて穿く)〔24. 靴襪：皮襪頭〕
Fokjihiyadambi 粗暴な振舞をする〔17. 暴虐：擧動粗急〕
Fokjihiyan 粗暴な(人)〔17. 暴虐：粗急〕
Fokto 葛布の短い上衣．葛布の褊衫〔24. 衣服一：葛布短袍衫〕
— **etumbi** 角力の衣裳を着る〔8. 撩跤一：穿搭連〕
Folho 小鐵鎚(一邊が太く一邊が細いもの)〔22. 工匠器用一：鎚子〕
Folkolombi 間をおく．間をおいて用ひる〔彙：間用．凡事間着〕間をおいて任用する〔4. 陞轉：間隔錄用〕
Folkolome gosimbi 時々に可愛がる〔彙：間着疼愛〕
Folobumbi 刻ませる〔26. 雕刻：使刻〕
Foloho acangga fukjingga hergen 漢字の篆書の一種．柳葉篆と小篆とを變形したもの，秦書八體の內の一〔補1. 書四：刻符書〕
— **hitha** 轡の上に附けた透し彫の金具〔9. 鞍轡二：玲瓏飾件〕
Folombi 彫る．刻む．彫りこむ〔26. 雕刻：刻〕
Folon 銘．銘文．記銘〔7. 書二：銘〕
Foloro faksi 彫刻師．石工〔彙：雕刻匠〕
Fombi 寒さの爲に皮膚が荒れる〔16. 風候：皴〕
Fomilambi 裾を帶にはさむ〔24. 穿脫：將衣襟掖入帶〕
Fomoci 靴下〔24. 靴襪：襪〕
Fomon Jirha cecike に同じ〔補4. 雀四：襪骾〕
Fomorombi (毛絲，麻苧等が)縺れる．絡む〔23. 絨棉：絨麻攪混〕
Fon 時〔2. 時令二：候〕
Fonci …の時より〔彙：從那時，自那時〕
Fonde …の時に〔彙：時候．時節〕
Fondo 貫通した．つき透つた．透通つた．孔のあいた〔9. 畋獵三：穿透〕〔25. 孔裂：直透〕
— **gehun** 透明(な)．透通つた〔彙：透明〕
— **tucike** (矢が)貫通した．つきぬけた〔彙：箭射着獸透出了〕
Fondojombi 孔があく．破れる〔25. 孔裂：破透〕
Fondolobumbi 1. 孔をあけさせる．つき破らせる〔26. 鏤鐫：使穿透〕 2. 敵陣に突入らせる〔彙：使衝鋒入賊營〕
Fondolombi 1. 突き通す．孔をあける〔26. 鏤鐫：穿透〕 2. 敵陣に突入する〔8. 征伐四：穿入〕
Fongko 鼓形の小さな銅の文鎭〔22. 工匠器用三：小銅鼓子〕
Fongsokobi 黑く煤けた〔25. 新舊：已燻黑〕
Fongsombi 黑く煤ける〔25. 新舊：燻黑〕
Fongson 煤．煤埃〔23. 烟火四：弔場灰〕
Fongsonggi 1. 上に同じ〔23. 烟火四：弔場灰〕 2. 松花江に產する一種の淡水魚〔32. 河魚二：松花魚〕
Foniyo 牝の Sirga〔31. 獸三：母騣鬃〕
Fonji 問へ〔12. 問答一：使問〕
Fonjibumbi 問はせる〔12. 問答一：使人問〕
Fonjimbi 問ふ〔12. 問答一：問〕
Fonjin 質問．訊問〔5. 詞訟二：問語〕
Fonjinambi 問ひに行く〔12. 問答一：去問〕
Fonjindumbi Fonjinumbi 一齊に問ふ〔12. 問答一：一齊問〕
Fonjinjimbi 問ひに來る．來て問ふ〔12. 問答一：來問〕

Fonjisi 布政使衙門の官，經歷の次〔4. 臣宰十二：理問〕
Fontoho 1. 破れ穴〔25. 孔裂：破通處〕 2. 底のない器物．底のとれた器物〔25. 諸物形狀三：無底物〕
For 1. 細かな粉を吸つて食ふ音〔14. 聲聲二：抽食麵粉聲〕 2. 絲繰車の廻る音〔14. 聲聲三：紡車聲〕 3. ぶるぶる（馬が怒つて，又は逸つて鼻を鳴らす音）〔14. 聲聲五：馬眼岔噴鼻聲〕〔31. 馬四動作二：猛驚鼻聲聲〕
— **for** 1. するする（粥を啜る音）〔14. 聲聲二：喝粥聲〕 2. ぶるぶる（馬が鼻から息を噴出す音）〔14. 聲聲五：馬鼻喘息聲〕〔31. 馬四動作二：馬鼻喘息聲〕
Forfoi Furfu（佛々）の別名〔補4. 獸一：獌々〕
Forgon 時．季節．時節〔2. 時令二：季〕 時運．四時の運行〔彙：天運之運．時序之序〕
— **i yargiyan ton** 曆．曆書〔彙：時憲曆日〕
— **neihe alin** 奉天の東に在る山（永陵の在る山）〔續2. 地輿：啓運山〕
Forgori ilha 花の名，葉が尖り花は小さく白い，三月より九月にかけて眞晝に開き夜半に凋む〔29. 花四：四季花〕
Forgošo 廻せ．換へよ〔彙：令調換〕
Forgošobumbi 1. 廻させる．回させる〔15. 搖動：使調轉〕 2. とりかへさせる〔彙：使調換〕 3. 轉任させる〔彙：使調遷〕
Forgošombi 1. 廻す．向きを逆にする．覆へす．轉がす〔15. 搖動：調轉〕 2. とりかへる〔彙：調換〕 3. 轉任する．（品級はもとのまゝで）職務をかへる〔4. 陞轉：調用〕 兵を才能に應じて用ひる〔8. 征伐一：調遣〕
Forgošome fiyelembi （曲馬の手）馬に後向きに跳乘り走り乍ら鞍の上で身體の向を變へる〔8. 騙馬：轉身大上〕
— **niyamniyambi** （馬上で弓を引絞つて後，獸が反對側に逃げ）突嗟に弓を持換へて射る〔9. 畋獵二：換手射〕
Fori 打て〔5. 捶打：捶〕
Foribu 打たせよ．時刻の鼓，鐘を打たせよ〔彙：令擊．令敲．令打更〕
Foribumbi 打たせる．打たれる〔5. 捶打：使捶〕
Forikū 一種の拍子木（木の內部をくりぬいたもの．番卒が之を打つ）〔9. 軍器七：梆子〕
Forimbi 1. 打つ．たゝく．打擲する（棒，笞で）〔5. 捶打：捶打〕 2.（鼓等を）打つ．打ち鳴らす〔7. 樂三：擊〕 3.（猛禽が）爪でうつ〔30. 飛禽動息二：打椿〕
Foringga hūsun 夜の時刻を知らせる傭人夫．夜廻り〔10. 人二：更夫〕
Foringgiyambi 指で矢柄を捻り廻す（矢柄を眞直にする時に）〔9. 製造軍器三：捻箭桿〕
Foritu 盃の如き形の小さな打樂器（僧が用ゐる）〔7. 樂器一：擊〕
Forjin 樹の瘤の小さく平らなもの〔29. 樹木九：小樹瘤〕
— **moo** 木の名，河邊に生え材質が頗る堅い〔補3. 樹木二：抱木〕
Forko 絲搓り車〔23. 紡織二：紡車〕
— **i sabka sele** 絲搓車の鐵の針金〔彙：紡車上的鐵針條〕
Foro 1. 絲を紡げ〔23. 紡織一：紡〕 2. 向きをかへよ．（右に，左に）向け〔14. 坐立一：使轉身〕
Forobumbi 1. 祈禱する．薩滿が祝詞を唱へる〔6. 祭祀二：祝贊〕 2. 紡がせる〔23. 紡織一：使紡〕 3. 向かせる〔彙：使調轉回向〕
Foroho ici 向いた方向〔彙：所向之方〕
Forohūn cecike Indahūn cecike の別名〔補4. 雀一：鷽鶹〕
Forombi 1. 絲を紡ぐ〔23. 紡織一：紡線〕 2. 向く．振向く．身體を向ける〔彙：險身回向之回向〕
Foron 旋毛（つむじ）〔10. 人身一：頭髮旋窩〕 旋毛（馬の毛並の）〔31. 馬四肢體二：毛旋窩〕
— **sain** （矢柄を捻つて廻した時に）歪んでない．正しく廻る〔9. 製造軍器三：捻箭直〕
Forontu kara 腹の下に旋毛のある黑馬〔31. 馬四一：拳毛騮〕

Forontu morin 胸に旋毛のある馬〔31. 馬四一：旋毛馬〕
Fortohon 鼻尖が上を向いた（家畜の）〔31. 馬四肢體一：撅嘴〕
— **lorin** 鼻尖が上を向いた騾〔彙：牛翹嘴騾〕
Fosoba 反射．耀き〔1. 天文一：日光轉射〕
Fosobumbi 泥，水がはねかゝる〔彙：濺泥水在身之濺〕
Fosok Fasak に同じ〔14. 聲響五：獸猛起聲〕
Fosokiyambi 焦慮する．いらだつ〔15. 急忙：急躁〕
Fosoko 1. 輝いた．照つた．照り始めた〔1. 天文一：日照〕2. こぼれた．水がはね出た〔2. 地輿七：水濺出〕（鐵を打つ時に鐵屑が）はね返つた．はねとんだ〔彙：打鐵濺開鐵渣子之濺了〕
Fosolhon おだやかな（日光が）．日向(ひなた)〔1. 天文一：日暘〕
Fosombi 1. 日が照り出す．太陽が出る．（日光，燈火が）輝く〔彙：日始出．日光照着．燈光照著〕2. 水がこぼれ出る．はね返る〔彙：水濺出〕
Fosomi 裾を帶に挟め．裾をからげよ〔24. 穿脫：使掖衣襟〕
Fosomikū tohon 馬に乘る時裾をからげる爲のボタン〔24. 衣服四：撩衣扣〕
Fosomimbi 着物の裾(すそ)を捲いて帶に挟む〔24. 穿脫：掖衣襟〕
Foson 日光．光線〔1. 天文一：日光〕火光〔彙：火光〕
Fosor seme うようよと（禽獸の多い事の形容）〔25. 多寡一：禽獸多〕
Fošor seme ぶくぶくと．ぶつぶつと（泡の立つ形容）〔2. 地輿九：起浮沫〕ぶつぶつと（怒つて口邊に泡を立てる形容）〔13. 怒惱：氣的吐沫〕
— **seme obonggi dekdehe** ぶくぶくと泡が立つた〔彙：水等物起白泡兒〕
Fotor 1. ごぼごぼ（湯の煮えたぎる音）〔14. 聲響四：水滾聲〕〔28. 煮煎：翻滾〕2. かんかんに（激しく怒る樣）〔13. 怒惱：大怒樣〕
— **seme fuyembi** （鍋の湯が）ごぼごぼと煮えたぎる〔彙：鍋水滾動〕
Foyo 1. 禾本．葦の類の草の總稱（編んで靴の被ひ等を作る）〔29. 草二：烏拉草〕2. 馬の尾で編んだ織物〔彙：馬尾結成的氈〕
— **faitambi** 失せ物判斷をする（三個の圓を畫き横に七本の線を引き或は一の圓を紙上に畫いて占ふ）〔19. 醫治：圓光〕
— **orho** Foyo (1) に同じ〔彙：烏喇草．蓑草．可做簑衣〕
Foyodombi 占ふ〔7. 書五：占卜〕
Foyodon 占ひ〔7. 書五：占〕
Foyonoho 馬の尾が縺れた〔31. 馬四肢體二：銹尾〕
Foyori 李に似た珍果〔補3. 異樣果品二：州樹子〕
Foyoro すもゝ〔28. 果品一：李子〕
Fu 1. 拭へ．拭ひ取れ（Fumbi の命令形）〔6. 灑掃：擦〕2. 墻．煉瓦塀．土塀．築地(ついぢ)〔21. 室家四：墻〕3. 「府」の音譯〔彙：府縣之府〕
— **fa seme** ふーふーと．はーはーと（喘ぐ聲）〔16. 疾病二：喘呼呼〕
— **gūwara** みゝづく〔30. 鳥五：木兎〕
— **hai** 宮殿の門に掲げた「福海」と書いた扁額〔彙：宮殿門上福海〕
— **i aisilara hafan** 府丞の次の官〔4. 臣宰十二：治中〕
— **i aliha hafan** 順天府，奉天府の長官〔4. 臣宰十二：府尹〕
— **i ilhi hafan** 府尹の次の官〔4. 臣宰十二：府丞〕
— **i saraci** 府の長官．府知事〔4. 臣宰十二：知府〕
— **i tacibukū hafan** 府學の學長，一府の生員を管する官〔4. 臣宰十二：教授〕
— **nimaha** 黒鯉〔32. 河魚一：草根魚〕
Fubihūn cecike 朝鮮の載勝(ずいしょう)〔補4. 雀一：鷦鷯〕
Fubise 交趾に産する珍果〔補3. 異樣果品二：夫編子〕
Fubu 拭はせよ〔彙：使措物之措〕
Fubumbi 拭はせる．拭ひとらせる〔6.

濯帰：使擦抹〕

Fucebumbi 不機嫌にならせる〔13.怒惱：使忿惱〕

Fucembi 不機嫌になる．不愉快な顔をする．腹を立てる〔13.怒惱：忿惱〕

Fucendumbi Fucenumbi 互に腹を立てる．共に不快な顔をする〔13.怒惱：齊忿惱〕

Fucihi 佛．菩薩〔19.佛一：佛〕

— **erhuweku** 佛を收める厨子〔19.佛一：佛龕〕

— **huwejeku** 佛像の光背〔19.佛一：佛背光〕

— **i nomun** 〔19.佛一：佛經〕

— **iktan** 佛像の中に收めた經，珠寶類〔19.佛一：佛藏〕

Fucihingge mahala 五個の佛頭を附けた佛像の冠〔19.佛一：五佛冠〕

Fucihiyala 毛燒きをせよ．毛を炙りとれ〔28.燒炒：燎〕

Fucihiyalabumbi 毛燒きをさせる．毛を炙り取らす〔28.燒炒：使燎毛〕

Fucihiyalambi 毛燒きをする．皮に附いた毛を炙り取る〔28.燒炒：燎毛〕矢の竹を火に炙つて眞直にする〔9.製造軍器三：煨箭桿〕

Fucihiyambi 咳をする〔16.疾病二：咳嗽〕

Fucu faca ひそひそと〔14.言論四：偸着說話〕

Fudambi 嘔く〔16.疾病二：嘔逆〕

Fudangga 毛並の揃はぬ．逆毛の生えた〔31.馬四肢體二：毛搶着〕

Fudarakabi (毛皮の) 毛並が逆になつた〔24.皮革二：毛倒槍了〕

Fudarambi 1. 背逆する．理に反く〔16.叛逆：爲逆〕2. 間違つた審判をする．是非を反對に裁く〔5.詞訟二：官司錯了〕3. 逆毛が生える〔彙：頭髮逆倒着〕

Fudaran 反對(の)．逆(の)．背いた．順はぬ〔16.叛逆：逆〕

Fudasi 不從順(な)．背逆．惱亂(した)．〔18.兇惡一：悖謬〕

— **gūwara** Elben gūwara (このはづく) の別名〔補4.鳥四：狂〕

— **halai** つむじ曲り．ねじけた (性質)．〔18.厭惡：乖張〕

Fudasihūlahabi 瘋癲となつた．精神錯亂した〔16.疾疾一：瘋了〕

Fudasihūn 逆(の)．悖逆(の)．倒錯した〔16.叛逆：悖逆〕〔18.兇惡一：逆〕

Fude 送れ〔彙：令送人客〕

Fudebumbi 送らせる〔彙：使送〕

Fudehe jaka 嫁入道具〔彙：陪送粧奩物件〕

Fudejehebi 綻びた〔25.破壞：綻裂了〕

Fudejembi 綻びる〔25.破壞：綻裂〕

Fudelebumbi 縫ひ目を解かせる〔26.殘毀：使拆縫線〕

Fudelembi 縫ひ目を解く〔26.殘毀：拆縫線〕

Fudembi 送る．見送る．客を送り出す〔6.筵宴：送客〕〔15.去來：送〕嫁入道具を送る〔彙：陪送新媳婦物件之送〕

Fudenembi 送つて行く．見送りに行く．〔15.去來：去送〕

Fudenjimbi 送つて來る．見送りに來る〔15.去來：來送〕

Fudešembi (巫人が) 憑き物を祓ふ．老虎神を祭つて病を治す〔19.醫治：跳神送祟〕

Fudešere saman 老虎神を祭る巫人〔彙：跳老虎神的巫人〕

Fufubumbi 鋸でひかせる〔26.截砍：使鋸〕

Fufumbi 鋸でひく〔26.截砍：鋸〕

Fufun 〔22.工匠器用一：鋸〕

Fufutambi 愚圖つく．のろのろする〔17.懦弱二：扯鋸兒〕

Fuhacan hoton 滿洲の地名〔續2.地輿：鳳凰城〕

Fuhali 1. 全く．盡く．一向に〔12.取與：全然〕2. 到頭．遂に〔8.撩跤二：竟倒了〕

— **buhe** 盡く與へた〔彙：竟全給了〕

— **gaiha** 盡く取つた〔彙：竟全取了〕

— **herserakū** 一向氣にとめぬ．全く眼中におかぬ〔彙：竟不理〕

— **tuheke** (角力で，持ち耐えられなくなつて) 到頭倒れた〔彙：竟跌倒了〕

Fuhašabumbi 1. 何度も繰返して細か

に調べさせる〔彙：使反覆前後細考覈看〕 2. 交換させる〔22. 貿易二：使倒換〕

Fuhašambi 1. 何度も繰返して細かに調べる．綿密に研究する〔7. 文學：推詳〕 2. 物々交換をする〔22. 貿易二：倒換〕

Fuhen 1. 麹黴(ぢ)．麹花〔28. 滋味：麹子起的衣〕 2. ほくちに用ひる一種の禾本〔29. 草四：引火草〕

Fuhešebumbi 轉がす．轉ばす〔15. 搖動：使滾〕

Fuhešebume baksalame hūwaitambi 轉がして束にして括る〔彙：滾成把子捻〕

Fuheše orho よもぎ〔29. 草四：蓬蒿〕

Fuhešembi 轉がる〔15. 搖動：滾〕寢返りをうつ〔15. 睡臥一：翻臉〕(馬が)寢轉ぶ〔31. 馬四動作二：打滾〕

Fuhešeme injembi 轉げ廻つて笑ふ．腹を抱へて笑ふ〔13. 嘻笑：俯仰大笑〕

Fuhiyembi Fucembi に同じ〔13. 怒惱：忿惱〕

Fuhu 1. 疣(人身の)〔16. 瘡膿一：瘊子〕 2. 蝦蟆の疣〔32. 鱗甲肢體：蝦蟆癩〕

— **banjiha** 疣が出來た〔彙：生了瘊子了〕

Fuhun 怒氣〔11. 容貌八：怒色〕

Fuifu 煮よ〔28. 煮煎：熬〕

Fuifubumbi 煮させる．沸かさせる〔28. 煮煎：使煎熬〕

Fuifukū 藥鐺〔25. 器用四：銚子〕

Fuifumbi 煮る．煮て柔くする．煮て作る．煮沸する〔28. 煮煎：煎熬〕

Fujin 妃．王，貝勒の妻．諸侯の夫人〔彙：娘々〕

Fujisa Fujin の複數形〔彙：娘々們〕

Fujurakū 優雅でない．行儀の悪い〔18. 鄙瑣：無體統〕

Fujuri amban 世襲の大臣〔4. 臣宰一：世臣〕

— **niru** 清初の功臣の部下を以て組織した佐領，之を掌る佐領が世襲なるもの〔3. 旗分佐領一：勳舊佐領〕

Fujurula 問ひ調べよ〔12. 詳驗：使訪問〕

Fujurulabumbi 問ひ調べさせる．訊ねさせる〔12. 詳驗：使人訪問〕

Fujurulambi 問ひ調べる．問ひたゞす．訊ねる〔12. 詳驗：訪問〕

Fujurun 賦(詩の六義の一，心に感じた事をありのまゝに述べたもの)〔7. 書二：賦〕

Fujurungga 風采の立派な(人)．堂々とした(人)〔11. 容貌二：尊重〕

— **yansangga** 風采，態度の立派な〔彙：風流．窈窕〕

Fuka 1. 泡．水，熱湯中の氣泡〔彙：水火湯的泡兒〕 2. 水膿．水泡．瘡〔16. 腫脹：泡〕 3. 滿洲字の H 字等の右側に打つ圈〔7. 書八：字圈〕 4. 月城．城門の外側の防壁〔19. 城廓：城甕圈〕 5. 蹴球の內側のチューブ(空氣を吹きこむ爲の)〔彙：氣泡乃踢的形頭內放者〕 6. 獸の摇〔彙：獸泡〕

Fukanahabi 水膿が生じた〔16. 腫脹：起了泡〕

Fukdejembi 一旦治つた傷が再び口を開く〔16. 傷痕：傷痕復犯〕

Fukderembi (病，腫物が治つた後に)再發する〔16. 疼痛三：犯病〕

Fukjin 始まり〔2. 時令二：開首〕

Fukjingga hergen 篆書(漢字の書體，又滿洲字にも此の書體がある)〔7. 書八：篆字〕

— **hergen i kuren** 御製盛京賦を樣々の篆字にて書く所〔20. 部院十一：篆字館〕

— **mahatun** 太古の帽の形にかたどつた冠〔補1. 古冠冕二：太古冠〕

Fukjišambi 人の前で遠慮する．おづおづする〔13. 怕懼二：拘束〕

Fuksuhu 大きな木の瘤(Mušuhu, Fushu より大きなもの，細工して盆等を作る)〔29. 樹木九：樹瘤瘿〕

Fuktala わらび〔27. 菜蔬三：蕨菜〕

Fulaburu 紺色〔23. 采色一：紅青〕

— **gasha** 羽毛が紺色で嘴が黑い鳥の名〔30. 鳥十：石青〕

Fulacan Fulakcan に同じ〔24. 巾帶：裝火鐮包內小搭連〕

Fulahūkan 淡桃色〔23.采色一：銀紅〕
Fulahūn 1. 淡紅色. とき色 (Fulgiyan より淡い)〔23.采色一：水紅〕 2. 丁. ひのと〔2.時令一：丁〕 3. 赤裸. 素裸. 裸の〔24.穿脫：赤身〕 4. 一本の草も生えてゐない土地〔2.地輿二：赤地〕 5. 無一物(の). 無一文. 極めて貧乏な(事)〔13.貧乏：赤貧〕
— **yadambi** 一文も持たぬ程に窮迫する〔彙：很窮々的精光無一毫〕
Fulahūri 深紅色. 純赤色〔23.采色一：火燄紅〕
— **kamtun** 緋色の頭巾, 漢代の宿衛の士が着けたもの〔補1.古冠冕三：絳幘〕
Fulakcan 燧石, ほくちを包む小袋(之を Yatakū fadu の中に入れる)〔24.巾帶：裝火鐮包內小搭連〕
Fulan 身體は淡白色で鬣, 尾の淡黑い馬〔31.馬匹毛片：青馬〕
Fulana Ulana に同じ〔28.果品三：颇李子〕
— **ilha** かいだうの花〔29.花二：海棠〕
Fularakabi 顔が紅くなつた〔11.容貌八：臉紅了〕
Fularambi 顔を赤らめる. 赤面する〔17.羞愧：臉發紅〕
Fulargan Fulgiyan cibirgan (花紅燕) に同じ〔補4.雀三：赤雋〕
Fulari cecike Fulgigan sišargan の別名〔補4.雀四：紅料〕
— **ilha** 秋に開く紅い花の名〔補3.異花四：海紅花〕
Fularilambi 閃く. きらめく〔彙：打火石星一閃一閃貌. 遠處打閃一閃一閃貌〕
Fularjambi 顔に紅味を帶びる〔11.容貌八：紅潤〕
Fulata 眼瞼の赤く爛れた(人)〔11.容貌三：爛眼邊〕
— **nisiha** Šanggiyan nisiha に似た淡水魚〔32.河魚三：紅晴魚〕
Fulca 指の如き形の紫色の果實の名〔補3.異樣果品二：冬熟〕
Fulcengge ilha 石竹花に似た紅い花の名〔29.花四：剪紅紗花〕
Fulcin 顴骨. 頬の上部〔10.人身二：顴〕
Fulcu 野葡萄に似た果實〔補3.異樣果品二：繁彌子〕
Fulcuhūn šulhe 藪りんご. 野梨〔續.果品：棠梨〕
Fulcun 大きさ, 形は指の如く色の赤い果實の名〔補3.異樣果品三：枸槽子〕
Fuldun 草木の一叢〔29.樹木六：一攢〕
— **fuldun** 一叢一叢. 幾叢も〔彙：一叢叢〕
Fulehe 草木の根〔29.樹木八：根〕
— **suwaliyame** 根がわだかまつて. 根が錯雜して〔彙：連根〕
Fulehu〔19.佛二：布施〕
Fulehun なさけ. 恩惠. 惠み深い(人)〔11.仁義：恩惠〕
— **baimbi** (僧, 道士が) 布施を求める〔19.佛二：化緣〕
— **i hafan** 父祖の勳功に依り無試驗で官吏となつたもの〔4.臣宰三：廕生〕
— **i silgasi** 父祖の勳功に依り無試驗で貢生となつた者〔4.臣宰十一：恩貢〕
— **i tacimsi** 父祖の勳功に依り無試驗で監生となつた者〔4.臣宰十一：廕監〕
Fulehusi 布施を與へる人. 檀那〔10.人四：施主〕
Fulenggi〔23.烟火四：灰〕
— **boco**〔23.采色三：灰色〕
— **niyanciha** 草の嫩芽〔29.草一：青草芽〕
Fulenggingge namu kuwecihe 脚, 爪が淡紅く身體が灰色の鳩〔補4.鳥九：灰色洋鴿〕
Fulfintu cecike 緋連雀 (Taifintu cecike に形が似て居り翅に紅白の縞のある小鳥)〔30.雀一：十二紅〕
Fulgidei Junggiri coko の別名〔補4.鳥五：鷫雉〕
Fulgike 雀に似た小鳥の名, 頬の下が赤い〔30.雀五：紅靨頰〕
Fulgiyaci 夏にとつた鹿の毛皮(毛が短い)〔24.皮革二：伏天短毛皮〕
Fulgiyakan 稍淡い紅色〔23.采色一：魚紅〕
Fulgiyan 1. 赤色. 濃紅色. 緋色〔23.采色一：紅〕 2. 丙. ひのえ〔2.時令一：丙〕

Fulgiyan afaha 1. 官馬の領牧證 2. 宣課司より出した稅の領牧證〔5. 事務三：紅單〕
— **alan** 未だ乾燥せぬ紅色の樺の樹皮〔彙：未晒乾的紅樺皮. 與 Calfa 同〕
— **caise** 麥粉，うどん粉，蜂蜜を捏ねて環形に作り，Sanyan caise の如くにして豚の油で揚げたもの〔27. 餠々二：紅饊子〕
— **cibirgan** 小鳥の名. Fulargan とも云ふ，眼が赤黒く羽毛も赤黒い〔補4. 雀三：花紅雀〕
— **enggetu keru** 嘴と脚が赤く全身黒色の鳥〔補4. 鳥九：紅觜鴉〕
— **fulan** Fulan よりも更に赤い馬〔31. 馬四毛片：霹香青〕
— **gahangga kiru** 儀仗の名，赤鳥の圖を刺繍した旗〔6. 鹵簿器用三：赤鳥旗〕
— **garudai** 紅色の鳳〔補4. 鳥一：丹穴〕
— **gasha** Bigan i niongniyaha の別名〔補4. 鳥三：朱鳥〕
— **gasha enduri** 歲神の第三十三番目のもの，南方に居る神〔補2. 神三：朱雀〕
— **gashangga kiru** 儀仗の名，朱雀の圖を刺繍した旗〔6. 鹵簿器用三：朱雀旗〕
— **hafuka** 身體に小さな吹出物が出た．紅く發疹した〔16. 疼痛二：出疹子〕
— **haksangga efen** 小麥粉，うどん粉をねり，砂糖と枸杞の實の煮出し汁で捏ねまぜて燒いた餠〔補3. 餠々：紅燒餠〕
— **ihan** 赤毛の牛〔32. 牛：紅牛〕
— **iletungge gu** 日壇の祭に用ひる玉器，圓形で中心に穴がある〔6. 祭祀器用一：赤琮〕
— **jamuri ilha** 紅ばらの花〔29. 花三：朱千葉薇花〕
— **jiyoo bing** Fulgiyan haksangga efen に同じ〔彙：白糖狗奶子水和蒸麵烙做的餠々〕
— **jugūn i hetu undu i durungga tetun** 一種の天體觀測の器械，日，月，星辰の赤道に於る度數及星の高度を觀測する〔7. 儀器：赤道經緯儀〕
— **jui** 嬰兒〔10. 老少二：赤子〕
— **lefungge kiru** 儀仗の名，赤熊の圖を刺繍した旗〔6. 鹵簿器用三：赤熊旗〕
— **mursa** 紅蘿蔔(菘)〔27. 菜殺一：大蘿蔔〕
— **nunggasun** 緋色の Nunggasun〔23. 布帛五：猩猩氈〕
— **selbete** 野生の草の名〔彙：野草名. 其白者名 Mager. 紅者名 Monggo sedo〕
— **sisa** 赤い小豆〔彙：紅小豆〕
— **sišargan** 赤い毛に黒斑のある小鳥の名〔30. 雀四：蒜山紅〕
— **suihetu coko** Suihetu coko の別名〔補4. 鳥五：紅色吐綬雞〕
— **suru** 赤い毛の少し混つた白馬〔31. 馬匹毛片：兎鶻馬〕
— **šungkeri ilha** 赤い蘭の花〔29. 花一：朱蘭〕
— **tosi** 鶴の頂の赤い部分〔彙：丹頂〕
— **tosingga fiyorhon** きつゝきの一種，大きさは烏ほど，全身黒く丹頂がある〔30. 雀一：朱頂大啄木〕
— **ujirhi** 體は狸に似て居り色赤く豹の如き斑のある獸〔31. 獸五：赤貍〕
— **umiyesun** 清の宗室覺羅が着用した紅い帶〔彙：紅帶子乃六祖子孫所寄者〕
— **urangga moo** ひぎり．たうぎり〔補3. 樹木一：赭桐〕
— **yarha** 黄がかつた赤色の豹〔31. 獸二：赤豹〕
— **yasa** 眼の稍赤いうづら〔補4. 雀二：砂眼〕
Fulgiyari coko 羽毛の非常に赤い雄雞〔補4. 諸畜二：戴丹〕
Fulgiye 吹け〔彙：合口吹〕
Fulgiyebumbi 1. 吹かせる（樂器を，火を）〔23. 烟火三：使吹火〕〔彙：合吹〕 2. 風に吹かれる〔彙：被風吹〕
Fulgiyembi 吹く（樂器を，火を）〔7. 樂三：吹〕〔23. 烟火三：吹火〕
Fuliyentu 麒麟に似た形の奇獸（金，玉のある石を嗅ぎわける奇獸）〔補4. 異獸六：嗅石〕

Fulha ねこやなぎ. えのころやなぎ. 蒲柳〔29.樹木四：楊〕
Fulhaha 膿汁が流れ出た〔彙：瘡處出膿了〕
Fulhambi 膿汁が流れ出る〔16.疮膿二：流膿水〕
Fulheri 色赤く眞圓で全然歪んでない珍果〔補3.異樣果品四：朱圓子〕
Fulhurekebi (乳呑兒が)生長した〔10.老少二：乳兒漸長〕芽が伸びた. (穀物が)生育した〔21.農工二：發生了〕
Fulhurembi (乳呑兒が)生長する〔彙：吃奶過歲小孩子長大了〕(穀物の)芽が伸びる〔21.農工二：發生〕
Fulhuren 1. 芽(草木の)〔21.農工二：萌芽〕2. 物事の始まり. きざし〔5.事務一：根由〕
Fulhutu 周代の禮帽〔補1.古冠冕二：委貌〕
Fulhū 大袋(Umala より大きく, 米等を入れるのに用ひる)〔25.器用七：口袋〕
Fulhūca 袋(Sumala より小さく, Sunta より大きい)〔25.器用七：小口袋〕
Fulhūma 南方に住む雉〔補4.鳥六：鷬〕
Fulhūsun 巾着(腰にさげる)〔24.巾帶：搭包〕
Fuli 乾し肉〔27.飯肉三：乾雜肉塊〕
Fulibumbi 卵が漸く雛の形になる〔31.牲畜孳生：分形〕どうやら形が出來る. 形が出來かゝる〔彙：凡物纔成形〕
Fuliburakū (甚しく怒つて)聲が出せない. 言ふ事が譯が判らぬ〔14.言論三：話不聯貫〕(泣いて)聲が出せない〔彙：哭的氣鬱着出不得聲〕
Fulingga 天より福を受けた(人)〔11.性情一：天生福人〕
Fuliyambi 1. 恕す. 容赦する 2. Waliyame fuliyame gamambi を見よ〔5.寬免：容恕〕3. 矢柄の裂け目に木を填める〔9.製造軍器三：削補箭桿〕
Fulkita 譙明山に住み體は貓に似て毛が赤く妖氣を拂ふといふ奇獸〔補4.異獸二：孟槐〕
Fulkūran moo さんざしの木〔29.樹木二：棠棣〕
Fulmai ilha 小麥に似た赤い花の名〔補3.異花三：紅麥花〕
Fulmiyebumbi からげさせる〔22.捆堆：使捆〕
Fulmiyembi 繩でからげる. 束にしてからげる〔22.捆堆：捆〕
Fulmiyen 一からげ(草, 穀物等の). からげた束〔22.捆堆：捆子〕
Fulmun boihon 罐型を作るのに用ひる一種の粘土〔22.貨財二：青坩土〕
Fulnaci ilha 花の名. 莖細く葉は綠色で花は密生し海棠の如き色のもの〔補3.異花四：酴春花〕
Fulnihe 北號山に出で, 體は狼に似, 首が赤く人を食ふといふ奇獸〔補4.異獸三：猾狙〕
Fulniyeri ilha 花の名, 色紅く芳香を發する〔補3.異花五：練春紅花〕
Fulsunio 豐山に出で體は猿に似, 色は黃, 口と眼の赤い奇獸〔補4.異獸四：雍和〕
Fulsuri ilha 形が印綬に似, 色は紅く葦に生える花〔補3.異花一：紅綬花〕
Fulu 1. 優つた. 秀でた. すぐれた. 強い〔11.德藝：優長〕2. 多い. 餘つた〔25.多寡二：有餘〕3. 指の傷の上に被せる布の袋. 指サック〔25.器用七：指頭套〕
— **jeku** 早生りの穀物. わせ〔21.農工三：早穀〕
— **len** 強く大きい. すぐれて大きい〔彙：强大〕
Fulukan 1. 少々餘つた. 少し多い〔25.多寡二：略有餘〕2. 稍すぐれた. 少し強い〔彙：略勝. 略强〕
Fulun 俸給. 食祿〔4.臣宰十四：俸祿〕
— **be kimcire tinggin** 吏部に屬し在京文武官の俸祿, 軍兵の錢糧の增減を稽査する事を掌る役所〔20.部院三：稽俸廳〕
— **caliyan i kunggeri** 俸祿, 賃錢等に關する事を掌る役所. 兵部と鴻臚寺とに此の役所がある〔補2.衙署二：俸糧科〕
— **caliyan icihiyara ba** 戶部に屬し八旗の俸餉と賞卹とを掌る處〔20.部院三：俸餉處〕

Fulun faitambi 俸祿を削る. 罰俸に處する〔4.陞轉：罰俸〕
Fulungge 多いもの. 餘分のある(もの)〔彙：多的〕
Fumbi 1. 拭ふ. ふく〔6.灑掃：擦抹〕 2. 痺れる〔16.疼痛：發麻〕
Fumerebumbi 攪拌させる〔22.趕拌：使攙拌〕
Fumerembi 1. 攪拌する. 混ぜ合はす〔22.趕拌：攙拌〕 2. 入り亂れる(次を見よ)〔8.征伐四：鏖戰〕
Fumereme afambi 敵味方入亂れて戰ふ〔彙：混亂戰. 與 Kūthūme afambi 同〕
Fumpi Fumbi (2) の過去分詞形. 痺れた〔彙：麻木之麻〕
Fun 1. 「分」の音譯. Fuwen に同じ〔彙：盞分之分〕 2. 「粉」の音譯. Fiyen (2)に同じ〔彙：粉乃鉛煮做的婦人擦臉者〕
— **beye** よく似た人(容貌, 或は性情が)〔10.人身一：像原身〕
Funcebumbi 剩す〔25.多寡二：使餘剩〕
Funcembi 剩る〔25.多寡二：餘剩〕
Funcen 餘つた. 餘剩〔彙：有餘〕
— **daban** 澤山餘つた. 餘りが多い(こと)〔25.多寡二：富餘〕
Funcetele 餘る程に〔25.多寡二：至有餘〕
Funde ……の代りに. ……に代つて. ……の代りになつて〔18.散語六：替〕
— **bošokū** 官名, Nirui janggin (佐領)の次の官〔4.臣宰九：驍騎校〕
— **orolohakū** 代りを補はなかつた〔彙：沒有替代〕
— **weilembi** 代つて事を爲す. 代りに作る〔彙：代作事. 代造作〕
Fundehun 1. 顏色の蒼白な. 蒼ざめた〔11.容貌八：氣色淡白〕 2. うつろな. 荒凉たる. 蕭條たる〔13.貧乏：蕭索〕 3. 色の淡い. 不鮮明な〔23.采色三：不鮮亮〕
Fundesi 放生す可き禽獸〔19.佛二：放的禽獸〕
Funembi 次第に痺れる〔彙：手足至於麻木去了〕
Funfulambi 1. 云付ける. 申し付ける〔彙：吩咐人話之吩咐〕 2. 物を豫め取る〔彙：凡物預先預備取之〕
Fung tiyan goloi bolgobure fiyenten 刑部に屬し, 奉天府及東三省の刑獄事務を掌る役所〔20.部院四：奉天清吏司〕
Funggaha 1. 鳥の羽毛〔30.羽族肢體一：身毛〕 2. 翎毛〔彙：翎毛. 與Funggala 同〕
Funggala 1. 鳥の尾の羽〔30.羽族肢體一：尾翎〕 2. 大官, 侍衛, 護軍校等の帽子の飾りの羽根(孔雀等の)〔彙：大人侍衛壯大頭上戴的藍翎孔雀翎〕
Funggin 老豚, 老猪の皮附きの肉. 老豚の Aidagan i kalka (皮が厚い).〔27.飯肉三：厚皮老猪肉〕
Funghūwang 「鳳凰」の音譯. Garudai に同じ〔彙：鳳凰〕
Fungke Fumbi (2) の過去形. 痺れた〔彙：發麻木〕
Fungkebi 痺れた. 痺れて了つた〔16.疼痛二：麻了〕
Fungkeri hiyan かをりぐさ. 零陵香〔29.花一：蕙草〕
— **ilha** 窪地に生ずる一種の蘭〔29.花一：蕙蘭〕
Fungku 絹布の手拭. 手巾〔24.巾帶：手巾〕
Fungkū 丸太〔29.樹木十：木頭墩〕
Funglu 「俸祿」の音譯. Fulun に同じ.〔彙：俸祿. 福祿之祿〕
Fungne 封ぜよ〔彙：令封〕
Fungnebumbi 封ぜられる. 封號をうける〔3.封表一：受封〕
Fungnehen 封典. 封號を授ける辭令書〔3.封表一：封誥〕
— **be kimcire bolgobure fiyenten** 吏部に屬し授官, 予封其他の事務を掌る役所〔20.部院三：驗封清吏司〕
— **ejehe i kunggeri** 武官に與へる誥勅の傳達等を掌る役所, 兵部に屬す〔補2.衙署三：誥勅科〕
— **ejehe icihiyara ba** 役所の名, 内閣に屬し誥勅の校閲, 頒給等を掌る〔20.部院二：誥勅房〕

Fungnehen icihiyara kungge yamun 役所の名，内閣に属し詔勅類の繕寫等を扱ふ〔20.部院二：事書科〕
Fungnembi 封ずる．封號を授ける．榮爵を授與する〔3.封表一：封〕
Fungsan 1. 貧窮して一物も無い（人）〔13.貧乏：很窮〕 2. 獸肉の臭．腥い〔28.滋味：羶〕 3. 水鳥の尻の兩傍の疣．脂腺．尾骶丘瘡〔30.羽族肢體二：牀屹塔〕
— **yadahūn** 1. 「鼬の最後屁」（窮して醜態をあらはすのを鼬にたとへて屬しる詞）〔16.咒罵：窮的臭氣〕 2. Fungsan (1) に同じ〔衆：家無一物窮極之人〕
Fungse 穀粉．澱粉（穀類を水に浸して碎いて作り，衣服の糊づけ，餅，饅頭類を作るに用ふ）〔28.米穀二：粉子〕
Fungšun 尿臭．小便臭い〔28.滋味：臊〕
Funima Funjima に同じ〔32.蟲四：柏蛉子〕
Funiyagan 寬容〔11.性情二：度量〕
Funiyagangga 度量ある（人）．寬大な（人）〔11.性情二：有度量的〕
Funiyaha 牛蠅の幼蟲（牛馬の皮膚に寄生する蟲）〔32.蟲四：蟯眼蟲〕
Funiyangga Funiyagangga に同じ〔11.性情二：有度量的〕
Funiyehe 毛（人，動物の）．人の毛髮〔11.人身一：頭髮〕〔31.馬四肢體二：毛〕
— **den cekemu** 織物の名．普通の Cekemu よりけばが長いもの〔23.布帛一：剪絨〕
— **i šošon** かもじ（假髮を束ねたもの，支那婦人が用ひる）〔24.飾用物件：髮綹〕
— **sen**〔10.人身七：毛孔〕
— **sulabumbi**（女兒が六七歳になつて）髮を伸ばす〔衆：女孩子留髮〕
Funiyehelembi（婦人が喧嘩して）頭髮を摑む〔5.爭鬪二：揪頭髮〕
Funiyehengge 毛の生えた（もの）〔31.馬四肢體二：有毛的〕
Funiyertu 奇獸の名，平常は毛が短く怒ると毛が長くなる〔補4.異獸六：怒毛獸〕
Funiyesun 陝西に産する一種の羊毛製の織物〔23.布帛五：褐子〕
Funjima 糞蟲（糞土中に生ずる蚊に似た蟲）〔32.蟲四：柏蛉子〕
Funtan 白黴．麹菌〔28.滋味：白醭〕
Funtanahabi 白黴の生えた〔28.滋味：起了白醭了〕
Funtu 鹿のふくろづの（鹿の角が一旦とれた後に生えた小さな角）〔31.走獸肢體：鹿茸〕
Funtuhu 1. 苗が充分に生長してゐない場所〔21.田地：苗不全處〕 2. 土塀の崩れ目〔25.孔裂：墻豁子〕 3. 透し彫り〔衆：玲瓏〕 4. 兎口(ᵒᵒ)の上唇の裂け目．歯のぬけた空隙〔衆：缺牙劃唇的空缺〕 5. 北向きの窓〔衆：向北出牖〕
Funtuhulembi 1. 間隙をおく．缺く〔衆：脫空〕 2. 職を瀆しくする．缺勤する〔5.輪班行走：空〕
Funtumbi 1. 家畜が河を泳いで渡る〔2.地輿十二：牲口過河〕 2. 敵の群の中に突入する〔8.征伐四：突入〕
Funturambi（豚等が）鼻尖で地を掘る〔31.走獸動息：猪拱地〕
Funturšambi 鼻尖でしきりに地を掘りかへす〔31.走獸動息：只是拱地〕
Fur seme 1. じつとりと（汗の滲み出る形容）〔10.人身八：汗徹出〕 2. 晴れ晴れとした（顔の血色が好く又は美しい事の形容）〔11.容貌八：滋潤〕 3. そよそよと（微風の吹く形容）〔衆：薰風之薰．習々〕
— **seme saikan** 晴れやかに美しい（顔が）．晴れ晴れとして血色が好い〔衆：顔色光潤潔淨〕
— **seme tucike**（汗が）じつとりと出た〔衆：汗徹出〕
Furanaha（物の上に）塵埃がついた〔18.邋遢：落浮灰〕
Furcan 嘴の紅い小灰鶴〔補4.鳥一：丹歌〕
Furdan 1. 傷．傷口．Feye furdan と連用する〔16.傷痕：傷口〕 2. 針でつ

いた孔〔彙：下針之針眼〕3. 關. 關所. 關口〔19. 城廓：關〕4. わだかまつた根. 木理の亂れた箇所〔29. 樹木八：盤根〕

Furdan dogon i kunggeri 役所の名, 兵部に屬し關所手形の發行等を掌る〔補2. 衙署三：關津科〕

— hoton 吉林省の城名〔續2. 地輿：富爾丹城〕

— i temgetu bithei kunggeri 關津科の舊稱〔補2. 衙署二：關引科〕

— kamni 關口. 隘路〔彙：關隘〕

Furdehe 毛皮. 裘〔24. 皮革一：皮毛〕

— kurume 毛皮の短い羽織〔彙：皮褂子〕

— soforo 鞍の皮敷〔彙：皮鞍座子〕

Furfu ひゝ〔補4. 歌一：狒狒〕

Furfun farfan ぼろぼろと. はらはらと(涕涙共に流れる形容)〔13. 哭泣：涕泣交流〕

Furgi 1. 草, 柳枝, きびがら等を束ねて上に土をつきこんで河水を堰きとめるもの〔2. 地輿十一：埽〕 2. 薩滿教の神杆の上につける草の束〔6. 祭祀器用二：草把〕 3. 車を曳く牛馬類の轅(ながえ)の下にあてがふ草の束. 頸被の草の束〔32. 牲畜器用二：套攔〕

— coko Suihetu coko の別名〔補4. 鳥五：潮鷄〕

Furgibumbi 1. 沙が堆積する(風に吹かれて, 又は水に流されて)〔1. 天文七：沙被風淤〕〔2. 地輿十：水淤沙〕 2. 熱した鹽, 酒, 米等を患部にあてさせる〔彙：使以鹽酒米等物沙熱於患處熨〕

Furgimbi 鹽, 酒, 米等を炒めて患部にあてる〔19. 醫治：鹽熨患處〕

Furgin 1. 潮. 海潮. 潮水〔2. 地輿七：潮〕 2. 辛い〔28. 滋味：辣〕

Furgisi 河の淺い箇所に澪標を立てる人夫〔10. 人二：標夫〕

Furgisu しやうが〔27. 菜穀四：薑〕

Furhun cecike Indahūn cecike の別名〔補4. 雀一：鴟鴞〕

Furhūn cecike 關西にて Indahūn cecike を呼ぶ語〔補4. 雀一：鴟鴞〕

Furihabi 酒に耽溺した〔17. 淫蕩：沉湎了〕

Furimbi 水に潜る〔2. 地輿十二：扎猛子〕

Furitan Kūtan の別名〔補4. 鳥三：洛澤〕

Furitu niyehe 一種の鴨. 巧に水に潜り, 又群がつて飛ぶ事が出來ない〔補4. 鳥七：鳽鴨〕

Furna 代々奴僕たる者の二代目の者〔10. 人五：兩輩奴〕

Fursun 1. 苗〔21. 農工二：秧子〕 2. 鋸屑(おが)〔29. 樹木十：鋸末〕

— sain 家畜が多く蕃殖した事〔11. 富裕：孳生的好〕

Fursungga niyehe Bigan i niyehe の別名〔補4. 鳥七：冠鳧〕

Furu 1. 亂暴(な). 兇暴(な)〔17. 暴虐：暴戾〕 2. 口中の腫物〔16. 瘡癰一：口瘡〕 3. いりくんだ木の節〔29. 樹木八：錯節〕 4. 刻め〔彙：令切烟葉之切. 令將吃的肉等物以小刀切出稜角細切之〕

Furubumbi (肉, 煙草等を)細く刻ませる〔28. 剝割二：使切肉絲〕〔彙：使切烟葉〕

Furudambi 亂暴をする〔17. 暴虐：行暴戾〕

Furukū おろし. おろしがね〔25. 器用五：擦床〕

Furumbi (薄く切つた肉等を)細長く切る. 細く刻む〔28. 剝割二：切肉絲〕

Furun 骨に附いてゐるのを削ぎ取つた肉〔27. 飯肉一：刮骨肉〕

Furunahabi 口中に腫物が生じた〔16. 瘡癰一：生口瘡〕

Furungga hangse うどんの玉〔27. 飯肉四：切麵〕

Furunumbi 一齊に細く刻む. 各々が細く切る〔28. 剝割二：一齊切肉絲〕

Furusun tashari わし〔補4. 鳥三：鷲〕

Fusa 〔19. 佛一：菩薩〕

Fuse injehe ぷつと噴き出した(突然に可笑しい事が起り, 耐へられなくなつて笑ひ出す)〔13. 嘻笑：忍不住猛笑〕

Fusejehe 腫物の口があいた〔16. 瘡癰

一：窮破了〕

Fusejembi 破れる．穴があく．次第に薄くなつて遂に破れる〔25. 孔裂：薄處破通〕(氷の上を歩いて)氷に穴があく〔彙：氷上走氷出孔了〕泡が消える．泡が破れる〔彙：凡酒與水的水泡兒破了〕

Fusekebi 蕃殖した．澤山產れた〔13. 生育：孳生了〕

Fuselembi 1. 薄くなつた部分に穴をあける〔25. 孔裂：薄處穿通〕2. 膿を流す爲に腫物に孔をあける．腫物を切開する〔19. 醫治：刺放膿血〕

Fuseli Fu nimaha に似た形の淡水魚，藍色，大きなものは五尺餘もあり肉は甚だ不味い，膽は眼病の藥とする〔32. 河魚一：鯖魚〕

Fusembi 蕃殖する．子孫が多く產れる〔13. 生育：孳生〕

Fusembumbi (家畜等を)繁殖させる〔13. 生育：使孳生〕

Fusembure enduri 二十二番目の歲神，家畜の蕃殖を司る〔補2. 神三：畜官〕

Fusen 蕃殖(した者)．增加〔13. 生育：孳生的〕

Fusengge fulana ilha かいだうの一種〔29. 花二：貼梗海棠〕

Fuserebumbi (衣服に)毛皮の緣を附けさせる〔24. 剪縫二：使緣朝衣皮邊〕

Fuserehe mahala つばが捲れ上らず，毛皮の緣をつけた小帽子〔24. 冠帽一：緣邊舒沿小帽〕

Fuserembi 朝服(Doroi etuku)に海龍(らつこ)等の毛皮の緣を附ける〔24. 剪縫二：緣朝衣皮邊〕裘の裾や袖に別の毛皮で緣をつける〔24. 剪縫三：出風毛〕

Fuseri 山椒〔27. 菜蔬四：花椒〕

— **moo** 山椒の木〔29. 樹木三：花椒樹〕

Fushaha 駒投げ遊びで駒を悉く取られた．賭に敗けて無一文になつた〔19. 賭戲：輸淨〕

Fushebumbi 扇がせる〔彙：使搧扇〕

Fushehe bongko 實のついた綿花の房〔彙：綿花乃結的連子之綿花也〕

Fusheku 扇．扇子〔25. 器用二：扇子〕

— **i heru** 扇の骨〔25. 器用二：扇骨〕

— **i talgari** 扇の面〔25. 器用二：扇面子〕

— **i temun** 扇の要〔25. 器用二：扇軸〕

— **i tuhebuku** 扇立て．扇をのせる器〔25. 器用二：扇墜〕

Fushembi 扇ぐ．扇子をつかふ〔15. 歇息：搧扇子〕

Fushu 1. 竈の上の鍋，釜の載る部分〔21. 室家三：鍋窩〕2. Mušuhu に同じ木の節〔29. 樹木九：樹瘤子〕

— **gurjen** かまどうま(こほろぎに似た昆蟲)〔32. 蟲二：竈螽兒〕

— **nahan** 竈の傍にある炕〔彙：近竈窩炕〕

Fushubumbi 花火を打上げて開かせる〔彙：鉚炮花崩放之崩放．即 Fushubume sindambi 也〕

Fushumbi 1. 開花する．蕾が綻びる〔29. 花六：綻開〕2. 花火が開く〔彙：花炮放出之放〕

Fusi 1. 惡虐の者．賤惡の者〔18. 兇惡一：賤貨〕2. 毛を剃れ〔24. 熟皮革：剃〕3. 滿洲の地名〔續2. 地輿：撫順〕

— **bahafi banjihangge** Fusilaru に同じ〔彙：罵人沒皮毛的語〕

— **baharakū** 惡い者に似ない樣に！(懷妊中の婦人が惡い人や惡い物を嘲笑すると生れる子がそれに似るから嘲笑するなと云ふ詞)〔13. 愛惜：看像了他〕

Fusibumbi 剃らせる．剃られる〔彙：使剃．被剃〕

Fusihen 塗板．漆塗の板(文字を記しては拭き消して何回も使用するもの)〔7. 文學什物二：水牌〕

Fusihūlabumbi 輕蔑せられる〔15. 鄙薄：被輕賤〕

Fusihūlambi 輕蔑する．賤しむ．侮る〔15. 鄙薄：輕賤〕

Fusihūn 1. 低い．下方の〔2. 地輿十三：卑下〕2. 賤しい(こと)．下賤(な)〔15. 鄙薄：賤〕

Fusihūšabumbi 輕視される．輕蔑される〔15. 鄙薄：被輕視〕

Fusihūšambi 輕視する. 輕蔑する〔15. 鄙薄：輕視〕
Fusilaru 惡い者に似て生れた奴（人を罵る詞. Fusi baharakū を見よ）〔16. 咒罵：賤種〕
Fusimbi 1. (頭, 毛皮の)毛を剃る〔24. 熟皮革：剃毛〕〔24. 梳粧：剃頭〕2. (矢の羽根を膠で附けて) 小刀で切り揃へる〔9. 製造軍器三：裁箭翎〕
Fusu (如露で) 水を撒け〔6. 灑掃：噴灑〕
— **fasa** 上よ下よ (大に忙てる形容)〔15. 急忙：忙忙亂亂〕
Fusubumbi 水を如露で撒かせる〔6. 灑掃：使噴灑水〕
Fusuku 如露〔25. 器用八：噴壺〕
Fusumbi 如露で水を撒く. 水を灑ぐ〔6. 灑掃：噴灑水〕
Fusur seme 1. ふわふわした (食物が軟く嚙み易い形容)〔28. 軟硬：酥軟〕2. 馬のゆるやかに走る形容〔31. 馬匹騸走二：跑的樣〕
— **sere boihon** ふわふわした土地. 軟かな土地〔2. 地輿一：酥土〕
Fusure tampin Fusuku に同じ〔彙：噴壺〕
Fusuri gunggulu 鷄鳥の頭の肉冠 (形が木芙蓉に似る故に斯く名づく)〔30. 羽族肢體一：芙蓉冠〕
— **ilha** 木槿. きはちす〔29. 花三：木芙蓉〕
— **niyehe** Alhari niyehe の別名〔補4. 鳥七：芙蓉鴨〕
Fusurjehe (漆喰, 煉瓦等の表面が) ぼろぼろになつた. 爛れた〔25. 孔裂：爛了〕
Fusutu 奇獸の名, 形は犬に似て居り水を含んで馬の眼に噴きかけると馬は眼が眩むといふ〔補4. 異獸六：馬見愁〕
Fušahū Hūšahū の別名〔補4. 鳥四：鵰鳥〕
Fušarcan 毛色の淡い Lamurcan〔補4. 鳥一：赤頰〕
Fušargan Fulgiyan sišargan の別名〔補4. 雀四：紅麻鷄〕
Futa 1. 繩. 綱〔26. 栓結：繩子〕2. Emu futa を見よ.
— **fekucembi** 繩跳びをする〔19. 戲具二：跳擺繩〕
— **mishan** 水準儀と墨繩. 規則〔彙：準繩〕
Futahi 代々奴僕たる者の初代の者〔10. 人五：一輩奴〕
Futalabumbi 測量させる〔25. 量度：使繩量〕
Futalambi (田地, 路等を) 繩をひいて測量する〔25. 量度：繩量〕
Fuwen 1. 一分. 一分間 (時間の單位)〔2. 時令八：分〕2. 一分 (重量の單位)〔22. 衡量二：分〕3. 一分 (長さの單位)〔25. 量度：分〕
Fuyakiyambi 氣分が惡くなる. 嘔き氣を催す〔16. 疾病二：乾噦〕
Fuyambi 嘔吐を催す程に燥ふ〔15. 憎嫌二：惡心的慌〕
Fuyari niyehe Aka niyehe の別名〔補4. 鳥七：鴉〕
Fuye 1. 皮を剝げ〔28. 剝割一：剝〕2. たぎれ〔彙：令滾〕
Fuyebumbi 1. 煮えたぎらせる〔28. 煮煎：使滾〕2. 皮を剝がさせる〔28. 剝割一：使剝皮〕
Fuyebure tampin 錫の太い壺の中に炭火をいれ銅の筒をおいて湯を沸かす道具〔25. 器用四：火壺〕
Fuyembi 1. 湯がたぎる. 煮沸する〔28. 煮煎：滾〕2. 屠殺した獸の皮を小刀で切り剝ぐ〔28. 剝割一：剝皮〕
Fuyendumbi Fuyenumbi 一齊に皮を剝ぐ. 各自が皮を剝ぐ〔28. 剝割一：齊剝皮〕

G

Gaba 鎧の肩あての後側近くに打ちつけた三枚の鐵片〔9.軍器一：膊翅〕
Gabsihiyalabumbi 身ごしらへを輕くさせる〔8.征伐六：使輕騎減從〕
Gabsihiyalambi 身悔へを輕くする．輕便にする〔8.征伐六：輕騎減從〕
Gabsihiyan 1. 兵の先鋒（敵狀を探り或は架橋開路等のことに從ふ）〔8.兵：前鋒〕2. 敏捷な人．手足の自由に動く人〔11.德藝：捷健〕
— **i hiya** 前鋒參領（Gabsihiyan i janggin）の次の官〔4.臣宰九：前鋒侍衞〕
— **i janggin** 兵の總先鋒を統率する長官〔4.臣宰九：前鋒參領〕
— **i juwan i da** 兵の先鋒隊の長〔4.臣宰九：前鋒校〕
— **i kūwaran i turun** 兵の先鋒隊の將校用旗と同樣に作りなせる儀仗用の大旗〔6.鹵簿器用二：前鋒大纛〕
Gabta 射よ．弓射よ〔彙：令人射〕
Gabtabumbi 箭を射させる〔8.步射一：使射箭〕
Gabtakū orho Kilhana に同じ〔29.草四：鬼針〕
Gabtama 草名．（幼芽を取つて食ふ，成長すれば枝葉に刺を生じ手を觸れ難し）〔29.草四：蝎子草〕
Gabtambi 箭を射る〔8.步射一：射箭〕歌を射る〔9.畋獵二：射歌〕
Gabtan 弓射ること〔8.步射一：射〕
Gabtanambi 行つて箭を射る〔8.步射一：去射〕
Gabtandumbi Gabtanumbi 衆人一齊に箭を射る〔8.步射一：一齊射〕
Gabtanjimbi 來て箭を射る〔8.步射一：來射〕
Gabtara ordo 學生が步射騎射を練習する場〔20.部院六：箭亭〕
— **tungken** 羅紗などを丸め，上から吊して弓の射的に用ふるもの〔9.製造軍器四：鼓子〕
Gabtašambi 亂射する．一齊に射る〔8.征伐五：齊射〕
Gabula 食ひ意地の張つた人．大食ひ〔27.飲食三：饞〕
Gacilabumbi 要用のものも手に入らないで暮しに困る．暮しにことかく．困窮する〔13.貧乏：窘窘〕
Gacuha 羊，獐，麋等の小脛骨の下部に突出した長圓骨を以て製作した戲具〔19.戲具一：背式骨〕
— **giranggi** 踝骨の下に突き出た圓い骨〔10.人身六：枝拂骨〕
Gadahūn 身體細くして高い〔11.容貌五：細高〕
Gadana beye Gekda beye に同じ〔10.人身一：孤身〕
Gadar seme べらべらと（喋り續けて止まない貌）〔14.言論四：話不住口〕
Gafa 指が曲つてしまつて伸ばせない手．手なえ〔16.殘缺：蹩手〕
Gaha からす〔30.鳥九：烏鴉〕
— **cecike** 小鳥の名．形鳥に似たれど小さく，全身青色にして黎明に鳴く〔30.雀一：黎鶏〕
— **garire beri** 古の良弓の名．（烏がとまつて鳴いた桑の木の枝で造つた弓）〔補1.軍器一：烏號弓〕
— **hengke** からずうり．たせぞさ〔29.草三：赤包子〕
— **oton** つるれいし．にがうり〔29.草三：瘤瓜〕
— **poo** 茸の如き形をした草．乾けば强靱にして中に灰の如きものあり〔29.草四：馬糞泡〕
— **yasa** ひしのみ〔28.果品三：芡實〕
Gahacin Suwan（鵰鴞）の別名〔補4.鳥五：老雅〕
Gahari 袍（褂）の內側に着る一重の單衣〔24.衣服一：布衫〕
— **uksin** 鎧の胴．胸當て〔9.軍器一：甲身〕
Gahū 前方に曲つた〔25.諸物形狀二：向前彎〕
— **fiha** ぽかりと口を開けた（空腹で耐えられない貌）〔13.饑饉：餓的張著口〕

口を開けた儘，聲が出て来ない．ぽかりと口開けた儘の〔14. 言論三：張口結舌〕

Gahūhan 奇獣の名．毛は豹に似て牛蹄を具へ，頂長くして身高丈餘あり〔補4. 異獣七：騶牛〕

Gahūngga 凡て前方に曲つたもの〔25. 諸物形狀二：向前彎的〕

Gahūšambi 1. 食を求めてがつがつとする〔13. 饑饉：乞食〕 2. 口に入れたものが嚙み下せない〔27. 飲食二：嚙不下去〕 3. 口を開いたまゝで受け答へが出来ない〔14. 言論三：不能答對〕

Gahūšame baimbi 口を開けて只管に懇願する〔13. 求望：懇求〕

Gahūšatambi 1. 食を求めてがつがつと動きまはる〔13. 饑饉：乞食樣〕 2. 食べても嚙み下せない〔彙：吃不能嚙之貌〕 3. 受け答へが出来ない〔彙：話答應不來之貌〕

Gai わツ(叫喊の聲)〔14. 聲響一：喊聲〕

Gaibumbi 1. 取らせる．要めさせる〔12. 取與：使取要〕 2. 消息を探らせる〔彙：探取信兒之探卽 Mejige gaibumbi 也〕

Gaibušambi 1. (角力の際) 力及ばずして押される〔8. 撩跤二：露輸〕 2. 寒さに我慢し切れない〔13. 寒暖：怯寒〕

Gaifi yabumbi (角力の際) 思ひのまゝに相手を投げ倒す〔8. 撩跤一：任意折撑〕

Gaiha gebui bithe 官吏試驗に合格したるものゝ姓名簿〔7. 書六：題名錄〕

Gaihahu konggoro Degetu konggoro (秉黃) の別名〔補4. 獸一：瞽黃〕

Gaihamsitu konggoro Degetu konggoro (秉黃) の別名〔補4. 獸一：神黃〕

Gaihari 突として (身を躍す．跳ね起きる)〔14. 坐立二：突然〕

Gaihasu 開き分けのいゝ．機轉のきく〔11. 聰智：機說〕

Gaijara bithe 官物を受け取つたとき差出する處の受領票〔5. 事務三：領〕

Gaijarakū (故なくして財帛を) 取らない．受け取らない〔11. 忠清：不取〕

Gaikabumbi 人の名聲を語り傳へさせる．評判させる〔12. 名聲：使傳揚〕

Gaikambi 人の名聲を語り傳へる．評判する〔12. 名聲：傳揚〕

Gaiki 取り度い〔彙：取〕

Gaimbi 取る．要める〔12. 取與：要〕 妻を取る．娶る〔彙：娶妻之娶卽 Sargan gaimbi 也〕

Gaimbio 取るか〔彙：取乎〕

Gaindumbi Gainumbi 各自めいめいに取る．一齊に取る〔12. 取與：一齊取要〕

Gaisilabumbi 1. 他事に心を奪はれる〔17. 過失：被牽奪〕 2. 搏たせる．搏撃させる〔彙：使搏之〕

Gaisilan 心惹かれること．心の動搖〔17. 過失：牽累〕

Gaisilandumbi 相搏つ．撃ち合ふ〔彙：相搏〕

Gaisu 取れ．受け取れ．Gaimbi の命令形〔12. 取與：使接受〕

Gaitai 忽然として．俄に．突として〔2. 時令三：忽然〕

— gaitai 突然にして．忽然の間に〔彙：倏然間．忽然間〕

Gajarci 案內者．先觸れ人〔彙：嚮導．前站〕

Gaji 持つて来い．取つて来い〔12. 取送：使拏來〕

Gajibumbi 持つて來させる．取り來させる〔彙：使拿來〕

Gajimbi 持つて來る．取つて來る〔12. 取送：拏來〕

Gajireo 持つてきてくれようか．持つてきて貰ひ度い〔彙：乞拿來〕

Gaju Gaji に同じ〔12. 取送：使拏來〕

Gakahūn (聲を出さずに) 口を開けた〔11. 容貌四：張着口〕

— oho 小さな裂け目が大きく口を開いた〔彙：凡裂的小隙縫的物大裂開口了〕

Gakarabumbi 裂く．ひき裂く〔25. 孔裂：使裂開〕

Gakarambi (親戚が互ひに) 疎遠になる．間遠くなる〔13. 怒惱：疎離〕裂

ける．離開する〔25.孔裂：裂開〕
Gakarashūn 睦じくなくなつた．心が離れた．仲違ひした〔13.怒惱：生分〕
Gakda 片足のもの．片目のもの〔16.殘缺：獨一足跛一目〕はんば物〔25.雙單：單物〕
— **bethe** 片足．片足の不具〔彙：一隻脚殘疾的〕
— **beye** 唯一人．單身〔10.人身一：單身〕〔彙：與 Gakdana beye 同〕
— **yasa** 片目のもの．眼つかち〔彙：一個眼殘疾的人〕
Gakdahūn 痩せて背が高い〔11.容貌五：痩長〕
Gakdahūri 痩せて背の高い人．ひよろ長い人〔11.容貌五：痩長長的〕
Gakdun 負債〔彙：債負．與 Bekdun gakdun 同〕
Gaksi 兩人伴れ（見張りの所，注意すべき處などに二人一組にて行くこと）〔10.人二：夥伴〕
Gala 1. 手（肩下から指先きまで，腕をも含めていふ）〔10.人身四：手〕2. 巻狩りの際 Meiren（圍肩）の列に次いでゆく所の列〔9.畋獵一：圍翼〕3. 長さの單位名．Emu gala を見よ
— **bethe hiyahalame fiyelembi** 馬の前後くらはしを壓へて身を高め手足を交錯せしめて曲乘りする〔8.騎馬：套雲環〕
— **bukdame** 肱を曲げ〔彙：曲肱〕
— **dacun** 手早く．機敏に〔9.畋獵三：手快〕
— **futa** くまたかを捕へる張り網〔22.打牲器用三：打鵰的套子〕
— **gidašambi** さし招く．手招きする〔彙：點手招叫人之點手．與 Elkimbi 同〕
— **joolambi** 兩手を袖の内に入れる〔14.坐立二：抄手〕
— **monjimbi** （恨み嘆いて）手を揉む．手を擦る〔彙：磨拳擦掌乃恨嘆之貌也〕
— **sidahiyambi** 腕まくりする．拳を振り上げる〔彙：攘臂〕
— **unumbi** 手を後に組む．手を背にまはす〔14.坐立二：倒背手〕
Galai amban 兵の前鋒隊を統率する武官〔4.臣宰二：前鋒統領〕
— **amban i siden yamun** 左右兩前鋒隊の各種事務を司る役所．左右兩役所あり〔20.部院九：前鋒統領衙門〕
— **da** 諸處に駐防せる章京(Janggin)，馬甲 (Uksin) 等を左右兩翼に分ち，其一翼に長たる官〔4.臣宰十三：翼長〕
— **falanggū** 掌(てのひら)〔10.人身四：手掌〕
— **falanggū be jorire adali** 掌を指すが如くに〔彙：如指諸掌乃言事情容易而譬之也〕
— **falanggū i hergen** 手すじ．掌紋〔彙：手心紋〕
— **fileku** 黃銅製の手あぶり〔25.器用六：手爐〕
— **gidame murimbi** 片手にて相手をひきとらへ，片手にて相手の膝を壓し掣きて膝を折る（角力の手）〔8.撩跤一：手鷙子〕
— **hulu** 手の甲〔10.人身四：手背〕
— **mayan** Mayan に同じ〔彙：隔膊．與 Mayan 同〕
— **sujakū** 轎の中の肘凭け〔26.車轎一：迎手〕
— **teyeku** 轎の口の所に置いた手やすめの横板〔26.車轎一：扶手〕
Galaka 空が晴れた〔彙：天晴了〕
Galaktun 鎧の袖〔9.軍器二：亮袖〕
Galamu 緞布等を織るとき竪絲を承け巻きつける木〔23.紡織二：縱線墜子〕
Galangga tampin 把手のある酒壺，茶壺〔25.器用三：執壺〕
Galbi 耳がさとい．耳が鋭い〔12.聆會：耳聰〕
Galbingga 耳聰き（人）．さとりのよい（人）〔11.聰智：耳聰心靈〕
Galga oho 晴れ上つた〔1.天文五：晴了〕
Galgirakū 相手にならぬ．到底力及ばぬ〔8.撩跤二：敵不住〕
Gali （子供が）年に似合はず怜悧な．年よりませた〔10.老少二：怜悧〕
Galin cecike Gūlin cecik (黃鶺) の別名〔補4.雀二：倉庚〕

Galirakū 人に及ばぬ．劣る．如かない〔17.懦弱二：不及〕
Galju 1. 氷が張つて滑る處〔2.時令九：氷滑處〕2. 弓を射ること素早くしてしかもよく命中する〔9.畋獵三：手快肯中〕
Galman 蚊〔32.蟲三：蚊子〕
— **hereku** 鳥名．眼紅く翅長く，水上を飛んで蚊を食ふ〔30.鳥十：貼樹皮〕
Gama 持つて行け．取つて行け〔12.取送：使拏去〕
Gamabumbi 持つて行かせる．持つて行かれる〔彙：使拿去．被拿去〕
Gamambi 持つて行く．取つて行く〔12.取送：拏去〕
Gaman 裁き方．取り計らひ方．方法〔5.辦事二：辦法〕
Gamji 貪婪な人．欲深い人〔18.貪婪：婪〕
Gamjidambi 貪り取る〔18.貪婪：婪取〕
Gamjidarakū 貪り取らぬ〔11.忠清：不貪〕
Gana 取りに行け〔12.取送：使取去〕
Ganabumbi 取りに行かせる〔12.取送：使人取去〕
Ganada 鴨の嘴形の鏃をつけた箭．この箭に油を塗り水中の鴨等を射るのに用ひる〔9.軍器五：鴨嘴箭〕
Ganambi 取りに行く〔12.取送：取去〕
Gancuha beye 徒手空身．身一つ．身體だけ〔10.人身一：空身〕
Gang gang わんわん(犬の頻りに吠える聲)〔14.聲響五：狗急連叫聲〕があがあ（鷲鳥の鳴き聲）〔14.聲響六：鵝鳴聲〕
— **ging** がをがを（雁が飛び乍ら鳴く聲）〔14.聲響六：羣雁飛鳴聲〕
Ganggahūn 痩せて背の高い〔11.容貌五：痩高〕
Ganggan 陽性〔7.書五：剛〕剛性．剛毅〔11.性情二：剛〕
Ganggari （角力の際）手足を動かして倒れる〔8.撩跤二：顛梁跌倒〕
— **niongniyaha** Niongniyaha（鷲）の別名〔補4.諸畜一：鵰〕
Ganggata 背丈高い人〔11.容貌五：身材高〕
Ganggi 數詞．Cata（極）の十倍〔7.數目二：恒河沙〕
Ganio 奇怪な．異樣な〔19.鬼怪：怪異〕
— **hūsun facuhūn enduri**〔彙：怪力亂神〕
Ganiongga 奇怪なもの．異樣のもの．怪物〔19.鬼怪：怪物〕
— **gasha** Yabulan（鶏鳥）の別名〔補4.鳥四：天鳥〕
— **gisun** 衆人を惑はす妄說．妖言〔18.厭惡：妖言〕
— **hūšahū** Hūšahū（夜猫）の別名〔補4.鳥四：怪鴞〕
— **jaka** 異樣なもの〔彙：異樣物〕
Ganji 俱に．總て．皆．Yooni 又 Gemu に同じ〔18.完全：俱〕
Ganjuhan 鞍の居木(?)前後に通した皮紐〔9.鞍轡一：稍繩〕
Gaowa umiyaha 魚の腹中に生ずる蟲．（色白，身平たくして横紋あり）〔32.蟲一：魚腹蟲〕
Gar ぎやツ！わツ！(逼迫したときの叫聲)〔14.聲響二：着急聲〕
— **gir** がやがや．わやわや〔14.聲響二：衆人爭論聲〕があがあ．かあかあ 14.聲響六：羣鴉啼聲〕
— **miyar** わあわあ(群衆の喊聲)〔14.聲響二：衆人呼喊聲〕
Garbahūn 草木まばらな〔29.樹木七：枝杈稀疎〕
Gardambi 急いで行く．急ぎ足に歩く〔14.行走一：趨行〕
Gardašambi 1. 大股で急ぎ歩く〔14.行走一：大步趨行〕2. 賭けをして早く行きつかんことを爭ふ．賭けして路程を爭ふ〔19.賭戲：賭快走〕
Gargalabumbi (對にさせずして) 單一にさせる〔25.雙單：使單着〕
Gargalambi (對にせずして)單一にする〔25.雙單：單着〕
Gargan 1. 樹枝．木の枝〔29.樹木八：枝〕十二支の支．干支の支〔2.時令一：支〕河の支流〔2.地輿八：河汊〕2. 朋

友. 友達. Gucu に同じ. Gucu gargan と連用す〔10.朋友：朋友〕3. 單一. 一個. Sonihon に同じ〔25.雙單：單〕4. 門窓を數へる時の單位名〔彙：門一揚兩揚之揚〕

Garganame 枝を生じ〔彙：生出枝兒. 與 Garganame banjimbi 同〕

Gargangga 枝ばかりの. 枝だらけの〔29.樹木八：有枝的〕

Gargata (對を成さず) 單一のもの. 單獨のもの〔25.雙單：單的〕

— **hergen** 滿洲字に於ける一個一個の文字. アルファベット〔7.書八：單字〕

Gargitai 命懸けで. 死物狂ひに〔8.征伐四：捨死〕

Gargiyan 枝まばらな〔29.樹木七：枝節疎散〕

Gari mari 粉微塵に. 四分五裂して〔25.破壞：零散〕

Garici Suwan (鸛鶴) の別名〔補4.鳥五：鸛〕

Garimbi 1. 烏がかあかあと鳴く〔14.聲音六：烏鴉鳴〕2. 犬が交尾する〔31.牲畜孳生：狗走時〕

Garin 1. 刀の鍔〔9.製造軍器四：刀護手〕2. 格別の用務なくして主人に隨從する奴僕〔10.人五：散跟奴僕〕3. 引具せる乘替用の馬〔32.騎駝一：坐馬〕

Garingga 淫婦め！(淫らな女を罵る言葉)〔16.咒罵：淫婦〕

Garjabumbi 粉微塵に碎く. 四分五裂に破碎する〔26.殘毀：弄爛〕

Garjambi 粉微塵に碎ける. 四分五裂に碎ける〔25.破壞：破裂〕

Garjashūn 1. 粉に碎けた. 壞れて用をなさぬ〔25.破壞：破裂不齊〕2. (馬の) 足並よろよろと亂れた〔31.馬四三：脚步散亂〕

Garjihūn 高さ四尺の犬〔補4.諸畜一：獒〕

Garlabumbi 壞させる. 破らせる〔26.殘毀：使弄殘壞〕

Garlambi 壞す. 破る〔26.殘毀：弄殘壞〕

Garma 兎, 雉等を射るに用ひる箭. 鏃の根元四角にしてJorho (馬箭尖鞄頭) を具へた箭〔9.軍器五：兎兒叉箭〕

Garmibumbi 細々に切り割かせる〔28.剝割一：使零截開〕

Garmimbi 細々に切り割く〔28.剝割一：零截開〕

Garsa 怜悧敏捷な. 婦人の心やりが好い. 料理を作ること素早い. 裁縫が巧みに早い〔11.德藝：爽利〕小供の行動敏捷な. 言語きびきびとした〔10.老少二：言行草〕

— **jahūdai** 航行敏速なる海船〔26.船一：鳥船〕

Garsakan 稍々怜悧敏捷な. 婦人の心やり稍々好い. 料理をすること, 縫ひものをすることが稍々素早い〔11.德藝：略爽利〕子供の言動稍々機敏な〔彙：小孩走說話略早〕

Garša 僧侶の袈裟〔19.佛一：僧衫〕

Garu 鷲鳥の一種. 普通のものより體大きく尾翎甚だ白い〔30.鳥二：天鷲〕

— **turu** どんどんと (多くの職人共が一齊に仕事を急ぐ貌)〔26.營造：一齊趕做〕

Garudai 靈鳥の名. 鳳〔30.鳥一：鳳〕

Garudangga ilha 奇花の名. 莖短かく秋開花す. 花の形鳥に似て色白し〔補3.異花二：鷲毛玉鳳花〕

— **sejen** 輿の名. 頂は轎の如く, 金漆を塗り黃色の篠あり, 皇后皇太后の乘用〔6.鹵簿器用五：鳳輿〕

— **yengguhe** Sebjengge yengguhe (時樂鳥) の別名. 此鳥體長三尺許り, 鳳の如く五彩の色あるによつて此名あり〔30.鳥八：鳳凰鸚鵡〕

Garukiyari 小鳥の名. Sukiyari cecike (倒花鳥) より稍々大きい, 毛綠にして腹黃, 梅の枝に逆垂するを好む〔30.雀五：綠毛么鳳〕

Garun Olongdo に同じ〔24.靴襪：長統靴〕

Garunggū 瑞鳥の名. 鸞. 形鳳と似たり〔30.鳥一：鸞〕

— **garudai fulgiyan hošonggo šun dalikū** 鸞鳳を刺繡せる紅緞の日除け扇〔6.鹵簿器用一：紅鸞鳳方扇〕

Garunggū garudangga fukjingga hergen 漢書體の名. 少昊氏の時鳳の至れるを吉兆とし, 鳳の體に倣つて造りしといふ〔補1. 書三：鳳鳳書〕
Gasa 嘆き怨め. 怒り怨め〔彙：令人怨〕
Gasabumbi 嘆き怨ませる. 怒り怨ませる〔13. 怨恨：使怨〕嘆き怨まれる. 怒り怨まれる〔彙：被怨〕
Gasacun 嘆きの怨み. 怒りの怨み〔13. 怨恨：怨〕.
Gasaha 喪の怨み〔彙：喪事哀怨〕
Gasambi 怒り怨む. 怨みを抱く〔13. 怨恨：抱怨〕怨み哭する. 苦しみ哀しむ〔13. 哭泣：擧哀〕
Gasan 虎狼鷹等が食ひ殘した鳥獸の肉〔27. 飯肉三：狼饑〕
— **dulebumbi** 日沒後, 家の西の塀の外に仔豚を供へて願懸けする〔6. 祭祀二：去祟〕
Gasandumbi Gasanumbi 齊しく怨む. 皆怨む〔13. 怨恨：一齊怨〕
Gasha 鳥〔30. 鳥一：鳥〕
— **i alin be hetuke** 鳥が山を越えて飛んだ〔彙：鳥飛過山〕
Gashai songkonggo fukjingga hergen 蒼頡造る所の字體の名. その形鳥の足趾に似たりといふ〔補1. 書三：鳥跡書〕
Gashan 災難. 災厄〔6. 喪服一：災殃〕
— **i budere enduri** 年神の第六. 病災疾痛を掌る神〔補2. 神二：災煞〕
Gashangga fukjingga hergen 篆書體の名. 周の文王の時赤雀見はれ, 武王の時赤烏見はる, 因つて二禽に倣つて造るところの體〔補1. 書三：鳥書篆〕
Gashū 誓へ. 誓を立てよ〔彙：令人發誓〕
Gashūbumbi 誓はせる. 誓を立てさせる〔16. 咒罵：使起誓〕
Gashūmbi 誓ふ. 誓を立てる〔16. 咒罵：起誓〕
Gashūn 誓. 誓の言葉. 盟言〔16. 咒罵：盟誓〕
Gasihiyabumbi 人の財產を侵し取らせる〔17. 僭奢：致遺蹋〕人に無理無體に財產を取られる〔彙：被人苛剝尅扣取之〕
Gasihiyambi 人の財產を無理無體に取り上げる. 人の利を侵し損ずる〔17. 僭奢：遺蹋〕
Gashiyandumbi Gasihiyanumbi 各人共に人の財產を侵し取る. 皆して人の利を損ずる〔17. 僭奢：齊遺蹋〕
Gašan 村. 鄉村. 村里〔19. 城廓：鄉村〕
— **falan** 一村民. 一鄉民. 鄉黨〔彙：鄉黨. 與 Gašan halangga 同〕
— **halangga** Gašan falan に同じ〔彙：鄉黨〕
— **i aha** 田舍者. 土百姓（上の人が下の人を罵る言葉）〔16. 咒罵：村奴〕
— **i caliyasi** 村の出納係り〔續2. 人：里書〕
— **i saisa** 村里にあつて衆人の推表たる者〔3. 封表二：鄉賢〕
— **tokso** 〔彙：鄉村. 村庄〕
Gathūwa 鼬, 貂等の皮で作つた皮衣〔24. 衣服二：稀毛皮襖〕
Ge 夫の兄〔10. 人倫二：大伯〕
— **ga seme** がやがやと（相爭ふ聲）〔5. 爭鬪一：爭嚷聲〕
Gebge gabga よろよろと. よちよちと（小兒が倒れさうな形で歩く樣子）〔14. 行走四：小兒行走磕絆〕
Gebkeljembi 顏色美事に油光りする〔11. 容貌八：光潤〕花鮮かに豐艶な色を呈する〔29. 花六：鮮艶〕
Gebsehun 甚だ痩せた（人）〔11. 容貌七：甚痩〕
Gebserekebi 甚だしく痩せた〔11. 容貌七：甚痩了〕
Gebu 名. 名前〔12. 名聲：名〕
— **akū simhun** 名無し指〔10. 人身四：無名指〕
— **algika**（善惡の）名が揚つた. 評判になつた〔12. 名聲：名揚〕
— **algin** 〔彙：名望. 名譽〕
— **arambi** 名を起す. 名を成す〔12. 名聲：起名〕
— **baha**（善行によつて）名を得た. 名聲を得た〔12. 名聲：得名〕
— **bumbi**（武功によつて）名を賜ふ

〔8. 征伐八：賜名〕
Gebu gaiha (事に勤勉して) 名を揚げた. 名を賣り出した〔12. 名聲：享名〕
— **isinaha** 名の通つた. 定評のある〔12. 名聲：名字到去了〕
— **jergi** 官職名. 官位名〔4. 臣宰十四：職名〕
— **tucike** (善惡の) 名が出た. 有名になつた〔12. 名聲：出名〕
Gebulembi 名付ける. 稱する. 名を呼ぶ〔12. 名聲：叫名〕〔12. 喚招：呼名〕
Gebungge 1. 有名な. 名高い〔12. 名聲：有名的〕2. …と稱する. …と名付くる. …と呼ぶ〔12. 名聲：有名的〕
— **hafan** 勳功の臣. 有名なる官吏〔3. 封表二：名官〕
— **tacihiyan** 名分敎化〔彙：名敎〕
Gecembi 凍る〔2. 時令九：凍〕霜が下りる〔彙：下霜〕
Gecen 霜〔1. 天文六：霜〕
— **gecembi** 霜が降りる〔1. 天文六：霜降〕
Gecetu niongniyaha 雁の別名〔補4. 鳥三：霜信〕
Geceri ilha 奇花の名. 南岳に生ず, 嚴寒時なほ開花す〔補3. 異花一：九花樹花〕
Gecuheri 種々の色の絨をあつめ金絲を入れ, 小さき龍圓の模樣を織り込みたる布〔23. 布帛一：蟒緞〕
— **sijigiyan** 喜慶の日に着用する蟒緞の袍(詰)〔24. 衣服一：蟒袍〕
Gecuhun 氷の張る時分. 凍る頃〔2. 時令八：上凍時〕
— **erin** 氷の張る時期. 氷凍の時分〔彙：凍氷之際〕
Gedehun 眼を見開き輝かせた. 眼つぶらに輝いた〔彙：眼明瞪圓睜〕
Gedubumbi (骨にある肉を口で) ちぎり食はせる〔彙：使啃〕
Gedumbi (骨にある肉を口で) ちぎり食ふ〔27. 飲食二：啃〕
Gefehe 蝶〔32. 蟲三：蝴蝶〕
Geferi ilha 奇花の名. 花形蓮の實に似て, 色は微紅〔補3. 異花一：簇蝶花〕
Gege 親族の同輩行中にあつて自分より年長の女. 凡て女娘を尊敬して稱する語. Eyun に同じ〔10. 親戚：姐姐〕〔10. 老少一：姐姐〕
Gegese Gege の複數形〔10. 親戚：衆姐姐〕〔10. 老少一：衆姐姐〕
Gehenakū 卑屈で擧止厭はしい. 卑陋な〔18. 鄙瑣：卑汚〕
Gehešembi (人の話に對し) こくりこくりと頷く〔12. 問答二：點頭〕少々頷く樣に頭をこくりと振つて人を呼ぶ〔12. 喚招：點頭呼喚〕眠つてこくりこくりとする〔15. 睡臥一：磕睡〕
Gehu gehulembi (小鳥が頭を頻りと) こくりこくりとする〔30. 飛禽動息一：雀點頭〕
Gehuken 稍々明るい〔彙：略明亮〕
Gehumbi 少々前かゞみになる〔14. 坐立二：略俯身〕
Gehun 眼を開いてぢつと見詰める〔11. 容貌三：白瞪著眼〕はつきりと見る〔12. 觀視二：明明看見〕光明るい〔彙：月明亮之亮. 火亮. 燈光明亮〕
— **gahūn** 日光大いに明るい. きらきらとした〔1. 天文一：晴明〕
— **gereke** すつかり明るくなつた〔1. 天文一：天大亮〕
— **holtombi** 全くありもしない嘘をつく. 明らさまな嘘をつく〔17. 欺哄：明明的哄〕
Gehungge alin 盛京承德縣所在の山〔補1. 地輿一：輝山〕
Gei seme ぺらぺらと (紬緞等の大いに薄き貌)〔23. 布帛六：綃薄〕
Geigehun 大いに弱々しい (人)〔11. 容貌七：單弱〕
— **banjihabi** 非常に弱々しく生れついた〔彙：人生的很單薄〕
Geigen 斜めに立つた背式骨 (Gacuha)〔19. 戲具一：斜立背式骨〕
Geigerekebi 非常に弱々しく生れついた〔11. 容貌七：單弱了〕
Geje gaja 瑣々たる. くだらぬ. ぐづぐづした〔18. 鄙瑣：卑瑣〕
Gejenggi 言葉多くして騷々しい人. うるさく喋り廻る人〔18. 鄙瑣：嘴碎〕
Geji 鳥を捕へる罠〔22. 打牲器用三：夾

子〕
Geji sindabumbi 鳥を捕へる罠を仕掛させる〔22.打牲：使下夾子〕
— **sindambi** 鳥を捕へる罠を仕掛ける〔22.打牲：下夾子〕
Gejihešebumbi 腋の下を擽ぐらせる〔13.戯要：使格支〕擽ぐられる〔彙：被膈肢〕
Gejihešembi 腋の下を擽ぐる〔13.戯要：格支〕
Gejing seme くどくどと（煩はしく人に話しかけて止まない貌）〔14.言論四：絮煩〕
Gejun 兵器の名．ほこ〔9.軍器六：戈〕
— **gijun i fiyenten** 戈戟盾仗等のものの修造，或ひは又其收貯を掌る役所．鑾儀衛に屬す〔20.部院八：戈戟司〕
Gejungge deji 賭博，花合せなどのてら錢．てら〔19.戯具一：頭錢〕
— **deji gaimbi** てら錢を取る．あたまをはねる〔19.戯具一：抽頭〕
Gejurebumbi 苛酷に求められる．搾取される．强請される〔18.貪婪：被需索〕侵害させる．搾取させる．虐めさす〔彙：使侵害．使苛取．使虐〕
Gejureku 1. 細々と搾取する人．苛刻に取りたつる人〔18.貪婪：慣需索的〕2. 道化(ぎ)〔13.戯要：頑皮〕
Gejurembi 苛酷に求める．搾取する．强請する．侵害する〔18.貪婪：需索〕
Gekdehun 大いに痩せて骨と皮ばかりの（人）〔11.容貌七：太痩〕
Gelaha Gesuhe に同じ〔19.醫治：醒過來了〕
Gelebumbi 怕れさす．驚かす〔13.怕懼一：使怕〕
Gelecuke 怕る可き．恐ろしき〔12.勇健：可怕〕〔13.怕懼一：可怕〕
Gelehe golohoi 怕れ驚いて〔13.怕懼一：驚怕樣〕
Gelembi 怕れる．驚く〔13.怕懼一：怕〕
Gelendumbi Gelenumbi 衆人齊しく驚く．共に怕れる〔13.怕懼一：一齊怕〕
Gelerjembi 眼一杯に涙をためる〔13.哭泣：淚汪汪〕
Gelesu 小心畏懼せる人〔11.敬愼：小心人〕
Gelfiyeken 色稍々淡い〔23.采色三：略淺〕
Gelfiyen 色の淡い．色の淺い〔23.采色三：淺〕日色淡い．雲淡い〔彙：日色淡．雲淡〕
— **fahala** 薄墨がかつた紫色の淡いもの．淡い暗紫色〔23.采色一：藕荷色〕
— **fulahūn** 淡紅色〔23.采色一：粉紅〕
— **lamun** 淡藍色〔23.采色二：翠藍〕
— **sohon** 淡黃綠色〔23.采色一：蠆黃〕
— **suwayan cecike** Turi cecike（梧桐）の別名〔補4.雀一：竊黃〕
— **šanyan cecike** 嘴の黃色い Ūn cecike（灰兒）〔補4.雀一：竊脂〕
— **yacin cecike** 嘴の白い Ūn cecike（灰兒）〔補4.雀一：竊元〕
Gelhun akū 敢てする〔11.敬愼：敢〕
Geli 又．も亦．兼ねて〔18.散語六：又〕
Gelmerjembi 色美しく清らかに輝く〔増四訂版11.容貌八：光亮〕
Gembi 嫁を娶る．女を聘する〔6.筵宴：聘〕
Gemu 俱に．共々に．皆．一同〔18.完全：俱〕
Gemulehe ba Gemun に同じ〔彙：崇城．與 Gemun 同〕
Gemun 皇帝の居城〔19.城廓：京〕
— **hecen** 首都〔19.城廓：京城〕
— **hecen i dooli yamun** 京畿道内に於ける警察軍事奏事等の事務を掌する役所．他道皆此役所あり，夫々省名によつて名付く〔20.部院五：京畿道〕
— **hecen i hafan i kunggeri** 八旗世職誥命及び各官封誥等のことを掌る役所〔補2.衙署一：京官科〕
— **i hafasai simnen** 三年に一回京城の文官に對して施行する考試〔4.考選：京察〕
Gemungge hecen Gemun hecen に同じ〔19.城廓：都城〕
Gen 頸の後にある高み〔10.人身三：脖頸〕
— **gan akū** 腑抜けの．呆然とした

〔17. 懦弱一：無心緒〕

Gencehelebumbi 刀の峰打ちにされる．峰打ちにさせる〔彙：被刀背打．使打刀背〕

Gencehelembi 1. 刀の峰打ちにする〔8. 征伐五：用刀背砍〕 2. 背式骨 (Gacuha) が斜めに立つ〔19. 戯具一：背式骨側立〕

Gencehen 刀の背．刀の峰〔9. 軍器六：刀背〕靴，襪等の裏〔彙：鞋靴木軺等底子下底邊兒〕畦路の下緣 (ふち)〔彙：田路的根邊兒〕

— **mukšangga fukjingga hergen** 篆書體の名．古の武人君命あれば必ず其を戈(ほこ) に書きつけた，後人其を見做つて作る所．書體戈に似たるに非ず〔補1. 書四：戈篆〕

Gencehengge 底のある（もの）．裏ある（もの）〔彙：有背子的〕

— **hengke** 奇果の名．形ばけの實に似たれど大きく，色黄，五角形，皮肉俱に柔かく味酸し，密に漬けて食ふ〔補3. 異様果品四：五敛子〕

— **mukšan** 龍を彫り金漆を塗り，杖端を六角形にしたる儀杖用の戈 (ほこ)〔6. 鹵簿器用一：戈〕

Gencehešembi 刀の背で亂打する．只管刀の背打ちを食はす〔8. 征伐五：用刀背亂砍〕

Gene 行け．去れ〔15. 去來：使去〕

— **oso** 行くがいゝ．行つて居れ〔彙：令人去阿乃虛口氣〕

— **oso akū** 行くばかりになつて未だ行かない〔彙：將去未去虛口氣〕

Genebini 行くだらうな，行くな〔彙：問人有去之口氣〕

Geneci 若し行けば．行つたならば〔彙：若去〕

— **genecina** 行くならば行くがよからう〔彙：若去就去是呢〕

— **genekini** 行かうとならば隨意に行け．行くならば行くがいゝ〔彙：若去由他去．若去隨由去〕

— **oci** 若し行くとならば．行く可きならば〔彙：若可去〕

— **ojorakū** 行くことが出來ぬ．行かれない〔彙：不可去．去不得〕

— **ojorakū ba akū** 行かれぬ處はない〔彙：沒有不可去得之處〕

— **ojorakūngge** 行き得ないこと．行かれないもの〔彙：不可去的．去不得的〕

— **ojorakūngge akū** 行かれないことはない．行き得ないものはない〔彙：沒有不可去的〕

— **ojoro** 行かうとならば行ける〔彙：將可去下有話將斷未斷〕

— **ojoro ba akū** 行ける處が無い〔彙：沒有可去之處〕

— **ojoro be dahame** 行き得るによつて〔彙：因爲可去下有話順接未斷〕

— **ojoro jakade** 行き得るが故に．行く可き時なれば〔彙：因可去之時〕

— **ojoro ohode** 行き得る時に〔彙：若是可去之時〕

— **ojorongge** 行き得ること．行き得るもの〔彙：可去的．去得的〕

Genecibe 行くと雖．假令ひ行つても〔彙：雖去．上用 Udu 同．與 Udu genehe seme 同〕

Genecina 行くがよからう〔彙：去是呢〕

Genefi 行つて〔彙：去了下接有話乃虛了字意起下口氣〕

— **hono uttu bade generakū be ai hendure** 行つてすら尙且この樣なのに，行かなかつたならばどんなことにならう〔彙：去了尙且如此何況不去〕

Genehe 行つた．去つた〔彙：已去了〕

— **aise** 行つたと思ふがどうだらうか．行つたかどうか〔彙：或是去了．上用 Ainci 同〕

— **ayoo** 行つたのではあるまいか．行きはしまいか〔彙：恐怕去了罷〕

— **be dahame** 行つたに因り〔彙：因爲去了〕

— **bihe** 行つたことがある〔彙：曾去來着．曾去過來〕

— **de** 行つた時に〔彙：去了時〕

— **dere** 行つたらしい．行つただらう〔彙：想是去了．上用 Ainci 同〕

Genehe manggi 行つた後に. 行つたので〔彙：去了後時〕
— **nikai** 行つたのだな. 元來は行つたのか. やはり行つたのか〔彙：原來去了麼. 上用 Dule 同〕
— **saka** 行つて會つた〔彙：去了的會見〕
— **seme** 行つたとて. 假令ひ行つたとて〔彙：雖然去. 上用 Udu 亦同〕
— **semeo** 行つたといふのか？. 行つたつて？〔彙：豈去了麼. 豈去了乎〕
— **wakao** 行つたが惡いか〔彙：豈非去了麼. 豈非去了乎〕
Genehekū 行かなかつた. 行つたことがない〔彙：不曾去. 沒有去〕
Genehekūle 凡そ行かなかつた（處）. 行かなかつた處凡て〔彙：凡沒有去的〕
Genehekūnggeo 行つたことが無い者か〔彙：未曾去的麼乃問之口氣〕
Genehengge 行つたもの. 行つたことのあるもの〔彙：曾去了的〕
Genehenggeo 行つたことがある者か〔彙：已曾去了的麼乃問的口氣〕
Genehele 凡そ行つた（處）. 行つた所凡て〔彙：凡去〕
Geneheo 行つたか. Maka geneheo. はて行つたかどうか〔彙：去了麼乃問人口氣. 上用 Maka 乃未知去了麼口氣自問口氣〕
Geneki 行き度い〔彙：欲去之意. 請去之詞〕
— **seci genecina** 行き度いとならば行くがよからう〔彙：若要去就去是呢〕
— **seci genekini** 行き度いとならば隨意に行け〔彙：若要去隨由去〕
— **sembi** 行き度いと云ふ〔彙：欲去. 要去〕
Genekini 隨意に行け. 行きたければ行け〔彙：由他去口氣. 要他去口氣〕
Genembi 行く. 去る〔15. 去來：去〕
Genembihede 行つた時に. 若し行つた時には〔彙：去了的時候乃預設之口氣〕
Genembime 行つて. 行き. 行きながら〔彙：去而口氣下有接的話〕
Genembini 行くかい. 行くかな〔彙：去呢〕
Genembio 行くか〔彙：去麼〕
Geneme 行き. 行つて. 行かんと〔彙：正去之口氣下順接有話〕
— **ohode** 行く時には. 若し行く場合には〔彙：若去時候〕
— **jaka** 行くばかり. 行くばかりのところ〔彙：去的時隙〕
— **oci** 行かうとならば. 若し行くのだつたら〔彙：若因去〕
— **ofi** 行くのだから. 行くに因つて〔彙：因去乃起下句口氣〕
— **ome** 行くに因り〔彙：因去〕
— **saka** 行かうとして會つた. 行かんがために會見した〔彙：將去的會見〕
Genemeo 行かうとするか. 行くか〔彙：去麼. 去乎〕
Generahū 恐らくは行くだらう. 行きはしまいかと心配する〔彙：恐去〕
Generakū 行かぬ〔彙：不去〕
— **ainaha** どうして行かぬことがあらうか. 行かずして何としよう〔彙：不去怎麼樣呢〕
— **ainara** 行かずして何とならう〔彙：不去怎樣就〕
— **oci ojorakū** 行かないではゐられない〔彙：若不去使不得〕
Generakūci ojorakūci 行かずにゐれぬとならば〔彙：不可不去〕
Generakūn 行かぬのか〔彙：不去麼乃問人口氣〕
Generakūngge 行かぬもの. 行かぬこと〔彙：不去的〕
Generakūngge akū 行かぬものはない〔彙：沒有不去的〕
— **bi** 行かぬものがある〔彙：有不去的〕
Generakūnggeo 行かぬものなのか. 行かぬことか〔彙：不去的麼乃問的口氣〕
Generakūni 行かんのだな〔彙：像不去呢. 不去呢〕
Genere 行くところの. 行かう. 行くところの〔彙：去之下有話猶豫未斷〕
— **anggala generakū de isirakū**

行くよりは寧ろ行かざるに如かず. 行くよりは寧ろ行かぬがいゝ〔彙：與其去不如不去〕
Genere ba akū 行く處が無い〔彙：沒有去的去處〕
— **ba akūngge akū** 行く所が無いことは無い〔彙：沒有不去的去處〕
— **be dahame** 行くに因り. 行かうに因つて〔彙：因爲去〕
— **de** 行かうとするとき. 行くとき〔彙：將去之時〕
— **ici** 行く方向. 行くむき〔彙：去向〕
— **jakade** 行くが故に. 行くので.〔彙：因爲去的時候〕
— **ohode** 行くときには. 若し行く場合には〔彙：若去的時候〕
— **onggolo** 行く前に. 行かないうちに〔彙：未去之先〕
— **unde** 未だ行かぬ. 行く前〔彙：未去〕
— **undengge** 未だ行かぬもの〔彙：未去的. 未去者〕
Genereleme 行きかけて. 踏み出して〔彙：將去略蹅蹅〕
Generengge 行くもの. 行くこと〔彙：去的. 去者〕
— **akū** 行くものがない〔彙：去的沒有. 沒有去的〕
— **bi** 行くものがある〔彙：有去的〕
Generenggeo 行く者か. 行く者なのか〔彙：去的麼乃問之口氣〕
Genereo 行つてくれようか. どうか行つてくれ〔彙：求人去之口氣. 請人去之口氣〕
Genetele 行くまで〔彙：至於去〕
Gengge gangga 孤獨貧窮人の此處彼處に身を寄せて日を過す貌〔13. 貧乏：伶仃〕
Genggecembi (貧窮孤獨の人が) 此處彼處に身を寄せて日を過す. 寄る邊なく流寓し渡る〔彙：奔忙〕
Genggedembi (衰弱して) よろよろと歩く〔14. 行走三：踉蹌著走〕(餓えて) ひよろひよろと歩く〔13. 饑饉：餓的踉蹌〕
Genggehun 背高くして前屈みになつた (人). 色を失ひ萎え沈んだ〔11. 容貌七：栽脏〕
Genggele coko 鳥の名. Gūnggala coko (鶖鷄) に似たり, 羽毛藍色善く鬪ふ〔30. 鳥六：鴿〕
Genggen 陰性〔7. 實五：柔〕柔弱なる性情〔11. 性情二：柔〕
Genggerekebi 衰弱して前屈みになつた〔11. 容貌七：衰弱栽脏〕
Genggitungga 宗廟左の坐次にあるもの. 昭穆の昭〔20. 壇廟：昭〕
Genggiyeken 稍と明るい. 稍と清い〔彙：略明〕
Genggiyelebumbi 明るくさせる. 清らかにさせる〔彙：使明〕
Genggiyelembi 明るくする. 清らかにする〔彙：明之〕
Genggiyen 1. 清い. 澄んだ. 明るい〔2. 地輿七：清〕聰明な. 明智ある〔11. 聰智：明〕2. 石青色にして無紋の緞〔23. 布帛二：石青素緞〕
— **abka** 明澄な空. 晴れ渡つた空〔1. 天文一：清天〕
— **biya** 澄み渡つた月〔1. 天文一：明月〕
— **cai** (砂糖や乳を入れないで) 普通に飲む茶〔27. 茶酒：清茶〕
— **cai i boo** 皇帝御飲の清茶を點てる房〔20. 部院八：清茶房〕
— **cukūlu** とり目〔11. 容貌三：雀瞭眼〕
— **ejen** 明德の君主. 聰明なる皇帝〔3. 君二：明君〕
— **misun** 醬油〔27. 菜殽四：清醬〕
— **abka gehun šun** 清明の天, 明光の太陽 (太平の像)〔彙：清天白日乃太平景像〕
— **duwanse** Genggiyen (2) に同じ〔彙：實石藍乃石青課藍的素緞子. 與 Genggiyen 同〕
— **niyaki eyembi** 水鼻を垂らす. 鼻汁が流れる〔彙：流清鼻涕〕
— **tugi** 明るい雲〔彙：青雲〕
Genggiyenakū こせこせとして己れの非を改めぬ人間〔18. 鄙瑣：猥鄙〕
genggiyesu 祖先より奴僕たりし家の

第四代目の奴僕〔10.人五：四輩奴〕
Gengguhebi 車の前部に重みがかかつた〔26.車轎二：轅重〕少し前かゞみになつて立つた〔彙：向前略探頭立着〕
Genggumbi 少し前かゞみになつて立つ〔14.坐立二：探着身站立〕
Geo 馬騸等の牝〔31.馬匹二：騍馬〕
Geodebumbi 計を以て欺く．誘ふ．騙らかす〔17.奸邪：局弄〕敵を欺き誘ふ．敵を誘つて計に陥れる〔8.征伐三：誆誘〕
Geodehen gasha Alin ulhūmā (原鳥) の別名〔補4.鳥六：義媒〕
Geoden 欺瞞〔17.奸邪：局騙〕
Geoge 戚張つてよからざる人．たゞ戚張り散らす人〔17.驕衿：張狂人〕
Geogedembi 戚張り散らす．傲然と戚張る〔17.驕衿：張狂〕
Geolembi 身を伏せて密かに禽獣に近づき之を捕へ又は射る．襲ひ撃ちにする〔22.打牲：襲捕禽獣〕
Geošen いぬざめ〔32.河魚二：狗魚〕
Geošeri 奇獣の名．伊太利國に出づ，日中は水中に隠れ夜河邊に出没す，其牙甚だ鋭く，體色種々あり，黒き者は得難し〔補4.異獣五：般第狗〕
Ger 1. ぐうツ．ううツ（犬が齒を剝き出して吠える聲）〔14.聲響五：狗吠牙叫〕2. くどくど（人の話の纏綿たる貌）〔彙：人說話如纏綿〕
— **gar** がやがや．わいわい．（相爭ふて騒ぐ聲）〔14.聲響二：相爭聲〕
— **seme** くどくどと．だらだらと（煩瑣な話の續いて終らざる貌）〔14.言論四：厭人話煩瑣狀〕
— **seme wajikakū** くどくどと話の果てがない〔彙：人說話綿纏不完〕
Gerben garban 1. ぞろぞろ．こそこそ（蜘蛛などの様に足の多い蟲が匍ふ貌）〔32.蟲動：多足蟲行動〕もそもそ（人が不恰好に蜘蛛の如く歩き廻る貌）〔彙：人走得不像樣如蜘蛛之行貌〕2. ちらりばらり．ばらばら（毛，草，樹木等のまばらにして錯雜せる貌）〔彙：毛草樹木稀疎參差〕
Gerci 告訴人．告發者〔5.詞訟一：出首人〕
Gercilebumbi 告發させる．告訴させる〔5.詞訟一：使出首〕告發される．告訴される〔彙：被首告〕
Gercilembi 告發する．告訴する〔5.詞訟一：出首〕
Gerdung Durdung (辣辣) の別名〔補4.異獣三：栖子〕
Gereke 空が明るくなつた〔1.天文一：天亮〕
Gereken 稍々多い〔25.多寡一：稍衆〕
Gerembumbi 夜明しする．夜の明けるを待つ〔2.時令七：達旦〕
Geren 多い．許多の〔25.多寡一：衆〕
— **dz tanggū boo** 〔7.文教：諸子百家〕
— **fila** 打樂器の名．黄銅製の小皿形のものを小さき架木に吊り，打ち鳴らすもの〔7.樂器一：雲鑼〕
— **giltusi** 新進士の中より更に殿試によつて選ばれ文館に入つて讀書するもの〔4.臣宰四：庶吉士〕
— **giltusi be tacibure kuren** 翰林院の新たに採用せる庶吉士等に滿漢の書を教習せしむる處〔20.部院十一：教習庶常館〕
— **goloi baita be icihiyara bolgobure fiyenten** 內外の武官を評論し，罪を論じ，軍政兵舍隊伍を查閲する等のことを承辦する役所．兵部に屬す〔20.部院四：職方淸吏司〕
— **i tacin** 風俗．風習．常習〔5.政事：風俗〕〔續2.政事：風俗〕
— **imiyambi** 大勢の者共が集つて來る〔彙：衆齊來齊集〕
— **kanggiri** 打樂器の名．銅片十六枚を架上に掛け之を打つて鳴すもの〔7.樂器一：方響〕
— **leolen** 衆人の論．輿論〔彙：輿論〕
Gerendere 夜明け近く．明け方近く〔彙：天近明〕
— **ging** 明けの鐘〔2.時令八：亮鐘〕
Geretele 夜明け迄．明け方迄〔2.時令七：通宵〕
Gergen こほろぎ．きりぎりす〔32.蟲二：蟋蟀兒〕

Gergen gargan seme がやがやわいわいと(互ひに爭ひ騷いで止まざる貌)〔5.爭鬪一:叫鬧〕
Gerguwengge coko Gūnggala coko(鵠鵝)の別名〔補4.鳥六:赶亮嗥〕
Gerheń 穗のさき. のぎ〔21.農工三:穀紐〕
— **mukiyeme** たそがれ時〔1.天文一:黃昏〕
— **mukiyehen** 易卦の名〔補1.書二:明夷〕
Geri 傳染病. 流行病〔16.疾病一:瘟疫〕
— **fari** 恍惚として. 茫として. 目が眩んで〔12.觀視二:恍惚〕〔16.疼痛三:恍惚〕茫として定まる所がない〔17.輕狂:恍惚不定〕
— **gari** かすかに. ちらりと. ちらちらと(見える)〔12.觀視二:微見〕
— **garilame** ちらちらとして(見える) ちらりと見えて〔彙:眇眇〕
— **goiha** (家畜が)疫病にかゝつた. 流行病でころりと死んだ〔32.馬畜殘疾一:瘟了〕
Gerilambi ちらりと見る〔12.觀視二:一晃看見〕
Gerinjembi 眼の珠がくるくると動く〔11.容貌三:眼珠亂動〕
Gerišeku 心意動搖して定まらざる人〔18.兇惡一:心活的〕
Geritu 奇獸の名. 太山に出で牛に似たり, 首白くして一目, 蛇尾を具ふ, 淵に入れば水涸れ樹に上れば樹焦ぐ〔補4.異獸四:蜚〕
Gerkušembi きよろきよろと眼珠が動く〔11.容貌三:眼光閃爍〕
Gersi fersi 明け方近く. 黎明時〔1.天文一:黎明〕
Gerudei 鳳の雌〔30.鳥一:鳳〕
Gese …の如き. …と相似たる. …の樣に. 相似の. 同樣の〔25.同異:相似〕
— **tušan** 同樣の職任. 一樣の職分〔彙:同寅〕
Gesejehe (繩が腐つて)ぽつぽつ斷れ出した〔25.斷脫:繩索斷動〕
Gesengge 相似たもの. 同樣のもの〔25.同異:相似的〕
Geser niyehe Cunggur niyehe(滿葫蔥)の別名〔補4.鳥七:頂〕
Gesuhe 目に見えて容態が好くなつて來た. 痩せてゐたのが又肥えてきた〔19.醫治:醒過來了〕
Gesungge moo 奇木の名. 楓樹に似, 葉邊鋸齒狀をなす, 樹心を採り丸藥として焚けば死して未だ三日ならざる人を活き返らすを得といふ〔補3.異木:返魂木〕
Gešan 境界の樁〔彙:格撐〕
Gete Ge の複數形〔10.人倫二:衆大伯〕
Getebumbi 呼び醒す. 揺り起す〔15.睡臥二:叫醒〕
Getehuri cecike Jeleme cecike(鴾倉)の別名〔補4.雀五:五更醒〕
Getembi 目醒める. 眠りから醒める〔15.睡臥二:醒〕
Geterakū 1. 卑小な(人). 鄙汚の(人)〔18.鄙瑣:不長進〕2. 眠つて醒めぬ〔彙:睡着了不醒〕
Getereke 1. 敵全滅した〔8.征伐七:勦除了〕2. 全く完了した. 盡く濟んだ〔26.完成:全完了〕
Geterembi 1. 奇麗になる. 淨まる〔18.洗濯:洗淨〕2. 除き終る. 全く完了する〔彙:除盡. 全完了〕3. (逆賊が)全滅する〔彙:掃靖. 靖逆之靖〕
Geterembu 除け. 淨めよ. 掃除せよ〔6.灑掃:除〕
Geterembumbi 1. 掃除する〔6.灑掃:除淨〕洗淨する〔18.洗濯:使洗淨〕2. 敵を勦滅する. 全滅する〔8.征伐七:勦除〕
Geterentu enduri 日神の第二. 能く舊を除き新を宜ぶ. 黃道の日を掌る〔補2.神一:除〕
Geterilaha 喜びに眼輝いた〔13.喜樂:眼亮了〕
Getuhun (床には就いたが)未だ眠らぬ. 未だ目を醒してゐる〔15.睡臥一:醒着〕
Getukele 究察し明白にせよ. 事を明らかにせよ〔12.詳驗:使察明〕

Getukelebumbi 究察し明白ならしめる．事の次第を明らかならしめる〔12.詳驗：使人察明〕
Getukelembi 究察し明白にする．調べて明らかにする〔12.詳驗：察明〕
Getuken 頭腦明白な（人）〔11.聰智：明白〕條理明白な〔14.言論一：明白〕明白なこと．容易なこと〔14.陳顯：明白〕
— **obu** 清淨にせよ．精麗にせよ．取り片つけよ〔彙：凡物弄乾淨．凡物收拾潔淨．與 Bolgo obu 同〕
Geye （木などを）刻め．彫刻せよ〔彙：令刻〕
Geyebumbi （木などを）刻ませる．彫刻させる〔26.裁砍：使削刻〕
Geyembi （木などを）刻む．削る．彫刻する〔26.裁砍：削刻〕
Geyeme gayame でこぼこの．たかひくの（芽を出した様に凸凹のある貌）〔25.諸物形狀二：咕咕嘟嘟的〕
Geyen 刻み．刻みこみ〔26.裁砍：刻兒〕
Gi buhū 鷺の一種〔31.歌三：鷺〕
Gib seme がーんと（大聲耳も聾せんばかりの貌）〔12.聆會：耳震聾〕
— **seme oho** がーんと耳が聞えなくなつた〔彙：大聲忽震耳耳不聽見了〕
Gibagan 凡て物にこびりついたもの〔18.邋遢：糊疤〕鍋の裏にこびりついて干上つた飯〔彙：鍋裏粘的飯鍋巴乾了者〕
Gibaganahabi こびりついた．こびりついて干上つた〔18.邋遢：糊疤住了〕
Gibaganambi （飯，かさぶた，耳糞等が）こびりつく〔彙：凡物上粘着的乾了者．鍋裏粘的飯鍋巴乾了．禿瘡粘在頭上乾了．鍋巴粘的乾了．耳內粘了耳塞〕
Gibalabumbi （布，紙などに）裏打ちをさせる〔26.膠粘：使打褙褙〕
Gibalambi （布，紙などを）裏打ちする〔26.膠粘：打褙褙〕
Giban 裏打ちの紙，布等〔23.布帛六：隔背〕
Gicuke 羞づ可き．恥かしい〔17.羞愧：可羞〕
Gida 1. 槍〔9.軍器六：鎗〕2. Gidambi の命令形．壓へよ．壓せ．卵を抱け〔彙：令壓．令醃．令匿．令抱蛋〕
— **mukšen** 軍器の名．棍棒．長さ六尺一端尖り一端は扁平，兩端共に黑色にして中央は紅色〔補1.軍器二：槳棍〕
Gidabumbi 1. 隱匿させる〔16.逃避：使隱匿〕2. 漬物を漬けさせる〔27.菜穀四：使淹〕3. 壓される〔15.睡眠二：壓住〕4. 人に欺かれ壓迫される〔彙：被人欺壓〕5. 人に酒をおし進めさす〔彙：使灌壓人飲酒〕6. 雞に卵を抱かせる〔彙：使雞等畜抱蛋〕7. 賊を壓して打ち敗らせる〔彙：使擊壓敗賊〕打ち敗られる〔彙：敗了〕
Gidacan 1. 兜の前後に打ちつけた金具の名〔9.軍器一：盔梁〕2. 野猪の皮等にて作り鎧兜の上に被けるもの〔9.軍器二：盔甲罩〕3. 弓袋の刀挿しの環（Dashūwan i muheren）の上に壓着した飾り鐵〔9.撒袋弓靫：壓環飾件〕4. 數段に穗の付いた鞍掛けの毛氈〔9.鞍轡一：鞍氈〕5. 數珠の雲紋形飾り（Tugi）を嵌入する浮き彫りの金具〔24.冠帽二：背雲寶蓋〕6. 帶環に垂れ下げた飾り布の中央を締めくゝるもの〔24.巾帶：手巾束〕7. 鷲鷹などの尾の中央にある二本の大羽〔30.羽族肢體一：蓋尾〕
Gidaha 敵を擊ち敗つた〔8.征伐五：擊敗〕
Gidakū 1. 紙抑へ．文鎭〔7.文學什物二：鎭尺〕2. 金銀等の細工物を磨く鋼鐵製の器具〔22.工匠器用三：鋼礼子〕3. 滿洲婦人の額につける飾りもの．二三寸巾の布帛に金の浮彫りの花をとりつけ頭に被る様に造つたもの〔24.飾用物件：額箍〕
Gidalabumbi 槍で突かせる．槍で突かれる〔彙：使鎗戮．被鎗戮〕
Gidalambi 槍で突く〔8.征伐五：用槍扎〕〔9.畋獵二：槍扎〕
Gidambi 1. （角力の時）相手の肩を摑んで下様に壓へつける〔8.撩跤一：壓〕2. 逃人を隱匿する．事を隱匿する

〔16. 逃避：隠匿〕 3. 漬け物を漬ける．漬けものにする〔27. 菜殽四：淹〕 4. 鳥が卵を抱く〔31. 牲畜孳生：抱窩〕 5. 壓へつけて飲ます．酒を強ひる〔6. 筵宴：強讓酒〕 6. 敵陣を破る．賊を擊破する〔8. 征伐五：殲瞥〕 7. (矢柄の鏃を挿し込んだ上に巻きつけた筋を) 壓へを以て平らにする〔9. 製造軍器三：研平〕 8. 頭を垂れる〔彙：凡人馬諸物垂頭之垂〕

Gidame arambi 行書で書く〔7. 書七：寫行書字〕

Gidanambi 敵陣を擊破に行く．行つて敵陣を打ち破る〔8. 征伐五：去殲瞥〕 掠奪に行く〔16. 劫奪：打刼〕

Gidara hergen 行書文字〔7. 書八：行書〕

Gidarakū 清直にして隠さない．人の善事を隠さず顯出する〔11. 忠清：不隱瞞〕

Gidashūn 稍々前方に傾いた．些か前かたむきの〔25. 諸物形狀三：略俯些〕

Gidašabumbi 人に欺むかれる〔17. 强凌：被欺凌〕

Gidašambi 1. 手招きする．さし招く〔12. 喚招：點手招呼〕 2. 欺く．欺き手なづける〔17. 强凌：欺凌〕

Gidu usiha 計都(星の名)〔1. 天文二：計都星〕

Gihi 麅の毛皮〔24. 皮革二：帶毛麅皮〕

— jibca 麅の毛皮で作つた上衣〔彙：麅裘〕

Gihintu lorin 馬から生れた騾〔31. 馬匹二：騙騾〕

Gihū sakdambi 食物を長い間放置する〔27. 飲食二：放陳了〕

Gihūšambi 媚び求める．膝を屈して求める〔13. 求望：央求〕

Gihūšame baimbi (得られないものを) 媚びて手に入れる．媚びて求める〔彙：不得的物親愛求之〕

Gijan 肉の僅かばかりの切れ端〔27. 飯肉四：零碎塊〕

Gijun 槍に似て穂の三日月形をなせるもの〔6. 鹵簿器用一：方天戟〕〔9. 軍器六：戟〕

Gikibumbi 穴を塡めさせる〔26. 塞決：使塡滿〕

Gikihangge わからずや！(人を罵る言葉．事理を曉らず腹中只惡物が塡つてゐるとの意)〔16. 呪罵：塞住心的〕

Gikimbi (穴，壕などを)塡める〔26. 塞決：塡滿〕

Gilacambi 發熱して腹中が穩かでない〔16. 疼痛二：躁熱〕

Gilahūn inenggi 薄曇りの日〔1. 天文五：假陰天〕

Gilajan 枯死して樹皮の剝脫した木〔29. 樹木七：無皮枯樹〕

— hoto Gilajin hoto に同じ〔彙：頭很禿者．與 Gilajin hoto 同〕

Gilajin 1. 鋒細くして明瞭な〔14. 鋒鋩一：鋒尖〕 2. 頭のすつかり禿げた〔彙：頭光禿禿的〕

— hoto 一毛殘さず禿げ上つた頭．つるつるの藥鑵頭〔16. 殘缺：瓢兒禿〕

Gilbar keire 身體赤くして鬃と尾との黒い駿馬〔31. 馬匹一：華騮〕

Gilembi 兩人宛死者に近づいて酒を奠ぐ〔6. 喪服二：對對奠酒〕

Gilerjembi Gileršembi に同じ〔17. 羞愧：不知羞〕

Gileršembi 恬として恥を知らない．わるびれた顔もせぬ．いけしやあしやあとしてゐる〔17. 羞愧：恬不知恥〕

Gilgambi 灰燼に歸する．燒けて灰になる〔23. 烟火四：灰燼〕

Gilha inenggi 風なく快晴の日〔1. 天文五：晴明天〕

Gili (鹿牛などの)角の根もと〔31. 走獸肢體：角根〕

Giljabumbi 恕させる．恕される〔彙：使恕．被恕〕

Giljacuka (罪狀など)諒とすべき．同情すべき點のある〔5. 寬免：可矜〕

Giljambi 事情を諒として之を恕す．諒恕する〔5. 寬免：體諒〕〔11. 仁義：體諒〕

Giljan 己が身に考へて人の罪を恕すこと．諒恕〔11. 仁義：恕〕

Giljangga よく己が身に考へて人の罪を恕す人．寬容の心ある人〔11. 仁義：

能恕的人〕

Gilmari ilha 奇花の名．形手掌に似て黄金色〔補3.異花二：旱金花〕

Gilmarjambi 顔色美はしく輝く〔11.容貌八：光彩〕(布などが) 光彩陸離と輝く〔23.采色三：光彩爛漫〕

Gilmerjembi Germerjembi に同じ〔五體11.容貌八：光亮〕

Gilta gilta びかびか．きらきら (彩色美はしいものゝ日に輝く貌)〔23.采色三：光輝閃閃〕

— **gilti** きらきら．びかりびかり〔彙：韡韡．光明貌〕

Giltahūn 光彩のある．美しく輝いた〔23.采色三：光彩〕

Giltari amihūn 硫黄華〔22.貨財二：明黄〕

— **nioweri** (錦緞など) 色とりどりの〔23.采色三：燦爛〕

— **sišargan** Fulgiyan sišargan (茅山紅) の別名〔補4.雀四：映山紅〕

Giltarilambi きらきら光る．びかびか輝く〔彙：光見綽．魚鱗海螺殼之明光亮〕

Giltaršambi きらきらと眼を射る．日にあたつてびかびかする〔23.采色三：放光〕

Giltasikū 全部金絲で花紋を織り出した緞〔23.布帛一：片金〕

Giltukan 俊秀な．秀でた．俊才の〔11.德藝：俊秀〕

Giluk 一日に千里を行く駿馬〔31.馬匹一：駿〕

Gimda 東方七宿の第一〔1.天文二：角〕

— **tokdonggo kiru** 角宿 (Giruda) の像を刺繍せる儀仗旗〔6.鹵簿器用四：角宿旗〕

Gimšu 雄の鶉〔30.雀二：鶉〕

Gin 1. 秤．竿秤〔22.衡量一：稱〕2. 量目の名．斤〔彙：一斤二斤之斤乃十六兩爲一斤也〕

— **alha** 色様々の小さな花紋を織り出した緞〔23.布帛一：碎花閃〕

— **ciyan gi** Jihana coko に同じ〔彙：金錢雞似孔雀之毛羽綠色有眼〕

— **gi** きんけい．にしきどり〔彙：錦雞似野雞而略小身有五彩毛羽〕

— **i ilha** 秤の目〔彙：秤星〕

Gina 1. 密林中倒木の一端に圓板をつけ跳ね上げて樹上の貂，栗鼠等を壓殺する仕掛け〔22.打牲器用四：打貂鼠銀鼠的壓木〕2. 羊皮の毛を去つて金を貼つたもの〔22.貨財二：羊皮金〕

Gincihi (長年使用した器物の表面に出た) 澤?〔25.新舊：包裝〕

Gincihinehe (長年使用した器物の表面に) 澤の出た〔25.新舊：起包裝〕

Gincihiyan 顔に艶のある．顔色潤麗の〔11.容貌二：華〕凡て物の表面美はしく澤?のある〔彙：凡物潔美．凡做造的物精潤〕

— **leke** 蜜と麹とを混ぜ合せ，胡蔴油で烙いた饅頭〔27.餑餑二：光扁條〕

— **šobin** 花模様などをつけない燒餅〔27.餑餑二：光頭餅〕

— **tuwabungga hoošan** Tawabungga hoošan (榜紙) の光澤あるもの〔7.文學什物一：涇縣榜紙〕

— **uhuken tuwabungga hoošan** Gincihiyan tawabungga hoošan (涇縣榜紙) の軟かいもの〔7.文學什物一：金綿榜紙〕

Gincihiyari taiha 犬の一種．毛長くして光澤あり〔補4.諸畜一：休亮〕

Ginciri moo くろつげに似たる木．枝葉密にして葉は對生す〔補3.樹木二：莎木〕

Gincitu moo くろつげ〔補3.異木：桃榔木〕

Gindana 牢獄．牢屋〔5.刑罰一：牢〕

— **be kadalara hafan** 牢獄の事を掌る官〔4.臣宰六：提牢〕

— **be kadalara tinggin** 罪人の監視並に罪人に支給すべき衣服食糧等に關する事務を承辦する役所．刑部に屬す〔20.部院四：提牢廳〕

Ginderhen Wenderhen (阿蘭) の別名〔補4.雀三：鶯〕

Ging 1. 夜の時刻．初更二更の更〔2.時令八：更〕2. 經．經典〔彙：經書之經〕

— **foriha** 初更を打つた〔2.時令八：起

更〕

Ging forisi 夜の時刻を知らせる鐘の番人〔10.人二：打更人〕

— hecen 〔彙：京都．京城〕

Gingge 潔よい．廉潔の〔11.忠清：潔〕

Ginggen 重量の單位．斤〔22.衡量二：斤〕

Ginggin 犬が噛むのを禦ぐため犬の頸に繋りつけた木〔9.頑驅狗：狗項下支棍〕

Gingguhe Yengguhe(鶯鳩)の別名〔補4.鳥八：乾鳧〕

Gingguji 謹敬なる（人）．敬淑の（人）〔11.敬愼：謹〕

— hehe 文武正從四品官の妻〔3.封表二：恭人〕

Ginggule 敬へ．尊敬せよ〔彙：令人敬〕

Ginggulebumbi 1. 敬はせる．尊敬させる〔11.敬愼：使人敬〕敬はれる．尊敬される〔彙：被敬〕2. 楷書で書かせる〔彙：使正楷寫〕

Ginggulembi 1. 敬ふ．尊敬する〔11.敬愼：致敬〕親を敬ふ〔11.孝養：敬親〕2. 楷書で書く〔彙：字寫正楷〕

Ginggulere arambi 楷書で書く〔7.書七：寫楷字〕

Ginggulere hergen 〔7.書八：楷書〕

Ginggun 敬ひ．恪謹〔11.敬愼：敬〕

— hoošan 樹皮を材料とし，文字を漉し込んだ紙．薄手なれど强靱，染色して吉事に使用す〔7.文學付物一：京文紙〕

— kundu 恭敬．謹恭．敬愼〔彙：恭敬．與 Kobtu 同〕

Gingkabumbi 1. 苦しめ忿らす．憤氣を起さす〔16.折磨：使鬱忿〕苦しめられ悶える〔彙：被人捕勒留難而悶氣之〕2. 咽喉につまる（俗語）〔彙：俗語氣噎嗓子〕

Gingkacuka 鬱悶の心やりばなき，忿りの心晴し様もない〔13.愁悶：可鬱悶〕

Gingkaha gūnin 傷心憂悶の思ひ．鬱々たる思ひ〔彙：傷心幽懷悶鬱鬱〕

Gingkambi 鬱々とする．憤り悶える〔13.愁悶：鬱悶〕

Gingnebumbi 1. 秤りにかけさせる．目方を量らせる．〔22.衡量二：使用秤稱〕2. 兩手で供物を獻げさせる〔彙：使兩手擧起供獻〕

Gingnehen 重量の單位．石．一百二十斤〔22.衡量一：石〕

Gingnembi 1. 秤にかける．目方を量る〔22.衡量二：秤稱〕2. 祭時酒杯を盤におき神前に獻げる．酒を獻げる〔6.祭祀二：獻酒〕

Gingsimbi 1. 書物を吟哦する．聲を出して讀む〔7.文學：吟哦〕2. 低聲に言葉もとぎれとぎれに泣く〔13.哭泣：低聲哭〕3. 犬が眠り乍ら安らかな寢息をかく〔14.聲響五：狗哼哼〕

Ginjule burga 樹名．密林中に生じ，丈高く枝葉柳に似たり，根もと青紅し〔29.樹木三：長柳〕

Gintala 芹〔27.菜穀一：芹菜〕

Gintoho 重量の單位．錙．二十四兩〔22.衡量一：錙〕

Gintu 蒙古包内の草敷きの兩邊を挾む木〔24.氈屋帳房：揑草木〕

Gio のろの一種．色薄紅し〔31.獸三：麅〕

— holhon 野菜の名．燃せば香よろし〔27.菜穀三：鈴頭菜〕

— ura 野菜の名．くぬぎの木に生ず，白くして軟かく煮或ひは味噌漬けにして食ふ〔27.菜穀二：麅胶蕈〕

Giodohon 容貌のひきしまつた．利口げな〔11.容貌五：緊就〕

Giogin 手のひら〔彙：手掌〕

— arambi 合掌する〔19.佛二：問訊〕

Giogiyan 身體のひきしまつた．きりつとした〔11.容貌二：緊束〕物の精緻な．しまりのある〔25.諸物形狀三：緊束〕

— efen 高粱米を蒸し小豆餡を入れてやゝ長めの形に作り油揚げにしたるもの〔27.餑餑三：餃子〕〔續.餑餑：餃子〕

Giogiyangga kiyoo 十六人で擔ぐ赤褐色の輿〔6.鹵簿器用五：輕步輿〕

Giohambi 處々で恥を搆はず物乞ひし

て歩く．乞食をして歩く〔13.求望：乞求〕
Giohošombi 到る處で食を求めて歩く．乞食して歩く〔13.求望：討化〕
Giohoto 乞食〔10.人五：乞丐〕
Gioingge jafūdai 大軍船の名．形は Amcangga jahūdai (趕繪船) に似たれど尚大きく底赤些さか平たい〔26.船一：綳船〕
Gioro 清朝六祖の子孫．紅帶を着用す〔3.君一：覺羅〕
Gioroi gašan 遼東の地名〔續2.地輿：覺羅莊〕
— **tacikū** 覺羅の子弟共に書を與へ教習する學堂〔20.部院十二：覺羅學〕
Giowan 銅．あかがね〔22.貨財二：紅銅〕
Giowanse 絹〔彙：絹紗之絹〕
Girakū 奇獸の名．骨無し，虎噛むと雖も響む能はず，反つて虎の腹中に入り，内より食ひ破る〔補4.異獸七：猾〕
Giran 死體．死骸〔6.喪服一：屍〕
— **jafambi** 火葬に付する〔彙：亡者火化其屍．與 Jafambi 同〕
Giranggi 骨．骨骸〔10.人身六：骨〕
— **jalan** 骨の關節〔10.人身六：骨節〕
— **pai** Giranggi sasukū に同じ〔彙：骨牌〕
— **sasukū** 骨，象牙等で作つた牌〔19.戲具一：骨牌〕
Giratu 馬畜の骨格が大きい〔31.馬匹肢體一：骨格大〕
Giratungga 人の骨格逞しい〔11.容貌五：骨格粗肚〕
Girdan 1. 皮の細長い切れ端〔24.皮革二：碎皮子條〕2. 巫人の着用する神帽につけた各種紬の細長い布片〔6.祭祀器用二：神帽上飄帶〕3. 幅の周邊鋸齒狀の旗〔9.軍器七：蜈蚣纛〕4. 細長い肉の切り身〔27.飯肉一：剔下肉塊〕
— **kiltan i fiyenten** 旛幢の製造收貯を掌る役所．鑾儀衛に屬す〔20.部院八：旛幢司〕
Girdu cecike Derdu cecike (兜兜) の別名〔補4.雀五：吉吊〕
Girha 東方七宿の第七〔1.天文二：箕〕
Giri 切り揃へよ〔24.剪縫一：剃〕
— **cecike** Cinjiri (丁哥) の別名〔補4.鳥八：結線鳥〕
Giribumbi 切り揃へさせる〔24.剪縫一：使剃齊〕
Girikū (皮，紙，布など) 裁斷用の小刀〔22.工匠器用二：裁刀〕
Girimbi 切り揃へる〔24.剪縫一：剃齊〕
Girin efulembi 氷を敲いて魚を捕へる (秋，河沿ひに凍り初め河の中央部には氷塊が流れる時分になると魚が恐れて岸の氷の下に隱れる，其の魚を氷の上から敲いて追ひ出し網を伏せて捕へる)〔22.打牲器用二：敲氷打魚〕
— **i boo** 街路に面し門の兩翼に造りつけた家〔21.室家一：門面房〕
— **ula** 滿洲の地名〔續2.地輿：吉林〕
Girkūmbi 精勵する〔7.文學：篤志〕專心する〔12.黽勉：專心〕
Giru 1. 骨格．體骨．骨組み〔11.容貌一：骨格〕2. 弓柄の心軸．弓の中心になる木〔9.製造軍器二：弓胎〕
— **sacimbi** 弓柄の心軸を切り出す．木を弓の形に切り出す〔9.製造軍器一：砍弓胎〕
— **sain** 弓を射る格好が好い〔8.步射一：樣子好〕
Girubumbi 辱しめる．羞ぢさず〔17.羞愧：羞辱〕
Girucun 辱しさ．羞恥〔17.羞愧：羞恥〕
Girudai 南方產の鳳〔補4.鳥一：焦明〕
Giruha 羞ぢた．恥ぢ入つた〔17.羞愧：羞了〕
Girumbi 羞ぢる．恥ぢ入る〔17.羞愧：羞〕
Girutu 恥を知る人．廉恥の心ある人〔17.羞愧：有羞恥〕
Gisabumbi 敵を敗り殺す 敵を鏖にする〔8.征伐七：殺淨〕
Gisaka 賊死滅し盡した．全滅した〔8.征伐七：殺淨了〕
Gisan 馬畜の毛が脫け變る〔彙：牲口換毛了卽 Gisan halambi 也〕
— **halambi** 馬畜の毛が脫け變る〔31.

馬四肢體二：脫毛〕

Gise 賣女め！(女同志互ひに罵り合ふ言葉)〔16.咒罵：娼妓〕

Gista 1. 筋のさき〔10.人身七：筋頭〕2. 年經て用心深くなつた人．年經て狡猾になつた人〔17.奸邪：滑透人〕

Gisun 1. 言語．言葉〔14.言論一：言〕文句．話〔7.書三：句〕2. 太鼓を打つばち〔6.祭祀器用二：鼓揸〕

— **banjinarakū** 言葉が出て來ぬ．話が出來ぬ〔彙：說不出話來．不能言語〕

— **be gaijara temgetun** 納言旌の三字を刺繍したる旌〔6.幽簿器用二：納言旌〕

— **fuliburakū** (怒り或は氣鬱して)話が出來ぬ〔彙：很生氣或氣鬱說不出說．與 Gisun banjinarakū 同〕

— **goicuka** 言葉意に中つた．言葉人を刺した〔彙：言符合允協中意．與 Nukacuka 同〕

— **i fesin** (よからざること，差づべきことの)話の種．笑ひ話の種〔15.鄙薄：話把〕

— **mudan**〔彙：言語〕

Gisure 言へ．話せ〔彙：令人說〕

Gisurebumbi 話をさせる．語らせる〔14.言論一：使說話〕

Gisurecembi 互ひに話し合ふ．共に話し合ふ〔14.言論一：同說話〕

Gisurehe songkoi obu 話したことに依つて爲せ．議に依れ〔彙：依議〕

Gisurembi 話す．語る〔14.言論一：說話〕

Gisuren 1. 昔人の講釋を書ける書〔7.書二：語〕2. 說．言說〔14.言論一：語〕

Gisurendumbi Gisurenumbi 衆人銘々に話しをする．一齊に語る〔14.言論一：齊說話〕

Gisurenembi 行つて話をする．話をしに行く〔14.言論一：去說話〕

Gisurenjimbi 來て話をする．話しに來る〔14.言論一：來說話〕

Gisurere hafan 各科の事務を辦理奏上する官〔4.臣宰六：給事中〕

Gita loodan (人，物などが)非常に小さい〔25.大小：微小〕

— **loodan i gese** Gita loodan に同じ〔彙：凡人與物很小〕

Gituhan 絃樂器の名．形琴の如くして長さは二尺餘り；十絃，木の棒にて押へすり鳴らす〔7.樂器二：押琴〕

Gituku Cuse moo i jtu (竹竊) の別名〔補4.鳥六：雞頭滑〕

Giya 削れ〔26.裁砍：削〕

— **siyan leke** 白砂糖と蒸し麵とを混ぜたものゝ中に棗の餡を夾んだ團子〔彙：白糖和蒸麵中夾棗子餡的餑餑〕

Giyab わん．うをん (犬の鳴き聲)〔14.聲音五：哈吼狗叫聲〕

Giyabalabumbi (罪人の足を)夾ませる．棒で夾み責めさせる〔5.刑罰一：使夾〕

Giyabalambi (罪人の足を)夾む．棒で足を夾み責める〔5.刑罰一：夾〕

Giyaban 犯人に白狀を取ひるため足を夾み責めたてる道具〔5.刑罰一：夾擰〕

— **gidambi** 魚又しの木を沈める(皮を剝いだ杉の丸太に石をくゝりつけ河の淺い所の上手下手に夾み沈め，丸太の中央部だけを狹く殘しておくと夜間其の狹い所を通つて魚が入り込むので其魚を刺して捕る．其の仕掛けをすることをいふ)〔22.打牲器用二：叉魚下木亮子〕

— **gūlha** 馬騾驢などの股の皮で造つた靴〔24.靴襪：皮靴〕

Giyabsahūn 痩せて弱々しい(人)〔11.容貌七：痩怯〕

Giyabsarakabi 痩せて弱々しい．痩せ衰へた〔11.容貌七：痩怯怯的〕

Giyabumbi 削らせる．削り取らせる〔26.裁砍：使削去〕

Giyadaraka 縱橫に取り散した〔五體15.擲撒：亂縱橫〕

Giyaduraka Giyadaraka に同じ〔門增補訂15.擲撒：亂縱橫〕

Giyaha 落ち葉〔彙：凋落的樹葉．薪〕

— **sihambi** 落葉する．葉が散る〔29.樹木十：葉落〕

Giyahalcambi 馬が敏捷に動く〔31.馬匹動作一：動作伶便〕

Giyahūha cecike Jirha cecike (鶺鴒)

の別名〔補4.雀四：鷦鷯〕
Giyahūn たか〔30.鳥四：鷹〕
— baksi 鷹匠〔10.人三：鷹把式〕
— cecike 鳥名．形鶺鴒に似て，身大，嘴端尖り能く雀を捉へ食ふ〔30.雀一：鷹不刺〕
— i ošoho 鷹の爪．鷹の指〔彙：鷹爪〕
— maktambi 鷹を放つて鳥を捕へる〔9.畋獵三：放鷹〕
— ujire ba 鷹を飼養調練する處〔20.部院七：養鷹處〕
— yasa 野菜の名．形松かさに似て較ゝ細長い，酢漬にして食ふ〔27.菜蔬二：石松菜〕〔29.草四：石松塔〕
Giyai 街路．町通り〔19.街道：街〕
Giyajan 王貝勒等の從人〔4.臣宰七：王府隨侍〕
Giyaji （凡て造り上げたものが）見かけだけはよいが實は堅牢でない〔26.善造：好看不堅牢〕
Giyakda 刃も柄も內側に彎曲した小刀〔22.工匠器用二：彎刀〕
Giyakta 落ち葉．散り葉〔29.樹木十：地下落的葉〕
Giyaktu cecike Enggetu cecike（喘吠鳥）の別名〔補4.雀五：架格鳥〕
Giyalabumbi （與ふ可きものを或人には與へ或人には與へず）分けへだてをさせる．（幾山河を）隔てる〔12.落空：使間隔出〕（家の中などを）間隔させる．分け隔てを作らせる〔26.間隔：使隔斷〕
Giyalabun 間隔．隔り〔26.間隔：間隔〕
Giyalakū （家，櫃，器物等の）中間の隔て．仕切り〔26.間隔：隔子〕
Giyalambi （與ふべきものを或人には與へ或人には與へないで）分け隔てをする〔12.落空：間隔出〕隔てを作る．仕切りをする〔26.間隔：隔斷〕
Giyalgabumbi 與ふ可きものを與へさせない．除け者にさせる〔12.落空：使除出〕
Giyalgambi 與ふ可きものを與へない．獨りにだけ與へない．除け者にする〔12.落空：除出〕
Giyalganjambi 1. 一班一班と分れて公務に赴く〔5.輪班行走：隔班行走〕2. 間を隔てゝ時々に與へる〔12.落空：間隔著給〕
Giyalhūha 切斷し皮を剝いで乾かした木〔18.乾燥：晾劈柴〕
Giyalin gaha 反哺せず腹の白い鳥〔補4.鳥九：賈鴞〕
Giyaltu 海魚の名〔32.海魚一：白帶魚〕
Giyalu （骨角木石等の）龜裂．罅〔25.孔裂：骨角皴裂〕
— baimbi 人の缺點を探す．あら探しをする〔15.侵犯：尋破綻〕
Giyalun 易卦の名〔補1.書二：暌〕
Giyalunambi 龜裂が出來る．罅が出來る〔25.孔裂：皴裂了〕
Giyambi 削り取る．削る〔26.裁砍：削去〕
Giyamcan 奉天省の地名〔續2.地輿：鹼廠〕
Giyamulabumbi 驛馬を馳けさせる〔彙：使馳驛〕
Giyamulambi 驛馬を馳ける〔19.城廓：馳驛〕
Giyamun 驛場．宿場．驛站〔19.城廓：驛〕
— be kadalara hafan 驛站の用を承辦する官〔4.臣宰十：驛站官〕
— be kadalara yamun 驛站の用務を監督する役所．盛京兵部其他驛站所在地にあり〔20.部院九：驛站監督衙門〕
— i caliyan bodoro kunggeri 驛站の糧食に關する事務を掌る役所，兵部に屬す〔補2.衙署三：驛傳科〕
— i falgangga 驛站の車馬人夫を供給する役所，兵部に屬す〔20.部院四：館所〕
— i haha 驛場の荷物夫〔10.人二：馬牌子〕
— tebumbi （至急の通信を果すため街道の所々に）驛場を設ける〔8.征伐一：安臺站〕
Giyamusi 驛站の事務を主る官〔4.臣宰十二：驛丞〕
Giyan 1. 道理．筋道〔11.仁義：理〕2.

一間(ᡳᠨ ᡩᡝᡵᡝ)二間(ᡤᡠᠨᡳᠨ ᡩᡝᡵᡝ)の間〔集：一間兩間房之間〕
Giyan be jorikū 諭德 (Erdemu be neileku) の次の官〔4.臣宰四：中允〕
— fiyan 條理の具はつた．理路整然たる〔5.辨事二：有條有理〕
— giyan i 條理明白に．理路明白に〔5.辨事二：清清楚楚〕
Giyanakū 余分はない．限りのある〔25.多寡二：能幾何〕
Giyanceo 繭紬．絹紬〔集：繭紬〕
Giyancihiyan hoošan 薄くして光澤ある紙〔7.文學什物一：箋紙〕
Giyang 1. わんわん（犬の頻りに吠える聲）〔14.聲響五：狗急叫聲〕 2. 江．江河〔集：江海之江〕 3. 薑(ᡤᡳᠶᠠᠩ)〔集：薑〕
Giyangdu 1. ささげ〔27.菜穀一：豇豆〕〔28.米穀二：豇豆〕 2. ささげの油揚げ團子〔27.餑餑二：豇豆條〕
Giyangga 道理ある．條理ある〔11.仁義：有理〕
Giyangguhe Kiongguhe (鵾鴿) の別名〔補4.鳥八：鵾鴿〕
Giyangka beri 弓の一種．長い水牛の角を二個弓身に貼りつけたもので，角が長いので弓把が無い〔9.軍器三：通角弓〕
Giyangkū 凡てに怠り尻込みする人〔17.懶惰：退避〕
Giyangkūšambi 只管に尻込みする．無暗と怠け避ける〔17.懶惰：只管退避〕
Giyangna 書を講ぜよ．講義せよ〔集：令講〕
Giyangnabumbi 書を講じさせる．講義させる．〔7.文教：使講〕
Giyangnakū 非を認めずして强辯する人．强情者〔18.鈍癡：强嘴人〕
Giyangnakūšambi 非を認めずして强辯する〔18.鈍癡：强嘴〕
Giyangnambi 書を講義する．論義する〔7.文教：講〕講論する〔14.言論一：講論〕
Giyangnan goloi bolgobure fiyenten 江南省の農夫兵馬錢糧等の事を承辦する役所．戶部に屬す〔20.部院三：江南清吏司〕
— goloi falga 江南地方文官の功を查して議叙議處等のことを掌る役所．吏部に屬す〔補2.衙署一：江南甲〕
Giyangnandumbi Giyangnanumbi 衆人互ひに書の義を講論する〔7.文教：一齊講〕
Giyangsimbi 括られた犬が繩を脫けようとして頻りに吠え立てる〔14.聲響五：狗撐叫〕
Giyantu 武器の名．鐵製の鞭，四角にして把に銅をつけたるもの〔9.軍器六：鋼〕
Giyapi (錬鐵，木，或ひは軟かいものが)一皮脫げて盛れ上つた〔25.孔製：重皮〕
— šobin 燒いて幾皮も盛れ上らせた團子〔27.餑餑二：重皮燒餅〕
Giyapiriambi 一皮脫げて盛れ上る〔25.孔裂：起重皮〕
Giyar gir 1. きやっきやっ（猴の叫び聲）〔14.聲響五：猴叫聲〕 2. びーびー．びよびよ（雛鳥が母鳥を呼ぶ聲）〔14.聲響六：禽雛喚母聲〕 3. きやっ．けっ（鳥の急迫した時の鳴き聲）〔14.聲響六：禽鳥急鳴聲〕
Giyara moo 切りきざんだ木〔22.捆堆：劈柴〕
Giyarga. 奇獸の名．Ho lin 山に出づ〔補4.異獸七：瑕蛤〕
Giyargiyan seme つべこべと（言葉數多く頻りと小言を云ふ貌）〔15.責備：責備不了〕
Giyari 巡察せよ〔5.巡邏：巡〕
Giyaribumbi 1. 巡察させる〔5.巡邏：使巡察〕 2. 僧侶をして隱遁齋戒せしめる〔集：使出家去往別處齋戒〕
Giyarici 巡邏の兵卒〔10.人二：巡捕〕
Giyariha moo Giyara moo に同じ〔22.捆堆：劈柴〕
Giyarimbi 1. 巡察する．巡邏する〔5.巡邏：巡察〕 2. 僧侶が隱遁齋戒する〔集：出家去躲避別處齋戒〕
Giyarime dasara amban 總督の下にあり，一省のことを管辦する大官〔4.

臣宰十二：巡撫〕

Giyarime kederembi 巡狩する．巡幸する〔彙：巡狩〕

Giyarimsi 各府州縣の巡察事務を承辦する官〔4.臣宰十二：巡檢〕

Giyarinambi 行つて巡察する．巡察に行く〔5.巡邏：去巡察〕

Giyarinjimbi 來て巡察する．巡察に來る〔5.巡邏：來巡察〕

Giyarire jahūdai 巡視船．巡哨船．〔26船一：巡船〕

Giyase 物置き臺〔彙：架子〕

Giyatarabumbi 暗々裏に取らせる．暗々裏に取られる〔18.貪婪：使侵蝕〕

Giyatarambi 人に知らさず暗々裏に取る．かすり取る〔18.貪婪：侵蝕〕

Giyen 藍染めの染料〔22.貨財二：靛花青〕

— **gasha** いんこ〔30.鳥十：靛花〕

— **lamun** 藍の强い紫色〔23.采色一：天青〕

Giyengge Cunggur niyehe（油葫蘆）の別名〔補4.鳥七：贏〕

— **cecike** Jirha cecike（鶺鴒）の別名〔補4.雀四：過贏〕

Giyob seme びゆんと（鏑矢の近くで中つた音）〔8.騎射：近中聲〕

Giyobgiya alin 車駕山．Pingpi alin（平頂山）の別名．唐の太宗此山に駕を駐めしが故に此名あり〔補1.地輿一：車駕山〕

Giyoholohobi 眉髮を竪てゝ怒つた〔13.怒惱：發怒〕

Giyok seme どしんと（角力の時地響きして倒れる貌）〔8.撩跤二：跌的脆〕

Giyolo 額の上部〔10.人身一：顱門〕

Giyomo 五聲の一．宮商角徵羽の角〔7.樂二：角〕

Giyong seme 鳳凰飛ぶときの羽音〔彙：翽翽乃鳳凰飛之羽翅聲〕

Giyoo みづち〔彙：蛟〕

Giyoocan 步射騎射を習練する處〔19.城廓：教場〕

Giyor seme ごろごろと．ぐうぐうと．（腹が空いて鳴る音）〔13.饑餓：餓的腸鳴〕

Giyorobumbi 打たれて昏倒する〔5.捶打：打至惛迷〕

Giyorokobi 打たれて昏倒した〔5.捶打：打至惛迷了〕

Giyose 粟をこね小豆餡を入れて長めの形に作り油で揚げた團子〔彙：餈餈名小黃米打黏放小豆餡做的略長油扎者卽Giyose efen 也〕

Giyūn 重量の單位名．鈞．三十斤〔彙：三十斤爲一鈞之鈞〕

Go 婦人が朝服に掛ける金牌飾り〔24.飾用物件：女朝服上掛的金牌〕

Gobi 砂漠〔2.地輿一：瀚海〕

Gobolobumbi 殊更に與ふ可きものを與へさせない．殊更に除外させる〔12.落空：使有心遺漏〕

Goboloho 雉が樹上に棲つた〔30.飛禽動息二：野鷄落樹〕

Gobolombi 1. 殊更に與ふ可きものを與へない．殊更に除外して與へない〔12.落空：有心遺漏〕2. 雉が樹に棲る〔彙：野雞站落樹上〕

Goci 1.（漬物など）筋をつけておいて縫へ〔24.剪縫一：行〕2. 酒を搾れ〔28.澆漉：榨〕3. 糸を抽げ〔彙：令人抽〕4. 刀を拔け〔彙：令拔〕5. 人をひきよせよ〔彙：拉扯人近身之拉扯〕

— **tata** そわそわ．うかうか（輕率にして落ちつきのない貌）〔17.輕狂：抽抽搭搭〕

Gocika 水が減退した〔2.地輿七：水落〕

— **amban** 主君の側近に侍る大臣〔4.臣宰一：御前大臣〕

— **bayara** 護軍（Bayara）の中より更に抽出され皇帝の親近に屬する兵〔8.兵：親軍〕

— **bayarai juwan i da** 親軍（Gocika bayara）の長〔4.臣宰七：親軍校〕

— **hiya** 侍衛中より更に容貌よきを選び皇帝の側近に侍らしむるもの〔4.臣宰七：御前侍衛〕

Gocikangga mukšan 朱漆を以て飾り，兩端に短かい鉄金の筒を被らせたる杖〔6.鹵簿器用五：御仗〕

Gocikū 鎧の膝守き．草摺（Dusihi）に似たるもの〔9.軍器二：護膝〕普通の

股引及び靴下の上に着用する外出用又は狩獵用の外股引〔24.靴襪：套褲〕

Gocima (机，卓などの) 引き出し．Takakū に同じ〔25.器用一：抽屜〕

— **dere** 引き出し付きの机〔25.器用二：抽屜桌〕

Gocimbi 1. 笙を吹く．笙を鳴らす〔7.樂三：吹笙〕2. 胡琴をひく〔7.樂三：拉胡琴〕3. (相撲の際) 相手を自分の方にひきよせる〔8.撩跤一：向前拉〕4. 狩りの圍みの手薄な所を埋めるため前方の勢子を引き戻す．狩りの圍みを緊める〔9.畋獵二：緊圍〕5. (漬物など) 筋をつけおいて縫ふ〔24.剪縫一：行燙〕6. 酒を榨る〔28.澆潑：榨酒〕7. 糸を抽ぐ〔彙：抽糸之抽〕8. 水が減退する〔彙：水落之落．水漲溢後減退之減退〕9. 刀を抜く〔彙：拔刀之拔〕10. 兵を撤する〔彙：撤兵之撤〕11. 虹が出る〔彙：虹出了之出〕

Gocimbumbi 1. 痛みのために手足をひきづらせる〔16.疼痛二：手足抽搐〕2. (兵などを) 撤せしめる．引き上げさせる〔彙：使撤〕3. 胡琴をひかす〔彙：使拉胡琴〕4. (酒など) 榨らせる〔彙：使抽榨〕5. 筋をつけておいて縫はせる〔彙：使劃扯道子〕6. 刀を拔かせる〔彙：使拔〕7. 笙を吹かせる〔彙：使吹笙〕

Gocingga buren 木製の喇叭．長さ五尺余り，中程稍と太く，漆を塗り繪を畫き，口の所に口哨(ㄎㄠˋ)を挿入して鳴らす〔7.樂器二：畫角〕

— **mudan** 四聲の一．入聲〔14.聲音一：入聲〕

Gocishūdambi 謙遜する〔11.敬愼：謙遜〕

Gocishūn 謙遜．謙遜なる〔11.敬愼：謙〕

Gocisun 易卦の名〔補1.書一：謙〕

Godohon 背のすらりと高い〔11.容貌五：直高〕木の眞直ぐに立つた〔25.諸物形狀三：直樹著〕身體を眞直ぐにして (跪く)〔14.坐立一：挺身跪着〕

— **ilibuha** (凡ての物，凡ての高い物が只一個だけ) 眞直ぐに立つた〔彙：凡物凡高物獨一個直竪立放着〕

Godombi 魚が躍る．魚が跳ね上る〔32.鱗甲肢體：魚躍〕

Godondumbi Godonumbi 澤山の魚が一齊に躍り上る〔32.鱗甲肢體：齊躍〕

Godor seme ぶつぶつと (口内で獨語する狀)〔14.言論四：口内自語狀〕

Gofoho 眞直ぐな樹の周圍に仕掛けて小鳥を捕る罠〔22.打牲器用三：打樹上的雀套子〕

Gofoholohobi Gubulehebi に同じ〔29.樹木七：草木叢雜〕

Gofoloko 木に刻み穴を作り梁から吊して Hiyaban (糠燈) を挿し込むもの〔25.器用一：糠燈掛子〕

Goha 一度決めておき乍ら又止めた〔彙：先許了黃了．改悔了〕

Goho 粉粧を整へ氣取る人．酒落者．氣取り屋〔17.驕矜：好粧飾〕

Gohodombi 化粧をこらし氣取つた振舞ひをする〔17.驕矜：粧飾〕

Goholobumbi 引つかけさせる．鉤にかけさせる〔彙：使鉤之〕

Goholombi 鉤に吊す．鉤で引つかける〔26.拴結：鉤着〕毛皮の毛を鉤でひつかけ取る〔24.熟皮革：勾爬招毛〕(相撲のとき) 相手の股の外側から足をかけて扭る．脚を鉤かけする〔8.撩跤一：外勾子〕

Gohon 箭箙を掛ける帶の鉤〔9.撒袋弓靫：帶鉤〕擔ひ棒の兩端のひつかけ鉤〔25.器用七：擔杖鉤〕車の轅に打ちつけ車軸を夾む鉤形の鐵〔26.車轎二：鉤心〕凡て鉤〔彙：鉤子〕

— **i jiha sele** えびらを掛ける皮帶の端にある孔のある三片の鐵〔9.撒袋弓靫：帶鉤眼錢〕

Gohonggo 鉤形になつた．曲つたもの〔25.諸物形狀二：有鉤的〕

— **sujahan** 窓，額等を支へる鉤釘〔21.室家二：挺鉤〕

— **wase** 簷の兩端の瓦〔26.砌苫：勾頭〕

Gohorokobi 曲り縮んだ〔18.抽展：彎了〕毛尖が曲り縮んだ．縮れ毛になつた〔24.皮革二：毛勾了〕

Gohorokongge 縮んで鉤形になつたもの〔彙：屈挙像鉤的〕
Gohorombi 曲り縮む．鉤なりに曲る〔18.抽展：彎〕毛尖が曲り縮む．縮れ毛になる〔彙：凡毛尖拘攣挙環〕
Gohošombi 互ひに相手外らさず話し合ふ．互ひに勝手放題を云ひ合つて離れない〔14.言論二：彼此牽扯〕
Gohoto 臼についてゐる鉤状の木〔21.農器：碾桿木〕
Goibumbi 箭が確かにあたる〔8.歩射一：中的〕分け前があたる〔12.分給：分派〕
Goicuka 1. 言語事理に適切な〔14.言論一：切當〕2. 妨碍のある．妨げある〔18.散語四：妨礙〕3. 一見して眼を惹き心を動かす．看るに充分な〔25.諸物形狀三：扎眼〕
Goidabumbi 遅らせる．長引かしめる〔12.遅悞：使遅久〕
Goidaha 久しくたつた．遅れた〔彙：日久之久．遅悞了．久遅了〕
Goidambi 遅れる．久しくなる．長くたつ〔12.遅悞：遅久〕
Goidame elgiyen calu 山東徳州にある貯糧倉〔補2.衙署八：常豐倉〕
— **elgiyen namun** 直隷省の銀蔵庫〔補2.衙署八：恒裕庫〕
— **jalungga namun** 太僕寺の銀錢を收貯する庫．安徽，山西にも同様同名の庫あり〔補2.衙署八：常盈庫〕
Goiha 箭が中つた〔8.歩射一：中了〕分け前があたつた〔彙：輪着了〕突きあたつた〔彙：挨着了．撞着了〕
Goihorokobi 意志が薄弱である．志向が敗頽してゐる〔17.懦弱二：志向隳頽〕
Goiman 風流な．様子の好い〔17.淫蕩：俏浪〕
Goimangga 様子の好い人．風流人〔17.淫蕩：俏浪人〕
Goimarambi 様子よく振舞ふ．風流に振舞ふ〔17.淫蕩：粧俏〕
Goimbi 箭が中る〔8.歩射一：中〕物があたる．突きあたる．ぶつつかる〔15.遇合：該着〕
Goire fulu 箭の中ること多い〔彙：箭着的多〕
Goito 春狩獵の際雪上を歩行するのに滑らぬ様，裏一面に細かい骨釘を打ちつけたスキー様の履物〔24.靴襪：釘骨釘的木輔〕
Goji 歪んだ手指（不具）〔16.殘缺：歪指〕
Gojime …と雖も．只單に．徒らに〔18.散語四：但只口氣〕
Gojinggi 早口の（人）〔14.言論三：語急促〕
Gojong seme Gojor seme に同じ〔14.言論四：語急不清狀〕
Gojor seme ぺらぺらむにやむにやと（早口で言ふことの明瞭でない貌）〔14.言論四：語急不清狀〕
Gokci 犂の柄〔21.農器：犂身〕
Gokji 毛の脫け落ちた鳥〔30.羽族肢體一：脫毛禽鳥〕
Gokjibumbi （袋の太紐などに）各色の絹糸を包みつけさせる〔24.剪縫二：使打結子〕
Gokjimbi （袋の太紐などに）各色の絹糸を包みつける．各色の絹色を縫ひつけ包む〔24.剪縫二：打結子〕
Goko こっこっ（鶏の鳴き聲）〔彙：鶏鳴膠膠．與 Goko guwembi 同〕
Goksi 參朝用禮服の肩飾りなきもの〔24.衣服一：無肩朝衣〕
Golafungga moo 樹名．栢に似たれど枝稍ゝ長く，花軟かくして食ふを得〔補三.樹木二：仁壽木〕
Golaha びくりと手先ふるへて箭を放つた〔8.歩射二：放箭手動〕
Golbon 衣桁〔25.器用一：衣架〕
Golcehen coko をながどり．さざなみ〔補4.諸畜二：長尾鶏〕
Golderen 大型の物置机．Deretu より更に長大のもの〔25.器用二：大案〕
Golmikan 稍ゝ長い．長めの〔25.諸物形狀一：略長〕
Golmin 長い〔25.諸物形狀一：長〕
— **asari de tugi fisin i mudan** 翰林院にて酒宴の際に奏する音樂〔補1.樂：延閣雲濃之章〕
— **fungku** 細長く折り疊んで帶環に垂

れ下げる絹布〔24.巾帶：飄帶手巾〕

Golmin jan 箭の一種．鏃の形，上方略ゝ圓くして下方四角扁平，通常の鏃より長くして，四孔あり〔9.軍器四：長哨箭〕

— **niosha** 奇獸の名．犲犬の吠ゆるに似，人を食ふ〔補4.異獸一：長齒〕

— **šanyan-alin** 山名〔續2.地輿：長白山〕

— **temgetu** 公事に執照として押捺する印，黃銅製，關防より較ゝ長めに作りあり〔3.諭旨：條記〕

— **uncehengge šanyan baibula** 尾の長い練鵲(ほおじろ)〔30.鳥九：拖白練〕

Golmishūn 稍ゝ長めの〔25.諸物形狀一：長長的〕

Golmitu 奇獸の名．Yün meng 山に出づ，形野猫に似，長さ八尺〔補4.異獸五：獍〕

Golo 1. 河江の水の流れて居る所．河の流れ〔2.地輿八：河身〕2. 省（行政區劃の名，山東省浙江省等の省）〔19.城廓：省〕3. 鞍の上の敷物〔彙：馬鞍上之漫〕

— **onco** 漫りに廣い〔彙：漫大〕

Golobumbi 驚かせる〔13.怕懼一：使驚〕驚かされる〔彙：被驚恐〕

Golohoi 驚いたな．喫驚するなあ〔彙：驚怕着阿的口氣〕

Golohon gaimbi （小供が疳を起したとき，水を撒いて）發作を治す〔19.醫治：潑水收驚〕

Golohonjombi 小供が驚怖，又は病氣のため眠つてからも忽ち泣き出し或ひは突として身を震はす〔13.怕懼一：小兒驚疳〕〔16.疾病二：小兒驚疳〕

Goloi amban 總督，巡撫，提督等凡て地方の大官〔4.臣宰十二：外省大臣〕

— **beise** 古代の諸侯〔補1.古大臣官員：諸侯〕

— **hafan** 布政使按察使以下，雜職以上諸官の稱〔4.臣宰十二：外省官員〕

Golombi 1. 驚く．恐れる〔13.怕懼一：驚〕2.（嫌な人間と）同處するを厭ふ〔15.憎嫌二：厭與同處〕

Golon tuwa 晝天陰夜，野原に燃やす火〔23.烟火二：陰夜路火〕

Golondumbi Golonumbi 衆人齊しく驚く．共に驚く〔13.怕懼一：一齊驚〕

Golonohobi（河の兩岸は既に凍結してゐるのに）中流は未だ凍つてゐない〔2.時令九：中流未凍〕

Golorome 地方の省に（行く）〔19.城廓：外省去〕

Golotome simnembi 學人の試驗を行ふ．鄉試を行ふ〔4.考選：鄉試〕

Golton 燒け殘りの木株〔29.樹木十：烟頭〕

Gombi 一度事を決めておき乍ら又止める．定めたことを取消す〔17.奸邪：飜悔〕

Gon gan ごんがん．Garu（天鵝）或ひは Cin（鸂鶒）の鳴く聲〔14.聲響六：天鵝鸂鶒鳴聲〕

Gonggibu 取つて來い．持つて來い〔12.取送：使去取〕

Gonggibumbi 取つて來させる．持つて來させる〔彙：別處有的物件差人去取〕

Gonggimbi 取つて來させる．持つて來させる〔12.取送：使人去取〕

Gonggohon 獨り索然と．ぽつねんと〔14.坐立一：坐立無聊〕

Gonggohori 大勢のものが寂然として（坐りこんでゐる，又は立ちつくしてゐる）〔14.坐立一：衆人閑坐樣〕

Gonggon とんぼ返りして立つた背式骨(Gacuha)〔19.戲具一：直立背式骨〕

Gonggori 睡眠中忽然立ち上る．がばと跳ね起きる〔14.坐立二：臥處猛起〕

Gonjambi 1. 好轉しかかつた病氣が再び惡化する．病氣がぶり返す〔16.疼痛三：病反復〕悲しみを新たにする〔彙：悲怨將好之復添〕2. 一度決めたことを又飜へす．氣を變へる〔17.猜疑：飜復〕

Gorgi 馬の肚帶の扣子(しめ)〔9.鞍轡一：肚帶鏈子〕

Gorgin moo きはだ〔29.樹木二：黃檗〕

Goro 1. 遠い．遠方の〔19.街道：遠〕

2. やまえんじゆ. ふぢき〔29.樹木四：山槐〕

Goro aigan gabtara kacilan 遠射の箭. 武官進士の採擇試驗に用ふるもの〔9.軍器四：射遠把箭〕

— **mafa** 母の父〔10.親戚：外祖〕

— **mama** 母の母〔10.親戚：外祖母〕

— **omolo** 娘の子〔10.親戚：外孫〕

— **yasai buleku** 望遠鏡〔25.器用八：千里眼〕

Goroki 遠い所〔19.街道：遠方〕

— **be bilure bolgobure fiyenten** 蒙古青海西藏等の諸王諸侯或ひは諸廟喇嘛僧に位階を與へ又俸錄給付賞賜宴筵等のことを承辦する役所. 理藩院に屬す〔20.部院五：柔遠清吏司〕

— **be genggiyelere taktu** 貢院内の高樓の名〔20.部院十：明遠樓〕

— **be nikton obure jeo** 盛京省屬の州名〔續2.地輿：寧遠州〕

Gorokingge 遠方の者〔彙：遠者來之遠者〕

— **be tohorombure bolgobure fiyenten** 哈密, 吐魯番等外國使臣の饗應を司る役所. 理藩院に屬す〔20.部院五：徠遠清吏司〕

Gorokon 稍〻遠い〔12.街道：略遠〕

Goromime bodombi 遠きを慮る〔11.性情二：遠慮〕

— **gūnimbi** 遠きを想ふ. 將來のことを考へる〔彙：長想. 遠想〕

— **yabumbi** 遠方に行く. 幾日も旅行する〔14.行走一：遠行〕

Gosibumbi 人に愛される. 慈まれる〔11.仁義：被人愛〕慈します〔彙：使疼惜〕

Gosicuka 愛す可き. 慈む可き〔11.仁義：可愛〕

— **kenehunjecuke** 矜む可く又疑ふ可き〔彙：可矜可疑〕

Gosihabi 少々疱瘡が出た〔16.瘡腫二：花兒少〕

Gosiholombi 1. 慟哭する〔13.哭泣：慟哭〕苦しむ. 哀しみ苦もだえる〔彙：苦也. 苦求之苦. 憂苦哀苦. 昧苦〕2. 苦い味がする〔彙：昧苦〕

Gosihon 1. 慟哭〔13.哭泣：慟〕苦しみ. 苦しい〔彙：苦楚哀苦苦辣痛苦之苦〕2. 昧苦い〔28.滋味：苦〕

— **duha** 羊の小腸. 昧苦し〔27.飯肉二：苦腸〕

Gosihori 奇果の名. 大きさ指の如く味稍〻苦し〔補3.異樣果品三：棣腸子〕

Gosimbi 1. 愛する. 慈しむ. 憐れむ〔11.仁義：仁愛〕〔11.友常：憐愛〕2. 傷が痛む. うづく〔16.疼痛二：疼〕

Gosin 仁. 仁愛〔11.仁義：仁〕

— **jurgan dorolon mergen akdun** 仁義禮智信の五常〔彙：五常乃仁義禮智信〕

Gosindumbi 衆人互ひに愛しみ合ふ〔11.仁義：相仁愛〕

Gosingga 仁愛の心ある人〔11.仁義：仁人〕

— **gucu** 仁恕の友. 情けある友〔彙：仁恕之友〕

Gu 1. 父の姉妹〔10.親戚：姑〕2. 玉. 珠玉の玉〔22.貨財一：玉〕

— **dengjen ilha** 奇花の名. 花紅にして夜開く, 香高く叢生す〔補3.異花四：玉燭花〕

— **fileku ilha** 奇花の名. 花白くして大きさ手提げ燈に近く, 春季開く〔補3.異花五：玉手燈花〕

— **fiyahan** Fiyahan に同じ〔彙：玉石珙璁等物及凡物有花貴重者. 與 Fiyahan 同〕

— **honggo ilha** 奇花の名. 幹高く大, 花白くして鈴の如く香高し〔補3.異花三：玉鈴花〕

— **i ciktengge fukjingga hergen** 篆書體の一種. 李斯小篆を變じて作る處. 其の畫直きこと筋の如きが故に名付く〔補1.書四：玉筋篆〕

— **i cincilan** 古代日月星を觀測せる玉の管〔7.儀器：玉衡〕

— **i deyen tugi jeksengge mudan** 宮廷内大宴進酒の時奏するの音樂の名〔補1.樂：玉殿雲開之章〕

— **i falangga inenggi** 奇數月にあつては卯より申に至る, 偶數月にあつては酉より寅に至る六支の日を指してい

ふ〔補1.時令二：玉宇日〕
Gu i yamun de yebken urse be isabure mudan 翰林院に於て筵宴進膳の際奏する音樂の名〔補1.樂：玉殿延英之章〕
— **lujen** 皇帝の駕の名．屋根圓くして亭の如く，上に四塊の玉を嵌め，竹簾幃等の設けあり〔6.鹵簿器用五：玉輅〕
— **niyanjan** 皇帝の輦の名．頂上に玉を嵌め藍の幃を垂る，前後四杆，三十六人にて抬ぐ〔6.鹵簿器用五：玉輦〕
— **orho** たばこの草〔29.草二：莧〕
— **sifikū ilha** かうらいぎぼし〔29.花五：玉簪花〕
— **suje i hithen** 祭祀の際供へる所の玉帛を盛る器〔6.祭祀器用一：玉帛匣〕
— **wehe** 未だ磨きをかけない玉の石〔2.地輿六：璞玉〕
— **žung** 〔彙：姑殺〕
Gubci 普く．全く．全部の．一切の〔18.完全：普〕
— **abkai muheliyen durungga tetun** 鑄銅製の圓球，徑六尺，星宿，赤黄道及び宮度等を刻める天體儀〔7.儀器：周天球〕
Gubsu 個々の開いた花を指して一朶二朶などといふ朶にあたる語〔29.花六：朶〕
Gubulehebi 草木互ひに入り亂れて生えた〔29.樹木七：草木叢雜〕
Guceng 玉の美はしきもの〔補3.貨財：瑆〕
Gucihi 一夫二妻の場合，妻同志互ひに他を稱する語〔10.人倫二：二妻彼此稱呼〕
Gucihiyereku 他人を己が道伴れにせんとする人．嫉妬强き人〔18.兇惡二：肯攀人的〕
Gucihiyerembi 他人を己が道伴れにする．嫉妬する〔18.兇惡二：攀伴〕
Gucihiyerendumbi Gucihiyerenumbi 衆人互に他を己が道伴れにしようとする．衆人互に嫉妬し合ふ〔18.兇惡二：齊攀伴〕
Gucu 友達．仲間〔10.朋友：朋友〕
— **arambi** 友達になる．友達づき合ひする〔彙：朋友相待．當朋友待〕
— **duwali** 朋黨〔彙：朋党〕
— **gargan** 朋友．仲間〔彙：朋友乃衆朋友如樹之枝叉多也〕
— **giyajan** Giyajan に同じ〔4.臣宰七：王府隨待〕
Guculembi 友達づき合ひする．友とし交はる〔10.朋友：交友〕
Gucuse Gucu の複數形．友達共〔10.朋友：衆朋友〕
Gudešembi 續け樣に拳打する．拳を固めて亂打する〔5.爭鬪二：用拳連搥〕
Gudz 扇の骨〔彙：扇骨子〕
Gufan 玉の至美なるもの〔補3.貨財：璠〕
Gufu 父の妹姉の夫〔10.親戚：姑父〕
Gufute Gufu の複數形〔10.親戚：衆姑父〕
Gugun gasha 鳥名．福建の荒地に產す，頭は淡黑く羽の根元絲，尾藍，背と脚とは紅し〔30.鳥十：國公鳥〕
Gugurekebi 年老ひ腰の曲つた．腰が伸びない〔10.老少一：腰圭了〕
Gugurembi 寒さに堪えず，くの字形に身を曲げる〔13.寒戰：凍抽抽了〕腰を曲げる〔14.坐立二：彎腰〕
Guguršembi （長輩に對し）頻りと腰を低める．鞠躬如とする〔6.禮拜：鞠躬貌〕
Guh'ang Guceng に同じ〔補3.貨財：珩〕
Guhe 硝子玉〔22.貨財二：硝子石〕
Guheren ilha 奇花の名．葉大にして，莖紫，花は小囊狀をなす〔補3.異花四：囊瑮花〕
Guhūtun 古代祭器の名．珝〔補1.古祭器：珝〕
Gui かめ〔彙：龜〕
Guifei 貴妃．皇貴妃の次の妃〔3.君二：貴妃〕
Guifun 指輪〔24.飾用物件：戒指〕
Guigu 老いて尙衰へざる．老いて尙壯んな〔10.老少一：康健〕
Guikeri げんぼなし〔補3.異樣果品二：枳椇〕
Guilehe あんず〔28.果品一：杏〕

Guilehe boco あんず色．淡い黄金色〔23.朱色一：杏黃〕
Guilembi 會合する．約して遇ふ〔15.去來：會合〕
Guileri りんごの一種〔28.果品一：柰〕
Guini 南方七宿の第二〔1.天文二：鬼〕
Guioi 玉の貴きもの〔補3.貨財：璵〕
Guise 櫃(ﾂﾂﾞ)〔25.器用一：臥櫃〕
Gujehe 江東人の Kekuhe を呼ぶ語〔補4.鳥九：鶻鶄〕
Gujiri ilha とけいさう〔29.花二：玉蜀花〕
Gujung seme こつこつと（職人が仕事場離れず勉强する貌）〔26.營造：不動身做〕
Gukdu gakda 凸凹と．高低に〔2.地輿二：崎嶇不平〕
Gukduhun 地の高まつた處〔2.地輿五：鼓起處〕
Gukdun jofohori かうじ〔28.果品一：柑子〕
Guki moo 奇木の名．枝垂柳に似，實は三年にして紅らむ〔補3.異木：琪樹〕
Gukiong 微塵の汚れ無くして輝ける玉〔補3.貨財：瓊〕
Guksen 雲の一片〔彙：一朶兩朶雲之朶〕
— **guksen** 一しきり一しきり．一陣一陣〔彙：朶朶．陣陣〕
— **guksen agambi** 一しきり一しきり雨が降る．時々に雨が降る〔1.天文五：雨陣陣下〕
Gukubumbi 亡ぼす．殺滅する〔8.征伐七：使亡〕
Gukuhe 滅亡した〔8.征伐七：滅亡了〕
Gukumbi 亡びる．滅亡する〔彙：存亡之亡．敵賊亡滅之亡〕
Gukutele 滅亡に至るまで．亡びるまで〔彙：至於亡〕
Gulbu 虫名．秋河の中に落ち込む白い虫〔32.蟲一：墮河蟲〕
Gulejehebi 繩の結び目が解けた〔25.斷脫：繩扣開了〕
Gulhun 整つた．備はつた．完全の〔25.諸物形狀一：囫圇〕
— **dubengge suihe** 絲の撚り先〔24.巾帶：回頭穗子〕
— **teksin** 整齊した．整つた〔彙：整齊〕
— **suwanda** 一莖のにら〔彙：獨蒜頭〕
Guli jušen halangga niyalma 滿洲人奴僕．Jušen に同じ〔彙：滿洲奴才．與 Jušen 同〕
Gulin cecike Gūlin cecike（黃鸝）の別名〔補4.雀二：鸝黃〕
Guliyatun 古代樂器の名．璉〔補1.古祭器：璉〕
Gulmahūn うさぎ〔31.獸六：兎〕
Gulu 純朴な．素朴な．樸實の〔11.厚重二：樸實〕無地の．模樣の無い〔23.朱色三：素〕
— **fulgiyan** 八旗の一．純紅色の旗をしるしとするもの〔3.旗分佐領一：正紅〕
— **fulgiyan suje kiru** 紅緞の旗．皇貴妃の駕に用ふるもの．黑緞のものもあり〔6.鹵簿器用四：紅緞素旗〕
— **haksan bocoi suje sara** 皇貴妃の駕に用ゐる傘．花模樣などを付せず，素地は黃金色或は青，赤を用ひる〔6.鹵簿器用一：金黃緞素傘〕
— **haksan bocoi suje šun dalikū** 皇貴妃の駕に用ゐる扇．花模樣などを付せず，素地は黃金色或は青，赤を用ひる〔6.鹵簿器用一：金黃緞素扇〕
— **hošonggo šušu boco sara** 紫或は赤の無地張り四角形の傘，四方の垂れなし〔6.鹵簿器用一：紫素方傘〕
— **lamun** 八旗の一．純藍色の旗をしるしとするもの〔3.旗分佐領一：正藍〕
— **suje** 無地の緞子〔彙：素緞子〕
— **suwayan** 八旗の一．純黃色の旗をしるしとするもの〔3.旗分佐領一：正黃〕
— **šanyan** 八旗の一．純白色の旗をしるしとするもの〔3.旗分佐領一：正白〕
Guluken 稍々純朴な．幾分素朴な〔11.厚重二：略樸實〕
Gulung seme くどくどと．だらだらと（話の長いばかりで要を得ない貌）〔14.言論四：說不着要〕
Gun 衮龍の紋樣ある服〔彙：衮龍袍．

即 Gun etuku〕

Gunda ilha 奇花の名. 月光に遭つて開花す〔補3.異花一：拘尼拖花〕

Gung 1. 九品に分てる軍功者中の第一等に賞るもの〔4.臣宰三：公〕 2. 宮. 宮殿〔彙：宮殿之宮〕 3. 功. 功勞〔彙：功勞之功〕 4. 鑛. 鑛物. 鑛石〔彙：凡金銀銅錫水銀硫之硫〕

— **de wesimbi** 宮殿に回る〔彙：回宮〕

— **ilgambi** 功を論ずる〔彙：論功. 查對功牌論功〕

— **ni gege i efu** 公(Gung)の女婿〔3.君二：鄉君〕

— **ni jui gege** 公(Gung)の女〔3.君二：鄉君〕

Gungceo 最上絹. 獻上絹〔彙：宮紬貢紬. 與 Gungcun 同〕

Gungcun Gungceo に同じ〔彙：宮紬貢紬〕

Gunggge 功. 功績ある〔12.勗勉：功〕

— **amban** 勳功の臣〔4.臣宰一：功臣〕

— **amban i ulabun icihiyara kuren** 功臣の傳記を編纂する館〔20.部院十一：功臣館〕

— **be saišara goroki be bilure temgetun** 緞子地に「褒功懷遠」の四字を刺繍せる旌〔6.歯簿器用二：褒功懷遠旌〕

— **ilgambi** 功を論じ位に叙する〔8.征伐八：叙功〕

Gunggu 頭の後部が高い〔10.人身一：後奔顱〕

Gungguceme genggeceme おづおづ. びくびく(臆病者の物を忌避する貌)〔17.懦弱一：忐忑〕

Gungguhun cecike Indahūn cecike(戴勝)の別名〔補4.雀：戴鵀〕

Gunggulembi 高く上に向けて箭を射る〔8.步射一：向上射〕

Gunggulu 鳥の後頭部に突き出た羽毛〔30.羽族肢體一：鳳頭〕

Gunggulun coko 後頭部に羽毛の突出ある鷄〔補4.諸畜二：角鷄〕

Gunggulungge niongniyaha 後頭部に羽毛の突出ある鳳鳥〔補4.諸畜一：鳳頭鳳〕

— **saman cecike** Saman cecike(鳳頭阿蘭)の小さいもの〔補4.雀三：冠雀〕

— **še** とびの一種. 後頭部に羽毛の突出あるもの〔30.鳥三：角鳶〕

Gunggume 憂ありて只獨り縮かまり坐れる〔14.坐立一：圭蹙坐〕

Gunggun ganggan Guwele gala に同じ〔17.懦弱一：長縮〕

Gunghun 五聲の一. 宮商角徵羽の宮〔7.樂二：宮〕

Gungkeri ilha しろもくれん〔29.花五：玉蘭花〕

Gungnebumbi 恭しくさせる. 恭敬ならしめる〔彙：使恭〕

Gungnecuke 恭くしい. 恭敬の〔11.敬愼：恭〕

Gungnembi 恭くしくする. 恭敬を致す〔11.敬愼：致恭〕

Gunirekebi 1. 稍く怒り和いだ〔13.怒惱：氣略解了〕 2. 結び目が緩んだ〔25.破壞：同了扣〕

Gunirembi 1. 結び目が緩む〔25.破壞：同扣〕 2. (弓を一杯に引き絞つて, 放たんとする一瞬) 少しく緩める〔8.步射二：放箭吐信子〕 3. 怒が稍く和らぐ. 氣が稍く靜まる〔彙：人氣略減了消了〕

Gur seme ぐづぐづ, ぶつぶつと(言多くして厭はしき狀を犬, 猫などが Gur と唸るに譬へていふ)〔14.言論四：絮聒說〕

Gurehe 1. 懶惰狡猾の者〔17.懶惰：罷玩〕 2. 牛の頸の垂れ肉〔32.牛：牛頸筋〕

Gurehedembi 事を行ふに懶け怠る〔17.懶惰：行事罷玩〕

Gurehelebumbi 牛筋を捲かせる〔26.拴結：使纏筋〕

Gurehelehe beri 身を牛筋にて捲きたる弓〔9.軍器三：纏筋弓〕

Gurehelembi 弓に牛筋を捲きつける〔9.製造軍器一：纏筋〕折れたものを牛筋で纏き繋ぐ〔26.拴結：纏筋〕

Gurelji おほこほろぎ〔32.鳥二：金鍾

見〕

Gurgu 獣. 動物. 野獣〔31.獣一：獣〕

— **darimbi** (巻狩りのとき) 澤山の獣が人に擦れて行き過ぎる〔彙：圍場中野獣近身擦過的多〕

Gurgutu 宮殿の四隅の棟に彫みつけた獣の頭〔20.壇廟：獣頭〕

Guribumbi 移す. 遷移する〔15.遷移：使遷移〕〔15.挙動：挪移〕

Guribume fungnembi 移して封ずる (身に受く可き封誥を, 願ひて祖父母父母に及ぼし封ずること)〔3.封表一：贈封〕

Guribure bithe 本部院内の諸司互に移查する書〔5.事務三：付咨〕

Gurimbi 移る. 移動する〔15.遷移：遷移〕

Gurinembi 移り行く. 移動し行く〔15.遷移：遷移去〕

Gurinjembi 屢〻移動する. 遷移して定らない〔15.遷移：屢遷移〕

Gurinjimbi 移つて來る. 移動し來る〔15.遷移：遷移來〕

Guriwa ilha 奇花の名. 葉と幹とは竹に似, 毎節三枝を生じ, 花朶小〔補3.異花一：倶那衛花〕

Gurjen こほろぎ〔32.鳥二：促織〕

Gurlun gūwara Fu gūwara, (木兎) の別名〔補4.鳥四：穀蟊鷹〕

Gurubumbi (菜などを) 抜き採らせる. 摘み採らせる〔21.割採：使採〕

Gurukebi 激怒して顔色紅潮した〔11.容貌八：臉紫了〕紅く腫れ上つた. 瘡が赤くなつた〔16.腫瘍：紅腫〕

Gurumbi 1. (菜などを) 摘み採る. 〔21.割採：採〕2. 腫れた處が紅くなる. 紅く腫れる〔彙：凡瘡處紅〕

Gurun 國. 國家〔19.城廓：國〕

— **be dalire gung** 公. 宗室封爵の第五等〔彙：公乃五等宗室〕

— **be dalire janggin** 宗室第十一品の封爵〔3.君一：鎮國將軍〕

— **be tuwakiyara janggin** 宗室第十三品の封爵〔3.君一：奉國將軍〕

— **de aisilara gung** 公. 宗室封爵の第六等〔彙：公乃六等宗室〕

— **de aisilara janggin** 宗室第十二品の封爵〔3.君一：輔國將軍〕

— **gūwa** 外國人. 異國人〔18.爾我二：外人〕

— **i bodogon** 國策〔彙：國計〕

— **i efu** 固倫公主 (Gurun i gungju) の配偶者〔3.君一：固倫額駙〕

— **i gungju** 皇帝の女. 內親王〔3.君二：固倫公主〕

— **i juse be hūwašaburę yamun** 天下の教化を計り學生の教育を總監する衙門〔20.部院六：國子監〕

— **i suduri be asarara yamun** 實錄國史等を收藏する衙門〔20.部院二：皇史宬〕

— **i suduri kuren** 國史の編纂所〔20.部院十一：國史館〕

— **i tacikū** 國立の大學堂〔20.部院十二：太學〕

Gurunambi (菜などを) 採みに行く. 行つて採む〔21.割採：去採〕

Gurung 1. 宮. 宮殿〔20.宮殿：宮〕2. 天の宮. 周天三百六十度, 三十度を一宮とす〔1.天文三：宮〕

— **de wesimbi** (皇帝が) 宮に還る. 宮に入る〔6.禮儀：還宮〕

Gurunumbi 衆人一齊に採み取る. 各自採み取る〔21.割採：一齊採〕

Guse 尼. 比丘尼〔彙：姑子. 尼姑〕

Gusherakū 素質のない人. 何事も出來ない人〔18.鄙瑣：不成器〕

Gusimen 奇果の名. 人此實を食べば仙人となる〔補3.異樣果品二：平仲〕

Gusucuke 悶ゆ可き. 煩悶に堪えない〔13.愁悶：可煩悶〕

Gusucumbi 煩悶する. 惱みに堪えない〔13.愁悶：煩悶〕

Gute Gu の複數形〔10.親戚：衆姑〕

Guwa tuwambi 卦を見る. 卦を占ふ〔彙：占卦〕

Guwafu 1. 松葉杖〔25.器用二：拐子〕2. 小舟の兩側に突き出し片手に一本宛取つて漕ぐ櫂〔26.船三：雙拐〕

— **moo** 短い棍棒の一端に横木を打ちつけた武器. 撞木狀の武器〔9.軍器六：拐子〕

Guwaige Guwafu に同じ〔25.器用二：拐子〕
Guwalase 野菜の名．なづなに似て，又菜の如き實を生ず，味鹽漬けの瓜に似たり〔27.菜穀一：客瓜〕
Guwalasun 婦人の着用する袖無しの短衣〔24.衣服一：女依肩掛〕
Guwali 城門外通路兩傍の住家〔19.城廓：關廂〕
Guwang mucen 廣東產の薄い鐵鍋〔25.器用四：廣鍋〕
Guwandz 管樂器〔彙：管子乃樂器配筆續者〕
Guwangga ilha そけい．しんそけい．ヂヤスミン〔29.花四：素馨花〕
Guwanggun 惡漢．無賴漢〔彙：光棍〕
Guwanggūsambi 無賴を働く．橫暴な行爲をする．小供が駄々をこねる〔彙：光棍行事．勢强賴詐．小孩子撒潑撒賴〕
Guwangse 1. 罪人の足枷〔5.刑罰二：脚鐐〕2. 木柵．木籬〔21.室家四：整木欄〕
— **sangse etubumbi** 足枷手枷をかける〔彙：使帶手肘脚鐐〕
Guwangsi tebumbi 觀席を設ける（宴席より遠く離れて人の飮食するを觀覽する席を設けること）〔6.筵宴：設觀席〕
Guwanni 凡ての事を避ける．安閑とせる〔17.懶惰：躲事〕
Guwase Ubašakū（麻花，團子の名）の大なるもの〔27.餑餑二：大麻花〕
Guwatalambi 平等に分ち取る．同じ樣に分得する〔12.分給：平分〕
Guwebumbi 罪を恕す．寬免する．免じ宥す〔5.寬免：寬免〕〔8.征伐八：寬宥〕
Guwebure hese 罪人を宥す勅書〔3.論旨：赦〕
Guweciheri 赤味がかつた灰色〔23.采色二：月白〕
Guwejihe 〔10.人身七：胃〕
— **da** 胃の上の口．胃が食道につながる所〔10.人身七：胃口〕
Guweke Guwelke に同じ〔13.愛惜：小心著〕
Guwele gala こそこそ．びくびく（長縮忌避して振舞ふ貌）〔17.懦弱一：長縮〕
Guwelecembi （密かに物を盜まんとして）隙を伺ふ〔16.窃奪：窺探〕（臆病な人間が）こそこそと振舞ふ〔17.懦弱一：暗窺〕
Guweleku Asihan sargan に同じ．日蔭者〔10.人倫二：妾〕
Guwelke 小心の．謹愼な．仔細な〔13.愛惜：小心著〕
Guwembi 1. 罪を脫れる．放免になる〔5.寬免：脫免〕2.（鼓鑼などの音が）響く．響き渡る〔14.聲響三：響〕鳥が鳴く〔14.聲響六：鳥鳴〕
Guwembumbi 音を響かせる．鳴り渡らせる〔14.聲響一：使響〕鳥を鳴かせる〔彙：使雀鳥叫〕
Guwenci 若し鳥が鳴いたら．小鳥が囀れば〔彙：鳥若鳴．雀若叫〕
Guwendehen よしきりの別名．よしきりは絕えず鳴き續くるが故に此名あり〔補4.雀一：喚起〕
Guwendembi 鳥がしきりと鳴く〔14.聲響六：屢鳴〕（鼓鑼の音が）しきりと鳴り響く〔彙：鼓鑼銅器等物只管打的響聲〕
Guwenden cecike 小鳥の名．身紅くして脚黃色く，夜五更の頃に鳴く〔補4.雀五：五更囀〕
Guwendengge itu くひなの類．體非常に大〔補4.鳥六：秧雞〕
Guwendere še i kiru 幅に鳥の像を刺繡せる旗〔6.鹵簿器用三：鳴鳥旗〕
— **gūwara inenggi** 戊午，戊申を除いた午申酉の日をさしていふ〔補1.時令二：鳴吠日〕
Guwenderhen ひばり〔30.雀六：哨天雀〕
Guwengke 音が響いた〔14.聲響一：響了〕鳥が啼いた〔彙：禽鳥啼鳴〕
Guye 1. 刀の柄頭に嵌め込んだ鐵〔9.製造軍器四：刀把頂束〕2. 踵．かかと．きびす〔10.人身五：脚根〕
— **sele** 弓袋，箭筒等の角に打ちつけた

鐵片〔9.撒袋弓靫：角鐵飾件〕

Guyoo 玉の潤光あるもの〔補3.貨財：瑤〕

Gūbadambi 怒りを發して暴れ廻る〔5.爭鬪一：掙跳〕(馬などがくゝられて) 跳ね廻る〔31.馬匹動作一：掙跳〕(魚が) 跳ね上る〔32.鱗甲肢體：翻迸〕

Gūbcibumbi 馬の尻に屜 (Namki) を掛けて竹木で夾ませる〔31.套備馬匹：使搭屜〕

Gūbcimbi 馬の尻に屜 (Namki) を掛けて竹木で夾む〔31.套備馬匹：搭屜〕

Gūbiha (車に積載した荷物，或ひは大きな物を) 荒繩で堅く締めつけた〔26.拴縛：煞住了〕

Gūbimbi 荒繩で堅くしばりつける〔彙：用大煞繩拴煞東西〕

Gūbiri くわゐ〔28.果品三：茨菇〕

Gūca 雌の山羊〔31.諸畜一：母山羊〕

Gūcila 火に入つて一方の端だけ燒けた木〔29.樹木十：燒過一頭木〕

Gūdu gada べちやくちや (互に閑談する貌)〔14.言論四：彼此閒談〕

Gūdumbi 魚が卵を產む〔32.鱗甲肢體：肢擺子〕

Gūi gūi ほーい，ほーい (鹿などを圍んで追ふ聲)〔9.畋獵二：趕獸聲〕ほっほっ (はやぶさを餌で呼びよせる聲)〔14.聲響一：喚兎鶻聲〕

Gūje ほうー (鷹を餌で喚びよせる聲)〔14.聲響一：喚鷹聲〕

Gūla beye 當人．本人〔10.人身一：原身〕

Gūlabume waha 山上より投げ落して殺した〔8.征伐七：投崖掩殺〕

Gūlakū 險崖の下の谷間〔2.地輿四：峭崖〕

Gūlambi 烟が後戻りする．烟が烟突から出ないで竈口の方から出る〔23.烟火四：烟洞倒風〕

Gūlame tuhenjihe 山の高い處から轉がり落ちた〔21.倒支：從高處輾下〕

Gūldargan 燕の類．羽の根元赤く，長い巢を作る〔30.雀三：越燕〕

Gūldarkūlaha 馬の腰頸が强直して頭を下げ草などが食へなくなつた (馬の病氣)〔32.馬畜殘疾一：低頭難〕

Gūldun 城門通路にあたる穹窿形の所〔19.城廓：城門洞〕橋下の穹窿形の部分〔19.街道：橋洞〕

Gūldurakū yoo 瘡が口を開いて收まらず深く內側より膿の流れ出るもの〔16.瘡膿一：肯套的瘡〕

Gūldurambi 1. 瘡が內側に向つて大きく口を開く〔16.瘡膿一：往裡套〕2. 內部より事を敗る．密かに事を破る〔18.兇惡：鑽營〕3. 地を掘りわる．洞を掘る〔彙：掘刨地洞〕

Gūldurame eyembi 河が地底を流れる．水が地中を流れる〔2.地輿九：水行地中〕

Gūlduri 堤の下の水流口〔19.街道：涵洞〕

Gūldusi 探りの者．まはし者．間諜〔10.人五：奸細〕

Gūlganahabi 踦が長く伸びて上の方にめくれ上つた〔32.馬畜殘疾二：踦翹〕

Gūlgirakū 忘れようとして忘れられない．思ひ捨てられない〔11.性情一：心內放不開〕

Gūlha〔24.靴襪：靴〕

— šusen 靴の踵上部につけた皮紐〔24.靴襪：靴溜根〕

Gūlhi wehe cinuhūn 硃砂 (Wehe cinuhūn) の上質なるもの〔22.貨財二：兎腦砂〕

Gūli gali ほーほけきよ (鶯の鳴き聲)〔14.聲響六：黃鸝噪聲〕

Gūlibumbi 相契らせる．互に和せしめる〔11.親和：使相契〕

Gūlimbi 相契る．意氣投合する〔11.親和：相契〕

Gūlin cecike てうせんうぐひす〔30.雀一：黃鸝〕

Gūljambi 舟を後に引き乍ら急流を下る (急湍に舟を下らす場合，用心して舟の後部に繩を結び後に引き乍ら行くことをいふ)〔26.船四：溜處倒拉縴〕

Gūljarhan 鞭などの把手につけ，手指に掛ける皮紐〔9.鞍轡二：搥手〕

Gūlmahūn うさぎ〔彙：兎子〕十二支

の卯〔2.時令一：卯〕
Gūlmahūn biya 如月．二月〔補1.時令一：如〕
— **i asu** 兎捕りの網．兎かけの網〔22.打牲器用四：兎網〕
Gūlmahūngga aniya 卯の年〔補1.時令一：單閼〕
Gūlugala ひそひそ（人に聴られぬ様低聲に話す狀）〔14.言論四：低聲說話狀〕
Gūmbi 1.犬が嫌な聲を出す〔14.聲響五：狗惡聲叫〕2.肉を抉り取る〔28.剝割一：剜取肉〕
Gūn halambi 1.鳥の毛が脫け落ちる．脫けかはる〔30.羽族肢體一：換毛〕2.蛇が皮を脫ぐ〔32.龍蛇：蛇退皮〕
Gūna 三歲の牛〔32.牛：三歲牛〕
Gūng gang がー，がー〔14.聲響六：雁鳴聲〕
Gūnggala coko 鳥名．頭に黑毛あつて帽子のふさの如く，鬪爭性强し〔30.鳥六：鷄雞〕
Gūnggari niongniyaha 雁の別名〔補4.鳥三：鴚鷙〕
Gūngkali 河岸の下方，流水が削り取つた處〔2.地輿十一：涮空處〕
Gūngkambi 蒸し蒸しとした暑さがする．鬱陶しい暑さがする．〔2.時令八：悶熱〕
Gūngkan のどぼとけ〔10.人身三：結喉〕
Gūngkanahabi のどぼとけが突出した．のどぼとけが大きい〔11.容貌二：結喉長出〕
Gūni 想へ．考へよ〔11.性情一：想著〕
Gūnibumbi 1.思はせる．考へさせる〔11.性情一：使思想〕2.人に厭惡の心を懷かれる〔彙：被人厭惡懷意于心〕
Gūnicun 思情を歌にし，節つけ歌ふ様作りたるもの〔7.書三：懷〕
Gūnigan 思ひ．思慮〔11.性情一：思〕
Gūnihakū 思はなかつた〔彙：不憶．不想〕
Gūnihangga 考へのある．思ひの周密な．識見ある〔11.性情一：有識見的〕
Gūnijan 想ひ．望み想ふこと〔11.性情一：想〕
Gūnimbi 思ふ．思慮する．考へる〔11.性情一：思想〕
Gūnin 意．意志．意向〔11.性情一：意〕
— **ajabumbi** 己が意を人に知らせる．意向を示す〔5.辦事一：示意〕
— **be ujimbi** 志を養ふ．父母の志に順ふ〔彙：養志乃養父母之志也〕
— **falabumbi** 事によつて思ひが混亂する〔5.繁冗：混亂心思〕
— **hiri oho** 心暗憺とした．失望した〔彙：心失指望心寒了．與 Usatala oho 同〕
— **i cihai** 意の儘に．意向に任せて〔彙：任着意見．由着意見〕
— **tarhūn** 行僭越にして氣强い（人）．心臟の强い（人）〔17.驕矜：心肥〕
Gūninambi 思ひつく．思ひ及ぶ〔11.性情一：想起〕
Gūningga 考へのある．意向のある〔11性情一：有識見〕
Gūninjambi 思案する．沈思する〔11.性情一：思量〕
Gūr gar がを，がを．かあかあ（群鳥の飛び乍ら鳴く聲）〔14.聲響六：羣鳥飛鳴聲〕
Gūrakūšambi きよろきよろと見廻す〔11.容貌三：賊眉鼠眼〕
Gūran 1.荷造り用の細繩〔24.巾帶：荷包繫子〕2.牡の麝（Gio）〔31.獸三：公麝〕
Gūrbambi 人を躲し逃げる．避け躲す〔16.逃避：躲閃〕
Gūrbi がま〔29.草三：蒲草〕
Gūrgi 帶の掛け金〔24.巾帶：折舌〕
— **foyo** はますげ〔29.草二：水甸莎草〕
Gūrgilabumbi 烟に赤く燒かれる．赤々と燒かれる〔23.烟火三：被火燄熾燎〕
Gūrgilambi 赤々と燃える．烟を吹いて燃える〔23.烟火三：冒火燄〕
Gūrgin 火烟〔23.烟火三：火燄〕
— **dalikū** 爐，香爐，手提爐などの上に被せて火を蔽ふ蓋〔25.器用六：頂火〕
— **muduri dardan** 火烟にくるまる龍の紋様を織り出したる緞子〔23.布

帛一：火焰龍粧緞〕

Gūrgitu 奇獸の名．厭火國に出づ，形猿に似，歩くこと人に似たり，純黒にして口中より火を吐く〔補4.異獸五：厭火獸〕

Gūsa 清朝八旗の旗．固山〔3.旗分佐領一：旗分〕

— **be kadalara amban** 一旗を總督する官〔4.臣宰二：都統〕

— **i ejen** Gūse be kadalara amban に同じ〔彙：都統〕

Gūsai baitai kunggeri 八旗都統副都統の任命，外地派遣旗人の補任等を掌る役所．兵部に屬す〔補2.衙署三：都統科〕

— **beise** 宗室十四品の封爵中其第六品なるもの〔3.君一：固山貝子〕

— **da** 省城駐防の章京馬甲等を旗毎に管治する官〔4.臣宰十三：協領〕

— **efu** 固山貝子 (Gūsai beise) の女婿〔3.君一：縣君儀賓〕

— **fujin** 貝子の夫人〔彙：貝子夫金〕

— **gege** 固山貝子 (Gūsai beise) の女〔3.君二：縣君〕

— **yamun** 各旗の諸事を總辦する役所〔20.部院九：都統衙門〕

Gūsici 三十番目．第三十番〔彙：第三十〕

Gūsihiya 境界．交界〔19.城廓：交界〕

Gūsin 數詞．三十〔7.數目二：三十〕月の三十日．月の晦日〔2.時令七：三十〕

Gūsinggeri 三十回．三十度〔彙：三十遭．三十次〕

Gūsita 三十毎．三十宛〔彙：各三十．毎三十〕

Gūsu 太い荒繩〔26.拴結：煞繩〕

Gūsulambi 暴れ廻る馬を荒繩でしばりつける〔31.套備馬匹：煞繩套馬〕

Gūtubumbi 1. 惡人と交つて己れの美點を害ふ．惡に染る．朱に染る〔17.過失：玷辱〕 2. 祖先の名を辱しめる〔彙：玷辱祖父之玷辱〕 3. 酒に困しむ〔彙：不爲酒困之困〕

Gūtuburakū 1. 祖先の名を辱しめない〔11.孝養：不玷辱〕 2. 朝早くから夜晩くまで營々として働く〔彙：人子早起遲睡所交事盡力行爲〕 3. 困しむ樣なことをしない〔彙：不爲困〕

Gūtucun 原來行ひ善きものが一二非行のために凡ての善事を敗ること〔17.過失：玷〕

Gūwa 別の．別の人〔18.爾我二：別人〕或る〔彙：或問之或．或人之或．或日之或〕

Gūwabsi 別の處に向つて〔18.散語四：向別處〕

Gūwacihiya 驚いて跳ね上ること〔彙：嚇一跳．乃整字〕

— **tata** Tete tata に同じ〔17.輕狂：跳跳蹦蹦〕

Guwacihiyalambi 驚き跳ね上る．吃驚する．はつとばかり驚く〔13.怕懼一：吃驚〕

Gūwacihiyašambi そわそわする．落ちつきが無い〔17.輕狂：肯驚慌〕肉がびくびく動く〔16.疼痛二：肉跳〕

Gūwahiyan 1. 一隊一隊營を結べる．犄角の勢をなせる〔8.征伐一：犄角之勢〕 2. 地を掘つて作つた竈〔25.器用四：地鍋坑〕

— **arame iliha bi** 一隊一隊營を結んだ．地を掘り竈を作つて營を立てた〔彙：一隊一隊彼此立營．埋鍋安營〕

Gūwahiyatu 奇獸の名．乾山に出づ，牛に似て，角は三本〔補4.異獸三：獜〕

Gūwaidabumbi 手をつっかひ，からだを歪めて凭りかゝらせる〔15.歇息：使歪靠〕

Gūwaidambi 手をつっかひ，からだを歪めて凭りかゝる〔15.歇息：歪靠〕

Gūwaidanahabi 1. 小柄で風采が上らぬ〔11.容貌二：歪斜〕 2. 支那の女の如く足を外開きにして歩む〔14.行走三：歪拉着走〕

Gūwaingge 別人のもの〔18.爾我二：是別人的〕

Gūwaisuntumbi 素知らぬ振りして傲慢な振舞ひをする〔17.驕矜：佯佯不睬〕

Gūwaliyabumbi 變へる．變壞する〔彙：使變壞〕

Gūwaliyakabi 味が變つた〔28.滋味：

味變了〕

Gūwaliyambi 1. 變る. 改變する〔16. 叛逆：改變〕2. 體内の具合が惡くなつて昏迷する〔16. 疼痛三：發迷〕

Gūwaliyandarakū 終始心變りする處ない〔11. 仁義：不改變〕

Gūwaliyašakū 忽然として善くなり又忽然として惡くなる(人). 變轉極りなき(人)〔18. 兇惡一：肯變卦的〕

Gūwaliyašambi 病ひ重つて大いに體内の具合が惡い. 頻りとして昏迷する〔16. 疼痛三：常發迷〕

Gūwambi (犬が噛みつかうとして)吠えたてる〔14. 聲響五：狗叫〕

Gūwambumbi 犬に吠えさせる. 犬にけしかける〔彙：使狗叫〕

Gūwancihiyan 味が口に合はぬ〔28. 滋味：味不中喫〕

Gūwanumbi 澤山の犬が一齊に吠えたてる〔14. 聲響五：衆狗齊叫〕

Gūwar gūwar がーがー. がをがを(鴨や蛙の鳴き聲)〔14. 聲響六：鴨蛙鳴聲〕ぐーぐッ(雌雄の鳩の互ひに相喚ぶ聲)〔14. 聲響六：雌鳩相鳴聲〕

Gūwarimbi がまが鳴く〔14. 聲響六：蝦蟇叫〕

Gūwasihiya さぎ. しらさぎ〔30. 鳥一：鷺鷥〕

Gūwašabuha 神鬼に祟られた〔19. 鬼怪：神鬼見怪〕

Gūwašakabi 酸いものゝ味が變つた. 酸味が變つた〔28. 滋味：酸物味變了〕

Gūwaššabumbi 肉を薄く切らせる〔28. 剝割二：使割薄肉片〕

Gūwaššambi 1. 肉を薄く切る〔28. 〔剝割二：割薄肉片〕2. 肉がびくびくと動く〔16. 疼痛二：肉跳〕

Gūwaššan 薄く切つた肉片〔27. 飲肉四：肉片〕

Gūyambi 1. (鹿麝等が秋の交尾期に)木に肌を擦りつける〔31. 走獸動息：獸曾樹〕2. 龍が聲を出す. 龍が吟ずる〔32. 龍蛇：龍吟〕

Gūyandumbi 1. 澤山の獸が跳ね廻る. 一齊に跳ね戲れる〔31. 走獸動息：衆獸跳舞〕2. (鹿麝等の獸が秋に入つて)交尾しようとする〔彙：鹿麝等衆獸秋天想交〕

G'

G'abišara 佛典に雉を指して稱する語〔補4. 鳥六：迦頻闍羅〕

G'aci 重量の單位名. 須臾(Tanji)の十倍〔補3. 衡量：瞬息〕

G'amuliyang カメレオン〔補4. 異獸五：加默良〕

G'an 鋼鐵〔22. 貨財二：鋼〕

— i siren 鋼鐵の針金〔22. 貨財二：鋼條〕

G'aoming 五品以上の官を任命する辭令〔彙：誥命乃五品官以上之誥命〕

G'ardan be necihiyeme toktobuha manju nikan hergen i bodogon i bithe 書名〔續2. 書：平定朔漠清漢字方略〕

G'o 量目. 合〔彙：升合之合乃十勺爲一合也. 一手捧之爲一勺〕

G'odarga 佛典に鷲を指して稱する語〔補4. 諸畜二：鳩七咤〕

G'ogin やもめ〔10. 人五：鰥〕

G'ona ilha けふちくたう〔補3. 異花二：拘那花〕

G'onggʻon 直立した牌〔彙：直立牌式骨〕

H

Ha 1. はあー(凍つたものに吐きかける息の音)〔14.聲響二:哈凍聲〕 2. ぎやつ(猛禽類が人に抗ふて發する聲)〔14.聲響六:鳴鳥很鬪拒人聲〕 3. 雉を捕る網の一種. 丸枠に網を括りつけ罠をしかけたもの〔22.打牲器用三:唳網〕 4. はぁは (凡て辛いものが喉を通る時に出る息の音)〔彙:吃辣鹹物進喉哈出之聲〕 4. ……した (動詞の過去形を示す語尾)〔彙:畢了字意〕

Habcihiyadambi 親愛の情を示す. 手厚くもてなす. 款待する〔11.親和:待人親熱〕

Habcihiyan (親類朋友に對し)懇な. 親身の. 慇懃な〔11.親和:親熱〕

Habgiyambi 欠伸をする〔15.睡臥一:打哈息〕

Habša 訴へよ. 告げよ〔彙:令人告. 令人訟〕

Habšabuha niyalma 〔5.詞訟一:被告〕

Habšabumbi 訴へさせる〔5.詞訟一:使告狀〕訴へられる〔彙:被告〕

Habšaha niyalma 〔5.詞訟一:原告〕

Habšambi 官に告訴狀を差出す. 非を訴へる〔5.詞訟一:告狀〕

Habšan 1. 訴訟〔5.詞訟一:詞訟〕 2. 易卦の名〔補1.薈一:訟〕

Habšanambi 訴へに行く〔5.詞訟一:去告狀〕

Habšandumbi 各自訴へる〔5.詞訟一:齊告狀〕

Habšanjimbi 訴へに來る〔5.詞訟一:來告狀〕

Habta 1. 鞍の居木〔9.鞍轡一:鞍翅〕 2. 瞬け〔彙:令展眼〕

— **habtalambi** 羽を窄め窄めして疾く飛ぶ〔30.飛禽動息一:抿翅疾飛〕

Habtaha 男子用の腰巻(紬, 布地)〔24.衣服二:男戰裙〕

Habtalambi 眼を細めて眺める. 瞬きする〔11.容貌三:展眼〕

Habtašambi 1. 目を細めてぢっと見る. 頻りに瞬きする〔11.容貌三:只是展眼〕 2. 鷹の類が羽を窄めて飛ぶ〔30.飛禽動息一:抿翅飛〕

Haca (麻糸の)一把. 一括り〔23.絨綿:一紆麻〕

Hacihiya 速くせよ. 忙げ〔12.催逼:使上緊〕

Hacihiyabumbi 督促させる. 急かさせる〔12.催逼:使人上緊〕

Hacihiyambi 1. 急かす. 督促する〔12.催逼:上緊〕 2. (酒食を)勸める〔6.筵宴:强勸〕 3. 我慢して勉める. 勉め勵む〔12.勇健:勉强〕

Hacihiyan 勉勵. 勉强〔12.勇健:勉〕

Hacihiyanambi 督促に行く〔12.催促:去上緊〕

Hacihiyandumbi Hacihiyanumbi 各自急がせる〔12.催促:一齊上緊〕

Hacihiyanjimbi 督促に來る〔12.催逼:來上緊〕

Hacihiyara katunjara 耐へ難きを忍んで勉む〔彙:勉强〕

Hacilaha dardan 粧緞(ゐうだん)に各種の花模樣を織り出したもの〔23.布帛一:百花粧緞〕

Hacilambi 1. (事由を)奏陳する. 條を逐ふて述べる〔5.辦事二:條陳〕 2. 分類する〔彙:分類〕

Hacilame 各種. 各樣. 樣々に. 色々と〔彙:各樣. 各種〕

— **wesimbure kunggeri** 服式を定め, 奏陳を覆議する役所〔補2.衙署二:建言科〕

Hacin 1. 件. 項. 種(例一件, 一項)〔18.完全:樣數〕 2. 上元(正月十五日)〔2.時令六:上元〕

— **geren** 怪物! 得體の知れぬ奴〔18.厭惡:毛病多〕

— **hacin i** 各々の件〔彙:各件. 件件〕

— **i ucuri** 上元の際〔彙:上元之際〕

— **i yamji** 上元の宵, 夜〔彙:上元夕. 元宵夜〕

— **inenggi** 上元, 節分等の吉日〔2.時

令六：節令〕

Hacin tome 一件毎に．項を逐ふて〔彙：逐款．逐樣．逐項〕

Hacingga 各種の．色々の〔18.完全：各樣〕

— **niyamniyan** 馬上から樣々の姿態をとりながら鏑矢を射る〔8.騎射：花馬箭〕

Hacuhan 小鍋〔25.器用四：小鍋〕

Hacuhiyan 鼐(大なる鼎)〔補1.古祭器：鼐〕

Hacuka 吝嗇家の．細くて汚い．けちけちした〔15.憎嫌一：厭人鄙吝〕

Hada 1. 山の峰．崖(山の，岩石が屈起した處)〔2.地輿四：峯〕 2. 釘づけにせよ．靴の底をつけよ〔彙：令以釘釘物．令上靴鞋之上〕

— **cibin** 鳥名．翅尾長くて脚短く普通の燕より稍大，簷下又は崖に窩を作る〔30.雀三：石燕〕

— **hoton** 滿洲吉林省の清初の城名〔續2.地輿：哈達城〕

— **wehe** (山や土中にある)碎石．礫石〔2.地輿六：礓石〕

Hadabumbi 1. 靴を縫ひ合はさす．靴の底をつけさせる〔24.剪縫二：使上底〕 2. 釘づけにさせる〔彙：使釘〕

Hadaha usin 北極星〔1.天文二：北辰〕

Hadahai 1. 矢がさゝつたまゝ．手負ひになつて〔9.畋獵三：帶箭箭〕 2. 目を据えて．見凝めて〔12.觀視一：注目看〕 3. 釘づけにしたまゝ〔彙：久釘住〕

— **feksimbi** (獸類が)矢がさゝつたまま驅ける〔彙：獸等物箭箭釘箭還跑〕

Hadahan (鐵又は木製の)杭〔22.工匠器用三：椿橛〕天幕の繩をとめる鐵，木杭〔24.氈屋帳房：帳房鐵子〕

— **nisiha** はぜに似た圓形の魚〔32.河魚三：船釘魚〕

Hadai 差込．楔〔21.室家二：筍子〕

Hadala 轡(くつわ)〔9.鞍轡二：轡〕

— **multulembi** 轡が脫け落ちる〔彙：退轡頭〕

— **šaban** 襪(したび)〔24.靴襪：澁脚子〕

— **yoo** 口角に出來る腫物〔16.瘡膿一：馬嚼瘡〕

Hadama burga 樹名．樹皮白味を帶び，Wakšan burga (坐地柳)より高く獨生す，矢柄に作る〔29.樹木三：獨莖柳〕

Hadambi 1. 靴の底をつける．靴を縫ふ〔24.剪縫二：上靴鞋底〕 2. とりつける．釘づけにする〔彙：釘釘子釘鈕子之釘〕釘づける．へばりつく〔彙：馬蜱等釘人之釘〕

Hadara 魚名．冷かなる清水に棲む，Heihule (白鰾魚)に似て大〔32.河魚二：鰷條〕

Hadatu 異獸名．善く山峯を登る〔補4.異獸六：時〕

Hadu 草を刈れ〔彙：令割草之割〕

Hadubumbi 草を刈らせる〔21.割採：使割〕

Hadufun 草刈鎌〔21.農器：鐮刀〕

Hadumbi 草を刈る〔21.割採：割〕

Hadunambi 刈りに行く〔21.割採：去割〕

Hadunjimbi 刈りに來る〔21.割採：來割〕

Hadunumbi 一齊に刈る〔21.割採：一齊割〕

Hafa šoro 目の粗い籠(野菜等を入れるに用ふ)〔25.器用七：荊條筐〕

Hafan 官吏．役人〔4.臣宰四：官〕

— **hali** Hafanに同じ〔4.臣宰四：官員〕

— **hergen** 〔4.臣宰十四：官爵〕

— **i boo** 理藩院に屬し，吏部關係の事を掌る役所〔補2.衙署五：吏房〕

— **i jurgan** 六部の一．文官の銓考任免黜陟及び封爵に關する事務を掌る役所〔20.部院三：吏部〕

— **i jurgan i kunggge yamun** 役所名．內閣からの勅書奏本を吏部に抄寫發照し各衙門の政務を監察する役所〔20.部院五：吏科〕

— **i tangkan** 官位〔彙：官階〕

— **i temgetu i kunggeri** 役所名．每月任命する地方文官に文憑を與へ，奉職の期限を查する役所〔補2.衙署一：憑科〕

— **sere temgetu** 鄉試の際，文武大臣

及六科十五道翰林院詹事府の上官の子弟の居る房〔補1.陞轉：官字號〕

Hafasa Hafan(官)の複數形〔4.臣宰四：衆官〕

Hafasi 士(大夫に次ぐ官)〔補1.古大臣官員：士〕

— **šufatu** 士の被る頭巾〔補1.古冠冕三：治五巾〕

Hafin moo 帆柱を夾む二本の支へ木〔26.船二：鹿耳〕

Hafirabumbi 1. 困窮する〔13.貧乏：受困〕 2. 追ひつめられる. ぎゅうぎゅういはされる〔17.强凌：被逼勒〕 3. 夾ませる〔彙：使夾物之夾〕 4. 切端つまる〔彙：事急逼緊了〕

Hafiraha afaha 事由を記して奏本に夾む紙片〔5.事務二：夾片〕

Hafirahūn 1. 窮迫した〔13.貧乏：窄〕 2. 狹い. 寸のつまつた〔25.諸物形狀二：窄隘〕

Hafirakū 1. 毛抜き〔24.飾用物件：鑷子〕 2. かにの螯(はさみ)〔32.鱗甲肢體：螃蟹夾子〕

— **sibiya** 車軸を夾んで挿入した四つの枕.〔26.車轎二：車檔〕

— **simhun** 六本指(の手)〔10.人身四：六指〕

Hafirambi 1. 追ひつめる. ぎゅうぎゅういふ目に合はす〔17.强凌：逼勒〕 2. 腋の下に夾みつける〔21.扛擡：夾着〕 3. (火箸等で)夾み取る〔26.折鎖：鉗〕 4. (靴又は弓袋の場合) 二重皮の間に皮の心を夾んで縫ふ〔24.剪縫三：夾牙縫〕

Hafiršabumbi 儉約して使はせる〔11.省儉：使撙節〕

Hafiršambi 儉約して使ふ〔11.省儉：撙節〕

Hafiršanumbi 各自儉約する〔11.省儉：一齊撙節〕

Hafišambi 赤坊の背を叩いてあやす〔13.生產：手拍小兒〕

Hafišangga おだて上げて賞めそやす〔17.讒諂：載高帽〕

Hafitaha (寶石,珊瑚の類を帶止め等に)止める. 鉾込む〔彙：凡中間物上下鑲夾之夾如朝珠之背牌子上的雲子寶石珊瑚青金石等物上下鑲夾起花金銀花之夾也〕

Hafitame afambi 夾み討ちにする〔8.征伐四：夾攻〕

— **geyembi** (小刀等を)夾みつけて彫る〔彙：刀夾着字刻〕

Hafitara fulhun 六呂の一. 陰の聲〔7.樂二：夾鐘〕

Hafu buleku i oyonggo be tucibume leolehe bithe 書名〔續2.書：評鑑闡要〕

— **hafu** 貫き貫き〔彙：通着通着. 透着透着〕

— **hiyoošungga** 親の意を忖り孝をつくす人〔11.孝養：達孝〕

Hafuka Hafukabi に同じ〔彙〕

Hafukabi 通曉した〔7.文學：通了〕

Hafukiyambi 繰返し教へ込んで通じさせる〔7.文教：使通曉〕

Hafulambi 1. 孔をあけて貫通さす〔26.鏨鑽：穿通〕 2. 思ひ止まらす. 引きとめる〔5.安慰：勸止〕

Hafumbi 1. 努力久くして遂に通ずる〔7.文學：通徹〕貫通する〔彙：凡物直透通了〕 2. 濕み透る〔彙：許多層的物件水濕透之透〕 3. 疱瘡の口があく〔彙：痘子出透之透〕

Hafumbubumbi 通譯させる〔14.言論一：使通說外國話〕

Hafumbukū 通譯〔4.臣宰十三：通事〕

— **hafan** 通譯官〔4.臣宰十三：通事官〕

— **kamcihabi** 通譯を隨へて(來朝する)〔6.朝集：隨帶通事〕

Hafumbumbi 1. 通曉させる〔7.文教：使至通曉〕 2. (人の意を)傳へる〔12.問答二：轉達〕 3. (外國語を)通譯する〔14.言論一：通說外國話〕 4. 溝渠を河に疏通さす〔26.塞決：疏通〕貫通さす〔彙：使通透〕

Hafun 易の卦名〔補1.書一：泰〕

— **cece** 生絹を疎ら目に織つた紗〔23.布帛四：直漏地紗〕

Hafunambi 眞直に行く. 通り抜けて行く〔14.行走二：通過去〕

Hafundarakū bade 迂り路して〔彙：

不通之徑〕

Hafungga 元亨利貞の亨〔7.書五：亨〕

— boo 中央に位置して，前後の房室に通り抜けの出來る部屋〔21.室家一：穿堂〕

— mahatun 頂の兩傍を塞がずして空通にした冠〔補1.古冠冕一：通天冠〕

— omolo 六代目の孫〔10.人倫二：昆孫〕

— talu 家の傍の通り抜けの出來る道〔21.室家一：過道〕

Hafunjimbi 眞直に來る．通り抜けて來る〔14.行走二：通過來〕

Haga 魚の骨，刺〔32.鱗甲肢體：魚刺〕

Hagabukū 漁具．四寸程の細い木の先に尖つた鐵をつけ作り，釣絲をつけて葦の葉を結へ河の瀬の棒杭にしかけて Fu nimaha（草根魚）を捕る道具〔22.打牲器用二：打魚嘴撐〕

Hagambi 1. 乳首にしこりが出來て疼く〔16.腫脹：乳結〕 2. 魚の刺が咽喉に立つ〔27.飲食二：卡住〕

Haha 1. 男子〔10.人五：男人〕 2. Emu haha を見よ

— i deji 衆に拔きんでた者〔衆：比人强勝出群者〕

— jui 男の子〔衆：男孩子〕

Hahabukū Hagabukū に同じ〔衆〕

Hahama ancun 1. 一個の眞珠を吊した耳飾〔24.飾用物件：墜耳墜〕 2. 香袋の根締（眞珠の類）〔衆：丁香墜〕

Hahangge 男の（もの）〔衆：男的〕

Haharame 男らしく〔13.數語四：漢子樣〕

Hahardaha 1. 成年に達した．一人前の男になつた〔10.老少二：成丁〕 2. それでこそ男だ！ よくやつた！〔18.數語四：是個漢子〕

Hahardara Hahardaha に同じ〔衆〕

Hahasi 男子達．Haha の複數〔10.人五：衆男人〕

Hahi 1. 緊急な〔15.急忙：緊急〕 2. 急躁の（人）．氣忙しき〔17.暴虐：急〕

— cahi Hahi に同じ〔15.急忙：緊急〕

Hahiba 仕事の早い，素早い〔12.黽勉：急爽〕

Hahikan 稍急を要する〔15.急忙：略緊〕

Hahila 急げ〔12.催迫：急著〕

Hahilambi 急ぐ．急を要する〔15.急忙：上緊〕

Hahūbuha 羽毛の生え揃はぬ〔衆：凡鳥雀翎毛不長出滯住了或翎毛後出了〕

Hahūbumbi （鳥の）羽毛が生え揃つて居ない〔衆：凡鳥雀翎毛不長出典滯住或翎毛後出者〕

Hahūmbi 羽毛が拔けた後長く生えなかつたり遲れて生えたりする〔30.羽族肢體一：毛撇住〕

Hahūrabumbi 1. 首つ玉を摑ませる．喉首をしめさせる〔5.爭鬪一：使招脖子〕 2. 要地を占守さす〔衆：使佔守要地〕

Hahūrakū 犬の首輪〔9.頑鷹犬：狗招子〕

Hahūrambi 1. （喧嘩して）首つ玉を摑む．喉頸をしめる〔5.爭鬪一：招脖子〕 2. 要害の地を占める．咽喉を扼す〔8.征伐三：扼據〕

Hahūršambi 1. 一途に首つ玉をしめつける〔5.爭鬪一：只是招脖子〕 2. 人を押へつけて話す．高飛車に話す〔14.言論二：壓派〕

Haicing 鳥名．Šongkon に同じ〔衆：海青〕

Haidan sisimbi 大きな釣竿に青蛙，小魚をつけ一丈餘りの木に括り河の崖ぶちに挿し込んで魚を捕る〔22.打牲器用二：下大釣〕

Haidarabumbi 歪める〔21.倒支：使歪〕

Haidarambi 歪む〔21.倒支：歪〕

Haidaršambi 身體を歪めて歩く〔14.行走三：斜身走〕

Haidu 一方が歪んだ．片方が曲つた〔五體16.殘缺：一邊正〕〔四增體訂16.殘缺：一邊歪〕

Haiha 1. 山の腰部の緩い勾配の處〔2.地輿三：山腰〕 2. 搓つた絲を紡ぐ前に捲いたもの〔23.紡織一：絲紇子〕

Haihabumbi 一方に歪める〔21.倒支：使一頭歪〕

Haihambi 一方に歪む〔21.倒支：一順歪〕
Haihan 1. 鷹等の猛禽類が生物を毛骨ぐるみ食し翌朝嘴から毛軸等を吐出すこと〔9.頑鷹犬：鷹蒋〕 2. 靴の敷皮〔24.靴擾：沿條〕
Haiharambi 傾く〔21.倒支：傾〕
Haiharame 山裾を縫ふて(行く)〔2.地輿三：走山腰〕
Haiharšambi 1. 身體を揺つて歩く〔14.行走三：揺況着走〕 2. 斜に揺れる．揺れ動く〔15.揺動：歪斜〕
Haihashūn 一方に傾いた〔彙：將偏一邊傾倒〕
Haihū 1. ゆらりゆらりと．しゃなりしゃなりと〔14.行走三：嫵娜〕 2. 軟な．柔な〔28.軟硬：和輭〕
Haihūljambi (風に吹かれて花片や木の葉が)ひらひらと飛ぶ〔15.揺動：翩翻〕
Haihūn 河獺の別名〔31.獣五：水狗〕
Haihūna 小鳥名．背は稍紅く胸は白味を帶び，阿蘭より稍々大，鳴聲は各様〔30.雀二：白翎〕
Haihūngga 軟なもの．柔いもの〔28.軟硬：和輭物〕
— **šufa** 新型の手巾〔24.巾帶：新樣手帕〕
Haihūwa 魚名．扁平で口邊が擡起した，鱗の細い魚〔32.河魚一：鯎花魚〕
Haijan Kukji に同じ〔7.樂三：應歌聲〕
Haijung seme (馬駝に)どつさりと．ずつしりと(積んだ)〔32.騎駝二：裝載甚重〕
Hailaha Hailambi に同じ〔19.鬼怪：不受享〕
Hailambi 神が享けぬ．神送りの踊りをしても享けず又神酒等を犠牲の豚の耳に濃いでも動かない〔19.鬼怪：不受享〕
Hailami Hailambi に同じ〔19.鬼怪：不受享〕
Hailan にれの木〔29.樹木三：榆〕
— **gaibumbi** (人から)苦悶させられる．煩はされる〔彙：被人情勧傷心言語追究不完〕
— **gaimbi** 人をして苦悶させる．人の感情を害す．人の邪魔をする〔16.折磨：纏磨人〕
— **sence** 楡の木に生える黄色な茸〔27.菜穀二：楡蘑〕
Hailashūn 山腹の険しい處〔2.地輿五：險坡〕
Hailun 1. 河獺の皮〔24.皮革一：水獺皮〕 2. かはをそ〔31.獣五：水獺〕
— **cecike** かはせみ〔30.雀三：翡鳥〕
Hairacuka 惜しむ可き〔13.愛惜：可惜〕
Hairacun 惜しい處のある〔13.愛惜：可惜處〕
Hairakan 如何にも惜しい〔13.愛惜：很可惜〕
Hairambi 1. 慈しむ．目をかける〔11.友悌：愛惜〕愛惜の情に堪へぬ〔13.愛惜：愛惜〕 2. 惜しさうにする．物惜しみする〔11.省儉：愛惜〕
Hairan 1. 慈み．愛惜〔13.愛憎：惜〕 2. 惜しむべき．諦めきれぬ〔13.悔嘆：可惜〕
— **jaka** 惜しいもの，手放し得ぬもの〔彙：捨不得的物〕
— **niyalma** 惜しむ可き人物〔彙：捨不得的人〕
Haisanda のびる〔27.菜穀二：野蒜〕
Haita 牙が上向に突き出た老猪〔31.獣四：獰牙野猪〕
Hajan 宿營の地に結ひ繞らされた木柵〔8.征伐一：護營木寨〕
Haji 1. 親密な．近しい〔11.友悌：親近〕 2. 凶作の〔13.饑饉：凶荒〕 3. 目に入れても痛くない〔彙：大人摸抱小孩疼愛之詞〕
— **aniya** 凶作の年．凶年〔2.時令四：饑年〕
— **gucu** 親友〔10.朋友：密友〕
— **hairan** 〔彙：愛惜〕
Hajilambi 1. 親密に暮す〔11.友悌：相親愛〕親交を結んで行く〔12.倚靠：親近〕 2. 魚を捕る網．河の上流から網を曳き且棒を取つて下流に魚を追ひ，一方下流に棒杭を立てゝ網が兩岸に達する樣に張りめぐらしこれに魚を追ひ込

んで捕る〔22.打牲：下趕網〕
Hajilan 親愛の情〔11.友悌：親愛〕
Hajin 易卦の名〔補1.書一：比〕
Hajingga baibula 蒋帯又は拖白練の別名〔補4.鳥九：帶鳥〕
Hajun 虎を獲る器具．鎌を罠にしかけて繩又は藤蔓をつけ，虎がこれにかゝると鎌が自然に虎を斬る様に工夫したもの〔22.打牲器用四：挌刀〕
Hak かぁつ！ ぺっ！〔14.聲響二：咯痰聲〕
Hakcin 氣短な人．せつかち〔17.暴虐：急迫〕
Hakda 1.（荒野を燒いた後の）燒け殘りの草 2.青草の中に混つた古い草〔29.草一：荒餘草〕
Haksabumbi 燒く．焦がす〔28.燒炒：烤焦〕
Haksaha tugi 朝(夕)燒け〔彙：霞〕
Haksakabi 1.陽に焦けた．焦けて黑くなつた〔11.容貌七：曬黑了〕 2.燒け過ぎた〔28.燒炒：已烤焦〕
Haksambi 腹の中が燒けつく様になる〔16.疼痛二：心裡發燒〕
Haksan 1.險しい〔2.地輿五：險〕 2.兇暴な〔18.兇惡二：兇險〕 3.黃金色〔彙：金黃色〕
— **boco** 黃に紅の混つた色〔23.采色一：金黃色〕
— **bocoi junggidei kiyoo** 儀仗名．八人して舁ぎ，黃金色に塗つた，黃色のŠusebuku（走水）のある轎，貴妃が用ふ〔6.鹵簿器用五：金黃翟轎〕
— **bocoi suje de aisin dambuha garudangga kiru** 黃金色の布地に金の鳳のある旗．皇貴妃の儀仗〔6.鹵簿器用四：金黃緞金鳳旗〕
— **hakcin** 險しい〔彙：險峻〕
— **umiyesun** 皇族着用の黃色の帶〔彙：宗室束的黃帶子〕
Haksangga efen 蒸したうどん粉を型に入れ，取り出して燒いた團子〔27.餑餑一：燒餅〕
Hakšabumbi 油で炒めさす〔28.燒炒：使油炒〕
Hakšambi 1.油で炒める．餑々の類を油で揚げる〔28.燒炒：油炒烙〕 2.(牛，羊の)脂身を燒いて脂を出す〔28.煮煎：煉油〕 3.焦がす〔彙：火燒焦炒焦之焦〕
Hakšan 焦げた〔彙：焦煳之焦〕
Hala 1.姓．一族〔10.人倫二：姓〕 2.換へよ〔彙：令換〕
— **hacin** 多様な．各種の〔18.散語四：各樣〕
— **umiyaha** あかこ（井戸の中の絲の様な紅い蟲）〔32.蟲一：井中紅絲蟲〕
Halabumbi 1.交代させる．換へさす〔5.輪班行走：使更換〕 2.火傷さす〔彙：使湯〕
Halaha 火傷した〔16.腫腹：燙了〕
Halaitu 異獸名．鹿に似て四角白尾あり，前足は人の手，後足は馬蹄に似た奇獸〔補4.異獸一：獼如〕
Halambi 1.交代する．代つて當番につく〔5.輪班行走：更換〕 2.火傷する〔彙：湯〕
Halame jurume etumbi 再三着更へる〔24.穿脫：脫三換四〕
Halan 易卦の名〔補1.書二：革〕
Halanambi 1.交代に行く〔5.輪班行走：去更換〕 2.近づく．近づきになる〔12.倚靠：去親近〕
Halanarakū 敢て近づかぬ〔彙：不敢近前〕
Halandumbi Halanumbi 一齊に交代する〔5.輪班行走：一齊更換〕
Halangga 同姓のもの．……姓の(人)〔10.人倫二：姓氏〕
Halanjambi 互に交代して行く〔5.輪班行走：輪流〕
Halanjimbi 交代に來る〔5.輪班行走：來更換〕
Halar かつかつ（身に佩びた玉の鳴る音）〔14.聲響三：佩玉聲〕
— **hilir** ぢゃらんぢゃらん（巫人が神刀と腰の鈴を鳴らす音）〔14.聲響三：刀環腰鈴聲〕
Halašambi 1.子供が甘へる〔10.老少二：撒嬌〕 2.子供が疱瘡に罹つて憤(苦)る〔16.瘡膿二：痘前發賴〕
Halba 1.肩胛骨〔10.人身六：琵琶骨〕

2. 肩帶〔27.飯肉二：琵琶骨〕

Halbaha 1. Sonokton (盔纓)の上の薄い金具〔9.軍器一：盔纓頂〕2. 旗の頂部の金具〔9.軍器七：纛頂〕3. Sirdan (梅針箭)の鏃の廣い面〔9.製造軍器四：箭鐵寬肩〕

Halbahan 鳥名. Saibihan に同じ〔30.鳥二：戢穀子嘴〕

Halbišambi へらへらとおべつかを使ふ. 媚び諂ふ〔17.讒諂：獻媚〕

Halbubumbi 人に言付けて家の中に這入らせる. 留めさせる〔15.留遣：使容留〕

Halbulha 賊を隱ふ人〔16.竊奪：窩主〕

Halbumbi 家に這入らせる. 呼び入れる. 留める〔15.留遣：容留〕

Halda てふざめの脾臟. Halda yoo 搭背を癒す藥〔32.鱗甲肢體：鰽鰉魚膔貼〕

— **yoo** 背中の肩胛骨の眞中邊に出來る瘡〔16.瘡腫一：搭背〕

Haldaba 媚び諂ふ人. おべつか使ひ〔17.讒諂：諂〕

Haldabašambi 諂ふ. おべつかを使ふ〔17.讒諂：諂媚〕

Halfiri 果物名. 形扁平, 橘程の大きさにて内空〔補3.異樣果品四：塔骨子〕

Halfiyakan 稍々扁平な〔25.諸物形狀二：略扁〕

Halfiyan 扁平な〔25.諸物形狀二：扁〕

— **nimaha** 魚名. 頭は鯉に似て身幅廣く扁平, 一尺大のものあり〔32.海魚一：扁魚〕

— **turi** ふぢまめ〔27.菜穀一：扁豆〕

Halfiyangga jahūdai 團平船. 河を航行する底の平たい舷の低い船〔26.船一：匾子船〕

— **tungken** 神樂を奏する時に用ひる大鼓. 胴締の處が扁平なり〔7.樂器一：扁鼓〕

Halgibumbi 捲きつけさす〔26.拴結：使盤繞〕

Halgimbi 捲きつける. ぐるぐる捲きにする〔26.拴結：盤繞〕

Halhan 犂の柄先にはめた鐵の部分〔21.農器：犂鐴〕

Halhūkan 稍々暑い(熱い)〔彙：略熱〕

Halhūn 暑い〔2.時令八：熱〕(食物の)熱い〔28.生熟：熱〕

— **bederembi** 暑さが盛返す. 殘暑〔彙：處暑〕

— **edun** 熱風〔1.天文七：暖風〕

— **mucen** 火鍋子(ぢんぢ). 銀眞鍮等で作つた水だき鍋の一種〔25.器用四：火鍋〕

— **subure muke** 酷暑の折用ひる暑さ凌ぎの藥湯〔27.茶酒：暑湯〕

— **šahūrun bulukan necin** 熱寒温平(藥の性質を表現した言葉)〔彙：熱寒温平此四者藥之性也〕

— **šeri** 温泉〔2.地輿八：湯泉〕

Halhūri こせうの實〔27.菜穀四：胡椒〕

Hali 水浸りの荒地. 濕地〔2.地輿二：積水荒地〕

Halman 洗顔料の名. さいかちの莢に香を混ぜてAmu (胰子)の如く作り, 洗顔に用ふ〔24.飾用物件：肥皂〕

Halmari 跳神の時に持つ, 環を通した薄刃の刀〔6.祭祀器用二：神刀〕

Halmun Bulun (車頭)の孔に拂込んだ鐵環〔26.車轎二：車頭內小圈〕

Halu みどりまめの粉で Sase (合絡)に似せて作つたもの〔27.飯肉四：細粉〕

Halukan (陽氣の)暖い〔2.時令八：暖〕(食物等の)煖な〔28.生熟：熱溫〕

— **edun** 晩春の頃吹く生温い風〔1.天文七：温風〕

Halukū Laku に同じ〔24.衣服二：厚棉褲〕

Halungga gūlha 毛の方を裏地にした靴〔24.靴襪：煖靴〕

Hamgiya はんこぐさ. 鼠麴草〔29.草三：黃蒿〕

Hamgiyari Kitari 毫豬の別名〔補4.獸二：蒿豬〕

Hami i hoise emu gūsa 新疆省哈密の地に設けられたトルコ族の旗. 所謂回部二旗の一〔3.旗分佐領二：哈密回子一旗〕

Hamibumbi 略々足りる樣にさせる〔12.均賑：使將足〕略々近づかせる

〔彙：使之將近〕

Hamika 略々……にちかい〔彙：庶幾了〕略々近づいた〔彙：將近了〕略々達した〔彙：將及了〕殆ど差がない〔彙：差不多〕

Hamimbi 1. 與へるに足る．足りる〔12.均賑：將足〕 2.（道程が）……里に達する〔12.均賑：將足〕 3. 略々差がなくなる〔彙：差不多〕略々受け得る〔彙：受得〕略々近づく〔彙：將近〕

Haminambi 略々近づく．略々行き着く〔15.去來：將近〕

Haminjimbi もう少しで來着する．略々到る〔15.去來：將到〕

Hamirakū 寒さに堪へ得ずして（避寒の地を求める）〔13.寒戰：受不得〕堪へられぬ〔彙：凡事受不得〕苦痛に堪へられぬ〔彙：苦楚的受不得〕及ばぬ〔彙：不及〕足りぬ〔彙：不敷〕

Hamtakū 處構はず大便を垂れる小兒〔10.老少二：屎精〕

Hamtambi 大便をする．Muwa edun tuwambi に同じ〔10.人身八：出大恭〕

Hamtanambi 大便をしに行く〔彙：去出大恭〕

Hamu 大便〔10.人身八：屎〕

Han 可汗．君主．皇帝〔3.君一：君〕

— **i araha sain be sebjelere tanggin i yooni bithe** 書名〔續2.書：御製樂善堂全集〕

— **i fisen** 皇帝の系統のみを記した系譜〔3.論旨：帝系〕

— **i uksun i ejehe** 皇帝及び各宗室覺羅を悉く含めて記した系譜〔3.論旨：玉牒〕

— **i uksun i ejehe kuren** 玉牒を編纂する役所〔20.部院十一：玉牒館〕

— **usiha** 北辰の內の第二星〔1.天文二：帝星〕

Hana 蒙古包の周圍部の幕をはりめぐらす爲に作つた木の骨組〔24.氈屋帳房：木墻〕

Hanci 近い〔19.街道：近〕（血緣關係が）近い〔10.人倫二：近〕

— **fimeburakū** 近づくを許さぬ．寄せつけぬ〔彙：不使人近前〕

Hancikan 稍近い〔19.街道：稍近〕

Hanciki 近い所〔19.街道：近處〕

Hancikingge 近所の〔彙：近處的〕近くのもの〔彙：近者悅之近者〕

Handa 痘瘡が吹出た後，未だ芯が殘つて居てすつかり治りきらない．Handa werihe, Surgi werihe に同じ〔16.瘡膿二：痘毒〕

Handu 1. 味噌を作る麴(こうじ)〔27.菜殽四：醬麴〕 2. 粳米(うるち)（晚稻）〔28.米穀一：粳米〕

— **bele** 〔彙：稻米．粳米〕

— **boihon** 黃色な粘土〔2.地輿一：膠泥〕

— **cise** Handu iri に同じ〔彙：種稻子入水之地〕

— **iri** 水田．稻田〔21.田地：稻畦〕

— **orho** 稻．藁〔彙：稻草〕

— **tarire kūwaran** 奉宸院の稻田の下種收穫を司る役所〔20.部院七：稻田廠〕

— **umiyaha** 蟲名．形小さく扁平，色甚だ白き多足の蟲〔32.蟲一：江米蟲〕

Handucun 田植歌〔13.戲耍：秧歌〕

Handutun 壇廟を祀る際に穀物を盛る圓い器〔6.祭祀器用一：簋〕

Hanggabumbi 1. 旱(ひでり)續きで穀物が出來ない．Hiyaribuha に同じ〔2.時令四：亢旱〕 2. 塞がる．動きがとれぬ．停滯する〔26.塞決：壅滯〕（喉，息が）詰まる〔彙：氣隔住打噯之阻隔〕

Hanggai enggemu 積荷用の鞍〔9.鞍轡一：駝鞍〕

— **niru** 錆びついた矢〔9.軍器四：銹鐵披箭〕

Hanggir hinggir (增訂：Hanggir henggir) かちかち（婦人の腕輪の鳴る音）〔14.聲響三：手鐲聲〕

Hanggisun 絹或は縮緬地の稍長めの手巾（兩端に穗のあるもの）〔24.巾帶：汗巾〕

Hangki 楓と同類，樹皮みねばりに似，質は密にして剛，車輪の用材〔29.樹木四：楓〕

Hangna 白臘(はぜろう)で接げ．はんだ付けにせよ〔彙：令銲〕

Hangnabumbi 白臘(ろう)で鎔接せしめる〔26.雕刻：使釬〕
Hangnambi 1. (鍋, 甕の) 破損を修繕する〔26.折鎚：鍋補〕 2. 白臘(ろう)で鎔接する. はんだづけにする〔26.雕刻：釬〕
Hangnan はんだ. 白臘〔26.雕刻：釬藥〕
Hangnara okto Hangnanに同じ〔彙：鋅藥〕
Hangse 麺類. うどん〔27.飯肉四：麺〕
Hangsi 1. 清明節〔2.時令六：清明〕 2. 杭州産の絹織物の一種〔彙：杭細綢似絹甚薄〕
Hanja 1. 苟も取らざる. 廉潔な〔11.忠清：廉〕 2. 奇麗好きな人. 潔癖な人〔24.梳粧：愛乾淨〕
— **bolgo** 〔彙：清廉. 廉潔〕
— **girutu**〔11.忠清：廉恥〕
Hanjadambi 廉潔に振舞ふ〔11.忠清：行廉〕
Hanjaha 久しくうまい物にありつけぬ. 粗食を强ひられる. Kiyatuhaに同じ〔13.饑饉：熬淡了〕
Har seme びりつと. つんと (鼻に來る)〔28.滋味：辣氣鑽鼻〕
Hara 1. 貂鼠, 猞猁猻等の皮の類で Beileci (秋板) よりも毛の短いもの〔24.皮革一：短毛秋板〕 2. えのころぐさ〔29.草一：莠子〕
Haran ……の故に. ……の爲. ……に由つて〔18.散語四：因由〕わけ. 理由 Turgunに同じ〔彙：緣由〕
Haranambi 「えのころぐさ」が生える〔21.農工三：生莠〕
Harangga 管下. 部下. 屬下〔3.旗分佐領一：屬下〕
— **aiman be aliha bolgobure fiyenten** 外藩の喀爾喀四部, 厄魯特, 青海, 西藏, 俄羅斯等の事及び喇嘛の度牒の附與の事等を司る役所 (理藩院に屬す)〔20.部院五：典屬清吏司〕
— **ba** 管下の本地. 所屬の地〔2.地輿一：所屬地方〕
— **ing** 綠營の標(團). 左右二營, 或は中左右三營, 或は中左右前後五營を一標となす〔彙：標營〕
Haratu 屬下の人. 部下の人〔3.旗分佐領一：屬下人〕
Hardakū こひ. Mujuhuに同じ〔32.河魚一：鯉魚〕
Hargašabumbi 仰ぎ觀させる. 遙に高きを望ましめる〔12.觀視一：使仰望〕
Hargašambi 1. 遙に高處を望む. 仰ぎ觀る 2. 目上の人を仰ぎ觀る. 慕ふ〔12.觀視一：仰望〕 3. 拜賀の爲に參朝する. 天機を奉伺する〔6.朝集：上朝〕
Hargašame tuwambi 仰ぎ觀る〔彙：瞻仰〕
— **wecere alin** 滿洲吉林の西南の山名〔續2.地輿：望祭山〕
Hargašan 朝廷. 宮中〔6.朝集：朝〕
— **de hengkilenjire bolgobure fiyenten** 內蒙古諸旗の朝貢賜祿の事を司る役所〔20.部院五：王會清吏司〕
Hargašandumbi Hargašanumbi 一齊に仰ぎ觀る〔12.觀視一：一齊仰望〕
Hargašanjimbi (各國から) 來朝する〔6.朝集：來朝〕
Hargašanjire acanjire kunggeri 中書科の月每の參朝に關する事務を司る役所〔補2.衙署一：朝參科〕
Hargašara dorolonggo kunggeri 月每に參朝する官の姓名官等を查べる役所〔補2.衙署一：朝儀科〕
Hargi 急流の所. 湍(たん)〔2.地輿九：緊湍〕
— **sogi** からしな〔27.菜殽一：芥菜〕
Harha 長靴の底から上, Ture (靴靿子) より下の部分の名稱. 靴の上皮の部分〔24.靴襪：靴鞋幫〕
Harhū boihon 水底の泥〔2.地輿一：滓泥〕
— **umiyaha** はんめう〔32.蟲一：盤蚩〕
Harhūdambi 河底の泥を攪き廻し魚を窒死させて捕る〔22.打牲：攪水嗆魚〕
Hari 1. 弓筈(はず)の歪んだ〔9.製造軍器二：弓歪〕 2. 鹿の臟物等を容れる眼のつまつた繩網〔22.打牲器用四：肉絡

子〕3. 斜の．歪んだ〔25. 諸物形狀二：斜〕4. 片寄つて．斜(はす)になつて(駈ける)〔31. 馬匹馳走二：跑的歪〕5. 藪睨の〔彙：斜眼〕

Haribumbi 1. 顔耳が凍える〔13. 寒戰：冷的削臉〕2. 烙かせる〔彙：使之烙〕

Hariha efen 爐で烙いて作つた餠々〔27. 餠餠一：爐食〕

Harikū 鍛冶．燒鍛〔22. 工匠器用二：砑刀〕

Harima efen 石燒き餠々〔27. 餠餠一：炕子餠餠〕

Harimbi 1. Haršambi に同じ〔17. 奸邪：偏向〕2. (靴の底或は着物の縁等に)鍛を當てる〔24. 剪縫二：烙邊〕3. 鐵具を灼いて馬の鞍擦れにあてる〔32. 馬畜殘疾二：烙瘡〕4. 押着ける〔彙：壓之〕

Harkasi 熱病(高熱を發して身體の節々が痛み頭が割れる程疼き汗が出ない)〔16. 疾病一：熱症〕

Harsa 獸名．貂に似て丈長く惡臭を放つ，尾黑くして毛密，尾で蜜を瀘取り食す〔31. 獸六：蜜鼠〕

Haršakū 依怙贔負．偏頗な取計ひ〔17. 奸邪：偏護〕

Haršambi 依怙贔負する．庇ふ．片手落に計ふ．Harimbi に同じ〔17. 奸邪：偏向〕

Haršandumbi Haršanumbi 互に依怙贔負する〔17. 奸邪：彼此偏向〕

Haršarakū 不偏不黨．依怙贔負をしない〔11. 忠清：不偏護〕

Hartungga 屬下の者達．Harangga niyalma の複數〔3. 旗分佐領一：各屬下人〕

Hasa 大急ぎで．急速に〔12. 催逼：急速〕

Hasaha 鋏〔22. 工匠器用二：剪子〕

— **umiyaha** むかで〔32. 蟲一：百足蟲〕

Hasahangga fukjingga hergen 書體が鋏の形に似た篆書〔補1. 書四：剪刀篆〕

Hasala 脚の速い牛〔32. 牛：急牛〕

Hasalabumbi 裁ち切らせる〔24. 剪縫一：使剪〕

Hasalakū 銀，板金等を切斷する道具〔22. 衡量一：夾剪〕

Hasalambi 鋏で裁ち切る〔24. 剪縫一：剪〕

Hasan 1. 癩坊(かたわ)！(嘲罵の詞)〔16. 咒罵：癩物〕2. 家畜の毛が脫け落ちて瘡が出來る病〔32. 馬畜殘疾一：癩〕

Hasanahabi 1. 癩病み！瘡瘸！(嘲罵の詞)〔16. 咒罵：生了癩的〕2. 家畜に癩が出來た〔32. 馬畜殘疾一：生癩〕

Hashalabumbi 生籬を結へさす〔26. 間隔：使夾籬笆〕

Hashalambi 生籬を結へる．垣をめぐらす〔26. 間隔：夾籬笆〕

Hashan 垣根．生籬〔21. 室家四：籬笆柵〕

Hashū 1.〔2. 地輿十四：左〕2. 行の邪な．亂れた〔18. 兇惡一：左〕

— **ergi fiyenten** 1. 宗人府の役所名(左翼の宗室覺羅の事を司る)2. 禮部工部等の左司〔20. 部院二：左司〕

— **ici ergi maksitu** 協同 Ilhi maksitu の次の役人〔續2. 臣宰：左右韶舞〕

— **tonggo tabumbi** 絲のとつた靴等に逆糸をかける〔彙：鏤沿的靴襪等物上釘左線〕

Hasi なすび〔27. 菜蔬一：茄子〕

— **funta** 干柿の表面に吹出た白い粉〔28. 果品一：柿霜〕

— **šatan** 干柿〔28. 果品一：柿餅〕

Hasiba 庇ふ性の〔11. 友悌：性好遮護〕

Hasihimbi 僥倖を望んで離間する〔13. 求望：希圖僥倖〕

Hasima 河魚名．河の石の間に居り，形 Lagu 喇咕に似て稍大，鰭(ひれ)ありて味蟹に似たり〔32. 河魚四：哈什螞〕

Hasingga tampin 柿の形をした壺〔25. 器用三：柿子壺〕

Hasiri なすび色．濃い目の暗紫色〔23. 采色三：茄花色〕

Hasrun sirga 目，鼻，唇の邊が赤白の斑になつた駿馬〔31. 馬匹一：散玉驄〕

Hasu orho 草名．叢をなして生え，莖蔓は這ひ葉は柳葉より短し〔29. 草三：漿草〕

Hasuran さんとうの木．Karkalan に

同じ〔29.樹木五：山桃皮〕

Hasurgalambi Butalin (箭鐵信根)の端に膠で山桃皮を貼る〔9.製造軍器三：畫桃皮〕

Hasutai 1. 左利きで(射る)〔8.步射一：左手射〕2. 心の拗けた．邪な〔18.兇惡一：左性〕

— **doro** 邪道．邪教〔18.厭惡：左道〕

Haša 1. 細々した穀類を貯藏する小さな物置き〔21.室家一：倉房〕2. 圍へ〔彙：令護〕3. (たわしで)こすれ〔彙：令刷〕

— **boo** Haša に同じ〔彙：盛米粮等物的小庫房〕

Hašabumbi 1. 圍はせる．周圍を遮らせる〔26.間隔：使圍遮〕2. (たわしを)かけさせる〔彙：使刷〕

Hašahan 1. 蒙古包の Hana (木墻)に張り廻す羊毛氈〔24.氈屋帳房：墻帷子〕2. 車の垂れ幕．簀ひ〔26.車轎一：幃子〕3. 叭(ぱす)〔25.器用七：蕭圄〕4. 魚を捕る道具〔彙：醫即捕魚器〕

Hašakū たわし〔25.器用五：刷箒〕

— **dengjan** 墳廟の祭の時黃幄の四隅に立てる燈〔23.烟火一：廟兒燈〕

Hašambi 1. 圍ふ．周圍を遮る〔26.間隔：圍遮〕2. 庇ふ．保護する〔12.助濟：倘護〕3. (たわしで)擦る〔18.洗漱：刷〕

Hašan 天子が車駕に乘り降りする時に立て廻す張幕〔26.間隔：幃幙〕

Hata 1. 細帶〔24.巾帶：細帶子〕2. 水に漬けよ〔彙：令湛〕

Hatabumbi 1. 嫁がらす〔15.憎嫁一：使人嫁〕嫁がられる〔彙：被憎嫁〕2. (灼いた刃物を)水に入れさせる〔26.鋌磨：使蘸鋼〕

Hatacuka 嫁らしき．唾棄すべき．Nimecuke に同じ〔15.憎嫁一：可憎嫁〕

Hatakan 1. 稍氣短な〔17.暴虐：略暴躁〕2. (酒類)稍利き目のある．稍强い〔彙：酒略利害有力〕3. 稍硬くて脆い〔彙：鐵等物略硬〕4. 稍烈しい．稍硬い〔彙：略烈．略剛〕

Hatambi 1. 嫁ふ．忌む〔15.憎嫁一：嫁〕2. (刃物類を新に見せる爲に灼いて味噌石灰を塗り)水に入れる〔26.鋌磨：蘸鋼〕3. (陶磁器を)燒く〔彙：燒窑將磚磁等物燒之卽 Hatame dejimbi 也〕

Hatan 1. 短氣な．よく向つ腹を立てる．粗暴な〔17.暴虐：暴躁〕2. 强烈な．辛い(酒，燒酒)〔27.茶酒：酒醵〕3. (鐵類の)硬くて脆い〔28.軟硬：鐵生硬〕4. 味が甚しく辛い〔彙：凡食物味例利害〕

Hatarambi 1. 俄に堪へられぬ程疼き出す〔16.疼痛三：暴疼〕2. (短氣者が)むかつ腹を立てる〔17.暴虐：發暴躁〕3. 病勢が革まる〔彙：人病勢緊急〕

Hatuhūn 鹽辛い〔28.滋味：鹹〕

— **usiha** ぬるで．かつの木〔補3.異樣果品四：鹽麩子〕

Hayabumbi 曲りくねつて緣をとらせる〔24.剪縫三：使隨溜緣邊〕

Hayadambi 放埒な行をする〔17.淫蕩：行淫蕩〕

Hayaha hiyan 渦巻線香〔6.祭祀器用一：盤香〕

— **meihe usiha** 星座名．凡て二十二星，室宿の北にあり，形騰蛇に似たり〔2.天文三：騰蛇〕

Hayahan 龍緞の類を貂皮で緣どりした朝衣〔24.衣服一：貂鑲朝衣〕

— **dahū** 貂，猞猁猻等の毛皮に革で緣取りして，Doroi etuku (朝衣)に合はせ着るもの〔彙：鑲沿貂皮猞猁猻元狐袖子配朝服者〕

— **i ergume** Hayahan に同じ〔彙：鑲沿貂皮的披領〕

— **i ulhun** 貂皮で緣とつた朝衣の襟〔彙：蒙鑲貂皮的披肩〕

— **undurakū** 衣の丈に隨つて宛も緣とりした樣に織つた雲龍緞〔23.布帛一：鑲邊龍緞〕

Hayakta 身の彎曲した老猪〔31.獸四：盤牙老野猪〕

Hayaljambi 龍蛇が體をくねらせ尾を振つて行く〔32.龍蛇：行動擺尾〕

Hayambi 1. 曲りくねつて緣をとる〔24.剪縫三：隨溜緣邊〕2. 蛇がうねうねと纏はりつく．とぐろを捲く〔32.龍

蛇：蜿繞〕3. 藤蔓等が纏はりつく〔彙：藤蘿彎曲纏樹枝梢〕4. 盤羊の角が曲りくねつて生える〔彙：盤羊角盤生卽 Hayame banjihabi 也〕

Hayan 1. 莫連女. 淫婦〔16. 咒罵：淫蕩〕2. 放埒な人. 放蕩者〔17. 淫蠹：淫蕩〕

He fa seme はぁはぁと（喘ぐ）〔15. 疾倦：張口大喘〕

— **gi** くろきじ〔彙：黑鷮. 白者乃 Behiyan 也〕

Hebdebumbi 商議させる. 相談させる. Hebešebumbi に同じ〔5. 辦事二：使商量〕

Hebdembi 商議する. 相談する. 意見を求める. Hebešembi に同じ〔5. 辦事二：商量〕

Hebdenembi 相談に行く〔5. 辦事二：去商量〕

Hebdenjimbi 相談に來る〔5. 辦事二：來商量〕

Hebdešembi Hebdembi に同じ〔彙：商議〕

Hebe 1. 相談. 會議. 衆議〔5. 辦事二：議〕2. 徒黨. 黨派〔彙：爲黨〕3. 機密を漏すこと. 試驗等で試驗官の方から内密に問題等を漏す事を云ふ〔彙：從内交通關節〕

— **acambi** （大臣等が）會議する〔5. 辦事二：會議〕

Hebei amban 1. 衆臣より選ばれて，樞機に參豫する大臣〔4. 臣宰一：議政大臣〕2. 將軍の下に軍機を商議する大臣〔4. 臣宰二：參贊大臣〕

— **ba** 萬機を評議し且奏聞の事を辨理する所〔20. 部院二：議政處〕

Hebengge 1. よく相談しあつた. 意見の一致した〔11. 友悌：有商量〕2. 綱捌きのまゝに動く（馬）. 柔順な〔31. 馬四三：馬隨手〕

Hebešebumbi 共に相談させる. 衆議せしめる〔5. 辦事二：使商議〕〔彙：與 Hebdebumbi 同〕

Hebešembi 共に相談する. 衆議に附す〔5. 辦事二：商議〕〔彙：與 Hebdembi 同〕

Hebte ihan 下腹より脇腹にかけて白毛のある牛〔32. 牛：白肚臍牛〕

Hebtehe 1. 女の腰卷〔24. 衣服二：女圍腰〕2. 幅の廣い腰帶〔24. 巾帶：寬帶子〕

Hebtenio 異獸名. 猿に似て色黑く，腰の邊に帶をした如く白毛が生じ，前脚の掌の白毛甚だ長し〔補4. 異獸七：獌猢〕

Hebtešembi 1. 肩で息する. 息をはずませる〔16. 疼痛三：擡氣〕2. 身を屈して迎合する. 阿る〔17. 諂諂：獻勤〕

Hebu （絲を搓る場合）先を揃へて切つた糸の端〔23. 紡織一：線接頭〕

Hebunehebi 織絲の搓り工合が固かつた爲に粒々(ぶつぶつ)が點々と出來た〔23. 布帛六：線緊起格搭〕

Hecebumbi 杓，匙等で底を浚へさせる〔28. 舀盛：使徹底舀〕

Hecembi 杓匙等で底迄浚へる〔28. 舀盛：徹底舀〕

Hecen Hoton に同じ〔19. 城廓：城〕

Heceri ilha 異花名. 葉莖は綠，花は黃色にして春開く〔補3. 異花五：曇羅花〕

Hede 腫物の痕（腫物が癒つた後未だ殘つて居る小さな疵）〔16. 疥膿二：瘡底盤〕

— **bi** 未だ家產が殘つて居る. 餘產がある〔11. 富裕：有遺產〕根が少し殘つて居る〔彙：凡物根未曾盡除〕

Hedei 楔等を差込む孔〔21. 室家二：笋孔〕

Hederębumbi 草を掻き集めさせる〔21. 割採：使爬草〕

Hedereku 熊手〔21. 農器：爬子〕

— **orho** Hūsiba orho に同じ〔29. 草四：爬山虎〕

Hederembi 熊手で草を掻き集める〔21. 割採：爬草〕

Hederenumbi 一齊に草を掻き集める〔21. 割採：齊爬草〕

Hedu 疥癬(かいせん). 皮癬(ひせん)〔16. 疥膿一：疥〕

Hefeli 腹. 腹部〔10. 人身四：肚〕

— **madambi** 腹が膨れる. 腹が出張る〔彙：肚腹膨脹〕

Hefeli nimembi 腹が痛む〔16.疼痛一：腹痛〕
— **wakjahūn** 腹が肥満して垂れ下つた〔彙：肚子胖大垂着〕
Hefeliyebumbi 懐に收めさせる〔21.收藏：使揣〕
Hefeliyembi 懐に收める〔21.收藏：揣着〕
Hefeliyenembi 腹を下す〔16.疾病一：瀉肚〕
Hehe 女. 婦人〔10.人五：女人〕
— **dethe** 翅大翎(Niongnio)に接いで生じた羽〔30.羽族肢體一：翅次翎〕
— **doose** 女の道士〔10.人四：女冠〕
— **feyesi** 女の檢屍人〔10.人二：穩婆〕
— **keli** 嫂と弟の嫁との間で互に呼びかけ合ふ詞〔10.人倫二：妯娌〕
— **nakcu** 母の兄弟の妻〔彙：舅母〕
— **tohon** 乳ぐ(ボタンをかける紐輪). ボタン孔〔彙：鈕絆兒乃扣絆鈕子者〕
Hehengge 女の(もの)〔彙：女的〕
Hehereku 氣が小さくて女の様にこせつく人〔18.鄙瑣：婆氣人〕
Hehereme (男が)女の裝ひをした. 女の様に〔18.散語六：女人行景〕
Heheri 口蓋〔10.人身三：巧舌〕
— **faitame** 險崖をなした山の裾を横切つて(行く)〔2.地輿四：横過山麓梁〕
— **madaha** 馬の口蓋が腫れた〔32.馬畜殘疾一：癉高〕
Hehesi 女達. Hehe の複數〔10.人五：衆女人〕
Hei hai わあわあ. ひーひー(泣き聲)〔14.聲響二：哭聲〕
Heihedembi 酒に醉ふてよろめきながら行く〔14.行走三：醉後前仰後合〕
Heiheri haihari ひよろひよろと. ふらふらと〔14.行走四：蹣跚〕
— **haiharilambi** 千鳥足で行く. 蹣跚として行く〔彙：傾々〕
Heihule 魚名. 扁平で口小さく長さ四五寸, 到る處に棲息す, 釣り易し〔32.河魚三：白鱗魚〕
Heihuwe でふざめ, どんこ類を小さく切つて油で揚げたもの〔27.飯肉三：炸魚肉釘〕
Hejefiyaha 滿洲吉林東北の地名〔續2.地輿：赫哲費雅哈〕
Hejembi 1. 結納を交はす. 婚約をする〔6.筵宴：下定禮〕 2. (喘息等で)喘ぐ. 息苦しくなる〔16.疾病二：喘〕 3. 縦横に絲を織りなして繊ぎをする〔24.剪縫二：横竪線縫補〕
Hejihe 1. 山腹(八合目邊)の險しい所〔2.地輿三：山肋險處〕 2. 米白を搗く時に倚りかゝる横木〔21.農器：登碓扶手〕
Hejiheleme 山腹の險所を斜に横切つて(行く)〔2.地輿三：走山肋險處〕〔彙：與 Hekdereme 同. Hejiheleme yabumbi 同〕
Hekcehe 潮が退いた〔2.地輿七：潮退〕
Hekcehun 秋になつて河水が減る〔2.地輿七：秋水減退〕
Hekderembi 山腹(八合目の邊)の險坂を通つて行く. Hejihelembi に同じ〔彙：順山傍不平險處斜走〕
Hekdereme 山腹の險坂を通つて〔2.地輿三：走山肋險坡〕
Hekderhen 山腹(八合目の邊)の險しい山坂〔2.地輿三：山肋險坡〕
Hekderhun Hekderhen に同じ〔彙：山傍不平險〕
— **de** 山腹の險所に〔彙：山傍不平險處〕
Hekterekebi (病重く)意識が錯亂した〔16.疼痛三：昏迷〕
Hele 啞〔16.殘缺：啞吧〕
— **hempe** 吃り. Hempe に同じ〔彙：結吼〕
— **hempe akū** 碌に話も出來ぬ無能な人〔18.散語六：不言不語〕
Heledembi 甚しく吃る. 言葉が閊える〔14.言論三：很結巴〕
Helen 敵狀を知れる人. 捕捜〔10.人五：所擒活口〕
— **akū** 1. うまく言葉の操れぬ低能者〔17.愚昧：言語遲鈍〕 2. 聲の出ぬ啞〔16.殘缺：不出聲啞吧〕〔彙：與 Helen hempe akū 同〕
— **berebuha** Helen burubuha に同じ

〔彙：病重了不能言語了〕
Helen burubuha 重病で口が利けない〔16.疼痛三：失音〕
— **hempe** 吃り. Hempe に同じ〔彙：結吧〕
— **hempe akū** Helen akū に同じ〔17.愚昧：言語遲鈍〕
— **jafambi** 勇士を敵陣に潜入させて敵を生捕りにして來る〔8.征伐二：捉生〕
Heleri halari (言語動作の) のろのろした. 愚圖々々した. もどかしい〔17.怠慢迂疏：邋忽〕
Heliyen 1. 踏み臼〔21.農器：碓〕2. かまきり〔32.蟲二：螳螂〕
— **sebsehe** Heliyen に同じ〔32.蟲二：螳螂〕
— **umiyaha** Heliyen に同じ〔32.蟲二：螳螂〕
Helmehen くも〔32.蟲三：蜘蛛〕
Helmen 影〔1.天文一：影〕
— **gabtaku** いさごむし〔32.蟲一：射工〕
— **uran** 反響〔彙：影響〕
Helmešembi Fosoba, Elden gabtabuha に同じ〔1.天文一：日光蕩漾〕
Helne 招待に行け〔6.筵宴：邀請〕
Helnembi 行つて招待する. Solinambi に同じ〔6.筵宴：去邀請〕
Helnere šusihe 監査考試等の任を帶びて出張する官に與へる銀牌〔5.事務四：聘牌〕
Hemhimbi 手探りで進む〔14.行走三：摸索着走〕
Hemilembi 着物を抱きかゝえる. 裾をからげ扎つ〔24.穿脫：摟衣〕
Hempe Hele hempe に同じ〔16.殘缺：結吧〕
Hen Ten に同じ〔26.車轎一：軟榻〕
— **tan i** 辛うじて. どうにかして(暮す)〔13.貧乏：能得〕
Hencebumbi 臼で搗かせる〔21.碾磨：使石臼擣〕
Hencehen 鐵具. 小さな鋤の形をしたもので, 鍋の垢等を落すに用ひる〔25.器用五：鐵鏟子〕
Henceku 石臼. 鐵臼〔21.農器：石鐵臼子〕
Hencembi 臼で搗く〔21.碾磨：石臼擣〕
Hendu 語れ. 言へ〔14.言論一：說〕
Hendubumbi 言はしめる. 語らせる〔14.言論一：使說〕
Hendumbi 言ふ. 說く. 語る. 言ひつける〔14.言論一：講說〕
Hendume と云つて. と語つて〔彙：說之〕…の云ふのには…〔彙：傳人之說〕…の曰く…〔彙：子曰之曰〕
Hendure balama 語り物等を始める時, 冒頭に言ふきまり文句〔14.言論一：常言道〕
Henggenehebi 蓬髪垢面の〔18.邋遢：頭臉髒臟〕
Henggenembi 婦人が蓬髪垢面の姿をする〔18.邋遢：婦女蓬頭垢面〕
Hengke うり. うり類〔彙：瓜乃總名〕
Hengkeri 種の小さな瓜〔28.果品四：甜〕
— **fulana ilha** 草名. 種はぼけに似て食ふを得〔29.花二：木瓜海棠〕
Hengki 叩頭せよ〔彙：令人叩頭〕
Hengkilebumbi 1. 叩頭させる〔6.禮拜：使叩頭〕2. 頭數を數へて物を按分する. 頭割にする〔12.分給：扣算分給〕
Hengkileku 1. 鍵(かぎ)〔22.工匠器用三：鎖子〕2. (火繩銃, フリント銃等の)打ち金〔9.軍器七：銃機子〕
— **umiyaha** こめつきむし〔32.蟲一：磕頭蟲〕
Hengkilembi 叩頭する〔6.禮拜：叩頭〕
Hengkilendumbi Hengkilenumbi 一齊に叩頭する〔6.禮拜：一齊叩頭〕
Hengkilenembi 行つて叩頭する〔6.禮拜：去叩頭〕
Hengkilenjimbi 1. 來て叩頭する〔6.禮拜：來叩頭〕2. 外國から朝覲に來る〔彙：外國來朝覲〕
Hengkin 叩頭〔彙：叩頭之叩. 整字〕
— **i tuwabun** 陞殿の日鴻臚寺より參進した謝恩の官の官名人員を記した奏摺〔5.事務二：啓疏〕

Hengkin i tuwabun i kunggeri 啓疏の事を取扱ふ役所〔補2.衙署六：啓疏科〕
Hengkišembi 續け様に叩頭する〔6.禮拜：連叩頭〕
Heni 1.些少．ほんの少し．僅か〔25.多寡二：些須〕2.量の單位（四本の指の尖で摘み取れるだけの分量）〔22.衡量一：抄〕
— **tani** 極く僅かに．Heni に同じ〔25.多寡二：些須〕
Henjihe 招きに來た〔彙：請來了〕
Henjimbi 來て招待する．Solinjimbiに同じ〔6.筵宴：來邀請〕
Hente 1.成長した猪〔31.獸四：將壯野猪〕2.草を拋り上げる叉のある木〔21.農器：木叉〕
— **niru** 刺股(叉)狀の鏃のある矢〔9.軍器四：叉披箭〕
Heo 侯爵〔4.臣宰三：侯〕
— **seme** すらすらと（やつてのける）往くとして可ならざるはなき〔11.德藝：儘可以〕
Heoledembi 怠る．疎略にする〔17.怠慢迂疏：怠慢〕
Heolen 疎略な．怠つた〔17.怠慢迂疏：怠〕
Heošembi 遲疑する．思圖々々する〔17.猜疑：遲疑〕
Heperekebi 1.老碌した〔10.老少一：昏憒〕2.醉つて前後不覺になつた．醉ひ潰れた〔27.飲食四：醉糊塗了〕
Heperembi 1.手當り次第取る．掻き寄める〔18.貪婪：摟〕2.醉ひ潰れる〔彙：吃酒狠醉不省事了〕3.老碌する〔彙：老了胡亂動作〕
Hepereme sakdaha 高齢者．甚しく老碌した老人〔彙：太年老過了的人〕
Her har ごろごろ（喉に痰が纏はる音）〔14.聲音二：喉轉聲〕
— **har serakū** 毫も意に介せず．人に頓着せず〔17.驕矜：毫不理人〕
Hercibumbi 絲卷に捲き取らせる〔23.紡織一：使上線板〕
Hercimbi 絲卷（Famha）に捲き取る〔23.紡織一：上線板〕
Hercun akū 氣が付かぬ．不覺の〔17.怠慢迂疏：不覺〕
Herdembi 1.食を求めて奔走する〔13.貧乏：奔求〕〔彙：與 Herdeme hardame 同〕2.地面に落ちたものを馬上から拾ひ上げる〔21.收藏：馬上撿物〕
Herdeme hardame 食を求めて奔走し〔13.貧乏：奔求〕
Herebumbi 1.掬ひ上げさせる〔28.魯盛：使撈〕（網等で）魚を掬はせる〔22.打牲：使撈魚〕2.紙を漉かせる〔23.紡織二：使抄紙〕
Hereku 柄杓の形をした笊〔25.器用五：笊籬〕
— **maša** 孔のあけてある杓子．煮たもの等を掬ひ上げるに用ひる〔25.器用五：漏勺〕
Herembi 1.掬ひ上げる〔28.魯盛：撈〕網で魚を掬ふ〔22.打牲：撈魚〕2.紙を漉く〔23.紡織二：抄紙〕
Heren 馬を繋ぐ所．馬小屋．牧場〔32.牲畜器用一：馬圈〕
Heresu 草名．海岸鹽池に生ず，駱駝に食はす〔29.草二：鹽池蒿〕
Hergebumbi 1.水漉(笊)で濾させる．浮物を掬ひ取らせる〔28.魯盛：使撇浮物〕2.Herebūmbi に同じ〔彙：使抄做紙〕
Hergembi 1.Herembi に同じ〔23.紡織二：抄紙〕2.水漉(笊)で濾す〔28.魯盛：撇去浮物〕
Hergen 1.字．文字〔7.書八：字〕2.爵．爵位〔4.臣宰十四：爵〕3.手筋．足の裏の筋〔10.人身四：手足紋〕
— **dasakū** 詹事府の雜務を處理する役人〔4.臣宰四：正字〕
— **foloro falga** 御書處に屬し，天子の書を複寫して石に彫りつける事を掌る役所〔補2.衙署六：刻字處〕
— **i kemun** 下敷にして準ぢらへて書く手本．罫の入つた下敷〔7.文學什物二：影格〕
Hergenehe cece 文字を織り出した紗〔23.布帛四：字紗〕
— **suje** 文字を織り出した緞〔23.布帛二：字緞〕

Hergibumbi 1. 捲きつけさす〔23.紡織一：使繞絲〕2. 徘徊させる．彷徨かせる〔彙：使處々間遊走〕
Hergice 絲が捲きつけてある糸枠(Hiya)〔23.紡織二：線鎖子〕
Hergimbi 1. 用もないのに彷徨く．徘徊する〔14.行走三：遊蕩〕2. 絲を捲きつける〔23.紡織一：繞絲〕3. 鷹，鳶が空高く圓を畫く〔彙：鷂鷹等物在天上飛繞之繞〕
Hergime hejeme 纏はりついて．纏綿として〔彙：纏繆〕
Hergin 1. 綱の緣，(綱の緣の，繩を括りつけた所)〔22.打牲器用一：網邊〕2. 法，理法〔5.政事：紀〕
— **be teksilere hashū ergi fyenten** 盛京刑部の司名〔20.部院九：肅紀左司〕
Hergitu 絲の捲きつけてあるFamha(纏線的板子)．紡錘〔23.絨棉：整錘〕
Herin 水底の起伏(坂になつた處)〔2.地輿十一：水底高坡〕
Herserakū 氣に留めぬ．相手に構はぬ〔17.驕矜：不理〕
Heru 車輪の輻〔26.車騎二：輻條〕
Hese 勅旨〔3.論旨：旨〕
— **buhengge** 天性の．生れつきの〔11.性情一：命定〕
Hesebun 天理．天性．稟性〔11.性情一：命〕
— **be aliha usiha** 三台星の中，上位の二星の名〔補1.天：司命〕
Hesei kiru temgetu 天子から邊疆の大臣に授けた旗牌〔3.論旨：王命旗牌〕
Hesihešembi 彼此方を眺めながら浸ろ歩きする〔14.行走三：觀望着走〕
Hesihetembi (饑えて痛せ衰へ)よろめいて行く〔13.饑饉：餓的無力〕
Hesitembi Hesihetembiに同じ〔13.饑饉：餓的無力〕よろよろと行く〔14.行走三：打踉蹌〕
Hešelerakū 網綱を曳かぬ〔彙：釣而不綱之不綱〕
Hešemimbi 袋の口を締める．袋の口に締紐をつける〔24.剪縫三：抽口〕
Hešen 1. 綱の緣に沿ふて結へつけた繩〔22.打牲器用一：網邊繩〕2. 絹物の兩耳〔23.布帛六：紬緞邊子〕3. 要目．大綱〔5.政事：綱〕4. 土地の境界〔21.田地：地界〕
— **hergin** 〔彙：綱紀〕
— **i camhari** 境界標〔19.城廓：界牌〕
— **ulhun** 〔彙：綱領〕
Hešenehebi 襤褸を纏ふた〔18.邋遢：衣衫襤褸〕
Hešu hašu 1. こせこせした(人)．氣の小さい〔18.鄙瑣：冗雜〕2. 零細な．細々した〔25.大小：零星〕
— **hašu niyalma** こせこせした人．氣の小さい人〔彙：小樣小氣人〕
Hešurebumbi 1. 草を掻き寄めさせる．Hederebumbiに同じ〔21.割採：使摟草〕2. 一物も剩さず取らせる〔彙：使人將凡物不餘剩盡取完〕
Hešurembi 1. 草を掻き寄める〔21.割採：摟草〕2. 一物も剩さず取る〔18.貪婪：全摟〕
Hete 1. 捲き揚げよ．捲き包め．疊め〔24.包裹：捲摞〕2. 婦女に叩頭の禮をさせよ〔彙：令婦女叩頭〕3. 裾開をかゝげ持て〔彙：令把衣服開岐子往上擧拿着〕
Hetebumbi 1. 捲き揚げさせる．捲き包ませる．疊ませる〔24.包裹：使捲摞〕2. 婦女に叩頭の禮をさせる〔彙：使婦女叩頭〕3. 裾開をかゝげ持たせる〔彙：使把衣服開岐子往上擧拿着〕
Hetehen 折れ釘〔22.工匠器用三：掛釘〕
Hetembi 1. 婦人が叩頭の禮をする．婦人が賀拜の禮を終へて後，手を額に持つて起きながら叩頭する〔6.禮拜：婦女叩頭〕2. 簾を捲き揚げる〔21.開閉：捲簾〕着物のSelfen(裾開)をかゝげ持つ〔24.穿脫：撩衣襟〕(衣服，布團，褥の類を)捲き包む．疊む〔24.包裹：捲摞起〕袖を捲り上げる〔彙：衣袖子往上疊捲着〕
Heteme goholombi 相手の內股から脚を捲きつけ跳ねあげる〔8.撩跤一：掛勾子〕

Heteme ilha Corho (盔頂上管子)の上に打つける，盃の形をした金具〔9.軍器一：頂盤〕
— **šufatu** 頭巾の類．巾を以つて髪を後方へ包み被ふもの〔補1.古冠冕三：幅巾〕
— **tasihimbi** 足を相手の足の裏の邊に引かけて横樣に高く拂ひあげる〔8.撩跤一：兜底踢脚〕
Hethe 1. Hitha (飾件)を附けてない鞦(しりがい)，轡の紐〔9.鞍轡二：鞦轡靼子〕 2. 稻の刈株〔21.農工三：穀楂子〕 3. 蒂〔29.花六：花蒂〕 4. 袖口の所の鍍をかけた折目，襞〔24.衣服三：烙的袖褶〕 5. 家產（田地奴婢）〔彙：家產〕
— **bi** 家產がある〔11.富裕：有產業〕
Hethebumbi 野菜を湯掻かせる〔28.煮煎：使滾水炸菜〕
Hethembi 野菜を湯掻く〔28.煮煎：滾水炸菜〕
Hetu 1. 縱横の横〔2.地輿十四：横〕 2. 横寬な(人)．横肥りの〔11.容貌六：横寬〕 3. 廊．側房〔彙：廂五活明廂〕
— **ala** 奉天の東方，滿洲の故都〔續2.地輿：興京即赫圖阿拉〕
— **boo** 正房の東西にある側房〔21.室家一：廂房〕
— **dalangga** 河の堰き．河川工事を始める際，水を横に放入する爲に設けた假の堰堤〔補1.地輿二：攔河壩〕
— **ficakū** 〔7.樂器二：横笛〕
— **hitha** 轡，鞦の金具（裝飾のない常用のものをいふ，例へば單に溝を彫つたもの，筋の入つたもの，平面のもの等の類）〔9.鞍轡二：常行飾件〕
— **undu** 〔彙：縱横．横竪〕
Hetuken 稍々横肥りの〔11.容貌六：略横寬〕
Hetuliyan 少しく横に〔彙：畧横些〕
Hetumbi 日を送る．過す〔彙：度日之度〕（冬を）越す〔彙：度過冬之度過〕飛び過ぎる〔彙：鳥飛過山之過〕
Hetumbumbi 生物を飼ふて冬を越させる〔9.頑鷹犬：養過冬〕口を糊する〔彙：乞化糊口之糊〕日を過す〔彙：度日之度〕
Heturebumbi 追剝に遮られる〔16.竊奪：被截〕話を遮られる〔彙：被人攔截話〕
Heturembi 1. 人の話に横口を出す．話を遮る〔14.言論二：横挿話〕 2. 追剝ぎをする．道を遮る〔16.竊奪：截〕
Heturen つまにある梁〔21.室家一：山柁〕
— **budere enduri** 歲神の第五．陰氣殺傷を司る〔補2.神二：刼煞〕
Heturhen 鷹の類．よく兎を捕ふ〔30.鳥四：攔虎獸〕
Heturi 瑣細な．餘計な(事)〔18.散語六：旁岔〕
— **bade** 閒居．隱居〔彙：燕居〕
— **baita** 瑣事．餘業〔彙：正事之外別有小事〕
— **dasargan** 藥や手當を變へて治療すること〔19.醫治：偏方〕
— **faidan** 紫金城の內外に臨幸する時の鹵簿〔6.禮儀：鑾駕鹵簿〕
— **faidan i kiyoo** 儀仗名．八人で擔ふ，黃色な垂幕のある金漆の輿〔6.鹵簿器用五：鑾駕步輿〕
Heye 目脂〔10.人身八：眼眵〕
Heyenembi 目脂が出る〔10.人身八：生眵〕
Hi c'y 〔彙：稍翅即鷲翎．與 Ergece niyehe 同．Ijifun niyehe 同〕
Hib seme ずぶっと（獸に矢が深く刺つた形）〔9.畋獵三：深入狀〕
Hibcan 1. 缺乏せる．不充分な〔25.多寡二：短少〕 2. 苴しが樂でない．ほそぼそと．質素な〔13.貧乏：淡薄〕
Hibcarabumbi 節約させる〔11.省儉：使節儉〕
Hibcarambi 節約する〔11.省儉：節儉〕
Hibcarandumbi Hibcaranumbi 〔彙〕各自節約する〔11.省儉：一齊節儉〕
Hibsu 〔27.飣餖三：蜂蜜〕
— **ejen** 〔32.蟲三：蜜蜂〕
Hibsungge usiha とりのみ〔補3.異樣果品一：天師栗〕
Hibta 切を重ね厚く縫ひ作つたもの．

物を擔ぐ時肩に當てる〔24.衣服二：護身〕

Hican 1. 質素な人. 清廉の士〔11.忠清：簡約〕〔彙：與 Bolgo hican 同〕 2. 食細き(人). 小食の. Fiyancihiyan に同じ〔27.飲食三：食量小〕

Hicumbi 1. Fiktu baimbi に同じ〔15.侵犯：尋因由〕 2. 人を苦しめる事にのみ汲々とする〔16.折磨：作賤〕人の疵を探す〔彙：求疵〕

Hida 1. 蒸籠の竹の簀子(高粱のものもあり)〔25.器用四：蒸篦子〕 2. すだれ〔26.間隔：竹簾〕

Hidakū 裏うちした簾. 窓にかけて雨の吹きつけを防ぐに用ひる〔26.間隔：雨塔〕

Hidambi 絲枠(Hiya)に糸を捲きつけて Hergice (線綉子)を作る〔23.紡織一：繅線〕

Hife ひえ〔28.米穀一：稗子〕

— **bele** ひえ米〔彙：稗子米〕

— **hara** のびえ. いぬびえ〔29.草一：稗莠〕

Hihalambi 珍重する. 氣に入る〔13.愛惜：稀罕〕

Hihalarakū 意に充たぬもの. 慊らぬこと〔15.憎嫌一：不希罕〕

Hihan 珍重な〔彙：希罕〕潔き〔彙：屑〕

Hihanakū 口惜しき. 殘念な. 潔しとせぬ〔13.悔嘆：敎心吊味兒〕取るに足らぬ. 價のない〔15.憎嫌一：不足取〕

Hihūn budun 鬱々として. 不安に襲られて〔13.愁悶：獃癡樣〕

Hija 銀鐵を熔かす爐〔22.工匠器用一：爐〕

— **i nuhaliyan** 爐坑〔21.室家三：爐坑〕

— **i tukda** 爐の目皿〔21.室家三：爐條〕

Hijada 鑄錢局の鑄錢夫の頭〔10.人二：爐頭〕

Hilteri 鎧の草摺りの札〔9.軍器二：甲裙明葉〕

Hilterilembi 草摺の札をつける〔彙：釘甲葉乃釘明甲葉〕

Himci 眞二つに. 一刀兩斷に〔25.斷折：齊杖兩截〕

Hin giranggi 下腿骨の背面〔10.人身六：腿梁〕

Hina 毫. 重量の單位, 10 Sunji (絲)を 1 Hina, 10 Hina を 1 Eli (螫)となす〔22.衡量二：毫〕

Hing seme 心を籠めて. 一意〔11.厚重二：實心樣〕專心. 懸命に〔12.黽勉：誠心〕頻と. 引切無しに(疼く)〔16.疼痛三：很病〕

Hinggan 興安〔彙：口外之地名. 極寒處〕

Hinggari あさび〔29.草三：荇菜〕

Hingge 魚の群. Maru に同じ〔32.海魚二：魚羣〕

Hinggeri 廿八宿の一. 日の屬〔1.天文二：虛〕

Hingke 瘠せた土地〔21.田地：薄地〕

Hingneci šu ilha 水蓮の一種. 花は菱花に似て大, 日中は開き日沒と共に凋んで葉の間に隱る, 黃白二種あり〔29.花二：朝日蓮〕

Hio seme ほーと(嘆息の聲)〔13.悔嘆：長嘆聲〕

Hiong ひゆつと(飛んで行く)〔彙：翩々乃羽聲〕

Hionghiori gasha もず〔30.鳥十：鵙〕

Hir seme ひーひーと(甚しく嘆き怨むの樣)〔13.哭泣：哀戚樣〕

Hiracambi 横目でぢつと睨み附ける〔12.觀視二：只管斜看〕隙を伺ふ〔16.竊奪：窺伺〕

Hirambi 横目で睨む〔12.觀視二：斜看〕

Hirgen 水流の痕〔2.地輿九：水流痕〕

Hirha 火石. 土瑪瑙〔2.地輿六：火石〕燧石〔23.烟火三：火石〕

Hirhabumbi 切り取らせる〔24.剪縫一：使裁剪〕

Hirhambi 切り取る〔24.剪縫一：裁剪〕

Hirhūbumbi 1. 絡みつかせる. 難題を吹きかけさせる〔彙：使招惹人〕絡

みつかれる〔彙：被招着〕2. 擦りつけられる〔彙：被招擦着〕

Hirhūmbi 1. 人に絡みつく．難題をいひかける．無禮を働く〔15. 侵犯：譏刺戲惹〕2. 馬が痒い處を墻等に擦りつける〔31. 馬匹動作二：倒癢〕

Hiri 1. 熟睡した〔15. 睡臥二：睡熟〕2. すつかり忘れた〔17. 懦弱二：全然忘了〕

— **oho** 1. がつかりした．興醒めた．失望した〔12. 落空：掃興〕2. 膽を冷した．はつとした〔彙：擅在物上心驚寒〕

— **onggoho** 全く忘れてしまつた〔彙：狠忘死了．記不得了〕

Hisalabumbi 死者に酒を灌がせる〔6. 喪服二：使奠酒〕

Hisalambi 死者に酒を灌ぐ〔6. 喪服二：奠酒〕

Hisdakū 樂器名．形 Jaidakū (鋏) より小〔7. 樂器一：撲鋏〕

Hise 俳優．役者〔彙：戲子〕

Hishabumbi 研ぎ澄まさせる〔26. 錘磨：使鎟刀〕

Hishakū 靴刷毛．刷毛〔25. 器用八：刷子〕

Hishambi 1. 研ぎ澄ます〔26. 錘磨：鎟刀〕2. 卷狩で獸が頻々と人に擦れて走る〔9. 畋獵二：獸挨着過〕3. 擦る．擦りつける〔彙：挨擦着〕火打鎌を擦る〔彙：火鐮挨擦打火〕

Hishan 汚點．染み．痕〔18. 邋遢：汚瘢〕

Hishanahabi 染のついた．痕のある．垢のついた〔18. 邋遢：沾汚瘢點〕

Hishūn 1. いぢけた．陰氣な性の〔11. 性情二：心細不直爽〕2. はにかみ家．はづかしがり〔17. 羞愧：肯害羞〕〔彙：與 Girutu 同〕恥を知る人〔彙：有廉恥的人〕

Hisy 山腹の險峻な處〔彙：山傍狠險峻處〕

Hitahūn 指の爪〔10. 人身四：指甲〕

Hitahūšambi 膠で着けた矢の羽を指の爪で押へる〔9. 製造軍器三：砑箭翎〕

Hitērekebi 眉を顰める〔13. 愁悶：愁的皺眉〕

Hiterenehe (白雲が) 魚鱗の形をした〔彙：白雲如魚鱗〕

Hitha 1. 鎧の札〔9. 軍器二：甲葉〕2. 轡，鞦(しりがい)の金具〔9. 鞍轡二：飾件〕3. 蜜蜂の巢の一つ一つの高〔32. 蟲三：蜜脾〕

Hithalambi 蜜蜂が巢を作る．巢の窩を作る〔彙：蜜蜂做蜜頁子〕

Hithalame giyalame 蜂が巢に一つ一つ窩を作つて．蜂房を作つて〔彙：做蜜子間隔〕

Hithari 奇果名．冬生じて夏熟す，紅色にして碗大，皮は甲の札の如く層をなし味稍々甜し〔補3. 異樣果品三：橄罟子〕

Hithembi 跳神の時酒を箸につけてばらばらと振り撒く〔6. 祭祀二：用筋撒酒祭〕

Hithen Pijan (皮箱) より稍々小にして深い箱〔25. 器用一：抬箱〕

Hiya 1. 旱魃の年〔2. 時令四：旱〕2. 侍衞の士 (孔雀の羽を帶ぶ)〔4. 臣宰七：侍衞〕3. 糸枠．組枠．二本の木を組合はして糸を捲きとるもの〔23. 紡織二：織車的簇子〕

— **gurun i sirdan** 古代の箭名．甚だ鋭い〔補1. 軍器一：夏服箭〕

— **kadalara dorgi amban** 侍衞を統べる大臣〔4. 臣宰一：領侍衞內大臣〕

— **kadalara dorgi amban i ba** 侍衞の選考，陞級，交替を司る役所〔20. 部院九：領侍衞內大臣處〕

— **silmen** 猛禽類．Ajige hiya silmen (鶻兒) の雌〔30. 鳥四：柏雌〕

Hiyaban 麻布．Hūnta (線麻) で織つたもの〔23. 布帛五：夏布〕

Hiyabsa 1. 奏摺を挾む夾板．書籍の夾板〔5. 事務二：夾板〕2. 二本の木に革紐を通しおもがい等を附けて，馬騾に端綱の如く着けるもの 3. Bireku (趕麵杖) の形をした二本の棒に紐を通し Furgi (套搥) の上に着けて車を牽くに用ひるもの 4. Namki (屜) を着ける時に押へとして結へつける二枚の板〔32. 牲畜器用二：夾板子〕

— **enggemu** 粗末な車を牽く時に用ひ

る小さな木鞍〔彙：拉笨車牲口上備的小木鞍〕

Hiyabsa jahūdai 桴が Hiyabsa (夾板)の形をした小船〔26.船一：夾板船〕

Hiyabsalabumbi 副へ木を當てさせる〔19.醫治：使夾掤折傷〕

Hiyabsalambi (手足を折つた時) 副へ木を結へ附ける〔19.醫治：夾掤折傷〕

Hiyabsambi 牝牛が仔牛を舐める〔32.牛：牛舐犢〕

Hiyabulakū 器具名. 三叉の木を立て, 上部に孔をあけて Hiyabun (燈盞) を挿む様にしたもの〔23.烟火二：燈盞架子〕

Hiyabun Kima (蒜麻)の莖に胡麻油の滓をなすりつけ燈の様にして火を點ずるもの〔23.烟火二：燈盞〕

Hiyada 綰め. 梆を結へよ〔彙：令綰. 令結綳〕

Hiyadabumbi 1. 綻びを縫はせる. 綴り縫はせる〔24.剪縫二：使縫補〕 2. 編ませる〔彙：使編〕

Hiyadambi 1. 綻びを縫ふ. 綴り縫ふ〔24.剪縫二：縫補〕 2. 編む〔彙：編雀籠編鞘編魚罾等物之編〕

Hiyadan 箱棚. Horho (竪櫃) に似て扉の無いもの〔25.器用一：櫃陽子〕

Hiyadangga kunggeri 役所名. 始めは兵部武選清吏司に屬したが後に職方清吏司に屬す〔補2.衙署三：衆關科〕

Hiyaganjame tuheke 賊の屍體が累々と横たはつた〔8.征伐七：尸骸縱横〕

Hiyahabuhabi こんがらかつた. 紛糾錯雜した〔5.彙冗：已致錯雜〕

Hiyahabumbi 1. 混亂して居る. 紛糾して居る〔5.彙冗：致錯雜〕 2. 交錯させる〔彙：使交錯〕

Hiyahalabumbi 掛り合ひになる. 調査して召喚される〔5.詞訟一：被牽扯〕

Hiyahalame tabumbi 弓の一方の弭を地に着け, 他方を手に持ち膝で弓を曲げて弦をかける〔9.製造軍器一：屈弩上弓〕

Hiyahali cecike いすか〔30.雀五：交嘴〕

Hiyahambi 交錯させる〔彙：交錯之〕

Hiyahan 1. 鹿茸(ろくじょう)〔9.軍器六：鹿角〕 2. 鞍の根に着けて, Babun (鞍稍鐵牌) に括りつける四條の短い革紐〔9.鞍轡二：鞍稍〕

— i enggemu 鞍の前後輪に横木を結へた鞍(小兒用のもの)〔9.鞍轡一：架鞍〕

— mulan i iletu kiyoo 轎の一種. 腰掛けに轅を附けて擔ぐ様にしたもの〔26.車轎一：交椅亮轎〕

— siltangga jahūdai 船の類. 二本の細い柱を十字に組んで, これに帆をかけて走る〔26.船一：巴干船〕

Hiyahanjahabi 入り亂れた. 交ぜ返つた〔5.彙冗：錯雜住了〕

Hiyahanjambi 入り亂れる. 紛糾する〔5.彙冗：錯雜〕雜然と並ぶ. 亂雜に置く〔22.捆堆：錯雜放物〕

Hiyahanjame tuheke Hiyaganjame tuheke に同じ〔彙：殺倒的人橫三竪四〕

Hiyahū 喘息. 喘ぎ〔16.疾病一：吼喘〕

Hiyai idui janggin 侍衛の各班の長. 六班あり〔4.臣宰七：侍衛班領〕

— juwan i da 侍衛の將校〔4.臣宰七：侍衛什長〕

Hiyajuhu nimaha 干物. 乾魚〔續2.河魚：彙魚〕

Hiyak seme かっと(なる)〔13.怒惱：嗔怒樣〕

Hiyalambi 子供を何かに入れて背に負ふ(結へる)〔13.生產：綳孩背着〕

Hiyalhūwa 麻がら. Kima (蒜麻) を取つた後の莖〔29.草二：麻稭梃〕

Hiyalhūwari 附木. 麻がらの先に硫黄を着けたもの〔23.烟火二：取燈〕

Hiyalu 繩で編んだ袋〔25.器用七：繩絡子〕

Hiyaluri ilha 奇花名. 花は白くて小. 形絲綢の如し〔補3.異花四：實綢花〕

Hiyan 1. 香〔6.祭祀器用二：香〕香料〔24.飾用物件：香〕 2. 縣〔彙：府縣之縣〕

— an gung ni alban tacikū 紫禁城内の官學. 八旗内の無任の滿人及内府の三旗中の俊秀なる子弟を各旗に拾

人撰び出し毎月銀米を與へて學ばせる所〔20.部院十二：咸安宮官學〕
Hiyan dabukū〔6.祭祀器用一：香爐〕
— **dabukū i sindakū** 香爐を載せる机〔25.器用八：爐几〕
— **fila** 神前に香を焚く皿〔6.祭祀器用二：香碟〕
— **i caliyasi** 縣の錢糧を司る官〔補2.人：縣職〕
— **i ejesi** 縣丞の次の官〔4.臣宰十二：典史〕
— **i fanšakū** 球狀の形をした香袋．帳幕に吊す〔24.飾用物件：香球〕
— **i hoseri**〔19.佛一：香盒〕
— **i jumenggi**〔24.飾用物件：香袋〕
— **i saraci** 縣の曼官〔4.臣宰十二：知縣〕
— **i sihan** 撚香用の筒．中に香を盛り，ものに挿入し得る樣に作つたもの〔19.佛一：香筒〕
— **i siramsi** 知縣の次の官〔4.臣宰十二：縣丞〕
— **i tacibukū hafan** 縣の秀才を管轄する役人〔4.臣宰十二：教諭〕
— **sisikū** 香を焚く臺．小さな丸木に孔をあけ，そこへ直接に香，炭火を入れる樣にしたもの〔25.器用八：香墩〕
Hiyanci 細身の鳥銃．鳥銃より長く先の方が細く薄手になつたもの〔9.軍器七：線鎗〕
Hiyancilaha 夏季に鹿が群をなした〔31.走獸動息：夏鹿成群〕
Hiyang cūn moo 椿樹．その嫩葉は香高く食ふを得〔菜：香椿樹．其芽可吃〕
— **hing seme** びしびしと（取締まる）．しゃんしゃんと（事を運ぶ）〔15.實備：勇往實幹〕
— **seme** こらっと．やいっと〔14.言論四：叱責〕
Hiyangci 將棋〔棊：象棋〕
Hiyangnung alin 山名．盛京海城縣にあり〔補1.地輿一：降龍山〕
Hiyangtaršambi 驕る．驕つた振舞をする〔17.顓矜：驕縱〕
Hiyangtu 斜視氣味のもの．稍斜視の人〔11.容貌三：眼微斜〕
Hiyari 斜視．藪睨み〔11.容貌三：斜眼〕
Hiyaribuha Hanggabumbi に同じ〔2.時令四：亢旱〕
Hiyasai budai boo 侍衛，小吏連の食堂〔補2.衙署七：侍衛飯局〕
Hiyase 1. 神杆の上端に附けた枡形．祭祀等の時の供物を載る器〔6.祭祀器用二：神杆斗〕 2. 一斗枡〔22.衡量一：斗斛〕
Hiyaseku 市場で人に雇つて穀類を枡で量る人〔10.人二：斗級〕
Hiyatari 橋門〔19.街道：衙衢〕
Hiyatu 機物の耳．綫止めの所〔23.布帛六：機頭〕
Hiyatun 奇獸名．Syu fung 山に出づ，猛虎に似て翅あり聲乳兒の如し〔補4.異獸五：異獸〕
Hiyebele はいたか〔30.鳥三：鷂鷹〕
Hiyekden moo Fiyatarakū に同じ〔29.樹木五：爆木〕
Hiyena はいえな〔補4.異獸五：意夜納〕
Hiyenakū 輕薄な人．おつちょこちょい〔17.輕狂：惡賤〕
Hiyese さそり〔蟲：蝎子．蠆〕
Hiyob seme ひようと〔8.步射二：抱頭墜落聲〕
Hiyok seme ふうっと（溜息をつく）〔13.悔嘆：嘆氣聲〕
Hiyong seme びゅんと．ひようと〔8.步射二：箭去有力聲〕
Hiyoošulabumbi 孝ならしめる．孝行をさせる〔彙：使孝〕
Hiyoošulambi 孝行をする〔11.孝養：行孝〕
Hiyoošun 孝．孝行〔11.孝養：孝〕
— **be tacibure jalangga be temgetulere temgetun** 緞地に緋の緞子で「敎孝表節旌」といふ文字を縫ひつけた，牌の形をした旗〔6.鹵簿器用二：敎孝表節旌〕
Hiyoošungga 孝順な人〔11.孝養：孝順人〕
— **dergi ergi munggan** 孝東陵．河

北省遵化州にあり〔續. 地輿：孝東陵〕
Hiyoošungga jui 〔3. 封表二：孝子〕
— **nomun** 書名〔7. 書一：孝經〕
— **sargan jui** 〔3. 封表二：孝女〕
— **urun** 〔3. 封表二：孝婦〕
Hiyoošuntumbi 子孫が孝禮を盡して故人を葬る〔6. 喪服一：盡孝〕
Hiyoošuri gaha Holon gaha (慈鴉) の別名. Jilari gaha, Keru 俱に同じ〔補4. 鳥九：孝烏〕
Hiyor hiyar ぶるぶる. 逸れる馬の鼻息の音〔14. 聲響五：馬眼岔噴鼻聲〕〔31. 馬西動作二：眼岔馬鼻聲〕
— **hiyar seme** ぐんぐんと. どしどしと (事をなす)〔17. 驕矜：強梁〕
— **seme** ひゆつと (矢が飛ぶ)〔8. 步射二：箭翎聲〕
Hiyotohon 1. 腰の反そつた人. 反り返つた人〔11. 容貌二：躰腰〕 兩端の反そつた〔彙：兩頭翹〕
— **deretu** Deretu (案) に似て兩端が反り上つた机〔25. 器用二：翹頭案〕
Hiyotonggo son 宮殿の軒端の反り上つた椽木〔20. 墻廂：翹椽〕
— **ulhūma** 雉の一種. 尾長く翼と胸に白斑あり, 走りながら鳴く〔補4. 鳥六：鵸雉〕
Hiyotorobumbi 物を曲げて反そらせる〔26. 煨折：壓翹〕
Hiyotorokobi 兩端が反り上つた〔18. 抽展：兩頭翹了〕
Hiyotorombi 兩端が卷き揚る. 反り上る〔18. 抽展：兩頭翹起〕
Hiyotoršombi (重さに堪へ兼ねて) 弓なりになつて步く. よたよたと行く〔14. 行走三：彎着腰走〕
Ho gi 雉の一種〔彙：似白鸐比野鷄大身略黑頭頸青嘴白而紅眼周圈與脚俱紅尾白尾尖青長二尺下嗌下兩傍生出過頭灰色毛與獸牙相似〕
— **ha** ふうふう. はーはー (寒さの餘り思はず發する音)〔13. 寒戰：寒冷聲〕 あーあ. ふうー〔14. 聲響二：嘆聲〕
— **hoi** ほーいほい (臥せる鹿等を驅り立てる掛聲)〔14. 聲響一：驅獸聲〕
— **lan gurun i loho** 賀蘭地方より貢納する名刀〔補1. 軍器一：賀蘭刀〕
Hob seme はつしと (命中する)〔8. 騎射：正中聲〕
Hobai 更紗〔23. 布帛五：印花布〕
Hobo 〔6. 喪服二：棺〕
— **musen** 柩〔彙：棺槨〕
Hobolon 樹名. 叢生し, 葉は桃葉の如くにして大, 多く田地の境界に植える〔29. 樹木五：公道老〕
Hoborho 柩の外箱. 槨〔6. 喪服二：槨〕
Hocikon 容姿のよい〔11. 容貌二：俊〕
Hocikosaka 相當に容姿のよい〔彙：好不俊俏標致〕
Hodan gasha やまどりの類〔30. 鳥十：鷓鴣〕
Hode Aici に同じ〔17. 猜疑：想是〕
Hodori 白魚の子〔32. 河魚一：魦魚幹子〕
Hodz Go に同じ〔彙：婦人穿朝服項上掛的金盒子〕
Hofin Monggocon (長頸瓶) よりも小さい瓶〔25. 器用六：瓦瓶〕
Hofiyan 手腕のある. 腕の冴えた. てきぱきと事を運ぶ〔11. 德藝：快當〕
Hofun 濁水にわき立つた泡〔2. 地輿九：渾沫泡〕
Hoho 1. 耳朶. San i suihe に同じ〔10. 人身二：耳垂〕 2. 豆の莢. Turi hoho に同じ〔21. 農工三：豆角〕
— **efen** 豆の莢の形に作つた肉餑頭〔27. 餑餑一：水餃子〕
Hohoco ilha 異花名. 花は竹の花に似て, 種は豆の莢の如し〔補3. 異花一：洛如花〕
Hohocu 異果名. 形は櫻桃に似て蔓に生ず〔補4. 異樣果品四：日頭子〕
Hohodokū メガフォン〔25. 器用八：耳順風〕
Hohodombi 兩手を口に當てゝ遠くの人を呼ぶ〔12. 喚招：合手吹叫遠處人〕
Hohon 1. 酒を入れる大きな桶〔25. 器用六：盛酒大木桶〕 2. 熊が冬籠りする木の洞穴〔彙：野熊藏過冬的木孔處〕
Hohonggo moo 槐樹〔29. 樹木四：槐〕
— **mooi use** 槐樹の種子. 黃色の染料に用ふ〔22. 貨財二：槐子〕

Hohonohobi 軒に氷柱が下つた〔1.天文六：簷氷垂凌〕
Hohonombi 1.豆の莢が出る．垂れ下がる〔21.農工三：結豆角〕2.軒の氷柱が垂れ下がる〔彙：房簷掛的氷凌錐多了一片片的〕
Hohonto 奇獣名．濊題山に出づ，牛に似て白尾，聲人の喊くに似たり〔補4.異獣二：那父〕
Hohori 耳孔の傍の突起した小軟骨〔10.人身二：耳門〕
— **jan** 牛の角で作つた Golmin jan（長哨箭）〔9.軍器四：牛角哨箭〕
Hoifa hoton 滿洲の古城名〔續2.地輿：輝發城〕
Hoifalabumbi Hoifan（染青水）で黒く染めさせる〔彙：使熬野茶染青〕
Hoifalambi Hoifan（染青水）で黒く染める〔18.洗漱：染青〕
Hoifan 染料名．野茶の枝葉に黒皂礬を混ぜて煎じた液，黒色染料〔18.洗漱：染青水〕
Hoihalambi 冬に巻狩をする〔9.畋獵：一：冬狩〕
Hoihan 狩り場．巻狩で勢子が遠巻きにした圏の内をいふ〔9.畋獵一：圍場〕
— **sindambi** 巻狩りで遠巻きの陣形を作る〔彙：放圍圈〕
Hoiho 鶏の雛の尾のないもの〔31.諸畜三：禿尾小雞〕
Hoilabumbi 汚す．汚くする〔25.新舊：至于髒舊〕
Hoilacambi 歩きながら首を振り，左右を見廻す〔12.觀視二：左右偸看〕〔31.馬匹動作一：左右回頭〕
Hoilakabi 油等がにじんで汚れた〔25.新舊：已髒舊了〕
Hoilalambi ちらっと振り返つて見る〔12.觀視二：偸著回看〕
Hoilambi 油等がにじんで汚れる〔25.新舊：髒舊〕
Hoilantu 猿の類〔補4.獸二：獲父〕
Hoilashūn 色褪せた．古ぼけた．尾羽打枯した〔13.貧乏：髒舊〕
Hoise niru 投降した回々人，金細工匠，樂人等で編制した佐領〔3.旗分佐領一：回子佐領〕
— **tacikū** 回々語を教へる所〔20.部院十二：回子學〕
Hojihon 〔10.親戚：女婿〕
Hojihosi 婿達〔10.親戚：衆女婿〕
Hojiko 鶏の別名〔補4.諸畜二：會稽公〕
Hojiri ilha 異花名．菊に似て單瓣，紫白二色あり，葉は虞美人草に似たり〔補3.異花四：美人菊〕
Hojo （婦人の）見目麗はしき〔11.容貌二：俏〕
— **faha** 瞳孔〔10.人身二：瞳人〕
Hojon ilha 〔29.花五：虞美人花〕
Hokci 野菜名．莖細くて尖つた葉あり〔27.菜殽三：細莖菜〕
Hoki 仲間．一味．徒黨〔10.朋友：黨類〕
Hokilambi 1.黨を結ぶ．同盟する〔10.朋友：結黨〕2.共同で買買する．共同で取引する〔22.貿易一：合夥〕
Hokobumbi 妻を離縁させる．別れさす〔15.留遺：使休出〕
Hokombi 1.（任期が來て）戍地を離れる〔5.輪班行走：下班〕2.妻を離縁する〔15.留遺：休出〕別れる〔彙：離別〕離れる〔彙：離去〕
Hoksombi 憂ひ憤る〔13.怕懼二：憂憤〕
Hokton 1.（釣竿又は網に附ける）浮子〔22.打牲器用一：漂兒〕2.表面が粗で質の柔かな樹皮．弓の握り，又は浮子を作る〔29.樹木五：煖木〕
Hoktošombi 洪水の際，水に浸らない高地を求めて漁獵に行く〔22.打牲：雨後高處行獵〕
Holbo 一所に結びつけよ．連ねよ〔26.拴結：連〕
Holbobumbi 1.一つ所に結びつけさせる．連ねさせる〔26.拴結：使連絡〕2.他人の罪に係り合になる．冤罪を蒙る〔5.詞訟一：干連〕
Holboho hergen 單字を連綴した文字〔7.書八：連字〕
Holbohon 配偶のある〔10.人五：成對人〕

Holbombi 1. 一つ處に結びつける. 連ねる〔26.拴結:連絡〕 2. 對にする〔25.雙單:匹配〕夫婦にする. 娶はせる〔6.筵宴:匹配〕
Holbon 對〔25.雙單:配偶〕連結〔彙:連着〕緣組〔彙:結親〕
— **i hithan** 蝶番ひ〔21.室家二:合葉〕
Holbonggo fukjingga hergen 篆書體の一〔補1.書三:塡篆〕
— **hoošan** 竹の纖維で作つた紙の類〔7.文學什物一:拾連紙〕
Holboto ilha ねむの花〔29.花三:合歡花〕
Holdon 1. 烟墩で揚げる狼煙〔23.烟火二:烟墩烽火〕 2. 松の類. 樹高くて枝大,木質密にして輕く腐爛せず,大小の船を作る〔29.樹木一:果松〕
— **i karan** 狼煙台. 烟墩〔19.城廓:墩臺〕
— **moo** Holdon に同じ〔彙:菓子松樹〕
— **tai** Holdon i karan に同じ〔彙:烟墩〕
— **tuwa** 狼煙〔彙:烽火〕
Holhoci をなもみ〔27.菜殼三:鎗頭菜〕
Holhon 脛. 下腿〔彙:小腿〕
— **giranggi** 下腿骨〔10.人身六:小腿骨〕
— **gocimbumbi** 腓脛(こむら)がつる〔五體16.疼痛二:腿肚轉筋〕
Holimpa 高粱米に似た米〔23.米穀一:草珠米〕
Holing 頰の後部. 脇裏〔10.人身二:裏腮〕
Holkonde 忽ちの間に. 瞬時に〔2.時令三:忽然間〕
Holo 1. 噓. 僞り〔17.欺哄:虛假〕 2. 〔2.地輿五:山谷〕 3. 瓦溝〔21.室家二:瓦隴溝〕 4. 田畑の畝の間の溝〔21.田地:溝〕 5. 奇獸名. Li du wa ni ya 產,大きさ狼の如く毛は潤黑,甚しく貪食なり〔補4.異獸五:獾落〕
— **cilburi** 胸下革. 馬衝の輪から肚帶に引きまはして結へた紐. 手綱を引くと頭を擡げる癖のある馬に用ひる〔9.鞍轡二:押韁〕
— **jibca** 模造皮で作つた Jibca (皮挾)〔彙:假皮袴〕
— **kūdarhan** 布製の鞦. 野に行く時に用ひる〔9.鞍轡二:軟鞦〕
Holokon ほゞ僞りの〔17.欺哄:略虛假〕
— **uluken** Holokon に同じ〔17.欺哄:略虛假〕
Holon gaha たうがらす. Keru に同じ〔30.鳥九:慈鴉〕
— **weijun** こうのとり〔補4.鳥二:老鵝〕
Holontu 奇獸名. 兎に彷彿として人面,人語を話し,人を誘ふ〔補4.異獸六:訛獸〕
Holor がらん〔14.聲響三:大鈴聲〕
— **halar** がらんがらん〔14.聲響三:衆鈴亂響聲〕
Holtobumbi 噓を吐かせる. 欺かせる〔17.欺哄:使人哄〕欺かれる〔彙:被人謊〕
Holtombi 僞はる. 噓を吐く〔17.欺哄:哄〕
Holton tuheke 星が落ちた〔1.天文三:星隕〕
Holtonumbi 僞り合ふ. 互に欺く〔17.欺哄:相哄〕
Holtu cecike 小鳥名. 頭に瓢箪形の白毛があるによりこの名あり〔30.雀五:葫蘆頭〕
Homhon 刀の鞘〔9.製造軍器四:刀鞘〕筆の鞘〔彙:筆帽〕
Homida cecike ほとゝぎすの別名〔補4.雀五:買鈍〕
Homin 器具名. 形 Coo (鐵鎒)に似,雜草を刈るに用ふ〔21.農器:鋤頭〕
Homitu gūwasihiya しまめぐり. ちゅうさぎ〔補4.鳥二:春鉏〕
Homso 杼〔23.紡織二:梭〕
Homsori bele Hukšeri bele (老米)に似たれど赤味を帶びた粒多く,碎け易し,粘り味共に老米に及ばず〔28.米穀一:稜子米〕
Hon 甚だ. 非常に. Umesi と同じ〔25.多寡一:甚〕
Honci 〔24.皮革一:羊皮〕
Hondoba くまつゞらの類〔29.草三:

馬黄草〕

Honggoco 冬,氷の間に挟まつて凍結した白魚〔27.飯肉三:氷鮮〕〔彙:與 Honokta, Mungku 同〕

Honggocon 野菜名.葉は柳葉に似て短し〔27.菜蔬二:柳葉菜〕

Honggolon niyehe Honggon niyehe の別名〔補4.鳥七:鴛〕

Honggon 〔9.頑鷹犬:鈴〕巫人の用ひる鈴〔6.祭祀器用一:神鈴〕

— **cecike** ひわの類〔32.雀四:金鈴〕

— **niyehe** あひ.野鴨の一種〔補4.鳥七:馬鴨〕

Honggono cecike Tomika cecike (桃蟲) より稍大,色雜多,鳴き聲鈴の如し〔30.雀四:銅鈴〕

Honggonohobi 衣服が裂けてぼろ切れの下つた〔25.破壞:衣破零落〕

Honggonombi 1.雨滴が落ちて泡立つ〔1.天文五:雨起泡〕2.ぼろぼろになる〔彙:破爛〕ぼろが下る〔彙:凡物一片片垂吊掛落〕

Honggonome gecehe 物に氷が塊り着いた〔2.時令九:氷凍成凌〕

Honggori 異果名.鈴の形をなす〔補3.異樣果品四:秋風子〕

— **ilha** あふちの花〔29.花二:楝花〕

Hongko 1.山の起伏が河縁に迫つて盡きた所〔2.地輿四:山梁盡頭處〕2.踏み臼の杵〔21.農器:石碓嘴〕3.船の舳先〔26.船三:船頭〕

— **cecike** 小鳥名.胸は黄色にして背腹は青,鳴聲は燕の如し〔30.雀四:柿黄〕

Hongkolo galman Amba garma に同じ〔32.蟲三:大黄蚊子〕

Honika 孵りたての魚の仔〔32.海魚二:魚鮀子〕

Honiki 小熊.前脚短く獨木橋を渡り得ず〔31.獸二:短腿熊〕

Honin 1.〔31.諸畜一:羊〕2.十二支の一〔2.時令一:未〕

— **biya** 舊曆の六月〔補1.時令一:旦〕

Honingga aniya 未の年〔補1.時令一:協洽〕

Hono 尙且.未だ(用法は略 Geli の如し)〔18.散語四:尙且〕

— **tuttu oho bade ere be ai hendure** 尙且あの樣になつた場合に,何でこの樣な事を言へよう〔彙:尙且那樣何況這樣〕

Honokta Ica に同じ〔32.海魚二:麪條魚〕

Hontoho 1.Booi da (管領) の領する軍團〔3.旗分佐領一:管領〕2.一司內の分科〔20.部院一:科〕3.半分〔彙:一半〕

— **moo** 勘合符(板).割符にした鑑札〔3.諭旨:合符〕

Hontoholo 半分に分けよ〔彙:令分一半〕

Hontoholobumbi 半分に分けさせる〔彙:使分一半〕半分にされる〔彙:被分一半〕

Hontoholombi 半分に分ける.半分にする〔12.分給:分給半分〕

Hoo 重量の單位.釐の十分の一〔彙:釐毫之毫〕

— **hio** 張り切つた.昂然と.獨立獨歩の〔12.勇健:慷慨〕

— **seme** 澎湃として〔2.地輿十一:大水盛流貌〕

— **seme dambi** ひゅうひゅうと風吹く〔1.天文七:狂風〕

— **seme yabumbi** 昂然として行く〔彙:挺强行之〕

Hoohan あをさぎ〔30.鳥二:莊〕

Hoošan 〔7.文學什物一:紙〕

— **dahabumbi** 巫人が病人に代つて念誦し紙を送る〔19.醫治:送紙〕

— **hergembi** 紙を漉く.Hoošan herembi に同じ〔彙:抄做紙〕

— **i pai** Hoošan sasukū に同じ〔彙:紙牌〕

— **i tuku** 紙の表〔彙:紙扇面子〕

— **jiha** 紙を錢の形に剪り,埋葬の時燒くもの〔6.喪服二:紙錢〕

— **sasukū** 紙の骨牌.〔滿和〕遊びに用ひる〔19.戲具一:紙牌〕

Hoošari moo かうぞ〔29.樹木二:楮木〕

Hor seme ぶるぶるっと.ふうと(馬が

たじろいで鼻息を出す音)〔31.馬匹動作二:眼尖鼻作響〕

Horgikū 1. 股關節. 骨盤が大腿骨を受けて,盃形に凹んだ處〔10.人身六:胯骨軸〕2. 楣ᵐᵉⁱ. 門扉を支へる穴をあけた,門の上の横木〔21.室家二:門上鑽〕

— **cekū** 廻轉ぶらんこ. 木柱の上に木輪をつけて廻轉する仕掛にし,輪の周りにぶらんこを吊し人が乗つて押廻して遊ぶ器具〔19.戯具二:忽悠悠〕

Horho 1. 衣裝箱. 扉をつけ内部に棚段を設けたもの〔25.器用一:竪櫃〕2. 豚羊を收める所〔32.牲畜器用一:猪羊圈〕檻. 鳥籠〔彙:籠鳥獸的籠子〕

Horhctu 虎豹を捕へる大きな木の檻〔五韻22.打牲器用三:打虎豹大木籠〕

Hori 監禁せよ〔5.刑罰一:監〕圈に追ひ込め〔彙:令將牲口六畜入圈圈之〕

Horibuha Horibumbi に同じ〔彙:圈場放合尾蠢合圈獸等物圈住了〕

Horibumbi 1. 監禁せしめる. 獄に繋がせる〔5.刑罰一:使監禁〕2. 卷狩で獸が遠卷にされる〔9.畋獵二:獸被圈住〕

Horilakū asu 長さ十尋,幅四尋餘の網. 一船の人が網の片端と網の元綱を持ち,他の一艘のものが網を擔げ廻し,それが終へた所で網をひき合はせて魚を捕る,水の淀める處に用ひる〔22.打牲器用一:尖網〕

Horimbi 監禁する. 獄に繋ぐ〔5.刑罰一:監禁〕家畜を圈に追ひこむ〔31.套備馬匹:圈牲口〕

Horin 籠. 鳥等を入れるもの〔32.牲畜器用一:籠子〕

Horki 鳥名. 灰色にして形大,爪の處に毛ありて尾長し,森林寒地に産す〔30.鳥六:鵰雉〕

Horo 鯰. Hūwara に同じ〔32.河魚二:黑魚〕

Horoki 若い癖に老人の樣な顔をした. ひねた. 若年寄りの〔11.容貌八:老蒼〕

Horolombi 威す. 威を示す〔17.强凌:作威〕

Horolome bucebuhe 威して死に致らしめた〔彙:威逼致死〕

Horon 1. 威名. 威聲〔5.政事:威〕威力〔12.勇健:威〕2. 蝎や蜂の毒〔彙:蝎蜂尾尖之毒〕3. 力ᵗᵘᵍᵉ. 弦き目〔彙:力量如好膏藥箭鋤硬之力量也下用大小字隨用之〕

— **aisilaha daifan** 從三品の武官の封號〔3.封表二:武翼大夫〕

— **akdun aisilaha hafan** 從六品の武官の封號〔3.封表二:武信佐郎〕

— **akdun hafan** 正六品の武官の封號〔3.封表二:武信郎〕

— **be algimbuha amban** 正一品の武官の封號〔3.封表二:建威大夫〕

— **be badarambuha amban** 從一品の武官の封號〔3.封表二:振威大夫〕

— **be iletulehe daifan** 正四品の武官の封號〔3.封表二:昭武大夫〕

— **be selgiyehe amban** 正二品の武官の封號〔3.封表二:武顯大夫〕

— **be selgiyere temgetun** 「振武旌」の文字を縫ひつけた牌の形の儀仗名〔6.鹵簿器用二:振武旌〕

— **be tucibuhe daifan** 從四品の武官の封號〔3.封表二:宣武大夫〕

— **bodohonggo hafan** 從五品の武官の封號〔3.封表二:武略郎〕

— **dube** 蛇の舌端〔32.龍蛇:蛇信子〕

— **erdemungge hafan** 正五品の武官の封號〔3.封表二:武德郎〕

— **fafuringga aisilaha hafan** 從七品の武官の封號〔3.封表二:奮武佐郎〕

— **fafuringga hafan** 正七品の武官の封號〔3.封表二:奮武郎〕

— **giranggi** 獸骨名. 虎の前胸部の兩脇の邊に疎にある,彎曲した小骨〔31.走獸肢體:虎威骨〕

— **gungge amban** 從二品の武官の封號〔3.封表二:武功大夫〕

— **jurgangga daifan** 正三品の武官の封號〔3.封表二:武義大夫〕

— **toose** 威力. 威權〔彙:威權〕

— **tuwancihiyangga aisilaha hafan** 從八品の武官の封號〔3.封表二:修武佐郎〕

— **tuwancihiyangga hafan** 正八品

の武官の封號〔3.封表二：修武郎〕
Horongge jase 盛京省開原の地〔續2.地輿：威遠堡〕
Horonggo 威あるもの〔12.勇健：有威的〕効目のある．強い（薬）〔彙：薬等物有力量利害者〕
— **cecike** 瑞鳥の名．不祥を除くといふ爲に杖の頭にその形を彫る〔30.鳥一：金吾〕
— **cecikengge mukšan** 兩端に金鍍金の帽子金を被せた朱塗りの棒〔6.鹵簿器用五：吾仗〕
— **gurgu** 兩角の Bucin（挑抜）〔31.獣一：辟邪〕
— **gurgungge kiru** 旗地に Horonggo gurgu の像を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：辟邪旗〕
— **yangsangga deyen i bithe weilere ba** 御製の書の彫板，裝釘等を司る役所〔20.部院八：武英殿修書處〕
Horontu mahatun 帝王の護衛の用ひる冠〔補1.古冠冕二：郤敵冠〕
Hosan ilha 異花名．桂に似て色白し，十二月に應じて十二辨開き閏月毎に一辨を增す〔補3.異花三：和山花〕
Hose Hoseri に同じ〔彙：盒子乃裝物者方圓俱有〕
Hoseri 蓋のある小箱〔25.器用一：盒子〕
— **dengjan**—仕掛け花火の一種．帽子箱大のものに仕掛けをして燈火臺に吊し，道火に火をつけ底を抜くと樣々の花火が次々と開いて出るもの〔19.戯具二：盒子燈〕
— **dengjan cargilakū be tuwame weilere ba** 內務府營造司に屬し花火の事一切を司る役所〔20.部院七：監造花爆處〕
Hoshori 縮れ毛．捲毛〔24.皮革二：卷毛〕〔31.馬匹肢體二：捲毛〕
— **indahūn** 縮れ毛の犬〔補4.諸畜一：耗〕
Hoshorilabume jodombi Puru（毯褥）を作る時，毳を立てて織る〔彙：做毯褥時捲起毛織〕
Hoshorilambi Puru（毯褥）を織る時，毳立てる〔彙：做毯褥時捲起毛〕
Hoshorinahangge さんばら髪！蓬々頭奴！（髪亂れ鬚のび放題の人を罵る詞）〔16.咒罵：癩毛東西〕
Hoso hasa ばさばさ（紙を振る音）〔14.聲響一：抖紙聲〕
Hosori 1. 雲脂〔10.人身八：瘃皮〕2. 鐵を擣つ時に剝げ落ちる鐵皮〔22.工匠器用三：鐵渣子〕3. 煤〔23.烟火四：炕洞烟釉〕
Hošo 方角（東南，東北，西南，西北）〔2.地輿十三：隅〕物の角．隅〔彙：角．稜〕
— **baimbi** 婚禮が近づき水餃子，酒，家畜等を相手方に送る〔6.筵宴：下大禮〕
— **muheliyen**〔彙：方圓〕
— **safambi** Hošo baimbi に同じ〔6.筵宴：下大禮〕
— **taktu** 貢院の四隅の見張所〔20.部院十：角樓〕
Hošoi cin wang 宗室十等爵の中の第一等の位〔3.君一：和碩親王〕
— **duka** 傍の小門．通用門〔21.室家二：角門〕
— **efu** 和碩親王の娘婿〔3.君一：郡主儀賓〕
— **fujin** 和碩親王の夫人〔3.君二：親王福晉〕
— **gege** 和碩親王の娘〔3.君二：郡主〕
— **gūngju** 天子の養女〔3.君二：和碩公主〕
— **gungju i hošoi efu** 和碩公主の婿〔3.君一：和碩額駙〕
Hošon 京師五城察院所管の分司．巡邏所〔20.部院一：坊〕〔20.部院五：坊〕
Hošonggo 四角な．方形の〔25.諸物形狀一：方〕
Hošotolobumbi 角を出して包ませる．斜に包ませる〔24.包裹：使斜包〕
Hošotolombi 斜に包む．斜にして角を出して包む〔24.包裹：斜包〕
Hošotonggo 角のある（もの）〔25.諸物形狀一：有角的〕
— **šufatu** 角の出張つた頭巾〔補1.古冠冕二：方頂巾〕
Hošošobumbi 騙させる〔17.欺哄：使

哄誘〕
Hošsombi 騙す. 籠絡する〔17. 欺哄：哄誘〕
Hoto 1. Gaba (膊翅)の上の椀の形をした金具〔9. 軍器一：膊翅上鐵〕2. 頭骨〔10. 人身六：腦骨〕3. 禿頭〔16. 殘缺：禿子〕4. ふくべ〔27. 菜殼一：葫蘆〕
— **cekemu** 模様のある倭緞〔23. 布帛一：花倭緞〕
— **guwejihe** 重瓣胃 (反芻動物の第三胃)〔27. 飯肉二：小圍肚〕
— **hengke** ながふくべ〔27. 菜殼一：瓠子〕
— **yoo** 白雲猪〔16. 猪騸一：禿猪〕
Hotoci やし〔28. 果品三：椰子〕
— **mahatun** 椰子で作つた冠〔補1. 古冠冕二：椰子冠〕
Hotohon 唇の捲れ上つた〔11. 容貌四：翻唇〕
Hoton 都城. 城廓〔19. 城廓：城〕
— **fekumbi** 先頭に立つて城に登る〔8. 征伐四：跳城〕
— **i da** 一城の章京, 馬甲を統べる官(三品の官)〔4. 臣宰十三：城守尉〕
— **mandal** 修験者の行をする小屋〔19. 佛二：壇場〕
Hotorokobi 一端が反り上つた〔18. 抽展：一頭翹了〕
Hotorombi 一端が反り上る〔18. 抽展：一頭翹起〕
Hubtu 綿入れの袍 (Sijigiyan)〔24. 衣服一：棉袍〕
Hude 船尾. 艫〔26. 船三：船艄〕
— **jafambi** 舵を取る〔26. 船四：拿舵〕
Huhu 酒を作る麹〔27. 茶酒：酒麹子〕
— **hoton i tumet juwe gūsa** 蒙古土默特の博索克圖汗部の部衆にて編成した旗. 太宗の時左右兩翼六十二佐領となし是を歸化城に置いた〔3. 旗分佐領二：歸化城土默特二旗〕
— **i suwaliya** 稗, からす麥を皮着のまま磨つたもの. 麹の材料〔28. 米穀二：麹料〕
— **noor** 青海〔彙：極西地名〕
— **noor i gūsin gūsa** 青海の厄魯特, 土爾扈特等の蒙古人を以て編成した旗〔3. 旗分佐領二：清海三十旗〕
Huhucu 「あかばな」に似た野菜〔27. 菜殼三：茗蒿菜〕
Huhun 1. 乳房〔10. 人身四：奶頭〕2. 乳〔彙：乳. 小孩子吃者〕
— **hagahabi** 乳房がしこつた〔13. 生產：乳結住了〕
— **hagambi** 乳房がしこる〔彙：婦人奶結了疙瘩〕
— **i eniye** Meme eniye に同じ〔10. 人倫一：乳母〕
— **i tumiha** 乳首〔彙：奶頭嘴子〕
— **jembi** 乳を飲む〔彙：吃奶〕
— **sidakabi** 乳が下つた〔13. 生產：乳下了〕
— **simimbi** 乳首を銜へる〔彙：咂奶〕
Huhuri jui 乳呑み兒〔10. 老少二：食乳小兒〕
Hujengge gasha 梟の別名〔補4. 鳥四：鬼車〕
Huju 1. 銀を輸送する時に使ふ容器. 二つに割つた木の内側を抉り, 中に銀を挟み鐵の箍で締めつけたもの〔25. 器用一：鞘〕2. 秣槽〔32. 牲畜器用一：槽〕
Hujubumbi 1. 轅(ながえ)を引かせる〔26. 折鎖：使拉風箱〕2. 平伏させる〔彙：使俯伏. 使首至地跪着〕
Hujuku 1. 轅(ながえ)〔22. 工匠器用一：風箱〕2. Hujuri に同じ〔彙：野外行走帶的吹火的器具〕
Hujumbi 1. 平伏(ひれふ)す〔6. 禮拜：俯伏〕2. 轅を引く〔26. 折鎖：拉風箱〕
Hujurebumbi 碾臼で挽かせる〔21. 碾磨：使拐磨磨物〕
Hujureku 碾臼〔21. 農器：拐磨子〕
Hujurembi 碾臼で挽く〔21. 碾磨：拐磨磨物〕
Hujuri 火吹き筒. 野外に携帶して火を起す道具〔23. 烟火三：風筒〕
Huksidembi 俄か雨が降る〔1. 天文五：暴雨〕
Hukše 1. 頭に頂け. 載せよ〔21. 扛擡：頂〕2. 根に土を被せよ〔彙：令鋤犁土上壅糧食根〕
Hukšebumbi 1. 穀物の根に土を被さ

せる. 培はせる〔21. 農工二：使培苗〕 2. 頭に頂かせる. 載せさせる〔21. 扛擡：使頂着〕

Hukšehebi 1. 頭に頂いた〔21. 扛擡：頂着呢〕 2. 甚しく腫れ上つた. Hukšukebi に同じ〔16. 腫脹：腫脹〕

Hukšembi 1. 頭に頂く. 載せる〔21. 扛擡：頂着〕 2. 穀物の根に土を被せる. 培ふ〔21. 農工二：培苗〕 3. 感激する〔12. 助濟：感激〕

Hukšembumbi 鷹の類を家飼にして年を經させる〔9. 頑鷹犬：籠鷹〕

Hukšeme gūnimbi 有難く思ふ. 感激の念に堪へぬ〔彙：頂載之思. 感激之思〕

— **šufatu** 平板の兩端が垂れ下つた頭巾〔補1. 古冠晃三：加籠巾〕

Huksen 年經た家飼ひの鷹の類〔30. 鳥四：籠鷹〕

— **garudai** 年經た鳳〔補4. 鳥一：長離〕

Hukšenumbi 1. 一齊に培はせる〔21. 農工二：齊培苗〕 2. 各自頭に頂く〔彙：来齊頭頂物〕

Hukšeri bele 老米〔28. 米穀一：老米〕

Hukšukebi Hukšehebi に同じ〔16. 腫脹：腫脹〕

Huktu Hubtu に同じ〔彙：紐袍之袍〕

Hukun 1. 塵埃〔2. 地輿一：塵垢〕 2. 肥料. 汚物〔21. 農工一：糞土〕

Hule 斗石の石. 十小斗を 1 Hule となす〔22. 衡量一：倉石〕

Hulon boir 黒龍江省西北の地名〔續2. 地輿：呼倫貝爾〕

Hulun murakū Murakū に同じ〔22. 打牲器用四：鹿哨子〕

Humsuhun Humsun に同じ〔30. 羽族肢體二：膜〕

Humsun 1. 眼瞼〔10. 人身二：眼胞〕 2. 鳥の胃袋（食肉鳥を除く）〔30. 羽族肢體二：膜〕

— **kamniha** 眼瞼を閉じた〔彙：眼皮合上了乃欲睡故兩眼皮合上也〕

Humše みゝづく〔30. 鳥五：樹猫兒〕

Humšun i teile 力の限り. 力を盡して〔12. 用勉：盡力〕

Humudu とき〔30. 鳥二：鵠〕

Hunen 橋〔26. 車橋二：拖床〕

Huncun 吉林省東南の地名〔續2. 地輿：琿城〕

Hundu 乾胃(ぐそ)〔16. 殘缺：羅鍋〕

Hungken Emu hungken jiha を見よ

Hungkere 1. 水を空けよ. 流しこめ〔28. 澆注：傾〕 2. 鑄よ〔彙：令鑄〕

Hungkerebumbi 1. 鑄型に流し込ませる〔26. 折鎚：使鑄〕 2. 水を空けさせる. 流し込ませる〔28. 澆注：使傾注〕 蠟を垂らさせる〔彙：使澆燭〕

Hungkerembi 1. 鑄型に流し込む〔26. 折鎚：鑄〕 2. (洞, 穴等に) 水を流し込む. 水を空ける〔28. 澆注：傾注〕 蠟を垂らす〔彙：澆蠟燭之澆〕

Hungkereme agambi 盆を傾けた樣に雨が降る〔1. 天文五：盆傾雨〕

— **feksimbi** 馬がせかされて飛ぶ樣に走る〔31. 馬四馳走一：飛跑〕

Hungkimbi 乾肉, 枯草木等を碎き或は軟かにする爲に打つ. 叩く〔21. 碾磨：搥乾物〕

Hunio 〔25. 器用七：水桶〕

Hunuhu bira 奉天東南の河名〔五種補1. 地輿一：渾河〕〔續. 地輿：渾河〕

Hurcembi 故なく他人の缺點を發き立てる〔15. 侵犯：糾摘〕

Huren 1. 鼻筋. 鼻柱〔10. 人身二：鼻樑〕 2. (竈の) 鍋の側近く Fushu (鍋蓋) を圍ふ, 內部が洞になつた部分〔21. 室家三：燈洞子〕 3. 穴熊を捕る器具. 洞になつた木を穴熊の窠の口に置き, 落し木をしかけて窠から出て來る穴熊を壓死させるもの〔22. 打牲器用四：打獾的木筒子〕

— **wase** 半圓筒形の瓦. 宮殿, 廟を葺くに用ふ〔26. 砌苫：瓪瓦〕

Hurgen 一組（一つの犂に繋いだ數頭の家畜を一括して云ふ詞）〔21. 農工一：一具〕

Hurhui cecike ほととぎすの別名〔補4. 雀五：回回鳥〕

Hurku 硫黄〔22. 貨財二：磺〕

Hurkun gūwara みみづくの別名〔補4. 鳥四：呼旳鷹〕

Hurse 厚手の素燒釜. 肉等を煮る〔25:器用四:鉛子〕
Huru 1. 丘陵. 高塲〔2.地輿二:高阜〕 2. 鳥の腰椎〔30.羽族肢體二:鳥脊背〕 3. 龜の甲〔32.鱗甲肢體:殼蓋〕 4. 手の甲〔彙:人手背〕
Hurugan たいまいの甲. 鼈甲〔22.貨財二:玳瑁〕
Hurungge 殼のある. 甲羅を持つた〔32.鱗甲肢體:有殼的〕
Huterekebi 皺寄つた〔18.抽展:皺了〕
Huterembi 皺寄る〔18.抽展:皺〕
Huthe 瘡蓋(かさ)〔16.瘡膿二:瘡痂〕
Huthenehebi 瘡蓋が出來た〔16.瘡膿二:瘡結痂〕
Huthu 括れ. 縛れ〔彙:令綁〕
Huthubumbi 手を括らせる〔5.刑罰一:使綁〕
Huthumbi 手を括る. 縛る〔5.刑罰一:綁〕馬等の脚を括りあげる〔31.套備馬匹:絆馬〕
Hutu 〔19.鬼怪:鬼〕鬼の様な〔彙:人形容醜〕
— **enduri** 〔彙:鬼神〕
— **geleku** 異果名. 武當山の樹に生じ, 角を生ず〔補3.異樣果品二:鬼見愁〕
Hutungge 鬼面さした奴. 醜惡な奴. 鬼奴〔18.兇惡一:鬼頭鬼臉〕
Huwejebumbi 圍ひ廻させる. 仕切らす〔26.間隔:使屏遮〕
Huwejehen 屏風の一種. 扉板の形をした板に鈴を鳌き, 漆を塗つて繋ぎ合はしたもの〔26.間隔:圍屏〕
Huwejehengge tojin 羽を擧げた孔雀〔30.鳥一:開屏孔雀〕
Huwejembi 仕切る. 圍ふ〔26.間隔:屏遮〕屏風を立てる〔彙:樹屏〕
Huwejen 1. Fushu (鍋臺) の圍ひ板. 仕切り板〔21.室家三:牌揷〕 2. 網代(あじろ)の類. 河の急流の所にしかけるもの〔22.打牲器用二:攔魚簁子〕
Huwejengge duka 門の內側にある衝立の如き板塀〔20.墻廟:屏門〕
Huweki 肥沃な. 肥えた〔21.田地:肥地〕草木がよく肥えた〔彙:草木肥瘦之肥〕
— **suksangga hiyan** 今の河北省にある地名〔續.地輿:宣化縣〕
Huwekiyebumbi 鼓舞する. 奮起させる〔7.文教:鼓舞〕
Huwekiyebun 勸善. 獎勵〔5.政事:勸〕
Huwekiyembi 發奮する. 奮起する〔7.文學:奮興〕
Huwekiyen 發奮. 奮起〔7.文學:興〕
Huwekiyendumbi Huwekiyenumbi 一齊に奮起する〔7.文學:一齊奮興〕
Huwengkiyembi 孵つた雛が卵から出ようとして殼を啄く〔31.牲畜孳生:啄殼〕
Huwenji 柄のついた木の椀〔25.器用三:有欄木碗〕
Huwerke 窓の板蔀(しとみ)(蔀のもあり)〔20.墻廟:簾子〕
Huwesi 〔9.軍器六:小刀〕
Huwesilembi 短刀で突く〔8.征伐五:用小刀扎〕
Huwesišembi 短刀で無闇やたらに突く〔8.征伐五:用小刀亂扎〕
Huwešebumbi 鏝で伸ばさせる〔24.剪縫二:使烙〕
Huweše ku 燒鏝〔22.工匠器用二:烙鐵〕
Huwešembi 鏝をかけて伸ばす〔24.剪縫二:烙〕
Huwešen 〔10.人四:尼僧〕
Huwešere hajuhan ひのし〔彙:熨斗. 乃熨衣服紬緞舒展者〕
Huweten はいたかに似た鷹〔30.鳥四:花豹〕
Huwethi あざらし〔31.獸五:海豹〕
Huye Damin (鴨) 等を射る爲に身を隱す穴. 冬, 河岸に穴を堀り, 穴の口の前の邊に肉を置いて Damin を誘きよせ, 穴に隱れて射る〔22.打牲器用三:射鴨的窩〕
— **tembi** 穴を堀りその中に隱れ居りて, 網を拋げてうづらを捕る〔22.打牲:打鶉鵪〕
Hū 1. 後頭骨の下部の盆窪(ぼんのくぼ)の邊り〔10.人身一:頭食窩〕 2. うどんこ糊

〔26.膠粘：糨子〕3. 粥〔27.飯肉一：擦的飯糊〕4. 重量の單位. Niše に同じ. 一絲の廿分の一〔彙：蠶毫絲忽之忽〕5. 桝目の單位. Sunto に同じ〔彙：斛乃五小斗爲一斛, 古時十斗爲一斛〕6. 湖〔彙：江湖之湖〕

Hū i da 項(うなじ)の所の髪の生え際〔10.人身一：腦後髮際〕

Hūba 〔彙：琥珀〕

Hūbala 糊をつけよ〔26.膠粘：糊〕

Hūbalabumbi 紙に糊をつけさせる〔26.膠粘：使裱糊〕

Hūbalambi 紙に糊をつける〔26.膠粘：裱糊〕

Hūbalara faksi 表具師〔彙：裱褙匠〕

Hūbán 笏. 圭〔彙：笏. 圭. 有斐君子如金如錫如圭如玉〕

Hūberi 婦人が冬に被る頭巾. 貂鼠の皮で頭耳を覆ふ樣に作つたもの〔24.冠帽一：風領〕

Hūbilabuha 罠にかゝつた. 計略に落入つた〔17.欺哄：上當〕

Hūbin 惡謀み. 罠. 策略〔17.欺哄：圈套〕

— **de dosika** 策略にかゝつた. 欺かれた〔彙：入於圈套矣〕

Hūbišabumbi 術策を廻らさせる. 欺かせる〔17.欺哄：使設圈套〕

Hūbišambi 術策を廻らす. 惡謀みを計る〔17.欺哄：設圈套〕

Hūbumbi 打紐を編ませる〔23.紡織二：使打絲子〕

Hūcin 1. 井戸〔2.地輿八：井〕2. 易卦の名〔補1.書二：井〕

— **šodombi** 井戸を浚へる〔26.塞決：淘井〕

Hūda 1. 商賣. 取引〔22.貿易一：生意〕2. 値段. 價格〔22.貿易一：價值〕

— **arambi** 品物を金に換へる. 勝手に賣り飛ばす〔彙：變價〕

— **toktosi** 相場師. 仲買人〔10.人二：經紀〕

Hūdai ba 市. 市場〔19.街道：市〕

— **niyalma** 市場で商ひをする人〔10.人三：商人〕

Hūdašabumbi 商賣をさせる. 取引をさせる〔22.貿易一：使做生意〕

Hūdašambi 商賣をする. 取引する〔22.貿易一：做生意〕

Hūdašara niyalma 商人. 行商人〔10.人三：買賣人〕

Hūdukan やゝ速く〔15.急忙：略快〕

Hūdula 急げ. 手早くせよ. Hahila に同じ〔12.儐遇：快著〕

Hūdulambi 急ぐ. 手早く事をなす〔15.急忙：快著〕

Hūdun 速く. 手早く. 忽ちに〔15.急忙：快〕快足に. 疾風の如く〔31.馬四：馳走二：急快〕

— **fuifukū** 銚釐(ちろり). 酒の燗をする器具〔25.器用四：鎔子〕

— **hafuka** 〔16.瘡膿一：疔〕

Hūfan 商賣仲間. 組合. 共同賣買〔22.貿易一：一夥〕

Hūfubumbi 船が淺瀨に乘上げる〔26.船四：船淺住〕

Hūfun 家畜に與へる餌. 雜炊粥の類〔32.牲畜器用二：雜糧粥〕

— **ulebumbi** 痩せた馬に雜炊粥を與へる〔32.牧養一：煮粥喂瘦馬〕

Hūha 鞭尖きの紐〔彙：綿索鞭稍子〕糸紐〔彙：綿索子〕

Hūhūba 前後の割れ目を縫ひ合はした袍 (Sijigiyan)〔24.衣服一：無開衩袍〕

Hūhūli Hūšahū の別名〔補4.鳥四：阿蒙耶〕

Hūi 障泥(あふり)の下に敷く, 耕毛氈に覆輪をしたもの〔9.鞍轡一：韉托〕

— **hai seme** ふらふらと〔16.疼痛一：肢彙〕

— **seme** ふうつと (なる)〔16.疼痛一：肢彙〕

— **šoro** 油を搾る道具. Ulhū (灰鼠皮) で作つた笊の如きもの〔25.器用七：取油蓆簍〕

— **tai** ちょかちょかと. こそこそと〔17.輕狂：輕擧妄動〕

Hūjaci 捕手の役人. 捕吏〔10.人二：捕役〕

— **be kadalara ba** 內府佐領の犯罪人盜賊を訊問する處〔20.部院七：管轄審役處〕

Hūjaci be kadalara fiyenten 盛京將軍衙門内の役所名〔補2.衙署七：將子司〕
Hūjibumbi 小犂を出して臥せる虎を跳ね起させる〔22.打牲：使哄虎〕
Hūjimbi 小犂を出して臥せる虎を跳ね起す〔22.打牲：哄虎〕
Hūjime dambi 風に草木が靡(なび)く〔1.天文七：風鳴條〕
Hūjiri 鹽分を含んだ〔彙：鹽滷之滷〕
— **ba** 鹽分を含んだ不毛の地〔2.地輿一：鹻地〕
Hūk seme (急に睡氣が來て) ふらっと(なる)〔15.睡臥一：忽然困了〕
Hūkcumbi 敵が防ぐ遑もない樣に急に攻める〔8.征伐五：突擊〕
Hūkjun Weijun 鶏の別名〔補4.鳥二：鶏兒〕
Hūktambi 蒸し暑い．じとじとと蒸す〔2.時令八：躁熱〕米麵が蒸れる〔彙：米麵等物發過熱了〕毛皮が蒸れて毛が脫ける〔彙：凡皮張着濕熱脫毛〕
Hūktambumbi (飯等を) 蒸す〔28.煮煎：捫蒸〕未熟の果物を室に入れて蒸れさす〔28.果品四：捫熟〕
Hūla 喚べ〔12.喚招：喚〕
Hūlabumbi 1. 讀ませる〔7.文教：使讀〕2. 呼ばしめる〔12.喚招：使呼喚〕
Hūlambi 1. 贊禮郎が擧高に人を呼んで禮拜させる〔6.禮儀：贊禮〕2. 讀む．音讀する〔7.文學：讀〕3. 呼ぶ〔12.喚招：呼喚〕鶏が時をつくる〔14.犂耤六：鶏鳴〕
Hūlan 煙突．烟出し〔21.室家三：烟洞〕
— **hoton** 黑龍江省にあり〔續2.地輿：呼蘭城〕
Hūlanabumbi 呼びに行かせる〔12.喚招：使去呼喚〕
Hūlanambi 1. 呼びに行く〔12.喚招：去呼喚〕2. 讀みに行く〔彙：去讀〕
Hūlandumbi Hūlanumbi 一齊に呼ぶ〔12.喚招：一齊呼喚〕一齊に讀む〔彙：各自一齊讀〕
Hūlangga coko 鶏の別名〔補4.諸畜二：長鳴鶏〕
— **gasha** 鶏の別名〔補4.諸畜二：長鳴都尉〕
Hūlanjimbi 1. 呼びに來る〔12.喚招：來呼喚〕2. 讀みに來る〔彙：來讀〕
Hūlara hafan 禮拜の場所で高犂をあげて事を指示する役人〔4.臣宰六：贊禮郎〕
Hūlašabumbi 交換させる〔22.貿易二：使兌換〕
Hūlašambi 交換する〔22.貿易二：兌換〕
Hūlgican niyehe Yargican niyehe (皮胡蘆)の別名〔補4.鳥七：鵚鵊〕
Hūlha 〔16.竊奪：賊〕
— **be jafara tinggin** 賊盜，犯罪人の捕縛審問を司る役所．各省にあり〔20.部院九：捕盜廳〕
— **holo** 〔16.竊奪：賊盜〕
Hūlhabumbi 盜まれる〔16.竊奪：被偸〕盜ませる〔彙：使偸〕
Hūlhambi 盜む〔16.竊奪：偸〕
Hūlhanambi 盜みに行く〔16.竊奪：去偸〕
Hūlhandumbi Hūlhanumbi 一齊に盜む〔彙：衆齊偸盜〕
Hūlhanjimbi 盜みに來る〔16.竊奪：來偸〕
Hūlhatu 盜癖のある人〔16.竊奪：慣作賊的〕
Hūlhi 1. 愚な(人) 2. 朦朧とした．曖昧な〔17.愚昧：糊塗〕
— **lampa** 混沌〔彙：混沌乃盤古氏時也與 Hūlhi lampa i fon 同〕
Hūlhidambi 曖昧な事をする．筋の通らぬ事をする〔17.愚昧：行事糊塗〕
Hūlhikan 稍々愚な．稍々曖昧な〔17.愚昧：略糊塗〕
Hūlhitu 愚昧な人〔17.愚昧：糊塗人〕
Hūlibun 惡企み．姦策〔17.欺哄：惡〕
Hūlimbumbi 惡はされる．誑される〔17.欺哄：被人惡〕
Hūluri malari 浮調子で．行きあたりばったりに〔17.怠慢迂疏：涼草〕
Hūman ereo これは正氣か．こんな手並か(無能な人を嘲つて言ふ詞)〔15.歸薄：這樣本事麼〕

Hūmarakabi 顔の汚れた〔18.邋遢：面目汚臟〕
Hūmbi 打紐を編む〔23.紡織二：打繩子〕靴の類に針糸を縦横にかける〔24.剪縫三：鎖鞋〕
Hūmbur seme ぐつしよりと．たらたらと〔10.人身八：汗大出〕
Hūnambi 糊の様になる〔28.生熟：成糊〕綯り糸が縒れる〔23.紡綿：絞亂〕
Hūncihin 一姓の人．一族．同族〔10.人倫二：同族〕親類〔10.親戚：親〕
Hūng hiyong ざーざーと（海潮の来る音）〔14.聲響四：海潮聲〕馬が群をなして驅驅する音〔14.聲響五：肥馬羣行聲〕〔31.馬四驅走二：驅走雄壯聲〕
— **seme** ぱつと（火が點く，燃え上る）〔23.烟火三：火起聲〕
Hūngniyoolambi 日が照つて居て雨降る〔1.天文五：帶日下雨〕
Hūngsi 1. 紐に石を括りつけて拋げよ 2. 不用のものを拋げ棄てよ〔15.撂撒：繫石撇去〕3. 水鳥．さぎの類，水葫蘆とも云ふ〔30.鳥二：羣鳥〕
Hūngsimbi 1. 相手の脚を地に着けずに振り廻す〔8.撩跤一：輪起〕2. 出鱈目を云ふ．洒落を云ふ．例へば投げた石が水中で音を立てるといふの類〔14.言論三：混說〕3. 帶，紐に石を括りつけ，振廻して投げる〔15.撂撒：繫石撇〕
Hūngsitu gasha Kuringge gasha に同じ〔30.鳥十：地奔牛〕
Hūnta 麻の学名．古びた Olo（糸麻）からとつたもの，絲繩を作る（Olo, Hūnta 共に同一異名）〔23.絨棉：線麻〕
Hūntahan 盃．椀．Coman（大酒盃）より小なるもの〔25.器用三：鍾子〕
— **i tokton** 祭祀の時，酒を載せる臺〔6.祭祀器用一：酒墊〕
— **taili i cargilakū** 爆竹に仕掛けた花火〔19.戲具二：金臺銀燈〕
Hūntung 混同江〔彙：關東江名〕
Hūr har seme 馬が頬りと苛立つて目を怒らす貌〔31.馬四動作二：瞪眼貨〕
— **hūr seme** ぼーぼーと（燃える）〔23.烟火三：火著聲〕
— **sehe** 少し酔が廻つた．ほんのりとした〔27.飲食四：酒上涌〕
— **seme** ぱつと（焔が燃え上る）〔23.烟火三：火燄忽起〕
Hūrfu Furfu（狒々）の別名〔補4.獸一：梟羊〕
Hūrga sogi はくさい．たうな〔27.菜穀二：河白菜〕
Hūrgibumbi 風に四方八方吹きまくられる〔彙：被風四面亂吹〕振り廻される〔彙：被轉輪抖擻〕振り廻させる〔彙：使抖擻輪轉〕
Hūrgikū 渦巻〔2.地輿九：漩窩〕
Hūrgimbi 振り廻す〔8.撩跤一：轉著輪〕物を振り廻す〔彙：手持物輪〕
Hūrgime dambi 風が四方八方に吹き廻る〔1.天文七：廻風〕
Hūrhadabumbi 大網で魚を捕らせる〔22.打牲：使大網打魚〕
Hūrhadambi 大網で魚を捕る〔22.打牲：大網打魚〕
Hūrhan 大きな網〔22.打牲器用一：大圍網〕
Hūri 松の實〔28.果品二：松子〕
— **bahiya** 松毬〔彙：松塔兒〕
— **faha i šobin** 松の實入りの焦餅〔27.餑餑二：松餅〕
Hūrka Fejilen に同じ〔22.打牲器用三：打雀鳥馬尾套子〕
Hūru 口琴の類．角竹を薄く削り，中に舌を作り，兩端に線を通し，口に當て且線を彈き鳴らす〔7.樂器三：竹口琴〕
Hūrudambi 竹口琴を彈く〔7.樂三：彈竹口琴〕
Hūse 頬嚢．Šufangga salu に同じ〔彙：腮子．三囊腮〕
Hūsha monggon Olhon monggon に同じ〔10.人身三：氣喘〕
Hūshūri coko 翅が裏返しになつた様に生えた鶏〔31.諸畜三：翻毛鷄〕
Hūsi 包め．巻きくるめよ〔24.包裹：裹〕
Hūsiba orho 草名．絶えず生える，Ingtori（櫻桃）より小さく，紅い種子あり，Hederekū orho に同じ〔29.草四：爬山虎〕

Hūsibuhabi 永患ひの. 病氣が長びいた〔16.疾病一:總不離病〕
Hūsibumbi 包ませる. 巻きくるませる〔24.包裹:使裹〕
Hūsiha moo おにぐるみ〔29.樹木四:山核桃樹〕
Hūsihabi 包んだ. 巻きくるんだ〔24.包裹:裹了〕
Hūsihan 女の裙. 緣をとり腰紐をつけ褶をとつたもの〔24.衣服二:女裙〕
Hūsimbi 包む. 巻きくるむ〔24.包裹:裹起〕
Hūsime 1. 全年. 年一杯に〔彙:整年的整〕年を經て. …經つて〔彙:經年之經〕
— **šufatu** 古巾の名. 紬又は布にて作り,頭髪をすつぽり包むもの〔補1.古冠冕三:四周巾〕
Hūsingga sijigiyan 衣(ころも). 僧衣. 僧侶,道士が着る襟の長い袖の寬い袍〔19.佛一:道袍〕
Hūsiri moo かしのき〔補3.樹木二:槲木〕
Hūsitun 男子用の巻脚絆〔24.靴襪:男裹脚〕
Hūsun 1. 力. 腕力〔12.勇健:力〕2. 官の工人〔10.人三:工人〕
— **etuhun** 力强き〔彙:力强. 力壯〕
— **faksi i kunggeri** 工人, 匠人の事を辨理する役所〔補2.衙署四:夫匠科〕
— **i ebsihe** 力を盡して. 力の限り. Muterei teile と意同じ〔彙:儘着力量〕
— **i hojihon** 入り婿. 聘禮を行はず,舅の家で娶合はし一戸を構へたもの〔10.親戚:贅婿〕
Hūsungge 有力な. 財力のある(家)〔11.富裕:有力人家〕力のある(人)〔12.勇健:有力的〕
— **boo** 財產家. 富豪〔彙:有財帛富庶之人家〕
— **enduri** 歲神の第十四に居る凶神. 刑罰を司る〔補2.神二:力士〕
Hūsuri 耳垢. 耳糞〔10.人身八:耳塞〕
Hūsutulebumbi 一生懸命にさせる〔12.黽勉:使用力〕
Hūsutulembi 力一杯に取る. 力む〔8.旅跤二:用力〕一生懸命にやる. 力を盡して勵む〔12.黽勉:用力〕力を出す〔12.勇健:用力〕
Hūša かづら〔彙:做葛布之葛〕
— **siren** つたかづら〔29.樹木六:藤蘿〕
Hūšahū みゝづくの類〔30.鳥五:夜猫兒〕
Hūšaju いもがしら〔27.菜殽二:芋頭〕
Hūturi 〔5.政事:福〕〔11.福祉:福〕
— **baimbi** 幼兒の頸に黃色な繩をかけ,その繩を木に結へて祭る〔6.祭祀二:求福〕
— **fengšen aisimbi** 天が福祿を授ける〔彙:佑給福祿〕
— **fengšen jalafun** 〔彙:福祿壽三星〕
— **imiyambi** 萬の福盡く來り集る〔彙:萬福齊全來到〕
— **isibumbi** 福を得させる. 福を授ける〔彙:使得福〕
— **isimbi** 福を得る. 福が來る〔彙:得福了. 福至了〕
— **nure** 祈祭の時,天子が承ける供酒〔6.祭祀一:福酒〕
Hūturingga 福のある(人)〔11.福祉:有福的〕
Hūwa 庭. 屋敷〔21.室家四:院〕
Hūwacarambi 鼾をかく〔15.睡臥二:打呼〕
Hūwacihiyan enggemu 鞍の前輪を角形にした鞍〔9.鞍轡一:方腦鞍〕
Hūwafihiya 1. 器具名. 木を半圓筒形に作つて,背に孔をあけ,小刀を倚せ懸けて箭柄を削る道具〔22.工匠器用二:箭剔子〕2. Huren wase (瓠瓦) の形をした餈々. うどん粉に蜂蜜をまぜこねてごま油で揚げたもの〔27.餈餈二:瓦塊〕
Hūwafihiyambi 箭剔子の孔に小刀を倚せ懸けて箭柄を削る〔9.製造軍器三:刮箭桿〕
Hūwai mukengge kiru 燕取りを附けない藍色の旗地の中程に,波の形を刺繍した旗〔6.歯簿器用四:淮旗〕
— **seme** 滲洩たる〔2.地輿十一:水大貌〕

Hūwai tolon 庭かゞり．庭前の焚火〔彙：庭燎〕
Hūwaise えんじゆ〔彙：槐樹．其子花俱入藥．花染黃色．葉細子一都魯生〕
Hūwaita 繫げ．括れ．結へ〔26.拴結：拴〕
Hūwaitabumbi 繫がもめる．括らせる．結へさす〔26.拴結：使拴上〕
Hūwaitambi 繫ぐ．括る．結へる．縛る〔26.拴結：拴上〕
Hūwaitame gūlha 編上げ靴．下部は革，胴は布で作つたもの〔24.靴襪：靸子鞋〕
Hūwajambi 破れる〔25.破壞：破〕
Hūwajiyoo moo 山椒の木〔彙：花椒樹〕
Hūwakiya 皮を剝げ〔26.剖解：剖〕
Hūwakiyabumbi 皮を剝がせる〔26.剖解：使剖開〕
Hūwakiyambi 樹皮，果實の皮を剝ぐ〔26.剖解：剖開〕
Hūwakšahalabumbi 棚杆の竪柱を立てさせる〔26.間隔：使樹木棚〕
Hūwakšahalambi 棚杆の竪柱を立てる〔26.間隔：樹木棚〕
Hūwakšahan 棚杆の竪の柱〔21.室家四：週棚竪柱〕
Hūwakšan 器具名．麻雀の類の輸戲に於て順々に廻して當人が親，當番たる事を示す標記，札〔19.戲具一：牌〕
Hūwala 毀せ．破れ〔彙：令人分割．令人胖開〕
Hūwalabumbi 毀させる．破らせる〔26.殘毀：使打破〕
Hūwalambi 毀す．破壞する〔26.殘毀：打破〕
Hūwalame usiha おにぐるみの實〔28.果品二：山核桃〕
Hūwalar ざぶりざぶりと（渡る）〔14.聲響四：涉水聲〕
— **hilir** ざぶり，ざあーと（水に網を投げて引あげる音）〔14.聲響四：撒網拉網聲〕
— **seme** さらさらと（水の流れる音）〔2.地輿十一：水流有聲〕
Hūwaliyambi 1. 和合する．歩調が合ふ〔11.親和：和合〕 2. 音樂の音調が合ふ．調が合ふ〔7.樂三：樂合〕
Hūwaliyambumbi 1. 和合さす〔11.親和：使合〕 2. 調合する〔22.趕抨：調和〕
Hūwaliyan Hūwaliyasun に同じ〔彙〕
Hūwaliyanduha 相和した．共に和合した〔11.親和：相合〕
Hūwaliyasun 穩和な．柔和な〔11.厚重二：和藹〕相和した．仲のよい〔11.親和：和〕兄弟相和した〔11.友悌：和〕
— **edun** 穩な風〔1.天文七：和風〕
— **necin** 平和な．穩な〔彙：和平．豈弟〕
— **tugi kumun be halanjame deribure mudan** 耕藉禮の宴で酒を進める時に奏する樂の名〔補1.樂：雲和迭奏之章〕
Hūwamiya 皮を剝げ〔26.剖解：剝〕
Hūwamiyambi 榛の實の皮を剝ぐ．松毬から松の實を取る〔26.剖解：剝開〕
Hūwang guifei 皇后の次の妃〔3.君二：皇貴妃〕
— **taidz** 〔3.君一：皇太子〕
— **taidz i fei** 〔3.君二：皇太子妃〕
Hūwangdana うぐひすの一種．背は暗赤色にして胸は黃色，夏に來る〔30.雀四：黃鳥〕
Hūwanggdi 〔3.君一：皇帝〕
Hūwangga 睦じい〔11.親和：睦〕
Hūwanggar seme 滔々と．ごうごうと（流れる）〔2.地輿十一：大水奔流貌〕
— **seme agambi** ざあざあと雨ふる〔1.天文五：滂沱雨〕
Hūwanggiyambi 妨げる．障害になる〔彙：妨．碍〕
Hūwanggiyan 箙(ぶく)〔9.撒袋弓靫：背的箭桶〕
Hūwanggiyarakū 妨げぬ．關りない〔18.散語四：不妨〕
Hūwangheo 〔3.君二：皇后〕
Hūwanta 草木のない山．禿山〔2.地輿四：荒山〕
— **sebsehe** 飛蝗の一種．黃色にして翅

小さく，飛ばず〔32.蟲二：蟄子蠅蚋〕
Hūwantahūn 山に草木のない．禿げ山の〔2.地輿四：山無草木〕
Hūwar 地面に物を引摺つて行く音〔14.聲響二：物拖地聲〕
— **hir** さらさら．衣摺れの音〔14.聲響二：衣服相觸聲〕
— **hir seme** ぼろぼろと〔13.哭泣：淚直流〕
— **seme** 上に同じ〔13.哭泣：淚直流〕
Hūwara 1. 鑢(ᡥᡡᠸᠠᡵᠠ)〔22.工匠器用一：鐵磋〕2. 鯊．Horo に同じ〔32.河魚一：黑魚〕
Hūwarabumbi 鑢で磨らせる〔26.雕刻：使拏鐵磋磋〕
Hūwaradambi 矢の羽の軸に鑢をかけて平にする〔9.製造軍器三：銼銷底〕
Hūwarambi 鑢で磨る〔26.雕刻：拏鐵磋磋〕
Hūwarkan 窓にかける筵戸〔21.室家二：護窓欄子〕
Hūwasa hisa がさがさ〔14.聲響二：踏落葉聲〕
Hūwasar かさかさ(枯れた草木が風に動く聲)〔14.聲響四：乾枯草木聲〕
— **seme** がさがさした．がたびしした．雜駁な(物の粗雜な形容)〔25.諸物形狀三：溦拉〕
Hūwašabumbi 立派に仕立上げる〔13.生育：使成就〕
Hūwašabure cooha 傭兵．年若き無職のものを賦役に使はず，手當を支給して訓練した兵〔8.兵：養育兵〕
Hūwašada 京師の各城に設置された僧侶を取締る役人〔4.臣宰八：僧官〕
Hūwašahabi 物心づいた．立派に成人した〔10.老少二：出息了〕成就した〔13.生育：成就了〕
Hūwašambi 立派になる．成就する〔13.生育：成就〕
Hūwašan 僧侶〔10.人四：和尙〕
— **be kadalara fiyenten** 京師の僧侶に關する事務を司る役所〔補2.衙署二：僧錄司〕
— **doose kunggeri** 神佛の供養，誦經等を辨理する役所．禮部に屬す〔補2.衙署二：僧道科〕
Hūwašasa 僧侶達．Hūwašan の複數〔衆：和尙們〕
Hūya 1. 小さな法螺貝で作つた盃〔25.器用三：螺蜬盃〕2. 中位の大きさの Gio(蠏)〔31.獸三：半大蠏〕3. にし．にな〔32.海魚二：海螺蜬〕
— **efen** うどん粉を「にし」の形に捏ね，油で揚げた餈々〔27.餈餈一：螺蜬餈餈〕
Hūyambi 鷹の類が鳴く〔14.聲響六：鷹鷂鳴〕
Hūyan dekdehe 風を引いて肩や腰の筋が凝つた〔16.疾病一：寒筋〕
Hūyanahabi 目脂をためて垢だらけの顏をした〔18.邋遢：面垢帶脂〕
Hūyasun 鷹の脚に結へつけた繩〔9.頑鷹犬：脚絆〕
Hūyukū šoro 味噌を澄ます笊．笊に石を入れて味噌甕の中に沈め置き，笊の中へ侵潤する澄んだ部分を掬ひとる〔25.器用七：澄清醬的筐〕
Hūyušembi 暫時取り換へる．代用する〔12.取送：換用〕引き換へる〔衆：會兌銀子之會〕
Hūyušeme bojilambi 引換證を渡す．一札入れる〔22.貿易一：會票〕

I

I 彼．彼の人〔18.稱我一：他〕
— **ci** あゝ(何故こんなことをしたか，何故あんなことを云つたかなど懊惱後悔の聲)〔18.歎語二：懊悔口氣〕

I ci bi ainu uttu gisurehe あゝどうして私は斯様なことを云つたのだらう〔彙：嗟嘆我怎這樣說了〕
— **gūnirakū ainaha** 彼が考へないとて何としよう〔彙：他不思想怎麼呢的口氣〕
— **gūnirakū ainara** 彼が考へなかつたらどんなだらう〔彙：他不思想怎樣煞的口氣〕
Ibadan 樹名．葉圓くして幹青く斑紋あり，鎗の柄に作る〔29.樹木四：檍梨木〕
Ibagan 妖怪．變化(ゞ)〔19.鬼怪：怪〕狂妄奇怪の人〔18.兇惡一：鬼怪〕
— **dailaha** 妖しくも狂つた．物狂ひした〔彙：妖瘋邪狂〕
— **hiyabun** 菖蒲の穗．菖蒲の葉腋より出づる穗狀の花〔29.草三：蒲棒〕
— **i halmari** さいかちの莢〔29.樹木五：皂角〕
Ibagašambi 妖怪がとりついて奇怪な振舞ひをする．怪しげなことをする〔19.鬼怪：作怪〕
Ibahašambi 輕浮輕佻猥りな行ひをする〔17.輕狂：作怪〕
Ibakci 樹名．樹頂尖りて低し，刺有り，實は野葡萄に似たれど食ふ能はず〔29.樹木四：老鸛眼〕
Ibe 進め．進み出よ．皇帝拜禮の位置に進み出よ〔彙：令就前．令人向前．贊禮令近前就位〕
Ibebumbi 1. 前進させる〔8.征伐二：使前進〕皇帝拜禮の位置にまで進み出させる〔6.禮儀：贊進〕2. 家畜に飼料を增させる〔彙：使添草料〕
Ibedembi 漸漸に前進する〔8.征伐二：漸漸前進〕
Ibeden 易卦の名〔補1.書二：晉〕
Ibembi 1. 前進する（兵或は巻狩りの列など）〔8.征伐二：前進〕〔9.畋獵二：前進〕皇帝拜禮の位置に進み出る〔6.禮儀：進〕2. 家畜に飼料を增してやる〔32.牧養一：添草料〕
Ibenembi 進んで行く〔8.征伐二：往前進〕
Ibenumbi 一齊に前進する〔8.征伐二：一齊前進〕
Iberi 塊の後の垂れ〔9.軍器一：盔尾〕
Ibešembi 少しづゝ前進する．漸次に進む〔8.征伐二：漸次前進〕
Ibete 朽ち木．腐木〔29.樹木十：朽木〕
Ibiyaburu 最も惡む可き人〔彙：最可惡之人．與 Ubiyaburu 同〕
Ibiyacun 惡む可き．嫌ふ可き〔彙：嫌人．惡人．與 Ubiyacun 同〕
Ibiyada 嫌ひな．厭はしい〔彙：厭人．與 Ubiyada 同〕
Ibiyaha jafambi 穀物の穗の中，よき物を擇んで種子に殘しておく．種選りする〔21.割採：揀種〕
Ibiyambi 惡む．嫌ふ．Ubiyambi に同じ〔15.憎嫌一：惡〕
Ibiyon 嫌惡すべき處のある．憎々しい〔18.散語二：可惡〕
Ibkabumbi 短かくさせる．縮めさせる〔18.抽展：使撙〕
Ibkambi 短かくする．縮める〔18.抽展：撙〕
Ibkašambi 徐々に前進する〔8.征伐二：徐徐前進〕
Ibte 內部の腐つた木の瘤〔29.樹木九：糖樹瘤〕
Ibtenehe 朽ちた．腐つた（木が朽ちて僅かに株のあたりを殘してゐる狀態）29.樹木十：朽了〕
— **oforo** 赤鼻〔16.殘缺：糖鼻〕
Iburšambi 虫がからだを屈伸する．伸したり，縮めたりする〔32.蟲動：屈動〕
Ica 海魚の名．身細く長さ五寸，色白く，鱗無し〔32.海魚二：麪條魚〕
Icakū 氣に入らぬ．心に合はぬ．意に適せぬ〔15.憎嫌二：不順眼〕
Icakūliyan 氣に入らぬらしい．意に適せぬと見える〔15.憎嫌二：略不順眼〕
Icakūšambi 心に合はない．嫌惡する〔15.憎嫌二：不受用〕
Icangga 心に合ふ．氣に適ふ〔13.愛憎：順適〕美味の〔彙：美味〕
Ice 1. 新しい〔25.新舊：新〕2. 朔日．ついたち〔2.時令七：初一〕3. 新しくせよ．Icembi の命令形〔彙：令新〕4. 染めよ．染色せよ．Icembi の命令形〔彙：令染〕

Ice biya 新しい月(新生の月)〔2.時令五:新月〕
— **calu** 盛京戸部の貯米倉〔補2.衙署八:新倉〕
— **dahame jihe hoise** (乾隆四十二年伊犂平定後)新たに歸順し來たつた回々人〔3.旗分佐領二:新投誠回子〕
— **dahame jihe jun gar juwan ninggun gūsa** (烏魯古木の地方に居住する)新歸順の準噶爾十六旗〔3.旗分佐領二:新投誠準噶爾十六旗〕
— **ilhangga suje** 新工夫の花模様ある緞子〔23.布帛二:新樣花緞〕
— **kumun i irgebun i bithe** 書名〔續.書:新樂府〕
Icebumbi 染めさせる. 染色させる〔26.油畫:使染〕惡習に染まる. 染められる〔17.過失:習染〕
Icebun 惡習に染まること. 感惡. 染惡〔17.過失:沾染〕
Iceburakū 惡習惡念に染まぬ. 汚されない〔11.忠清:不爲所染〕
Iceken 稍々新しい. 幾分新しい〔25.新舊:略新〕
Icembi 染める. 染色する〔26.油畫:染〕
Icemlebumbi 新しくさせる. 更新させる〔25.新舊:使見新〕
Icemlembi 新しくする. 更新する〔25.新舊:見新〕
Icengge 新しいもの. 新しいこと〔25.新舊:新的〕
Ici 1. 右. 右の. 右方〔2.地輿十四:右〕 2. …の方. …の方向. 方向. 向き〔彙:心之所向之向. 向背之向. 方向之向〕 3. …に任せて. …の儘に. …に應じて〔彙:信者口信着手之信. 應手之應〕
— **acabumbi** 人の意に迎合する. 意向に合はせる〔17.諂諂:附合〕
— **acabume gisurembi** 人の意に迎合して話をする. 話を合はす〔彙:合其意之所向而言之〕
— **acabume weilembi** 意向に合はせてする. 向ふ所に合はせてする〔彙:合其所向而做之〕
— **baharakū** 方向が得られない. 向きが分らない〔彙:不得頭向〕
— **ergi fiyenten** 宗人府の司名. 右翼の宗室覺羅等の諸事を分辨す〔20.部院二:右司〕
— **kani akū** (人,物など)形が合はぬ. つり合はぬ〔25.同異:不隨合〕
Icihi 簸點. 簸痕〔25.新舊:簸點〕垢. 米の砂. 銹. 玉の瑕〔彙:垢. 米之砂. 茶銹之銹. 玉之瑕〕
— **akū** 疚しい所が無い. 清白にして瑕がない〔11.忠清:無玷〕
— **dasihi** Icihi に同じ. Icihi dasihi と連用す〔25.新舊:簸點〕
Icihiyabumbi 事を處理させる〔5.辦事一:使辦理〕喪中のことを處理させる〔彙:使料理〕事を收拾させる〔彙:使收拾〕
Icihiyambi 1. 事を處理する〔5.辦事一:辦理〕掃き片つける〔6.灑掃:打掃〕喪事を處理する〔6.喪服一:料理〕 2. 死人を洗ひ淨めて,死裝束させる〔6.喪服一:裝裹〕 3. 女が身づくろひする. 身じまひする〔24.梳粧:整頓〕
Icihiyandumbi Icihiyanumbi 大勢のものが一齊に事務を處理する〔5.辦事一:一齊辦理〕
Icihiyanjambi 事を酌量して處理する. 理路を考へて處理する〔5.辦事一:酌量辦理〕
Icihiyantu enduri 年神の第十三. 吉神にして書籍を掌る〔補2.神二:博士〕
Icihiyara hafan 各司の長官〔4.臣宰六:郎中〕
Icihiyasi 知府知州衙門の小官名〔4.臣宰十二:吏目〕
Icingga 萬事てきはきと處理する. よく見さかひのつく〔11.德藝:在行〕
— **akū** 見さかひのつかない. 氣の利かない. 頭の働かない〔18.鈍謬:不在行〕
Icišambi 氣が向ふ. 心が進む. 心が動く〔13.愛惜:就勢〕
Icitai 右手で射る. 右手使ひの〔8.步射一:右手射〕
Icu 獸皮をうはかけに成る樣に繼ぎ作つ

て，未だ表を縫ひつけないもの〔24.衣服三：皮衣料〕

Idarambi 氣鬱がり心中病む．突然無分別のことをして心中に痛苦を覺える〔16.疼痛一：岔氣疼〕

Idaršambi 鳩尾(ぎょ)の邊りがちくちくと痛む〔16.疼痛一：心口微疼〕

Idaršame nimembi Idaršambi に同じ〔疊：心口凄凄差差略略疼〕

Idu 公務の當番〔5.輪班行走：班〕

— **alibumbi** 當番を引き渡す〔5.輪班行走：交班〕

— **dosimbi** 當番の交替に行く〔5.輪班行走：進班〕

— **fekumbi** 支障あつて當番に行かぬ．當番をとばす〔5.輪班行走：跳班〕

— **gaimbi** 當番を代る．當番をつぐ〔5.輪班行走：接班〕

Idukan 言語稍々粗暴な〔17.暴虐：略粗魯〕

Idumbi 羽に膠を塗つて箭柄にとりつける〔9.製造軍器三：擇箭翎〕

Idun 言語粗暴不快な〔17.暴虐：粗魯〕物の粗雜な．粗糙の〔25.諸物形狀三：粗澁〕

Idurabumbi 當番を立てゝ順番に務めさせる．當番にあたらせる〔5.輪班行走：使輪班〕

Idurambi 當番を立てゝ順番に務める．當番にあたる〔5.輪班行走：輪班〕

Ifimbi 縫ふ〔彙：縫也．與 Ufimbi 同〕

Ifin 縫ひ〔彙：縫〕

Igehe 果實，瓜等の蒂の窪中のつまみ〔28.果品四：果子把〕

Igen 弓箐〔9.製造軍器二：弓箭〕

— **šukumbi** 弓身に弓箐を取りつける〔9.製造軍器一：安弓箭〕

Igeri usiha ひこ星〔1.天文三：牽牛〕

Ihaci 牛の皮〔24.皮革二：牛皮〕

Ihan うし〔32.牛：牛〕十二支のうし．丑〔2.時令一：丑〕

— **biya** 陰曆十二月〔補1.時令一：荼〕

— **bula** さいかち〔29.樹木五：皂角樹〕

— **buren** 黃銅製の喇叭．犀太きもの〔7.樂器二：號筒〕

— **morin i cifun be kadalara yamun** 盛京戶部に屬して，牛馬の稅を徵收する役所〔20.部院九：牛馬稅務監督衙門〕

— **musu** うづらの一種．羽毛黃色にして蹼爪なし〔30.雀二：鴇〕

— **nimaha** 東海產の魚．頭牛に似たり，混同江に出づるものは身長一丈重さ三百斤，鱗無し〔32.海魚一：牛魚〕

— **tuwa** 焚き火〔23.烟火二：堆火〕

— **uncehen** 魚名．すゞきより大きく背に刺あり，尾圓く鱗無し〔32.河魚二：牛尾魚〕

— **yaksargan** 小鳥の名．Yaksargan（大水札子）より甚だ大きく，密林中の濕處に棲息す〔30.雀一：樹札子〕

Ihangga aniya 丑の年〔補1.時令一：赤奮若〕

— **gašan hoton** 盛京省內の地名〔續2.地輿：牛莊城〕

Ihasi さい〔31.獸一：犀〕

Ihasingga kiru 幅(ふち)に犀の像を刺繡せる旗〔6.鹵簿器用三：犀牛旗〕

Ihida 屠殺した家畜の肉をあらかた骨から切り離して後，更に骨から削り取つた大小の肉片〔27.飯肉一：打落肉〕

Ija あぶ〔32.蟲三：蝱虻〕

— **cecike** 小鳥の名．Jinjiba（粉眼）より幾分大きく，羽毛は淡綠色〔30.雀六：仔仔黑〕

— **niyehe** 鳥名．鴨類，形 Socili（小尾鴨）に似，體至つて小さく，肉甚だ美味〔30.鳥八：水葫蘆〕

Ijari ilha からたねをがたま〔29.花四：合笑花〕

Ijaršambi にこにこと笑ふ．欣々然とする〔13.嬉笑：笑盈盈〕

Ijasha mahala 頂を菊花狀に造つた帽子，貴人の用ひるもの〔24.冠帽一：算盤格搭帽〕

Ijibumbi 梳らせる〔24.梳粧：使梳〕たて絲を揃へさせる〔彙：使挌直經絲〕

Ijifun 櫛〔24.飾用物件：木梳〕

— **niru** 箭の一種．鏃の先尖り，上方歪んで櫛の背の如き形をなせるもの〔9.軍器四：梳背披箭〕

— **niyehe** おしどり〔30.鳥八：鴛鴦〕

Ijilabumbi （馬騾等を）互に親しませる．群れをなさせる〔31.馬匹動作二：使合羣〕
Ijilambi （馬騾等が）互に親しむ．互に熟れる．群をつくる〔31.馬匹動作二：合羣〕
Ijimbi 竪絲(たて)を揃へる〔23.紡織一：理竪絲〕髪を梳る〔24.梳莊：梳〕
— **wekjimbi** 亂れたるものを條理立てゝ治める．經綸を行ふ〔11.德藝：經綸〕
Ijin 絲，繩等の撚りの強い．強く撚りのかかつた〔23.紡織二：線力緊〕
— **wekjin** 天下の大事を道を以て治めること．經綸〔5.政事：經緯〕
Ijintu 奇獸の名．〔補4.異獸六：斐〕
Ijirhi 奇獸の名．翼望山に出づ，狸に似，三尾あり，額に一目を具へ，能く百種の聲音を出す〔補4.異獸二：讓〕
Ijishūn 順調な〔11.福祉：順〕從順な．孝順の〔11.孝養：順從〕
— **hehe** 文武正從五品官の妻の封號〔3.封表二：宜人〕
— **omolo** 祖父祖母に孝順の道を盡したる孫〔3.封表二：順孫〕
Iju 1. 小兒がうまく成育しない〔10.老少二：不見長〕2. 塗りつけよ〔彙：令人塗抹〕
Ijubumbi （糊，膠，粉などを）塗りつけさせる〔26.膠粘：使抹〕
Ijumbi （糊，膠，粉などを）塗りつける〔26.膠粘：抹〕
Ijume darime 皮肉つて．あてつけて．諷刺して〔14.言論二：譏誚〕
Ijurabumbi こまごまに碎ける〔25.破壞：磨蹭〕
Ijurambi 塗りつける〔彙：擦之〕
Ikdaki 麝の尾傍の白毛〔31.走獸肢體：麝尾傍白毛〕
Ikengge 元亨利貞の元．大なるもの．善の始め〔7.書五：元〕
Ikiri 1. 一連．一つながり〔18.散語二：一連〕2. 雙生兒〔10.老少二：雙生〕3. 途の一つゞき（此處から彼處まで一つゞきなどいふ場合の）〔彙：沿途之沿．與 Unduri 同〕
— **afaha** 錢糧稅課等の收納書，兩分して一方を受領書とし一方を官に存貯する樣作つたもの〔5.事務四：串票〕
— **coko** 雞の別名〔補4.諸畜二：蜀〕
— **jungken** 音階を異にした十六個の黃銅鐘を一架二段に吊したる樂器〔7.樂器一：編鐘〕
— **kingken** 音階を異にする厚薄十六個の石を一架二段に吊し打ち鳴らす樂器〔7.樂器一：編磬〕
— **mulu** 一連の建物を一つなぎにした棟．通しの棟〔20.墻廂：通脊〕
Iktabuhabi 事務を堆積させた．物堆積して用ひ切れない〔5.繁冗：已致堆積〕
Iktabumbi 事務を堆積させる〔5.繁冗：致堆積〕
Iktaka muke 溜つた水〔彙：積下的水〕
Iktakabi 用務堆積した〔5.冗繁：堆積下了〕物がたまつた．蓄積した〔21.收藏：積蓄了〕
Iktambi 用務堆積する〔5.繁冗：堆積〕物がたまる〔21.收藏：積蓄〕
Iktambumbi 物を蓄積する．物をたまらせる〔21.收藏：使積蓄〕
Iktan 堆積物．蓄積物〔21.收藏：積下的〕
Ikūbumbi 縮める．窄める．屈する〔18.抽展：致屈〕
Ikūmbi 縮む．窄まる．短かくなる〔18.抽展：屈抽〕
Ikūme saniyame 縮み伸びして．屈伸して〔彙：縮伸．屈伸〕
Ikūn 縮む處の．窄まる處の〔18.抽展：屈〕
Ikūrsun 脊髓（人又動物の）〔10.人身七：脊髓〕〔27.飯肉二：脊髓〕
Ikūršambi 足を伸したり縮めたり緩々として歩く〔14.行走三：像蛇行〕（虫が）身體を伸縮して進む〔32.蟲動：屈伸前走〕
Ilaci 三番．三番目．第三の〔7.數目二：第三〕
— **jalan i omolo** 曾孫の子．玄孫．〔增訂10.人倫二：元孫〕

Iladambi 兩脚を交る交る前方に跳ね上げて遊ぶ〔13.戯要：雙腿換跳〕
Iladame faitambi （衣服を作るのに布地が充分でない場合）交錯して裁斷する〔24.剪縫一：三零裁〕
Ilafiha 着物の縫が捲くれ上つた〔24.衣服四：衣襟上捲〕刃が捲くれ上つた様になつた．刃がたゝき減つた〔26.截砍：刀刃捲了〕
Ilaha 柳の樹の青い皮〔29.樹木八：青柳樹皮〕
Ilaka 開花した〔29.花六：開了〕
Ilambi 開花する〔29.花六：開〕
Ilan 數詞．三〔7.數目一：三〕
— **acangga hergen** 二個又は三個の漢字を組み合はせて滿洲字の發音を表記したもの〔7.書八：三合字〕
— **bethengge hūntahan** 金又は玉にて作り，三本の足を具へた祭祀用の酒器〔6.祭祀器用一：爵〕
— **biya** 三月．彌生月〔彙：三月〕
— **bodon** 三つの計略〔彙：三略〕
— **dorolon i bithei kuren** 周禮，儀禮，曲禮を纂修する館〔24.部院十一：三禮館〕
— **erdemu** 天地人の三才〔彙：三才乃天地人〕
— **fafun i yamun** 刑部，都察院，大理寺の三衙門〔20.部院一：三法司〕
— **gūsai jodoro arara namun** 盛京包衣三旗の織造せる物を收納處理する庫〔補2.衙署八：三旗織造庫〕
— **gūsai menggun afabure toksoi da sabe kadalara ba** 包衣三旗の莊頭等が每年依托されて地租，糧草，蜂蜜等の銀代の收徵を管理する處．內務府に屬す〔20.部院七：管理三旗銀兩莊頭處〕
— **hafu bithei kuren** 通志，通典，通考の三通を纂修する館〔20.部院十一：三通館〕
— **hešen** 三つの大きな要綱〔彙：三綱〕
— **irungge mahatun** 古冠の名．頂に三筋の高みあるもの〔補1.古冠冕一：三梁冠〕
— **jaifan** 動物の兩骨盤合はせ目の骨〔31.馬匹肢體一：三岔骨〕
— **mulfiyen i suje** 一段に三個宛の圓紋を織り出した緞子〔23.布帛二：三則緞〕
— **namun i dangse boo** 銀，緞布，顏料の入出庫額査閲を司る房〔20.部院三：三庫檔房〕
— **niyakūn** 三度跪拜する禮〔6.禮儀：三跪〕
— **siden i calu** 內務府使用の米麥豆麵味噌醬油等のものを收貯する倉．共三倉〔20.部院十二：官三倉〕
— **tacihiyan** 儒佛道の三教〔7.文教：三教〕
— **tuhebuku i mahatu** 古冠の名．三旒を垂下した冠〔補1.古冠冕一：三旒冕〕
— **unggala miyoocan** 三本筒の銃〔9.軍器七：三眼銃〕
Ilanggeri 三回．三度〔7.數目一：三次〕
Ilari boso 極めて巾の寬い白布〔23.布帛六：三線布〕
Ilata 三ッ宛．三個每〔7.數目一：各三〕
Ilbabumbi 壁を塗らせる．土を塗らせる〔26.砌苫：使抹墻〕
Ilbakū 壁を塗る鏝〔22.工匠器用二：抹子〕
Ilbambi 壁を塗る．土を塗る．鏝かける〔26.砌苫：抹墻〕
Ilban 1.壁，坑などに塗用する漆喰〔26.砌苫：鏝墻的灰〕2.炕の敷いてない溫突．はだか溫突〔21.室家三：光炕〕
Ilbarilambi 微笑する．につと笑ふ〔13.嘻笑：微笑〕
Ilbašambi 舌先で脣を舐め乍ら笑ふ．にやにや笑ふ〔13.嘻笑：抿嘴笑〕
Ilbeke （いつも油濃いものを食べてい乍ら）食ひあきない．いつも同じものを食つて厭はない〔27.飯食三：不厭膩〕
Ildamu 言語淸朗行動俊敏の．氣のきいた〔11.德藝：伶便〕（馬が）てきはきとして快適の〔31.馬匹三：馬伶便〕
Ildamungga 風采のいゝ．風韻のある〔彙：有韻致．有丰采〕
Ildedei Junggiri coko（錦雞）の別名〔補

4. 鳥五：鵜鶘〕
Ildefun 頸椎骨〔10. 人身六：脖頸骨〕
Ildehe Nunggele（椴樹）の青い皮〔29. 樹木八：椴木皮〕
Ildubi Yabulan（鶺鳥）の別名〔補4. 鳥四：駟狐〕
Ildubumbi 熟れ親しませる〔11. 親和：使相熟〕
Ildufun giranggi 神杆の先に挿して神に供へる豚の頸骨〔6. 祭祀器用二：杆上挿的頸骨〕人の頸骨〔彙：人頭上釘生的骨〕
Ilduka 熟れ親しんだ〔11. 親和：相熟了〕
Ildumbi 熟れ親しむ〔11. 親和：相熟〕
Ildun 便宜．便利〔15. 去來：順便〕
— **de** 便宜に順ひ．便利なるに乗じ〔彙：順便．乘便〕
Ildungga afaha 繼位襲職の奏文内容を簡單に見易くして書いた紙片〔5. 事務二：簡便單〕
— **duka** 通用門〔21. 室家二：便門〕
Ildušambi 事の便に乗ずる．ついでを以て事を果す．人の褌で角力を取る〔18. 散語二：將機就機〕
Ile 1. Wešen に同じ〔22. 打牲器用四：打獸的套子〕2. 麻の皮を剝ぎ取れ〔26. 剖解：剝麻皮〕3. 舌で舐め取れ〔彙：令舌餂〕
Ilebumbi 1. 麻の皮を剝ぎ取らせる〔26. 剖解：使剝取麻皮〕2. 舌で舐め取らせる〔彙：使舌餂〕
Ilembi 1. 麻の皮を剝ぎ取る〔26. 剖解：剝取麻皮〕2. 舌で舐め取る〔27. 飯食二：餂〕
Ilenggū 1. 舌〔10. 人身三：舌〕罠の舌〔22. 打牲器用三：夾子舌〕2. 牛，駱駝等の鼻環に掛けた木〔彙：牛駱駝鼻鈎子掛的木〕
— **dasakū** 角製の舌かき．舌けづり〔24. 飾用物件：刮舌〕
Ilerembi 馬を長い綱で杭にくゝりつけ，廻りの草を食ませる〔32. 牧養一：栓着啃草〕
Iletu 1. 顯はれた．明らかな．隱れもない〔14. 隱顯：顯〕2. 昂然たる．惡びれぬ〔11. 德藝：冲達〕（小兒が）はにかまぬ．人見しりせぬ〔10. 老少二：小兒大方〕
— **cooha** 堂々の陣を張つた兵〔8. 兵：正兵〕
— **hūlha** 凶器を携へた盜賊〔16. 窃奪：强盜〕
— **kiyoo** 倚子だけあつて蓋ひのない轎〔26. 車轎一：亮轎〕
Iletuken 稍々顯はれた．略々明らかな〔14. 隱顯：略顯然〕
Iletulebumbi 顯はす．明らかにする．隱蔽しない〔14. 隱顯：使顯露〕
Iletulehen 宮殿，廟，衙門等の匾額〔20. 宮殿：匾額〕
Iletulembi 顯はれる．明らかになる．隱蔽出來ない〔14. 隱顯：明顯〕
Iletuleme wesimbure bithe 賀表〔5. 事務二：表〕
— **wesimbure bithe wesimbumbi**（大慶の禮にて諸王貝勒等殿前に跪き）賀表を讀み上る〔6. 禮儀：上表〕
Iletun 人の先後貴賤を分辨し次序を列記せる表〔7. 書三：表〕
Ilga 辨別せよ．分別せよ〔4. 考選：辨〕
Ilgabumbi 辨別させる〔4. 考選：使辨別〕善惡を區別させる．區別される〔14. 隱顯：有分別〕
Ilgabun 區別のある．自づと辨別される〔4. 考選：有辨別〕
Ilgacun 區別し得べき．辨別し得る〔4. 考選：有分別〕
— **akū** 區別し得られない．辨別されない〔彙：不分別賢否好歹之不分別〕
Ilgaha 區別した．辨別した〔彙：分別了．分辨了〕
Ilgambi 辨別する．區別する〔4. 考選：辨別〕
Ilgandumbi 各人が一齊に分別する．各自齊しく辨別する〔4. 考選：一齊辨別〕
Ilgari 祭祀の際に立てる柳の木に結びつける五色の紙紐〔6. 祭祀器用二：柳枝上紙條〕
— **tucibumbi** 五色の紙紐を柳の枝に掛け，巫が鼓を打つて惡靈を追ひ拂ふ

〔彙：柳枝上掛五色紙條巫師打鼓驅鬼〕
Ilgašambi 友人親戚の處などに遊びに行く〔13.喜樂：閒遊〕
Ilgin 鞣し皮〔24.皮革二：去毛皮〕
— **i šošonggo mahala** 鞣し皮を以て作る所の帽子．古人戰時に着用す〔補1.古冠冕二：韋弁〕
Ilgiri niyehe Aka niyehe (落河) の別名〔補4.鳥七：魚鵜〕
Ilha 1. 花．植物の花〔29.花一：花〕2. 雜色．混色．花模樣〔23.采色三：花〕3. 貴人の禮帽後部に取り付けた金の花〔24.冠帽二：金花〕4. 秤の目盛り〔22.衡量一：星〕
— **akū sirgeri** 無地純白の絹布〔23.布帛三：素紡絲〕
— **akū turtun** 無地純白の Turtun (春紬，紬の一種)〔23.布帛三：素春紬〕
— **cecikengge loho** 花と雀の紋樣を彫り込んだ刀〔補1.軍器一：花雀刀〕
— **i felhen** 花の棚〔彙：花架子〕
— **i simen** 花の汁〔彙：花液〕
— **ilaka** 花が咲いた．花が開いた〔彙：花開了〕
— **noho dardan** 大きな花模樣のある緞子〔23.布帛一：大花粧緞〕
— **sihaha** 花が凋み散つた〔彙：花卸落了〕
Ilhai hungkereku 如鼈〔25.器用八：花澆〕
— **suku** 花の一叢．花むら〔29.花六：花叢〕
— **tebuku** 花を入れる大袋〔25.器用八：花袋〕
— **ukdun** 地を掘り下げ花を栽培する温床〔21.室家四：花洞子〕
Ilhakū tubihe いちじく〔28.果品二：無花果〕
Ilhamūke 果物の名．根元より兩三枝の葉出でゝ小幹上に實生る，味甘酸し〔28.果品三：荔枝核〕
Ilhanambi 1. 花が咲く〔29.花六：開放〕2. 久しく見つめて眼がぼっとする〔12.親親二：看的眼生花〕
Ilhangga 模樣のある．花紋ある．斑のある〔23.采色三；有花的〕
— **cuse moo** まだらだけ〔彙：斑竹〕
— **fungku** 彫刻を施し或ひは錦繡を以て包んだ座具〔25.器用二：繡墩〕
— **moo** くわりん〔29.樹木二：花梨木〕
— **sirgeri** 模樣のある絹布〔23.布帛三：花紡絲〕
— **šobin** 彩色の花模樣ある團子餅〔27.餑餑二：印子餅〕
— **turtun** 模樣のある Turtun (春紬，紬の一種)〔23.布帛三：花春紬〕
— **wehei niowarikū** 綠色顏料の名〔22.貨財二：松花綠〕
— **yabihan** 格天井．組天井〔20.壇廟：天花板〕
Ilhari tucibumbi 巫が五色の紙紐を柳の枝に掛け，鼓を打つて病人に憑いた祟りを追ひ拂ふ．Ilgari tucibumbi に同じ〔19.醫治：剪紙送祟〕
Ilhi 1. 次第．順序．次序〔4.臣宰十四：次序〕2. 次の．副の〔彙：少卿之少．副〕3. 瀉り腹．腹下り〔疾病一：痢疾〕
— **anambi** 官等を陞げる．位を陞げる〔4.陞轉：換次〕
— **bayarai jalan i janggin** 護軍統管の副官〔4.臣宰九：副護軍參領〕
— **hafan** 卿 (Aliha hafun) の次の官〔4.臣宰四：少卿〕
— **hafumbure hafan** 通政使 (Alifi hafumbure hafan) の次の官〔4.臣宰五：通政副使〕
— **hefeliyenembi** 瀉り腹を患ふ．腹下りする〔彙：害痢病．此病有紅白二樣〕
— **jalan i janggin** 參領 (Jalan i janggin) の次の官〔4.臣宰九：副參領〕
— **jorisi** 指揮 (Jorisi) の次の官〔4.臣宰十：副指揮〕
— **kadalara da** 宗室覺羅學等の事を管治する副官〔4.臣宰五：副管〕
— **maksitu** 舞樂の官．佾長 (Kemusi i da) の次の者〔續2.臣宰：協同〕
— **tacibukū hafan** 府，州，縣の教習官 (Hiyan i tacibukū hafan) の次の官〔4.臣宰十二：訓導〕
— **tacibure hafan** 國子監官名．祭酒 (Aliha tacibure hafan) の次の官〔4.臣

宰五：司業〕

Ilhi takūraku 大使 (Takūrakū) の次の官〔4.臣宰六：副使〕

— **ūju jergi** 〔彙：從一品. 凡從品者倣之〕

Ilhinembi 下痢をする. 腹を瀉す〔16.疾病一：痢疾〕

Iiho moo いいぎり〔29.樹木一：椅木〕

Ilhuru 小鳥の名. 眼珠黒, 頬黄, 頭頂背の翅倶に繁にして鮮かなり〔30.雀三：錦背〕

— **dudu** 鳥名. 頭黒く, 身緑, 背褐色, 脚に氈毛あり〔30.鳥九：緑斑〕

— **giyahūn cecike** 鳥名. 形 Mergen cecike (寒雀) に似たり, 頭頂灰色, 背の色淡紅黄〔30.雀一：錦背不刺〕

Ilhū 眞直な. 眞直に〔2.地輿十四：一順〕

Ilhūngga 毛のなめらかな. 毛のすなほな〔31.馬匹肢體二：毛順着〕

Ili 立て. 止まれ〔14.坐立二：立〕

Ilibumbi 1. 立てる. 立たせる. 止まらせる〔14.坐立二：使站立〕建立する〔彙：建立〕2. 音樂を停止する〔7.樂三：樂止〕

Ilicambi 一斉に立つ. 共に立つ〔14.坐立二：同站立〕

Ilihangga (紗緞等の織物が) 硬い〔28.軟硬：紗緞骨立〕

— **akū** 硬くない. 糊氣がない〔彙：不硬挣. 紫物彙的不硬漿〕

Ilihen 易卦の名〔7.書四：眞〕〔補1.書二：艮〕

Ilimbaha 慣れた. 人に熟れた. 土地に慣れた. 物を使ひ慣れた〔11.親和：習慣〕

Ilimbahabumbi 人に熟れさす. 土地に慣れさす. 物を使ひ慣れさす〔11.親和：使習慣〕

Ilimbi 立つ.〔14.坐立二：站立〕立ち止まる. 止まる. 休む〔15.歇息：歇止〕

Ilimeliyan 立つた風に. 立つたらしく〔彙：立的光景. 凡物立楞着的樣兒〕

Ilin 立つこと. 止まること〔14.坐立二：止〕

Ilinambi 1. 行つて立つ. 行つて止まる〔14.坐立二：去站立〕2. よい程に定まる. 善きに止まる〔13.生育：立定〕

Ilingga hengketu 儀仗名. 木を瓜の形に刻み金を冠せ把をつけた器〔6.鹵簿器用五：立瓜〕

— **hiyan** 香の名. 速香沈香等の香木を箸より若干太く削り, 立てゝ供へる香〔6.祭祀器用一：柱香〕

Ilinjambi 小兒がやつと立ち上る. どうにか立てる〔10.老少二：小兒纔學立〕一寸立止まる. 一寸足踏みする〔14.坐立二：略站立〕遅れる. 止まり遅れる〔12.遲悞：止住〕

Ilinjimbi 來て立つ. 來て止まる〔14.坐立二：來站立〕

Ilire tere be ejere yamun 起居注の作制を掌る役所〔20.部院六：起居注衙門〕

Ilkidun Jukidun (鷓鴣) の別名〔補4.雀五：花豸〕

Ilmaha 懸壅垂〔10.人身三：重舌〕

Ilmahū 織機の絲を張る木〔23.紡織二：戧棍〕

Ilmen 網の下につける石, 鉛等のおもり〔22.打牲器用一：網脚子〕

Ilmerekebi 馬が繋いだ繩を解き去つた〔32.牧養一：繩繩自開〕

Ilmoho usiha 星の名. Šebnio (參) 座の中の三つの小さい星〔1.天文三：伐星〕

Ilmun han 閻羅王. えんま〔19.神：閻羅〕

Ilten 貂皮或は蟒緞等にて飾りたる禮服の襟〔24.衣服一：扁肩〕

Ilweri 奇獸の名. Si tu 山に出づる瑞獸, 三角有り〔補4.異獸五：三角獸〕

Imahū 羊の類. 山羊に似て, 色樣色, 山地に棲む〔31.獸四：青羊〕

Imari Emu imari を見よ

Imata 凡て. 全く. Urui, yooni, kemu 等凡て同義語〔18.完全：都是〕

— **si bahambio** 一切お前が得るのか〔彙：只是你得慮〕

— **si jabšambio** 全てお前に都合よい

か〔彙：只是你便易麼〕

Imbe 彼を．彼を以て〔18.諺我一：把他〕

Imcin Untun に同じ．家祭に用ふる鼓〔6.祭祀器用二：男手鼓〕

Imcišambi 家祭の鼓を打つ〔6.祭祀二：打男手鼓〕

Imengge moo なんきんはぜ．たうはぜ〔29.樹木二：烏臼〕

Imenggi 黒胡蔴，白胡蔴等の油〔27.菜殽四：素油〕

— **dabukū** 燈火の油皿〔23.烟火二：油燈盞〕

Imerhen 奇獣の名．三危山に出づ，白牛に似，四角あり，毛長く人を食ふ〔補4.異獣二：獬豸〕

Imete 鎧の鐵部に打つ小釘〔9.軍器二：小甲釘〕凡て釘の總稱〔22.工匠器用三：釘料〕

Imeter ilha ちやうじの花〔29.花五：丁香花〕

Imhe 南方七宿の第六〔1.天文二：翼〕

Imiyaha Umiyaha に同じ〔32.蟲一：蟲〕

Imiyahanambi 虫がわく．Umiyahanambi に同じ〔彙：凡物上生虫．與 Umiyahanambi 同〕

Imiyambi 會衆する．參集する〔6.朝集：會衆〕萬國來集する〔11.羣社：衆〕

Imiyan 易卦の名〔補1.書二：卒〕

Imiyantu 古帽の名．夏の國に於て祭祀の際用ひた帽〔補1.古冠冕一：收〕

Imiyara sabintungga kiru 縄上麟を刺繍せる旗〔6.鹵簿器用三：遊麟旗〕

Imiyelembi Umiyelembi に同じ〔24.穿戴：繫帶〕

Imiyesun Umiyesun に同じ〔彙：腰帶．與 Umiyesun 同〕

Imrin 奇獣の名．少咸山に出づ，牛に似，人面馬足，聲乳兒に似，人を食ふ〔補4.異獣二：窫窳〕

Imseke かはをその仔〔31.獣五：水獺崽〕

In 陰．陰陽の陰〔彙：陰陽之陰〕

— **i aimen** 陰魂〔彙：陰精．與 Oron 同〕

— **yan** 陰と陽〔彙：陰陽．陰氣布散則陽陽氣收凝則陰〕

Ina 姉妹の子〔10.親戚：外甥〕

Incambi 馬が嘶く〔31.馬匹動作二：馬嘶〕

Inci 彼よりも．彼から．彼に比べて〔18.諺我一：比他〕

Indahūlambi （角力して）兩人が同時に倒れる〔8.撩跤二：二人齊倒〕

Indahūn いぬ〔31.諸畜二：狗〕十二支のいぬ．戌〔2.時令一：戌〕

— **biya** 戌の月．九月〔補1.時令二：元〕

— **cecike** やつがしら〔30.雀一：戴勝〕

— **fekun** 馬の犬に似た走り方〔31.馬匹馳走一：馬搖躍〕

— **gintehe** 樹名．河邊に生ず，樹皮に紋様あり，花は淡紅色〔29.樹木五：明開夜合〕

— **holdon** 樹名．松に似たり，枝多くして矮，實を生ぜず，葉は四個宛生ず〔29.樹木一：馬尾松〕

— **i derhuwe** 犬の身體に生ずる薄綠色の蝨〔32.蟲三：狗蝨〕

— **manggisu** Dorgon (獾) の別名．形犬に似たり〔補4.獣二：狗獾〕

— **mucu** 奉天特産の棗．美味にして柔か〔28.果品二：軟棗〕

— **nacin** 鳥名．性 Nacin (鴉鶻) に似，形 Naranidun (梟兒) に似たり，地上にあつて獲物を襲撃すること頗る早し〔30.鳥四：鴉鶻梟兒〕

— **sindambi** （狩りで）狗を放つ〔9.畋獵三：放狗〕

— **soro** さねぶとなつめ〔28.果品二：酸棗〕

— **soro debse** さねぶとなつめを粉にして一塊とし，或は煮つめて凝固せしめ，蜂蜜を混入せる團子〔27.餑餑三：酸棗糕〕

— **ujire ba** 諸地より徴收せる狗を飼育管理する役所〔20.部院七：養狗處〕

Indahūngga aniya 戌の年〔補1.時令一：閼茂〕

Indaju 奇獣の名．北囂山に出づ，虎に似，身白く馬尾犬首〔補4.異獣二：狪狪〕

Indan 1. 翎だけつけて未だ鏃のつけてない箭 2. 鏃のとれた箭 3. 折れた箭〔9. 軍器五：有翎無鏃箭〕
Inde 1. 彼に. 彼の處に. 彼に於て〔18. 諺我一：在他〕 2. 歇め. 宿をとれ. Indembi の命令形.〔彙：令歇〕
Indebumbi 宿をとらせる. 店に休ませる. 途中休ませる〔15. 遷移：使歇程〕
Indehen おこり〔16. 疾病一：瘧疾〕
Indeki 宿をとり度い. 休息したい〔彙：欲歇〕
Indembi 宿をとる. 途中休む. 休息を入れる〔15. 遷移：歇程〕
Inderi 隔年に仔を産む（馬牛）〔31. 馬匹二：隔年下駒〕
Ine mene どうにでもなれ. 勝手になれ. なる様になれ〔18. 散語二：左右是左右〕
Ineku もとの. これなる. 仍ほ. 仍ほ又〔18. 完全：本〕
— **aniya** 本年. 今年〔2. 時令四：本年〕
— **biya** 本月. 今月〔2. 時令五：本月〕
— **inenggi** 本日. 今日〔2. 時令六：本日〕
— **omolo** 六代後の孫〔五服10. 人倫二：仍孫〕
— **sile** 肉を煮たもとの汁〔彙：煮了肉的原汁湯〕
Inenggi 1. 日 晝〔2. 時令六：日〕 2. 魚名. やがら〔32. 海魚二：鯽魚〕
— **abkai tampin** 水時計の最上部にある壺の名〔7. 儀器：日天壺〕
— **aliha enduri** 日神. 建除滿平定執破危成收開閉十二神の總名〔補2. 神一：值日神〕
— **dulin** 正午〔1. 天文一：日午〕
— **tome** 日毎に. 毎日〔彙：毎日. 與 Inenggidari 同〕
Inenggidari 日毎に. 毎日〔2. 時令六：毎日〕
Inenggishūn 正午近く. 正午前後〔2. 時令七：傍午〕
Ing 營. 陣營. 兵營〔彙：營伍之營〕
— **lo** 冠から垂れた珠飾り〔彙：纓絡. 與 Bokida 同〕
Ingga moo 樹名. 四時落葉せず, 大きさ數抱へに達するものあり, 山谷に生ず〔29. 樹木二：豫〕
Inggaha 1. 鳥のわた毛のちぎれ落ちたもの〔30. 羽族肢體一：煽毳毛〕 2. 蒲の花の毛〔彙：蒲棒的茸毛〕
— **cece** Inggaha suje (羽緞) よりも堅く荒目に織つた紗布〔23. 布帛四：羽紗〕
— **cekemu** びろーど〔23. 布帛一：天鷲絨〕
— **suje** 小鳥のわた毛で織つた緞子〔23. 布帛二：羽緞〕
Ingali せきれい〔30. 雀四：鶺鴒〕
Inggari 柳の花のわたの如く飛散するもの〔29. 樹木八：柳絮〕
— **orho** うきくさ〔29. 草三：浮萍〕
Ingtori ゆすらうめ〔28. 果品二：櫻桃〕
Ini 彼の〔18. 諺我一：他的〕
— **cisui** 自然に. 自づと〔18. 散語二：自然〕
Iningge 彼のもの. 彼のこと〔18. 諺我一：是他的〕
Iniyaha しやくとりむし〔32. 蟲一：蚇蠖〕
Injaha 黄羊 (Jeren) の仔〔31. 獸四：黄羊羔〕
Injebumbi 笑はせる〔13. 嬉笑：使人笑〕人に笑はれる. 笑ひものにされる〔15. 鄙薄：被笑話〕
Injecembi 衆人共に笑ふ〔13. 嬉笑：共笑〕
Injeku 可笑しい. 可笑しいこと. 嘲ふ可き. 嘲ふ可きこと〔13. 嬉笑：笑話〕〔15. 鄙薄：笑話〕
— **arambi** 可笑しいことをする〔彙：作弄出笑〕
Injekšembi 讃り笑ふ〔13. 嬉笑：恥笑〕
Injembi 笑ふ〔13. 嬉笑：笑〕
Injendumbi Injenumbi 衆人一齊に笑ふ〔13. 嬉笑：一齊笑〕
Injiri 婦人の顔かくし. 紺紗に縠を取り, 兩端に紐をつけて結ぶ様にしたもの〔24. 冠帽一：婦人遮臉罩子〕
Intu cecike 小鳥の名. 頭身淡紅色, 翼連續して斷えず〔30. 雀五：鷰鼓〕

Inu 1. 是. これだ. 然り. …なのである. 是が…これである〔12.問答二:是〕2. …も亦. …又…これ〔彙:亦.也是之也〕
Io g'ang cing 織物の名〔彙:布名油絹青〕
Iodan 油單. 雨合羽〔彙:雨衣. 油單〕
Ioi 樂器の名. 臥虎の背に牙あるが如き形をなし,樂の一段終る毎に此牙を鳴らす.〔彙:樂器似臥虎背上有牙子樂奏完一段擦此器背上牙子〕
Iole 油を塗れ. 油をひけ〔彙:令油〕
Iolebumbi 油を塗らせる. 油をひかせる〔彙:使油〕
Iolembi 油を塗る. 油をひく〔彙:以熬了的油油之油. 油凡物之油〕
Iorere faksi 合羽工. 漆工. 塗師〔彙:油漆匠〕
Iowanggiyaha hoton 盛京省内の地名〔續2.地輿:清河城〕
Ira きび〔28.米穀一:糜子〕
Irahi 1. 水面の波紋〔2.地輿九:水紋〕2. 戸窓の隙間を洩れて塵の動くのを照し出した光線〔1.天文一:隙光〕
— **dekdehe** (微風吹き來たつて)水面に波紋が起きた〔彙:微風吹水面起波紋了〕
Iren 1. 遊魚の起す波紋,或ひは吐く水泡〔2.地輿九:魚行的水紋〕2. 鹿の一種. Oron buhū (角鹿) に似たり,草原に棲む〔31.獸三:野角鹿〕
Irenembi 魚が泳いで波紋を起す〔2.地輿九:魚行水生紋〕
Ireshūn (馬などの)後身高く前身の低い〔31.馬匹三:裁脖馬〕
Irgašambi (女が)秋波を送る. ながし目で見る〔12.親親二:眼光娟態〕
Irge honin 去勢した羊〔31.諸畜一:騙羊〕
Irgebumbi 詩を作る. 詩を賦す〔7.書七:作詩〕
Irgebun 詩. 詩賦〔7.書二:詩〕
— **i nomun** 書名〔7.書一:詩經〕
Irgece moo 奇木の名. 西藏に産す,樹色半ば濃紅色,半ば黑色〔補3.異木:瀾滄木〕
— **niyehe** 鴛鴦の別名〔30.鳥八:鴛鴦〕
Irgen 民. 衆民. 百姓〔10.人一:民〕
— **i banjin** 民の生計. 民の暮し〔彙:民生〕
— **i kunggeri** 戸部に屬し,人口調査銀量調査等のことを司る役所〔補2.衙署二:民科〕
— **sere temgetu** 官字號 (Hafan sere temgetu) 以外の一切子弟の鄕試試驗場〔補1.陞轉:民字號〕
Irha 各色の絹布を細長く切つたもの〔23.布帛六:補丁條〕
Iri 菜園. 畑〔21.田地:畦子〕
Irkimbi 人を激怒させる〔15.侵犯:激人生氣〕
Irmu うづらの別名〔補4.雀二:鵪〕
Irubumbi 水に沈める〔2.地輿十二:使沉溺〕溺らす〔彙:使溺〕沈められる. 溺らされる〔彙:被沈. 被溺〕
Irudai 北方にて鳳を呼ぶ語〔補4.鳥一:鵬昌〕
Iruhabi 溺れた. 惑溺した〔17.淫蕩:沉溺了〕
Irukū 袖綉の下にとりつけた圓い鉛のおもり〔22.打牲器用一:綉墜子〕
Irumbi 水に沈む. 溺れる〔2.地輿十二:沉溺〕
Irun 1. 田畑の隴〔21.田地:壟〕2. 俯向きに葺いた屋根瓦の列. 波狀に葺いた屋根瓦の高い方の列〔21.室家二:蓋瓦隴〕3. 温突の烟道. Nahan i irun 同じ〔彙:炕內洞〕
Irungge mahatun 古冠の名. 上面に梁を起せる冠. 梁條の數を以て品秩の高下を分つ〔補1.古冠冕二:梁冠〕
Irusu hiyan 香の名〔6.祭祀器用一:沉香〕
Isa 集まれ〔彙:令人來. 令人集〕
Isabu 集めよ. 呼び集めよ〔彙:令彙集:令傳集〕
Isabumbi 1. 集める. 會集する. 朝集させる〔6.朝集:使齊集〕集積する. 積み聚める〔21.牧蒭:積聚〕2. 髮を編ませる. 髮を結はせる〔24.梳掠:使編髮〕
Isabun 來集. 集積〔彙:集〕

Isambi 1. 集まる. 會集する〔6.朝集:齊集〕2. 髪を編む.' 髪を結ふ〔24.梳粧:編髪〕
Isamjambi 各處の物を集積する. 次第に集積する〔21.收蔵:積〕
Isan 集合處. 會合處〔6.朝集:集處〕集まり. 會合〔彙:彙. 齊集. 乃整彙字〕
Isanambi 行つて會合する.〔彙:去齊集〕
Isandumbi Isanumbi 一同會合する. 一齊に集まる〔6.朝集:一同齊集〕
Isangga mekten 衆人が金を出し合ひ月々籤引きして當てたものが其金を收得する賭戯〔19.賭戯:摇會〕
Isanjimbi 來たり會合する. 集まり來たる〔6.朝集:來齊集〕
Isanjingga boo 宮臣の控え室〔20.宮殿:朝房〕
Ise 倚子〔彙:椅子〕
— **i sektefun** 椅子の褥〔彙:椅墊〕
Isebu 打ち懲せ. 懲戒せよ〔5.捶打:懲戒〕怕れさせよ〔彙:使之怕〕
Isebumbi 打ち懲す. 懲戒する〔5.捶打:使懲戒〕怕れさす〔彙:使怕〕
Isebun 懲しめ. 懲戒〔5.政事:懲〕
Isecun 怕れ. 恐怖. 怕る可き〔13.悔嘆:怕懼〕
Isehebi 怕れた. 懲りた〔13.悔嘆:怕了〕
Iseku 怕れを懐いた人. 懲りた人〔彙:有懼怕之人〕
— **akū** 怕れることを知らない. 懲りることを知らぬ〔13.悔嘆:無怕懼〕
Iselebumbi 飽くまで抵抗させる〔15.雙敵:使相拒〕
Iseleku ilha 貴州の山谷内に産する奇花の名〔補3.異花三:蝎子花〕
— **umiyaha** さそり〔32.蟲三:蠍子〕
Iselembi 飽くまで抵抗する. 相拮抗する〔15.雙敵:相拒〕
Iselere fudarara 手向ひ叛く. 手向ひ逆らふ〔彙:抵觸父兄之抵觸〕
Isembi 怕れる. 懲りる〔13.悔嘆:怕〕
Isha 1. みやまがらす〔30.鳥十:松鴉〕2. 意地汚い人(みやまがらすは非常に食ひ意地が張つてゐる故, 意地汚き人を此の鳥に譬へてよぶ)〔彙:很貪汚之人乃以此鳥譬之也〕
Isheliyeken 稍々窄い. 幾分狭い〔彙:略窄〕
Isheliyen 窄い. 狭い〔25.諸物形狀二:窄〕
Ishu 五寸程の長さの軸に絲を巻き取つたもの〔23.絨棉:線軸〕
Ishun 向ひ. 向ふの. 相向ひの〔彙:相向之向. 向背之向〕
— **aniya** 〔2.時令四:明年〕
— **biya** 來月〔2.時令五:下月〕
— **cashūn** 背中合せに. 亂雜に. 入り亂れて(坐る)〔14.坐立一:相背着坐〕怒つて互ひに面背け合ひ. 互ひに顔そらし〔13.怒惱:彼此不對〕たがひちがひに(手拭ひを絞るなど)〔彙:手擰手巾等物水兩頭向背擰之向背〕
— **edun** 向ひ風. 逆風〔1.天文七:迎風〕
— **muduri** 蟒緞の上に畫いた向ひ合ひの龍〔彙:蟒緞上的對蟒〕
— **sefere** 兩手一拘ひの〔15.拿放:一揔〕
Ishunde 互ひに. 彼此相互ひに〔15.遇合:彼此〕
— **sandalabuha be cincilara hontoho** 欽天監内にあり, 天體間の距離測定に從事する科〔20.部院七:相距科〕
Isi 1. 抜け. 抜き取れ. 草を抜け〔21.割採:拔〕〔26.剖解:拔〕2. からまつ〔29.樹木一:落葉松〕
Isibu 到らせよ. 及ぼせ. 送れ. 運べ〔彙:令致. 令及. 令人遞〕
Isibumbi 1. 犬, 鷹等を兎や雉に飛びかゝらせて調練する〔9.頑鷹狗:初次調練鷹狗〕2. 與へる. 送り與へる〔12.取與:送給〕送りやる. 持ちやる〔12.取送:送到去〕3. 草を抜かせる〔21.割採:使拔草〕4. 及ぼす. 致さす. 到らす〔彙:及也. 致之. 凡物凡事使之到也〕
Isihi 抖ふへ. 抖ひ淨めよ〔6.灑掃:抖〕
Isihibumbi 抖ふはせる. 抖ひ淨めさせる〔6.灑掃:使抖灑〕

Isihidabumbi 人に拂ひ退けられる. 突き退けられる〔15.賣備：被撥捭〕
Isihidambi 不機嫌に人を拂ひ退ける. 突き退ける. 追つ拂ふ〔13.怒惱：撥捭〕〔15.賣備：撥捭〕
Isihimbi 抖ふ. 抖ひ淨める〔6.灑掃：抖擻〕鳥が羽毛を抖ふ〔30.飛禽動息一：抖毛〕馬がぶるぶると毛を抖ふ〔31.馬匹動作二：抖毛〕
Isika 1. 近づいた. 及ぼうとした. 充分になりかゝつた〔彙：將近. 將及. 斆了〕2. 草を抜いた〔彙：撏了〕
Isimbi 1. 福を得る.〔11.福祉：得福〕2. 草を抜く〔21.割採：拔草〕抜き取る〔26.剖解：拔取〕3. 得るに近い. 略々充ちる〔12.均賦：斆〕近づく. 及ぶ. 足りる〔彙：將及之將. 足矣. 斆矣. 如. 及〕
Isinahale 凡そ到る所〔彙：凡所到〕
Isinambi (定めの所に) 到る. 近づき行く〔15.去來：到去〕
Isingga 用ひるに足る. 間に合ふ〔11.富裕：足用〕
Isinjiha be ejembi (凡て官衙に到來せる文書の上に該管上司が) 到來の日付を記入する〔5.辦事二：打倒〕
Isinjimbi 幸が來る. 福が到來する〔11.福祉：受福〕近づいて來る. 到來する〔15.去來：到來〕
Isinju 定めの日迄に來い. やつて來い Isinjimbi の命令形〔15.去來：使到來〕
Isirakū 1. 取らない. 摘まない.〔彙：不捋〕2. 如かない. 及ばない. 足りない〔彙：不如. 不及. 不斆. 不數〕
Isirei 及ぼうとする. 及ぼうとする處の〔彙：將及之〕
Isitala …に至るまで. …に及ぶまで〔2.時令三：直至〕
Isohon 藥名. 牛の腹中に生ず, 性寒色黃〔19.醫治：牛黃〕
Isu 青無地の緞子〔23.布帛二：青素緞〕
Isuhūn 小供の弱くして小さい. ひよわい〔10.老少二：弱小〕
Isuka 鳥名. Nimašan (芝麻鴨) に似た鷺. 羽根の根基に白い筋がある〔30.鳥三：白鷺〕
Isungge šufatu 青地の緞子で作つた巾〔補1.古冠冕三：綸巾〕
Itele 重量の單位. 模糊. 漠 (Parsu) の十分の一〔補3. 衡量：模糊〕
Iten 二歲の牛〔32.牛：二歲牛〕
Itu 鳥名. 雉に似, 身體小さく尾が短い〔30.鳥六：半翅〕
Itulhen 鳥名. Šongkon (海靑) Nacin (鴉鵲) の類. 兎を捕るに用ひる〔30.鳥四：兎鵲〕
Itung hejisu 吉林省內の地名〔續2.地輿：伊通赫爾素〕
Ituri Dumin (鴟雀) に同じ〔補4.雀四：鴟雀〕
— **kekuhe** Kekuhe (いかるか) の別名〔補4.鳥九：鵤鳩〕

J

Ja 1. 價の廉い〔22.貿易一：賤〕2. 易い. 容易な〔彙：難易之易〕
— **akū** 1. やりきれない. たまらない (俗語)〔彙：了不得. 了不的〕2. 廉價でない〔彙：不賤〕3. 容易でない. 易くはない〔彙：不容易〕
— **be bodombi** 事を簡易にすることをはかる. 事を繁冗に至らしめない〔5.辦事一：省事〕
— **de baharakū** 容易に得られない〔彙：不易得〕
— **ja** 1. ちやちや. がッがッ (狐兎などの小獸或は又小兒を嚇す聲)〔14.聲響一：趕狐兎聲〕〔彙：嚇小孩子及野獸聲〕2. ちつちつ. ちつくちく (小鳥が捕へられて鳴く聲)〔14.聲響六：雀被擒叫聲〕
— **ji** わっわっ (衆人の立ち騷ぐ聲)〔14.

擧誉二：衆人喧鬧擧〕

Ja tuwambi 容易だと見る．輕視する 容易に出來る〔彙：輕視．有得容易〕

Jabarhan 鐵のたが〔22.工匠器用三：鐵箍〕

Jabcacun とが．とがめ〔13.悔嘆：咎〕咎め憎むこと〔7.書五：咨〕

Jabcahabi 蠅蝿などが物にたかつた〔32.蟲動：蝿蟻羣集〕

Jabcambi 1. 咎める．人の過ちを咎める．過ちを追責する．過ちを怪しむ〔13.悔嘆：歸咎〕2. 蝿蟻などがものにたかる〔彙：凡蠅蝿蟻等蟲在物上層層擁塞擠着．與 Gabcanumbi 同〕

Jabcandumbi Jabcanumbi 各人齊しく咎める．誰もが怪しみ咎める〔13.悔嘆：一齊歸咎〕

Jabdubumbi 暇を得させる〔2.時令二：使迭當〕事を濟まさせる〔彙：使淡手．使濟〕

Jabduburakū 暇を得ささない．事を濟まさせない〔彙：使淡手不及〕

Jabdugan 餘暇．間暇．遑〔2.時令二：餘暇〕

Jabduha (他事に先立つて) 完了した．濟ました〔26.完成：妥當了〕

Jabduhakū (騎射の際) 空しく矢を放つ可き時を逸した．射箭の時を誤つた．暇を得なかつた．其の暇がなかつた〔8.騎射：悞了〕〔彙：與 Jabdugan akū 同〕

Jabduhangga 從容とした．手まはしのいゝ〔11.德藝：從容〕

Jabdumbi 暇を得る．間暇を得る〔2.時令二：迭當〕事を濟す〔彙：濟事之濟〕(騎射の際)矢を放つに時を逸せず誤らない．餘裕を持つ〔彙：馬箭放出箭不悞〕

Jabhū 南方七宿の第五〔1.天文二：宿〕

Jabjan うはばみ〔32.龍蛇：蟒〕

Jabkū 矢筒．えびら (Ladu よりも小形のもの)〔9.撒袋弓箭：小箭桶〕

Jabsun 數の單位．Cikten (塵) の十倍〔7.數目二：溝〕

Jabšabumbi 安價に手に入れさす．廉くさせる〔22.貿易二：使得便宜〕幸運を得させる〔彙：使僥倖〕

Jabšaki 安價に入手したい．廉くあり度い．Absi jabšaki 何と廉くしたいものだ．何と高價な〔22.貿易二：便宜〕

Jabšambi 廉く手に入れる．安價に入手する〔22.貿易二：得便宜〕僥倖を得る．都合がいゝ〔彙：僥倖〕

Jabšan 1. 幸．幸運．僥倖〔彙：幸．造化〕2. 安價．廉價〔彙：便宜〕

— **baimbi** 僥倖を求める．幸運を希ふ〔13.求望：討便宜〕

Jabtundumbi Jabcandumbi 又は Jabcanumbi に同じ〔彙：衆齊悔〕

Jabu 答へよ．回答せよ〔12.問答二：使答應〕

Jabubumbi 答へさせる．回答させる〔12.問答二：使人答應〕

Jabumbi 答へる．對應する．回答する〔12.問答二：答應〕

Jabume 答へて曰く．對應すらく〔彙：答曰．對曰〕

Jabun 役人の訊問に對する陳述，口供〔5.詞訟二：口供〕

— **gaimbi** 訊問して其の口供を取る〔彙：取口供〕

Jaci 1. 甚だ．頗る．過ぎて〔25.多寡一：太〕2. 何時でも．やゝもすれば〔彙：動不動的口氣〕

— **elehun** 親戚に對して冷淡な．心勞せぬ〔彙：親戚跟前疎淵寡情〕

— **fahūn amba** 圖々しい奴め！出しやばり奴！〔彙：好臉大乃惡罵人之詞〕

— **komso** 甚しく少ない〔彙：很少〕

— **labdu** 甚しく多い〔彙：很多〕

— **ohode** Aika ohode に同じ．何時でも．如何なるときにも〔18.散語六：動不動的〕

Jacin 次の子〔10.人倫二：次子〕第二のもの．第二の〔彙：第二〕

Jadaha 不具．不具の〔16.疾病二：殘疾〕

Jadalahabi 不具になつた〔16.疾病二：殘疾了〕

Jafabumbi 1. 手に取らせる〔15.拿放：使拿〕召し捕らせる〔5.刑罰一：

使拿〕馬の口を取らせる〔31.套備馬匹：使拏馬〕2. 死者を火葬に付させる〔彙：使火化人屍〕3. 稅を納めさせる. 稅を取る〔彙：使上稅〕

Jafahan isibure kunggeri 勘合書, 急要書を發し, 早馬に着けて郵送することを掌る役所〔補2.衙署三：脚力科〕

Jafakū 弓身の手で握る部分. 弓柄(ゆづか)〔9.製造軍器二：弓把〕凡て器物の握り手. 把手〔25.器用八：鐲子〕

— **hadambi** 弓身に弓の把手を打ちつける〔9.製造軍器一：釘弓把〕

— **urhubuhe beri** (普通弓の把手は鹿角などを打ちつけるが, かゝるものをつけないで) 弓身の把手のあたりの竹を兩邊から寄せ合はせて握り具合をよくした弓〔9.軍器三：通把弓〕

Jafakūngga dengjan とつ手のある燈器. 手燈〔23.烟火一：手把燈〕

— **tungken** とつ手のある大鼓〔7.樂器一：把鼓〕

Jafambi 1. 手に取る〔15.拿放：拿〕召し捕る. 捕へ取る〔5.刑罰一：拿〕(角力のとき相手の身體の然る可き所を) 取る. 手で摑む〔8.撩跤一：拿〕車馬を御する. 手綱を取る〔26.車轎二：趕車〕馬の手綱を取る〔31.套備馬匹：拏馬〕(鷹が雀などの小鳥を) とる. 捕へる. つかむ〔30.飛禽動息二：鷹拿住〕2. 屍體を火葬に付する. 屍體を潔める〔6.喪服一：化骨殖〕3. 納稅する〔捐納之納. 上稅之上〕4. 氷が凍る〔彙：氷凍之凍〕

Jafan 結納の金品〔6.筵宴：聘禮〕

— **akū** 結納を交さない〔彙：沒有行聘禮〕

Jafangga 持てるもの. 取れるもの〔彙：拿的〕

Jafanjiha 貢を持ち來たつた. 進貢し來たつた〔彙：來進. 來獻〕

Jafasambi 1. しつかりと持つ. 取つて放さない〔15.拿放：只管拿〕2. 凡そ學んだことは之を棄てずして只管勤め學ぶ. 孜々服膺する〔7.文學：常在手〕

Jafata 鷹などの親鳥の手にかゝらずして自然野化せるもの〔30.鳥四：秋黃〕

Jafatambi 非に至らぬ樣豫め教誡しておく. 抑へる. 扣ふる〔15.責備：約束〕

Jafu 羊の毛をのべたゝいて作つた敷物〔24.鋪蓋：氈子〕

— **sektefun** 厚い毛氈の敷物〔24.鋪蓋：氈墊〕

Jafukūngga 儉約で家計巧みな〔11.省儉：善把持〕

Jafunahabi 氈の毛がかたまつた〔24.皮革二：氈成氈了〕

Jafunu 角力を取れ〔8.撩跤一：撩跤〕

Jafunubumbi 角力を取らせる〔8.撩跤一：使撩跤〕

Jafunumbi 角力を取る〔8.撩跤一：對撩跤〕

Jagasu hoton 黑龍江省內の地名〔續2.地輿：扎合蘇城〕

Jaguri tungken 形 Taidan i tungken (伏鼓) に似て長さ一尺餘りなる鼓〔7.樂器一：渣鼓〕

Jaha 先尖り後部截斷狀の丸木舟 (板を組合せて造つたものも, 此の形のものは總て Jaha と稱する)〔26.船二：刀船〕

Jahacin i emu gūsa 乾隆二十年札哈沁人二千人を以て編成せる一旗〔3.旗分佐領二：札哈沁一旗〕

Jahala 肩帶に赤黑の毛の縞ある馬〔31.馬匹毛片：繡肺子馬〕

Jahaltu sirga 肩帶に赤毛の縞ある白馬〔31.馬匹一：錦膊驄〕

Jahari 河原の小石〔2.地輿六：石子〕

— **dalangga** 大小の石礫を積み上げて築いた堰堤〔補1.地輿二：亂石壩〕

Jahūdai〔26.船一：船〕

— **fekumbi** (海戰の際) 敵の船中に飛び込む〔8.征伐四：跳船〕

— **giyalan** ふなぐら〔26.船二：船艙〕

Jai 第二の. 二番目の〔7.數目二：第二〕若し夫れ. 又. 次に. 再び〔彙：若夫. 至於. 又. 次. 再〕

— **coro** 明々後日. 四あさつて〔彙：外後日〕

— **inenggi** 翌日. 明日〔2.時令六：次日〕

— **jalan i omolo** 孫の子. 曾孫〔彙：

孫生之子乃二代孫也．重孫〕

Jai jergi 二品．二級．二等．二位〔彙：二品．二等〕

— jidere aniya 明後年〔彙：後年〕

Jaici 〔彙：第二〕

Jaida 庖丁．菜切庖丁〔25.器用五：薄刀〕

Jaidakū 饒鉢．にようはち〔7.樂器一：鉢〕

Jaidari 樂器の名．形鉢(Cakūikū)に似て，普通の皿程の大きさ〔7.樂器一：鍋子〕

Jaifan 澤山の河源が會合する處〔2.地輿八：河源會處〕

Jaifiyan alin 興京の東方廿支里の所にある小山の名〔續2.地輿：界藩山〕

— hoton 界藩山上の城名〔續2.地輿：界藩城〕

Jaila 躲せ．よけよ．避けよ〔14.坐立一：躲開〕〔16.逃避：躲〕

Jailabumbi 1. 躲させる．避けさせる〔16.逃避：使躲避〕2. 物を遣し藏ふ．移し隱す〔15.搖動：挪開〕

Jailabume balhambi 疱瘡にかゝり豚饅頭を供へて神に平癒を祈る〔彙：出痘子以猪饃饃還願欲躲避之．與 Balhambi 同〕

Jailambi 躲す．避ける．廻避する〔16.逃避：躲避〕〔17.懶惰：躲避〕

Jailandumbi Jailanumbi 各人一齊に避ける．齊しく躲す〔16.逃避：齊躲避〕

Jailatambi 此方に躲し彼方に避ける．ひたすら廻避する〔17.懶惰：只管躲避〕

Jaira 牝の Mojihiyan (猞) 〔31.獸二：母猞〕

Jaja 人を背負へ．子供を背負へ〔21.扛擡：背〕

Jajabumbi 子供を背負はせる．人を背負はせる〔13.生產：使背者〕〔21.扛擡：使背〕

Jajahabi 背負つた．背負つて行く〔21.扛擡：背着呢〕

Jajambi 子供を背負ふ．人を背負ふ〔13.生產：背著〕〔21.扛擡：背着〕

Jajanahabi 1. 人或は物が非常に多く充ち滿ちた．密集した〔25.多寡二：擁擠〕蟻等が層々密集した〔32.蟲動：蟲蟻集聚〕2. 背負ひ去つた．背負つて行つた〔彙：人背了去了〕

Jaji よしよし．よちよち(小兒をあやす言葉)〔12.稱美：贊美聲〕

Jajigi 河魚の名．身白くして口尖り鱗細かく上品なる魚〔32.河魚一：翹頭白〕

Jajilabumbi 蒿草を交錯して積み上げさせる〔彙：使交錯堆纍起〕

Jajilambi 蒿草を交錯して積み上げる〔22.捆堆：堆長垛〕

Jajin 蒿草を長い形に積み上げたもの〔22.捆堆：長垛〕

— yali 豚の頸部の脂混りの肉塊〔27.飯肉一：臉子肉〕

Jajuri 樹木大小不等亂生して密茂せる林．密林〔29.樹木六：枝柯叢生樹林〕

Jak jik 羣鳥の飛ばんとして鳴く聲〔14.聲響六：羣鳥飛鳴聲〕

— moo 樹名．砂漠に生育す．遠く望む時は枯木の如く，高さ二丈，青き時之に點火すれば炭と同樣に燃ゆ〔29.樹木五：灼木〕

Jaka 1. 物品．品物．物〔18.完全：物件〕2. 合はせ目．隙間．縫ひ目〔彙：縫兒．隙縫兒〕3. ……ばかり．僅かに……したところ．Jime jaka 來るばかり．Geneme jaka 行くばかり．行くばかりのところ〔18.散語六：將纔〕

— baimbi 隙を求める．隙を探す〔彙：尋錯縫兒〕

— šolo 隙間．間隙．空隙〔彙：隙空〕

Jakaci 居る所から．ある所から〔彙：自所在〕

Jakade……の故に．……のために．……なるに因り〔彙：因爲時候乃承上接下之詞也．跟前．以故〕

Jakambi 家を建てる時，柱梁椽等を合はせる穴を彫り込む〔26.裁砍：做卯榫〕

Jakan……して間もなく．……僅か前〔2.時令三：新近〕漸く……したところ．やつと……したところ〔18.散語六：

適機〕
Jakanabumbi 計を以て欺き互に不和ならしめる．兩者を離間する〔8.征伐三：離間〕〔17.讒諂：離間〕
Jakanambi 裂け目が出來る．裂ける〔25.孔裂：裂開縫〕
Jakanjambi 意を盡して書物の理を究窮する．熟讀吟味する〔7.文學：曲盡〕
Jakanjame 人の隙を求め仔細に問ひ質して〔12.問答一：搜求著問〕
— **fonjimbi** 隙を見つけて仔細に問ひつめる．根掘り葉掘り聞く〔彙：尋隙而細問之〕
Jakarabumbi 裂く．裂き開く〔21.開閉：使裂開〕間を離す〔彙：使離間．使間〕
Jakaraha 病氣がどうやら好くなつた．僅か乍ら好轉した〔19.醫治：稍好些〕
Jakarakū 墻壁の上部緣邊に用ひる煉瓦〔21.室家三：薄縫〕
Jakarambi 裂ける．隙が出來る〔21.開閉：裂開〕親戚が仲惡くなる〔13.怒惱：離間〕
Jakarame……に沿ひ．……の邊に．……傳ひに〔彙：沿海沿河之沿．沿衣服邊縫之沿．沿地方之沿．沿邊一帶之沿〕
Jakdan まつ〔29.樹木一：松〕
— **i šugi** 松脂〔22.貨財二：松香〕
Jakdu 重量の單位．Cudu(塵)の十分の一〔22.衡量二：埃〕
Jakjahūn 裂け口．裂け目〔25.孔裂：裂成口〕
Jaksaka 夕燒雲(朝燒雲)が棚曳いた〔1.天文四：霞彩〕
Jaksakabi 紅色鮮かに開花した〔29.花六：紅鮮〕
Jaksame 紅色鮮艷に．艷かな紅色を呈して〔彙：顏色鮮艷紅貌〕
Jaksan 夕燒雲．朝燒雲〔1.天文四：霞〕
Jaksangga gurung 太乙星のある星座の名〔1.天文三：紫宮〕
— **ilha** 花名．木本にして葉は對生し，每枝數芽を生ずる，每芽花數個，六瓣にして色は紫〔29.花三：紫徽花〕
— **ten** Dergi bikita tokdon に同じ〔1.天文三：紫極〕
Jaksari moo 奇木の名．南海の山中に生じ，幹紅，葉は綠，花は紫色〔補3.異木：若木〕
Jaksun もみ〔補3.樹木一：樅〕
Jaktaha ilha 奇花の名．形杯に似て色は紫，葉無く蒂は瓢形をなす〔補3.異花四：紫霞杯花〕
Jakūci 八番目．第八の〔彙：第八〕
Jakūn 數詞．八〔7.數目一：八〕
— **biya** 〔彙：八月〕
— **edungge kiru** 八本の旗の幅に夫々八卦の形を刺繡し，百足形の旒を下げたるもの〔6.鹵簿器用四：八風旗〕
— **faidan** 古昔樂舞の名〔彙：八佾〕
— **gūsa** 清朝の八旗〔3.旗分佐領一：八旗〕
— **gūsade kamcibuha ūlet** 八旗に隷屬したる厄魯特．原と噶爾丹の下にありし厄魯特人にして察哈爾八旗に隷屬したるもの〔3.旗分佐領二：附隷八旗厄魯特〕
— **gūsai kunggeri** 吏部に屬し，八旗の盛京文職丁憂起復等のことを承辦する役所〔補2.衙署一：八旗科〕
— **gūsai ne beidere baita icihiyara ba** 八旗の戶口農家の事件に關する訴訟事を審判する役所．戶部に屬す〔20.部院三：八旗現審所〕
— **gūsai turun** 八旗の色によつて各色に作りなした大旗〔6.鹵簿器用二：八旗大纛〕
— **gūsai uheri ejetun bithei kuren** 八旗通志を編纂する館の名〔補2.衙署七：八旗通志館〕
— **kuluk** 德藝凡て具はれる駿馬〔31.馬匹一：八駿〕
— **mudan** 金石絲竹匏土革木の八音〔7.樂二：八音〕
— **niyalma tukiyere haksan bocoi kiyoo** 妃が乘用する所の黃金色八人擔ぎの轎〔6.鹵簿器用五：金黃八人轎〕
— **ubu de dosika gung** 國政共議の列に入り得る皇族〔彙：八分公〕
— **ubu de dosimbuhakū gurun be dalire gung** 宗室第九等の封爵

名〔3.君一：不入八分鎮國公〕
Jakūn ubu de dosimbuhakū gurun de aisilara gung 宗室第十等の封爵名〔3.君一：不入八分輔國公〕
— **ubui narhūngga fukjingga hergen** 篆書體の名.史籀の作れる篆字十等の中八分を以て作れるもの〔補1.書四：八分書〕
Jakūnggeri 八回.八度〔7.數目一：八次〕
Jakūnju 數詞.八十〔7.數目二：八十〕
— **ninggun gūsa** 蒙古喀爾喀を以て編成せる八十六旗〔3.旗分佐領二：八十六旗〕
Jakūnjuci 第八十.八十番目〔彙：第八十〕
Jakūnjute 八十毎.八十宛〔彙：各八十.毎八十〕
Jakūri suje 生糸八本宛の撚り糸を以て織つた緞〔23.布帛二：八絲緞〕
Jakūru 長さの單位.一尋.八尺〔25.量度：尋〕
Jakūta 八つ宛.八つ毎〔7.數目一：各八〕
Jala 1.結婚の仲人〔10.人四：媒人〕2.垣.垣根〔彙：一堵墻兩堵墻之堵〕
Jalafun 命長い.長壽の〔10.老少一：壽〕〔11.福祉：壽〕
— **hergengge šun dalikū** 日覆ひ團扇に二龍が壽の字を抱く樣に刺繍したるもの〔6.歯簿器用一：壽字扇〕
Jalafungga 長壽の人.福壽ある人〔10.老少一：有壽〕〔11.福祉：有壽的〕
— **ilha** 奇花の名.一幹百花を開き,色淺紅,切つて久しく氷に浸けおくも艷色變ぜず〔補3.異花一：萬年花〕
— **kiltan** 黃紗の套に壽の字を刺繍したるもの〔6.歯簿器用二：長壽幢〕
Jalafuri ilha 奇花の名.色白くして葉は綠,四時凋まず〔補3.異花五：壽春花〕
Jalahi ahūn deo 從兄弟.いとこ〔10.人倫二：從弟兄〕
— **jui** 甥.姪〔10.人倫二：姪兒〕
— **urun** 甥の妻〔10.人倫二：姪婦〕
Jalaka 病氣,或ひは痛みが息んだ〔彙：病的疼的息了〕
Jalaktalahabi 鳥雀の羽毛整はず一段一段に脫け落ちた〔30.羽族肢體一：翎翅殘缺〕
Jalaktalambi 音樂に一區切りをつけて又奏する.間を置いて再奏する〔7.樂三：節奏〕
Jalakū 囮〔22.打牲器用三：鳥媒子〕
Jalan 1.世.代.時世.時代〔2.時令二：世〕祖父の世代,父の世代などの世代〔10.人倫二：輩數〕2.軍隊の名.佐領を編成せるもの〔3.旗分佐領一：甲喇〕一隊.兵の一隊〔8.征伐一：隊〕3.草,竹,木などの一節〔彙：草節樹節竹節兒之節〕
— **halame bošoro niru** 子孫代々に追襲する佐領〔3.旗分佐領一：世管佐領〕
— **i janggin** 官名.京城の八旗は每旗五甲喇あり,其一甲喇の長官〔4.臣宰九：參領〕
— **jalan i** 一節一節に.節々に〔彙：一節節的〕代々.世々に〔彙：歷代〕
— **si** 隊.隊伍〔彙：與 Jalan 同.行伍.隊伍〕
— **sirabungga inenggi** 奇數月では丑の日より午の日まで,偶數月では未の日より子の日までを指していふ〔補1.時令二：續世日〕
— **sirara hafan** 代々追襲の封爵.公,侯,伯,子,男,輕車都尉,騎都尉,雲騎尉,恩騎尉の九〔4.臣宰三：世襲官〕
Jalandarakū 少しも息まずに.少しも間斷なく〔12.勤勉：總不間斷〕
Jalangga 1.節儀ある.貞節の.節操ある〔11.仁義：節〕2.父の代の,孫の世のなどの……代の.……世の〔彙：對的〕
— **hehe** 〔彙：節婦〕
Jalapi 一寸として.一寸間を置いて〔彙：少間.少頃.略隔一會〕
Jalarakū 息まずに.間斷なく〔12.勤勉：不間斷〕
Jalari 重量の單位.G'aci (睫息) の十分の一〔補3.衡量：彈指〕
Jalasu 王爵を封ずる使人の持ちゆくし

るし〔3.論旨：節〕
Jalasu ilha まふぢ．まめふぢ〔29.花五：旌節花〕
Jalbari 祈禱せよ．禱れ〔彙：令禱祝．令祈禱〕
Jalbarimbi 祈禱する．禱る〔6.祭祀二：禱祝〕
Jaldambi 騙る．欺く〔17.奸邪：誆哄〕
Jalgambi 折れ箭を膠で接ぐ〔9.製造軍器三：接箭桿〕折斷したものを接ぎ合はせる〔彙：凡鐵木等物折斷了接止〕
Jalgan 命．壽命．定命〔彙：命．前定數．壽限〕
— **golmin** 命長い．壽命のある〔10.老少一：命長〕
Jalgari moo 樹名．竹に似，枝に節あり，高さ八九尺形杖に似る〔補3.樹木二：鹽樹木〕
Jalgasu moo つばき〔29.樹木一：椿樹〕
Jalgiyabumbi 多きを取つて少なきに補はしめる〔12.均賑：使挪補〕
Jalgiyambi 多きを取つて少なきに補ふ．融通する〔12.均賑：挪補〕
Jalgiyanjabumbi 多少をはかつて齊しくなる様に補はせる．平均させる〔12.均賑：使通融〕
Jalgiyanjambi 多少をはかつて齊しくなる様に補ふ．平均する〔12.均賑通融〕
Jalhambi 〔彙：與 Jalgambi 同〕
Jalhari monio 猿の一種．壽命極めて長きもの〔補4.獸二：猴猿〕
Jali 1. 惡計．奸計〔17.奸邪：奸計〕奸計を弄する人〔彙：奸人〕2. からたち〔29.樹木六：芳藤子〕
Jalidambi 奸計を以て騙く．奸計を用ひる〔17.奸邪：使奸計〕
Jalin ……によつて．……なるに因つて〔5.事務一：因爲〕……の爲に．……のため〔18.散語六：爲〕
Jalingga 奸惡な．腹黑い．奸邪の〔17.奸邪：奸〕
— **kiyangkiyan** 奸智に長じたる人〔彙：奸雄〕
— **koimali** 奸惡狡詐なる人〔彙：奸宄〕
— **šuban** 奸惡なる書吏〔彙：奸胥〕
Jalmin たで〔27.菜殼一：蓼芽菜〕
Jalu 滿ちた．溢れた〔25.盈虛：滿〕〔25.多寡二：滿〕
— **eldembure dengjan** 懸け燈籠，中に澤山の蠟燭を立て點火するもの〔23.烟火一：滿堂紅燈〕
Jaluka 物滿ちた．期限滿ちた〔彙：滿了．凡物盛的滿了．限的日期滿了〕
Jalukiya 數に滿たせ．數を揃へよ〔25.盈虛：滿其數〕
Jalukiyabumbi 數に滿たさせる．數を揃へさせる〔25.盈虛：使滿足〕
Jalukiyambi 數に滿たす．數を揃へる〔25.盈虛：滿足〕
Jalumbi 器に滿ちる．度數に足る．日限に充ちる〔25.盈虛：滿盈〕
Jalumbu 滿たせ．充てよ〔25.盈虛：使滿盈〕
Jalumbumbi 滿たす．一杯にする〔25.盈虛：致滿盈〕
Jalungga elhe namun 地方の省の貯銀庫〔補2.衙署八：盈寧庫〕
Jalundara 滿ちた．圓滿の〔彙：明月圓滿之滿〕
Jaluntu enduri 日神の第三．黑道の日を掌る〔補2.神一：滿〕
Jalutala 滿ちるまで．一杯になるまで〔25.盈虛：直至滿〕
Jaman 喧嘩口論．言ひ爭ひ〔5.爭鬪一：嚷〕
Jamarambi 喧嘩口論する〔5.爭鬪一：嚷鬧〕
Jamarandumbi Jamaranumbi 各人一齊に喧嘩口論する〔5.爭鬪一：齊嚷鬧〕
Jamaršambi 何時も喧嘩口論ばかりする〔5.爭鬪一：只是嚷鬧〕
Jambi 巫人が病人のために紙を送つて呻唸祈禱する〔19.醫治：祝贊〕
Jamdan hiyan moo びやくだん．せんだん〔補3.異木：旃檀香木〕
Jame 巫人が病人のために紙を送つて呻唸祈禱すること〔彙：巫人替病人送

巻祈禱吟哦〕

Jampan 絹紗で作つたかや〔24.鋪蓋：蚊帳〕

Jampangga cece 蚊帳，帳幕等を作るに用ふる紗布〔23.布帛四：帳紗〕

Jamu 1. 淺紅色．もゝ色〔23.采色一：桃紅〕2. 果物の名．色紅く味甘し，花は香よくして美はし〔28.果品三：茉藜果〕

— **ilha** 花名．叢生して莖に刺有り，花は色紅くして香ひ好し．〔29.花三：刺藜花〕

Jamuhari ilha 奇花の名．幹に刺あり，葉は Jamu ilha（刺藜花）の葉に似，花色薄紫，香無し〔補3.異花二：纓絲花〕

Jamuri 數詞．Ganggi（恒河沙）の十倍〔7.數目二：阿僧祇〕

— **ilha** ばらの花〔29.花三：薔薇花〕

— **orho** むらさき．ねむらさき〔29.草二：紫草〕

Jan 骨角で鏃を作つた鏑箭〔9.軍器四：哨箭〕

Janambi 巫人が紙を送つて病氣平癒を祈禱するために出かける．Jambi に出かける〔彙：巫人去送紙祈禱吟哦〕

Jancuhūn あまい〔82.滋味：甜〕

— **hengke** まくわうり〔28.果品四：甜瓜〕

— **jofohori** たちばなの實〔28.果品一：橘子〕

— **mursa** にんじん．にんじんな〔27.菜蔬一：胡蘿蔔〕

— **silenggi** 草木に降りた清明の露〔1.天文六：甘露〕

— **usiha** くりの實〔28.果品二：栗子〕

— **yoo** 膿汁の流れる處にかさぶたが出來て塞いでしまつた瘡〔16.瘡膿一：黃水瘡〕

Jancuhūnje さとうきび〔28.果品三：甘蔗〕

Jang 1. 丈．長さの丈〔彙：丈尺之丈〕2. 罪人を打つ杖〔彙：笞杖之杖．粗荊條所做大頭横三分二厘小頭横二分二厘長三尺五寸乃杖罪人者〕

— **jing** ちゆつちゆつ．ちゆーちゆー（雀の仲間を呼ぶ聲）〔14.聲響六：雀相呼聲〕

Jangci 雨雪の際に着用する毛織の外套〔24.衣服二：毡掛〕

Jangdz 宗室封爵の第四品〔3.君一：長子〕

Jangga moo くすのき〔29.樹木二：樟〕

— **niru** Jorho（兎兒叉上哨子）をつけた大小の箭〔9.軍器四：哨子披箭〕

Janggaicambi 馬が勇み立つ．いきり立つ〔31.馬匹動作一：張狂〕

Janggalibumbi 窮迫せしめられる．大いに貧乏さゝれる〔13.貧乏：致於窘迫〕

Janggalimbi 貧乏する．窮迫する〔13.貧乏：窘迫〕

Janggin 職任品級ある武官〔4.臣宰九：章京〕

— **deli** 城門通路の中央にあり，門扉を受ける四角の大石〔19.城廓：將軍石〕

— **hadahan** 車軸の端に挿し込み車輪の脫けるのを止めるくさび〔26.車轎二：車頭小檻〕

— **šufatu** 古昔武官の着用した頭巾〔補1.古冠冕三：將巾〕

Janggisa Janggin の複數形〔4.臣宰九：章京等〕

Janggūtai 盛京の澄名〔續2.地輿：彰武臺〕

Janggūwan 茄子瓜などの鹽漬け，又は味噌漬け〔27.菜穀四：醬瓜〕

Jangju 將棋〔19.戲具一：象棋〕

— **cekemu** 福建漳州産の絨〔23.布帛一：漳絨〕

Jangkiri coko Niyo coko（水雞）の別名〔補4.鳥六：鶉渠〕

Jangkū 櫃の長い大刀〔9.軍器六：大刀〕〔6.鹵簿器用一：大刀〕

Janglabumbi 杖で打たせる．杖で打たれる〔彙：使杖杖之．被杖杖之〕

Janglambi 杖で打つ．杖罪に處する〔彙：杖打之．刑修打之〕

Jangturi 村長．里長〔10.人三：莊頭〕

Janjuri やまもも〔28.果品一：楊梅〕

Jar 1. jor に同じ〔14.聲響二：衆人力作聲〕2. Sisi jan（棒子哨箭）の飛ぶ音

〔14.聲響三：哨子箭聲〕3. こほろぎ等の羽音〔14.聲響六：草蟲聲〕こほろぎ等の鳴く音〔32.蟲動：蚱蜢叫聲〕

Jar jar こほろぎ等の類りにたてる羽音〔14.聲響六：草蟲屢鳴聲〕こほろぎなどの類りに鳴く聲〔32.蟲動：蚱蜢連叫聲〕

— **jir** ちゆつちゆつ（雀などの夜明方立ち騒ぐ聲）〔14.聲響六：晨鳥噪聲〕

Jargima 虫名．身青くして翅長けれど遠く飛ぶ能はず，翅をすつて鳴く〔32.蟲二：叫螞蚱〕

Jargisu 福建省産の薑〔蔬菜殺：薑〕

Jargiyalakū asu 魚網．長さ五尺，口の周り十尺余り，Sargiyalakū asu（旋網）に似，大流に順つて魚を捕ふるもの〔22.打牲器用一：把網〕

Jarhū やまいぬ〔31.獸四：豺狼〕

Jarhūn やまいぬ．Jarhū に同じ〔補4.獸一：豺狗〕

Jarimbi 巫人神前に在つて唱名しつゝ祈禱する〔6.祭祀二：念神歌〕

Jarin 麝香鹿から取つた香〔24.飾用物件：麝香〕

— **moo** 樹名．江南の山谷に生ず，其の根を焚けば清香を發す〔29.樹木六：麝香木〕

Jarji cecike うぐひす〔補4.雀二：鶯〕

Jarkin coko Niyo coko（水鷄）の別名〔補4.鳥六：鶺鴒〕

Jasak i dangsei bolgobure fiyenten 理藩院に屬し，札薩克蒙古に課する稅務を承辦する役所〔20.部院五：旗籍清吏司〕

Jase 邊境．邊疆〔19.城廓：邊〕

— **jecen**〔彙：邊疆〕

Jasei amargi fiyelenggu 鳥名．Fiyelenggu（樹雉）より小さく，北方邊外に產する鳥〔30.鳥六：北樹雉〕

— **dukai janggin** 邊口を看守する官〔4.臣宰十三：關口守尉〕

— **hafan** 古昔邊疆を守つた役人の名〔補1.古大臣官員：封人〕

Jasi 便りを寄せよ．便りせよ〔彙：令人捎信．令寄信〕

Jasibumbi 便りを寄せさせる．便りをさせる．贈り物をさせる〔7.書七：使寄信〕

Jasigan 手紙．便り．贈り物〔7.書七：寄的信物〕

Jasiha 便りを出した．贈り物をした〔7.書七：已寄信〕

Jasihiya Gūwasihiya（鷺鷥）の別名〔補4.鳥二：蒼雨〕

Jasimbi 便りをする．手紙を出す．贈り物をする〔7.書七：寄信物〕

Jašu 立秋時のうづらの稱〔補4.雀二：早秋〕

Jata 懦弱な人間．祿でなし〔17.懦弱一：無能耐〕

Jaya Tolhon weihu に同じ〔26.船二：樺皮船〕

Jayabumbi 屠殺した牲畜の口を割き切らせる〔28.剝割二：使卸下頦〕

Jayambi 屠殺した牲畜の口を割き切る〔28.剝割二：卸下頦〕

Jayan 口奥齒列の終る處〔10.人身三：牙關〕

— **i hūsun**（力及ばず）齒を喰ひしばつて〔18.說語六：牙關勁〕

Je 1. はつ（貴人の呼ぶとき答ふる詞）〔12.問答二：急應聲〕2. あわ〔28.米穀一：小米〕穀物〔彙：穀〕

— **falan** 穀物を打つ庭〔21.田地：場院〕

— **ja** よいしよ！えんやら！（衆人工作の掛け聲）〔14.聲響一：衆工作聲〕

— **ja seme** がやがやと（彼此口論して騒ぐ聲）〔5.爭鬪一：嚷鬧聲〕

Jebele 1. 箭を入れる袋．箭袋〔9.撒袋弓靫：撒袋〕〔6.盛薄器用一：撒袋〕2. Jebele gala に同じ〔彙：右翼〕

— **dashūwan i fiyenten** 戟槍弓矢等のものを造り又收貯することを司る役所．鑾儀衞に屬す〔20.部院八：弓矢司〕

— **dube** 滿漢各旗何れも五甲喇有り，その第三甲喇の名〔3.旗分佐領一：三甲喇〕

— **gala** 八旗の中，正黃，正紅，鑲紅，鑲藍の四旗を指していふ〔3.旗分佐領一：右翼〕

Jebele meiren 滿漢各旗何れも五甲喇づゝあり，其の第二甲喇の名〔3.旗分佐領一：二甲喇〕
Jebkele 謹んで防護せよ．氣をつけて防ぎ守れ〔13.愛惜：謹防〕
Jebsehe 穀草の節を食ふ虫〔32.蟲二：螫〕
Jeburakū 口をつけさせない．食はせない〔27.飲食一：不敢喫〕
Jecehen 奇獸の名．單靈山に出で，豹に似て人首，一目長尾，臥する時は尾を卷き歩くときは尾を口に含む〔補4.異獸二：諸獸〕
— **gurgu** Jecehen（諸獸）の別名〔補4.異獸二：諸獸〕
Jecen 交界．境界〔19.城廓：疆〕
— **dalin** 他地方との境界をなす河岸〔衆：邊岸〕
Jecuhunjembi 心に疑つて決しかねる．躊躇する〔17.猜疑：不妥當〕
Jecuhuri 1. 疑はしい．決めかねる〔17.猜疑：不妥〕2. よろよろ歩きの．ひよろひよろ足の〔14.行走一：踉的不穩〕
— **fehuhe** よろよろとして歩いた〔衆：凡行走踉踏踏邊〕
Jedebule 舞ひ歌を歌ひ初めるとき先づ唱ふる辭〔7.樂三：起歌詞〕
Jefohon 奇果の名．大きさ瓜の如くして，形は柚子に似たり〔補3.異樣果品三：諸子〕
Jefu 食へ．Jembi の命令形〔27.飲食一：讓喫〕
Jeje 父．Ama に同じ〔10.人倫一：爹〕
Jekde moo 樹名．葉は梨葉に似，樹皮赤黑色，此の皮を弓箭等の製作に供す〔29.樹木五：金桃皮木〕
Jekdun moo たまつばき．ねづみもち〔29.樹木二：女貞〕
Jekdungge 貞節の．かたい〔7.書五：貞〕
Jeke 食つた〔27.飲食一：喫了〕
— **beri** 弓の一種．弓身に貼付した角面の兩端の弦掛けの處まで遠せざる弓〔9.軍器三：接腮弓〕
— **yadaha** 1. 凡ての物を持主の勝手にさせず爭ひ奪ふ．勝手に取りあげる〔18.說話六：爭取〕2. 他人のことは構はずして各人勝手に行つてしまふ〔15.去來：大家散去〕
— **yadaha genehe** 他人に構はず各人勝手に行つた〔衆：不顧別人各自奔去了〕
— **yadaha i burulaha** 他人に構はず各人勝手に逃げ去つた〔衆：不顧別人各自逃了〕
Jekekū 食はなかつた．食つてゐない〔衆：不曾吃．沒有吃〕
Jekene 食ひに行け〔衆：令人吃去〕
Jekenembi 食ひに行く．行つて食ふ〔27.飲食一：去喫〕
Jekenjimbi 食ひに來る．來て食ふ〔27.飲食一：來喫〕
Jekenju 食ひに來い．來て食へ〔衆：叫人來吃〕
Jeki 食ひたい〔衆：欲吃．請吃〕
Jekse 1. 草が燒けてむき出しになつた土地〔2.地輿二：荒燒地〕2. 片一方には雨が降り片一方には雨の降つてゐない土地〔衆：或一處下雨或一處沒有雨〕
Jeksimbi 躊躇する．怕れ厭ふ〔13.怕懼一：躊躇〕憎惡する．嫌厭する〔15.憎嫌二：憎惡〕
Jeksun 毒舌の．言葉厭ふ可き〔18.厭惡：嘴毒〕
Jeku 米穀．米粟．穀物．粮食〔28.米穀一：穀〕
— **aga** 季節の名．陽曆四月廿日或ひは廿一日〔衆：穀雨〕
— **be baicara tinggin** 諸省より運河にて輸ぶ米穀の量目を檢査する役所〔20.部院十：盤攪廳〕
— **be faringgiyaha** 穀物を地面にひろげた（未だ俵に入れない）〔21.農工三：攤開晒〕
— **be kaçalara tinggin** 漕米の收貯運送を管理する河知通判の詰める役所〔20.部院十：糧廳〕
— **hara** 草の名．稻に似た穗を生じ，實は小さい〔29.草一：穀莠〕
— **i fiyenten** 盛京戶部に屬して，粮米の事務を辨理する役所〔20.部院九：

糧儲司〕

Jeku juwere hafan be ilgara kunggeri 兵部に屬し，運糧官を監督する役所〔補2.衙署三：督糧科〕

— **teksilehe** 穗が出揃つた〔21.農工三：穗子秀齊〕

Jekui baita be tefi icihiyara yamun 運糧船に課する稅銀の收納事務を承辦する役所〔20.部院三：坐糧廳衙門〕

— **kunggeri** 戶部陝西司に屬し，京城官人の糧米事務を承辦する役所〔補2.衙署二：糧科〕

Jekunehebi 腐物が化膿した．腫物に膿を持つてきた〔16.腫脹：腫處會膿〕

Jelaha 雨が小降りになつた．小止みした〔彙：雨少間隔貌即 Aga jelaha 也〕

Jelbe ますの仔〔32.河魚一：鱒魚稚子〕

Jeleme cecike すゞめの類．灰色に黑色の斑あり，倉庫の米を盜み食ふ〔30.雀六：倉雀〕

Jelen 疑つて定らない．惑つてゐる〔17.猜疑：滯礙〕

Jelgiyen 帽子の頸紐〔24.冠帽一：帽裝帶〕

Jelken 鼠の屬．Kurene（艾虎）に似，體灰色にして細く小さし〔31.獸六：金鼠〕

Jelmin あぶらな．なたねな〔27.菜穀二：蔓蓍菜〕

— **imengi** 菜種油（婦人擦髮に用ふるもの）〔24.飾用物件：菜子油〕

Jelu ます〔32.河魚一：白肚鱒魚〕

Jembi 食ふ〔27.飲食一：喫〕

Jemdelembi 弊害を生ずる．情弊をなす〔彙：作弊〕

Jemden 財貨をうけて私情を挾むこと．情弊．弊害〔5.詞訟二：情弊〕

Jeme Memeniye に同じ〔10.人倫一：奶母〕

Jemengge 食物〔27.飲食一：食〕

Jemetu lorin 騸から生れた騾〔31.馬匹二：騸騾〕

Jemgetu 情弊の行はれるところ．弊の通ずるところ〔5.詞訟二：關節〕

Jemin 藥の一服．Emu jemin i okto を見よ．

Jempi 心に忍んで惡事を行ふ〔18.兇惡二：忍心〕

Jempilembi 煎餅（Jempin）を油燒きする〔28.燒炒：攤煎餅〕

Jempin 煎餅．蕎麥の粉を平たくのばして油燒きし肉野菜等を包んで食ふ．肉野菜等を包まず，油燒きしたのを細く切つて湯に入れ食ふ法もある〔27.餑餑二：煎餅〕

— **inenggi** 季節の名．陰曆二月二日．この日 Jempin（煎餅）を作つて食ふが故に此名あり〔2.時令六：二月二日〕

Jenderakū 心に忍びない〔11.仁義：不忍〕

Jendu ひそひそと（話す）〔14.言論三：暗說〕暗々のうちに．密々に〔18.散語六：暗暗的〕

— **alhūdambi** 密かに眞似る．暗々裡に做ふ〔彙：人前不倡揚暗地裡悄悄効法〕

— **gisurembi** ひそひそと話す．小聲で語る〔彙：悄悄的說．矮聲說〕

Jenduken いくらかひそひそと（話す）〔14.言論三：暗暗的〕稍く密々に〔彙：密密兒的．悄悄兒的〕

Jengge 食べられるもの〔27.飲食一：餕喫〕

Jengke 心に忍んで行つた．忍んだ〔18.兇惡二：忍了〕

Jengkekū 心の中に忍びなかつた．心中耐へられなかつた〔11.仁義：心裏不忍〕

Jenumbi 一齊に食ふ．各自共に食ふ〔27.飲食一：齊喫〕

Jeo gurun i jijungge nomun 書名〔補1.書一：周易〕

— **i beidesi** 州同（Jeo i uheci）の次の官〔4.臣宰十二：州判〕

— **i saraci** 一州のことを承辦する官．州の長官〔4.臣宰十二：知州〕

— **i tacibukū hafan** 州學の官．一州の生員を管理する官〔4.臣宰十二：學生〕

— **i uheci** 知州（Jeo i saraci）の次の官〔4.臣宰十二：州同〕

Jeofi 屋根を圓く作り漆喰にて塗つた家〔21.室家一：圏廩〕
Jerde 赤毛の馬〔31.馬匹毛片：紅馬〕
Jeren 羊の一種．獐²よりも較と大きく色薄白し〔31.獣四：黄羊〕
Jergi 品級．階級．品等〔4.臣宰十四：品級〕等次．等級〔25.同異：等〕數度數回などの度，回〔集：數次之次〕
— **eberembumbi** 罪人の罪の等を減ずる．罰を輕くする〔5.寛免：減等〕
— **ilhi** 官等の順序．次第．次序〔4.臣宰十四：等第〕
— **tangkan i alin** 太和殿前丹庭内にある黄銅製の小山，上に各官の品級を銘りたり〔20.宮殿：品級山〕
Jergilebumbi 同等にする．序を整へる〔25.同異：使相等〕
Jergilembi 同等になる．序を成す〔25.同等：相等〕
Jergingge 同等の．段級をなす〔集：相等的〕
— **dalangga** 魚鱗肰に層々築き上げた堰堤〔補1.地輿二：魚鱗壩〕
— **hoseri** 重箱〔25.器用一：食盒〕
Jerguwelebumbi 横手すりを作らせる．欄干を設けさせる〔26.間隔：使安欄杆〕
Jerguwelembi 横手すりを作る．欄干を設ける〔26.間隔：安欄杆〕
Jerguwen 欄干．横木．横手すり〔20.壇廟：欄杆〕
— **i bongko** 欄杆の柱の擬寶珠〔20.壇廟：欄杆頭〕
— **i dengjan** 正月，欄杆の擬寶珠の上につける紅燈〔23.烟火一：欄杆燈〕
Jerin 1. 鐵砧(ᵗᶻᵉ)．かなしき〔22.工匠器用一：鐵砧子〕2. 器物の緣邊(ᵗᶻᵉ)〔25.器用八：邊〕
Jeringge wase 簷端に葺く緣飾りある瓦〔26.砌苔：花邊瓦〕
Jerkin ilha やまぼうし，やまぐわ〔補3.異花三：四照花〕
Jerkingge ilhangga loho 網鐵を打ち延し花紋を現はせる刀〔補1.軍器一：鏤花刀〕
Jerkišembi (日光のために)目が眩む．(馬が餘り早く走るために)目が眩む〔12.觀視二：晃眼〕光彩目を奪ふ〔23.采色三：輝眼爭光〕
Jerpe Erpe に同じ〔16.瘡膿一：鰓唇〕
Jerun 八尺の長さ〔25.量度：仞〕
Jeseri 箭の一種．Hente niru (叉披箭)の根に Jorho (馬箭尖飽頭)をつけ，餌の所に鯱を卷いて，水に浸し，鳥を射るに用ひるもの〔9.軍器五：水箭〕
Jeten 南方七宿の第七〔1.天文二：軫〕
Jetere fiyancihiyan niyalma 食量の少い人．食の細い人〔集：吃的少的人．與 Hican 同〕
— **unde** 未だ食はないうちに．食ふ前に〔集：未吃〕
Jeyen 刀の刃〔9.軍器六：刃子〕
— **i dube** 刃の先．鋒尖(ᵗᶻᵉ)〔集：鋒尖．光刃〕
Jeyengge 刃のある．刃のあるもの〔9.軍器六：有刃〕
Ji ilha べにばな．すえつむはな〔29.花四：紅花〕
Jibca 裏に毛皮をつけた長い上衣〔24.衣服二：皮襖〕
Jibcalambi 皮襖(Jibca)を着る〔24.穿服：穿皮襖〕
Jibci 針さし〔24.巾帶：針扎〕
Jibegun 細目の．Jibehun (1)に同じ〔集：密細眼．縫縫眼〕
Jibehun 1. 目を細くした．細目の〔11.容貌三：密縫眼〕2. 掛け蒲團〔24.鋪蓋：被〕
Jiberekebi 目を細めた．細目に見る〔11.容貌三：眼密縫着〕
Jibge 1. 吝嗇の．吝嗇の人〔11.省儉：吝〕2. 遲々たる．遲々として進まない〔12.遲悞：延挨〕
Jibgešembi 1. 遲れ進まない．愚圖々々する〔12.遲悞：逗遛〕2. 物吝みする〔集：吝嗇〕
Jibgešerakū 1. 遲滯しない．愚圖々々しない〔集：不遲慢〕2. 物吝みしない．吝嗇でない〔集：不細嗇〕
Jibin 網目細かい〔22.打牲器用一：網密〕
— **asu** 目の細かい網〔集：叢密．細網〕

Jibsibumbi 事が重なる．事が更に加はる〔5.繁冗：重疊〕重ねさせる．重ねて加へさせる〔彙：使重加．使重層〕重ね着させる〔24.穿脱：使加衣〕

Jibsimbi 重ねる．積み重ねる〔22.捆堆：重垛上〕重ね着する〔24.穿脱：衣上加衣〕

Jibsirge 金絲銀絲を以て花の形を造り層々重ね合はせたるもの〔22.貨財一：彙絲〕〔24.飾用物件：彙絲〕

Jibumbi 來させる〔15.去來：使來〕

Jidere 來るだらう．來るべき．Jimbiの未來形〔彙：來〕

— **aniya** 〔2.時令四：來年〕

— **biya** 〔2.時令五：來月〕

— **omolo** 玄孫の子〔10.人倫二：來孫〕

Jiduji 結局は．必ずや．要するに〔18.完全：到底〕

Jidun 山の尾根．山背(せ)〔2.地輿三：山背〕

Jifebumbi (船，桶などの) はじけ洩れる所を塞がせる〔26.塞決：使艙縫〕

Jifembi (船，桶などの)はじけ洩れる處を塞ぐ〔26.塞決：艙縫〕

Jifere faksi 船を修繕する大工〔10.人三：艙匠〕

Jifu nunggele ひさぎ〔29.樹木四：楸〕

Jifubumbi (鋸又は錐が木に) 挟まつて動かぬ．固く挟まれる〔26.截砍：鋸鑽夾住〕

Jifun (軟かいがねばりがあつて) 斷ち切れない．刺されない〔28.輭硬：皮拉〕

Jifunure sukdun 蜃氣樓〔19.鬼怪：海市蜃樓〕

Jigeyen 1.年老いて耳が遠い〔10.老少一：耳遲〕2.遲々として緩慢の．遲滯せる〔12.遲悞：遲滯〕

Jiha 1.錢．銅錢〔22.貨財一：錢〕2.金銀の重さを量る時の一單位．兩の十分の一〔22.衡量二：錢〕

— **fafun i yamun** 內外の鑄錢事務一切を承辦する役所．戶部に屬す〔20.部院三：錢法堂〕

— **fesheleku** 遊具の名．錢に鴈の羽，馬の鬃等をつけ，蹴つて遊ぶもの〔19.戲具二：毽兒〕

— **fesku** Jiha feshelekuに同じ〔19.戲具二：毽兒〕

— **fila** 小皿〔25.器用三：小菜碟〕

— **hungkerere kūwaran i takūrakū i yamun** 錢廠大使が事務を見る役所．この役所東西南北の四處あり〔補4.衙署二：作廠大使衙門〕

— **i kemuneku** 大板に半圓形の溝を作り，錢を並べ數へる道具〔22.衡量一：錢比子〕

— **ilha** 花名．黃朶錢の如き狀あり，秋開く〔29.花五：金錢花〕

— **tekdebumbi** (跳神祭祀の際掛けある) 紙錢を燒く〔彙：跳神祭祀掛的紙錢火燒化〕

Jihana bojiri ilha をぐるま〔29.花五：滴滴金花〕

— **coko** 鳥の名．Ta ulhūma (烏雉) に似，尾に孔雀の如き綠色の目あり〔30.鳥六：金錢雞〕

— **yarha** 毛に錢の如き斑紋のある豹〔31.獸二：金錢豹〕

Jihanaha (穀類の) 花が開いた〔彙：粮食開花了〕

Jihanambi (穀類が) 花を開く．花をつける〔21.農工三：開花〕

Jihari yanggali 小鳥の名．Yanggali (蘿蔔花) の類．頭に錢を連ねたる如き形の羽毛あるを以てこの名あり〔補4.雀四：連錢〕

Jihe 來た〔彙：來了〕

Jijirgan 燕の一種．河邊に巢を作る〔30.雀三：鳽〕

Jijiri 細い草で織つた蓆〔24.鋪蓋：涼蓆〕

— **orho** 草の名．蓆，わらじ等を作る草〔29.草二：苞〕

Jijubumbi 字を書かせる．寫させる〔彙：使書．使寫〕

Jijuhan 易の卦〔7.書四：卦〕

— **be faidaha ulabun** 易傳の名．六十四卦の義を出し，次第を推して述作せる詞〔7.書四：序卦傳〕

— **be gisurehe ulabun** 易傳の名．

八卦の義を推講せるもの〔7.書四：說卦傳〕

Jijuhan be suwaliyaganjaha ulabun 易傳の名．來卦を交錯し卦の義を合照して作りたる辭〔7.書四：雜卦傳〕

— i arbun 六十四卦の象〔7.書五：卦象〕

— i kūbulin 易卦の變化．卦象の變化〔7.書五：卦變〕

— i ucun 六十四卦を五行に合編して成せる歌〔7.書五：卦歌〕

Jijumbi 字を書く．筆を運ぶ．線を引く〔7.書七：畫畫〕

Jijun 1. 字畫〔7.書八：字畫〕2. 易の爻〔7.書四：爻〕

Jijungge nomun 書名〔7.書一：易經〕

Jilabumbi 人に慈しまれる．可愛いがられる〔11.仁義：被慈愛〕

Jilacuka 憫む可き．思ひやる可き〔11.仁義：可憫〕

Jilahabi 痘瘡の發疹が少い〔16.瘡瘍二：花兒稀〕

Jilakan (困苦せる人などの) 憐れな．(小兒などの) 可憐な．可愛い〔11.仁義：可憐〕

Jilambi 慈しむ．情をかける〔11.仁義：慈愛〕

Jilan 1. 急流にして凍ることなき處．Julan に同じ〔2.地輿九：急溜不凍處〕2. 慈しみ．慈愛〔11.仁義：慈〕

— mukengge kiru 儀仗の名．青幅の中央に綠色の緞を配し，それに水紋を刺繍せる旗〔6.鹵簿器用四：旗〕

Jilangga 慈善深い人．慈善家〔11.仁義：慈善人〕

Jilari gaha Holon gaha (慈鴉) の別名〔補4.鳥九：慈鴉〕

Jilbimbi 金花の飾り絹を衣服などの緣に細長く縫ひつける．衣服に緣飾りを施す〔24.剪縫三：寬邊內緣窄片金〕

Jilbin 衣服の廣い緣の上に更に重ね縫ひした細長い金花紋の緣飾り〔24.衣服四：寬邊內緣的窄片金〕

Jilehun 恬として恥づるなき．厚顏無恥の〔17.羞愧：恬然無恥〕

Jileršembi Gileršembi に同じ．恬として恥づる處がない〔17.羞愧：恬不知恥〕

Jilgadumbi 一齊に聲を立てる〔彙：衆齊出的聲〕

Jilgambi 鳥が鳴く．さへずる〔14.聲音六：鳥啼〕

Jilgan 聲．聲音．聲響〔14.聲響一：聲〕

— mudan i narhūn babe fisembuhe bithe 書名〔續.書：音韻述微〕

Jilgangga gasha 鳥の名．夜啼く，其聲を聞けど其姿を見る能はず〔30.鳥十：王岡哥〕

Jilgibumbi 鹿麞羊等の皮の毛を抜き取らせる〔24.熟皮革：使掃毛〕

Jilgimbi 鹿麞羊等の皮の毛を抜きとる〔24.熟皮革：掃毛〕

Jilha 花の心．花托．花蕊〔29.花六：花心〕

Jilhangga ilha 奇花の名．花幹共に山茶に似，蕊大にして香高し〔補3.異花三：龍女花〕

Jili 1. 怒り．怒氣〔13.怒惱：怒〕2. 心動かぬ．物に動ぜぬ〔12.勇健：結實〕3. 鹿麞等の獸の角の根〔彙：鹿麞子等獸頭上的角根子〕

— banjimbi 怒りを發する〔彙：生氣．發怒〕

Jilidambi 怒る．怒氣動く〔13.怒惱：動怒〕

Jilidame facihiyašambi 怒つて焦々する〔彙：氣惱發急〕

Jilihangga 1. 婦人の貞節なる．節を盡せる〔11.仁義：節烈〕2. 怒りつぽい氣短かな．氣性の烈しい〔13.怒惱：有性氣〕

— hehe 夫亡くなりたる時殉死して從ひたる妻〔3.封表二：烈婦〕

— sargan jui 結納して後壻を亡ひ殉死したる女〔3.封表二：烈女〕

Jilkin (麥，黍，等の) 一筋．一本〔10.人身三：緒〕一筋の絲〔23.絨棉：一縷線〕

Jilun Jilakan に同じ〔18.散語六：可憐

意〕

Jima malanggū しろごま〔彙：白芝蘇〕

— **šobin** 小豆の餡を油でいため上に芝蘇をふりかけた團子〔彙：紅小豆餡和油烙的餑餑浮面貼芝蘇者〕

Jimalambi Jumalambi に同じ〔9.製造軍器三：鏨上釘横釘〕

Jimbi 來る〔15.去來：來〕

Jing 1. 常々．何時も．只管〔18.完全：常常〕2. 正に．恰度．丁度うまく〔18.散語六：正然〕

— **jiyang** 磬及び笛の悠揚たる音〔14.聲響三：磬管悠揚聲〕

Jinggeri 頭の大きい小釘．鋲の類〔22.工匠器用三：雨點釘〕鎧の鐵部に打つ鋲釘〔9.軍器二：甲釘〕

— **fangkambi** 上から鋲をつきさす〔彙：往下衝成蘇菰釘子〕

Jinggiya まつげの根もとに生ずるできもの．ものもらひ〔16.瘡膿一：針眼〕

Jingjan 甚だ小さい．極小の〔25.大小：很小〕

Jingjanahabi からだが非常に小さい〔11.容貌五：矮矮的〕

Jingjara 雀の類．嘴の根元から頭にかけて五本の黒毛がある．但し雌には此無し〔30.雀二：五道眉〕

Jingji 擧止重々しい．重厚の〔11.厚重一：穩重〕身體が重い（貴人の子供の體重あるとき用ふる言葉．Šūru も身體の重い意であるけれども，貴人の子供に對しては Šuru は用ひぬ）〔10.老小二：扁胎〕

Jingjing jangjang じんじんじやんじやん．Bing biyang に同じ〔14.聲響三：簫管琅喨聲〕春群鳥の集つて鳴く聲〔14.聲響六：羣鳥喧鳴聲〕

Jingkini 正眞の．本當の．（副に對し）正の〔彙：切實．正項之正．正副之正〕

— **beye** 本人．當人自身．身代りでないもの〔10.人身一：正身〕

— **cifun** 本稅．正稅〔彙：正鈔．正稅〕

— **hafan** 世襲官の第四品．本品を分つて又三等とす〔4.臣宰三：子〕

— **ilhi** 正と副〔彙：正副〕

— **kadalara da** 宗室學（Uksūn i tacikū）の長官〔4.臣宰五：總管〕

— **uju jergi** 〔彙：正一品．其餘正品級倣此〕

— **wesimbure bithe** 上奏の正本（皇帝御覽のもの．副本は內閣に貯へる）〔5.事務二：正本〕

Jingnembi Gilembi に同じ〔6.喪服二：對對奠酒〕

Jingse 金の柱に，官等に應じ夫々紅七寶，靑七寶，珊瑚，水晶，車磲等の玉を嵌入し，帽頂に着けるもの〔24.冠帽二：頂子〕

— **i aligan** 帽子の上面にあつて，頂子（Jingse）を受けるもの〔24.冠帽二：帽頂托盤〕

— **kiyamnambi** 禮帽の頂に頂子（Jingse）を嵌める〔彙：朝帽上鉚頂子〕

— **umiyesun bisirengge** Jingse（頂子）と Umiyesun（腰帶）とを帶びるもの．官位あるもの〔彙：有頂帶者〕

Jingsitun 南方七宿の第一〔1.天文二：井〕

Jinjaha 馬や人の睾丸〔彙：馬卵子．人卵子〕

Jinjiba 小鳥の名．全身綠色にして非常に小さい〔30.雀六：粉眼〕

Jinjima 豆の非常に小さくして煮え難いもの．屑豆〔28.米穀二：賊豆〕

Jinjiri janjiri うようよ．うぢやうぢや（子供が澤山に居る貌）〔18.散語六：七大八小〕

Jio 來い．Jimbi の命令形〔15.去來：~~面~~叫人來〕

Jir jir ちろちろ（澤山のこほろぎが鳴き立てる聲）〔14.聲響六：促機齊鳴聲〕〔32.蟲動：蟲蛆叫聲〕

— **jir seme** ちよろちよろと（泉水の僅かに湧出する貌）〔2.地輿十一：泉水微出貌〕

Jira 草木族生せる〔29.樹木六：蕃族〕子供を生むことの多い．每年欠かさず出產する〔13.生產：生產寄〕痘瘡が一杯に出來た〔16.瘡膿二：花兒密〕

Jiramikan 稍と厚い．幾分厚手の〔25.諸物形狀二：略厚〕

Jiramilabumbi 優待される．厚遇される．優待させる．厚遇させる〔11.敬慎：使人厚待〕
Jiramilambi 優待する．厚遇する〔11.敬慎：厚待〕
Jiramin 厚い．厚手の〔25.諸物形狀二：厚〕
Jirgabumbi 安逸ならしめる．安樂にさせる〔13.喜樂：使安逸〕
Jirgacun 安逸に過し得可き．安樂に暮し得可き〔13.喜樂：可安逸〕
Jirgaha 御寢遊ばした〔彙：皇上安寢了乃尊稱之詞．與 Jirgahabi 同〕
Jirgahabi 御寢遊ばした（皇上の安寢をいふ語）〔15.睡臥二：安寢了〕
Jirgambi 安逸に過す．安樂に暮す〔13.喜樂：安逸〕
Jirgeku 消火器．火消しポンプ〔9.軍器七：揩桶〕
Jirgembi Calihūn（朱頂紅）が鳴く〔14.聲響六：珠頂紅鳴〕
Jirha cecike Darha cecike（蘆葦鳥）の別名〔30.雀四：鷦鷯〕
Jiri 正（數詞）．Damdan（澗）の十倍〔7.數目二：正〕
Jirjing 奇獸の名．馬尾を具へた Hontoho（那父）〔補4.異獸二：精精〕
Jirmutu suru 白色の駿馬〔31.馬匹一：白義〕
Jirun 京（數詞）．Saja（兆）の十倍〔7.數目二：京〕
Jise 草稿．稿本．下書き〔5.事務三：稿〕〔7.書三：草藁〕
— **icihiyara boo** 理藩院に屬し，上奏文，行文等の草稿を作る房．理藩院以外にも本房の有る所あり〔補2.衙署五：稿房〕
Jiselembi 草稿を作る．下書きする〔7.書七：起草〕
Jisiha はしばみ〔29.樹木五：榛子柯〕
Jisubumbi （小刀を以て皮などを）一線に割き開かせる〔28.剝割二：使刺〕
Jisuha 一線に割き開いた〔彙：一直割開了〕
Jisumbi （小刀を以て皮などを）一線に割き開く〔28.剝割二：刺〕
Jiyan wang asu 捕魚網の一種．水の淀める處に船を浮べ，一船に網を載せ一人が之を取つて立ち，他の一船がこの網を引いて開き，兩船會合して魚を捕る仕掛けのもの〔彙：網名．在不流的水裡一船載網一人立拿着又一船拉開網兩頭會合捕魚者〕
— **zung** びろーど〔彙：剪絨〕
Jiyanggiyūn 軍を總管する武官．支那語「將軍」の音寫〔4.臣宰二：將軍〕
Jiyei 王侯を封ずる時使節の持ち行く節．Jalasu に同じ〔彙：封王去封時前頭執的垂穗子的節〕
Jo 1. 量目の單位．一勺〔彙：勺合之勺〕 2. 押し切れ〔彙：令鍘〕
— **banjimbi** 食後口中に酸い水がこみ上げて來る．酸液が出る〔16.疾病二：醋心〕
Jobobumbi 苦勞させる．苦しめる〔16.折磨：勞苦〕苦しめられる．害を被る〔彙：被害弄〕
Jobocuka 憂ふ可き．憂慮すべき〔13.愁悶：可憂〕
Jobocun 1. 憂ひ．憂悶．苦しみ〔13.愁悶：憂〕 2. 易卦の名〔補1.書二：蹇〕
Joboho arambi 勞に酬ひる．謝禮する〔12.助濟：酬勞〕
Jobolon 憂患．禍ひ．災難〔13.愁悶：憂患〕喪事〔6.喪服一：喪事〕
Jobolontu enduri 年神の第十八．喪事災難愁苦等のことを掌る凶神〔補2.神三：喪門〕
Jobombi 愁へる．憂悶する〔13.愁悶：愁〕家計窮苦する．苦しむ．難儀する〔13.貧乏：艱難〕
Jobon 易卦の名〔補1.書一：屯〕
Joborakū ilha 奇花の名．婦人が蕾を愛撫すれば花を開く〔補3.異花一：無憂花〕
Joboro suilara 辛苦の．困苦艱難の．窮苦の日を送る〔彙：辛苦．困苦．艱難．難以過日〕
Joboshūn 貧窮のため心勞すること．愁苦すること〔13.貧乏：愁苦〕
Jobošombi （心によからざる處あつて）憂苦する．愁ひ安んじない〔13.

憩閑：憂愁〕

Jocibumbi 破產させる〔16.折磨：傷害〕困しめられる．災厄を被らされる〔彙：被人困厄〕

Jocimbi 家產を蕩盡する．貧窮極まる．破產する〔13.貧乏：破敗〕

Jodoba おばこ〔27.菜穀三：車前菜〕

Jodobumbi 織らせる．布を織らせる〔23.紡織二：使織〕

Jodohūn cecike Indahūn cecike (戴勝)の別名〔補4.雀一：織鳥〕

Jodombi 1. 不時に往來する．頻りに往來する〔15.去來：不時來往〕2. 織る．布を織る〔23.紡織二：織〕

Jodon かづらより取れる絲にて織れる布〔23.布帛五：葛布〕

Jodongga cece 色は葛布 (Jodon) に似て，輕く美しい織目細かなる紗〔23.布帛四：葛紗〕

Jodorgan usiha 織女星．天河の北にあり〔1.天文三：織女〕

Jodoro arara yamun 宮廷用の緞紬紗羅等の織造事務を管理する役所．內務府に屬す〔20.部院九：織造府〕

— **icere kūwaran** 宮廷用の緞紬紗羅等の織絲を染色する事務を承辦する役所．內務府に屬す〔20.部院七：織染局〕

— **weilere kunggeri** 工部に屬し，慶事用の絹布，禮服，其他祭器等の造作を管理する役所〔補2.衙署四：織造科〕

Jofoho 1. 合せ目の角．(箱などの) 四角の合せ目．尖り〔25.諸物形狀一：對的尖〕2. 魚をつく叉(ᡤᡝᡵᡤᡝ)．やす〔22.打牲器用三：魚叉〕

— **acabumbi** 菱形，六面形等のものの尖り角を縫ひ合はせる〔24.剪縫一：對方尖縫〕

Jofohoci からたちの實．きこくの實〔28.果品二：枳〕

Jofohon ゆず〔28.果品一：柚子〕

Jofohonggo 尖り角のある(もの)〔25.諸物形狀一：有尖角的〕

Jofohori šatan 蜜柑の蜜漬け〔續.果品：橘餅〕

Jofohoto レモン〔補3.異樣果品四：蘿蒙子〕

Johihabi 腫物の口が收つた．口が塞がつた〔16.瘡膿二：收了口〕

Johimbi 腫物の口が收まる．口が塞がる〔16.瘡膿二：收口〕

Joholikabi ぶよぶよに肥えた．ぶたぶたに肥えた〔11.容貌六：甚胖〕(牛馬等が非常に肥えて) 歩く度に肉が動く〔32.牧養二：膘滿肉肥〕

Johombi 噦(ᡥᡳᡳ)が出る〔16.疾病二：氣逆連打膈〕

Jojin 1. 馬銜(ᡤᡠᠰᡳ)〔9.鞍轡二：嚼子〕2. 孔雀の別名〔五體補4.鳥二：南客〕

— **be sudamimbi** 馬銜(ᡤᡠᠰᡳ)を外す〔彙：退嚼環〕

— **i songgiha** 轡の環の部分についた鐵片(これに手綱をくゝりつける)〔9.鞍轡二：拴繩鐵〕

Jok seme iliha (勢よく走つてゐた馬が)突として立ち止つた〔31.馬匹馳走二：猛自站住〕

Jokja 手ひどく打て〔5.捶打：着實打〕

Jokjabumbi 手ひどく打たせる〔5.捶打：使着實打〕

Jokjambi 手ひどく打つ．ひどく責め打つ〔5.捶打：着實責打〕

Joksi 木をえぐつて大きな碗形に作れる器物，柄はない〔25.器用五：木瓢〕

Joksikū 刃の曲つた手斧(ᡤᡠᠰᡳ)〔22.工匠器用一：彎錛子〕

Joksilambi 大飯を食ふ．丼鉢で食ふ(大食する者を嘲笑する口調)〔27.飲食三：攩食包〕

Joksinahabi 豚肥えした(肥滿せる者を嘲笑していふ言葉)〔11.容貌六：胖的可厭〕

Jokson 1. 事の起り際．當初〔2.時令二：當初〕2. 馬が肉やゝ痩せた〔彙：馬略痩欠膘．卽 Yali jokson 也〕

— **de mangga** 當初に難儀な．初めに於て困難な〔彙：作事起頭難之頭難〕

Joktonda ゆり〔27.菜穀三：百合〕

Jokū 株を切る庖刀．押切り〔32.牲畜器用一：剗刀〕

Jolacambi 只管身を低めて人に迎合する．鞠躬如とする〔17.謏諂：苦獻勤勞〕

Jolbonoho 刃が切れなくなつた．鈍くなつた〔26.裁砍：刀刃平了〕
Joldombi 他人から自分の品物を取り返す〔22.貿易二：舊物回贖〕
Jolhocombi 怒つて暴れ廻る．怒つてひたむきになる〔13.怒惱：怒氣上沖〕
Jolhombi 水が湧き上る．ぶくぶくと湧く〔2.地輿十：水漾〕
Jolhocome dushuteme 怒り袖を拂つて〔5.爭鬪一：威怒掉躍〕
Joli めかご．めざる〔彙：笊籬．銅鐵竹柳條者俱有〕
Jolgocombi 馬が壓へる手を拂つて猛り立つ〔31.馬匹動作一：奪扯手〕
Jolibumbi 罪を贖はせる．罪の贖ひに金錢を取る〔5.刑罰二：准贖〕質に取つたものを返してやる．贖ひをさせる〔13.當借：許贖〕
Joligan 贖罪の金錢〔5.刑罰二：贖鍰〕
Jolikū 舟の棹．Joolikū に同じ〔彙：箭槳乃小船用者〕
Jolimbi 1.質入れしたものをうけ出す．質受けする〔13.當借：贖〕2.舟に棹さす．Joolimbi に同じ〔彙：盪槳之盪〕
Jolinambi 質うけに行く〔13.當借：去贖〕
Jolinjimbi 質うけに來る〔13.當借：來贖〕
Jolo 1.醜鬼．又鬼の樣に醜い人〔19.鬼怪：醜鬼〕2.牝鹿〔31.獸三：母鹿〕
— **buhū** 牝鹿．Jolo に同じ〔彙：母鹿〕
Joman acabumbi 縫ひ上げたものゝ上に更に重ね合せて縫ふ〔24.剪縫一：壓縫〕
Jombi 秣を切る．すさを切る．押切りで切る〔32.牲畜器用一：剗草〕
Jombu 氣をつけよ．注意せよ．思ひ出させよ〔5.安慰：提〕
Jombumbi 氣をつける．注意する．思ひ出させる〔5.安慰：提撥〕提言する〔14.言論二：提白〕
Jompi 1.(已に過ぎたること，又は去りたる人のことを) 追想して語る．話し出す〔14.言論二：提〕2.胎兒が動く．胎動する〔彙：胎動〕
Jonci 想ひ起せば．想ひ起して語れば．話し出せば〔彙：提起言之．擧而言之〕
Jondobumbi 追想して話させる．語り出させる〔彙：使提起說〕
Jondombi (過ぎ去つたことを)毎々言ひ出す．何時も思ひ出しては語る〔14.言論二：常提〕
Jong jong seme くどくどと (怨み言をいふ) ぶつぶつと (不平をいふ)〔13.怨恨：嘵嚕〕
— **jong seme gasambi** くどくどと怨み言をいふ〔彙：只管纏綿惱怒〕
Jongdon 緞子の一種〔彙：粧緞．與 Juwangduwan 同〕
Jongginahabi 愁ひの眉をひそめた〔彙：心愁蹙額〕
Jongkakū 氣をつけなかつた．思ひ出さゝなかつた．注意して提言しなかつた．〔14.言論二：沒提〕
Jongki seme 思ひ出さうと．言ひ出さうと〔彙：欲提起〕
Jongko 思ひ出して語つた．想ひ起して言ひ出した．〔14.言論二：提起〕
Joni 經典で喜鵲を指していふ語〔補4.鳥八：鵲毛〕
Jonombi Jondombi に同じ〔14.言論二：常提〕
Joo 1.充分だ．結構だ．罷めておけ〔12.取與：罷了〕2.詔．詔書 (詔字の音寫)〔彙：詔書之詔〕
— **bai** Joobai に同じ〔彙：罷了．殼了〕
— **elen oho kai** 殆んどもう充分だ．もう結構だ〔彙：凡所思之處差不多兒相合．與 Elen de isika kai 同〕
Joobai 罷めたらよからう．もう充分だらう〔12.取與：罷了的口氣〕
Joocin hiya 蒙古の事を傳奏する侍衞〔4.臣宰七：奏蒙古事侍衞〕
Joolabumbi 班の當番を交代する〔5.輪班行走：交代〕
Joolambi 手を束ねる．手を拱く (挨拶)〔彙：束手．背着手．拱手．袖手．抄手〕
Joolibumbi Jolibumbi に同じ〔彙：使贖．被贖〕
Jooligan Joligan に同じ〔彙：贖銀乃

贖罪銀也〕

Joolikū 小舟用の櫓〔26.船四：棹〕

Joolimbi 1. 櫓を操る．櫓を漕ぐ〔26.船四：使棹〕2. 質受けする．Jolimbi に同じ〔彙：贖當頭東西之贖〕

Joolinambi Jolinambi に同じ〔彙：去贖〕

Joolinjimbi Jolinjimbi に同じ〔彙：來贖〕

Jooman 爪の生え際〔10.人身四：指甲根〕

Jor 1. よいしよ，よいしよ．わつしよ，わつしよ（衆人力を併せて出す聲）〔14.聲響二：衆人力作聲〕2. 鶏犬の群り叫ぶ聲〔14.聲響五：鶏犬群叫聲〕

— **jar** がやがやわいわい（衆人の喧嘩口論する聲）〔14.聲響二：衆人爭嚷聲〕群雀の一齊に噪ぎ立てる聲〔14.聲響六：羣雀齊噪聲〕

— **seme** がやがやと．わいわいと．けつけつと〔彙：人馬鳥獸之聲東一處西一聲的亂叫也．人亂鬧鬧．鷄鳴不已〕

Joran 馬の跑走(だく)．足拍子やや急なるもの〔31.馬匹馳走一：大走〕

— **morin** だくあしで馳ける馬〔彙：大走馬〕

Jordabumbi 馬をだくあしで馳けさせる〔31.馬匹馳走一：使大走〕

Jordambi 馬がだくあしで馳ける〔31.馬匹馳走一：大走開〕

Jorgimbi 群鳥が鳴き噪ぐ．澤山の蟲が鳴きたてる〔14.聲響六：蟲鳥羣鳴〕〔32.蟲動：羣蟲聲〕

Jorgindumbi 處々の小鳥が一齊に鳴きたてる〔14.聲響六：衆雀噪〕彼方でも此方でも一齊に蟲が鳴く〔彙：處處蟲齊鳴〕

Jorgirhen Guwenderhen（哨天雀）の別名〔30.雀六：叫田子〕

Jorgon biya 十二月．師走〔2.時令五：十二月〕

— **inenggi** 陰曆十二月八日〔2.時令六：臘八〕

Jorho 鏃の一種．先端尖つて根元圓く，五面，各面毎に一個宛の孔あり〔9.軍器五：馬箭尖骾頭〕先の尖つた小さな鏃．Moo garma の先につける鏃〔9.製造軍器四：兎兒叉上哨子〕

— **cecike** Torho cecike（桃雀）の別名〔補4.雀四：鷦鷯〕

— **jordoho** あかやなぎ．かはやなぎ Sujikde に同じ〔29.樹木三：蒲柳〕

— **singgeri** たねずみ．のねずみ〔31.獸七：田鼠〕

Joribumbi 指示させる．指教さす〔7.文教：使指示〕

Jorimbi 1. 指示する．指教する〔7.文教：指示〕2. 弓を張つて的に狙ひを合はせる〔8.騎射：指帽子〕

Jorin 1. 意の向ふ所〔7.文教：意指〕2. 弓の狙ひ．的定め〔8.步射一：指的準頭〕

— **i gisun** 官府文書の始めに，文書内の事由意味等を一二語に纏めて書きたるもの〔5.事務三：注語〕

— **sain** 狙ひが好い．的定めのしつかりした〔彙：射箭準頭好拳不動肯中〕

Joringga 官吏考試問題の題目〔7.書六：題目〕

— **i acabun** 破題（Joringga i faksabun）に合はせ，破題の次に書く句〔7.書六：承題〕

— **i faksabun** 文章の始めに題意を總括して述べた二句〔7.書六：破題〕

— **i tucibun** 起股（Deribume fiyente-he）の次に，題目の文字を出して述べた句〔7.書六：出題〕

— **i yarun** 起講（Deribume giyangnan）の次に，題目の始めの語を導入して書きたる句〔7.書六：領題〕

Jorire simhun 人指し指〔10.人身四：食指〕

Jorisi 城外の盜賊賭博爭打等の件を取締る役人〔4.臣宰十：指揮〕

Jorišambi 常に指揮する．色々と指示する〔7.文教：常指示〕

Joro 骨角製の兩刃の鏃を具へた箭〔9.軍器五：角頭箭〕

Joron ささくさ．ささのはぐさ〔29.草三：淡竹葉〕

Jortai 知らぬ振りして．故意に．伴つて〔18.厭惡：故意〕

Jortanggi Jortai に同じ〔18.厭惡：故意〕
Jotombi 頻りに往來する. Jodombi (1) に同じ〔彙：只管來往行走〕
Ju 打樂器の名. 形方斗に似, 音樂を始むるとき先づ打ち鳴らす樂器〔彙：樂器似斗樣作樂先敲起頭來樂器隨之即祝敔八音之一. 與 Ju ioi 同じ〕
— **sy bithei boo** 書院の名〔20.部院十二：洙泗書院〕
— **sy muke i sekiyen golmin i mudan** 禮部に於て洙泗書院の開主術聖公を祭るとき奏する處の音樂の名〔補1.樂：洙泗發源長之章〕
Juben Julen に同じ〔13.戲要：古詞〕
Jubesi 古時古書故事を語る人.〔10.人四：說書人〕
Jubešembi 蔭で人を誣謗する〔17.讒諂：背後毀謗〕
Jubki 河海の砂洲〔2.地輿七：洲〕
Juce 1. 水の非常に澄明な深淵〔2.地輿八：潭〕2. 兵の見張り所. 詰處〔8.征伐一：堆鋪〕
— **tembi** Jucelembi に同じ〔彙：坐堆子〕
Jucelebumbi 兵を見張り所に詰めさせる. 順番によつて見張りに立たせる〔8.防守：使坐堆子〕
Jucelembi 兵の見張り所に詰める. 順番によつて見張りに立つ〔8.防守：坐堆子〕路に伏せる. 見張る〔彙：伏路〕
Jucerhen 鞍の居木と鞍輪との合着する處を結び合はす紐〔9.鞍轡一：拴鞍板皮條〕
Juciba ほたる〔32.蟲三：螢火蟲〕
Juculembi 芝居の歌を唱ふ. 芝居する〔13.戲要：唱戲〕
Juculesi 役者. 俳優〔10.人四：戲子〕
Jucuma 蟲除けの顏隱し〔24.冠帽一：遮蚊蠅臉罩子〕
Jucun 戲. 芝居〔13.戲要：戲〕
— **i hūfan** 芝居の一坐. 戲團〔13.戲要：戲班〕
Jucungge karan 舞臺〔21.室家一：戲臺〕
Juda 長さの單位. 一丈〔25.量度：丈〕
Judun Jidun に同じ〔2.地輿三：山背〕
Judura 毛色野猪に似たる豚. 灰色の豚〔31.諸畜一：蒼毛猪〕
— **ihan** 背すじに白毛のある牛〔32.牛：白背梁牛〕
Judurakū 織物の名. Tonggo suri (線紬) に似て, 織目の眞直な紬〔23.布帛三：納紬〕
Judurame 山の背傳ひに. 尾根傳ひに〔2.地輿三：走山背〕
Juduran 布の筋目. 織り目〔23.布帛六：布帛檔子〕毛の赤筋, 黑筋など凡て筋〔彙：紅道子. 黑道子. 白道子. 凡一道一道的道子〕
Jufeliye 預め備へよ〔8.防守：預先備辦〕糒(ほしひ)を用意せよ〔彙：令預備乾粮〕
Jufeliyembi 預め用意して備へる〔8.防守：備辦〕糒(ほしひ)を用意する〔彙：預備取用之乾粮〕
Jufeliyen 旅用の糒(ほしひ)〔27.飲肉四：乾糧〕
Jugembi 夜北斗七星を祭る〔6.祭祀二：夜祭七星〕
Jugūn 路. 道路〔19.街道：路〕
— **cinggiya** 遠路乍ら容易に行き着き得る〔彙：路很遠走着易到〕
— **giyai be kadalara tinggin** 京城內外の街道事務を管理する役所. 工部に屬す〔20.部院五：街道廳〕
— **giyai be kadalara tinggin i hafan** 京城內外の街道事務を管理する工部所屬の役人〔4.臣宰十：街道廳〕
— **i andala** 中途. 半途〔彙：半路〕
— **i unduri** 路に沿ふて. 路傳ひに〔彙：沿途〕
— **i yarun** 文武官人が遠地に赴く際携行する處の通行證〔5.事務四：路引〕
— **malhūn** 見かけによらず路遠い. 歩いて見ると案外に遠い〔彙：走路暫時走不到〕
— **neimbi** (戰陣の際) 路を開く. 血路を開く〔彙：開路乃用兵開路也〕
— **yabure andala** 路を行くこと半ば〔彙：路走一半〕

Juhe 〔2.時令九：氷〕
— **akiyahabi** (寒氣餘りに酷烈なるため)氷或は雪などが，かさかさと乾いた様な狀態になつた〔2.時令九：氷雪已涸〕
— **dukdurekebi** 氷が厚く張つて盛れ上つた〔2.時令九：氷凍鼓起〕
— **fusejehe** (春になつて軟かい氷の上を踏んだために) 氷がわれた．氷が口を開いた〔2.時令九：氷已酥透〕
— **hujurembi** (春先塊をなして流れる) 氷が互ひにすれあたつて旋る〔2.時令九：氷凌相觸〕
— **jafaha** 氷が張り詰めた．すつかり凍づた〔2.時令九：氷已凍合〕
— **orome gecehebi** 氷が薄く張る〔2.時令九：氷凍薄凌〕
— **sicakabi** 氷にひゞが入つた．氷に裂け目が出來た〔2.時令九：氷裂成紋〕
— **sulhumbi** 氷が軟かくなる．融けかゝる〔2.時令九：氷酥〕
— **šatan** 氷砂糖〔27.餹餭三：氷糖〕
— **tuheke** (春暖によつて) 河の氷が割れ起き上つた〔2.時令九：氷解〕
— **wengke** 氷が融けた〔彙：氷化了〕
Juhen singgeri 獸名．北方厚氷の下に棲み，重さ千斤，肉食ふ可く，毛の長さ數尺，敷物を造るによろし〔31.獸七：硕鼠〕
Juhenembi 氷が張る．薄氷が出來る．凍つてゆく〔2.時令九：成氷〕
Jui 子．小供．兒童〔10.人倫二：子〕
— **banjiha** 子供が生れた．出產した〔13.生產：生產了〕
— **be duri** 子供を搖つてやれ (搖り車で寢かしてやれ)〔彙：小孩子上搖車睡〕
— **jalan** 兄弟の子．凡て自分より一代後の輩行にある親近のもの．〔10.人倫二：姪輩〕
— **jompi** Jui jongko に同じ〔彙：婦人欲生子胎動〕
— **jongko** 胎兒が動き出した．胎動する〔13.生產：覺撤了〕
— **taksiha** 子を孕んだ．妊娠した〔彙：婦人存了胎了〕
Jujin Jojin(2)に同じ〔增四訂體補4.鳥二：南客〕
Juju jaja ぐつぐつ，ぶつぶつ〔14.言論四：瑣碎狀〕
Jujumbi 着物を仕立てるとき先づ縫針を探つてしるしをつける〔24.剪縫二：煮湯子〕
Jujurambi 詰らぬことをする．詰らぬことを云ふ〔18.鄙瑣：猥瑣〕
Jukden すはう〔29.樹木五：蘇木〕
Juke 麵粉を圓く錢形にこね，油で上げて一塊りにしたもの〔27.餹餭二：和的水餡〕
— **efen** Juke に同じ〔彙：研食煮餅乃將 Toholiyo 扁圓的麵食弄碎和合一處者．與 Juke 同〕
Juken 略々足りる．どうにか足りる〔12.均賑：略足〕平常の．平凡な．並みの〔17.懦弱二：平常〕
— **sain** どうやら好い．先づ先づ好い〔彙：恰恰好〕
— **isika** どうにか足りた．どうやら足つた〔彙：凡物剛剛兒彀了．恰好彀了〕
Juki 1. 弓をしぼること淺い．充分に弓をしぼらない〔8.步射二：弓拉的淺〕 2. 孔をつめよ．缺けた所を塞げ〔26.塞決：墊〕數に滿たせ〔彙：令補滿數〕
Jukibumbi 孔を塞がせる．缺けた所をつめさせる〔26.塞決：使墊補〕數を補ひ滿たさせる〔彙：使補滿數兒〕
Jukidun しやこ〔30.雀五：鷓鴣〕
Jukimbi 孔を塞ぐ．缺けた所をつめる〔26.塞決：墊補〕缺けた數を補ひ滿す〔彙：欠缺少處補滿數兒〕
Jukjuhu niyehe 鴨の一種．身に黑色の斑紋あり，特によく泳ぐ．形 Cikiri niyehe (玉眼鴨) に似たり〔30.鳥八：黑脚鴨〕
Jukte Emu jukte を見よ
Juktehen 神を安置する屋．神廟．寺廟〔20.壇廟：廟〕
— **i sarasi** 廟事を掌る道官の次の官〔4.臣宰八：知觀〕
Juktelebumbi (肉類等を)小塊小片に切らせる．小きざみにさせる〔28.剝割

一：使切小塊〕

Juktelembi （肉等のものを）小塊小片に切る．小きざみにする〔28.刺割一：切小塊〕

Juktembi 神を祀る．Wecembi に同じ〔6.祭祀一：祀神〕

Jukten 神の祀り．Wecen に同じ〔6.祭祀一：祀〕

— **i boo** 神のほこら〔20.壇廟：祠堂〕

— **i usin** 社寺領の田地〔21.田地：香火地〕

Juktu 體格頑丈な〔11.容貌六：厚實〕

Jukturi 二歳の熊〔31.獸二：兩歳熊〕

Julan 急流にして凍結することなき處〔2.地輿九：急溜不凍處〕

Julangga hehe 夫を亡つて後，終身節を守つた女〔3.封表二：節婦〕

Julefun その故に．その爲に（祈禱の際に用ふる言葉にして，terei jalin といふに同じ）〔12.分給：爲替〕

Julen 古事を節つけて語る詞．〔13.戲要：古詞〕

— **arambi** むかしごとを節廻し巧に語る．Tongsirambi に同じ〔13.戲要：說書〕

Julergi 1. 前方．前部〔2.地輿十四：前邊〕前．昔．以前〔彙：前後之前〕2. 南．南方〔2.地輿十三：南〕

— **bithei boo** 天子御覽の書を備置してある房〔20.部院二：南書房〕

— **fisembuhe boo** 家の前方に營に合はせてひろげ建てた所．つき出しの棟〔20.壇廟：抱廈〕

— **ice calu** 戶部の錢糧を收貯する倉．北京にあり〔20.部院十二：南新倉〕

— **juwere jekui kunggeri** 江西江南地方の運糧事務を掌る役所．戶部雲南司に屬す〔補2.衙署二：南漕科〕

— **kūwaran i calu** 盛京にあり，戶部の糧米を收貯する倉〔補2.衙署八：南館倉〕

— **nahan** 南側の溫突〔彙：南炕〕

Juleri Julergi に同じ．前．前方〔2.地輿十四：前〕

— **yarhūdan** 詹事府の經籍の事を掌り辨理する官〔4.臣宰四：洗馬〕

Julesi 前方に．前に向つて〔2.地輿十四：往前〕

— **bumbi** Metembi に同じ〔6.祭祀二：還願〕

Julge 古へ．古代の〔2.時令二：古〕

— **te i nirugan bithe be isamjiha šangga i bithe** 書名〔續2.書：古今圖書集成〕

Julgei jalan 〔彙：古代．上古世〕

— **ulasi** 古き謂れつきのもの〔25.新舊：古蹟〕

Julgen sain （遠路を行き，或ひは幾日も狩して）首尾の好い．上首尾にいつた〔14.行走一：幸頭好〕

Julgume 婦人用の短靴〔24.靴襪：矮靿女靴〕

Julhū 手綱〔9.鞍轡二：扯手〕

Julhūmbi 鉋屑，毛皮，毛髪等を以て矢柄を溫め擦する〔9.製造軍器三：拂熱箭桿〕

Julibuhabi 顔面が腫れ上つた〔16.腫脹：面目腫〕

Juliyambi 1.（硬いもの，嚙み切れないものなどを）吐き出す〔27.飲食二：吐難吃物〕2. 果物の核を取り去る〔28.果品四：去核〕

Julkun のどぼとけの下邊の凹んだ處〔10.人身三：嗓窩〕馬斎の胸の上邊の處〔31.馬匹肢體一：嗓窩〕

Julungga 善に從ひ中庸を守る人．溫好にして常持ある人〔11.厚重一：安常人〕柔和なる（馬）〔31.馬匹三：馬柔和〕

Jumalambi 槍又等の石突き，穗先等を目釘でとめる．目釘をする〔9.製造軍器三：鑽上釘橫釘〕

Juman 竈の焚口の上の平らな部分〔21.室家三：竈幫〕

Jumangga ilha 奇花の名．あまなの花に似て色は藍〔補3.異花二：靑囊花〕

Jumanggi 小さな袋．巾着．Sumala（半大口袋）より更に小さいもの〔25.器用七：錦囊〕

Jumara 鼠の一種．普通の鼠に似たれど色黃，尾平たくして稍々毛深し〔31.

獸七：豆鼠〕

Jumbali 即座に．即刻（去つた．進んだ）〔15.去來：竟入〕

Jumpi Jungke に同じ〔彙：牙關緊之緊即 Weihe jumpi 也．與 Jungke 同〕

Jun かまど〔21.室家三：竈門〕木の組織〔彙：樹木之肉料〕

— **ejen** 竈の神〔19.神：竈君〕

— **i bilha** 竈の烟出し口〔21.室家三：竈喉〕

— **i ejen** Jun ejen に同じ〔彙：竈神〕

— **i nuhaliyan** 竈の中，口近くのところ〔21.室家三：竈坑〕

— **i šenggin** 竈の焚き口のところ，前部に突き出た部分〔21.室家三：竈臉〕

— **tonggo** 練り糸を撚り合はせた太糸〔23.絨棉：珠兒線〕

Junara Jukten（鷓鴣）の別名〔補4.雀五：懷南〕

Jung Jungken に同じ〔彙：鐘磬之鐘．樂器乃八音之一即金之鐘〕

— **jeng diyan i nomun hūdara ba** 中正殿の中の喇嘛僧が讀經する處〔20.部院八：中正殿念經處〕

Junggala 竈の中，火を燃やす處〔21.室家三：竈堂〕

Jungge suje 瓦磚の花紋を段々に織り出した緞〔23.布帛二：通海緞〕

— **suri** 瓦磚の花紋を段々に織り出した紬〔23.布帛三：通海紬〕

Junggebumbi 家の物品を密かに他處に運び出す〔12.取送：使抵盜〕

Junggembi 家の物品を密かに他處に運び出させる〔12.取送：抵盜〕

Junggidei kiyoo 皇貴妃乘用の轎．十六人で擔ぐ〔6.鹵簿器用五：翟輿〕

Junggila gasha 七面鳥の別名〔補4.鳥五：錦襲雞〕

Junggin 錦．錦織り〔23.布帛二：錦〕

— **abuha ilha** ぜにあふひ〔29.花五：錦葵花〕

— **fu** 盛京省所屬の府〔續2.地輿：錦州府〕

— **hiyan** 盛京省所屬の縣〔續2.地輿：錦縣〕

— **jeo** 盛京省所屬の州〔續2.地輿：錦州〕

Jungginahabi 思案に暮れ額に皺よせた〔13.愁悶：感額〕

Junggingge hoošan 擦連紙（Holbonggo hoošan）の上に花模様をすき出したもの〔7.文學什物一：錦紙〕

Junggiri coko きんけい〔30.鳥六：錦雞〕

Junggisun Garunggū（鸘）の別名〔補4.鳥一：雞趣〕

— **coko** 七面鳥の別名〔補4.鳥五：錦帶功曹〕

— **ilha** はこねうつぎ〔補3.異花二：錦帶花〕

Junggitu 雉（Ulhūma）の古稱〔補4.鳥六：竪雞〕

Junggiyang ni cifun be kadalara yamun 朝鮮國との中江貿易稅務を監督する役所．盛京戶部に屬す〔20.部院九：中江稅務監督衙門〕

Junggūhe はつかどりの別名〔補4.鳥八：多花子〕

Jungke 齒をぐツと食ひしばつた〔16.疼痛三：牙關緊了〕

Jungken 樂器の名．かね．つりがね〔7.樂器一：鐘〕

— **mucihiyangga fukjingga hergen** 禹帝鐘鼎の形に倣つて作る處の篆書體〔補1.書三：鐘鼎篆〕

Jungšun 祭祀の時豚の耳に灌ぐ酒，水等〔6.祭祀二：灌猪耳的酒水〕

Junta 獸の通つた路〔2.地輿五：獸徑〕

Jura 出發せよ〔彙：令人起行〕

Juraka 出發した〔彙：起行了．起身了〕

Jurambi 出立する．出發する〔15.去來：起行〕

Jurambumbi 出立させる．出發させる〔15.去來：使起行〕

Juran 出發點．出立所〔15.去來：起行處〕

Jurcebumbi 違背させる．悖らせる〔16.叛逆：使違〕

Jurcembi 違背する．悖る〔16.叛逆：違悖〕

Jurcen 違背．違悖〔16.叛逆：違〕

Jurcenjeme 互に違背し．互に悖り

〔彙：交悖〕
Jurcerakū 違背しない．悖らない〔11.孝養：不違悖〕
Jurgalame 筋を成し．條を作り〔彙：成行．成道子．拉成條子．做條子．打盞子．與 Jurgan goci 同〕
Jurgan 1. 書の行〔7.書八：行〕筋．〔彙：竟直一條之條〕2. 義．義理．節義〔11.仁義：義〕3. 中央の事務を掌る大役所〔20.部院一：部院〕
— **be tob obure tanggin** 國子監西廊第二の堂名〔補2.衙署六：正義堂〕
— **jorimbi** 指麾する．采配を振る〔8.征伐三：指麾〕
— **jurgan** 一筋一筋．一條一條〔彙：一行行．一道道．一條條〕
— **singgeri** 義鼠．鼠の一種．尾短し，行くときは三四匹互に尾を咬へ合つて行く，人この狀を見て吉としかく名付く〔31.獸七：義鼠〕
— **tondo** まつしぐらに．眞一文字に（馬が驅ける）〔8.騎射：邊子直〕
Jurgangga 節義ある（者）〔11.仁義：有義氣的〕
— **gasha** 雁の別名〔補4.鳥三：義禽〕
— **haha** 許婚の妻を亡つてより終身娶らざる男〔3.封表二：義夫〕
— **inenggi** 支，干を生ずるの日〔補1.時令二：義日〕
— **jeo** 盛京省屬の州名〔續2.地輿：義州〕
— **saisa** 義に從つて動く士〔3.封表二：義士〕
— **tacikū** 束修を取らずして教授する學校〔20.部院十二：義學〕
— **yabun** 數代一處に生活したる家の人を讃稱する語〔3.封表二：義行〕
Jurgantu 獸名．生物を食はず，生草を踐まず，白虎に似て，黃斑あり，尾長くして身長に齊し〔31.獸一：騶虞〕
Jurgatu gasha Ala ulhūma（原鳥）の別名〔補4.鳥六：義鳥〕
Jurgimbi （大木を砍り倒すのに）兩側を砍り，砍つたあとに楔を打ち込んでおいて砍り倒す〔26.截砍：架楔劈木〕
Jurguntu cecike 鳥名．嘴黑くして翅に花紋あり，尾黑くして兩翎純白，喜鵲に似たり〔30.雀三：雙喜〕
Jurhu 各色の模樣ある葛布〔23.布帛五：花葛布〕
— **fungku** 藍白混織の手巾〔24.巾帶：花布手巾〕
— **suri** 軟き蔴の如き花模樣のある紬〔23.布帛三：溫紬〕
Jurhuju bira 盛京承德縣を流れる河の名〔補1.地輿一：句麗河〕
— **giyamun** 地名．開城の一名〔續2.地輿：瓦流河站卽開城〕
Jurhun 長さの單位．寸〔25.量度：寸〕
Jurjun 雙六〔19.戲具一：雙陸〕
— **cecike** 杜鵑の別名〔補4.雀五：蒐周〕
Jursan gio 二歲の麅〔31.獸三：二歲麅〕
Jursu 二重の．二層の．重ね合せた〔25.雙單：雙層〕
— **etuku** 袷（ぎ）〔24.衣服二：袷衣〕
— **mulu moo** 船の龍骨に重ねつけた木〔26.船三：加樑〕
— **oho** 妊娠した〔彙：有孕了．你身有孕子卽 Sini beye jursu oho 也〕
— **oyo** 蒙古包の屋根に被せる白布，藍色の布で緣取りしたもの〔24.氈屋帳房：雲子布罩〕
— **sijigiyan** 袷になつた袍（ぎ）〔彙：夾袍子〕
Jursulebumbi 重ね合はさす．二重にさせる〔25.雙單：使重着〕
Jursulembi 重ね合はす．二重にする〔25.雙單：重着〕
Jurturu Jurju（幷封）の別名〔補4.異獸四：徼封〕
Juru 1. 對．一對〔25.雙單：雙〕2. 易の陰爻〔7.書四：耦〕
— **biya** 偶數月〔2.時令五：雙月〕
— **gargan** 雙と單．偶數と奇數〔彙：雙單〕
— **gisun** 對句．對語〔7.書三：對子〕
— **gisun i dengjan** 萬壽燈（正月宮中に燈す燈籠）を燈す數日前，萬壽燈の臺に吊す聯〔23.烟火一：燈聯〕
— **holbon** 對．對の．たゞ Juru は又

Holbon といふに同じ．共に對の意〔彙：雙雙．對對．雙連〕

Juru kotoli jahūdai 戰船の名．Amcangga jahūdai (趕繪船) よりは少し平たく，二枚の帆を具へてゐる〔26.船一：雙篷舶船〕

— **muduringga suwayan šun dalikū** 二匹の龍を刺繍せる日除け扇〔6.鹵簿器用一：黃雙龍扇〕

— **niyaman** 兩親．父母〔彙：雙親乃父母也〕

— **sirha** Juru usiha に同じ〔彙：太子帝星兩星乃對勾陳在七星之間〕

— **songgiha fitheku beri** 二個の彈條を具へた石弓〔9.軍器三：雙機弩〕

— **usiha** 太子星と帝星の二つの星〔1.天文二：太子帝星總名〕

Jurucilen 四六文．四六駢體文〔7.書三：四六〕

Juruju 奇獸の名．巫咸山に出づ，豚に似，前後に首あり，善く毒草を食ふ〔補4.異獸四：幷封〕

Juruken 一對になつた．雙びになつた〔25.雙單：成雙〕

Jurulebumbi 一對にさせる〔25.雙單：使雙着〕

Jurulembi 對にする．揃ひにする〔25.雙單：雙着〕

Jurumbi 食つたものを受けつけない．嘔く．もどす〔16.疾病二：嘔〕

Jurume ilimbi (走る馬をとめたとき) 馬が頭を低く壓しつける樣にして立止る〔31.馬四馳走二：壓轡站住〕

Jurun ねずみやいたちの穴〔2.地輿五：鼠洞〕

Jurungge gasha 鴛鴦の別名〔補4.鳥七：西鳥〕

Jurutu alin 盛京海城縣所在の山〔補1.地輿一：南雙山〕

Juse Jui の複數形〔10.人倫二：衆子〕

— **bayan** 子供が多い．子福者の〔彙：兒子衆〕

— **deote** 子弟達〔彙：子弟．弟子〕

— **jira** 子供を生むこと頻繁な．毎年子を生む〔彙：婦人每年生子甚稠密不間隔〕

— **omosi** 子孫共．子等孫等〔彙：子孫們〕

Jusei halbulaha 誘拐し來たつた子女を隱匿する窟〔續2.地輿：窩係誘拐女子之窟〕

Juseki 小供じみた．子供つぽい．稚氣〔10.老少二：孩氣〕

Jusetu moo 樹名．瓊州の山谷に生ず，幹端に百餘の小花群生し，葉は柿の葉に似たり〔補3.樹木一：實子樹〕

Jushe 瓜の蔕蔓(茎)〔28.果品四：瓜藤〕

Justalabumbi 細い筋にさせる．一筋一筋にさせる〔28.剝割二：使刺條子〕

Justalambi 一筋一筋にする．細い筋にする〔28.剝割二：刺條子〕

Justan 細長く切つた紙片〔7.文學什物一：一條紙〕凡て細長いもの〔25.雙單：條子〕

— **i fempi** 年月日を記入して封緘に用ひる細長い紙片〔5.事務三：封條〕

Justangga soro なつめの一種．〔續.果品：金絲棗〕

Jusukū 鉛を扁平にし紙に線を引くに用ひるもの〔7.文學什物二：鉛餅〕

Jusubumbi 紙に罫線を引かせる〔彙：使在紙上劃道子〕

Jusumbi 紙に罫線を引く〔7.書七：打邊子〕

Jušekebi 酸くなつた〔28.滋味：酸了〕

Jušembumbi 酸くする〔彙：使之酸．弄酸〕(菜葉などを) 酸く漬ける〔彙：醃酸菜之醃〕

Jušembi 食後口中に酸液がこみ上げる．口の中が酸くなる〔16.疾病二：作酸〕物が酸くなる〔彙：凡物酸了〕

Jušempe ほほづき〔27.菜殽三：酸醬菜〕

Jušen 滿洲の臣僕．滿洲人の奴僕〔10.人一：滿洲臣僕〕〔彙：與 Jušen halangga niyalma 同〕

— **boo** 切妻の側に出入口のある家〔21.室家四：山墻開門房〕

— **halangga niyalma** Jušen に同じ〔10.人一：滿洲臣僕〕

Jušuci レモン〔補3.異樣果品三：黎檬子〕

Jušuhe 奇果の名. 形梨に似て小, 皮を薬用に供す〔補3.異様果品二:樝〕
Jušuhuken 稍々酸い〔彙:略酸〕
Jušuhun 酸い〔28.滋味:酸〕
— **jofohori** だいだい〔28.果品一:橙子〕
— **muyari** せうし〔補3.異様果品二:榹子〕
Jušuhuri 奇果の名. 味酸きが故にこの名あり〔補3.異様果品三:關桃子〕
Jušuk 奇果の名. 廣南に産す, 大きさ卵の如くにして, 味稍々酸味あり〔補3.異様果品二:都柄子〕
Jušun 高粱を原料にして造つた酢〔27.茶酒四:醋〕
— **muke** 色々の菜や瓜, 飯の汁等を混じて酸くした飲みもの〔27.茶酒:酸水〕
Jušuri うめの實〔28.果品一:烏梅〕
Jušuru 長さの單位. 尺〔25.量度:尺〕
Jušutu ゆすらうめ〔補3.異様果品一:梅桃〕
Jušutun 四川省産の奇果. 蠶垂してなり, 味酸し〔補3.異様果品四:酸林子〕
Jutuhan 樂器の名. 琴に似たれど小さく, 五弦あり, 竹を以て打ち鳴らす〔7.樂器二:筑〕
Jutungga jodon 衣服二着分を一反に織つた葛布〔23.布帛五:雙料葛〕
Juturi cecike Yacin ūn cecike (兒皂) の別名〔補4.雀一:夏鳽〕
Juwa 口を開けよ〔11.容貌四:開口〕
Juwabumbi 口を開かせる〔11.容貌四:使開口〕
Juwajiri orho からすびしやく. ほそくみ〔29.草二:半夏〕
Juwali あをがへる〔32.河魚四:青蛙〕
Juwambi 口を開ける〔彙:口張開〕
Juwampi 口を開けて. 口を開けた〔11.容貌四:開着口〕
Juwan 數詞. 十〔7.數目一:十〕
— **biya** 十月. 神無月〔彙:十月〕
— **booi da** 十戸の長. 村内十戸毎に設けたる長〔10.人二:牌頭〕
— **cikten** 〔彙:十干〕
— **i da** 護軍(Bayara)の長〔4.臣宰九:護軍校〕
— **jakūn simnere boo** 鄉試, 會試の同考官十八人が詰めて試卷を査閲する處〔20.部院十:十八房〕
— **juwe gargan** 〔彙:十二支〕
— **juwe tuhebuku i mahatu** 前後に十二の旒を垂れたる古冕〔補1.古冠冕一:十二旒冕〕
— **tumen** 十萬〔7.數目二:十萬〕
Juwanci 十番目. 第十. 第十番〔彙:第十〕
Juwangduwan 〔彙:與 Jongdon 同. 粧緞〕
Juwangga 口を開いた〔彙:嘴張着〕
Juwanggeri 十度. 十回〔7.數目一:十次〕
Juwanka 口を開いた〔11.容貌四:張開口〕
Juwanta 十宛. 十毎〔7.數目一:各十〕
Juwari 夏〔2.時令五:夏〕
— **be bodoro hafan** 夏期の日月の交食七政を算觀する官. 欽天監屬〔4.臣宰八:夏官正〕
— **dosimbi** 夏立つ. 夏に入る〔彙:立夏〕
— **gūldargan** Gūldargan (越燕) の別名〔補4.雀三:夏侯〕
— **ten** 季節の名〔彙:夏至〕
Juwarikten 夏に執行する祖先の祭り〔6.祭祀一:禘〕
Juwaringga junggidei 山雉の夏期毛色鮮やかなるもの〔30.鳥七:夏翟〕
Juwata Juwanta に同じ〔彙:各十. 毎十〕
Juwe 數詞. 二〔7.數目一:二〕
— **biya** 二月. 如月〔彙:二月〕
— **dube šolonggo** 兩端の尖つた〔彙:兩尾頭尖. 兩尖頭尖〕
— **irungge mahatun** 古冠の名. 頂に二筋の高みのあるもの〔補1.古冠冕一:二梁冠〕
— **jeyengge suhe** 兩刃の斧〔22.工匠器用一:兩刃斧〕
— **muru** 易に於ける陰と陽〔7.書四:兩儀〕

Juwe nofi 兩人. 二人〔彙：兩個人〕
— **sidende** 兩所の中間に. 兩方の中央で〔彙：兩中處. 兩中間〕
— **ujan** 兩方の端〔彙：兩端. 兩頭〕
— **ujan šolonggo** 兩頭の尖つた〔彙：兩頭尖〕
— **uju buhū** Juruju (幷封) の別名〔補4.異獸四：雙頭鹿〕
— **urhun** 五分の倍. 一寸〔彙：兩個五分卽一寸〕
Juwebumbi 運送させる. 運搬させる〔12.取送：使運送〕
Juweci 二番. 二番目. 第二の〔彙：第二〕
Juwedeme iladame ああか, かうかと. あれやこれやと (心迷ふて決せぬ)〔17.猜疑：三心二意〕
— **iladame gūnimbi** あれやこれやと思ひ迷ふ〔彙：二心三意〕
Juwederakū 義理に從つて行ひ異心がない. 二心を持たぬ〔11.仁義：不貳心〕
Juwembi 運送する. 運搬する〔12.取送：運送〕
Juwen bumbi 貸し與へる. 貸す〔彙：借與. 借給〕
— **gaimbi** 借金する. 借財する〔13.當借：借債〕
— **sindambi** 金を貸す. 投資する〔13.當借：放債〕
— **usen** 負債. 借財〔13.當借：債負〕〔彙：與 Bekdun gakdun 同〕
Juwenggeri 二度. 二回〔7.數目一：二次〕
Juwenusi 閘門で運糧米を積みかへる人夫〔10.人二：水脚役〕
Juwere jekui baita be tefi icihiyara hafan 諸省より通州に運送する米穀の收納事務を司る官〔4.臣宰十：坐糧廳〕
— **jekui baita be uheri kadalara amban** 米穀運送の事務を總督する官〔4.臣宰十二：漕運總督〕
— **jekui calu** 河南にあり, 急需散賑の用に供へる米糧を貯へる倉〔補2.衙署八：漕穀倉〕
Juwerge 二絃琴〔7.樂器三：二絃〕
Juwete 二ツ毎. 二ツ宛〔7.數目一：各二〕
Juyedun Jukidun (しやこ) の別名〔補4.雀五：逐隱〕
Juyehen yali 動物の背椎骨の內側, 大血管の兩側にある肉〔27.飯肉一：裏脊肉〕
Juyekebi 病氣重つて齒を開かない. 噛み合せて開かない〔16.疼痛三：牙關張不開〕
Juyen 袍(褂)の下に着る綿入れの短衣〔24.衣服一：襖〕

Jy

Jy cuwang 痔疾〔彙：痔瘡〕
— **gene** Nikan ulhūma に同じ〔彙：雉雞與野雞類棲于深茂林尾甚長. 與 Nikan ulhūma 同〕
— **jeo** 官名. Jeo i saraci に同じ〔彙：知州〕
Jyfu 官名. Fu i saraci に同じ〔彙：知府〕
Jyhiyan 官名. Hiyan i saraci に同じ〔彙：知縣〕
Jyli geren golo〔彙：直隸各省〕
— **goloi falga** 直隸, 山西, 雲南, 浙江四省の兵務, 兵舍査閲の事務を辨理する役所. 吏兵部にあり〔補2.衙署三：直隸甲〕
Jytu 五聲の一：宮商角徵羽の徵〔7.樂二：徵〕

K

Ka 遮ぎれ．蔽遮せよ〔26.塞決：擱當〕圍め〔彙：合圍〕

Kab がぶりと（犬などが咬みつく）〔31.走獸動息：咬住〕

— **kib** がぶがぶ．がぶりがぶり（衆犬の咬む貌）〔31.走獸動息：衆犬撕咬〕

Kaba 凡て二つ合着したもの〔25.雙單：並帶〕

— **bojiri ilha** 菊花の一種．花叢生し朶は僧帽形をなす〔29.花五：雙鬢菊花〕

— **jui** 雙生兒〔彙：雙生子．雙栖子〕

Kabari 1. 犬の一種．脚短かくして身小さし〔31.諸畜二：哈叭狗〕2. 馬騾驢等の鼻端に生ずる軟骨様のもの〔32.馬畜殘疾一：張牙〕

— **tuwambi** 魚が水中にて泡を吹く〔32.鱗甲肢體：魚發泡〕

Kabkašambi 長上の者に向つて口答へする〔17.輕狂：強嘴〕

Kabsitambi 相手に構はずに喋り口答へする〔14.言論二：莽撞〕

Kabumbi 遮り止めさせる．遮らせる．遮蔽させる〔26.塞決：使攔擋〕圍ませる〔彙：使圍〕圍まれる〔彙：被圍〕

Kacang seme かちかちと．こちこちと（食物の硬い貌）〔28.軟硬：挺硬〕

— **seme mangga** （食物が）かちかちに堅い．こちこちと堅い〔彙：挺硬〕

Kacar kicir じやりじやり（小石を踏み碎く音）〔14.聲響二：踏碎石聲〕じやりッ（食物中の砂石を噛んだ音）〔彙：吃飲等物咬着砂石之聲〕

— **seme** ちんと（布又は糸などの強靭にして骨立つ貌）〔23.布帛六：骨立〕〔28.軟硬：絲線生硬〕こちこちと（飯が半熟で硬い貌）〔28.生熟：飯生硬〕

Kaciki 鹿麅の皮で作つた皮襖（Jibca）の破れたもの〔24.衣服二：鹿麅破裘〕

Kacilan 射的の練習に使用する箭〔9.軍器四：把箭〕

Kadalabumbi 管轄させる．取り締らせる．治めさせる．治められる．管轄される〔15.責備：使管轄〕

Kadalambi 管轄する．取り締る．治める〔15.責備：管轄〕

Kadalame bošoro ba 吏部に屬し，各清吏司分辦の事件に對し各期限に依り督催することを掌る役所〔補2.衙署六：督催處〕

— **simnere hafan** 文武官の考試を總監する官〔4.臣宰十：監臨官〕

Kadalan 關防印．名印より窄く公事に執照として押捺するもの〔3.論旨：關防〕

Kadarakū 勇往邁進する者〔12.勇健：奮勇〕

Kadurambi 人に讓らず言ひ爭ふ〔5.爭鬪二：爭強〕

Kaduršambi 只管言ひ爭ふ．只管言ひ拒む〔5.爭鬪二：只是爭強〕

Kafur kifur てきぱきと．さつさと（擧止輕快敏捷なる貌）〔12.催逼：敏捷樣〕さくさくと（氷雪の上を歩く音）〔14.聲響二：踏氷雪聲〕

— **seme** 1. きつぱりと．てきはきと（行事爽快にして逡巡せざる貌）〔12.勇健：決斷〕2. さくさくと．（軟い物を噛むときの小音）（薄氷凍雪の上を歩む音）〔28.軟硬：酥脆〕〔彙：薄氷凍雪上走的响聲〕

— **seme mokcoho** さくりと折れた〔彙：凡物折斷了〕

— **seme yabumbi** きつぱりと決行する．てきぱきと事を行ふ〔彙：行事很爽快不疑惑行之〕

Kaha 遮蔽した．圍繞した〔彙：攔擋住了．圍住了〕

Kahakū 圍繞しなかつた．遮蔽しなかつた〔彙：未曾圍．未曾攔擋〕

Kai …した．…したのである．確かに…した．…したぞ．（語尾に附して動作の已に完了せることの確かなるを表はす語）〔18.散語四：業已完口氣〕

Kaica 1. 樺の皮で作つた容器．底の方四角で口が圓い〔25.器用一：樺皮篓〕

2. 吶喊せよ〔彙：令叫喊〕
Kaicabumbi 喊聲を揚げさせる．吶喊させる〔8.征伐三：使吶喊〕
Kaicambi 喊聲をあげる．吶喊する〔8.征伐三：吶喊〕
Kaicame injembi 大聲をあげて笑ふ〔13.嬉笑：大聲笑〕
Kaican 春冬の頃，麞を狩るに，日を背にし風上の方に立ち，衆人一齊に喊聲をあげて馬上より箭を放ち驅り立つること〔9.畋獵二：上風吶喊射麞〕
Kaicandumbi Kaicanumbi 一齊に喊聲をあげる．一齊に吶喊する〔8.征伐三：一齊吶喊〕
Kaiciri 楊子や耳掻きなどを入れ腰にさげる筒〔24.巾帶：牙簽筒〕
Kaidu 只一騎で．單騎で〔32.騎駝一：單騎〕
Kaikada 斜視の．やぶにらみの〔11.容貌三：眼斜視〕
Kaikarafi tuwambi 横目で看る．〔彙：斜着眼看〕
Kaikarambi 1. 歪む．斜めになる〔21.倒攴：歪斜〕2. 横目で看る〔彙：斜着眼〕
Kaikari 玉の一種．純白にして珠數に作るもの〔彙：硨磲〕
Kailan 大龜〔32.河魚四：龜〕
Kailari orho 藥草の名．莖四角，花紫，葉はもぐさの葉に似たり，婦人病に卓效あり〔29.草三：益母草〕
Kailun 騧と尾との黒い馬〔31.馬匹毛片：海騮〕
— **niongniyaha** 雁の一種．項の下が白い〔30.鳥二：斂雁〕
Kaipi 針や糸を入れる柳編みの小筥．裁縫箱〔25.器用八：針線笸籮〕
Kajambi 噛み切る〔27.飲食二：齕〕
Kaka 小供の糞〔10.人身八：小兒屎〕
— **faka** Kakari fakari に同じ〔13.嬉笑：衆人大笑〕
— **kiki** はっはっ．ふっふっ（衆人の嘻笑する聲）〔13.嘻笑：衆人嘻笑〕
Kakabumbi 小供に糞をさせる〔彙：使把小孩子糞〕
Kakambi 小供が糞をする〔10.人身八：小兒撒屎〕
Kakari fakari わはっはっ（衆人の大笑する聲）〔13.嘻笑：衆人大笑〕
Kaki 1. 性强猛の人．激烈な人〔17.暴虐：性緊〕2. 酒の强烈な〔27.茶酒：酒很醲〕3. 衣服の狭苦しい．窮屈な〔24.衣服四：衣服窄狹〕
Kakiri とうがらし〔27.菜蔬四：秦椒〕
Kakitu 緞紬或は皮毛にて身に緊着する様作つた短かい女胴着〔24.衣服一：緊身〕
Kaksaka かささぎの別名〔補4.鳥八：乾鵲〕
Kaksimbi 痰をはく〔10.人身八：咳痰〕血を吐く．咳血する〔彙：咳血之咳〕ひつかゝつたものを撞き出す〔彙：凡絆住了的物往外撞出去〕
Kakū 河の兩岸に石煉瓦を積み中を板にて遮ぎり水をせくもの．閘門〔19.街道：閘〕
— **undehen** 閘門の水をせく板．閘門の戸〔19.街道：閘板〕
Kakūng kikūng がくんがくん．ぎしぎし（重車重荷のきしむ音）〔14.聲響四：重車重擔聲〕
— **seme** ぎりぎりと（恨んで齒を食ひしばる貌）〔13.怨恨：恨的咬牙〕孜ゝと．うんうんと（力を盡して物を造る貌）〔26.營造：盡力做〕
Kakūr ぎりぎり．がりがり（齒ぎしりする音）〔14.聲響二：齩牙聲〕
— **kikūr** きりきり．ぎりぎり（車の輪止めを絞める音）〔14.聲響四：攪絞桿聲〕
Kalang からん（銅鐵の類が物にあたつて發する音）〔14.聲響三：銅鐵碰物聲〕
— **kiling** がらがら．からんからん（銅，鐵，玉等の物が觸れ合つて發する音）〔14.聲響三：銅鐵相碰聲〕
Kalar kalar がらがら．からから（銅鐵等のものが動くとき發する音）〔14.聲響三：銅鐵亂碰聲〕
— **kilir** からから（巫人の腰に帶ぶる鈴鈴の鳴る音）〔14.聲響三：鈴鉈腰鈴聲〕
— **seme** 和氣藹々として〔11.親和：和藹樣〕

Kalbikū 鏃を小さく柄を細く作りて遠方を射るに用ひる箭〔9.軍器五：快箭〕
Kalbimbi Kalbikū (快箭) を射る．遠箭を放つ〔8.歩射一：挑遠〕
Kalbin 下腹．脇肋〔10.人身四：肚嚢〕
— **tucike** 下腹の垂れた〔11.容貌六：腹大下垂〕
Kalcuhūn 額のひろい〔10.人身一：寛頭〕
Kalcun sain よく耐えて疲れ倦む所を知らない．精力的な．根氣のよい〔12.勇健：精神好〕
Kalcunggi 能く道義を順行ずる人〔11.厚重一：勇鋭〕鋭氣壯んにして疲れ倦むことを知らざる人．精力旺盛な人〔12.勇健：精壯〕
Kalfimbi Kalbimbi に同じ〔8.歩射一：挑遠〕
Kalfin 競射の箭の到達する距離〔8.歩射一：一挑箭〕
Kalfini ひらめ〔32.海魚二：比目魚〕
— **modan ilha** けまんさうの花〔29.花二：魚兒牡丹〕
Kalfinju Kalfintu の別名〔補4.異獣五：屏蓬〕
Kalfintu 南海の外に産する双頭の奇獣〔補4.異獣五：踢踢〕
Kalimbi (鷹などが) 高く舞ひ上る〔30.飛禽動息二：鷹飄去〕
Kalimu Boo nimaha に同じ〔32.海魚一：房魚〕
Kalja 1. 前額の禿げ上がつた．額から頭の頂きまで毛のない〔10.人身一：脱頂〕2. 動物の額に一道白毛のはいつたもの，或は又一道毛なきもの〔31.諸畜二：破臉〕馬の額に一道の白毛あるもの〔31.馬匹毛片：線臉〕
— **sele** 馬勒の鼻にかけわたす部分にある横長の金具〔9.鞍轡二：鼻花〕
Kaljakū weijun Weijun (鷸) の別名〔補4.鳥二：皂鞍〕
Kaljangga ijifun niyehe Jangsimu niyehe に似た鴛鴦〔補4.鳥七：鴛鴦鴨〕
Kalju Suntaha (雪滑り靴．スキー) で行走するとき手に持つ杖．先が杓子状になつた杖〔25.器用二：穿木輔的拄棍〕
Kalka 戰陣に於ける護身用の楯．藤づる製の楯〔9.軍器六：籐牌〕
— **gida** 楯と矛．楯と槍〔彙：干戈〕
Kalkangga cooha 楯を持つた兵〔8.兵：籐牌兵〕
— **loho** 楯を持つたとき片手で使用する小刀〔9.軍器六：牌刀〕
Kaltara 1. 胸白く，眼口の周邊薄青色の駿馬〔31.馬匹毛片：粉嘴裹騮〕2. 鳥の毛滑らかな〔彙：鳥雀等物毛色滑溜之滑〕
— **niyehe** 野鴨の一種．毛滑澤なるが故に此名あり〔30.鳥七：麻鴨〕
Kaltarabumbi 滑らされる〔彙：被滑〕
Kaltarambi 滑り轉ぶ．滑る〔2.時令九：滑跌〕
Kaltarashūn 凍り或は泥濘のため坂の滑る處〔2.時令九：偏坡滑處〕
Kaltashūn 大いに仲悪い．相合はない．犬猿の間の〔15.憎嫌二：扭別〕
Kaltu multu 將に及ばんとして及ばない．今少しの處で．やつとどうにか〔15.拿放：將及不及〕
Kalu mulu 草率に．上の空で．いゝ加減の〔17.怠慢迂疏：草率〕
Kalumime 射た箭が獣の皮だけかすめた．肉にまでは突き刺さらなかつた〔9.畋獵三：箭透皮〕
Kambi 圍む．圍み困しめる．包圍する〔8.征伐三：圍困〕遮る．遮蔽する〔26.塞決：攔擋着〕
Kambuljambi 土地が濕り軟かになる．濕つて顫動する〔2.地輿二：地發軟〕
Kamcibumbi 一處に合はさせる．合併させる．兼ねさせる〔21.開閉：使合〕
Kamcimbi 一處に合ふ．兼ねる〔21.開閉：合〕
Kamcin 合併．併合．兼併〔25.雙單：合併〕
Kame abalambi Hoihalambi に同じ〔9.畋獵一：冬狩〕
— **gisurembi** 1. 人の話に横から口出

しする．人の話を折る．2. 衆人にて一人を窮詰する〔14.言論二：截話〕

Kamkū Genggiyen (石青素緞) に似て紅色の緞〔23.布帛二：帕緞〕

Kamni 山の隘口〔19.城廓：隘口〕

Kamnimbi 合はせる．縫ひ合はせる．閉ぢる〔21.開閉：合縫〕

Kamnime tabumbi 合はせる．鈕をかける〔彙：合攏絆上如衣服扣上鈕子合攏絆上也〕

Kamtu 甲の内側に被る帽子〔9.軍器一：盔纓帽〕毛氈製の帽子〔24.冠帽一：毡帽〕

Kamtun 古昔髪を結包した巾〔補1.古冠冕三：幘〕

Kanagan 口實．云ひ逃げ．借口〔17.懶惰：推故〕

Kanda Selke 或ひは Ulhun に同じ〔32.牛：牛項下蒸皮〕

Kandahan 鹿の類．身體大にして，背に駱駝の如きこぶあり，胸肉豐垂し頭短かく角扁たし．四不像(ﾋﾝ)〔31.獸三：堆達漢〕

— **tohoma** Kandahan の皮で作つた馬の傍垂(ﾀﾚ)〔彙：鹿腿韉〕

Kandarhan 馬の下頸又は胸にまはした皮紐につける紅房〔9.鞍轡二：繋胸〕

Kandatu 奇獸の名．赤い尾の Hontoho (那父)〔補4.異獸二：領胡〕

Kang seme わいわいと（腹藏するところなく高聲に語る貌）〔14.言論四：高聲狀〕

Kanggarambi 脚を滑らしよろめく．滑つてよろよろとする〔2.時令九：脚滑踉蹌〕

Kanggarame 矢が歪の皮を掠め（飛ぶ）〔9.畋獵三：射箭皮毛〕

Kanggaršambi 續け樣に滑り轉ぶ．大いに滑る〔2.時令九：連連跐滑〕

Kanggasikū 驕りたかぶる人．人を見下す人．人を人とも思はぬ人〔17.驕矜：充能的人〕

Kanggasitambi 物知り顔して大いに出しやばる．のみこみ顔して事ごとに手出しする〔17.驕矜：充能〕

Kanggili 細くひきしまつた人．身綺羅な人〔11.容貌二：細條〕

Kanggir からん．がちやん（銅器磁器等の墜落した音）〔14.聲響三：銅磁墜落聲〕

— **kinggir** からんからん（鈴鐸の響く音）〔14.聲響三：鈴鐸聲〕

— **seme** からんと．がちやんと〔彙：銅磁等器落地响聲〕

Kanggiri 櫃箱の鍵穴の下の邊りに取りつけた雲形の銅金具〔25.器用一：櫃門銅挑牌〕

— **ilha** 奇花の名．叢生四瓣の花にして對を成して開く，風なくして顫ふ〔補3.異花一：金步搖花〕

Kanggū niyehe 野鴨の一種．嘴尖り魚肉を食ふ，Borjin niyehe (蒲鴨) より些か大きい〔30.鳥八：魚鴨〕

Kanggūr 1. からんがらん（墻壁の倒れる音）〔14.聲響四：墻倒聲〕2. 人のことなど構はずに．人のことなど斟酌しないで（人を邪魔する）〔15.侵犯：冒犯〕

— **kinggur** からん．がらがら（墻壁房屋の倒れ崩れる音）〔14.聲響四：墻屋倒塌聲〕

Kangkambi 咽喉が渇く〔13.饑饉：渇〕

Kangnambi 1. 裸馬を驅る 2. 壁に跨り乘る〔14.行走二：攉上去〕

Kangsa 毛を削れ〔24.熟皮革：削〕

Kangsambi 毛皮の毛を削り取る〔24.熟皮革：削〕

Kangsanggi 言矜り，行ひ分に過ぎたる．言行僭越狂妄の〔17.驕矜：抗越〕

Kangsiri 1. 鼻柱の根元（人或は馬などの）〔10.人身二：鼻根〕〔31.馬匹肢體一：馬鼻梁〕2. 轡の兩輪を繋いで馬の鼻の上にかけわたした紐〔彙：轡頭鼻梁上的挿子即 Hadala i kangsiri 也〕

Kangtarakabi (車の後が重くて) 轅(ﾅｶﾞｴ)が上つた〔26.車轎二：轅輕〕

Kangtarambi 馬を繋ぐとき，手綱を鞍轎に結んで首を高くもたげさす〔31.套備馬四：扯手掛在鞍轎吊馬〕

Kangtaršambi 昂然と振舞ふ〔17.驕矜：昂然〕

Kani 同類. 仲間〔彙：合類〕
— **acarakū** 物(又は人)が類を同じうしない. 同類にならない.〔25.同異：不隨合〕
— **akū** 頑固にして人と合はない. 仲間と合はぬ〔18.鈍繆：不隨合〕
Kanin Beihe に同じ. 昆布〔27.菜殺三：海帶菜〕
Kaningga 同類のもの. 類を同うしたもの〔25.同異：隨合〕
Kanirakū 類を同うしない. 合はぬ〔彙：不合〕
Kanjambi Gacuha (背式骨) を立て, Kurku (鉛馬兒), Page (石餅子) を投げて遊ぶ〔19.賭戲：打背式骨〕
Kanjidu Humudo (鵠) の別名〔補4.鳥三：鴻豹〕
Kanjiha ihan 眼がら下の白い牛. 鼻の白い牛〔32.牛：白鼻梁牛〕
— **niongniyaha** 雁の一種. 身小さく細く紅色, 頭に白き肉あり〔30.鳥二：賓鴻〕
Kapahūn 鼻の平べたい. 鼻の低い〔11.容貌四：鼻塌〕地面に平べたくなつた. 地面に平べたく寢轉んだ〔15.睡臥一：就地臥〕扁平な. 扁たい〔彙：凡物壓扁塌. 鴈嘴扁之扁. 身量扁之扁〕
— **deduhebi** 地面に平べたく轉がつた. 地面に平べたくなつて睡つた〔彙：凡物及人身塌粘地睡〕
— **cho** 扁平になつた. 平べたくなつた〔彙：凡物壓扁塌了〕
Kaparabu 扁平にせよ. 壓して平たくせよ〔彙：令人弄扁. 令壓扁〕
Kaparabumbi 扁たく壓し潰される. 扁たくする〔25.孔裂：被壓扁〕
Kaparambi 壓されて扁平になる. 扁たくなる〔25.孔裂：壓扁〕
Kapi 絲箱. 裁縫箱〔彙：有蓋線婆羅木篋等物做的俱有. 無蓋者名 Nionioru〕
Kar seme きつとして. 頑として (殘暴の人をして犯さしめず, 護る貌)〔18.兇惡二：護攜〕
Kara くろうな〔31.馬匹毛片：黑馬〕くろいぬ〔彙：黑狗〕
— **cai** 牛乳を入れない茶. 清茶. 紅茶〔27.茶酒：黑茶〕
— **cecike** Kiongguhe (鸛鵠) の別名〔補4.鳥八：黝鳥〕
— **fara** かんかんに (激怒した貌)〔18.散語四：怒急〕
— **fulan** 青黑い馬〔31.馬匹毛片：鐵青〕
— **nūna** 桃の樹〔彙：取桃皮的桃樹. 此乃蒙古話. 與 Hasuran moo 同〕
— **indahūn** 黑犬〔補4.諸畜一：獚〕
— **keire** 黑色の Keire (騏驎)〔31.馬匹毛片：煙熏騏驎〕
— **kiongguhe** Soboro kiongguhe (沈香色八哥) の別名〔補4.鳥八：蒼鵠〕
— **saksaha** Amargingge saksaha (北喜鵲) の別名〔補4.鳥八：烏鵲〕
— **yarha** 黑色の豹〔31.獸二：黑豹〕
Karaba 互に助け合ふ. 仲間同志護り合ふ〔11.友悌：性好護庇〕群を護る. 一群よく防ぎ合ふ〔30.飛禽動息二：護羣〕
Karabumbi 展望させる. 高處から見渡させる〔12.觀視一：使瞭望〕
Karahan 奇獸の名. 形水牛に似, 毛色は漆黑, 鐵を食ふ, 其糞を打つて兵器とすれば甚だ鋭し〔補4.異獸七：齧鐵〕
Karahi weijun 下身白くして胸黑き鵝〔補4.鳥二：皂雁〕
Karaki 嘴と尾とは黑く, 身體青紅色のからす〔30.鳥九：青鴉〕
Karalja Sahalja (黑鷺) に同じ〔補4.鳥八：烏雞〕
Karaltu Silmen (鷸子) の別名. 能く遠方を見渡し得るが故に此名あり〔補4.鳥四：瞭〕
Karambi 高處から見渡す. 展望する〔9.畋獵一：瞭望〕〔12.觀視一：瞭望〕
Karan 高處から見渡すこと. 展望すること〔9.畋獵一：遠瞭望〕
— **kalja** おほばん〔30.鳥八：骨項〕
Karanambi 高處に行つて展望する. 高處に見渡しに行く〔12.觀視一：去瞭望〕
Karandumbi Karanumbi 各人何れも高處に登つて展望する. 一齊に見渡す〔12.觀視一：一齊瞭望〕

Karangga taktu 物見のやぐら. 望樓〔19. 城廓：哨樓〕
Karanidun 鳥名. 形はやぶさに似たれど身至つて小さく，頭のみ大にして眼球青く，うづら雀などを捕へ食ふ〔30. 鳥四：燥兒〕
Karanjimbi 來て高處から展望する. 展望に來る〔12. 觀視一：來瞭望〕
Karara dengjan 夜間遠方を照す燈〔23. 烟火一：望燈〕
Karasu Suwan (鸛鶴) の別名〔補4. 鳥五：鶴鸛〕
Karcabumbi 衝突させる. 双方衝き當らせる〔15. 遇合：相碰着〕
Karcambi 衝突する. 双方から衝き當る〔15. 遇合：碰〕
Karcame guwembi (蟲が)翅をすり合はせて鳴く〔32. 蟲動：鼓翅鳴〕
Karcandumbi Karcanumbi 各自一齊に衝き當る〔彙：各自齊相撞着〕
Karcin 羽毛に花紋點々たるはいたか〔30. 鳥三：花鷂鷹〕
Kargama Karhama に同じ〔彙：馬騾等牲口後胯. 即五弦骨〕
— **hūwalame niyamniyambi** 馬上身を扭つて後方に居る獸を射る〔9. 畋獵二：扭轉射〕
Kargi 1. 截り揃へよ〔25. 斷折：截〕2. 手で草を摘み取れ. もぎ取れ〔彙：令手採草〕
Kargibumbi 1. 截り揃へさせる〔25. 斷折：使截齊〕2. 草をもぎ取らせる. 摘み取らせる〔彙：使採草. 使摘草〕
Kargimbi 1. 切り揃へる〔25. 斷折：截齊〕2. 手で草をもぎ取る. 摘み取る〔彙：用手採草〕3. 髮剃り落しの刑に處する〔補1. 古刑罰：劓〕
Karhama 馬の尻〔31. 馬四肢體一：馬屁股梁〕
Karka cecike 小鳥の名. Suwayan giyahūn cecike (火不刺) に似て蘆荻の中に棲み杜鵑の雛を養ふ〔30. 雀四：水喳子〕
Karkakū 樂器の名. 形臥虎に似，背に齒あり，樂章終る毎に此の樂器を鳴らす〔7. 樂器一：敔〕
Karkalan Hasuran に同じ〔29. 樹木五：山桃皮〕
Karkambi 1. 舞樂に合はせ，箸を以て fiyoo (篾片) を摋き鳴らす〔7. 樂三：刮篾片〕2. 竹木等を以て物を引摋く〔彙：用竹木棍兒刮物之刮〕
Karmabumbi 保護させる. 世話させる〔12. 助濟：使保護〕
Karmambi 保護する. 世話をする. 助ける〔12. 助濟：保護〕
Karman 保護. 世話. 助濟〔12. 助濟：保護的〕
Karmandumbi Karmanumbi 各自一齊に保護する. 衆人齊しく世話をする〔12. 助濟：一齊保護〕
Karmangga 衛鎭の衛〔20. 部院一：衛〕
Karmani 咒語を黃紙に書き端陽の日に貼るもの. 神符〔19. 神：符〕
Karmatambi 常に保護する. いつも世話をする〔12. 助濟：常保護〕
Karmatu mahatun 古代護衛官の使用した冠〔補1. 古冠冕二：郤非冠〕
Karu 報ひ. 應報〔12. 助濟：報〕
— **bumbi** 應報する. 報ひる〔彙：還報〕
— **gaimbi** 仇をとる. 報ひる〔15. 讐敵：復讐〕
— **temgetu** 官衙の收受せし文書に對し，其文書の收受人，收受年月日等を記入して返す受取證〔5. 事務三：回頭〕
Karula 報ひよ. 報復せよ〔彙：令報答〕
Karulabumbi 報ひさせる. 報復させる〔12. 助濟：使報復〕〔15. 讐敵：使報復〕
Karulambi 報ひる. 報復する〔12. 助濟：報復〕〔15. 讐敵：報復〕
Karulan 應報. 因果應報〔12. 助濟：報應〕
Karun 探りの者. 見張り〔8. 征伐一：哨探〕
— **cooha** 探りの兵. 見張りの兵. 哨兵〔彙：哨兵〕
— **i ba** 見張りの處. 番兵の立つ處〔彙：哨地〕

Karun i cuwan 見張りの船. 監視船〔彙：哨船〕
— **i niyalma** 見張りの人. 番人. 探りの者〔彙：哨探人〕
— **sabumbi** (疱瘡を患ふ前) 疱瘡の芽が見える. 小さな疱瘡が現はれる〔16. 瘡膿二：見苗〕
— **sindambi** 見張りを置く. 探りの者を遣はす〔彙：安哨探〕
Karušambi 力及ばざるも尚屈せずして報復する〔15. 讐敵：還報〕
Kas kis はきはきと. てきぱきと〔12. 催逼：果斷樣〕
— **seme** 1. さつと. しゆつと (箭が的をすれすれに掠る音)〔8. 步射二：箭器擦著聲〕2. さつさと. すつと (快急の貌)〔彙：凡快急〕
Kaskan 何奴ぞ！ 何者か！ 下郎め！ (人を見下して言ふ語)〔16. 咒罵：甚麼行子〕
Kaskanahabi Kaskan に同じ〔16. 咒罵：甚麼行子〕
Kata fata 1. 親密な樣子を形容する語〔11. 親和：相親樣〕2. せかせかと. そそくさと (大いに急ぎ忙てる貌)〔16. 急忙：慌慌張張〕
— **kiti** かたかた. ことこと (木履や靴で硬い所を歩くとき響く音)〔14. 聲響二：踏硬地聲〕
Katabumbi こちこちに乾かす. 堅く乾かす〔18. 乾燥：使風乾〕
Kataha fadu 鳥の名. カタハファドゥ, カタハファドゥと鳴く鳥〔30. 鳥十：灼山鳥〕
— **yali** 乾して堅くした肉〔彙：乾肉〕
Katak がちやり (鎖をかける音)〔14. 聲響三：搭鎖聲〕
— **kitik** かたかた. がたがた (高い處から色々のものが落下する音)〔14. 聲響四：高處墜落諸物聲〕
Katambi かちかちに乾く. 乾いて堅くなる〔18. 乾燥：風乾〕
Katang seme かちかちと. こちこちに. かんかんに (物の甚だ硬い貌)〔28. 軟硬：甚硬〕
Katangga soro 棗を蒸籠にて蒸し干に乾かし干したるもの. 干し棗〔28. 果品二：晒乾棗〕
Katar fatar Kata fata に同じ〔11. 親和：親和樣〕
— **seme** かちかちに. こちこちに. かさかさに (泥などがすつかり乾きあがつた貌)〔18. 乾燥：曝乾〕
Katarabumbi よろよろとして馬を步かせる〔31. 馬匹馳走一：使顚〕
Katarambi 馬がよろよろとして步く〔31. 馬匹馳走一：顚〕
Katun 老ひて尚よく勉める. 强壯な〔10. 老少一：强壯〕堅く忍びよく勉める〔12. 勇健：堅强〕
Katunjambi 耐え難き處を勉め行ふ. 病苦を我慢して努める. 勉强努力する〔12. 勇健：札掙〕〔19. 醫治：札掙〕
Katur kitur かちかち. かちんかちん (氷を噛み碎く音)〔14. 聲響二：嚼氷聲〕
Katuri かに〔32. 河魚四：蜪蟹〕
Ke 1. おや！ あらっ！〔12. 稱奘：驚訝聲〕2. 一刻. 十五分〔彙：時刻之刻乃十五分爲一刻也〕
Keb kab seme Keb seme (1) に同じ〔11. 親和：親近樣〕
— **seme** 1. 親しみ近づく樣を形容する語〔11. 親和：親近樣〕2. ぐつたりと (身體大いに疲勞せる貌)〔15. 疲倦：乏極〕3. すぽりと. すとんと (物の突として落下せる貌)〔21. 倒攴：物忽落下〕
— **seme šadaha** ぐつたりと疲れた〔彙：身子乏了〕
— **seme tuheke** すぽりと落ちた. すとんと落ちた〔彙：凡物跌落了〕
Kebse 些さか餘計に (減り過ぎる)〔25. 增減：很少〕
— **ekiyehe** 些さか餘計に減り過ぎた〔彙：凡物畧畧多減了〕
Kebsimbi 馬の傍垂(ぢ)を足で鳴らして馬を急がす〔32. 騎馳一：腿磕馬鞚〕
Kecer seme こまごまと. ごたごたと (細かなものゝ多い貌)〔25. 大小：物碎小〕
— **seme adahabi** こまごまと補布(ぎ)をあてた. こまごまと縫ひ合はせた

〔24.剪縫二：碎縫〕
Kecu 酷烈の．燥暴の〔17.暴虐：狠〕
Kecudembi 燥暴な振舞ひをする．酷烈なことをする〔17.暴虐：行事狠〕
Kedere 巡邏せよ．巡察せよ〔5.巡邏：邏〕
Kederebumbi 巡邏させる．巡察させる〔5.巡邏：使巡邏〕
Kederembi 巡邏する．巡察する〔5.巡邏：巡邏〕(夜間放牧の處を)巡視する〔32.牧養一：巡視〕
Kedereme baicara hafan 貢院の內外を巡邏する官〔4.臣宰十：巡邏官〕
Kederšembi 譏る．中傷する〔14.言論三：譏刺〕
Keibiri ilha 奇花の名．數朶重疊し，花毛氈を敷きたるが如き觀あるを以てこの名あり〔補3.異花三：海蘭花〕
Keibisu 牛羊等の毛で作つた毛氈，敷きもの〔23.布帛五：毯子〕
Keifu 鏃に含らみの無い箭〔9.軍器四：大披箭〕
Keike 刻薄の．心歪んだ〔17.奸邪：刻薄〕
— **akū** 刻薄ではない．心歪める所の無い．邪しまなことのない〔11.忠清：不刻薄〕
Keikedembi 刻薄なことをする．心歪んだことをする〔17.奸邪：行事刻薄〕
Keikeljeme 身を歪めて(歩く)．身を横に傾けて(歩く)〔14.行走三：側身搖況〕
Keikuhen 鷹の類．Karanidun (埃兒)に似て稍〻大きく，背藍色，蝦蟇を捕へて食ふ〔30.鳥五：蝦蟇鷹〕
Keilen 大魚〔32.河魚四：鱘〕
Keire 鬃と尾との黑い馬〔31.馬匹毛片：騅騮〕
Kejine 1. 良〻久しく．餘程の間〔2.時令三：好一會〕2. 許多の．澤山の〔25.多寡一：許多〕
— **bi** 澤山にある．多くある〔彙：凡物很有〕
— **oho** 良〻久しく經つた．餘程間があつた〔彙：好一會了〕
Kek sehe 氣に適つた．暢快だ．意に中つた〔13.喜樂：稱心了〕
— **sembi** 氣に入る．意に中る〔13.喜樂：稱心〕
Keke 妻の姉．夫の姉〔10.親戚：大姨大姑〕
— **kaka** けっけっ，かっかっ(吃る貌)〔14.言論四：說話結巴狀〕
Kekerembi おくびが出る〔16.疾病二：打飽膈〕
Keksebuku 如意棒〔25.器用八：如意〕
Keksengge gohon 帳幕を掛ける如意棒型の鈎〔26.間隔：如意掛鈎〕
Kekte kakta (道など)でこぼこの．たかひくの〔2.地輿二：高低不平〕
Keku Ilmaha に同じ〔10.人身三：重舌〕
— **umiyaha** 毛蟲〔32.蟲一：花毛蟲〕
Kekuhe いかるか〔30.鳥九：可姑〕
Kekutu いかるかの類．翅尾黑くして黃色を雜へ，身に段〻の斑有り〔30.鳥九：刺毛鷹〕
Keleng kalang のそりぶらり(閑散怠惰の貌)〔17.怠慢迂疏：鬆懈〕
— **kalang umesi sulà** 馬畜ののそりぶらりとして甚だ緩慢の〔彙：馬牲口狠鬆．與 garjashūn 相似〕
Keler kalar ぶらぶら．だらだら(擧動敏活ならず怠慢の貌)〔17.怠慢迂疏：行動迂疏〕のそりぶらり(馬畜の大いに力なく行く貌)〔32.騎驀一：鬆懈〕
— **kalar seme** がたがたと，ぐらぐらと(物の合はせ目が弛み動く貌)〔25.斷脫：榫子活動〕
— **kalar seme aššambi** (合はせ目が弛み)がたがたと動く．ぐらぐらと動く〔彙：凡合縫的物鬆開了動了〕
Kelfimbi 少しく傾く．少し斜めになる(日又は船などが)〔彙：日器斜．船器歪〕
Kelfišembi 1. 船が搖れる〔15.搖動：搖況〕心が搖れる．心定まらぬ〔17.猜疑：游移〕2. 野獸が走る〔彙：野獸跑〕
Kelfišeme feksimbi (羊獐等の)野獸が走る〔彙：黃羊獐子等野獸跑〕
Keli 姉妹の夫間に於ける相互の稱呼〔10.親戚：連襟〕

Keltehe ふな（原と蒙古語）〔彙：鯽魚乃蒙古話．與 Onggošon 同〕
Kelterhen 燕の一種．越燕より大きく嘴短かくして身黒し，胸に白斑あり，樑頭によく長大なる巣を作る，舉亦大〔30.雀三：蛇燕〕
Kemin 骨の髄〔10.人身六：骨精〕〔31.走獸肢體：骨血精〕
Kemki kamki 面目など構はないでうるさく求める．穢くねだる〔13.求望：無恥所求〕
Kemkimbi （犬鷲鳥などが）咬みつく〔31.走獸動息：赶着咬〕
Kemne 量れ．儉約せよ〔彙：令人比量．令人省儉酌酌〕
Kemnebumbi 1. 儉約させる．節用させる〔11.省儉：使節用〕 2. 量らせる．計量させる〔25.量度：使量度〕
Kemnembi 1. 節約する．儉約する〔11.省儉：節用〕 2. 量る．計量する〔25.量度：量度〕
Kemneme bodoro bolgobure fiyenten 工部に屬し，官署所用の器物及武器彈藥其他軍需品の製給に關する事務を掌る役所〔20.部院五：虞衡清吏司〕
Kemnen 易卦の名〔補1.書二：節〕
— **akū** 節制のない．節度のない〔17.僭奢：無節制〕
Kemnere olhošoro namun 工部所用の銀錢收發事務を掌る役所〔20.部院十二：節愼庫〕
Kemšu Niyo mušu（水鴟）の別名〔補4.雀二：蟇雞〕
Kemu 一刻．十五分〔2.時令八：刻〕
— **i tampin** 水時計〔7.儀器：漏壺〕
— **tampin tuwara hafan** 欽天監屬の官．水時計を正し，時刻を計測する官〔4.臣宰八：契壺正〕
Kemuhen 規範．手本〔5.政事：範〕
Kemun 1. 物指し〔25.量度：制子〕規則．法則〔5.政事：準則〕 2. 射弓場に於て射人の立つ所におく標木〔9.製造軍器四：準〕
— **i jiha** 標準となる錢．通行錢の規準をなす錢〔22.貨財一：母錢〕
— **i suje** 「制帛」の文字を織り出した祭時使用の帛〔6.祭祀器用一：制帛〕
Kemungge 節度ある．中庸を得た〔11.厚重一：有節〕〔11.省儉：有節〕
Kemuni 1. 常に．何時も〔18.完全常〕 2. まだ．なほ〔彙：還是．倘．猶：仍〕
— **jafašambi** 凡そ學んだことは之を棄てずして常に學に勤める〔彙：凡學的事不去棄而勤學〕
— **unde** 未だなほ〔彙：還未〕
Kemuri coko 雞の別名〔補4.諸畜二：燭夜〕
Kendele nisiha Dafaha（方口鯖頭魚）に似たる小魚〔32.海魚二：方口小魚〕
Kenderhen 駱駝の頸ひげ〔31.馬匹肢體二：駝項下長毛〕
— **niongniyaha** 雁の別名〔補4.鳥三：翁鵝〕
— **niyehe** Gunggulungge jukjuhu niyehe（鳳頭黑脚鴨）の別名〔補4.鳥七：翁鳧〕
Kenehunjebumbi 疑はれる〔17.猜疑：被疑〕疑はせる〔彙：使疑〕
Kenehunjecuke 疑はしい．疑ふ可き〔5.寬免：可疑〕〔17.猜疑：可疑〕
Kenehunjembi 疑惑を懷く．疑ふ〔17.猜疑：疑惑〕
Kenehunjen 疑ひ．疑惑〔17.猜疑：疑〕
Kenekun 虎に似た奇獸．敏捷にして物音を聞けば樹を上下して止まず〔補4.異獸七：猞猁〕
Keng こほん．えへん（咳嗽の聲）〔14.聲響二：乾嗽聲〕
— **kang** こほんこほん．えへんえへん（衆人咳嗽の聲）〔14.聲響二：衆人嗽喉聲〕
— **keng** こんこん（叩頭して地に頭を打つ音）〔14.聲響一：叩頭聲〕
Kengceembi べちやりと潰れる．壓し潰される（軟い物が堅い物に壓されて凹み又壞れる）〔28.軟硬：輭物被壞〕
Kenggehun 1. 痩せて肩をいからし胸を張つた人〔11.容貌七：痩人挑肩〕 2. 大きな家の中に物一つない．がらんと

して何もない〔13.貧乏：空落〕

Kenggeri 屠殺した獣の前半身〔27.飯肉二：牲口前截〕鳥の鎖骨〔彙：鳥雀的鎖子骨〕

Kenggin 海魚の名．熊に似て魚身，丸木船の强敵〔32.海魚一：水熊〕

Kengkehebi 極度に餓え渇いた〔13.饑饉：餓極了〕地が大いに乾燥した〔彙：地很乾燥了〕

Kengkešembi 大いに飢餓を覺える〔13.饑饉：饑的慌〕渇望する．熱愛する〔13.愛惜：渇想〕

Kengse 果斷の．決斷力のある〔11.德藝：果斷〕

— **lasha** 果斷の．快速の．てきはきした〔5.辦事二：果斷〕

Kengsejembi 繩等がすりへる．すれいたむ〔25.斷脫：繩索磨傷〕

Kengselebumbi 斷ち切らせる．裁斷させる〔26.截砍：使裁斷〕決斷させる．決心させる〔彙：使決斷．使果決〕

Kengselembi 斷ち切る．裁斷する〔26.截砍：裁斷〕裁決する．決心する〔彙：決之．果之．斷決之〕

Kengsimbi 1. Kekuhe（可鴣）が鳴く〔14.聲響六：可鴣鳴〕2. けんけん咳をする〔16.疾病二：乾嗽〕3. 馬畜が水を飲み過つてけんけんと云ふ〔32.馬畜殘疾一：牲口痰〕

Kengtehun 1. 長身にして前かゞみになつた人〔11.容貌五：駝背〕2. 背高くして群中に目立つ馬〔31.馬匹肢體一：高脚馬〕

Kenje 痩せて小さい人．弱小な人〔11.容貌五：弱小〕

Ker げつ．がー（おくびの音）〔14.聲響二：打嗝聲〕

Kercibumbi 獣の脊椎骨と肋骨との合はせ目に刀を入れて切り開かせる〔23.剝割一：使刺骨縫〕

Kercihe yali 細かく横剝みにした動物の肉や皮〔27.飯肉一：横剌的肉〕

Kercimbi 獣の脊椎骨と肋骨との接合するところに刀を入れて切り開く〔28.剝割一：刺骨縫〕

Kerecin 易卦の名〔補1.書二：旅〕

Keremu 上に銃眼を設へた城壁〔19.城廓：城垛口〕

Kerkenehebi 菊石(ぎく)の澤山に出來た〔11.容貌一：稠麻子〕

Kerkeri 菊石(ぎく)〔11.容貌一：麻子〕

Kerkimbi 1. 犬が怒つて續け樣に吠え立てる〔14.聲響五：狗怒連叫〕2. Karkambi (1) に同じ〔彙：蹲式唱用筋子拉簸箕之拉〕

Kerme 海魚の名．Tubehe（重唇魚）に似て，色綠〔32.海魚二：青島子〕

Kermeyen nimaha みごひ．白魚〔32.海魚：鱒魚〕

Kersen 羊など牲畜の胸部の肉を皮つきのまゝ取つたもの〔27.飯肉二：胸弦上帶皮肉〕

Keru Holon gaha の別名〔補4.鳥九：慈烏〕

Kerulembi Kerun（罰物）を取る．罰する〔5.刑罰二：罰〕

Kerun 蒙古人の犯せる罰に對して取りあげる財物〔5.刑罰二：罰物〕

Kes 切り立つた樣な(崖)〔2.地輿五：齊坎〕ぷつり．びりっ(繩，皮等のものが忽ち斷ちきれる貌)〔25.斷脫：繩皮齊杈斷〕すばり（刀を以て速かに割斷する貌）〔28.剝割二：齊杈割斷〕

— **seme lakcaha** ぷつりと切れた．すばりと切れた〔彙：凡繩線速快斷了．刀割物速快斷了．卽 Kes seme faitaha 也〕

— **sere ba** 山險しくして切り立つた樣な處〔彙：山險如刀砍齊處〕

Kese masa Kesiri masiri に同じ〔18.散語六：粗粗草草〕

Keser seme かりかりと．がりがりと（硬い物を噛む音）〔14.聲響二：嚼硬物聲〕

Kesi 天の授くる福〔11.福祉：造化〕天子の恩．天子の恩命〔3.論旨：恩〕

— **be badarambure namun** 奉陵關係の銀錢を收貯する庫〔補2.衙署八：廣恩庫〕

— **be selgiyere fulehun be isibure temgetun** 綢に行慶施惠の文字を刺繍せる旌〔6.鹵簿器用二：行慶施惠旌〕

Kesi be tuwakiyara gurun de aisilara gung 宗室第八等の封爵〔3.君一：奉恩輔國公〕
— **be tuwakiyara gurun be dalire gung** 宗室第七等の封爵〔3.君一：奉恩鎮國公〕
— **be tuwakiyara janggin** 宗室第十四等の封爵〔3.君一：奉恩將軍〕
— **bele i calu** 京城内にあり，戸部の米穀を收貯する倉〔20.部院十二：祿米倉〕
— **de hengkilembi** (王貝勒大臣外國使臣等が) 皇帝の恩に對して叩頭禮を行ふ〔6.禮儀：謝恩〕
— **menggun i namun** 各旗官兵の恩賞銀を收貯する倉．各旗毎にあり〔20.部院十二：恩賞銀庫〕
— **simehe** 恩澤の及んだ．恩惠人に及んだ〔5.政事：澤潤〕
— **šangnahan i kunggeri** 禮部に屬し，外國使臣の賞賜を掌る役所〔補2.衙署二：賞賜科〕
— **yali** 墳廟を祭るとき主祭の人の受ける盤肉〔6.祭祀一：祚肉〕
Kesike ねこ〔31.諸畜二：貓〕
— **fatha** 野菜の名．その葉の形猫の足に似て小さし〔27.菜蔬二：猫脚菜〕
Kesiken 奇獸の名．形狸に似，頭上長毛あり，自ら交はり自ら殖ゆ〔補4.異獸一：類〕
Kesingge 天の恩寵ある人．惠まれたる人〔11.福祉：有造化的〕
— **hafan** 軍功官の世襲畢れるもの再び恩賜を受け七品の世襲官を授けられたるもの〔4.臣宰三：恩騎尉〕
Kesiri masiri 粗野な．未熟の．役立たぬ．汚穢不潔の〔18.散語六：粗粗草草〕
— **masiri emu udu aha bi** 役にも立たぬ奴僕が五六人ゐる〔彙：阿裏阿雜有幾個奴才〕
— **masiri emu udu gisun bahanambi** 未熟な數語を會得する．生半可の數語を覺える〔彙：阿裏阿雜會幾句話〕
Kete kata 1. かたかた (馬蹄の石を踏む音)〔14.聲響四：馬蹄踏石聲〕〔31.馬四動作二：石上行走聲〕 2. 小供等の食ふ小形の乾菓類．かちかち菓子〔27.菜蔬四：雜様乾果食〕
Ketek katak がたがた (平坦ならざる處で車の搖れる音)〔14.聲響四：車駛聲〕
Ki kū くっくっ (可笑しさに耐えられずして笑ひ出す聲)〔13.嬉笑：忍不住笑〕
— **yang jodon** 湖南祁陽産の葛布〔23.布帛五：祁陽葛〕
Kib seme こつんと．ごんと (拳で打つ音)〔5.爭鬪二：拳搗聲〕
Kice 勤めよ．勵め．勉强せよ〔7.文教：使勉力〕
Kicebe 勤勉な．敏勉の．勤めて倦まざる〔12.黽勉：勤〕
Kicebumbi 勉强させる．勤めさせる〔12.黽勉：使用功〕
Kicembi 勉强する．勤める．勵む〔7.文學：勤〕〔12.黽勉：用功〕
Kicen 勉强．勤勉．勉勵〔12.黽勉：功夫〕
Kicendumbi Kicenumbi 衆齊しく勉强する．一齊に勵む〔12.黽勉：一齊用功〕
Kidubumbi 想ひをかけさせる．思慕させる〔11.性情一：使想念〕想ひをかけられる．思慕される〔彙：被想〕
Kidumbi 想ひをかけて忘られない．思慕する〔11.性情一：想念〕
Kidun cecike さうしてう〔30.雀五：相思鳥〕
Kifur 形を留めぬ迄に粉碎折斷する音〔14.聲響四：碎折聲〕，又軟骨などを咬み碎く音〔彙：凡臗骨等略硬物牙咬嚼脆臗聲〕
Kijimi 1. いりこ．なまこ〔32.河魚二：海參〕 2. 死んでしまへ！(惡童を罵る言葉)〔16.咒罵：死是呢〕
Kiki kaka Kaka kiki に同じ〔13.嘻笑：衆人嘻笑〕
Kikūr からから．ごろごろ〔14.聲響四：車輪聲〕
— **seme** 1. 布地厚く織目密なる貌〔23.布帛六：厚密〕 2. どつしりと (車上

重積せる貌)〔彙:車上多載很重. 即 Kikūr seme tebumbi 也〕
Kila ilha のいばら〔29.花三:野刺蘼花〕
Kilahūn かもめ〔30.鳥五:鴎〕
Kilakci Saya に同じ〔25.器用四:鋏子〕
Kilhana きつねばり. ぬすびとぐさ〔29.草四:鬼針〕
Kilin 麒麟〔彙:麒麟似麞子身牛尾羊頭馬脚手蹄一角角尖有肉身色五彩高一丈二尺性仁不踏蟲蟻不折草〕
Kiluk 白毛中黒點あり,棋の如き馬〔31.馬四一:騏〕
Kima をあさ. 白麻〔29.草二:蒜麻〕〔23.絨棉:蒜麻〕
— **suse** 壁土に混ぜるをあさ. すさ〔26.砌苫:麻刀〕
Kimci 詳らかにせよ. 詳細に見よ〔12.詳験:使詳察〕
Kimcibumbi 詳らかにさせる. 詳細に調べさせる〔12.詳験:使人詳察〕
Kimcikū 事を綿密にしておろそかにせぬ人. 事を苟にせぬ人〔12.詳験:詳細人〕
Kimcimbi 詳らかにする. 詳細に調べる. よく稽へる〔12.詳験:詳察〕
Kimcime baicakū 翰林院官名. 編修(Acabume baicakū)の次の官〔4.臣宰四:檢討〕
— **baicara ba** 内閣に屬し,諸官衙奏上の諸事を稽察する役所〔20.部院二:稽察房〕
— **baicara boo** 修書處,各修造處の作工物を査核する役所〔補2.衙署六:査核房〕
Kimcin 考察. 考究〔7.書三:考〕詳細に稽へること. 詳察すること〔12.詳験:詳察的〕
Kimcindumbi Kimcinumbi 衆人して詳細に究べる. 大勢共になつて稽へる〔12.詳験:一齊詳察〕
Kimcisi 布政使衙門,按察使衙門,及び各府の都事(Baitasi)の次の官〔4.臣宰十二:照磨〕
Kimulebumbi 怨みを懐かせる. 仇に思はせる〔15.讐敵:使結讐〕
Kimulembi 怨みを懐く. 仇に思ふ. 敵意を抱く〔15.讐敵:結讐〕
Kimun 讐. 仇. 怨讐〔15.讐敵:讐〕
— **baita** 恨事. あだごと〔彙:讐事〕
— **bata** 〔彙:讐敵〕
— **jafaha** Kimulembi に同じ〔彙:懐讐〕
Kimungge 怨み懐く人. 仇思ふ人〔15.讐敵:有讐的〕
Kimuntumbi 1. 此に對しても彼に對しても怨みを懐く. 都てのものを仇に思ふ 2. 此と彼と互ひに怨み合ふ. 互ひに仇敵に思ふ〔15.讐敵:都成讐〕
Kin 樂器. 琴〔彙:琴〕
— **še** 〔彙:琴瑟,乃樂器內八音之一即 Sirge i kin še 也〕
Kina ilha ほうせんくわ. つまくれない〔29.花四:鳳仙花〕
Kinamu ilha 木に咲く花. 此木枝細く葉軟かし,花は楡の花に似,白黄二種あり,香清し〔29.花四:指甲花〕
King 1. がん. どかん(重い物の地に墜ちたる音)〔14.聲響四:重物沉墜聲〕 2. 樂器の名. 磬. Kingken に同じ〔彙:鏡磬之磬. 石磬乃樂器〕 3. 面積の一單位名. 頃. Emu king を見よ
Kinggiri Cinjiri (丁哥) の別名〔補4.鳥八:料哥〕
Kingguhe Kiongguhe (鸜鵒) の別名〔補4.鳥八:鴝鵒〕
Kingken 石製又は銅製の打樂器. 人字形盆形等あり〔7.樂器一:磬〕
Kinumbi 心中に怨恨を懐く〔13.怨恨:暗恨〕
Kiongguhe Bangguhe (八哥) に同じ〔30.鳥九:鸜鵒〕
Kiongguri ilha 木に咲く花. Gujiri の花に似て雪白,朶密〔29.花五:瓊花〕
Kirfu てふざめに似たる魚. 嘴扁平にして尖り,身長六尺,味てふざめに及ばず〔32.河魚一:鰉魚〕
Kiri 忍べ. 我慢せよ〔11.友悌:忍〕
Kiriba 1. 能く忍耐する人. 我慢強い人〔11.友悌:性能忍耐〕 2. 殘忍な人. 忍心行惡の人〔18.兇惡二:殘忍〕

Kiribumbi 忍ばせる．我慢させる．我慢さゝれる〔彙：使忍．被容讓忍〕
Kirimbi 1. 忍耐する．我慢する〔11. 友悌：忍耐〕2. 禽獸が人を怕れてぢつと身を伏せる〔30. 飛禽動息二：伏藏〕
Kirsa だつたんぎつね〔31. 獸五：沙狐〕
— **cabi** だつたんぎつねの腹の白毛皮〔24. 皮革二：沙狐膆〕
Kiru 小旗．兵の背にさす小旗〔9. 軍器七：旗〕
Kirumbi 雄馬が雌馬を求める〔31. 牲畜孳生：尋騍〕
Kirusi 旗持ち．旗兵〔續2. 臣宰：戎旗〕
Kisari 仔を生まない牝馬〔31. 馬匹二：騬騙〕
Kišan 色彩鮮かな〔25. 新舊：人物鮮明〕
Kišimiši 奇果．種子なき綠色の葡萄〔補3. 異樣果品一：無子綠葡萄〕
Kitala 羽の根元の管になつた部分〔30. 羽族肢體一：翎管〕
Kitari 野猪の一種．項腿の毛白くして粗なり〔補4. 獸二：豝豵〕
Kitir seme ばかばかと（馬の速かに走る貌）〔31. 馬匹馳走二：跑的急〕
Kituhan 〔7. 樂器二：琴〕
— **i kuyerhen** 琴の絃の結び目〔7. 樂器三：琴扣〕
— **i murikū** 琴の絃を締めるねじ〔7. 樂器三：琴軫〕
— **i sujakū** 琴の台足（玉，石等にて作れるもの）〔7. 樂器三：琴足〕
Kiya 蜜蜂の巢孔の隔壁〔32. 蟲三：蜜隔〕
Kiyab kib seme きびきびと．さつさと（擧動怜悧敏捷の貌）〔14. 行走四：行動伶便〕
— **seme** 1. てきぱきと．さつさと（さつさと行け．さつさと來いなどいふ場合）〔12. 催逼：急速着些〕2. ぴつたりと（衣服の身に合ふ貌）〔24. 衣服四：衣服可身〕3. ぎつしりと（狩終了して勢子の一處に集り立ちたる貌）〔9. 畋獵三：圍塲狀〕4. きりつと（人の身體のひきしまつた貌）〔彙：人身緊束〕
— **seme gene** さつさと行け．早く行け〔彙：令速去〕
— **seme jeo** さつさと來い．早く來い〔彙：令速來〕
Kiyadambi 嵌める．嵌入する〔彙：嵌珠寶之嵌〕
Kiyafur kifur 軟骨などを嚙む音〔14. 聲響二：嚼脆骨聲〕物の粉碎する音〔14. 聲響四：粉碎聲〕
Kiyak 枯木，乾木の折れる音〔14. 聲響四：乾木折聲〕
— **kik** 大木の折れる音〔14. 聲響四：大木折聲〕
— **seme** 1. ぎやつと．ずしんと（角力つて烈しく倒れる音）〔8. 撩跤二：跌重聲〕2. 乾木の折れる音〔彙：乾木折斷聲〕
Kiyakiyabumbi 讚めさせる．讚美される〔12. 稱奬：使讚美〕
Kiyakiyambi 讚める．讚美する．讚嘆の聲を放つ〔12. 稱奬：舌讚美聲〕
Kiyakiyame ferguwembi 讚嘆する．嘖然として讚美の聲を放つ〔彙：讚奇．嘖然嘆〕
Kiyakū すゞき〔32. 河魚二：昂刺〕
Kiyakūha 雜種の鷹．原と異種の鷹雌雄配して出來たるものにして，質最も劣れるもの〔30. 鳥五：鷂鷹〕
Kiyakūng がくんがくん．ぎしぎし（重載せる車の進む音）〔14. 聲響四：重載車聲〕
— **kikūng** Kakūng kikūng に同じ〔14. 聲響四：重車重撞聲〕
— **seme guwembi** （重載の車が）ぎりぎりと音を立てる〔彙：重載車行的聲聲〕
Kiyalabumbi 本を綴ぢさせる．製本させる〔彙：使釘書〕
Kiyalambi 本を綴ぢる．製本する〔7. 書七：釘書〕
Kiyalang きやらん（單獨の鈴の音）〔14. 聲響三：單鈴聲〕又銅器鐵器等が物にあたつて發する音〔彙：銅鐵等器撞着在物上撞的聲〕
Kiyalara dobtoloro falga 修書處內にあり，製本のことを處理する役所〔補2. 衙署六：做書作〕
Kiyalmabumbi 嵌めさせる．嵌入さ

せる〔26.彫刻：使鏤嵌〕
Kiyalmambi 嵌める．嵌入する〔26.彫刻：鏤嵌〕
Kiyambi 嵌める〔彙：金銀嵌鏤珠寶之嵌〕
Kiyamnambi Kiyalmambiに同じ〔26.彫刻：鏤嵌〕
Kiyamnan mahatun 古冠の名．金蟬と貂尾とを嵌め飾れる冠〔補1.古冠晃二：貂蟬冠〕
Kiyan 紙の一折．一帖〔7.文學什物一：一刀紙〕
— **cin men i hiya** 侍衞中より選ばれて乾清門に詰めるもの〔4.臣宰七：乾清門侍衞〕
Kiyangdu 1. 大體道理の分つた人．大體利口な人間〔11.德藝：强幹〕2. 人に讓らず，勝つを好み强きを好む人．押しの强い人〔17.强凌：好强人〕
Kiyangdukan かなり押し强い．かなり利口の〔彙：略逞强．略伶俐〕
Kiyangdulabumbi 無理强ひされる．押し强く出られる〔17.强凌：被使强〕逞しくさせる．押し强く出させる〔彙：使逞强〕
Kiyangdulambi 逞しくする．强く出る．强凌する〔17.强凌：使强〕
Kiyangkiyan 才力人に優れたる〔12.勇健：强健〕
Kiyangkiyašabumbi 頑强に敵對される．頑强な抵抗を受ける〔17.强凌：被强梁〕强く抵抗させる．頑强に敵對させる〔彙：使逞强抵敵〕
Kiyangkiyašambi 頑强に抵抗する．强く敵對する〔17.强凌：强梁〕
Kiyangkiyatu mahatun 古代勇士の戴いた冠〔補1.古冠晃二：鶡冠〕
Kiyar ぎやッ（野生の鷹の叫び聲）〔14.聲音六：生鷹叫聲〕
— **kir** ぎやッぎやッ（鼠等が人を怕れ人に向つて鳴く聲）〔14.聲音五：驚鼠等物拒人聲〕（又鷹等が人を怕れ人に抵抗して鳴く聲）〔14.聲音六：鷹拒人聲〕
— **seme** ぎやッぎやッと（人を近づけず，人を追拂ふ聲）〔18.兇惡二：厲聲〕又鳥雀の類，人の近づくを容さずして鳴く聲〔彙：鳥雀等物不容人近前叫的聲〕
Kiyaribumbi 1. 薪を割らせる〔26.截砍：使劈燒柴〕2. 盡く殺し盡く坑にさせる〔彙：使盡殺盡坑之〕
Kiyarimbi 1. 薪を割る〔26.截砍：劈燒柴〕2. 盡く殺し盡く坑にする．鏖にする〔彙：盡殺之坑之〕3. 牝雞が卵を生まうとしてきゃー きゃーと鳴き聲を立てる〔31.牲畜孳生：嘎蛋〕
Kiyarime waha 盡く殺した．鏖にした〔8.征伐七：殺盡〕
Kiyarkiya seme きゃーきゃーと．べちやくちやと（口數多く聲汚き人を厭ひ形容する語）〔14.言論四：厭人話多狀〕
Kiyas 脆い物の折れる音〔14.聲音四：脆物折聲〕
Kiyata 產卵し終つた Dafaha（方口鯽頭．シベリヤ鮭）〔32.河魚三：擺過子鯽頭〕
Kiyatar seme akjambi がらがらッと雷鳴する．烈しく雷鳴する〔1.天文四：焦雷〕
— **seme injembi** からからと笑ふ．大聲に笑ふ〔13.嬉笑：謦笑〕
Kiyatubumbi 饑餓の極如何とも爲し難くさせる〔13.饑饉：使餓的無法〕
Kiyatuha Hanjaha に同じ〔13.饑饉：蒸淡了〕
Kiyatuhabi 饑餓の極如何とも爲し難くなつた〔13.饑饉：餓的無法了〕
Kiyatumbi 饑餓の極如何とも爲し難くなる〔13.饑饉：餓的無法〕
Kiyatur kitur 車が硬い物を軋く音〔14.聲音四：車壓硬物聲〕
Kiyen 地名〔續2.地輿：開原〕〔續2.地輿：開原縣〕
Kiyokan 箭匠の用ひる先の尖つた小刀．箭柄を削るに使用する小刀〔22.工匠器用二：剔箭刀〕
Kiyokiyon 野菜の名．莖中空，食用に供す〔27.菜穀三：筆管菜〕
— **giranggi** 尾骶骨〔10.人身六：尾骨尖〕
Kiyolorjombi 擧止行走に體裁を飾る．氣取る．容態振つたことをする〔17.驕矜：粧模作樣〕

Kiyoo 1. かご. こし〔26.車輛一：轎〕 2. はし〔彙：橋〕
— **cambi** 橋を架ける. 橋をわたす〔彙：搭橋乃用兵搭橋也〕
— **niongniyaha** 頭黒くして胸より下の白い雁〔30.鳥二：小黒頭雁〕
— **sejen** 輿の形をなせる乗用車〔26.車轎一：轎車〕
Kiyooha Sašun に同じ〔26.烟火二：引火木片〕
Ko 暗渠. 下水〔21.室家四：水溝〕
— **ka** かッかッ（咽喉を締められ又は物がつまつた時に出す聲）〔14.聲響二：喉堵聲〕
— **sangga** 暗渠. 下水〔彙：水通. 小溝. 陰溝〕
Kob seme 1. ぴたりと（箭の狙ひ違はず中る貌）〔8.步射二：正中著〕 2. ぐッと（衆人の中に割り込み坐る貌）〔14.坐立一：混坐樣〕 3. 盡く. そつくり〔18.完全：儘情〕〔18.散語四：確然〕
— **seme gamaha** そつくり（無理して）持ち去つた〔彙：不應拿去拿去了〕
— **seme genehe** 無理に行き去つた〔彙：不應去之處去了〕
— **seme tehe** 無理にわり込んで坐つた〔彙：不應坐之處坐了〕
Kobcihiyadambi 樣子する. 容姿を修める. 氣取つた振舞ひをする〔17.驕矜：修容止〕
Kobcihiyan 氣取りや. 樣子する人〔17.驕矜：好修容止〕
Kobcimbi 剝げ落ちる. 脫け落ちる〔25.斷脫：凡物墜起〕
Kobdon 箭筒〔25.器用一：箭匣〕
Kobi 鼻翼の兩傍の凹み〔10.人身二：鼻窪〕凡て物の凹んだ處〔彙：凡物之裡子凹處〕
Kobkolombi 壁等に貼つた紙書を水酒などで濕らして綺麗に剝ぎ取る〔26.剖解：揭下紙書〕
Kobsohon 1. 鼻の高い〔11.容貌四：鼻高〕 2. 水面に浮び上つた物〔彙：水面浮的物〕
— **sabumbi** 水面に浮び上つた物を見る〔彙：看見水面浮的物〕
Kobsoljome 已惚れて〔17.驕矜：胡誇張〕
— **arbušambi** 已惚れて振舞ふ〔彙：人小氣小樣行事而矜誇動作之〕
Kobto 恭敬. 敬謹〔11.敬愼：敬謹〕
Kobtolombi 敬しく應待する. 恭ひ敬する〔11.敬愼：待人敬謹〕
Kobtonggo 恭敬の意を盡す人. 敬謹な人〔11.敬愼：敬謹人〕
Koco 部屋の中の曲つた處〔21.室家四：幽僻處〕
— **wai** 彎曲せる. 曲つた〔彙：彎曲. 與 Mudangga 同〕
Kodo 牛羊等の Sarca guwejihe（百葉肚）の下に位置する胃〔27.飯肉二：花肚〕
Kofen suje Nilgiyan suje（洋緞）より些さか柔かくして花紋を一段一段横に並べ織りたる布〔23.布帛二：彭緞〕
Kofor seme ぐにやりと（食物の内側が腐敗して軟かい貌）〔28.軟硬：食物內爛〕
Kofori 1. 内部が海綿狀になつた. 空泡狀になつた〔25.諸物形狀二：泡〕 2. 柚子に似て内部海綿狀なる果實〔28.果品一：泡〕
— **efen** 麵に白砂糖を入れて燒いた團子〔27.餑餑一：蜂糕〕
— **ilha** ゆのはな〔補3.異花二：泡花〕
Koforinaha 大根人參などの内部が綿狀になつた〔28.軟硬：糠了〕
Kohodombi 秋に雉が鳴く〔14.聲響六：雉秋鳴〕
Kohong kohong Korkong korkong に同じ〔14.聲響二：連牧聲〕
Koika 1. 細い短かい草の生えた處〔2.地輿一：草坯子〕 2. 頭の皮〔10.人身一：頭皮〕 3. 土に草の根を混ぜこねて造つた土壇〔26.砌苫：草根坯〕
— **fu** 土壇で築いた墻〔彙：土墻〕
— **hoton** 土築の城〔彙：土城〕
Koikašabumbi 入り亂れて殴り合はせる〔5.爭鬪二：使彼此搥打〕
Koikašambi 彼此入り亂れて殴り合ふ〔5.爭鬪二：彼此搥打〕
Koikohon 表面に出た. 高く浮き出た

〔14.隱顯：高浮出來〕

Koikoljombi 本分を守らずして妄りな振舞ひをする．僭越な振舞ひをする〔17.僭奢：作怪〕

Koikon 鳥の尻にある脂腺のあたま〔30.羽族肢體二：臊尖〕

— **dekdehebi** 亂行する．浮氣する（原義は「鳥の脂腺が延びた」にて，鳥の脂腺が伸びると卵を抱かないで食ひ破つてしまふ，それに例へて亂行することをいふ）〔17.淫蕩：發浪〕

Koimali 狡詐な人，奸詐な人〔17.奸邪：狡詐〕

Koimalidambi 狡詐なことをする．奸詐をはたらく〔17.奸邪：行狡詐〕

Koiman Koimali に同じ〔17.奸邪：狡詐〕

Koimasitambi 只管奸詐をはたらく．狡猾なことばかりする〔17.奸邪：總是狡詐〕

Koiton 詭詐．奸詐〔18.厭惡：鬼詐〕

Koitonggo 奸詐をはたらく人．詭詐をはかる人〔18.厭惡：鬼詐人〕

Koki おたまじやくし〔32.河魚四：蝌蚪〕

Kokima 貧窮の人．ひどく貧乏暮しの人〔13.貧乏：窮透〕

Kokingga fukjingga hergen 古代文字の一種．高陽氏蝌蚪に倣つて作つたといふ文字〔補1.書三：蝌蚪書〕

Kokirabumbi 傷つけられる．損傷を受ける〔18.兇惡二：受傷損〕傷つけさせる〔彙：使殘害〕

Kokirakū 傷害者〔18.兇惡二：損人的〕

Kokirambi 傷つける．損傷を與へる〔18.兇惡二：傷損〕

Kokiran 傷害．殘害．破損．〔18.兇惡二：損〕

Kokirangga inenggi 支，干に尅つ日〔補1.時令二：伐日〕

Koko こッこッ．けッけッ〔N補14.聲響六：雞鳴聲〕

Kokoli 1. 頭から被る衣．かつぎ〔24.衣服一：幔頭套〕2. Yaksargan（大水札子）に似て尾の根の白い小鳥〔30.雀一：油嘴兒〕

Kokolibumbi 衣服を剝がせる．人を辱しめ衣服を剝ぎ取らせる〔24.穿脫：使剝衣服〕

Kokolimbi 人を辱しめ衣服を剝ぎ取る．衣服を剝ぐ〔24.穿脫：剝衣服〕

Koksimbi 雞がこッこッと鳴く〔14.聲響六：母鷄野鷄鳴〕

Koksin ulhūma 雉の一種．雷の鳴る前之を覺つて鳴く〔30.鳥七：鴿雉〕

Kola 瓦を剝げ．瓦をおこせ〔26.剖解：揭瓦〕獸の皮を剝げ〔彙：令整剝牲口皮〕

Kolabumbi 瓦を剝ぎとらせる．瓦をおこさせる〔26.剖解：使揭去瓦〕獸の皮を剝ぎとらせる〔彙：使整剝牲口皮〕

Kolambi 瓦を剝ぎとる．瓦をおこす〔26.剖解：揭去瓦〕獸の皮を剝ぎとる〔28.剝割一：剝整皮〕

Kolongso わきが〔16.疾病一：狐臊〕

Kolor seme ぐたぐたと．がさがさと（靴が足に大き過ぎる貌）〔24.衣服四：靴襪寬大〕

Komo 駱駝の鞍から尻のあたりにかけてかける毛氈など〔9.鞍轡一：駱駝屜〕

Komolobumbi 駱駝に鞍しきをかけ又は鞍を裝備させる〔31.套備馬匹：使備駱駝〕

Komoloho enggemu Namki（屜）を兩分して鞍につけ，痩せ馬又は腰を打つた馬などに裝備するもの〔9.鞍轡一：弔屜鞍〕

Komolombi 駱駝の背に鞍しきを掛け，又は鞍を裝備する〔31.套備馬匹：備駱駝備弔屜〕

Komso 少い．少しの〔25.多寡二：少〕

Komsokon 稍々少い．些さか少い〔25.多寡二：少少的〕

Komsongge 少いもの．少いこと〔彙：少的〕

Konggir がらん〔14.聲響三：鈴聲〕

— **kanggir** がらんがらん（澤山の鈴の鳴る音）〔14.聲響三：衆鈴響聲〕

Konggohon 眼の落ち窪んだ〔11.容貌三：眼兆像〕凡そ物に穴のあいた〔彙：凡物有空缺窟窿〕

Konggolo 鳥類のすなぶくろ〔30.羽族肢體二：嗉子〕
Konggor ごくごく（器物内の水を空ける音）〔14.聲響四：撓水聲〕
— **seme** ごうごうと〔2.地輿十一：急流貌〕
Konggoro 黄色い馬〔31.馬匹毛片：黄馬〕
Kongsimbi わめき立てる．高聲に出鱈目のことを喋る〔14.言論三：高聲亂說〕
Konjosu 大腸の下端〔10.人身七：大腸頭〕
Koojiha 冬至後に食ふふぐ〔32.海魚二：臛豚〕
Kooli 定例．例．法例〔5.政事：例〕堯典舜典などの典にあたる言葉〔7.書一：典〕
— **durun** 則例．規則〔5.政事：規矩〕
— **durun i bolgobure fiyenten** 禮部に屬し，服制に關することを掌る役所〔20.部院四：儀制清吏司〕
— **hacin i bithei kuren** 各種官衙の則例書を作る役所，各部院倶に有り〔20.部院十一：則例館〕
— **icihiyara ba** 內務府事務の則例となる可きことを辨取して書き留めおく事務を掌る役所．內務府屬〔補2.衙署六：辦例處〕
Koolingga 禮法に叶つた．定例通りの〔5.政事：有禮法〕
Kor くうくう（鼾聲）．くっくっ．ぐっぐっ（鼻を鳴らす音）〔14.聲響二：打呼聲〕
Kordon 氷滑り雪滑りに巧みな人〔11.德藝：善溜氷雪的〕
Kori 穴を抉れ．穴をほじれ〔26.鏃鐵：掏〕
Koribumbi （水流のために河岸が）抉り取られる．削りとられる〔2.地輿十：剜〕穴をほじらせる．抉り取らせる〔26.鏃鐵：使掏去〕
Korimbi 穴をほじる．抉り取る〔26.鏃鐵：掏去〕
Korkong korkong こほんこほん（連りと咳く聲）〔14.聲響二：連嗽聲〕
Koro 怨み．怨恨．悔しさ〔13.怨恨：傷心詞〕
— **baha** 痛苦を受けた．怨む所が出來た〔5.爭鬪二：受了傷〕
— **gosihon** 痛苦の思ひ．怨恨の心〔13.怨恨：痛苦〕
Korombi 心を傷める．怨む．追悔する〔13.怨恨：傷心〕
Korsobumbi 怨ませる．憾らせる〔13.怨恨：使愧恨〕憾られる．怨まれる〔彙：被憾〕
Korsocuka 恨む可き所のある．憾る可き所のある〔13.怨恨：可愧恨〕
Korsocun 恨めしい〔13.怨恨：恨〕
Korsombi 身もだえする．恨み腹立つ．憾り怨む〔13.怨恨：愧恨〕
Korsondumbi Korsonumbi 各人齊しく怨み憾る〔13.怨恨：一齊愧恨〕
Kos 1. げつそり（目に立つて痩せた貌）〔11.容貌八：忽然痩了〕2. きつぱり．すつぱり（繩目等をすつぱり脫け離れたる貌）〔25.斷脫：繩物斷脫〕
Kosha ふぐ〔32.海魚二：河豚〕
Kosihimbi Hasihimbi に同じ〔13.求望：希圖僥倖〕
Koskon kaskan そゝくさ．せかせか．あくせく（急忙事に赴く貌）〔14.行走四：奔波趨事〕
Kotoli 1. 船の帆 2. 船の篷〔26.船二：篷〕
Kotong かちかち．こちこち（物の乾いて硬くなつた貌）〔28.輭硬：乾硬〕
— **katang seme** かたかたと．かちかちと〔彙：乾硬貌〕
Kotor ことッ（雉の飛ぶ音）〔14.聲響六：雉飛聲〕
— **katar** 1. がらがら．ことこと（袋に入つた硬いかたまりものをあけ出す音）〔14.聲響四：撓硬物聲〕2. ことかた（雉の群飛する音）〔14.聲響六：羣雉齊飛聲〕
— **seme** 1. ぐつと（一氣に飲む）〔27.飲食四：一氣飲〕2. こけッと（野雞飛び立ち鳴く聲）〔彙：野鷄飛起叫之聲〕
Koyorholombi 人の死したる時，其生前の乘馬を殺し皮を全剝ぎにし，死後七日の墓前祭に，其剝ぎ皮を燃やす．

馬皮を焚いて祭る（滿洲の古禮）〔6.喪服二：殺馬檀皮焚祭〕

Ku 1. 鍋ずみ〔23.烟火四：鍋煤〕2. くら（庫字の音寫）〔彙：庫〕

— **ijumbi** 鍋ずみを顔に塗る（戯れごと）〔13.戯要：抹畫煤〕

Kub seme がばと（困乏して竟に倒るゝ貌）〔8.撩跤二：實迫倒地狀〕

Kubcin 巾二寸足らずの緞子片の兩端に金花の絹を縫ひつけ，靴の胴部に飾りつけるもの〔24.衣服四：靴襪口上緣的邊〕

Kuberhen 鞭や棍棒で打たれた傷痕〔16.傷痕：鞭棍傷痕〕

Kuberhenembi 鞭や棍棒で打つて傷痕が出來る〔16.傷痕：已出傷痕〕蟲や蚊が咬んで大きく腫れる〔彙：臭蟲蚊子咬瘡高了〕抓つたり掻いたりしたあとが高く腫れる〔彙：指甲抓瘙瘙拖抓高了〕

Kubsuhun 身體の大づくりな〔11.容貌五：粗大〕どたりと横たはつた．起き上りさうもない〔15.睡臥一：厭人倒臥樣〕

Kubsuhuri ずんぐりと大きな人〔11.容貌五：粗大大的〕大體に於て大きい物．ふくれた物〔25.諸物形狀三：膀脹〕

Kubsurekebi 腫れた處．腫れ上つた處〔16.腫脹：宣腫〕

Kubuhe 緣取つた〔彙：鑲了〕

— **fulgiyan** 紅の幅地に白の緣を取つた旗〔3.旗分佐領一：鑲紅〕

— **lamun** 藍の幅地に紅の緣を取つた旗〔3.旗分佐領一：鑲藍〕

— **suwayan** 黃色の幅地に紅の緣取つた旗〔3.旗分佐領一：鑲黃〕

— **šanyan** 白の幅地に紅の緣取つた旗〔3.旗分佐領一：鑲白〕

Kubuhen 婦人の裳裙(ぢ)の下部の寬い緣取りの所．凡て衣類の寬い緣取りの部分〔24.衣服四：鑲的寬邊〕

Kubumbi 緣を取る．緣取りする〔24.剪縫三：鑲〕

Kubun 綿〔23.絨棉：棉花〕

— **i etuku** 綿入れの衣服〔24.衣服二：棉衣〕

Kubunehe 西瓜などが熟し過ぎて壞れた〔28.果品四：瓜爛了〕

Kubungge hoošan 大いに强靱なる紙〔7.文學什物一：棉紙〕

— **moo** わたの木〔補3.樹木二：檀木〕

Kuburhen 葡萄の蔓〔28.果品四：葡萄藤〕

Kuciker fulan 青色の騅馬〔31.馬四一：綠耳〕

Kucung seme Gujung seme に同じ〔26.營造：不動身做〕

Kude 1. 牛に餌を與へるいばら編みの籠〔25.器用八：喂牛筐〕2. 船を繋げ〔26.船四：使攬船〕

— **šoro** Kudé に同じ〔彙：喂牛的筐子乃荊條做者〕

Kudebumbi 船を繋がせる．もやはせる〔彙：使拴繫船〕

Kudembi 船を繋ぐ．もやう〔26.船四：纜船〕

Kudešembi 兩手の拳で肩腰のあたりを叩く〔19.醫治：雙手搥背〕

Kufan 堂房內の端に仕切られた室〔21.室家一：庫房〕

Kufur seme くッくッと（軟かい物を食ふ時立てる快よい音）〔28.軟硬：發脆〕

Kufuyen くッくッと齒あたりの軟かい〔28.軟硬：脆〕

— **šulhe** 北平に產する梨の一種〔續.果品：波梨〕

Kuhe 脹れあがつた〔彙：胖脹了〕

Kuhen 1. 人體の氣管〔10.人身八：氣管〕2. 動物の脊椎骨に附着してある大血管〔27.飯肉二：總血管〕3. Sirdan（迷針箭）の鏃にある溝〔9.製造軍器四：箭鐵背〕大小刀の刃にある溝〔彙：大小刀上抽的溝芽子〕木器にある溝．彫り込みの線〔彙：木起的芽子〕

Kuhengge 死に脹れ奴！（人を罵る言葉）〔16.咒罵：脹死的〕

Kuii Saifi に同じ〔25.器用三：匙子〕

Kuile 型にはめこめ〔彙：令人盔物件〕

Kuilebumbi 型にはめこます〔24.剪縫二：使揑〕

Kuileku 矢筒，靴などを作るための木型

〔22.工匠器用二：揎頭〕木製の帽子型〔彙：盔帽子的木盔頭〕

Kuilembi 型にはめる〔24.剪縫二：揎〕

Kuinihe 西方七宿の第一〔1.天文二.彙〕

Kukduri 徒らに誇張する人．虚誇の人〔17.嘆咲：虚誇人〕

Kukele alha 紅白の毛の雜り生えた赤黒色の馬〔31.馬匹一：碧雲騮〕

Kuken 窓の下部の横木〔21.室家二：窗戸盞〕

Kukji 舞踏し乍ら歌ふ歌〔7.樂三：應歌聲〕

Kuku fulan 青灰色の馬〔31.馬匹毛片：灰青〕

— ihan 青灰色の牛〔32.牛：青牛〕

— kaka あはっはっ(衆人の笑ふ聲)〔13.嬉笑：衆笑聲〕

— kaka seme injembi あはっはっと大勢が笑ふ〔彙：衆人的笑聲〕

— seme injembi くっくっと聲を呑んで笑ふ．くっくっと口中で笑ふ〔13.嬉笑：呑聲笑〕

— ulhūma 身青くして五色雜りの雉〔補4.鳥六：鷂雉〕

Kukulembi 活きた動物の胸を割き重傷した人の患部にあてる〔19.醫治：剖活牲胸膛貯傷〕

Kukulu 禽鳥の頭頂にある羽毛〔30.羽族肢體一：頂毛〕馬騾等の頭部の鬃〔31.馬匹肢體二：腦鬃〕

Kukurembi . Fa ulhūma (鳥雉) が雌を喚んで鳴く〔30.飛禽動息一：鳥雉喚雌〕

Kukuri 銀錫等で造つた圓くしてやゝ扁平な茶壺〔25.器用三：背壺〕

Kuk'an 炕の緣の木〔21.室家三：炕沿〕

Kulkuri suru 極めて登山に強い白馬〔31.馬匹一：凌崑白〕

Kulu 壯健な．Mangga に同じ〔10.老少一：健壯〕

Kuluk jerde 赤色の駿馬〔31.馬匹一：赤驥〕

Kulun 易卦の名〔7.書四：乾〕〔補1.書一：乾〕

Kulutu fulan 沙青色の駿馬〔31.馬匹一：蒼龍驥〕

Kumcuhun 腰の曲つた〔11.容貌五：羅鍋腰〕

— wase 屋根棟の一番上に伏せる瓦．棟瓦〔26.砌苫：羅鍋瓦〕

Kumcun muke tashari くまたかの一種．頭頂に毛無く，味惡くして食ふ可からず〔補4.鳥三：扶老〕

Kumdu 空の．うつろな〔25.盈虛：虛〕

Kumdulebumbi うつろにさせる．空にさせる〔25.盈虛：使虛着〕

Kumdulembi うつろにする．空にする〔25.盈虛：虛着〕

Kumdun moo 樹名．山谷に生じ高さ六七尺，葉は楮葉の如く皮淡紅〔補3.樹木一：大空木〕

Kumgetu 朱漆塗りの竹で出來た音樂の指揮棒〔7.樂器三：戲竹〕

Kumuda 宮中の音樂のことに携はる人〔4.臣宰八：司樂〕

Kumun 樂．音樂〔5.政事：樂〕〔7.樂一：樂〕

— be kadalara hafan 宮中の樂務を掌管する役人〔4.臣宰八：典樂〕

— i faidasi 鑾輿に從ふ奏樂の官人〔續2.臣宰：奉鑾〕

— i jurgan 音樂のことを掌管する役所〔20.部院四：樂部〕

— i karmangga 鑾儀衞に屬し左右兩司の事を統掌する役所〔20.部院八：旗手衞〕

— i niyalma 音樂師．樂人〔10.人四：樂人〕

Kumungge 家の富み足り繁昌した〔11.富裕：富足熱鬧〕

— simengge 繁華な．雜踏する〔彙：熱鬧〕

Kumusi 宮中に在りて舞樂を舞ふ者〔4.臣宰八：樂舞生〕

— i da 宮廷樂舞生の長〔續2.臣宰：俳長〕

— mahatun 古代樂人の著けし冠〔補1.古冠冕二：方山冠〕

Kundu 恭敬．敬謹〔11.敬愼：恭敬〕

Kundujin 孔雀の別名〔補4.鳥二：孔都護〕

Kundule 恭しくせよ. 恭敬なれ〔彙:令恭〕
Kundulebumbi 恭しくさせる. 恭敬ならしめる〔11.敬愼:使人恭敬〕恭しくされる〔彙:被人恭敬〕
Kundulembi 恭しく人に對する. 恭敬にする. 禮を以て人を待つ〔11.敬愼:待人恭敬〕
Kundulere kobtoloro 恭ひ敬する. 恭敬の〔彙:恭敬之〕
Kunesun 旅に携帶する干し飯〔27.飯肉四:行糧〕
— **menggun i namun** 理藩院の蒙古に供給する銀錢を存貯する倉〔20.部院十二:廩給銀庫〕
Kung ぐん. どかん(大きな物が地に墜ちた音)〔14.聲響四:大物墜地聲〕
— **cang** どんちゃん. こんちゃん(鼓や銅鑼の音)〔14.聲響三:鼓鑼聲〕
— **cang seme banjimbi** どんちゃんと家が繁昌する〔11.富裕:富家熱鬧〕
Kungge yamun 清制都察院に吏戶禮兵刑工の六科あり,其の科にあたる役所にして勅書奏章を各部に發抄し,各部の政務を監察し其の非違を糾劾する等のことを掌る〔20.部院一:科〕
Kunggeri 書吏の事を辨じ又稿案を存貯する役所〔20.部院一:科房〕
Kungguhun Šungkutu に同じ〔11.容貌三:窪孔眼〕
Kunggur ばたばた. どかどか(衆人の走る音)〔14.聲響二:衆人跑聲〕ごろごろ〔14.聲響四:衆車聲〕ばかばか(多くの馬の進む音)〔14.聲響五:衆馬行聲〕
— **kanggar** こんころこんころ(澤山の空車が進行する音)〔14.聲響四:衆空車聲〕がらがらごろごろ〔彙:大雷聲〕
— **seme** ごらごらと(澤山の人の集り來たる貌)〔6.朝集:羣擠貌〕又衆馬行走の聲〔31.馬匹馳走二:衆馬走聲〕
— **seme šireneme akjambi** がらがらごろごろと續け樣に雷鳴する〔1.天文四:雷聲不斷〕
— **seme yamulambi** ごらごらと登廳する〔彙:衆人羣聚上朝上衙門〕
Kungšuken 些さか焦げ臭い. 少々焦げ臭い〔28.滋味:略有燎糊氣〕
Kungšun 焦げ臭い〔28.滋味:燎糊氣〕
— **wa** 焦げるにほひ〔彙:糊氣〕
Kur うをーうをー(虎などの彼此互ひに叫び合ふ聲)〔14.聲響五:虎獸相拒聲〕
Kurbu 鉄に彫り込んだすじの一方に偏つたもの〔9.製造軍器四:箭鐵邊線〕
Kurbumbi 寢返りをうつ〔15.睡臥一:翻身〕轉がる〔彙:輾轉. 轉側〕
Kurbušembi 身もだえる〔13.愁悶:煩悶輾轉〕事に對して心定まる所がない. 心翻轉する〔17.猜疑:翻轉〕
Kurce 海魚の名. 白色の Fu nimaha に似鱗細かく,頭は Fu nimaha のそれより稍々細し〔32.海魚一:白膏魚〕
Kurcilehe sirdan 柄身に鉋屑を巻きつけ火を着けて放つ箭. 火箭〔9.軍器五:火燎桿箭〕
Kurcilembi 火箭を造る〔9.製造軍器三:火燎箭桿〕
Kurcin 河魚の名. 長さ二三寸,色白く青き斑紋あり,鱗無し〔32.河魚三:觔斗魚〕
Kure はらゝごに似た河魚〔32.河魚一:鱴魚〕
Kurehu あかげら. けらつつき〔30.雀一:黑頭啄木〕
Kurelembi 大隊伍を編成する. 大隊に組分けする〔8.征伐一:分伍〕
Kuren 1. 兵馬の大隊. 大隊伍〔8.征伐一:伍〕2. 書物を編纂し,或は外賓を止宿せしむる所. 國史館,高麗館などの館〔20.部院一:館〕3. 淡黑がかつた綠色. 古銅の色〔23.采色三:古銅色〕4. 栗毛の馬〔31.馬匹毛片:栗色馬〕
Kurene おじぎねずみに似た動物. その色種々あり〔31.獸六:艾虎〕
Kuri 虎の如き斑紋のある犬〔31.諸畜二:黎狗〕
— **damin** 年經たわし. 翅に虎の如き斑紋生じたるもの〔30.鳥三:虎斑鵰〕
— **hiyahali cecike** 尾端に虎紋のあるいすか〔補4.雀五:虎皮鈎交嘴〕

Kuri ihan 黒い斑紋のある淡黒色の牛〔32.牛：犂花牛〕
— **kari** 黒と黄とのまだら〔23.采色三：斑斕〕
— **weifutu** 黒ぶちの犬〔補4.諸畜一：青駁〕
Kurima 奇獣の名．甘粛山に出で，虎に似て猪毛，額に花斑あり，これを食へば瘤癤ゆといふ．〔補4.異獣四：麤〕
Kuringge 雑色の．斑色あるもの〔彙：雑色的〕
— **gasha** 鳥名．頭黒くして全身に斑紋あり〔30.鳥十：五斑鳥〕
— **hoohan** 黒斑のあるあをさぎ〔30.鳥二：虎斑頭〕
— **ihasi** 斑紋のある犀〔31.獣一：斑犀〕
— **wehe** 墻壁などを築くに用ひる種々の色の粗石〔2.地輿六：虎皮石〕
Kurisi 奇獣の名．盪山に出で，牛に似て色淡黒，犀は乳兒に似，人を食ふ．〔補4.異獣四：犀渠〕
Kurku 1. 人に先立つて擅まゝに事を行ふ人〔17.強凌：領頭人〕2. 背式骨(Gacuha)の中を抉つて鉛を詰めこんだもの〔19.戯具一：鉛馬兒〕
Kuro alan 斑のある樺の皮〔彙：雑色樺皮〕
Kuru 高地．高臺〔2.地輿二：高阜〕
Kuruken 僅かばかり高い處〔2.地輿二：微高處〕
Kurume Sijigiyan(うはかけ)の上に更に着用するもの．おくみなく袖の短かいもの〔24.衣服一：褂〕
Kus seme injehe (可笑しさに耐えずして)くすッと笑つた．ぷッと吹き出した〔13.嘻笑：忍不住忽笑〕
Kuskun seme せッせと(精出して仕事する貌)〔26.營造：緊做〕
Kuskurembi 鳥が羽をひろげ，爪で地をかく〔30.飛禽動息一：雉奮土〕
Kušulebumbi 不愉快に．させる〔15.憎嫌二：致不舒服〕厭はれる〔彙：被厭〕
Kušulembi 氣持がのびない．不愉快な思ひをする〔15.憎嫌二：不舒服〕
Kušun 不愉快．不愉快の．厭はしい〔15.憎嫌二：不舒暢〕腹中に何かつかへた氣持〔16.疾病二：膨悶〕衣服の着心地がよくない〔24.衣服四：衣服不隨身〕
Kušungge suri 紬の一種．裏のざらざらしたもの〔23.布帛三：牛郎紬〕
Kuteci 馬の口取り．馬子〔10.人五：牽馬人〕
Kutitu lorin 騸の生んだ騾〔31.馬匹二：駃騠〕
Kutule 旗人に扈從する奴僕〔10.人五：跟馬人〕
Kutulebumbi 馬の口を取らせる．馬を牽かせる〔31.套備馬匹：使牽牲口〕
Kutulembi 馬の口を取る．馬を牽く〔31.套備馬匹：牽牲口〕
Kutung どとん．どたん(高い處から大きなものが墜ちた音)〔14.聲響四：大物墜落聲〕
Kutur fatar 親和の貌〔11.親和：親和樣〕
— **seme** 1. どんどんと(大鼓の音絶えざる貌)〔14.聲響三：鼓聲不斷〕2. かたことと(多くの馬の急走する音)〔31.馬匹馳走二：衆馬急走聲〕3. かたかたと(多くの馬が毛をふるはす音)〔31.馬匹動作二：衆馬抖毛聲〕
Kuturcembi 身を賤しめて仕へる〔17.諛諂：趨奉〕
Kuwecihe はと〔30.鳥九：鴿子〕
— **boco** はと色．うすあい色〔彙：鴿背青．月白色比灰色略藍色〕
Kuwelembi 獣の皮を剝ぐとき脂肪層も一緒に剝ぐ〔28.剝割一：剝皮帶油〕
Kuyerhen 弓の弦の結び目．弓身に弦をかけて結んだところ〔9.製造軍器二：弦搭搭〕
Kū ca 彼此互ひに殴り合ふ音〔5.爭鬪二：相打聲〕
Kūbulibumbi 形勢を變へる．樣子を變へる〔8.征伐三：使變〕
Kūbulika 形勢が變つた．樣子が變つた．心が變つた〔16.叛逆：變了〕
Kūbulimbi 形勢が變る．樣子が變る〔8.征伐三：變動〕〔16.叛逆：變〕
Kūbulin 形勢の變化．變動．變轉〔8.征伐三：變〕

Kūbulin ilenggu cecike よしきり. よしわり〔30.雀一:反舌〕
Kūburi 祁連山に出で,形棗に似たる奇果〔補3.異樣果品二:仙樹實〕
Kūca 雄山羊〔31.諸畜一:公山羊〕
Kūdargalame dorime fiyelembi 馬の後よりしりがひに取りつき飛び乘る〔8.騙馬:奪鞦大上〕
Kūdargan dabame cashūn fiyelembi 馬の後より鞍紐をひき,しりがひを越え身を翻し後向きに飛び乘る〔8.騙馬:過鞦反背〕
— **gidame cashūn fiyelembi** 馬の鞍の後半部を壓へ,しりがひを越え身を翻して後向きに飛び乘る〔8.騙馬:壓鞦反背〕
— **tatame cashūn fiyelembi** 馬のしりがひを摑み後向きに飛び乘る〔8.騙馬:拉鞦反背〕
— **tataralame kurbume fiyelembi** 馬のしりがひを引つ摑み身を躍らし轉返して乘る〔8.騙馬:拉鞦雙滾上〕
Kūdarhan 馬のしりが〔9.鞍轡二:鞦〕
Kūlan 鬃黑く身體黃色の馬〔31.馬匹毛片:黑鬃黃馬〕赤黃色の馬〔彙:騂乃赤黃者〕
Kūlibumbi 懼れ默らせられる. 懼れ默らせる〔13.怕懼二:被唬住〕
Kūlihabi 懼れ默した〔13.怕懼二:唬住了〕
Kūlimbi 懼れて默る. 懼れしよげる〔13.怕懼二:唬住〕(鳥などが) 驚き伏す〔30.飛禽動息二:驚伏〕
Kūlin calin ぬすみ見る樣に見廻す貌〔17.輕狂:賊眉鼠眼〕
Kūlisitambi 大いに怕れうろたへる〔13.怕懼二:怕極樣〕(輕佻な人が) きよろきよろとする〔17.輕狂:閃灼〕(鳥などが) 驚き慌てる. 恐れ毛を立てる〔30.飛禽動息二:驚慌〕
Kūr kar 1. ごほんごほん. けっけっ (咽喉を締めつけられて出す聲) Ko ka に同じ〔14.聲響二:喉堵聲〕2. ごろごろ(腹の鳴る音)〔16.疼痛一:腹鳴〕
Kūrca うす黑く汚れた. 黑ずんだ〔18.邋遢:燻黑〕
Kūrcan まなづる. なべづる〔30.鳥一:灰鶴〕
Kūrcanahabi 火焰にくすぶつて顏のうす汚れた. うす黑くなつた〔18.邋遢:燻黑了〕
Kūrcanambi 火焰にくすぶつて淡黑く汚れる〔彙:火焰薰染汚淡黑. 火焰薰汚面目淡黑〕
Kūrdambi 棒で攪きまはす. 攪きまぜる〔22.趕拌:亂攪和〕
Kūru 牛馬乳から Arjan (一種の燒酎) を釀した殘滓で作つた團子〔27.餑餑三:奶餅子〕
Kūta 攪き混ぜること〔22.趕拌:攪拌〕
Kūtan ペリカン〔30.鳥二:淘河〕
Kūthūbumbi (やはらかいものを) 攪きまぜさせる. 攪き合はさす〔22.趕拌:使攪〕
Kūthūmbi 1. 敵味方入り亂れて戰ふ. 混戰する〔8.征伐四:攪戰〕2. (やはらかいものを) 攪きまぜる. 攪き合はす. 攪拌する〔22.趕拌:攪〕
Kūthūme afambi 入り亂れ戰ふ. 混戰する〔彙:混戰〕
Kūthūri 靴其他凡てのものゝ上につけた雲花の紋樣〔24.靴襪:雲頭〕
— **šufatu** 頂に雲紋の金絲飾をつけた頭巾〔補1.古冠冕三:雲巾〕
Kūtka Mojihiyan (貔) の仔〔31.獸二:毅〕
Kūtu fata そゝくさと. せかせかと (急ぎ忙てる貌)〔15.急忙:慌慌張張〕
— **kata** こつこつ. ことりことり (步行の音)〔14.聲響二:步履聲〕
Kūwa Kūlan (黑鬃黃馬) よりは黃色なれど尙白色がかつた馬. 乾草色の馬〔31.馬匹毛片:乾草黃〕
— **damin** 淡黃色のくまたか〔30.鳥三:黃白鷹〕
Kūwaca 1. 牛角で作つた行路携帶用の黑汁入れ〔7.文學什物二:角硯〕2. 乳の無い小兒に與へるため嚙んだ食物を盛る器〔彙:沒有奶的孩子盛嚼喂東西的器〕

Kūwaca i beri 烘藥を入れる牛角製の器〔9.軍器七：烘藥葫蘆口〕
— **yoro** 馬上射弓の際に使用する大きな Yoro (鞄頭)〔9.軍器五：馬箭鞄頭〕
Kūwacambi 犬や鹿が遠くより人を見て驚き叫ぶ．遠吠えする〔14.聲響五：狗鹿驚叫〕
Kūwacara 內側をくりとれ．えぐり取れ〔26.鏤鐵：刳裏面〕
Kūwacarabumbi 內部をえぐり取らせる．くり取らせる〔26.鏤鐵：使刳去裏面〕
Kūwacarambi 內部をえぐり取る．內側をくり取る〔26.鏤鐵：刳去裏面〕
Kūwaha 嘴細く身小さくして夜鳴きする鳥〔30.鳥十：夜明鳥〕
Kūwahalafi injembi 大口開いて笑ふ〔13.嬉笑：開口大笑〕
Kūwai fai seme うきうきと．爽快に(輕快にして親しみある貌)〔11.親和：爽快樣〕ふかふかと．そわそわと(輕浮多言の貌)〔17.輕狂：輕躁〕
— **fai seme hūwaliyasun** 浮き浮きと和やかな．浮き浮きと親しみある〔彙：人浮浮和氣〕
Kūwaici 1. Mursa (泡子飾件) や Hitha (飾件) に合はせ，馬の鞦(しりがい)の端に取りつけた一邊圓くして一邊角の鐵片〔9.鞍轡二：斜飾件〕2. 踵をつけて歩く人．がに股の人〔16.殘缺：撇脚〕
Kūwaicidambi 踵をつけて歩く．がに股で歩く〔14.行走三：撇着脚走〕
Kūwak cak 棍棒を取つて打ち合ふ音〔14.聲響二：棍棒相打聲〕
— **cak seme** がさがさと(急率粗野にして誇張の體ある貌)〔18.鈍繆：粗率〕
— **cak seme arbušambi** そゝくさがさがさと得意氣に動きまはる〔彙：急快誇張粗形〕
Kūwala (皮などを) 剝ぎ取れ．めくり取れ〔26.剖解：揭〕
— **ihan** 乾草色の牛．淡黃色の牛〔32.牛：淡黃牛〕
Kūwalabumbi (皮などを) 剝ぎ取らせる．めくり取らせる〔26.剖解：使揭開〕
Kūwalaci 毛をこすり取つて皮の出た處〔24.皮革二：磨毛皮板〕
Kūwalambi (皮などを) 剝ぎ取る．めくり取る〔26.剖解：揭開〕
Kūwalar seme 1. 和親の氣分の明らかに現はれたる貌〔11.親和：饗快樣〕2. 端的明朗に物言ふ貌〔14.言論四：直爽〕
— **seme gisurembi** はつきりと云ふ．明らさまに語る．隱さずに言ふ〔彙：意不藏人卽說出〕
Kūwang くゎん．がん (爆發の音)〔14.聲響三：大爆竪聲〕又木器等を敲く音〔14.聲響四：敲木聲〕
— **cang** どんちやん (大鼓銅鑼の同時に鳴り響く音)〔14.聲響三：鼓鑼齊鳴聲〕
— **seme** がんがんと (衆人に向つて大聲に喋る貌)〔14.言論四：大聲說〕
Kūwangtahūn 草も木も生えてゐない地所〔2.地輿二：廢地〕
Kūwar びりッ．びりびりッ (破れ綻びる音)〔14.聲響四：破綻聲〕
Kūwara megu 菌類の一種．Kūwara sence に同じ〔彙：野地圈着生的蘑姑色略白而淺綠〕
— **sence** 菌類の一種．野地に叢生し，色淡青色〔27.菜穀二：叢生蘑〕
Kūwarabumbi (獸が) 取り圍まれる〔9.畋獵二：獸被圈住〕取り卷かせる〔彙：使圈住〕
Kūwarambi 1. 取り卷く．圓く取り圍む〔彙：圈圍之圈〕2. 書き誤つた字の上に圓を書いて抹擦する〔7.書七：勾抹〕
Kūwaran 1. 兵士の宿舍．兵營〔8.征伐一：營〕2. 物料の製造及び收貯をなす工場〔20.部院一：局廠〕3. 墻壁にて圍繞したる處〔21.室家四：墻圈〕
— **faidan usiha** 星座の名．凡て六星，紫宮內華蓋星の下にあり，天帝の宮〔1.天文三：勾陳〕
— **i baita be heoledeme efujehe** 兵營の事務を廢弛した〔續.政事：廢弛營伍〕
— **i boo** 兵營の建物．兵舍．營舍〔19.

城廓：營房〕

Kūwaran i calu 綠旗營及び鎭守處の兵に給與する糧食を收貯する倉〔補2.衙署八：宮倉〕

— i da 兵營の長．營長〔彙：衆武官擧選爲首者〕

— i kunggeri 兵の會試殿試等を掌る役所，兵部に屬す〔補2.衙署三：營科〕

Kūwas ぐわつ，ばさり（木を切り斷つ音）〔14.聲響四：砍木斷聲〕ばたッ．ばッ（たか，わし等が翅で物を搏つ音）〔14.聲響六：兎鵲擊物聲〕

— his ぞろぞろ．べたりべたり（足地をひきづり歩く音）〔14.聲響二：脚擦地聲〕

— kis かすかす，ざくざく（稻麥などを刈り取る音）〔14.聲響四：割穀聲〕

Kūwasa 法螺吹き〔17.欺哄：誇張人〕

Kūwasadambi 無暗と大きなことばかり云ふ．法螺吹き立てる〔17.欺哄：混誇張〕

Kūwata kiti かたんかたん（硬い物を投げ飛ばした時の音）〔14.聲響一：擲硬物聲〕ごつんごつん．こととこと（此方にあたり彼方にあたる音）〔14.聲響四：亂碰聲〕

Kūwatar seme かたかたと（性烈しき馬の驚き走る貌）〔31.馬匹動作二：劣馬驚跑〕

Kūwatiki 一歳の熊〔31.獸二：一歳熊〕

Kūwatiri 奇獸の名．形熊に似て，小さく毛薄く光澤あり〔補4.異獸七：猛氏〕

K'

K'amduri 東方七宿の第二〔1.天文二：亢〕

L

La li seme さつさと．てきぱきと〔彙：不躭悞之意．陜陜〕

— li seme akū さつさとしない．てきぱきしない．滯つてゐる〔彙：遲滯．躭悞〕

Lab seme がぶがぶと．うのみにして（物も見ないで口一杯に頬張る貌）〔27.飮食三：滿口含著喫〕

Laba 樂器名．らつば〔彙：喇叭〕

Labari 1. 天蓋〔19.佛一：傘蓋頂幔〕 2. 木製の大酒盃〔25.器用三：大木酒盃〕

Labdahūn 唇の垂れた．垂れ唇の〔11.容貌四：唇下垂〕枝の垂れ下つた〔29.樹木七：枝葉下垂〕（馬の）耳や唇の垂れた〔31.馬匹肢體一：耳唇下垂〕

— suduli i fukjingga hergen 篆書體の名．務光，成湯の召に就かず，隱居し薤を種えて食ふ，時に清風薤の葉を吹き，葉交錯して文を成す，務光之に倣ひて此の字體を作りたりといふ〔補1.書三：倒薤篆〕

Labdu 多い．多大の〔25.多寡一：多〕博い〔彙：博學之博〕

Labdukan やゝ多い．些さか多大の〔25.多寡一：微多〕

Labdulambi 多くする．加へる〔25.多寡一：多加〕

Labdungge 多いもの．多いこと〔彙：多的〕

Labi 1. 戰船，戰車に用ひる防矢用の綿布〔9.軍器七：棉簾〕 2. 褥褥〔13.生

産：接子〕

Labsa 非常に足りない．大いに缺けた〔25.增減：很缺〕

— **ekiyehe** 非常に減つた．大いに減じた〔彙：凡物着實多減了〕

— **oho** 失望した．落膽した〔12.落空：失望〕

Labsambi 大いに雪が降る．紛々として雪片が舞ふ〔1.天文六：下雪片〕

Labsan 大きな雪片．わたゆき〔1.天文六：雪片〕

Labsari ilha 奇花の名．色雪白，枝端に累垂し，蕊鼓起して脂玉の如きものあり〔補3.異花四：垂雪花〕

Labsihabi 1.（油などで）衣服がすつかり汚れた〔18.邋遢：衣盡油汚〕2.滿身かさの出た．汚いかさだらけになつた〔彙：瘡遍身了〕

Labsimbi 1.辨へもなく何でも喋り散らす〔14.言論三：亂說〕2.何でも手當り次第に食ふ．意地汚く食ふ．がつがつと食ふ〔27.飮食三：吞嗜喫〕〔32.牧養一：狗嗒拉食〕3.からだ中にかさが出る．滿身かさだらけになる〔彙：瘡遍身〕

Labsime jembi 犬が大急ぎでがつがつと食ふ〔彙：狗急急的亂吃食〕

Labta labta ぼろぼろに．こまごまに〔25.破壞：片片精破〕

Ladu （豚皮などで作つた）矢筒．えびら〔9.撒袋弓靫：箙桶〕

Ladurambi 爭つてひつぱる．爭つて引き抜く〔15.拿放：爭扯〕

Lafihiyan 1.やゝ肥つた人．小肥りの人〔11.容貌六：略笨〕2.氣力のない人．意氣地ない人〔17.懦弱二：拙笨〕

Lafu sogi はくさい〔27.菜蔬一：白菜〕

Lagu おくりかんきり〔32.蟲二：喇喇蛄〕

— **yoo** 頭に出來る大きなかさ〔16.瘡膿一：螻蛄瘡〕

Laha 1.壁土を粘着さすため壁の下地にくゝりつける草〔21.室家四：掛泥草〕2.魚名．頭扁たく口大に，尾邊細くして鱗無し，大なるものは一等に及ぶ〔32.河魚二：淮子〕

Lahari 樹名．ははその木に似て小さく背低し，枝葉垂る〔29.樹木四：婆羅樹〕

Lahin 繁く煩はしい．煩瑣な〔5.繁冗：煩瑣〕

-- **tabumbi** 人を窮屈な目にあはす．人をしばり難儀さす〔16.折磨：給小鞋穿〕

— **taha** 窮屈な目に合はされた．煩はされた．かゝりあひにされた〔5.繁冗：被牽累〕

Lahū 殺生の下手な者．弓の下手なもの．綳の下手なもの〔22.打牲：不撈牲〕

Lahūta しろなかつかみ〔30.鳥四：白超〕

Laidabumbi 非を他になすりつけさせる〔5.詞訟一：使誣賴〕なすりつけられる〔彙：被賴〕

Laidakū 1.常に人にたよる子供．人に賴りかゝつてばかりゐる子供〔10.老小二：肯撒賴〕2.鳥名．頭尾青く胸白く濕地に棲息す〔30.鳥十：打穀鳥〕

Laidambi 1.己が非を他になすりつける〔5.詞訟一：誣賴〕2.小兒や老人があちこちと泣き廻る〔10.老小二：撒賴〕3.圖々しく振舞ふ．厚顏しくやる〔18.兇惡一：賴〕

Laifa のあづき．ひめくず〔29.草三：澇豆〕

Laifarakabi 疲れてぐつたりしてしまつた．ぐんにやりとした〔15.疲倦：軟倒〕（草花などが）萎れ倒れた〔29.花六：蔫倒〕

Laifū 圖々しい人．圖太い人〔18.兇惡一：賴皮〕人に賴る子供．ひどく甘へる子供〔10.老小二：賴皮子〕

Laifūn 無賴漢．强迫者〔18.兇惡一：光棍〕

Laifūšambi 1.無賴をはたらく．强迫する〔18.兇惡一：闖光棍〕2.小兒がひどく泣き廻る〔10.老少二：放刁〕

Laifūtu 遊び人．やくざ．與太者〔18.兇惡一：泥腿〕

Laifūwa 〔彙：與 Laifū 同〕

Laju 1. 肥滿した．太つた〔11.容貌六：笨〕2. 荷駄を澤山積み込んだ．大荷物の〔32.騎駝二：壘壘〕
Lajukan 1. やゝ肥えた〔彙：略腦〕2. やゝ多く荷を積み込んだ．やゝ大荷物の〔彙：略沉重多〕
Lak se 早くせい！．急げ！〔12.催逼：爽利著些〕
— **seme** 丁度よく．丁度うまく．ぴたりと〔彙：適中．恰好．剛剛〕
Lakacan nisiha 魚名．身黑く頭大なる有鱗魚〔32.河魚三：大頭釘〕
Lakca nimaha 魚名．頭は Laha（淮子魚）に似，鱗無し，肚大きくして碗の如き形をなし，長さ一尺四五寸，色黃〔32.海魚一：大肝魚〕
Lakcabumbi 斷つ．切斷する〔25.斷脫：使斷〕
Lakcahabi 食糧などが斷絕した．絕えた〔13.饑饉：斷絕了〕
Lakcambi 1.（食糧財物などが）斷絕する．絕える〔13.饑饉：斷絕〕切斷する．切れる〔25.斷脫：斷〕2. 群を拔きんでる〔彙：出衆超群〕
Lakcan 文章の一區切り．一段落〔7.書三：讀〕切れ目．斷絕〔18.散語五：斷絕〕
— **akū** 切れ目がない．斷たれてゐない〔彙：沒有斷〕
— **i sirabun** 音律の名．十二律呂の一〔7.樂二：無射〕
Lakdahūn（穗などが）下向きに垂れた〔21.農工三：往下垂着〕垂れ下つた〔26.拴結：搭拉着〕
— **oho** 下向きに垂れ掛つた．下向きになつた〔彙：往下掛垂着了〕
— **tuheke** 下向きに垂れ掛つた〔彙：往下垂掛了〕
Lakdahūri 滴るやうに垂れ下つた〔21.農工三：滿滿垂下〕大勢が只一人につながりかゝつた〔彙：衆人將一人繫拿下〕
Lakdari うまく手にひツかゝる〔15.拿放：恰好碰着〕網の中にうまくかゝる〔22.打牲：恰好打住〕
— **nambuha** うまく手中にひツ摑まれた．むんずとばかりに摑まれた〔彙：凡物忽然恰好被拿遭到手裡〕
Lakiya 吊せ．掛けよ〔26.拴結：掛上〕
Lakiyabumbi 1. ひどく窮乏する．甚しく逼迫する（窮乏甚しくして目を吊り上げさす）〔13.貧乏：空乏〕2. 吊るさす．懸さす〔26.拴結：使懸掛〕
Lakiyaha ulmengge fukjingga hergen 篆書體の名．漢の曹喜作る所，筆畫細くして末端針の如きものあり〔補1.書四：懸針篆〕
Lakiyakū hacuhan 吊り鍋〔25.器用四：掛鍋〕
Lakiyambi 吊るす．掛ける〔26.拴結：懸掛〕
Lakiyangga hangse 細條にして掛け乾しにした麵〔27.飯肉四：掛麵〕
— **huwejehen** 書畫幀子畫等の壁掛け〔26.間隔：掛屏〕
Lakiyari monio をながざる〔補4.獸二：雌〕
Laku 厚い綿入れの股引〔24.衣服二：厚棉褲〕
Lala 1. 末にあるもの．終尾．末尾〔7.數目二：末尾〕2. 賭戲に於いて最後の順番にあるもの．びき〔19.賭戲：末家〕3. きびめし．高粱飯（蒸したるもの乾かしたるもの共にいふ）〔27.飯肉一：黃米飯〕4. 伐り株．ひこばえ〔彙：蘗〕
— **buda** 蒸しめし〔彙：蒸飯〕
— **juhe efen** 糯米をあしの葉に包み蒸したるもの〔27.餑餑一：糉子〕
Lalaha 骨なし．意氣地なし〔17.懦弱一：不骨立〕
Lalahūn（絹布など）ぐにゃりやとして堅さの無い〔23.布帛六：蔫軟〕
Lalanji 1. 非常に軟い〔28.軟硬：狠輭〕疲れてぐったりしてしまつた．ひどく疲れた〔15.疲倦：軟癱〕非常に軟く煮えた．どろどろになつた〔27.飯肉三：狠爛〕2. だらだらと繰返し繰返し（話をした）〔18.完全：屢屢的〕
— **henduhe** 繰り返し繰り返し話をした．だらだらと話をした〔彙：反覆重重說了〕

Lalanji oho こなごなに碎けた〔25. 破壞：爛了〕非常に軟かくなつた〔彙：凡物狠軟了〕疲れて手足のぐつたりのびた〔彙：乏倦了手足鬆散了〕
Lali 夙く．さつさと．氣持よく〔12. 催逼：爽利〕
Laliha 餓え衰へた．饑餓衰弱してしまつた〔13. 饑饉：餓壞了〕
Lalin 1. 爽快な．てきはきした〔11. 德藝：爽快〕2. 吉林省内の地名〔續2. 地輿：拉林〕
Laluri dudu かんこどり．かつこどり〔補4. 鳥九：鷾鷖〕
Lama 喇嘛僧〔10. 人四：喇嘛〕
— **niyehe** 野鴨の一種．羽黃色〔30. 鳥八：土鴛鴦〕
Lampa 冗雜の．混雜した〔5. 繁冗：冗雜〕
Lampari 崑崙山の西に出づる奇獸の名．直腸にして食物は直ちに排出す，形狗に似たり〔補4. 異獸七：渾沌獸〕
Lamu orho 藍草．藍をとる草〔29. 草三：藍〕
Lamudai Garunggū (鸞)の別名〔補4. 鳥一：青鳳〕
Lamukan 稍々藍色の．淺い藍色の〔23. 采色二：淺藍〕
Lamuke 小鳥の名．雀程の大きさにして頸の下の毛藍色〔30. 雀五：藍靛頸〕
Lamun 藍色．藍色の〔23. 采色二：藍〕
— **bojiri ilha** えぞぎくの花〔補3. 花：藍菊花〕
— **cecike ilha** 蘭の一種〔補3. 異花五：藍雀花〕
— **funggala** 藍色の羽を戴きたる侍衞，王の第二等侍衞より以下，八分公の侍衞に至るまでは皆藍翎を戴く〔4. 臣宰七：藍翎侍衞〕
— **funggala be boro de hadambi** 藍色の羽毛飾を凉帽に取りつける〔彙：凉帽上釘藍翎〕
— **garudai** 藍色の鳳〔補4. 鳥一：羽翔〕
— **gūwasihiya** あをさぎ〔30. 鳥一：青鷺〕
— **hoohan** 春の羽藍色のさぎ〔30. 鳥二：青莊〕
— **lahūta** くろなかつかみ〔30. 鳥四：黑超〕
— **muheliyengge gu** 祭天に用ひる玉器．藍色圓平にして中央に孔あり〔6. 祭祀器用一：蒼璧〕
— **narhūngga holbonggo hoošan** 藍色に染めたる抬連紙 (Holbonggo hoošan)．表具に使用す〔7. 文學什物一：藍抬連紙〕
— **samusu** 藍染めの亞麻布〔23. 布帛六：藍扣布〕
— **ulgiyan cecike** かはせみの類．羽鮮青色，採つて首飾りとする〔30. 雀三：翠鷁〕
Lamurcan 鳥名．灰鶴に似て高さ三尺餘，庭園に飼養す〔30. 鳥一：藍〕
Lamurhan 青い斑紋のあるさぎ〔補4. 鳥三：青翰〕
Lan あいの草〔彙：靛草〕
— **gaimbi** 話しに證據を求める．ぎりぎりの決着まで求める〔14. 言論二：討憑據〕
Lang lang seme もぐもぐと (口一杯に頬張り食ふ貌)〔27. 飲食三：搶著滿口喫〕
Langca 紫色の寶石〔22. 貨財一：碧琉私〕
Langgabumbi 他所に行つた儘，困迫歸り來られない樣にされる〔5. 官差：被羈絆〕逗留させる．逗留さゝれる〔彙：使淹滯逗遛．被淹滯逗遛〕
Langgambi 他所に行つた儘，困迫して歸つて來られない〔5. 官差：羈絆〕滯留する．逗遛する〔彙：淹滯逗遛〕
Langgū 瓜の一種．味甘くして柔かく煮て食ふ〔27. 菜穀一：倭瓜〕
Langju 重量の一單位名．忽 (Niše) の十分の一〔22. 衡量二：微〕
Langka あしの穗〔29. 草二：蘆花〕
Langlai まろ虫．くそむし〔32. 蟲二：蜣螂〕
Langse 風體の汚い．風體不潔の〔18. 邋遢：邋遢〕潔淨ならぬ〔彙：不潔淨〕猥褻な言語．穢い言葉〔彙：褻語．汚穢之詞〕

Langse moo 車底前後の横木〔26.車輛一：車前後梢樸〕
Langsedambi 汚穢な話をする〔14.言論三：說村話〕汚穢なことをする〔18.邋遢：作邋遢事〕
Langtanahabi 頭の大きい人〔11.容貌二：頭大〕
Langtu 錬鐵用の大鐵槌．玄翁〔22.工匠器用一：鐵榔頭〕
Langtungga 頭の大きい．大頭の〔11.容貌二：大頭〕〔25.諸物形狀三：頭大〕
Lar lir seme 1. 澤山に．どつさりと（ものゝ多い貌）〔25.多寡一：繁盛〕2. べつたりと（膠や糊の粘着する貌）〔26.膠粘：黏糊糊的〕
— **seme** 1. くどくどと（話をする）〔14.言論四：話累贅狀〕2. べたりと（粘着する）〔26.膠粘：黏〕ねつとりと．ねばねばと〔28.生熟：濃稠〕
— **seme dalhūn** べつとりと粘着する，きゆつとひつゝく〔彙：膠糊狠黏〕
Larbahūn ぐつたりとして眠りこける〔15.睡臥一：軟癱睡臥〕
Largikan 些さか煩雜な．稍々繁多の〔5.繁冗：稍繁〕
Largin 煩雜の．繁多な．輻輳せる〔5.繁冗：繁〕
Larhūn 甘藷．さつまいも〔28.果品三：蒋薯〕
Larin 駑馬〔補4.諸畜二：駑〕
Larsen 食物の堅くない〔27.飲食二：麵淡〕
Larsenda やまのいも〔27.菜殽二：山藥〕
Larturi みやまべら．いしやだをし〔29.草三：山豆〕
Lasan 背式骨（Gacuha）を遊んで二度目に投げた時，數に滿たなくとも，も一度投頭することと〔19.賭戲：淨手錢〕
Lasari 枝葉垂れ茂つた．こんもりとした〔29.樹木七：枝葉垂蓋〕
— **moo** 枝の垂れ茂つた木〔彙：樛木〕
— **šufatu** 後に糸總を垂れた古昔の冠〔補1.古冠冕三：卑隸巾〕
Lasarinahabi 枝葉四方に垂れた．枝葉美事に繁つた〔29.樹木七：枝葉四垂〕
Lasha lasha 一と切れ一と切れ．一片一片〔彙：一斷斷〕
Lashajame 折斷して．二つに折れて〔彙：自斷之〕
Lashala 截斷せよ．斷ち切れ〔25.斷脫：截斷〕
Lashalabumbi 截り開かす．斷ち開かす〔25.斷脫：使截斷開〕截斷させる〔26.截砍：使截斷〕
Lashalaha ulabun 易經內の卦義を斷定する文〔7.書四：彖傳〕
Lashalambi 決斷する．裁斷する．裁決する〔5.辦事二：決斷〕斷開する．斷ち開く〔25.斷脫：截斷開〕截斷する．斷ち截る〔26.截砍：截斷〕
Lashalame icihiyambi 事を決斷處理する〔彙：凡事決斷辦理〕
Lashalan 決斷．裁斷〔5.辦事二：斷〕
Lashangga jahūdai 淺瀨を航行する船〔26.船二：瀨子船〕
Lashatai 決然と．斷然と〔26.完成：決然〕
Lasihibumbi 1. 叩きつけられる．叩きつけさす〔彙：被摔．使摔〕2. 行書で字を書かす〔彙：使寫行書字〕
Lasihidabumbi 叩きつけて伴れて行かれる〔15.責備：被摔拽〕
Lasihidambi 人を叩きつけて伴れて行く〔15.責備：摔拽〕
Lasihikū 1. 搖り太鼓を掛けて搖る台木〔7.樂器三：鼓鼕〕2. 長短二樣の棒を環にて連結し振り舞はして敵を叩くもの〔9.軍器六：梢子棍〕
— **tungken** 搖り台に掛けた小太鼓．搖り太鼓〔7.樂器一：搖鼓〕
Lasihimbi 1. （角力の際）左右構はずぐるぐる廻りする〔8.撩跤一：混輪〕2. 行書で字を書く〔彙：行書寫字〕
Lasihime arambi くずし字を書く．行書する〔7.書七：寫草字〕
Lasihire hergen くずし字〔7.書八：草字〕
— **jangkū** Jangkū（大刀）の柄の長いもの〔9.軍器六：挑刀〕
Lata （人，馬などの）遲鈍な．遲い．慢り

な〔12.遲悞：遲鈍〕〔31.馬四三：馬遲鈍〕

Lata jata 徐徐たる人．及ばざる人〔17.懦弱一：無能耐〕

— moyo 遲鈍の．駑鈍な〔17.懦弱一：駑鈍〕

— moyo erdemu akū 遲鈍にして才無き〔彙：駑鈍無才〕

Latakan 稍々遲き．少々遲鈍な〔12.遲悞：略遲鈍〕

Latihi 蓆の破れ片〔24.鋪蓋：破蓆片〕

Latubuha afaha 發送書の事類性質を書きて，其書の後に貼付せし紙片〔5.事務三：粘單〕

Latubukū 鳥を捕へる黏竿〔22.打牲器用三：黏杆子〕

Latubumbi **1.** 貼りつける．粘貼する〔26.膠粘：粘貼〕**2.** 犯される．姦淫される〔彙：被姦〕

Latukū sogi 野菜の名．葉粗にして刺あり，黃花を開く，煮て食ふ〔27.菜殽二：刺兒菜〕

Latumbi **1.** 衣服が垢じみ汚れる．汚いものをなすりつけられる〔18.邋遢：沾汚〕**2.** 粘着する．へばりつく．貼りつく〔26.膠粘：粘〕**3.** 犯す．姦淫する．けがす〔彙：犯姦〕

Latunambi 行つて侵犯する．犯しに行く．邪魔に行く〔15.侵犯：去侵犯〕

Latungga 節介やき．出しやばりの人〔15.侵犯：好攪事〕

Latunjimbi 來て侵犯する．犯しに來る．邪魔に來る〔15.侵犯：來侵犯〕

Layahabi 〔彙：與 Layakabi 同〕

Layakabi (花が) 萎れた．(枝が) 枯れかゝつた〔29.花六：蔫了〕

Layabumbi 軟かくする〔彙：使軟〕

Layambi (苗などが) 萎れる．枯れかゝる．軟かくなる〔彙：苗稿了之稿．軟了〕

Le la seme ぞろぞろと (衆人往來の貌)〔18.完全：衆人往來〕

Leb seme つと．つかと．がばと (思はず手に取り又は抱きつく貌)〔15.拿放：眼冷拿住〕

Lebdehun 疲れ氣抜けした．力の抜けてしまつた〔15.疲倦：乏的獃了〕ぼんやりした．愚かな〔17.懦弱一：獃獃的〕

Lebderekebi ぼんやりしてしまつた．呆けてしまつた〔17.懦弱一：發獃〕

Lebenggi 低地のぬかるみ．Lebenggi ba に同じ〔2.地輿二：陷窩〕

— ba 低濕地．低いぬかるみの地．泥窪地〔2.地輿一：陷泥地〕

Lebkidembi Lekidembi に同じ〔8.撩跤一：撲拿〕

Leder seme ふわりと．ふわふわと (箭或ひは鳥などが緩く飛ぶ貌)〔8.步射二：箭去的遲〕〔30.飛禽動息一：飛的慢〕

Lefu くま〔31.獸二：熊〕

— šan さはをぐるま．さはぢしや〔29.草四：狗舌草〕

Lefungge hada hoton 盛京の南方にある城の名〔續2.地輿：熊岳城〕

Lehebumbi **1.** 一旦取得して後又更に爭つて求めさせる〔18.貪婪：使爭索〕再び又告げさせる〔彙：使又告〕**2.** 後悔させる〔彙：使悔〕

Lehele 私生兒．父無し兒〔16.咒罵：野種〕

Lehembi **1.** 裁決不服で又訴へ出る．再上告する〔5.詞訟一：事結復告〕物を得て後又更に爭ひ求める．求めたが上にも求める〔18.貪婪：得後爭索〕**2.** 後悔する．悔いる〔彙：反悔之意〕

Lehendumbi Lehenumbi 衆人が一度物を得て後重ねて又一齊に爭ひ求める〔18.貪婪：齊爭索〕衆人齊しく後悔し又は再上告する〔彙：衆人齊又爭悔又告〕

Lejirhi Ujirhi (貍) の別名〔補4.獸二：狸〕

Lekcehun (凡て軟いものが上からだらりと垂れて) 見透しのきかぬ〔26.間隔：軟物垂遮〕

Lekde lakda **1.** べつたりと (人の後離れず隨ひ行く貌)〔14.行走四：胖人隨行〕**2.** ぶらぶら．だらだら (衣服の破れの條々垂下したる貌)〔25.破壞：衣破下垂〕**3.** ぶらり．だらり (果物等

の垂れ下つた貌)〔29.樹木七：滴溜搭拉〕

Lekdehun ものが上から垂れて遮蔽せる．垂れ隠せる〔26.間隔：垂遮〕

— **dalibuha** ものが上から垂れて遮蔽した．垂れ隠した〔彙：凡物從上特特徃下遮攩〕

Lekdereke 亂れ髪の．よもぎの様な頭をした〔彙：髪亂蓬頭〕衣服亂れた〔彙：衣服亂〕Lekderekebi に同じ

Lekderekebi 蓬頭垢面の．身容亂れ整つてゐない〔18.邋遢：蓬頭垢面〕

Lekderi niongniyaha Ganggari niongniyaha (鵝) の別名〔補4.諸畜一：舒雁〕

— **niyehe** 鴨の別名〔補4.諸畜一：舒鳧〕

Leke 1. 砥石〔2.地輿六：磨刀石〕2. 砥石型の蒸し團子〔27.餈糍二：扁條〕3. 刀を砥にかけよ．磨け〔彙：令磨刀〕

Lekebumbi 刀を砥にかけさす．刀を磨かす〔26.鋟磨：使磨刀〕

Lekembi 刀を砥にかける．刀を磨く〔26.鋟磨：磨刀〕

Lekerhi らつこ．あざらし〔31.獸五：江豬〕

Lekerhin あしか．とど〔32.海魚一：海驢〕

Lekidembi (角力の時) 手足を擧げ動かす〔8.撩跤一：撲衆〕手足を擧げて舞ふ〔彙：舞時擧手舞之擧〕

Leksei 一齊に動く．一齊に動いて〔18.完全：齊裏〕

Leli 1. 土地廣々とした．廣濶の〔2.地輿二：寬廣〕2. 胄の胸あて〔9.軍器一：護甲〕

Lempen 家畜用の蓆の日覆ひ〔32.牲畜器用一：棚〕凉み棚．日除け棚〔彙：蓆蓋乘凉的天棚．草凉棚〕

Lempi 若か白髪〔彙：少年白髪．黒髪中有白髪〕

Lempinehebi 若か白髪のある〔11.容貌八：天老〕

Len 非常に大きい．壯大な〔25.大小：壯大〕

— **coko** 雞二十二名の一〔補4.諸畜二：倉鷄〕

Lenggeri 大ねずみ．兎大の鼠〔31.獸七：碩鼠〕

Lenggetu 古夏の禮帽の名〔補1.古冠冕二：母追〕

Lengken 稍々壯大な〔25.大小：略壯大〕

Lenglen langlan seme だらだらと．ぶらぶらと (行動怠慢の貌)〔17.怠慢迂疏：擧動懶散〕

Lengseki 不恰好に肥つた人．ぶた肥えの人〔11.容貌六：粗笨〕ぶくぶくと不恰好な．精緻でない〔25.諸物形狀三：壘堆〕

— **akū** 不恰好ではない．精緻な〔彙：凡物精緻〕ぶよぶよと肥えず，すばしこい人．伶俐な人〔彙：不肥胖蠢笨伶俐的人〕

Lengtenehebi 甚しく不恰好に肥えた〔11.容貌六：甚粗笨〕

Leole 論ぜよ．議論せよ〔彙：令人發論〕

Leolebumbi 議論させる．談論させる〔14.言論一：使論〕

Leolembi 議論する．談論する〔14.言論一：談論〕

Leolen 論文．議論文〔7.書二：論〕議論．談論．論議〔14.言論一：論〕

— **gisuren** 書名〔7.書一：論語〕

Leolendumbi Leolenumbi 共々に議論する．彼此互ひに論議する〔14.言論一：共論〕

Leombi 武を輝かす．威武を示す〔8.征伐三：耀武〕馬上で仕草を演ずる．馬上劍を舞はす〔彙：馬上戲要．馬上舞刀之舞〕

Leose 城樓．樓閣．樓〔20.宮殿：城樓〕

Ler biyar seme ぞろりぞろりと〔14.行走四：衆人緩行狀〕

— **lar seme** Ler biyar seme に同じ〔14.行走四：衆人緩行狀〕

— **seme** 1. どつしりと (人の重厚なる貌)〔11.厚重二：沉重樣〕2. ぶきぶきと．むくむくと．あをあをと (草木肥えて美事なる貌)〔29.樹木九：草木豐

美〕
Ler seme agambi しとしとと雨が降る．細々と降る〔1.天文五：細雨〕
— seme banjihabi 草木ぶきぶきと生ひ育つた〔彙：草木生的肥美好看〕
Lergiyen 度量寛大の．心志廣濶な〔11.性情二：濶大〕
Lesumbi （鳥が）地に擦れ擦れに飛ぶ〔30.飛禽動息一：擦地慢飛〕（馬駝が）疾走する〔31.馬匹馳走一：駝疾走〕
Lesume šodome 走りに走り．馳けに馳け〔彙：馬行不止之貌．馳馳〕
Lete lata 1. ぴよくぴよくと．つぎつぎに（遅れて後から繼ぎ繼ぎにやつて來る貌）〔15.去來：累墜〕2. 澤山．どつさり（荷駄の大いに重多なる貌）〔32.騎駝二：行李壘頹〕
Letehun 上半身の大きい〔11.容貌六：上身寬大〕上大きく下の窄んだ．上ひろがりの〔25.諸物形狀三：上扎〕
Leyecun 章なく節つけ歌ふもの．歌謠〔7.書二：謠〕
Li 數量の單位名．厘〔彙：毫厘之厘〕
Lib seme ぶすりと．ぐさりと（鎗が獸に刺き入る貌）〔9.畋獵三：刺入狀〕
Libki 鞭をあて過ぎた馬．鞭をあてゝ疲らしてしまつた馬〔31.馬匹三：疲馬〕
Libu 重量の單位名．Lanju（黴）の十分の一〔22.衡量二：沙〕
Licise 形彈丸の如き奇果の名〔補3.異樣果品三：薊齊子〕
Lidu みどりまめ〔28.米穀二：菉豆〕
Lifa （敵軍中に）深入して．深入せる〔8.征伐四：深入〕（箭が）深く突き入る．深くあたる〔9.畋獵三：深中〕刃深く斬り込んだ〔彙：凡鋒刃插戳透了〕
— dosika 敵營中深く進入した．敵陣深く斬り込んだ〔彙：透進敵營人群了〕
— gidalaha 鎗先深く突きさした〔彙：鎗戳透了〕
Lifabumbi 水泥中に陷す〔彙：凡物使陷於水泥之陷〕泥中に陷される〔彙：被陷於泥〕
Lifadambi （泥濘中に）少しはまり込む〔2.地輿二：略陷〕
Lifahan 泥濘．ぬかるみ〔2.地輿二：爛泥〕
— cifaha ぬかるみ〔彙：泥濘．泥陷〕
Lifahanahabi ぬかるみになつて．泥濘地になつた〔2.地輿二：成了泥〕
Lifakū 通行出來ぬ程の深い泥濘地〔2.地輿二：陷泥〕
Lifambi 泥濘中に陷る〔2.地輿二：陷〕
Lifan 1. 易卦の名〔7.書四：坎〕〔補1.書一：坎〕2. 酒，油等を榨るとき下に受けおく溝つきの石．木製のものもあり〔25.器用六：打油榨酒石接盤〕
Lifarakū 泥濘中に陷らぬ〔彙：不濘．不陷〕
Limati talfa 盛京界內の一地名〔補1.地輿一：溜馬汀〕
Ling cing ni baita be ejehe yohibun 書名〔續.書：臨淸紀略〕
Ling seme どつしりと（物の重い貌）〔32.騎駝二：沉重〕
Lingdan 藥名．靈丹の藥〔彙：靈丹乃藥之靈丹也〕
Lingge 功績あること．功績あるもの〔12.黽勉：烈〕
Lingse あや絹〔彙：綾子〕
Lingsika 虎の別名〔補4.獸一：李耳〕
Lio kio gurun i kuren 琉球國人を宿泊せしめ又琉球國の文書を學習する館〔20.部院十一：琉球館〕
Lioho しろやなぎばへ〔32.海魚二：白鰷魚〕
Lioi 律呂．音律〔彙：五音六律之律〕
Lir liyar seme べたべたと．べたりべたりと（大いに粘る貌）〔26.膠粘：很黏〕
Lirha 南方七宿の第三〔1.天文二：柳〕
Lirling 桑山に出で形牛の如くして虎紋を有する奇獸〔補4.異獸三：羚羚〕
Liyar seme べつとりと（幾分黏り氣のある貌）〔26.膠粘：略黏些〕〔28.生熟：稀黏〕
Liyeliyebumbi 昏迷させる．迷はせる〔5.繁冗：致惛迷〕
Liyeliyehun 迷へる．昏き〔17.愚昧：昏憒〕暈ひせる．迷暈の〔彙：暈迷〕

Liyeliyembi あはてふためき前後の見さかひもつかぬ樣になる．惛迷する．迷ふ〔5.繁冗：惛迷〕暈ひする．目が昏む〔彙：人頭發迷發暈眼花〕
Liyeliyen ilha 桔梗〔補3.異花三：悶頭花〕
Liyeliyendumbi Liyeliyenumbi 衆人一齊に昏迷する．衆盡く迷暈する〔彙：衆齊迷暈〕
Liyeliyešembi しきりと暈ひがする〔彙：只管迷暈〕
Liyoliyo Yoyo に同じ〔15.鄙薄：笑人無能〕
Liyoo〔彙：馬糧〕
Liyooha antu 地名〔續2.地輿：遼陽州〕
— **bira** 河名〔續2.地輿：遼河〕
Lo 1. 樂器の名．どら〔彙：金鼓之金．鑼〕2. 絹布の名〔彙：紗羅之羅〕
— **la seme** はからずも．ゆくりなくも〔15.遇合：恰遇見〕
— **la seme acaha** はからずも遇つた．ゆくりなくも出くはした〔彙：無意中忽然遇着了〕
— **suje** 薄くして輕い絹織物の一種〔彙：秋羅〕
Lobi 無暗と食ひ意地の張つた人．食ひしんぼう〔27.飲食三：甚饞〕餓鬼〔彙：饞鬼卽 Lobi hutu 也〕
— **hutu**〔19.鬼怪：餓鬼〕
Lobitu 奇獸の名．鉤吾山に出で，羊身人面，人の指，目，腋窩等の所より生れ出で，人を食ふ〔補4.異獸二：狍鴞〕
Lodan 鹿，牛などの背式骨（Gacuha）〔19.戲具一：鹿牛背式骨〕
Loho 腰帶して戰陣護身の用に供する刀〔9.軍器六：腰刀〕
Lohobumbi 大いに困しむ．窮迫する〔13.貧乏：困住〕
Lohū usiha 星の名〔1.天文二：羅睺星〕
Lok seme ばつたりと．突として（出會ふ）〔15.遇合：忽遇合〕
— **seme agaha** 忽然雨が降り出した〔彙：忽然下雨了〕
— **seme ucaraha** 忽然遇うた．ばつたり出會つた〔彙：忽然間遇着了〕
Lokdi Lukdu に同じ〔29.樹木六：稠密〕
Lokdo lokda どたりばたり（肥滿した人の走り得ぬ貌）〔14.行走四：胖笨〕
Lokdohon 獨り靜坐して．獨坐せる〔14.坐立一：獨坐〕
Lokdori ぴたりと．丁度うまく（到着する）〔15.去來：正遇着〕
Loksimbi 出鱈目を言ふ．とりとめもないことを話す〔14.言論三：傻說〕
Loksinahabi 肥えて顏面の大きな人（嫌惡して言ふ語）．面憎い人〔11.容貌六：胖臉寬大〕
Loksobumbi 懊惱させる．懊惱させられる〔13.愁悶：懊惱〕
Loli fodoho しだれやなぎ〔29.樹木三：垂楊柳〕
— **fulana ilha** ゆすらうめの木に接植したる海棠の樹．此の海棠は花枝細長く櫻桃樹の如く垂れ開く〔29.花二：垂絲海棠〕
Lolo 豚の背式骨（Gacuha）〔19.戲具一：猪背式骨〕
— **seme** ぶつぶつと．ろくでもない（詰らぬことを喋り散すを嫌惡して形容する言葉）〔17.懦弱一：瑣屑〕
Lomi 古米．ひねごめ〔彙：老米〕
Lomikte 寶石の名．Simikte（猫青）のうちに光さへざる惡石〔22.貨財一：碌子〕
Long long seme Long seme に同じ〔17.愚昧：只管亂說〕
— **seme** 口から出儘せにべちやくちやと〔17.愚昧：只管亂說〕
Longko 銅製の鍋〔25.器用四：鑼鍋〕
Longkon 銅鑼．どら〔7.樂器一：鑼〕
Longsikū 出鱈目を話す人．とりとめもないことを云ふ人．妄談する人〔17.愚昧：妄談人〕
Longsimbi 口から出儘せのことをいふ．妄談する〔14.言論三：嘮叨〕
Longto Eite に同じ〔32.牲畜器用二：籠頭〕
Longtolobumbi 馬勒(ばく)をかけさせる〔31.套備馬匹：使帶籠頭〕

Longtolombi 馬勒(ばく)をかける〔31. 套備馬匹：帶籠頭〕
Loo 〔彙：牢獄〕
Loombi (狼や犬が) 吠えまはる. 大聲に吠える〔14. 聲響五：狼狗號叫〕
Lor seme べちやくちや, べちやくちやと (話多くして竟に終らざる貌)〔14. 言論四：話不休歇狀〕
Lorbodo 三歳の鹿〔31. 獸三：三歳鹿〕
Lorin らば〔31. 馬匹二：騾〕
Lorlon 北海に出づる奇獸. 虎に似て色黒し〔補4. 異獸四：羅羅〕
Losa らば〔彙：騾子〕
Loshan 柳編みのかご. 鹽味噌野菜等を盛るかご〔25. 器用八：挹斗-〕
Loso 春さきに雨雪多くして耕作し難い田土〔2. 地輿二：極濕難耕地〕
Lostu jahūdai ロスト船〔26. 船一：羅子頭船〕
Lu šui muke 豆腐を造るにがり〔彙：做豆腐的滷水〕
Ludahūn 西方七宿の第一〔1. 天文二：婁〕
Ludur seme とろりと (大體黏りのある貌)〔28. 生熟：稀物稠黏〕
— **seme halhūn** むしむしして暑い. むつと熱い〔2. 時令八：潮熱〕
Lugiya hengke にがうり〔27. 菜殺一：稍瓜〕
Luhu 1. 鏃無く箭柄の先端を蕪狀にふくらました箭〔9. 軍器五：墩子箭〕 2. 鳥名. Cungur niyehe (油葫蘆) の別名〔補4. 鳥七：鷓〕
— **cecike** Karka cecike (水吭子) の別名〔補4. 雀四：蘆虎〕
Luhulebuhebi 傷して青く赤く腫れた〔16. 傷痕：浮傷〕
Luhulebumbi Luhu (墩子箭) を射さす〔彙：使射無鏃頭箭〕
Luhulembi Luhu (墩子箭) を射る〔8. 步射一：射墩子箭〕
Luju 重量の一單位名. Langju (微) の十分の一〔22. 衡量二：纖〕
Lujuri くろぎつねの皮〔24. 皮革一：黑元狐皮〕
— **dobi** くろぎつね〔31. 獸五：元狐〕
Luk seme halhūn むつと大いに暑い. 風無くして甚だ暑い〔2. 時令八：暑熱〕
— **seme talmaka** 濃霧が下りた. この Luk seme は濃霧が下りて薄暗いことを形容する語〔1. 天文四：下濃霧〕
Luka 猞猁猻(土豹) の仔〔31. 獸五：猞猁猻崽〕
Lukdu 草木稠密な. 生ひ茂れる〔29. 樹木六：稠密〕
— **lakda** だぶだぶ (肥滿した人の步行するとき肉の顫動する形)〔11. 容貌六：胖肉顫動〕ぶらぶら. ばたばた (馬に積んだ荷駄の垂れ下つたものが馬の步行に伴れて動搖する貌)〔32. 騎駄二：駄子滴溜搭拉〕
Lukduhun (鳥病みて) そゝ毛だてる〔30. 飛禽動息一：鳥疵毛〕
Lukdurekebi (鳥が病んで) そゝ毛だつた. 羽毛あれそゝけた〔30. 飛禽動息一：疵了毛〕
Luksimbi 腫物が膿んでうづく〔16. 疼痛二：跳膿疼〕
Luku 1. 毛の多い. 毛深い〔24. 皮革二：毛厚〕草木密に茂つた. 豐かに茂つた〔29. 樹木六：厚密〕 2. 毛蟲〔32. 蟲四：毛毛蟲〕
Lukuken 稍々毛深い〔24. 皮革二：毛略厚〕稍々茂つた. 稍々密生した〔29. 樹木六：略厚密〕
Lulu 凡庸の徒〔彙：碌碌人. 小氣小樣平常人卽 Lulu sere niyalma 也. 與 Lulu sere 同. Lutu seme 同〕
— **seme** 凡庸の徒. 碌碌たる人〔17. 懦弱一：碌碌庸人〕
— **lala** ぶつぶつ. だらだら (言語不明晰話の始終有らざる貌)〔14. 言論四：話無頭緒狀〕
Lumbabumbi 一面に塗抹される〔26. 膠粘：至于滿抹〕萬遍なく塗抹させる〔彙：使遍擦粘〕
Lumbambi 一面に塗抹する. 萬遍なくなすりつける〔26. 膠粘：滿抹〕
Lumbanahabi 泥垢などが一杯についた. 泥垢だらけになつた〔18. 邋遢：泥

垢糊滿〕

Lumbu 澱める．澱んで〔2.地輿十一：水流忽緩〕

— muke 澱んだ水．極く緩やかに流れる水〔彙：流的緩水〕

— oho 澱んだ．澱みになつた〔彙：大小水流來忽緩了〕

Lumburjambi 濕つた地が軟かに顫動する〔2.地輿二：地軟顫〕

Lunggu 雄の貂〔31.獸六：公貂〕

Lur seme どろりと（油などの濃い貌）〔28.生熟：稠濃〕

Lurgiken 些さか聲の濁つた．少々だみ聲の〔彙：略々粗謇聲〕

Lurgin 聲の濁つた．だみ聲の〔14.聲謇一：聲濁〕

Lurgišembi （聲變りして）だみ聲を出す．がらがら聲を出す〔14.聲謇一：倒腔〕

Lushun 身體の力抜けたる．力抜け疲れた〔15.疲倦：體疲乏〕

Lusu šobin 麥粉にくるみの實の餡を入れて燒きたる團子〔27.餑餑二：核桃仁餅〕

Lusukebi 大いに倦んだ．すつかり力が抜けた．疲れきつた〔15.疲倦：疲乏了〕

Lusumbi 疲れ衰へる．大いに疲勞する．弱る〔15.疲倦：疲乏〕

M

Ma ま，これを．ま，一寸（自分の手に執れるものを人に與へるときにいふ言葉）〔12.取與：使犂去的口氣〕

Mabu 碗皿等を拭く布．ふきん〔25.器用五：抹布〕

Mabula 布で拭へ．ふきんをかけよ〔6.灑掃：用布擦〕

Mabulabumbi 布で拭はせる〔彙：使抹．使揩〕

Mabulakū 木の端に布片れをつけて物の中を拭ふのに使用するもの〔25.器用五：抹机〕

Mabulambi 布で拭ふ．ふきんをかける〔6.灑掃：用布擦抹〕

Maca にら〔27.菜殽二：小根菜〕

— duha 馬や騾などの大腸〔27.飯肉二：版腸〕

Maci 馬のしりがひの根もとにつけた鈎形の鐵〔9.鞍轡二：轍根鈎鐵〕

Macibumbi （皮敷き，毛氈などを造るとき內側にまるめ込み）外側を伸ばさせる〔24.剪縫三：使平外面舒展〕

Macihi jafambi 靜坐する．持戒する〔19.佛二：坐靜〕

Macika ござ，むしろ等のへり〔24.鋪蓋：蓆邊〕

— arambi 魚や獸を捕る網の緣繩を造る〔彙：做魚網網繩．做歌網繩〕

Macimbi （皮敷き，毛氈などを造るとき內側にまるめ込み）外側を伸ばす〔24.剪縫三：平外面舒展〕

Macuha 〔彙：與 Macuhabi 同〕

Macuhabi 大いに痩せた．痩せこけた〔11.容貌八：很瘦了〕〔32.牧養二：已瘦了〕

Macumbi 痩せる〔32.牧養二：瘦了〕

Madabumbi 利息を生ます．殖やす〔13.當借：使生利息〕脹らす．膨脹させる〔18.濕潮：使脹〕

Madagan 利息．利子．利錢〔13.當借：利息〕

Madage 老人や小兒の背を叩いて愛撫する〔彙：手拍脊背疼愛老人家幷小孩子〕

Madambi 利息を生ずる．殖える〔13.當借：生利息〕脹れる．膨脹する〔18.濕潮：脹〕

Madangga 物の內部やはらかなるも，

手にて壓へ探れば,手ごたえするものあること〔25.諸物形狀二:宜〕

Madari uju 獸面にかたどり造つた釘かくし〔20.宮殿:獸面〕

Madasu 酵母. 麹のもと〔27.茶酒:引酵〕

Mafa 父より先代の人. 祖先〔10.人倫一:祖〕老人に對する尊敬の言葉. 爺樣〔10.老少一:老翁〕

Mafari Mafa の複數形. 祖先達〔10.人倫一:衆祖〕

— **miyoo** 〔彙:宗廟. 祖廟. 祠堂〕

Mafuta 雄の鹿〔31.獸三:公鹿〕

— **buhū** たゞ Mufuta といふに同じ〔彙:公鹿〕

Mager 野の草〔彙:野草〕

Mahala かんむり〔24.冠帽一:冠〕冬帽子〔彙:煖帽〕

— **elbeku** 雨天の際に使用する帽子の覆ひ〔24.衣服二:帽罩〕

— **gaha** 身大きく頭の白い鳥〔補4.鳥九:倉頭〕

— **ihan** 身體白くして頭の黑い牛. 又身體黑くして頭の白い牛(冠をつけた牛)〔32.牛:黑頭白身牛〕

— **maktame tuwambi** 帽子をとつて見る. 仰いで見る〔12.觀視一:仰面看〕

— **tukiyeku** 帽子臺. 帽子かけ〔25.器用八:帽架〕

Mahatu 禮裝の際使用する一種の冠. 上天子より下諸大夫に至るまで之を使用する〔補1.古冠冕一:冕〕

Mahatun 古人使用の冠. 古冠〔補1.古冠冕一:冠〕

Mahū 1. 鬼の面〔7.樂器三:鬼臉〕2. 皮で作り,顏から肩にかけて覆ひかけるもの〔24.冠帽一:皮馬虎〕

Mahūlabumbi 1. 辱しめられる. 恥をかゝされる〔17.羞愧:被給沒臉〕辱しめさせる. 恥をかゝせる〔彙:使羞辱〕2. 塗抹させる〔彙:使塗抹子〕

Mahūlambi 1. 塗抹する. 抹消する〔7.書七:塗抹〕2. 辱しめる. 面目を潰す〔17.羞愧:給沒臉〕

Mahūntu Elintu (大猴) の別名〔補4.獸二:馬化〕

Maigu Dutu に同じ. つんぼ〔16.殘缺:聾子〕

Maikan 柱を立て布を張り廻らした帳. とばり〔24.蘆屋帳房:帳房〕

Mailaci 蒲に似た小草の名. 其の細根を以て簑を作る〔29.草二:蒻〕

Mailan こんぎく〔29.草三:馬蘭草〕

— **i use** こんぎくの實〔29.草三:蘘實〕

Mailaru 罰あたり奴!〔16.咒罵:遭瘟的〕

Mailasun かしわ〔29.樹木一:柏〕

Maimadambi ひよろひよろとして歩く. 頭を振り肩をゆすぶり乍ら歩く(かかる歩き方の人を不愉快に思ふとき用ひる語)〔14.行走三:搖擺着走〕

Maiman 商賣. Hūda に同じ. Hūda maiman と連用す〔22.貿易一:買賣〕

Maimašambi 商賣をする. 賣買する. Hūdašambi に同じ〔22.貿易一:做買賣〕

Maise 小麥〔28.米穀一:麥子〕

Maisei wekji suse 麥殼〔26.砌苫:麥麩子〕

Maishan 1. 馬のしりがひの裝飾物〔9.鞍轡二:燕尾飾件〕2. くこの實〔28.果品三:枸杞子〕

— **halu** くこの實の粉〔彙:枸奶子細水粉〕

— **halu i sacima** くこの實の粉と胡麻油とを材料にした食物〔補3.餑餑:枸奶子糖纏〕

Maisiri 軍器の名. 片手で扱ふ棍棒〔9.軍器六:單手棒〕

Maitu 棒. 棍棒(先端に球圓を付せるもの,又は先端圓く太く握り手の所細きもの等あり)〔9.軍器六:棒〕

Maitulambi 棒で打つ. 棍棒でなぐる〔8.征伐五:用棒打〕

Maitun da 野菜の名. 蔓生にして葉は豌豆の葉に似たり,根に白汁を貯ふ. 煮或は生の儘にて食ふ〔27.菜殽二:豌豆葉兒菜〕

Maituša 棍棒で打て〔彙:令棍打〕

Maitušabumbi 棒で打たれる. 棒で打たせる〔彙:被棒打. 使拿棍打〕

Maitušambi 棒で亂打する〔5.捶打：棍棒亂打〕〔8.征伐五：用棒亂打〕
Majan 箭の一種．かず矢(Sirdan)に似たれど，鏃の頭，かず矢のそれよりも大きくして，鏃の中程の所，かず矢のそれよりも短かし〔9.軍器五：長披箭〕
Majige 少々．一寸．略々〔25.多寡二：略〕
— **ome** 一寸ばかり．少しばかりで〔彙：略一會兒．略一點兒〕
Maka はて…どうだか．はて…そうか．〔17.猜疑：莫不是〕
— **adarame biheni** はてどんなだつたか？〔彙：未知怎樣呢〕
Makahabi 心昏迷してきた．考へても思ひ出されず，昏迷した〔5.繁冗：悖憒〕
Makarahabi 老衰し大いに呆けた．老ひぼれた〔10.老少一：老衰邁了〕
Makarame sakdaka 年老い衰へた．老い呆けた〔彙：老年衰了很胡動作略有未至〕
Maki 纛(纛)の竿頭につけた飾りの纓〔9.軍器七：纛纓〕
Makitu 金節(Jalusu)の如く作り，封表に用ひる纓〔9.軍器七：旌〕
Makjan 身體の甚だしく小さい人．小人(小)〔11.容貌五：矬子〕
Makjanahabi 身體が甚しく小さい〔11.容貌五：矬矬的〕
Maksi 舞へ〔彙：令舞〕
Maksibumbi 舞はせる〔7.樂三：使舞〕
Maksikū moo 旗杆の先端の横木(旗幅を掛ける横木)〔19.佛一：舞梁杆〕
Maksimbi 舞ふ．舞踏する〔7.樂三：作舞〕
Maksin 舞．舞蹈〔7.樂三：舞〕
Maksinambi 舞ひに行く．行つて舞ふ〔彙：去舞〕
Maksinjimbi 舞ひに來る．來たり舞ふ〔彙：來舞〕
Maksire garudangga kiru 旗幅に鳳を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：儀鳳旗〕
Maksiri mahatun 古昔舞人の使用した冠〔補1.古冠見二：建華冠〕
Makta 擲て．放り出せ〔15.擲撒：拋去〕
Maktabuha めぐり遠い．うねうねと遠い〔19.街道：遶遠了〕
Maktabuhabi 1. めぐり遠去かつてしまつた．大道を遠く離れてしまつた〔14.行走二：遶遠了〕2. 病氣が重つて動かすことの出來ない〔16.疼痛三：病倒〕
Maktabumbi 1. 稱贊させる〔12.稱奬：使稱贊〕稱贊される〔彙：被人奬蔫〕2. 拋たせる．放り出させる〔15.擲撒：使拋〕船が岸に打ち上げられる〔彙：船被歪斜風打到岸去了〕3. 路離れ遠ざかる〔彙：路錯走遠去了〕
Maktacun 稱贊の文．人を稱揚する文〔7.書二：贊〕稱贊．稱揚〔12.稱奬：贊〕
Maktambi 1. 稱贊する．稱揚する〔12.稱奬：稱贊〕2. 拋つ．放り投げる．放り出す〔15.擲撒：拋〕3. 馬が人を蹴る．跳ね上げる〔31.馬匹動作二：捭人〕
Maktandumbi Maktanumbi 人々一齊に稱贊する．各人齊しく稱揚する〔12.稱奬：齊稱贊〕
Maktašambi 暴れ散らす〔13.怒惱：捭掇〕手當り次第に拋つ〔15.擲撒：亂拋〕
Mala 槌．Tūku に同じ〔25.器用五：木郎頭〕
Malahi のらねこ〔31.獸六：野貓〕
Malanggū ごま〔28.米穀二：芝麻〕
— **cai** ごま入りの茶〔27.茶酒：芝麻茶〕
— **haksangga efen** 小麥粉に芝麻を混ぜて燒いた餅〔補3.餑餑：芝麻焦餅〕
— **ira fisihe maise turi** 五穀〔彙：五谷乃芝麻大黃米小黃米麥豆〕
— **nisiha** 石のある所に產する河魚の一種〔32.河魚四：石鰱魚〕
— **šobin** 小麥粉に油を混ぜ，赤餡を入れ胡麻をまぶして燒いた餅〔27.餑餑二：芝麻餅〕
Malari 重なり合つた〔彙：沓沓之沓〕
Malašambi 氷の下の淺瀨に棲つた魚

を椎で打つて取る〔22.打牲器用二：椎氷震小魚〕

Malfun cece 紗の一種．地に芝麻目を織り出せるもの〔23.布帛四：芝麻漏地紗〕

Malgiyan 奇獣の名．形猪に似て鼻は犬の吠ゆるに似たり〔補4.異獣一：狸力〕

Malhūkan 稍々多い．Labduka に同じ〔25.多寡二：略見使〕

Malhūn 1. 儉約な．節用の〔11.省儉：儉省〕2.（路などが）見かけによらぬ遠い．歩いてみるとなかなか遠い〔19.街道：路覺遠〕3. 器物の口の大きい．口の開いた〔彙：凡器物嘴邊大者．與 Tartahūn 同〕

— **yokcingga** 見かけの好い．見た處だけ好い．見てくれの好い〔彙：凡物未曾大費還好看．與 Yokcingga 同〕

Malhūngga 1. 儉約な人〔11.省儉：儉省人〕2. まだ使へる．今少し用ひられる〔25.多寡二：物見使〕3. 野路．遠路〔彙：路野〕

Malhūša 儉約せよ〔彙：令儉省〕

Malhūšabumbi 儉約させる〔11.省儉：使儉省〕

Malhūšambi 儉約する．節用する〔11.省儉：儉省用〕

Malhūšandumbi Malhūšanumbi 各人一齊に儉約する．人々齊しく節用する〔11.省儉：一齊儉省〕

Maljiha 投げたとき立ち止るやう，側面をよく磨いた Gacuha（背式骨）の牌〔19.戯具一：磨的光馬兒〕

Maljuha 奇獣の名．歷石山に出で，狸に似，白首虎爪〔補4.異獣四：梁渠〕

Malta らみだぬきの類〔32.海魚一：海馬〕

— **beri** 兩端の弦架に至るまで水牛の角を貼りつめた弓〔9.軍器三：長角弓〕

Maltakū 塵土を推し集めるのに使用する道具〔25.器用五：推杓〕

Malu 酒瓶．Monggocon（長頸瓶）より大なるもの〔25.器用六：酒瓶〕

Malukan 澤山に．充分に得た〔12.分給：滿得〕

Mama 1. 父系の祖母．祖母〔10.人倫一；祖母〕婆様（老婆を尊敬していふ語）〔10.老少一：老嫗〕2. 疱瘡．あばた〔彙：痘子〕

— **eršeke** 疱瘡の出た〔彙：痘子出了〕

— **eršembi** 疱瘡が出る〔16.瘡膿二：出花〕

— **tucimbi**〔彙：與 Mama eršembi 同〕

— **yadahūn** 疱瘡の出が少い〔彙：痘兒出的缺少〕

Mamari Mama の複數形〔10.人倫一：衆祖母〕

Mamfin 結び目〔26.拴結：拴的搭搭〕

Mamgiyabumbi 奢らせる．贅澤をさせる〔17.僭奢：致奢費〕

Mamgiyakū 奢る人．贅澤な人〔17.僭奢：奢費人〕

Mamgiyambi 奢る．贅澤をする〔17.僭奢：奢費〕

Mamgiyandumbi Mamgiyanumbi 人々一齊に贅澤をする．共に奢る〔17.僭奢：齊奢費〕

Mamgiyarakū 奢らない．奢侈でない〔11.省儉：不奢侈〕

Mampi 結べ．繋げ〔26.拴結：結〕

Mampibumbi 結ばさる．結び合はさす〔26.拴結：使結搭搭〕

Mampilambi 結ぶ．結び合はす．繋ぎ合はす〔26.拴結：結搭搭〕

Mampimbi 結ぶ．ゆはへる〔彙：結綱之結．打結〕

Mampin Mamfin に同じ〔26.拴結：拴的搭搭〕

Mampingga ilha 花名．Sabiri ilha（瑞香花）に似，花は明黄色，莖柔軟にして結び合ひ，葉は凋める如き狀をなす〔29.花三：結香花〕

Mamugiya りんご〔28.果品三：林檎〕

Mamuha sihan 堆積米の中に差し込む通氣用の竹筒〔20.部院一：氣筒〕

Mamuhan fa 屋根の中央に設へた天窓〔20.墻廟：天窗〕

— **sangga** Fiyasha（山墻）に設へた孔〔21.室家三：山墻氣眼〕

— **tura** 棟梁と其の下の大梁との中間に立てる短柱．束2〔21.室家一：挂柱〕

Mamuke うさぎ. Gūlmahūn に同じ〔31.獸六：明親〕
Mamun akū oho 面目なくて辜も出なかつた〔17.羞愧：獸然沒趣〕
Mamutun 奇獸の名. 形うさぎに似, 色は青い〔補4.異獸五：菌狗〕
Mamyari 交趾嶺南地方に産する奇果の名. 蒸して食ふ. 其の木の葉龍眼及び荔枝の葉に似たるを以て龍荔の名あり〔補3.異樣果品一：龍荔〕
Manabumbi 壞す. 破る〔25.破壞：至于敝壞〕財を破る. 使ひ盡す〔彙：凡强盛富有人只管減到原數了〕
Managan 乳飲み兒を包む布〔13.生產：裹小兒的布單〕
Manaha 破れた. 壞れた〔彙：破了. 破爛了〕
— **biya** 先月. あと月〔2.時令五：去月〕
— **šaniyaha** (着物などが) ぼろぼろになつた. ずたずたになつた〔25.破壞：破爛〕
Manambi 破れる. 壞れる. 破壞する〔25.破壞：敝壞〕
Manashūn 1. (家などの) 壞れたる. 破れたる. (着物の) 破れ裂けたる. ぼろの〔13.貧乏：襤褸〕2. 月末. 月末の〔彙：月終〕
Manda 遲い. 緩くりした〔12.遲悞：慢〕
Mandakan 稍々遲い. 些さか緩くりした〔12.遲悞：略慢些〕
Mandal bolgomimbi (讀經に先立ち) 香を焚く. 壇に燔らす〔19.佛二：燔壇〕
— **ilha** むらさきけまん〔補3.花：曼陀羅花〕
Mandarawa ilha 奇花の名. 四月八日に花開き, 冬に至つて實を結ぶ〔補3.異花一：優鉢曇花〕
Manduhabi (子供が) 漸く成長した. 筋骨が出來てきた〔10.老少二：長足〕(作物が) 稔つた. 實を結んだ〔21.農工二：長成了〕
Mandumbi 稔る. 成長する. 實を結ぶ〔21.農工二：長成〕
Mang orho usenembi 稻や麥を蒔きに行く〔彙：芒種〕
Mangga 1. 難しい. 難儀な. 煩はしい〔5.繁冗：煩難〕2. 剛强の. 猛々しい〔12.勇健：剛强〕3. 値の高い. 價ひ貴い〔22.貿易一：貴〕4. 硬い. 堅硬な〔28.軟硬：硬〕弓の硬い. 弓の調子の好い〔9.製造軍器二：弓硬〕5. 善く弓を射る. 弓の上手な. 强弓を射る〔8.步射一：善射〕6. 才勇群に拔んでたる(者)〔彙：才勇出群者〕
— **arambi** 逞しうする. 猛々しく振舞ふ〔17.驕矜：逞强〕
— **cece** 普通の紗より目やゝ荒く硬い紗〔23.布帛四：硬紗〕
— **ceceri** 普通の絹より荒目で硬い絹〔23.布帛四：屯絹〕
— **fili sirhūn modo** 剛毅朴訥な〔彙：剛毅木訥〕
— **moo** くぬぎ〔29.樹木四：椽〕
— **moo i usiha** くぬぎの實. くすどいげの實〔彙：柞木子〕
— **niyecen** 靴の內側, 踵にあたる處に貼つた皮〔24.靴襪：靴主根〕
— **tangga** (肉などの) 硬くて齒の立たない〔28.軟硬：嚼不動的硬〕
— **tuwabungga hoošan** 硬くて强い榜紙 (Tuwabungga hoošan)〔7.文學什物一：脆榜紙〕
Manggaburu 人が分に過ぎて爲し得たとき之を稱贊して言ふ語. あれには敵はぬ！ よくやつた！〔12.稱奬：難爲他〕
Manggai oci …ならば. …とならば. …だといふのならば〔18.散語六：至狠〕
Manggakan 稍々硬い〔28.軟硬：略硬〕稍々難儀な〔彙：略難〕稍々强い〔彙：略强〕稍々好い〔彙：略好〕
Manggalaha (病氣や傷が重くなつて) 治り難くなつた〔彙：難得緊. 病重難治了. 傷重難治了〕
Manggalahabi 病氣が重い〔16.疼痛三：病沉〕
Manggalame tanta 强く打て. 大いに打て. したゝか打て〔彙：狠狠打〕

Manggasa 好漢等. Mangga (6) の複數形〔彙：好漢們〕
Manggašacuka 難儀な. 困難な〔彙：堪難〕
Manggašambi 1. 難儀する. 困難する〔13. 愁悶：作難〕2. 羞らう〔17. 羞愧：做難〕
Manggi …した後. …した時に. …したによつて〔18. 散語六：到那時〕
Manggici Manggai oci に同じ〔18. 散語六：至狠〕
Manggisu あなぐま. ささぐま〔31. 獸五：貛〕
Manggiyan 1. 巫人が神憑りするとき, 神に附いて降り來て跳り行く妖鬼〔19. 鬼怪：鬼祟〕2. 馬畜の病んだとき鼻から垂れる汁. 馬の鼻汁〔32. 馬畜殘疾一：鼻濕〕
— **weceku wasika** 巫人の跳りの神が降下した〔彙：巫人跳的神下來了〕
Manggiyanahabi (馬畜が病んで) 鼻から粘い液汁を垂らした〔32. 馬畜殘疾一：洶鼻濕〕
Mangkan 沙丘. 細長い沙丘〔2. 地輿三：沙岡〕
— **gūwara** Elben gūwara (このはづく) の別名〔補4. 鳥四：鴞〕
Mangkara 動物の頭, 目, 口の廻りに白毛の生えたもの (Kalja も又同樣の動物を指していふ語なれども, Mangkara の方 Kalja よりも一層廣く白毛の生えたる動物を指して云ふ)〔31. 諸畜二：寬破臉〕頭, 目, 口の廻り全て白毛の生えたる馬〔31. 馬四毛片：玉面〕
— **gaha** Mahala gaha (倉頭) の別名〔補4. 鳥九：倉烏〕
Manju 滿洲. 滿洲人〔10. 人一：滿洲〕
— **bithe** 滿洲字の書. 滿洲語の書〔7. 書一：滿洲書〕
— **dangse boo** 宮中の役人の試驗の册子を作り, 參朝の諸官を考試し, 其他諸官の公用銀米給付等の事務を承辦する房. 地方各省にも亦この房あり〔20. 部院三：滿檔房〕
— **gūsa** 滿洲人を以て編成したる甲喇佐領〔3. 旗分佐領一：滿洲都統〕
— **hergen** 滿洲字〔7. 書八：清字〕
— **hergen i uheri kooli bithe** 書名〔續2. 書：清字會典〕
— **monggo bithe ubaliyambure boo** 理藩院に屬し, 蒙古語を滿洲語に, 又滿洲語を蒙古語に飜譯することを掌る役所〔補2. 衙署五：滿洲蒙古繙譯房〕
— **wesimbure bithei ba** 滿洲語譯の上奏文, 其他大小各種の滿文書類を作製することを掌る役所. 內閣に屬す〔20. 部院二：滿本堂〕
Manjurabumbi 滿洲語を話させる. 滿洲語で話させる〔14. 言論一：使說清話〕
Manjurambi 滿洲語を話す. 滿洲語で話す〔14. 言論一：說清話〕滿洲語を學ぶ〔彙：效學滿洲〕
Manjusai mukūn hala be uheri ejehe bithe weilere kuren 滿洲氏族通譜を編纂する館〔補2. 衙署七：滿洲氏族通譜館〕
Mansui Mansui undurakū に同じ〔彙：織的金雲龍五彩不露地的花蟒緞〕
— **undurakū** 滿地に五彩の龍雲花紋を織り込み下地の見えない見事な緞〔23. 布帛一：滿地風雲龍緞〕
Maokala 鳥名. 鷹に似て鵠の如く大, 但だ身稍々細く, 深林中に棲息す〔30. 鳥三：倒馱鵠〕
Marabumbi 辭退させる. 遠慮させる〔彙：使辭. 使倔强〕
Marakū 非常に遠慮する人〔18. 鈍繆：善推辭的〕
Marambi 遠慮する. 辭退する〔18. 鈍繆：推辭〕拒む〔彙：拒. 莫〕
Marandumbi Maranumbi 衆共に辭退する. 齊しく遠慮する〔18. 鈍繆：齊推辭〕
Maratambi 一寸遠慮する. 少々辭退する〔18. 鈍繆：略推辭〕
Margan 麞の仔. 麝の仔〔31. 獸三：麞麝羔〕
Mari 1. 一回二回, 一度二度などの回, 又は度. Juwe mari 二度〔18. 散語六：一回〕2. 回れ. 戻れ〔彙：令轉回〕

Maribumbi 回らせる．戻らせる〔15.去來：使回〕
Marimbi 1.回る．戻る．轉回する〔15.去來：回〕2.疱瘡にかさぶたが出來始める〔16.瘡膿二：花兒回動〕
Marimbu wehe 〔22.貨財一：瑪瑙〕
Marin 歸來．戻り．戻ること〔15.去來：歸回〕
Marma nisiha 海魚の名．小魚にしてKendele（方口小魚）に似，紅色の斑紋あり〔32.海魚二：吹沙小魚〕
Marman 剛山に出づる奇獸の名．鼠身龜首，聲は狗の吠ゆるに似たり〔補4.異獸二：蠻蠻〕
Maru 魚の群〔32.海魚二：魚羣〕
Marulambi 魚が群を成す〔32.鱗甲肢體：魚成羣〕
Marutu cecike 羽毛黑白魚紋狀をなせる雀〔30.雀六：魚鱗雀〕
Masakū 屋內の梁にかけた鞦韆〔19.戲具二：柁上鞦韆〕
Masambi 屋內鞦韆に乘る〔19.戲具二：打柁上鞦韆〕
Masan 油を搾り取つた胡麻の滓〔28.米穀二：麻穰〕
— **dehe** 釣針をつけた六七寸の糸數本を二尺程の細繩に繫りつけ，釣には胡麻の滓をくつつけて，河中に流し魚を捕る可く仕掛けたもの．流しばり〔22.打牲器用二：掛鈎〕
Mase 痘痕．あばた〔彙：人出痘子生的麻子〕
— **muyari** れいし〔28.果品二：荔枝〕
— **usiha** 胡桃．くるみ〔28.果品二：核桃〕
— **usiha i faha** くるみの核〔彙：核桃仁〕
Maselakū 禽鳥を捕へる罠．樹木の叉の所に仕掛けて鳥の足を捕へる仕組みになつたもの〔22.打牲器用三：打禽鳥的套子〕
Masilabumbi 相當多く得させる．稍々多く得させる〔12.分給：使儘量得〕
Masilambi 相當多く得る．稍々多く得る〔12.分給：儘量得〕
Masilame しつかりと（結ぶ）．ぐつと力をいれて（澤山に取る）〔26.拴結：拴牢着〕
Masilarakū 力を用ひぬ．懸命にならぬ．懶ける〔17.懶惰：不肯用力〕
Masiri 奇果の名．くるみに似て味一層香し〔補3.異樣果品三：白緣子〕
Maša 柄杓〔25.器用五：馬勺〕
Mašalakū 窓の櫺子〔21.室家二：窗上橫鑽〕
Mašan bahambi 手がかりがある．より處がある〔彙：得有靠傍〕
— **baharakū** （物を持たうとして）手がかりがない．力の入れ處がない〔15.拿放：不得力〕
Mašangga niyalma 物事に手際よき人．器用な人〔11.德藝：在行人〕
Mata 火に焙つて曲げよ〔26.煨折：煨〕
Matabumbi （骨角木竹等のものを）火に焙つて曲げさせる〔26.煨折：使煨彎〕
Matalambi （馬が）片方の後脚で土を蹴上げる〔31.馬匹動作二：單踏彈〕
Matambi （骨角木竹等のものを）火に焙つて曲げる．たはめる〔26.煨折：煨彎〕
Matan 大麥を主材料にして作つた甘い食物〔27.餑餑三：麻糖〕
Matangga 兩唇が內側に曲り接着した口．つぼみ口〔11.容貌四：匾嘴〕
— **wase** 棟瓦〔26.砌苫：折腰瓦〕
Matarakū 頭上に戴せ，物を運ぶのに使用する草蒿製の圓い箍〔25.器用五：頭上頂物圈子〕
Matun 城壁上に橫たへた木の上に敷いた板．人の立つ用に供するもの〔19.城廓：城頭站板〕
Maya 流し口のある柄杓〔25.器用五：明流子〕
Mayaha 禍ひが消滅した．毒が消えた．腫物が散つた〔彙：禍事不弄大消了．毒消了．瘡消了〕
Mayalambi 腕にかける．腕にかけて運ぶ〔21.扛擡：手抬〕
Mayambi 事が消滅する．災が消滅する〔5.寬免：消滅〕〔19.鬼怪：消滅〕
Mayambumbi 事が擴大しないうちに

之を消滅する〔5.寬免：使消滅〕
Mayan 1. 上膊下膊の全部. うでひじ〔10.人身四：肘〕2. 傷を受けた獸の漏らす血〔彙：受傷的獸漏滴的血〕箭の先についた獸の血〔彙：箭上粘的獸血〕
— **sain** 狩りの獲物が多い〔9.畋獵三：彩頭好〕
Me jafabumbi 醫者に脈を見さす〔彙：使醫生看脈〕
— **jafambi** 脈を診る. 脈をとる〔彙：看脈. 拿脈. 乃看病也〕
Mede 消息. 便り〔彙：信兒. 消息. 與 Medehe 同〕
Medebure dengjan 皇帝外出の際, 途上所々に消息を傳へるため揭揚する赤灯燈〔6.鹵簿器用五：報捷燈〕
Medege 消息. 便り. Mejige, Mede, Medehe に同じ〔12.聆會：信息〕
— **gasha** かもめの別名〔補4.鳥五：信鳥〕
— **niyehe** かもめの別名〔補4.鳥五：信鳧〕
Medegeri cecike Mejin cecike (信鳥) の別名〔補4.雀三：遞鳥〕
Medehe 〔彙：與 Medege 同〕
Medergu ilha 奇花の名. 枝端に大葉あり, 葉端よりけしに似たる花を纍垂す〔補3.異花四：海瓊花〕
Mederi 海. 海洋〔2.地輿七：海〕
— **dorgon** 東海に產する海魚の名. 此の皮を以て衣服を作る〔32.海魚一：海貓〕
— **eihen** あざらし〔32.海魚一：海驢〕
— **gubci taifin necingge mudan** 大宴遊茶の際奏する音樂の名〔補1.樂：海宇昇平日之章〕
— **hoton** 奉天府屬の縣名〔續2.地輿：海城縣卽海州〕
— **jakarame** 海に沿ひ. 海岸傳ひに〔2.地輿七：沿海〕
— **jubki i jalafungga toro i mudan** 皇太后に徽號を奉るとき奏する音樂の名〔補1.樂：海上蟠桃之章〕
— **juwere calu** 戶部の糧米を收貯する倉. 京城にあり〔20.部院十二：海運倉〕
— **katuri** うみがに〔32.海魚二：海蟹〕
— **kilahūn** かもめ〔補4.鳥五：海鷗〕
— **kiongguhe** 鳥名. 身黑く, 頸胸白く, あとづめ無し, 海岸に棲息す〔補4.鳥八：海八哥〕
— **melkešembi** 海に蜃氣樓が現はれる〔19.鬼怪：海市蜃樓〕
— **niktongga** 奉天府屬の縣名〔續2.地輿：海寧縣〕
— **nimaha** 海の魚〔32.海魚一：海魚〕
— **sampa** うみえび〔32.海魚二：海蝦〕
— **ulhūma** 雉に似て色黑き鳥〔30.鳥七：海雉〕
Medesi 消息を持ち運ぶ人. 傳信者〔10.人五：送信人〕
Megu 滿蒙特產の一種の菌〔彙：磨姑乃麻姑做湯菜內俱用〕
Mehe 去勢したる牝豚〔31.諸畜一：豚兒〕
Mehejen 仔を生み老ひたる牝豚〔31.諸畜一：老母猪〕
Mehen 牝豚〔31.諸畜一：母猪〕
Mehete 上脣の短かい (人)〔11.容貌四：上唇短〕
Mehubumbi 身を俯せさせる. 平身低頭させる〔14.坐立二：使俯身〕
Mehumbi 身を俯せる. 平身低頭する. 恭しくする〔14.坐立二：俯身〕
Mehurakū 恭しくしない. 身を俯せない〔彙：不打恭〕
Meifehe 山坡〔2.地輿三：山坡〕
Meifen 頸〔10.人身三：脖〕
— **be gidaralame tasihimbi** 頸を壓へて足を拂ふ (角力の手)〔8.撚跤一：按頭子踢脚〕
— **buktakabi** 枕を外して頸が痛む〔彙：脖子疼落了〕
— **dabali niyamniyambi** (馬上より獸を射んとし, 獸が突然方向を變じたとき, 右手越しに)頸の所を過ぎて箭を放つ〔9.畋獵二：繞馬脖子射〕
Meihe へび〔32.龍蛇：蛇〕十二支の巳. 巳〔2.時令一：巳〕
— **biya** 巳の月. 陰曆四月〔補1.時令一：余〕
— **bulunambi** 蛇が冬眠する〔32.龍

蛇：蛇入蠻〕

Meihe cecike 小鳥の名．頸の形蛇に似，又舌長し〔30.雀五：蛇頭鳥〕

— **geleku** 野生の雜草．莖に節あり，中空洞，葉は大きくして先尖る．その實より油を取る〔29.草二：大麻子〕

— **giranggi** 蛇の骨！無暗と動き廻る人を嫌惡して罵倒する語．〔16.咒罵：厭物骨頭〕

— **gūn halambi** 蛇が皮を脫ぐ〔彙：蛇退皮〕

— **šari** 野菜の名．形たんぽぽに似，味苦し〔27.菜穀三：苦麻兒〕

— **yoo** 身體に點々米粒の如く生じたる紅色の瘡〔16.瘡膿一：蛇擔瘡〕

Meihen singgeri 勵賓國より進貢し來たる蛇食ひ鼠．人が蛇に咬まれたとき，この鼠に嗅がせた後に尿させれば忽ち癒ゆ〔31.獸七：食蛇鼠〕

Meihengge aniya 巳の年〔補1.時令一：大荒落〕

Meihere 擔げ〔21.扛擡：扛〕

Meiherebumbi 擔がせる〔21.扛擡：使扛〕

Meiherefi maktambi 肩に擔いで投げる（角力の手）〔8.撩跤一：扛口袋〕

Meiherehebi 肩に擔つた．擔いで行く〔21.扛擡：扛着呢〕

Meiherembi 自ら引き受ける．擔任する〔12.勇健：擔得〕肩に擔ぐ．荷ふ〔21.扛擡：扛着〕

Meihetu やつめうなぎ〔32.河魚二：鮮魚〕

— **hengke** へちま．ながうり〔27.菜穀一：絲瓜〕

Meijebumbi 碎く．不完全なものにする〔26.殘毀：弄碎〕

Meijembi 碎ける．不完全なものになる〔25.破壞：碎〕

Meile （殺した獸を）切り開け．割け〔28.剝割二：藏開〕

Meilebumbi （殺した獸の骨をばらばらに）切り開かせる．割かせる〔28.剝割二：使藏開骨縫〕

Meilembi （殺した獸の骨をばらばらに）切り開く．割く〔28.剝割二：藏開骨縫〕

Meimeni 各自各自．それそれ．Meni meni，又は Beri beri に同じ〔18.爾我一：各自各自的〕

Meiren 1. 卷狩の中心の大旗の兩側に立つ副の大旗の位置．圍みの位置からいつて中心の大旗の所を首とすれば，丁度肩あたりにあたる處〔9.畋獵一：圍肩〕2. 弓の把手の兩邊のところ〔9.製造軍器二：弓把膀子〕3. 人の肩〔10.人身四：肩〕4. 數珠の親玉の兩傍にある副玉〔24.冠帽二：佛肩〕

— **giranggi** 上膊骨〔10.人身六：肩骨〕

— **i janggin** 〔4.臣宰二：副都統〕

Meiretu 鎧の肩あて〔9.軍器一：護肩〕

Meisile 蜜蜂の巢房から作つた臘〔22.貨財一：密臘〕

Meita bira 盛京省所在の河名〔補1.地輿一：渾沱河〕

Meite 截れ．截斷せよ〔26.截砍：截〕

Meitebumbi 截斷させる．截り取らせる〔26.截砍：使截去〕

Meitehe Sentehe に同じ．齒のかけた．〔五體16.殘缺：豁牙〕

Meitembi 截り取る．截斷する〔26.截砍：截去〕（長短不揃ひの箭柄を一樣の長さに）截り揃へる〔9.製造軍器三：截箭桿〕

Mejige 消息を傳へ知らせる人〔10.人二：傳事人〕消息．便り〔12.聆會：信息〕

— **ba** 聽事處〔彙：聽事之處〕

— **gaibumbi** 消息を聞き取らす．便りを求めさせる〔彙：使取信．使討信〕

— **gaimbi** 消息を聞き取る．便りを求める〔彙：取信兒．討信兒〕

— **gaisu** 消息を聞け〔彙：令討信．令取信〕

Mejigele 消息を聞け．便りを求めよ．樣子を探れ〔12.詳驗：使探信〕

Mejigelebumbi 消息を聞かせる．便りを求めさせる．樣子を探らせる〔12.詳驗：使人探信〕

Mejigelembi 消息を聞く．便りを求める．樣子を探る〔12.詳驗：探信〕

Mejin cecike 小鳥の名．形鵲に似，頸

背青く，尾長くして二股に分る．鳴き過ぐれば吉事ありといふ〔30.雀三：信鳥〕

Mekcerefi 上半身を深く曲げて．深くかゞみ込んで〔14.坐立二：挑肩站着〕

— ilihabi 深く前かゞみになつて立つた．深く腰を曲げて立つた〔彙：背腰往前躬着站立〕

Meke Gacuha（背式骨）の裏面〔19.戯具一：背兒〕

Mekele 徒然．空しく．ぼんやり〔18.散語六：枉然〕〔彙：與 Untuhuri 同．Untuhuri oho 同〕

Mekeni 口にくわへ指にて鳴らす小形の樂器〔7.樂器三：口琴〕

Mekenimbi Mekeni（口琴）を彈ずる〔7.樂三：彈口琴〕

Mekerebumbi くたくたになるまで，打ちのめす．動けなくなるまで打ちたゝく〔5.捶打：打至癱軟〕

Mekerehebi くたくたに打ちのめされた〔5.捶打：打至癱軟了〕餘りに年とり過ぎた〔10.老少一：老邁不堪〕

Mekte 賭けをせよ〔彙：令打賭〕

Mektebumbi 賭けさせる〔19.賭戯：使打賭〕

Mektembi 賭ける．賭けをする〔19.賭戯：打賭〕

Melbiku 兩手を一ケ處に接着して握り漕ぐ櫂．握りの處の短い櫂〔26.船四：槳〕

— jahūdai 小形で輕快な船．淺瀬にもよく浮航し得るもの〔26.船二：划船〕

Melbimbi Melbiku（握りの處の短かい櫂）を用ひて船を漕ぐ〔26.船四：使槳〕

Melbin moo 樹名．枝葉椿に似たり，其の樹液と狗肉とは食ひ合はせとなる〔補3.樹木二：樟木〕

Melebumbi 1. 遺漏する．遺落する．おとす．手抜かりする〔12.落空：遺漏〕〔17.過失：遺漏〕2. 人に命じて家畜に水を飲まさせる〔32.牧養一：使飲牲口〕

Melembi 1.（獸が威勢よく跳ばないで）下の方を匍ふ樣にして行く〔31.走獸動息：從下蹭行〕畏縮してかはしかくれる〔彙：畏縮躲藏〕2. 家畜に水を飲ます〔32.牧養一：飲牲口〕

Melendumbi Melenumbi 各人齊しく家畜に水を飲ます．各々一齊に家畜に水をやる〔32.牧養一：齊飲牲口〕

Melenembi 家畜に水を飲ませに行く．行つて家畜に水をやる〔32.牧養一：去飲牲口〕

Melenjimbi 家畜に水を飲ませに來る．來て家畜に水を飲ます〔32.牧養一：來飲牲口〕

Melerhi Ujrihi（たぬき）の別名〔補4.獸二：伏獸〕

Melerjembi 畏れ避ける〔17.懦弱一：畏避〕

Melešetembi 逢ひたいと思ひ乍ら躊躇して實行し得ない．おづおづとしてゐる．畏れためらふ〔17.懦弱一：欲逢迎又畏懼〕

Meliyan 語尾に付して物の樣子，狀態等を現はす語．（Latumeliyan 粘着してゐる處の．粘着してゐる）〔彙：此字係字尾乃光景二字口氣如粘着光景卽 Latumeliyan 也餘倣此〕

Meljebumbi 賽で勝負を決めさす．勝負をさせる〔19.賭戯：使賭賽〕

Meljembi 賽で勝負する．勝を競ふ〔19.賭戯：賭賽〕

Melken かげろふ〔1.天文七：野馬〕

Melketu はまぐり〔32.海魚二：蜃〕

Melkešembi 天高く水蒸氣が立ち上る．蜃氣樓が現はれる〔彙：氣上蒸冲天不散之氣．海市之氣〕

Melkešere dengjan 廻り燈籠〔23.烟火一：鰲山燈〕

Melmen 血の凝血したる個處〔28.生熟：血定住〕

Melmenehebi 血の凝結した〔28.生熟：血定住了〕

Membe 我等を．妾達を．我々共を〔18.謝我一：把我們〕

Meme ama 乳母の夫〔10.人倫一：乳父〕

— eniye うば〔10.人倫一：乳母〕

Memema 高貴の兒の乳母の夫〔10.人

倫一：奶公〕

Memeniye 高貴の兒の乳母．ちちびと〔10.人倫一：奶母〕

Memereku 頑固な人．固執して融通のきかぬ人〔18.鈍繆：固執人〕

Memerembi 固執する．拘泥する〔18.鈍繆：拘泥〕貪る〔彙：貪祿貪多貪吃貪穿貪好之貪〕

Memeren 固執．拘泥〔18.鈍繆：固執〕

Memeršembi 敏捷に手が着けられない．暗中摸索してゐる〔15.拿放：摸索〕拘はり滯つてゐる〔18.鈍繆：拘滯〕

Menci 我々より．吾等よりも．吾等に比べて〔18.禰我一：比我們〕

Mende 我等に．我々の所に〔18.禰我一：在我們〕

Menderekebi 耄碌した．耄碌して間違つたことばかり喋る〔10.老少一：顚倒了〕

Mene 果して．誠に．成程〔18.散語六：誠然〕

Menehun 馬鹿の．阿呆の〔17.愚昧：傻〕

Menen 1. 手足動かざる病氣．痲痺症〔16.疾病一：癱瘓〕2. 馬鹿者．阿呆〔17.愚昧：傻子〕

Menerekebi (手足などが)痺れた〔16.疼痛二：木了〕呆けた．馬鹿になつた〔17.愚昧：傻了〕目が昏んだ．Murhu farhūn に同じ〔16.疼痛三：昏沉〕

Menerembi 呆ける．痺れる〔彙：癡呆．痲木．瘋病〕

Mengde 開かない樣に造りつけた窓．盲窓．〔21.室家二：不開的窗〕

Mengdelembi 動かない樣しつかりと結着する．堅く釘付けする〔9.製造軍器三：釘結實〕

Mengdz bithe 書名〔7.書一：孟子〕

Mengge 噛むとかちかちと堅き〔27.飲食二：食物發柴〕

Menggitu 石者山に出づる奇獸の名．形豹に似，額に花紋あり，身白くして横臥を好む〔補4.異獸二：孟極〕

Menggun 〔22.貨財一：銀〕

— **guilehe** 銀杏の實〔28.果品三：白果〕

— **i namun** 諸官廳の銀錢を收貯する倉〔20.部院十二：銀庫〕

— **jalungga namun** 大同府に在る銀庫の名〔補2.衙署八：銀億庫〕

— **nisiha** しろうを．ひらを〔32.河魚三：銀魚〕

Mengse 跳神の時衣架に掛ける帳幕(ばり)〔6.祭祀器用二：幔子〕炕床などの上に用ひて遮蔽の用に供する帳幕〔24.鋪蓋：帳子〕

Mengseku 門口の垂れ布．のれん〔26.間隔：門簾〕

— **i lakiyakū** 門口のかまちの横にあるのれん掛け〔21.室家二：簾架〕

— **i namun** 工部所用の布簾，竹簾等を收貯する庫〔補2.衙署八：簾子庫〕

Meni 我々の．私共の〔18.禰我一：我們的〕

— **meni** 各自各自．思ひ思ひに〔18.禰我一：各自各自的〕

Meningge 我々のもの．私共のもの〔18.禰我一：是我們的〕

Menji かぶら〔27.菜蔬一：蔓菁〕

Mentehe 齒の缺けた．Sentehe に同じ〔増四訂補16.殘缺：豁牙〕

Mentu まんじゆう〔27.餑餑二：饅頭〕

Mentuhudembi 愚かな行ひをする．愚にして曉らない〔17.愚昧：行事愚〕

Mentuhuken 稍々愚かな．些さか愚昧の〔17.愚昧：略愚〕

Mentuhun 愚かな．愚昧の〔17.愚昧：愚〕

Mentuhurembi 愚かなことを云ふ．馬鹿な話をする〔17.愚昧：說話愚〕

Mere そばの實〔28.米穀一：蕎麥〕

— **jempin** そば粉とうどん粉とを混ぜ合はせ扁平にして煮，神前に供する饅頭〔27.餑餑二：蕎麥煎餅〕

— **nimanggi** 粉雪．そば粉に似たる雪〔1.天文六：米心雪〕

Meren ilha 奇花の名．花形そば粉の如く，色白し〔補3.異花三：米篩花〕

Mergedembi (禽獸等のものを) 澤山に捕へる〔22.打牲：攪牲〕

Mergen 業に優れて善く獸を射る者．

狩獵の達人〔9.畋獵三：善獵人〕智者. 賢人〔11.聰智：智〕

Mergen cecike Giyahūn cecike (もず)の別名〔30.雀一：寒鵙〕

Mergen hehe 文武正從三品官の妻の封號〔3.封表二：淑人〕

— hoton 黑龍江省屬の城名〔續2.地輿：璦琿根城〕

Mergengge mahatun 古代冠名. 古昔賢人儒者の被れる冠〔補1.古冠冕二：進賢冠〕

Mergese 智者達. Mergen の複數形〔11.聰智：智者〕

Merhe かんざし. かうがい〔24.飾用物件：筐子〕

Merhebumbi かんざしを挿させる〔24.梳粧：使筐〕

Merhembi かうがひを挿す. かんざしを挿す〔24.梳粧：筐〕

Merkihe seme baharakū 藏ひ忘れてしまつて出て來ない〔彙：凡物收藏日子久了尋不見〕

Merkimbi 想ひ出さうとつとめる. 繰返し繰返し考へて見る〔11.性情一：尋思〕

Merpingge niyehe 鴨の別名〔補4.諸畜一：鵁鶄〕

Mersen そばかす〔11.容貌一：雀瘢〕

Mersenehebi そばかすの出來た. そばかすのある〔11.容貌一：長雀瘢〕斑點の生じた. 點々と汚點の出來た〔25.新舊：起了瘢〕

Mersenembi 斑點を生ずる. 點々と汚點が出來る〔25.新舊：起瘢〕

Mersengge asha 翅上に斑點のあるうづら〔補4.雀二：麻翼〕

— cuse moo まだら竹〔29.樹木一：斑竹〕

— dudu 紫色にして斑點のある小鳩〔補4.鳥九：糖斑〕

Merseri 檳榔子〔28.果品一：檳子〕

Mersetu coko Suihetu coko (吐綬鷄)の別名〔補4.鳥五：珍珠雞〕

Metembi 神に願をかける. 犧牲を供へて天に祈る. Julesi bumbi に同じ〔6.祭祀二：還願〕

Metu Itu (半翅) の別名〔補4.鳥六：半翼〕

Meye 妹の夫. 妻の妹の夫〔10.親戚：妹夫小姨夫〕

Meyelebumbi 一段一段, 一節一節に截らせる〔26.截砍：使截成段〕

Meyelembi 一段一段, 一節一節に截る. 一區切一區切に截斷する〔26.截砍：截成段〕

Meyen 兵士の隊伍. 一隊〔8.征伐一：部伍〕文章の節. 一段〔7.書三：節〕行旅の人の一團. 一かたまり〔25.多寡一：一夥〕截斷した木の一段〔25.諸物形狀三：一段〕

— i afaha 皇帝が引見する人數及び列數等を書いた目錄〔5.事務二：排單〕

— meyen i 一團一團の. 一隊一隊の. 一段一段になつて. 一節一節に〔彙：兵人走先後一坡一坡的. 一段一段的. 一節一節的〕

Meyengge cargilakū 連發の花火だま〔19.戲具二：節花〕

Meyete Meye の複數形〔10.親戚：衆妹夫〕

Mibsehe ずゐむし〔32.蟲二：蜱〕

Miburi 重量の一單位名. Sehuji (六德) の十分の一〔補3.衡量：虛空〕

Miceo 〔彙：與 Miyanceo 同. 綿紬〕

Miciha arambi 網の緣繩, 獸の罠の繩を作る〔22.打牲器用一：織網邊〕

Micihiyan 水の淺い. 心の淺い. 心窄い〔2.地輿七：淺〕〔17.懦弱二：淺〕

Micubumbi 起てなくなるまで打ちのめす. ひどく打擲して爬ひつくばらす〔5.捶打：打至不能起〕

Micudambi 匍ふ. 匍匐する. Micumbi に同じ〔14.行走三：爬〕

Micumbi (赤兒などが) 匍ふ. 匍ひ廻る〔14.行走三：爬〕

Midada 野菜の名. 其根, Šeri sugi (曲麻菜) の根に似, 食用に供す, 味甜し〔27.菜穀三：燕伏苗〕

Midaha ひる. うまひる〔32.蟲四：馬蜞〕

Midaljambi (蛇などが) うねうねと進む. うねる〔32.龍蛇：擺尾曲行〕

Midaltu Golmitu (獾) の別名〔補4.異獸五：蟃蜒〕
Mihacan いのししの仔〔31.獸四：野猪崽〕
Mihadambi 騒ぎまはる．暴れまはる〔5.爭鬪一：跳襄〕(馬などが) 跳ねまはる〔31.馬匹動作一：亂跳〕
Mihan 豚の仔．若豚〔31.諸畜一：奶光〕
Mijirebumbi 動けなくなるまで打ちのめす．Mijurabumbi に同じ〔5.捶打：打至不能動〕
Mijiri orho 草名．葉のみ形，なづなの葉に似，春生えて初夏黄ばみ枯れる〔29.草二：麻草〕
Mijurabumbi 動けなくなるまで打ちのめす．打つて動けない様にする〔5.捶打：打至不能動〕
Mijurambi 坐つたまゝでにじり歩く．いざり動く〔14.坐立一：坐着前移後退〕足を曳擦つて歩く．這ふ様にして行く〔14.行走三：脚擦地行〕
Mikcan 麝香鹿．Miyahū の別名〔31.獸三：麝父〕
Mila 1. 大きく開いた．全開した〔21.開閉：大開〕2. 行つて開け．開きに行け〔彙：叫人走開〕3. 蜜蜂の巢より作つた蠟〔彙：蜜蠟〕
Milahūn 口の擴がつた．大きく口を開いた〔25.諸物形狀三：撇口〕
— **moro** 口の周緣厚くして大きく開いた碗．口の擴がつた碗〔25.器用三：摺邊碗〕
Milarabumbi 巻狩りの列の前方に進み過ぎた處を後方に退かせる〔9.畋獵二：展開〕密着したものを遠のけて大きく開く．近付きあつたものゝ間を大きく開く〔21.開閉：使大開着〕
Milaraka 騎射の際馬が突然的から遠ざかりそれて走り出した．騎道を外側にそれた〔8.騎射：張了〕かはし開いた．張開した〔彙：躲開了．凡物張開了〕
Milarambi 遠ざかり躲ける．離れ遠ざかる〔16.逃避：閃開〕遠ざけ開く．開け遠ざける〔21.開閉：大開着〕
Milata 口の開いた．Milahūn に同じ〔25.諸物形狀三：撇口子〕
Mimbe 我を．妾をして〔18.禰我一：把我〕
Mimi 1. 口を閉ぢよ〔11.容貌四：閉口〕2. しまばへ．にくばへ〔32.蟲三：麻豆蛆〕
Mimimbi 口を閉ぢる．口を緘する〔11.容貌四：閉著口〕
Mimsoro 外國産の奇果の名〔補3.異樣果品一：千歲棗〕
Minci 私より．私から．私に比べて〔18.禰我一：比我〕
Minde 私に．私の所に〔18.禰我一：在我〕
Ming gurun i uheri kooli bithe 書名〔續2.書：明季會典〕
Minggaci 第千．千番目の．千から．千より〔彙：第千．從千〕
Minggaha 奇果の名．蔓になり，一房内二百餘の實あり，味栗に似る〔補3.異樣果品二：千歲子〕
Minggan 數詞．千〔7.數目二：千〕
— **tumen** 數詞．千萬〔7.數目二：千萬〕
Minggata 千毎．千宛〔彙：毎千．各千〕
Minggatu 武官名．Tuwakiyara hafan (守備) の次の官〔4.臣宰十三：千總〕
Mingmiyaha 桑の木に生ずるあをむし．ぢがばちの仔〔32.蟲三：蜈蚣〕
Mini 我が．私の．俺の〔18.禰我一：我的〕
Miningge 我がもの．私のもの．俺のもの〔18.禰我一：是我的〕
Miodori miodori (腰の痛む人が歩き行くのに) 腰をひねりひねり．腰をさすりさすり．腰つきも危く〔14.行走四：腰疼强行〕
Miosihodombi 邪な行ひをする．邪な言説を弄する〔17.奸邪：行邪〕
Miosihon 邪な．邪道の〔17.奸邪：邪〕
— **tacin** 邪な術．邪な道．邪な教へ．異端〔18.厭惡：邪術〕
Miosihūn Miosihon に同じ〔彙：邪學之邪．邪思邪教之邪〕

Miosiri 口許を歪へ. 口許に笑みを含み〔13. 嬉笑：撇嘴〕
— **miosirilambi** いつも口許に笑みを含んでゐる〔彙：肯笑的人白常帶笑〕
Miosirilambi 口許を歪へて笑ふ. 聲を出さずして, につと口許に笑む〔13. 嬉笑：撇嘴笑〕
Miošoroko 歪んだ. 曲つた〔彙：凡端正物率制抽弄歪了〕
Miošorombi 彎曲する. 歪む〔21. 倒支：彎曲〕
Mise 弦がのびて弓身のゆるんだ〔9. 製造軍器二：弓弩〕
Misen 口のひろい缸. 廣口の缸〔25. 器用六：撇口缸〕
Mishabumbi 身に近づけさせない. 避けさせる〔16. 逃避：使躲開〕
Mishabure dalangga 水流を分ける堰. (河水が勢よく直流する時, これが下方に衝突するを避けるため, 水流を分割する場合)〔補1. 地輿二：挑水壩〕
Mishalabumbi 墨繩を彈かせる〔彙：使彈墨繩〕
Mishalakū 墨繩道具. 墨繩壺〔22. 工匠器用一：墨斗〕
— **hūrka** 野獸を捕へる繩の罠〔彙：繩線套子乃套捉野獸者〕
Mishalambi 墨繩を彈く. 墨繩をひく〔25. 量度：打墨線〕
Mishambi 身をかはす. 身をひらく〔16. 逃避：躲開〕
Mishan すみなは. 準繩〔22. 工匠器用一：墨線〕
Misu hūsiha さねかづらの實〔28. 果品三：五味子〕
Misun 味噌〔27. 菜穀四：醬〕
— **boco** 味噌色. 赤褐色〔彙：與 Ihen boco 同. 醬色〕
— **i kūrdakū** 干し味噌をかき攪ぜる棒〔25. 器用五：醬杓〕
Misuru 味噌色. 赤褐色〔23. 采色一：醬色〕
Mišun 數詞. Jiri (正) の十倍〔7. 數目二：載〕
Mita 1. 弓のそり反つた. 弦がぴんと張つた〔9. 製造軍器一：弓的調身〕2. 弓をそり反らせよ〔彙：令弓調身〕3. 馬のしりがひの端につけた飾りの鐵片〔9. 鞍轡二：轍稍飾件〕
— **jafu** 馬の尾部を包んだ赤毛布〔9. 鞍轡二：拋糞〕
— **uše** 馬尾を包む赤毛布をくゝりつける皮紐〔彙：拴拋糞的皮條〕
Mitabumbi (ゆるんだ弓身を火に焙つて) そり反らせる〔9. 製造軍器一：使調身〕
Mitambi (弦を外した弓が後に) そり反る〔9. 製造軍器一：調身〕
Miyahū 麝香鹿〔31. 獸三：香麝〕
Miyalibumbi (量目, 長短, 廣狹などを) 量らせる〔25. 量度：使丈量〕
Miyalida 倉内の穀類を量る人夫〔10. 人二：花戶〕
Miyalikū 雷管〔9. 軍器七：火藥葫蘆管子〕
Miyalimbi (量目, 長短, 廣狹などを) 量る. 測量する〔22. 衡量二：量〕〔25. 量度：丈量〕
Miyalin 量. かさ〔彙：量米粮食之量〕
Miyamibumbi 化粧させる. 扮裝をさせる〔24. 梳粧：使打扮〕
Miyamigan 婦人の耳飾り, 髪飾り, 頸飾りなど頭部の飾りものゝ總稱〔24. 梳粧：首飾〕
Miyamimbi 言葉を飾る. 行のよからざるを扮飾して隱す〔14. 言論二：遮飾〕化粧をする. 扮裝をこらす〔24. 梳粧：打扮〕
Miyamin 易卦の名〔補1. 青—：賁〕
Miyamišakū 扮飾することの好きな人. 只外面を飾るのに勤める人〔17. 驕吝：好修飾〕化粧好きの人. じやれ者〔24. 梳粧：好打扮〕
Miyang わっと (小兒の突として哭き出す聲)〔14. 聲響二：小兒乍哭聲〕
— **ming** わーん, わーんと (澤山の小兒が聲を揃へて哭く貌)〔14. 聲響二：衆小兒哭聲〕みゃーを, みゃーを. わんわん (鹿や, 羊などの仔が鳴き叫ぶ聲)〔14. 聲響五：獐鹿羊羔叫聲〕
Miyants' hūlha 緬甸の賊人. 緬甸の

叛賊. 緬甸の盜人〔續2. 人：緬匪〕

Miyar mir わーん, わーんと. Miyang ming に同じ〔14. 聲響二：衆小兒哭聲〕

— miyar 乳兒の泣く聲〔14. 聲響二：乳兒哭聲〕獐や鹿, 山羊の仔などが, けたゝましく鳴く聲〔14. 聲響五：獐狍鹿羔急叫聲〕仔羊が母羊を求めて鳴く聲〔14. 聲響五：羊羔尋母聲〕

Miyarha 陰核. 陰挺〔衆：陰心〕

Miyarimbi みゆ, みゆーと羊が鳴く〔14. 聲響五：羊叫〕

Miyasidambi Miyasitambi に同じ〔衆：搖慌踉蹌着走. 射的箭不相合抖擻去了〕

Miyasihi miyasihi よろよろ腰で. ふらふら腰で. 腰つき危く〔14. 行走四：腰縻步遲〕

Miyasihidambi よろよろの腰つきで歩く. 腰に力なく歩く〔14. 行走三：縻着勁走〕

Miyasirilambi (目に一杯涙をたゝえ, 口を動かして) 今にもわつと泣き出しさうになる. 泣かんばかりになる〔13. 哭泣：撇嘴欲哭〕

Miyasitambi 箭がよろよろと飛ぶ. ふらふらと流れる〔8. 步射二：箭滉出去〕ふらふら腰で歩く. 腰に力なく歩く. Miyasihidambi に同じ〔14. 行走三：縻着勁走〕

Miyegu efen 蒸しあげたるきび, 米を水にてよく攪き混ぜ布袋の中に入れて强く絞り出し, 其の出たるものを更に蒸籠に入れて蒸しあげ作りたる團子〔27. 餑餑一：淋漿糕〕

Miyehudembi 獸が飛び廻はり遊ぶ. 遊び跳ね廻はる〔31. 走獸動息：撒歡〕

Miyehunehe 1. かゆ飯が冷えて表面に薄い皮が張つた〔28. 生熟：冷飯定了皮〕2. 老衰して動けなくなつた〔衆：老年衰邁了不能行動了〕

Miyehunehebi 1. 老衰して動けなくなつてゐる〔10. 老少一：軟癟了〕2. かゆが冷えて表面に皮を張つてゐる〔衆：飯湯凝結了〕

Miyehusu 豆腐の凝結する前に, 豆腐汁の表面に張る皮〔27. 菜穀一：豆腐皮〕

Miyoo 廟堂, 靈廟などの廟(廟字の音寫)〔衆：廟〕

Miyoocalabumbi 銃を擊たせる. 發砲させる〔8. 征伐五：使放鳥鎗〕

Miyoocalambi 銃を擊つ. 發砲する〔8. 征伐五：放鳥鎗〕〔9. 畋獵二：放鎗〕

Miyoocalandumbi Miyoocalanumbi 一齊に發砲する. 各自齊しく銃を擊つ〔8. 征伐五：一齊放鳥鎗〕

Miyoocan 銃. 鐵砲. 火繩銃〔9. 軍器七：鳥鎗〕

— i cooha 銃を執つて軍隊の先頭に立つ精兵, 馬乘兵. 鐵砲隊〔8. 兵：鳥鎗兵〕

Miyori 時間の一單位. 一分の六十分の一. 秒〔2. 時令八：秒〕

Miyošorobumbi (木などを) 曲げ撓める. 彎曲する〔26. 煨折：撅成彎鉤〕

Mo 1. 目をみはつて (人を嘲笑する)〔15. 鄙薄：扒眼笑人〕2. 茫漠たる. ひろびろとした (漠字の音寫)〔衆：渺漠之漠〕3. 田地の一畝二畝の畝. Emu mo を見よ.

Mobin hoošan 粗穀を原料として漉きたる紙〔7. 文學什物一：毛邊紙〕

Mobsehe ねきりむし〔32. 蟲二：蛰〕

Mociko 斜めの. いびつな〔25. 諸物形狀二：不周正〕

Mocin 目細かくして澤のある紺布〔23. 布帛六：佛頭青布〕

— samsu 目細かくして澤のある青い布〔23. 布帛六：毛青布〕

Moco 言行遲鈍な〔18. 鈍繆：拙鈍〕出來の拙い〔衆：不會針線乃製做各物拙蠢之拙〕

— simhun 食指. 人さし指〔10. 人身四：食指〕

Mocodombi 愚かなことをする. 不器用なことをする〔18. 鈍繆：擧動拙鈍〕

Modan ilha ぼたんの花〔29. 花二：牡丹〕

Modo 遲鈍な. 愚鈍の. 怜悧ならざる〔18. 鈍繆：遲鈍〕〔31. 馬匹三：馬蠢笨〕

— gasha 鳩の異名. 鴿の呼稱〔補4. 鳥九：拙鳥〕

Mohobumbi 問ひ詰める．窮問する．難詰する〔5.詞訟二：窮問〕〔14.言論三：窮究〕苦しめて困憊の極にまで到らせる．苦しめ拔く〔16.折磨：拶磨至極〕窮め問ひ詰められる〔彙：被窮詰〕苦しめ虐待されて其の極に到る〔彙：被作賤傷害困乏至極〕

Mohohobi 力竭きた．困憊しきつた〔15.疫倦：力竭〕言葉窮した〔彙：詞窮了〕財蕩盡し果てた〔彙：凡財物等用盡了〕

Moholo 角の無い去勢牛〔32.牛：無角騙牛〕

Mohombi 大いに窮乏する．窮極に到る〔13.貧乏：窮乏〕言葉に窮する．返答が出來ない〔14.言論三：詞窮〕疲れきる〔彙：疲倦乏了〕

Mohon 1. 事の窮まり．擧句の果．事の終り．窮極〔2.時令三：盡頭〕2. 易卦の名〔補1.書二：困〕

Mohori sohori (人を待つに) 鄭重ならざる．粗末な．恭敬を缺く〔17.怠慢迂疏：粗俗〕

Mohotolo 終りまで．窮極に至るまで．最後の處まで〔2.時令三：至於窮盡〕

Mohume 奇獸の名．長さ數寸の龍尾を有し，樹上に棲んで人を食ふ〔補4.異獸七：木僕〕

Mojihiyan 小熊．冬時木の孔に隱る〔31.獸二：貔〕

Mokcombi 兩斷する．二つに折る〔25.斷折：斷〕

Moko 西方七宿星の第四〔1.天文二：昴〕

Mokso 兩斷．兩きれ．截斷〔25.斷折：齊杈折〕

— **genehe** 截斷した．兩きれになつた〔彙：凡木等物樣截斷兩節去了〕

Moksolombi 折斷する．折る〔25.斷折：撅折〕

Mokto 1. 傴强な．凶悍粗暴な〔17.暴虐：傴强〕2. 尖端を切り落し圓味を持たせた．尖りをなくした〔25.諸物形狀三：禿尾〕

— **šošongo mahala** 冕 (Mahatu) に似たれど旒 (Tuhebuku) を有せざる冠〔補1.古冠冕二：弁弁〕

Molho 野猪の大腸〔27.飯肉三：野猪大腸〕

Moli ilha 花名．幹もろくして枝多し，葉は茶葉に似，花色白く朶小さくして夕刻開く．清香あり〔29.花四：茉莉花〕

Molo かへでの木〔29.樹木四：楓樹〕

Molodombi 弓等の折れた處をつぎ合はせる．膠付けにする〔9.製造軍器一：帮貼折處〕

Molojin 佛敎で孔雀を呼稱する語〔補4.鳥二：摩由羅〕

Molori moo しやくなげ〔29.樹木二：石楠〕

Momohori しんとして (衆人靜坐せる貌)〔14.坐立一：衆人靜坐〕

Momokon しほしほと．しほれて (羞ぢて言葉なき貌)〔17.羞愧：羞的無言〕

Momorombi 坐つた處を離れない，ぢつと坐りこむ〔14.坐立一：獃坐〕

Momoršombi (騎射の時) 倉皇として馬を御し箭を番へる〔8.騎射：放馬搭扣摸索〕

Moncon 菊の花形をした帽子の頂き〔24.冠帽一：菊花頂〕

Monggo 蒙古．蒙古人〔10.人一：蒙古〕

— **aisin hergengge loho** 黃金で蒙古字を鏤めた刀〔補1.軍器一：蒙古篆金刀〕

— **bithe** 蒙古語で書いた書．蒙古文の書〔7.書一：蒙古書〕

— **bithei ba** 內閣に屬し，蒙古文書を飜譯し或は作成する等のことを掌る處〔20.部院二：蒙古堂〕

— **boo** 蒙古包．蒙古天幕〔24.氈屋帳房：圓氈房〕

— **buda** 肉と米とを一緒に煮た飯．蒙古飯〔彙：肉和米煮的飯〕

— **buren** 喇嘛僧が用ひる長形の喇叭〔7.樂器二：蒙古角〕

— **cibin** 小つばめ．あまどり〔30.雀二：胡燕〕

— **cooha** 〔8.兵：蒙古兵〕

— **dashūwan dube** 蒙古一旗にある二甲喇中の第二甲喇の稱〔3.旗分佐領

一：蒙古二甲喇〕

Monggo gūsa 蒙古人を以て編成せる甲喇佐領〔3.旗分佐領一：蒙古都統〕

— **hergen** 〔7.書八：蒙古字〕

— **jebele dube** 蒙古一旗にある二甲喇中の第一甲喇の稱〔3.旗分佐領一：蒙古頭甲喇〕

— **jurgan** Tulergi golo be dasara jurgan の別稱〔20.部院五：理藩院〕

— **ɛsedo** 紅色の野草〔彙：與 Tulgiyan selbete 同。野草之紅者〕

— **tala** 〔彙：蒙古地方〕

— **yoro** 四稜形にして四面に孔のある鏃．石地にて兎を射るとき用ひる〔9.軍器五：四方靶頭〕

Monggocon 口小さく頭の長いかめ．Malu (酒瓶) より小型のもの〔25.器用六：長頸瓶〕

Monggolibumbi (數珠などを)頸に掛けさせる〔24.梳粧：使項上戴物〕

Monggolikū 金銀珠寶などで作つた婦人の頸飾り〔24.飾用物件：項圈〕

Monggolimbi (數珠などを)頸に掛ける〔24.梳粧：項上戴物〕

Monggon のどくび．くびの下部〔10.人身三：脖項〕

— **hūsikū** 鎧の頸あて〔9.軍器一：護項〕衣服の頸まはり．立て襟〔24.衣服三：圍脖〕

Monggorobumbi **1.** 蒙古語を話させる．蒙古語で話させる〔14.言論一：使說蒙古話〕 **2.** 錢，蹴鞠を足でもつて後方高く蹴上げさせる〔彙：使打踢剪子鼓兒的建子〕

Monggorokū Monggorokū ulhi wahan に同じ〔彙：鑲領袖〕

— **ulhi wahan** 美しい絹などで緣取りした襟や袖〔24.衣服三：鑲的領袖〕

— **sijigiyan** 美しく緣取りした襟と袖のあるうはかけ〔彙：鑲領袖的袍子〕

Monggorombi **1.** 蒙古語を話す．蒙古語で會話する〔14.言論一：說蒙古話〕 **2.** 錢，蹴鞠を足で後方高く蹴上げる〔19.賭戲：打剪子胺〕

Monggorome 片足を尻の下に敷いて〔14.坐立一：單腿跪坐〕

— **tembi** 片足を尻の下に敷いて坐る〔彙：隻脚墊在屁股下坐〕

Monggoso 蒙古人達．Monggo の複數形〔彙：蒙古們〕

Mongniohon (腹立て乍ら言葉には出さず) 口尖らせた．むつとした口つきの〔11.容貌八：無意思〕

Monio さる〔31.獸五：猴〕

Monji (皮を) 揉め〔24.熟皮革：揉〕

Monjibumbi (皮を) 揉ませる〔24.熟皮革：使揉搓〕

Monjimbi (恨み嘆いて)手を揉む〔13.怨恨：恨的挫手〕(身體の痛い處などを) 揉む．揉みほごす〔19.醫治：揉〕皮を揉んで軟かくする〔24.熟皮革：揉搓〕

Monjirambi **1.** (恨み嘆いて) 手を揉む．Monjimbi に同じ〔13.怨恨：恨的挫手〕(怒つて) 手をよぢる〔13.怒惱：氣的搓手〕 **2.** (怒つて) あはたゞしく動き廻る〔彙：動氣坐着向前就往後退發急起來之貌〕

Monjiršambi 相手方にすきを與へないで只管ねじ倒しにかゝる(角力の手)〔8.撩跤一：挫弄〕怒つて盛んに手を揉む．怒にまかせて人を挫じ倒しに行く〔13.怒惱：揉搓〕

Monjišambi 按摩する〔19.醫治：按摩〕

Moo 木．樹木．五行の木〔29.樹木一：樹〕〔2.時令一：木〕拍子木〔彙：竹板子乃皂役所執打人者〕

— **garma** 木製蕾形の鏃を具へた箭〔9.軍器五：木兎兒叉箭〕

— **hengke** ぼけ〔28.果品一：木瓜〕

— **i beri** 綿花を彈く木製の弓〔彙：彈綿花之弓〕

— **i calu i kunggeri** 工部に屬し，木倉出納諸物件の記帳を掌る役所〔補2.衙署四：木倉科〕

— **i fuktala** やどりぎ〔29.樹木五：寄生木〕

— **i hasi** 柿の實〔28.果品一：柿子〕

— **i hoton** 木造の城〔彙：木城〕

— **i jun** 木肉．木質〔彙：木料乃木內之料也〕

Moo i kemun 垂直を計測する道具〔22. 工匠器用三：臬〕
— **i noran** 切つた材木の積み重ね〔彙：砍的整木睡倒堆成堆〕
— **ihan** 四川，陝西に特産する牛の名．頸と膝の上とに長い毛がある，この毛は尾の毛よりも一層細く，染めて帽纓に使用する〔32. 牛：毛牛〕
— **indahūn** 奇獣の名．Moodahūn（豹邊）の別名〔補4. 異獣一：木狗〕
— **lujen** 駕名．轅三本を具へ，頂上に木塊四個を嵌む．六頭の馬にて曳く〔6. 鹵簿器用五：木幹〕
— **morin** 木馬．春駒〔7. 樂器三：木馬〕
— **sacire niyalma** きこり〔10. 人三：樵夫〕
— **sika i keibisu** 棕櫚の毛の敷物（地面に敷くもの）〔24. 鋪蓋：棕毯〕
— **šu ilha** もくれんの花〔補3. 異花一：木蓮花〕
— **usiha** 〔1. 天文二：木星〕
— **yaha** 木炭〔23. 烟火一：炭〕
Moodahūn 奇獣の名．天帝山に出づ，形 Kara indahūn（黒狗）に似，此の皮を取つて鋪けば腸滿を患はず〔補4. 異獣一：豹邊〕
Moodasi 植木屋．植木職人〔10. 人三：樹戶〕
Mooi calu 工部使用の諸木材を收貯する倉〔20. 部院十二：木倉〕
— **faksi** 大工．指物師〔10. 人三：木匠〕
— **hasi boco** 柿色〔23. 采色一：柿黃〕
— **kemuneku** Moo i kemun に同じ〔22. 工匠器用三：臬〕
Moositun 祭器の名．たかつき〔6. 祭祀器用一：豆〕
Mooyen ilha むくげ．ぼんでんくわ〔29. 花三：木槿花〕
Morho うまごやし〔29. 草三：苜蓿〕
Morici 役所の馬丁〔10. 人二：小馬〕
Morila 馬に乘れ〔32. 騎駝一：騎馬〕
Morilabumbi 馬に乘らせる〔32. 騎駝一：使騎上馬〕
Morilambi 馬に乘る〔32. 騎駝一：騎上馬〕
Morilara wehe 大門前兩傍に据えた石〔21. 室家四：馬臺石〕
Morin うま（動物の馬．十二支の午）〔31. 馬匹一：馬〕〔2. 時令一：午〕
— **bargiyambi** （騎射を終つて）馬を收める．馬をあつめかたつける〔8. 騎射：收馬〕
— **biya** 午の月．舊曆の五月〔補1. 時令一：皐〕
— **deleri etehe ucun** 凱旋將軍を迎へるとき，馬上で奏する音樂〔7. 樂一：馬上凱歌〕
— **gajimbi** （騎射のとき）馬を的の向きに合はせ導く．的を射るのに工合のよい位置に馬を導く〔8. 騎射：領馬〕
— **hūwaitambi** 放尿する．Tule genembi に同じ〔10. 人身八：出恭〕
— **i baitai kunggeri** 兵部に屬し，馬匹の糧食に關する事務を掌る役所〔補2. 衙署三：馬政科〕
— **i jalin wecembi** （春秋二季に）馬のための祭りをする．馬の神を祭る〔6. 祭祀二：祭馬神〕
— **i toron** 馬畜に押捺する烙印．鐵印〔32. 牲畜器用一：馬印子〕
— **jalmin** いぬたでの花〔29. 花五：馬蓼花〕
— **sejen belhere bolgobure fiyenten** 兵部に屬し，郵驛及び軍馬牧養の事務を掌る役所〔20. 部院四：車駕清吏司〕
— **silmen** 雌のとび〔30. 鳥四：鵄子〕
— **sindambi** （騎射の際）的の方に向つて馬を乘り出し行く〔8. 騎射：撒馬〕
— **torho** うすばさいしん．Morin turgen に同じ〔27. 菜蔬二：細辛菜〕
— **turgen** うすばさいしん〔27. 菜蔬二：細辛菜〕
— **weihe** 小兒の口中に生ずる一種の腫物〔16. 瘡膿一：馬牙子〕
— **weihe banjihabi** 小兒の口中に腫物が出來た〔彙：生了馬牙子瘡了〕
Moringga 乘馬者．騎乘の（人）〔32. 騎駝一：騎馬的〕
— **aniya** 午の年〔補1. 時令一：敦牂〕
— **cooha** 騎兵（清朝にては乘馬の綠旗

軍を謂ふ)〔8.兵:馬兵〕
Moringga faidan 天子巡遊巡狩の際,馬を以て編成する鹵簿〔6.禮儀:騎駕鹵簿〕
— **uksin** 馬に被せる鎧〔棄:馬甲〕
Moro 1. わん.食物を盛るもの〔25.器用三:椀〕2. 量目の名.升〔棄:斗升之升.乃十合爲一升〕
— **hiyase** 量目の名.升.Moro に同じ〔22.衡量一:升〕
Morohon 眼のつぶらな.眼の大きく圓い.ぱつちりした〔11.容貌三:眼珠圓大〕(怒つて)眼を見開いた.かつと眼を開いた〔13 怒惱:眼圓睜〕
— **neimbi** かつと眼を見開く.ぐつと眼を据える〔棄:圓睜眼〕
— **tuwambi** かつと眼を見開いて看る.ぐつと眼を開いて眺める〔棄:生氣睜大圓眼看〕
Moroi dobton 椀を包む布,又は皮〔25.器用七:椀包〕
Moselabumbi 臼で挽かせる〔21.碾磨:使磨〕
Moselakū 挽き臼.粉挽きの臼〔21.農器:磨〕
— **i lifan wehe** 挽き臼の下石.下臼〔21.農器:曹碾臺〕
Moselambi 1. 臼を挽く.粉に挽く〔21.碾磨:磨〕2. 膝を曲げて坐る.あぐらかく〔棄:盤脚坐〕
Moselame 膝を曲げ.あぐらかき〔14.坐立一:盤膝坐〕
— **tembi** 膝を曲げて坐る.あぐらをかく〔棄:盤脚坐.扭脚坐〕
Mosha 紐陽山に出づる奇獣の名.首白く尾紅く,馬身にして虎斑あり,人この皮を帶ぶれば子孫に利あり〔補4.異獣一:鹿蜀〕
Moshari 崦嵫山に出づる奇獣の名.人面馬身蛇尾にして翅あり〔補4.異獣二:孰湖〕
Mosike 交趾に産する奇獣の名.猴に似て小さくよく鼠を捕ふ〔補4.異獣七:蒙頌〕
Mošuse まさきのかづらの實〔補3.異樣果品四:木連子〕
Moton hoošan 麻を材料として作れる紙にして一邊毛髪の如くさゝけたるを以てこの名あり〔7.文學什物一:毛頭紙〕
Motoro 奇果の名.Moo hengke (木瓜) より小さく,味酸澁,色黃〔補3.異樣果品一:楂〕
— **gaha** 鴉の一種.好んで林中に棲息し結巢す〔補4.鳥九:林鴉〕
Moyaci ilha 湖廣産の奇花.數朶重疊し,むくげに似たり〔補3.異花一:簷蔔花〕
Moyo 1. 刃が鈍い〔9.軍器六:鈍〕2. 水疱瘡〔16.瘡瘤二:水痘〕
Moyoro 奇果.Moo hengke (木瓜) に似て,尙大きい〔補3.異樣果品一:楩楂〕
Mu 面積の一單位名.畝〔棄:畝乃田地之畝數也〕
Muca bira 盛京海城縣に在る河の名〔補1.地輿一:木查河〕
Mucejun こうのとりの一名〔補4.鳥二:負釜〕
Mucen 鍋〔25.器用四:鍋〕釜.鼎〔棄:釜.鼎鼎之鼎〕
Mucesi 料理人〔10.人三:厨子〕
— **i kunggeri** 祭祀に供用する牛羊等の料理をする處〔補2.衙署二:厨役科〕
Muciha 1. 蓆の中心部(緣以外の處)〔24.鋪蓋:蓆心〕2. 竹や葦を細く薄く削れるもの〔29.草四:竹篾子〕
— **futa** 竹で綯つた繩(曳船用の繩)〔26.船四:篦繩〕
— **i hoseri** 細竹編みの容器〔25.器用一:篾絲盒〕
— **mahatun** 細く削つた竹編みの冠〔補1.古冠冕二:篾冠〕
Mucihiyan 1. かなへ〔補1.古祭器:鼎〕2. 易卦の名〔補1.書二:鼎〕
Mucitu mahatun 細く削つた竹編みの冠にして,外面を塗飾するに漆を以てしたるもの〔補1.古冠冕一:長冠〕
Mucitun 祭祀に供物を盛る竹編みの容器.たかつき〔6.祭祀器用一:籩〕
Mucu ぶどう〔28.果品二:葡萄〕
— **bocoi haksangga efen** 白砂糖葡萄餻飩粉などを混ぜ合はせ水にこねて

焼きたるもの〔補3. 餑餑：葡萄色焦餅〕
Mucu bocoi jiyoo bing Mucu bocoi haksangga efen に同じ〔彙：白糖葡萄水和蒸麵烙的餑餑〕
— **halu i sacima** 胡麻，胡麻油，饅飩粉，葡萄，白砂糖などを材料として作つた食物〔補3. 餑餑：葡萄糖糕〕
Mucunggai gasha Cunggai (水花冠) の別名〔補4. 鳥九：水花鳥〕
Mudaci ilha ひなげし〔29. 花一：麗春花〕
Mudakiyambi 曲りくねつて歩く．遠路してゆく〔14. 行走二：拐彎〕
Mudali Mudari に同じ〔14. 行走一：當日回來〕
Mudalimbi 遠路する．遠まはりしてゆく〔14. 行走二：遶彎〕
Mudalime 曲りくねつて．遠路して〔彙：彎彎曲曲〕
Mudalin 半圓形或は圓形の布を裁ち取つた，その餘りの布切れ〔23. 布帛六：溝子〕
Mudan 1. 音．調子．聲．聲音〔14. 聲音一：音〕 2. 一回．一度〔18. 散語六：一次〕 3. 曲り路の處．大道より遠く離れた處．田舍〔19. 街道：彎子〕 4. 鳥を捕る罠の上の曲木〔22. 打牲器用三：夾子り〕 5. そば粉，米の粉等を捏ね紐狀に搓り油で揚げた食物〔27. 餑餑三：搓條餑餑〕
— **arambi** くりくりと曲げる〔彙：揉揣麵時只管彎來彎去〕
— **baha** 病んで汗が澤山に出た〔19. 醫治：得了汗〕
— **dali** …度毎に〔彙：每遭．每次．與 Mudan tome 同〕
— **gaime yabumbi** 廻り路して行く．遠路してゆく．曲り路して行く〔14. 行走二：遶道走〕
— **hūwaliyambure falgari** 官中樂舞の教習事務を掌る役所〔20. 部院四：和聲署〕
— **i ba** 片田舍〔彙：與 Mudan yoho 同．僻處〕
— **mudan** たまさか．ときどき〔彙：遭遭．回回〕
— **mudan de** たまさかに．時々に〔15. 去來：間或〕
— **tebumbi** 人を罠にかける．人を陷れ弄ぶ〔17. 奸邪：作圈套〕
— **yoho** 大道より遠く離れ去つた處．田舍．Mudan (3) に同じ〔彙：街道．彎子〕
— **wai** 山の奥まり曲つた處〔彙：山僻之處〕
Mudangga 曲つた．彎曲した．曲りのある〔19. 街道：曲彎〕〔25. 諸物形狀二：彎〕〔29. 樹木九：有彎的〕
— **dalan** 河の曲り角の築堤〔補1. 地輿二：越堤〕
— **fesin i haksan bocoi suje sara** 貴妃の鹵簿に使用する傘〔6. 鹵簿器用一：金黃緞曲柄傘〕
— **jugūn** 曲り路〔彙：彎曲路〕
— **nahan** 大炕の横にある小炕(彎曲した炕)〔21. 室家三：彎子炕〕
Mudari 行き着くなり又卽刻引き返して．折返し〔14. 行走一：當日回來〕
Mudumbi (弓胎弓面に)やすりをかける〔9. 製造軍器一：鋟弓〕(石や木に)やすりをかける．やすりで磨く〔26. 截砍：磋〕
Mudun 1. 山崖の上を通ずる尾根路〔2. 地輿三：山腿梁〕 2. 木，骨角等を磨くやすり〔22. 工匠器用一：木磋〕
— **futa** Šeben に同じ〔22. 打牲器用四：打猞猁猻的套子〕
Muduri 龍．たつ．十二支のたつ〔32. 龍蛇：龍〕〔2. 時令一：辰〕
— **biya** 辰の月．舊曆の三月〔補1. 時令一：辰〕
— **duka** 貢院第二門内に龍門の扁額ある牌樓の名〔20. 部院十：龍門〕
— **dukai dalangga** 流水口を具へた堰堤〔補1. 地輿二：龍門壩〕
— **garudai suwayan suje šun dalikū** 黃緞に龍と鳳とを刺繍せる日除け扇〔6. 鹵簿器用一：黃緞龍鳳扇〕
— **garudai tumin lamun suje kiru** 藍(又は紅，黃，白，黑等の)色の緞地幅に龍と鳳とを刺繍せる旗〔6. 鹵簿器用四：青緞龍鳳旗〕

Muduri morin 伏羲の時圖を負ひ河中より出たりと傳ふる獸. 肢體高さ八尺, 頂長くして翼あり〔31.獸一：龍馬〕
— **muyame tasha murame** 龍吟じ虎嘯き〔彙：龍吟虎嘯〕
— **ošohonggo fukjingga hergen** 王右軍の作れる書體. 筆勢龍爪の如し〔補1.書四：龍爪篆〕
— **soorin de wesimbi** 帝王の位に登る〔彙：登龍位〕
— **ujungge girdan** 幅(はゞ)に龍を刺繍し, 竿の先に龍頭をつけたる旗〔6.鹵簿器用二：龍頭竿幡〕
Mudurikū 宮殿の屋根棟の兩端にとりつけある瓦龍〔20.壇廟：吻〕
Muduringga aniya 辰の年〔補1.時令一：執除〕
— **doyonggo** Dardan (粧緞) に飛龍を織り出せるもの〔23.布帛一：行龍粧緞〕
— **fukjingga hergen** 庖犧氏瑞龍を獲たるに因つて作れる書體の名〔補1.書三：龍書〕
— **giyancihiyan hoošan** 龍の模様を蠟刷りしたる箋紙〔7.文學什物一：龍箋紙〕
— **hiyan moo** 波斯に産する奇木の名. 高さ八九丈, 葉稍圓く花無く實を結ばず, 此の木の液を取つて龍腦香となす〔補3.異木：龍腦香木〕
Mufi ilha こぶしの花〔29.花二：辛夷花〕
Mufuyen 1. 氣付きの惡い. 魯鈍の〔18.鈍繆：魯鈍〕 2. 壞れて角のとれた. 朽ちて角が圓くなつてしまつた〔25.諸物形狀一：楞角圓了〕
— **modo** 魯鈍の. 遲鈍な〔彙：魯鈍〕
Muhaliyabumbi 堆み上げさせる. 築き上げさす〔22.捆堆：使堆〕
Muhaliyambi 堆み上げる. 築き積む. 堆積する〔22.捆堆：堆〕
Muhaliyan 1. 鉛の彈丸. 鐵砲玉〔9.軍器七：鉛子〕 2. まり〔19.戲具二：毬〕 3. 數珠だま〔24.冠帽二：數珠子〕凡て珠圓をなせるもの〔彙：凡圓子兒〕 4. 堆積. 積み上げ〔彙：一堆之堆〕
Muhan 雄の虎〔31.獸二：公虎〕
— **sebsehe** 蟲名. 灰色無翅, 肚大に形ばつたに似たり, 子を生まず, 肚より絲を出す〔32.蟲二：土蠭蜂〕
— **tasha** Muhan に同じ〔彙：公虎〕
— **yarha** 雄の豹〔彙：公豹〕
Muhantumbi 牛が交尾する〔31.牲畜孳生：牛交〕虎が交尾する. 猫が番ふ〔彙：虎交乃交于冬月. 猫交〕
Muhari 奇果の名. 形圓くして細小. 始め噛むときは少々苦けれど少時あつて甜味出づ〔補3.異樣果品三：無石子〕
Muharšambi 眼の中がたゝきつける樣に痛む〔16.疼痛一：眼磨着疼〕
Muhašan 牡牛〔32.牛：牝牛〕
Muheliyeken 略々圓い. 稍々圓形の〔25.諸物形狀一：略圓〕
Muheliyen 圓い. 圓形の〔25.諸物形狀一：圓〕
— **jan** 箭の一種. Sisi jan (榛子哨箭) よりも大きくして鏃に三孔あり〔9.軍器四：圓哨箭〕
— **moo** 棒の端の木球〔彙：肘棍上木毬〕
— **muhun** 天壇內圓形の土堆〔20.壇廟：圜丘〕
Muheren 1. 圓形或は四角形の文鎭〔7.文學什物二：做圈〕 2. 數珠の母珠に結びつけたる環. 子珠を通す紐をこの環に結びつける〔24.冠帽二：記念套環〕 3. 婦人の耳環〔24.飾用物件：耳環〕 4. 車の輪〔26.車轎二：車輪〕
Muheri ilha やまぶきの花〔29.花四：棣棠花〕
Muhešembi (燕が巢を造るとて) 口に泥を啣へる〔30.飛禽動息一：燕啣泥〕
Muhi 1. 裘の襟下前部につけた貂等の毛皮〔24.衣服三：眉子〕 2. 車の齒止め. 輪止め〔26.車轎二：揷絞桿攣木〕 3. 鞦韆の坐木の兩端にある繩どめの木球〔彙：鞦韆上掛兩條繩子的木圈子〕
Muhiyan ilha われもかうの花〔29.花四：木香花〕
Muhu 高い岡. 高臺. 丘〔2.地輿二：高岡〕
Muhuru いとうの雌〔32.鱗甲河魚三：

母鰉鮎魚〕

Muhūlu 角なき龍. あまりよう. みづち〔32. 龍蛇：螭〕

— **bucin** 角なき Bucin (挑拔)〔補4. 獸一：符拔〕

Muhūri 角を取つて圓くした. 尖りを削つて平らにした〔25. 諸物形狀一：禿尖〕

Mujakū 甚だしく. 非常に. Dembei に同じ〔25. 多寡一：著實〕

Mujan 大工〔彙：木匠〕

Mujangga 果して. 洵に. 全く. …に違ひない. …のも當然だ〔12. 問答二：果然〕

Mujanggo 果して然るか. これあるに相違ないか〔彙：有諸. 果然麼. 當實麼〕

Muji 〔28. 米穀一：大麥〕

Mujilen 心. 精神. 心意〔11. 性情二：心〕

— **be unenggi obure tanggin** 國子監東廊第二の堂名〔補2. 衙署六：誠心堂〕

— **jancuhūn** 心に快き. 心滿足の〔彙：甘心〕

Mujilengge 心のある. 氣特のある〔11. 性情二：有心的〕

Mujimbi 嗚咽する〔13. 哭泣：嗚咽〕呻吟する. うめき聲をあげる〔彙：大重病呻吟哼哼不能出聲. 病受不得氣接不上氣急〕

Mujin 志. 志氣 心志〔11. 性情二：志〕

— **be ujimbi** 父母の志を養ふ. 父母の志に從つて孝道を盡す〔11. 孝養：養志〕

— **be wesihulere tanggin** 國子監東廊第三の堂名〔補2. 衙署六：崇志堂〕

Mujingga 志のある (人)〔11. 性情二：有志的〕

Mujuhu こひ. まごひ〔32. 河魚一：鯉魚〕

Muk mak seme Mur mar seme に同じ〔18. 鈍繆：執繆〕

Mukcuhun 腰の曲つた. Kumcuhun に同じ〔11. 容貌五：羅鍋腰〕中途で前方に曲つた〔25. 諸物形狀三：羅鍋腰〕

Mukdan moo みる〔29. 樹木一：水松〕

Mukdehen 枯れ木の殘根〔29. 樹木十：乾樹梃〕

Mukdehun 天地を祭る清淨の處〔20. 壇廟：壇〕

Mukdehuri 奇果の名. 大きさ棗の如く味甘く, 侯官縣壇內に出づるが故に王壇子の名あり〔補3. 異樣果品三：王壇子〕

Mukdeke 興隆した. 旺んになつた〔11. 富裕：興騰〕日が高く昇つた〔彙：日高起了〕

Mukdembi (鳥が) 高く飛び上る〔30. 飛禽動息二：雲起〕旺んに興る〔彙：富貴興旺之興旺〕日が高く昇る〔彙：日高起之起〕

Mukdembuhe (的に箭が中り) 的を起こした〔8. 騎射：帽子骾起〕騰起させた〔彙：使騰起〕

Mukden 興起する. 盛んな〔彙：興起. 盛. 騰〕

— **hoton** (城名) 盛京. 奉天. 瀋陽〔續2. 地輿：瀋陽〕

— **i boigon i jurgan** 盛京城內に於ける稅務を掌る役所〔20. 部院九：盛京戶部〕

— **i ilan munggan i kadalan jafaha hafan i yamun** 盛京三陵の祭祀を掌る役所〔20. 部院九：盛京三陵掌關防衙門〕〔續2. 衙署：盛京三陵掌關防衙門〕

Muke 水. 五行の水〔2. 時令一：水〕〔2. 地輿七：水〕

— **be necin obure tampin** 水時計の第三の壺〔7. 儀器：平水壺〕

— **dendere tampin** 水時計の平水壺 (Muke be necin obure tampin) の背後に設置しある壺〔7. 儀器：分水壺〕

— **edun de šasigalabuha** 水が風にたゝかれた. 水が風に吹きつけられた〔彙：水被風打吹了〕

— **gaha** Suwan (鷁鵚) の別名〔補4. 鳥五：水鳥〕

— **gahacin** Suwan (鷁鵚) の別名〔補4. 鳥五：水老雅〕

Muke gocire beri 弓身中に水を通す孔あり，この中に水を吸はせて用ひる弓〔9.軍器三：吸水弓〕
— **hasi** いぬほほづき．やまほほづき〔27.菜穀一：水茄子〕
— **hūšakū** Hūšakū (夜猫子) に似たる鷗〔30.鳥五：水鴞〕
— **i hasi** Muke hasi に同じ〔彙：水茄子〕
— **ibadan** 樹名．樹皮にれに似たり〔29.樹木四：水楓梨木〕
— **ihan** 〔彙：水牛〕
— **tasha** Edeng に同じ〔32.海魚一：水虎〕
— **tashari** ほうごろう〔30.鳥二：鵯鶫〕
— **tebuku** 硯の水さし〔7.文學什物二：水盛〕
— **usiha** 〔1.天文二：水星〕
Mukei aisi be yendebure tinggin 河堤井田等のことを管理する同知通判等の詰め所〔20.部院十：水利廨〕
— **dababukū** 低い所より高い處に水を吸取する錫の筒〔21.農器一：鳥龍〕
— **eyebuku** 雨樋〔21.室家四：隔漏〕
— **feise** 塼瓦などの未だ燒きを入れない前のもの．型より取り出して乾かし上げただけのもの〔26.砌苫：土坯〕
— **hujureku** 水勢を利用して廻轉させる挽き臼．水車臼 (Mukei moselakū より小さいもの) 豆などを挽くに用ひる〔21.農器：水磨〕
— **ihan** 〔32.牛：水牛〕
— **ihan i uihe beri** 弓身の表面に水牛の角を貼りつけた弓〔9.軍器三：水牛角面弓〕
— **isihikū** 長竿の先に麻を縛りつけ，水につけて火を消すに用ひるもの〔9.軍器七：麻搭〕
— **moselakū** 水勢を利用して廻轉させる挽き臼．米などを挽くに用ひる．(Mukei hujureku より大形のもの)〔21.農器：大水磨〕
— **niowangga moo** 樹名．水邊に成長し，もちの木に似たれど，葉は稍々細し〔補3.樹木一：水冬青〕
— **singgeri** 鼠の類．普通の鼠より一層小さく菱芡魚蝦の類を食す〔31.獸七：水鼠〕
— **šurdeku** 踏み水車．踏んで低い所から高い處に水を揚げる水車〔21.農器：水車〕
— **talgan** 水の面．水の表面〔2.地輿七：水面〕
— **tebun** 錫などで作つた水容れ (提げ手のあるもの)．ばけつの類〔25.器用七：水提〕
— **weilen be icihiyara bolgobure fiyenten** 工部に屬し，治水及道路，橋梁，船舶の修造并に木稅，船稅，貨稅等に關する事務を掌る役所〔20.部院五：都水清吏司〕
Mekelu ilha ぎやうぢやにんにくの花〔29.花五：水葱花〕
Mukenehebi (飯や糊などが變質して) 水が滲み出した．水氣が出た〔28.滋味：浸出水〕
Mukenembi (雪や氷が融解して) 水に成る．水にとける〔2.時令九：化成水〕
Mukeri Ufacai (麵茶) が濃くない．澄んでゐる〔27.茶酒：麵茶清〕
Mukiye 息めよ．滅ぼせ．火を消せ〔彙：令息．令滅〕
Mukiyebumbi 滅ぼす〔8.征伐七：使滅〕火を滅する．火を消す〔23.烟火四：使滅〕冷やす〔彙：熱的使冷之〕
Mukiyehe 滅んだ．滅亡した〔8.征伐七：滅了〕
Mukiyembi 火が滅する．火が消える〔23.烟火四：滅〕熱い物が冷える〔28.生熟：晾冷〕滅びる．滅亡する．息む〔彙：滅之．息之〕
Mukjuri makjari (無駄話などの) つまらぬ．くだらぬ．これといふこともない．くだくだしい〔18.散語六：碎雜〕
Mukjuri mukjuri ちよこちよこと．よつちよつちと (小さい人が緩歩する貌)〔14.行走四：矬人慢跑〕
Mukšalambi 棍棒で打つ．棍棒で叩く〔8.征伐五：用棍打〕
Mukšan 棍棒．梃〔9.軍器六：棍〕

Mukšan fu 河魚の名. Fu-nimaha (鯉魚)に似て稍と圓く小さく, 快泳す〔32. 河魚一：厚魚〕
Muktun ぢねずみ〔31. 獸七：鼢鼠〕
Mukūmbi (水などを)口一杯に含む〔27. 飲食四：含著水〕
Mukūn 同姓のもの. 一族〔10. 人倫二：族〕一むれ. 一群〔25. 多寡一：行夥〕同黨. なかま. むれ. 組合〔彙：一帮船兩帮船之帮. 一羣之羣. 與 Feniyen 同〕
— **falga** 〔彙：宗族〕
— **i ahūn deo** 同姓同族中, 兄弟, 從兄弟, 從々兄弟等の關係にあるものの稱〔10. 人倫二：族弟兄〕
Mulan 1. 圓き或は四角の腰掛け〔25. 器用二：杌子〕2. かなとこ〔彙：烙鐵板子〕
Mułuse 奇果の名. 樹皮内に生じ, 色黃色く, 長さ四五寸, 味甘し〔補3. 異樣果品三：楊搖子〕
Mulderhen Guwenderhen (哨天雀)の別名〔30. 雀六：天鷚〕
Mulhūri 角のない牝牛〔32. 牛：無角乳牛〕
Muliyan あごの根もと, 耳の下にあたる所. 腮〔10. 人身二：腮根〕鳥の羽のつけ根, 首に近き所〔彙：鳥雀翅膀頭彎曲處〕
Mulmen みさごの一種. 身體大きく, Silmen (雀鷹)に似たるみさご〔30. 鳥五：海鵰〕
Multujembi 手から落ちる. 手からこぼれる〔15. 拿放：隨拿卽脫〕縛つたものが脫け落ちる. 脫け出る. 縛りがとける〔25. 斷脫：褪開〕
Multule (絆を)脫け出よ〔26. 剖解：褪〕
Multulembi (繩絆を)脫け出る〔26. 剖解：褪脫〕
Mulu 1. 山上高く聳へたる處. 所謂山の背は Jidun といふ〔2. 地輿三：山梁〕2. 家の中央の棟木〔21. 室家一：中樑〕屋根の棟〔21. 室家二：房背〕帳房の上中央に差し渡した木〔24. 氈屋帳房：樑〕3. 毛皮の背骨の上にあたるところ〔24. 皮革一：皮背子〕
— **i fere moo** 船の龍骨〔26. 船二：樑脚〕
— **i hetu moo** 船の前部につけた梁の如き横木〔26. 船二：樑頭〕
Mulunombi 1. 氷が凍つて小さい山を築く. 氷の山が出來る〔2. 時令九：氷凍成岡〕砂が積んで岡と成る. 砂が堆積する〔2. 地輿三：沙攤成岡〕2. 樑を上げる. 棟上げをする〔彙：起背子. 起樑子〕
Mumanambi 鹿が泥土を身體になすりつける〔31. 走獸動息：鹿打泥〕
Mumin 深淵の. 底知れず深い〔2. 地輿七：淵深〕
Mumuhu 皮革製の蹴球〔19. 戲具二：行頭〕
Mumurembi (馬などが)頭を低め足で蹴る〔31. 馬匹動作二：打腦椿〕
Mumurhūn 模糊とした. 薄ぼんやりした. 不明瞭な〔25. 諸物形狀一：模糊〕
Mumuri 年老いて齒が脫けた〔10. 老少一：沒牙〕角が取れて圓くなつた. すりきれた〔25. 諸物形狀一：磨圓了〕
— **meitehe** Sentehe 又は Mentehe に同じ. 齒が缺けた〔16. 殘缺：牙齒豁了〕
— **oho** かどが取れて圓くなつた〔彙：有背楞的物攧了略圓了〕齒が脫け年老いた〔彙：落了牙的有年紀了〕
Munahūn いらいらした. むつとし乍ら口にも出し得ない〔11. 容貌八：無聊〕
Munari 奇果の名. 形長圓, 嚙むれば始め少しく苦けれど少時にして甜し〔補3. 異樣果品三：彌子〕
Mung mang もうもう(牛や鹿などの鳴き聲)〔14. 聲響五：牛吼鹿鳴聲〕
— **mang seme** つべこべと. ああこうと(强情に言ひ張る貌)〔18. 鈍繆：言語執紐〕
Munggan 丘. 岡. 丘陵〔2. 地輿三：邱陵〕
Mungge niongniyaha Bigan i niongniyaha (鴻雁)の別名〔補4. 鳥三：

鷹〕

Mungkeri ilha もくれんげ. もくれんの花〔29. 花一：木蘭花〕

Mungku 氷中で凍つた魚〔彙：氷裡凍的銀魚. 與 Honokta 同. Honggoco 同〕

Munjimbi 病んで呻吟する. うんうん唸る〔五體16. 疼痛三：疼的出聲〕

Mur mar seme 愚鈍にして强情な貌〔18. 鈍繆：執繆〕

Murakū 鹿呼びの笛〔22. 打牲器用四：鹿哨子〕

Murambi 1. 鹿笛を吹いて鹿を呼び集める. 鹿狩りをする〔9. 畋獵一：哨鹿〕 2. 虎, 鹿, 駝, 驢などが吠へる. 鳴く〔14. 聲響五：虎鹿駝驢叫〕

Muran 鹿狩りの圍み. 鹿狩り〔9. 畋獵一：哨鹿圍〕

— **i aba** 鹿狩り. 鹿獵〔彙：哨鹿時打的圈〕

Murca 車の齒止めの操桿〔26. 車轎二：標棍〕

Murcakū 帽子の頂きの飾り玉を, 飾り玉受けにとめるねじ〔24. 冠帽二：螺蛳轉〕

— **fara i iletu kiyoo** 轅を三段の折疊み式にした轎. 遠路を行くときには轅を短かく折り疊んで輕用する〔26. 車轎一：活杆亮轎〕

Murcan Ajige kūrcan (小灰鶴) の別名. 好んで水邊に棲息す〔補4. 鳥一：水鶴〕

Murfa 大麥の一種. 西方寒地に產するもの〔28. 米穀一：青稞〕

Murhu farhūn 目が昏んだ. 人事不省の〔16. 疼痛三：昏沉〕心恍惚とした. うつとりとした〔彙：心內恍惚〕

Muri (繩絲を) 堅くなへ. 堅く撚れ〔23. 紡織一：擰〕

Muribuhabi 無實の罪を被つた. 强ひて罪せられた〔5. 詞訟一：被屈〕

Muribumbi (濡れたものを) 絞らせる〔18. 洗漱：使擰水〕ことを枉げさせる. 枉げられる〔彙：使冤枉. 被冤屈〕

Murihan 道路の曲り角〔19. 街道：轉彎處〕

— **boo** かぎなりに曲つた建物. かぎなりの家〔21. 室家一：轉角房〕

Murikū 1. 琵琶等の弦を締めるねぢ〔7. 樂器三：軸子〕 2. 意地張りの人. つむじ曲りの人〔18. 鈍繆：執繆人〕 3. 手なれてゐない馬. 强情な馬〔31. 馬匹三：倔僵〕

— **moo** 車の荷の上に掛ける繩の締め木〔彙：車等物上絞緊繩的絞桿〕

Murimbi (角力で) 相手をねじる〔8. 撩跤一：擰〕意地を張る. 强情を云ひ張る. すねる〔18. 鈍繆：執繆〕(濡れたものを) 絞る. 絞り出す〔18. 洗漱：擰水〕繩を堅く撚る. よる〔23. 紡織一：擰繩〕

Murime Moselame に同じ. 胡坐かき〔14. 坐立一：盤膝坐〕

Murin tarin 錯雜混亂した. ごたごたした〔5. 繁冗：扭扭別別〕整つた處のない. すつきりしない〔18. 鈍繆：扭彆〕

Murinjambi 一途に强情を張る. たゞすねまはる〔18. 鈍繆：一味執繆〕

Murishūn 無實の罪に陷れた. 罪に枉げた. 裁きの公平でない〔5. 詞訟一：冤屈〕曲つた. ねじれた〔彙：扭. 委曲〕

Muritai 我儘な. 强情で我を通さねばきかぬ〔18. 鈍繆：繆到底〕

Murkibumbi 角を斷ち切らせる. 角を取つて圓くさせる〔26. 截砍：使裁角〕

Murkimbi 角を斷つ. 角を取つて圓くする〔26. 截砍：裁角〕

Mursa 1. 彫刻を施した圓形の Hitha (飾件)〔9. 鞍轡二：泡子飾件〕 2. だいこん〔27. 菜殼一：蘿蔔〕

Murtashūn 1. 背逆の(人). 道理を謬つた(人)〔18. 兇惡一：謬〕悖り謬つた〔18. 鈍繆：悖謬〕 2. 四角を改めて圓くした〔彙：改方爲圓〕

Muru 人の恰好. 總體の風貌. 委態〔11. 容貌一：模樣〕

— **akū** 1. 道理を辨へず手あたり次第のことをする人. 2. 出來上つたものが型に合はぬ. 型にはまらぬ〔18. 兇惡一：沒樣兒〕

Muru tucike 大體の形が出來た．大凡形を成した〔26.完成：有規模了〕
Murung たぬきの一種．猞猁猻より小さく野猫より些さか大きい〔31.獸五：花斑貍〕
Murungga 1. 姿態相似た．同じ樣な風體の 2. 擧動言行觀る可きものゝある〔11.容貌一：模樣相似〕
Murušembi 大概を理解する．大體の處を了得する〔7.文學：得其大槩〕よく似てゐる．彷彿とする〔11.容貌一：彷彿〕
Muse 我ゝ．私共．Bi の複數形〔18.爾我二：咱們〕
Museingge 我々のもの．私共のこと〔18.爾我二：是咱們的〕
Musekebi 銳氣挫折した．心志衰へた〔13.悔嘆：心志灰了〕壓し曲げられた．歪められた〔彙：凡木等物被重物壓歪偏了壓彎了〕
Musembi 1. 弓の彎曲が出來る．弓に曲りが出來る〔9.製造軍器一：揑身〕木が彎曲する．曲る〔21.倒攴：彎〕2. 意氣が挫ける．志氣沮喪する〔彙：人折了銳氣志意衰退了〕
Musembumbi 1. 人の銳氣を挫折する．志氣を沮喪させる〔16.折磨：折挫〕2. 木などを壓し曲げる．彎曲さす〔26.煨折：壓彎〕弓の彎曲を作る．弓を曲げる〔9.製造軍器一：使揑身〕
Musen 1. 墓穴〔6.喪服二：坑〕2. 弓身の彎曲〔9.製造軍器一：弓的揑身〕
Musengge 我々のもの．私共のこと〔彙：我們的．與 Museingge 同〕
Musha 毛の短い虎．毛の薄い虎〔補4.獸一：戲貓〕
Musi 米穀を粉に挽いて鍋で煮，水に入れて食するもの〔27.茶酒：炒麵〕
— **wehe** 蠟石．大理石〔2.地輿六：滑石〕
Musiha moo くぬぎ〔補3.樹木二：櫟木〕
Musihi 瓢形にくりぬいた木に長い柄をつけたもの．水汲用〔25.器用五：長把木瓢〕
Musiren ふじ〔29.樹木六：藤〕
Mušu うづら〔30.雀二：鵪鶉〕
— **algan** うづら取りの網〔彙：拉鵪鶉的網〕
— **gidara asu** うづら取りの網．四尺四方程の網にて兩邊に竹が付けてある〔22.打牲器用三：頂網〕
Mušuhu 木の瘤〔29.樹木九：樹瘤子〕
Mušuhuri 辛うじて．どうやら．まづまづ〔15.拿放：將趕上〕
Mušurhu 魚名．Tubehe（重唇魚）より小さく，九月にうづらに變ず〔32.海魚一：黃魚〕
Mušuri 朝鮮織りの麻布〔23.布帛五：高麗夏布〕
Mutebumbi ことを成さしめる．能くさせる〔11.德藝：能成〕
Mutehe be simnere bolgobure fiyenten 吏部に屬し，中外文官の功過を査定し其賞罰幷に免官等のことを掌る役所〔20.部院三：考功清吏司〕
Mutehentu enduri 日神の第九．危神の次位にあり，黃道の日を掌る〔補2.神一：成〕
Mutembi 事をする．能くする．することが出來る〔11.德藝：能〕
Muten 藝能．能力．才藝〔11.德藝：藝〕
— **akū** 藝能がない．能力がない．無能の〔17.懦弱二：無能〕
— **arambi** 才能ある樣に見せびらかす．何も知らぬ人に誇り散らす〔17.驕矜：逞能〕
Muterei teile 力一杯に．力のあるだけで〔彙：儘着力量作爲幹事〕
Mutuhabi 成長した〔10.老少二：長了〕〔13.生育：長了〕
Mutulhen みさごの一種．身體大きくして Itulhen（鷂子）に似たるみさご〔30.鳥五：海鵰〕
Mutumbi 成長ずる．成育する．大きくなる〔13.生育：長〕〔21.農工二：長〕
Mutun 大きさ．寬さ．かさ〔25.諸物形狀一：身料〕
Muwa 粗大な．横ひろがりの〔11.容貌六：粗實〕粗野な．粗末な〔18.鈍繆：

粗糙〕〔26.營造：粗糙〕
Muwa boso 粗末な布．織目のあらい布〔23.布帛六：粗布〕
— **duha** 〔10.人身七：大腸〕〔27.飯肉二：大腸〕
— **edun tuwambi** 大便をする．糞をする．Hamtambi に同じ〔10.人身八：出大恭〕
— **funiyesun** Funiyesun（布の名．褐子）より較々織目の荒い布〔23.布帛五：夾道子〕
— **honci** 大羊の皮〔24.皮革一：老羊皮〕
— **suseri hoošan** 竹を材料として作つた極めて薄手の紙〔7.文學什物一：古連紙〕
— **uhungge hoošan** Uhungge hoošan（京高紙）の類．黄色にして强靱なり，物を包むに使用する〔7.文學什物一：方高紙〕
— **wehe** 質粗雜な石〔2.地輿六：粗石〕
Muwakan 些さか粗大の．些さか横ひろがりの（顔貌が）〔11.容貌六：略粗實〕些さか粗末な．やゝ粗雜な〔彙：略粗些〕
Muwarungga fukjingga hergen 蒼頡の作つた篆書を史籀が更に損益して作つた篆書體〔補1.書三：大篆〕
Muwašambi（箭竹を）先づ荒削りする．ざつと仕上る〔9.製造軍器三：推荒桿〕大體の仕上げをする．ざつと作り上げる〔26.營造：粗作〕粗野な振舞ひをする〔18.鈍縻：擧止粗糙〕
Muya わら．むぎから〔29.草一：茭蘘〕
— **suse**（壁土に混入する）きざみわら〔26.砌苫：切稭〕
Muyahūn 完全な．無瑕の．整全とした〔25.諸物形狀一：完全〕
— **akū** 不完全な．整はない〔彙：不完全．不整全〕
Muyambi（立腹し乍ら聲には出さず）亂暴をはたらく．怒つてあたりちらす〔17.暴虐：暗怒〕
Muyari りうがん〔28.果品二：龍眼〕
Mūnggu うみつばめの巢．料理して食用に供す〔27.菜殽二：燕窩〕

N

Na 地．土地〔2.地輿一：地〕
— **bešekebi** 雨水が大いに地に浸み込んだ〔彙：雨水浸地太過了〕
— **derbehun** 土地濕れる〔2.地輿一：地潮〕
— **i enduri dobon** 地神を安置する殿〔20.壇廟：皇祇室〕
— **i giyan**〔彙：地理〕
— **i oilo hetu i durungga tetun** 緯度を計測する器械．Uyunju dulefun i durungga tetun（象限儀）に同じ〔7.儀器：地平緯儀〕
— **i oilo hetu undu i durungga tetun** 經緯度を併せ計測する器械〔7.儀器：地平經緯儀〕
— **i oilo undu i durungga tetun** 經度を計測する器械〔7.儀器：地平經儀〕
— **kengkehebi** 地が乾ききつてゐる〔2.地輿一：地乾透〕
— **olhon** 地の乾いた．地に濕り氣のない〔2.地輿一：地乾〕
— **sengsekebi**（泥）地の僅かに乾いてゐる〔2.地輿一：泥地初乾〕
— **sulhumbi** 地がやはらぐ．（春になつて地が濕氣を帶び軟かになつて歩けば顚ふをいふ）〔2.地輿一：春地酥顚〕
— **usihin** 地に水氣のある（Na derbehun より一層濕つた狀態）〔2.地輿一：地濕〕
Naca 妻の兄〔10.親戚：妻兄〕
Naceo 紬の一種．Judurakū に同じ

〔彙：納紬〕

Nacihiya 安んじ慰めよ．勞はれ〔5.安慰：安慰〕

Nacihiyabumbi 安んじ慰めさせる．勞はらす〔5.安慰：使安慰〕

Nacihiyambi 慰める．勞はる〔5.安慰：勸慰〕

Nacin 鳥名．態 Šongkon(海青鳥)に似て，較々小さく，鴨などを捕ふ〔30.鳥四：鴉鵲〕

Nadan 1. 數詞．七〔7.數目一：七〕2. 死者の墓上に幡を竪てゝ燒棄する行事．初七日及び四十九日に之を行ふ〔6.喪服二：上大墳〕3. 財．財帛．たから〔彙：財帛之帛．與 Ulin 同〕

— **biya** 〔彙：七月〕

— **irungge mahatun** 古冠の名．上面に七條の梁を起せる Irungge mahatun (梁冠)〔補1.古冠冕一：七梁冠〕

— **tuhebuku i mahatu** 古冠の名．七旒を垂下したる冠〔補1.古冠冕一：七旒冕〕

— **usiha** 北斗七星〔1.天文二：七星〕

Nadanci 第七．七番目〔彙：第七〕

Nadangga hoošan 棉の實を原料として造れる紙．七枚を連ねて一連となせるが故に連七紙といひ，種々に彩色しあり〔7.文學什物一：連七紙〕

— **inenggi** たなばた〔2.時令六：七夕〕

Nadanggeri 七度．七遍．七回〔7.數目一：七次〕

Nadanju 數詞．七十〔7.數目二：七十〕

Nadanjuta 七十每．七十宛〔彙：各七十．每七十〕

Nadata 七ツ每．七ツ宛〔7.數目一：各七〕

Nag'a ilha 奇花の名．色白くして六瓣，蘤は黃色．葉無し〔補3.異花一：那伽花〕

Nahalambi 病んで床上に横たはつたまゝ起つことが出來ない．ねたきりに病む〔16.疼痛三：落炕〕

Nahan 炕．火床．溫突〔21.室家三：炕〕

— **i hosori** 溫突の中の煤〔彙：炕裡頭的烟灰〕

— **i irun** 炕內の烟道〔彙：炕內之洞〕

Naihū 北斗七星．Nadan usiha に同じ〔1.天文二：北斗〕

— **de sucunangga loho** 鞘より出づれば光芒目を射る刀〔補1.軍器一：貫斗刀〕

Naihūbumbi もたせかけて一方に倒す〔21.倒攴：使歪倒〕

Naihūmbi 一方にもたれかゝつて倒れる〔21.倒攴：歪倒〕

Naiji ilha 花名．葉蒜に似て長く，葉の中央より莖出で，莖の先端に花開く．花は六瓣にして紅白二種あり，蕊は黃紅〔補3.花：臙脂花〕

Naimisun 皮の上着の裾の方の裏側〔24.衣服三：皮襖下邊裏子〕

Nairahūn 溫厚なる(人)．篤實溫柔の(人)〔11.厚重二：溫厚〕

Najihiyan しろくま〔補4.獸一：白熊〕

Naka bai 止まらばや．止めたならばなー〔彙：停止罷．止住罷〕

Nakabu 停止させよ．止めさせよ〔彙：令人停止〕

Nakabumbi 職を革め退ける．罷める〔4.陞轉：革退〕止める．停止する〔彙：止住他〕逐ひ斥ける〔彙：逐斥〕

Nakambi 官職を退く．罷める〔4.陞轉：退〕止める〔彙：止住之〕歇ふ．やすむ〔彙：雞歇架之歇〕

Nakcu 母の兄弟〔10.親戚：舅舅〕

Nakcuta Nakcu の複數形〔10.親戚：衆舅舅〕

Nalu 野菜の一種．葉大きく生で食ふ〔五體27.菜蔬一：生菜〕

Nama gida 前衞兵の用ひる小槍〔9.軍器六：手鎗〕

— **sirdan** 箭の一種．鏃短かくして鏃の中央部兩側に高みのあるもの〔9.軍器五：鎗頭箭〕

Namakū loho 武庫に藏する名刀〔9.軍器六：庫刀〕

Namalabumbi 鍼を刺させる．鍼療治をさせる〔19.醫治：使下針〕

Namalambi 鍼を刺す．鍼療治をする

〔19. 醫治：下針〕〔32. 馬畜殘疾二：下針〕

Naman 醫療用の鍼〔19. 醫治：針〕〔彙：與 Nama 同〕

Namarabumbi 更に添へんことを爭はしめる．一度び終つて後重ねて又求めさせる〔18. 貪婪：使爭添〕

Namarambi 更に添へんことを爭ふ．一度び終つて後重ねて又求める〔18. 貪婪：爭添〕

Namašan 踵を接して．直ぐ續いて〔2. 時令三：隨即〕

Nambuha nambuhai 其場其場で．あたり合ひ次第に．口に任せて〔18. 散語三：遇着〕

Nambumbi うまく手に入れさす．必ず捕へさせる〔15. 拿放：拿獲〕拿へられる．うまく拿へられる〔彙：被拿住．恰好被拿着〕

Namgin 奇果の名．色紫にして核なし，海南には柿を産しないので，これを柿と認めて食ふ．味甜酸，こりこりとした齒當りがある〔補3. 異樣果品三：都念子〕

Nami 鹿の皮の毛を去つて作つた衣服．皮衣〔24. 衣服二：去毛鹿皮衣〕

Namki 馬の鞍下，腰の邊りにかける毛氈類〔9. 鞍轡一：屜〕

Namšuri 奇果の名．樹高三尺餘り，冬季開花し朶極めて小さく，果の大きさ櫻桃程なり〔補3. 異樣果品一：海梅〕

Namu 1. 海洋．Mederi に同じ〔2. 地輿七：洋〕2. 野菜の名．Nalu に同じ〔オ四訂版27. 菜蔬一：生菜〕

— **angga** 海港．灣〔續2. 地輿：澳口〕

— **coko** 孔雀〔補4. 諸畜二：洋雞〕

— **dengjan** 佛前の懸燈〔23. 烟火一：海燈〕

— **niyehe** 鳥名．身雪白，鼻上に紅肉あつて垂生す〔補4. 諸畜一：洋鴨〕

— **sika moo** 樹名．樹形しゆろに似て葉幹端に叢生す．しゆろの如きひげ無し〔補3. 樹木一：海櫻〕

— **ulgiyan** 鯨の一種．能く水を吹く〔32. 海魚一：江猪〕

— **urangga moo** はりぎり．ぼうだら〔補3. 樹木一：海桐〕

Namun 貨財收貯の屋．くら〔20. 部院一：庫〕

Namuri 米粒大の黑點を生ぜる青麻（先づこのものより取つて糸に紡ぐ）〔23. 絨棉：黑麻皮〕

Namusi 倉庫人夫〔10. 人二：庫丁〕

Nandabumbi 要求させる．請はせる〔13. 求望：使賴著要〕

Nandambi 要求する．請ふ〔13. 求望：賴著要〕

Nanggin 廊．廊下〔21. 室家二：廊〕

Nanggišambi 美を賣りものにする．媚を賣る〔17. 淫蕩：賣俏〕柔和にして美はしく動作する．なよなよとする〔彙：柔和輕順擧止動作嘉美〕

Nanggitu coko 七面鳥の別名〔補4. 鳥五：避株〕

Nanggū むじなを捕る器具．生肉を餌とし，之に食ひつけば上方より木が落下する仕掛けになつたもの〔22. 打牲器用四：打貛豬的木墩〕

Nantuhūn 貪汚の．不淨の〔18. 貪婪：貪汚〕汚穢の〔18. 邋遢：汚穢〕

Nantuhūrabumbi 汚くする．汚穢する〔18. 邋遢：致汚穢〕穢される．汚くされる〔彙：被穢〕

Nanturambi 汚くなる．穢れる〔18. 邋遢：作汚穢事〕

Naracuka Hairacuka に同じ．實に惜しむ可き〔13. 愛惜：可貪戀〕

Naracun 戀しき．慕はしい處のある〔13. 愛惜：係戀〕

Narahūnjambi ひたすら戀着する．Narašambi に同じ〔13. 愛惜：只是貪戀〕

Narakabi （貴人の顏の）清らにほつそりした〔11. 容貌八：清減了〕

Narambi 戀着する．捨てない〔13. 愛惜：貪戀〕

Naranggi 畢竟．つまりは〔18. 完全：畢竟〕

Narašambi ひたすらに戀着する．容易に捨てない〔13. 愛惜：只是貪戀〕

Narga 耙〔21. 農器：耙〕

Nargabumbi 地を耙かせる〔21. 農工

一：使耙地〕

Nargambi 地を耙く〔21.農工一：耙地〕

Narhūdambi 細かしい生計を立てる．物吝みの暮し方をする〔11.省儉：細吝〕

Narhūn 1. 細い．細かしい(人)〔11.省儉：細〕聲の細い〔14.聲響一：聲細〕細緻な〔26.營造：細緻〕2. 箭が的を擦れ擦れに通る〔8.步射一：不離箭把〕

— **ba** 兵部往來の文書を受納管理する房〔20.部院四：衙本房〕

— **baita** 機密に屬する事．秘密の事〔5.事務一：機密事〕

— **duha** 〔10.人身七：小腸〕

— **edun tuwambi** 小便をする．排尿する〔10.人身八：出小恭〕

— **funiyesun** 布の一種．Funiyesun(褐子)の織目細かきもの〔23.布帛五：粘絨〕

— **honci** 羊，小羊の皮〔24.皮革一：羊羔皮〕

— **muciha futa** 曳船用に使ふ細手の竹繩〔26.船四：雲篦〕

— **nimeku** 〔16.疾病一：痧氣〕

— **oyonggo pilere bithe** 特に精微に政務を批判せる書類〔續2.事務：精微批〕

— **wehe** 目の精緻な石〔2.地輿六：細石〕

Narhūngga fukjingga hergen 書體の名．秦の宰相李斯が篆文を省改して作れるもの〔補1.書四：小篆〕

Narhūšabumbi 機密にさせる．秘密に取り扱はせる〔5.辦事一：使機密〕細かくさせる．細密ならしめる〔彙：使細之．使細密之〕

Narhūšambi 機密にする．秘密に處理する〔5.辦事一：機密〕細く刮る〔9.製造軍器三：細刮〕(儉約して)細かくやる〔11.省儉：細微〕細かく作る．細かく細工する〔26.營造：細作〕

Narhūšame fempilere bafan 考試の試卷を點檢し密封する役人〔4.臣宰十：彌封官〕

— **fempilere falgangga** 考試試卷の點檢密封を辦理する役所〔20.部院十：彌封所〕

Nari 大きな雌熊〔31.獸二：母馬熊〕

Narintu 奇獸の名．形色猴に似，身大きくして驢の如く，善く高樹に登る．たゞ雌のみあつて雄なし〔補4.異獸六：綱順〕

Nasabumbi 嘆き惜ませる．嘆ぜしめる〔13.悔嘆：致于嘆惜〕

Nasacuka 嘆ず可き．嘆き惜しむべき〔13.悔嘆：可嘆〕

Nasacuka usacuka 嘆かはしくて嘆かはしくて．とても惜しむ可き〔彙：凄凄切切〕

Nasacun 悔ひ．嘆き〔13.悔嘆：嘆〕

Nasambi (已に過ぎたることなどを)嘆き惜しむ．嘆嗟する〔13.悔嘆：嘆惜〕

Nasan 鹽漬けの白菜〔27.菜穀四：醎白菜〕

— **gidambi** 白菜を鹽漬けにする〔彙：醃醎白菜〕

— **hengke** 瓜の一種．色綠にして長きも圓きもあり，生食し又は煮て食ぶ〔27.菜穀一：王瓜〕

Nasara bithe 死者を追慕哀惜する文．誄文〔7.書三：誄〕

Nashūlabuha 都合よく．折よく〔18.散語三：湊巧〕

Nashūlabumbi 機會に遇はせる．機緣を摑ませる〔15.遇合：致逢機會〕

Nashūlambi 機會に遇ふ．機緣を摑む〔15.遇合：逢機會〕

Nashūn 機會．機緣〔2.時令三：機會〕

Nasin 大熊．ひぐま〔31.獸二：馬熊〕

Naya 妻の弟〔10.親戚：妻弟〕

Ne 現在．現今．目前に〔2.時令三：現今〕

— **je** 立ち所に．たつた今〔15.急忙：立刻〕

— **jen belehe** 今は用意の出來上つた．現に用意の整つた〔彙：凡物現成預備了〕

Nece 妻の兄の妻〔10.親戚：妻嫂〕

Necibumbi 干犯させる．侵犯せさる

〔15.侵犯：使干犯〕侵犯される〔彙：被侵犯〕

Necihiyebumbi (氣を)平らかならしめる〔5.安慰：使平撫〕(地面を)平らかならしめる〔26.塞決：使平地面〕

Necihiyembi 他人の怨惱を慰め解く．(氣を)平らかにする〔5.安慰：平撫〕(高きを削り低きを埋めて地面を)平らかにする〔26.塞決：平地面〕

Necihiyeme toktobuha hoise 平定したる(西部の)回々人等〔3.旗分佐領二：平定回子〕

— **toktobuha jun gar i ūlet** (乾隆二十年に)平定したる準噶爾の厄魯特人等〔3.旗分佐領二：平定準噶爾厄魯特〕

Neciken 稍々平坦の．些さか平らかな〔2.地輿二：平坦些〕

Necimbi もの持てる人を搖り騷がす〔13.戲要：招人〕干犯する．侵犯する〔15.侵犯：干犯〕

Necin 平坦．平坦の〔2.地輿二：平坦〕平らかな．太平の〔11.禍祉：平〕平穩の．心平らかなる〔11.忠清：平〕和平の．和ぎたる〔11.厚重二：和平〕

Necinembi 行つて干犯する．犯しに行く〔15.侵犯：去干犯〕

Necingge karan 露臺．高臺〔21.室家一：平臺〕

— **kemun** 水平器．水準器〔22.工匠器用三：水平〕

— **mahatun** 項を平板に作れる古冠の名〔補1.古冠冕一：平天冠〕

— **mudan** 四聲の一．平聲〔14.聲韻一：平聲〕

— **saifi** すくふ所の平らな匙〔25.器用三：匀匙〕

Necinjimbi 來て干犯する．犯しに來る〔15.侵犯：來干犯〕

Necintu enduri Juluntu enduri (滿の神)の次位にある日神．十二直の平〔補2.神一：平〕

Nege negelembi 小兒が漸く ひとり立ちする．又ものがどうにか立つ〔18.散語三：將能着〕

Negelembi 小兒を掌上に立たせ遊ぶ〔13.生產：掌托站立〕

Nehū 女中．下女〔10.人五：使婢〕

Nehūji 女中．下女．Nehū に同じ．Nehūji mama といへば老婢の意〔10.人五：老婢〕

— **mama** 年老ひた婢．家つきの婢〔彙：有年紀的家人媳婦〕

Nei 1. あせ〔10.人身八：汗〕2. 開け〔彙：叫人開〕

— **funiyehe** うぶ毛〔10.人身一：汗毛〕

— **taran** あせ．Nei に同じ〔彙：汗液〕

— **yoo** あせも〔16.瘡腫一：痦子〕

— **yoo dekdehe** あせもの出來た〔彙：生了痦子了〕

Neibumbi 開かせる〔21.開閉：使開〕

Neibuntu enduri 日神の第十一．十二直の開．生氣の象にして，黃道の日を主る〔補2.神一：開〕

Neigecilebumbi 一樣に平均させる．一樣に均需させる〔12.均賑：使一樣均勻〕

Neigecilembi 一樣に平均する．一樣に均需する〔12.均賑：一樣均勻〕

Neigelembi 平均する．人を待つに厚薄がない〔2.均賑：均勻〕

Neigen 平均．平均の〔12.均賑：勻〕

Neigenjebumbi 平均させる．人を待つに厚薄なからしめる〔12.均賑：使均勻〕

Neigenjembi Neigelembi に同じ〔12.均賑：均勻〕

Neihe hecen 滿洲の地名〔續2.地輿：巨流河站卽開城〕

Neiku sithan Holbon i hithan に同じ〔21.室家二：小合葉〕

Neilebun 義理を詳論し是非を發するの文〔7.書三：發〕

Neilembi 蒙を開く．啓發する〔7.文教：開示〕

Neilen 啓發訓導の文〔7.書三：啓〕

Neimbi 開く〔21.開閉：開〕

Nekcu 母の兄弟の妻〔10.親戚：舅母〕

Nekcute Nekcu の複數形〔10.親戚：衆舅母〕

Nekeliyeken 些さか薄い〔25.諸物形

狀二：略薄〕

Nekeliyen 薄い〔25.諸物形狀二：薄〕

— **ceceri** 絹の一種．普通の絹に比して較々薄い〔23.布帛四：杭絹〕

— **holbonggo hoošan** 竹を材料とせる薄手の紙．相當の強靱性あり，版下を書くに使用す〔7.文學什物一：雲連紙〕

— **šobin** 麥粉に砂糖，くるみの實，くこの實，水等を混じ油にて烙きたる餅〔27.餑餑二：夾餡燒餅〕

Neku 女同士の友達〔10.朋友：女友〕

Nekulaha 意に稱つた．意に得たりとした〔彙：稱意．正可着心〕

Nekulambi Nekulembi に同じ〔彙：乘便之乘．所思想之處乘人之便搏行之．乘爲．稱意正可心如開不相對之人陷落于不好之處其心稱意也〕

Nekulembi 思ふ所を人のついでに乘じて行ふ．便に乘ずる〔13.愛惜：乘意〕他人の災を幸とし心に得たりとする〔15.憎嫉一：幸災〕

Nelhe 安康．やすらか〔11.福祉：康〕

Neme 加へよ．增せ〔25.增減：加〕

Nemebumbi **1.** 米の糠を取らせる〔21.碾磨：使舂米〕**2.** 增加させる〔25.增減：使增加〕

Nemegin 重量の一單位名．鈞．三十觔(Ginggen)〔22.衡量一：鈞〕

Nemehen (彼此交換物相等しからざる際の) 若干の添へ物〔22.貿易二：貼頭〕

Nemeku omolo 五代の孫〔五輩10.人倫二：元孫〕

Nememb i **1.** 米の糠を取り去る〔21.碾磨：舂米〕**2.** 增加する．加へる〔25.增減：增加〕

Nememe 愈々益々．益々反つて〔18.散語三：愈加〕

Nemendumbi 一齊に加へる．齊しく增加する〔25.增減：齊加〕

Nemerhen 簑〔24.衣服二：簑衣〕

Nemeri (齒あたりの) 柔かい．脆い〔27.飯食二：嫩〕

Nemerku 油塗りの雨衣．雨合羽〔24.衣服二：雨衣〕

Nemeyeken 略々柔和な．稍々たをやかな〔彙：略柔和．略婉〕

Nemeyen 柔順な．柔婉の〔11.厚重一：柔順〕

— **ceceri** 絹の一種．普通の絹より滑りがよく柔かい絹〔23.布帛四：女兒絹〕

Nemgiyen 溫和な．淑やかな〔11.厚重一：溫和〕

Nemkibumbi 重ね縫ひさせる〔24.剪縫三：使縫〕

Nemkimbi 重ね縫ひする〔24.剪縫三：縫〕

Nemselembi **1.** 怒りを加へる．愈々怒り猛る〔13.怒惱：加怒〕**2.** 病を加へる．餘病を併發する〔16.疼痛三：添病〕**3.** 譏謗の上にも譏謗を加へる．只管譏謗を加へる〔17.譏謫：只管加譏〕**4.** 多きを加へる．更にも加へる〔25.增減：多加〕

Nemsuri bele うるち米〔28.米穀一：秔米〕

Nemšeku 爭ひ好きの人．貪つて足るを知らざる人〔18.貪婪：肯爭〕

Nemšembi 多きを爭ふ．多きを貪つて足るを知らない〔18.貪婪：爭多〕

Nemšerakū 多きを貪らない．足るを知る〔11.忠清：不多爭〕

Nemu 礦窟．礦脈〔2.地輿五：礦〕

Nende 先んぜよ．先にせよ〔2.時令二：使先〕

Nendebumbi 先んじさせる．先にさせる〔彙：使先之〕

Nendembi 先にする．先んずる〔2.時令二：先之〕

Nenden 先．首め．先の．首めの〔2.時令二：首先〕

— **bojiri ilha** 菊の一種．瓣層々重出して紫薇花の如く，色は茄花に似て，六七月の頃開花す〔29.花五：七月菊花〕

— **ilha** うめの花〔29.花一：梅花〕

— **ilhai giyen** 顏料の名．Wehe giyen (石青) に似たれど質粗く，Giyen (靛花青) より色深し〔22.貨財二：梅花青〕

— **usiha** 奇果の名．落葉せず，冬花を開いて春實熟す〔補3.異樣果品四：胡頹子〕

Nene 先にせよ. Nende に同じ〔2.時令二：使先〕
Nenehe 先の. 前の〔2.時令二：先前〕
— **aniya** 先年. 往年〔2.時令四：昔年〕
— **biya** ありし月. 嘗ての月〔2.時令五：往月〕
— **inenggi** 昔日. 疇日〔2.時令六：昔日〕
— **jalan** 〔彙：先代. 先世〕
Neneme 先づ. 先に〔2.時令二：先〕
Nengge 眼中のかすみ〔16.殘缺：蘿蔔花〕
Nenggelebumbi 凭りかゝる様にして支へる. 支へ擧げる. 支へ持つ〔22.捆堆：支翹著〕
Nenggerebumbi 下から支へる. 支へ起こす〔彙：墊起. 抵支起〕
Nenggereshun 少しく凭りかゝつて支へ擧げた〔22.捆堆：支翹〕
Neombi (人本住を離れて) 流蕩する. 遊食する〔15.遷移：流蕩〕
Neore tugi 流れゆく薄雲. 浮き雲〔1.天文四：浮雲〕
Nere 1. 鍋をかける脚のある鐵環. 又は地を掘り鍋をかける様に作つた穴〔25.器用五：鍋撐〕 2. 羽織れ. 羽織りかけよ〔彙：令人披〕
— **fetembi** (行營の際) 鍋をかける穴を掘る〔彙：行營刨鍋坑〕
— **jun** 行路携帶用の竈. 二三片の鐵を鑄合せたるものにて, 四角なるも圓形なるもあり〔25.器用四：行竈〕
Nerebumbi 1. 傷いた獸を重ねて又射る〔9.畋獵三：重射傷獸〕 2. 人の非なる處を譏誘して愈々非ならしめる〔17.讒謟：加害〕 3. 衣服を羽織らせる〔24.穿脫：使披衣服〕
Nereku 雨雪の際羽織る袖も襟もなき上衣. 皮衣, 油衣俱にあり〔24.衣服二：斗篷〕
— **nerembi** Nereku を羽織る〔彙：披上斗篷〕
Nerembi 羽織る. 羽織りかける〔24.穿脫：披衣服〕
Nergi 聰明な(人). 伶俐な(人)〔11.德藝：伶透〕
— **niyalmao** 利口者よ. 聰明の人よ〔彙：稱聰明伶俐人之稱〕
Nergin 機會. 機. 丁度の時〔2.時令三：臨時〕
— **de** この機會に. 此の折に〔彙：此會〕
— **i hūsun** 臨時の傭ひ人. 一時傭ひ〔10.人三：短工〕
Nerkimbi (卷物, 織物等を) 展べひろげる. 展開する〔18.抽展：展開〕〔21.開閉：展開〕
Nesi 1. 蹄の割れ目〔31.走獸肢體：蹄爪縫〕 2. 今. たつた今〔彙：現在這會兒的口氣〕
Nesidun しやこの別名〔補4.雀五：內史〕
Nesuken 溫良なる. 穩かにして風貌美はしい〔11.厚重一：溫良〕
— **hehe** 婦人封贈の號. 文武正從六品官の妻に贈られるもの〔3.封表二：安人〕
— **nemeyen** 溫良柔順な〔彙：柔軟順當之貌〕
— **oho** 大風大雨が略々息んだ. 穩やかになつた〔彙：大雨大風略息了〕
Neye 妻の弟の妻〔10.親戚：妻弟婦〕
Ni 1. …か. …や. …かな. …わい (動詞の語尾に付して半疑問又は贊嘆の意を現はす助詞)〔18.散語三：呢字口氣〕 2. …の. …もて (日本語「の」に相當する助詞. i に同じけれど, i は母音及びn音に終る語の次に用ひられ, ni は n 以外の子音に終る語の次に用ひらる)〔彙：的字意. 之字意〕
— **gidambi** (人の非行などを) 記憶する. 胸に持ち思ふ〔18.兇惡二：記過失〕記錄する. 記錄にとゞめておく〔彙：好歹寫記着. 紀錄着〕
— **šan bithei boo** 尼山にある書院の名〔20.部院十二：尼山書院〕
Nibcu hoton 滿洲の地名〔續.地輿：尼布楚城〕
Nicangga tungken 架のある太鼓〔7.樂器一：六合鼓〕
Nicuhe 1. 眞珠〔22.貨財一：珍珠〕 2. 瞑目した. 目を閉ぢた〔彙：瞑目了〕

Nicuhe šungkeri ilha 蘭の一種. 色紫にして,蕾は眞珠の如く,花穂狀に開いて色濃し〔29. 花一:珍珠蘭〕
Nicuheri šurdehen 古時日月星を觀測したる候珠の圓器〔7. 儀器:璿璣〕
— **moo** 奇木の名. 樹形栢に似て葉は眞珠の如きものあり,故を以て名付く〔補3. 異木:三珠樹〕
Nicumbi 目を閉ぢる〔15. 睡臥一:閉眼〕
Nicun ilha 奇花の名. 累垂して花を開き,宛も眞珠の懸れる趣きあり〔補3. 異花五:珍珠花〕
Nicušambi 人に向つて目くばせする〔11. 容貌三:擠眼〕〔彙:與 Niculambi 同〕
Nidumbi うーむうーむと苦痛の聲をあげる. 病んで呻吟する〔16. 疼痛三:哼哼〕
Nijarabumbi みじんに碎かせる〔22. 趕拌:使研碎〕
Nijarakū すりばち〔22. 工匠器用三:擂鉢〕
Nijarambi みじんに碎く〔22. 趕拌:研碎〕
Niji 泥濘をよけて通る路. 泥濘の横の避路〔19. 街道:泥傍小路〕
Nijihe 碎け米. こごめ〔28. 米穀二:碎米渣子〕碎け麥. くず麥〔彙:麵磨剩下的麵渣頭〕
Nikacilambi 漢人風に振舞ふ. 馬鹿な眞似をする〔18. 鈍繆:漢人氣〕
Nikacirakū 支那人的でない. 野蠻でない〔彙:不蠻〕
Nikan 漢人. 支那人〔10. 人一:漢人〕
— **bithe** 漢字の書物. 漢文〔7. 書一:漢書〕
— **bithei kunggeri boo** 滿旗營呈出の一切漢文書,漢字檔案を處理する役所. 提督衙門に屬す〔補2. 衙署七:漢科房〕
— **dangse boo** 各部本院の奏本摺册を書き,奏聞のことを承辦する役所〔20. 部院三:漢檔房〕
— **gūldargan** Gūldargan (越燕) の別名〔補4. 雀三:漢燕〕
— **hengke** 瓜の一種. 甜瓜よりも大なれど,味は高麗瓜に如かず,頭上乳頭あり〔28. 果品四:民甜瓜〕
— **hergen** 〔7. 書八:漢字〕
— **ulhūma** きじの一種. 森林中茂叢の處に棲み,尾至つて長し〔30. 鳥七:雉雞〕
— **uli** 果實の名. 形林檎に似たれど,味酸く蜜に浸して食ふ〔28. 果品二:花紅〕
— **wesimbure bithei ba** 通政使司より呈出せる諸省の漢字の奏本を滿洲語に飜譯することどもを承辦する處〔20. 部院二:漢文堂〕
— **yoo** 天然痘〔16. 瘡膿一:天疱瘡〕
Nikarabumbi 支那語を話させる〔14. 言論一:使說漢話〕
Nikarambi 支那語を話す. 支那語で話す〔14. 言論一:說漢話〕
Nikcabumbi 碎く. 虧損する〔26. 殘毀:弄碎爛〕〔彙:與 Meijebumbi 相似〕
Nikcambi 1. 碎ける. 虧ける〔25. 破壞:爛〕2. (人が自分に)辛くあたる. 苦しめる〔16. 折磨:糟給我〕
Nikde 馬の背すじの鞍を乘せるあたりのところ〔31. 馬匹肢體一:迎鞍〕
Nike 倚れ. よりかゝれ〔彙:令倚. 令靠〕
Nikebumbi 倚らせる. よりかゝらせる〔15. 歇息:使倚着〕〔21. 倚支:使靠着〕(人にことを任して)之に頼る. 自らをよりかゝらせる〔5. 辦事一:著落〕
Nikedembi どうにか出來上る. 大體出來る. 少しは出來る〔18. 散語三:將就〕
Nikehebi Niyarhūlahabi に同じ〔13. 生產:坐月子〕
Nikeku よりかゝる處〔12. 倚靠:倚靠處〕
— **mulan** 倚子〔25. 器用二:椅子〕
— **mulan i dasikū** 倚子に被ひかける丈長の坐褥. 色々の刺繍など施しあり〔24. 鋪蓋:椅搭〕
Nikekungge sektefun 倚子の凭れに立てかける褥〔24. 鋪蓋:靠褥〕

Nikembi 倚る. 倚りかゝる. 凭れかゝる〔14.倚靠：倚靠著〕〔15.歇息：倚著〕
Niken 倚りかゝれる處. 凭れかゝれる處〔12.倚靠：倚靠〕
Nikendumbi 互ひに倚りかゝる. 相凭れる〔12.倚靠：相倚〕
Nikešembi 少しく跛をひく〔14.行走三：略瘸〕〔32.馬畜殘疾二：微瘸〕
Niksimbi 寒さに襟をかきあはす〔13.寒戰：冷的發襟〕
Niktan 最も靈妙なる藥〔19.醫治：靈丹〕
— **siktan** Niktan に同じ. Niktan siktan と連用す〔19.醫治：靈丹妙藥〕
Niktembi Kebsimbi に同じ〔32.騎駝一：腿磕馬粘〕
Niktongga gecuheri 紬の一種. 種々の色の練り糸を合はせ金糸を混じて雙龍を織り出だせる柔らかな織りの紬〔23.布帛三：蟒寧紬〕
— **suri** Tonggo suri (綾紬) に似て一層柔かき紬〔23.布帛三：寧紬〕
— **undurakū** Niktongga gecuheri (蟒寧紬) の雙龍を織り出ださざるもの〔23.布帛三：龍寧紬〕
Nila 磨け〔彙：令磨〕
Nilabumbi 磨かせる〔26.錘磨：使錘〕
Nilakū 小さい木の棒に砥子や鐵などを裝備し, 色々のものを磨くに用ひる器具〔22.工匠器用三：軋子〕
Nilambi 磨く〔26.錘磨：錘〕
Nilara yonggan 玉などを磨くに用ひる砂〔22.貨財一：寶沙〕
Nilgiyan 光澤. 光澤のある〔2.時令九：光滑〕婦人の髪の毛の光潤なる〔24.梳粧：婦人髮光潤〕
— **suje** 緞の一種. Kofon suje (彭緞) より少しく光澤あつて厚手のもの〔23.布帛二：洋緞〕
Nilhūdambi 滑り轉ぶ〔2.時令九：滑跐〕
Nilhūma 東方に產する雉〔補4.鳥六：鶤〕
Nilhūn 滑る. すべすべした〔2.時令九：滑〕
Niltajabumbi 表皮を擦り破る〔16.傷痕：被擦破〕
Niltajambi 表皮が擦り破れる〔16.傷痕：擦破〕
Niltubumbi 皮の毛を焙り取る〔24.熟皮革：熂毛〕
Nilukan 言語の柔和な. 言葉に澤のある〔14.言論一：柔和〕物に光澤あつてすべすべした〔25.諸物形狀三：滑溜〕
Nimaci 山羊の皮〔24.皮革一：山羊皮〕
Nimada みづち〔32.龍蛇：蛟〕
Nimadan さねぶとなつめ〔補3.樹木一：棘〕
Nimaha うを. さかな〔32.河魚一：魚〕
— **butara niyalma** 漁する人. 漁師〔彙：漁翁. 漁人〕
— **gabtara šaka** 鏃を五叉狀に作り, 魚を射て捕へるために使用する箭〔9.軍器五：射魚叉箭〕
— **usiha** 尾宿の北, 天河の上にある星〔1.天文三：魚星〕
— **yasa** そこまめ. 魚の目〔16.瘡膿一：鷄眼〕
Nimahašambi 魚を捕へる. 漁する〔22.打牲：打魚〕
Nimalan くわ. くわのき〔彙：桑樹其葉喂蠶其子可吃味甘〕
—**moo** くわ. くわのき〔29.樹木三：桑〕
Niman やぎ〔31.諸畜一：山羊〕
Nimanggi 〔1.天文六：雪〕
— **kiyalmambi** 風が雪を吹き飛ばす. 雪まじりの風が吹く〔1.天文六：風雪飄蕩〕
— **wenke** 雪が融けた〔1.天文六：雪融化〕
Nimarambi 雪が降る〔1.天文六：下雪〕
Nimargan 羽毛綠色のみさご〔30.鳥五：魚虎〕
Nimari gūwasihiya さぎの一名〔補4.鳥二：雪客〕
Nimari ilha ぶつさうくわ. ぶつさうげ〔29.花三：扶桑花〕

Nimari yanggali 小鳥の名. 毛白くして雪の如く, 鳴けば雪降るが故にこの名あり〔補4. 雀四：雪姑〕
Nimatun 羊の一種. 驢馬に似て尾圓く長し〔31. 獸四：羦羊〕
Nimasi かはせみの一種〔補4. 雀三：魚師〕
Nimašakū 二人乘り小型の快速船〔26. 船二：快船〕
Nimašan 鳥名. くまたかに似て, 身やゝ青く尾短く翎上青き斑點あり〔30. 鳥三：芝麻鵰〕
— **muke** 雪融け水〔1. 天文六：桃花水〕
— **wasika** 雪解け水が流れ下つた〔彙：桃花水流下了〕
Nimebu 打ち痛めよ〔5. 捶打：痛打〕
Nimebumbi 責め打つて痛がらす〔5. 捶打：痛責打〕
Nimecuke 酷い. 懼る可き. 甚しき〔17. 暴虐：利害〕
— **koronggo poo** 大砲の一種. 胴長四尺八寸五分, 根部の周圍二尺七寸, 盛藥十二兩, 彈丸の重さ一觔半〔補1. 軍器二：發熕礮〕
Nimeku 1. 心殘り. 氣がかり〔13. 悔嘆：未完心病〕2. 病氣. 患ひ〔16. 疾病一：病〕疵. 過失〔17. 過失：疵病〕
— **de darubuhabi** 病氣に惱みつゞける. 病氣ばかりしてゐる〔彙：動不動就病了〕
— **de hūsibuhabi** 病氣に纏はりつかれた. 病んで久しくなつた〔彙：病久了. 病纏住了〕
— **karmani enduri** 年神の第二十四. 病災を掌る神〔補2. 神三：病祇〕
— **turgen** 病勢烈しき〔彙：病勢緊急〕
Nimekulehebi 病氣に罹つた. 發病した〔16. 疾病一：成了病〕
Nimekulembi 病氣になる. 罹病する〔彙：害病. 成病了〕
Nimekungge 病人. 患者〔16. 病病一：有病的〕
Nimembi 病む〔16. 疾病一：病了〕痛む. 疼く〔16. 疼痛一：疼痛〕
Nimenggi 人體の脂肉の白味より取れる. 又は肉の白味そのもの〔10. 人身七：油〕〔27. 飯肉二：油〕
— **noho** 雜り氣のない油. 純粹の油. 油ばかり〔彙：純油. 光油〕
— **yasa** 尻骨の上部兩側の凹んだ處〔10. 人身五：兩肋窪處〕
Nimenggilehe 油を取つた. 油を搾つた〔彙：膏之. 取了油. 搾了油〕
Nimere ba i teisu dasambi 病み痛む處を治す〔彙：對病痛治之〕
Nimetembi 皆共に病む. 一齊に患ふ〔16. 疾病一：一齊患病〕
Nimheliyen ilha 草花の名. 葉綠黑, 花五瓣にして蕚圓し. 紅白二種あり〔29. 花二：雪毬花〕
Nincuhūn 魚肉の腥い〔28. 滋味：魚肉腥〕
Ningceo 南京繻子〔彙：寧紬〕
Ningdan 瘤. たんこぶ〔16. 殘缺：癭袋〕
Ningdangga 瘤のある(人)〔彙：有癭袋的〕
Ningge ……のもの. ……なるもの. ……のこと. ……なること〔18. 散語三：的〕
Ninggiya 1. 兵器の名. 敵馬の脚を刺す鐵具〔8. 征伐五：鐵蒺藜〕2. ひし〔28. 果品三：菱角〕
— **bula** はまびし〔29. 草四：蒺藜〕
— **efen** しうまいの類. うどん粉を練つて薄くのばし, 肉を包んで蒸し又は煮たるもの〔27. 餑餑一：餛飩〕
— **moo** 木製のいかり〔26. 船三：木椗〕
— **sele** 1. 鐵製のいかり〔26. 船三：鐵錨〕2. 馬などの鐵蹄〔彙：象爪馬蹄上掛的鐵掌〕
Ninggu 上. 上方〔2. 地輿十三：上頭〕
Ningguci 第六. 六番目〔彙：第六〕
Ninggude 上に. 上方に〔彙：在上頭〕
Ninggun 數詞. 六〔7. 數目一：六〕
— **acan** 上下四方の稱〔2. 地輿十三：六合〕
— **biya** 〔彙：六月〕
— **dobton ilan bodon** 書名〔彙：六韜三略〕
— **irungge mahatun** 古冠の名. 頂

に六筋の高みがある〔補1. 古冠晃一：六梁冠〕
Ninggun muten 六藝〔彙：六藝乃禮樂射御書數也〕
— **soorin** 易卦の六爻〔補1. 書一：六位〕
— **untuhun** 易卦六爻の空〔補1. 書一：六虛〕
— **yangsangga inenggi** 正月の辰の日より溯り數へて十二月の巳の日に至る迄の間〔補1. 時令一：六儀日〕
Ninggunggeri 六度. 六回〔7. 數目一：六次〕
Ningguta hoton 滿洲の地名. 清朝祖居の地〔續2. 地輿：寧古塔城〕
Ninggute 六つ毎. 六つ宛〔7. 數目一：各六〕
Ningkabumbi 氣がつまる. 氣が塞がる〔16. 疾病二：氣結腹滿〕
Niniyarilaha 動くと忽ち腰が痛い. 腰が扭れた〔16. 疾病一：腰扭了〕
Niniyarilambi 腰が扭れる. 腰痛を病む〔彙：人一動忽然間腰疼〕
Niniyaršambi 酸つぱくて齒が浮く〔27. 飯食二：酸物倒牙〕
Ninju 數詞. 六十〔7. 數目二：六十〕
— **dulefun i durungga tetun** 赤黄道日月星の相距る度數を觀測する器械〔7. 儀器：紀限儀〕
Ninjuci 第六十. 六十番目〔彙：第六十〕
Ninjuta 六十毎. 六十宛〔彙：各六十. 毎六十〕
Ninkimbi 牡鹿が牝鹿を尋ねる〔31. 走獸動息：牡鹿尋牝〕
Ninkime baimbi 母鹿が仔鹿を尋ね求める〔31. 走獸動息：母鹿尋子〕
Nintehe ilha 海南に産する花の名. 花形茉莉の花に似, 瓣大にして雪白, 清香あり〔29. 花四：雪瓣花〕
Nintuhū 頸の歪んだ人. 頸曲り〔16. 殘缺：歪頸〕
— **hari** Nintuhū に同じ. 二語連用す〔16. 殘缺：歪頸〕
Ninuri 猫の別名〔補4. 諸畜一：女奴〕
Nio ……か. ……かどうか. ……だな(揣度對問, 半疑問の言葉)〔18. 散語三：慮字口氣〕
Niobihe 奇獸の名. 蛇山に出で, 狐に似, 尾白く耳長し〔補4. 異獸四：狒狼〕
Niobombi 戯弄する. からかふ〔13. 戯要：戯弄〕
Nioboro 暗綠色. 濃綠色の〔23. 采色二：油綠〕
Niohan 北方七宿の第二〔1. 天文二：牛〕
Niohe おほかみ. やまいぬ〔31. 獸四：狼〕おほかみの皮. やまいぬの皮〔24. 皮革一：狼皮〕
— **sube** 野菜の一種. 食用に供し又其の葉を馬屁に作る〔27. 菜蔬二：黄花菜〕
— **yoo** 發疹の際の紅色の斑點〔16. 瘡膿一：紅點瘡〕
Nioheri 狼の一種〔31. 獸四：狽〕
Niohokon やゝ薄綠の. 薄綠がかつた〔23. 采色二：水綠〕
Niohon 1. 薄綠. 薄綠の〔23. 采色二：松綠〕怒つて面色青い〔13. 怒惱：氣的臉青〕2. 十干の一. きのと〔2. 時令一：乙〕
— **abka** 青空. 青天〔1. 天文一：蒼天〕
— **elbengge fukjingga hergen** 篆體の一種. 絳州の碑文を書ける書體にして, 其碑文中「碧落」の二字あるを以てこの名あり〔補1. 書四：碧落書〕
— **jili banjiha** 顔色青くなつて怒を發した〔彙：面變色生怒了〕
— **talkiyangga loho** 烈光電の如き刀〔補1. 軍器一：青電刀〕
— **temgetungge gu** 祭祀に用ひる玉の名〔6. 祭祀器用一：璧〕
Niohubumbi 1. 碓で米を搗かせる〔21. 碾磨：使碓擣〕2. 土壇を築かせる〔26. 砌苫：使築土壇〕
Niohuken 略々暗綠色の〔23. 采色二：沙綠〕
Niohumbi 1. 碓で米を搗く〔21. 碾磨：碓擣〕2. 土壇を築く〔26. 砌苫：築土壇〕
Niohun 黒みがかつた綠色. 青に近い綠色〔23. 采色二：豆綠〕

Niohun teišun 〔22.貨財二：青銅〕
Niohušulebumbi 眞つ裸かにする 裸體にする〔24.穿脫：使光膏身〕
Niohušulembi まる裸かになる．裸體になる〔24.穿脫：光膏身〕
Niojan niyehe 鴨の一種．Socili（小尾鴨）に似たれど大いに小さく，肉殊に味よし〔30.鳥八：水葫蘆〕
Niokan 小兒の玩ぶ矢．蓬又は柳の小枝にて作り鳥の小羽を挿しこみたる小矢〔9.軍器五：蓬矢〕
— **bolgombi** 壺投げをする（酒飲の席に壺を具へ，小さい矢又は箸などを投入して賭け飲みする遊び）〔19.賭戲：投壺〕
Niokji みづごけ〔29.草四：水中石苔〕
Niokso 水面に生ずる青い綿狀の藻〔29.草三：水上綿苔〕
Niolhucembi 怒氣を含んで直進する．勇往邁進する〔13.怒惱：怒氣沖動〕
Niolhumbi 馬が馳け出す〔31.馬匹馳走一：放轡〕
Niolhumbumbi 馬を馳ける．馬を馳け出さす〔31.馬匹馳走一：使放轡〕
Niolhun 正月の十六日〔2.時令六：上元後一日〕
— **efen** 松の實，桃核，果仁等を材料とせる餡を麵に詰め圓く作りて，正月の十六日に食ふもの〔27.餑餑一：元宵〕
— **ilha** 奇花の名．花紅色，正月十六日頃開花するが故にこの名あり〔補3.異花二：上元紅花〕
Niolmon 濕地に生ずるあをごけ〔2.地輿二：青苔〕
— **beye** 盔甲を着用せずして戰陣に臨めるもの〔10.人身一：上陣身不穿甲〕
Niolmonggi Niokji に同じ〔29.草四：水中石苔〕
Niolocuka 油こき〔27.飯食三：可膩〕
Niolombi 油こくて食べられない〔27.飯食三：膩住〕
Niombi 寒さが骨まで透る〔13.寒戰：透骨寒〕寒氣が骨に徹して痛い〔16.疼痛二：徹骨疼〕冷たさが齒にしみる〔28.生熟：冷的沾牙〕
Niome nimembi Niombi に同じ〔彙：骨肉受寒骨節疼痛不能支．扎牙疼〕
— **šahūrun** 骨に徹して寒い〔2.時令八：徹骨寒〕
Niomere たこ〔32.海魚二：鱘鮂魚〕
Niomošon 白雜魚（しろざこ）〔32.河魚一：細鱗白〕
Nionggajambi （金鐵木石などで）すり傷をする．少々傷つく〔16.傷痕：劊傷〕
Nionggajara adali 傷むが如く．傷つけるもの〻如く〔彙：視民如傷之如傷〕
Nionggajarahū 傷つきはしないかと恐れる．傷つけはしないかと心配する（愛惜の意）〔11.仁義：恐至傷〕
Nionggalabumbi すり傷をつけられる．少々傷つけられる〔6.傷痕：被劊破〕すり傷をつけさせる．少々傷つけさせる〔彙：使略擦破傷〕
Nionggalambi 皮膚を擦り破る．擦り傷を受ける〔16.傷痕：劊破〕
Niongnio 1. 才幹衆に比して拔け出でたる者〔11.德藝：拔萃〕2. 鳥の肢體中最も大きい羽〔30.羽族肢體一：翅大翎〕
— **dethe** 鳥の一番大きくつよい羽〔彙：鳥雀鷹等翅膀之頭一大的硬翎〕
Niongniyaha がてう〔31.諸畜三：鶖〕
— **i be** 野菜の名〔彙：鶖兒食乃野菜名．與 Meihe šari 同〕
Nionio よしよし．よちよち（大人が小兒を愛呼する言葉）〔10.老少二：愛小兒詞〕
— **faha** 瞳．ひとみ〔10.人身二：瞳人〕
Nionioru 柳を編んで圓く造り物を盛るのに使用する小筥〔25.器用八：小笸籮〕
Nioroko 1. 顏色青ざめた〔11.容貌八：臉青了〕草木の青々としてきた〔29.樹木七：草木青了〕2. 意動いて自分が如何に動作しておるかも知らない．好き極つた〔17.淫蕩：好極了〕
— **adali** 虹の如き〔彙：如霓〕
Niorombi 皮肉が青死ぬ．黑死にが出來る〔16.傷痕：青傷〕
Niorombumbi （鐵などに）磨きをか

ける〔26.錐磨：研亮〕
Nioromburakū 刀に磨きをかけない．研かない〔彙：刀不錚磨〕
Nioron にじ〔1.天文五：虹霓〕
— **burubuha** 雲が虹を遮つて見へなくなつた〔1.天文五：雲遮虹霓〕
— **gocika** 虹が現れた．虹が出た〔1.天文五：虹現〕
— **gocingga loho** 双光虹の如く流れ散る刀〔補1.軍器一：流虹刀〕
— **samsiha** 虹が消え去つた．虹が見えなくなつた〔1.天文五：虹消〕
Nioronggo dabtangga loho 双光虹の如き刀〔補1.軍器一：粉練刀〕
— **kiltan** 虹の如き彩色のある幢〔6.鹵簿器用二：霓幢〕
Niosha 奇獣の名．湖州の浮玉山に出づ，虎に似て牛尾，聲は狗に似，人を食ふ〔補4.異獣一：㺄〕
Niowancihiyan 草の青臭い．草いきれのにほひがする〔28.滋味：草腥氣〕
Niowangga moo もちの木〔29.樹木三：冬青〕
Niowanggiyakan 略々綠色の．薄綠の〔23.采色二：嫩葉綠〕
Niowanggiyan 1. 綠．綠色の〔23.采色二：綠〕 2. 十干の一．きのえ〔2.時令一：甲〕
— **derhuwe** あをばい〔32.蟲三：綠豆蠅〕
— **fiyorhon** 綠色のきつつき〔彙：綠啄木鳥啄木中虫吃者．此鳥綠花黑三種此一種綠者〕
— **fulan** 青黒の駿馬〔彙：騏乃青黒馬也〕
— **fulha** みどりやなぎの木〔彙：綠楊樹〕
— **gu** 色松石の如き玉〔補3.貨財：碧玉〕
— **gurjen** くつはむし．又きりぎりす〔32.蟲二：蟈蟈兒〕
— **muduri enduri** 年神の第三十四．東方を掌る神〔補2.神三：青龍〕
— **muduringga kiru** 藍色の幅上に龍を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：青龍旗〕
— **tu i cooha** Niowanggiyan turun cooha に同じ〔彙：綠旗漢兵〕
— **turi** あをまめ〔彙：青豆即茶豆也〕
— **turun** 直隷諸省の漢軍營の名〔3.旗分佐領一：綠旗〕
— **turun cooha** 直隷其他諸省の漢軍〔8.兵：綠旗兵〕
— **turun i hafan** 諸省漢軍の官〔4.臣宰十三：綠營官〕
— **uju** 皇帝に進見する者が姓名履歴等を書いて持參する牌〔5.事務二：綠頭牌〕
— **yenggehe** いんこの一種．頂微紅色にして頭翼俱に綠色のもの〔補4.鳥八：柳綠鸚哥〕
— **yenggetu** いんこの類．頭胸背翅皆綠色にして翅根黄色の鳥〔30.鳥八：綠丁香鳥〕
Niowaniori hiyaban 綠色に染めたHiyaban（夏布）〔23.布帛五：春布〕
Niowargi gasha 鳥名．頭嘴紅くして身綠色の鳥〔30.鳥十：翠雲鳥〕
Niowari bojiri ilha 菊花の一種．莖紅にして毛あり，花瓣重疊石榴に似て，色は綠紫，蓝は黄色〔29.花五：翠菊花〕
— **cecike** 小鳥の名．眼珠黒く頬黄に，頭頂背翅皆深綠にして層々花紋あり〔30.雀三：綠鳥〕
— **nioweri** 綠色鮮明な．綠あざやかな〔23.采色三：綠色鮮明〕
— **niori** 〔彙：與 Niowari nioweri 同〕
Niowariha 奇獣の名．形豹に似，毛は綠色．其の毛筆に作るによろし〔補4.異獣七：虎僕毛〕
Niowarimbu wehe 寶石の名．色綠〔22.貨財一：祖碼碌〕
Niowarišambi 竹の色が青々とする．綠濃い〔彙：竹色青綠〕
Nirehe 北方七宿の第三〔1.天文二：女〕
Nirga 皮の毛の薄い．毛の少ない〔24.皮革二：毛薄〕
Nirgakan 皮の毛の較々薄い〔24.皮革二：毛略薄〕
Nirgangge 毛短かく薄いもの〔彙：毛短矮淺薄的〕

Nirhūwatu Cuse moo i itu (竹雞)の別名〔補4.鳥六：泥滑滑〕
Nirkimbi Ninkimbi に同じ〔31.走獸動息：牡鹿尋牝〕
Niru 1. 箭. 大箭. 狩獵用の箭. 狩り箭〔9.軍器四：披箭〕2. 百人を以て編成する軍隊の一單位名〔3.旗分佐領一：佐領〕3. 畫け. 繪を畫け〔26.油畫：畫〕
— **belhere ba** 皇帝用の箭を造る處〔補2.衙署六：備箭處〕
— **faksi** 箭作りの人. 箭の匠人〔彙：箭匠〕
Nirubumbi 繪を畫かせる〔26.油繪：使繪畫〕
Nirugan 繪. 圖畫〔7.文學什物二：畫圖〕
— **i gisun** 圖說. 圖の說明書き. 圖の由來書き〔7.書五：圖說〕
— **i temun** 畫の軸物. 畫軸〔7.文學什物二：畫軸〕
Nirui falga 一佐領の集會所〔彙：一佐領衆集會商公所去處〕
— **janggin** 佐領の長官〔4.臣宰九：佐領〕
Nirumbi 繪を畫く〔26.油畫：繪畫〕
Nirure ceceri ゑぎぬ〔23.布帛四：畫絹〕
Nishu honggoro 奇獸の名. Degetu honggoro (乘黃)の別名〔補4.獸一：飛黃〕
Nisiha 1. 小さい魚. こざかな〔32.河魚三：小魚〕2. 骨牌に畫かれた長邊形の畫樣〔彙：紙牌的索子〕
— **efen** 麥粉をこねて扁平長形に作り, 煮て乳皮を混じて食ふもの〔27.餑饽一：魚兒餑餑〕
— **umiyaha** ほんくひむし. ぎんむし〔32.蟲一：蠹魚〕
Nisihai 一つに併せて. 連ねて. 全て〔12.取與：一併〕
Nisikte 草名. 茂林中日光屆かざる處に生ずる草〔29.草四：席草〕
Nisubumbi 滑り下す. 滑り込ます. 推下する〔彙：使推下. 使打滑擦〕
Nisukū 氷上を滑る履き物〔24.靴襪：溜氷鞋〕
Nisumbi 氷上を滑り轉ぶ. スケートを遊ぶ〔2.時令九：溜氷〕滑り込む. 滑り下る〔21.倒支：出溜〕
Nisundumbi 人々一齊に氷滑りを遊ぶ〔2.時令九：一齊溜氷〕
Nisuri 矢の滑りをよくするため, 弓身の矢を番へる處につける滑りのいゝもの〔9.製造軍器二：箭溜子〕
Niša 着實な. 確かな. しつかりした〔12.取與：着實實的〕
— **aciha** 滿載したる荷物〔32.騎駝二：滿駝〕
— **bumbi** 充分に人に與へる〔彙：足足的給人〕
— **daha** しつかり結着した〔彙：着的結實〕
— **gaimbi** 充分に取る〔彙：足足的取〕
— **gida** 充分に壓へよ. 重壓せよ〔彙：令重多的壓〕
— **tebu** 重く積め. 充分に積め〔彙：令重多的裝〕
— **tebuhe** 滿載した. 充分に積みこんだ〔32.騎駝二：滿載〕
Nišala しつかりと打て〔5.捶打：重打〕
Nišalabumbi しつかりと打たせる〔彙：使掐. 使着實打〕
Nišalambi しつかりと打つ〔5.捶打：重責打〕
Nišan 紬布の兩端に記號をつけるため染めずに白く殘した處. 染め端〔23.布帛六：染記〕
Nišargan ねぶと, かさなどの腫物〔16.瘡膿一：癤子〕
Niše 重量の一單位. 一絲の十分の一〔22.衡量二：忽〕
Nišumbumbi (矢柄に鏃を)合着する. くつつける〔9.製造軍器三：安鏃頭〕
Nitan 1. 酒食の味淡き〔27.茶酒：酒淡〕2. 刃に鋼の少ない〔彙：兵刃小鋼〕
— **aisin** 雜りものゝある金. 不純なる金〔22.貨財一：成色金〕
— **menggun** 雜りものゝある銀. 不純なる銀〔22.貨財一：成色銀〕
Nitarakabi 怒りの收つた. 氣の平靜

になつた〔13. 怒惱：氣平了〕
Nitarambi 心があつさりとする. 心柔らぐ〔彙：心回. 心淡〕
Nituri cecike まめまはし〔補4. 雀一桑鳶〕
Niyada 成長の遲い子供〔10. 老少二：不大長〕稻, 麥などの晩手のもの〔21. 農工三：晚穀〕
— **jeku** おくての稻. おくての畑作物〔彙：晚稻. 後得的糧食〕
Niyadaha 奇果の名. 南省の山谷中に產す, 形梨に似, 冬熟す, 味やゝ酸し〔補3. 異樣果品三：探子〕
Niyaha 腐敗した〔彙：爛子. 餒了. 與 Niyahabi 同〕
Niyahabi 腐敗した. 腐爛した〔28. 滋味：腐爛了〕
Niyahan 犬の仔〔31. 諸畜二：狗崽〕
Niyahara Maca (小根菜) に附生した小さなもの〔27. 菜殽二：小根菜頭〕嫩葉. 若葉〔29. 樹木七：嫩葉〕
— **i yarun** 音律の名. 六律の一〔7. 樂二：樂宮〕
Niyahari cecike Jirha cecike (鷦鷯) の別名〔補4. 雀四：桑飛〕
— **ilha** 奇花の名. 花小にして朶密〔補3. 異花五：孩兒花〕
— **unggele moo** えのき〔補3. 樹木二：榎〕
Niyaharnahabi 嫩葉が出てきた〔29. 樹木七：出生嫩葉〕
Niyahašabumbi 犬を放つて獸を捉へさせる〔22. 打牲：使放犬捉牲〕
Niyahašambi 1. 犬を放つて獸を捉へる〔22. 打牲：放犬捉牲〕2. 馬の蹄が破れて跛行する〔32. 馬畜殘疾二：趿硬〕
Niyajiba なづな〔27. 菜殽三：野齊菜〕
Niyaki 鼻汁. あをばな〔10. 人身八：鼻涕〕うみ〔16. 瘡膿二：膿〕
— **sirimbi** 鼻をかむ. 鼻を拭く〔10. 人身八：擤鼻涕〕
Niyakinabumbi 膿をもたせる. うませる〔彙：使生膿〕
Niyakinaha 膿をもつた. うんだ〔彙：瘡內生膿了〕
Niyakinambi 瘡が膿をもつ. うむ〔彙：瘡生膿. 瘡作膿〕
Niyakitu 鼻垂れつ子〔10. 老少二：流鼻涕小兒〕
Niyakūn 跪くこと. 跪坐〔彙：跪〕
Niyakūra 跪け. 跪坐せよ〔彙：令跪〕
Niyakūrabumbi 跪かせる. 跪坐させる〔6. 禮拜：使跪〕
Niyakūrambi 跪く. 跪坐する〔6. 禮拜：跪〕
Niyalhoca Kandahan (堪達漢) の仔〔31. 獸三：堪達漢羔〕
Niyalhūnjambi (饑え或ひは熱があつて) 暈ひする〔15. 疲倦：饑熱發暈〕
Niyalma 1. 人間. 人〔10. 人一：人〕2. 上唇と鼻との間の凹所〔10. 人身三：人中〕
— **henduhe balame** 人の言ひ古したこと. 云はずとも分つたこと〔彙：可是人家說的乃口頭俗語〕
— **i urkin de yabumbi** 勤勉に行ふ〔彙：人勤勉行之〕
— **nimaha** 人魚〔32. 海魚一：魚魚〕
— **tatara boo** 店舖. 店屋〔22. 貿易二：店房〕
— **uncara hūdaci** 人を賣買する周旋屋〔10. 人二：人牙子〕
— **usiha** 銀河に近き五星〔1. 天文三：人星〕
Niyalmai sabi 百歲の老人. 壽老人〔彙：人瑞乃百歲老人〕
— **uhetun** 易卦の名〔補1. 書一：同人〕
Niyalmaingge 人のもの. 他人のもの 自分のものでない〔18. 爾我二：是人家的〕
Niyamala 木石の上に生える青苔〔2. 地輿二：木石上青苔〕
Niyamalambi 親を親とする. 親の心を悅ばす〔11. 孝養：親親〕
Niyaman 1. 親. 父母〔10. 人倫一：親〕親身の人. 親族の人〔10. 親戚：親〕2. 心臟〔10. 人身七：心〕3. 木のしん. 樹心〔29. 樹木八：樹心〕
— **be ujimbi** 親を養ふ. 父母に孝養する〔11. 孝養：養親〕
— **daribuha** 親しみを增した. 親しみ

の生じた〔彙：沾親〕
Niyaman gabtakū 棟樑と横樑とを連結する斜めの木〔21.室家一：斜頂中樑木〕
— **hadahan** 鞍の中に立て車の轅を取りつける小さい鐵柱．この鐵柱に皮紐を結んで轅と連結する〔9.鞍轡一：車鞍上鐵柱〕
— **hūncihin** 〔彙：親戚〕
— **iliha** 幼な芽が立つた（米麥の芽將に出でんとして種子割れ，其の眞中に極く小さい芽の出てゐる狀態をいふ）〔21.農工二：挑旗〕
— **jafambi** 婚姻を結ぶ．親類になる〔彙：結婚姻．做親家〕
— **jaka** 鳩尾(?)〔10.人身四：心窩〕
— **jaka nimembi** みぞおちが痛む．胸が痛む〔16.疼痛一：心口疼〕
— **tuksimbi** 心臟がどきどきする．胸が波打つ〔16.疼痛一：心跳〕
Niyamanahabi 飯に心がある．生煮えだつた〔28.生熟：飯有米心〕
Niyamangga 親戚．親類．親戚の人．親誼ある人〔10.親戚：親戚〕
Niyamani 子供や老人を痛く愛撫する〔彙：疼愛小孩子幷老人家．與 Adage 同，Dadage 同，Madage 同〕
— **adage dadage madage** 老人小兒を愛撫する言葉〔13.生產：哄小兒語詞〕
Niyamarambi 親情を有つ．親しく過する〔11.親和：有親情〕
Niyamarcambi 暗に恨む．心密かに妬忌する〔18.兇惡二：暗恨〕
Niyamari 堯光山に出づる奇獸の名．人に似て猪髮，穴に栖み冬はその中に籠る，啄木を敲くが如し〔補4.異獸一：猾褒〕
Niyamašan 兩河の中間．中の洲〔2.地輿八：兩河中間〕
Niyambi 朽ちる．腐る．餒える〔彙：爛．朽．餒〕
Niyambulu 柔弱なる人．軟弱なる人〔17.懦弱一：柔弱人〕
Niyamciri 畜獸の皮を剝ぐとき，散きひろげる草木の葉〔29.草四：卸牲口鋪的草葉〕
Niyamju 北嶽に出る奇獸の名．形牛に似て四角あり，人目猪耳，聲は雁の鳴くに似て，よく人を食ふ〔補4.異獸二：諸懷〕
Niyamniyabumbi 馬を走らせ乍ら箭を射らせる〔8.騎射：使射馬箭〕
Niyamniyambi 馬を走らせ乍ら箭を射る〔8.騎射：射馬箭〕馬上から獸を射る〔9.畋獵二：馬上射獸〕
Niyamniyan 馬上より射箭すること．やぶさめ〔8.騎射：馬箭〕
— **gabtan** Niyamniyan に同じ．Niyamniyan gabtan 或ひは Gabtan niyamniyan と連用する〔彙：馬步箭乃整字〕
Niyamniyanambi 馬上射箭に出掛ける〔8.騎射：去射馬箭〕
Niyamniyandumbi Niyamniyanumbi 衆人一齊に馬上から箭を射る〔8.騎射：齊射馬箭〕
Niyamniyara ehe 馬上から箭を放つこと上手でない．騎射の上手でない〔8.騎射：騎射不好〕
— **juken** 馬上から箭を射ること大體普通並に出來る．普通に騎射の出來る〔彙：馬箭射的平常〕
— **mahala** やぶさめの際使用する帽子型の的〔9.製造軍器四：馬箭帽子〕
— **mangga** 騎射して的を射る力の強い．馬上から力强く射る〔8.騎射：善騎射〕
— **sain** 騎射の手さばき美事な〔8.騎射：騎射好〕
Niyancakū きぬたの打棒〔22.工匠器用三：棒錘〕
Niyancambi 洗濯して糊つけする〔18.洗漱：漿〕
Niyancan 1. 糊に使ふ米粉，麥粉など〔18.洗漱：糨粉〕2. 銳氣．しゃんとした氣分〔彙：銳氣〕
— **akū** 1. 勞苦に耐えない．しゃんとした氣分が無い〔17.懦弱二：不耐勞〕2. 衣服がきちんと立たない．衣服が硬くない〔28.輭硬：衣服不骨立〕
— **bijaha** 1. 銳氣挫折した〔17.懦弱

二：折了銳氣〕2. 糊付けの硬いものが軟かくなつた〔彙：凡漿的硬撐之物軟了〕

Niyancan bijambi 硬いもの堅いものが軟かくなる〔28.穎硬：揉挫穎〕

— **bilambi** 銳氣を挫折する．人の銳氣を挫く〔16.折磨：折人銳氣〕

Niyancangga 1. 壯健にして衰へない者．銳氣あるもの〔12.勇健：練長〕馬などのよく長路に耐え得るもの〔31.馬四三：耐長〕2. 布類の硬ばつた〔彙：紬緞布等物硬撐不軟〕

Niyancanggangge 硬くしゃんとしたもの．壯健なもの．馬の長路に耐えるもの．銳氣あるもの〔彙：硬撐的．壯健的．馬耐長的．有銳氣〕

Niyancari 極めて遠路に耐える奇獣の名〔補4.異獣七：騰遠〕

Niyanci hiyan 草名．山野に生じ，葉は柳樹の葉に似て小さく，香高し．祭祀の際香として焚く〔29.草一：安春香〕

Niyanciha 青々とした草．綠草〔29.草一：青草〕

Niyanciri hamgiya 孟春よもぎの初めて生へるときの根芽．香氣あり．藥用とする〔29.草三：茵陳〕

Niyanggu je bele 穀物の名．形粟に似たれど色白く口あたりよろし〔28.米穀一：涼穀米〕

Niyanggūbumbi 嚼ませる〔彙：使嚼〕

Niyanggūmbi 1. 嚼む．咀嚼する〔27.飯食二：嚼〕2. 背後で人の悪口を云つて止めない．蔭で人を讒謗する〔14.言論二：嚼說人〕．〔17.讒諂：背後嚼說人〕

Niyangniya oho 密雲忽ち開き散じた．密雲散じて青空ののぞき出た〔1.天文五：密雲忽開〕

— **tucike** Niyangniya oho に同じ〔1.天文五：密雲忽開〕

Niyangniyahūn 疲れ或は病んでポカンと口を開ける．だらしなく口を開ける〔11.容貌四：裂嘴〕

Niyangniyarakabi 疲れ或は病んでポカンと口を開けた．だらしなく口を開けた〔11.容貌四：裂著嘴〕

Niyaningjiji 草名．木に纏はり生じ，葉圓し．瘡を治す〔29.草三：金絲草〕

Niyaniombi 嚼む．咀嚼する．Niyanggūmbi に同じ〔27.飯食二：嚼〕

Niyaniyun びんろうの實．土人常に噛むが故にこの名あり〔19.醫治：振榔〕

Niyanjari ilha 奇花の名．花瓣繁に，蕊白く，葉圓長，着衣して香しく之を嗅げば眠りを忘れる〔補3.異花一：迎鬱花〕

Niyara 麵で作つた甘酒〔27.茶酒：酒釀〕

Niyarangga tara 牛酪．乳酪〔27.茶酒：酪〕

Niyarhoca Kandahan (堪達漢) の仔〔彙：扁角鹿的羔子卽 Kandahan 之犋子〕

Niyarhūkan 略々新鮮な〔27.飯肉三：略新鮮〕

Niyarhūlahabi 子を生んで未だ一ケ月に滿たない．子の生れた月のうちにある〔13.生產：坐月子〕

Niyarhūn 新鮮な〔27.飯肉三：新鮮〕

Niyari Lebengge ba に同じ〔2.地輿一：陷泥地〕

Niyasha 伊水に出づる奇獣の名．虎に似て人面，聲は乳兒の如く人を食ふ〔補4.異獣四：馬腹〕

Niyasi yali 齒莖の肉〔10.人身三：牙縫肉〕

Niyasubumbi 充分に膿ませる．充分に膿をもたせる〔19.醫治：使會膿〕

Niyasuka 充分膿んだ〔彙：艾燒的瘡出膿了．瘡熟了生膿了〕

Niyasukabi 充分に膿んだ．たつぷり膿をもつてゐる〔16.瘡膿一：會膿了〕

Niyasumbi 充分に膿む．膿んで瘡がくずれてくる〔彙：作膿瘡熟了〕

Niyece 補へ．つくろへ〔彙：令補〕

Niyecebumbi (衣服の破れなどを) 補はせる．繕はせる〔24.剪縫二：使補〕(官に) 補はせる〔彙：使補〕

Niyececun 裨益．補益〔12.分給：裨

益〕

Niyecembi (缺斑, 缺官等に)補ふ. (衣服の破れなどを)補ふ. 繕ろう〔5.輪班行走：補〕〔24.剪縫二：補〕

Niyecen 繕ろひに使ふ布. くずきれ〔24.布帛六：補丁〕

Niyecetembi 常に補ふ〔彙：常補之〕

Niyehe かも〔31.諸畜三：鴨〕

— **tatara asu** 野鴨を捕へる網〔22.打牲器用三：拉野鴨網〕

— **tungge** 野菜の名. 葉あかざに似, 地に粘着して生える〔27.菜殽二：車軲轆菜〕

— **umhan i toholiyo** 朝鮮糯米の粉に鴨の骨髄, 蜜, 砂糖等を混ぜて桃餡を入れ, 豚油にて揚げたる食物〔27.餑餑二：鴨蛋炸餚〕

Niyekdecuke 悪む可き. 憤る可き〔15.憎嫌二：可嗔〕可酷なる. 酷薄の〔17.暴虐：酷苛〕

Niyekdekebi 飯の味が變つた. 飯が腐つた〔28.滋味：餿了〕

Niyekinahabi 膿を生じた. 膿んできた〔16.瘡膿二：長膿〕

Niyekje いとうの雄〔32.河魚三：公鮎鮓魚〕

Niyekse 着衣の薄く破れた〔13.貧乏：單薄〕

Niyekseke (地下は未だ厚く凍つてゐて)地表面のみ少しく融けた〔2.時令九：浮面微化〕

Niyekserhen 鳥名. 福建に産する. 頭黄に背黒く體の廻り又黄色し, 脚高くして魚蝦を食ふ〔30.鳥六：田洞雞〕

Niyele 鞣け. 挽け. (本を)讀め〔彙：令碾. 令念〕

Niyelebumbi 1. (穀物を)挽き碎かせる〔21.農工三：使軋場〕2. 書を讀ませる〔彙：使念之〕

Niyelejembi 擦り傷をつける. 皮を擦り破る〔16.傷痕：碾傷〕

Niyeleku 粗臼〔21.農器：碾子〕

— **i alikū wehe** 粗臼の下臼〔21.農器：碾盤〕

— **wehe** 轉して穀物を壓し潰し粗殻を除く石の圓棒〔21.農器：滾軸〕

Niyelembi 1. 書を讀む〔7.文學：念〕2. 紬布などを石にて擦き艶出しする〔26.油畫：上碾光〕穀物を挽き碎く〔21.農工三：軋場〕粗を挽いて米とする〔21.舂磨：碾米〕

Niyemperehe Niyekseke に同じ〔2.時令九：浮面微化〕

Niyengceri ilha 蔓生植物, 花六瓣朶の大きさ錢の如く, 瓣齊しく剪れるが如き狀をなして, 色紅, 春開く〔29.花四：剪春羅花〕

Niyenggari cecike よしきりの一名. Niyengguweri cecike に同じ〔補4.雀一：望春〕

Niyengguweri cecike よしきりの一名. この鳥は春他の鳥に先立つて鳴き始むるが故にかく名付く〔補4.雀一：喚春〕

Niyengniyeltu cecike 小鳥の名. 頭頂白く翅黒く, 善く鳴きて音清し, 春季鳴きて止まざるが故にこの名あり〔30.雀五：長春花鳥〕

Niyengniyeri 春. 春季〔2.時令五：春〕

— **be bodoro hafan** 欽天監の官名. 春季の日月交食七政を觀測する官〔4.臣宰八：春官正〕

— **dosimbi** 春が立つ〔彙：立春〕

— **dulin** 季節の名〔彙：春分〕

— **enduri** 立春の日に祭る神の名〔19.神：芒神〕

— **fiyan de urgunjere mudan** 耕耤禮成つて後筵宴進茶の際奏する音樂の名〔補1.樂：喜春光之章〕

— **šungga ilha** 花名. 木に咲く, 色白く六瓣, 蕊黄にして香し, 其葉はくちなしに似, 乾して焚く〔29.花二：山礬花〕

Niyengniyerikten 春季に執行する先祖の祭〔6.祭祀一：祀〕

Niyeniye 1. 心に定まつた處のない. 心のぐにやぐにやした〔17.懦弱一：心活〕2. 蛇の冬籠りした. 冬眠せる. Eniyeniye に同じ〔32.龍蛇：蛇入蟄〕

Niyeniyehudembi Niyeniyehunjembi に同じ〔17.懦弱一：姑息〕

Niyeniyehun 心定まらず主意なき

(人)〔17.懦弱一：心活無主〕
Niyeniyehunjembi 心定まらず，ぐずぐずとしてゐる〔17.懦弱一：姑息〕
Niyeniyeršembi 柔らかに嚙む．怕る怕る嚙む〔27.飲食二：怕嚙〕
Niyere 軟弱な．痩せて弱々しい〔11.容貌七：軟弱〕薄つぺらな．薄くてしつかりしない〔26.營造：綃薄〕
Niyerebumbi 獸畜を水に浮かばせる．水を泳いで行かせる〔2.地輿十二：使牲口浮水〕
Niyereken 稍々軟弱な．稍々痩せて弱々しい〔11.容貌七：略軟弱〕
Niyerembi 獸畜が水に浮く．水を泳いで行く〔2.地輿十二：牲口浮水〕
Niyereme 着物が薄くて肌寒い〔13.貧乏：單寒〕
— **beye** 戰陣に臨んで甲を着ないもの．はだか身〔10.人身一：上陣身不穿甲〕〔彙：與 Niolmon beye 同〕
Niyerengge 痩薄の者．薄つぺらなもの〔彙：單薄者〕
Niyo coko くひな〔30.鳥六：水雞〕
— **i ba** 濕つて水草の生えた地所〔2.地輿二：水草甸子〕
— **i hoohan** 水鳥．常に水甸に棲る〔30.鳥二：水鷹〕
— **i lefu** 熊の一種．好んで水甸の間に棲息する〔補4.獸一：青能〕
— **ilha** 水生の奇花．莖長く，葉は蓮の形に似たれど小さく，花は白紅，日中は水面に浮び夜は水底に沈む，香高し〔補3.昇花一：芘碧花〕
— **mušu** 小鳥の名．形うづらに似て稍々細長，脚の前三指長く，けづめは短し〔30.雀二：水鷸〕
— **saksaha** 水鳥．嘴長くして黑く，頭白く，尾短し，長脚常に水邊にとゞまつて魚を食ふ〔30.鳥九：水喜鵲〕
Niyobumbi 骨についた肉を切り取らせる〔28.剝割一：使刮骨上肉〕
Niyociki 小鳥の名．形よしこびに似，常に水邊にとゞまる〔補4.雀四：香鷄〕
Niyohombi 交接する．男女交はる〔彙：人交媾〕
Niyokdoko 山中盆底の如き地．山險しく鉢の如く落ち窪んだ地〔2.地輿五：盆底坑〕
Niyokso 水面に浮生する青綿の如きもの〔2.地輿九：水面青綿〕
Niyolodo 言葉常軌を逸して憎む可き．憎惡すべき〔18.厭惡：言貌可憎〕
Niyombi 骨についた肉を切り取る〔28.剝割一：刮骨上肉〕
Niyoolocuka 油味の多い．美味の〔彙：膏粱味之膏〕
Nofi 人數を數へる時の語．Juwe nofi 二人，Ilan nofi 三人など〔18.散語三：算計人數的口氣〕
Noho 盡く．全く……ばかり〔18.散語三：盡是〕
Nokai 大いに．非常に〔彙：與 Umesi 同．很〕
— **ja** 甚だ容易なる〔18.散語三：甚易〕
Nokcimbi 怒氣愈々起る．愈々益々怒る〔13.怒惱：怒愈盛〕
Nomhokon 略々循良な(人)．稍々眞面目な(人)〔11.厚重二：略循良〕
Nomhon 奢らず常道を行く人．眞面目な地道の人．循良な人〔11.厚重二：循良〕(馬などの) よく馴れたもの．馴れて良いもの〔31.馬匹三：馴良〕
— **morin i fiyenten** 鑾儀衞に屬し，鑾輿の整備收貯等の事務を辨理する役所〔20.部院八：馴馬司〕
— **sufan i falgangga** 鑾儀衞に屬し上司下司の事務を結び處理する役所．これに左右前後中央の五役所あり〔20.部院八：馴象所〕
— **sufan ujire boo** 外國より獻上せる象を飼養する房．鑾儀衞に屬す〔20.部院八：馴象房〕
Nomin 1. 石の名．青色不透名，其質緑松石珊瑚等に似たり〔22.貨財一：青金石〕2. 魚や又蛙の肚の中にある脂肪〔32.鱗甲肢體：魚油田雞油〕
Nomun 經書〔7.書一：經〕
— **be kadalara yamun** 經書檔案書籍の收貯を掌る役所〔20.部院五：司經局〕
— **i dergi** 易經の乾坤より次離に至る部分〔補1.書一：上經〕

Nomun i fejergi 易の咸恒以下，未濟既濟に至る部分〔補1.書一：下經〕
— **jibehun** 佛經を繍寫せる掛け蒲團〔6.喪服二：陀羅被〕
— **mandal** 僧道念經の處〔19.佛二：道場〕
— **tarni kuren** 佛經の咒文を滿漢蒙回四體に併書する處〔20.部院十一：經咒館〕
Non 妹．又一族同輩中己より年下の女〔10.親戚：妹子〕
— **ula** 滿洲の河名〔補1.地輿一：嫩江〕
Nonggari funiyesun 羊毛の織物．羊毛布〔23.布帛五：羊絨〕
Nonggi 添へよ．加へよ〔25.增減：添〕
Nonggibumbi 增添させる．加へよ〔25.增減：使增添〕添へられる．加へられる〔彙：被添〕
Nonggibun 易卦の名〔補1.書二：益〕
Nonggibure gucu 〔彙：益友〕
Nonggimbi 增添する．加へる．益す〔25.增減：增添〕
Nonggime badaraka namun 山東省巡院の銀庫〔補2.衙署八：益昌庫〕
— **fungnembi** 原品の上に增封する．加封する〔3.封表一：加封〕
Nongginambi 添へに行く．行つて添へ增す〔25.增減：去添〕
Nonggindumbi 一齊に添へる．一齊に增す〔25.增減：齊添〕
Nonggingga šusai 廩生 (Caliyangga šusai) の數の中に入らざる生員〔4.臣宰十一：增生〕
Nongginjimbi 添へに來る．來て增加する〔25.增減：來添〕
Nono ぎやうじやにんにく．やまびる〔29.草三：水葱〕
Norambi 草木等を一處に積み上げる．木積みを造る．草積みを造る〔22.捆堆：堆木垛〕
Noran 材木の積み上げたもの．材木積み〔22.捆堆：木垛〕
Noroho 定住した．棲み止つた〔彙：凡人物禽獸棲臥不動移定了〕
Norombi 一處に住み止つて居を變へない〔15.留遣：戀住〕鳥獸が棲臥したる所より出ない〔30.飛禽動息二：棲止〕
Noron 一處に戀着して居を變へないこと〔17.留遣：戀〕
Nosiki 狩獵に豐富に獲物を捕る人〔22.打牲：攬牲〕
Nota Non の複數形〔10.親戚：衆妹子〕
Notho 堅果の外殼．から〔28.果品四：果子殼〕樹木の皮〔29.樹木八：樹皮〕
Nothori 奇果の名．形烏梅 (Niowanggiyan jušuri) の如くにして，味甘し〔補3.異樣果品四：殼子〕
Nu beri いしゆみ〔彙：弩弓〕
Nuhakan 些さか緩くりした〔12.遲悞：略從容些〕
Nuhaliyan 窪んだ地〔2.地輿二：窪地〕
Nuhan 緩くりした．急がない〔12.遲悞：從容〕
Nuhasi Nihasi (犀牛) の別名〔補4.獸一：奴角〕
Nuheci 野猪の皮〔24.皮革二：野猪皮〕
Nuhen 一歲の野猪〔31.獸四：一歲野猪〕
Nuhere 生れて七八ケ月位の仔犬〔31.諸畜二：小狗〕わんわん．小兒の睡氣を醒すときに呼ぶ言葉〔15.睡臥二：小兒肯睡〕
— **dafaha** 雌のシベリヤざけ〔32.河魚三：母方口鯑頭〕
— **mafa jihe** 仔犬の爺さんやつてきた (老人が小兒を愛撫し，その睡氣を醒さうとして呼ぶ聲．たゞ Nuhere といふも同じ)〔小孩子只管好睡古時老年人疼愛不許他睡拍弄他頑呼叫之詞．與 Nuhere 同〕
Nuhu 高みの地．高所〔2.地輿二：高地〕
Nujalambi 拳で打つ〔5.爭鬪二：拳打〕
Nujan こぶし．げんこ〔10.人身四：拳〕
— **aššarakū** 箭を射るとき拳が動かない〔彙：射箭拳不動〕
Nujangga maitu 一端に金ぬの拳頭のついた棍棒〔補1.軍器二：兵拳〕

Nujašambi 拳で亂打する〔5.爭鬪二：拳亂打〕
Nukabumbi (棘などに) 刺される〔16.傷痕：被刺札〕刺させる〔彙：使戳〕
Nukacuka 言論人を刺す〔14.言論一：鋒刺〕言葉荒々しく鋭どい〔17.暴虐：言語尖利〕
Nukajambi 眼が刺す様に痛む〔16.疼痛一：眼札着疼〕皮肉を突き刺し傷つける〔16.傷痕：扎的荒〕
Nukambi 棘などで刺す．刺して痛む〔16.傷痕：刺札〕
Nukcikebi 賊已に敗走した〔8.征伐六：賊已敗走〕
Nukcimbi 1. 激烈に行ふ、怒發して直行する〔17.暴虐：發激烈〕2. 賊搖動敗走し去る〔彙：賊搖動敗走去〕
Nukcime yabumbi 勇往邁進する〔彙：勇往直前突行之〕
Nukcishun 激烈な(人)．兇悍な（人）〔17.暴虐：激烈〕
Nukibumbi 激せしめる．興奮して手當り次第のことをさせる〔16.折磨：使激〕激せられる〔彙：被人引導胡亂行〕
Nukimbi 興奮して手當り次第のことをする．激する〔16.折磨：激〕
Nukte 1. 游牧の所．水草ある處〔15.遷移：游牧處〕2. 旅の荷物．馬駝に積んだ行李〔32.騎駝二：行裝〕
Nuktebumbi 游牧させる．水草を追つて行かせる〔15.遷移：使游牧〕
Nuktehe 營所を移した〔彙：挪了營了〕
Nuktembi 游牧する．水草を追つて歩く〔15.遷移：游牧〕
Nuktendumbi Nuktenumbi 一齊に游牧する．共々に游牧する〔15.遷移：齊游牧〕
Nuktenembi 游牧して行く．水草を求めて行く〔15.遷移：去游牧〕
Nuktenjimbi 游牧し來たる．水草を求めて來る〔15.遷移：來游牧〕
Nunggalaha yali とろ火の上でゆつくりと燒いた肉〔27.飯肉三：炖肉〕
Nunggari 毛の先細きもの〔24.皮革二：毳毛〕鳥のわた毛．細毛〔30.羽族肢體一：氄毛〕生えかけの草の細いもの〔彙：草之芽細者〕
— **fathangga kuwecihe** 鳥名．頭背尾皆黒くして白毛あり，翅は白く脚の毛爪を被ふ〔30.鳥九：毛脚鴿〕
— **funggaha** うづらの別名〔補4.雀二：駐翎〕
— **jafu** 毛の敷物．毛毯〔24.鋪蓋：氈毯〕
Nunggasun 鳥の羽毛を以て作つた一種の織物〔23.布帛五：哆囉呢〕
— **suje** 鳥の羽毛を以て織れる緞〔23.布帛二：嗶嘰緞〕
Nungge 呑め．嚥下せよ〔彙：令嚥呑〕
Nunggele 柚の木の類．皮黒く葉大に，木質細かくして柔かく，造花彫刻用に供す〔29.樹木四：椴樹〕
Nunggembi 嚥下する．呑み下す〔27.飲食二：嚥〕
Nungnebumbi 侵害させる〔15.侵犯：使侵害〕侵害される〔彙：被人害〕人を搖り騷がす〔彙：使之招惹〕
Nungneku 人を搖り騷がしてぢつとさせておかないこと〔13.戲要：鬧將〕
Nungnembi 人を搖り騷がす〔13.戲要：惹人〕侵害する〔15.侵犯：侵害〕
Nungneri monio さるの別名〔補4.獸二：沐猴〕
Nunjibumbi 古書を讀む聲を聞き，或は說教を聞いて睡氣を催ほす〔15.睡臥二：說話引睡〕
Nuran 酒をしぼりこむ木桶〔25.器用六：酒漏子〕
Nure 燒酒の一種．高粱酒〔27.茶酒：黃酒〕
— **belhere falgari** 光祿寺に屬し，諸祭宴に用ひる酒，乳，油等を預備する役所〔20.部院六：良醞署〕
— **de soktoho erdemu de ebihe** 酒に醉ひ，德に飽いた〔彙：既醉以酒既飽以德〕
— **huhu** 酵母．酒の素〔彙：酒麵〕
— **jušun i boo** 內務府使用の酒醬醋等の釀造事務を辨理する役所〔補2.衙署七：酒醋房〕

Nure tebumbi 高粱酒を造る〔彙：做造黃酒〕
Nurei ekšun 高粱酒の糟〔彙：黃酒糟〕
Nurhūmbi 連ねる．連接する．間を隔てない〔5.輪班行走：接連〕
Nurhūme 連ねて．續いて〔彙：連連．連陰連年之連〕
Nushumbi 敵勢の中に衝き入り衝き進む．突いては退き，退いては突く〔8.征伐四：出入衝突〕
Nushume tucike (水などが上に向つて) 衝出した〔彙：水等物向上衝出〕
Nuturu 鳥名．らいてうの類〔30.鳥六：沙雞〕

O

O 1. お．おい．おう〔12.問答二：答應聲〕2. 腋の下．腋窩〔10.人身四：胳肢窩〕3. 臼の凹んだ所，穀物を入れる部分〔彙：碓窩子．與 Ogo 同〕
— **a** おう．あーあー．(孩兒の話の眞似をする聲)〔14.聲響二：小兒學話聲〕
— **a seme** うーうーと．あーあーと〔彙：小奶孩子纔學的聲音〕
— **mayan** 腋の下．腋窩．O と同じ〔10.人身四：胳肢窩〕
— **šo seme** おうおうと．おういゝ兒と(小兒を愛撫する貌)〔13.生產：經意愛惜〕
Obdoko yali 疲勞して味の無くなつた野獸の肉〔27.飯肉三：趕乏野獸無味肉〕
Obgiya 鷗鳥を捕ふるため水中に仕掛くる罠〔22.打牲器用三：打鷗的水囲子〕
Obihiya yali 動物の脛骨中の髓肉〔27.飯肉一：水肉〕
Obo 洗へ．濯げ〔18.洗濯：洗〕
Obobumbi 洗濯させる．洗はせる〔18.洗濯：使洗濯〕
Obokū 洗面用の盥．洗面器〔24.飾用物件：洗臉盆〕
— **efen** 麥粉に酒を注ぎ，卵黃白砂糖等を混じて烙いた食物．棗や餡を入れたものもある〔27.餑餑一：銅盆糕〕
Obombi 洗ふ．濯ぐ．洗濯する〔18.洗濯：洗濯〕
Obonggi 水の泡〔2.地輿九：水沫〕唾の泡〔10.人身八：沫子〕
— **arki** 滿洲の燒酒〔27.茶酒：沫子燒酒〕
Obongginambi 水面に泡を生ずる〔2.地輿九：成沫〕口中泡を生ずる〔彙：口裡唾白沫泡兒〕
Obonombi 洗濯に行く．行つて洗ふ〔18.洗濯：去洗濯〕
Obu 做せ．せよ〔彙：令做．令爲．乃用工夫用力之字〕
Obuhabi 已に爲した．してゐる〔5.辦事二：已做爲〕
Obumbi 爲す．する〔5.辦事二：做爲〕
Oci かくあらば．若し……ならば〔18.散語三：若是〕
Ocibe かくありとも．假令……とも〔18.散語三：雖則〕
Ocir 珠數の頂飾．珠數の母珠についた長圓形にして珊瑚などで作つた部分〔24.冠帽二：佛塔〕
Oden hoton 滿洲の地名〔續2.地輿：鄂登城〕
Ododon すゞめの一種．Wenderhen (阿蘭) の別名〔補4.雀三：阿彈廻〕
Odoli 轡の環についた鈎ある鐵片〔9.鞍轡二：提嚼〕
— **hecen** 城名．清朝發祥の地と傳ふ〔續2.地輿：鄂多理城〕
Odontu kailun 星の如き斑點のある馬〔31.馬匹一：星文騮〕
Ofi 1.……であれば．……であつて．……のために．……に因つて〔18.散語三：

因爲〕2. 雉の脚を捕へる様に仕掛けた罠〔22.打牲器用三：打野鷄的脚套子〕

Ofoho 犂の耳(双の横に出たもの)〔21.農器：犂鏡〕

Oforo 〔10.人身二：鼻〕

— **feteri weterilambi** 可笑しい話を聽いて鼻がびくびく動く〔彙：笑話兒聽見鼻子略ㇾ動〕

— **i dube** 鼻のさき〔彙：鼻尖〕

— **i sangga** 鼻のあな〔彙：鼻孔〕

— **niyaki** 鼻しる〔彙：鼻涕〕

— **sangga** 鼻のあな〔10.人身二：鼻孔〕

— **tura** 鼻の兩孔の間の隔て〔10.人身二：鼻柱〕

Oforodombi 人のことを譏言して唆かす．譏言を用ひて挑唆する〔17.譏謗：劃鼻子〕

Oforonggo 甲に行つては乙を譏し，乙に行つては甲を譏する人〔17.譏謗：劃鼻子的人〕

Ogo 1. 臼の中にはめこんだ凹石．この部分に穀物を入れて搗く〔21.農器：碓窩〕2. 釘の頭(ﾋﾞｽ)を作るための圓い穴をあけた鐵板〔22.工匠器用一：帽子窩〕

Oha 從つた．服した．行つた〔18.散語三：依從了〕

Ohakū 從はぬ．行はぬ〔18.散語三：沒依從〕

Oho 1. 腋の下．腋窩．O又はO mayanに同じ〔10.人身四：胳肢窩〕2. …であつた．……となつた〔18.散語三：已然詞〕

— **da** 袖のつけね〔24.衣服三：袖根〕

— **šumin aššarakū** (射る箭) 腋の下深く動かず〔彙：射箭胳肢窩深不動〕

Ohobi……であつた．……であつたのである〔彙：已這樣了．已那樣了〕

Ohode…である時は．設し…あらしめば〔18.散語三：設若〕

Oholiyo 1. 掌上の一すくひ〔15.拿放：一捧〕2. 合．一合．一升の十分の一〔22.衡量一：合〕3. 手ですくへ．捧げよ〔彙：令手掌勺之〕

Oholiyombi 兩手ですくひ持つ．捧げ持つ．捧げる〔15.拿放：捧着〕

Oholjome hūwaitambi 帶繩等のものを，引けば解ける様に緩く結ぶ．滑り結びにする〔26.拴結：拴活扣〕

Oholjon 1. きじを捕へる罠〔22.打牲器用三：打野鷄的活套子〕2. 凡てゆるく結んだもの．滑り結びしたもの〔彙：凡活扣了〕

Ohongge かくありし者．然る所以の者〔彙：如此了者．所以然者〕

Ohoni…であつたな．…であつたね〔彙：那樣了呢口氣．這樣了呢口氣〕

Ohoršombi 非常に胸が惡い．無暗と嘔き氣を催ほす〔16.疾病二：只管惡心〕

Ohotono どぶねずみ〔31.獸七：偃鼠〕

Oi おい．もし(姓名を知らずして人を呼ぶ時の聲)〔12.喚招：呼不知姓名人口氣〕ほい(馬畜に對するかけ聲)〔31.套備馬匹：吆喝牲口聲〕

Oibobumbi 年老ひ悦けさせる〔彙：使老年胡亂動作．艾〕

Oibokobi 年老ひ悦けた．年老ひ擧止定まらない様になつた〔10.老小一：諺晦了〕

Oifu 輕はずみの人間．粗忽者〔17.輕狂：虛飄〕

Oihori 1. 輕んじ懈る(人)．輕忽な(人)〔17.怠慢迂疎：忽略〕2. 何等の．何のその．何でもない〔18.散語三：何等〕

— **niyalma biheo** 何といふことをしてくれたのか．輕忽な人だつたのか(能ある人が失錯した場合，之を惜しみ嘆嗟して，輕忽な人だつたか．そんな筈はない，といふ口吻)〔彙：能人做事失錯了可惜嘆嗟之曰輕懈人來着嗎的口氣〕

Oihorilabumbi 人に輕んぜられる．輕視される〔15.鄙薄：被輕忽〕

Oihorilahabi 獸を射たが傷輕くして捕ふるを得なかつた〔9.畋獵三：傷輕不得〕

Oihorilambi 輕んずる．輕忽にする．輕視する〔15.鄙薄：輕忽〕ことを行

ふて輕んじ懈る．かりそめにする〔17.怠慢迂疏：行事忽略〕
Oilo 外貌．表面．現はれたる處〔14.隱顯：浮面〕
Oilohodombi 輕佻輕浮な行動をする．擧止輕々しくして落付きがない〔17.輕狂：擧止輕浮〕
Oilohon 輕浮の（人）．輕佻なる（人）〔17.輕狂：輕浮〕
Oilokon やゝ現はれた．少しく表に現はれた〔14.隱顯：略浮〕
Oilon i bele 箱の中の表面(ほこり)の米〔28.米穀一：氣頭米〕
Oilorgi 表皮．うはつら〔14.隱顯：浮皮〕
Oilori 偶然．待たずして〔14.隱顯：浮面上〕
— **deleri** 輕浮の．うはべだけの．漫りの．かりそめの〔17.怠慢迂疏：浮泛〕
— **jafaha** 偶然取つた．はからず手に執つた〔彙：平空拿了〕
— **nambuha** 偶然手に入れた〔彙：平空遭着手裡〕
Oitobumbi 困窮する．困迫する〔13.貧乏：困窮〕
Ojin 錦袍に褶をとつた女用の朝服〔24.衣服一：揑摺女朝褂〕
Ojirakū Ojorakū に同じ〔18.散語三：不可〕
Ojojo 阿呆！痴者！〔彙：把人不算數笑話的口氣〕
Ojombi 接吻する〔13.生產：親嘴〕
Ojorahū 不可かと恐れる．いけないかと心配する〔彙：恐其不可亦用於話尾〕
Ojorakū いけない．出來ない〔18.散語三：不可〕
Ojorakūn 不可か．出來ないか〔彙：不可乎〕
Ojoro …であらう．…と爲さう．…である處の〔彙：爲君爲臣爲君子之爲．可以其上用 ci 字〕
— **jakade** …であるが故に．かくある爲に〔彙：因爲口氣用於話尾如因爲這樣〕
Ojorolame 今にあらうとする．將にあらうとする〔彙：將可以的光景〕
Ojorongge 可なる者．よきもの〔彙：可者〕
Ok おつ！あつ！（突としてあげる驚きの聲）〔14.聲響一：猛驚聲〕おう．うー．げつ（嘔吐の聲）〔14.聲響二：乾嘔聲〕
Okcila 蓋をせよ〔彙：令盖盖〕
Okcilambi 蓋をする〔彙：盖盖子〕
Okcin 凡て物の蓋〔25.器用八：蓋〕
Okcingga moro 蓋つきの碗．ふたわん〔25.器用三：蓋碗〕
Okdombi 迎へる．人を迎へる〔15.去來：迎〕客を迎接する〔6.筵宴：迎接〕敵を迎へる〔8.征伐四：迎敵〕
Okdomo 馬の腹帶の締め金につなぎ鞍の上をかけわたす皮帶〔9.鞍轡一：扯肚〕
Okdonjimbi 迎へに來る．來て迎へる〔15.去來：來迎〕
Okdonombi 迎へに行く〔增訂15.去來：去迎〕〔彙：去迎．去接〕
Okdonumbi 迎へに行く．行つて迎へる〔五體15.去來：去迎〕
Okdori ilha こぶし．こぶしはじかみ．山あらゝぎ〔29.花一：迎春花〕
Okdoro kumun 皇帝が壇廟を祭り了つて宮に回る時奏する音樂〔彙：上祭壇廟回宮奏的樂共兩段〕
Oke 叔父の妻．叔母〔10.人倫一：嬸母〕
Okete Oke の複數形〔10.人倫一：衆嬸母〕
Oki yoro 大いなる木製の鏑〔9.軍器五：大木骲頭〕
Okini …あるがまゝにせよ．…でもよい〔彙：要使人這樣那樣聽憑他的口氣〕
Okjiha しようぶ．がま〔29.草三：菖蒲〕
— **sektefun** 蒲で編んだ圓坐蒲團．佛を拜するとき使用するもの〔19.佛一：蒲團〕
— **uhuri** 蒲で編んだざるかご〔25.器用七：蒲包〕
Okjihada 菖蒲の根〔29.草三：蒼朮〕
Okjoslaha 無分別に話し又は行動する分別のないことを云ふ〔14.言論二：

冒失〕

Okjoslame koro baha 無分別のことをして,又は云つて,心中痛苦を受けた〔彙：不細算計受了傷了．不細算計吃了虧了〕

Oksibumbi 刀が鞘を脱ける．箭が箭袋から落ちる〔25.斷脫：刀箭褪出〕吐かせる〔彙：使吐〕

Oksimbi 吐く．嘔吐する〔16.疾病二：嘔吐〕

Oksobumbi (馬を)歩かせる〔31.馬四馳走一：使走〕

Oksombi 一歩一歩と歩く〔14.行走一：邁歩〕馬が歩く〔31.馬四馳走一：走〕

Okson 歩み．一歩〔14.行走一：歩〕馬のなみあし〔31.馬四馳走一：脚歩〕

— **fuliburakū** 足下が定らない〔彙：歩履擧止失錯〕

— **sain** 馬の歩みが好い．脚なみのしっかりした〔31.馬四馳走一：脚歩好〕

Oksonjombi 小兒が漸く歩き方を知る．よちよち歩きする〔14.行走一：學邁歩〕

Oktalambi 劓罰に處する．鼻を削る〔補1.古刑罰：劓〕

Okto くすり．醫薬．火薬〔19.醫治：藥〕〔彙：火藥〕

— **fushubumbi** 火薬を破裂させる．城を爆破する〔8.征伐五：烘城〕

— **i siren** 道火(ぐち)．道火繩〔彙：藥線．火藥捻成者〕

— **niru** 毒矢〔彙：藥箭乃草烏熬膏抹擦箭頭上人畜着箭見血封喉即死〕

Oktoi afaha 膏藥〔19.醫治：膏藥〕

— **šugi** ねりぐすり．油藥〔19.醫治：膏子藥〕

Oktolombi 藥を用ひる．藥を服ます〔19.醫治：用藥〕

Oktorohon banjiha 餓え過ぎた．空服すぎて食へない〔13.饑餓：餓過了〕

Oktosi 醫者．醫師〔10.人四：醫生〕

— **be kadalara yamun** 皇帝の診療或は皇帝服用の藥劑調製等のことを辨理する役所．侍醫寮〔20.部院七：太醫院〕

— **be kadalara yamun i aliha hafan** 太醫院(侍醫寮)の長官〔4.臣宰八：太醫院院使〕

— **be kadalara yamun i ilhi hafan** 太醫院(侍醫寮)の副官〔4.臣宰八：太醫院院判〕

Oktosilabumbi 人をして醫治せしめる．治療させる〔19.醫治：使人醫〕

Oktosilambi 醫治する．治療する〔19.醫治：醫〕

Olbihiyan Olfihiyanに同じ〔17.輕狂：無耐性〕

Olbo 1. 漢人の編成する軍隊の名〔8.兵：敖爾布〕2. 田野で着る短い上衣〔24.衣服一：馬褂〕

Olboro yali 熊の頰の肉〔27.飯肉三：熊頰肉〕

Olfihiyan 忍耐性なく輕薄なる(人)〔17.輕狂：無耐性〕

Olhoba 注意深い．慎みのある〔11.敬慎：慎〕

Olhobumbi 1. 乾かす〔18.乾燥：使乾〕2. 畏懼せしめる〔彙：使畏懼〕

Olhocuka 畏る可き〔13.怕懼一：可畏〕

Olhocun 畏れ．畏懼〔13.怕懼一：畏〕

Olhoho 乾いた〔彙：乾了〕

Olhokon 1. 饑え渇へること甚しい〔13.饑饉：饑渇透了〕2. 略〻乾燥した．較〻乾いた〔18.乾燥：略乾燥〕

— **oho** 1. 畏れた．畏懼した〔彙：人怕了〕2. 渇へた．饑へた〔彙：人渇了．人饑了〕

Olhombi 1. 乾く．乾燥する〔18.乾燥：乾〕2. 畏れる．畏懼する〔13.怕懼一：畏懼〕

Olhon 乾いた．乾燥した〔18.乾燥：乾燥〕陸の．陸地の〔彙：水陸之陸〕

— **buda** 干飯(ぼし)〔27.飯肉一：乾飯〕

— **feye** 肉に透らず青く或は紅くむくんだ傷．うは傷〔16.傷痕：浮傷〕

— **monggon** 咽喉〔10.人身三：氣嗓〕

Olhošombi 慎しんで敬ふ．畏敬する〔11.敬慎：致慎〕注意謹慎する．恐縮する〔13.怕懼一：小心謹慎〕

Olhošon 謹慎の．慎しみ深い〔彙：敬

人小心謹愼〕

Olhotun 人體內飮食物の通る道. 三焦. 心臟と胃との間を上焦, 胃と臍との間を中焦, 臍と膀胱との間を下焦といひ, 三者合せて三焦といふ〔10.人身七：三焦〕

Oliha 臆病な人. きもの小さい人〔13.怕懼二：怯〕臆病馬〔31.馬四三：胆小馬〕

Olihadambi (怕る可きでないのに)怕れ怯へる〔13.怕懼二：畏怯〕

Olihari 奇獸の名. 迎春山に出で, 身猴に似, 又よく笑ふ. これを見る人は睡る〔補4.異獸二：幽類〕

Olime yabumbi 路をよけて行く. 逃げ路して行く〔14.行走三：躲着路行〕

Olji 捕虜. 俘〔10.人五：擄來人〕

Oljilabumbi 捕虜にせられる〔彙：被俘. 被虜〕

Oljilambi 捕虜にする. 生擒る〔8.征伐八：擒擄人口〕

Olo 1. 水を渉れ. 河を渡れ〔2.地輿十二：燙湯水〕2. いと麻〔23.絨棉：線麻〕〔29.草二：線麻〕

— **foyo** 草名. 荒蕪地に生じ, 形糸麻(ごま)に似たり. 色白く, 衣服靴等に粘着す〔29.草二：白茸涉草〕

Olobumbi 水を渉らせる. 河を渡らせる〔2.地輿十二：使湯水〕

Olohoi おやおや. あらまあ〔18.散語三：驚訝聲〕

Olombi 水を渉る. 河を渡る〔2.地輿十二：湯水〕

Olon 馬の腹帶〔9.鞍轡一：肚帶〕

Olongdo 大腿にとどく位の長靴(山行きに着用するもの)〔24.靴襪：長靿靴〕

Olosi 皮の長靴を穿いて, 埋れ淺くなつた川を掘る人. 河掘り人夫〔10.人二：祇夫〕

Ološon 涉水用の皮革製長靴〔24.靴襪：涉水皮褲〕

Ombi 出來る. 爲し得る〔11.德藝：去得〕

Ombihe 出來た. 爲し得た〔彙：可已了〕

Ombikai 出來ることである. 出來るぞよ〔彙：可也〕

Ombini 出來るかい. 出來ようかね〔彙：不足口氣〕

Ombio 出來るか. よいか〔彙：可乎. 可麼〕

Omcoko 缺けた唇〔16.殘缺：豁唇〕

Ome …であり. …にて〔彙：承上接下字. 虛爲字〕

Omi 飮め〔27.飮食四：使飮〕

— **sangga** 野鼠が食物を貯へた穴〔2.地輿五：野鼠藏食穴〕

Omibumbi 飮ませる〔27.飮食四：給人飮〕煙草をのませる〔彙：使吃烟〕

Omicambi 共に飮む. 一緒に飮む〔27.飮食四：共飮〕

Omiholobumbi 餓えさせる〔13.饑饉：使挨餓〕

Omiholombi 餓える〔13.饑饉：挨餓〕

Omihon 饑餓の. 餓えた〔13.饑饉：饑餓〕

Omilabumbi 馬に乘つて渡河させる〔2.地輿十二：使騎馬過渡〕

Omilambi 馬に乘つて渡河する〔2.地輿十二：騎馬過渡〕

Omimbi (水, 茶などを)飮む〔27.飮食四：飮水〕(烟草を)のむ〔彙：吃烟之吃〕

Omin 饑饉の年〔13.饑饉：饑〕

Ominambi 飮みに行く. 行つて飮む〔27.飮食四：去飮〕

Omingga 飮みもの〔27.飮食四：飮〕

Ominjimbi 飮みに來る. 來て飮む〔27.飮食四：來飮〕

Omkiya むささび. 又かうもり〔31.獸七：飛鼠〕

Omo 池. 沼. 湖〔2.地輿八：池〕

— **dabsun** 湖中より取る鹽〔27.菜穀四：池鹽〕

Omohoi bigan i odoli hecen 鄂謨輝の野の鄂多里城〔彙：在長白山東邊太祖高皇帝初定亂之舊城嗣遷 Hetu ala〕

Omoktu konggoro 黃色の馬〔31.馬四一：菓黃〕

Omolo まご〔10.人倫二：孫〕

Omosi Omolo の複數形〔10.人倫二：

業孫〕
Omosi mama 福を求めて祭る神〔19.神：福神〕
Omšon biya 〔2.時令五：十一月〕
On 路程(ぢのり)〔19.街道：程途〕
— **dosombi** (馬が)遠路に耐える〔31.馬四三：耐遠〕
— **gaimbi** 勉めて行く．一生懸命に行く〔14.行走二：併程〕
— **gaime yabumbi** On gaimbi に同じ〔彙：勉力走．彙程．兩步當一步走〕
Onasu きりん〔補4.異獸五：惡那西約〕
Onco 寬宏．寬宏な〔11.性情二：寬宏〕寬やかな．ひろい．ゆとりのある〔25.諸物形狀二：寬〕
— **umiyesun** 矢袋を掛ける皮帶の內側につけた木綿帶〔9.撒袋弓靫：襯帶〕
Oncodo 寬大にせよ．宥せ〔彙：令寬之〕
Oncodombi 寬大にする．宥す〔5.寬免：寬宥〕
Oncohon 仰いで眠れる〔15.睡臥一：仰睡〕傲慢なる〔17.驕慢：傲慢〕仰いだ．面を上向けた〔彙：仰面．仰面不理人之仰面〕
— **tuwambi** 仰いで看る〔12.觀視一：仰面看〕
— **umušuhun** 仰ぎ又俯したる〔彙：仰俯〕
Oncohošombi 傲慢に振舞ふ〔17.僭奢：傲慢〕
Oncokon 略〻寬宏な．稍〻寬やかな〔11.性情二：略寬宏〕
Ondombi 無茶に振舞ふ．亂りに振舞ふ〔18.散語三：亂來〕
Ondorahū 無茶なことをしまいかと恐れる．亂りな振舞ひをしはしまいかと心配する〔18.散語三：恐其亂來〕
Ong seme ぶーんと(鏑箭の音)〔8.步射二：大鵰頭聲〕
Onggobumbi 憂ひを忘れさせる．胸の思ひを忘れさせる〔5.安慰：使忘懷〕
Onggocon 胡琴．胡弓〔7.樂器三：胡琴〕
Onggolo 1.…する前．…の以前〔2.時令二：預前〕2.江河の港〔2.地輿八：河港〕
Onggolokon …のやゝ以前．…に些さか前〔2.時令二：預前些〕
Onggombi 忘れる．忘却する〔17.懦弱二：忘〕
Onggon 1.鞍の裏側の脊すじの所の空處〔9.鞍轡一：鞍縵〕2.馬の背すじ，尻に近き方〔31.馬四肢體一：馬背梁〕
Onggoro 顱頂骨〔10.人身六：腦精骨〕〔27.飯肉二：腦精骨〕
— **cecike** 小鳥の名．密林中にあつて松の實を食ひ，貂など松の木に登り來たるときには此の鳥“松かさおとすな，チユツチユツ”と鳴く〔30.雀六：護松鳥〕
— **ilha** わすれ草の花．此の花を見れば憂ひを忘る〔29.花五：萱花〕
— **mangga** 非常に忘れつぽい(人)．大いに記憶の惡い(人)〔17.懦弱二：肯忘〕
— **orho** わすれ草．にくな〔29.草二：合歡草〕
Onggosu 忘れ性の人．健忘症の人〔17.懦弱二：忘性〕
Onggošon ふなの一種〔32.河魚二：鯽魚〕
Ongkiha 獸が人の聲臭を聞いて逃げ去つた．人の氣配に感じて逃げて行つた〔31.走獸動息：聞聲臭避去〕
Ongko 牧場．放牧地〔2.地輿二：牧場〕
Ongnika 獸名．熊に似て小さく，色淡黃にして白の縞あり，性大いに狡猾〔31.獸二：脆性〕
Ongton 鈍い．通じの惡い．慮たらぬ〔18.鈍繆：儀貨〕
— **akū** 鈍くない．慮たらぬ所のない〔11.聰智：不慮〕
Ongtori 道理の分らぬ人間．頓馬な人間．鈍い人〔18.鈍繆：冗頭〕
Onon 雄の黃羊〔31.獸四：公黃羊〕
Ooca さわら〔32.河魚二：鰆口〕
Ooha あいなめ〔32.河魚一：花季魚〕
Oori 人身血氣の原液〔10.人身八：精〕
— **simen** 人體を作る根源の液．Simen に同じ〔彙：精液．精神〕

Oori sukdun 精氣. 神明の氣〔彙：精氣. 薈通神明之神明〕
Or おう. うう. げつ〔14.聲音二：嘔吐聲〕ううふ… おう〔14.聲音五：虎猛叫聲〕
— **ir** 衆僧讀經の聲〔14.聲音一：誦經聲〕
Ora 袖無く前開いて褶のある長い絹の上衣〔彙：無袖開岔子拿摺子的綢緞長褂子〕
Ordo 亭(?)式の宮殿. 四面形にして窓あるものと無きものとあり〔20.宮殿：亭式殿〕
Orgi 鏃の兩刃〔9.製造軍器四：箭鐵兩刃〕
Orgilame 鏃の片刃だけがかすり申る〔9.畋獵三：箭鐵半邊劊着〕
— **goiha** 箭がかすり申つた〔彙：箭一邊鋒刃射着皮浮面. 與 Olgilame 同〕
Orho くさ〔29.草一：草〕〔32.牲畜器用二：草〕
— **da** 人蔘. 朝鮮人蔘. Orhoda に同じ〔彙：人參藥名梗長二尺餘枝不過有五六而一處圍着相對生者一枝上有五葉花與子俱色紅很貴重物根入藥〕
— **i kūwaran** 盛京戶部にて每年收納する草を堆積し置く處〔20.部院九：草廠〕
— **jodon** 草より取りし絲を以て織れる布の一種〔23.布帛五：草葛布〕
— **muke amcarakū** (馬が頭を低れて) 草や水に屆かない〔彙：馬牲口生低頭難病掃不着水草〕
— **šoforokū** 猛禽類の右側の翅の上に重生せる二本の翎〔30.羽族肢體一：旁草〕
Orhoco 生れたての赤兒の身體の非常に小さい〔10.老少二：初生身小〕
Orhoda 人蔘. 朝鮮人蔘〔29.草一：人蔘〕
— **gurure temgetu bithe** 人蔘採りが出邊越境のために給與される證票〔5.事務四：參票〕
— **icihiyara kūwaran** 參票(Orhoda gurure temgetu bithe) を發給し, 人參收納の事務を辨理する役所. 盛京及び寧古塔にあり〔20.部院九：辦參局〕
Orhon 猛禽類の尾部の白黑の翎〔9.頑獵狗：飄翎〕
Ori 頸に掛ける瑠璃珠の珠數〔24.冠帽二：瑠璃數珠〕
Orima 龍肝魚 (Cin nimaha) に似たる海魚〔32.海魚二：鮸魚〕
Orimbi 寢惚ける〔15.睡臥二：撒嚷症〕
Orin 數詞. 二十〔7.數目二：二十〕
Orinci 第二十. 二十番目〔彙：第二十〕
Orinta 二十每. 二十宛〔彙：各二十. 每二十〕
Orobuhangge バタを材料にした菓子〔彙：牛等牲畜的奶油凝結做的奶餅子東西〕
Orobumbi (米湯などの表面に) 皮を張らせる〔28.生熟：使結皮〕
Oroko (米湯などの表面に) 皮を張つた〔28.生熟：結了皮〕
Orolombi 缺官に補任する〔4.陞轉：頂缺〕
Orombi (米湯などの表面に) 皮が張る〔28.生熟：結皮〕
Oromu 沸騰した牛乳に張る皮. 乳の皮〔27.茶酒：奶皮子〕
Oron 1. 星無くして宮度に名ある處〔1.天文三：辰〕 2. 空缺の官職, 空いた職〔4.陞轉：缺〕 3. 人の魄. 陰魄〔10.人身八：魄〕 4. しかの一種. Oron buhū に同じ〔彙：鹿名公母散頭上俱有角吃苔打鹿大養着使〕
— **akū** 缺くる所がない〔18.散語三：無影響〕
— **buhū** しかの一種. 雌雄共に角あり, 苔を食ふ. 養つて使役す〔31.獸三：角鹿〕
— **de** 缺官に. 缺職に〔彙：缺上〕
— **i kunggeri** 吏部に屬し, 缺官の補任事務を掌る役所〔補2.衙署一：缺科〕
— **i šusi** 欽天監內にあつて, 七政を籌り曆書を作り星辰を觀測する等のことに從事する役人〔4.臣宰八：天文生〕
Oronco i niyalma オロン鹿を捕へる獵人〔彙：打 Oron 鹿的人〕
Oronggo 羊の一種. 黃羊に似てやゝ小さく, 角は長く平たくして色青し〔31.

獸四：隔角羊〕

Oros bithei kuren 露西亞語を教習する學堂〔20.部院十一：俄儸斯文館〕

— kuren 露西亞より來たる使者商人等を宿泊せしめる處〔20.部院十一：俄儸斯館〕

— niru 投降せる露西亞人を以て編成せる一部隊，及び其の部隊長官の名〔3.旗分佐領一：俄儸斯佐領〕

— tacikū Oros bithei kuren に同じ〔補2.衙署七：俄儸斯學〕

Orson nimembi 分娩して後腹が痛む〔13.生產：兒枕疼〕

Oshodombi 暴虐する．虐げる．惡行する〔18.兇惡二：暴虐〕

Oshon 暴虐．暴戾．暴虐の〔18.兇惡二：虐〕

Oso …であれ．爲せ (Ombi の命令形)〔18.散語三：使令詞〕

— akū …でありさうでまだしない．〔彙：此將然未然口氣〕

Osohokon 些さか小さい〔25.大小：小些〕

Osohon 小さい〔25.大小：小〕

Ošo 鷹匠の使用する三本指の皮手袋〔9.頑鷹狗：三指把掌〕

Ošoho 鳥の指．獸の指（爪をも含めていふ）〔30.羽族肢體二：爪指〕〔31.走獸肢體：爪指〕

Ošoholombi 爪で掴む．爪をかける〔31.走獸動息：用爪〕

Ošohonggo 爪のある．爪あるもの〔30.羽族肢體二：有爪的〕

Ošonggo ilha 奇花の名．花瓣鷹の爪に似たるを以てこの名あり〔補3.異花五：鷹爪花〕

Otgo 鴨などの環狀に卷き上つた尾．Otho に同じ〔彙：公鴨子往前拳環翅起的尾〕

Otho 鴨などの環狀に卷き上つた尾〔30.羽族肢體一：翅尾〕

Otokon alin Pingpi alin (平頂山) の別名．山頂に水あつて乾かざる故にかく稱呼す〔補1.地輿一：浴盆山〕

Otolo …に至るまで．Isitala に同じ〔2.時令三：至於〕

Oton 木の、りぬき盆．Yalhū (有把槽盆) より小さく，Yalhū の如く把手や脚が無い〔25.器用六：整木槽盆〕

Otori 春季に催ほす狩獵〔9.畋獵一：春日遊獵〕

Otorilambi 春季狩獵する〔9.畋獵一：春蒐〕

Oyo 1. 屋根の上〔21.室家二：房頂〕帽子の上面〔24.冠帽一：帽胎〕蒙古包の屋根をなす毛氈〔24.氈屋帳房：氈頂子〕2. 曲げよ．環にせよ〔26.煨折：撅彎〕3. くそむし．糞蜣〔32.蟲四：螬蟲〕

— gaimbi 供神の祭肉を配分する前に，一塊の肉毎に少々宛割きて屋上又は神杆斗に置き天を敬ふ〔6.祭祀二：祭肉敬天〕

— jafara alikū 神に食物を供へる盤〔續.器用：饌盤〕

— oyo 小犬を呼ぶ聲〔18.散語三：喚小狗聲〕

Oyobumbi 曲げさせる．環を作らせる〔26.煨折：使撅成彎〕

Oyoho 環にした．曲げた．彎曲した〔彙：拳環轉了．小孩睡的搖車的兩片板鞠子彎弓着〕

Oyoki 思ひがけなく早い．知らぬ間に到着した．完了した〔14.行走二：不覺快自快〕

Oyokobi 1. 大半歩き了つた．過半行き過ぎた〔14.行走二：過了大半〕大體完成に近い〔26.完成：眼下就完〕2. 非常に疲れた．大いに倦んだ〔15.疲倦：很乏了〕

Oyombi 環狀に作る．曲げる〔26.煨折：撅成彎〕

Oyombumbi 早くも行きつく．最早完了する〔14.行走二：能急攛〕

Oyomburakū まだまだ了らない．愚圖々々してゐる〔12.遲悞：無緊要〕〔18.鄙瑣：沒要緊〕

Oyombure baita waka 急ぐことでない．必要なことでない〔彙：不要緊的事〕

Oyome sahabi 城門の弓形の所を築く．橋のアーチを築く．（凡て弓形に築

構するをいふ)〔彙：砌城門甕圈起圈．砌橋圈〕
Oyonde isinaha 非常に窮乏した．極度に貧乏した〔13.貧乏：窮極〕
Oyonggo さし迫つた．急を要する．必要な〔彙：要緊．有面子的〕
— **baita** 急を要すること．先にすべき大事〔5.事務一：要事〕
— **be gaime araha hafu buleku** 書名〔續2.書：通鑑纂要〕
Oyonggon 緊要事．切要の處〔5.事務一：要〕
Oyotonggo mahatun 秦漢時代廷臣が謁見に際して着用した冠の名〔補1.古冠冕一：高山冠〕
Oyoyo えへつへつ．うふつふつ(人を輕笑する聲)〔18.散語三：輕笑人詞〕

P

Page Gacuha (背式骨)の遊び,或ひは Caksimbi (打遠馬兒)のとき,手に持つて投げる方の石駒〔19.戲具一：石餅子〕
Pai かるた．麻雀の牌など〔彙：牌乃頑的紙牌．牌票之牌〕
— **siyoo** 二個の籌を一連にした樂器〔彙：牌籌乃一連子二管籌湊成一處者〕
Pak ばん．ばちん(小さい爆竹爆丸などの破裂する音)〔14.聲響三：小爆竦聲〕ばたん．(硬い物を地に投げた音)〔14.聲響四：摔硬物聲〕
— **pik** ばんばん．ばちばち(小さい爆丸爆竹などが一齊に鳴る音)〔14.聲響三：衆小爆竦聲〕
— **seme** かちかちに．ぼろぼろと(飯や肉が乾いて硬くなつた貌)〔28.軟硬：飯肉乾硬〕
Palta wehe 〔22.貨財一：金剛石〕
Paltari 金剛砂〔22.貨財一：金網鑽〕
Pampu 厚く綿の入つた下衣〔24.衣服一：厚棉襖〕
Pan 樂器の名．銅鐵等の薄板を支架に掛けて叩く樣にしたもの〔7.樂器一：雲牌〕
Panghai かに〔彙：螃蟹．與 Katuri 同〕
Pangse jahūdai 海の關門を防守する戰艦〔26.船一：緲仔船〕
Panse 象棋盤〔彙：棋盤〕
Parpanahabi 小柄でよく肥えた〔11.容貌六：矮胖〕
Parsu 重量の一單位名．Sesiri(渉)の十分の一〔22.衡量二：漠〕
Pata piti 1. ぼとんぼとん(果物の連りに落ちる音)〔14.聲響四：果連落聲〕2. ひよろひよろ(重いものを負ふて足下の危い貌)〔14.行走四：負重站不穩〕
Patak ぼたん．ばたん(小さくて堅いものが地に落ちる音)〔14.聲響四：硬物墜地聲〕
Patar pitir ばたばた．びんびん(籠或ひは網の中の魚鳥が跳ねる音)〔14.聲響六：魚鳥撑跳聲〕〔32.鱗甲肢體：魚跰聲〕
Pei へーい(悔嘆の聲)〔13.悔嘆：悔嘆自啐聲〕ぺつ．えへつ(人を譏笑する聲)〔15.鄙薄：啐人聲〕
— **pai** ぺつぺつ(無暗と唾を吐く音)〔14.聲響二：亂啐聲〕
Pekte pakta ばらはら．びくびく(心懼く貌)〔13.怕懼二：楞怔樣〕〔彙：與 Bekte bakta 同〕
Pelehen 鶴の別名〔補4.鳥一：蓬萊羽客〕
Pelerjembi 手綱をかけた馬が無暗と口を上に抬げる．頭を抬げふりまはす〔31.馬匹動作一：嘴飄〕
Pengduwan 毛繻子〔彙：彰緞．洋緞〕
Per par ばらばら．ばたばた(鳥,虫の翅をうつ音)〔14.聲響六：蟲鳥起翅聲〕
— **pir** ばらばら(いなご虫などの飛ぶ

音)〔32.蟲動:螞蚱飛起聲〕
Pes 軟かい物の突き通り破れる〔25.斷脫:軟物透破〕
— **pas** 1. ぴりぴり. びりびり (皮や緞などの古くなつて破れる音)〔14.聲響四:皮緞糟破聲〕 2. ばかばか (馬蹄の響)〔14.聲響五:馬蹄磕拌聲〕
— **pis** Pes pas (2)に同じ〔31.馬匹動作二:磕絆聲〕
— **seme fondojoho** ぶつと突き通つた. ぶすりと破れた〔彙:凡物無力鑽透通了〕
— **seme hūwajaha** ぺりつと破れた. びつと裂けた〔彙:凡物無力破開了〕
Picik pacak びたびた. べちやべちや (泥濘の中を行く音)〔14.聲響四:走濫泥聲〕
Picir pacar seme うぢやうぢやと. ごちやごちやと (小さなものゝ澤山ある貌)〔25.大小:物碎雜〕
— **seme** Picir pacar seme に同じ〔25.大小:物碎雜〕
Pijan 薄き板に皮を張り平たき櫃の如き形に作つた箱〔25.器用一:皮箱〕
Pilembi 政事の書類に批判の筆を加へる〔5.辦事二:批判〕
Pilgican niyehe Cunggur niyehe (油胡蘆) の別名〔補4.鳥七:鸊鷉〕
Pilutu 周圍に毘盧佛を畫きたる僧帽〔19.佛一:毘盧帽〕
Pimpinahabi 顔が肥えて平べつたい〔11.容貌六:臉胖平了〕
Pin 宮嬪〔2.君二:嬪〕
Ping di jeo 絹布の一種〔彙:平綢紬〕
— **orho** 浮き草. 浮き藻〔彙:萍. 浮萍草〕
— **seme** ピンと (病氣で腹が張る)〔16.疾病二:膨脹〕〔彙:與 Dolo ping sembi 同〕
Pinggari 淺水に生ずる浮き草. かたばみ藻〔29.草三:蘋〕
Pinggu りんご. Pingguri に同じ〔彙:蘋果〕
Pingguri りんご〔28.果品一:蘋果〕
Pingki alin 盛京海城縣所在の山名〔補1.地輿一:平頂山〕
Pingse 秤(はかり). てんびん〔彙:天平〕
Pingselebumbi 量目を秤らせる. 銀を兌換させる〔彙:使兌〕
Pingselembi 量目を秤る. 銀の兌換をする〔彙:天平兌銀子之兌〕
Pio seme ふらふらと. ふわふわと (人輕浮の貌)〔17.輕狂:輕飄〕ふわつと (物の輕き貌)〔22.衡量二:漂輕〕
Pipuri ilha びわの花〔29.花三:枇杷花〕
Piyak ぴちやり. ぴしつ (頰を打つ音)〔14.聲響二:掌嘴聲〕
Piyas pis seme 1. きよろきよろと. ふかふかと (行動輕佻なる貌)〔14.行走四:行動輕佻〕 2. ぺつぺつと (唾吐き人を恥笑する貌)〔15.鄙薄:連啐人聲〕
— **seme** さつさと. せつせと (行動身輕な貌)〔彙:俐便貌. 疾便貌〕
Piyata gaimbi 二本の指で手首の所を打つ. しつぺい打つ〔13.戲要:打爪子〕
Piyatang seme Piyatar seme に同じ〔14.言論四:嘴快狀〕
Piyatar seme ぺちやくちやと (口早く口から出まかせに云ふ貌)〔14.言論四:嘴快狀〕
Pocok ぼちよん. どぼん (物が水中に落ちる音)〔14.聲響四:物落水聲〕
Pocong Pocok に同じ〔14.聲響四:物落水聲〕
— **seme** ぼちよんと. どぼんと〔彙:凡物落水之聲〕
Pojan 紙或は竹筒中に火藥を收め爆發させて遊ぶもの〔19.戲具二:爆煙〕〔彙:爆竹〕
Pok ぼん. ぼこん (物に中つた音)〔14.聲響四:碰物聲〕
— **seme** ぶつり. ぶすり (箭の中つた音)〔8.步射二:箭碰著聲〕
Pokcohon 背低くして肥つた. 横肥りの〔11.容貌五:矬胖〕
Pokita 鳴り目のない鏑(かぶら). 所謂神頭鏑の類〔9.軍器五:無眼鞋頭〕
Poksohon 小兒生れて漸く元氣付き大きくなつた〔11.容貌六:小兒壯大〕

Poksohori 小兒生れて較々元氣付き大きくなつた〔11.容貌六：小兒肥大貌〕
Polori 大形の柳行李. Nionioru (小簸籮)より大きい器〔25.器用八：大簸籮〕
Pongcun 形短かくして粗雜な. 粗末で背の低い〔25.諸物形狀三：短粗〕
pongtonohobi 肥えてのろのろしてゐる. 肥えて動作が鈍い〔11.容貌六：膘腫〕
Poo 砲. 大砲〔9.軍器七：礮〕
— **i cooha** 砲兵. 大砲の射手〔8.兵：礮手〕
— **i unggala** 砲身〔彙：炮桶乃裝火藥鉛彈子內者〕
— **sindambi** 砲を放つ. 發砲する〔8.征伐五：放礮〕
Porong seme がさつに (擧止粗野魯鈍なる貌)〔18.鈍繆：擧止粗魯〕
Porpon parpan ばらばら, ぼろぼろ (鼻汁と涙と交々流れる貌)〔13.哭泣：涕淚交流〕
Porponohobi Pongtonohobi に同じ〔11.容貌六：胖笨〕
Pos seme 1. ぶすりと (箭などの突き通る音)〔8.步射二：透過聲〕2. ぼんと (突然話し出す貌)〔14.言論四：突然說出〕
Potor patar ばたばた. ばたばた (群鳥一齊に飛ぶ音)〔14.聲響六：羣鳥齊飛聲〕
Pu ぷつ. ふー (物を吹く聲)〔14.聲響二：吹物聲〕
Pudanai 奇果の名. 形青棗の如くして味甜し, 暹羅國に出づ〔補3.異樣果品一：蓬蘿柰〕
Puk pak seme 1. がさつに (言動粗野なる貌) 2. ちぐはぐに (動作適せざる貌)〔18.鈍繆：言動粗魯〕
Pulu pala ぶらりぶらり (懶惰にして行狀妄りなる貌)〔17.怠慢迂疏：粗疎〕
Pun 船のとま〔彙：船篷〕
Pur ぱつ(鶉などの鳥が急に飛び立つ音)〔14.聲響六：鶉鳥忽飛聲〕
Purpui 霍山に出づる奇獸の名. 形野猫に似, 尾白くしてたてがみあり. 此の獸を飼へば憂を忘る〔補4.異獸四：朏朏〕
Puru 西藏產の毛織物の名〔彙：氆氇. 與 Cengme 同〕
Pus seme ぷつりと (膿瘡を針尖で突き破る音)〔16.瘡膿二：刺破聲〕
— **seme injehe** ぷつと笑ひを吹き出した〔13.嘻笑：忍不住忽笑〕
Pusa〔彙：菩薩. 與 Bodisatu 同〕
Puse kurume 補子(官吏禮服の徽章)と褂子(禮裝の上衣)〔彙：補子褂子〕
— **noho suje** 金絲で團龍を刺繡した緞〔彙：金團龍緞〕
— **noho ša** 金絲で團龍を刺繡した紗〔彙：金團龍紗〕
Puseli 店舖. 商店〔22.貿易二：舖面〕
Putu pata 1. ぼとぼと. ぼたぼた (小さい物が連續して地に落ちる音)〔14.聲響四：小物連墜聲〕2. ばたばた. せかせか (急忙の貌)〔15.急忙：慌慌忙忙〕
Putur ばたり. ばさつ (大鳥の突として飛び立つ音)〔14.聲響六：大鳥忽飛聲〕
— **seme** ぼとぼとと (涙が滴々と落ちる貌)〔13.哭泣：淚珠滾流〕點々と (物を一點又一點加へる貌)〔25.諸物形狀二：搭搭搭搭的〕

S

Sa 1. 知れ. 覺れ〔12.聆會：使知道〕2. 牛車の轅(ながえ)〔26.車轎一：牛車轅〕3. あさ〔29.草二：麻草〕夏帽子のおもてを作る草〔彙：白草做凉帽面者. 與 Deresu 同〕4. 名詞の複數形を示す接尾語. 等. 達. 共〔彙：們. 等〕
Sabarambi 滴り散る. 注ぎ滴る〔15.撒撒：拋撒〕

Sabcirambi 馬が兩脚を擧げて地を打つ〔31.馬匹動作二：雙蹄拍〕
Sabda 尺骨〔五體10.人身六：連細骨〕
Sabdambi 雨がぽつぽつと落ちる〔1.天文五：下雨點〕滲む．漏る〔18.濕潮：滲漏〕零れる〔彙：零〕
Sabdan 雨滴〔1.天文五：雨點〕水滴〔2.地輿七：水點〕
— **i aligan** 家屋墻壁等の軒下の溝〔20.壇廟：散水〕
— **sabdan** 〔彙：點點．滴滴〕
Sabdangga wase 簷瓦〔26.砌苫：滴水〕
Sebdara silenggingge fukjingga hergen 漢の曹喜の作れる書體．懸針の如くにして細からず，輝く露の垂る如き體〔補1.書四：垂露篆〕
Sabi 目出度き．目出度きしるし〔11.福祉：祥〕
— **ferguwecun** 〔彙：祥瑞．奇瑞〕
Sabingga cecike 小鳥の名．嘴紅くして寔く，身青灰色にて雌雄常に一處に棲む〔30.雀三：瑞紅鳥〕
— **darudai** 瑞鳳鳥〔補4.鳥一：瑞鷴〕
— **hoošan** 五色の紙を錢形に切つて正月門戸に貼付するもの〔19.佛二：掛錢〕
— **moo** 奇木の名．紋様によつて天下太平の四個の漢字を現はすといふ〔補3.異木：瑞木〕
— **orho** 靈芝の傘未だ成生しないもの〔29.草一：瑞草〕
— **sence** れいし〔29.草一：靈芝〕
— **sence i fukjingga hergen** 漢の武帝の時靈芝を生ぜしによつて作りし篆書．字頭に叉あり，芝の始めて出づる象を取る．靈芝の形の文字〔補1.書四：芝英篆〕
— **sence i šušungge saracan** 紫色の絹の天蓋に蕨芝の形を刺繍せるもの〔6.鹵簿器用一：紫芝蓋〕
Sabintu 牝の麒麟〔31.獸一：麟〕
Sabintungga fukjingga hergen 麟書．魯西狩して麟を獲るや孔子之を奇異とし，その弟子曾參この字を作る〔補1.書三：麟書〕
Sabirgan cecike 吉祥鳥．身小さく頭黒く頤は白く，背の黒斑魚の鱗の如く其鱗毎に細き白毛一條あつて至美なるが故に此の名あり〔30.雀三：吉祥鳥〕
— **orho** 吉祥草．幹柔かく葉常に青く花は紫．一度び開花すれば必らず吉祥ありといふ〔29.草一：吉祥草〕
Sabirgi kurume 禮服の一種．各官人位階を示すため，鳥獸を刺繍し儀禮の時着用するもの〔24.衣服一：補掛〕
— **noho cece** 補子(上衣の胸に着ける官吏禮服の徽章)用の純紗布〔23.布帛四：補紗〕
— **noho niktongga suri** 補子用の柔かい絹紬．金絲の龍圖を織り出し，又種々の色の絨を併せ織り込んで夫々の位階に合はせて作る〔23.布帛三：補寧紬〕
— **noho suje** 金絲で龍の全圖を織り出した絹布．補子用〔23.布帛二：補緞〕
Sabiri ilha 花の名．枝柔かく葉厚く花瓣は重り生じて其の色種々となり．瑞花といはる〔29.花三：瑞香花〕
Sabitun 牡の麒麟〔31.獸一：麒〕
Sabka 箸〔25.器用三：筋〕
— **sele** 1. 綿を糸に紬むぐために使用する鐵の器具．先端箸の如し〔23.紡織二：定桿〕2. 車軸の兩端に取りつけた四個の鐵片．輪止め〔26.車轎二：車轄〕
Sabkalambi 箸を使ふ．箸ではさむ〔27.飲食一：用筋夾〕
Sabsibumbi 1. 文身させる．黥を入れさせる〔5.刑罰二：使刺字〕2. 縫はせる〔24.剪縫三：使實納〕3. 馬の鬣を梳らせる〔彙：使打馬鬃〕
Sabsimbi 1. いれ墨する．文身する〔5.刑罰二：刺字〕2. 縫ふ．針で縫ふ〔24.剪縫三：實納〕3. 馬の鬣を梳る．鬣の手入れをする〔32.馬畜殘疾二：打鬃〕
Sabta 1. 箭の羽を着けるのに使用する膠塗りの棒〔22.工匠器用二：繅棍〕2. 尺骨〔10.人身六：連細骨〕動物の踝の骨に接してある小さな骨〔27.飯肉二：

細連骨〕
Sabtarambi 木に切り口をつける〔26. 截砍：未鋸先砍口〕
Sabtari wasika 馬の脚の蹄の上あたりに血滞つて跛行する疾〔32. 馬畜殘疾二：蹄上瘀血〕
Sabu 〔24. 靴襪：鞋〕
Sabubumbi 見させる〔12. 觀視二：使看見〕見られる〔彙：被看見〕
Sabugan akū (愛す可きほどのものでないのに)迷つて愛する. 見る目がない〔18. 鄙瑣：沒見時面〕
— **be sabuhakū** 愛す可きほどのものではなかつたことを見て取らなかつた. 見る目がなかつた〔18. 鄙瑣：沒見過時面〕
Sabula 〔彙：陰毛〕
Sabumbi 見る. 覺る〔12. 觀視二：看見〕
Sabunambi 見に行く. 行つて見る〔12. 觀視二：去見〕
Sabundumbi Sabunumbi 各自が齊しく見る. 一齊に見る〔彙：各自齊看見〕
Sabunjimbi 見に來る. 來て見る〔12. 觀視二：來見〕
Saca かぶと〔9. 軍器一：盔〕
— **i temgetu** 所屬の旗, 牛彔の名品階等を書いて甲の後につけた布片〔9. 軍器一：盔牌子〕
Sacalabumbi 兜を着けしめる. 兜をかむらせる〔8. 征伐二：使戴盔〕
Sacalambi かぶとを着ける. 兜をかむる〔8. 征伐二：戴盔〕
Sacalandumbi Sacalanumbi 一齊に兜を着ける〔8. 征伐二：一齊戴盔〕
Saci 1. 切れ. 斷て〔26. 截砍：砍〕2. 若し知らば. 知つてゐるならば〔彙：若知道〕
Sacibumbi 1. 切らしめる. 斬らしめる〔26. 截砍：使砍去〕切られる〔彙：被砍〕馬蹄の爪を整へさす. 爪を切らす〔彙：使鏟修〕2. 田を鋤かせる〔彙：使鋤〕
Sacikū 鑿[2]〔22. 工匠器用一：鋼鏨〕鋤[2]の刃〔22. 工匠器用二：鋤頭〕
— **sirdan** Sirdan (梅針箭. かづや)の鏃の先邊, のみ狀をなせるもの. のみ型の鏃を具へた箭〔9. 軍器五：齊梅針箭〕
— **umiyaha** かぶと蟲〔32. 蟲一：牛兒〕
Sacima 胡麻と砂糖とを材料にして作つた一種の砂糖菓子〔27. 餑餑三：糖纏〕
Sacimbi 1. 切る. 斬る〔8. 征伐五：砍〕切り去る〔26. 截砍：砍去〕馬蹄の爪を切る〔32. 馬畜殘疾二：鏟蹄〕2. 田を鋤く. 草を鋤き取る〔彙：田地裡用鋤頭刃子鋤鋤草之鋤鋤〕
Sacime wambi 斬り殺す〔5. 刑罰二：斬〕
Sacimri loho 戰の時馬の脚を斬るために使用する刀〔9. 軍器六：斬馬刀〕
Sacindumbi Sacinumbi 一齊に斬る. 互ひに斬りあふ〔8. 征伐五：一齊砍〕
Sacirambi 1. 無茶苦茶に斬る. 斬りまくる〔8. 征伐五：亂砍〕細々に切る〔26. 截砍：砍〕2. 鋤を用ひて亂りに鋤く〔彙：用鋤亂鋤〕
Sacu 蕎麥の皮殼を取り去つたもの〔28. 米穀二：蕎麥稞〕
— **fungse i ufa** 蕎麥で作つた麵〔彙：蕎麥澄麵〕
Sacurambi 1. 蕎麥を碎いて麵とする〔21. 碾磨：磨蕎麥麵〕2. 微々として雪が降る. 粉雪が降る〔1. 天文六：下米心雪〕
Sada 松葉. 莿狀の草木の葉〔彙：松針. 凡草木之葉尖如莿者〕
Sadulambi 互ひに親戚關係を結ぶ. 親類になる〔6. 筵宴：結親〕
Sadun むすめの嫁入りさき或は息子の嫁の家. 親類〔10. 親戚：親家〕
— **hala** 異姓の親戚〔10. 親戚：異姓親戚〕
Sadusa 親戚達. 親類共. Sadun の複數形〔10. 親戚：衆親家〕
Sagin 奇果の名. 大きさ漆子の如く味甘酸〔補3. 異樣果品三：士翁子〕
Saha 1. 獵. 狩り. Aba に同じ. Aba

saha と連用する〔9.畋獵一：畋獵〕2. 知つた．わかつた〔12.聆會：知道了〕3. 積み上げよ〔24.包裹：硌〕

Sahabumbi 積み上げさせる〔22.捆堆：使硌〕〔24.包裹：使硌〕疊み積ませる〔24.砌苫：使砌〕

Sahadabumbi 秋の狩りをさせる〔彙：使打小圍〕

Sahadambi 秋狩りをする．秋の獸を殺す〔9.畋獵一：秋獮〕

Sahahūkan 略と淡黑の．薄墨色の〔23.采色二：墨色〕

Sahahūn 1. うす黑の．淡黑色〔23.采色二：淡黑〕2. 十干の癸．みづのと〔2.時令一：癸〕

— **muke tashari** 水鳥の一種．鷲より小さく色は淡黑し〔補4.鳥三：蒼鷲〕

Sahahūri 眞つ黑．純黑の〔23.采色二：烏黑〕

Sahalca 黑貂の皮〔24.皮革一：黑貂皮〕

Sahaldai Sahaldai monio の別名〔補4.獸二：獌〕

— **monio** 猴の屬．身犬に似首は虎に似たり．顏白く身黑く一匹を捕ふれば其の餘も從ひ來るといふ〔31.獸五：果然〕

Sahaliyakan 淡黑．淡黑の〔23.采色二：微黑〕

Sahaliyan 1. 黑色．黑の〔23.采色二：黑〕2. 十干の壬．みづのえ〔2.時令一：壬〕

— **bonio** くろざる〔補4.獸二：狨〕

— **dobihi** くろきつねの皮〔24.皮革一：黑元狐皮〕

— **faha** 瞳．目だま〔彙：黑眼珠子〕

— **fatha** 脚の黑いうづら〔補4.雀二：鐵脚〕

— **giranggi coko** 雞の一種．身骨倶に黑し〔補4.諸畜二：烏骨雞〕

— **gu** 玉の一種〔補3.貨財：黑玉〕

— **ihan** 〔32.牛：黑牛〕

— **kekuhe** 黑色の鳩．頭と背と尾とに白毛あり脚短かく前後に各二指あり〔30.鳥九：黑鳩〕

— **malanggū** くろごま〔28.米穀二：蘇子〕

— **moo** 木の名．木質細かく堅きも折れ易し，木の色黑からず〔29.樹木二：烏木〕

— **muduri juce** 北京の西北方にある潭の名〔補1.地輿一：黑龍潭〕

— **nilgiyan hoošan** Cuseri hoošan (川連紙)を油煙で黑くして光澤を出したものに金箔を美しく散らした紙〔7.文學什物一：烏金紙〕

— **niongniyaha** 雁の一種．背の翅が淡黑い〔補4.鳥三：鴚鵝〕

— **niyehe** くろかも〔補4.諸畜一：黑鴨〕

— **tasha** くろとら〔補4.獸一：驪〕

— **turi** くろまめ〔彙：黑豆．料豆．卽 Liyoo 也〕

— **tuyeku yonggan** 色黑く銅を鑄るに用ひる砂〔補3.貨財：黑腦砂〕

— **ujungga** 庶民．人民〔10.人一：黎民〕

— **ula** 滿洲の江名〔續2.地輿：黑龍江〕

— **yarha** 黑豹〔31.獸二：元豹〕

Sahalja くろかもめ〔補4.鳥八：黑鷗〕

Sahaltu 色の黑い顏．黑いつら〔11.容貌八：黑面〕

— **cecike** 雀の一種．普通の雀より較と大きく，頭黑くして頂白く，背の翅うす黑黃にして白き斑紋あり〔30.雀六：白花雀〕

Sahambi 積む〔22.捆堆：硌〕積み上げる〔24.包裹：硌起〕疊み堆む〔26.砌苫：砌〕

Sahamha すずき〔32.海魚一：鱸魚〕

Sahan 1. 背式骨 (Gacuha) を遊ぶとき各自取る所の記號の背式骨〔19.戲具一：各站下馬兒〕2. 一と堆み．積み上げ〔22.捆堆：一硌〕

Saharabumbi 黑色にする．黑く變へる〔25.新舊：至于黑舊〕

Saharaka 黑變した．黑くなつた〔彙：黑了．凡變色黑了〕

Saharakabi 已に黑くなつた．黑變してゐる〔25.新舊：已黑舊〕〔彙：與 Saharaka 同〕

Saharakangge 黑くなつたもの．黑變したもの〔彙：黑了的〕

Saharambi 黒くなる. 黒變する〔25. 新舊：黒舊〕
Sahari 角力の手. なげとばし〔8. 撩跤二：粘手就倒〕
Sahiba 阿諛者. おべつか使ひ〔17. 譏誚：獻媚人〕
Sai 咬め〔彙：令咬〕
Saibigan 悲〔11. 容貌一：悲記〕しりあざ. あをあざ〔彙：奶孩子屁股上的青記〕
Saibihan 鳥の名. 鷲鷹(ﾉｽﾘ)に似たれど嘴の先異る〔30. 鳥二：戢殼子嘴〕
Saibumbi 咬まれる〔31. 走獸動息：被齩〕咬ませる〔彙：使咬〕
Saiburu 馬の小走り〔31. 馬匹馳走一：小走〕
Saidaha 奇獸の名. 欽山に出で猪に似て牙あり, この獸見はるれば豐作なりといふ〔補4. 異獸四：常康〕
Saifa weihe 犬歯〔10. 人身三：大牙〕
Saifatu 四歳の馬〔31. 馬匹二：四歳馬〕
Saifi 1. 匙. Kuli に同じ〔25. 器用三：匙子〕2. 咬んで〔彙：咬了〕
Saifilambi 匙を使ふ. 匙ですくふ〔27. 飲食一：用匙舀〕
Saiha 1.〔10. 人身六：踝骨〕2. 咬んだ〔彙：咬了〕
— **i doko** 踝の内側〔10. 人身六：裏踝〕
— **i tuku** 踝の外側〔10. 人身六：外踝〕
Saihūwa いばら〔29. 樹木五：荆條〕
Saihūwada 笞〔5. 刑罰二：笞〕
Saihūwadalambi 笞でもつて責める. 笞で打つ〔5. 刑罰二：笞責〕
Saikan 美はしい. 別緻の〔11. 容貌二：美〕好い. 好ましい〔13. 愛惜：好好的〕色美はしい. 見て氣持のよい〔23. 采色三：好看〕
— **arbungga ilha** 花の名. 幹と葉とはJamu ilha (刺蔡)に似, 花は黄, 花梗大きい〔29. 花五：寶相花〕
— **arbungga ilha i suwayan suje sara** 三段になつた黄色の傘面に夫々黄赤青三種の寶相花を刺繍した絹の傘〔6. 鹵簿器用一：明黄緞寶相花傘〕
Saikū 酒の肴〔27. 葉飯四：酒菜〕
Saimbi 咬む. 咬みつく〔5. 爭鬪二：齩〕〔27. 飲食二：齩〕〔31. 走獸動息：齩〕
Saimengge 嚙みきれぬもの〔27. 飲食二：有嚙頭兒〕
Sain 吉の. よき〔7. 書五：吉〕〔11. 福祉：吉〕賢能の〔11. 德藝：賢能〕美はしい〔彙：美〕
— **be ibebure temgetun** 絹地に「進善旌」といふ文字を刺繍した旌〔6. 鹵簿器用二：進善旌〕
— **de aisilakū** 中允 (Giyan be jorikū) の次の官〔4. 臣宰四：贊善〕
— **gucu** 好き仲間. 好き友〔10. 朋友：好友〕
— **inenggi** 〔2. 時令六：吉日〕天氣の好い日〔彙：好天氣日子〕
— **sabi** 好き兆〔彙：吉祥之兆〕
— **sabingga hiyan** 地名〔續. 地輿：昌吉縣〕
Saina kamcin 易卦の名〔補1. 書一：噬嗑〕
Saisa 〔10. 人一：賢者〕
— **be baire kunggeri** 新狀元の授職, 進士擧人の藏取等のことを司る役所〔補2. 衙署一：求賢科〕
Saisaha 豆の筴形の籠. バスケット〔25. 器用七：腰子筐〕
Saise 白麵を練つて細條とし油で炸つた菓子〔27. 餑餑二：小饊子〕
Saisha cecike Antarhan cecike に同じ〔補4. 雀五：家雀〕
Saishan さげかご〔25. 器用七：提筐〕
Saišabukū 人に諛ふ者. 自分を好い様に見せかけるもの〔17. 譏誚：討好的〕
Saišabumbi 人を推し奬めさす〔12. 稱奬：致於誇稱〕人に奬められる〔彙：被奬〕
Saišacuka 嘉す可き. 奬む可き〔12. 稱奬：可嘉〕
Saišakūšambi 人に自分が好き様に見せかける. 諛ふ〔17. 譏誚：討好〕
Saišambi 人を推し奬める〔12. 稱奬：誇奬〕
Saišandumbi Saišanumbi 各人が齊しく推奬する〔12. 稱奬：齊誇奬〕
Saiyūn 好いか〔12. 問答一：好麽〕
Saja 數詞. 十億〔7. 數目二：兆〕

Sajingga deo (あに弟子に對する)おとうと弟子〔10.人四：師弟〕
Saka 1. …様な．…的の〔18.散語五：接上文口氣〕2. なます〔27.飯肉三：肉膾〕
Sakda 1. 老いた〔10.老小一：老〕2. 四歳になつた牝の野猪〔31.獣四：母野猪〕
— **a** 易の語．至剛のこと〔補1.書一：老陽〕
— **e** 易の語．至柔のこと〔補1.書一：老陰〕
Sakdabumbi 老いさす．年とらせる〔彙：使之老〕
Sakdaka 老いた〔10.老少一：老了〕
Sakdaki 大人びた．老人じみた〔10.老少二：老氣〕
Sakdambi 老いる．年とる〔彙：老．者〕
Sakdandambi 老が將に至らうとする．將に老境に入らうとする〔彙：老之將至〕
Sakdantala 老境に入るまで．老ゆるまで〔10.老少一：到老〕
Sakdanumbi 老を老として敬ふ〔11.孝養：老老〕
Sakdasa 老人達．老人連〔10.老少一：衆老者〕
Sakidun かささぎに似た小鳥〔補4.雀五：山鵲〕
Saksaha かささぎ〔30.鳥九：喜鵲〕
— **damin** 上半黒く下半白き生後一二年のわし〔30.鳥三：接白鵰〕
Saksahūn ものを支へる臺．ものを載せる臺．ささへ〔22.捆堆：支架〕
Saksalabumbi 射た箭が樹上にかゝり止る〔彙：箭射在樹上掛擱住〕
Saksalibumbi 互に凭りかゝる〔22.捆堆：支架著〕
Saksalikū 燈火臺．あかり臺〔19.戯具二：盆子燈架子〕
Saksan 1. ものを掛ける叉狀の棒．雀などを捕へる籠を吊す木の先端の叉木〔25.器用一：掛物叉子棍〕2. 祭祀に供へる食物〔27.餑餑三：麵塔兒〕
— **juhe** 流氷が一個處に集つて一塊に凍結したもの〔2.時令九：氷凌凝聚〕
Saksari 仰向け倒し(角力の手)〔8.撩跤二：仰面跌倒〕
— **kekuhe** 鳥名．かささぎに似て一層小さい鳥〔30.鳥九：鵲鴝〕
Saksin ひのき〔29.樹木一：杉松〕
Saksu 茶や紙などを容れる小さい木箱〔25.器用八：茶紙篋〕粮食を盛るかご．荊の枝などで作つたもの．めしかご〔21.農器：荊囤〕
Sakūra 鍋を吊り掛ける三本の木．鍋かけ．鍋つり〔25.器用七：吊鍋支棍〕
Sala moo さらの木〔補3.樹木一：茶羅樹〕
Salaba 西洋産の果物の名〔補3.異様果品一：榮羅榮〕
Salabumbi 分配させる．賑はさす〔12.均賑：使散給〕
Salambi 分配する．賑はす〔12.均賑：散給〕
Salanambi 行つて賑はす．分配に行く〔12.均賑：去散給〕
Salandumbi Salanumbi 一齊に賑はす．各人が皆分配する〔12.均賑：一齊散給〕
Salanjimbi 來て賑はす．賑はしに來る〔12.均賑：來散給〕
Salgabuha babi 定數のある．緣のある〔彙：有定數．有緣〕
Salgabuhangge 天性定まつたもの〔11.性情一：造定〕
Salgabumbi 天が定める．天が賦與する〔彙：天造定．賦與．命〕
Salgabun 天性．天稟．賦性〔11.性情一：稟賦〕天命．因緣〔彙：命．天所造定的．男女前定姻緣之緣〕
Salgangga mujilen 〔11.性情二：良心〕
Salgatu hoohan あほうどり．信天翁〔補4.鳥三：信天緣〕
Salhū 1. 犂頭．すきのあたま〔21.農器：犂挽鈎〕2. 織機の Fatan (竹籠)の外を取り巻いた木箱〔23.紡織二：籠匣〕
Salhūma 北方の雉．きじ〔補4.鳥六：雉〕

Salibumbi 1. 賣價を定めさす〔22.貿易一：估價〕値をひく〔彙：折色．准折〕(笞責めに際し笞つ數を) 減らす〔彙：笞杖折責之折〕2. 引き受けさせる〔彙：使擔承．使承受〕專らにさせる．擅にさせる〔彙：使專主〕

Saligan 少しばかり．少ㇾ〔25.多寡二：略少些〕

— **akū** 主張が無い．引き受ける所がない．意志が無い〔17.懦弱二：無主張〕

— **i bumbi** 1. 些さか給與する．〔彙：畧少給與些〕2. (少しばかり示して) 他は之に倣ふ〔彙：餘話倣此〕

Salimbaharakū 主張し得ない．引き受け得ない〔17.懦弱二：不得主張〕

Salimbi 1. 自ら專らにする．擅まゝにする〔17.强凌：自專〕掌る．執掌する〔18.散語五：執掌〕受けつぐ．引き受ける〔彙：承受家產之承受〕2. 値ひする．値がする〔22.貿易一：値〕

Salingga 自ら專らにする人．擅にする人．我儘者〔17.强凌：自專的人〕

Saliyahan Saliyan に同じ〔12.均賑：僅足〕

Saliyan ほどほどの．どうにか足りる〔12.均賑：僅足〕なみに近い．先づ普通の〔25.多寡二：稍數〕

Salja 路の會合點〔19.街道：岔路口〕三叉路〔彙：三岔路〕

Salmandara さんせうをの屬〔補4.異獸五：撒辣漫大辣〕

Salu 口と顎のひげ〔10.人身三：鬍鬚〕

Salungga 鬚のある人〔10.人身三：有鬚人〕

Samadi boo 和尙靜養の室〔20.壇廟：禪室〕

— **hūwa** 和尙の居住する寺院〔20.壇廟：禪院〕

— **de toktombi** 禪定する．靜寂三昧に住する〔19.佛二：禪定〕

— **tembi** 坐禪する〔19.佛二：坐禪〕

— **tere boo** 和尙講經靜坐の堂〔20.壇廟：禪堂〕

Saman 巫人．みこ．シャマン〔10.人四：祝神人〕

— **cecike** Wenderhen (阿蘭) の一種．頭は鳳に似て種々の鳴聲を出す〔30.雀二：鳳頭阿蘭〕

Samangga niyalma 巫人．みこ〔彙：跳神的巫人．端公〕

Samara 大きな木碗．Sarta moro より尙少し大きいもの〔25.器用三：大木碗〕

Samarabumbi 茶を沸かさす．茶をいれさせる〔28.煮煎：使揚茶〕

Samarambi 茶を沸かす．茶をいれる〔28.煮煎：揚茶〕

Samaran 祭器の名．素燒きのたかつき〔6.祭祀器用一：登〕

Samašambi 神がかりによつて吉凶を占ふ〔6.祭祀二：跳神占吉凶〕

Sambi 1. 知る．分る〔12.聆會：知道〕2. 伸び開く〔18.抽展：伸開〕

Sambiršame 伸び開いて〔彙：伸開〕

Samdambi 巫人が鈴を振り太鼓を打つて神前に跳る．神がかり跳る〔6.祭祀二：跳神〕

Samdame tarimbi 一畦一畦互ひ違ひに別樣の種子を植える〔21.農工一：隔壟種〕

Samha からだや顏面に生ずる黃白色の斑點〔11.容貌一：汚子〕

Samina 數詞．Samuri (那由他) の十倍〔7.數目二：不可思議〕

Sampa えび〔32.河魚四：蝦〕

Sampi 伸びた〔18.抽展：已伸〕疎遠の〔彙：疎遠．與 Sangka 同〕

Samsibumbi 散らす〔彙：使散〕

Samsiha 敗れた．敗北した〔8.征伐六：敗散了〕

Samsimbi 散る．流散する〔彙：潰散之散．流散之散〕

Samsin 易卦の名〔補1.書二：渙〕

Samsu 靑の亞麻布〔23.布帛六：翠藍布〕

Samsulabumbi 金銀鐵などに浮彫りの花を刻ませる〔26.彫刻：使鏨花〕

Samsulambi 金銀鐵などに浮彫りの花を刻む〔26.彫刻：鏨花〕

Samuri 數詞．Jamuri (阿僧祇) の十倍〔7.數目二：那由他〕

Sanca きくらげ〔27.菜穀二：木耳〕

Sanciha 1. 牛, 駱駝等の鼻かぎ. 鼻環〔32. 牲畜器用二: 鼻銅子〕 2. 捕鳥器に環竹を壓着する彎曲せる鐵條〔22. 打牲器用三: 夾子嘴〕

Sandalabuha 相隔つた. 互に離れた〔19. 街道: 相隔〕

— **siden** 此處より彼處に到る中間. 互に相隔つた處の中央〔彙: 從此處到彼處之中間〕

Sandalambi 兩脚を開いて坐る. 兩脚を開いて立つ〔14. 坐立二: 岔腿坐立〕

Sandaršambi 大股に行く. 大股に歩く〔14. 行走三: 岔腿走〕

Sangga 岩屋. 洞窟〔2. 地輿五: 窟窿〕溝のあな〔彙: 溝口孔〕

— **tūmbi** (木などのものに) あなをあける〔彙: 打眼乃木料等物打眼〕

Sanggata あなの出來たもの. あなの有るもの〔25. 孔裂: 有窟窿〕

Sanggatanambi あなが出來る〔25. 孔裂: 成窟窿〕

Sanggatangga あなの有るもの〔彙: 有孔的〕

Sangguhe ははつてう〔補4. 鳥八: 鸕鷀〕

Sangguji 海魚の名. 形草帖に似て, 頭眼臟腑なく, 浮沈して行く. 其の皮肉を食ふを得〔32. 海魚二: 海蛇〕

Sanggūšabumbi 人に快がらせる. 人に快がられる〔15. 憎嫌二: 被趁願〕

Sanggūšambi (己が憎む人の怨みを懐くを見て) 快しとする〔15. 憎嫌二: 趁願〕

Sangka 疎遠の. 時代の隔つた〔10. 人倫二: 疎遠〕

— **ahūn deo** 同高祖の從兄弟. みいとこ〔10. 人倫二: 三從弟兄〕

Sangkabi 離れて遠い. 遠く隔つた〔14. 行走二: 離遠了〕伸びた. Sampi に同じ〔18. 抽展: 已伸〕

Sangkabio 疎遠か. 疎遠になつてゐるか〔彙: 疎遠了麼〕

Sangkakūngge 疎遠になつてゐない. 疎遠でないもの〔彙: 不曾疎遠〕

Sangkangga jalahi jui ふたいとこの子〔10. 人倫二: 從堂姪〕

Sangkangge 疎遠のもの. 長いもの〔彙: 疎遠的. 長的〕

Sangsarabumbi 房屋朽ちるに至らしめる〔25. 新舊: 至于敝爛〕

Sangsarakabi 房屋の已に朽ちた〔25. 新舊: 已敝爛〕

Sangsarambi 年經て房屋が傷み朽ちる〔25. 新舊: 房屋敝爛〕

Sangse 手枷〔5. 刑罰二: 手扭〕

Sangselambi 手枷をかける. 手錠をはめる〔彙: 扭之. 鐺之〕

Saniyabumbi 充分に日限を與へる〔5. 官差: 准展限〕伸ばす〔18. 抽展: 致伸〕

Saniyambi 日限を延ばす〔5. 官差: 展限〕伸びる〔18. 抽展: 伸放〕

Saniyan 伸び. 伸展〔18. 抽展: 伸〕

Saniyashūn 伸びたる〔18. 抽展: 畧伸〕

Sar sar さっさっ (蟲の羽音)〔14. 聲響六: 蚱蠓飛聲〕〔32. 蟲動: 蚱蠓飛聲〕

— **sar seme guwembi** さっさっと蟲が鳴く〔彙: 蟲叫之聲〕

— **seme** さめざめと (泣く)〔13. 哭泣: 雙淚交流〕ちらばらと (物が落ちる)〔25. 諸物形狀二: 散落〕すらすらと (事を畢る)〔26. 完成: 完的快〕

— **sir** さらさらと (落葉する)〔14. 聲響四: 葉落聲〕

— **sir seme** すらすらと (事を畢る) Sar seme に同じ〔26. 完成: 完的快〕さっさっと (米を洗ふ)〔彙: 洗米之聲〕

Sara 1.〔25. 器用二: 傘〕 2. えびらや弓袋の上に打ちつけた小鐵片の總名〔9. 撒袋弓靫: 飾件〕 3. 知らう. 知るであらう〔彙: 知也〕

— **belhere ba** 皇上用の御傘, 坐褥等を造備する事務を專司する役所〔補2. 衙署六: 備傘處〕

Sarabumbi 1. 打ち開かす. 展開させる. 開張させる〔18. 抽展: 使打開〕 2. 米をふるはす〔彙: 使簸出米頭兒〕

Saraca Sira moo に同じ〔29. 樹木五: 山枸杞〕

Saraci yasa neibumbi 網が開けば網の目も開く〔彙: 網張開網眼開了〕

Sarahūn Jodon (葛布) の如くで目やゝあらく硬い布〔23. 布帛六：舒展〕
Sarambi 1. 打ち開く．張開する〔18. 抽展：打開〕羽をひらく〔30. 飛禽動息：展翅〕2. 米を篩ふ〔21. 碾磨：篩碎米〕3. 馬が走るとき馬の脊すじが平らかでない〔31. 馬匹馳走二：鞍心洩〕
Sarasu 知識．知ること〔12. 聆會：知〕
Sarašambi 遊び樂しむ〔13. 喜樂：遊玩〕
Sarašan 遊び．樂しみ〔13. 喜樂：遊〕
Saratai keire 月の様な斑點のある赤馬〔31. 馬匹一：明月題〕
Sarba 網絲を織るのに用ふる梭様の器具〔22. 打牲器用一：織網線軸〕
Sarbacan 1. かぶとの前額にとり付けた鐵〔9. 軍器一：盔葠〕2. 女の夏帽子の緣に廻り垂らした帷子〔24. 冠帽一：女涼帽帷子〕
Sarbahūn 1. 大の字になつて（眠る）〔15. 睡臥一：伸腰拉胯臥〕2. 枝葉ちらほらと（生ずる）〔29. 樹木七：枝葉散漫〕
Sarbašambi 兩人互ひに體の相應ずる所を執り手足を動かして相伐ふ〔8. 撩跤一：爭拿〕事に忍耐力なくして焦る．我慢しきれないで焦る．Sirbašambi に同じ〔17. 懦弱二：强扎悍〕
Sarca guwejihe 鹿豚牛羊等の大胃の下に重なつてある胃〔27. 飯肉二：百葉肚〕
Sarfu Sarba に同じ〔22. 打牲器用一：織網線軸〕
Sarga nimaha 魚名．Yaru (鮫魚) に似て尙大きいもの〔32. 河魚二：大鮫魚〕
Sargaji cecike Jirha cecike (鶺鴒) の別名〔補4. 雀四：女鶺〕
— **nimaha** 魚名．其の口細長い〔32. 河魚一：鯨魚〕
Sargan 〔10. 人倫二：妻〕
— **jui** 女兒．娘．處女〔10. 親戚：女兒〕
— **juse** Sargan jui の複數形〔10. 親戚：衆女兒〕
Sarganji nimaha 魚名．其口細長し〔衆：宗魚其嘴長細〕
Sargašambi Sarašambi に同じ〔13. 喜樂：遊玩〕
Sargiya うちもゝ．內股〔10. 人身五：胯襠〕
Sargiyakan 些さかまばらに（木が生えてゐる）〔29. 樹木七：畧疎〕
Sargiyalakū asu 投げ網〔22. 打牲器用一：旋網〕
Sargiyan まばらな．まばらに（木が生えてゐる）〔29. 樹木七：疎〕網目のあらい〔22. 打牲器用一：網稀〕
Sarhū 碗棚．皿棚〔21. 室家三：盤架〕
— **alin** 奉天東方の山名〔續2. 地輿：陸禦滸山〕
— **hoton** 滿洲東方の城名〔續2. 地輿：陸禦滸城〕
Sarhūn moo 孔子の墳に生えた木．枝稀で曲げ得ないといふ〔補3. 樹木二：楷木〕
Sarilabumbi 酒盛りさせる．宴を設けさせる〔衆：使擺宴．使設宴〕
Sarilambi 酒盛りする．宴を張る〔6. 筵宴：筵宴〕
Sarin 1. 酒宴〔6. 筵宴：筵〕2. 馬騾驢などの股の鞣し皮．靴を作るに用ひる〔24. 皮革二：股子皮〕
— **be dagilara bolgobure fiyenten** 禮部に屬し饗宴の設け等の事を統べ司る役所〔20. 部院四：精膳清吏司〕
— **be dagilara yamun** 一切祭祠に用ひる酒麵等のもの，筵宴に用ひる肉殽菓等のものを預備辦理する官署〔20. 部院六：光祿寺〕
Saringgiyambi 冷熱の茶を一緒に混ぜ合はす〔27. 茶酒：冷熱茶相對〕
Sarki saliburakū 自分だけで主張する．人の忠告を受け入れない〔17. 强凌：不由人主張〕
Sarkiyabumbi 1. 清書させる．淨寫させる〔7. 書七：使抄寫〕2. 苗分けさせる〔21. 農工二：使分苗〕
Sarkiyafi selgiyere boo 各省の通報事務を掌る役所〔20. 部院四：報房〕
Sarkiyambi 1. 清書する．淨書する〔7. 書七：抄寫〕2. 厚いものを層と剝

ぐ. めくる〔18. 抽展：單開〕3. 苗分けする〔21. 農工二：分苗〕

Sarkiyame arara falgangga 考試硃卷の謄錄事務を辨理する役所〔20. 部院十：謄錄所〕

— arara hafan 滿漢書の謄寫に從事する官. 貢院にも亦此の官あり〔4. 臣宰十：謄錄官〕

Sarkiyan 清書. 淨寫. 寫し〔7. 書三：錄〕

— saliburakū Sarki saliburaki に同じ〔17. 强凌：不由人主張〕

Sarkiyangga bithe 六科が各處衙門に呈出せしめた書を抄錄し檔册にしたもの〔5. 事務三：錄書〕

Sarkiyanumbi 1. 一齊に苗分けする〔21. 農工二：齊分苗〕2. 一齊に清書する. 各自齊しく淨寫する〔彙：各齊謄眞〕

Sarkū 知らない. 分らない〔18. 散語五：不知〕

Sarla 灰色の馬〔31. 馬四毛片：豹皮馬〕

Sarni boihon 釉藥に使用するサルニ土〔22. 貨財二：咱兒呢土〕

Sarpa いなご〔32. 蟲二：蚱蜢〕

Sarsen doli 瓜わた. 瓜の核〔28. 果品四：沙瓤〕

Sarta moro 大きな木碗〔25. 器用三：大碗〕

Sartabumbi 1. 人の憂ひを消す. 人の憂ひを解く〔5. 安慰：消遣〕2. まどはす. まどひ遲らす. 遲悞させる〔12. 遲悞：至於悞〕

Sartacun まどひ. 悞ふ處. 悞ふこと〔12. 遲悞：悞處〕

Sartambi 悞ふ. 遲れまどふ〔12. 遲悞：悞〕逍遙する. ぶらぶらする〔彙：逍遙〕

Sartashūn 悞ふに到つた. まどへる〔12. 遲悞：將悞〕

Sasa 齊しく. 一齊に. 共々に〔18. 完全：齊〕

Sasahabi 小兒の較〻長じた〔10. 老少二：小兒顯長〕

Sasambi 骨牌をかき混ぜる〔19. 賭戲：洗牌〕

Sasari 一齊に. 共に. Sasa に同じ〔18. 完全：一齊〕

Sase 麥粉蕎粉等に蜜胡麻等を加へ練つて作つた夏期の食物〔27. 饍綽二：合絡〕

Sasulin cecike Gūlin cecike (黃鸝) の別名〔補4. 雀二：黧黃〕

Sasumbi 骨牌をかき混ぜる. Sasambi に同じ〔19. 賭戲：洗牌〕

Sasuri 麻雀の牌〔19. 戲具一：馬吊牌〕

Sata 松の葉〔29. 樹木八：松針〕

Satangga coko 雞の一種〔30. 鳥六：松雞〕

Sati 雄の大熊〔31. 獸二：公馬熊〕

Saya 非常に小さな鍋. Kilakci に同じ〔25. 器用四：銚子〕

Se 1. 歲. 年齡〔10. 老少一：年紀〕2. きいと〔23. 絨棉：生絲〕3. 人蔘の莖と根との間に生ずる節〔29. 草一：參蘆〕

— baha 歲取つた. 老いた〔10. 老少一：有年紀〕

— baru oho 漸く老境に入つた. 歲老いた〔10. 老少一：年紀漸老〕

— de oho 歲を取つた. 老年になつた〔10. 老少一：上年紀了〕

— salaha 大いに爽快だつた〔13. 喜樂：很爽快了〕

Sebcelembi 味見する. 試食する. どくみする〔27. 飲食一：嚐新〕

Sebdekebi (銅鐵が) 錆びた〔25. 新舊：銅鐵銹了〕

Sebdembi 錆びる〔彙：刃等物上銹〕

Sebden 銅鐵などの錆〔25. 新舊：銅鐵銹〕

Sebderi 陰. 影の所〔1. 天文一：陰涼〕

— ba 陰涼しき處. 影になつた處〔彙：陰涼處. 陰涼地方〕

— eye 氷の穴〔彙：凌陰乃氷窖〕

Sebderibumbi 陰に涼む. 影に憩ふ〔15. 歇息：歇陰涼〕

Sebderilebumbi 陰に涼ませる. かげに憩はせる〔15. 歇息：使歇陰涼〕

Sebderileku 轎の上のひさしの部分. 轎の側面の日除け〔續2. 鹵簿器用：轎上飛簷〕

Sebderilembi かげに憩ふ. かげに涼を取る〔彙：乘陰凉〕
Sebe saba agambi ぽつりぽつりと雨が降る〔1. 天文五：疎雨點點〕
Seberi 白銀色の蹄をもつた馬騾〔31. 馬四毛片：銀蹄〕
Sebihe 蘇へつた. 疲勞から恢復した〔15. 疲倦：就歇過來了〕
Sebire sain 疲れから蘇つて心地よい〔15. 疲倦：乏解的快〕
Sebjelebumbi 悦ばす. 樂します〔13. 喜樂：使快樂〕
Sebjelembi 悦ぶ. 樂しむ〔13. 喜樂：快樂〕
Sebjelendumbi Sebjelenumbi 共々に悦ぶ. 共々に樂しむ〔13. 喜樂：共快樂〕
Sebjen 樂しみ. よろこび〔13. 喜樂：樂〕
Sebjengge baibula Golmin unceheng-ge šanyan baibula (拖白練) の別名〔補4. 鳥九：纓鳥〕
— ilha 奇花の名. 花紫色にして開花の期間長く秋冬の霜露に遭ひて其の色益〻艶かとなる〔補3. 異花四：長樂花〕
— yengguhe Garudangga yengguhe (鳳凰鸚鵡) の別名〔30. 鳥八：時樂鳥〕
Sebke saka〔彙：與 Sebken 同〕
Sebkelembi 間食する〔27. 飲食一：間或喫〕
Sebkembi 虎などが摑みかゝる. 飛びかゝる〔31. 走獸動息：縱撲〕
Sebken 始めて. やつと. めづらしく (行く, 來るなど)〔15. 去來：行走稀疏〕
— jihe やつと來た. 漸くやつて來た〔彙：剛好趕來〕
Sebkesaka Sebken に同じ〔15. 去來：行走稀疏〕
Sebkirakū (年老い力衰へたがために) 疲れて暫くは復らない. 恢復してこない〔15. 疲倦：當時歇不過來〕
Sebkire sain Sebire sain に同じ〔15. 疲倦：乏解的快〕
Sebsehe いなごの類. ばつた〔32. 蟲二：螞蚱〕
Sebseheri いなご〔32. 蟲二：蝗蟲〕
Sebsi 振へ〔彙：吊下馬來令人抖〕
Sebsibumbi 昏迷した人を抱き起し振はす〔19. 醫治：使抖跌昏迷人〕
Sebsihiyen 和らいだ. 親しい. 親和の氣. 和氣〔11. 親和：和氣〕
Sebsimbi 昏迷した人を抱き起し振ふ〔19. 醫治：抖趺昏迷人〕
Sebsingge 和らいだ人. 親しみのある人〔11. 親和：和氣人〕
Secen 頭髪の分け目〔10. 人身一：頭髮分道〕
Seci 云はゞ. 語れば〔18. 散語五：若說〕
Secibe 云ふと雖も. 語つても. 說いても〔18. 散語五：雖說〕
Secibumbi 溝を開かせる. 溝を造らせる〔21. 農工一：使開壠〕割き開かす. 劃り開かす〔28. 剝割二：使劃開〕
Secimbi 溝を開く. 溝を造る〔21. 農工一：開壠〕割き開く. 劃り開く〔28. 剝割二：劃開〕
Secindumbi Secinumbi 一齊に溝を開く. 各自齊しく溝を造る〔21. 農工一：齊開壠〕一齊に劃り開く. 各自割き開く〔28. 剝割二：一齊劃開〕
Secirembi 割き破る〔28. 剝割二：亂刺〕
Secu つばめ魚〔32. 河魚一：干雖魚〕
Sedehengge Wahangge に同じ〔16. 咒罵：殺材〕
Sedeheri 怜悧活潑な子供〔10. 老少二：精壯〕
Sedu Sesi (食物の名) に混ぜ合はせて食ふ豆の麵〔27. 餑餑三：豆麵子〕
Sefere 1. 量目の名. 勺. 合の十分の一〔22. 衡量一：勺〕 2. (肉の) 一つかみ. 畧〻二十條の肉〔27. 飯肉四：一把子肉〕
— yali 一つかみの肉. Sefere に同じ〔彙：數二十條肉拴在一把云一把肉. 束脩〕
Seferembi 手に取る. 摑む〔15. 拿放：撦〕
Seferešembi 取つたり置いたりする〔15. 拿放：只管撦〕
Sefi …と云つて. …と說いて. …と云へど〔18. 散語五：已說未盡意〕

Sefu 師傅. 教師〔10. 人一：師傅〕
Sehe …と云つた. …と語つた. …といふことだ〔18. 散語五：已說〕
Sehebi …と云つた. …と語つてゐた. …と云ふことだつた〔18. 散語五：已說了〕
Sehehun 怒つて鬚髪亂れ立つた. 怒り髪立つた.〔13. 怒惱：鬚髮亂乍〕眞直に立つた〔14. 坐立二：直竪着〕
— **hoton** 滿洲の城名〔續2. 地輿：岫巖城〕
— **ilifi ainambi** 眞直に立ちはだかつて何とするのだ〔彙：說人直竪立着做甚麼〕
— **ilihabi** 眞直ぐに立つた. 怒髪逆立つた〔彙：直竪立起. 人發怒鬚髮直竪〕
Sehehuri 聳つた. 聳へる〔2. 地輿四：巉嵓〕雄々しく立つた〔14. 坐立二：雄立狀〕
— **den** 聳つて高い〔彙：巉巉〕
— **ilicahabi** 大の男が目前にならび立つた. 立ちはだかつた〔彙：强壯好漢子眼前簇列站立着〕
Sehengge 已に說くところ. 已に云つたこと〔18. 散語五：已說的〕
Sehercembi 打つてかゝる〔5. 爭鬪一：揎拳〕
Seherembi 憤怒する. 怒る. 憤ほる〔15. 侵犯：憤怒〕
Seheri hada 峨々たる峯. 聳立する峯〔2. 地輿四：危峯〕
— **sahari** 見え隱れに. ちらちらと（見える）〔12. 觀視二：隱隱看見〕
— **sahari sabumbi** 遠くちらほらと見える〔彙：遠々看見一個兩個〕
Seheršembi 怒つて挑みかゝる〔15. 侵犯：怒欲卽鬪〕
Sehuji 重量の一單位名. Taburi の十分の一〔補3. 衡量：六德〕
Sehuleme ilimbi 兵士が隊伍から前み立つ〔8. 征伐二：出隊站立〕
Sei 歲の. 年齡の〔彙：歲數的. 年齒的〕
Seibeni 昔. 曩に〔2. 時令二：昔〕
Seilebumbi （肉などを）割き開いて煮させる〔28. 剝割二：使刺開煮〕
Seilembi （肉などを）割き開いて煮る. 切り割いて煮る〔28. 剝割二：刺開煮〕
Seire 1. 人の腰骨〔10. 人身六：腰節骨〕 2. 動物類の脊椎骨.〔27. 飯肉二：脊骨〕
Sejeci 官車に備ふる人〔10. 人二：車戶〕
Sejen 車. 車輛〔26. 車轎一：車〕
— **i dobton** 車かけ. 車の被ひ〔26. 車轎一：車罩〕
— **jafambi** 車を御する. 車をやる〔彙：御車. 趕車〕
— **kiyoo i fiyenten** 皇帝使用の鑾輿を造辨收藏する役所. 鑾儀衞に屬する〔20. 部院八：鑾輿司〕
— **tohoro enggemu** 車のながえを取りつける鞍. 轅馬につける鞍〔9. 鞍轡一：車鞍〕
Sejesi 車ひき. 車夫〔10. 人二：車夫〕
Sejilembi 嘆く. 嘆息する〔3. 悔嘆：嘆氣〕
Sejilendumbi Sejilenumbi 一齊に嘆く. 各自齊しく嘆息する〔13. 悔嘆：一齊嘆氣〕
Sejulen 野菜の名. 味はにらに似, 煮又は生の儘食ふ. 香よし〔27. 菜穀二：野蒜苗〕
Sek seme はっど. ぱっと（目覺める）〔15. 臥二：猛醒〕
Seke 貂の皮〔24. 皮革一：貂皮〕てん〔31. 獸六：貂〕
Sekejembi 處々壞れて來る. ばらばらと壞れ出す〔25. 破壞：麻花〕
Sekembi 魚が餌にかゝる. 釣針にかゝる〔22. 打牲：魚上餌〕
Sekiye 水を滴らせよ. 水をきれ〔28. 澆淦：淦〕
Sekiyebumbi 水を滴らせる. 水をきらせる〔28. 澆淦：使淦淋〕
Sekiyeku 草編みの帽子〔24. 冠帽一：草帽〕
Sekiyembi 水を滴らす 水をきる〔28. 澆淦：淦淋〕
Sekiyen 源泉. 水源〔2. 地輿九：源〕
Sekji 女が子供を生むとき敷く草. しとね草〔13. 生產：導草〕室内に敷く乾し草. かれ草〔29. 草四：帳房內鋪的乾草〕
Sekjingge 相當に暮し得る人. かなり

の者〔11. 富裕：還過得〕

Sekse saksa 1. 小才のきく人. 一寸出來る人〔11. 德藝：小有才幹〕 2. たかひくと. でこぼこと〔彙：高高低低不齊貌〕

— **saksa teksin akū** たかひく, でこぼこと高低が揃はない〔彙：高低不齊〕

Seksehe 人の後頭部の骨. 後頭骨〔10. 人身六：枕骨〕馬の頭蓋骨〔31. 馬四肢體一：馬腦項骨〕

Seksehun 憔悴した〔11. 容貌八：憔悴〕寒さのために顏色青白い〔13. 寒戰：凍的臉白〕

Seksen 獸の河堤の窟中などにあつて水に過ひ凍死したもの〔彙：凡獸落在河堤下衙出的窟窿裡連水凍者. 卽 Seksen i yali 也〕

Seksén banjikabi 手廻しよくやつた. 手抜かりなくやつた〔13. 愛惜：湊巧〕

— **i yali** 氷窟内に凍死した野獸の肉〔27. 飯肉三：氷窟凍住的野獸肉〕

Sekseri 箭の貫き入つた〔9. 畋獵三：箭釘住〕

Seksu 油入れ籠. 木の枝, 竹などで編んで作つた籠に目塗りをしたもの〔25. 器用八：油簍〕

Sekte 敷け〔24. 鋪蓋：鋪〕

Sektebumbi (布團などを) 敷かせる〔24. 鋪蓋：使鋪墊〕

Sektefun 坐布團. しとね〔24. 鋪蓋：坐褥〕

— **i jibsigan** 褥(しとね)の下に敷く皮や筵などの敷物〔24. 鋪蓋：褥托子〕

Sektembi (布團などを) 敷く〔24. 鋪蓋：鋪墊〕

Sektere moo 船室を閉ざす板片〔26. 船三：鎖袱〕

Sektu 怜悧な. 發明の〔10. 老少二：靈透〕〔11. 德藝：靈透〕

Sektuken 少しく怜悧な. 稍〻利口な〔10. 老少二：畧靈透〕

Selabumbi 心暢〻とさせる. 快がらせる. 喜ばせる〔13. 喜樂：使暢快〕

Selabun 易卦の名〔補1. 書一：豫〕

Selaha 心暢〻とした. 快よかつた. 悦んだ〔13. 喜樂：暢快了〕

Selambi 心暢〻とする. 快しとする. 悦ぶ〔13. 喜樂：暢快〕

Selbi 船の撐〔26. 船四：划子〕

— **noho jahūdai** 兩側に撐を裝備し非常に疾く走る船. はや船〔26. 船一：槳船〕

Selbibumbi 人を水に浮かせる. 泳がせる〔2. 地輿十二：使人浮水〕

Selbimbi 1. 人水に浮く. 泳ぐ〔2. 地輿十二：人浮水〕 2. 撐を使ふ. 船を漕ぐ〔26. 船四：使划子〕

Selbin goro 馬の大巾馳け. 大巾馳けの〔31. 馬匹馳走二：縱頭大〕

Sele 〔22. 貨財二：鐵〕

— **futa** 鐵の鎖. 輪形にして罪人の手足頸にかけ或ひは物を堅固に縛るに用ふ〔5. 刑罰一：鐵鎖〕

— **garma** 野雞野兎の類を射るに使用する鏑矢の一種〔9. 軍器五：鐵兎兒叉箭〕

— **i hosori** 鐵を打つときに落ちる鐵屑〔彙：打鐵濺落的鐵渣子〕

— **i sirge** 針がね〔彙：鐵絲〕

Selei ejen 磁石〔2. 地輿六：吸鐵石〕

— **holbokū** 柱の相合ふ所を固めるためにうつ鐵かぎ. かすがひ〔21. 室家二：鐵鉤搭〕橋に鋪く石を連結するために使用するかぎ形の鐵〔22. 工匠器用三：鐵錠〕

— **ilhangga moo** くわりんに似て色深黑なる木〔29. 樹木二：鐵梨〕

— **jušuru** 鐵を曲尺形に作り防身用に供するもの〔9. 軍器六：鐵尺〕

— **mala** 鐵の槌. げんのう〔22. 工匠器用三：鐵鎚〕

— **taimin** 爐の火焚きに用ひる鐵棒〔25. 器用五：通條〕

— **yonggan** 細身の鳥銃に裝塡する彈丸〔9. 軍器七：鐵沙子〕

Selekje ばく〔31. 獸二：貘〕

Selekten (泥草などの下の) あか水〔2. 地輿九：銹水〕

Seleme わきざし (Loho) より小形の帶刀〔9. 軍器六：順刀〕

Selengge moo 樹名. 幹葉倶に黑くて

卯の年に花開き色淡紫四瓣，數ケ月に亙つて凋まず〔29. 樹木二：鐵樹〕

Selfen 着物の前後縫ひ合はしてない所〔24. 衣服三：開騎〕

Selgiye 傳へよ．布告せよ〔彙：令傳〕

Selgiyebumbi 傳諭させる．使をはしらせる〔彙：使傳諭．使頒使〕

Selgiyembi 命令を傳へる．傳諭する．告げる〔5. 政事：傳令〕

Selgiyen 命令．傳諭．布告〔5. 政事：令〕

Selgiyere hese 皇帝の詔．詔勅〔3. 諭旨：詔〕

Selgiyesi 令を宣する官．傳令官〔補1. 古大臣官員：遣人〕〔續2. 臣宰：傳宣〕

Selhe 牛の頸の下に垂れた軟皮〔32. 牛：牛項下懸皮〕

Selhen 首かせ〔5. 刑罰二：枷〕

— **etubumbi** 首枷をはめる〔彙：枷號〕

Selmin 1. 野獣を捕へる罠の一種．形弩弓の如く野獣の行路に仕掛けて置く〔22. 打牲器用四：地弩〕 2. 機關．器械〔彙：機械之機〕

Sembi 語る．話す．…と云ふ〔18. 散語五：說的口氣〕

Seme …と．…と云ひ．…とて〔18. 散語五：語助口氣〕

Semehuken (布目の)やゝあらい〔彙：畧粗稀疎〕

Semehun 布目のあらい．目の大きい．粗末な〔23. 布帛六：粗〕

— **boso** 布目極めてあらく，夏期官人の家にて多く使用する通風の布〔23. 布帛五：冷布〕

Semejen 1. 人體の腸を被へる油〔10. 人身七：鞔肚油〕 2. 獸畜の脾臟の上に生ずる薄い油〔27. 飯肉二：膿貼油〕

Sememe 滴ゝ水を垂らし．濕らし〔18. 濕潮：蔭開〕

Semeo 豈然るか．…と言ふか〔彙：豈乎．豈哉．如云豈其然乎卽 Uttu semeo 也〕

Semerhen 1. 一心．專念．ひたすら〔18. 散語五：一心〕 2. 柳の木などを曲げ作り，ものゝ蓋とし被ひ用ふるもの〔24. 鋪蓋：弓棚〕

— **i yabumbi** 一心に行ふ．專念して行ふ〔彙：意念篤切而行之〕

Semibumbi 針の穴に絲を通させる〔24. 剪縫二：使紉針〕

Semiku 針の穴に通す絲の細いさき〔23. 絨棉：紉頭〕

Semimbi 針の穴に絲を通す〔24. 剪縫二：紉針〕

Semken 婦人の手につける金銀の環．腕環〔24. 飾用物件：手鐲〕

Semkimbi 邪推する．疑ひ猜む．疑つて考へる〔17. 猜疑：猜想〕

Semnio 星の名．とろき星〔1. 天文二：旁〕

Semsu 〔彙．與 Semsu nimenggi 同．與 Semejen 同〕

— **nimenggi** Semejen に同じ〔10. 人身七：鞔肚油〕

Sen 1. 針の穴〔彙：針鼻〕 2. 耳環を垂げるための耳朶の穿孔〔彙：耳之眼乃穿戴鉗墜者．卽 San i sen 也〕

Sence 菌類の一種．樹上に生ず，寧古塔に産するもの味最も美といふ〔27. 菜殽二：蘑菇〕

— **jinggeri** 頭部が Sence (蘑菇) の如き形の釘〔22. 工匠器用三：蘑菰釘〕

Sencehe 1. 下顎．あご〔10. 人身三：下頦〕 2. 捕鳥器に Sanciha (夾子嘴) で壓着した環竹〔22. 打牲器用三：夾子．圈〕

— **sibsihūn** あごのすぼんだ．あごのとがつた〔彙：下嗑窄〕

Senceheleku 馬の下顎にまはす轡の皮紐〔9. 鞍轡二：兜口〕

Sencetu Cuse moo i itu (竹雞) の別名〔補4. 鳥六：山菌子〕

Senciku 靴紐を通す穴．靴の紐穴〔24. 靴襪：靴子鞋的襻耳〕

Sendehen 神前に置く供物板〔6. 祭祀器用二：供神板〕

Sendejehe 刃が缺けた〔26. 裁砍：刀刃磕了〕 墻壁が缺け崩れた．堤が決壞した〔彙：凡墻崩開了缺了．河決開缺了〕

Sendejembi 堤が缺壞する．きれる〔2. 地輿十：沖決〕 缺け目が出來る

〔25. 孔裂：破成豁口〕

Sendelebumbi 缺け目をつくらせる. 缺かせる〔25. 孔裂：使刨豁口〕

Sendelembi 堀り開く. 決開する〔2. 地輿十：堀開〕缺く. 缺き割く〔25. 孔裂：刨豁口〕

Senembi 濕つた所がひろがる. 滲む〔18. 濕潮：蔓〕

Sengge 1. 年長者. 經驗者〔10. 老少一：長者〕2. はりねづみ〔31. 獸六：刺蝟〕

— **šufatu** 古昔老人の用ひた頭巾〔補1. 古冠冕三：老人巾〕

Senggele 1. 笛の舌〔樂器三：簧〕2. 弓筈と弓身との合はせ口〔9. 製造軍器二：弓弭挿口〕3. 錠の留返し〔25. 器用一：鎖簧〕4. 鳥のとさか〔30. 羽族肢體一：冠子〕5. 魚のえら〔32. 鱗甲肢體：腮〕

— **ilha** とりさかぐさ. からあき〔29. 花五：雞冠花〕

Senggelengge coko おほくひな〔補4. 鳥六：雛雞〕

— **gasha** 鳥名. 頭黑く, 頭骨突出して冠狀を呈す〔30. 鳥十：弩克呀克〕

Senggete 1. おなもみ草〔29. 草三：蒼耳子〕2. 老人達. 年長者共. Sengge の複數形〔彙：老有年的們. 老蒼頭們〕

Senggetu 奇獸の名. 樂馬山に出で蝟に似て全身火の如く紅し〔補4. 異獸四：猩〕

Senggi 〔10. 人身八：血〕

— **biljaka** 血が横流した. 血が河をなして流れた〔8. 征伐七：血水横流〕

— **cacume** 血を滴らし. 血をそゝぎ〔彙：滴血. 挿血〕

— **duha** 腸詰め〔27. 飯肉三：血腸〕

— **jugūn** 血管. 血脈〔彙：血道乃人身血道也〕

— **jun** 血管. 血脈〔10. 人身八：血道〕

— **kaksimbi** 咳血する〔彙：咳血〕

— **melmenembi** 腹内に血凝り病む〔彙：血結乃腹内血凝結成病也〕

Senggileme afambi 血戰する. 血の河を造つて戰ふ〔8. 征伐四：血戰〕

Senggime 〔11. 友悌：友愛〕〔11. 親和：親睦〕

Senggiri ilha さつき〔29. 花三：杜鵑花〕

Sengguwecembi ひたすら畏れる. たゞ恐懼する〔13. 怕懼一：只是恐懼〕

Sengguwecuke 恐る可き. 懼る可き〔12. 勇健：可懼〕〔13. 怕懼一：可懼〕

Sengguwembi 懼れる. 憚かる〔13. 怕懼一：懼〕懼れ倦む. 怠る〔17. 懶惰：發怵〕

Sengguwenderakū 憚らない. 懼れない〔彙：不憚〕

Sengguwendumbi Sengguwenumbi 一齊に恐懼する. 衆齊しく懼れる〔13. 怕懼一：一齊恐懼〕

Sengken 1. 印の提系(?)〔3. 諭旨：紐〕鐘の鈕〔7. 樂器三：鈕〕2. 釦穴〔24. 衣服四：鈕鼻〕3. 筐などの手提げ〔25. 器用七：筐繩挽扣〕

Sengkisi hiyan 祭祀の時に燒く香草の一種. Ayan hiyan に同じ〔29. 草一：芸香〕

Sengkule にら〔27. 菜穀一：韭菜〕

— **i arsun** にらの芽〔27. 菜穀一：黃芽韭〕

Sengse 懶け女〔16. 咒罵：懶婦〕

Sengsebumbi 少しく乾かさす〔18. 乾燥：使微乾〕

Sengsekebi 地の纔かに乾いた〔彙：地纔乾〕

Sengsembi 少しく乾く. 僅かに乾く〔18. 乾燥：微乾〕

Sengserebumbi 魚を窒死させる〔彙：使魚沁死〕

Sengserebume waha 水に入れて窒死させた. 溺死せしめた〔8. 征伐七：淹殺〕

Sengserekebi 水が混濁して魚が窒死した〔彙：水混了魚沁死了〕

Sengserembi めしが咽喉にかゝつてむせぶ〔27. 飲食二：噎著〕

Sengseršembi 非常に愛する. 心から喜び愛する〔13. 愛惜：很愛〕

Sengsu 山上にごろごろ轉つてゐる石〔2. 地輿六：山上活石〕

Senihun 半熟の. 生煮えの〔28. 生熟：略潮〕

Senji 銃の照尺〔9.軍器七：鎗斗〕
Sentehe 歯の缺けた〔16.殘缺：豁牙〕器物の缺けた〔彙：凡器物缺〕
Seole 思慮せよ．思ひ廻らせ〔彙：令人尋思．令人搜慮〕
Seolebumbi 思ひ廻らさす．思慮させる〔彙：使尋思．使慮〕
Seoleku 腹の小さい人．きもの小さい人〔18.鄙瑣：小算人〕
Seolembi 思慮する．思ひ廻らす〔11.性情二：思慮〕
Seolen 思慮．おもんばかり〔11.性情二：慮〕
— **be goromila** おもんばかりを遠くして．遠きを慮り〔彙：慮長遠之〕
Seoltei 野獸の名．黄羊に似て尾長きもの〔彙：野獸名似黄羊尾長者〕
Ser seme 細ゝと．小さく〔25.大小：細小〕
— **seme agambi** しよぼしよぼと雨が降る．細かい雨が降る〔1.天文五：微雨〕
— **seme ajige** 非常に小さい．極くちつぽけな〔彙：很小〕
— **seme dambi** そよそよと風が吹く．微かに風が吹く〔1.天文七：微風〕
— **sere** 細かに．極く小さく．微かに．區々たる〔彙：纖．很小．細．微．區々〕
Serben sarban うぢょうぢょと．うようよと（澤山の蟲が動いてゐる貌）〔32.蟲動：衆蟲齊動〕
Sere 1.…と云ふ．…と稱する〔18.散語五：說是〕2.うじむし〔32.蟲四：蛆〕
— **anggala** 況んや且．…のみならず〔彙：況且口氣．不但口氣〕
— **waliyambi** うじ虫を除く．うじを棄てる〔彙：下蛆〕
Serebe 抜目のない人．注意怠りない人〔17.奸邪：慣賊防〕
Serebumbi 知らす．覺らす．分らせる〔12.聆會：使知覺〕知られる．覺られる〔彙：被人知覺〕
Serebun 覺り．知ること〔12.聆會：覺〕
Serecun akū 覺りが悪い．見る目がない〔18.鈍繆：沒眼色〕
Serecungge 覺りが好い．察しがいゝ．見る目のある〔11.聰智：有眼色〕
Serehebi 知つた．覺つた．分つてゐる〔12.聆會：知覺了〕
Serehun うたゝ寢の．半眠半覺の〔15.睡臥二：似睡不睡〕
Serembi 知る．覺る．分る〔12.聆會：知覺〕
Sereme 大鹿の尾にある長さ五六寸の黄毛．此の毛を以て鞋靸等に縫ひつくれば宛も金絲を用ひたるが如くに見ゆ〔24.剪縫二：鹿尾黄毛線〕
Seremšebumbi 防護させる．防がす．護らす〔8.防守：使防護〕防がれる〔彙：被防〕
Seremšembi 防ぐ．護る．防護する〔8.防守：防護〕
Seremšeme tenere 防ぎ駐るところの．駐防に赴く〔彙：駐防〕
Serengge …といふ處のもの．…といふこと〔18.散語五：承上接下口氣〕
Serge šu ilha 花名．Tubet šu ilha（西番蓮花）に似て，鐵線の如し〔29.花二：鐵線蓮花〕
Serguwe cirku 夏期用の枕〔24.鋪蓋：凉枕〕
Serguwen 凉快な．凉しい．爽凉の〔2.時令八：凉快〕
— **edun** 〔1.天文七：凉風〕
Serguwešebumbi 凉を取らせる．凉を入れさす．凉ませる〔15.歇息：使乘凉〕
Serguwešembi 凉む．凉をとる．凉を入れる〔15.歇息：乘凉〕
Seri 稀な．まばらな〔29.樹木七：稀〕
Seriken やゝ稀な．やゝまばらの〔29.樹木七：略稀〕
Serki 軍情などを走り報ずる人〔10.人二：跑報人〕
— **feksibumbi** 勝利を報らせる．報捷の人を走らせる〔8.征伐七：報捷〕
Serkin 驛によつて遞送する上諭摺本などの類〔5.事務二：報〕
Serkingge temen 臥する時も腹は地

につかず，日に千里を行く駱駝〔31.馬匹二：明駝〕
Sersen sarsan ぶるぶると．びりびりと（顫ふ）〔15.搖動：微顫〕
— **seme** Sersen sarsan に同じ〔15.搖動：微顫〕
Seruken 1. 爽かな．心地よい〔2.時令八：凉爽〕2.〔彙：與 Seriken 同〕
Sese 1. 鷹の Dardahan（鷙板）の中央に環にして結びつけた銀銅の絲〔9.頑鷹狗：轉軸上的銅絲〕2. 金絲〔23.絨棉：金線〕
— **gecuheri** 金絲を織り込んだ一種の絹布〔彙：牙爪蟒〕
— **sasa** そそくさと（輕佻な貌）〔18.鄙瑣：輕佻〕
— **tabumbi** 金絲を縫ひつける〔24.剪縫二：綳金〕
Seseme 少しばかり．少と〔25.多寡二：少許〕
Sesengge bonio 獸名．禺の屬，其毛黃色にして金糸の如く見ゆ〔補4.獸二：金線狨〕
Seshe 振るへ．振りまけ〔彙：令抖〕
Seshebumbi 1. 甚しく厭ふ．ひどく煩はしがる〔15.憎嫌一：甚厭煩〕2. 振るはせる．振りまかせる〔彙：使抖．使撒〕
Seshecuke 厭ふ可き．煩はしい〔15.憎嫌一：可厭煩〕
Seshembi 1. 厭ふ．煩はしがる〔15.憎嫌一：厭煩〕食ふのを厭ふ．食ひたがらない〔27.飲食三：喫厭煩了〕2. 粉を撒く．ふりちらす〔22.趕拌：灑白麵〕
Sesheri 俗の．俗つぽい〔18.厭惡：俗〕
Seshetebumbi 人に拂ひ退けられる．突き退けられる〔15.責備：被抖搜〕
Seshetembi 1. 腕をまくり身を振つて人を拂ひ退ける．突き退ける〔15.責備：抖搜〕2. 馬が頭を搖る．首を振る〔31.馬匹動作二：搖頭〕
Seshun 厭はしい人間．うるさい人間〔18.厭惡：厭物〕
Sesi 料理の名．小黃米を蒸し豆麵と共に打つて細條とし油で揚げたもの〔27.綳餈三：豆麵剪子服〕
Sesilehe Hiyancilaha に同じ〔31.走獸動息：夏鹿成群〕
Sesiri 重さの單位名．Jakdu（埃）の十分の一〔22.衡量二：渺〕
Sesukiyembi 寒さにぞつとして身ぶるひする〔彙：忽寒身上發冷打冷顫抖動〕
Sesuku さいころ〔19.戲具一：骰子〕
Sesulabumbi 驚かす．驚駭さす〔彙：使驚駭〕
Sesulambi 驚く．驚き訝る．驚駭する〔13.怕懼一：驚訝〕
Seterinehebi 氷が融けて處々に孔があいた．氷に孔が出來融け出した〔2.時令九：氷化碎孔〕
Seyebumbi 人を恨ませる．人に恨まれる〔彙：令人恨．被人恨〕
Seyembi 恨を懷く．恨む〔13.怨恨：懷恨〕
Seyendumbi Seyenumbi 衆一齊に恨む．齊しく恨を懷く〔13.怨恨：一齊懷恨〕
Si 1. 字の下の空處〔7.書八：留空處〕隊と隊との間．隊伍間の隔り．Jalan si と連用する〔8.征伐一：隊伍間處〕2. 汝．お前．そなた．貴方〔18.禰我一：你〕3. 塞げ．閉ぢよ〔彙：令人塞．閉塞之閉〕
— **akū** 塞がる所無い．閉ぢてゐない〔彙：無堵塞〕
— **akū talkiyambi** 絕えま無く閃く〔彙：打閃不閉〕
— **bi seme ilgarakū** 禰我を分たない．お前，私と區別をしない〔彙：不分禰我〕
— **mini funde dangnaci ojorakū** お前が私の替りになることは出來ない．貴方が私と替るわけにはゆかない〔彙：你代替我不得〕
— **sindame yabumbi** 隊と隊との間をおいて行く．一甲喇づゝ隊伍を作つて行く〔彙：一甲喇一甲喇排隊伍走〕
— **tuwa** 一寸お前．一寸御覽．あなた．（常人夫婦の相呼ぶ言葉）〔12.喚招：你瞧〕

Sibcahabi 上がつかへて進まず復戻り回つた〔彙：上班去人已滿不進班復回了〕
Sibcambi 戻る．ひきかへす〔5.輪班行走：簡退〕
Sibcarahū 子供がズボンが下りはしまいかと恐れる〔彙：小孩子褲子穿上恐又退下〕
Sibe 1. とぐさ〔29.草三：莖草〕2. 滿洲の一部族名〔續2.地輿：錫伯〕
Sibedembi （矢柄などを）とぐさで磨く〔9.製造軍器三：莖草打磨〕
Sibehe 肋軟骨〔10.人身六：胸弦小骨〕
Sibere 糸を撚れ．捻れ〔23.紡織一：捻〕
Siberebumbi 撚らす．捻らす〔彙：使捻．使撚〕
Siberembi （麵類を）撚る．ねじる〔22.趕拌：搓餎餎條〕糸を撚る．よりをかける〔23.紡織一：捻線〕
Siberhen 燈心〔23.烟火二：撚子〕
Siberi 手足の汗〔10.人身八：手足汗〕
— **daha** 使ひ慣れた人．久しく使用した人〔11.親和：使熟了的〕使ひ慣れた物．常に手にする物〔彙：手常拿的物件〕
Sibibumbi 金銀などのものを細い糸に打ちひかす〔26.折鎚：使拔絲〕
Sibida nasan 白菜〔27.菜穀四：醃菜梗〕
Sibimbi （矢などを）手で引き抜く〔9.製造軍器三：捋箭桿〕物を指で挟んで抽く〔15.拿放：抽〕金銀などのものを細い糸にたゝきひく〔26.折鎚：拔絲〕
Sibirgan 斑點のある Cibirgan（燕類の小鳥）〔補4.雀三：麻鷐〕
Sibišambi 1.（矢を手にとつて）前後に扱しく〔9.製造軍器三：細捋箭桿〕2. 顔をそむけて盗見する〔12.觀視二：呆著臉著〕
Sibiya 1. 衣服の肩から裾にかけて斜めに縫ひつけた布片〔24.衣服三：紋子〕2. コルク栓〔29.樹木十：木塞子〕3. くじ〔彙：籤．簽〕
— **alibumbi** 籤を渡す．籤を傳へる．（見張りの兵士達に一より五までの數を彫つた木の籤棒を一個宛續へさせて巡羅巡察に出る番を決定するをいふ）〔5.巡羅：傳籤〕
— **baimbi** 神籤をひく〔19.佛二：求籤〕
— **tatambi** 籤をひく．（欠官のある場合，その官に充當資格のある官吏が籤引きして就任權を當てることをいふ）〔4.陞轉：掣籤〕
Sibiyalakū 書鉄の爪．又書畫などを直接壁に貼らず，壁に貼つた紙片に掛けるのに使用する挟みもの〔7.文學什物二：書鼈子〕
Sibiyalambi 籤をひく．籤分けする〔12.分給：掣籤〕
Sibkari 頭髪まばらで短い〔10.人身一：髪稀短〕
Sibke 鎖の頭などに通す釘〔25.器用一：穿釘〕
— **sele** 綿を糸に紬ぐために用ひる鐵製の器具，先端釘狀を爲せり．Sabka sele に同じ〔彙：紡車上的定桿〕
Sibkele 兩人してもたげよ〔21.扛擡：兩人擡〕
Sibkelebumbi 兩人してもたげさせる〔21.扛擡：使兩人擡〕
Sibkelehebi 兩人してもたげた．兩人して持ち上げてゐる〔21.扛擡：兩人擡着呢〕
Sibkelembi 兩人してもたげる．二人で持ち上げる〔21.扛擡：兩人擡着〕
Sibki 窮追せよ．究めよ〔12.詳驗：使窮究〕
Sibkibumbi 窮追させる．究めさす〔12.詳驗：使人窮究〕
Sibkimbi 詳しく究める．〔7.文學：詳究〕窮追する．窮め究める〔12.詳驗：窮究〕
Sibkūri 1. 城壁の下の水門〔19.城廓：城頭流水洞〕2. 城壁上の砲眼〔彙：城垛口砲眼〕
Sibsihūn 顔の下すぼみの〔11.容貌七：臉下窄〕（もの丶形の）下すぼみの．下細りの〔25.諸物形狀三：下細〕
— **furgi** 一方の細まつた川籠〔補1.地輿二：龍尾埽〕

Sibsika 枝の無い木の梢. 裸か木の梢〔29.樹木九：棍尖子〕人を打つのに使用する樹の末端,枝なきもの〔彙：凡打人的沒有枝兒的樹尖梢〕

Sibsikalambi (毛氈などを) 打ちはたく. 埃を叩き出す〔24.熟皮革：打毛氈物〕

Sibša 1. 斷たれて後に殘つた. 大いに落後した〔12.遲悞：很落後〕2. 大いに價の下つた. 物價甚だ下落したる〔22.貿易一：價很落〕3. 忽ちにして完了する處の〔彙：凡物忽時完了即 Sibša genehe 也〕

— **ebereke** 物價の下つた. 價の高くない〔彙：凡物價錢跌了乃賤了不貴也〕

Sibšalambi 人を外に取り出す. 取り除く〔5.寬免：開除〕

Sibumbi 塞がす. 蓋させる. つめさす. 塞がれる. 蓋される. つめられる〔26.塞決：塞住〕

Sibushūn 咽喉や鼻の塞がつた. のど鼻のつまつた〔16.殘缺：喉鼻緊塞〕

Sicaka ひゞの入つた. 割れ目の出來た〔彙：凡磁玉石等物撞微破出有紋了〕.

Sicambi 大聲に耳が震ふ〔12.聆會：震耳〕磁物にひゞが入る〔25.孔裂：磁物驚紋〕

Sidahiyambi 腕まくりする. 拳を振り上げる〔5.爭鬪一：伸拳攘袖〕

Sidan 1. 身長未だ五尺に達しない子供. 未成年者〔10.老少二：未成丁〕2. 若木. 幼木〔29.樹木六：小樹〕

— **jeku** 打穀小屋の中にこぼれた雜穀〔28.米穀二：場內落的雜糧〕

Sidarabumbi 延ばす. 展ばす. ひろげる〔18.抽展：致舒展〕〔彙：與 Sidarambumbi 同〕

Sidarakabi 遠く行き去つた〔14.行走二：走遠了〕延びた. ひろがつた〔彙：舒展了〕

Sidarambi 心のびのびとする. 心が舒びる〔13.喜樂：舒心〕延びる. ひろがる〔18.抽展：舒展〕

Sidarambumbi 〔彙：與 Sidarambi 同〕

Sidehulebumbi 門をかけさせる. 門を閉ぢさす〔21.開閉：使揷門〕

Sidehulembi 門をかける. 門を閉ぢる〔21.開閉：揷門〕

Sidehun 1. 窓の横木. 格子窓の横桟. 又門扉などの閂〔21.室家二：窓橫檔〕2. 車底の横木〔26.車轎一：車底橫樑〕3. 梯子の横桟〔彙：梯子上脚踩的橫木〕

Sidehuniembi (役人を間をあけて) 間々に用ひる〔4.陞轉：間配錄用〕間をあけて與へ又は取る〔12.落空：間隔著給與〕間をあけて置く〔22.捆堆：隔著放〕

Siden 1. 中間. 中央〔2.地輿十三：中間〕2. 證人〔5.詞訟一：干證〕〔10.人四：干証〕

— **i baibungga** 臣宰に毎月公用のため給與する銀米〔4.臣宰十四：公費〕

— **i baita** 役人の用. 役人の事務〔5.事務一：公事〕

— **i baitalan** 公務のことに使用する一切の物〔4.臣宰十四：公用〕

— **i hacin** 公用のため收藏せる物品. 官衙貯藏の物品〔4.臣宰十四：公項〕

— **i niyalma** 証人〔彙：干証. 中間人. 中人〕

— **niru** 世管佐領に對し揀選せられたる者を以て編成した佐領〔3.旗分佐領一：公中佐領〕

— **temgetu** 證書. 證文〔13.當借：中保〕

Sidengge hergen 書體の名〔7.書八：隸書〕

Siderebumbi (馬を)つながす〔31.套備馬匹：使絆馬〕

Sidereku Šakšaha (臆花) の角に着けた鐵片〔9.鞍轡二：鐵拉扯〕

Siderembi (馬を)繋ぐ〔31.套備馬匹：絆馬〕

Sidereme acilambi 相手の絞めかゝるに任せ足を相手の股にまとはして投げつける (角力の手)〔8.撩跤一：夾腿絆〕

Sideri 1. 足枷〔5.刑罰二：脚絆〕2. 足環. 足飾り〔24.飾用物件：脚鐲〕3. 馬などの脚綱. 綱を環にして逃げぬ樣に足をくゝりつけておくもの〔32.牲畜

器用二：絆〕

Siderahun 脚まとひの．脚ののびぬ〔14.行走三：腿發絆〕

Sidu weihe 犬歯〔10.人身三：虎牙〕

Sidumbi 削る．平らにする〔彙：鏟之．與 Šudumbi 同〕

Sifa maca Sumpa maca に同じ〔27.菜穀二：野韭菜〕

Sifibumbi 簪を挿させる〔24.梳粧：使戴簪〕

Sifikū 簪．かんざし〔24.飾用物件：簪子〕

Sifimbi 簪を挿す〔24.梳粧：戴簪〕

Sifiri ilha 幹細く花簪の如き奇花〔補3.異花四：山釵花〕

Sifu fulana ilha 花名．枝密に節多く葉長くして花は胭脂に似，果は沙果に似，小なるは食ふを得〔29.花二：西府海棠〕

Sifulu 膀胱〔10.人身七：尿胞〕

Sigan tembi 靄がかゝる．靄がこめる〔1.天文四：濛氣凝棄〕

Sihabumbi 敵を追跡させる．急追させる〔8.征伐六：使尾追〕

Sihakū 管樂器の一種．短笛〔7.樂器二：管〕

Sihali 臀と腰との中間の處〔10.人身五：腰眼〕

Sihambi **1.** 究問する．細究する〔5.詞訟二：究問〕敵を追跡する．急追する〔8.征伐六：尾追〕 **2.** 葉が落ちる．凋落する〔29.樹木十：凋零〕花が凋み散る〔29.花六：凋〕脱毛する〔彙：頭髮脱落之落〕

Sihan **1.** 桶（提げ手のついてゐないもの）〔25.器用六：桶子〕 **2.** 子母砲（Sihan sirabure poo）の中の子筒〔補1.軍器二：子〕くだ．つゝ．籤の筒〔彙：管子．筒子．籤筒子．與 Sigan 同〕

— **sirabure poo** 砲の一種．長さ五尺余，砲身内に子筒數個を裝塡して連發する樣仕掛けたもの〔補1.軍器二：子母砲〕

Siharakū moo 樹木の名．山谷に生じ高さ二三尺葉は桃の如く幹は淡紅色で毛が有る，葉は落ちない〔補3.樹木二：不凋木〕

Sihelebumbi （好事が）遮られる．沮止される〔18.兇惡二：好事被人攔〕沮止させる．遮ぎらす〔彙：使攔截止〕

Sihelembi （好事を）遮ぎる．沮止する．截止する〔18.兇惡二：攔人好事〕

Siheri ebci 浮肋骨〔10.人身六：軟肋〕

Sihešembi 阿る．歡心を買ふ．迎合する〔17.諛諂：逢迎〕尾を振る〔31.走獸動息：搖尾〕

Sihete 鬣や尾の毛などがまばらで短かい〔31.馬匹肢體二：鬃尾稀短〕

Sihin **1.** 簷[2]〔21.室家二：簷〕 **2.** こんもりとした樹の頂き〔29.樹木九：樹頭〕

— **den** 樹の頂き高き〔彙：樹頂高〕

— **i eyebuku** 簷と簷との接合部に仕掛けた樋〔20.墳廟：天溝〕

— **i kanggiri** 薄い瑠璃六七枚を糸に通し簷端などに吊し風に鳴らすもの〔19.戲具二：鐵馬兒〕

— **i sele** 鞍に鐙や帶皮などを留めるために打つ鉄〔9.鞍轡一：鉄攝子〕

— **i ulhun** 椽(ぐわし)の先に打ちつけた板片〔21.室家一：連簷〕

— **sele** 戸窓の錠をかける穴ある鉄片〔21.室家二：鐵老鵶嘴〕

Sihingge son 簷の椽(ぐわし)〔21.室家一：簷椽〕

Sihiya 馬牛が食ひ剰した草の根かぶ〔32.牲畜器用二：吃剩草節〕

Sihiyakū **1.** 門扉の下の Cirku moo（門枕木）に作つた穴．とぼそ〔21.室家二：門下鑿〕 **2.** 碓(ぐわし)の横木を支へる木〔21.農器：夾碓木鑿〕

Sihiyan 窓を高く大きく簷を狹くして室内を明るく造つた家〔21.室家一：軒〕

Sija 肉汁にて大いに柔かく煮こみたる肉〔27.飯肉三：肉醬〕

Sijibumbi 針の目細かに縫はせる〔24.剪縫一：使綴〕

Sijigiyan 裾と袖口とのある長い上衣．うはかけ〔24.衣服一：袍〕

Sijihūn **1.** まつすぐに（立つ）〔14.坐

立二：直站着〕2. まつすぐで融通のきかぬ．愚直の．馬鹿正直の〔18.鈍癡：直板〕

Sijihūn ilihabi まつすぐに立つた．ぬつと立つて動かない〔彙：人自白站着不動〕

Sijimbi 針の目細かに縫ふ〔24.剪縫一：緝〕

Sijin 1. 鷹の脚を繋ぐ綱につけた長い絲〔9.頑鷹狗：脚線〕2. 釣りの絲〔22.打牲器用二：釣魚線〕3. 搗いて糠を去つた米．白米〔28.米穀二：炕穀米〕

Sijirhūn まつすぐな．正直な．曲らない〔11.忠清：直〕

Sika 髭や尾の硬い毛〔31.馬西肢體二：鬃尾硬毛〕

— **foyo** 草名．草土に生じこんぎくに似て色紅し〔29.草二：塔墩莎草〕

— **hadahan** 車の長柄の先端に挿し込み立てた木〔26.車轎二：羊角榫〕

— **moo** しゆろの木〔29.樹木六：櫻棡〕

— **sorson** 牛尾の毛を以て作つた帽子の纓〔24.冠帽一：雨纓〕

Sikari Kitari の別名〔補4.獸二：帚猴〕

Sike 尿．小便〔10.人身八：尿〕

— **fulhū** 膀胱．Sifulu に同じ〔10.人身七：尿胞〕

— **onggoho** 小便づまり（馬の病氣）〔32.馬畜残疾一：尿結〕

Sikse 〔2.時令六：昨日〕

Sikseri 暮頃．夕方〔2.時令七：將晚〕

Siktan 靈藥の名．〔彙：靈丹．與 Niktan siktan 同．與 Lingdan 同〕

Sikū 矢袋の口の所の皮囊．唇と重ねて矢を挿む樣にしたもの〔9.撒袋弓靫：撒袋內襯格〕

Silan 布の名．目細かく厚く艶のある藍色の布〔23.布帛六：細藍布〕

Silba 同姓〔10.人倫二：同姓〕同名〔彙：兩人同名．與 Cilba 同〕

Silda yali （豚などの）頸の肉〔27.飯肉一：槽頭肉〕

Sile 肉汁．肉スープ〔27.飯肉四：湯〕

Silehen 鶴の別名〔補4.鳥一：鸛鶴〕

Silemidembi のろのろと行ふ．懶けてする〔17.懶惰：行事罷綏〕

Silemin 1. 長きに耐えて疲れない．耐久力のある〔8.撩跤二：耐長〕（馬などの）大いに強き〔31.馬西三：皮辣〕2. のろのろした．ぐずの〔17.懶惰：罷綏〕3. 肉の堅くて噛み切れない部分〔28.軟硬：皮〕

Silemtu 奇獸の名．常に人に就いて食を乞ひ，身は鹿に，首は猪に似た獸〔補4.異獸六：無損〕

Silenggi 1. 鼻涕．水玉．鼻玉〔1.天文六：鼻涕〕2. 口角の泡．つばき〔10.人身八：唾水〕

— **fuhešembi** 鼻が動く．鼻の玉が轉がる〔1.天文六：鼻珠蕩樣〕

— **gebkeljembi** 鼻が日に輝く．鼻の玉がきらきらとする〔1.天文六：鼻光閃灼〕

— **toktohobi** 鼻が草木に宿つた．鼻がたまつた〔1.天文六：鼻凝〕

— **wasika** 草木の含んだ鼻〔1.天文六：下鼻〕

Silenggišembi 垂涎する．羨望する〔13.愛惜：垂涎〕

Silgambi Silimbi に同じ〔8.征伐一：揀選〕

Silgasi 科擧の貢生．生員の內より良好の者を試選して副榜の品級に爲したる者〔4.臣宰十一：貢生〕

Silgimbi 1.（蜘などが）隙間をくゞる．くゞり抜ける〔32.蟲動：蜘鑽隙〕2. 祭に供へる動物を殺す場合に「殺す」(wambi) といふ語を避けて，此の語を用ひ，「殺す」といふ意味を表はす〔6.祭祀二：避諱宰牲語〕

Silgiya 漱げ．洗漱せよ〔18.洗漱：漱〕

Silgiyabumbi 漱がせる．洗はせる〔18.洗漱：使洗漱〕

Silgiyambi 漱ぐ．洗ふ．洗漱する〔18.洗漱：洗漱〕口を漱ぐ〔24.梳粧：漱口〕

Silhata 孤獨の人．友の無い人〔10.人五：孤立人〕

Silhi 膵臟〔10.人身七：膵〕

Silhidabumbi 人に嫉まれる．人に忌まれ誣ひられる〔18.兇惡二：被人嫉妬〕

Silhidambi 嫉妬する．忌む〔18.兇惡二：行嫉妬〕
Silhimbi 1.集中攻撃をする．一處に向つて衝き進む〔8.征伐四：專衝一處〕2.矢筈になる所の鉄片を矢柄に挿安する．矢筈をつける〔9.製造軍器三：安箭鐵〕
Silhingga 嫉妬の心懐く人．嫉妬深い人〔18.兇惡二：嫉妬〕
Siliha cooha 精選した兵．よりすぐりの兵〔8.兵：精兵〕
Silihi Solohi の別名．いたち〔補4.獸二：鼬〕
Silimbi 精鋭の兵を選ぶ．分別選擇する〔8.征伐一：挑選〕
Silin 精鋭の兵〔8.征伐一：精鋭〕
— **dacungga kūwaran i siden yamun** 健鋭營の事務を總承する役所〔20.部院九：健鋭營衙門〕
Siliyan dabagan 盛京海城縣所在の山名〔補1.地輿一：綿嶺〕
Silja Sija に同じ〔27.飯肉三：肉醬〕
Silkabuhabi 狡猾だ．狡くなつてゐる〔17.奸邪：油滑透了〕
Silkabumbi 用心深く備へて僥倖を求める〔彙：言人防備小心求取僥倖〕
Silkada 奸滑な人．狡猾な人間〔17.懶惰：奸滑〕
Silkan 1.狡猾な．狡い〔17.奸邪：油滑〕2.樹名．高く細く，直く堅くして枝が無い．弓，車の轅などを作るに用ひる〔29.樹木四：獨挺柞木〕
Silkari moo いちひの木〔補3.樹木二：檋木〕
Silmelehe かげ干しにした〔彙：凡物無日晒帛在晒不着處陰乾了〕
— **yali** かげ干しにした肉〔27.飯肉三：陰乾肉〕
Silmen 1.日光の届かない處．陰になつた所〔1.天文一：背陰〕2.小鳥を捕へ食ふ猛禽類の總稱〔30.鳥四：雀鷂〕
Silmengge sara 日除け傘〔25.器用二：遮日傘〕
Siltambi 云ひ抜けて怠ける．ずるくまはる〔17.懶惰：推辭〕
Siltan 寺廟の前に立てた旗杆〔19.佛一：旗杆〕船の帆柱〔26.船二：桅杆〕凡て旗杆帆柱などにする高木〔29.樹木九：桅木〕
— **i hafirakū moo** 帆柱の根基を夾む木〔26.船三：桅夾〕
— **i šurdebuku** 帆柱の上に帆を吊り上げる滑車〔26.船三：天凌象鼻〕
Silun 輕獸．天鼠．又其の皮〔31.獸五：猞猁猻〕〔24.皮革一：猞猁猻〕
Simacuka 貧乏で何程もない．うすら寒い〔13.貧乏：蕭條〕窘々として幾何もない．窘々たる〔25.多寡二：窘窘無幾〕
Simari cecike ほととぎす〔30.雀五：子規〕
Simatun cecike Simari cecike（ほととぎす）の別名〔補4.雀五：杜鵑〕
Simbe 汝を．お前を．尊臺を．貴方を〔18.爾我一：把你〕
Simbi 空處を補ふ〔5.轉班行走：補空〕塞ぐ〔26.塞決：塞〕別人に代つて行く．別人の責めを塞ぐ〔彙：代替別人去〕
Simcan hoton 滿洲の地名〔續2.地輿：析木城〕
Simebumbi （水が地を）濕らす．潤ほす〔18.濕潮：使潤〕濕らされる．潤ほはされる〔彙：被陰透〕
Simehe 水が地に滲んだ．潤ほした〔2.地輿七：水滲〕
Simelen さわ．水澤〔2.地輿二：澤〕
— **coko** 雞の一種．色黒くして黄斑あり，後趾がない〔30.鳥六：澤雞〕
— **šungkeri ilha** さわあららぎ．さわひよどり．あかまげさ〔29.花一：澤蘭〕
Simeli 貧苦の．貧しく味氣ない〔13.貧乏：冷清〕
Simelje おすめどり．みそご．ゐさぎ〔補4.鳥八：澤鷸〕
Simembi 潤ほふ．滲む．浸みる〔18.濕潮：潤〕
Simen 食物が消化して人體に廻る液〔10.人身八：液〕〔彙：與 Oori simen 同〕
— **akū** 蕭條たる．趣きのない〔彙：蕭

條. 無趣〕人出の尠い. 賑はゝない〔彙：不開熱. 筵席人少〕
Simen arambi 人をもてなす. 趣きをそへる. 樂しませる〔18.散語五：湊趣〕
— **bi** 掘りわつた地に濕りがある. 水分がある〔彙：刨掘地潮濕〕
— **gocimbuha** 寒さに耐えない. 凍え仆れた〔13.寒戰：凍僵了〕
— **niyolocuka** あぶら氣のある. 脂肪分のある. あぶらぎつた〔彙：膏脂. 脂膏〕
Simengge 繁華な. 雜踏する. 賑はふ〔11.富裕：人多熱鬧〕
Simenggi 桐の實を搾つて作つた油〔26.油畫：桐油〕
— **urangga moo** 桐の木〔29.樹木一：岡桐〕
Simenggile 油を塗れ〔26.油畫：油〕
Simenggilebumbi 油を塗らせる〔26.油畫：使上油〕
Simenggilehe wadan 絹布に油を塗り雨時に使用するもの. 雨合羽〔24.鋪蓋：油單〕
Simenggilembi 油を塗る. 油をひく〔26.油畫：上油〕
Simhulere efin 酒席の賭け遊び. 兩人互ひに手の指を出し, 各自の出した手指の總數を計つて酒賭ける遊び〔19.賭戲：謎拳〕
Simhun 手の指. 足の指〔10.人身四：指〕
— **sehei siheri ebci be jafaha** 一歩進んで又一歩進んだ. 贏ち得て更に又求めた. 一歩一歩進んだ〔18.散語五：得一步進一步〕
Simhuri 1. 奇果の名. 形指に似て長さ三寸, 六月熟す, 熱湯を以て核を去り, 鹽漬けとして食ふ〔補3.異樣果品二：前樹子〕 2. 爾雅に見える奇獸の名. 足指甚だ多し〔補4.異獸七：閼洩〕
Simibumbi 衙へさす. 衙へられる〔彙：使衙. 被衙〕
Simikte 形色猫の眼の如き寶石. 裝飾に用ひる〔22.貨財一：猫睛〕
Simimbi 衙へる. 衙へ取る〔27.飲食二：衙〕
Simiya bira 瀋陽の近くを流れる河の名〔補1.地輿一：瀋河〕
Simiyan hoton 滿洲の地名〔續2.地輿：瀋陽〕
Simne 文武官の優劣を試驗せよ〔4.考選：考〕
Simnebumbi 文武官の優劣を試驗させる. 文武官を辨別選擇させる〔4.考選：使考試〕
Simnehe silgasi 十二年一度, 生員を考選して貢生と爲せる者〔4.臣宰十一：拔貢〕
Simnembi 文武官の優劣を考選する. 試驗選擇する〔4.考選：考試〕 Ambarame simnembi に同じ〔彙：大計〕
Simnendumbi Simnenumbi 衆人して考選を行ふ〔4.考選：一齊考試〕
Simnenembi 文武官の考選に行く. 行つて考選する〔4.考選：去考試〕
Simnenjimbi 文武官の考選に來る. 來て考選する〔4.考選：來考試〕
Simnere baitai kunggeri 地方諸省の學事を統べ, 生員中一定の資格ある者を國子監に貢送する等の事務を掌る役所. 禮部に屬す〔補2.衙署二：學政科〕
— **be kadalara kunggeri** 順天府の考武舉武秀才等に關することを掌る役所〔補2.衙署三：督學科〕
— **boo** 科舉の時受驗者の居る所の號舍〔20.部院十：號房〕
— **bukdarun** 科舉受驗者の書いた答案. このうち書式に適つたものが所謂墨卷として取り扱はれる〔7.書六：試卷〕
— **hafan** 科舉考試のことに從事する官〔4.臣宰十：考試官〕
— **kūwaran** 貢士を考選する處〔20.部院十：貢院〕
— **kūwaran i baita be uheri kadalara hafan** 貢院内の一切事務を總管する官〔4.臣宰十：知貢舉〕
Simnesi 貢舉に應試する秀才〔4.臣宰十一：童生〕
Simori 南方七宿星の第四宿星〔1.天文

二：星〕

Simten 食物の味．Amtan に同じ．Amtan simten と連用する〔28.滋味：味〕

Simtu 鉄製の大鍋〔25.器用四：大鐵鍋〕

Simun dabagan 滿洲開平縣の近くに在る山の名〔補1.地輿一：石門嶺〕

Sin 一斗八升を量る桝〔22.衡量一：金斗〕

— **jeku jetere aha** 管領に仕へて扶持米を得てゐる下人〔3.旗分佐領一：管領下食口糧人〕

Sinagalambi 喪に服する．服喪する〔6.喪服一：丁憂〕

Sinagan 喪に服すること．喪中にあること〔6.喪服一：喪服〕

Sinahi 白衣麻帶の喪の服裝．喪服〔6.喪服一：孝衣〕

— **hūwaitambi** 喪裝する．喪服を着用する〔彙：穿孝〕

Sinahilambi 喪の服裝をする．喪衣を着る〔6.喪服一：穿孝〕

Sinci お前から．お前より．貴方から．貴方よりも〔18.爾我一：比你〕

Sinda 放せ．置け〔15.拿放：放下〕

Sindabumbi 1. 放させる．置かせる〔15.拿放：使放〕放たれる．置かれる〔彙：被放〕2. 葬らせる〔彙：使葬〕

Sindambi 1. 官につける．役を授ける〔4.陞轉：補授〕放つ．置く〔15.拿放：放〕釋放する〔5.寬免：釋放〕〔8.征伐八：釋放〕2. 葬むる〔彙：葬〕

Sinde 貴方に．汝に．〔18.爾我一：在你〕

Sindu ilha 奇花の名．幹曲繞して枝端に葉を生じ，葉の上更に蕾を生じ一蕾數朶の花を開く，七瓣にして色深紫，三年に一回開く〔補3.異花三：仙都花〕

Sindubi 東方七宿中の第五宿〔1.天文二：心〕

Singgebumbi 能く會得させる．〔7.文教：使融會〕自分の内に入らせる．己れのものとさせる．身につかせる〔12.取與：使入己〕滲み込ませる．滲ませる〔18.濕潮：使滲〕消化させる〔彙：使消化〕

Singgehūn 奇獸の名．Singgetu (徂如) に似て犀は犬の鳴くに似たり〔補4.異獸四：獃鼠〕

Singgeku 膽臟，胃，大腸，小腸，膀胱，三焦の六腑．はらわた〔10.人身七：腑〕

Singgembi 己に入る．己のものとなる．身につく〔12.取與：入己〕滲み込む．滲む〔18.濕潮：滲〕消化する〔27.飯食三：消化〕

Singgeri ねずみ〔31.獸七：鼠〕(十二支の)子〔2.時令一：子〕

— **biya** 子の月．十一月〔補1.時令一：辜〕

— **huhun** 瘤．たんこぶ〔11.容貌一：米口袋〕

— **šan** 野菜の名．田に生じ，葉は煙草の葉に似て他の野菜よりも早く發芽す〔27.菜穀二：鼠耳菜〕

— **yoo** 頸の廻りに出來る腫物〔16.瘡膿一：鼠瘡〕

Singgeringge aniya 子の年〔補1.時令一：困敦〕

Singgešu かやぐき〔補4.雀二：鶺母〕

Singgetei 永く己れのものとして．永遠に自己のものとし〔12.取與：永遠入己〕

Singgetu 奇獸の名．倚帝山に出づ，耳と口白し〔補4.異獸四：狙如〕

Singgirambi 惡き心を懷く．人を陷し入れようとする〔18.兇惡二：使黑心〕

Singgiyambi 1. 箭を腰帶に挾み込む．箭を手挾む〔8.步射一：挾箭〕2. 痺れる様に痛む．酷く痛む〔16.疼痛一：酸疼〕

Singgiyame ashabi 箭を腰帶の内に挿し挾んでゐる〔彙：箭插在腰間帶子裡〕

Singkeyen 曇つて小寒い．影つて冷え冷えとする〔2.時令八：陰涼〕

Sini お前の．貴方の〔18.爾我一：你的〕

Siningge 貴方のもの．汝のもの〔18.爾我一：是你的〕

Siowan 樂器の名．つな笛〔彙：塤樂器土做有五眼而圓者乃八音之一〕

Sir seme びりびりと (手足が痺れる)〔16.疼痛二：微麻〕

Sir seme fungke びりびりと手足が痺れた〔彙：手足麻木〕
— **siyar** さらさらと（樹や草の葉が風に音する）〔14.聲響四：樹葉草稍聲〕そはそはと．ちくちくと（心の動くのが面に表はれる貌）〔16.疼痛一：心口跳動〕
Sira 鳥類の踝蹠骨〔30.羽族肢體二：腿梃〕下腿骨〔31.馬匹肢體一：腿梃骨〕
— **den** 脚の高い〔彙：凡物脚高〕
— **moo** 樹名．帝林に生ずる蘚類の木．老人の杖とする〔29.樹木五：山枸柰〕
Sirabumbi 承襲させる．繼がせる〔4.陞轉：使承襲〕
Siraca 朽ちた木の内部の黄色になつたもの〔26.油畫：柞木朽黄〕
Sirakū 頭髪短いものが添へ用ふる義毛．げたぼ．添へ毛〔24.飾用物件：假髪〕
Sirambi 承襲する．繼ぐ〔4.陞轉：承襲〕接續する．繼ぎ合はす．繼ぎ足す〔26.拴結：接續〕
Sirame baita icihiyara janggin 前鋒統領護軍統領に次ぎ一營のことを總管する官〔4.臣宰九：續辦事章京〕
— **banjibun** 續編（宋元通鑑綱目を指す）〔續2.書：續編〕
— **eniye**〔10.人倫一：繼母〕
— **hafan** 司業（Ilhi tacibure hafan）の次の官〔4.臣宰五：監丞〕
— **hafan i tinggin** 贊禮郎等の官を補選し祭祀に衆官を出す等のことを承辦する官署．太常寺に屬する〔20.部院六：寺丞廳〕
— **jalahi jui** 從兄弟の子〔10.人倫二：堂姪〕
— **kadalara amban** 宗人府の官人．宗令（Ilii kadalara amban）の次の官．この職官は王貝勒等の兼ぬるものとなつてゐる〔4.臣宰一：宗正〕
Siramengge 接續するもの．繼ぐもの〔彙：接續的．繼的〕
Siran siran i 陸續と．繼ぎ繼いで〔12.取送：陸續〕
Siranduhai 相繼いで．つぎつぎに〔15.急忙：相繼〕
Sirara hafan〔彙：世襲官〕
— **hafan i tacikū** 世襲官の子に滿洲語武藝等を教へる學堂．世襲官の養成所〔20.部院十二：幼官學〕
Sirasha 奇果の名．形哈蝌の如くにして味は核桃に似たり〔補3.異樣果品一：蔓胡桃〕
Sirata saksaha 鳥名．水鴞鵲（Niyo saksaha）の別名〔補4.鳥八：長脚堰〕
Sirbašambi 1.我慢し切れないで焦る．忍耐力なくして焦る〔17.懦弱二：强扎撑〕2.（犬などが）尾を振る〔31.走獸動息：擺尾〕
Sirbe wehe cinuhūn 雲南地方の山中に産し藥を加へて彩色に用ひる鐵物〔22.貨財二：箭頭砂〕
Sirdan 鋭利な兩刃の鏃を具へた箭．戰陣用の箭〔9.軍器五：梅針箭〕
— **juhe** 春解け初めた氷の氷柱狀をなせるもの〔2.時令九：氷化成凌〕
— **sele** 刀の鞘の上に付けた二つの穴のある鉄〔9.製造軍器四：鞘上雙眼束梁〕
Sirebumbi（糸などを）撚らせる〔彙：使搓線絨等物〕
Sirebun 詩歌の一體．麗人行，兵車行等の行〔7.書二：行〕
Sirecu 奇果の名．藤蔓に出來，形は小葡萄に似たり〔補3.異樣果品四：藤核子〕
Sirembi 絲を撚る〔彙：搓之．搓線絲之搓〕
Siremi 麻を紡ぐこと．麻を撚ること〔23.紡織一：績麻〕
Siren 瓜の蔓〔28.果品四：瓜蔓〕いと．ひも〔彙：引線．線〕
— **faitambi** 病重りし病人の身體に纏付した紙人形の糸を斷ち切る．命拾ひの咒〔19.醫治：剪命索〕
— **futa** 索繩．神に柳木を供へるとき各色の旛を繩につけ其一端を柳の木に他の一端を供神の閣板に近く結びつける繩〔6.祭祀器用二：換索繩〕
— **siren** 緜々と．續いて〔彙：緜緜〕
— **sudala** 線脈．脈系．系線〔彙：關脈〕
— **waliyame asu arambi** 糸を吐き出して網を作る（蜘蛛のことを云ふ）〔彙：牽絲結網乃言蜘蛛也〕

Sirendumbi 密かに探りの手を入れる〔彙：關節．徒內轉達暗地交通央求煩托〕
Sirenehe mailan としさるのおがせ．ねなしかづら〔29.草三．兎絲草〕
Sirenembi しきりに聲がする．絕えず聲く〔14.聲響一：聲聲接連〕
Sirenere dalan 普通の堤よりも狹くて長い堤〔補1.地輿二：纏堤〕
Sirengge modan ilha てつせん．かざぐるま草．とけいさう〔29.花二：纏枝牡丹〕
Sirentu moo 榕樹〔補3.異木：榕〕
Sirentumbi 密かに聞かうとして行く．密告を求め行く．探りの手を入れる．手掛りを求める〔5.詞訟二：通線索〕
Siresi 仲介者．周旋人〔10.人四：緯手〕
Sirga 1. のろ．くじか〔31.獸三：麞〕 2. 白毛に黃斑混りの馬〔31.馬匹毛片：銀合馬〕
— **i sukū** のろの皮〔彙：獐子皮〕
— **kūwaran** 苑に垣を圍らし獸畜を養ふ所〔彙：海子．囿〕
Sirgatu 鹿に似て小さく色黃白の獸〔31.獸三：麞〕
Sirge 樂器の絃〔7.樂器三：絃〕凡て繭から取つた糸〔23.絨棉：絲〕(肉の)すじ〔27.飯肉二：一條〕
— **folonggo** 五色の絹糸で織つた布〔補2.布帛：剡絲〕
Sirgelembi 牲畜の肋骨を一本一本に切り斷つ〔28.剝割一：劈肋條〕
Sirgengge coko 雞の一種．羽毛，絲の如く細いが故に此の名がある〔31.諸畜三：絲毛雞〕
Sirgeri 絹織物．絹布〔23.布帛三：紡絲〕
— **fisa** 背に白毛のあるうづら〔補4.雀二：背劍〕
— **uju** 頭に白毛のあるうづら〔補4.雀二：插花〕
Sirgetu gasha しらさぎの別名．頭上の長き絲の如き羽毛あるに由つて此の名あり〔補4.鳥二：帶絲禽〕
Sirhacin 牝の羊〔31.獸四：母黃羊〕
Siri 1. 水を絞り出せ〔18.洗濾：擠〕 2. 鯉の仔．幼鯉〔32.河魚一：鯉魚拐子〕
Siribumbi 隱情を暴き出される〔5.詞訟一：被究隱情〕水を絞り出させる〔18.洗濾：使擠水〕膿を絞り出させる〔19.醫治：使擠膿〕
Sirimbi 水を絞り出す〔18.洗濾：擠水〕膿を絞り出す〔19.醫治：擠膿〕
Sirin 純銅．銅．ぢがね〔彙：生銅〕
— **moro** 銅の碗〔25.器用三：銅碗〕
— **saifi** 銅の匙〔25.器用三：銅匙〕
Sirke 1. 病氣の大いに長引いた〔16.疼痛三：延纏〕 2. 決して止まない．頻りの〔17.淫黷：黷〕
Sirkedembi 決して止めない．頻りと貪る〔17.淫黷：貪黷〕
Sirkedeme agambi 幾日も雨が降り續ける．止まずに降る〔1.天文五：連陰雨〕
Sirsi 奇獸の名．極北絕域の先，民山に出で，熊に似て色白し〔補4.異獸五：猎猎〕
Sirsing しやうじやう〔31.獸五：猩猩〕
Sisa あづき(紅白二種あり)〔28.米穀二：小豆〕
— **do** あづきの餡．餡豆〔彙：豆餡子〕
— **ufa** あづき粉(洗顏料)．洗ひ粉〔24.飾用物件：豆麵〕
— **wehe** 脆弱な石〔2.地輿六：麵石〕
Sisabumbi (水などを)そそぎ出す．零す〔28.澆潑：致於漉出〕
Sisambi (水などが)そそぎ出る．零れる〔28.澆潑：漉出〕
Sisebumbi 1. あら縫ひをさせる．ざつと縫はせる〔24.剪縫一：使綳〕 2. 篩はせる〔彙：使篩籮篩之〕
Sisehen 長い絹絲〔彙：綛〕
Siseku 篩(ふるひ)．ふるし〔21.農器：篩羅〕
Sisembi 1. 篩ふ．篩ひわける〔21.碾磨：篩〕 2. あら縫ひする．ざつと縫ふ〔24.剪縫一：綳〕
Siseme arambi ざつと書く．あらましの下書きをつくる〔彙：寫粗稿〕
Sisetembi 略ゝ事を辨ずる．大略事を定める〔5.辦事一：約略辦理〕あら書きを作る．草稿を作る〔7.書七：起荒藁〕

Siseteme bodombi 大略見積る．大略の見當をつける〔26.營造：料估〕
— **bodoro falgangga** 各處より報告し來たる各種の工作事に對し，其の大體の見積りを作り，必要とする材料銀糧等の支給高を決定する等の事務を司る官署．工部に屬す〔20.部院五：料估所〕
— **gisurembi** 略ゝ定つて話す．大略のところを言ふ〔彙：粗舉大概定而言之〕
Sishe 褥(しとね)〔24.鋪蓋：褥〕
Sisi はしばみの實〔28.果品二：榛子〕
— **jan** 箭の一種．鏃(骨角製のもの)は榛の實より較ゝ大きく三個の圓き穴を彫れり〔9.軍器四：榛子哨箭〕
— **megu** 榛の木に生ずる一種の菌．淡黄色にして小さし〔彙：小蘑菇乃淡黄色者生於生榛子去處蘑菇中此很小〕
— **niru** 箭の一種．鏃(鉄製のもの)は榛の實より較ゝ大きく三つの圓孔を彫れり〔9.軍器四：榛子哨披箭〕
— **sence** 菌の一種．はしばみだけ〔27.菜殽二：榛蘑〕
— **šaša** ぶるぶる．ぞくぞく(寒さに戰く)〔13.寒戰：寒戰樣〕
Sisimbi (矢袋に矢を)挿しはさむ．挿し込む〔9.製造軍器三：挿撒袋〕(咽喉にまで飯を)押し込む〔27.飯食三：攘塞〕
Sisin 無茶食ひ．詰めこみ〔27.飲食三：攘塞的多〕
Sisingga Sisin に同じ〔27.飲食三：攘塞的多〕
— **huwejehen** 屏風．衝立〔26.間隔：挿屏〕
Sisiri 奇果の名．西域産の榛の實〔補3.異樣果品二：胡榛子〕
Sisuhu みさご〔30.鳥五：鶚〕
Siša 1. 巫人の腰に帶ぶる鈴〔6.祭祀器用二：腰鈴〕2. 帽子に挿す孔雀の羽〔24.冠帽：領管〕3. 燒酎を造り終つたそのあとに取る酒．此の酒は甚だ淡し〔27.茶酒：酒稍子〕
— **arki** Siša に同じ〔彙：頭燒酒取了尾遲的酒此酒狠淡〕
— **sele** 馬のむながひ．胸懸．鞅〔彙：馬踢胷釘紅纓的事件〕
Sišambi 蛆がつく．蛆がたかる〔32.蟲動：蛆拱〕
Sišanahabi 氷柱が垂れ下つた〔1.天文六：蒼凌〕
Sišanambi 凍つて氷柱と成る．氷柱になつて垂れる〔彙：凍氷凌錐〕
Sišantumbi 死後七日經て其の次の日に祭りをする．復墳する〔6.喪服二：上墳次日祭〕
Sišargan 小鳥の名．Fiyabkū (穿草鵲)に似て，胸藍色に腰青く花紋あり，群飛す〔30.雀四：麻雀〕
Sišari からむし〔23.絨棉：苧麻〕
— **cecike** 小鳥の名．嘴淡紅黄色にして兩頰に白毛あり，尾は淡紅褐色にて白毛を雜ふ〔30.雀六：麻葉雀〕
Sita 1. こと．つとめ．事務〔5.事務一：事〕2. Si tuwa に同じ．夫婦相呼ぶ聲〔12.喚招：你瞧〕
Sitabumbi 遲れる．落後する〔12.遲悞：至於遲〕
Sitahūn 寡い．寡少の〔13.貧乏：寡少〕寡人などいふ場合の寡に當る言葉〔彙：古諸侯自稱寡人之寡〕
— **niyalma** 寡人(諸侯の自稱)〔彙：寡人乃古諸侯自稱〕
Sitambi 遲れる．遲延する〔12.遲悞：遲〕
Sitashūn 1. 生活窮苦なる．貧しく苦しい〔13.貧乏：清苦〕2. 遲い．緩慢の〔17.懦弱二：遲慢〕
Site 小便せよ．放尿せよ〔彙：使撒尿〕
Siteku 床炕に小便を垂れる小供．小便垂れ〔10.老少二：尿精〕
— **umiyaha** 蟲の名．色黒く殻硬くして翅あり，人の手上に在つて放尿し泡を起す〔32.蟲一：蝤蟲〕
Sitembi 小便する．放尿する〔10.人身八：出小恭〕
Sithen 書信文書を容れる黄色の小匣．文匣〔5.事務二：報匣〕はこ．かご〔25.器用一：匣子〕
Sithūmbi 心を專らにする．專心する〔7.文學：專心〕志を篤くする〔12.圖

勉：篤志〕
Sithūme deribuhe 發憤した．發憤興起した．〔彙：發憤〕
Situhabi 馬が已に成長して力量充分な〔32.牧養二：已出長了〕
Situmbi (子供が)漸漸と成長する〔10.老少二：漸漸長〕(馬畜が)成長する〔32.牧養二：出長了〕
Situme genembi 小兒が漸漸成長し行く〔彙：小孩子漸漸長大了．與 Sutuhabi 同〕
Siyan 細かい．細い〔彙：纖塵渺之纖〕
Siyanceo 絹布の一種〔彙：線紬〕
Siyoo 硝石．硝鑛〔彙：硝〕
So 1. 撒き散らせ〔15.擲撒：撒去〕2. 怪徴のある．怪しげな．怪惡な〔19.鬼怪：怪徴〕
— **joriha** 怪徴の見はれた．不祥の兆ある〔19.鬼怪：不祥兆〕
Sobonio 猴の屬．毛淡黃紅色にして非常に長し〔31.獸五：狨〕
Sobori 牲畜の四蹄中色異る一蹄〔31.馬匹毛片：弧蹄〕
Soboro 淡い黃綠色〔23.采色一：秋香色〕
Soca 天を祀るとき撒き散らす米〔6.祭祀二：還愿撒的米〕
Socili niyehe 野鴨の一種．鴨よりは小さく鴛鴦よりは大きく，尾の先に小白花紋あり〔30.鳥八：小尾鴨〕
Soco orho 草名．山野に生じ馬牛に食はす〔29.草一：羊草〕
Sofidambi (馬が)ぢつと立ち止つてゐない．只管動く〔31.馬匹動作一：站立不定〕
Sofin 暴れ馬．ぢやぢや馬．馬の暴れる．靜かでない〔31.馬匹三：馬喘氣〕
— **akū** 落着きのない．そはそはとした．猖狂の〔17.輕狂：無坐性〕
Sofintu 奇獸の名．豫次山に出で禺に似て臂長くよく石を抛つ〔補4.異獸一：玃〕
Soforo 鞍に着せる皮敷き．鞍掛け．緞絹にて作つたのもある〔9.鞍轡一：鞍座子〕
Sogi 蔬菜類．菜類．なつば〔27.菜穀一：菜蔬〕
Sogiya 痘瘡．天然痘〔16.瘡膿二：花兒〕
Sohin eyembi 秋の氷が一片又一片と流れる〔2.時令九：流澌〕
— **gūlha** 先の圓い靴〔24.靴襪：皂靴〕
Soho 野菜の名．葉長くして白く，花は黃色い，味甜し〔27.菜穀三：甜醬菜〕
Sohoci 奇果の名．大きさ指位〔補3.異樣果品三：多感子〕
Sohoco おひかわ．あかめの類〔32.海魚二：鮣魚〕
Sohohori 純淡黃色．純淡黃色の〔彙：純黃黃的色〕
Sohohūri 眞黃色．まつ黃色の〔23.采色一：焦黃〕
Sohokoliyan 淡黃色．淡黃色の〔23.采色一：黃黃的〕
Sohokon 淡い黃綠色．淡黃綠の〔23.采色一：黃香色〕
Sohon 1. 黃綠色．黃綠色の．葵色の〔23.采色一：葵黃〕2. 十干の己．つちのと〔2.時令一：己〕
— **cecike** うぐひすの別名〔補4.雀二：黃鳥〕
— **hionghioi cecike** うぐひすの別名〔補4.雀二：黃白勞〕
— **hoohan** あをさぎの別名〔補4.鳥三：黃翰〕
— **moo** つげの木〔29.樹木二：黃楊木〕
— **saksaha damin** わしの一種．羽全體に亙つて淡黃色の斑紋あるもの〔補4.鳥三：淡黃接白鵰〕
— **tashari** 鳥名．鸛に似，麥の黃熟する時分には常に田邊に遊ぶ〔30.鳥二：麥黃鷺〕
— **temgetungge gu** 祭祀禮樂に用ひる玉器の名〔6.祭祀器用一：珪〕
Soiho 鳥の尾の先．鳥の尾端〔30.羽族肢體二：鳥尾椿〕
Soikara weijun 鸛の別名．尾毛黑きが故に漢名「黑尻」といふ〔補4.鳥二：黑尻〕
Soilo 馬，騾驢等の踵に生えてゐる長い毛〔31.馬匹肢體二：七寸子毛〕
Soilombi 筍が的に中つて高く跳ね去る

〔8.步射二：箭中冒起〕（鳥などが）高く飛ぶ．飛び騰る〔30.飛禽動息二：飛騰〕

Soison りす〔31.獸六：松鼠〕

Sokji 水藻．藻草〔29.草三：水藻〕

Soko 家に祭る神〔19.神：神祇〕

Soksimbi 嗚咽する．聲を呑んで泣く〔13.哭泣：吞聲哭〕

Sokso saksa 騎馬の亂顚怒走する貌〔14.行走四：騎驟馬怒去〕

Soksohon 惱悶して獨り坐り或は立つてゐる貌．思ひ惱んで．むつつりと〔14.坐立一：惱悶坐立樣〕

Soksohori 大勢安坐して．衆人高坐して〔14.坐立一：衆人安坐〕

Soksori 忽ち．忽然と〔14.坐立二：忽站忽出〕

Soktobumbi 醉はせる〔27.飲食四：使醉〕

Soktokū 酒飲み．上戸〔27.飲食四：貪酒人〕

Soktombi 醉ふ．酒がまはる〔27.飲食四：醉〕

Solambi 妻を娶らんがために書信を遣はす．親しくせんことをはかる〔6.筵宴：打聽親事〕

Solbi 弓に矢を番へよ〔彙：令搭箭扣〕

Solbimbi 弓に矢を番へる〔8.步射一：搭扣〕

Solha 飯を盛る器．蓋あり，金銀錫等にて作る〔25.器用三：湯飯罐〕

Solho 朝鮮人．朝鮮〔10.人一：高麗〕

— **bing** 蜜と麵とを混ぜ胡麻油で炒めた團子〔彙：蜜和麵蘇油扎的麵餅〕

— **boso** 朝鮮產の布〔23.布帛五：高麗布〕

— **efen** 蜜と麵とを混じ胡麻油で炒めた團子．Solho bing に同じ〔27.餑餑一：高麗餅〕

— **gurun i kuren** 朝鮮の使臣の宿所〔20.部院十一：高麗館〕

— **hara** たむらさう．みそはぎ〔29.草一：鼠尾草〕

— **hengke** 綠色の朝鮮瓜．朝鮮まつか〔28.果品四：高麗香瓜〕

— **hoošan** 朝鮮使臣貢獻の紙．大いに強靱な紙〔7.文學什物一：高麗紙〕

— **leke** 蜜と麵とを混じて油揚げした麵〔27.餑餑二：高麗扁條〕

— **niru** 投降して來た朝鮮人を以て編成した佐領〔3.旗分佐領一：高麗佐領〕

— **yeye handu bele** 朝鮮產のもち米〔彙：高麗糯米〕

Soli 招待せよ〔6.筵宴：請〕

Solibumbi 招待させる．宴に招かせる〔6.筵宴：使請〕

Solimbi 人を招待する．宴に招く〔6.筵宴：請人〕

Solin cecike てうせんうぐひすの別名〔補4.雀二：黃袍〕

Solinambi 招待に行く．行つて招待する〔6.筵宴：去請〕

Solinjimbi 招待に來る．來て招待する〔6.筵宴：來請〕

Solmin 睫毛．まつげ〔10.人身二：眼睫毛〕毛のさき〔31.馬四肢體二：毛梢〕

Solo 人蔘のひげ．細根．鬚根〔29.草一：參鬚〕

Solohi いたち．おじぎねずみ〔31.獸六：鼬鼠〕いたち．おじぎねずみの皮．この皮は染めて帽子に作る〔24.皮革一：鼬鼠皮〕

Solombi 流れに溯つて航行する．溯航する〔26.船四：逆流上〕

Solon 滿洲族の一部族の名〔續2.地輿：索倫〕

— **jan** 箭の一種．Golmin jan（長哨箭）より較〻小さく，鏃は略〻圓くして下八角形をなし四方に孔あり〔9.軍器四：索倫長披哨箭〕

— **majan** 箭の一種．鏃は普通の狩り箭の鏃よりも窄く長い．熊，猪等を射るのに用ひるが戰時にも亦使用する〔9.軍器五：索倫長披箭〕

Sombi 撒く．撒き散らす〔15.擲撒：撒〕

Some gabtambi 箭を亂射亂發する〔8.步射一：亂射〕

Somi 藏ᵏᵘ へ．隱せ〔16.逃避：藏〕

Somibumbi 藏ᵏᵘはせる．隱させる〔16.逃避：使藏躲〕

Somiha saisa 隠遁の士. 隠居人〔10. 人一：隠士〕
Somimbi 1. 藏ふ. 隠す〔16. 逃避：藏躲〕 2. 埋葬する〔6. 喪服一：葬埋〕
Somina orho 草名. 蘆荻の生ぜる窪地に混り生え, 牛馬の好んで食ふ草〔29. 草二：藏〕
Somindumbi Sominumbi 一齊に藏ふ. 各自齊しく隠す〔16. 逃避：齊藏躲〕
Somishūn 隠れた. 顯るゝことなき. 人に知られない〔14. 隠顯：隠〕
— **cooha** 奇襲の兵〔8. 兵：奇兵〕
Somitambi 悄々として避け隠れる. 人の見んことを恐れて隠れ避ける〔16. 逃避：藏藏躲躲〕
Somnio 奇獣の名. 猴よりも大きく尾長く目が赤い〔補4. 異獣一：禹〕
Somo 天に誓ひ祈る時に立てる神杆〔6. 祭祀器用二：還願神杆〕
Son 椽(たるき)〔21. 室家一：椽子〕帳房の上の横木〔24. 氈屋帳房：椽子〕
— **son** ちりぢり. ばらばら〔8. 征伐六：星散貌〕
— **son i** ちりぢりに. ばらばらで〔彙：零碎. 分崩離析. 賊敗棄鞋棄胡散之貌〕
Sonahabi (手足に) 胼胝(たこ)の出來た〔16. 腫腫：成了腦子〕
Sonambi (手足に) 胼胝(たこ)が出來る〔16. 腫腫：起腦子〕
Soncoho 1. 弓管の尖端. 木, 角などで作り弦を掛ける所〔9. 製造軍器二：弭頭〕 2. 辮髪〔10. 人身一：辮子〕
— **biya** 奇數の月. 即ち一, 三, 五, 七, 九, 十一の各月〔2. 時令五：單月〕
— **cecike** 鳥名. 嘴長く頭黒く頭上に長い黒毛あつて辮髪狀を呈す. 故にこの名あり〔30. 雀五：三和尚〕
— **futa** 投げ網の中央に結びわたした繩〔22. 打牲器用一：旋網頂繩〕
— **hūwalambi** 髪を解く. (女子出嫁の際髪を解くことをいふ)〔彙：分頭乃女子出嫁時分頭也〕
— **hūwalame holboho** 髪解き結び合した〔彙：結髪夫妻之結髪〕
— **isambi** 辮髪を編む〔彙：編辮子〕
— **mutukū** 草の名. 岩上屋上等に生ずる常綠の草で味は酸い〔29. 草四：瓦松塔〕
— **šukumbi** 弓に Soncoho (弭頭) を膠着する〔9. 製造軍器一：安弓角弭〕
Songgiha 1. 弓袋, 矢袋等につけた紐飾り〔9. 撒袋弓靫：編蝙飾件〕 2. 鼻梁. 鼻柱〔10. 人身二：鼻樑〕 3. 罠の舌を支へる小木片〔22. 打牲器用三：夾子支棍〕 4. 牛駝の鼻に掛ける小さい曲り木〔彙：牛駝鼻尖掛的小彎木〕
Songgina 野生の葱. 形普通の葱の如くにして, 山や岡の寒所に生ず〔27. 菜穀二：野葱〕
Songgobumbi 慟哭させる. 泣かせる〔13. 哭泣：使哭〕
Songgocombi 衆人一齊に哭する. 共々に泣く〔13. 哭泣：齊哭〕
Songgombi 哭する. 泣く〔13. 哭泣：哭〕鳥が鳴く〔14. 聲響六：水鴻鳥鳴〕
Songgome fame 互に泣いて泣いて (離別に忍びぬ)〔13. 哭泣：哭哭喊喊的〕〔彙：與 Songgoro fancara 同〕
Songgotu よく泣く子供. 泣き蟲〔10. 老少二：青哭〕
Songko 同樣の. 似た所の〔25. 同異：照樣〕跡. 迹. 轍〔彙：同跡. 轍. 跡. 踐迹之迹〕
— **benembi** 跡を示す. 敵の近づき來れるとき先づ兵を遣はしてこれを禦ぎ, 敵をして我兵の已に到れるを知らしめ處々に來往行走して退き回り來たるを云ふ〔8. 征伐二：蹤踪〕
— **faitambi** (獣の) 踪(あと)を尋ねる. 踪をつける〔9. 畋獵三：尋踪〕
— **i faitambi** 傷ついて逃げた獣の踪をつける〔彙：跟趕看被着傷的獣去的方向〕
— **waliyambi** 踪(あと)を暗ます. 敵方に我が所在を見せかけ, 敵來れば踪を暗まして見えない樣に成しおくを云ふ〔8. 征伐二：遺踪〕
Songkoi 依つて. 倣つて. 照して〔彙：依. 倣. 照樣〕
Songkolobumbi 其の通りに遵ひ倣はせる. 依り倣はせる〔7. 文教：使遵照〕

Songkolombi 其の通り遵ひ倣ふ. 依り倣ふ. 照して依る〔7.文學：遵照〕
Sonihon Sonio に同じ〔25.雙單：奇〕
— **muduringga suwayan šun dalikū** 一匹の龍を刺繍した圓形の日被ひ. 此の日被ひに黄紅二種あり〔6.鹵簿器用一：黄單龍扇〕
Soningga 新しい話. 珍らしい話〔14.言論一：新鮮話〕大いに珍らしい品. 珍奇な物〔25.新舊：很新鮮東西〕
Sonio 奇數の奇. 奇偶の奇〔7.書四：奇〕〔25.雙單：奇〕
— **juru** 奇偶. 奇數偶數〔彙：單雙. 奇偶〕
Sonjo 選べ. 試し選べ〔4.考選：選〕
Sonjobumbi 選ばす. 試し選び出さす〔4.考選：使揀選〕
Sonjoku 叱る可き. 叱責すべき處〔17.過失：可挑叱處〕
Sonjombi 驗べ擇び出す. 選ぶ〔4.考選：揀選〕
Sonjome abalambi 擇び狩り殺す. (春獸の未だ孕まざるに先立つて之を擇び殺すをいふ) Otorilambi に同じ〔9.畋獵：春蒐〕
Sonjondumbi Sonjonumbi 一齊に驗べ擇ぶ. 衆共々に選ぶ〔4.考選：一齊揀選〕
Sonjosi 未だ殿試を經ない進士〔4.臣宰士一：貢士〕
Sonohobi〔彙：與 Sonombi 同〕
Sonokton 兜の項の穴に挿す飾り物. 黄銅赤銅等にて作り, 之に馬の尾毛等を垂げたるものあり〔9.軍器一：盔纓〕
Sonombi 背を曲げて尻を突き出す〔14.坐立二：聳後身〕
Sontu cecike 小鳥の名. Suwayan faitangga cecike (黄道眉) の類にして身はこれよりも較々大きく, 眉脚淡黄色にして尾の羽毛長し〔30.雀二：淡黄道眉〕
Soorin 帝王の位〔彙：帝王龍王之位〕
Sor sar seme 澤山に. ざくざくと〔彙：濟濟. 人衆貌〕
— **sar seme nimarambi** 風の間にさっさっと音して雪が降る〔1.天文六：風雪有聲〕
— **seme** 澤山に. どつさり. しこたま (物の多い貌)〔25.多寡一：甚多〕
Sorbo 帽子の頂につけた紐. 帽つまみ〔24.冠帽一：提繫〕
Sori sahambi 神に禍を祈るとき案上に菓餅を毎層九個宛積み上げる〔6.祭祀二：求禍九九擺供〕
— **yali** 祭神のとき供物に取る肉〔6.祭祀二：小肉〕
Soriganjambi (敵賊我が威武に) 亂れ動く. うろたへ動く〔8.征伐六：敵亂動〕
Soriha 祭祀の際神に獻ずる馬の尾にむすびつけた絹紬の綱〔6.祭祀器用二：馬尾上拴的綢條〕
— **sirdan** 亂射の箭〔8.征伐五：亂箭〕
Sorihalambi 祭時, 神に獻ずる馬の尾に絹紬の綱を結びつける〔6.祭祀器用二：拴綢條〕
Sorin den 驅ける馬の前身が高く揚つてゐる〔31.馬匹馳走二：跑的前身高〕
Sorko 指貫(ゆびぬき). およびぬき〔22.工匠器用二：頂錢〕
Soro なつめ〔28.果品二：棗〕
Sorobumbi 黄色にする〔彙：使黄〕
Sorocombi 1. 痛くてたまらない. とても痛む〔16.疼痛一：疼的着不得手〕 2. (恥づ可き所あつて) 恥らう. 羞しい顔をする〔17.羞愧：愧見〕
Soroki 忌む可き. 忌諱すべき〔19.鬼怪：忌較〕
— **amba** 大いに忌む可き. 忌むこと非常な〔19.鬼怪：忌較大〕
Sorokiya ちばち〔32.蟲三：土蜂〕
Soroko 顔の黄色になつた〔11.容貌八：臉黄了〕物の黄色くなつた〔彙：凡物色黄了〕
Sorokobi (老人の鬚髪が白くなつて更に其の後) 黄色くなつた〔10.老少一：鬚髮黄了〕
Sorokū futa 祭祀の際各色の絲を用ひて綱に作り小兒の頸に掛けるもの〔6.祭祀器用二：線索〕
Sorombi 1. 忌む. 忌諱する〔19.鬼怪：忌諱〕 2. 葉が黄色になる. 黄葉する

〔29. 樹木十：葉黄〕面色が黄色になる，髪が黄色になる，など凡て黄色になる〔彙：面色黄．髪黄．稿黄〕

Sorosu 奇果の名．嶺南の山谷に出る，橄欖に似，其の皮を剝きとりてちまきに作る〔補3. 異様果品二：木威〕

Sorotu 奇果の名．蕭縣の Tiyan men 寺に出で形酸棗に似たり〔補3. 異様果品一：天棗〕

Sorson 1. 帽子のふさ．ふさ飾り〔24. 冠帽一：帽纓〕 2. 葱や韮などの花〔27. 菜殺一：葱韮花〕

Sosambi 捕虜にする．掠める〔8. 征伐八：搶擄〕

Sosandumbi Sosanumbi 各人が一齊に掠める．一齊に擄掠する〔8. 征伐八：一齊搶擄〕

Sosombi 水の様にどつと下痢する〔16. 疾病一：水瀉〕

Sosorcombi 只管退き縮かまる．萎靡退縮する〔17. 懶惰：只管退縮〕

Sosorobumbi 草を拷らせる．草を摑み抜かせる〔21. 割採：使爬拉草〕

Sosorokobi (老いて) 萎縮した．身心衰へ縮んだ〔10. 老少一：萎縮了〕

Sosorombi 1. 縮かみ退く．退縮する〔17. 懶惰：退縮〕(馬斎が) 後退する〔31. 馬匹動作一：倒退〕 2. 熊手で草を拷り集める〔21. 割採：爬拉草〕〔彙：與 Hederembi 同〕

Sotambi (米などを) 撒き散らす〔15. 撲撒：亂撒〕

Soti 鷸鴴の別稱〔補4. 鳥八：鴾陀〕

Sotki たい〔32. 海魚一：海鯽魚〕

Sots' 赤味を帯びた古米．Homsori bele に同じ〔彙：稜子米〕

Soyo 馬の汗を乾かし繋げ〔32. 牧養二：使弔汗〕

Soyolji 満洲黒流江西北の地名〔續2. 地輿：索約勒濟〕

Soyombi 馬の汗を乾かし繋ぐ〔32. 牧養二：弔汗〕

Soyon 肥えて強い馬〔彙：騎喂定了的肥膘馬即對膘者此馬牲口再不瘦不乏〕

— **acabumbi** 馬を調練して肥えさす〔32. 牧養二：調膘〕

— **acaha** 調練して馬の肥え太つた〔彙：馬對膘了〕

Soyori 奇果の名．大きさ李の如し〔補3. 異様果品三：木賴子〕

Su 1. 〔1. 天文七：旋風〕 2. 着物を脱げ．解け〔彙：令人脱衣之脱．令解衣之解〕

Subadambi (手足を無茶苦茶に) 振り舞はす．手足振り舞はし暴れる〔5. 爭鬪一：撒潑〕

Subargan 満洲吉林省所在の地名〔續2. 地輿：蘇巴爾罕〕

Subarhan 塔．佛塔〔19. 佛一：塔〕

Subari 人蔘を堀る木製の器具〔25. 器用五：剜挑菜藥簽子〕

Subcalu 草木の高さ齊しくない．高低不揃ひの〔29. 樹木七：草木不齊〕

Sube 筋〔10. 人身七：筋〕

— **hūsimbi** (箭柄の頭部及び尾部を) 筋で包む．筋を纏ふ〔9. 製造軍器三：信扣纏筋〕

— **maktambi** 弓胎の背部に筋を敷き貼りつける〔9. 製造軍器一：鋪筋〕

Subehe 1. 喪の時に着用する白の帶〔6. 喪服一：孝帶子〕紬緞等の布で織つた帶〔24. 巾帶：繒的帶子〕 2. 帶止めなどの中央に珊瑚琥珀等のものを繋ぎとめる紐〔24. 冠帽二：背雲絛繫〕 3. 樹の枝のさき．こずえ〔29. 樹木八：枝梢〕 4. 鬚の毛のさき．毛の頭〔彙：鬚頭〕

Subeliyen 生絲を練つた絲．練り絲〔23. 絨棉：絨〕

— **hūsimbi** (矢筈或は弓筈の處を樺の皮で包み更に其上に) 練り絲を纏ひつける〔9. 製造軍器三：纏絨〕

— **sorson** 帽子につけた赤絲のふさ〔24. 冠帽一：線纓〕

Suberhe 罠網の一種．馴れた小鳥を囮に使用して網の近くにおき，他の鳥が誘はれて網に近寄り來たれば直ちに其の網を引いて捕へ得る様に仕掛けたもの〔22. 打牲器用三：苗子〕

Suberi あや．りんず〔23. 布帛四：綾子〕

Subetungge 筋力のある(人)．力強き(人)〔12. 勇健：有筋力〕

Subkejehebi 布が破れて絲が脫け出した〔25.破壞：脫絮了〕
Subkejembi 布が破れて絲が脫け出す〔25.破壞：紬絲脫絮〕〔彙：與 Debkejembi 同〕
Subkele 絲を抽ぎ出せ．絲を作れ〔23.絨綿：抽紕子〕
Subkelebumbi 布を拆いて絲をひき出させる〔26.殘毀：使拆紬布紕子〕
Subkelembi 布を拆いて絲をひき出す．絲を取り出す〔26.殘毀：拆紬布紕子〕
Subkeri 喪服にして裾縁りのないもの〔6.喪服一：拖邊孝衣〕
Subsi 1. 久しく病んで尙經過良好でない．好い目の見られない〔16.疼痛三：久病不見好〕 2. 繁雜で面倒臭い．くだ…くだとして詰らぬ〔18.鄙瑣：瑣碎〕
Subsin ilha 奇花の名．幹低くして枝多く分出し，葉は尖つて枝端に小花を開く，香ひ高し〔補3.異花三：瑣瑣花〕
Subu 解釋せよ．解け．脫げ〔彙：令解說解明之解．令解釋之．令脫衣〕
Subuha 1. 解釋した．解けた〔彙：解釋了〕 2. 醉ひの醒めた〔彙：醉後醒了〕
Subuhen 易卦の名〔補1.書二：解〕
Subuhūn 酒飮まず醉はない〔27.飮食四：清醒〕
Subumbi 1. 解く．寃罪を解く〔5.寬免：解冤〕（人の）着物を解く．着物を脫がす〔24.穿脫：使脫〕 2. 醉ひが醒める〔27.飮食四：酒醒〕 3. 墮胎する〔彙：墮胎之墮．Jui be subure 卽墮胎也〕
Subun 辨言．辨舌〔7.書二：辨〕
Suburi 奇果の名．形雞卵の如く，味は甜く爽かにして食へば醉ひを醒ます〔補3.異樣果品二：侯騷〕
Suci 1. 獸の懷胎．懷孕．妊娠〔31.走獸肢體：獸胎〕 2. 解けば．脫げば〔彙：若解脫口氣〕
Sucilehebi 獸が懷胎した〔31.走獸肢體：獸懷胎〕
Sucilembi 1. （麥などが）芽生える．穗種の眞中から芽が出て殼が芽を包んだ形になつてゐるのを指して云ふ〔21.農工二：打包〕 2. 獸が懷胎する〔彙：懷駒子．懷犢子．懷羔．凡獸懷胎〕
Sucumbi 突然に敵陣を衝く．突然に襲ひ戰ふ〔8.征伐二：衝陣〕
Sucun weihe 上下の前齒．門齒〔10.人身三：門牙〕
Sucunambi 突然に行つて襲ふ．突として敵陣を衝きに行く〔8.征伐二：去衝陣〕
Sucungga 始めの．元の．元年などの元〔2.時令二：元〕
— **nadan** 初七日〔彙：人亡故了頭七〕
Sucutu 二歲の馬〔31.馬匹二：二歲馬〕
Sudala 人身の脈〔10.人身八：脈〕其他地脈．氣脈等凡ての脈．脈系〔彙：地內氣脈之脈．諸氣所到處〕
— **jafambi** （病氣を診察するに當り）脈をとる．脈を診る〔19.醫治：胗脈〕
Sudalambi 短い髮を散らす．亂し散らす〔彙：披下短髮〕
Sudamimbi 馬の口環を外す〔31.套備馬匹：褪嚼子〕
Sudan 女の髮の毛．又女兒のもとどりから外に垂れた毛．おかつぱ毛〔10.人身一：水髮〕
Suderhen Wenderhen（阿蘭）の一種．米色をした阿蘭〔補4.雀三：米湯澆〕
Sudu 下腿骨の中央の處〔10.人身六：腿梁高處〕
— **niru** 骨製鳴り鏑の鏃を具へてゐない箭〔9.軍器四：無哨披箭〕
Suduli Sejulen に同じ〔27.菜穀二：野蒜苗〕
— **abdaha fukjingga hergen** Labdahūn suduli i fukjingga hergen に同じ〔補1.書三：蓯蓉篆〕
Suduntu 奇獸の名．見はるれば大風あり〔補4.異獸四：薨〕
Suduri 史．史書〔7.書一：史〕
Sufan ざう〔31.獸一：象〕
— **ileri ilha** 奇花の名．Kiyan to 國に産する．葉は棗の葉に似，冬期開花す〔補3.異花一：繁白象樹花〕
Sufangga lujen 駕の名．頂上に象牙四塊を嵌め込み八匹の馬にて牽くもの〔6.鹵簿器用五：象轎〕

Sufen 犀. さい〔補4. 異獣五：鼻角獣〕
Suhai moo 木の名. 鞭に作りて用ひる時は懐妊せる馬を打つて墮胎さすと云ふ〔29. 樹木三：三川柳〕
Suharakabi 穂が垂れ下つた〔21. 農工三：穂子下垂〕酔ふて頭の垂れ下つた. 頭の擡げられない〔27. 飲食四：酔的垂了頭〕
Suhe 1. 金銀の紙で作り, 葬祭の際燒く錢〔6. 喪服二：紙錢〕2. 斧. 大斧（武器としての, 又大工道具としての）〔9. 軍器六：斧〕〔22. 工匠器用一：斧子〕3. 解いた. 解說した〔彙：解說了. 直解了〕着物を解いた. 脱いだ〔彙：脱衣之脱了〕鹿の角が解けた. 角が落ちた〔彙：鹿解角之解了〕
— **argacan i fiyenten** 一切金銀器物の修造收貯を司る役所. 鑾儀衛に屬す〔20. 部院八：斧鉞司〕
Suhecen 小さい斧. 手斧〔22. 工匠器用一：小斧子〕
Suhelembi 斧で切る〔8. 征伐五：用斧劈〕
Suhen 經書の註講. 註釋〔7. 書二：疏〕
Suhešembi 斧で以て只管に切りまくる〔8. 征伐五：用斧亂劈〕
Suhuken 牙色(きいろ). 淡い褐色〔23. 采色三：牙色〕
Suhun 米色(こめいろ). 褐色〔23. 采色三：米色〕
— **wenderhen** 鳥名. Wenderhen（鳳頭阿蘭）に似て嘴淡白, 眼黒く身灰色にして脚白し〔30. 雀二：灰色阿蘭〕
Sui 1. 混ぜよ. 捏ねよ〔22. 趕拌：和〕2. 墨を磨れ〔彙：令磨墨〕3. 罪過. 罪〔彙：罪過之罪〕
— **akū** 罪無き. 無辜の〔彙：無辜〕
— **cecike** かはせみ〔彙：翠雀. 與 Uligiyan hailun cecike 同〕
— **isifi ehe de isiname mailakini** 罪に落ち酷い目に逢へ（人を罵る言葉）〔彙：罵人遭罪逢不好. 與 Mailaru 同〕
— **isika** 罪に落ちた. 厄神に遭つた〔彙：遭瘟了〕
— **isiru** 罪造り目！ 罪造りの野郎！（人を罵る語）〔16. 咒罵：造罪的〕
— **mangga** 無實の罪の. 强ひて罪にせられた. 冤罪の〔5. 詞訟一：冤枉〕
Suibumbi （麵などを）混ぜさす. 捏ねさす〔22. 趕拌：使和麵〕墨を磨らせる〔彙：使研〕
Suifulembi 錐で刺す. 錐で穴をあける〔24. 剪縫三：錐〕
Suifun 1. 錐〔22. 工匠器用二：錐子〕2. 滿洲盛京邊外の地名〔續2. 地輿：綏芬〕
Suiha もぐさ〔29. 草三：艾〕
— **cecike** 小鳥の名. 腰と背とは沈香色で胸は略々白い〔30. 雀六：艾豹〕
— **fulan** 灰色よりは白い馬〔31. 馬四毛片：粉青〕白と灰色と雜りの馬〔彙：騅乃蒼白雜毛者〕
— **sindambi** 灸をすえる. 灸點する〔19. 醫治：灸艾子〕
Suihana wehe もぐさの葉の樣な青色をした石〔2. 地輿六：艾葉青石〕
— **yarha** 豹の一種. 毛にもぐさの葉の如き斑紋あり〔31. 獸二：艾葉豹〕
Suihe 1. 印の環を受くる紐. 印のふさ紐〔3. 諭旨：綬〕鞭の皮總(ふさ)〔9. 鞍轡二：鞭總〕穀物の穗. 穗の房(ふさ)〔21. 農工三：穗子〕帶其他のものの端に垂れた絲の總(ふさ)〔24. 巾帶：帶穗子〕2. 墨を磨つた〔彙：墨研了磨了〕
— **ilha** たでの花〔彙：蓼花之花. 卽 Morin jalmin 之花〕
Suihenembi 穗が出る〔21. 農工三：秀穗〕
Suihetu coko 七面鳥〔30. 鳥六：旺綏雞〕
— **fukjingga hergen** 書體の一種. 神農の時, 上黨に八穗の瑞穀が出たので, この穗の形に倣つて作つた書體〔補1. 書三：穗書〕
— **gasha** 七面鳥の別名〔補4. 鳥五：綏鳥〕
— **gūwasihiya** さぎ〔補4. 鳥二：鷺鷥〕
Suihon 帶の結び目を解く器具. 鹿の角などで作る〔24. 巾帶：解錐〕
— **i uncehen** 行書滿字の結尾〔7. 書八：草字尾〕

Suihumbi 醉ひ騒ぐ. 醉ひどれる〔17. 輕狂：醉鬧〕
Suihun 男子の使用する大型の耳環〔24. 飾用物件：男子大耳墜〕
Suihutu 醉ひどれ. 醉つぱらひ〔17. 輕狂：醉鬧人〕
Suilabumbi 苦を累ねさす. 苦しめて安きを得ささない〔16. 折磨：苦累〕苦勞を受ける. 苦を累ねさゝれる〔彙：受勞苦〕
Suilacuka 苦勞すべき. 痛心苦慮すべき〔13. 愁悶：可勞苦的〕
Suilacun 勞苦. 苦勞. 苦しい. 力竭きた〔13. 愁悶：勞苦〕
Suilambi 勞する. 苦勞する. 力竭きる〔13. 愁悶：勞〕艱苦する. 困窮する〔13. 貧乏：艱苦〕
Suilan あなばち〔32. 蟲三：大螞蜂〕
Suilashūn 貧乏して焦りはやる. 家困窮してせかせかした〔13. 貧乏：累〕
Suimbi 1. 墨を磨る〔7. 書七：研墨〕2. 麵を混ぜる. 捏ねる〔22. 趕拌：和麵〕
Suingga 難に遭つた. 酷い目に遭つた〔13. 怨恨：遭孽〕
Suisimbi 罪に落ちる. 罪を受ける〔16. 咒罵：受罪〕
Suisiru Sui isiru に同じ〔16. 咒罵：作孽的〕
Suita 水を灌げ. あけよ〔28. 澆潑：灌〕
Suitabumbi 水を灌がせる. あけさせる〔28. 澆潑：使灌水〕
Suitakū 茶酒を注ぐに用ひる長形の器〔25. 器用三：奠池〕
Suitambi 水を灌ぐ. 水をあける〔28. 澆潑：灌水〕
Suja 支へよ. 持ちこたへよ〔21. 倒支：支〕
Sujabumbi 手で持ちこたへさす〔15. 敬息：使拄着〕支へさせる〔21. 倒支：使支着〕
Sujahan 涼棚 (Cacari) の四角を支へてゐる細い杆(ぼう)〔24. 廛屋帳房：支杆〕一般に支への柱, 棒など〔彙：支撐的棍子〕
Sujakū 支への棒. つつかひ棒〔25. 器用七：支棍〕
Sujambi (兩手で) 支持する. 禦ぐ. 相手を逃まさない〔8. 撩跤二：支持〕手で持ちこたへる〔15. 歇息：拄着〕支へる. つつかひする〔21. 倒支：支着〕
Sujanaha (穀物などが) 土の中で發芽した〔21. 農工二：土內發芽〕
Suje 紬より一層細かく美はしい織物. 緞. 繻子〔23. 布帛一：緞〕
— i namun 戶部に屬し, 緞紬紗羅等の物を收貯する庫. 內務府にも此の庫あり〔20. 部院十二：緞疋庫〕
Sujikde あかやなぎ. かはやなぎ〔29. 樹木三：蒲柳〕
Sujubumbi 馳けさす. 走らせる〔14. 行走一：使跑〕
Sujumbi 馳ける. 走る〔14. 行走一：跑〕
Sujutembi 一齊に馳ける. 共々に走る〔14. 行走一：一齊跑〕
Suk seme injehe (耐えきれないで) くすくすと忍び笑ひした. くすりと笑ひを洩らした〔13. 嘻笑：忍不住鼻中微笑〕
Sukden moo はぜ. はじの木〔補3. 樹木二：黃櫨木〕
Sukduhen 鶴の別名〔補4. 鳥一：胎禽〕
Sukdun 天地萬物間の氣. 人の氣〔1. 天文七：氣〕〔10. 人身八：氣〕
— cirgabumbi 息が詰まる. 氣が塞がる〔16. 疼痛二：氣壅堵〕
— hūwaliyasun nesuken i mudan 兵部に於いて新武進士を筵宴するとき奏する樂の名〔補1. 樂：和氣洽之章〕
— niyecebumbi (藥で) 氣を補はす〔彙：藥補氣之補氣〕
Sukiya 空にせよ. あけてしまへ〔28. 澆潑：倒潑〕
Sukiyabumbi 空にさせる. すつかりあけさせる〔28. 澆潑：使倒潑乾〕
Sukiyambi 空にする. すつかりあけてしまふ〔28. 澆潑：倒潑乾〕
Sukiyame omimbi (酒宴の際彼此互ひに勸められた盃の酒を) きれいに飲み乾す. すつかり飲み乾す〔27. 飯食四：告乾飲〕

Sukiyari cecike 小鳥の名. 眼珠白く嘴紅くして尖り身は綠色に稍々黑味を帶ぶ. 夜になれば樹枝に倒掛す〔30. 雀六：倒掛鳥〕

Sukji 楡の樹の嫩葉. 圓形にして食用に供するもの〔29. 樹木八：楡莢〕

Sukjibure hiyan 香の名. 紫色にして香高し〔6. 祭祀器用一：降香〕

Sukjimbi (神が供物の氣を) 享ける〔6. 祭祀一：享〕〔彙：與 Alimbi 同〕

Sukjingge ba 家の西南の角〔21. 室家一：奥〕

Suksaha 太股. 大腿〔10. 人身五：大腿〕牲畜の脚の後部〔27. 飯肉二：後腿〕馬の脚の後部〔31. 馬匹肢體一：馬後腿根〕

Suksalabumbi 開墾させる〔21. 農工一：使開墾〕

Suksalambi 開墾する. 地を開く〔21. 農工一：開墾〕

Suksalanambi 行つて開墾する. 開墾に行く〔21. 農工一：去開墾〕

Suksalandumbi Suksalanumbi 一齊に開墾する. 各人齊しく開墾する〔21. 農工一：齊開墾〕

Suksalanjimbi 來て開墾する. 開墾に來る〔21. 農工一：來開墾〕

Suksan 開墾. 開拓. 闢地〔21. 田地：新開地〕

Suksubumbi 簸らせる. あふらせる〔21. 碾磨：使簸〕

Suksuhu みさご〔30. 鳥五：魚鷹〕

— **bira** 滿洲盛京東方の河名〔續2. 地輿：蘇克素護河〕

Suksuhun 怒氣發して髮の逆立つた〔11. 容貌八：氣的髮乍〕

Suksumbi 簸る. あふる〔21. 碾磨：簸〕

Suksurekebi 顏, 眼, 齒莖等が腫れた〔16. 腫脹：牙花面目微腫〕〔彙：與 Suksurembi 同〕

Suksureku 穀物を扇ぎ簸る道具〔21. 農器：扇車〕

Suksurembi 1. (鳥が飛ばうとして) 羽を毛ば立てゝおる〔30. 飛禽動息一：鳥鬆毛〕 2. (鷹などが) 舞ひ下つて獲物に攫みかゝる〔30. 飛禽動息二：飛下擊物〕 3. 人の齒莖, 眼, 顏等が腫れてゐる〔彙：牙花瘴了. 人眼面瘴了〕

Suku よもぎ〔29. 草四：蓬蒿〕

Sukū 皮膚. 皮革. 果物の皮, など凡て皮〔10. 人身七：皮〕〔24. 皮革二：皮〕〔28. 果品四：果子皮〕

— **i šošonggo mahala** 古冠の名. 白鹿の皮を以て作り, 上に玉を嵌む〔補1. 古冠冕二：皮弁〕

— **soforo** 皮の鞍掛け. 皮の鞍敷き〔彙：鞍板子上的皮鞍套〕

Sukūname 皮が張り. 皮が出來〔彙：起皮〕

Sukūngge lujen 鑾駕の名. 頂上に皮四塊を嵌め四馬を用ひて牽く〔6. 鹵簿器用五：革輅〕

Sula 暇の. 閑散な〔10. 人五：閑散〕まばらな. 隙のある〔25. 盈虛：鬆閑〕

— **amban** 內大臣の品級にあつて一定の職務なき大臣〔4. 臣宰一：散秩大臣〕

— **ba** 空地. 曠地. 曠土〔彙：曠土〕

— **boihon** 粘性の無い碎け土〔2. 地輿一：鬆土〕

— **hehe** 奥向きの婢〔彙：房婢〕

— **janggin** 王府の世襲散官〔4. 臣宰七：散騎郎〕

— **niyalma** 閑な人. 無職の人〔彙：閒散人. 與 Sula urse 同〕

— **umiyesun** 帶環を具へない帶〔24. 巾帶：空帶〕

Sulabu 殘せ. 空けておけ. 剩しておけ〔25. 盈虛：留着空〕

Sulabumbi 殘しておく. 剩しておく. 留めておく. 空けておく〔25. 盈虛：留空〕

Sulaha 睡つたかと思ふと又醒めた. 假睡の〔15. 睡臥二：略睡即醒〕

Sulahūn Ula kilahūn (江鷗) の別名〔補4. 鳥五：閑客〕

Sulakan 略々まばらな. 幾分空き間のある〔25. 盈虛：略鬆閑〕寬やかな〔彙：寬放心些之寬〕

— **oho** 病の少しく癒えた. 少しく快方の〔19. 醫治：鬆快了〕

Sulambi 留まる. 殘留する. 遺る〔15.

留遺：遺留〕

Suldargan Baldargan（青鵠）の別名〔補4.鳥四：青鵠〕

Sulfa 弓引くとき弓が充分に開く．弓がよくのびる〔8.歩射一：自然〕心のびのびしたる．心裕かな〔11.性情二：舒裕〕身安逸な．身體ののびた．肥つた〔彙：身安逸．體胖之胖〕

Sulfakan 心の稍々のびのびした．心稍々裕かな〔11.性情二：略舒裕〕弓引くとき弓が略々開く．稍ゝのびる〔彙：箭射的略舒展〕

Sulfangga 心裕かな(人)．心のびのびしたる（人）〔11.性情二：舒展〕

Sulhumbi 地が潤ふ．地が軟かくなる〔彙：地潤．地軟〕

Sulku 色々の花を挿し込んだ脚付きの盞．草花棚〔29.花六：花架〕

Sultaha 鳥名．背の黒い斑紋のある Šanggiyan gasha（白鵨）〔補4.鳥二：鵨客〕

Sultei 獣名．Jeren（黄羊）に似て尾が長い〔31.獣四：長尾黄羊〕

Sumakabi 煙氣が擴がりなびいた．烟氣立ち籠めた〔1.天文七：烟氣浮布〕

Sumala 小さい袋．Fulhū（口袋）より小さいもの〔25.器用七：半大口袋〕

Sumaltu カンガルー〔補4.異獣五：狸猴〕

Suman 一處に聚つた氣．立ち籠めた氣〔1.天文七：烟氣〕

Sumarhan Subarhan に同じ〔19.佛一：塔〕

Sumari cecike ほととぎすの別名〔補4.雀五：子嵩〕

Sumbi 1. 寒氣のために水分が淡白く凝結する〔1.天文七：寒氣凝結〕2. 着物を脱ぐ．着物を解く〔24.穿脱：脱〕色々のものを解く．ほごす〔26.剝解：解〕車を離す．車を解く〔26.車轎二：卸車〕3. 墮胎する．おろす〔彙：人畜墮胎之墮〕

Sumbuljambi（軟かい地を踏むとき）地がぶるぶる顫ふ〔2.地輿二：地發顫〕

Sumbur sambar seme ずたずたに．ぼろぼろに（衣服などが破れる）〔25.破壞：衣破零散〕

Sumbur seme Sumbur sambar seme に同じ〔25.破壞：衣服零散〕

Sumburšambi 散り亂れる．逃げまどふ〔8.征伐六：散亂〕

Sume bodoro boo 內務府支給の錢糧の計量事務を司る役所〔補2.衙署六：銷算房〕

— **efulere kunggeri** 六科に呈出された諸官廳の報告書を檢べて，完全なものに對しては之を承認し，不完全なものに對しては之が具奏彈劾の手續きを取る役所〔補2.衙署五：註銷科〕

Sumpa 1. 鬢髪半ば白き〔10.老少一：鬢髪斑白〕2. かぶら〔27.菜殽二：蔬菜〕

— **maca** にら．にんにくの類〔27.菜殽二：野韭菜〕

Sumpanahabi 鬢髪半ば白くなつた．白まだらになつた〔10.老少一：鬢髪斑白了〕

Sumusu 一二粒の米の入つた飯の汁．おも湯〔27.飯肉一：帶飯米湯〕

Sun 乳〔27.茶酒：奶子〕

— **i cai** 牛乳入りの茶〔27.茶酒：奶茶〕

— **nimenggi** 乾酪．チーズ〔彙：奶酥油〕

— **sambi** 乳を搾る〔27.茶酒：擠奶子〕

Suncehen 豹に似た奇獣〔補4.異獣一：猞〕

Sundalabumbi 1. 後を追ふて襲はす〔8.征伐六：使追襲〕2. 兩人一馬に重なり乘らせる〔32.騎駝一：使疊騎〕

Sundalambi 1. 後を追ふて襲ふ．後をつける〔8.征伐六：追襲〕2. 後について言ふ〔14.言論二：抄尾說〕3. 兩人一馬に重なり乘る〔32.騎駝一：疊騎〕

Sunembi 雲の氣が雨と化する〔1.天文五：釀雨〕脱け落ちる．〔彙：脱落去．墮落去〕

Sung el 鳥の名〔彙：鷹兒乃雄者雀鷂名．與 Ajige hiya silmen 同〕

Sunggada 河魚の名．Jajigi（翹頭白）に似て尾鰭共に赤し〔32.河魚二：赤稍〕

Sunggali cecike 小鳥の名．毛黒くし

て白斑あり，犀大〔30.雀六：松花〕
Sunggari bira 天の河．銀河〔1.天文一：天河〕
Sunggartu usiha 銀河の南にある星．七夕星．雄七夕星〔1.天文三：河鼓〕
Sunggeljembi 顫ふ．搖れる〔15.搖動：顫〕
Sunggelson 貴人の冠飾〔補1.古冠冕三：簪纓〕
Sunggembi 病を覺えずして顏色青く痩せ弱る．身のうちを病む〔16.疾病三：皮裡抽肉〕
Sunggina 野生の葱〔彙：野葱在寒處高山岩山生〕
Sunggiyen 睿敏の．睿智の．賢こき．敏き〔11.聰智：睿〕
Sungguhe 鳥名．Kiongguhe (八哥) の別名〔補4.鳥八：慧鳥〕
Sungke 寒氣のため凝結した水分〔彙：氣汗水〕
Sungkebi 寒氣のため鬚，髮，草木等のものに水分が付着して淡白くなつた〔1.天文七：寒氣着物凝結〕
Sunja 數詞．五〔7.數目一：五〕
— **akjangga kiru** 幅(ぬの)の上に雷の字を刺繍したる旗．五色五様あり〔6.鹵簿器用四：五雷旗〕
— **biya** 〔彙：五月〕
— **colhon** 東泰山，南衡山，中嵩山，西華山，北恒山の五嶽〔2.地輿三：五嶽〕
— **dobon** 香爐，燭，臺，花，瓶の五つの神前の供物〔6.祭祀器用一：五供〕
— **enteheme** 〔彙：五常．乃仁義禮知信也〕
— **feten** 火水木金土の五行〔2.時令一：五行〕
— **feten be bodoro hafan** 曆の五行七政を計測する官．欽天監屬〔4.臣宰八：五官正〕
— **feten be bodoro hafan i tinggin** 欽天監下にあり，曆の五行七政計測に關する事務を司る役所〔20.部院七：五官廳〕
— **hacin i jeku** 五穀〔彙：五谷周禮云芝麻黄豆大小黄米麥子．又云稻黍稷麥菽〕
— **hacin i orobuhangge** 乾梨，麵，野葡萄等五種のものを牛乳，油，蜜等で凝結させた食物〔27.餑餑三：五色油糕〕
— **hergin** 〔彙：五紀乃年月日星辰時數也〕
— **hutu** 年神の第三十．暗陰を主る神〔補2.神三：五鬼〕
— **irungge mahatun** 古冠の名．頂に五筋の高みあるもの〔補1.古冠冕一：五梁冠〕
— **jalan genggiyesu** 五代に亙つて奴僕として働いてきた家の第五代目の奴僕〔彙：五代的奴僕家人〕
— **jilgan** 宮商角徵羽の五聲〔7.樂二：五聲〕
— **ts'ang** 〔彙：五臟〕
— **tugingge kiru** 幅(ぬの)の上に彩雲を刺繍したる旗．五色五様あり〔6.鹵簿器用四：五雲旗〕
— **tuhebuku i mahatu** 古冠の名．五旒を垂下した冠〔補1.古冠冕一：五旒冕〕
— **yamun i kunggeri** 各省の軍器を造り又鑄破等のことを司る役所〔補2.衙署三：五府科〕
Sunjaci 第五．五番目〔彙：第五〕
— **jalan i omolo** 曾孫の曾孫．孫から五代目の孫〔補10.人倫二：五代孫〕
Sunjangga inenggi 五月五日の節句〔2.時令六：端午〕
Sunjanggeri 五次．五度．五回〔7.數目一：五次〕
Sunjari ilha 奇花の名．ざくろの花に似，五稜層生する，葉は細く色美はし〔補3.異花一：錦川花〕
— **suje** 繻珍(しゅちん)〔23.布帛二：五絲緞〕
Sunjata 各々五つ．五つ宛．五つ毎〔7.數目一：各五〕
Sunji 絲（重量の單位名）．Nise (忽) の十倍〔22.衡量二：絲〕
Sunta 1. 腰に垂げて雀を入れ歩く網（鷹狩りの具）〔9.頭鷹狗：網兜〕 2. 小さい袋．Sumala (半大口袋) より小さい袋〔25.器用七：小肉袋〕
Suntaha 細い木に皮を張り前上りに作

つて足に着け雪などの上を歩くのに用ひる道具．一種のスキー〔24.靴襪：溜氷雪的木頼〕

Suntanahabi 腹が肥大して垂れた．腹ぼての〔11.容貌六：腹大下垂〕袋が一杯に脹れた〔25.盈虚：口袋鼓彭〕

Suntebumbi 殺し絶やす．みな殺しにする〔8.征伐七：殺絶〕

Suntehe 殺し絶やした．みな殺しにした〔8.征伐七：殺絶了〕

Suntembi 滅びる．滅び盡きる〔彙：屠家．賊敵滅盡．滅族〕

Sunto 量の一單位名．五 Hiyase（板斗）に當る〔22.衡量一：斛〕

Sur seme ぷんぷんと（にほひが鼻を撲つ）〔28.滋味：香臭味撲鼻〕

Sura 米を糈ぜ．米をとげ〔28.澆溲：使淘米〕

Surafu 錐の如くにして柄なく，根の方を圓く曲げて皮などを縫ふに使用する器具〔22.工匠器用二：環錐〕

Suraku 豚に餌を與へる木の槽．豚の餌槽〔32.牲畜器用一：猪槽〕

Surambi 1. 大聲に呼び賣りする〔22.貿易一：吆喝〕2. 米を糈ぐ．米をとぐ〔28.澆溲：淘米〕

Suran 1. 米のとぎ水．糈ぐし水〔32.牲畜器用二：泔水〕2. のみ〔32.蟲四：跳蚤〕

Surbejen 矢筈〔9.製造軍器四：箭鐵信子〕

Surbu 帽子の內側につけた紐〔24.冠帽一：帽內提繫〕

Sure 1. 聰明な．賢こい〔11.聰智：聰明〕2. 水冷たき．水澄める〔27.飲食二：水冷〕3. 解く處の．脫ぐ處の〔彙：解也．脫也〕

— **hihan** 眞臘より出づる香の一種．淡茶褐色にして釘狀に割つて焚く〔6.祭祀器用一：速香〕

— **mama** 子供が出痘したとき祈る神．疱瘡の神〔19.神：痘疹神〕

Sureke 眠つて疲れが治つた．醒めれば疲れがなくなつてゐた〔15.睡臥二：沒了困了〕

Sureken 較々聰明の．幾分賢こい〔11.聰智：略聰明〕

Surembi 大聲に叫ぶ．叫び聲を揚げる〔16.疼痛三：喊叫〕

Surgi 疱瘡後の瘡毒．疱瘡の毒〔16.瘡膿：痘後瘡毒〕

— **werihe** 痘毒の出た．疱瘡の口が收まらない〔彙：出痘毒．痘根不收口〕

Surgin 物が濕つて溫かい．溫濕の〔18.濕潮：物濕熱〕

Surhūn akū 云ひ聞かせてもわけが分らない．覺らない〔17.愚昧：不了亮〕

Suri 紬〔23.布帛三：紬〕

Suriha 樹が自ら枯れた．自ら枯死した〔29.樹木十：樹自枯〕

Surseri 果名．海南地方に產し味香共によろし〔28.果品一：佛手〕

Surtembi 衆人が爭ひ走る．爭ひ驅ける〔14.行走一：衆人爭跑〕

Surtenumbi （物を求めて面目もなく）奔り競ふ〔13.求望：奔競〕衆人一齊に爭ひ走る〔14.行走一：一齊爭跑〕

Suru 白色の馬〔31.馬匹毛片：白馬〕

Surudai 鳥名．西方に產する鳳〔補4.鳥一：肅霜〕

Suruke 少しく憂悶が解けた．氣が治つた．心が平らいだ〔5.安慰：氣平了〕

Surumbumbi 惱みを解く．怨みを解く．慰める〔5.安慰：寬解〕

Susai 數目の名．〔7.數目二：五十〕

— **nadan gūsa** 蒙古の喀爾喀及び其他凡て五十七旗〔彙：喀爾喀存的餘國及各路蒙古其五十七旗各封王貝勒〕

Susaici 第五十．五十番目の〔彙：第五十〕

Susaita 五十每．五十宛〔彙：每五十．各五十〕

Susakangge 死に損ひ目！くたばれ！Bucehengge に同じ〔16.咒罵：死物〕

Suse 1. 粗糙な．粗末な〔26.營造：草率〕2. 泥や石灰に捏ね混ぜる草〔26.砌苫：和泥的草〕壁泥に混ぜ合はせる草〔29.草四：穰稭草〕

Susedembi 粗末に作る．仕事の手を抜く〔26.營造：草率作〕

Suseri ういきよう〔27.菜殽四：茴香〕

— **hoošan** 廢紙を以てすき直した粗末

な紙，壁天井などを貼るのに使用する〔7. 文學什物一：白槀紙〕

Suseri jiha 甚だ薄くして粗末な錢〔22. 貨財一：沙板錢〕

— nenden ilha 奇花の名．色黄にして瓣長く風吹けば蝶の如くに舞ふ〔補3. 異花三：金鏤梅花〕

Susu 原籍地．故郷〔19. 城廓：籍貫〕寒村．荒涼たる里〔衆：荒村．荒凉〕

Susubumbi 衆人襲ひて家を毀ち器皿を壞す．害に遭ふ．Susunggiyambi に意似たり〔16. 折磨：毀壞〕

Susukiyembi 寒さに打たれて戰く．寒氣に身ぶるひする〔13. 寒戰：打冷戰〕

Susultungga 聰明なる人．慧き人〔11. 聰智：聰慧人〕

Susunggiyambi 資財を破られ苦しめられる．害に遭ふ〔16. 折磨：遭害〕

Sutuhūn cecike きくいただき．やつがしら．Indahūn cecike の別名〔補4. 雀一：戴頭〕

Suwa buhū 鹿の一種．身小さく色淡紅にして全身に梅花の紋様あり〔31. 獸三：梅花鹿〕

— nasin ひぐま〔31. 獸二：羆〕

Suwabirgan Suwayan cibirgan に同じ〔補4. 雀三：黄連雀〕

Suwafintu cecike 小鳥の名．太平雀に似，黄白の翅毛が段々になつて生えてゐる〔30. 雀一：十二黄〕

Suwakidun cecike 小鳥の名．黄頭．江南の人 Ekidun cecike（侶鳳述）を呼ぶ名〔補4. 雀五：黄頭〕

Suwalin cecike 小鳥の名．黄離留．鄉村の人 Gūlin cecike（黄鸝）をかく呼ぶ〔補4. 雀二：黄離留〕

Suwaliya 混ぜ合はせよ〔22. 趕拌：攙〕

Suwaliyabumbi 混ぜ合はさす〔衆：使攙合〕

Suwaliyaganjambi 混ぜ合はす．取り混ぜる〔22. 趕拌：攙雜〕

Suwaliyambi （豆や粉などを）混ぜ合はす．一處に集める〔22. 趕拌：攙上〕

Suwaliyasun 菜や肉などを煮るとき細かく切つて入れるねぎ，にんにく，せうが等のもの．菜の加味物〔27. 菜穀四：作料〕

Suwaliyata 混ぜ合はせもの．雜物．取りあつめもの〔22. 趕拌：雜〕

Suwan 1. 鳥名．體黒く嘴曲つて，烏より大きく太く魚を捉へ食ふ〔30. 鳥五：鵰鶚〕2. 炕の洞．火床の煙道〔21. 室家三：炕洞〕

Suwanda にら〔27. 菜穀四：蒜〕

Suwandara 奇獸の名．形狸の如く身小さけれ共能く虎牛等を捉ふ〔補4. 異獸七：黄腰〕

Suwangkiyabumbi 野で草を食ませる〔32. 牧養一：使啃草〕

Suwangkiyambi （牲畜が）野で草を食む〔32. 牧養一：啃草〕

Suwangkiyandumbi （牲畜が）一齊に野の草を食む〔32. 牧養一：齊啃草〕

Suwaɢha nimaha 魚名．十月黄雀海に入つてこの魚に變ずといふ〔32. 海魚一：黄雀魚〕

Suwayakan 稍々黄色の．略々黄色の〔23. 采色一：微黄〕

Suwayan 1. 黄色．黄色の〔23. 采色一：黄〕2. 十干のつちのえ〔2. 時令一：戊〕

— bumbi 麵や豚などの供物を神前に捧げて願をかけ祀る．供物を捧げて神に祈願する〔6. 祭祀二：麵猪還願〕

— cibirgan 燕の類．瞳紅黒く，羽の先黄色し〔補4. 雀三：黄花燕〕

— dangse boo 工部諸司使用の微細な錢糧數目を月々黄册に記入して奏上することを承辦する役所〔補2. 衙署四：黄檔房〕

— engge cecike しめ．まめどり．Turi cecike（梧桐）の別名〔補4. 雀一：蠟觜〕

— faitan 黄色のうづら〔補4. 雀二：黄眉〕

— faitangga cecike ほほじろ〔30. 雀二：黄道眉〕

— garudai 黄色の鳳〔補4. 鳥一：土符〕

— girdan enduri 年神の第二十七．傘の神象，土に屬す〔補2. 神三：黄幡〕

— giyahūn cecike 小鳥の名．Mer-

gen cecike (寒露) よりも小さくして黄色く，能く雛雀を捉ふ〔補4.雀二：火不刺〕

Suwayan gūsai kunggeri 首都の武官，鑲黄正黄旗の滿蒙漢武官及び外省駐在の旗官の賞罰進級等の事務を掌る役所．兵部に屬す．正白鑲白，正紅鑲紅等の旗にも夫々この役所あり〔補2.衙署三：黄旗科〕

— **hošonggo gu** 地を祭るときに用ひる玉．底方にして上圓く色黄〔6.祭祀器用一：黄琮〕

— **jugūn i hetu undu i durungga tetun** 黄道及び經度緯度を計測する器械〔7.儀器：黄道經緯儀〕

— **kiltari** 緞の幅(はゞ)の上に黄塵といふ字を刺繍した旗〔6.鹵簿器用二：黄塵〕

— **kuringge gasha** 黄斑のある Kuringge gasha (五斑蟲)〔補4.鳥九：黄斑〕

— **meihetu** 黄色のやつめうなぎ〔32.河魚二：黄鱓〕

— **nasingga kiru** 幅(はゞ)の上に龍の像を刺繍したる旗〔6.鹵簿器用三：黄龍旗〕

— **nenden ilha** 花名．幹小さくして枝多く，花黄に五瓣〔29.花一：蠟梅花〕

— **nothori** 奇花の名．小棗に似て皮黄色〔補3.異樣果品四：黄皮子〕

— **šenggiri ilha** れんげつつじ．もちつつじ〔29.花三：黄杜鵑花〕

— **sišargan** カナリヤ．'Aisirgan に同じ〔補4.雀四：金絲料〕

— **solohi** いたち．いたちは捕ふるとき大いに暴るゝを以て黄鼠狼の漢名あり〔補4.獸二：黄鼠狼〕

— **turi** 淡黄色の大豆〔彙：黄豆〕

— **šeri** 冥土．よみのくに〔彙：黄泉〕

— **uhumi** 綠頭牌 (Niowanggiyan uju) を包む黄綾の布片〔5.事務二：裹綠頭牌黄綾〕

— **useri** 奇果の名．小石榴に似て色黄色し〔補3.異樣果品四：黄肚子〕

— **yadana** くゞひ〔30.鳥一：黄鵠〕

— **yadanangga kiru** 幅(はゞ)に黄鵠の像を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：黄鵠旗〕

— **yenggetu** いんこ〔30.鳥八：黄丁香鳥〕

Suwe 汝等．貴方等〔18.爾我一：你們〕

Suwele 捜せ．尋ねよ〔5.巡邏：搜〕

Suwelebumbi 捜し檢べさせる．尋ね出させる．尋ね捜させる〔5.巡邏：使搜檢〕

Suwelembi 捜し檢べる．尋ね出す．捜し尋ねる〔5.巡邏：搜檢〕〔彙：與 Baimbi 同〕

Suweleme baicara hafan 考試に携はる役人及び貢院内に搬入する諸物を檢査する官〔4.臣宰十：搜檢官〕

Suwelenembi 行つて捜し檢べる．捜し尋ねて行く〔5.巡邏：去搜檢〕

Suwelenjimbi 來て捜し檢べる．捜し尋ねて來る〔5.巡邏：來搜檢〕

Suwembe 汝等を．汝等をして．あなた方をして〔18.爾我一：把你們〕

Suwenci 汝等より．お前共から．お前共に比べて．あなた方に比べて〔18.爾我一：比你們〕

Suwende 汝等に．あなた方に〔18.爾我一：在你們〕

Suweni 汝等の．貴方達の．お前共の〔18.爾我一：你們的〕

Suweningge 汝等のもの．貴方達のこと〔18.爾我一：是你們的〕

Suya つけ火用の乾いた小柴．つけぎ〔23.烟火二：引柴〕

Suyamu 紡車の鐵針を包んだ蘆の管〔23.紡織二：裹定桿蘆管〕

Suyen **1.** 水中に灰や土を入れて濾し取つた水．あくしる〔18.洗漱：小灰水〕 **2.** 靴紐．靴の皮紐〔24.靴襪：綁勒子鞋的帶子〕 **3.** 水中に酒を造る麴を入れて濾した水〔27.茶酒：麴水〕

Sūna 犬を牽く皮紐〔9.頑獵狗：牽狗皮條〕

Š

Ša 1. 視よ. 眺めよ〔12.觀視一：使瞧〕 2. 山の北側の密林〔29.樹木六：山後密林〕〔彙：與 Šuwa 同〕 3. 織物の紗(紗字の音寫)〔彙：紗〕

— **gecuheri** 一種の絹織物〔彙：縐紗〕

— **juwangduwan** 一種の絹織物〔彙：粧紗〕

— **undurakū** 龍紋のある絹織物の一種〔彙：大立蟒紗〕

Šab seme ひゆッと. さッと (箭の擦れ通る音)〔8.步射二：箭擦過聲〕

— **šib seme** ひゆうひゆうと. ぶんぶんと (多くの箭が飛ぶ音)〔8.步射二：衆箭聲〕

Šaban 皮に鐵の齒をつけ,靴の下に履いて氷雪の上を歩くのに使用するもの. かんじき〔24.靴襪：脚齒〕

Šabargan gidambi 皿に米を盛り頭巾に包んで,病める子供の身體を壓へて病氣を治療する〔19.醫治：包米收驚〕

Šabi 徒弟. 弟子〔7.人一：徒弟〕

Šabjunio 奇獸の名. 小大山に出づ. 猿に似て首白く脚紅し,この獸現はるれば大兵亂あり〔補4.異獸一：朱厭〕

Šabtun 兜の横に垂れて耳を被ふもの. 耳あて〔9.軍器一：遮耳〕

Šabtungga mahala 耳までかくれる冬の帽子〔24.冠帽一：護耳帽〕

Šaburambi 1. 眠くなる. 睡氣を催す〔15.睡臥一：困了〕 2. 急ぎ立ち廻る. 急いでことをする〔15.急忙：張羅〕

Šaburu aisin 白色を帶びた金〔22.貨財一：菜金〕

Šacambi (馬が歩くとき) 後や横を見る〔31.馬匹動作一：肯旁看〕あちらこちらと見廻す. きよろきよろと見廻す〔12.觀視一：眼亂瞧〕

Šacun niongniyaha 雁の一種〔補4.鳥三：鴻鵝〕

Šacungga jahūdai 戰船の名. 船底平らかにして迎浪に乘り上つて進む〔26.船一：沙船〕

Šada ilha 奇花の名. にほひ香しく其種佛寺より移來せしが故にこの名あり. 曼陀羅花に似たり〔補3.異花五：閻提花〕

Šadabumbi 疲れさす. 倦ます〔15.疲倦：使乏〕

Šadacuka 精神を勞した. 心づかひした〔13.愁悶：勞神〕

Šadaha yadaha 疲れ倦んだ. 倦み疲れた〔15.疲倦：乏了〕

Šadahabi 疲れた. 倦んだ〔15.疲倦：乏了〕

Šadali cecike 小鳥の名. 白き眉の石雀眉 (Wehe yadali cecike)〔30.雀二：白眉〕

Šadambi 疲れる. 倦む〔15.疲倦：乏〕

Šadashūn やゝ疲れた. やゝ倦んだ〔15.疲倦：略乏〕

Šadu foyo やがらさう〔29.草二：莎草〕

Šaduhū 奇獸の名. 放岸に出で,白鹿に彷彿として四角あり,水を喜ぶ〔補4.異獸四：夫諸〕

Šag'u 山梨の一種〔彙：沙菓子〕 šago

Šahasi 犀の雌〔補4.獸一：沙犀〕

Šahūkan やゝ白味を帶びた. 微かに白い〔23.采色二：微帶白〕

Šahūn 1. 淡白. 薄白の〔23.采色二：淡白〕 2. 十干のかのえ〔2.時令一：辛〕

— **gūwasihiya** さぎの別名〔補4.鳥二：白鳥〕

— **horonggo gu** 祭祀に使用する玉器の名. 圓平にして中央に四角の孔あり〔6.祭祀器用一：白琥〕

— **hurungge alhacan niyehe** Alhacan niyehe (羅紋鴨) に似て脊の羽白き鴨〔補4.鳥七：砂背羅紋鴨〕

— **saksaha** かさゝぎの類. 普通のかささぎより少しく大きくて尾短かく,羽は灰色に白色を雜ゆ〔30.鳥九：白喜

鵲〕

Šahūrabumbi 寒がらせる．寒くする〔13.寒戰：著涼〕冷やす．冷たくする〔28.生熟：使冷清〕

Šahūraka 冷えた．冷たくなつた〔28.生熟：冷了〕

Šahūrakabi 寒くなつた．冷えた．少々凍つた〔13.寒戰：涼清了〕身體が冷えて風邪を引いた．冷えこんだ〔16.疾病一：感冒〕

Šahūrambi 冷える．冷たくなる〔28.生熟：冷清〕寒くなる．寒さに凍る〔13.寒戰：涼〕

Šahūrun 寒い．寒冷の〔2.時令八：寒〕冷たい．冷えた〔28.生熟：冷〕

— **edun** 冷たい風．寒い風〔1.天文七：寒風〕

— **halhūn bulukan necin** 寒熱温平(藥の性質をいふ)〔彙：寒熱温平乃藥性也〕

— **injembi** 冷笑する．嘲笑する〔13.嘻笑：冷笑〕

— **silenggi** 二月頃に降りる霙〔1.天文六：寒霙〕

— **šeri** 氷の如き冷水の湧出する泉〔2.地輿八：冷泉〕

Šajilaha Fafulaha に同じ．禁止した．禁約した〔5.政事：禁約過〕

Šajilan 1. かばの木〔29.樹木四：樺木〕2. 蟲名．色青くして頭上に一角あり〔32.蟲四：腹牛蟲〕

— **i sirdan** 樺の木を削つて作つた箭〔彙：樺矢．樺木箭〕

Šajin 禁約．禁令．法度．Fafun に同じ．Fafun šajin と連用する〔5.政事：禁約〕

— **yoo** 黴毒の瘡〔16.瘡腫一：楊梅瘡〕

Šajingga ahūn 道士，和尚等の兄弟子(おとご)〔10.人四：師兄〕

— **gasha** 鳥名．頭嘴項背皆黒く，毛は淡褐色，其の鳴き聲彌陀を念ずるが如きものあるを以てこの名あり〔30.鳥十：佛鳥〕

— **karan** 法士が咒を唱へ法術を修める臺．僧道作法の臺〔19.神：法臺〕

— **nomun** 書名〔7.書一：春秋〕

— **sabsikū** 僧衣．法衣〔19.佛一：衲頭〕

Šajintu Tontu (獬豸) の別名〔補4.獸一：任法獸〕

— **mahatun** Tontu mahatun に同じ〔補1.古冠冕二：法冠〕

Šajiri gasha Šajingga gasha に同じ〔補4.鳥九：念佛子〕

Šak 枝葉高く密なる．枝葉茂れる〔29.樹木六：枝葉高密〕

— **seme** 亭々として繁茂せる〔彙：凡樹等物端直高而密密生的〕

— **sik** ぢやらぢやら．しやくしやく(甲の金屬のかちあふ音)〔14.聲響三：甲葉響聲〕しやんしやん．びんびん(馬の强壯なる貌)〔31.馬四動作二：馬强壯〕ぢやんぢやん．りんりん(鈴の音)〔彙：巫人腰鈴撞响聲〕

Šaka 1. 滿洲字 S の左頭のひげ〔7.書八：字撇〕2. 二叉の鐵に木柄をつけた軍器．さすまた〔9.軍器六：叉〕

— **belhere ba** 專ら皇帝使用の船艦網杖等のものを造備する役所〔補2.衙署六：備杖處〕

— **i tokombi** 〔彙：與 Šakalambi 同〕

Šakalabumbi さすまたを使はせる．薙ぎ拂はせる〔彙：使叉叉．使薙〕

Šakalambi 1. 横撃ちにする．薙ぎ拂ふ〔8.征伐四：横撃〕さすまたを用ひる〔8.征伐五：用叉叉〕2. 話を挿む．横から口を入れる〔14.言論二：挿話〕

Šakanaha 氷が張り割けた．凍つて裂けた〔2.時令九：氷凍裂〕

Šakari 果物を刺すのに使用する小形のさすまた．フォーク〔25.器用三：果叉〕

Šakašabumbi 1. 事を廣繁亂雜ならしめる〔5.繁冗：致擁集〕2. 細深に追問させる．深く追求し窮めさせる〔彙：使深求細究言講〕

Šakašambi 1. 事が廣繁亂雜になる〔5.繁冗：擁集〕2. 大勢して詰り窮める．追問窮詰する〔14.言論二：窮詰〕

Šakšaha 1. 轡の上の叉狀鐵〔9.鞍轡二：腮花〕2. あご(こめかみの邊)〔10.人身二：腮〕

Šakšaha i giranggi 魚の腮の外側の硬い骨〔彙：魚腮外硬骨〕
— **maktambi** 面子を投げ棄てる（俗語，無道の人を指して云ふ）〔彙：俗語去臉子乃不理人之貌〕
— **meyen** 右翼隊，左翼隊などの翼隊〔8.兵：翼隊〕
Šakšahalambi 傍より敵を截り殺す．傍より敵陣を截つて進戰する〔8.征伐三：從旁截殺〕
Šakšahalame dosimbi 共々に傍より進んで截り戰ふ〔彙：共從傍進截戰〕
Šakšahūn 前齒の露はれた．口を開き齒の見える〔11.容貌四：露齒〕
Šakšaljambi 齒を出さず齒を見せて笑ふ．につと笑ふ〔13.嬉笑：只是呲著牙笑〕
Šakšan 狡滑なる．狡滑な人〔17.奸邪：狡滑〕
Šakšari 齒を出さず齒を見せて笑へる．につと笑へる〔13.嬉笑：呲著牙笑〕
Šakšarjambi Šakšaljambi に同じ〔13.嬉笑：只是呲著牙笑〕
Šaktalambi 耳を削る〔補1.古刑罰：刵〕
Šala 邊鄙な地方〔2.地輿十四：邊角〕沿邊．へり〔18.散語五：邊沿〕着物の襟や裾のへり〔24.衣服三：衣襟角〕
— **i niyalma** 翼兵．嚮導〔彙：兩頭站立的正完了的人〕
Šalangtu 肥えた去勢牛〔32.牛：肥騸牛〕
Šalar seme たつぷりと．ちやんと（物の一揃ひ充分に整つてゐる貌）〔25.多寡一：物多整齊〕
Šalhūma 1. 色薄白くして白鷺に似たる雉〔補4.鳥二：白雉〕2. 西方に産する雉の名〔補4.鳥六：鴾〕
Šalibuhabi 顏色蒼白になつた〔11.容貌八：臉發白了〕
Šambi 1. 見る．眺める〔12.觀視一：瞧〕2. 冷たい水の中に投ずる〔27.飲食三：凉水投〕3. 獸肉や魚肉を焙つて乾かす〔28.燒炒：肉魚烘乾〕
Šampi 車を牽く牲畜に着けるしりがひ〔32.牲畜器用二：坐鞦〕
— **moo** 牛馬の尻の後の所に鞦(しりがひ)の如くにあてがつた木〔32.牲畜器用二：靠棍〕
— **uše** 牛馬の Šampi moo と尻の所の條帶とを繋ぐ皮の紐〔32.牲畜器用二：拴靠棍皮條〕
Šampilabumbi 牛馬に車輛用のしりがひをつけさせる〔31.套備馬四：使帶靠棍〕
Šampilambi 牛馬に車輛用のしりがひを裝備する〔31.套備馬四：帶靠棍〕
Šan 1. 銃砲の烘藥 (Šan i okto) を裝塡する處〔9.軍器七：火門〕2. 耳〔10.人身二：耳〕3. 櫓床(ろしやう)〔26.船四：槳椿〕
— **dabu** 分配せよ．各々に取らせよ〔12.分給：使算入〕〔彙：與 Ubu gaibu 同〕
— **dasakū** 鵝鳥のわた毛を細い棒の端につけ耳の中を掃除する具．耳拂ひ〔24.飾用物件：耳撣〕
— **derdehun** 耳が外方に向つて開き長くのびた〔11.容貌四：耳輪返〕
— **feteku** 耳掻き〔24.飾用物件：耳挖〕
— **gabtakū** 棟梁と横梁とを繋ぐ八文字形の梁〔21.室家一：挿八梁〕
— **i abdaha** 耳葉．耳殻〔10.人身二：耳朶〕
— **i afaha** Šan i abdaha に同じ〔10.人身二：耳朶〕
— **i da** 耳のつけ根〔10.人身二：耳根〕
— **i delbi** 耳殻のうら側〔10.人身二：耳背〕
— **i fere** 耳の奥底〔10.人身二：耳底〕
— **i feteku** 耳掻き〔彙：耳挖子〕
— **i hešen** 耳殻の緣〔10.人身二：耳輪〕
— **i okto** 銃砲の火つけ口に裝塡する藥．火藥 (Tuwai okto) は砲身内に裝塡する〔9.軍器七：烘藥〕
— **i oktoi hūwaca** 烘藥 (Šan i okto) を容れる牛角製の器〔9.軍器七：烘藥葫蘆〕
— **i sen** 1. 耳環を通すあな〔10.人身

二：耳環眼〕2. 銃砲の烘藥(Šan i okto)を入れる口．火つけ口〔補1.軍器二：火門〕

Šan i suihe Hoho に同じ〔10.人身二：耳垂〕

— **i unggala** 耳のあな〔滿：耳朵眼〕

— **kamcime banjihabi** 耳がうしろにへばりついた．へちやげ耳になつた〔11.容貌四：耳抿〕

— **mila** たち耳〔11.容貌四：耳扎〕

— **sicambi** 大聲に耳が震ふ〔滿：大聲忽震耳〕

— **sulhumbi** 耳の中が膿む〔16.瘡膿一：生耳底〕

Šanaha furdan 地名〔續2.地輿：山海關〕

Šancin 山上の小城〔19.城廓：山寨〕

— **fekumbi** 山寨を勇躍攻撃する〔8.征伐四：跳寨〕

Šang 賞(賞字の音寫)〔滿：賞罰之賞〕

— **koro** 〔滿：賞罰〕

Šangga cirku 角に飾りの耳をつけた枕〔24.鋪蓋：角枕〕

Šanggabumbi 成就させる．完成させる〔26.完成：使成全〕

Šanggaha 成就した．音樂を奏し了つた〔滿：成了．奏的樂始終完了〕

Šanggambi 奏樂が終る〔7.樂三：樂成〕成就する．完成する〔26.完成：成全〕

Šanggame jabduhan 易卦の名〔補1.書二：既濟〕

Šanggan 完成．成就〔26.完成：成〕

— **i elioi** 音律の名．六呂の一〔7.樂二：南呂〕

Šanggara unden 易卦の名〔補1.書二：未濟〕

Šanggatai 全く成就して剩す處のない完全に出來上つた〔26.完成：竟然〕

Šanggin Šunggin gasha (白鵊) の白くして光澤あるもの〔補4.鳥二：白鵝〕

Šanggiyakan 略々白い．稍々白い〔滿：略白〕

Šanggiyakū 合圖の烟．のろし〔23.烟火二：狼烟〕

— **dabumbi** 1. 蚊燻しを燃やす〔滿：點着草薰蚊子〕2. のろしを上げる〔滿：點着狼烟〕

Šanggiyambi (家の中に) 烟がつまる〔23.烟火四：煙烟〕

Šanggiyan 1. けむり〔23.烟火四：烟〕2. 白．白色の〔滿：白黑之白〕3. 十干のかのえ〔滿：庚辛之庚〕

— **alan** 白樺の皮〔滿：白樺皮〕

— **bulehen** つる．しろつる〔滿：仙鶴〕

— **caise** 小麥粉を鹽水で練つて細條とし油で揚げたもの〔滿：鹽水和麵油扎的樹枝〕

— **faha** 白目玉〔滿：白眼珠子〕

— **fekšun** しろみようばん〔滿：白礬〕

— **fulha** どろのき．どろやなぎ〔滿：白楊樹〕

— **halu i sacima** 胡蔴油にて細粉を揚げ，白砂糖を混ぜたものに，更に胡蔴をかけた食物〔滿：蔴油扎細粉和糖芝蔴做了吃〕

— **ihan** 〔滿：白牛〕

— **ija** かつをむし．かが〔滿：小蝦身小色略白〕

— **jiyoo bing** 砂糖を混ぜて烙いた蒸し麵の團子〔滿：和糖烙的蒸麵綽綽〕

— **mursa** しろだいこん〔滿：白蘿蔔〕

— **niongniyaha** 鴈に似て，鴈より小さい小鳥〔滿：白鴈飛起白〕

— **nisiha** 白い小魚〔滿：小魚長一大扎有餘不識者認酸頭白的秧粹〕

— **selbete** 野草の名．根食す可く一莖一葉，花穗の如く點々として生ず〔滿：野草名根可吃一梗獨葉花如穗一點點生者〕

— **silenggi** 白露 (中秋前に降りる露)〔滿：白露乃未中秋之先下者〕

— **suiha** よもぎ．しろよもぎ〔滿：野艾其白色〕

— **teišun** 〔滿：白銅〕

— **ulhu** しろりす〔滿：銀鼠〕

Šanggiyari 蚊燻しの烟〔23.烟花四：燻蚊烟〕

Šanggūhe Kiongguhe の別名〔補4.鳥八：雲鳥〕

Šangka Ashangga mahala (紗帽) の簡

側に耳狀に作りつけたる翅〔補1.古冠冕三：紗帽翅〕
Šangka šombi 人凍傷を病むとき，古銅錢を水に濺らし病める個處をさする〔19.醫治：刮沙〕
— **šufatu** 兩邊に耳の如き翅の作りつけある古冠〔補1.古冠冕三：吏巾〕
Šangkan 火に焙り天日に乾した肉〔27.飯肉三：烤乾肉〕
— **nimaha** Can nimaha に同じ〔32.河魚二：龍肝魚〕
Šangkūra niongniyaha 雁の一種．通常の雁より大きくて嘴が紅い〔30.鳥二：茶雁〕
Šangna 賞めよ．賞賜せよ〔彙：令賞〕
Šangnahan 賞物．賞賜のもの〔3.諭旨：賞〕
Šangnambi 賞賜する．賞める〔8.征伐八：賞賜〕
Šangsin 音の名．五音の一〔7.樂二：商〕
Šangšaha 笊〔25.器用八：笆斗〕
Šanio 奇獸の名．禺(Somnio)に似て四耳あり，現はるれば大水あり〔補4.異獸一：長石〕
Šaniori ilha 奇花の名．藤の屬．葉に角あり，花は鷺に似て秋開く〔補3.異花四：鷺鷥花〕
Šaniri ilha 奇花の名．花白く雅にして，開くこと久しきに從ひ愈々艷色を呈す，暮冬に至つて始めて凋む〔補3.異花二：白菱花〕
Šaniya 麻をたたいて綿とせるもの．麻のわた〔23.絨棉：麻絮〕
Šaniyaha hubtu 粗惡なからむしの着物〔彙：縕袍〕
Šaniyangga mahatu 古の緇布の冠〔補1.古冠冕一：麻冕〕
Šantu 小脛骨〔27.飯肉二：後腿小骨〕
— **giranggi** Šantu に同じ〔彙：牲口小腿後跟下截骨．與 Šantu 同〕
Šanumbi 同じく看る．共々見る．一齊に眺める〔12.觀視一：同瞧〕
Šanyakan 微白の．僅かに白い〔23.采色二：微白〕
Šanyan 1. 白色．白色の〔23.采色二：白〕2. 十干のかのえ〔2.時令一：庚〕3. 季節の名．三伏の伏〔2.時令六：伏〕
— **bulehen** つる．Bulehen に同じ〔30.鳥一：仙鶴〕
— **caise** 小麥粉と鹽水とを混ぜ，練つて細條とし豚油で揚げた食物〔27.餑餑二：白饊子〕
— **faitan** うづらの眉白きもの〔補4.雀二：白眉〕
— **fatha** うづらの足指白きもの〔補4.雀二：玉鐙〕
— **gaha** しろからす〔30.鳥九：白鴉〕
— **garudai** 鳳の白色のもの〔補4.鳥一：化翼〕
— **haksangga efen** 小麥粉に砂糖を混ぜて燒いた團子〔補3.餑餑：白焦餅〕
— **halu i sacima** 細粉を胡蔴油にて揚げ白砂糖を混ぜたものに，更に胡蔴をかけた食物〔補3.餑餑：白糖纏〕
— **ihan** 〔32.牛：白牛〕
— **ija** しろあぶ．普通のあぶより小さくして色白し〔32.蟲三：白蜻虻〕
— **kongolo** 胸部に鈴の如き形狀の白毛あるうづら〔補4.雀二：玉鈴〕
— **kuwecihe** くじやくばと〔補4.鳥九：鷓鴣〕
— **meihetu** しろうなぎ〔32.河魚二：白鰻〕
— **mursa** 大根の一種．やゝ長目にして色白く味辛し，葉も食ひ得る〔27.菜蔬一：水蘿蔔〕
— **nisiha** わたか〔32.河魚三：黃鰜魚〕
— **samsu** 白の亞麻布〔23.布帛六：白漂布〕
— **selbete** 野草の名．一莖一葉，花は穗狀をなす．白花黃花紅花等あり．食用とす〔29.草三：一枝蒿〕
— **sencehe** 頰の白いうづら〔補4.雀二：銀頸〕
— **silenggi** 秋分の前に降りる露〔1.天文六：白露〕
— **siširgan** 小鳥の名．毛僅かに黑くして白斑あり〔補4.雀四：西寧白〕
— **suiha** よもぎ．ひめよもぎ〔29.草三：野艾〕

Šanyan suksuhu むしくひだか〔30.鳥五：白鷺〕
— **šongkon** Šongkon（海青）の類．通常の Šongkon より大きくして尾端純白のもの〔30.鳥四：白海青〕
— **šošontu** 白紬を以て作つた古昔の頭巾〔補1.古冠冕三：接羅〕
— **šungkeri baibula** 白色のさんこうちよう〔補4.鳥九：白鸂〕
— **tasha** 白色の虎〔補4.獣一：虪〕
— **tasha enduri** 牟神の第二十三．西方を掌る凶神〔補2.神三：白虎〕
— **tashangga kiru** 幅上に白虎の像を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：白虎旗〕
— **teišun**〔22.貨財二：白銅〕
— **ulhu** しろりす．又其の皮〔31.獣六：銀鼠〕〔24.皮革一：銀鼠皮〕
— **ulhūma** しろきじ〔30.鳥七：白雉〕
— **ulhūmangga kiru** 幅上に白雉の像を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：白雉旗〕
— **umiyaha** すばく〔32.蟲四：寸白蟲〕
— **weifutu** Weifutu（駮）の別名〔補4.獣一：玆白〕
— **yarha** 白色の豹〔31.獣二：白豹〕
Šanyangga cece 無紋の紗（窓に貼るのに用ひるもの）〔23.布帛四：銀條紗〕
Šapingga alin 盛京邊外にある山名〔補1.地輿一：白平山〕
Šar sembi 惻隠慈愛の心忽然として生ずる貌．惻然と．憫然と〔11.仁義：惻然〕
Šar seme gosire mujilen 惻然として憐む心〔彙：惻隠之心．與 Šar seme mujilen 同〕
Šara fancaha 非常に怒つた．怒氣極點にまで達した〔13.怨恨：氣極了〕
— **nimeme** 痛み極まつた．痛くて堪らぬ〔16.疼痛一：疼極〕
— **yoo** 梅毒の瘡．天然痘の瘡〔彙：楊梅瘡．天疱瘡〕
Šarakabi 鬚髪全く白くなつた〔10.老少一：鬚髪全白了〕
Šarhūmbi 日が照り乍ら雪が降る〔1.天文六：帶日下雪〕
Šari たんぽぽ〔27.菜殽三：曲麻菜〕
— **šari** くつきりと．ぱつと〔彙：央央乃鮮明貌〕
— **sele** 採取して拵えつた鐵．きたひがね〔22.貨財二：熟鐵〕
— **siri** ぱつと（花が開く）〔彙：花開的華灼〕
Šaribumbi 生鐵を打つて錬鐵とさせる〔26.折鎚：使化鐵〕
Šariltu 口中より金を吐く奇獣〔補4.異獣六：舍利〕
Šarimbi 生鐵を打つて錬鐵とする．鐵に錬る〔26.折鎚：化鐵〕
Šaringga dabtangga loho 刃の白い刀〔補1.軍器一：銀練刀〕
Šaringgiyabumbi 無實の罪であることを明らかにさせる．人の無實の罪を雪いでやる〔5.詞訟二：洗冤〕
Šaringgiyambi 無實の罪を明らかにする．雪冤する〔5.詞訟二：雪冤〕（古い箭柄などを磨いて）新しいものゝ様にする〔9.製造軍器三：打磨見新〕
Šarinjambi きよろきよろと眺める．ぱちくりとして見る〔12.觀視二：翻白眼看〕
Šarišambi 魚が水中を腹翻して行く．白い腹を見せて翻泳する〔32.鱗甲肢體：魚翻白〕
Šartan 細い杉の材木〔29.樹木九：杉槁〕
Šaru 天日に晒し乾かした肉片〔27.飯肉三：生乾肉片〕
Šaruk 鳥名．佛教に謂ふ反舌の別名〔補4.雀一：舍羅〕
Šasihalabumbi 掌で顔面を叩かせる〔5.刑罰一：使掌嘴〕
Šasihalambi 掌で顔面を叩く〔5.刑罰一：掌嘴〕
Šasihan あつもの〔27.飯肉四：羹〕
Šasihašambi 掌で以て續け様に顔を叩く〔5.刑罰一：連掌嘴〕
Šasišame dambi 風が一方からつき拔ける様に吹く〔1.天文七：旁風〕
Šašabumbi 攪亂せられる．混雜させられる〔5.繁冗：被攪亂〕一處に混り合はさす〔彙：使混在一處〕

Šašahabi 事の攪亂した．混雜した〔5.繁冗：攪亂住了〕
Šašambi 事を攪亂する．事を仕分けること出來ず一緒に混雜する〔5.繁冗：攪亂〕
Šašan 小豆を擂き，小根菜藜蒿菜などゝ混ぜて汁にしたるもの〔27.飯肉四：豆泥酸菜湯〕
Šašun 1. 火付け木〔23.烟火二：引火木片〕2. ししびしほ〔27.飯肉三：肉醬〕
— **akū** 四分五裂に崩れた．こまごまに破碎した〔25.破壞：稀爛破〕
— **akū meijebuhe** 四分五裂に破碎して了つた．こまごまに壞れて了つた〔彙：稀爛碎了〕
— **akū oho** 四分五裂に壞れた．こまごまになつた〔彙：凡物四分五裂稀爛了〕
Šatan 白砂糖〔27.餜餈三：白糖〕
— **ufa cai** 米を擂き砂糖を混ぜて汁とせるもの〔27.茶酒：茶湯〕
Šatu 金銀器の艶出しをせよ〔彙：令梅銀器之梅．令炸金〕
Šatubumbi 金銀器の艶出しをさせる〔26.鏨磨：使煤炸〕
Šatumbi 金銀製の器物に藥をかけ火に燒いて艶出しする〔26.鏨磨：煤炸〕弓の角製の部分を磨いて艶出しする〔9.製造軍器一：打磨弓面〕
Šature okto 金銀製の器物に艶出しする藥〔彙：灶藥〕
Šaturnahabi 雪の表面が僅かに凍結した〔1.天文六：雪上微凍〕
Šayo 素食する人．精進する人〔19.佛二：喫齋人〕
Šayolambi 素食する．精進する〔19.佛二：持齋〕
Še 1. とび〔30.鳥三：鳳鷹〕2. 赦し(赦字の音寫)〔彙：赦〕3. 社字の音寫〔彙：社日之社〕4. 瑟の廿五絃〔彙：瑟二十五絃〕
Šeben 猞猁猻を捕へる罠〔22.打牲器用四：打猞猁猻的套子〕
Šebnio 西方七宿の第七〔1.天文二：參〕
Šebtehebi 汗が衣服を濕めし透つた〔10.人身八：汗濕透〕水が濕めり透つた〔18.濕潮：濕透了〕
Šehuken 土地の幾分はれやかな．幾分打ち開いた〔2.地輿二：廠亮些〕幾分荒地の〔彙：略曠地．略光地〕
Šehun 土地の打ち開いた．土地のはれやかな〔2.地輿二：廠亮〕地の荒れた〔彙：曠地．光地〕
Šejilebumbi 書物を諳んじさせる．諳誦させる〔7.文教：使背〕
Šejilembi 書物を諳んずる．諳誦する〔7.文學：背書〕
Šekebumbi 雨にしみ透られる．ひどく雨に濡らされる〔13.寒戰：被雨淋透了〕雨水をしみ透らせる〔彙：使雨水濕透〕
Šekehe 屍の强直した．死後强直した〔6.喪服一：屍挺了〕
Šekembi 雨水がしみ透る．雨でひどく濡れる〔13.寒戰：雨淋透了〕水がしみ透る．ひどく濡れる〔18.濕潮：淋透〕
Šelembi 報を思はずして與へる．喜捨する．捨財する〔19.佛二：捨〕
Šelemo 捨てること．喜捨〔彙：捨財捨布施捨茶之捨〕
Šelen 水が淺くたまつて乾かない處．水たまり〔2.地輿八：淺水不乾處〕
Šempi 絲に着色した皮〔24.皮革二：絲斜皮〕
Šempilebumbi 絲皮で緣取らせる〔彙：使夾沿斜皮〕
Šempilembi 絲皮で緣取りをする．緣に絲皮を夾んで飾る〔24.剪縫三：夾斜皮〕
Šeng 樂器の名．笙字の音寫〔彙：笙簫之笙乃以紫竹十七筒子放上簧吹者〕
Šengge 神の如き(人)．よく未來のことを知覺し得る(人)〔11.聰智：神〕
— **saksaha** 人に喜事あるとき，預め鳴いて知らせる鵲〔30.鳥九：鴛鵲〕
Šenggeci ilha 奇花の名．色彩鮮麗にして春より秋まで開く〔補3.異花二：望仙花〕
Šenggehen 鶴の一種．夜半生氣に感じ

て鳴く〔補4.鳥一：仙禽〕
Šenggen moo 靈木の名．此の木五百年を以て春となし五百年を以て秋となす〔補3.異木：冥靈木〕
Šenggetu 獸名．能く萬物の情を解する神獸〔31.獸一：白澤〕
Šenggetungge kiru 幅上に白澤(Šenggetu)の像を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：白澤旗〕
Šenggin 1. 山の川に臨んだ處〔2.地輿四：山額〕2. 人の額(ひたい)〔10.人身一：額〕
— **gaimbi** Tanggilambi に同じ〔13.戯要：撣腦殼〕
— **hiterembi** 額に皺よせる，眉をしかめる〔彙：顰額〕
Šenggintu 古冠の名．四角形にして，之に漆を塗り金を以て飾りたるもの〔補1.古冠冕三：幞頭〕
Šengkiri めどぎ〔29.草一：蓍〕
— **i foyodoro kooli** 吉凶を占驗する儀式の次第を書ける書．朱熹の作れる周易本義内の一篇〔7.書五：筮儀〕
Šengkitu Tontu (羅) の別名〔補4.獸一：神羊〕
Šengsin 風水．陰陽宅地脈氣の象．地脈の接續，福祉來散の象〔2.地輿三：風水〕
— **i siren** 山や地の原(もと)より來たる氣脈〔2.地輿三：龍脈〕
Šentu 織目の粗い紐〔24.巾帶：寬條子〕
Šeo seme dambi ひゆうひゆうと風が吹く(微風と强風との中間の風)〔1.天文七：飄風〕
— **ša** ひゆう．さつさつ．ざわざわ〔14.聲響四：風聲〕
— **šan** 漢語「壽山」の音寫〔彙：宮殿門上壽山〕
— **šeo** ひゆうひゆう．さつさつ(風の音の絶えざる貌)〔14.聲響四：風聲不斷〕
Šeolebumbi 刺繍させる〔24.剪縫一：使繡〕
Šeolembi 刺繍する〔24.剪縫一：繡〕
Šeolen bojiri ilha 菊の花の一種．色紫に瓣參差し，蕊出でゝ細きこと繍の如きものあり〔29.花五：繡線菊花〕
Šercembi 高處に登つて驚き懼れる．足下が震ふ〔13.怕懼二：登高驚懼〕
Šerekebi 顏色が眞白になつた〔11.容貌八：白淨〕金銀鐵等のものが紅く燒けた〔彙：金銀鐵等物燒紅了〕
Šerembumbi 金鐵のものを紅く燒かせる〔26.折鎚：使燒紅〕
Šerembi 金鐵のものを紅く燒く〔26.折鎚：燒紅〕
Šerentumbi 產氣づく：陣痛が起る〔13.生產：臨產〕
Šerke 六穗〔26.車轎二：狗拉的爬力〕
Šeri 泉．泉水〔2.地輿八：泉〕
Šeribumbi 强請られる．騙られる〔17.强凌：被訛詐〕
Šerimbi 强請る．騙る〔17.强凌：訛詐〕
Šerin 兜の前額に打ちつけた鐵〔9.軍器一：掩額〕貴人の帽子の前額に打ちつけた黃金製の佛〔24.冠帽二：金佛頭〕
Šeringgiyembi 鐵などを煉る．燒きを入れる〔26.折鎚：煆煉〕
Šerinju 好んで訛詐を行ふもの．かたり．ゆすり〔17.强凌：訛頭〕
Šersen inggali せきれいの一種．眉黑くして胸紫に，尾に白斑あるもの〔補4.雀四：點尾〕
Šertu 銅又は錫で骨製の背式骨(Gacuha)型に作つた玩具〔19.戯具一：銅錫馬兒〕
— **alin** 盛京海城縣にある山の名〔補1.地輿一：泉山〕
Šešebumbi 螫される．螫させる〔彙：被螫．使螫〕
Šešembi (蜂などが) 螫す〔32.蟲動：螫〕
Šešempe 蜂の一種．家の椽などに巢作り，くまばちに似てやゝ小さい〔32.蟲三：螞蜂〕
Šešeri umiyaha むかで〔32.蟲三：蜈蚣〕
Šeterekebi 雨に逢つて草木の葉が萎つた〔29.花六：薦葉支生〕
Šeteršembi 重きものを持ち乘ね腰を曲げて歩く〔14.行走三：腰壓彎了〕

Šetuhen 樂器の名. 琴より大きく二十五絃あり〔7.樂器二：瑟〕
Šetumbi 蛇が水を渡る〔32.龍蛇：蛇渡水〕
Šeyehen ulhūma 白色の雉. Cagatu ulhūma に同じ〔補4.鳥六：雉雉〕
Šeyeke 雀の一種. 大きさ家雀に似て，頸下に白色の毛あり〔30.雀五：白脖頸〕
Šeyeken 少しく白い. 略々白い〔23.采色二：略白〕
Šeyelhen 鳥名. Šanyan hoohan (白莊) の小さきもの〔30.鳥二：白鶴子〕
Šeyen 雪白の. 眞白の〔23.采色二：雪白〕
— **gu** 白色の玉〔補3.貨財：白玉〕
— **hiyaban** 布の一種. Hiyaban (夏布) よりも色白く薄き布〔23.布帛五：洗白〕
Ši 〔彙：一百二十斤〕
Šidz 諸侯の適子. 宗室第二品の爵にあるもの〔3.君一：世子〕
Šilgiyan 北方七宿の第六〔1.天文二：室〕
Šilio ざくろ〔彙：柘榴〕
Šo 削れ. 剝げ〔28.剝割二：刮〕
— **niyecen** 股引のまち〔24.衣服三：褲襠〕
Šobkošombi つまみ食ひする. 手づかみにして食ふ〔彙：應用筋用匙吃之物乃以手抓或戳着吃〕
Šobkošome 1. 人でなし！ろくでなし奴！(惡罵の語)〔16.咒罵：很沒體面〕 2. つまみ食ひし. 手づかみで食ひ〔27.飲食三：抓著喫〕
— **derakū** ろくでなし！恥知らずめ！Šobkošome に同じ〔彙：下賤不堪龌龊乃惡罵之語〕
— **jembi** Šobkošombi に同じ〔彙：應用筋用匙吃之物乃小樣手抓或戳着吃〕
Šobumbi 毛を剝がせる. 毛を削り取らせる〔24.熟皮革：使刮毛〕〔28.剝割二：使刮毛〕
Šodan ilha しやくやくの花〔29.花四：芍藥花〕
Šodobumbi 1. (網の中の魚を) 魚すくひの籃ですくひ取らせる〔22.打牲：使筅網中魚〕 2. 馬を快走させる〔31.馬匹馳走一：使大顛〕
Šodokū 1. あちこち遊び廻る人. 遊び廻ることの好きな人〔15.去來：好閒走人〕 2. 網にかゝつた魚をすくひ取る籃. 魚すくひの籃〔22.打牲器用一：魚筅子〕
Šodombi 1. 事なくして歩き廻る. 遊行する〔15.去來：閒走〕 2. 網にかゝつた魚を魚すくひの籃ですくひ取る〔22.打牲：筅網中魚〕 3. 馬が快走する〔31.馬匹馳走一：大顛〕
Šofor 徒らに忙しい. 忙しくて落付きのない〔15.急忙：徒忙〕
— **seme** そそくさと. せかせかと〔彙：急燥人做事不來皇皇急急動作之貌〕
Šoforo 一と摑み〔22.衡量一：撮〕
— **akū** 馬が滑る所を歩いて滑りが止らぬ. 足がかりが無い〔31.馬匹動作一：馬不把滑〕
— **cecike** Julargingge ulgiyan cecike (南翠) の別名〔補4.雀三：天狗〕
— **sain** 馬が滑る所を歩いて滑りを止める. 足がかりがある〔31.馬匹動作一：馬把滑〕
Šoforobumbi 抓らせる〔5.爭鬪二：使抓〕
Šoforombi 抓る〔5.爭鬪二：抓〕指の尖でつまみ取る〔15.拿放：抓〕引つ摑む. 摑みかゝる〔30.飛禽動息二：抓住〕
Šoforonjimbi 抓りに來る. 來て抓る〔彙：來抓〕
Šoforšombi 無暗矢鱈とつまみ取る〔15.拿放：亂抓〕無茶苦茶に抓る〔彙：指尖亂抓〕
Šofoyon 心窄く急燥なる人〔17.暴虐：窄迫〕
Šoge 圓形の金銀塊〔22.貨財一：錁子〕
Šoha 削つた. 剝いだ〔彙：刮了〕
Šohadambi 1. 人に頼つてことをする. 獨行し得ない〔17.懦弱二：靠人做事〕(車などの) さき引きする〔26.車轎二：拉套〕
Šoho 卵の白味〔31.牲畜孳生：蛋清〕

Šokin niyehe Bigan i niyehe (野鴈) の別名〔補4.鳥七：少卿〕
Šokšohon 1. 尖つた峯〔2.地輿五：尖峯〕 2. 怒つて口尖をとがらした. Šuk-šuhun に同じ〔13.怒惱：撅着嘴〕
Šokšolime 物を量るとき,堅く詰め込んで量る. 充分に量り込む〔22.衡量二：尖量〕
Šokū かんな〔32.牲畜器用一：鉋子〕
— **amdun** 魚腸で作つたにかわ. にべ〔26.膠粘：刮鰾〕
Šoli (射た箭が) 半途にして落下したる〔8.步射二：半不別〕投げた骨式骨(戯具) が半ばで落ちてしまつた〔19.賭戯：半不到〕
Šolingho giyamun 滿洲の地名〔續2.地輿：小凌河站〕
Šolo 1. 燒け〔28.燒炒：燒〕 2. 暇. 隙間〔2.時令二：間空〕
— **akū** 間暇がない. すいてゐる時が無い〔彙：無間空. 不得間〕
— **baimbi** ひまを偸む〔彙：尋空兒. 偸間. 告假〕
— **tuciburakū** 勉强して空いた時間を殘さない. 手すきの時間を出さない〔12.黽勉：不留間空〕
Šolobumbi 肉を燒かせる. 炙らせる〔28.燒炒：使燒炙〕
Šolombi 肉を燒く. 炙る〔23.燒炒：燒炙〕
Šolon 小刀に合はせて鞘に收め佩用する小形のさすまた〔9.軍器六：刀上小叉〕鐵や木で作り物をさすに用ひるさすまた〔22.工匠器用三：叉子〕肉を燒くのに使用する鐵のさすまた〔25.器用五：肉叉子〕
Šolonggo 1. 狩りの際,先づよく樣子を見定めて矢を放つ人〔9.畋獵三：從容〕 2. 事をなして快速に完結する人〔11.德藝：做事快完者〕 3. 物の尖つたさき. 棗の核の兩端の尖り〔彙：凡物的尖子. 棗核兩頭尖之尖子〕
— **mafuta** 二歲の鹿〔31.獸三：二歲鹿〕
— **sacikū** 凍地や硬地を掘る尖鐵の器具〔22.工匠器用二：尖鍬頭〕
Šolontu 角ある小龍. みづち〔32.龍.蛇：虬〕
— **cohoro** 兩耳虬(ㄑㄧㄡˊ)の如く,身體に豹の如き斑紋のある馬〔31.馬匹一：九花虬〕
Šombi 毛を削る. 毛をむく. 削ぎ取る〔24.熟皮革：刮毛〕〔28.剝割二：刮毛〕(高く突出した處などを)削る. 切り取る〔26.塞決：刮〕
Šongge inenggi 〔2.時令七：朔日〕
Šongkon 鷹の類. 形 Itulhen(兎鶻) に似て快飛し, Garu (天鷲) 等の鳥を捕へ食ふ〔30.鳥四：海靑〕
— **gasha** しらたか. Šongkoro の別名〔補4.鳥四：海靑鳥〕
— **ija** あぶの一種. 普通のあぶより較々細長く,よく蒼蠅を捕へて食ふ〔32.蟲三：蠅虎兒〕
Šongkoro 東海に產するしらたか〔30.鳥四：海東靑〕
Šonumbi 人各々に毛をむしる. 人々一齊に毛をけづる〔28.剝割二：一齊刮毛〕
Šoo kumun 皇帝の登殿回宮の際に奏する樂〔彙：皇上登殿回宮奏的樂共八段〕
Šooboo Šoofu (少傅) の次の封爵〔3.封表一：少保〕
Šoofu Šooši (少師) の次の封爵〔3.封表一：少傅〕
Šooge 鳥の翅の幾分小さくして硬き翎〔30.羽族肢體一：翅稍小硬翎〕
Šooši Taiboo (太保) の次の封爵〔3.封表一：少師〕
Šor seme ばかばかと (馬が快走する)〔31.馬匹馳走一：消顚〕
— **seme agambi** 瀟々と雨が降る. さつさつと雨が降る〔1.天文五：雨瀟瀟〕
— **šar** ざあざあ. どうどう〔14.聲響四：大風雨聲〕
Šordai Alcu に同じ〔19.戯具一：針兒〕
Šorengge 削り平らにする處の. 鉋をかける處の〔彙：鉋的〕
Šorgi 催促せよ. 督迫せよ〔12.催逼：使催〕

Šorgibuha 水勢によつて打ち壊された〔2.地輿十：被水沖潮了〕
Šorgibumbi 1. 水勢によつて打ち壊される〔2.地輿十：被水沖潮〕 2. 人をして強く督促せしめる．迫らせる〔12.催逼：使人催〕 3. 孔をあけさせる〔26.鏤鐫：使錐眼〕
Šorgimbi 1. 放つ箭も放つ箭も只一處を射當てる〔8.步射一：箭箭中一處〕 2. 強く督促する．迫る〔12.催逼：催〕 3. 孔をあける．孔をきる〔26.鏤鐫：錐眼〕
Šorgime gaimbi （少しく缺けたものを）督促强要する〔彙：少欠的東西催迫姜要〕
Šorginambi 督促に行く．行つてさし迫る〔12.催逼：去催〕
Šorgindumbi Šorginumbi 各人一齊に督促する．一齊にさし迫る〔12.催逼：一齊催〕
Šorginjimbi 督促に來る．來てさし迫る〔12.催逼：來催〕
Šorho 雛の鑐〔31.諸畜三：雛鑐〕
Šori 米などを盛る草編みの容器〔25.器用七：草囤〕
Šorime halhūn 焦熱の．日光燒くが如き〔2.時令八：焦熱〕
Šoro 筐．籠．ざる〔25.器用七：筐子〕
— **sele** 刀の一種．Loho（腰刀）より短かく眞直にして鍔がない〔9.軍器六：小順刀〕
Šoron 雉の雛〔30.鳥七：鷄〕鴨や鷲鳥の雛〔31.諸畜三：笋鴨鵝〕
Šoronggo dalangga 竹籠の中に石を詰め堤防の用に供するもの〔補1.地輿二：竹絡堵〕
Šosiki 1. 心躁急なる（人）〔17.暴虐：急躁〕 2. いたちに似て縞のある鼠〔31.獸六：五道眉〕
Šosin 1. 戸のつぼ穴に挿入する突出部．戸の轉軸〔21.室家二：轉軸〕 2. Jokū（剪刀）の横に挿し込んだ鐵片〔32.牲畜器用一：剪刀丁〕
Šositun Muktun（地鼠）の別名〔補4.獸二：犎鼠〕
Šošobumbi 1. 頭髪を束ね結ばせる〔24.梳粧：使紮頭髪〕 2. 總計させる．總合させる〔彙：使總目總合一處〕
Šošohabi 1. 總計總合した〔彙：煞總了〕 2. 鷹が糞した〔彙：鷹撒屎打條了〕
Šošohon 1. 總數．總計〔7.數目一：總數〕總體．總綱〔彙：總綱〕 2. 副書副本などの副〔彙：副〕
Šošokū 薄く打ちたる金銀を圓く作りて支那の女が髻(もとどり)に指すもの〔24.飾用物件：髮髻〕
Šošombi 1. 總計する．總合する．總勘定する〔7.數目一：會數〕 2. 女の頭髪を編みくるくると卷く．髪を束ね結ぶ〔24.梳粧：紮頭髪〕 3. 鷹が糞をする〔30.羽族肢體二：鷹打條〕
Šošon 1. 婦人の束髪．もとどり〔10.人身一：匝髻〕 2. 鷹の糞塊〔30.羽族肢體二：鷹條〕
— **i weren** 鐵線にて作れる婦人の頭飾り〔24.飾用物件：鈿子〕
Šošonggo mahala 古代束髪の帽〔補1.古冠冕二：弁〕
Šoyobumbi 縮める．皺を作る〔18.抽展：使抽縮〕
Šoyohobi 年老いて身の縮かまつた〔10.老少一：抽抽了〕
Šoyombi 縮む．皺が出來る〔18.抽展：抽縮〕
Šoyoshūn 少しく縮んだ．稍々皺の出來た〔18.抽展：略抽縮〕
Šu 1. 文．文章〔7.文學：文〕 2. 讀書人．書通の人〔彙：讀書通了之人〕 3.〔彙：天文〕 4. 硝石．硝藥〔22.貨財二：硝〕
— **be badarambure temgetu** 緞子に數文旌といふ文字を刺繍した旌〔6.鹵簿器用二：數文旌〕
— **ferkingge i hafu kimcin i bithe be sirame weilere kuren** 續文獻通考の編輯館〔補2.衙署七：續文獻通考館〕
— **fiyelen**〔7.書六：文章〕
— **i belheku** 紙墨筆硯等の文房具〔7.文學什物二：書文房〕
— **i suihon i bithe icihiyara ku-**

ren 清代諸文人の詩詞歌賦文章等の類を蒐集編纂する役所〔20.部院十一：文穎館〕
Šu i temgetu 印章．印形〔7.文學什物二：圖書〕
— ilha 蓮の花〔29.花二：蓮花〕
— ilhai hitha 蓮の實〔28.果品三：蓮蓬〕
— imiyaha tanggin 貢院内二層堂の名〔20.部院十：寨奎堂〕
— jamuri ilha ばらの屬．花瓣層重し形蓮花に似たり〔29.花三：荷花薔薇花〕
— yangse 〔彙：文章〕
— yangse gemun hecen de wesihun ojoro mudan 樂章の名．筵宴を張り茶を進むるとき奏する宮廷音樂〔補1.樂：文物京華盛之章〕
Šuburekebi 馬の蹄が縮んだ（馬蹄の病氣）〔32.馬畜殘疾二：蹄縮〕
Šuburembi 日にあたつて萎む〔21.農工三：晒藏〕馬の蹄が縮みいたむ〔彙：馬牲口等蹄子觸鐵壞了〕
Šuburi 萎縮せる人．他人任せの人〔17.懦弱二：委隨人〕
Šuburšembi 1. 如何せんかと恐れる〔13.生產：恐怕怎麼樣了〕萎縮する．人のまゝになる〔17.懦弱二：委隨〕2. 仔細に小兒を愛撫する〔彙：仔細愛惜小核子〕
Šuceri ilha 奇花の名．四月紫色の花を開く〔補3.異花二：紫羅襴花〕
Šuci 知つたか振りする人〔18.厭惡：充知道的〕
Šucilembi 知つたか振りする〔18.厭惡：充知道〕
Šudacan yali 切り肉に油を加へて燒いた料理〔27.飯肉三：夾油燒的肉片〕
Šudangga coko 雞の別名〔補4.諸畜二：諭音〕
Šudembi 詞を飾つて人を弄ぶ〔17.奸邪：舞文〕術策を弄する〔18.厭惡：穿鑿〕
Šudesi 役所の書吏．書記〔10.人二：書吏〕
— be baicara kunggeri 司道府州縣に奉職する書吏，即ち典吏の任免等を辨理する役所．吏工部に屬す〔補2.衙署一：典吏科〕
— be kadalara kunggeri 一司廳に呈出すべき草案類の辨理事務に與る役所．吏兵工部皆有り〔補2.衙署一：都吏科〕
— oron i kunggeri 各官署の書吏任命事務を掌る役所．工部に屬す〔補2.衙署四：書缺科〕
Šudu （皮についた肉を）削れ〔24.熟皮革：劇〕
— eriku ほうき〔25.器用二：掃箒〕
Šudubuha 皮膚を傷つけた．きり傷を作つた〔16.傷痕：割傷〕削らせた．削られた〔彙：使鏟了．被鏟了〕
Šudubumbi （皮の裏についた肉を）削り取らせる〔24.熟皮革：使劇皮板〕削らせる．平らにさせる〔26.塞決：使劇〕
Šudumbi （皮の裏についた肉を）削り取る〔24.熟皮革：劇皮板〕削る．平らにする〔26.塞決：劇〕
Šuduran ilha 奇花の名．花黃にして朶小，暮春に開く〔補3.異花五：小黃渠花〕
Šudure jahūdai 泥運びの船〔26.船二：垡船〕
Šufa 1. 寄せよ．蒐めよ〔5.官差：攢〕2. 綾などで作つた頭巾〔彙：包頭乃鳥綾縐紗者〕
Šufabumbi 1. 衆人よりして均しく取り立てさせる．寄せ集めさせる．〔5.官差：使攢湊〕2. 蚊などに咬まれる．螫される〔彙：被蚊虫等咬〕
Šufambi 1. 衆人よりして均しく取り立てる．寄せ集める〔5.官差：攢湊〕2. 蚤蚊などが咬む．螫す〔32.蟲動：叮〕
Šufan 顏面などの皺〔10.人身一：皺紋〕着物などのしわ．ひだ〔24.衣服四：摺子〕
— jafambi （衣服の）ひだを取る．しわをつける〔24.剪縫一：拏摺子〕
Šufanahabi 老いて皺が出來た〔10.老少一：有了皺紋〕

Šufangga salu 頬鬚(ほおひげ)〔10.人身三：連鬚部〕
Šufari 婦人用の頭巾〔24.飾用物件：包頭〕
Šufasu 絲綢を以て巾に作り髪を裹むに用ひるもの〔補1.古冠冕三：綢巾〕
Šufatu 布に角を有たせるやうに作り頭髪を裹むに使用するもの〔補1.古冠冕三：巾〕
Šufin 葛粉．蓮根の粉〔27.茶酒：藕粉〕
Šugi 1. 凡て人體内の液體物〔10.人身七：津液〕2. 瘡内の膿み汁〔16.瘡膿二：清膿〕3. 樹液〔29.樹木九：樹津〕4. 果物を煮，蜜に合はせて食ふ様にした食物〔28.果品四：蜜餞果泥〕
Šugile 漆を塗れ〔26.油畫：漆〕
Šugilebumbi 漆を塗らせる〔26.油畫：使上漆〕
Šugilembi 漆を塗る〔26.油畫：上漆〕
Šugin うるし〔26.油畫：漆水〕
— **dosimbuha iletu kiyoo** 色々の花や龍を彫り金の漆を塗りつけた轎〔26.車轎一：塡漆亮轎〕
— **moo** うるしの樹〔29.樹木二：漆樹〕
Šugingge hasi しぶがき〔補3.異様果品一：柹柿〕
Šuhudu 楛の木．荊に似て赤く矢柄を作るに用ひる〔29.樹木四：小赤檀木〕
Šuhuri 蕎麥の皮殻〔28.米穀二：蕎麥皮〕
— **sihambi** かさぶたが取れる．かさが落ちる（蕎麥の皮殻がぼろぼろ落ちるに譬へていふ）〔16.瘡膿二：落痂〕
Šujin 孔雀の別名〔補4.鳥二：文禽〕
Šukibumbi 好からざる處に頼らせる〔16.折磨：使傾害〕
Šukilabumbi 拳で殿らせる〔5.爭鬪二：使拳搗〕
Šukilambi 1. 拳で殿る〔5.爭鬪二：拳搗〕2. (牛羊等角のある動物が) 頭で撞く〔32.牛：頂〕
Šukimbi 好からざる所に頼りかゝる．みだりな處を頼りとする〔16.折磨：傾害〕
Šukišambi 1. 拳で亂打する〔5.爭鬪二：拳亂搗〕2. 牛などが彼此互ひに頭を撞き合ふ〔32.牛：相頂〕
Šukšuhun 怒りて口先を尖らした．ふーと怒りの息を吐く〔13.怒惱：撅着嘴〕
Šukume 兩脚を伸して（坐る）〔14.坐立一：伸腿坐〕
Šukun 弓身と弓筈とを合着するため，弓筈にある挿し込みあな〔9.製造軍器二：弓消插口凹處〕
Šula 膿汁(うみ)〔16.瘡膿二：黃水〕
Šulaburu yengguhe 頭赤く頸胸の邊り薄紅色の鸚鵡〔補4.鳥八：連青鸚鵡〕
Šulderi tubihe 果名．形無果花に似て，味は栗の如く甘し〔28.果品二：文光果〕
Šulebumbi 稅を取り立てさせる〔5.官差：使征收〕
Šulehelembi 稅を取り立てる〔5.官差：賦斂〕
Šulehen 民より徵收する錢糧〔5.官差：賦〕
Šulembi 稅を取り立てる〔5.官差：征收〕
Šulhe なし〔28.果品一：梨〕
— **i belge** 梨のしん〔彙：梨渣子〕
Šulheri 奇果の名．形梨に似て秋熟す，色黃にして味酸甜〔補3.異様果品二：劉子〕
Šulhuhe (魚鳥などが) 網の目を漏れた〔22.打牲：凡物漏網〕
Šulhū 柳條にて作り衣服等をいれるかご．やなぎ箱〔25.器用七：柳箱〕
Šulihun 頭の尖つた〔10.人身一：頭尖〕尖形の．尖つた〔25.諸物形狀一：尖〕
— **enggemu** 鞍の一種．鞍輪の上方尖れるもの〔9.鞍轡一：尖腦鞍〕
— **gūlha** 先の尖つた靴〔24.靴襪：尖靴〕
— **yoro** 先端尖り五面，根元は圓く面毎に二個の孔ある鏑矢の鏃．四面八眼のものもある〔9.軍器五：尖鵰頭〕
Šulimbi 小鳥が鳴き噪ぐ〔14.聲響六：鳥雀噪〕
Šulin cecike Gūlin cecike (黃鸝) の別名〔補4.雀二：商庚〕

Šulmen 野獸の肉のすじ〔27.飯肉三：野獸肉條〕
Šulu こめかみの毛〔10.人身一：鬢角〕
Šulubuha 大いに苦しめ挫かれた．ひどく虐めつけられた〔16.折磨：受折辱了〕
Šulubumbi 苦しめ挫かれる．身に苦難を受ける〔16.折磨：受折辱〕
Šulumbi 挫き苦しめる〔16.折磨：折辱〕
Šuman 馬の陰莖〔31.馬匹肢體一：外腎〕
Šumbi 文に通ずる．學習進む．事理に通曉する〔7.文學：通文〕
Šumci 水中に沒し去うて踪のない．深く水中に入り込んだ〔2.地輿十二：深入〕
Šumgan 1. 火藥を容れる器〔9.軍器七：大藥葫蘆〕2. 金銀をとかす坩堝(るつぼ)〔22.工匠器用一：銀礶子〕
— **gocimbi** 火の鑷を抜く（人身上寒疾の所あれば火を以て鑷内に放ち之を患處に合はせて抜くことをいふ）〔19.醫治：拔火罐〕
Šumgiya gasha Cunggai (水花寇) の別名〔補4.鳥九：紫蔦鳥〕
Šumikan 些さか深い．稍々深い〔彙：略深些〕
Šumin 深み．深さ．深き〔2.地輿七：深〕
— **micihiyan** 深淺．深淺の〔彙：深淺〕
Šumpulu 手足のよりかゝり處がない〔16.殘缺：手足不得力〕
Šun 日．太陽〔1.天文一：日〕
— **be tuwara kemneku** 太陽を觀測して節氣を定むる器〔7.儀器：測日圭表〕
— **buncuhūn** 日の色淡き．太陽のぼやけた〔1.天文一：日色淡〕
— **dabsiha** 日が全く西に傾いた．日がすつかり傾いた〔1.天文一：日平西〕
— **dalikū i fiyenten** 種々の旌旗日扇幹鞭等の造備收貯を管理する役所〔20.部院八：扇手司〕
— **dosika** 日が入つた．日がかくれた〔1.天文一：日入〕
— **dositala** 終日．ひねもす〔2.時令七：終日〕
— **dulimba abka de eldere mudan** 軍功ある將軍大臣等に宴を賜ふとき奏する宮中樂の名〔補1.樂：日麗中天之章〕
— **helmen tuwara tanggin** 舊欽天館内にあり，日の長短を計測する處〔20.部院七：測影堂〕
— **i kemun** 日影によつて時刻を驗する器．日時計〔7.儀器：日晷〕
— **i kiru** 幅上に日像を刺繡した旗〔6.鹵簿器用四：日旗〕
— **jembi** 日食が起きる．日が虧ける〔1.天文一：日食〕
— **kelfike** 日がやゝ傾いた．日やゝ斜めの〔1.天文一：日微斜〕
— **kūwaraha** 日の暈〔1.天文一：日暈〕
— **mukdeke** 日が昇つた．日が高く出た〔1.天文一：日升〕
— **niyancame** 日昇りて暖かく．陽暖かく〔1.天文一：日暖〕
— **šangka** 太陽の側傍に出たる虹〔1.天文一：日珥〕
— **tucike** 日が出た．日が東の空に現はれた〔1.天文一：日出〕
— **tuheke** 日が落ちた〔彙：日落了〕
— **tuhetele** 終日．日が落ちるまで〔彙：終日．至於日落．一日到晚．與 Šuntuhuni 同．Šun yamjitala 同〕
— **urhuhe** 日が大いに傾いた．日大いに斜の（Šun dabsiha 程は傾かない）〔1.天文一：日大斜〕
Šunehe 〔21.田地：荒地〕
Šunembi 田地が荒れる〔21.農工三：田荒〕
Šung šang ぐうぐう（鼾聲）〔14.聲響二：睡着出氣聲〕
Šungga ilha 桂の花．木樨花〔29.花三：桂花〕
Šunggaci ilha 奇花の名．枝葉桂に似て冬も亦黄色とならず，花は五瓣にして三月開く〔補3.異花三：春桂花〕
Šunggayan 身體細長の．細くして背

の高い〔11.容貌二：高條〕樹の細くして高く枝の無い〔29.樹木九：樹細高〕

Šungge moo 樹名．山嶺に出じ，木紋堅細にして色黄潤〔補3.樹木一：文木〕

— tubihe 果名．味蓮の實に似，一房中に數子を生ず〔28.果品二：文官果〕

Šunggeri 雅びな．優雅な〔11.性情二：雅〕

Šunggidei Junggina coko (錦雞) の別名〔補4.鳥五：文鵐〕

Šunggin gasha しろきじ．かのこどり〔30.鳥一：白鷴〕

Šunggiya 宮樂の正しきもの〔7.書二：雅〕

Šunggiyada ilha 水仙の花〔29.花五：水仙花〕

Šunggiyambi 縱横亂雜あたりかまはず拋げ散らす〔15.擲撒：横竪亂拋〕

Šungke 心内の明通せる〔彙：心内明通〕

Šungkebi 1. 大いに學に通じた〔7.文學：文理大通〕2. 小兒長じて漸く美はしくなつた〔10.老少二：出調了〕

Šungkeci ilha 蘭の一種．四川に產し其の香よく數十步に聞ゆ〔29.花一：伊蘭〕

Šungkeri gūwara みみづくの一種〔補4.鳥四：蒿〕

— hiyan らん〔29.花一：蘭草〕

— ilha らんの花〔29.花一：蘭花〕

Šungku 唇の下の凹み〔10.人身三：唇下窪處〕

Šungkubumbi 器物などに凹みを作る〔25.孔裂：使塌陷〕凹まされる〔彙：被撞凹進去〕

Šungkulu 唇の下のひげ〔10.人身三：髭鬚〕

Šungkumbi 落ち込む．(器物などに) 凹みが出來る．凹む〔25.孔裂：塌陷〕

Šungkutu 凹んだ眼．奥眼．奥眼の人〔11.容貌三：窪孔眼〕

Šungšun šangšan うぶうふと (鼻音混りに話す)〔14.言論四：說話鼻音狀〕

Šuntuhuni Šun dositala に同じ．終日．ひねもす〔2.時令七：整日〕

Šurdebuku 錨の上げ下ろしに使用する船の滑車〔26.船三：滑車〕

Šurdebumbi 旋轉させる．まはす〔15.搖動：使旋轉〕取り圍ませる〔彙：使圍圍〕取り圍まれる．取り卷かれる〔彙：被繞住〕

Šurdebure tatakū 深所より高所に水を汲み上げる水車〔21.農器：大水車〕

Šurdehen cincilan i usiha be acabure durungga tetun 赤道及び週天度數時刻等を刻める天文儀器の名〔7.儀器：璣衡撫辰儀〕

Šurdeku 1. 水の大渦を卷く所〔2.地輿九：大水淀處〕2. 銅鐵銀等で作つた鷹の脚環〔9.頑鷹狗：轉軸〕3. 帶環(かけ)〔24.巾帶：帶圈〕

— muke 渦まく水〔彙：湍水〕

Šurdembi 1. 旋轉する．まはる〔15.搖動：旋轉〕取り圍む．取り卷く〔彙：週圍．攢繞之〕2. (滿洲字の文書を書くとき先づ始めに) 圓を書く〔7.書七：字頭圈圈〕3. 臥したる獸の周圍を取り卷き走つて獸を脅かす．獸を取り圍む〔9.畋獵二：趕迷臥獸〕

Šurdere dangse i ba 戶部に屬し，鉛銅及び金錢の出拂ひ高，納入高を記せる夫々の帳簿を交換調査する役所〔補2.衙署二：循還處〕

— dangse i boo 工部に屬し，出給の銅鉛錫の總高及び出納の金錢の高を記帳する等の事務を司る役所〔補2.衙署四：循還房〕

— nanggin 囘廊〔21.室家一：遊廊〕

— šusihe 公務交替の際授受する處の證據の木牌〔5.事務四：傳牌〕

— usiha i fukjingga hergen 篆書體の名．宋の景公の時，火星心宿の間に入りたれど景公に三德ありしにより火星遷移すること三度，子韋乃ち其狀を見，火星退移の跡に倣つて作りし書體といふ〔補1.書三：轉宿篆〕

Šurga 大風吹き塵或は雪などの捲き起つた〔1.天文七：風揸起的沙雪〕

Šurgambi 大風の爲砂や雪が吹き飛ぶ

〔1. 天文七：風攪沙雪〕
Šurgan 三歳の虎〔31. 獣二：三歳虎〕
— **tasha** Šurgan に同じ〔彙：三歳的虎〕
Šurgebumbi 寒さに戦かせる〔13. 寒戦：致打戦〕戦慄させる〔彙：使戦慄〕
Šurgecembi 戦慄する．打ち戦く〔13. 怕懼二：打戦〕病んで打ち顫ふ〔16. 疼痛二：打顫〕寒さに身ぶるひする〔彙：冷了打顫兒〕
Šurgembi 寒さに戦く〔13. 寒戦：戦〕
Šurgeme dargime 戦々兢々として．手足打ち戦いて〔13. 怕懼二：戦兢兢〕
— **geleme** 恐れ慄ひ．戦き懼れ〔彙：戦慄．戦兢．戦懼〕
— **šurgeme geleme geleme** 戦々兢々として．大いに恐れ戦いて〔彙：戦戦兢兢〕
Šurha 二歳の野猪〔31. 獣四：二歳野猪〕
Šurhū 雛の雛〔補4. 諸畜二：鵝〕
Šurhūn 雛の雛較々長じたるもの〔補4. 諸畜二：倕〕
Šurteku Cohoto に同じ〔19. 戯具一：銅錫餅子〕
— **yoo** 痔瘻〔16. 瘡癰一：漏瘡〕
Šuru 1. 棒に紙片をつけ神がかりするとき手に持つもの．御幣の類〔6. 祭祀器用二：拴紙條筒杆〕2. (子供がずつしりと重くて) 手にきく．手を壓へる〔10. 老少二：體重〕3. さんご〔22. 貨財一：珊瑚〕4. 長さの一單位．親指と人さし指とを伸しただけの長さ〔25. 量度：一虎口〕5. ねぢよ．ねぢり切れ〔26. 鐵鎖：鎖〕
— **cecike** 小鳥の名．百舌に似，頭に冠あり，身黒く腰細く雄は尾長く雌は尾短し，鳴くを好みよく闘ふ〔30. 雀三：珊瑚鳥〕
Šurubuha sele ねじ止め．ねじ釘〔彙：鏇甲上釘的鏇的鐵〕
Šurubumbi ねじらせる．ねじり切らせる〔26. 鐵鎖：使鏇做〕
Šuruci 船頭．漕ぎ手〔10. 人二：水手〕
Šurukū 1. ろくろを取りつける臺〔22. 工匠器用二：鏇牀〕2. 船の水棹(さお)〔26. 船四：篙〕
Šurumbi 1. ねじる．ねじり切る〔26. 鐵鎖：鏇做〕2. 水棹をとる．船をやる〔26. 船四：使篙〕
Šurun うづらの雛〔30. 雀二：鴉〕
Šusai 童生より選抜せる科擧最初の及第者〔4. 臣宰十一：生員〕
Šusebuku 輜車の覆ひの圍りにしかけたる水流し．とゆ〔26. 間隔：走水〕
Šuseme tatambi 鏃の方を執つて箭袋の中から箭を取り出す〔8. 歩射二：從下抽箭〕
— **wasibuha** 高處から下した．險しい處を下らせた〔14. 行走二：自高處縋下來〕
— **wasika** 高處から下り來たつた．險處をつたひ下りた〔14. 行走二：從高處溜下來〕
Šusha 獣名．大きさ狗に似，毛に貍の如き斑紋がある〔補4. 獣一：貙〕
Šusi ilha 奇花の名．花色黄にして葉は萱の葉に似たり〔補3. 異花二：水西花〕
Šusige baicambi Šusihe baicambi に同じ〔彙：查功牌子〕
Šusiha 鞭(處刑用又は乘馬用の)〔5. 刑罰一：鞭子〕〔9. 鞍轡二：鞭子〕
— **guwembumbi** 鞭を鳴らす(衆人を靜謐ならしめる爲にして，天子登殿の儀禮)〔6. 禮儀：鳴鞭〕
Šusihalabumbi 鞭打たせる〔5. 刑罰一：使鞭打〕
Šusihalambi 鞭打つ．鞭をあてる〔5. 刑罰一：鞭打〕〔8. 騎射：打鞭〕
Šusihašambi 鞭で亂打する〔5. 刑罰一：用鞭亂打〕
Šusihe 木を削り上に字を書くもの．牌．木牌〔7. 書三：牌子〕
— **baicambi** 戦の功牌を驗べて位階を定める〔8. 征伐八：查功牌〕
Šusihiyebumbi 人をして唆かさす〔17. 譴謫：使挑唆〕人にか唆される〔彙：被人挑唆〕
Šusihiyembi 唆かす〔17. 譴謫：挑唆〕密かに構へる〔彙：構．反間〕
Šusilebumbi のみで鑿らせる．うがたせる〔彙：使鑿〕

Šusilembi のみで鑿る. うがつ〔26. 蔵砍：鑿〕
Šusin のみ〔22. 工匠器用一：鑿子〕
Šusu 外地の公務に派遣する官人官兵に供給する食物物什〔4. 臣宰十四：廩給〕〔27. 飯肉四：廩給〕〔彙：與 Ula šusu 同〕
Šušembi 箱の中のものを探し出す. 箱を開く〔12. 詳驗：檢找物件〕
Šušu 1. 紫. 紫色の〔23. 采色一：紫〕 2. きび〔28. 米穀一：高粱〕
— **calihūn** 小鳥の名. 紅色のもの淡紅色のもの二種あり, すずめより較々大〔30. 雀四：剉黍鳥〕
— **jilhangga ilha** 奇花の名. 幹高く葉尖りて朶小さく, 花は紫色にして集り開く〔補3. 異花四：絳顱花〕
— **sogi** あまのり. 海苔〔27. 菜殽二：紫菜〕
— **sukdungga usiha** 天の端に現はれる星の名〔1. 天文二：紫炁星〕
— **šakšaha** 頬の紫色なるうづら〔補4. 雀二：紫乂〕
— **šaša** ひそひそと（話をする）〔14. 言論四：背人說話狀〕
— **ujungga alhacan niyehe** Alhacan niyehe（羅紋鴨）に似て頭部の紫色なる鴨〔補4. 鳥七：赭頭羅紋鴨〕
— **yarukū** 繩で高粱の穗をしばり河中に沈めておいて蟹を誘ひ捕ふるもの〔22. 打牲器用二：捕蟹誘子〕
Šušun ilha 奇花の名. 花叢生し其の葉は菜とし食ふ可し〔補3. 異花二：紫花兒〕
Šušungge kiltan 文字刺繍等なき紫色のはた〔6. 鹵簿器用二：紫纛〕
Šušunggiyambi 耳の邊りでひそひそと云ふ. ひそひそ話しする〔14. 言論三：耳邊低語〕
Šušurgan ilha すはう. むらさきしきぶ. 花すはう〔29. 花三：紫荊花〕
Šušuri 奇果の名. 色紫に味甜く形は烏梅に似たり〔補3. 異樣果品三：多南子〕
— **mašari** こせこせ（する）〔18. 鄙瑣：瑣瑣氣氣〕
Šutucin 序. 序文. 序論〔7. 書二：序〕
Šutugi ilha 奇花の名. 葉長く尖り, 花は五瓣にして紫色, 宛も紫雲の如し〔補3. 異花三：紫雲花〕
Šutuha fulhun 音律の名. 十二律呂の一〔7. 樂二：林鐘〕
Šutuhabi （小供が）漸く長じた. 漸く大きくなつた〔10. 老少二：漸長大了〕
Šuwa 山の背後の密林〔29. 樹木六：山後密林〕
Šuwai seme すらりと. すんなりと（身體細くして高き貌）〔11. 容貌五：細高挑〕すくすくと（樹直くして高き貌）〔29. 樹木九：樹直高〕
Šuwak びゆッ. しゆッ（鞭を打つ音）〔14. 聲響二：打鞭聲〕
— **sik** びゆッびゆッ. しゆッしゆッ（衆人一勢に鞭打つ音）〔14. 聲響二：齊打鞭聲〕
Šuwar しゆッ. さッ. びゆッ（鞘から勢猛しく刀を抜く音）〔14. 聲響一：猛拔刀聲〕しゆッしゆッ（蛇などが急速に走る音）〔14. 聲響六：蟒蛇急過聲〕〔32. 龍蛇：蛇蟒急過聲〕
— **sir seme** するすると（素早く樹に上り下りする貌）〔14. 行走四：上樹下樹伶便〕
Šuwarang seme すらりと. ほつそりと（物の形の細長き貌）〔25. 諸物形狀一：細長〕
Šuwarkiyalambi 杖を以て打ち責める. 杖罪に處する〔5. 刑罰二：杖責〕
Šuwarkiyan 1. 罪人を打つ杖〔5. 刑罰二：杖〕 2. 葉の落ちた細い木〔29. 樹木九：荊條棍〕
— **unumbi** 責めを負ふ〔彙：負荊〕
Šuwaršuwan 奇獸の名. 流沙水の裏に出で, 三獸にして一身をなし, よく飛ぶ, 色黒し〔補4. 異獸五：雙雙〕
Šuwase 帳の圍りの水を流す所. 傘のまはりのたれ〔彙：帳幔上的走水. 黃傘藍傘周圍垂下的沿子〕
Šuwe 豁達の. 直き. 眞直に〔彙：豁達之豁. 直. 竟. 是〕
— **hafu** 事理. 明らけ通して蔵ふ處のない〔7. 文學：貫通〕
— **uihe beri** 弓の一種. 圓形の骨や角

を兩方の弓筈にはめ作れるもの〔9.軍器三：通面弓〕

Šuyen （水を汲み又は魚を捕ふるため）河湖の氷にあけた穴〔2.時令九：氷窟窿〕

Šūrgeku 機の糸わく事（わく事，わく車の支へ木等をこめた總稱）〔23.紡織二：綫車〕

xix

T

Ta 小羊〔彙：達〕

— **seme** 間斷なく．休みなく〔15.去來：常來往〕

— **seme yabumbi** 休みなく歩く〔彙：不間斷常常行走〕

— **ti seme** たったと．よいしよよいしよと（多勢が一齊に努力する様）〔26.營造：一齊努力做〕

Tab たぶ．ぽたり（水滴の音）〔14.聲響四：水點聲〕

— **seme** 1. 弓弦が弓架（Tehke）にはまる音〔8.步射二：弦落墊聲〕2. ぽいと．びよいと（跳び越す形容）〔14.行走一：跳過〕

— **tib** ぽとりぽとり（滴の音）〔14.聲響四：水點滴聲〕

Taba Tokai に同じ〔19.戲具一：嵌兒〕

Tabarambi 誤る．違へる．思ひ違ひをする〔17.過失：錯謬〕

Tabcilabumbi 1. 弓を射た時に弦が顔や袖に擦れる〔8.步射二：弓弦打臉打袖〕2. 分捕らせる．分捕られる〔彙：被擄．使擄〕

Tabcilambi 分捕る．鹵獲する〔8.征伐八：放搶〕

Tabcilanambi 分捕りに行く〔8.征伐八：去搶〕

Tabcilandumbi Tabcilanumbi 各自が分捕る．一齊に鹵獲する〔8.征伐八：一齊搶〕

Tabcin 鹵獲．分捕〔8.征伐八：搶〕

Tabsitambi 盛にお喋りをする．べちゃべちゃ喋る〔14.言論二：强詞〕〔17.輕狂：强詞〕

Tabtašambi 粗忽に話す．亂暴に話す〔17.輕狂：言語粗魯〕

Tabu 綻びを縫へ．弓に弦をはれ〔彙：令人絆住．令弓拿上弓〕

Tabukū 1. 馬具の皮紐等につけた留め金〔9.鞍轡一：小鏈子〕帶の留め金〔彙：帶鈎子〕2. 鳥を捕る罠の舌〔彙：打鳥雀的夾子打籠上的消息〕

— **umiyesun** 一端に留め金，他端に皮をつけた帶〔24.巾帶：鏈子帶〕

Tabumbi 1. 弓に弦をかける〔9.製造軍器一：上弓〕2. 綻び，破れを縫ふ．かゞる〔24.剪縫二：縞〕3.（角力で）足を相手の踵にかけて搦ます〔8.撩跤一：勾〕4. わなの舌を支へる〔22.打牲：支打牲器〕5. 猛禽が不意に小鳥を摑む〔30.飛禽動息二：籠住〕6. 引合にして語る．結びつけて話す〔彙：說話牽扯連着人說〕

Tabume 結びつけて．引合にして〔14.言論二：牽扯〕

— **goholome** 上に同じ〔14.言論二：牽扯〕

— **goholome gisurembi** 引合にだし，ひつかゝりをつけて話す．連關して話す〔彙：牽扯鈎連人說〕

Tabure asu Eyebuku asu に同じ〔22.打牲器用一：黏網〕

Taburi 重量の單位．彈指（Jalari）の十分の一〔補3.衡量：剎那〕

Tabusitara gisun 逃げ口上〔彙：遁辭〕

Tubušambi 1. 窮して何彼と口實を設ける．窮して無茶苦茶をいふ〔14.言論二：亂牽扯〕2.（綻び，破れを）かゞる．粗く縫ひ繕ふ〔24.剪縫二：縫聯〕

Taci 學べ〔彙：令學〕
Tacibukū 教師．師匠〔4.臣宰五：教習〕
— **hafan** 教官．官學の教師〔彙：教官．學官〕
Tacibumbi 教へる．學ばせる．教へ込む〔7.文教：指教〕
Tacibure fungnehen 六品以下の官に封ずる辭令書〔3.封表一：勅命〕
— **hese** 天子が官吏を戒飭する勅書〔3.論旨：勅〕
Taciha hafan 翰林院，太常寺等に屬する博士官〔4.臣宰四：博士〕
— **hafan i 'tinggin** 太常寺に屬する廳の名．諸祭禮の故實を掌る，又他にも此の名の廳あり〔20.部院六：博士廳〕
Tacihabi 慣れた．習ひ性となつた〔17.淫蕩：慣了〕
Tacihiyabumbi 1. 教訓させる．教示させる〔7.文教：使教訓〕2. 馬の調教をさせる〔彙：使教馬騾駒〕
Tacihiyambi 1. 教訓する．教示する〔5.政事：教訓〕〔7.文教：教訓〕2. 調教する〔32.騎馳一：訓練馬〕
Tacihiyan 政教．教訓．訓言〔5.政事：教〕〔7.文教：教〕 教導の文(書經の典謨訓誥誓命の訓)〔7.書一：訓〕
— **wen** 〔彙：教化〕
Tacikū 學校〔20.部院一：學〕
— **de enggelembi** (天子が)國子監に臨幸して書を講ずる〔6.禮儀：臨雍〕
Tacikūi baita be kadalara hafan 一省の學務を掌る官〔4.臣宰十：提督學政〕
— **baita be kadalara hafan i yamun** 提督學政の居る役所〔20.部院十：學政衙門〕
— **boo** 校舍〔彙：學房．官學〕
— **juse** 學生．官學の學生〔10.人一：學生〕
— **yamun** 各省の鄉試を行ふ役所〔20.部院十：學院〕
Tacimbi 學ぶ．習ふ〔7.文學：學習〕
Tacimsi 國子監の學生〔4.臣宰十一：監生〕
Tacin 1. 教へ．學問．學業〔7.文學：學〕2. 風習．慣習〔5.政事：習俗〕
— **be badarambure tanggin** 國子監西廊の第二の堂名〔補2.衙署六：廣業堂〕
Tacinambi 學びに行く．行つて習ふ〔7.文學：去學〕
Tacindumbi Tacinumbi 各自學ぶ．共に學ぶ〔7.文學：一齊學〕
Tacinjimbi 學びに來る．來て習ふ〔7.文學：來學〕
Tacinun 1. 風習．氣風〔5.政事：風氣〕2. 歌謠(詩經に謂ふ「國風」)〔7.書二：風〕
Tacire urse 學生〔彙：學者〕
Tadumbi ひきちぎる〔26.殘毀：扯斷〕
Tadurambi 互に摑み合ふて喧嘩する〔5.爭鬪一：揪扯嚷鬧〕
Tafa 上れ〔彙：令上去〕
Tafambi 上る．登る〔14.行走二：上高〕
Tafambumbi 上らせる〔14.行走二：使上高〕
Tafanambi 上つて行く〔14.行走二：去上高〕
Tafandumbi Tafanumbi 一齊に上る〔14.行走二：一齊上〕
Tafanjimbi 上つて來る〔14.行走二：來上高〕
Tafi 絡んだ．魚が鈎にかゝつた〔彙：絆住．魚上了鈎〕
Tafitu 一角の奇獸．天下一統の際に現れるといふ〔補4.異獸六：一角獸〕
Tafukū 階段〔20.壇廟：階級〕
— **de uyun jergi terkin bi** 階段が九級ある〔彙：臺階都九〕
— **i daibihan** 階段の兩縁の石．階段の袖石〔20.壇廟：垂帶〕
— **i dergi ergide** 東側の階段に(東側の階段は主人が昇る)〔彙：阼階〕
Tafula 勸めよ．諫めよ〔5.安慰：勸〕
Tafulabumbi 勸めさせる．諫めさせる〔5.安慰：使諫勸〕
Tafulambi 忠告する．勸告する．諫める〔5.安慰：諫勸〕
Tafulan 忠告．諫言〔5.安慰：諫〕

Tafumbi Tafambi に同じ〔14.行走二：上高〕
Tafuršambi 大に發奮する(Fafuršambi より强い)〔12.勇健：狠發奮〕
Tagiri cecike Simari cecike (子規)の別名〔補4.雀五：鶗鴂〕
Taha 絡んだ．かゝつた〔彙：絆住〕
Tahabi (罠,網,釣針等に) かゝつた〔22.打牲：打住了〕
Tahalabumbi 蹄鐵を打たせる〔32.馬畜殘疾二：使釘鐵蹄〕
Tahalambi 蹄鐵を打つ〔32.馬畜殘疾二：釘鐵蹄〕
Tahan 1. 淺瀨の飛び石〔19.街道：脚踏石〕2. 底に木を打ちつけた皮靴(雨天用)〔24.靴襪：木屐〕3. 支那の婦人靴の底に打ちつけた木〔24.靴襪：高底〕4. 蹄鐵〔32.牲畜器用二：鐵蹄子〕
Tahi 野生の馬(普通の馬より脚が細い)〔31.獸一：野馬〕
Tahūra しほふき貝(數種類あり，この肉の中に Tana 東珠を生ず)〔32.河魚四：蛤蜊〕
— **efen** 潮吹貝に似た形の肉饅頭〔27.餑餑一：扁食〕
— **notho** 1. 潮吹貝の殼〔32.鱗甲肢體：蛤蜊殼〕2.〔22.貨財二：螺鈿〕
Tahūrangga fiyen 潮吹貝の殼を碎いた粉〔22.貨財二：蛤粉〕
Tai Giyamunに同じ〔彙：台〕
— **tebumbi** Giyamun tebumbi に同じ〔彙：坐臺．安臺．乃行兵沿途安台傳報也〕
Taiboo 官位名．三公の一〔3.封表一：太保〕
Taibu 梁．うつばり〔21.室家一：栿〕
Taidzi šooboo 正二品の衙名〔3.封表一：太子少保〕
— **šoofu** 正二品の衙名〔3.封表一：太子少傅〕
— **šooši** 正二品の衙名〔3.封表一：太子少師〕
— **taiboo** 從一品の衙名〔3.封表一：太子太保〕
— **taifu** 從一品の衙名〔3.封表一：太子太傅〕
— **taiši** 從一品の衙名〔3.封表一：太子太師〕
— **usiha** 北極星の近くにある星の名〔1.天文二：太子星〕
Taifin 太平．安らかな〔11.禋祉：太平〕
— **i elbeku** 滿洲の地名〔續2.地輿：蓋平縣即蓋州〕
— **yendebure calu** 京城內に置かれた戶部の糧米倉の名〔20.部院十二：興平倉〕
Taifingga ilha 花名．桃花に似て四瓣，紅と白との雜つた花〔補3.異花二：太平瑞聖花〕
Taifintu cecike びんがてう〔30.雀一：太平雀〕
Taifu 正一品の衙名．三公の一〔3.封表一：太傅〕
Taigiyan 宦官．宦者の長官〔10.人一：太監〕
Taiha 獵犬の一種．耳と尾に長毛密生す〔31.諸畜二：長毛細狗〕
Taihūwa まながつを〔32.海魚一：鯧魚〕
Taijingga ilha 月氏國に產する一種の水草〔補3.異花四：戎王子花〕
Tailahi 奇獸の名．全身に長毛生ず〔補4.異獸六：肆〕
Taili 酒盃をのせる小皿．杯臺〔25.器用三：托碟〕
Taimin 木の火箸〔25.器用七：撥火棍〕
Taimpa たにし〔32.河魚四：小螺螄〕
Taimpari niyehe Borboki niyehe の別名〔補4.鳥七：蜺鴨〕
Tairan 獵師が深山に入る時に樹木に刻む目標〔29.樹木十：樹上砍的刻〕
— **gaimbi** つゝら折れを登る．曲りくねり乍ら登る〔14.行走二：斜遶着上〕
— **gaime sacimbi** 木に目標を刻みつける〔彙：砍樹爲記〕
Taisui enduri 歲神の首位に在つて諸神を統べる神〔補2.神二：太歲〕
Taiši 正一品の衙名．三公の一〔3.封表一：太師〕
Taiyūn かねたゝき〔32.海魚二：鮀

魚〕

Taji 幼兒が駄々をこねること〔10.幼少二：喃氣〕

Tajirambi (幼兒が)駄々をこねる〔17.輕狂：誵氣〕

Tak こつこつ．かたかた(堅い物を叩く音)〔14.聲響一：敲實物聲〕

— **seme** こつこつと〔彙：凡拍打堅實物之响聲〕

— **tik** 1. ぱちりぱちり(碁を打つ音)〔14.聲響一：着棋聲〕2. かつかつ(木を切る音)〔14.聲響四：砍木聲〕

Taka 1. 認めよ．見知れ〔12.觀視二：認〕2. 暫く．少しの間〔18.散語五：暫且〕

Takabumbi 認めさせる．見知らせる．見知られる〔12.觀視二：使認〕

Takambi 認める．見知る〔12.觀視二：認得〕

Takan からしなに似た野菜．濕地に生ず〔27.菜蔬三：野芥菜〕

Takanambi 行つて認める．行つて見知る〔12.觀視二：去認〕

Takandumbi Takanumbi 共々に認める〔12.觀視二：一齊認〕

Takanjimbi 來て認める．來て見知る〔12.觀視二：來認〕

Takasu 一寸止れ．暫く待て〔18.散語五：且住〕

Takciha filan いちゐの木で作つた，角面を貼らぬ弓〔9.軍器三：木弓〕

Takdaka たかぶつた．得意になつた．思ひ上つた〔17.驕矜：得意傲慢〕

Takintu 奇獸名．體は馬に似，一角を有し能く火を避くといふ〔補4.異獸二：臆疏〕

Takitu むかばき．皮の膝あて(Tobgiya dalikū を蓋ふもの)〔24.靴襪：皮護膝〕

Takiya 腿〔30.羽族肢體二：鳥膝〕膝〔31.馬匹肢體一：膝〕

Taksiburakū beri 夏后氏が用ひたといふ良弓の名〔補1.軍器一：羸弱弓〕

Taksimbi 存續する．長らへる〔彙：存亡之存．存亡卽 Taksire gukure 也〕

Takta moo いちゐ〔29.樹木三：紫杉〕

Taktan moo 樹名．葉は Ingga moo (豫)の葉に似，樹皮は白と綠の斑が雜つたもの〔補3 樹木二：駮馬木〕

Taktu 高樓．樓閣〔20.宮殿：樓〕

— **amban** 武備院の長官〔4.臣宰一：武備院卿〕

Takū 魚名．頭大にして圓形，細鱗，三種あれど識別し難く，肉肥えたものは味よし〔32.河魚一：鯿頭〕

Takūlu Takasu に同じ〔18.散語五：且住〕

Takūrabumbi 遣はされる．派遣の命を受ける〔5.官差：奉差〕

Takūrabure hafan 七品の京官〔4.臣宰六：司務〕

— **hafan i tinggin** 官署名．各部院に置かれ，胥吏差役を監督し，外省衙門より來る文書を收納する〔20.部院三：司務廳〕

Takūrakū 倉，庫，廠等の長官〔4.臣宰六：大使〕

Takūrambi 派遣する．人を遣はす〔5.官差：差遣〕

Takūran 差遣．使者〔5.官差：差使〕

— **be aliha fyenten** 禮部の舊官署名．諸外國の使者等を接對する〔20.部院四：行人司〕

— **be aliha hafan** 古代の官名．他國よりの使者を接待する官〔補1.古大臣官員：行人〕

Takūrandumbi 互に人を派遣する．共々に遣はす〔5.官差：互相遣人〕

Takūrsi 鹽政，督撫等の下に勤務する吏員〔10.人二：承差〕

Takūršabumbi 走り使ひをさせられる．小用を言附けられる〔5.官差：被使喚〕

Takūršambi 走り使ひをさせる．小用を言付ける〔5.官差：使喚〕

Takūršara dahalji 走り使ひ．使丁〔續2.人：聽用長隨〕

— **hafan** 公用に派遣する爲に備へた官〔4.臣宰十三：供用官〕

Tala 1. 路のある野原〔2.地輿二：曠野〕2. 野路〔彙：野道〕3. 植物の行

間の空處〔7.書八：行旁空處〕4.（卵等を）平たくやけ〔28.燒炒：攤〕

Talabumbi 1.人を遣して家産を沒收する〔5.刑罰二：使抄沒〕家産を沒收される〔彙：被抄家〕2.（卵等を）平たくのばして燒かせる〔28.燒炒：使攤〕

Talambi 1.罪人の家産を官に沒收する〔5.刑罰二：抄沒〕2.（卵，うどん粉等を）平たくのばして燒く．（膏藥等を）平たくのばす〔彙：攤煎餅蛋膏藥等物之攤〕

Talame durimbi 白晝掠奪する〔16.竊奪：抄搶〕

— **tukiyembi** （角力の手）相手を引摑んで上に持上げ，內股に脚をかけて外に拂ふ〔8.撩跤二：豁擋〕

Talbi 未だ使役せぬ若牛〔32.牛：未使的牛〕

Talbu 織機の經絲を上下に動かす裝置〔23.紡織二：線綜子〕

Talfa みぎは〔2.地輿八：汀〕

Talfari 水淺く船底が地に擦れる（こと）〔26.船四：船底擦地〕

Talgambi 魚を半燒にして食ふ〔28.燒炒：魚燒半熟〕

Talgan Emu talgan を見よ

Talgibumbi 皮を鞣させる〔24.熟皮革：使鉚皮〕

Talgikū 皮を鞣す木の刀〔22.工匠器用二：熟皮木鉚刀〕

Talgimbi 1.愚弄する．騙して慰み物にする〔17.欺哄：愚弄〕2.Talgikū で皮を鞣す〔24.熟皮革：鉚皮〕

Talgiyan singgeri 奇獸名．形は Kurima に似て顏に斑なし〔補4.異獸四：獃鼠〕

Talihūn 躊躇して定まらぬ（こと），心が定らぬ（こと）〔17.猜疑：荒唐〕

Talihūnjambi 意向が定まらぬ．遲疑逡巡する〔17.猜疑：不定〕

Tališambi 1.水にあたつて反射した光線がゆらめく〔1.天文一：回光亂動〕2.眼珠がきよろきよろと動く〔11.容貌三：眼珠亂轉〕

Talkiyambi 稻妻が閃く〔1.天文四：打閃〕

Talkiyan 電光．稻妻〔1.天文四：電〕

— **fularilambi** 雲見えず遠方で電光が閃く〔1.天文四：露水閃〕

— **gerilambi** 稻妻が時々に見える〔1.天文四：電光微閃〕

— **giltarilambi** 稻妻が强く閃く〔1.天文四：電光閃灼〕

— **tališambi** 稻妻がしきりに閃く〔1.天文四：電光接連〕

Talmahan 秋霧〔1.天文七：游絲〕

Talmaka 霧がおりた〔1.天文四：下霧〕

Talmambi 霧がおりる〔彙：下霧〕

Talman 〔1.天文四：霧〕

— **hetehe** 霧が收まつた〔1.天文四：霧收〕

— **mukdeke** 霧が湧き起つた〔1.天文四：霧高起〕

— **tehe** 霧が沈下した〔1.天文四：霧沉〕

Taltan 1.卓子の緣の溝，或は彫刻〔25.器用二：桌邊起線〕2.獨木舟の船舷〔26.船三：船舷〕

— **tatambi** 卓子の緣に溝，彫刻をつける〔彙：桌子邊起芽子〕

Talu たまさかに．折々〔15.去來：偶然〕

— **de emgeri jihe** たまさかに一度來た〔彙：間或間來一次〕

— **de emke bi** 時には一つある〔彙：間或有一個〕

— **jugūn** 小道．捷徑〔彙：小路〕

Tama 1.牛舌魚（ひらめに似た魚）〔32.海魚二：鞋底魚〕2.器に盛れ〔28.舀盛：盛〕一ケ所にまとめよ．兵をまとめて行け〔彙：令將撒的物收于一處．令收兵一處走〕

Tamabumbi 1.器に盛らせる〔28.舀盛：使盛著〕2.一ケ所にまとめさせる〔彙：使收一處〕

Tamalimbi （角力で）倒れさうになつて又持ちこたへる〔8.撩跤二：扎掙住〕氣を取り直す（恐怖の爲取亂した後で）〔彙：心怕了不能收拾收管己身〕

Tamambi 1.（飯等を）器に盛る〔28.

盛：盛著〕2. 散らばつた物を一所にまとめる〔21. 收藏：撿收〕卷狩の勢子の列の亂れた所を急いで整へさせる〔9. 畋獵二：收攏〕大兵を一所にまとめて率ゐ行く〔彙：收大兵一處行走〕

Taman 去勢した雄豚〔31. 諸畜一：豶兒〕

Tambi かゝる. 絡む〔彙：掛住. 絆住〕

Tame afame 足が物に引掛り打突かり乍ら〔14. 行走四：磕絆〕

Tamin 毛皮の毛の尖〔彙：凡獸皮張之毛梢〕

— **acabumbi** 毛並の向を揃へる〔彙：合對毛梢〕

— **acanaha** 毛並の向きが揃つた〔24. 皮革二：毛梢對齊〕

Tamišambi 唇で味はつて見る〔27. 飲食一：叭嗒嘴嘻〕

Tampin 壺（茶，酒等の飲物を容れる）〔25. 器用三：茶酒壺〕

— **efen** 粳米の粉を小さな型に撒きちらし，中に餡を入れて蒸した饅頭〔27. 餑餑一：餡兒糕〕

— **i boo** 觀象台の漏壺を据えた室〔20. 部院七：壺室〕

Tamse 酒壺（Malu よりも小さい）〔25. 器用六：罐子〕

Tamtan 魚名. 形 Tubehe に似て鰭は赤い〔32. 海魚一：海島魚〕

Tamun 闊門湖〔彙：關東長白山上之湖名周圍八十里〕

Tan 河の沙洲〔2. 地輿九：河灘〕

Tana 1. 潮吹貝の中に生ずる眞珠（滿洲混同江の邊の特產）〔22. 貨財一：東珠〕2. 韮の一種. 鹽地に生じ羊に食はす〔27. 菜穀二：小野韭〕

Tanangga ilha 奇花名. 五瓣を有し，細い莖の尖に珠粒を生ず〔補3. 異花三：蕊珠花〕

Tang seme 1. かんかんに. こちこちに（物の非常に堅く且緻密な形容）〔28. 軟硬：堅硬〕2. すらすらと. 流暢に〔14. 言論一：熟練〕

— **seme gecehe** かんかんに凍つた〔2. 時令九：氷凍堅硬〕

— **seme gisurembi** 流暢に話す〔彙：滿語說的很熟溜〕

— **tang** かんかん（鐘の音）〔14. 聲響三：鐘聲〕

— **ting** 1. とんてんかん（鐵を打つ音）〔14. 聲響一：打鐵聲〕2. とーんとーん（立木を切る音）〔14. 聲響四：伐木聲〕

Tanggambi 弓の軟い部分に筋を敷き添える〔9. 製造軍器一：輭處鋪筋〕

Tanggibumbi 物の下敷になる. 支へになる〔22. 捆堆：擱著〕

Tanggikū 木を曲げて兩端に紐を通し，弓弦を張るに用ひる道具〔9. 製造軍器二：弓拿子〕

— **i bukdambi** Tanggikū にて弓を曲げる〔彙：拿弓拿子〕

Tanggilakū 彈丸を彈き出す，弓弝のない弓〔9. 軍器三：彈弓〕

Tanggilambi 1. 彈弓で彈丸を彈き出す〔8. 步射一：打彈弓〕2. 指で額を彈いて戲れる〔13. 戲耍：撣腦殼〕

Tanggime 言葉を換へて. 云ひ直して〔14. 言論二：借詞遮飾〕

Tanggin 各部院の高官の事務室〔20. 部院一：堂〕

— **i alibun** 屬官が堂官の校閱を仰ぐ爲に呈出する書類〔5. 事務三：堂呈〕

— **i temgetu ejere boo** 堂呈に記號を附ける事を掌る役所（工部に屬す）〔補2. 衙署四：堂號房〕

Tanggingge boo 戶部に屬し，諸司の草稿を受取つて堂上官に見せる事等を掌る所〔補2. 衙署二：堂房〕

Tanggiri 1. 指に吊して打つ，銅製の皿の如き形の打樂器〔7. 樂器一：鏡〕2. 鋲の頭を作る鐵具〔22. 工匠器用一：釘帽子〕

— **ilha** 百日紅の一種〔補3. 異花五：滿堂春〕

Tanggiya 漆，油を塗り重ねよ〔26. 油畫：重漆油〕

Tanggiyabumbi 油，漆を重ねて塗らす〔26. 油畫：使重罩漆油〕

Tanggiyambi 油，漆を塗り重ねる〔26. 油畫：重罩漆油〕

Tanggū 〔7. 數目二：百〕

Tanggū bethe umiyaha むかで〔32.蟲一：百足蟲〕
— **ging** Gerendere ging に同じ〔2.時令八：亮鐘〕
— **hala** 人民．國民〔10.人一：百姓〕
— **tumen**〔7.數目二：百萬〕
Tanggūci 百番目〔彙：第一百〕
Tanggūha 頸の白い小さな鳥〔30.鳥九：寒鴉〕
Tanggūli 1. 正面の座敷．居間．廣間(正房 Cin i boo の中央の部屋)〔21.室家一：明間〕2. 帳房(Maikan)を一つずきに連ねて立て，夫々入口を內側に向けて開けるもの〔24.甚屋帳房：帳房穿堂〕
Tanggūnggeri 百回〔彙：百遭．百次〕
Tanggūri ilha さるすべり〔29.花四：百日紅花〕
Tanggūt hergenehe suje 西藏字を織出した緞子〔23.布帛二：西番字緞〕
— **tacikū** 西藏語の學校〔20.部院十二：唐古特學〕
Tanggūte 百毎に〔彙：每一百．各一百〕
Tangkambi 石塊を河の淺瀨の石に投附け，石の下に潛んでゐる小魚を打捕る〔22.打牲器用二：擲石擊氷震小魚〕
Tangkan 1. 階段〔彙：階級〕2. 官位．階級〔彙：官品級之級〕
— **tangkan i** 一段一段と．一段づつ〔14.行走二：一蹬一蹬的上〕
— **tangkan i wesimbi** 一段一段と上る〔彙：一級一級的陞〕
Tangki 突起した(部分)．瘤になつた〔25.諸物形狀二：骨丁〕
Tangsika 異獸名．虎の形に似て更に大きな奇獸，虎を噉殺すと云ふ〔31.獸一：食耳〕
Tangsimbi 太鼓を連打する〔7.樂三：連擊〕
Tangsime 流暢に〔14.言論二：熟快〕
Tangsu (赤坊が)甘えた〔13.生產：嬌〕
Tangsulambi 赤坊を甘やかして育てる．愛撫する〔13.生產：嬌養〕
Tangwan alin 平頂山 Pingpi alin の別名〔補1.地輿一：唐望山〕
Tani 量目の單位．黍の六十四倍〔22.衡量一：圭〕
Tanjambi 吃る〔14.言論三：結巴〕
Tanjara ba akū 吃らずに．つかえずに〔彙：不打蹉兒〕
Tanji 重量の單位．Yutu (逶迤)の十分の一〔補3.衡量：須臾〕
Tanjurambi 巫人が禍を求めて禱る〔6.祀祭二：禱告〕
Tanta 打て〔5.捶打：打〕
Tantabumbi 打たせる．打たれる〔5.捶打：被打〕
Tantabūmbi 人に頼んで責め打たせる〔5.捶打：轉使人打〕
Tantambi 打つ．打つて懲らしめる〔5.捶打：責打〕
Tantanumbi 互に打ち合ふ〔5.爭鬪二：相打〕
Tantu 手馬鍬の一種．尖は二叉になり，鋤の上に附ける〔21.農器：盪頭〕
Tar sehe ぎよつとした．はつと驚いた〔13.怕懼二：心驚〕
Tara いとこ (Tarsi niyaman の子，Tara ahūn deo 或は Tara eyun non と云ふ)〔10.親戚：姑表〕
— **ahūn deo** 從兄弟〔彙：表兄弟〕
— **eyun non** 從姉妹〔彙：表姉妹〕
Taran 汗?. Nei taran と連用する〔10.人身八：大汗〕
Tarbahi かはをそ〔31.獸五：獺兒〕川獺の皮(蒙古地方に多く產す)〔24.皮革一：獺兒皮〕
Tarbalji いぬわし (Damin) の別名〔30.鳥三：鵰鶚〕
Tarcan〔22.貨財二：鉛〕
— **i irukū** 網につける鉛のおもり〔彙：網下墜的鉛鈴子〕
Tarfu Tasha 虎の別名〔補4.獸一：李父〕
Targā 1. 跳神の時に童子の衣服の背に附ける四角な布片〔6.祭祀器用二：肩上綻的方綢片〕2. 出產の時人が入らぬ樣に產室の門に吊す草の束〔13.生產：草把〕3. 戒めよ〔彙：令戒〕
Targabumbi (家に殺掠せぬ樣に兵士

を)戒める. 訓戒する〔8.征伐二:禁令〕戒めさす. 戒められる〔彙:使戒. 被戒〕

Targabun 箴言. 諫誨の辭(文體の名)〔7.書二:箴〕戒めの詞. 勸善懲惡の詞〔15.責備:規戒〕

Targacun 戒飭の辭〔7.書二:誡〕訓戒. いましめ〔15.責備:戒〕

Targambi 齋戒する. 戒律を守る〔19.佛二:戒〕戒める〔彙:戒之〕

Targan 虎に似て小さな獸〔31.獸二:彪〕

Targangga 戒. 戒律〔19.佛二:戒〕

— **gaimbi** (僧が)戒を受ける〔19.佛二:受戒〕

Targikū umiyaha 綠色多足の毒蟲〔32.蟲一:楊辣子〕

Tarhūhabi (人或は家畜が)肥えた〔11.容貌六:胖了〕〔32.牧養二:上了膘〕

Tarhūkan 少し肥えた. 小肥りの〔27.飯肉三:畧肥〕

Tarhūlaha fahūn 鹿,羊等の肝を切つて Semejen 油で包んで燒いたもの〔27.飯肉三:捲油燒肝〕

Tarhūlambi 家畜を肥らせる〔32.牧養二:使上膘〕

Tarhūn 1. でつぷりと肥えた(人)〔11.容貌六:肥胖〕2. 脂肪分の多い. あぶらみの厚い〔27.飯肉三:肥〕3. はまぐり〔32.河魚四:蛤〕

— **efen** Tasima より稍大きく作り油に浸けた團子〔27.餑餑一:油鍋子〕

Taribumbi 種子を播かせる〔21.農工一:使種〕

Tarimbi 種子を播く〔21.農工一:種〕

Tarinambi 種子まきに行く〔21.農工一:去種〕

Tarinjimbi 種子まきに來る〔21.農工一:來種〕

Tarinumbi 共に種子をまく. 各自が種子を播く〔21.農工一:齊種〕

Tarmin niyehe あをくび〔30.鳥七:蒲鴨〕

Tarni 眞言. 陀羅尼〔19.佛二:咒〕呪文. まじない〔彙:符呪之呪〕

Tarnilambi 眞言を誦する〔19.佛二:念咒〕

Tarsi niyaman いとこ(父の姉妹及び母の兄弟姉妹の子)〔10.親戚:姑表親〕

— **omolo** Tara ahūn deo の孫〔10.親戚:姑舅兩姨孫〕

Tarsilambi いとこ同士が結婚する〔10.親戚:姑表結親〕

Tarudambi 喋々としやべる〔17.輕狂:說話冒撞〕

Tarun お喋りの(人)〔17.輕狂:冒撞〕

Tas seme 1. さっと(射た矢が物に擦れる音)〔8.步射二:箭擦著聲〕2. たっと(人の手から物を奪ひとる形容)〔26.剖解:劈手奪物〕

— **tis seme** ささっと(射た矢が屢々物に擦れる音)〔8.步射二:箭擦削著聲〕

Tasga 炒れ〔28.燒炒:乾炒〕

Tasgabumbi 炒らせる〔28.燒炒:使乾炒靑〕

Tasgambi (炮烙等で)炒る〔28.燒炒:乾炒靑〕

Tasha とら〔31.獸二:虎〕寅(十二支の)〔2.時令一:寅〕

— **bira** 滿洲の河名〔續2.地輿:太子河〕

— **biya** 寅の月(舊曆正月)〔補1.時令一:陬〕

— **gabtara niru** Dokjihiyan niru より小さく先が尖つて錆びた矢(遠くに臥した虎を射るに用ふ)〔9.軍器四:射虎披箭〕

— **gabtara selmin niru** 鏃に逆刺のある矢. 地弩(Selmin)にしかけ用ふ〔9.軍器四:射虎弩箭〕

— **gabtara yoro** Oki yoro よりも小さな鏑矢. 臥せる虎を起す爲に用ふ〔9.軍器五:射虎鏑頭〕

— **gida**〔彙:虎槍〕

— **i oron i dogon** 星座の名〔補1.天:析木津〕

— **orho** うらしまさう〔29.草四:虎掌草〕

— **ošohonggo fukjingga hergen** 篆字の一種. 四隅が叉の如くなつたもの〔補1.書四:虎爪篆〕

Tashaci 虎の皮〔彙：虎皮〕
Tashangga aniya 寅の年〔補1.時令一：撦提格〕
— **dobtolon** 模造虎皮で作つた長靴の如きもの（綠旗の兵が用ひる）〔9.軍器二：虎袴〕
— **dusihi** 模造虎皮で作つた鎧の草摺（綠旗の兵が用ひる）〔9.軍器二：虎裙〕
— **etuku** 模造虎皮で作つた上衣（綠旗兵用）〔9.軍器二：虎衣〕
— **mahala** 虎頭に模して作つた帽子（綠旗兵用）〔9.軍器二：虎帽〕
Tashari くまたか（鳴に似た黒色の鷹）〔30.鳥三：皂鵰〕
Tashū 1. 機機の經(たて)を上下に分ける二本の横木〔23.紡織二：撥經的木刀〕 2. 鳥のすなぶくろの下端〔30.羽族肢體二：嗉底〕
Tashūmbi ひつきりなしに往來する〔15.去來：往來不絕〕
Tashūme yabumbi 上に同じ〔彙：來往不斷走〕
Tasihimbi （角力で）脚をはらふ〔8.撩跤一：打蹬脚〕
Tasihūn 奇獸名．形は犬の如く鱗，虎爪を有し依帖山に出づ〔補4.異獸四：獌〕
Tasima efen Toholiyo より稍大きい團子〔27.餑餑一：大水餃〕
Tasma 鹿等の毛皮を細くさき毛を抜いて鞣したもの．銃，刀，靫等を佩ぶるに用ひ，長いものは馬具にも用ひる〔24.皮革二：毛揉的皮條〕
Tašan 嘘．僞り〔5.詞訟二：虛〕
Tašarabumbi 誤らす．しくじらす〔17.過失：致錯〕
Tašarambi 誤る．違ふ〔17.過失：錯〕
Tata 留まれ〔15.遷移：住下〕ぬき取れ〔26.剖解：抽〕箭をひけ〔彙：令挽箭〕弓を引け〔彙：令人拉弓〕
Tatabuhabi 1. 出過ぎた．差出がましい〔17.輕狂：冒失人〕 2. 衣服が小さくなつた．小さくて着られなくなつた〔24.衣服四：衣服掀掀着〕
Tatabumbi 1. 宿營させる〔15.遷移：使住〕 2. ひかせる〔彙：使扯〕 3. 衣服が小さくなつて身に合はぬ樣になる〔彙：衣服窄了穿時身子容不下〕 4. 差出た口をきく〔彙：說狂妄輕浮之人〕
Tatakū 1. ひきだし〔25.器用一：抽屜〕 2. つるべ（柳枝を編み水が漏れぬ樣に作つたもの，木製のものもあり）〔25.器用七：柳罐〕
— **dere** ひきだしのついた卓子〔25.器用二：抽屜桌〕
— **i šurgeku** 釣瓶をあげる爲の轆轤〔21.農器：轆轤〕
Tatala （借りが）多い〔13.當借：債多〕
Tatambi 1. 引く．弓をひく〔8.步射一：拉弓〕（角力で）相手をひき寄せる〔8.撩跤一：拉〕抽き取る．ひき抜く〔26.剖解：抽取〕箭をひく〔彙：掣箭之掣〕（反物，巻物等を）くり擴げる．引伸ばす〔彙：扯開緞紬布疋等物之扯〕眼を見ひらく．みはる〔彙：睜眼圓睜之睜〕首を絞める〔彙：絞死之絞〕 2. 留まる．宿營する〔15.遷移：住〕 3. 說く〔彙：說〕
Tatame goholombi （角力の手）踵に足をかけ相手を一旦引寄せ仰向きに仆す〔8.撩跤一：刮〕
— **niru** 尖端は Keifu の如くに爲し，角を斜めに少しくそいだ矢〔9.軍器四：抹角披箭〕
— **wambi** 絞め殺す．絞罪に處する〔5.刑罰二：絞〕
— **wara weile** 〔彙：絞罪〕
Tatan 野外の宿營地．窩舖（小屋）〔24.氈屋帳房：下處〕
— **i da** 窩舖内の事を處理する人〔10.人三：夥長〕
Tatanambi 1. 行つて宿營する．行つて留まる〔15.遷移：去住〕 2. 行つて引く．引張りに行く〔彙：去扯〕
Tatandumbi Tatanumbi 共に宿營する．同時に留まる〔15.遷移：齊住〕
Tatangga hangse うどん粉を鹽水でこねて長く引延ばして作つた麺〔27.飯肉四：拉條麺〕
Tatanjimbi 來て留まる．來て宿營する〔15.遷移：來住〕
Tatara boo 旅舍．はたごや〔彙：店

家. 旅館〕
Tatara edun 旋風. 下から上に捲き上る風〔1. 天文七：倒捲風〕
— **gurung** 〔20. 宮殿：行宮〕
Tatarabumbi 1. 揉み碎かせる〔26. 殘毀：使扯爛〕2. 羊肉を二つの庖刀でつき刻ます〔彙：使用小刀細細按骨縱卸下〕
Tatarambi 1. (角力で) 互に引張り合ふ〔8. 撩跤一：對拉〕2. 手でぼろぼろに碎く. 揉み碎く〔26. 殘毀：扯爛〕3. 羊肉を二つの庖刀でつき刻む〔28. 剝割二：雙刀刺羊肉〕
Tatašambi 手で只管引張る. ぐいぐい引張る〔26. 剖解：頓〕
Tathūnjacuka 疑はしい. 猶豫すべき〔17. 猜疑：可猶豫〕
Tathūnjambi 猶豫する. 躊躇する〔17. 猜疑：猶豫〕
Tatuhan Onggocon (胡琴) に似た絃樂器〔7. 樂器二：提琴〕
Tayambi 火がぱつと燃え上る〔23. 烟火三：火忽著〕
Tayame yabumbi 木杁蟲が水面を走り廻る〔彙：木杁蟲在水上驟然浮走〕
Tayungga nimaha 海魚名. Šanyan fu nimaha に似て鱗細かく, 頭細い〔32. 海魚一：白鯇魚〕
Te 1. 今. 現在〔2. 時令三：今〕2. (Tembi の命令形) 坐れ〔14. 坐立一：坐〕住め〔15. 留遣：居住下〕
— **bicibe** 今たとへ. 今と雖も〔彙：今夫. 如今. 現今〕
— **ele oho kai** もう充分だ. もう結構です〔18. 散語五：今已足了〕
— **i jalan** 今の世. 現代〔彙：今世. 一代〕
Tebcimbi (酷い事, 悪い事を) 平氣で行ふ〔18. 兇惡二：忍〕
Tebcirakū Jenderakū に同じ〔11. 仁義：不忍〕
Tebeliyebumbi 抱かせる〔13. 生產：使抱著〕
Tebeliyeku 刀の鞘の中央の締金〔9. 製造軍器四：刀鞘中束〕
— **afahari** 家譜の外側に貼つた, 製職の理由を書いた黃色の紙〔5. 事務二：腰簽〕
Tebeliyembi 抱く. 抱きしめる (子供を)〔13. 生產：抱着〕抱きかゝへる (物を)〔15. 拿放：抱着〕(角力で) 兩手を相手の背に廻してだき抱へる〔8. 撩跤二：抱住〕
Tebeliyeme acambi 抱見禮を行ふ (滿洲の禮, 遠方から來た者に會つた時には目下の者は叩頭して相手の脚を抱き目上の者は相手の肩を抱く, 同輩ならば肩を抱き合ふ)〔6. 禮拜：抱見禮〕
Tebeliyen 一抱へ〔15. 拿放：抱〕
Teben moo 船の Hafin moo(鹿耳) を置く大きな横木〔26. 船二：舍樘〕
Tebke 弓の兩端の骨又は木製の, 弦の結び目をうける部分. 「肩」〔9. 製造軍器二：弓墊子〕
— **latubumbi** 弓筈の「肩」をつける〔9. 製造軍器一：黏弓墊〕
— **tabka** よちよちと. 覺束なげに (幼兒がやつと歩いたり話したりする形容)〔14. 行走四：小兒學走學話〕
Tebkejembi 蹴羽子 (Jiha fesheleku) や石の駒を高く投げ, 手に持つた背式骨 (Gacuha) でうけとめる〔19. 賭戲：接馬兒〕
Tebkelembi 肉を弓の Tebke の形に切る. 賽の目に切る〔28. 剝割二：切肉釘〕
Tebku 胞衣〔13. 生產：胎包〕〔31. 走獸肢體：胎胞〕
Tebsehe はむし (稻につく綠色の小さな蟲)〔32. 蟲二：蟘〕
Tebu 酒を造れ〔28. 燒窑：使造酒〕飯, 酒, 茶をつげ. (煙管に) 煙草をつめよ〔彙：令盛飯. 令斟茶斟酒. 令裝烟〕坐らせよ〔彙：令坐〕
Tebubumbi 1. 苗を植ゑさせる〔21. 農工一：使栽〕2. 酒を造らせる〔28. 燒窑：使人造酒〕3. 飯, 茶, 酒をつがせる. (煙管に) 煙草をつめさせる〔彙：使盛飯. 使斟茶酒. 使裝烟〕
Tebumbi 1. 坐らせる〔14. 坐立一：使坐〕2. 住はせる〔彙：使居住〕3. 納

植する〔6.喪服一：入殮〕4. 官に就かせる〔彙：使做官之做〕5. 苗を植付ける．苗をわけて畑に移し植ゑる〔21.農工一：栽〕花を植ゑる〔彙：栽花之栽〕6. 盛る．容れる（櫃等の容器に）〔21.收藏：盛〕7. 酒を醸造する〔28.澆渣：造酒〕

Tebunebumbi 駐屯せしめる〔8.防守：使駐防〕

Tebunembi 遠隔の地に行つて駐屯する〔8.防守：駐防〕

Tebunumbi 同時に苗を植付ける．各自が苗を植付ける〔21.農工一：齊栽〕共に煙草をつめる〔彙：彙齊裝〕一齊に酒を造る〔彙：彙齊做酒〕

Tece 皆坐れ〔14.坐立一：彙坐〕

Tecebumbi 一所に坐らせる〔14.坐立一：使同坐〕

Tecembi 一所に坐る〔14.坐立一：同坐著〕

Tecendumbi Tecenumbi （多くの人が）各々坐る．共に坐る〔14.坐立一：共相坐〕

Tecina まあお坐り．坐らないかね．坐つたが宜からう〔彙：坐着罷〕

Tede 1. 彼處に．彼處で〔18.散語五：那裡〕2. 今まで〔彙：迄今〕

Tederi 彼から．彼處から〔彙：從彼〕

Tefehebi 燒けて了つた（箇所）〔23.烟火四：火燒過處〕

Tefembi 燒け盡す〔彙：燒完〕

Tehe 1. 臺．物を置く脚附の臺〔25.器用八：架子〕2. 機．織機〔23.紡織二：機〕3. 奈駒の頭と尾をつなぐ棒（胴にあたる部分）〔7.樂器三：竹馬架〕4. 山羊の一種．大きな角を有す，この角を弓面に貼るに用ひる〔31.獸四：大角羊〕5. 水の溜つた〔2.地輿七：存水〕6. 刃の切味が鈍くなつた〔彙：刀刃子坐了乃軟故坐也〕

— **muke** 溜り水〔彙：窪地存定的水〕

— **uihe beri** 大角羊の角を弓面に貼つた弓〔9.軍器三：野羊角面弓〕

— **uju** 織機の經絲を捲く棒〔23.紡織二：機軸頭〕

— **wan** 足場．きやたつ〔22.工匠器用三：脚手〕

Tehei monjiršambi 坐つた儘にじり歩く．坐つた儘もぢもぢする〔彙：坐着向前就往後退．與 Momorombi 同〕

Tehen 竹馬．たかあし〔7.樂器三：高蹻〕

— **morin** 木馬．Moo morin に同じ〔7.樂器三：竹馬〕

Teheni tungken 台附きの太鼓〔7.樂器一：鐘鼓〕

Teherebubumbi 天秤で量らせる〔22.衡量二：使用天平兌〕

Teherebuku 天秤（金銀等が重くて Dengneku にかゝらぬ場合に用ひる）〔22.衡量一：天平〕

Teherebumbi 1. 品物に相應した値を附ける〔22.貿易一：使價值相等〕2. 天秤で量る〔22.衡量二：天平兌〕3. 釣合をとる〔彙：相配〕

Teherebure boo 錢局に屬し，錢の原料の銅鉛を計量記帳する事等を掌る役所〔補2.衙署四：兌房〕

Teherembi 釣合がとれる．相等しい〔25.同異：相稱〕代價が品物に相應する〔22.貿易一：價值相等〕

Teheren 相應した（事）．均衡のとれた．相等しい〔22.貿易一：相等〕〔25.同異：相等〕

Teherendumbi 相等しい〔彙：相齊．相等〕

Teheršembi （角力で）力量が伯仲する〔8.撩跤二：相等〕價値が相等しくなる〔彙：價值相等〕

Teifun 老人のつく杖〔25.器用二：拐棍〕

Teifungge 杖をついた者〔彙：杖者乃老而拄杖者〕

Teifušembi 杖をついて歩く〔14.行走三：拄杖走〕

Teike 恰度．今しがた〔2.時令三：方纔〕

Teile 1. ……のありたけ．……の限り．……の及ぶまゝに（此の語の上に i を用ふ）〔18.散語五：盡其所能〕2. ……ばかり．……だけ〔25.雙單：獨自〕

Teisu 1. 相當する．匹敵する．均衡の

とれた〔18.散語五：相對〕〔25.貿易二：相當〕2. 分け．職分〔彙：職分〕

Teisu akū 匹敵しない．釣合はない〔彙：大不相稱〕

— **be dahambi** 分に安んずる．職分に隨ふ〔11.厚重二：安分〕

— **be tuwakiyara cooha** 見張所を守る兵〔彙：守汛兵〕

— **teisu** 各々．各自〔18.爾我一：各人各人〕

Teisulebumbi 1. 恰度出會す〔15.遇合：逢得着〕2. 釣合をとる．相應させる〔22.貿易二：相稱〕日月の運行の度數が相合する〔彙：日月行之度數相合〕3.（刑に）服する〔彙：服五刑之服〕

Teisulembi 出逢ふ〔15.遇合：逢〕

Teisungge 相當した（物）．釣合のとれた（物）〔22.貿易二：恰相當的〕

Teišun 眞鍮〔22.貨財二：黃銅〕

Tejihen Bulehen（鵞）の別名〔補4.鳥一：眙仙〕

Tek tak seme がやがやと（互にどなり合ふ形容）〔5.爭鬪一：喝叱聲〕

Tekdebumbi （新禱の時に）吊した紙錢を焚く〔6.祭祀二：焚化紙錢〕

Tekdebure hoošan 黃色の紙を幾重にも重ね，互違ひに鉄をいれて綾を揃へ，佛に供へて燒くもの〔19.佛二：阡張〕

Tekdeke （跳神の犧牲の豚が）死んだ（Buceheと云ふのを忌んで云ふ語）〔6.祭祀二：避諱牲死語〕

Tekdembi 衣服，袖が上にたくれ上る〔24.衣服四：衣袖上窩〕

Tekehebi （皮革類が）熱氣や濕氣の爲に張が弱くなつた〔24.皮革二：皮子糟了〕

Tekembi （皮が）熱氣，濕氣の爲に張が弱くなる〔彙：皮張着濕熱無力〕

Teksiken ほゞ齊しい．ほゞ一樣の〔25.諸物形狀三：畧齊〕

Teksilebumbi 整頓させる．隊伍を整へさせる〔8.征伐二：使整齊〕

Teksilembi 一樣にする．齊しくする．整頓する〔12.均賦：均齊〕隊伍を整へる〔8.征伐二：整齊〕

Teksilgan 掛聲．音頭〔26.營造：打號〕

Teksin 1. 齊しい．一樣な．長短高低のない．きちんとした〔25.諸物形狀三：齊〕隊列の整頓した〔8.征伐二：齊截〕2. Suhai mooに同じ〔29.樹木三：三川柳〕

— **jan** 鑿頭（のみ）形の骨鏃をつけた矢（兒童用，遠くに飛ばぬ）〔9.軍器四：齊哨箭〕

— **niru** 鑿頭形の鐵鏃をつけた獵矢〔9.軍器四：齊披箭〕

— **yoro** 尖が角形で下方の圓い鑿頭形の骨鏃をつけた鏑矢〔9.軍器五：齊骨頭〕

Teku 座席．玉座〔20.宮殿：座位〕

— **undehen** 刀船（Jaha）を操る時に坐る板〔26.船三：坐板〕

Telaha （馬等が歩き乍ら）突然後脚を曲げた〔31.馬四動作一：後軟腿〕

Telambi （馬等が）突然に後脚を曲げる〔彙：馬牲口打乾絆乃牲口走時脚忽打彎曲〕

Tele （皮を）伸べ擴げよ〔24.熟皮革：撐〕

Telebumbi 伸べ擴げさせる．伸ばされる〔彙：使攤．被攤〕

Telejen 1. 空地．廣場〔21.室家四：厰院子〕2. 膨れた（物）〔25.諸物形狀二：鼓彭〕

Telembi 皮等を擴げ伸ばす．たゝいて伸ばす〔24.熟皮革：撐皮〕

Teleri 婦人用の禮服の一種．Cuba sijigiyan（女朝衣）に似，Gecuheri（緞緞）にて襞をとつたもの〔24.衣服一：摺摺女朝衣〕

Telgin 男子用股引の帶〔24.衣服三：褲帶〕

Teliyebumbi 1. 蒸させる〔28.煮煎：使蒸〕2. 蒸し暑い．蒸し暑くなる〔2.時令八：蒸熱〕

Teliyeku 蒸籠（せいろ）の一種．丸木を刳つて作つたもの〔25.器用四：蒸籠〕

Teliyembi 蒸す〔28.煮煎：蒸〕

Tembi 1. 坐る．腰を下す〔14.坐立一：坐着〕2. 住む〔15.留違：居住〕3. 官に就く．職に在る〔彙：做官之做〕4.

(水中の混濁物が)沈下する. 澄んで來る〔2.地輿七:澄下去〕5.內出血をする〔彙:跌打了存血之存〕6.水が溜る〔彙:存水之存〕

Temciku サンパン. 小船〔26.船二:三板船〕

Temege coko 駝鳥〔30.鳥六:駝鷄〕

Temen 駱駝〔31.馬匹二:駝〕

— **gurgu** 駱駝に似て脚の細い獸〔31.獸一:野駱駝〕

— **sele** やつとこ. 釘抜きと鉄とに併用出來る鐵の工具〔22.工匠器用二:剪軸〕

Temene ulme 尖が三稜をなした針(皮等の硬い物を縫ふに用ひる)〔22.工匠器用二:三楞銭〕

Temenehe (穀物の葉に)蟲がついた〔彙:粮食葉上生蟲了〕

Temenehebi (穀物の葉に)蟲がついてゐる. 蟲がわいた〔21.農工三:生膩蟲〕

Temeri 駱駝色. 褐色に黃綠色の混つた色〔23.采色三:駝色〕

Temgetu 1.印章の一種. 關防印よりも小型の銅印,公事に用ひる〔3.諭旨:鈐記〕2.しるし. 符號. 證據〔彙:證據. 記號〕3.證明書. 證書〔彙:文憑. 驗〕

— **arambi** (公私の文書に於て各自の名の下に)花押を書く〔5.辦事二:書押〕

— **bithe** 1.捐官或は差遣した官吏等に給する身分證明書〔3.諭旨:執照〕2.印を押した證明書〔5.事務四:票〕

— **bithe icihiyara ba** 國子監に屬し,捐監捐貢(金を納めて監,貢生となつた者)に執照を給する等の雜事を取扱ふ處〔20.部院六:辦照處〕

— **ejehe dangse** 天子の決裁を經た文書を各官廳に送つた時,送つたといふ記をつける帳簿〔5.事務四:掛號檔〕

— **etuku** 所屬の營の記號のついた軍服〔9.軍器二:號衣〕

— **mahala** 所屬の營の記號のついた軍帽〔9.軍器二:號帽〕

— **šusihe** 上官が屬官に命令を傳へる爲に交付する木牌〔5.事務四:令牌〕

— **tuwa šanggiyakū** のろし〔彙:烟燉狼烟. 號烟〕

— **wehe** 私に建てた碑〔6.喪服二:碣〕

Temgetulebumbi 1.旌表される〔3.封表一:受旌表〕2.しるしを附けさせる〔彙:使記號之〕

Temgetulembi 1.旌表する. 表彰する〔3.封表一:旌表〕2.符號をつける〔彙:記號之〕

Temgetun jalasu i fiyenten 鑾儀衞に屬し旌,節に關する事を掌る役所〔20.部院八:旌節司〕

Temimbi 思ひ遣る. 同情する〔11.仁義:優愛〕

Tempin 花生け. 花瓶(口が小さく胴の大きな磁器)〔25.器用八:花挿〕

Temšebumbi 爭はせる. 競はせる〔5.爭鬪一:使爭競〕

Temšembi 爭ふ. 競ふ〔5.爭鬪一:爭競〕

Temšen 爭ひ〔5.爭鬪一:爭〕

Temšendumbi Temšenumbi〔彙〕共に爭ふ. 交々爭ふ〔5.爭鬪一:齊爭競〕

Temuhen Emu temuhen を見よ

Temun 車の心棒〔26.車轎二:車軸〕

— **cecike** よしこび〔30.雀四:水駱駝〕

— **i sibiya** Hafirakū sibiya に同じ〔彙:牽車軸頭鐵〕

Temurtu kara 黑色の駿馬〔31.馬匹一:繡鐵騮〕

Ten 1.はて. 極み〔18.散語五:極〕2.土塀,築地等の土台〔21.室家三:地脚〕家の土台〔彙:房基〕3.蟒緞 Gecuheri に横に段を爲して織り出した,小さな龍の模樣〔23.布帛一:蟒欄〕4.木等を曲げて作つた,轎に似たもの. 或は人が抬ぎ或は家畜にのせる〔26.車轎一:軟轎〕

— **gaimbi** 問ひ詰める. 論據を求める. ぎりぎりの所を求める〔14.言論二:討宰〕〔18.散語五:要把柄〕

— **i e enduri** 歲神の第十九番目の神. 陰氣を司る〔補2.神三:太陰〕

— **i elhe calu** 北京朝陽門外に在る戶

部の官倉〔20.部院十二：萬安倉〕
Ten i šanyan usiha 金星．ゆふつゝ〔1.天文二：太白〕
— **i tondo tanggin** 貢院内の明遠樓の北に在る建物〔20.部院十：至公堂〕
— **i wecen** 祭の名．冬至には天を，夏至には地を祭る〔6.祭祀一：郊〕
Tenembi 1. 行つて坐る〔14.坐立一：去坐〕2. 往つて住む．住みに行く〔15.留遣：去居住〕
Teng seme かちかちと．かんかんの〔彙：精結實實〕
— **seme gecehe** かちかちに凍つた〔2.時令九：氷凍極實〕
— **tang seme** とんとんの．五分五分の．互に力量伯仲した〔8.撩跤二：脊力相等貌〕
Tengeljeku (四增體打：Tenggeljeku)表面だけが漸く乾いた軟濕地．踏むとめりこむもの〔2.地輿二：顫動地〕
Tengeljembi (四增體打：Tenggeljembi)(軟濕地を歩く時) 地面がぶかぶか動く〔2.地輿二：顫動〕
Tenggeri 三味線〔7.樂器三：三絃〕
Tenggin 〔2.地輿八：湖〕
Tengki 投げ下せ〔15.擲撒：撒下去〕
— **tangki** Tungki tangki と同じ〔14.行走四：一步深一步淺〕
Tengkibumbi 1. 投げ下させる 2. 撞き當てられる．打當てられる〔15.擲撒：使撒〕
Tengkicuke 適切な〔14.言論一：切實〕
Tengkimbi 投げ下す．投げつける〔15.擲撒：撒〕
Tengkime saha はつきりと知つた〔12.聆會：深知〕
— **sambi** はつきりと知る．熟知する〔彙：很明白知道．稔知〕
Tengneku 山路を行く時に用ひる乘物．繩を編んで作り二人で抬ぐもの〔26.車轎一：肥山虎〕
Tengnembi 馬から馬に飛び移る〔彙：從騎的馬上跳過別的馬上騎着〕
Tengse Musiren に同じ〔彙：籐子〕
— **i sirge** 籐蔓〔彙：籐條．籐絲〕
Tengteme yabumbi 飛石傳ひに歩く〔14.行走一：踏磚過水〕
Teni 今．やつと．たつた今〔2.時令三：纔〕
Teniken 今しがた〔2.時令三：將纔〕
Tenjimbi 1. 來て坐る．坐りに來る〔14.坐立一：來坐〕2. 來て住む．住みに來る〔15.留遣：來居住〕
Tenju 刳船の底の横木（取附けたものでなく船自體と一つの木で出來てゐるもの）〔26.船三：本身木樑子〕
Tenteke あの樣な〔18.散語五：那樣〕
Tentekengge あの樣なもの〔18.散語五：那樣的〕
Tenumbi 共に坐る〔14.坐立一：同坐着〕
Teodebumbi 轉送させる．廻送させる〔12.取送：使轉運〕移しかへさせる．とり換へさせる〔彙：使調更換〕
Teodembi 轉送する．廻送する〔12.取送：轉運〕移しかへる．取換へる〔彙：凡物調更換〕
Teodenjembi 互に移しかへる．方々轉送する〔12.均賑：挪移〕
Teodenjeme bošoro niru 兩姓の者が交互に支配する事になつてゐる佐領〔3.族分佐領一：輪管佐領〕
Ter seme (軍容が) 整然とした．威風堂々たる〔9.畋獵二：整齊貌〕
— **tar seme** 上に同じ〔9.畋獵二：整齊貌〕
Terbun 數の單位．Dungšun (秔) の十倍〔7.數目二：垓〕
Tere 彼．あれ〔18.爾我二：那個〕
— **anggala** 況んや．あれよりも．それぱかりでなく〔18.散語五：況且〕
— **dade** ……の上に．それの外に〔彙：與 Anggala 同．乃接連話之口氣〕
— **onggolo** その前に．それより先〔彙：先是．以前．以先〕
Tereci それより．あれから〔18.散語五：從彼〕
Terei amala 其後〔彙：此後〕
— **baili de** 其のおかげにより〔12.助濟：虧他〕

Tereingge あの人の(もの). 彼の(事) 〔18. 爾我二：那個人的〕
Tereni これで. それに依り 〔彙：以此〕
Tereo あれか. 彼か 〔彙：那個麼〕
Tergeci Sejesi と同じ 〔10. 人二：事夫〕
Tergimbi 矢柄を Butalin (鏃の臺) に合はせ揃へる 〔9. 製造軍器三：合箭鐵盤〕
Tergin ふらふらと. よろよろと(倒れさうになる) 〔14. 行走四：踉蹌將倒〕
Terkimbi 高く跳ぶ. 跳び越す 〔14. 行走二：跳高〕
Terkin 土壇. 基壇(軒下の) 〔20. 壇廟：臺階〕〔21. 室家一：臺階〕
— **i jergi** 土壇につけた階段 〔彙：台級〕
— **i jergi wesimbi** 階段を一段づつ上る 〔彙：一級級的陞轉. 與 Tangkan tangkan i wesimbi 同〕
Terme lorin 牛の生んだ騾. Tomotu lorin と同じ 〔31. 馬四二：騾〕
Terten tartan ぶるぶると(病氣の爲に顫へる形容) 〔16. 疼痛二：顫搖〕
Teru 1. 肛門 〔10. 人身七：肛〕 2. Hiya の軸 (Hiya 絲巻の二本の棒の交叉した所に穴をあけ, 其の穴に通した棒) 〔23. 紡織二：梭子戰木〕
— **yoo** 痔病 〔16. 瘡癰一：痔瘡〕
Tes ぷつりと (繩, 皮紐等を引きちぎる音) 〔25. 斷脫：繩皮撒斷〕
Tese 彼等. あれ等 (Tere の複數形) 〔18. 爾我二：那們〕
Teseingge 彼等の (物, 事). それ等の人の (物, 事) 〔18. 爾我二：那些人的〕
Tesu ba 原住地. 本地 〔2. 地輿一：本地〕
— **ba i cooha** 土民兵 〔彙：土兵. 鄉勇〕
— **ba i ejeletu** 土地の顏役. 地まはりの親分 〔18. 兇惡一：坐地虎〕
— **ba i irgen** 土着の人民 〔彙：土著民〕
Tesubumbi 足りさせる. 充分にさせる 〔12. 均賑：使足〕
Tesumbi 滿ち足る 〔12. 均賑：足〕
Tete tata そはそはと. ちよこちよこと (擧動に落着きのない形容) 〔17. 輕狂：跳跳蹋蹋〕
Tetele 今まで 〔2. 時令三：迄今〕
Tetendere 既に……したり. もはや……した. ……ならば, それでよい (此の字の前に -ci を用ひる) 〔18. 散語五：既然〕
Tetun 1. 器. 容器. 道具 〔25. 器用一：器〕 2. ひつぎ 〔6. 喪服二：棺〕
— **agūra** 器具 〔25. 器用一：器皿〕
— **deijire sele weniyere kunggeri i baita alire boo** 宮城内の諸官廳所用の什器類の製作を扱ふ所, 工部に屬す 〔補2. 衙署四：鎗冶科值房〕
— **deijire sele weniyere kunggeri i baita hacin i boo** 諸方より送つて來た銅鐵類の量目を調べ又製造した銅, 鐵等の器具の代銀を計算する事を扱ふ所, 工部に屬す 〔補2. 衙署四：鎗冶科案房〕
— **deijire sele weniyere kunggeri i bodoloro boo** 諸官廳にて用ひる金物類の代銀の計算を扱ふ所, 工部に屬す 〔補2. 衙署四：鎗冶科算房〕
— **doolambi** Tetun šušembi に同じ 〔彙：撿箱乃新媳婦陪送之物散親戚〕
— **jaka i calu** 內務府に屬する倉庫. 內廷所用の蒂蕊繩席類を貯藏する 〔20. 部院十二：傢伙倉〕
— **šušembi** 嫁方の者が來て, 花嫁の持參した道具を親戚召使に分け與へる 〔6. 筵宴：開箱〕
Tetušembi 1. 才能に應じて擧げ用ひる 〔4. 陞轉：器使〕 2. 道具を用ひる 〔彙：用器皿〕
Teye 休め 〔15. 敬息：歇息〕
Teyebumbi 休ませる 〔15. 敬息：使歇息〕
Teyehe 休んだ 〔15. 敬息：已歇息〕
Teyehun 長らく休むこと 〔15. 敬息：安逸〕
Teyembi 休む. 休息する 〔15. 敬息：歇息〕
Teyen akū 1. 休みなしに. 勤勉に 2. 始から終まで一貫して. 途切れずに 〔12. 勤勉：無休息〕

Teyenderakū 少しも休まずに. 息もつがずに〔12.眼勉：總不歇息〕
Teyendumbi Teyenumbi 一齊に休む. 共に休む〔15.歇息：一齊歇息〕
Teyenembi 休みに行く〔15.歇息：去歇息〕
Teyenjimbi 休みに來る〔15.歇息：來歇息〕
Teyerakū 休まぬ〔12.眼勉：不歇息〕
Tildargan Baldargan の別名〔補4.鳥四：翹鴴〕
Tilhūtan Kūtan (洞河) の別名〔補4.鳥三：鵜鶘〕
Tinggin 局, 課等に相當する役所〔20.部院一：廨〕
— **i kunggeri boo** 盛京の總管衙門の一分課〔補2.衙署七：廨科房〕
Tinggu cecike 小鳥名. 身體は淡黒く, 背と翼に稍白い模様あり〔30.雀五：提壺鳥〕
Tingguri cecike Simari cecike (子規) の別名〔補4.雀五：鶗鴂〕
Tiyelin 鏃が短くて尖つた矢. 鳥等を射るに用ひる〔9.軍器五：尖頭箭〕
Tiyeliyan dabagan 滿洲にある山名〔補1.地輿一：鐵嶺〕
Tiyeliyen 滿洲の縣名〔續2.地輿：鐵嶺縣〕
To 1. 記子. 小さな珊瑚玉十個を一さしに通したもの, これを珠數の副玉の上に一方に二さし, 他方に一さし吊り下げる〔24.冠帽二：記念〕 2. 親指と中指とを伸ばしたゞけの長さ〔25.量度：一扎〕 3. 柳の枝で作つた五升桝〔22.衡量一：柳斗〕
— **gi** Temege に同じ〔彙：鳥名產於南海紅路之南身大高六尺不能飛羽毛色彩〕
Tob 正しい. 眞直な〔2.地輿十四：正〕正直な. 公正な〔11.忠清：正〕
— **dulimba** 眞中. まん眞中〔彙：正中乃凡物凡處之正中也〕
— **seme** 正に. ぴたりと (豫想等が適中する形容)〔11.性情二：正合著〕
— **seme mini gūnin de acanahabi** 正に自分の考に合つてゐた〔彙：正合我意〕
— **sere gisun** 正しい話. 確實な話〔彙：正經話〕
— **tab** 誠實に. 公平に. 實直に〔11.忠清：端正〕
Tobcalambi Gokjimbi に同じ〔24.剪縫二：打結子〕
Tobconggo moo 周公の墓に生えるといふ木. 葉が春青く夏紅く秋白く冬黒く四時の正色を出す〔補3.樹木二：模木〕
Tobgiya 〔10.人身六：膝蓋骨〕
— **dalikū** 膝頭あて. 布類を圓く作り紐をつけて膝頭につけるもの〔24.靴襪：護膝〕
— **murimbi** 角力の手. 相手の膝を摑み扳倒す〔8.撩跤一：擇膝脛骨〕
Tobgiyalambi 弓を兩膝に挾んで弦を掛ける〔9.製造軍器一：撥上弓〕
Tobo 廬舍. 柳條等を周圍に挿し立て, 上部を一つに束ねて人が住める様に作つた小屋, Tatan tobo とも云ふ〔24.氈屋帳房：窩鋪〕
Tobtelembi 刖(ぎり)の刑に處する〔補1.古刑罰：刖〕
Tobtoko Cohoro に同じ〔31.馬匹毛片：豹花〕
— **yanggali** 小鳥の名. 胸が黒く錢の如き形の白い斑紋がある〔補4.四雀：錢母〕
Todo Humudu に似た鳥〔30.鳥二：羊捣〕
Todolo 兆(きざし). 祥兆. 前兆〔11.福祉：兆〕
Tofohoci 十五番目〔彙：第十五〕
Tofohon 十五(數詞)〔7.數目二：十五〕十五日(月の)〔2.時令七：十五〕
Tofohonggeri 十五回. 十五度〔7.數目二：十五次〕
Tofohoto 十五毎に. 十五づつ〔7.數目二：各十五〕
Togiya 木碗等の壞れた破片〔25.孔裂：破木片子〕
Tohin 車の齒止め (Muhi) の間に挿しこむ尖つた棒〔26.車轎二：絞桿〕
Tohišambi (窮苦して) 無暗に無心す

る．せつく〔13.求望；濫求〕
Toho 未だ成長しきらぬ Kandahan (一種の鹿)〔31.獣三：牛大堆達漠〕
Tohobumbi 1. 馬の仕度をさせる〔31.套備馬匹：使備馬〕2. 繩で網の口を括らす〔彙：使抽網口兒〕
Toholiyo 餡の様に圓く平たい形に作つた饅頭〔27.餑餑二：水餃子〕
Toholon 〔22.貨財二：錫〕
— **hoošan** 錫箔．錫紙〔22.貨財二：水錫箔〕
— **muke** 〔22.貨財二：水銀〕
Tohoma 馬の傍垂(ぶら)．泥障．鞍の下に敷いて馬腹の兩側を覆ふ馬具〔9.鞍轡一：韉〕
— **i daldakū** 泥障(ぶら)が鐙にあたる所に附けた布，皮(泥障が鐙の爲にすり切れぬ爲のもの)〔9.鞍轡一：鐙磨〕
Tohombi 1. 網を締める爲の繩を通す〔22.打牲器用一：穿網繩〕2. 車に馬，牛をつなぐ〔26.車轎二：套〕3. 馬に鞍を置く．馬の支度をする〔31.套備馬匹：備馬〕
Tohomimbi 釦をかける〔24.穿脫：扣鈕子〕
Tohon 釦〔24.衣服四：鈕子〕
— **i fesin** (支那服等の)釦の紐〔24.衣服四：鈕襻〕
— **i senciku** 釦掛けの紐．紐輪．ち〔24.衣服四：鈕扣〕
Tohoro Muheren に同じ〔26.車轎二：車輪〕
— **duha** 豚の小腸〔27.飯肉二：小腸〕
Tohoroko 鎭まつた．人心が定まつた〔8.征伐八：安撫了〕
Tohorokū 石の地均し．ローラー．これを曳いて地に播いた種子をおさへる〔21.農器：壓穀轆〕
Tohorombumbi 安撫する．鎭撫する〔8.征伐八：安撫〕
Toilokošombi きよろきよろ見廻す〔17.輕狂：東張西望〕
Toiton 1. 惡賢い．非常に狡猾な(Toiton i adali と云ふ)〔18.厭惡：積猾〕2. かつこう．郭公〔30.鳥十：布穀鳥〕
Toitonggo 惡賢い人．非常に狡猾な人〔18.厭惡：積猾人〕
Tojin くちやく〔30.鳥一：孔雀〕
— **funggaha kiru** (儀仗の名) 淡藍色の地に孔雀の羽を模した刺繍のある旗〔6.鹵簿器用四：翠華旗〕
— **funggaha saracan** (儀仗の名) 孔雀の羽を模した翠色の絹の垂れ布をつけた傘〔6.鹵簿器用一：翠華蓋〕
— **gasha** Tojin (孔雀) の別名〔補4.鳥二：孔鳥〕
— **i funggala** 孔雀の羽 (帽子の飾に用ふ)〔彙：孔雀翎乃頂戴者〕
— **i funggala hadambi** (帽子に) 孔雀の羽をつける〔彙：釘孔雀翎〕
Tojingga kiru 儀鳳旗 (Maksire garudangga kiru) に似て，旗地に孔雀の圖を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：孔雀旗〕
— **šun dalikū** 孔雀の尾の模様を刺繍した日除け扇〔6.鹵簿器用一：孔雀扇〕
Tok ぼくり．ぼこん (うつろな木，木魚等を敲く音)〔14.聲響一：敲空木聲〕〔彙：敲木魚聲〕
— **tok** 1. とんとん(門を續けて敲く音)〔14.聲響一：連敲門聲〕2. ぼくぼく(木魚を連打する音)〔14.聲響三：連敲木魚聲〕
Tokai 駒投げ遊びに使ふ骨の駒の，横側の平らな面〔19.戲具一：輥兒〕
Tokdon 星宿．星座〔1.天文二：宿〕
Tokobumbi 1. (腹が) 刺される様に痛む〔16.疼痛一：扎着疼〕2. 刺される〔彙：被戳〕3. 刺させる〔彙：使戳〕
Tokombi 刺す〔8.征伐五：扎〕
Tokošombi 無暗と刺す〔彙：戳之〕
Toksi 輕く敲け．とんとんと打て〔彙：令一點々打．令少輕敲〕
Toksikū 小鐵鎚〔22.工匠器用一：小鎚子〕
Toksimbi 敲く．輕く打つ〔7.樂三：敲〕
Toksime (啄木鳥が) 木を啄んで〔彙：啄木鳥啄木之啄〕
Toksin 方斗に似た形の木製打樂器．音樂の開始の合圖に用ふ〔7.樂器一：

祝〕
Toksitu 〔7.樂器一：木魚〕
Tokso 莊園〔19.城廓：莊屯〕
— **be kadalara ba** 盛京戶部に屬し，宮廷所有の莊園の莊頭等を管理する役所〔20.部院九：管莊房〕
— **tuli** Tokso に同じ〔19.城廓：莊屯〕
Toksorome 莊園に〔19.城廓：下屯去〕
— **genehe** 莊園に行つた〔彙：往屯裡去了〕
Toktoba ilha ききやうの花〔29.花四：桔梗花〕
Toktobuha kooli 定められたしきたり〔彙：定例〕
Toktobumbi 1. 平定する．鎭定する〔8.征伐八：安定〕2. 弓の狙ひを定める〔8.步射一：定著〕3. 寶石の類をちりばめる．はめこむ〔26.雕刻：安珠寶〕
Toktobure gisun Tuwara gisun（看語）の次に記した決裁の言葉〔5.事務三：出語〕
Toktoho 平いだ．安定した〔8.征伐八：安定了〕
— **kooli** 定まつたしきたり〔彙：定例〕
Toktohon 定まれる．落着いた〔彙：一定之定．定意之定．居住定一之定〕
— **akū** 定まらない．一定しない〔17.猜疑：無定準〕
Toktombi 定まる．決定する．落着する〔26.完成：定準〕
Toktonombi 水流が停る．澱む〔2.地輿七：水流淳處〕
Toktontu enduri 値日神の一．「平」の次に居る神の名，此の神に當つた日には太陽が黃道に在る〔補2.神一：定〕
Tolbotu 毛並に輪の紋樣のある青馬〔31.馬匹毛片：菊花青〕
Toldohon 小刀の柄〔9.製造軍器四：小刀把柬〕
Tolgimbi 夢を見る〔15.睡臥二：做夢〕
Tolgin ゆめ〔15.睡臥二：夢〕
Tolgišambi 1. 頻と夢を見る．夢みがちである〔15.睡臥二：胡夢〕2. 夢見て居るのだ．夢想家だな〔15.鄙薄：做夢呢〕
Tolholombi Alan alambi に同じ〔9.製造軍器一：攢樺皮〕矢筈の方に膠で樺の皮を貼りつける〔9.製造軍器三：裹樺皮〕
Tolhon 樺の樹皮〔29.樹木八：樺皮〕
— **i ficakū** 樺の樹皮で作つた鹿寄せ笛〔彙：樺皮哨子吹起似麅羔聲引大草麅來射者〕
— **weihu** 樺の皮製の船．前後の鼻先が水中につかり，その尖端はそり上つた小形の快速船〔26.船二：樺皮船〕
Toli 1. 神鏡（巫人用の）〔6.祭祀器用二：神鏡〕2. 小兒の股引の帶．股引がずり落ちぬ樣に股引の紐を腰紐に附けたもの〔24.衣服三：小兒褲腰帶〕
Tolo 1. 數を數へよ〔彙：令數數〕2.（炬火を）ともせ〔彙：令點火把〕
Tolobumbi 1. 數へさせる〔7.數目一：使數〕2. 點火させる〔彙：使點〕
Tolohoi 只管數へつゝ〔彙：只管數着口氣〕
Tolombi 1. 數へる〔7.數目一：數〕2.（炬火に）點火する〔彙：點火把之點〕
Tolon 炬火(竹の串を束ねたもの)〔23.烟火二：火把〕
— **tolombi** 炬火に點火する（魚を寄せる爲に）〔22.打牲器用二：點火把叉魚〕
Tome ……每に〔18.散語五：每個〕
Tomika cecike Jirha cecike（みそさゞい）の小さなもの〔30.雀四：桃蟲〕
Tomila 賦課をとれ〔彙：官差徭上勒限取〕出張せよ〔彙：令人派〕
Tomilabumbi 公課を徵收させる．出張させる〔5.官差：使派〕徵收される．出張さされる〔彙：被派〕
Tomilambi 1. 公課（稅銀，力役）に期限を附して取立てる 2. 出張する．正式の發令のある前に一時派遣地に差つて備へる〔5.官差：派〕
Tomilandumbi 一齊に出張する．各自が出張する〔5.官差：一齊分派〕
Tomobumbi 定住させる〔15.留遣：使棲處〕
Tomohonggo 志の定まつた人〔11.厚

重一：鎭定〕
Tomombi 定住する〔15. 留遣：棲處〕棲息する〔30. 飛禽動息二：棲息〕
Tomon 墓穴〔6. 喪服二：穴〕
Tomoo 網を編む時に使用する指木〔22. 打牲器用一：織網標木〕
Tomorhan 鷹等の頭に被せる皮の帽子〔9. 頑鷹犬：鷹帽子〕
Tomorhon （言語等が）明晰な．明瞭な．明白な〔14. 言論一：清楚〕
Tomoro 稍大きな碗〔25. 器用三：半大碗〕
Tomoron 壇，廟の祭の時に羹を盛る銅の祭器〔6. 祭祀器用一：鋗〕
Tomortai 正しく（中る）．狙ひ違はず（中る）〔9. 畋獵三：正中〕
Tomotu lorin 牛の生んだ騾〔31. 馬匹二：駝騲〕
Tomsobumbi 拾得させる〔21. 收藏：使收撿〕
Tomsombi 1. 火葬した骨を拾ふ〔6. 喪服一：撿骨殖〕2. （遺失した物を）拾ふ〔21. 收藏：收撿〕
Ton 1. 數〔7. 數目一：數目〕2. 算數の學（六藝の一としての）〔彙：六藝之一〕
— **i kemun** 秤の分銅〔22. 衡量一：法馬〕
— **i sucungga inenggi** 每月の節の代り目の日〔彙：每月交節之節〕
Tondo 1. 公平（な）．私心のない〔11. 性情二：公〕2. 忠義な〔11. 忠清：忠〕3. 眞直な〔25. 諸物形狀二：直〕
— **akdun** 忠節信義〔彙：忠信〕
— **amban** 〔3. 封表二：忠臣〕
— **giljan** 公正寬大な〔彙：忠恕〕
Tondokon 1. 忠義な．私心のない（人）〔11. 忠清：忠的〕2. ほゞ眞直な〔彙：畧直直的〕
— **niyalma** 公平無私の人〔彙：無撗念老實人〕
Tondolombi 眞直に歩く〔14. 行走二：直走〕
Tondongge 公正なもの．忠義なもの〔彙：忠的．公正的〕
Tong seme かちんと（極めて堅い形容）〔28. 軟硬：極硬〕
— **tong** とんとん（巫人が鼓を打つ音）〔14. 聲響三：手鼓聲〕
Tongga 少い．稀な〔25. 多寡二：稀少〕
Tonggalu ilha なつずゐせん〔29. 花五：鹿葱花〕
Tonggime 各々に就いて手脫なく明瞭に（告げる）．詳細に〔12. 問答二：擧要告訴〕
Tonggo 絲．撚り絲．練絲に撚りをかけたもの〔23. 絨棉：線〕秤の皿につけた四本の絲〔22. 衡量一：盤繫〕
— **boso** 撚糸で織つた布〔23. 布帛六：搭連布〕
— **midaha** Muhan sebsehe の腹中に寄生する絲の如き蟲〔32. 蟲二：土螞蚱子〕
— **suje** 撚絲で織つた緞子〔23. 布帛二：線緞〕
— **suri** 撚絲で織つた紬〔23. 布帛三：線紬〕
— **tabumbi** 絲を掛ける〔彙：揭線〕
Tonggolibumbi とんぼがへりさせる〔13. 戲要：使翻觔斗〕
Tonggolikū とんぼがへり〔7. 樂三：觔斗〕
Tonggolimbi もんどりうつ．とんぼがへりを打つて舞ふ，又は遊ぶ〔7. 樂三：打觔斗〕〔13. 戲要：翻觔斗〕
Tonggūlime miyoocalambi 鐵砲を打つて引つくり返る〔續．征伐：打鳥鎗過堂〕
Tongki 1. 頭をたゝけ〔5. 捶打：擊〕2. 點．句點〔7. 書八：字點〕
Tongkimbi 頭を叩く〔5. 捶打：擊頭〕
Tongkišakū 1. Can（金）に似た皿形の打樂器．鼓を打つ前に之を打つ〔7. 樂器一：點子〕2. Geren fila に同じ〔彙：雲鑼〕
Tongkišambi 頭を連打する〔5. 捶打：連擊〕樂器を輕く連打する〔7. 樂三：輕擊〕
Tongsimbi 1. 郭公（Toiton）が鳴く〔14. 聲響六：布穀鳥鳴〕2. （巫師，新疆者が）呪文を誦する〔19. 醫治：念誦〕
Tongsirambi 講釋をやる．祭文を語る〔13. 戲要：說書〕

Tonikū 〔19. 戲具一：碁盤〕
Tonio 碁石〔19. 戲具一：大碁〕
Tonjimbi 水を竿でかき廻し，しっしっといひながら魚を追ふ〔22. 打牲：擊水趕魚〕
Tono 1. Garma（兎兒叉箭）の鐵根と矢柄との合はせ口の端に附けた鐵片〔9. 製造軍器四：兎兒叉上鐵格搭〕2. 崇古包の椽木（Son）を括り附ける圓頂部〔24. 甕屋幔房：木圈頂〕
— **jinggeri** 宮門，城門等に打つけた大鋲〔20. 宮殿：鉚釘〕
Tontu 獸名．山羊に似て一角を有し，性正しく，人の鬪ふを見れば邪なる者に觸れると云ふ〔31. 獸一：獬豸〕
— **mahatun** 古の司法官の冠〔補1. 古冠冕二：獬豸冠〕
Too 罵れ〔16. 咒罵：罵〕
Toobumbi 罵らす．罵られる〔16. 咒罵：使人罵〕
Toodabumbi 還させる．償還させる〔13. 當借：使還〕
Toodambi 還す．償還する〔13. 當借：還〕
Toohan 帶の兩側前後に四片附けた飾金具〔24. 巾帶：帶板〕
Toohanjambi 逡巡する〔17. 猜疑：遲疑不決〕
Tookabumbi 1. 煩悶を解く．なだめる〔5. 安慰：解釋〕2. 遲延させる〔12. 遲悞：至於悞了〕
Tookaha 遲れた〔12. 遲悞：悞了〕
Tookambi 遲延する．遲れる．つかへる〔12. 遲悞：遲悞〕
Tookan akū 遲れることなく．滯なく．引續いて〔15. 急忙：不住〕
Tookanjambi 遲滯する．つかへる〔12. 遲悞：遲延〕
Tookarakū 遲滯せぬ〔12. 甩勉：不悞〕
Toombi 罵る〔16. 咒罵：罵人〕
Toonumbi 互に罵り合ふ〔16. 咒罵：相罵〕
Toorin 奇獸名．猪に似て色火の如し，苦山に出づ〔補4. 異獸四：山膏〕
Toose 1. 權力．官權〔5. 政事：權〕2. 秤の分銅．錘〔22. 衡量一：銙〕3. 絲を搓る時に使用する錘〔23. 紡織二：線砣落〕
Tooselambi 1. 加減する．應變の處置をとる〔5. 辦事二：權變〕2. 錘（Toose）を廻して絲を搓る〔23. 紡織一：砣落打線〕3. 錘を動かして輕重をはかる〔彙：輕重錘之〕
Tor seme くるくると（水の渦卷く樣，又物の廻轉する樣）〔2. 地輿十一：水旋轉貌〕〔彙：旋轉如手指撚箭桿旋轉卽 Tor seme šurdembi 也〕
Torgikū 鷄卵大の木球．これを地上或は氷上で鞭で打ち轉がして遊ぶ〔19. 戲具二：托羅〕
— **tungken** 上が廣く下が窄まつた太鼓．馬上で打つ〔7. 樂器一：托羅鼓〕
Torgimbi 字の橫に圓をつける〔7. 書七：字旁圈圈〕
Torhikū mahala Fuserehe mahala に同じ〔24. 冠帽一：檐邊舒沿小帽〕
Torho cecike Jirha cecike（鷦鷯）の別名〔30. 雀四：桃雀〕
— **moo** 河川用の曳網（Dangdali）の兩端にとりつけた五尺餘の長さの棒〔22. 打牲器用一：耙杆〕
Torhombi 廻轉する〔彙：旋轉周圈〕
Torhome 車座になつて．圍く並んで（坐る）〔14. 坐立一：圍坐〕
Torhon 啄木鳥〔30. 雀一：鑽打木〕
Toribuhangge 浮氣者．放垮者（度々夫を替へる女，度々主人を替へる奴僕を罵る詞）〔16. 咒罵：慣嫁人投主子的〕
Toribumbi 轉々と住居を變へる〔15. 遷移：常漂流〕
Torimbi 漂浪する．寄邊もなく方々歩き廻る〔15. 遷移：漂流〕
Toro もゝ〔28. 果品一：桃〕
— **moo** 桃の木〔彙：桃樹〕
Toroci 桃に似た果實．味酸く鹽漬にして食ふ〔補3. 異樣果品四：櫰樹子〕
Toroko （風が）定まつた．をさまつた〔彙：風定之定〕
Torombu 慰めよ〔5. 安慰：解勸〕
Torombumbi 慰める．なだめる．鎭まらす〔5. 安慰：勸慰〕

Toron 1. 砂けむり. 灰塵〔2. 地輿一：飛塵〕2. 打撲傷. 鞭, 棒で打つた痕〔16. 傷痕：痕跡〕3. 足跡〔彙：脚踪〕
Tos seme ぷすりと（矢の貫通する音）〔8. 歩射二：直透聲〕〔9. 畋獵三：直透狀〕
— **seme tucike** （骨, 木等が）ぷすりと貫き出た〔彙：骨木等物做眼透出了〕
Tosi 額に白紋のある馬. 星月. 月額〔31. 馬匹毛片：玉頂〕
Toso 備へをせよ〔8. 防守：預先防備〕
Tosobumbi 1. 防備させる〔8. 防守：使防備〕2. 路を阻ませる〔彙：使攔截〕
Tosombi 1. 豫め備へをする. 防備する〔8. 防守：防備〕2. 路を阻む. 途中に待伏せる〔16. 竊奪：截路〕
Totan Kūtan (淘河) の別名〔補4. 鳥三：淘鷺〕
Toyon 弓を射るてごころ. 呼吸〔8. 歩射一：準頭〕
— **baha** 弓を射る呼吸を覺えた. 手が極つた〔彙：射箭肯着得了準頭〕
Tu Turun に同じ〔彙：纛馬兵纛四方偏者. 擺牙喇纛署長三尖角者〕
— **i janggin** Tui janggin に同じ〔彙：管擺牙喇的大臣〕
— **wecembi** Turun wecembi に同じ〔彙：祭旗纛〕
Tuba かしこ〔18. 散語五：彼處〕
Tubade 彼處で. 彼處に〔彙：那去處〕
Tubaingge 彼處の（もの）〔18. 散語五：彼處的〕
Tubehe 魚名. 頭部が鯉に似て唇の厚い淡水魚〔32. 河魚一：重唇魚〕
Tubet abuha ilha 莖の高さ一丈許り, 黄色の大きな花〔補3. 花：西番葵花〕
— **kiongguhe** 花八哥(Alha kiongguhe) の別名〔補4. 鳥八：番鸜鵒〕
— **mooi hasi** 西藏の原産の柿. 五朶づつ塊まつて生ず〔補3. 異樣果品一：蕃柿〕
— **šu ilha** 蓮の花の一種. 莖に生ず〔29. 花二：西番蓮花〕

Tubi 1. 片割れ. 半分 2. 四半分〔12. 分給：一半中的一半〕3. 底をつけずに編んだ竹の網籠. 魚をおさへ捕るに用ひる〔22. 打牲器用二：魚罩〕4. 鷄籠. 鷄を伏せる底のない竹籠〔32. 牲畜器用一：鷄罩〕
Tubihe 果實〔28. 果品一：果子〕
— **belhere falgari** 光祿寺に屬し, 祭祀饗宴に用ひる鹽, 果實, 蔬菜類を調へる役所〔20. 部院六：掌醢署〕
Tubilembi 網 (Tubi) を伏せて魚を捕る〔22. 打牲：罩魚〕鷄を籠に入れる〔32. 牲畜器用一：罩鷄〕
Tubingga moo さはらの木〔補3. 樹木二：杬木〕
Tubišembi 他人の性行を推量する〔11. 性情二：揣度〕
Tubitu Tontu の別名〔補4. 獸一：解〕
Tuci 出よ〔彙：令人出. 令出〕
Tucibumbi 1. 出す. 現す. 取出す.〔14. 隱顯：現出〕外出させる. 出て行かす〔15. 去來：使出去〕遺骸を送り出す〔6. 喪服一：出殯〕救ひ出す〔彙：救出〕2. 推擧する〔彙：擧薦〕
Tucibun 著書の末尾に記す文. おくがき〔7. 書二：跋〕
Tucibure bithe 地方よりの奏上文の寫し（事件に關係ある部, 科, 道に送る爲のもの）〔5. 事務三：揭帖〕
Tucikengge jira biheni 吹出物が大變多いね〔彙：出的這樣稠密呢. 如痘子出的這樣稠密呢卽 Mama tucikengge jira biheni 也〕
Tucimbi 出る. 外出する〔15. 去來：出去〕（穀物等の芽が）出る〔21. 農工二：長出〕
Tucin 事の起り. 根源〔5. 事務一：原由〕
Tucine 的の中心の紅い圓〔9. 製造軍器四：紅心〕
Tucire de selgiyebure kiru 黄地に金絲で「出警」の字を刺繍した旗〔6. 鹵簿器用四：出警旗〕
Tufulembi 鐙に脚をかける〔32. 騎駝一：紉鐙〕
Tufuleme dabali fiyelembi （曲馬

の手) 後から追ひかけて身を躍らせて鐙をふみ馬を跳び越える〔8.騙馬:登鐙過兒〕

Tufun あぶみ〔9.鞍轡一:鐙〕

— **de gaifi niyamniyambi** 騎馬で獣を追ひ詰め間近から射る〔9.畋獵二:對鐙射〕

— **fesheleme kurbume fiyelembi** (曲馬の手) 身を躍らせて鞍にいれちがひにつけた鐙を蹴落して向き直つて乗る〔8.騙馬:踢鐙滾上〕

— **i fatan** 鐙の足を掛ける板. 踏込. 舌〔9.鞍轡一:鐙盤〕

— **i sengken** 鐙の紐を通す孔〔9.鞍轡一:鐙孔〕

— **i tura** 鐙の底板の上部の, 桶の提げ手の形に似た金具〔9.鞍轡一:鐙樑〕

— **jafafi kurbume fiyelembi** (曲馬の手) 鐙の革紐を引摑み身を躍らせて飛び乗る〔8.騙馬:撒鐙滾上〕

— **tatame cashūn fiyelembi** (曲馬の手) 鐙を引摑んで背向きに飛乗り立直つて騎る〔8.騙馬:拉鐙反背〕

— **temšembi** 人が鐙に足を掛けやうとする時, 馬が身を動かして避ける〔31.馬匹動作一:旋鐙〕

Tugi 1.〔1.天文四:雲〕2. 珠數の太紐の中程に通した, 紋様のある珠〔24.冠帽二:背雲〕

— **alhata** 雲が千切れ千切れになつて. 塊雲が次々と出る様〔1.天文四:雲花塔〕

— **banjimbi** 雲が湧き起る. 雲が一しきりづつ起る〔1.天文四:生雲〕

— **bombonoho** 雲が段々に重なつた〔1.天文四:雲屯〕

— **fiyajumbi** 雲が厚く擴がり雷鳴して行交ふ〔1.天文四:雲磨擦〕

— **haksaha** 雲が紅く照り映えた. 夕(朝)焼けした〔1.天文四:火燒雲〕

— **hetehe** 雲が收つた〔1.天文四:雲收〕

— **hiterenehe** 雲が魚鱗の形になつた〔1.天文四:魚鱗雲〕

— **jekse** 夕(朝)焼雲の切れ目〔1.天文四:雲霞斷處〕

— **neigen** 雲が空一面擴がつた〔1.天文四:雲布滿〕

— **noho suje** 雲の模様を織出した緞子〔23.布帛二:雲緞〕

— **samsiha** 雲が散つた. 雲が切れた〔1.天文四:雲散〕

— **sektehe** 雲が擴がつた. 雲がかゝつた〔1.天文四:雲布〕

— **wan** 上端に二個の車輪の附いた長梯子. 城壁を登るに用ふ〔9.軍器六:雲梯〕

— **yur sembi** 雲が絶えず湧き起る〔1.天文四:雲勢油然〕

Tugidei 錦鷄 (Junggiri coko) の別名〔補4.鳥五:天鷄〕

Tugingga omolo 九代目の孫〔元圖10.人倫二:雲孫〕

Tugingge fan 恩詔を載せる盆〔3.諭旨:雲盤〕

Tugitu 雀に似た鳥〔30.鳥十:憑霄〕

— **ilha** 蓮に似た花. 莖が甚だ高く雲を凌ぐといふ〔補3.異花四:傲雲花〕

Tugitun 宮城の天安門の上より恩詔を載せて下す, 雲紋のある器〔3.諭旨:朶雲〕

Tuhan 1. 丸木橋〔19.街道:獨木橋〕2. 根こそぎ倒れた大木〔29.樹木十:倒的樹梃〕

Tuhašambi 丸木橋をおづおづと渡る〔14.行走三:走獨木橋〕

Tuhe 1. 鍋の蓋〔25.器用四:鍋蓋〕2. 鍋蓋形の鼬罠. 柳枝を鍋蓋形に作り肉片を附けておき鼬が之を食ふと押へとる仕掛けのもの〔22.打牲器用四:打騷鼠的箝子〕

— **efen** せんべいの如きもの〔27.餑餑一:餅〕

Tuhebuku 1. 城門の上より倒す扉板. 吊門〔19.城廓:千斤棧〕2. 水門〔彙:閘板〕3. 珠數の背雲 (Tugi) や記念 (To) の末端にはめた玉〔24.冠帽二:墜角〕冠, 冕に垂した玉〔補1.古冠冕三:垂旒〕

— **doohan** 吊り橋〔19.城廓:吊橋〕

— **horho** 囮と餌とを用ひて鳥を捕へてとぢこめる仕掛けの籠〔22.打牲器用

三：滾籠〕

Tuhebumbi 1. 罪を定める．罪に落す〔5. 詞訟二：定擬〕2. 人を陷れる．誹謗する〔17. 讒諂：陷害〕3. (角力で)人を倒す．轉ばす〔8. 撩跤二：使跌倒〕4. (物を)倒す．崩す〔21. 倒支：使倒〕5. (涙を)落す〔彙：吊眼淚之吊〕6. 髪をばらりと垂れる〔彙：披髮之披〕

Tuhebun 易卦の名〔補1. 書一：剝〕

Tuheke (日が)落ちた．(物が)落ちた．倒れた〔彙：日落了．失落了．跌倒了〕

Tuhembi 1. (角力で)倒れる．轉ぶ〔8. 撩跤二：跌倒〕2. (物が)倒れる〔21. 倒支：倒〕3. 落ちる〔彙：落〕

Tuhen 結果．結着〔5. 事務一：歸着〕

Tuhenembi 落ちて行く．陷つて行く〔彙：墮入．落後〕

Tuhenjimbi 高い所から落ちて來る．垂れ下る〔21. 倒支：從上吊下〕

Tuhere fere Šari(たんぽゝ)に似た野菜〔27. 菜穀三：步步連〕

Tuheri ebci 假肋骨(胸の下方にある短い肋骨)〔10. 人身六：短肋〕

Tuhete 衣服の裾の片方が垂下つた〔24. 衣服四：衣邊搭拉〕竿秤の竿が少し下つた〔彙：戥桿略垂下〕唇が垂れ下つた〔彙：嘴唇垂下〕

Tui janggin Bayara(親衛の精兵)の長官〔4. 臣宰二：護軍統領〕

— **janggin i siden yamun** 護軍統領の事務所．八旗に夫々置かれる〔20. 部院九：護軍統領衙門〕

— **tui** 次々に．次から次へと〔12. 取送：接連〕

Tuibalabumbi 鉋をかけさせる〔26. 截砍：使鉋〕

Tuibalakū 鉋(向ふへ押してかけるもの)〔22. 工匠器用一：推鉋〕

Tuibalambi 鉋をかける〔26. 截砍：鉋〕

Tuibumbi 夜の祭りを終り燈を消して又一度祈る〔6. 祭祀二：背燈祭〕

Tuilambi (馬，騾等が)暴れて駈ける〔31. 馬匹動作一：驚跑〕

Tuile 毛を取れ〔彙：令退〕

Tuilebumbi (屠殺した家畜の)毛を取らせる〔28. 剝割一：使煺毛〕

Tuilembi 屠殺した家畜に熱湯をかけて，毛を削り又は抜き取る〔28. 剝割一：煺毛〕

Tuilendumbi Tuilenumbi 共に毛をむしり取る〔28. 剝割一：齊煺毛〕

Tuk tuk seme どきどきと(動悸が打つ)〔13. 怕懼一：心跳〕

Tukda 蒸籠の底の簀を支へる四本の棒〔25. 器用四：托蒸筐子的木樁〕

Tukden moo Fiyatarakū(爆木)に似た木．紅色〔29. 樹木五：紅爆木〕

Tukiya da 野菜の名．紅色にして香氣を有し漬物にして食ふ，花を Sorson と呼ぶ〔27. 菜穀二：櫻花菜〕

Tukiye 持擧げよ．抬ぎ上げよ〔21. 扛擡：擡〕膳を供へよ〔彙：面前擧放菜飯之擧放〕

Tukiyebumbi 1. 持擧げさせる．擔ぎ上げさせる〔21. 扛擡：使擡〕2. 客の前に膳を供へさせる〔6. 筵宴：使擧獻〕3. 稱揚させる．推薦させる〔12. 稱奬：使稱揚〕推薦される．登用される〔彙：被薦擧〕4. 美しく化粧する〔24. 梳粧：出色〕

Tukiyeceku 自負する(人)〔17. 驕矜：誇張人〕自慢．法螺〔彙：誇〕

Tukiyecembi 1. 他人の美點を稱揚する〔12. 稱奬：贊揚〕2. 尊大ぶる．誇らしげに振舞ふ〔17. 驕矜：誇張〕3. 湯茶を注ぐ．沸いた茶湯を火からおろす〔28. 煮煎：揚茶水〕擧げ支へる〔彙：擧抬〕

Tukiyecun (詩の六義の一)宗廟の樂歌，盛德を美しく形容し成功を神明に告ぐるもの〔7. 書二：頌〕

Tukiyehe afaha 奏上文(Wesimbure bithe)内の詞を抜書した書付け〔5. 事務二：說帖〕

— **gebu** 字(名)．呼名〔12. 名號：表字〕

— **gisun** (事件の)摘要書〔5. 事務三：略節〕

— **silgasi** 生員の内より選抜された貢生〔4. 臣宰十一：優貢〕

— **šošohon** 奏上文の要點を抜き書きし，日附を入れて文書の末尾に貼りつ

けた紙札〔5.事務二：貼黃〕

Tukiyehe šošohonggo kunggeri 內外文官の繼嗣,終養等の事務を掌る役所,吏部に屬す〔補2.衙署一：貼黃科〕

Tukiyehebi 擡ぎ上げた．持擧げた〔21.扛擡：擡着呢〕稱揚した〔彙：薦揚了〕

Tukiyeku asu 四手網〔22.打牲器用一：晉網〕

Tukiyembi 1. 擡ぐ．肩にのせる〔21.扛擡：擡着〕〔26.車轎二：擡〕2. 持擧げる．さし上げる〔彙：手擧高之擧〕3. 客の前に膳を供へる〔6.筵宴：擧獻〕4. (馬が)頭を持ちあげる〔彙：馬抬高頭之抬〕5. 擧用する．登用する〔4.陞轉：擧用〕6. 稱揚する．推薦する〔12.稱奬：稱揚〕

Tukiyeme tasihimbi (角力の手)相手の肘を引きとり脇の下を持上げて横に足を拂ふ〔8.撩跤一：架梁發脚〕

Tukiyeri cecike 小鳥名．眼の上に眉の如き灰白の毛があり尾をしきりに振る〔30.雀五：搖臂雀〕

Tukiyeshūn 頭部の上つた．頭が上に反つた〔25.諸物形狀三：畧仰些〕

Tukiyesi 鄉試に及第した者〔4.臣宰十一：擧人〕

Tuksa boo 1. 樺の樹皮で作つた家〔21.室家四：樺皮房〕2. Jeofi に同じ〔彙：與 Jeofi 同〕

Tuksaka Lehele に同じ〔16.咒罵：野種〕

Tuksicuke 恐ろしい〔13.怕懼一：可畏〕

Tuksimbi 1. 恐れる〔13.怕懼一：惶恐〕2. 馬が走り疲れて脇腹が波うつ〔32.馬畜殘疾一：膘跳〕

Tuksintu enduri 日神の第八番の神〔補2.神一：危〕

Tuksitembi 危懼する．心が動搖する〔13.怕懼一：心內動〕

Tukšen 仔牛〔32.牛：牛犢〕

Tuktan 初め．起り〔2.時令二：起初〕

Tuktarhan 一本の木で作つた梯子〔22.工匠器用三：蜈蚣梯〕

Tuktuma 騎兵用の鎧〔9.軍器一：暗甲〕

Tuku 衣服の表〔24.衣服三：衣面〕表面．おもて〔彙：表裏之表〕

— **jodon** 蠟描染の織物〔23.布帛五：臘花春布〕

Tukulembi 表をつける．表面を覆ふ〔26.膠粘：蓋面子〕

Tulbimbi 豫定する．打算する．推量する〔11.性情二：揆度〕

Tulbin 豫定．計畫〔11.性情二：揆〕

Tule 外さ．外の〔14.隱顯：外〕

— **benjire kunggeri** 諸方より到来した材木稅等に關する事を扱ふ役所,工部に屬す〔補2.衙署四：外解科〕

— **genembi** 犬小便をする〔10.人身八：出恭〕

Tulebumbi 網や罠を仕掛けさせる〔22.打牲：使下網套〕

Tulejehebi 繭々した(貴人の肥えて色白い樣)〔11.容貌六：發福〕

Tulembi 1. 網,罠を仕掛ける〔22.打牲：下網套〕2. 鐵の鍬に柄をすげる．挽臼に把手をつける〔彙：鐵鍬套木柄之套．碾子套木架之套〕

Tulergi 外側．外面〔14.隱顯：外面〕

— **amsu i boo** 天子后妃の食膳を調進する役所．內外二ケ所ある中の外側のもの,內務府に屬す〔20.部院八：外膳房〕

— **efen i boo** 宮廷にて用ひる餑々類を調進する役所．內外二所あるうちの外側のもの,內務府に屬す〔補2.衙署七：外餑餑房〕

— **faidan sindara namun** 儀仗類を收藏する官庫,東長安門外に在り〔20.部院十二：外駕庫〕

— **golo be dasara jurgan** 屬領の統治を掌る役所〔20.部院五：理藩院〕

— **goloi bolori beidembi** 每年八月に地方各省の死罪犯に對する裁判を行ふ〔彙：外省秋審〕

— **goloi hafan i kunggeri** 漢人の世襲官の承襲,地方文官の封誥等を掌る役所,吏部に屬す〔補2.衙署一：外官科〕

Tulergi gurun 異國〔19.城廓：外國〕
— **gurun i bithe** 諸外國より奉る國書〔7.書一：外國書〕
— **hergen** 漢語其他外國語の音を寫す爲の滿洲語の特別字母〔7.書八：外字〕
— **jijuhan** 易の外卦．六爻の內の上の三爻〔補1.書一：外卦〕
— **kūwaran i simnere baita be baicara hafan** 科擧の試驗場の監督官〔4.臣宰十：外簾監試官〕
— **simnengge kunggeri** 地方諸省の書吏の成績を調査する役所，吏部に屬す〔補2.衙署二：外考科〕
— **tanggingge boo** 吏部に屬する役所の名〔補2.衙署一：外堂房〕
Tulergici goholombi (角力の手)相手の股の外より脚をかけ折曲げて倒す〔8.撩跤一：外坎子〕
— **halgimbi** (角力の手)手を相手の背より廻して帶を摑み肘で相手の肩胛を押へ脚を相手の股の外側より搦ませて倒す〔8.撩跤一：外纏勾〕
Tuleri 外側．外で〔14.隱顯：外邊〕
Tulesi 外へ．外方に〔14.隱顯：向外〕
— **etumbi** (毛皮の服を)毛を外むきにして着る〔24.穿脫：反穿〕
— **genembi** 外に行く〔彙：往外頭去〕
Tulfambi 矢が跳ね返る〔8.步射二：箭迸回〕
Tulgiri niyehe Aka niyehe (落河)の別名〔補4.鳥七：頭鴨〕
Tulgiyen ……以外．……の外．より餘分に(此の字の前には Ci を用ふ)〔18.散語五：以外〕〔25.同異：另外〕
Tulhu 少し大きくなつた仔羊の皮〔24.皮革一：麥穗子皮〕
Tulhun 曇り．曇つた〔1.天文四：陰〕
Tulhušembi 曇る〔1.天文四：陰了〕
Tulibumbi 期限に遅れさす〔5.官差：致逾限〕
Tulimbi 期限に遅れる．期限が過る〔5.官差：逾限〕
Tulin cecike 黃鸝 (Gūlin cecike) の山東地方の方言〔補4.雀二：搏黍〕
Tulu 馬の胸〔31.馬匹肢體一：胸〕
Tulum 牛，羊等の皮をそつくり剝取つて作つた渡河用の浮袋〔9.軍器六：渡水皮混沌〕
Tulume 藤蔓を輪形に作り中を空にし外に漆を塗り河を渡る時に着る道具〔9.軍器六：水帶〕
Tumehe ilha 花名．白色にして花瓣は蝶の如く，密集して咲く〔補3.異花四：萬蝶花〕
Tumen 一萬〔7.數目二：萬〕
— **arbun bolgo niktongga mudan** 宮中の大宴にて膳を進むる時に奏する音樂の名〔補1.樂：萬象清寧之章〕
— **de emgeri** 萬に一つ〔彙：萬一〕
— **jalafun dengjan** 八角の寶蓋に一箇づつ吊下げた燈籠．正月に內庭の丹陛に臺を立てゝ點火する〔23.烟火一：萬壽燈〕
— **jalafun jecen akū** 幾久しく限りなし〔彙：萬壽無疆〕
— **mukei tampin** 滿壺(滌)の第四個の壺の名〔7.儀器：萬水壺〕
— **se** 〔3.君一：萬歲〕
— **tumen** 一億〔7.數目二：萬萬〕
— **ula** 長白山より東南流する河の名〔補1.地輿一：土門江〕
Tumenci 一萬番目〔彙：第一萬〕
Tumene ilha 奇花名．紅色のものと綠色のものと二種あり，紅色には紫色の斑，綠色には紺色の斑あり〔補3.異花一：萬蓮花〕
Tumengge moo もちのき〔補3.樹木二：杻木〕
Tumenggeri 一萬度〔彙：萬次〕
Tumete 一萬宛．萬每に〔彙：每萬〕
Tumgetu 官吏の出張する際に携帶する證明書〔5.事務四：委牌〕
Tumgi Juruju (幷封)の別名〔補4.異獸四：茶苜蠅〕
Tumiha 乳首〔10.人身四：奶頭嘴〕
Tumikan 稍稠密な．稍濃厚な〔彙：畧濃稠．味畧厚〕
Tumin 1. 往來が頻繁な〔15.去來：行走稠密〕2. (色が)濃い．深い〔23.采色三：深〕3. 濃い〔28.生熟：濃〕味が濃厚な．加減がよい〔28.滋味：味

濃〕
Tumin akū 稠密でない〔彙：大稀了不稠〕
— **lamun gu** 濃藍色の玉〔補3.貨財：青玉〕
— **lamun suje de aisin dambuha ajige kiru** (儀仗の名) 藍地に金の龍をつけた小旗．色に五種あり〔6.鹵簿器用四：青銷金小旗〕
— **lamun suje de aisin dambuha muduringga turun** 藍地に金の龍をつけた三角形の大旗．色に五種あり〔6.鹵簿器用二：青銷金龍纛〕
— **niowanggiyan** 濃綠色〔23.采色二：瓜皮綠〕
— **soboro** 濃い黃綠色．萌黃色〔23.采色一：沉香色〕
— **šušu** 濃紫色〔23.采色一：玫瑰紫〕
— **temeri** 濃褐色〔23.采色三：厴絨色〕
Tumpanahabi 顏が大きく肥えた人を嫌つて云ふ詞〔11.容貌六：臉胖的可厭〕
Tumsoro 南海の三佛齊國より產する棗〔補3.異樣果品一：萬歲棗〕
Tun 〔2.地輿七：島〕
Tung tang とんとんかんかん (鐘と太鼓が共に鳴る音)〔14.聲響三：鐘鼓齊鳴聲〕
— **tung** とんとん(太鼓の音)〔14.聲響三：鼓聲〕
Tunggalabumbi 思ひがけなく出會ふ〔15.遇合：無心撞見〕
Tunggalambi 1. 籤にあたる〔12.分給：輪著〕2. 出遇ふ．際會する〔15.遇合：撞見〕
Tunggen 鳩尾(ᵍᵘ)〔10.人身四：心坎〕
— **bokšon** (動物の)胸骨〔27.飯肉二：胸岔骨〕
— **de nikebumbi** 胸におさめる．服膺する〔彙：凡事放在胸坎上凡事篤切敬謹〕
— **nekeliyen** 聰明な人〔11.聰智：胷內靈透〕
Tunggi 1. 弦が短くて張りが强い．彎曲が大きい〔9.製造軍器二：弓能〕2. 兩脚が外向きに彎曲した〔16.殘缺：羅圈腿〕兩手の彎曲した．彎曲した手〔彙：往裡長的彎手〕
Tunggiyebumbi 拾はせる〔21.收藏：使撿起〕
Tunggiyembi 拾ふ．一つ一つ拾ひ上げる〔21.收藏：撿起〕骨拾ひをする〔6.喪服一：收撿骨殖〕
Tunggu ふち〔2.地輿八：淵〕
Tunggulembi 指程の太さの濕つた柳枝を根より切取り，中程を火に焙り切口より滲出た汁を獸に咬まれ或は掻かれた傷につける〔19.醫治：燒柳汁熨傷處〕
Tungio 油桐から搾りとつた油〔彙：桐油〕
Tungjeo i calu 通州に在る戶部の米倉．中西二倉あり〔補2.衙署八：通倉〕
Tungken 太鼓．つゝみ〔6.祭祀器用二：鼓〕〔7.樂器一：鼓〕
— **can i kiru** (儀仗の名) 黃地に金絲で「金鼓」の字を刺繡した旗〔6.鹵簿器用四：金鼓旗〕
— **i kemun** 法子の中央の的を吊す孔〔9.製造軍器四：法口〕
— **lakiyara kemun** 的吊り臺．毛氈の中央に圓い孔をあけ，臺に取付け孔の眞中に的 (Gabtara tungken) を吊したもの〔9.製造軍器四：法子〕
— **tinggin i yamun** 通政使司に屬し，冤枉を審理する役所〔20.部院六：鼓廳衙門〕
— **yoro** 的を射る小さな鏑矢〔9.軍器五：鼓子骰頭〕
Tungkeri 形が鼓に似た一足の奇獸〔補4.異獸七：異獸〕
Tungki tangki とこんとこん (凸凹の道を歩く形容)〔14.行走四：一步深一步淺〕
Tungku tembi 河の氷に穴をあけ網をしかけて魚の來るのを待ち，氷に處々丸太で穴をあけ竿を其の穴に入れて魚を網の方に追ひ，手にした叉で魚を刺す〔22.打牲器用二：鑿氷叉魚〕
Tunglu 綠青〔彙：銅綠〕
Tungnibumbi 柳枝の汁を傷につけさ

せる〔32.馬畜殘疾二：使燒柳枝熨瘡〕
Tungnimbi Tunggulembi と同じ〔19.醫治：燒柳汁熨傷處〕馬等の針傷に柳枝を焙つて出た汁を滴し込む〔32.馬畜殘畜二：燒柳枝熨瘡〕
Tungse Hafumbukū に同じ〔彙：通事.能會外國外彝番語者〕
— **kamcihabi** 通譯を帶同した〔彙：四譯來朝陪帶通事〕
Tungserebumbi Hafumbubumbi に同じ〔彙：使通傳說番語.使做通事〕
Tungserembi Hafumbumbi に同じ〔彙：做通事.通傳番語〕
Tungsika gurgu 獸名.虎斑，五爪を有し額面廣く眞白な獸〔31.獸一：狐〕
Tungsitun 狐に似た口の黑い獸〔31.獸一：豺〕
Tungtung tangtang Tung tang に同じ〔14.聲響三：鐘鼓齊鳴聲〕
Tuniyeltu cecike Niyengniyeltu cecike（長春花鳥）の別名〔30.雀五：萬春鳥〕
Tuniyeme fekumbi 棒をついて跳ぶ〔14.行走一：拄着棍子跳〕
Tunuhū さるさ〔27.菜穀一：茼蒿菜〕
Tur 1. ぶるる（馬が鼻から息を噴出す音）〔14.聲響五：馬噴鼻聲〕〔31.馬匹動作二：噴鼻聲〕2. Tur seme に同じ〔彙：馬快大走貌〕
— **seme** 馬が疾走する樣〔31.馬匹馳走一：淌走〕
— **tar** 1. どきどき（驚きの爲に激しく動悸打つ樣）〔13.怕懼一：跳的心內跳〕2. たたたーん（鐵砲の一齊射擊の音）〔14.聲響三：齊放鳥鎗聲〕3. 次に同じ〔彙：炒豆爆之貌〕
— **tar seme** 1. 豆のはぢける音〔15.搖動：豆爆〕2. どきどきと（動悸の激しい樣）〔16.疼痛一：心急跳〕
Tura 1.〔21.室家一：柱〕天幕の柱〔24.氈屋帳房：柱子〕2. 米の磨水を流せ〔28.澆漬：澄〕
Turabumbi 1. 米の白水をすてさせる 2. 肉の水氣をきらす〔28.澆漬：使澄湯水〕
Turaki 鳥の一種．嘴，身體が小さい〔30.鳥九：元鳥〕
Turakū 〔2.地輿九：瀑布〕
Turambi 1. 米の白水をすてる 2. 飯，肉の水氣をきる〔28.澆漬：澄湯水〕
Turame agambi 灑の樣に雨が降る〔1.天文五：大雨如注〕
— **ilihabi** 馬が四脚を突張つて立つた〔31.馬匹馳走二：四腿柱立〕
Turbelji Tarbalji に同じ．Damin（いぬわし）の別名〔補4.鳥三：鷲〕
Ture 長靴の胴（Harha より上の部分）〔24.靴襪：靴幫子〕
Turemimbi 長靴の胴をつける〔24.剪縫三：上靴子〕
Turfan i hoise emu gūsa 土爾番地方のトルコ族を以て編成した一旗〔3.族分佐領二：土爾番回子一旗〕
Turga 1. 痩せた（人，家畜）〔11.容貌七：痩〕〔32.牧養二：痩〕脂肪の少い（肉）〔27.飯肉三：痩〕2. Turha に同じ〔彙：帽纓上的月頂〕
— **efen** 小さな團子に豆粉をつけたもの（油で揚げぬ）〔27.餑餑一：豆麵子餑餑〕
Turgatu 痩せた人〔11.容貌七：痩人〕
Turgen 1. 急流．流れの速い〔2.地輿九：急溜〕2. 病勢の進行が速い〔16.疼痛三：暴病〕3. 速く駈ける〔31.馬匹馳走二：跑的快〕
Turgimbi（馬が）鼻を鳴らす〔31.馬匹動作二：馬噴鼻〕
Turgun かゝはり．事情．情實〔5.事務一：緣故〕〔5.詞訟二：情由〕
— **bi** 情實がある〔彙：有緣故〕
Turgūt emu gūsa 土爾扈特の蒙古人を以て編成せる一旗〔3.族分佐領二：土爾扈特一旗〕
Turha 帽子，冠の纓をとめる布ボタン〔24.冠帽一：帽月〕
Turi 1.〔28.米穀二：豆〕2. 賃借りせよ．雇へ〔彙：令租〕
— **arsun** 豆もやし〔27.菜穀一：豆芽〕
— **cai** 一種の野生の茶．高さ一丈餘り，葉は豌豆の葉に似たもの〔29.樹木二：山茶〕
— **cecike** しめ．まめどり〔30.雀一：

梧桐〕
Turi hoho 豆の莢〔彙：豆角子〕
— **miyehu** 〔27.菜穀一：豆腐〕
Turibumbi 1. とり落す．ぬけ落ちる〔15.拿放：脫落〕2. 賃借りさせる．賃傭ひさせる〔22.貿易二：使租〕傭はれる〔彙：被租僱〕
Turigen 家賃．借賃．地代．工錢〔22.貿易二：租子〕
Turihe hūsun 僱職人〔10.人三：僱工〕
— **niyalma** 上に同じ〔10.人三：僱工人〕
Turimbi 賃借りする．賃僱ひする〔22.貿易二：租〕家，田等を賃借りする〔彙：賃房之賃．租田之租〕
Turtun 紬の一種．稍薄手で幅の廣いもの〔23.布帛四：春紬〕
— **cece** 春紬の如く織つた模様のある紗〔23.布帛四：春紗〕
Turtung 猪に似た奇獸．泰山に出る〔補4.異獸三：狪狪〕
Turu 1. 聖賢より傳へられた精神．心の掟〔7.文教：心法〕2. 矢刀を繋ぐ皮紐．下げ緒〔9.製造軍器四：腰刀繫子〕
Turulabumbi 先に立つてやらせる〔5.辦事一：使倡率〕
Turulambi 率先してなす．先だつ〔5.辦事一：倡率〕
Turun 大旗—旗即．軍旗（旗竿の頂にふさ飾りをつけたもの，騎兵のものは四角形，親衛の精兵 Bayara のものは細い三角形）〔9.軍器七：纛〕
— **i wecen** 出征の時，堂子で纛を祭る事〔6.祭祀一：禡祭〕
— **wecembi** 纛を祭る（凱旋した將軍が兵を率ゐて纛を並べた前に拜禮する，拿捕した敵將等は其時に纛の前で殺す）〔8.征伐七：祭纛〕
Turungge jungken 樂器名．十二支に應じた十二個の鐘を一組としたもの，中和韶樂を奏するに用ふ〔7.樂器一：鎛鐘〕
Tus seme ぶすつと．ずるりと（結んだ繩，皮紐類が急に音を立てゝ解ける樣）〔25.斷脫：皮條綳斷〕
Tusa 益．利益〔12.分給：利益〕
— **araha** 有益な事をした〔彙：益之．做有益事乃致人於有益也〕
— **arambi** 有益な事をする．益する〔12.助濟：資助〕
— **arame iktambure cala** 東便門外に在る戶部の米倉〔20.部院十二：儲濟倉〕
Tusangga 有利な（事）〔12.分給：有益〕
— **calu** 米價調節の爲に各地に設けられた官倉（豐歲に穀物を買上げて貯へておき凶歲にそれを拂下げ或は人民に貸出す）〔20.部院十二：常平倉〕
Tusergen 宴席で盃類を置く高い卓子〔6.筵宴：反坫〕
Tushū 婚禮の宴等で外から入つて來た客に先づ迎への酒を勸める〔6.筵宴：迎門鐘〕
Tusihiya 叉のある木に張つて鷹類を捕る網〔22.打牲器用三：鷹網〕
Tusihiyalambi 1.（虎，豹が）爪を立てる〔31.走獸動息：遲爪〕2. 網を張つて鷹をとる〔彙：網打鷹〕
Tusu biya 婚禮によき月〔2.時令五：行嫁月〕
Tusumbi 嫁にやる〔6.筵宴：嫁〕
Tušahū Hūšahū（夜猫兒）の別名〔補4.鳥四：土梟〕
Tušambi 1. 喪に遭ふ．喪に服す〔6.喪服一：遭際〕2. 出逢ふ〔彙：遭逢〕
Tušan 職務．職掌〔4.臣宰十四：職任〕
— **de afaha hafan** 從九品の文官の封號〔3.封表一：登仕佐郎〕
— **de akūmbuha hafan** 從六品の文官の封號〔3.封表一：儒林郎〕
— **de baitalabuha daifan** 從五品の文官の封號〔3.封表一：奉直大夫〕
— **de baitalabuha hafan** 從八品の文官の封號〔3.封表一：修職佐郎〕
— **de dosika hafan** 正九品の文官の封號〔3.封表一：登仕郎〕
— **de fašša daifan** 從四品の文官の封號〔3.封表一：朝議大夫〕
— **de fašša hafan** 從七品の文官の封號〔3.封表一：徵仕郎〕

Tušan de ginggulehe daifan 正五品の文官の封號〔3.封表一：奉政大夫〕
— **de ginggulehe hafan** 正八品の文官の封號〔3.封表一：修職郎〕
— **de kicehe daifan** 正四品の文官の封號〔3.封表一：中憲大夫〕
— **de kicehe hafan** 正七品の文官の封號〔3.封表一：文林郎〕
— **de mutebuhe hafan** 正六品の文官の封號〔3.封表一：承德郎〕
Tušanambi 行き逢ふ．出逢ふ〔彙：逢着〕
Tušangga mahatun 職に在る者の被つた冠〔補1.古冠冕二：忠靖冠〕
Tuta 後に殘れ〔15.留遣：存下〕
Tutabumbi 後に殘らせる〔15.留遣：使存住〕
Tutala あれ程にまで．あれだけ〔25.多寡一：那些〕
Tutambi 1.（仕事，歩行等で）他人より遲れる．後になる．とり殘される〔12.遲悞：落後〕2.皆が行つた後に獨り殘る 3.引返す〔15.留遣：存住〕4.後世に殘る〔彙：垂留後世之垂留〕
Tuttu 斯く．彼樣に．あの樣な．故に〔18.散語五：所以〕
— **bime** 然して．あの樣であつて〔彙：然而〕
— **obureo** あの樣にするか〔彙：求人那樣行爲口氣〕
— **oci** あの樣ならば〔彙：若是那樣〕
— **ofi** この故に．かゝれば〔彙：因那般．是故〕
— **otolo** あの樣になる迄〔彙：至於那樣〕
— **seme** 然れども〔彙：雖然〕
Tuttusi 彼の邊へ〔18.散語五：往那邊些〕
— **oso** あの邊に居れ．あの邊に行つて居れ〔彙：叫人往那邊些〕
Tuwa 1.火．火炎〔23.烟火一：火〕火（五行の一）〔2.時令一：火〕2.見よ〔彙：令人看〕
— **gurgu** 獸名．鼠程の大きさで，毛の長さ三四寸，色は紅又は白色にして夜に火の如く光る〔補4.異獸七：火光獸〕
— **i agūra i ing** 清代に銃砲を練習せる禁衛軍〔彙：火器營〕
— **i fithen** 炭の火花〔23.烟火四：火星兒〕
— **i okto** 火藥．Tuwai okto に同じ〔彙：火藥〕
— **usiha** 星の名〔1.天文二：火星〕
— **yaha** 〔彙：炭火〕
Tuwabumbi （授官，補任等の時に）引見する．天子が謁見を許す〔4.陞轉：引見〕見さす．見てもらふ〔12.觀視一：使看〕
Tuwabun 1.讀み易い樣に改編した書物〔7.書三：覽〕2.名所．勝地 3.風致．景趣〔18.散語五：景致〕
Tuwabunambi 見させに遣る〔12.觀視一：給看去〕
Tuwabungga 試驗合格者の名を書いた揭示〔7.書六：榜〕
— **hoošan** Dersen hoošan（白鷰紙）より稍薄手の紙．榜を書くに用ふ〔7.文學什物一：榜紙〕
Tuwabure afaha 上奏する大臣の官位姓名，引見すべき官吏の數等を記した書付け〔5.事務二：門單〕
Tuwaci 見れば〔彙：看得〕
Tuwai agūrai kūwaran i siden yamun 火器營の本營〔20.部院九：火器營衙門〕
— **bujan usihai doohan i mudan** 元宵節に燈を掛ける時奏する音樂の名〔補1.樂：火樹星橋之章〕
— **buleku** 日光にあてゝ火を取る仕掛けにした鏡〔25.器用八：火鏡〕
— **efin** 花火〔19.戲具二：烟火〕
— **okto** 火藥．烟硝〔9.軍器七：火藥〕
— **okto i namun** 內務府及盛京に設けられた火藥庫〔20.部院十二：火藥庫〕
— **siberhen** 火繩銃に用ひる火繩〔9.軍器七：火繩〕
— **singgeri** 獸名．此の皮で作つた衣は火に燒けぬ〔31.獸七：火鼠〕
— **siren** 大砲の火門に仕掛ける火藥の包み〔9.軍器七：藥信〕
Tuwakiya 見張れ〔彙：令看守〕

Tuwakiyabumbi 監視させる. 見張らせる〔8.防守:使看守〕
Tuwakiyambi 監視する. 見張る〔8.防守:看守〕〔32.牧養一:看守〕
Tuwakiyanambi 監視に行く〔8.防守:去看守〕
Tuwakiyandumbi Tuwakiyanumbi 共に見張る〔8.防守:一齊看守〕
Tuwakiyanjimbi 監視に来る〔8.防守:來看守〕
Tuwakiyantu enduri 城を守る神(值日神の一)〔補2.神一:執〕
Tuwakiyara cooha 〔8.兵:守兵〕
— **hafan** 五品の武官. 都司の次〔4.臣宰ナ三:守備〕
Tuwakū 儀表. 模範〔5.政事:榜樣〕
Tuwakūn 易卦の名〔補1.書一:觀〕
Tuwambi 1. 見る〔12.觀視一:看〕2. 占ふ〔彙:筮卜〕
Tawame kadalara hafan 官物の製造出納を管理する官〔4.臣宰十:監督〕
— **weilebure uheri tuwara hafan** 書物の編纂の總監修官〔4.臣宰十:監修總裁官〕
Tuwamehangga 見るべき處のある人〔11.德藝:可觀〕優れた物〔彙:人可看之物〕
Tuwamgiya 眞直にせよ〔21.倒支:端直〕
Tuwamgiyabumbi 矯正する. 非を改めさせる〔5.寬免:改正〕物の曲り, 撓みを眞直にさせる〔21.倒支:使端直〕
Tuwamgiyambi 改正する. 誤つた事を正す〔14.言論二:改正〕(物の曲り, 撓みを)眞直にする〔21.倒支:端直着〕弓の狂ひを直す〔9.製造軍器一:端弓〕
Tuwanabumbi 見に行かせる〔12.觀視一:使去看〕
Tuwanambi 1. 見に行く〔12.觀視一:去看〕2. 御機嫌伺ひに行く〔彙:問好去〕
Tuwancihiya 歪みを直せ〔21.倒支:撥正〕
Tuwancihiyabumbi 物の歪みを直さす〔21.倒支:使撥正〕
Tuwancihiyakū 詹事府の左右春坊の長官〔4.臣宰四:庶子〕
— **be gidara moo** 船の舳の舵をとりつける横木〔26.船三:盤梁〕
Tuwancihiyambi 1. 正しくする〔5.辦事二:撥正〕物の歪みを直す〔21.倒支:撥正着〕矢柄を火に焙つて眞直にする〔9.製造軍器三:端箭桿〕2. 馬を御す〔彙:御馬之御〕
Tuwancihiyan 惡逆の徒を懲らしめること〔5.政事:征〕
— **dailan** 〔彙:征伐〕
Tuwancihiyara yamun 詹事府の下にある役所. 左右二坊あり〔20.部院六:春坊〕
— **yamun de baitalambi** 翰林院より詹事附の官に登用する〔補1.陞轉:開坊〕
Tuwanggimbi 見に行かせる〔12.觀視一:使人往看〕
Tuwanjimbi 1. 見に來る〔12.觀視一:來看〕2. 御機嫌伺ひに來る〔彙:來問好〕
Tuwanumbi 共に見る〔12.觀視一:同看〕
Tuwara gisun 案呈(Baita i sekiyen)の詳論したる箇所. 裁判所で律條の適用を擬定した文. 審單〔5.事務三:看語〕
— **niyalma** 卜者〔10.人四:算命人〕
Tuwašabumbi 監視させる. 保護させる〔彙:使監視. 使顧盼. 使照看〕
Tuwašambi 1. 監視する. 見張つて居る〔8.防守:照管〕2. 補給する. 世話をする〔12.助濟:看顧〕
Tuwašara hafan 第八級の封爵(世襲)〔4.臣宰三:雲騎尉〕
— **hafan i jergi janggin** 省城に駐防せる武官〔4.臣宰十三:防禦〕
Tuwašatabumbi 助けさせる. 保護さす〔12.助濟:使照看〕
Tuwašatambi 援助する. 世話する. 保護する〔12.助濟:照看〕
Tuwelebumbi 1. 商はせる. 取次いで

賣らせる〔22.貿易一：使販賣〕2. 傳へさせる．取次がせる〔彙：使傳授〕

Tuwelembi 1. 取次ぐ．次々に傳へる〔12.取送：遞運〕2. あきなふ．取次販賣をする．仲買をする〔22.貿易一：販賣〕

Tuwelesi 仲買人〔10.人三：販子〕

Tuweri 冬季〔2.時令五：冬〕

— **be bodoro hafan** 欽天監の官．冬季の日月の交食，七政を觀測する〔4.臣宰八：各官正〕

— **dosimbi** 立冬になる〔彙：立冬〕

— **hetumbi** 冬を過す〔彙：度過冬〕

— **ten** 〔彙：冬至〕

Tuwerikten 冬に行ふ先祖の祭〔6.祭祀一：烝〕

Tuwerimu ilha 奇花名．幹に刺があり，枝長くて葉少く，花は赤くして幾層にも重なり，蕊は黃色にして芳香を有す〔補3.異花四：冬瑰花〕

Tuweturi cecike Turi cecike（まめどり）の別名〔補4.雀一：冬鳳〕

Tuya （木を）折れ〔26.煨折：撅〕

Tuyabuha 手足が折れた．挫けた〔16.疼痛一：手足折了〕

Tuyabumbi 1. （木等を）折らせる．折りまげさせる〔26.煨折：使撅折〕2. 手足が挫けて痛む〔彙：手足彎屈的疼〕

Tuyambi 1. （角力で）相手の體を後にまげてよぢ倒す〔8.撩跤一：往後撅〕2. （木等を）折る．折り曲げる〔26.煨折：撅折〕

Tuyebuhe つき透つた．貫いた〔彙：箭鎗等器射戳着透了〕

Tuyebumbi （金屬に）孔をあけさせる〔26.雕刻：使銃鐵眼〕

Tuyekte 果名．赤く，酸い果實〔28.果品三：紅酸〕

Tuyeku 鑽(ぎり)．穿孔機．銅鐵等の板に孔を穿つ鋼鐵製の道具〔22.工匠器用一：銃子〕

— **yonggan** 〔22.貨財二：礪砂〕

Tuyembi 1. 集中攻撃をする〔8.征伐四：專攻一處〕2. 矢が鎧の札を射貫く〔8.步射一：射透甲葉〕3. 銅，鐵板に孔をあける〔26.雕刻：銃鐵眼〕

Tuyembubumbi さらけ出させる〔彙：使露出〕

Tuyembumbi 窮狀を曝け出す〔13.貧乏：露窮〕色に出す．露(あら)に出す〔14.隱顯：顯露〕

Tū 打て（穀物を）〔21.農工三：打〕〔彙：令打鼓板鐵金銀之打．令竹板打有罪人之打〕

Tūbumbi 打たせる〔21.農工三：使打場〕（槌で）打たせる〔26.折鎚：使鎚打〕

Tūku 1. からざを〔21.農器：連枷〕2. 槌．木槌〔25.器用五：木郎頭〕

Tūmbi 打つ．（人を）笞うつ〔5.捶打：打〕（樂器を）打ち鳴らす〔7.樂三：打〕．穀物をからざをで打つ〔21.農工三：打場〕鎚で打つ〔26.折鎚：鎚打〕

Tūme efen 粟餅．小黃米等を蒸して搗いた餅〔27.餑餑一：打糕〕

Ts'

Ts'un Jurhun に同じ〔彙：尺寸之寸〕

Ts'urts'ung 奇獸名．犬に似て六本足，枸狀山に出づ〔補4.異獸三：從從〕

U

U 1. 刺青〔16. 傷痕：刺〕 2. 鬼の聲〔彙：鬼聲〕
— **da** Ungga, Dangga に同じ〔10. 親戚：長輩〕
— **tung moo** 〔彙：梧桐樹〕
— **u** うーんうーん. わぁわぁ（と泣く）〔14. 聲響二：慟哭聲〕
Uai nimaha 海魚名〔彙：海魚身似白腹細鱗魚身有白斑花長四扎餘〕
Uba 此處〔18. 散語三：這裏〕
— **adarame** こゝは如何〔彙：此事怎樣〕
Ubabe ainambi この事或は此處を如何するか〔彙：這事此處怎麼樣口氣〕
Ubade 此處に. 此處に於て〔彙：此處〕
Ubaingge 此處の〔18. 散語三：這裏的〕
Ubakabi 白黴が生えて味が變になつた. 腐敗した〔28. 滋味：傷熱壞了〕
Ubaliyambi 變心する〔16. 叛逆：更變〕遷り變はる〔彙：凡物轉變〕引つくり返る. 覆へる〔彙：凡物翻轉覆之〕
Ubaliyambumbi 飜譯する〔7. 書七：繙譯〕
Ubaliyambure hafan 纂修官の次の官〔4. 臣宰十：繙譯官〕
Ubaliyame fahambi 角力の手. 諸手を引き取り右に倒すと見せかけて急に左に投げつける〔8. 撩跤二：翻〕
Ubara 腐敗した〔彙：肉敗之敗〕
Ubašabumbi 1. 叛かせる. 裏切らせる〔16. 叛逆：使叛〕 2. 耕させる〔21. 農工一：使耕〕 3. 引つくり返す. 轉がす〔彙：使翻〕
Ubašakū 1. 心移りする人. 日和見主義者〔17. 奸邪：反覆人〕 2. Leke（扁條）より稍長く，眞中に裂け目を入れて油で揚げたもの〔27. 餑餑二：麻花〕
Ubašambi 1. 叛く. 裏切る〔16. 叛逆：叛〕 2. 引つくり返る. 轉がる〔21. 倒支：翻過來〕耕す〔21. 農工一：耕〕
Ubašara fudarara 〔彙：叛逆〕
Ubašatambi 去就がはっきりしない. 心移りする〔17. 奸邪：反覆〕〔彙：與 Ubasitambi 同〕
Ubihiya yali 牲畜の肩帶の凹んだ處の肉〔彙：牲口琵琶骨襯頭凹的去處的肉〕
Ubiyabumbi 憎まれる. 嫉はれる. Ibiyabumbi に同じ〔15. 嫉憎一：惹人惡〕
Ubiyaburu 忌々しい奴. 憎らしい奴（憎い人を罵つて言ふ詞，Ibiyaburu に同じ）〔16. 咒罵：討人嫌〕
Ubiyacuka 憎らしい. Ibiyacuka に同じ〔15. 憎嫌一：可惡〕
Ubiyacun 憎む可きもの. Ibiyacun に同じ〔15. 憎嫌一：可惡的〕
Ubiyada 醜物. 厭惡すべき人. Ibiyada に同じ〔15. 憎嫌一：厭惡〕
Ubiyambi 憎む. Ibiyambi に同じ〔15. 憎嫌一：惡〕
Ubiyoo しほふき貝の類. 殼に紋樣あり〔32. 海魚二：海巴〕
Ubu 1. 分け前. 割り當て〔12. 分給：分〕 2. 官の割り當て. 官職. 任務〔彙：旗分缺之分. 漢分缺之分〕 3. 倍〔彙：一倍. 兩倍之倍〕 4. 分. 例へば三分の一の分〔彙：分數之分〕
— **banjibumbi** 籤を引いて割り當て，分け前を極める〔彙：編執掌. 編分兒〕
— **goibu** 分け前を與へよ〔彙：分分子〕
— **sibiya** Ubu に同じ〔12. 分給：分〕
Uca 家畜の尾骨を丸煮にしたもの〔27. 飯肉二：尾骨〕
Ucalaha Ucalaha yali に同じ〔彙〕
— **yali** 牛羊を殺したまゝ，風に曝して乾肉にしたもの〔27. 飯肉三：風乾肉〕
Ucarabumbi 出遇はす. 出遇はされる〔15. 遇合：遇得着〕
Ucarabun 邂逅〔15. 遇合：際遇〕
Ucarambi 出遇ふ. 行き會ふ〔15. 遇合：相遇〕
Ucaran 1. 出遇ふこと〔15. 遇合：遇〕 2. 易卦の名〔補1. 書二：姤〕
Uce 家の門〔21. 室家二：房門〕
— **gunireke** 門の立付が弛んだ. 扉の

締り工合が悪くなつた〔21.開閉：門走扇〕

Ucika 1.弓，弓袋の上にかける覆ひ．雨天の時用ひる〔9.撒袋弓靫：弓罩〕 2.魚の前鰭〔32.鱗甲肢體：前分水〕

Ucilen はしばみ〔29.樹木五：榛子楷〕

Ucu 掻き廻せ〔22.趕拌：拌〕

Ucubumbi 掻き廻させる〔22.趕拌：使拌上〕

Ucudambi 絶えず掻き廻す〔22.趕拌：只管拌〕

Ucule 歌へ〔彙：令唱曲〕

Uculebumbi 歌はしめる〔7.樂三：使歌唱〕

Uculembi 1.歌ふ〔7.樂三：歌唱〕 2.混ぜる〔彙：混雜之〕

Uculeme hūlambi 凱歌を奏す〔8.征伐八：凱歌〕

Uculen 詞曲（言葉の長短を數へ音に適する詞を以て綴つた歌詞）〔7.書二：詞〕

Uculesi 子供の歌手〔10.人四：歌童〕

Ucumbi 掻き廻す．掻きまぜる〔22.趕拌：拌上〕

Ucun 〔7.樂三：歌〕詩歌〔7.書二：歌〕

Ucuri 機會．際〔2.時令三：一向〕

— **nashūn** 1.機會〔彙：機會〕 2.機宜に適した〔彙：機括〕

Udabumbi 買はせる〔22.貿易一：使買〕

Udambi 買ふ〔22.貿易一：買〕

Udame icihiyara ba 光祿寺より銀を受けとつて牲畜等を買ひ調へる役所．光祿寺に屬す〔補2.衙署七：買辦處〕

Udanabumbi 買ひに行かせる〔彙：使人買去〕

Udanambi 買ひに行く〔22.貿易一：去買〕

Udanjimbi 買ひに來る〔22.貿易一：來買〕

Udanumbi 一齊に買ふ〔22.貿易一：齊買〕

Udelembi 途上で中食する．宿驛の中間で中休みする〔19.街道：打中伙〕〔27.飲食一：打中伙〕獵の中途で中食する〔彙：打獵過午歇馬吃飯〕

Uden 途上中食の處〔19.街道：中伙處〕

Udu 1.…と雖．然れども〔18.散語三：雖然〕 2.幾つ〔12.問答一：幾個〕 3. Emu udu を見よ

— **juwan** 〔彙：幾十〕

— **ursu** 〔彙：幾層〕

Uduci 第何番目〔7.數目一：第幾〕

Ududu 多くの．數多の〔7.數目一：許多〕

Udumbara いちぢくの別名〔補3.異樣果品二：優曇鉢〕

Udunggeri 幾度〔7.數目一：幾次〕

Udute 幾つ毎に〔7.數目一：每幾個〕

Uduwen 雄熊〔31.獸二：公貔〕

Ufa うどん粉．凡て穀物を搗いて粉にしたもの〔28.米穀二：麵〕

— **cai** うどん粉をまぜた茶〔27.茶酒：麵茶〕

— **i šugi** うどん粉を捏ねて作つたもの〔27.菜穀一：麵觔〕

Ufabumbi 搗いて粉にさせる〔21.碾磨：使磨麵〕

Ufaha 搗いて粉にした〔彙：磨了麵〕

Ufambi 搗いて粉にする〔21.碾磨：磨麵〕

Ufarabumbi 1.過らす．失策させる〔17.過失：致失錯〕 2.損させる〔22.貿易二：致于失利〕

Ufaracun 過失．失策〔17.過失：失〕

Ufaraha 1.死んだ．亡つた〔6.喪服一：亡〕 2.損した〔彙：凡生理沒有利錢〕

Ufaraki 小さな過失〔17.過失：微失〕

Ufarambi 過る．失敗する〔17.過失：失錯〕 2.損する〔22.貿易二：失利〕

Ufibumbi 縫はせる〔24.剪縫一：使縫〕

Ufimbi 縫ふ〔24.剪縫一：縫〕

Ufire tabure sain 縫ひ綴りの手際のよい．裁縫の上手な〔彙：婦人縫的針扎的手段巧〕

Ufuhi Ubu に同じ（例 Tucike ufuhi 出た分，Dosika ufuhi 入つた分）〔12.分給：分〕餘分〔彙：如做衣服恐舉了放出個分兒之分兒〕

Ufuhu 〔10.人身七：肺〕

Ufuhu efen 麥粉に蜂蜜，卵を混ぜて捏ね合はせ油で揚げたもの〔27.餑餎一：軟酥餅〕
— **wehe** 輕石．貂皮を鞣すに用ひる〔2.地輿六：海沫石〕
Ugingge coko 鷄の別名〔31.諸畜三：九觔黃〕
Uhala 睾丸〔彙：腎囊〕
Uhe 1. 和合せる〔11.親和：同〕2. 一體．凡て．總じて〔彙：總〕
— **dakū** 和合．融合〔11.親和：和同〕
— **hūwaliyan** 一致和合せる．一つ家の如く〔11.親和：和同〕
Uhei 凡て．一にして．同じうして．共々に〔彙：共總．同心之同．一齊〕
Uhelembi 共にする．一體になる〔11.親和：相共〕總べる〔彙：總之〕
Uhelenjimbi 共に來る．總べて來る〔彙：共來．總來〕
Uhen 弟の妻〔10.人倫二：弟婦〕
Uhereme 總べて．全體で．締めて〔彙：一總胶兒〕
Uheri 全部．凡て．總數〔18.完全：共〕
— **be baicara yamun** 〔20.部院五：都察院〕
— **be baicara yamun i ejeku** 都察院の都事廳の事を司る役人〔4.臣宰六：都事〕
— **da** 地方長官．九門提督〔4.臣宰十三：總管〕
— **da yamun** 駐陵旗軍の事を辨理する役所〔20.部院九：總管衙門〕
— **dalaha amban** 周官六卿の首位〔補1.古大臣官員：冢宰〕
— **dangse asarara kunggeri** 檔案帳簿を貯へ往復文書を處理する役所．兵部に屬す〔補2.衙署三：檔總科〕
— **dangse boo** 陵墓に關し祭祀の官の派遣，その他一切を辨理する役所．東西陵各々に有り〔20.部院九：總檔房〕
— **iktambure calu** 莫爾根城の倉庫名〔補2.衙署八：通積倉〕
— **kadalara amban** 〔4.臣宰十二：總督〕
— **kadalara da** 〔4.臣宰十三：總兵〕
— **kooli bithei kuren** 現行の會典，則例を作成する役所〔20.部院十一：會典館〕
— **saraci** 知府の次の官〔4.臣宰十二：同知〕
— **tusangga calu** 盛京戶部の倉名．廣東にも亦この名稱あり〔補2.衙署八：通濟倉〕
— **tuwara amban** 鑾儀衛を總理する大臣〔4.臣宰一：掌衛事大臣〕
Uherile 總べよ〔彙：着總起來〕
Uherilembi 統一する．總べる〔18.完全：統共〕
Uherileme ejehe bithei kuren 一統志を編纂する役所〔20.部院十一：一統志館〕
Uhete 弟婦等．Uhen の複數〔10.人倫二：衆弟婦〕
Uhu 包め〔24.包裹：包〕捲き收めよ〔彙：令人捲〕
Uhubumbi 包ませる〔24.包裹：使包裹〕捲かせる〔彙：使捲〕
Uhukedembi 軟弱な振舞をする〔17.懦弱一：孱軟〕
Uhukeliyan 少々軟かな〔28.軟硬：略輭〕
Uhuken （弓の）弱い〔9.製造軍器二：弓輭〕柔和な〔11.厚重一：柔和〕軟弱な．柔弱な〔17.懦弱一：軟〕軟かな〔28.軟硬：輭〕
Uhumbi 包む〔24.包裹：包裹〕捲き收める〔彙：捲之〕
Uhume 叔母〔10.人倫一：嬸母〕
Uhumete 叔母達．Uhume の複數〔10.人倫一：衆嬸母〕
Uhun Emu uhun を見よ
— **i hūsun** 倉庫の中で米を俵包にする人夫〔10.人二：打捲夫〕
Uhungge hoošan 包紙．黃色にして紙質弱し〔7.文學什物一：京高紙〕
Uhutu 卷物．卷軸〔7.文學什物二：手卷〕
Uhūbumbi 抉り取らせる〔26.鐵鑌：使剜〕
Uhūkū 鏑矢の鏃の中を抉り取る，尖が環狀になつた細工刀〔22.工匠器用二：剜刀〕

Uhūlja 羊の類. 山羊に稍似る, 角大にして彎曲す〔31.獣四：盤羊〕
Uhūma niru Teksin niru (斉披箭)に似て刃の眞中を抉りとつた鏃のある矢〔9.軍器四：月牙披箭〕
Uhūmbi 抉り取る〔26.鏃鏑：剜〕
Uhūyan 抉りとられて窪んだ處〔26.鏃鏑：槍的窪處〕
Ui nimaha のうを. とびうを〔32.海魚一：文鰩魚〕
Uihe 〔31.走獣肢體：角〕〔32.牛：角〕
— **hadambi** 弓の心棒の内側に膠で牛角を合はせ附ける〔9.製造軍器一：釘弓面〕
Uihengge 角のある〔31.走獣肢體：有角的〕
— **ulgiyan** Welgiyan (聖蚊)の別名〔補4.異獣四：角兔〕
Uiherin 一角獣. Asia産, 黄色にして一角, 善く獅子と戦ふ, 角は紋様光澤あり食器に作り又解毒剤に用ふ〔補4.異獣五：獨角獣〕
Uiheton 異獣名. 猪に似て鼻に角生ず, 日に萬里を走り四夷の語を解す〔31.獣一：角端〕
Uihetongge kiru 旗地に角端の像を刺繍した旗〔6.鹵簿器用三：角端旗〕
Uilembi 親に仕へる. 親に孝行を盡す〔11.孝養：事親〕
Uilen 親孝行. 日々兩親に仕へて怠らない事〔11.孝養：事奉〕
Uisuru 異獣名. 敎頭山に産し馬に似て一角牛尾あり〔補4.異獣二：辟馬〕
Ujan 1. 田畠の縁. 隅. 畦〔21.田地：地頭〕2. 梢(ʃᵃᵒ)〔29.樹木十：木頭梢子〕
— **i boo** 廂房の南のつまに作りつけた小屋〔21.室家一：露頂〕
— **šala** 反物の裁屑〔23.布帛六：補丁塊〕屑〔彙：零零碎碎〕瑣事〔彙：沒要緊之意〕
— **yalu** 畦〔彙：阡陌〕
Ujeken 稍々重々しい〔11.厚重一：略沉重〕
Ujelebumbi 1. 尊敬させる. 大事にさせる 2. 尊敬される〔11.敬愼：使人重待〕
Ujelehebi 病重つた〔16.疼痛三：病重〕
Ujelembi 1. 重んずる. 敬ふ 2. 大事をとる. 重大に思ふ〔11.敬愼：重待〕3. 病が重る〔彙：病重之重〕
Ujen 重々しい〔11.厚重一：沉重〕重い〔22.衡量二：重〕
— **be etere morin** 重量の積荷に堪へ得る馬〔彙：吃得重撘得重的馬〕
— **cooha** 八旗の佐領に編成された舊附の漢軍〔8.兵：漢軍〕清朝興起の際投降せる漢人の都統, 佐領, 兵士〔10.人一：漢軍〕
— **coohai gūsa** 甲喇, 佐領で編成された漢人の軍隊〔3.旗分佐領一：漢軍都統〕
— **jingji** 重い〔彙：沉重〕
Uji 養へ〔彙：令人養〕
Ujibumbi 養はせる〔13.生育：使養〕養はれる〔彙：被養〕
Ujibun 易卦の名〔補1.書一：頤〕
Ujibure tacihiyan i mudan 樂名. 順天府で鄕人飲酒の禮を行ふ時奏する樂〔補1.樂：南陔章〕
Ujihe ama 〔10.人倫一：養父〕
— **eme** Ujihe eniye に同じ〔彙：養身之母〕
— **eniye** 〔10.人倫一：養母〕
— **jui** 〔10.人倫二：養子〕
Ujima 家畜〔31.諸畜一：牲畜〕
— **eriku** 草蓆〔25.器用二：野掃蓆〕
— **i horigan** 家畜を飼育する爲の圏〔32.牲畜器用一：牲畜圏〕
Ujimbi 養ふ〔13.生育：養〕
Ujin 1. 家奴の子〔10.人五：家生子〕2. 自家で育つた牛馬に出來た仔〔31.馬匹二：家生駒〕
— **dahan** Ujin に同じ〔彙：家裡生下的馬駒子〕
Ujinambi 行つて養ふ〔13.生育：去養〕
Ujindumbi Ujinumbi 共に養ふ〔13.生育：共養〕
Ujingga niongniyaha Niongniyaha (鷲鳥)の別名〔補4.諸畜一：家雁〕
— **niyehe** 鴨の別名〔補4.諸畜一：家鳧〕

Ujire calungga inenggi 叢辰名. 例へば春は亥子, 夏は寅卯等の日〔2.時令六：毋倉日〕
Ujirhi 獣名. 野猫に似て色黒く縦の紋様あり〔31.獣五：貍〕
Uju 1. 序詞の最初の詞〔7.数目二：第一〕2. 頭部. 首〔10.人身一：頭〕3. 珠数の親玉. 母珠. 珊瑚の類を用ひる〔24.冠帽二：佛頭〕
— **be tongki** 頭をぶん殴れ！〔彙：罵人砍頭之語〕
— **eterakū** 頭を擡げ得ない. 眞直にして居られぬ〔彙：頭不能擡動〕
— **jai** 〔彙：第一第二〕
— **jergi** 一等. 一品の位〔彙：頭等. 一品〕
— **jergi hiya** 一等侍衛〔彙：頭等侍衛〕
— **jergi unenggi hehe** 一品の官の夫人〔3.封表二：一品夫人〕
— **langtanahabi** 頭の大きな（人）〔彙：頭大的人〕
— **liyeliyembi** 目眩する〔16.疼痛一：頭暈〕
— **liyeliyešembi** 故なくて目眩する〔16.疼痛一：頭發暈〕
— **nimembi** 頭痛する〔16.疼痛一：頭疼〕
— **sencehe** （家畜の）顎付きの頭. 火に焙り煮て食ふ〔27.飯肉一：頭下頷〕
— **tengkibufi** 項垂れて〔彙：頭往下揮擅着乃人病形景〕
— **tuwancihiyakū** 船首に取附けた舵〔26.船三：招〕
Ujukū 奇獣名、馬に似て頭なし, 絶域の融父山に出づ〔補4.異獣五：戎宣玉尸〕
Ujula 頭となれ〔彙：令人爲首〕
Ujulabumbi 首班たらしめる〔5.辦事一：使領頭〕
Ujulaha amban 首班の大臣〔4.臣宰一：首輔大臣〕
Ujulambi 首班となる〔5.辦事一：領頭〕首領となる〔彙：爲首〕先頭に立つ〔彙：首出〕
Ujungga dangga 首領〔彙：爲首之人〕
Ujungge 第一の〔彙：第一的〕
Ukada 叢(ぎょう)〔2.地輿二：塔子頭〕
Ukambi 逃げる〔16.逃避：逃〕
Ukambumbi 1. 逃げさせる. 故意に逃れさす〔16.逃避：使逃〕2. 屍を埋める. 葬る〔6.喪服一：藏埋〕
Ukan 小鳥名. 雀に似て, 頭部は藍色, 尾の兩傍は白, 春來る〔30.雀五：鐵脚〕
Ukanju 逃亡人〔10.人五：逃人〕
— **be kadalame jafara bolgobure fiyenten** 滿漢蒙各旗の逃亡人の逮捕, 裁判等を司る役所〔20.部院四：督捕清吏司〕
Ukatan ぺりかん〔補4.鳥三：逃河〕
Ukcabumbi 解く. 脱ぐ〔25.斷脱：使脱開〕
Ukcaha （罪が）解けた. 宥された〔5.寬免：脱離了〕
Ukcambi 解ける. ずり落ちる〔25.斷脱：脱開〕
Ukdun 山背, 河岸に穿つた洞屋（穴居する爲のもの）〔21.室家四：土窖子〕
— **boo** 1. 地下穴. 地下窟 2. 窓のない建物〔21.室家四：地窖子〕
Ukeci 獣名. 黒犬に似て尾なし, 木の孔に棲む, その肉を食へば邪を避け得るといふ〔31.獣五：彰猴〕
Ukecin 異獣名. 犬に似て甚だ大, 性兇暴〔補4.異獣七：饕〕
Uki 雌の河獺〔31.獣五：母水獺〕
Ukiyaka cecike よしはらすずめ〔補4.雀四：剖葦〕
Ukiye 啜れ. 飲め〔27.飲食四：喝〕
Ukiyebumbi 啜らしめる〔27.飲食四：使喝粥〕
Ukiyembi 啜る〔27.飲食四：喝粥〕
Uksa 不意に. 忽然〔18.散語三：頓然〕
— **genehe** 不意に脱けた. 突然離れた〔彙：忽脱開〕
Uksala 離せ. 解放せ〔26.剖解：解脱〕
Uksalabumbi 解離させる〔26.剖解：使解脱開〕罪を解かせる. 宥させる〔彙：使脱罪之脱〕放たしめる〔彙：使箭脱扣之脱〕
Uksalambi 宥す. 解く〔5.寬免：開

脫〕(番へた矢を)放つ〔8.步射一：撒放〕解離す〔26.剖解：解脫開〕

Uksalame fahambi 角力の手．相手の上衣の襟をとつて引き廻し，力づくに相手を振り解く〔8.撩跤二：使溯子〕

Uksen 繩紐〔24.巾帶：繩的帶子〕

Uksilebumbi 甲冑を着けさせる〔8.征伐二：使穿甲〕

Uksilembi 甲冑を着ける〔8.征伐二：穿甲〕

Uksilendumbi Uksilenumbi 一齊に甲冑を着ける〔8.征伐二：一齊穿甲〕

Uksin 1. 佐領の内より選ばれた軍人〔8.兵：馬甲〕2. 鎧．甲冑〔9.軍器一：甲〕

Uksun 太祖の世系に屬する朝廷の一族(黃色の帶を締める)〔3.君一：宗室〕

— **be kadalara yamun** 皇族を監督し譜牒封爵賞卹訴訟等を辨理する役所〔20.部院二：宗人府〕

— **i hergen** 宗室の爵位〔彙：皇宗室之爵〕

— **i tacikū** 宗室關係の學問所．左右各々あり〔20.部院十二：宗室學〕

— **niyaman** 易卦の名〔補1.書二：家人〕

Uksungga 一族郎黨の多い〔10.人倫二：族黨衆多〕

Uksura 分家．一門〔10.人倫二：一支〕

Uktu 悲哀に充ちた．悲げに〔13.哭泣：非哀〕

Uktun 物も言はずにぶりぶりする．默りこくて氣短な〔17.暴虐：憑氣人〕

Uku 1. 魚を捕る籠．荊條，竹類にて口を小さく底を大きく編み，留め返しを附け，魚を誘き寄せて捕る〔22.打牲器用二：魚籠〕2. 鷹を捕る籠．中に囮を入れる〔22.打牲器用三：串籠〕

Ukuhe yoo Ukuhu yoo に同じ〔彙：馬身上生的一點一點的出濃血之癬〕

Ukuhu にがうり〔28.果品三：紅姑娘〕

— **yoo** 馬に生ずる腫物〔32.馬畜殘疾一：馬癰〕

Ukulebumbi 煖帽の縁を下させる〔24.穿脫：使放帽沿〕

Ukulembi (寒い時)煖帽の縁(垂れ)を下す．Buculimbi, Bukulembi に同じ〔24.穿脫：放帽沿〕

Ukumbi 參朝せる人が一處に圍繞する〔6.朝集：環拱〕

Ukundumbi 一齊に環集する〔6.朝集：一齊環拱〕

Ukunjimbi 萬國の人々が來朝する〔6.朝集：來環拱〕圍む．取巻く〔彙：環圍〕

Ukunu 幾重にも取圍むこと．蝟集．集圍〔彙：群圍〕

Ukuri かます〔32.河魚三：細鱗梭魚〕

Ula 河〔2.地輿八：江〕

— **hoton** 吉林省の地名〔續2.地輿：烏拉城〕

— **kilahūn** かもめ〔補4.鳥五：江鷗〕

— **šušu** Šušu に同じ〔27.飯肉四：廩給〕

— **yalure šušu jetere** 馳驛して．驛馬に乘り，廩給を食して．飛脚〔彙：馳驛〕

Ulabumbi 傳へしめる．敎へさす〔7.文敎：使傳授〕

Ulabun 經傳．傳記．史傳〔7.書一：傳〕

Uladambi 蹄が破れて跛を引く〔32.馬畜殘疾二：蹉掌〕

Ulahūn Ula kilahūn の別名〔補4.鳥五：江鷺〕

Ulambi 傳へる．敎へる〔7.文敎：傳授〕話を傳へる〔12.問答二：傳說〕傳達する．遞送する〔12.取送：傳遞〕

Ulame benere kunggeri 各衙門より工人に持たす手形及び往復文書の出納を司る役所．兵部に屬す〔補2.衙署三：遞送科〕

— **sarkiyaha bithe** 公文書の一種．六部の各科に轉達された諭旨原疏を所管の官廳に錄送する場合の文書〔5.事務三：外抄〕

Ulan 1. 師の傳へ．敎へ〔7.文敎：傳〕2. 大きな溝〔21.室家四：大溝〕3. 馬の腿の關節の內側にある白線の溝〔31.馬匹肢體一：大腿窪〕

— **ulan i** 次々と．轉々と．陸續と〔12.取送：轉傳〕

— **yohoron** 溝〔2.地輿八：溝渠〕

Ulana すももの類〔28.果品三：嘎李

子〕

Ulandumbi 各自傳へる．相傳する〔7.文教：相傳〕

'Ulandume juwere falgangga 運河にて運送された穀物を次々と降し貯へる處〔20.部院十：運運所〕

Ulandusi 官名．中央官廳と地方官廳との往復文書の遞送，勅印の送達，事件の公布の印刷，發行等を司る官．兵部に屬す〔4.臣宰十三：提塘〕

— **tinggin** 各路の提塘官が事務を取る役所〔20.部院四：塘務廳〕

Ulangga kiru 地が赤で，中央の線の緞の所に波の模様のある，緣のない旗〔6.鹵簿器用四：江旗〕

Ulbimbi (栗鼠等が)枝から枝へ跳びまはる〔31.走獸動息：鼠跳樹枝〕

Ulcin 緡〔22.貨財一：錢串〕

Uldefun 木製の大形の鋤〔22.工匠器用二：木杕〕

Uldeke 曙光が出た〔1.天文一：晨光現出〕

Ulden 曙光〔1.天文一：晨光〕〔彙：光〕

Uldengge usiha 星名．大にして明光，この星現れば瑞祥ありといふ〔1.天文二：景星〕

Ulderhen Wenderhen(阿蘭)に同じ〔補4.雀三：烏鷗〕

Ule 野菜名．莖は薄紅色にして葉圓し，湯がいて食ふ〔27.菜殽三：灰條菜〕

— **umiyaha** 虫名．身は淡黃色，翅狹くて長い柔軟な虫，釣に用ひる〔32.蟲一：釣魚蟲〕

Ulebumbi 1. 筆を墨に濡す〔7.書七：飽筆〕2. 眞直に目粗く縫はせる〔24.剪縫一：使直針串縫〕3. 食物を與へる．宛行ふ〔27.飲食一：給喫〕家畜に食物を宛行ふ〔32.牧養一：喂養〕

Ulebusi 犧牲に用ひる牛羊を飼育する人〔10.人三：牛羊吏〕

Ulejembi 堤，岸が崩れる〔2.地輿十：坍塌〕土石が崩れ落ちる〔21.倒支：坍塌〕

Ulembi 眞直に目粗く縫ふ〔24.剪縫一：直針串縫〕

Ulen 田の溝〔2.地輿八：畎〕

Ulenggu 1. へそ〔10.人身四：臍〕2. 珠數の親玉の反對側にある，稍大きい珊瑚の玉〔24.冠帽二：佛臍〕果物のへそ〔28.果品四：果子臍〕

Ulgabumbi 濡らさせる．浸させる〔18.洗漱：使蘸水〕

Ulgambi 濡らす．浸す〔18.洗漱：蘸水〕

Ulgan (弓の)癖のない．引き工合のよい〔9.製造軍器二：弓沒底子〕

Ulgiyaci 豚の皮〔24.皮革二：猪皮〕

Ulgiyada nisiha 斑のある魚〔32.河魚四：癍魚〕

Ulgiyan 干支の一〔2.時令一：亥〕豚〔31.諸畜一：猪〕

— **biya** 亥月の別名〔補1.時令一：陽〕

— **cecike** かはせみ〔30.雀三：翠鳥〕

— **manggisu** Dorgon の別名〔補4.獸二：猪獾〕

— **orho** 草名．莖細く枝多くして葉は綠色〔29.草四：猪腸草〕

— **tumbi** 冬猪狩に行く〔9.畋獵一：打野猪圍〕

Ulgiyangga aniya 亥年〔補1.時令一：大淵獻〕

Ulgiyari cecike かはせみの類名〔補4.雀三：鴛〕

Ulha 家畜〔31.馬四二：牲口〕

— **muke orho de endebuhebi** 家畜が水草に喰んだ〔彙：牲口喰了水草了〕

— **tuwakiyara niyalma** 家畜の見張番〔彙：看牲口的人乃僱給人照看者〕

Ulhai oktosi 〔10.人四：獸醫〕

Ulhi 〔24.衣服三：袖〕

— **asu** 〔22.打牲器用一：袖綢〕

— **hetembi** 袖を捲り上げる〔24.穿脫：捲袖子〕

Ulhibumbi 悟らす．會得さす〔12.聆會：使曉得〕

Ulhibume selgiyere bithe 諭告，揭示のびら〔5.事務三：告示〕

Ulhibun 戒告の書〔7.書一：誥〕

Ulhibure fungnehen 五品以上の官の受封の書〔3.封表一：誥命〕

— **hese** 諭告の詔勅〔3.諭旨：誥〕

Ulhicun 悟つた．事理を辨へた〔11.聰智：憲性〕
— **akū** 無知な人〔17.愚昧：無知識〕
Ulhicungga 物分りのよい．常識の豐かな〔11.聰智：有悟性〕
Ulhihebi 悟つた．會得した〔12.聆會：曉得了〕
Ulhilembi 袖に物を隱して行く〔21.收藏：袖物〕
Ulhimbi 悟る．會得する〔12.聆會：曉得〕
Ulhingge 確りした人．聰明な人〔11.聰智：懂脉〕
— **akū** 肝心な點が欠けた．言行の間の抜けた〔17.愚昧：不懂脉〕
Ulhinjembi 追々悟る．會得して來る〔12.聆會：約略曉得〕
Ulhisu 早分りの．俊敏な〔11.聰智：顯悟〕
Ulhitun 手甲．袖の形に作つて札を附けたもの〔9.軍器二：甲袖〕袖褸ひ．袖の上に重ねて穿くもの〔24.衣服三：套袖〕
Ulhiyen 1. 漸時．追々と．次第に〔2.時令三：漸〕2. 易卦の名〔補1.書二：漸〕
— **ulhiyen i** Ulhiyen に同じ〔2.時令三：漸漸的〕
Ulhu 1. 銀鼠皮に似た灰色の皮．羽織等に作り或は染めて煖帽の緣に作る〔24.皮革一：灰鼠皮〕2. 銀鼠灰鼠の總稱〔31.獸六：銀鼠灰鼠總名〕
Ulhun 1. 刀の鯉口〔9.製造軍器四：刀吞口〕2. 胸壁の土臺石〔19.城廓：城頭把沿石〕3. 襟〔24.衣服三：領子〕掛布團の襟〔24.鋪蓋：被當頭〕4. 牛の項の下の垂んだ皮〔32.牛：牛項下蔫皮〕
Ulhū あし〔29.草二：蘆葦〕
— **i gida** 葭簾(すだれ)〔彙：葦箔〕
Ulhūma 雉〔30.鳥七：野雞〕
— **algan** 雉網〔22.打牲器用三：野雞網〕
— **hūthūri** 草名．莖細くて尖は岐れ花白し，莖は Calihūn (朱頂紅) を入れる籠を編むに用ひる〔29.草四：串籠草〕
— **uncehengge šun dalikū** 雉の尾で作つた，扇形の日除け〔6.鹵簿器用一：雉尾扇〕
Ulhūri gūwara みゝづくの別名〔補4.鳥四：雀〕
Uli 1.〔9.製造軍器二：弓弦〕2. にはうめ〔28.果品二：杜李〕3. 通せ．穿て〔彙：令穿〕
— **acabumbi** 出來上つた弓に弦を張る〔9.製造軍器一：配弓絃〕
— **moo** にはうめの木〔彙：郁李樹〕
Ulibumbi 1. 紐，繩を通させる〔26.拴結：使穿繩〕2. 神に供物を捧げる〔彙：使供獻〕
Ulimbi 1. 神が供物を享ける〔6.祭祀一：領〕2. 繩を通す〔26.拴結：穿繩〕
Ulin 〔22.貨財一：貨財〕
— **bayan** 財豐かな．富める〔彙：財富〕
— **gidambi** 財帛牛馬を神前に供へ叩頭して後賽り，金に替へて祭る〔6.祭祀二：敬神〕
— **i da** 倉庫に關する一切の事を管理する役人〔4.臣宰六：司庫〕
— **i niyalma** 銀，緞類を貯藏した倉庫の係りの役人〔4.臣宰六：庫使〕
— **nadan** Ulin に同じ〔22.貨財一：貨財〕
Ulingga inenggi 幹に枝が生える日〔補1.時令一：寶日〕
Ulintumbi 財を納めて罪を免れる．賄賂を使ふ〔5.詞訟二：行賄〕
Uliyen Absa に同じ〔25.器用六：樺皮桶〕
Ulkidun しやこ〔補4.雀五：鶉〕
Ulkume 胸膈(ぎょう)〔9.鞍轡二：攀胸〕
Ulme 縫針〔22.工匠器用二：鍼〕
— **hūlhatu** やんま〔32.蟲二：蜻蜓〕
— **i sen** 針孔〔彙：針鼻子〕
— **jibci** 針さし〔彙：針扎子〕
Ulu 1. 松，榛の實のいらぬ殻〔28.果品四：空松榛〕2. 無精卵〔31.牲畜孳生：寡蛋〕3. 白斑のある Fulan (青馬)〔31.馬匹毛片：喜鵲青〕
— **umgan** Ulu に同じ〔彙：不出粹的寡蛋〕

Ulu wala 言葉がはきはきせぬ形容〔14.言論四：話不明白狀〕
Ulumbi Ulejembi に同じ〔21.倒支：坍塌〕
Ulume もろこの一種〔32.河魚三：柳根池〕
— **butara se sirge asu** 目のつまつた大きな網．澱んだ所に用ふ，七種類の形あり〔22.打牲器用一：細絲粘網〕
Ulun gidambi 夏季，穀物を荒す獸を退治する〔9.畋獵一：夏苗〕
Uluncu 野菜名．酸水を作る野菜〔27.菜殽三：野鷄膀子菜〕
Ulunehebi 黒穂病に罹つた〔21.農工三：黄疸〕
Uluri ごれんし．やうたう〔28.果品三：羊桃〕
Ulusu gurun 全國．國中〔19.城廓：通國〕
Ulusun ちしやのき〔補3.異樣果品二：齊墩〕
Umai 全く．竟に．而も〔18.散語三：全然〕
— **akū** 並び無し．遂になし〔彙：並無〕
— **sarkū** 竟に知らぬ〔彙：竟不知〕
Umainaci ojorakū 已むを得ず．如何ともし難く．已むに已まれず〔18.散語三：不得已〕
Umainahakū 全く關りない．全然妨げない．Hūwanggiyarakū, Umainarakū に同じ〔彙：全然無妨〕
Umainame muterakū 如何ともし難い．どうにもならぬ〔18.散語三：並不能〕
Uman 1.歯の根〔10.人身三：牙床〕2.蹄窩．蹄の内側の窪んだ處〔31.馬匹肢體一：蹄心〕
— **dabaha** 駱駝が蹄を傷めて歩けない〔32.馬畜殘疾二：蹄心高〕
— **sindambi** 凍地を堀る爲に火を焚く〔23.烟火二：煨燒凍地〕
Umbumbi 埋葬する〔6.喪服一：掩埋〕
Umburi cumburi 草木が參差して長短一樣でない形容〔29.樹木七：草木參差〕
Ume 必ず…する勿れ．きつと…するな〔18.散語三：不必〕
— **gūnire** 決して思ふな．考へてはならぬ〔彙：不要思想〕
Umehen 上膊骨〔27.飯肉二：琵琶骨下節〕
Umerlehebi 牝豚が仔を生みやめて肥つた〔31.牲畜孳生：猪肥了不下崽〕
Umerlembi 牝豚が仔を生み止めて肥つて來る〔31.牲畜慈生：猪肥不下崽〕
Umesi 甚しく〔12.取與：著實〕甚だ．大いに．極めて〔25.多寡一：很〕
Umesilebumbi 甚しくする〔12.取與：使著實的〕
Umesilembi 1.甚しくなる〔12.取與：著實的〕2.悉くなす．完全にして了ふ〔18.完全：實落〕
Umgan 〔10.人身七：骨髓〕〔27.飯肉二：骨髓〕
— **giranggi** 〔10.人身六：大腿骨〕大腿骨〔27.飯肉二：棒子骨〕
— **šugi** 〔彙：精髓．脂膏〕
Umhan 卵〔31.牲畜孳生：蛋〕
— **durun** 燒團子．麥粉を蒸し卵砂糖を混ぜ捏ねて油で燒いたもの〔27.餑餑二：鷄蛋糕〕
— **haksangga efen** 燒き餅．麥粉と卵と砂糖を混ぜ捏ねて燒いたもの〔補3.餑餑：鷄蛋焦餅〕
Umhangga tubihe 異果名．野に生じ，二月に花開き，八九月に果熟す〔補3.異樣果品四：都昆子〕
Umiyaha 〔32.蟲一：蟲〕
— **aššambi** 虫がぱつと飛ぶ〔彙：驚蟄〕
Umiyahalambi Gokjimbi, Tobcalambi に同じ〔24.剪縫二：打結子〕
Umiyahanaha 果物に虫が附いた〔28.果品四：果子蟲〕
Umiyahanambi 虫が附く．湧く〔32.蟲動：物生蟲〕
Umiyahangga fukjingga hergen 雕蟲篆の別名〔補1.書三：蟲篆〕
Umiyelebumbi 帶を結ばしめる〔24.穿脫：使繫帶〕
Umiyelembi 帶を結ぶ．着ける〔24.穿脫：繫帶〕

Umiyesu ilha 異花名. 紅色にして枝柔かなり〔補3.異花五：御帶花〕
Umiyesun 〔24.巾帶：腰帶〕
Umpu さんざしの實〔28.果品二：山査〕
— **debsen** さんざしの實を軟く煮て種子を出し砂糖を加へたもの〔27.綽諏三：山査糕〕
— **erhe** 赤腹蛙〔32.河魚四：紅肛小田雞〕
Umriha 樹皮の下の柔い薄い皮〔29.樹木八：嫩皮〕卵の殻の内側の薄い皮〔31.牲畜孳生：蛋殻內嫩皮〕
Umudu 孤兒〔10.人五：孤〕
Umuhun 足の甲〔10.人身五：脚面〕
— **be fehume murimbi** 角力の手. 兩手を取り，相手の足の甲を求め踏んで一方にねぢ倒す〔8.撩跤一：踹脚絆子〕
— **tuheke** 驚きの餘り脚が立たぬ〔13.怕懼二：嚇癱了〕
Umuri 袋の口紐〔24.巾帶：抽口的繫手〕
Umušuhun うつむけに臥した〔15.睡臥一：俯臥〕
Un 豚小屋の臥床. 豚小屋の中の草を敷いた所〔32.牲畜器用一：猪窩〕
Una 果物名. 色赤く味甘し〔28.果品三：托盤果〕
Unahan 仔馬（生後一年未滿のもの）〔31.馬匹二：馬駒〕
— **sumbi** 馬が仔を墮胎する〔彙：墮駒子〕
Unca 賣れ〔彙：令賣〕
Uncabumbi 賣らせる〔22.貿易一：使賣〕
Uncambi 賣る〔22.貿易一：賣〕
Uncanambi 賣りに行く〔22.貿易一：去賣〕
Uncanjimbi 賣りに來る〔22.貿易一：來賣〕
Uncanumbi 一齊に賣る〔22.貿易一：齊賣〕
Uncehen 1. 語尾〔7.書八：字尾〕2. 車體の後部〔26.車轎一：車尾〕3.〔30.羽族肢體一：尾〕〔31.馬匹肢體二：尾〕
— **aššame yabumbi** 馬が尻尾を振りながら行く. 縦り行く〔31.馬匹馳走一：顚著走〕
— **bošoro aga** 降り止む樣になつて又さつと來る雨〔1.天文五：陣頭雨〕
— **giranggi** 薦骨〔10.人身六：尾骨〕
— **golmin buhū** おほしか〔31.獸三：麚〕
— **hetembi** 敵の後方を不意に包み討つ〔8.征伐四：抄尾〕
— **i da** 尾の附け根〔彙：尾根〕
— **šolonggo alhacan niyehe** 鴨の一種. 羅紋鴨(Alhacan niyehe)に似て尾の尖つたもの〔補4.鳥七：尖尾羅紋鴨〕
— **tuwancihiyakū** 舵〔26.船二：舵〕
— **tuwancihiyakū jafambi** 舵を取る〔彙：拿舵〕
Unda yali 背骨の兩側の邊の肉〔10.人身七：裏背肉〕
Undan 春雪が凍つく〔1.天文六：春雪凝凍〕
Undanahabi 春雪の表面が凍ついた〔1.天文六：雪浮凍〕
Undanambi 春雪が凍ついた時に獵に行く〔彙：春雪凍去打圍〕
Undaraka 病が深まつた〔16.疼痛三：病深了〕蔓が伸びた〔彙：蔓開了〕
Undašambi 春雪の上を馳驅する. 春雪の表面が凍ついた時，かんじきを穿いて獸を逐ひ犬を放つて捕る〔9.畋獵一：春雪上趕獸〕
Unde 1. …しない前に. …しない內に〔2.時令三：尙未〕未だ…せず〔18.散語三：尙未〕
Undeci 小使. 走り〔10.人二：皂隸〕
Undehele 罪人の尻を打て〔5.刑罰一：使打板〕
Undehelembi 割り竹で罪人の尻を打つ〔5.刑罰一：打板子〕
Undehen 罪人の尻を叩く割り竹〔5.刑罰一：板子〕板〔29.樹木十：木板〕
— **falan** 土間の板敷〔21.室家三：地平〕
Undeo まだか？〔彙：尙未麼〕
Undu たて〔2.地輿十四：竪〕

Undurakū 蟒闕(Ten)のない龍紋地の蟒緞〔23.布帛一：龍緞〕
Unduri 一繋ぎになつて．沿ふて〔19.街道：沿途〕
Undustan suje 織物の名．紅地の緞に金で刺繍したもの，哈密地方の貢物〔23.布帛一：錦金緞〕
Unenggi 誠．眞實．事實〔11.厚重一：誠〕誠に．果して〔彙：果然〕
— **hehe.** 二品の官の夫人〔3.封表二：夫人〕
— **yalanggi** 〔11.厚重一：誠實〕
Unenggilembi 誠を竭す〔11.厚重一：竭誠〕
Unenggingge 誠のもの．眞實のもの〔彙：誠者〕
Unesi 家傳來の古器〔25.新舊：家傳舊物〕
Ung ごーん〔14.聲響三：鐘韻〕
— **wang** 〔14.聲響一：鼻音〕
Ungga 一門の長老．年長者．先輩〔10.親戚：長輩〕
Unggala 耳の孔〔10.人身二：耳竅〕木の洞になつた處〔29.樹木九：樹孔〕
— **i ulenggu** 鳥銃の子筒の中の火藥を裝塡する所〔9.軍器七：鎗堂內裝藥處〕
Unggalangga moo 拍子木〔彙：梆〕
Ungganumbi Unggašambiに同じ〔11.孝養：長長〕
Unggašambi 長者，先輩を敬ふ〔11.孝養：敬長〕
Ungge 葱の一種〔27.菜穀二：細野葱〕
Unggi 贈れ．遣せ〔12.取送：遣〕差遣せよ〔15.留遣：遣去〕
Unggibumbi 差遣させる〔15.留遣：使差遣〕
Unggilakū 豚の睾丸〔27.飯肉三：猪胥包〕
Unggimbi 贈る〔12.取送：遣致〕差遣する〔15.留遣：差遣〕
Unggin 鉄，刃物類の柄をつける孔〔22.工匠器用二：鉄鍛鞴〕
Unggindumbi 一齊に遣す〔15.留遣：一齊差遣〕
Unggu (賭博，遊戯の)親．胴元〔19.賭戯：頭家〕
— **mafa** 〔10.人倫一：曾祖〕
— **mama** 〔10.人倫一：曾祖母〕
Ungkan 草の上に雪が積つて凍ついた〔1.天文六：凍雪漫草上〕
Ungkebumbi 1. 俯(うつぶ)にさせる．伏せさせる．裏返させる 2. 落ちて俯(うつぶ)になる〔21.倒支：使叩着〕
Ungkembi 俯(うつぶ)にする．裏返す．伏せる〔21.倒支：叩着〕乾盃して盃を見せる〔彙：吃酒飲完照盃之照〕
Ungken ilha 異花名．盃を伏せた形の花が開く〔補3.異花三：覆杯花〕
Ungkeshūn 腰の屈んだ〔11.容貌五：圭腰〕傾いた．屈んだ〔彙：傾覆些〕
Unika 蝗の幼虫〔32.蟲二：蝻子〕
Uniyehe 鴨〔補4.諸畜一：鴈〕
Uniyele 鹿の尾の根本に生えた，五六寸位の長さの黄毛〔31.走獸肢體：鹿尾根黄毛〕
Uniyen 牝牛〔32.牛：乳牛〕
— **honin** 牝羊〔彙：母羊〕
— **ihasi** 牝の犀〔補4.獸一：牝犀〕
Untuhuken 空になつた〔25.盈虛：空空的〕
Untuhulebumbi 何ものも得させない．無一物にする〔12.落空：使空過〕空にする〔25.盈虛：使空着〕
Untuhulembi 何ものも得ない．無一物になる〔12.落空：空過〕空になる〔25.盈虛：空着〕
Untuhun 無一物の．素寒貧〔13.貧乏：空〕何もない．空の．中が洞になつた〔25.盈虛：空〕
— **acilambi** 角力の手．脇に手を入れずに兩手を肩にかけ足を送つて左右にふり廻す〔8.撩跤一：飛絆〕
— **flyelembi** 曲馬．馬の後から追ひかけて手を使はずに飛び乘る〔8.騙馬：挿腿大上〕
— **forgošome flyelembi** 曲馬．鐙の帶を引きとつて紡車の様に宙返りする〔8.騙馬：紡車上〕
Untuhuri 徒に．空しく〔18.散語三：徒然〕
Untun 女巫人が家で跳神する時に用ひる太平鼓〔6.祭祀器用二：女手鼓〕

Untušembi 鼓を打つ〔6.祭祀二：女打手鼓〕
Unu 背負へ．擔つて行け〔21.扛擡：背負〕
Unubumbi 債務，罪を他人に轉嫁する〔13.當借：移債他人〕背負はしめる〔彙：使背〕
Unucun 父の沒後十月內に生れた子〔10.老少二：沒生子〕
Unuhabi 背負つて歩いた〔21.扛擡：背負着呢〕
Unujun 鵜の別名〔補4.鳥二：背竈〕
Unumbi 擔ふ．背負ふ〔彙：物件背上背者〕
Unun 量の單位．一度に背負へるだけの量〔21.扛擡：一負〕
— **fiyana** Fiyana に同じ〔彙：山中背物的背夾子〕
— **uše** 鎗を背負ふ紐〔下卷9.軍器七：背鎗帶子〕〔綫.軍器：背鎗帶子〕
Unure hukšere 背，頭に載せて〔彙：負載〕
Unurtu 異獸名．アメリカ產，尾は等身大，人追へば子を背に負ひ尾で覆ふて跳ぶ〔補4.異獸五：蘇獸〕
Upi jahūdai 戰船の一種．兩傍の船肋に油を引き黑く塗つた船〔26.船一：烏鮫船〕
Ura しり〔10.人身五：臀〕
— **fulcin** 〔10.人身五：臀肉〕尻の骨〔彙：人尻股下兩邊的尖高骨〕
— **tebumbi** 前方を遮つて獸を後方に追ひ戻す〔9.畋獵三：攔獸使回〕
— **tūmbi** 尻を叩く〔彙：打屁股〕
Urahilabumbi 消息を探らせる．傳へさせる〔12.聆會：使探聽〕
Urahilambi 消息を傳へる．探る〔12.聆會：探聽〕
Urahilame donjiha〔12.聆會：風聞〕
Urakabi 血が滲んだ．紫斑が出來た〔16.傷痕：血蔭了〕〔28.生熟：血暈了〕
Urambi 響く〔14.聲響一：餘韻〕(物に衝當つて) 血が滲む．紫斑が出來る〔16.傷痕：血蔭〕こだまする〔彙：山谷應聲〕
Uran 響〔14.聲響一：韻〕こだま〔14.聲響四：山谷應聲〕
Urandambi 響く〔彙：嚮〕
Urangga moo〔29.樹木一：梧桐樹〕
Urantu 異獸名．性凶暴にして鳴聲鐘の如し〔補4.異獸六：蒲勞〕
Urebumbi 1.復習する〔7.文學：溫習〕2.懲らしめて堪へられぬ樣にする〔16.折磨：折挫不了〕3.絲を練る〔23.紡織一：練絲〕4.煮て食べられる樣にする．煮て甘くする〔28.生熟：使熟〕
Urehe 1.心に傷手を受けた．心痛した〔13.愁悶：傷透了〕2.熟した．食へる樣になつた〔28.生熟：熟了〕
— **banjiha** 瓜二つの．寸分違はぬ〔25.同異：天然一樣〕
— **usin** 每年作る田〔21.田地：熟田〕
Urehebi 1.諳じた．讀書に通じた〔7.文學：熟了〕2.熟練した〔8.騎射：熟練〕3.氣の合つた．共鳴した〔11.親和：熟了〕
Urembi 1.心に傷手を受ける．心疼く〔13.愁悶：傷透〕2.熟す．實る〔21.農工三：熟〕3.甘く煮える．煮て食べられる樣になる〔28.生熟：熟〕
Ureshūn 1.物に精通した．物慣れた〔7.文學：熟〕2.顏見知りの．見覺えのある〔12.觀視二：熟〕
Urgalabumbi 車の轅(ながえ)に繫がせる〔31.套備馬匹：使套馬〕
Urgalambi 馬を車の轅に繫ぐ〔31.套備馬匹：套馬〕
Urgan 牛車馬車の轅〔32.牲畜器用二：套馬杆〕
Urge 紙人．紙を切り拔いて人の形に作り，巫が跳神をする時に用ひるもの〔彙：巫人魘壓人用的紙人〕
— **faitambi** 紙人を剪り拔く〔19.醫治：剪紙人〕
Urgedembi 恩を忘れる．負く〔16.叛逆：辜負〕
Urgen 長さ〔25.諸物形狀一：尺寸〕
Urgesen〔31.獸三：一歲鹿〕
Urgun 喜び〔11.福祉：喜〕〔13.喜樂：喜〕
— **i doro**〔彙：賀禮〕
— **i doroi hengkilembi** 賀禮を行

ふ. 拜賀する〔彙：朝賀〕
Urgun sebjen 喜び. 樂しみ〔彙：喜樂〕
— **šanggaha dengjan** 正月內廷に點ずる各色の羊角の燈盞〔23. 烟火一：慶成燈〕
Urgungge derengtu 仕像畫〔7. 文學什物二：喜容〕
Urgunjebumbi 親を悅ばせる〔11. 孝養：悅親〕喜ばせる〔13. 喜樂：使喜悅〕
Urgunjehe seme wajirakū 喜びの盡きぬ〔彙：喜之不盡〕
Urgunjembi 喜ぶ〔13. 喜樂：喜悅〕
Urgunjen 易卦の名〔7. 書四：兌〕〔補1. 書二：兌〕
Urgunjendumbi Urgunjenumbi 共に喜ぶ〔13. 喜樂：共喜悅〕
Urhu 偏した. 不公平な〔17. 奸邪：偏〕片寄つた. 歪んだ〔彙：偏歪〕
— **akū** 偏しない. 公平な〔11. 忠清：不偏〕
— **haihū** Haihū に同じ〔14. 行走三：彙娚〕
— **haršakū** 一方を庇ふ〔彙：偏護〕
Urhubumbi 一方に傾ける〔21. 倒支：使偏〕
Urhuhebi 心の片寄つた〔17. 奸邪：偏僻〕
Urhumbi 一方に傾く〔21. 倒支：偏〕心が片寄る〔彙：偏歪心之偏歪〕
Urhun 指一つの幅. 凡五分〔25. 量度：一指〕
Urhuri haihari ゆらりゆらりと. しやなりしやなりと〔14. 行走四：逶迤〕
Urhušembi 搖れ動く〔15. 搖動：蹁躚〕
Urhutu 一方へ歪んだ〔16. 殘缺：一瓶歪〕
Urhūmbi 馬が驚いてあちこちと身を交す〔31. 馬匹動作一：眼岔〕
Urhūtu 驚くとぶるぶると鼻をならし, 動き廻る癖の馬〔31. 馬匹三：眼岔馬〕
Uri 地を堀つて米を貯藏する, 草の生えた凹地〔彙：盛米谷的草窩子〕
Uriha 樹木の柔い皮〔彙：樹木的嫩皮〕松, 榛の實を包む薄い皮〔彙：松子榛子仁上的薄皮〕
Urilehe 1. 雉が肥えて飛べぬ〔彙：野雞狼肥了飛不動〕2. 野鼠が草を巢に運んだ〔彙：野鼠穴內集了草艾〕
Urimbi 崩れる. 死ぬ. 崩ずる〔彙：崩〕
Uriyanghai juwan emu gūsa 蒙古烏梁海地方の游牧民を以て編成した旗〔3. 旗分佐領二：烏良海十一旗〕
Urka cecike 鳥名. 常に葦の內に棲む〔30. 雀四：葦喳子〕
Urki 獨木船の橫にあてる突支(つか)棒〔26. 船三：橫樘木〕
Urkilambi 1. 故意に大聲を出す〔14. 聲響一；作響聲〕2. 一匹の馬が驚いて動き廻り放尿すると他の凡てがこれに見倣ふ〔31. 馬匹動作一：隨同眼岔隨同撒尿〕
Urkilarakū 聲を張上げない〔彙：不響. 不張聲勢〕
Urkin 1. 大聲〔14. 聲響一：響聲〕2. 聲に和して. 拍聲につれて〔18. 散語三：隨聲附和〕
Urkingga Urkingge に同じ〔14. 聲響一：響亮〕
Urkingge 響き渡る〔14. 聲響一：響亮〕
— **teišun** 響のよい銅〔22. 貨財二：響銅〕
Urkuji 次々と. 絕える事なく〔18. 完全：連綿〕只管. 繰返し繰返し. Emdubei に同じ〔彙：只管. 只是〕
Urkulji Urkuji に同じ〔18. 完全：連綿〕
Urlehe Urilehe に同じ〔31. 走獸動息：田鼠積窩〕
Ursan 二番生の芽. 刈り込んだ穀物の根から自然に生えた芽〔21. 農工三：二椄苗〕樹を切つた後で復生えた細い枝〔29. 樹木七：砍後復生枝杈〕冬を過して生きかへつた青物〔彙：葱等物過了冬至春復甦〕
— **sindame** 話半ばで止めて. 話を後に遺して〔14. 言論二：話留後尾〕
Ursanambi 二番生の芽が出る〔21. 農工三：生二椄苗〕
Urse 多くの人. …輩〔10. 人五：衆人〕
Urseingge Niyalmaingge に同じ〔18.

爾我二：是人家的〕

Ursu …重ね．…層．…層倍〔25.雙單：層〕

Ursungga hoseri 重ね箱．五箇或は拾箇の大小の箱を重ね合はすと一の書物に見えるもの〔25.器用一：套盒〕

— **polori** 重ね行李．大小の柳行李を五個或は十個重ね合はせたもの〔25.器用八：套簍籮〕

Uru 理のある．筋の通つた〔5.詞訟二：是〕

— **waka** 〔彙：是非〕

Urui 常々．只管．ひたむきに．偏つて．專ら〔18.完全：儘着〕〔18.散語三：每每的〕

— **uttu urui tuttu** 只管この樣に，只管あの樣に〔彙：只是這樣只是那樣〕

Urukebi 餓えた〔13.饑饉：餓了〕

Uruldebumbi 乘馬の遲速を試させる〔31.馬匹馳走二：使試演馬〕

Uruldembi 馬を驅けさせて遲速を試す〔31.馬匹馳走二：試跑等第〕逐ふ〔彙：逐〕

Urulehe Urilehe に同じ〔30.飛禽動息二：雉肥難飛〕

Urumbi 餓える〔13.饑饉：餓〕

Urun 息子の嫁〔10.人倫二：媳婦〕

Urunakū 必ず．定つて〔18.完全：必定〕

Urundere 餓えかけた．餓えた〔彙：餓〕

Uruse 息子の嫁達〔10.人倫二：衆媳婦〕

Urušambi 嫁が舅に仕へる〔11.孝養：婦盡孝道〕

Urušembi 是となす．正當となす〔5.詞訟二：爲是〕事に筋道をつける．よい方に運ぶ〔彙：事往是裡做〕

Urušere wakašere 是を是とし非を非とし〔彙：是是非非〕

Usabumbi 絶望さす．心を闇にさす〔12.落空：使心灰〕嘆きの餘り心痛さす．哀痛させる〔13.哭泣：使傷悼〕憎ませる〔彙：使怨之〕

Usabure enduri 歲神の第二十に居る凶神．病悉を司る〔補2.神三：弔客〕

Usacuka 悼ましい〔13.哭泣：可傷〕

Usacun 心痛．哀痛．傷手〔13.哭泣：傷〕

Usaka 絶望した〔彙：絶望了〕

Usambi 絶望する〔12.落空：心灰〕嘆き悲しむ．心痛する〔13.哭泣：傷悼〕憎む〔彙：苦怨之〕

Usambumbi 失望させる〔彙：使人失指望〕

Usandumbi Usanumbi 一齊に心痛する．一齊に嘆き悲しむ〔13.哭泣：一齊傷悼〕

Usari cecike ほととぎすの別名〔補4.雀五：怨鳥〕

Usata 魚の腹の內部の白い部分〔32.鱗甲肢體：魚白〕

Usatala oho 失望して氣が滅入つた．憂鬱になつた〔12.落空：心灰了〕

Use 1. 種子〔21.農工一：籽粒〕2. 蟲の幼蟲〔32.蟲四：蟻子〕

— **waliyambi** 蟲が卵を生みつける〔彙：凡蟲下子〕

Usebumbi 種子を蒔かせる〔21.農工一：使下種〕

Usei hithen 種子箱〔21.農器：青箱〕

Useku 種子を蒔く道具．手押しの一輪車に模して作り，眞中に種子を入れる桶を据え，車を牽くと後尾が搖れ，種子が下部の脚から漏出る仕掛けにしたもの〔21.農器：耬斗〕

Usembi 種子を蒔く〔21.農工一：下種〕

Usene ilha 異花名．花は暗紫色にして瓣は八，九一樣でない，凋むと萼が垂れて種が彈き出る〔補3.異花四：地棋花〕

Usenembi 種子を蒔きに行く〔21.農工一：去下種〕

Usenumbi 一齊に種子を蒔く〔21.農工一：齊下種〕

Userci 異果名．花咲かずしてざくろの樣な果實が枝の端に生ず，煮て食ふ，味酸い〔補3.異樣果品四：古度子〕

Useri ざくろ〔28.果品一：石榴〕

— **cuse moo** 竹の類．葉は竹に似て累々と垂れ下り紅豆を生ず〔補3.樹木一：闌天竹〕

Ushabumbi 怨みを買ふ〔13.怒惱：被

人惱〕怨ませる〔彙：使人惱〕
Ushacun 怨み〔13.怒惱：惱〕
Ushambi 憤り怨む〔13.怒惱：嗔惱〕
Ushandumbi Ushanumbi 一齊に怨む〔13.怒惱：齊惱〕
Ushatambi 微かに怨む〔13.怒惱：微惱〕
Ushe 精液〔彙：陽精〕
Usi umiyaha 〔32.蟲四：蜘蟲〕
Usiha 1.〔1.天文二：星〕2. 照星. 鳥銃の銃口の邊にある粒狀の金具, 標準を合はすに用ひる〔9.軍器七：鎗星〕
— **fajambi** 星微かになる〔1.天文三：星移〕
— **fisin** 星の多い〔1.天文三：星密〕
— **geri gari** 曉に明星が疎になつた〔1.天文三：晨星落落〕
— **gerišembi** 星の光がちかちかと動く〔1.天文三：星光閃灼〕
— **kemun** 照尺〔補1.軍器二：星表〕
— **oron** 〔彙：星辰〕
— **oron be cincilara karan** 〔20.部院七：觀象臺〕
— **seri** 星少く〔1.天文三：星稀〕
— **tuwara hafan** 靈臺郎の次の官〔4.臣宰八：監候〕
— **yoo** 馬に生ずる腫物〔32.馬畜殘疾一：鼠瘡〕
Usihangga 先見の明ある〔11.聰智：預有知覺〕
— **gurgu** 異變を豫め知覺する獸〔31.獸一：靈獸〕〔彙：虎狼之總名〕
— **maitu** 儀仗名. 杖の形を六稜三角にし, 杖の先に星の形を作つて金を被せたもの〔6.鹵簿器用五：星〕
Usihibumbi 濕らせる〔18.濕潮：使濕〕
Usihiken 微に濕つた〔18.濕潮：微濕〕
Usihimbi 水が滲む. 濕る〔18.濕潮：水濕〕
Usihin 濕り〔18.濕潮：濕〕
— **de derbefi** 濕氣の爲に濕つた〔彙：濕去處潮濕了〕
Usihiye 啜れ〔27.飮食四：喝〕
Usihiyebumbi 粥を啜らせる〔27.飮食四：使喝粥〕
Usihiyembi 粥を啜る〔27.飮食四：喝粥〕
Usima 軍服の一種. 麻絮(綿)を布に厚く入れて刺縫したもの〔9.軍器一：絮甲〕
Usin 〔21.田地：田地〕
— **bošokū** 灰色の蝗〔32.蟲二：灰色蚱蜢〕
— **buta** Usin に同じ〔21.田地：田地〕
— **dehen** あぜ〔21.田地：畝畝〕
— **i fiyenten** 田畝の事を辨理する役所. 盛京戶部に屬す〔20.部院九：農田司〕
— **i hafan** 古官名. 農牧の事を司る官〔補1.古大臣官員：乘田〕
— **i haha** 小作〔彙：佃戶〕
— **i jalin abalambi** 夏, 穀物の害をなす獸を獵る〔9.畋獵一：夏苗〕
— **i narhūn cese** 官の土地臺帳〔5.事務四：魚鱗册〕
— **i ujan** 田の境界〔彙：田頭乃爾家之田頭也〕
— **wecembi** 田でお祭りをする. 穀物が成熟する時分に害蟲が附いたり旱が續くと御幣, 紙々等を持つて田に行き祭る〔6.祭祀二：祭田苗神〕
Usingga 身寄りなき孤獨の人〔10.人五：孤苦人〕
Usintu 異獸名. Sirsing (猩猩)に似て吉凶を知る, 人に害意なければ近づき然らざれば近づかずといふ〔補4.異獸六：格〕
Usisi 〔10.人三：農夫〕
Usiten hailan あつし〔29.樹木三：山楡〕
Usucilembi 奇異の振舞をする. 人の嫌ふ事をする〔18.厭惡：作厭惡事〕燥ぎ立てゝ喋る. がさつに話す〔彙：說話囉裡囉嗦〕
Usukan 稍厭惡の情を覺える. 厭らしき〔18.厭惡：略覺厭惡〕
Usumbi 流に沿うて下る〔26.船四：順流下〕
Usun 1. 厭惡すべき. 唾棄すべき. 變屈な〔18.厭惡：厭惡〕2. 風味のない. 口に合はぬ〔28.滋味：氣息〕

Usuršebumbi 忌み嫌はれる．憎まれる〔15.憎嫉一：惹人憎〕
Usuršecuke 厭はしき．肌の合はぬ〔15.憎嫉一：可憎〕(煮物等の)味が變つて食へぬ〔28.滋味：味變難喫〕
Usuršembi 忌み嫉ふ．憎む〔15.憎嫉一：憎〕
Ušabumbi 1. 人の事で關り合ひになる〔5.詞訟一：罣誤〕2. 捕かせる〔彙：使抓〕牽かせる〔彙：使拉〕
Ušabun 關り合ひ．卷添ひ．連累〔5.詞訟一：連累〕〔17.過失：累〕
Ušaburakū 身を堅く持して人に禍されぬ〔11.忠清：不爲所累〕
Ušakū 馭し難い馬．手綱を引いても止らぬ馬〔31.馬匹三：難勒的馬〕
Ušambi 捕く〔19.醫治：抓〕牽く〔26.車轎二：拉車〕
Ušan fašan すつたもんだして．紛糾して(拾收つかぬ)〔5.繁冗：牽扯〕
Ušarki moo 樹名．丈低く果實垂れ生ず，色赤くして味酸，その心棒は矢柄を作るに用ひる〔29.樹木三：山麻〕
Ušatabumbi 曳きづつて行かれる．無理矢理つれて行かれる〔16.折磨：被拖累〕
Ušatambi 曳きづつて行く．無理矢理つれて行く〔16.折磨：拖累〕
Uše 細帶．縫紐〔24.巾帶：帶子〕革帶．革紐〔24.皮革二：皮條〕
— **šaban** かんじきの一種．弓弦の樣な强靱な紐に結び目を四つ作り靴に結へつけるもの〔24.靴襪：皮滋脚子〕
— **tatakū sele** Dahata(捽敦)の後(うしろ)の紐をとめる金具〔9.撒袋弓敦：小拴飾件〕
Ušebumbi 1. 靴底を密に縫はせる 2. 針で縫筋をつけて縫はせる〔24.剪縫三：使衲〕
Ušembi 1. 靴底を丈夫にする爲に目をつめて刺縫する 2. 針で縫筋をつけて縫ふ〔24.剪縫三：衲〕
Ušengge 容易に噛みきれぬもの〔27.飲食二：嚼著皮〕
Uta 牛乳，くこの實の水に砂糖をまぜ乾酪で凝結させたもの〔27.餈餅三：奶油糕〕
— **bele** 炒つた黍に砂糖油をまぜて凝結させたもの〔27.餈餅三：凍米〕
Utala これだけ．これ程．是位〔25.多寡一：這些〕
Utan ぺりかん〔補4.鳥三：鶺鴒〕
Utbala ilha 異花名．莖は綠，葉は六枚で尖り，花は九瓣にして朝開き夜閉づ，色紅く香よし〔補3.異花四：優鉢羅花〕
Uthai 立所に．そのまゝ．卽ち〔2.時令三：卽刻〕
Uttu この樣に〔18.散語三：如此〕
— **dabala** こんなものに過ぎない．この位のもの〔彙：不過如此〕
— **oci** この樣ならば〔彙：若是這樣〕
— **otolo** この樣になつては〔彙：至於如此〕
— **tuttu seme** この樣なあの樣なと．あれこれと〔彙：這樣那樣〕
Uttumbara ilha 異花名．蓮に似て十二瓣，閏月每に一瓣を增し色白く香よし〔補3.異花三：優曇花〕
Uttusi 少しこちらへ．此處へ〔18.散語三：往這裏些〕
— **oso** 此の樣に！〔彙：叫人這樣呵之口氣〕
Utu 虎の別名〔補4.獸一：於兎〕
Utulihekū 話の要領を得ぬ．曖昧な．合點の行かぬ〔17.怠慢迂疏：沒留神〕
Utun weijun こうのとりの別名〔補4.鳥二：烏童鷄〕
Uturi 卷狩の際の左右兩翼の先頭〔9.畋獵一：圍兩頭〕先頭の持つ旗〔彙：打圍之後尾纛〕
— **acambi** 遠卷き陣を作る爲に兩翼の先頭が雙方から出て一と處に落ち合ふ〔9.畋獵二：合圍〕
— **feksimbi** 兩翼の先頭が落ち合ふべく馳けて行く〔9.畋獵二：跑纛合圍〕
Uyakan 稍々淡い〔28.生熟：略稀〕
Uyaljambi うねうねする．遒ふ〔32.龍蛇：曲動〕
Uyan 1. 柔弱な．軟弱な〔17.懦弱一：稀軟的人〕2. 獨木船の船肋と底の合ふ所〔26.船三：底肋合縫處〕3. 味の淡い〔28.生熟：稀〕4. 腰の弱い(馬)

〔31. 馬四三：馬腰軟〕
Uyan buda 柔い飯. 粥〔27. 飯肉一：稀飯〕
— **i aligan** 〔26. 船三：龍骨〕
— **lala** 米豆魚を混ぜて焚いた粥. 十二月八日に食べる〔27. 飯肉一：臘八粥〕
Uyašambi 反芻する〔32. 牛：倒嚼〕
Uyašan どじやう〔32. 河魚四：泥鰍〕
— **dekdehebi** Uyašanahabiに同し〔16. 疾病一：手足筋疼〕
Uyašanahabi 手足の筋が疼く〔16. 疾病一：手足筋疼〕
Uyašangga jahūdai どじよう船〔26. 船一：鰍船〕
Uye 1. 鞣せ〔24. 熟皮革：熟〕2. 魚名. 身はますに似, 斑點はしろざこに似る〔32. 海魚二：白鮸〕
Uyebumbi 1. 鞣させる〔24. 熟皮革：使熟皮〕2. 馬を御し從はせる〔彙：使降馬〕
Uyembi 1. 鞣す〔24. 熟皮革：熟皮〕2. 馬の手綱を引絞り馬を御す〔32. 騎駝一：盤採馬〕3. 捏ねる〔22. 趕拌：揣麵〕固いものを柔かにする〔彙：凡硬物揉軟之〕
Uyere faksi 鞣皮師〔彙：熟皮匠〕
— **šu** 鞣皮用の硝石〔24. 熟皮革：皮硝〕
Uyu 1. 石の名. 綠色にして飾りに附ける〔22. 貨財一：綠松石〕2. 海魚の一種〔32. 海魚一：海鰾魚〕
Uyuci 〔彙：第九〕
Uyulembi 1. 蒙古の刑罰. 一件毎に九匹の家畜を罰する〔5. 刑罰二：罰九數〕2. 重陽節に高い所に登つて遊ぶ〔13. 喜樂：九日登高〕
Uyultu 九首九尾の虎〔補4. 異獸三：蟹虹〕
Uyun 〔7. 數目一：九〕
— **biya** 〔彙：九月〕
— **dabkūri** 天子の宮殿〔20. 宮殿：九重〕
— **duka yafahan cooha baicame jafara sunja kūwaran i uheri da yamun** 九門の守護, 逮捕せる兵の審問等を司る役所を總轄する役所〔20. 部院九：提督九門步軍巡捕五營統領衙門〕
— **eyen** 學問の九流. 儒家, 老家, 道家等の類〔7. 文教：九流〕
— **garudai mudangga fesin i suwayan suje sara** 儀仗名. 柄が曲り, 垂に鳳を一段に三匹づゝ, 三段に刺繍した黃緞の傘〔6. 鹵簿器用一：黃緞九鳳曲柄傘〕
— **garudangga tumin lamun suje sara** 儀仗名. 布地が濃藍色の緞の傘〔6. 鹵簿器用一：青緞九鳳傘〕
— **hengkin** 三度跪づき, 一跪に三度叩頭する禮〔6. 禮儀：九叩〕
— **jafambi** 禘祭の前, 二日續けて先祭りをする〔6. 祭祀二：大祭前報祭〕
— **jubki** 水澤の深處〔彙：九皐〕
— **mudangga jijun** 篆書體の名〔補1. 書三：九疊文〕
— **muduri duin garudai mahatun** 古の皇后の禮飾の名〔補1. 古冠冕一：九龍四鳳冠〕
— **muduri mudangga fesin i suwayan sara** 儀仗名. 柄が曲り, 垂に一段に三匹の龍を三段に刺繍した黃緞の傘〔6. 鹵簿器用一：黃九龍曲柄傘〕
— **muduringga suwayan sara** 儀仗名. 垂に九龍を刺繍した黃緞の傘〔6. 鹵簿器用一：黃九龍傘〕
— **saitu** 六部, 都察院, 通政司, 大理寺の長官の總稱〔4. 臣宰一：九卿〕
— **sihangga sunta** 布で作り, 火藥の管を挾むものを九ケ所縫ひつけた腰袋〔9. 軍器七：九龍袋〕
— **tuhebuku i mahatu** 古冠名. 九つの垂旒のある冕〔補1. 古冠冕一：九旒冕〕
— **uncehengge dobi** 〔31. 獸五：九尾狐〕
Uyunggе efen 重陽節に食べる餑々. Feshen efen の樣にして作り, 表面に色々な果實をつけたもの〔27. 餑餑一：重陽糕〕
— **inenggi** 九月九日〔2. 時令六：重陽〕
Uyunggere ibereleme miyoocalambi 陣立をして一度進む毎に一度

鐵砲を打ち九度目になると續け樣に打つ〔8.征伐五：放九連連環鎗〕
Uyunggeri 九度〔7.數目一：九次〕
Uyunju 〔7.數目二：九十〕
— dulefun i durungga tetun 遠近を測量する器の名〔7.儀器：象限儀〕
Uyunjuci 〔彙：第九十〕
Uyunjute 〔彙：每九十．各九十〕
Uyuri 猫の別名〔補4.諸畜一：烏〕
Uyursu muheren 智惠の輪〔19.戲具二：九連環〕
Uyuršembi 口邊に笑ひを漂はす．愛想よく笑ふ〔13.嬉笑：巧笑〕
Uyute 〔7.數目一：各九〕
Uyutu jofohori 柑子の類．中身九袋あり〔28.果品一：九頭柑〕
Uyutungge gasha ふくろの別名〔補4.鳥四：治鳥〕

Ū

Ūlen 家．宿舍．Boo に同じ，Boo ūlen と連用す〔21.室家一：房舍〕
Ūlet 蒙古の部族名〔彙：厄魯特〕
Ūn cecike 鳥名．やつがしらに似て身小，毛は灰色〔30.雀一：灰兒〕
Ūren 〔19.佛一：像〕位牌〔彙：尸位〕
— tuibumbi 墓祀りの時，故人の衣服帽子を褥にのせて墓前に供へ，祭終つて後獻紙と共に燒く〔6.喪服二：上墳燒衣帽〕

W

Wa 1. にほひ．香臭〔28.滋味：氣味〕2. 殺せ〔彙：令殺〕
— ehe 臭が惡い．生臭い〔彙：膻臭之膻〕
— sain 香がよい〔彙：香．香味〕
— tucike yadarangge (鼬等が) 竄して放屁する事〔彙：騷鼠等畜放的救急屁〕
— usun 臭が厭はしい〔彙：凡物可厭的臭〕
Wabumbi 殺される〔彙：被殺〕
Waburu くたばれ！往生しろ！(人を殺す時の罵詞)〔16.咒罵：砍頭的〕
Wacan 鎧の腋當．わいだて (脇の下にあてるもの)〔9.軍器二：護脇〕
Wacihiya 完結せよ〔26.完成：結〕
Wacihiyabumbi 完結させる〔26.完成：使完結〕
Wacihiyambi 完結する〔26.完成：完結〕
Wacihiyame 盡く．完全に〔18.完全：盡〕
Wadabumbi 獵犬を放つて獲物の匂を嗅がせる〔彙：放狗使聞香〕
Wadambi 獵犬が匂を嗅ぎながら獲物を追ふ〔22.打牲：狗嗅尋牲〕
Wadan 掛け布．大風呂敷〔24.包裹：紬布單〕車轎の覆ひ．幌〔彙：車轎圍〕旗地〔彙：旗杆上旗．旗纛上大幅旗〕
Wadanahabi 家畜の腹がたるんだ (飽食の爲に)〔32.牧養二：肚子下來了〕
Waha 殺した〔彙：殺了乃被刀或箭殺了〕
— sedehe Sedehengge に同じ〔16.咒罵：殺材〕
Wahai 極めて．至つて．非常に〔彙：極．至．卽 Umesi 口氣．很好卽 Wahai sain 也〕

Wahan 1. 上衣の袖口〔24.衣服三：袖口〕2. ひづめ〔31.馬四肢體一：蹄〕
— **dabaha** 蹄が底板迄破れた〔32.馬畜殘疾二：掃蹄〕
— **juwe fiyentehe** 蹄が二叉に分れた〔彙：蹄子兩片子乃牛羊等畜之蹄〕
Wahangga singgeri 獸名. 形鼠に似て蹄を有し, 生後一年にして重さ千斤に達すといふ〔31.獸七：顚鼠〕
Wahiya 扶けよ〔21.扛擡：攙〕
Wahiyabumbi 扶けさせる. 脇を支へさせる〔21.扛擡：使攙〕
Wahiyahabi 脇を支へた〔21.扛擡：攙着呢〕
Wahiyambi (立歩きの不自由な人の)脇を支へる. 扶ける〔21.扛擡：攙着〕
Wahūn 臭氣のある. 臭い〔28.滋味：臭〕
— **jalgangga moo** にはうるし. しんじゆ〔補3.樹木二：樗木〕
— **jalgasu moo** 上に同じ〔29.樹木一：臭椿樹〕
— **nišargan** 咽喉内に生じた腫物〔16.瘡膿一：乳蛾〕
— **umiyaha** 南京蟲〔32.蟲四：臭蟲〕
— **urangga moo** 桐の類. 葉は三角形にして落葉せず, 臭氣を有す〔補3.樹木一：臭桐〕
— **yasa** 馬の前脚の内側の, 圓形に毛の生えてゐない部分. 附蟬〔31.馬四肢體一：夜眼〕
Wahūnda 野蒜に似て臭氣のある野菜〔29.草四：臭根菜〕
Wahūtu cecike Kūbulin ilenggu cecike の別名〔補4.雀一：水尿唧哥〕
Wai 彎曲した(所)〔21.室家四：彎曲處〕
— **seme** ぐにやっと. ぐつたりと〔15.疲倦：乏透身軟〕
Waida 汲め〔28.咎盛：咎〕
Waidabumbi 汲ませる〔28.咎盛：使咎〕
Waidambi 汲む. 汲取る〔28.咎盛：咎東西〕
Waidanambi 汲みに行く〔28.咎盛：去咎〕
Waidanjimbi 汲みに來る〔28.咎盛：來咎〕
Waidanumbi 一齊に汲む〔28.咎盛：一齊咎〕
Waihū 歪んだ. 不正な〔17.奸邪：歪〕
Waihūdambi 不正な事を行ふ. 歪んだ事をする〔17.奸邪：行事歪〕
Waihūngga 不正な人〔17.奸邪：歪人〕
Waiku 歪んだ. 曲つた〔25.諸物形狀二：歪〕
— **daikū** 上に同じ〔25.諸物形狀二：歪〕
Waikurabumbi 歪める. 曲げる〔21.倒支：使歪着〕
Waikurahangge 歪んだ(物)〔彙：歪了的〕
Waikurambi 歪む〔21.倒支：歪着〕
Waikuršambi (力支へ切れずして)身體を歪めて歩く〔14.行走三：歪着走〕
Wailan 古官名. 一城を司る官〔補1.古大臣官員：宰〕
— **hafan** 倉庫を掌る會計吏〔補1.古大臣官員：委吏〕
Wainahabi 卷狩の勢子の列の一部が歪んだ〔9.畋獵二：歪斜了〕
Waitukū 柄のある水汲桶〔25.器用七：杷桶〕
Wajiha 終つた. 完了した〔26.完成：完了〕
Wajikini 終つて欲しい. 濟ませたい〔彙：聽憑的口氣. 與 Okini 同〕
Wajima 終末. 末〔26.完成：末尾〕
Wajimbi 終る. 完了する〔26.完成：完畢〕
Wajin 完成. 完了〔26.完成：完〕
Wajinggala 終らぬ先. 終る前〔14.言論三：話語將完〕
Wajitala 終り迄〔2.時令三：直到完〕
Waka 非. 否. 理のない〔5.詞訟二：非〕
— **baha** 失敗をした. 非を招いた〔彙：向人說得罪了之語〕
— **wakai** 妄に. 無秩序に〔18.散語六：胡亂〕
— **wakai arbušambi** 無茶な振舞をする. 妄動する〔彙：胡亂動作〕

Waka wakai gisurembi とりとめもなく話す〔彙：胡亂說〕
Wakala 責めよ〔彙：令責〕
Wakalabumbi 非を咎めさせる．彈劾される〔15.責備：使怪不是〕
Wakalambi 彈劾する〔4.陞轉：參〕非を咎める．責める〔15.責備：怪不是〕
Wakalan 咎．過失〔17.過失：過錯〕
Wakan 鳥名．鷺に似て淡褐色，身體は小さく，頸が前屈みになつて長い〔30.鳥二：水鸅子〕
Wakao 違ふか．惡いか〔彙：豈不是麼．豈非乎〕
Wakašabumbi 非難させる．詰責させる〔15.責備：使怪〕
Wakašambi 非難する．責める〔5.詞訟二：怪不是〕〔15.責備：怪〕
Wakjahūn 腹が大きくたるんだ〔11.容貌六：腹大〕
— **oho** (家畜の) 腹が肥つてたるんだ〔32.牧養二：肚子大了〕
Wakjanahabi 上に同じ〔32.牧養二：肚子大了〕
Wakšan がま．ひきがへる〔32.河魚四：蝦蟆〕
— **burga** 低くて枝の細い柳．行李，籠等を編むに用ひる〔29.樹木三：坐地柳〕
Wala 1.下部．低處．下方の〔2.地輿十三：下首〕2.部屋の西側 (上座)〔彙：滿洲室內以西爲尊〕
Walgiya 日に晒せ〔18.乾燥：晒〕
Walgiyabumbi 日に晒させる〔18.乾燥：使晒著〕
Walgiyambi 日に晒す〔18.乾燥：晒著〕
Wali 手品．奇術〔13.戲耍：戲法〕
— **mama** 部屋の扉の背後に糸で吊した細長い布片．戶外より食物を持込む時に必ずこれに一應供へる〔19.神：瓦立媽媽〕
Walingga 手品に用ひる道具〔13.戲耍：利子〕
Waliya 棄てよ〔15.擲撒：撂下〕
Waliyabumbi 1.棄てさせる〔15.擲撒：使撂〕2.紛失する．遺失する〔16.窮寒：丟了〕
Waliyaha 1.お終ひだ！駄目だつた！(事後に悔む詞)〔13.悔嘆：完了〕2.駄目だぞ！(人の過失，缺點を嘲笑する詞)〔15.鄙薄：笑人沒幹〕
— **usin** 荒廢した田地〔21.田地：廢田〕
Waliyambi 1.死人に供へ物をし，獻げた紙錢を燒く〔6.喪服二：上墳〕2.棄てる〔15.擲撒：撂〕3.吐き出す〔27.飲食四：吐出〕
Waliyame fuliyame gamambi 看過する．不問に附す〔彙：凡事容恕處之〕
— **gamambi** 容赦する．看過する〔5.寬免：寬恕〕
Waliyan 放棄〔15.擲撒：棄〕
— **gemin** けちけちしない．費を惜まぬ〔11.仁義：不惜費〕
Waliyatai 死を決して．命をすてゝ〔8.征伐四：捨命〕
Waliyatambi 1.無暗に棄てる〔15.擲撒：亂撂〕2.(面目を) すてる〔彙：丟臉子之丟〕
Walu 癰〔16.瘡膿一：癰疽〕
Wambi 殺す〔8.征伐七：殺〕
Wame abalambi 秋に卷狩をする〔9.畋獵一：秋獺〕
Wan はしご〔22.工匠器用三：梯子〕
Wancarambi それとなく話す．まわりくどく話す〔14.言論三：譏諷〕
Wanci 池の中の，冬になつても凍らぬ所〔2.地輿八：池不凍處〕
Wandumbi 各自殺す．一齊に殺す〔8.征伐七：亂殺〕
Wang 〔彙：王侯之王〕
— **ni dukai hiya** 王，貝勒，貝子の從者〔4.臣宰七：護衛〕
— **sai baitai kunggeri** 禮部に屬し，賀禮，王封の事等を掌る役所〔補2.衙署二：王府科〕
Wangga 1.芳香のある〔28.滋味：香〕2.あかがしらさぎ〔30.鳥二：鷹鵰〕
— **giyancihiyan hcošan** 香草を混ぜて漉いた雜紙〔7.文學什物一：香箋紙〕
— **guilehe ilha** 奇花名．杏花に似て

芳香を有す〔補3.異花四：杏香花〕
Wangga inenggi 月の十五日〔2.時令七：望日〕
— **jalgasu moo** 椿の類．葉は芳香を有し食用に供す〔29.樹木一：香椿樹〕
— **singgeri** 鼠の一種．親指程の大きさにて穴を堀ること甚だ速なり〔31.獣七：香鼠〕
— **sogi** 蕓．葉の形Suiha（もぐさ）に似て香味を有す〔27.菜殽一：香菜〕
— **šangga** 人事不省に陥つた〔16.疼痛三：不省人事〕
— **šulhe** 水梨〔續.果品：香水梨〕
Wanggari れもん〔28.果品一：香橼〕
Wanggiyanahabi 風邪を引いた〔16.疾病一：傷風〕
Wangkiya 嗅げ〔27.飲食二：聞〕
Wangkiyabumbi 嗅がす〔彙：使聞〕
Wangkiyambi 嗅ぐ．嗅ぎわける〔27.飲食二：聞味〕
Wangnaha sabu 刺繍をした婦人靴〔彙：扎花鞋〕
Wangnambi 婦人靴に金絲等で刺繍する〔24.剪縫一：扎花〕
Wantaha すぎ〔29.樹木一：杉〕
Wantahai šartan 杉の材木〔29.樹木九：杉木〕
War ぎゃるぎゃる（蝦蟆の鳴聲）〔14.聲響六：蝦蟆叫聲〕
— **ir** ぎゃるぎゃるぎるぎる（蝦蟆と雨蛙の一齊に鳴く聲）〔14.聲響六：蝦蟇青蛙齊叫聲〕
Warabumbi 掏ひ出させる〔28.器盛：使撈出〕
Warambi 掏ひ出す〔28.器盛：撈出〕
Warda 1. 泳げ〔彙：令人在水裏手動浮水〕2. 掘出せ〔彙：凡去處內有土令取出〕
Wardabumbi 1. 掘出させる〔26.塞決：使掏〕2. 泳がせる〔彙：使手浮水〕
Wardambi 1. 泳ぐ〔2.地輿十二：狗刨兒〕2. 掘出す．穴を掘つて土を取出す〔26.塞決：掏〕
Wardame gaisu 穴の土を掘出せ〔彙：凡去處內之土挖取出之〕
Wardašambi 手足を忙しく動かす（勤勉な貌）〔14.行走一：手足急忙〕
Wargi 西方（の）〔2.地輿十三：西〕
— **aiman i hergen be emu obuha ejetun bithei kuren** 「西域同文志」を編纂する役所〔補2.衙署七：西域同文志館〕
— **ashan** 國子監司業の事務所〔補2.衙署六：西廂〕
— **ba i nirugan i ejetun** 書名〔續.書：西域圖志〕
— **be tohombuha fu** 地名（今日の新疆省內）〔續.地輿：鎮西府〕
— **dzang ni tanggūt monggo** 西藏に住むタングート蒙古族〔3.旗分佐領二：西藏唐古特蒙古〕
— **ergi munggan i booi amban i yamun** 奉天の西陵の供物，掃除を司る役所〔續2.衙署：西陵內務府總管衙門〕
— **ergi munggan i weilere jurgan** 奉天西陵の營繕事務を掌る役所〔續2.衙署：西陵工部〕
— **ergi simnere bithei kūwaran** 貢院の明遠樓より西側の受驗場〔20.部院十：西文場〕
— **juwan namun** 戶部に屬し瓷料，紙，火藥類を貯藏する倉庫〔20.部院十二：西十庫〕
— **nahan** 東炕．東側の屋壁の溫突〔彙：東山墻邊的炕〕
— **namu i boso** 西洋產の布．きやらこ〔23.布帛五：西洋布〕
Warukabi （肉が）少し臭がする〔28.滋味：略有氣味了〕
Wase 1.〔26.砌苫：瓦〕2. Fomoci に同じ〔彙：襪子〕
— **boo** 瓦葺の家〔彙：瓦房〕
Wasei faksi 瓦を葺く職人．瓦師〔10.人三：瓦匠〕
— **holbokū** 家の軒の上の瓦をのせる板〔21.室家一：瓦口〕
— **jaida** 塀を築くに用ひる鍬〔22.工匠器用二：瓦刀〕
Waselabumbi 瓦を葺かせる〔26.砌苫：使宽瓦〕

Waselambi 瓦を葺く〔26.砌苫：宜瓦〕
Waseri weijun 鵟の別名〔補4.鳥二：瓦亭仙〕
Washa cecike Fiyasha cecike の別名. 屋根瓦の内に巣くふ故にこの名あり〔補4.雀五：瓦雀〕
Wasibumbi 官位を下げる〔4.陞轉：降〕下りさす. 降す〔14.行走二：使從高處下來〕
Wasifi genggehun oho 痩せた. 憔悴した〔彙：人顏色瘦了清減了〕
Wasiha 鳥の爪〔30.羽族肢體三：爪〕
Wasihalabumbi 引掻かせる〔5.爭鬪二：使撓〕
Wasihalambi 引掻く〔5.爭鬪二：撓〕〔31.走獸動息：抓〕
Wasihašambi 引掻き廻す. 無暗に引掻く〔5.爭鬪二：亂撓〕(動物が) 地面を引掻く〔31.走獸動息：爪刨地〕
Wasihūn 1. 下. 下に〔2.地輿十三：往下〕2. 西方. 西に〔2.地輿十三：往西〕
— **i hontoho** 下弦の月〔1.天文一：下弦〕
Wasika 1. Wasikabi に同じ〔彙〕2. 下りた. 降つた〔彙：與 Wasikabi 同. 往下下了乃從高下之也〕
Wasikabi 1. 痩せた. 衰弱した〔11.容貌八：瘦了〕〔32.牧養二：已溜膘〕2. 零落した. おちぶれた〔13.貧乏：衰敗了〕3. 値が下落した〔22.貿易一：價落了〕
Wasimbi 1. 下りる. 降る〔14.行走二：從高處下〕2. (家畜が) 痩せる〔32.牧養二：溜膘〕(人が) 痩せる〔彙：人瘦〕3. 値が下る〔彙：價值跌下〕
Wasingga mudan 四聲の一〔14.聲音一：去聲〕
Wasinjimbi 下りて來る〔14.行走二：從高處下來〕
Wasuri monio 猿の別名〔補4.獸二：汪豚〕
Wašakda burga ねこやなぎ. かはやなぎ〔29.樹木三：水柳〕
Wašakū 皮はぎ庖刀 (杓子の如き形のもの)〔22.工匠器用二：刮皮鉋子〕
Wašambi 掻く〔19.醫治：抓〕
Watai 1. 決然と. 覺悟をきめて〔14.言論一：很很的〕2. 死ぬ程に〔彙：往死裏〕
— **tantaha** 死ぬ程に打つた〔彙：往死裏打了〕
Watan 釣針の尖の「もどり」〔22.打牲器用二：倒鬚鉤〕
Watangga 「もどり」のある釣針〔彙：有倒鬚的鉤子〕
— **gida** 逆鉤のある鎗〔9.軍器六：鉤鎌鎗〕
We 誰. 何人〔18.爾我二：誰〕
Webe 誰を〔18.爾我二：把誰〕
Wece 祭れ〔彙：令祭〕
Wecebumbi 祭らせる. 祈禱させる〔彙：使祭. 使跳神〕
Weceku 家にて祭る神〔19.神：神祇〕
— **i sendehen** 供物棚〔彙：供神的擱板〕
— **soko** Weceku に同じ〔彙：神祇〕
Wecembi 祭る〔6.祭祀一：祭神〕巫人が神憑りになり跳り乍ら祈禱する〔彙：跳神〕
Wecen 〔6.祭祀一：祭〕
— **be aliha dorolon i jurgan** 盛京の各陵の祭祀典禮を司る役所〔20.部院九：奉祠禮部〕
— **bithe** 祝詞 (紙を貼つた板に書いたもの, 壇廟の祭に用ひる)〔6.祭祀器用一：祝版〕
— **i baita be aliha falgari** 太常寺に屬し, 圜丘, 方澤, 日, 月, 先農各壇の祭祀事務を處理する役所〔20.部院六：祠祭署〕
— **i baita be aliha yamun** 宗廟壇社の祭祀典禮を掌る役所〔20.部院六：太常寺〕
— **i kumun urebure falgari** 太常寺に屬し, 諸祭典の際の神樂を練習する役所. 天壇内に設けらる〔20.部院六：神樂署〕
— **i ulha ujire falgangga** 太常寺に屬し, 諸祭祀に用ひる犧牲の養育等を掌る役所〔20.部院六：犧牲所〕
— **jukten** 祭祀〔6.祭祀一：祀〕

Wecere bithe 祝詞（紙に書いたもの）〔6. 祭祀器用一：祭文〕
— **juktere** 祭る〔彙：祭祀之〕
— **juktere bolgobure fiyenten** 禮部に屬し，祭祀，追封，追謚等の事を掌る役所〔20. 部院四：祠祭清吏司〕
— **juktere kunggeri** 祭祀，追封，追謚等に關する事務を掌る役所．禮部及太常寺にあり〔補2. 衙署二：祭祀科〕
— **usin** 祭祀に供へる穀物を耕す田〔21. 田地：耤田〕
Weci 誰から．誰より〔18. 爾我二：自誰〕
Wecu ilha せきちく〔29. 花五：石竹花〕
Wede 誰に〔18. 爾我二：向誰〕
Wehe 〔2. 地輿六：石〕
— **alikū** 石の挽き臼の下臼〔彙：磨盤．碾盤〕
— **biyangsiri ilha** はなしやぶぶ〔補3. 異花二：石蟬花〕
— **cinuhūn** 丹砂．硫化汞（藥用，塊狀のものは細工用にする）〔22. 貨財二：硃砂〕
— **dabsun** 岩鹽〔27. 菜穀四：石鹽〕
— **fiyelen** ほうれんさう〔27. 菜穀三：馬齒菜〕
— **giyen** 青翠色の顏料〔22. 貨財二：石青〕
— **hengke** 奇花名．木に生じ堅きこと石の如く形瓜に似たり，峩眉山に產す〔補3. 異樣果品一：石瓜〕
— **i king** 石製の磬（一種の打樂器）〔彙：石磬乃樂器八音之一〕
— **lamun** 青翠色．紺青色（Giyen 色よりも青い）〔23. 采色一：石青〕
— **lefu** 熊の一種．Nasin（馬熊）より小さく，Mojihiyan（豬）よりも大，頸に月の輪があり，冬は石洞內に住む〔31. 獸二：洞熊〕
— **muhaliyan** 石の球〔彙：石毬〕
— **selmin** 1. 石弓〔彙：石弩〕2. 玉切り石〔彙：金剛鑽〕
— **šu ilha** 異花名．蓮に似て石に生ずといふ〔補3. 異花一：石蓮花〕
— **tuyeku yonggan** 石塊狀の礪砂〔補3. 貨財：石礪砂〕
— **yadali cecike** 鳥名．頭，體は淡黑くて稍綠色を帶び，眉は Yadali cecike より細い〔30. 雀二：石雀眉〕
— **yaha** 石炭〔23. 烟火一：煤〕
— **yaha i nemuri** 炭礦〔2. 地輿五：煤窰〕
Wehei fungkū 門のしきみの兩端を夾み押へる石〔21. 室家四：石鼓墩〕
— **nikebuku** 開いた門扉をとめる石〔21. 室家四：石墩〕
Wehengge 石の（もの）〔彙：石頭的〕
— **usiha** 交趾に產する栗〔補3. 異樣果品一：石栗〕
Wehetu coko 鳥名．南海に產する鷄の一種〔補4. 諸畜二：石鷄〕
Wehiyebumbi 助けさせる〔12. 助濟：使扶助〕
Wehiyembi 助ける．世話する〔12. 助濟：扶助〕
Wehiyendumbi Wehiyenumbi 共に助ける．一齊に助ける〔12. 助濟：一齊扶助〕
Wei 1. ふか〔彙：鮫〕2. Langju に同じ〔彙：糸忽徽之徽〕
Weibin 星座の名．二十八宿の一〔1. 天文二：危〕
Weidahūn 奇獸名．形黃犬に似たり〔補4. 異獸七：蜮〕
Weifutu はく．西域中曲山に出る猛獸〔31. 獸一：駮〕
Weihe 1. 齒〔10. 人身三：牙〕齒．牙〔31. 走獸肢體：牙〕〔32. 牛：牙〕2. Uihe に同じ〔彙：牛角．凡獸頭角之角〕
— **dasakū** 爪楊子〔24. 飾用物件：剔牙杖〕
— **hadambi** Uihe hadambi に同じ〔彙：新做的弓上牛角弓面子〕
— **ilha** 齒莖〔10. 人身三：牙花〕
— **jaka** 齒の隙〔10. 人身三：牙縫〕
— **jumpi** 齒をくひしばつた（苦痛の爲に）〔16. 疼痛三：牙關緊了〕
— **juyekebi** 上に同じ〔彙：病重牙關難開了．與 Jungke 同〕
— **silgiyakū** 齒磨き楊子〔24. 飾用物件：牙刷〕

Weihede 煉瓦や瓦類の屑，破片〔26.砌苫：渣子〕
Weihen 1. 奇獣名．麞に似，蹄は二叉，羚羊の角を有す，懸雍山に出づ〔補4.異獣二：閭〕2. 麞の別名〔補4.諸畜二：衛〕
Weihengge 歯，牙のある(もの)．角のある(もの)〔彙：有牙的．有角的〕
— **ulgiyan** Saidaha に同じ〔補4.異獣四：牙豚〕
Weihu まるきぶね〔26.船二：獨木船〕
Weihukelebumbi 輕んぜられる〔15.鄙薄：被輕慢〕
Weihukelembi 輕んずる．侮る〔15.鄙薄：輕慢〕
Weihuken 1. 輕い〔22.衡量二：輕〕2. 輕々しい．輕佻な〔17.輕狂：輕〕
— **furdehe** 輕い毛皮〔彙：輕裘〕
Weihun 活きた〔31.牲畜孳生：活的〕
— **ningge** 生物〔彙：活的〕
Weijubumbi 蘇らす〔彙：使活過來〕
Weijuhe 蘇つた．生きた〔19.醫治：活了〕
Weijuhebi 蘇つた〔29.花六：活了〕
Weijuhen 鸛の別名〔補4.鳥二：鸛鶴〕
Weijumbi 活きる．蘇る〔彙：死活之活〕
Weijun 1. 釘抜き．毛抜き．炭挟み〔22.工匠器用一：鉗子〕2. こうのとり〔30.鳥一：鸛〕
— **gasha** 鸛の別名〔補4.鳥二：鸛雀〕
Weile 1. 罪．犯罪〔5.刑罰二：罪〕2. 事．仕事〔彙：事〕3. 造れ〔彙：令造作〕
— **beidembi** 事を調べる．犯罪を審理する〔彙：審事〕
— **beidere bolgobure fiyenten** 理藩院に屬し，屬領の刑罰事務を掌る役所〔20.部院五：理刑清吏司〕
— **beidere kunggeri** 盛京の總管衙門の文官，營官等の進退に關する事務を掌る役所〔補2.衙署七：理刑科〕
— **beidere tinggin** 蒙古地方の旗人の駐屯せる土地に於ける，滿蒙人相互の間の事件を審理する役所〔20.部院九：理事廳〕
— **daksa** Weile と同じ〔5.刑罰二：罪〕
Weilebumbi 1. 徒刑に處する〔5.刑罰二：徒〕2. 造らせる〔26.營造：使作工〕
Weilebure weile 徒刑〔彙：徒罪〕
Weilejimbi 仕事に來る〔彙：來做〕
Weilembi 1. 造作する．造る〔26.營造：作工〕2. 事を爲す〔彙：作事〕3. 仕へる〔彙：事親之事〕
Weilen 造作．工事．仕事〔26.營造：工程〕
— **be aliha amban** 古官名．三公の一〔補1.古大臣官員：司空〕
Weilendumbi Weilenumbi 共に造作する．共に仕事する〔26.營造：齊作工〕
Weilenembi 仕事に行く〔彙：去做〕
Weilengge 罪人〔5.刑罰二：犯人〕
— **niyalma** 上に同じ〔彙：罪人〕
— **niyalma be kadalara tinggin** 司獄の執務所．刑部に屬す〔20.部院四：司獄廳〕
— **niyalma kadalara hafan** 囚人を取締る官．典獄〔4.臣宰六：司獄〕
Weilenjimbi 仕事に來る〔彙：來做〕
Weilere arara fiyenten 內務府に屬し宮廷の營造工事を掌る役所〔20.部院七：營造司〕
— **arara kunggeri** 官の造營工事の事を掌る役所．工部に屬す〔補2.衙署四：營造科〕
— **arara namun** 宮廷用の器物を製作する所．工部に屬す〔20.部院十二：製造庫〕
— **boo** 理藩院の營造事務を掌る役所〔補2.衙署五：工房〕
— **dasara bolgobure fiyenten** 城垣，官署其他政府の建築物の營繕，木稅牽稅等を掌る役所．工部に屬す〔20.部院五：營繕清吏司〕
— **falga** 工場．仕事場〔22.貿易二：做房〕
— **fiyenten** 盛京將軍衙門の營繕事務を掌る役所〔補2.衙署七：工司〕
— **jakai boo** 修書處の諸物を收藏する所〔補2.衙署六：材料房〕

Weilere jurgan 工部(六部の一)〔20.部院五：工部〕
— **jurgan i kungge yamun** 都察院の六科の一．主として工部の政務を監察する所〔20.部院五：工科〕
Weilumbi (事を) 隠す〔12.落空：瞞藏〕
Weingge 誰の (もの)〔18.爾我二：誰的〕
Weisha 星座の名．二十八宿の一〔1.天文二：尾〕
Weji 密林〔29.樹木六：叢林〕
— **ba** 密林地帯〔2.地輿一：山野密林〕
— **una** 果實の名．葉は黄色にして並細く，實は五分足らずの大きさのもの〔28.果品三：普盤果〕
Wekce 織機の經絲を捲く棒〔23.紡織二：機上經桿〕
Weke おい！誰か！(目上の者が目下の者を呼ぶ言葉)〔12.喚招：叫人忘名口氣〕もし！(名を忘れた人を呼ぶ言葉)〔18.爾我二：誰呀〕
Wekji 籾穀〔28.米穀二：米皮〕
— **ara** 籾と糠〔彙：糠粃〕
Wekjibumbi 梭で緯絲を織込ませる〔彙：使以梭橫織〕
Wekjimbi 梭で緯絲を織込む〔23.紡織一：理橫絲〕
Wekjime dasara amban 首輔大臣の命を受けて地方を安撫し，邊軍を總制する官〔4.臣宰二：經略〕
Wekjire sirge 織機の横絲〔彙：緯絲〕
Welderhen Güldargan に同じ〔補4.雀三：游波〕
Welgiyan 奇獸名．猪に似て角を有す，昆吾山に出づ〔補4.異獸四：蟹蚾〕
Welhūme 星座の名．二十八宿の一〔1.天文二：胃〕
Welmiyebumbi 釣らせる〔彙：使釣〕
Welmiyeku 釣竿．釣針，絲をつけた釣竿〔22.打牲器用二：釣魚竿〕
Welmiyembi 魚を釣る〔22.打牲：釣魚〕
Wembi 1.(氷が) 融ける．溶解する〔2.時令九：融化〕2.化する．改まる〔彙：教化之化〕
Wembumbi 1.善導する．德化を及ぼす〔5.政事：化導〕〔7.文教：使化〕2.(金屬等を) 鎔かす〔26.折鎚：鎔化〕
Wemburi まるめろ〔補3.異樣果品二：楂梨〕
Wempi 德に化した．感化を受けた〔5.政事：感化〕
Wen 1.感化．德化〔5.政事：化〕2.弓筈の端の，弦をかける溝〔9.製造軍器二：扣子〕3.矢筈の溝〔彙：箭扣之扣〕
— **de dahabuha jeo** 地名．今の新疆省内に在り〔續.地輿：廸化州〕
— **fetembi** 矢筈の溝を掘る〔9.製造軍器三：挑箭扣〕弓筈の溝を掘る〔彙：開弓扣〕
— **jang** Šu fiyelen に同じ〔彙：文章〕
— **tebumbi** 矢を番へる〔8.騎射：搭扣〕
Wence 葉が楓に似た木．此の葉を染料に用ひる〔29.樹木二：烏茶〕
Wenceo Jurhu suri に同じ〔彙：温紬〕
Wendeden Wenderhen の別名〔補4.雀三：阿鑑推〕
Wendere 融けて．化して〔彙：化〕
Wenderhen 雀の類．Saman cecike に似，鳳頭がない〔30.雀二：阿蘭〕
Wenehe とけかゝつた〔2.時令九：化動了〕
Wenembi 次第に溶ける．溶けてゆく〔彙：消化．化去〕．
Wengke 1.融けた〔2.時令九：氷融化了〕2.感化をうけた．改まつた〔5.政事：感化了〕
Weniyebumbi 精煉させる〔彙：使銷他熟〕
Weniyembi 精煉する〔26.折鎚：熟煉〕
Wenje 1.温めよ〔28.煮煎：温〕2.えぞぎく〔29.草二：藍菊草〕
Wenjebumbi 温めさせる〔28.煮煎：使温着〕
Wenjehe 少し酔つた〔彙：醺醺半醉了〕
Wenjehebi 1.(駈けてゐた馬が止つて) 温つてしきりに身體を動かす〔31.馬匹動作一：跑熱了〕2.少し酔つた．微酔ひになつた〔彙：醺醺半醉

了〕
Wenjehun 富裕(な)〔11.富裕:富裕〕
Wenjembi 1. 高熱を發す(身體が)〔16.疼痛二:發燒〕2. 温める(食物等を)〔28.煮煎:温着〕3. 少し醉ふ. 微醉ひになる〔彙:醺醺半醉之貌〕
Wenjen doholon 馬が歩き初めは跛をひき,少し歩くと普通に歩く〔32.馬畜殘疾二:熟瘸〕
Wenjenduhe 皆が微醉ひになつた〔彙:皆半醉了〕
Wenjengge giyalakū 家の内のたてきつた煖い室〔21.室家二:煖閣〕
— **kiyoo** 毛皮等をはつた防寒用の轎〔26.車轎一:煖轎〕
— **yuwan** 炭火を入れる仕掛けの硯. 冬に用ひる〔7.文學什物二:炙硯〕
Wer wer 犬を呼ぶ聲〔14.聲聲一:喚狗聲〕
Werdeme tafambi 繩を引張つてよぢ上る〔14.行走二:挽繩而上〕
Were 1. 氷で冷せ〔27.飲食三:迫〕2. 米をといで砂をとれ〔28.澆淦:淘砂子〕
Werebumbi 1. 氷で冷させる〔27.飲食三:使氷迫〕2. 米をといで砂をとらせる〔28.澆淦:使淘去砂子〕
Werembi 1. 氷で冷す〔27.飲食三:氷迫〕2. 鑛砂を水で洗つて金,鐵等を選りわける. よなぐ〔26:折鎖:淘金〕3. 米をといで砂をとる〔28.澆淦:淘去砂子〕
Weren 1. 小波. 波紋〔2.地輿九:波瀾〕2. 太鼓の胴〔7.樂器三:鼓腔〕桶のたが〔25.器用七:桶箍〕3. 夏帽子(Boro)の内側の笠臺(圓頂形のもの). 夏帽子の内緣につけた針金〔24.冠帽一:帽圈〕
Werenehe 木の嫩皮を蟲が喰つた. 蟲がついた〔29.樹木十:虫蛀了〕
Werešebumbi 確かめさせる. 吟味させる〔12.詳驗:使訪察〕
Werešembi 確かめる〔12.詳驗:訪察〕
Weri 1. 留め置け. 殘せ〔15.留遺:存留下〕2. 別の人〔18.爾我二:他人〕
— **i jaka** 他人の物〔彙:人家的東西〕
— **niyalma** 他の人. 別の人〔彙:別人〕
Weribumbi 留めさせる. 殘させる〔15.留遺:使存留〕
Werimbi 留めおく. 殘す〔15.留遺:存留〕
Weringge 他人の(もの)〔18.爾我二:是他人的〕
Werukebi 凍肉の氷が融けて了つた〔28.滋味:凍肉化了〕
Werwen 異獸名. 放皐山に出づ,腰細くよく鳴くといふ〔補4.異獸四:文文〕
Wesibumbi 登用する. 昇進させる〔4.陞轉:陞用〕上げる. 持上げる〔21.扛擡:往上起〕
Wesibume fungnembi 品秩を陞して封典を與へる(父の職が子よりも高い場合等に)〔3.封表一:晉封〕
Wesibun 易卦の名〔補1.書二:升〕
Wesihulebumbi 尊ばせる. 尊ばれる〔11.敬愼:使人尊重〕
Wesihulembi 1. 尊ぶ. 尊敬する〔11.敬愼:尊重〕2. 子が出世して父母が封典を受ける樣になる〔11.孝養:尊親〕
Wesihun 1. 上. 上に. 高く〔2.地輿十三:崇高〕2. 東. 東に〔2.地輿十三:往東〕3. 貴い. 身分の高い〔11.爾祉:貴〕
— **forgon de kulun dahasun elhe i mudan** 功ある將軍,大臣に茶を進むる時に奏する音樂の名〔補1.樂:景運乾坤泰之章〕
— **i nontoho** 上弦の月. 陰曆の月の八九日頃〔1.天文一:上弦〕
— **mukdembure poo** 鐵製の短い大砲の名〔補1.軍器二:冲天礮〕
Wesiku 鞍,轎に乘る時に用ひる手摺のついた木の踏段〔6.鹵簿器用五:仙橋〕
Wesimbi 1. (官位が)昇る. 昇進する〔4.陞轉:陞〕2. 上る〔14.行走二:升〕
Wesimbu seme arambi 上奏文に「上」と書く〔5.辦事二:書題〕
Wesimbumbi 1. 上奏する〔5.辦事二:奏〕2. (Wesibumbi と同じ)昇らせる. 高くする. 持上げる〔彙:使陞. 使貴. 凡物向高拿起〕

Wesimbure afaha 表紙のない上奏文〔5.事務二：奏片〕
— **bithe** 上奏文．天子に差出す伺書〔5.事務二：本〕
— **bithe arara ba** 上奏文の類を書く所．各部院に設けられる〔20.部院四：本房〕
— **bithe icihiyara boo** 漢文の上奏文を繕寫する所〔補2.衙署一：本房〕
— **bithe pilere ba** 上奏文を寫し，諭旨を朱寫する所．內廷に設けらる〔20.部院二：批本處〕
— **bithei benesi** 上奏文を傳達する役人〔續2.臣宰：奉差〕
— **bithei jise icihiyara boo** 翰林，給事中，監察御史の補任，滿蒙官の昇進任用等を掌る處．吏部に屬す〔補2.衙署一：題稿房〕
— **bithei tebeliyeku** 上奏文を束ねる帶封〔5.事務二：本匣〕
— **bithei ton** 上奏する事件の數を記した書付〔5.事務二：本單〕
— **bukdari** 特に天覽に供する上奏文〔5.事務二：奏摺〕
Wesinembi 登つて行く〔14.行走二：升上去〕
Wesingge ilha のうぜんかづら〔29.花四：凌霄花〕
Wesire forgošoro kunggeri 官吏の加級，賜印等を掌る役所．吏部に屬す〔補2.衙署一：陞調科〕
Wešen Ile と同じ〔22.打牲器用四：打獸的套子〕

Y

Ya 1. 夕靄〔1.天文七：烟靄〕2. 誰それか．何某か（名を知りて人を知らざるとき訊ねる言葉）〔18.爾我二：那個〕誰か．孰れか〔彙：誰．孰〕3. 何．何の．如何なる〔彙：何項何樣之何．何人之何．何日何地之何〕
— **akū** どもやがかゝらない〔彙：晚了大風不止則無氣〕
— **ba** 何處〔彙：行走〕
— **hacin** 如何樣な．如何な種類の〔彙：那樣〕
— **jaka** 如何なる物か．何物か〔彙：何物〕
— **si ya jeo i alin i honin** 印度西北部に產する山羊の一種．マークホル〔補4.異獸五：亞細亞洲山羊〕
Yabe 誰を．何を．何事を〔18.爾我二：把那個〕
Yabi 1. 瓦を葺くために椽木の上に張つた板又は葭子(ぶき)〔21.室家一：望板〕2. それは…何とか〔彙：那個有〕
Yabilabumbi 瓦を葺くため椽木の上に板又は葭子を張らせる〔26.砌苫：使鋪望板〕
Yabilambi 瓦を葺くため椽木の上に板又は葭子を張る〔26.砌苫：鋪望板〕
Yabsa 魚名．Yaru（鮻魚）より少々大きくして色白く美はし〔32.河魚二：白鮻魚〕
Yabsi Absi に同じ〔18.散語六：怎麼說〕
— **balai yabuha** 何とまた亂行したことか！〔彙：好不亂行了〕
Yabšahū みみづく〔30.鳥五：鴟鴞〕
Yabu 行け〔彙：令人走〕
Yabubu 1. 准じて行へ．照し行へ〔彙：案稿上寫的照行〕2. 行かせよ〔彙：令走〕
Yabubufi bure kunggeri 工部に屬し，各役所で使用する木石等の支給を掌る役所〔補2.衙署四：准支科〕
Yabubumbi 1. 准じ行ふ．照し行ふ〔5.辦事二：准行〕2. 行かせる．歩かせる〔14.行走一：使行走〕3. 文書を遣はす．書信を遣る〔彙：使文書行〕
Yabubume afabure kunggeri 奏

判檢察廳の文書發送，又は審判廳檢察廳の命を承けて判斷及び物件の沒收等を掌る役所．吏部其他にあり〔補2.衙署一：承發科〕
Yabubureo 行つてくれるか．施行してくれるか〔彙：乞行．施行．乞准〕
Yabuha ba 〔4.陞轉：履歷〕
Yabulan ふくろ〔30.鳥五：鶚鳥〕
Yabumbi 行く．歩く〔14.行走一：行走〕事を行ふ〔彙：行事之行〕
Yabun 行ひ〔彙：行．德行品行之行〕
— **facuhūn** 行ひ亂れた（人）．行ひ潛越な（人）〔18.兇惡一：行止亂張〕
— **halai fudasi** 行ひ道に悖れる．行止多く背逆の〔彙：行多背逆〕
Yabundumbi 一齊に歩く．一齊に行く〔14.行走一：一齊行走〕互に往來する〔15.去來：彼此來往〕
Yabunumbi 一齊に歩く．一齊に行く〔14.行走一：一齊行走〕
Yaburelame 立ち止まり立ち止まり歩く．休み休み歩く〔彙：走的略蹬蹬又走．走一回歇一回〕
Yaci 誰から．何から〔18.爾我二：從那箇〕
— **jaka** どの物から〔彙：那來許多物乃問衆物之詞也〕
Yaciha 奇果の名．日南國に出づ，大きさ指の如く，酒に造つて傷風を治す〔補3.異樣果品二：都咸子〕
Yacihiyabumbi くさめをさせる〔彙：使打噴嚏〕
Yacihiyambi くさめをする〔16.疾病二：打噴嚏〕
Yacikan 淡青色．淡青黑の〔23.采色二：微青〕
Yacike 頬に黑い毛のある雀〔30.雀五：黑靨頰〕
Yacin 青い．青黑い〔23.采色二：青〕
— **bosoi mahatun** 青黑色の布で造つた冠〔補1.古冠冕二：緇冠〕
— **bulehen** まなづる．こうのとり〔30.鳥一：青鶴〕
— **dobi** くろきつね〔31.獸五：黑狐〕
— **fekšun** Hoifan に同じ〔彙：與 Hoifan 同．皂縹〕
— **garudai** 青色の鳳〔補4.鳥一：陰翥〕
— **garunggū ilha** 奇花の名．色深藍，朶は鸞の形に似たり〔補3.異花三：青鸞花〕
— **hontohonggo gu** 古代祭祀に使用した深藍色の玉〔補1.古祭器：青璋〕
— **samsu** 巾狹くして深藍色光澤ある布〔23.布帛六：油紅青布〕
— **šempi** 綠皮を新しく染めたもの〔24.皮革二：子兒皮〕
— **šošontu** 髪を束ねるに用ひる青布〔補1.古冠冕三：緇撮〕
— **ulhu** Ulhu に同じ〔24.皮革一：灰鼠皮〕〔31.獸六：灰鼠〕
— **ūn cecike** 小鳥の名．Ūn cecike（灰兒）程の大きさ．頭の先に白毛あり〔30.雀一：皂兒〕
— **weijun** 身體純青色の大こうのとり〔彙：青老鸛其身純青〕
— **yarha** Moodahūn に同じ〔補4.異獸一：元豹〕
Yacisu 貴州人が Suwan（鸛鵲）を呼ぶ名〔補4.鳥五：烏鬼〕
Yadaha 1. 窮した．貧窮した〔彙：窮了〕2. 弓の一方が軟かくて歪んでしまつた〔彙：弓一邊軟彎了〕
Yadahūn 1. 貧．貧しい〔13.貧乏：貧〕2. 疱瘡の發疹が少い〔16.瘡膿二：花兒窮〕
— **fusihūn** 貧賤．貧賤の〔彙：貧賤〕
Yadahūšambi 餓える〔13.饑饉：餓〕
Yadali cecike ぬへじない〔30.雀二：鸂鶒〕
Yadalinggū 虚弱な（人）．精力のない（人）〔16.疾病二：虚弱〕軟弱な（人）．懦弱な（人）〔17.懦弱一：弱〕力及ばぬ．力が同じ樣でない〔8.撩跤二：軟〕
Yadambi 1. 弓の一方が軟かく歪みが出來る．歪みが出來て引き難い〔9.製造軍器二：弓半邊輭〕2. 貧する．貧窮する〔13.貧乏：貧窮〕
Yadan cecike 鳥名．Fiyabkū（穿草鷄）に似，色は黃〔30.雀六：五更鳴〕
Yadana こうのとり〔30.鳥一：鵠〕
— **ilha** ぎぼしぐさ〔補3.異花二：白鵝

花〕

Yadana ujungga fukjingga hergen 書體の名. 起筆輕きこと鳥啄の如く落筆重きこと鵠頭の如し〔補1.書四：鵠頭書〕

Yadarahū 貧窮せんかと心配する. 窮するを怕れる〔彙：恐怕窮〕

Yadarakū 定まらない. 料られない〔18.散語六：不定〕

Yade 誰に. 誰の處に. 何に〔18.碰我二：向那個〕

— **bi** 何にあるか. 何處にあるか〔彙：那裏有〕

Yafahalabumbi 步行させる. 步かせる〔14.行走一：使步行〕

Yafahalambi 步行する. 步く〔14.行走一：步行〕

Yafahan 步行. 徒步〔彙：步行〕

— **cooha** 〔8.兵：步兵〕

— **coohai uheri da** 京城の九門步兵巡捕三營を總督する大官〔4.臣宰二：步軍統領〕

— **gūsai da** 〔彙：步軍參領〕

— **isibure hūsun** 驛站間の飛脚〔10.人二：走遞夫〕

— **janggin** 步兵の將校〔彙：步軍校〕

— **kūwaran i fiyenten** 盛京將軍衙門の步軍事務を承辦する役所〔補2.衙署七：步營司〕

— **uksin** 徒步の兵卒〔彙：步甲〕

Yafan 蔬菜畑. 果樹園〔21.田地：園〕

— **i da** 園丁頭〔10.人三：園頭〕

Yafasi 蔬菜畑, 果樹園等の番人. 園丁〔10.人三：園戶〕

Yaha (炭火など)火焰の無い火〔23.烟火一：無焰火〕

Yahai tebun 小さな鐵箱に四本の針金を通し炭火を入れて提げるもの〔25.器用六：火提〕

Yahana 實の入らぬ穗. ひえ〔21.農工三：稗頭〕

— **coko** 鳥名. 白鸛(Šunggin gasha)に似, 雉より大, 體黑色, 頸の兩傍より頭にかけて生えたる灰色の羽毛, 獸の角の如き肢あり〔30.鳥六：火雞〕

— **moo** 樹名. 南洋の山上に出づ, 之を燃しても灰にならない〔補3.樹木二：不灰木〕

Yahanahabi 穀物の穗が實らずに黑くなつた. 黑變病にかゝつた〔21.農工三：黑疸〕

Yahari 1. にはうめに似た奇果〔補3.異樣果品三：火炭子〕 2. 奇獸の名. 鮮山に出で, 獏に似たり, 色淡黑にして口白く眼紅く尾白し〔補4.異獸四：豸卽〕

Yahi 秘かに收得した利〔18.貪婪：賺手〕

Yahilambi 秘かに利益をとり入れる〔18.貪婪：留賺手〕

Yai 塵埃〔彙：沙塵埃之埃〕

Yak びしり(馬などを鞭打つときに發する音)〔14.聲響二：加鞭聲〕

— **seme** 1. どしんと(角力のとき, 痛みを受けて倒れる貌)〔8.撩跤二：跌狼狀〕 2. うう. あっあっ(咽喉が塞つて話の出來ない貌)〔14.言論四：語音啞閉〕

— **seme sibuha** ううっと咽喉が塞つて話が出來ない〔彙：咽喉塞住說不出話來〕

— **seme šusihalaha** びしりと馬を鞭打つた〔彙：用力打馬〕

Yaka 誰か! 誰ぞ居るか! (貴人が人を呼ぶ聲)〔12.喚招：尋覓下人口氣〕 誰か. 誰ぞ(誰か來るか. 誰ぞ行くかなど)〔18.散語六：那個〕

— **bio** 誰か居るか〔彙：那個在這裡乃上人叫下人口氣〕

— **geneheo** 誰か行つたか. 誰ぞ行つたか〔彙：那個去了麼〕

Yakajambi 食物の中の砂をぢやくりとばかり嚙む〔27.飲食二：牙磕〕

Yaki 馬の口網の如き形に作り箭袋に蓋ひ着せるもの〔9.撒袋弓靫：箭罩〕

Yakilambi Yaki (箭罩)を着せる. Yakiをはめる〔9.撒袋弓靫：罩箭罩〕

Yaksa 河岸の崩壞して彎曲した處〔2.地輿十一：淜塄河灣子〕

— **hoton** 黑龍江東ロシヤ界にある城市の名〔續2.地輿：雅克薩城〕

Yaksargan 小鳥の名. Coocilanli (沙溜子)の類. 嘴長く脚短かく, 羽毛は

淺黃色，尾の根基白し〔30.雀一：大水扎子〕

Yaksibumbi 閂ををろさせる．閉ぢさせる〔31.開閉：使閉〕

Yaksigan 二つの梁が動かぬ樣，眞直に立てた椽の如き細い木．束2〔21.室家一：托樑〕

Yaksikū 閂(ᡤᡳᡴᡡ)〔21.室家二：門閂〕

Yaksimbi 閉ぢて閂をおろす．閂をかける．閉ぢる〔21.開閉：閉〕鎖をおろす〔彙：關眼關櫃關箱之關〕

Yaksin 易卦の名〔補1.青一：否〕

Yaksintu enduri 日神の第十二．閉神に次ぎ日神の最後にあり，閉神と名づけ，黑道の日を承く〔補2.神一：閉〕

Yaksitai 意を決して．人の顏色などを顧みずして（直言する）〔14.言論一：決意〕

Yakūngga 甚だ異樣なる人．甚しき異端者〔18.厭惡：怪誕〕

— **mudan** 異樣なる聲．奇怪の聲〔彙：人之異樣聲〕

Yala 眞に．果して．誠に〔彙：眞個的．果然．誠然〕

— **oho** 果して然り．誠にさうであつた〔18.散語六：果然了〕

Yalake 然り．そうだ．左樣〔18.散語六：果然〕

Yaldargan Baldargan（青鵲）の別名〔補4.鳥四：青鸞〕

Yalgan 鳥名．曠野に棲む，羽に斑紋あり〔補4.鳥九：鳥鴉〕

Yalhū 四個の把手ある木のくりぬき盆（Oton より大なるもの）．板を合せて盤の形に作り四個の把手四個の脚をつけたる大形の器物〔25.器用六：有把槽盆〕

Yali 肉〔10.人身七：肉〕〔27.飯肉一：肉〕

— **belhere falgari** 光祿寺に屬し，公主姐姐諸使賓客等に肉類を供給し，宴會を用意する等の事務を處理する役所〔20.部院六：大官署〕

— **gūwacihiyašambi** 肉跳る〔彙：肉跳〕

— **gūwaššambi** 肉跳る〔彙：肉跳〕

— **hafirakū** 象の鼻の先端にありて草などを挾み取る筋肉〔彙：象之鼻尖上的肉鉗可鉗草料〕

— **i boo** 諸地より貢す魚鳥獸の類を收貯する房〔補2.衙署七：肉房〕

— **jokson** （馬などが）少し痩せた〔32.牧養二：膘欠〕

— **jun narhūn** 木質の細かい〔彙：木之肉料細〕

— **monggon** 食道〔10.人身三：食喉〕

Yalici 奇果の名．大きさ盃の如く，色は油に似たり，味豚肉の如し〔補3.異樣果品三：猪肉子〕

Yalihangga 肥えた．肉付きのよい（貴人の肥えたるにいふ言葉）〔11.容貌六：富態〕

Yalinaha doli 西瓜の肉質上等にして甘く柔かなるもの〔28.果品四：肉瓤〕

Yalingga Yalihangga に同じ〔11.容貌六：富態〕

Yalitu 肥滿せる人〔11.容貌六：胖子〕

Yalmanggi 竈内や炕内の煤〔23.烟火四：炕洞煤〕

Yalu 1. 兩田地の境界．畦〔21.田地：地邊〕2. 乘れ．騎乘せよ〔32.騎駝一：騎〕

Yalubumbi 乘らせる．騎乘させる〔32.騎駝一：使騎牲口〕

Yalumbi 乘る．騎乘する〔32.騎駝一：騎牲口〕

Yalume eteme 騎りこなし〔彙：受得騎．頂得騎〕

Yalunabumbi 騎つて行かせる．行つて騎らせる〔彙：使去騎〕

Yalunambi 行つて騎る．騎つて行く〔32.騎駝一：去騎〕

Yalundumbi Yalunumbi 各自一齊に騎乘する〔32.騎駝一：齊騎〕

Yalunjimbi 來て騎る．騎つて來る〔彙：來騎〕

Yamaka Aimaka に同じ〔17.猜疑：好像是〕

Yamari gaha 鴉の別名〔補4.鳥九：翔暮〕

Yambi 夕霧が下りる〔1.天文七：烟霧生〕

Yamji 晩. 晩方〔2.時令七：晩〕
— **tome** 晩毎に. 毎晩〔彙：毎晩〕
Yamjidari 晩毎に. 毎晩. Yamji tome に同じ〔2.時令七：毎晩〕
Yamjiha 日が入つた. 空が暗くなつた〔1.天文一：天晩〕
Yamjishūn 夕暮. 暮方〔2.時令七：傍晩〕
Yamjitala 晩になるまで. 日が暮れるまで〔2.時令七：直至晩〕
Yamka Aimaka に同じ〔彙：或有之曰氣在閉見上說. 與 Aimaka 同〕
— **inenggi** 大抵何々の日. 凡そ決め得る日〔彙：或有日〕
Yamtari 奇獣の名. 其肉極めて香し〔補4.異獣七：迷蕩〕
Yamtun 喘息病〔16.疾病一：吼病〕
Yamtungga 喘息の病人〔16.疾病一：吼病人〕
Yamulabumbi 登廬させる〔6.朝集：使上衙門〕
Yamulambi 登廬する〔6.朝集：上衙門〕
Yamulanjimbi 登廬して來る〔6.朝集：來上衙門〕萬國來朝する〔彙：萬國來朝〕
Yamun 役所. 官廳〔20.部院一：衙門〕
Yan 重量の單位名. 兩. 十六斤〔22.衡量二：兩〕
— **ho**〔彙：烟火〕
Yandaci あなぐまの仔〔31.獣五：獾崽〕
Yandubumbi 人に頼み入らす. 頼み込ます. 請托させる〔13.求望：使請託〕
Yandugan 頼み込みの. 頼み入る. 請託の〔13.求望：請託的〕
Yandumbi 頼み入る. 頼み込む. 人手を煩はす. 請託する〔13.求望：請託〕
Yang 陰陽の陽〔彙：陰陽之陽〕
— **ing** ぶんぶん〔14.聲響六：蚊蠅飛聲〕〔32.蟲動：蚊蠅飛聲〕
— **sin diyan i weilere arara ba** 内務府に屬し, 天子御用の器物の製造を司る役所〔20.部院八：養心殿造辦處〕
— **yang** わんわん. どーんどん〔14.聲響三：鐘響聲〕
Yangduwan 毛繻子〔彙：洋緞〕
Yangga (松の木の脂肪分の多い所を取つて作つた) 松明(たいまつ)〔23.烟火二：油松亮子〕
Yanggaha やたがらすの別名〔補4.鳥九：陽鴉〕
Yanggali せきれいの類〔30.雀四：鶺鴒花〕
Yanggar seme 悠揚として明瞭に語る貌〔14.聲響一：聲音悠揚〕
Yanggidei Junggiri coko (錦鶏) の別名〔補4.鳥五：華蟲〕
Yanggilambi 誘惑する. 唆かす〔17.淫黷：調戯〕
Yanggilandumbi 互に誘惑する. 互に唆かし合ふ〔17.淫黷：彼此調戯〕
Yanggir iman 陝西の岩地に産する羊の一種〔31.獣四：石羊〕
Yanggūha やたがらす〔補4.鳥九：陽烏〕
Yanggūhe おうむ〔補4.鳥八：鸚鵡〕
Yangkambi Fangkambi に同じ〔8.撩跤一：往下摔〕
Yangkūnggalambi 歌ふ. 唱へる〔7.樂三：歌〕
Yangsabumbi 田の雜草を刈りとらせる〔21.農工二：使耘草〕
Yangsambi 田の雜草を刈る〔21.農工二：耘草〕
Yangsanambi 行つて田の草を刈りとる. 田の草を刈りに行く〔21.農工二：去耘草〕
Yangsangga 容姿美はしい. 艶かな〔24.裱褙：有文采〕
Yangsanumbi 各自一齊に田の草を刈る. 共々に田の草刈りをする〔21.農工二：齊耘草〕
Yangse 1. 眉目麗しい. 姿美しい〔24.裱褙：文采〕2. 牛車の轅の先の横木. 牛の首にあてる横木〔26.車轎二：牛樣子〕
Yangselabumbi 飾らせる. 容姿を整へさせる. めかさせる〔彙：使粧飾修飾. 使打扮. 使粧飾〕

Yangselambi 飾る．容姿を整へる．めかす〔24.梳粧：文飾〕
Yangsimu niyehe あをくび〔30.鳥七：冠鴨〕
Yangšan 1. 小兒の病氣勝ちな〔16.疾病二：小兒病〕2. (人の聲の) 騒々しい〔18.厭惡：聒噪〕口數多くじてづまらぬ〔18.鄙瑣：勞叨〕
Yangšangga 騒々しい〔彙：聒噪〕
Yangšantu 奇獸の名．形獅子に似，人に向つて毒氣を吹く〔補4.異獸六：猞〕
Yangšaraha 小兒が發熱してむづかりやまぬ〔彙：小孩子發熱撒賴不耐煩〕
Yangšarambi 1. 小兒が發熱してむづかりやまぬ〔16.疾病三：小兒發賴〕2. 小うるさく喋り止まぬ〔18.鄙瑣：只管嘮叨〕
Yangturi 奇果の名．木は櫻桃に似，核の兩面人面に似たり，蜜に漬けて食ふ〔補3.異樣果品二：人面子〕
Yar seme ちよろちよろと．さらさらと〔2.地輿十一：水細流貌〕纔々として (話盡きせぬ貌)〔14.言論四：聯貫〕
Yara kooli akū (大風止まず)靈の下りる道理がない〔彙：大風不止不應有山水之氣〕
Yardahūn ひようの一種〔補4.異獸一：豹〕
Yardu Humudu (鵠) の別名〔補4.鳥三：獨豹〕
Yarfun 馬の口とり繩．手綱〔9.鞍轡二：偏轡〕
— **tembi** (馬が暴れて) 手綱を斷ち切る〔31.馬匹動作一：壞轡〕
Yargican niyehe あをくびの一種〔30.鳥七：皮葫蘆〕
Yargiyala 事實を明白にせよ〔12.詳驗：使驗實〕
Yargiyalabuhabi 傷を受けた．負傷した．「陣中人が負傷したのを指していふ場合，Feye baha (負傷した) といふのを避けて此語を使用する」〔16.傷痕：諱言人陣上中傷語〕
Yargiyalabumbi 事實を明らかにさせる〔12.詳驗：使驗實〕
Yargiyalahabi 1. 傷を受けた．負傷した「陣中負傷した場合，Feye baha (負傷した) といふのを避けて此語を使用する」〔16.傷痕：諱言陣上中傷語〕2. 事實が明白になつた．事を明白にした〔彙：凡事凡物明白切實了〕
Yargiyalambi 事實を明白にする〔12.詳驗：驗實〕
Yargiyan 實の．本當の〔5.詞訟二：實〕眞實の．眞實のある〔11.厚重一：眞實〕
— **tašan** 眞實と虚僞〔彙：虚實〕
Yarha ひよう．又その皮〔31.獸二：豹〕〔24.皮革一：豹皮〕
— **uncehengge girdan** 豹の尾を用した幡〔6.鹵簿器用二：豹尾幡〕
Yarhacan 奇獸の名．形犀似に狗に似て，豹斑牛角．此獸見はるれば必ず豐收といふ〔補4.異獸一：狡〕
Yarhūdabumbi 馬を牽き行かせる〔31.套備馬匹：使牽領〕導かせる〔彙：使引導〕
Yarhūdai 道案內役〔4.臣宰十三：嚮導〕〔續.臣宰：嚮導〕
Yarhūdambi 導く．善に導く〔7.文教：引導〕馬を牽く．馬の口をとる〔31.套備馬匹：牽領〕
Yarhūdan 導くこと．善に導くこと〔7.文教：導〕
Yaribumbi 凍傷にかゝる〔13.寒戰：凍的疼〕
Yarju 奇獸の名．隃山に出づ，性豹に似，頭に斑紋あり〔補4.異獸二：狨〕
— **cecike** Yacin ūn cecike (皂兒) の別名〔補4.雀一：豹頭〕
Yarkiyabumbi 誘きよせさせる〔8.征伐三：使誘戰〕誘きよせられる〔彙：被誘〕
Yarkiyambi 誘きよせる〔8.征伐三：誘戰〕誘ふ．氣を引く〔17.搖蕩：引誘〕
Yarkiyan 誘ふこと．欺き誘ふこと〔17.欺哄：誘〕
Yarkiyandumbi 互に誘ひ合ふ〔17.搖蕩：彼此引誘〕
Yarkiyara cooha 計を以て敵を誘ひよせる兵〔8.兵：誘敵兵〕

Yartan ilha 奇花の名. 紅色, 太陽に向つて咲く〔補3. 異花五：翠鶯眉花〕
Yaru 1. Hasima (哈什馬) の吸物〔27. 飯肉四：哈什馬羹〕 2. 魚名. 大きさ一尺に足らず, 清水に棲む〔32. 河魚二：鮫魚〕 3. 引け. 導け〔彙：令率引. 令引進. 導引之引. 令引人之引〕
Yarubumbi 導かせる. 案内させる. 狭い所を一人宛引く様にして行かせる〔14. 行走二：使引行〕
Yarudai 中央に産する鳳〔補4. 鳥一：玉雀〕
Yarugan i fangse 出殯前に拾げる銘旌. 死者の官職姓名等を記したのぼり〔6. 喪服二：引旛〕
Yarukū asu 流れに順つて, てふざめを捕へる網. 網の目大〔22. 打牲器用一：順水網〕
Yarumbi 教へ導く. 手引きする〔7. 文教：引〕導く. 案内する. 狭い通路を一人一人引く様にして行く〔14. 行走二：引行〕
Yarume bargiyara edun 秋分後西方より吹き来る風〔補1. 天：閶闔風〕
— **okdoro kumun** Yarure okdoro kumun に同じ〔彙：皇上祭壇廟進宮奏的樂共兩章〕
— **yarume** 陸續として〔12. 取送：接續不斷〕
Yarun 1. 書の前に題する小序〔7. 書二：引〕 2. 長さの單位. 一引. 十丈〔25. 量度：引〕
Yarungga mukšan 儀仗名. 形, Nudehen (板子) に似て上細く下寬く, 上面に金漆せるもの〔6. 鹵簿器用五：引仗〕
Yarure morin 馬が對になつて行く場合, 前に行く馬〔32. 騎駝一：對子馬〕
— **okdoro kumun** 天子が壇廟を祭り宮に陞る時奏する樂〔7. 樂一：導迎樂〕
Yasa 眼. 目〔10. 人身二：眼〕網の目〔22. 打牲器用一：網眼〕
— **arambi** 目配せをする. 眼で合圖する〔11. 容貌三：遞眼色〕
— **bohon** 眼球にくもがかかつた. 眼が曇つた〔11. 容貌三：眼珠渾〕
— **bultahūn** 眼球大きく飛び出した. 出目〔11. 容貌三：暴子眼〕
— **buruhun** Yasa dushun に同じ〔11. 容貌三：眼昏〕
— **debsehun oho** 疲れて眼の皮がたるんだ〔彙：困倦了眼皮垂下來了〕
— **durahūn** 眼をぐつと据えた. 直視する. ぢつと見詰めた〔11. 容貌三：直瞪着眼〕
— **dushun** 視力がはつきりしない. 眼が花とした〔11. 容貌三：眼昏〕
— **faha** 眼の珠. 眼の中, 白き處は Sanyan faha, 黒き處は Sahaliyan faha といふ〔10. 人身二：眼珠〕
— **fetembi** 鏑矢の鏃に目をあける〔彙：鏑頭上開眼〕
— **gadahūn** 眼を見張つた. 眼を圓くした〔11. 容貌三：大睜着眼〕
— **gadahūn neimbi** 眼を見張る. 眼を見張つて見る〔彙：睜大圓眼看〕
— **gedehun** 眼をはつきりと見開いた. ぱつちり開いた〔11. 容貌三：大瞪着眼〕
— **gedehun neihebi** 眼をはつきり見開いた. 眼をぱつちり開いた〔彙：眼明瞪睜開了〕
— **gehun holtombi** 見た眼あらはな嘘をつく. 白々しい嘘をつく〔彙：白瞪着眼扯白說白話〕
— **gehun oho** 眼が大きくなつた. 眼が凹んだ (甚しく貧窮して窶れた狀態をいふ)〔13. 貧乏：窮的大瞪着眼〕
— **habtalaha siden de isinjiha** 瞬く間にやつてきた. 瞬時にして到來した〔彙：展眼之間到來了〕
— **habtalaha siden de wajiha** 瞬く間に終つた. 瞬時にして完了した〔彙：展眼之間完了乃言凡事也〕
— **ilhanambi** 眼が眩む. 頭がぼつとする〔16. 疾痛一：眼生花〕
— **jerkišembi** (馬が餘り早く走るために) 眼が眩む〔彙：目光恍惚乃馬跑得快所致也〕
— **morohon** 眼の大きく圓い. 眼のつぶらな〔彙：眼大而圓〕

Yasa morohon neimbi 眼を大きく開く見開く．つぶらに見張る〔業：眼大開睜開〕
— **morohon tuwambi** 眼をかつと見開く〔業：睜大圓眼怒目而視〕
— **nimembi** 眼が痛む．眼がうづく〔16.疼痛一：眼疼〕
— **niowanggiyan** 物欲しげな眼つきをした〔18.貪婪：眼饞〕
— **sele** 箭袋の眼の下にある三個の鐵片〔9.撒袋弓靫：箭眼飾件〕
— **sohiha** 眼に砂塵が入つて見えない〔16.疼痛一：眼迷了〕
— **šahūn** (大いに驚愕して) 眼を白くした．眼を白黒させる〔13.怕懼一：驚的白瞪眼〕
— **tatambi** 眼を見張る．眼を開くする〔業：眼開睜着〕
Yasai hošo 眼の角．眼尻〔10.人身二：眼角〕
— **hūntahan** 眼窩〔10.人身二：眼眶〕
— **jerin** 眼の縁〔10.人身二：眼邊〕
— **muke** 涙〔10.人身八：眼淚〕
— **silenggi** 風流の涙．勞苦の涙 (普通の涙は Yasai muke)〔續2.人身：迎風流淚勞苦流淚〕
Yasalabumbi 見まいとしても見せられる．見せつけられる〔12.親親一：被看見〕
Yasalambi 瞥見する．ちらりと見る〔12.親親一：瞥眼看〕
Yasatabumbi 夜分鷹を手にとまらせて睡らない樣に訓練する〔9.頑鷹狗：熬鷹〕
Yasuka 鳥名．Isuka (白鷴) の類．遼東に産す〔30.鳥三：青鷴〕
Yasha 1. 宮殿の簷に張り廻らした赤銅の網〔20.宮殿：簷網〕2. 馬の尾で作つた圓目の網．この網を雀の巢の入口に被せて雀を捕へる〔22.打牲器用三：跌包〕
— **fa** 斜格子の窓〔21.室家二：斜隔子窓〕
Yashalabumbi 網を編ませる．網の目を拾はせる〔26.挫結：使挫稍子眼〕
Yashalaha dalangga 石を以て網の目形に築いた堰〔補1.地輿二：玲瓏場〕
Yashalambi 網を編む．網の目を拾ふ〔26.挫結：挫稍子眼〕
Yashangga giyalakū 網の目通しの衝立〔21.室家二：落地明〕
— **loho** 鈔，鐲頭等の處を網目狀に彫刻した刀〔9.軍器六：玲瓏刀〕
— **uce** 高窓(上部の半窓)に取りつけた網目作りの扉〔20.墻廂：稍扇〕
Yatarabumbi 火打鐵で火を打たせる〔業：使用火鏈打火〕
Yatarakū 火打鐵．火打ち金〔23.烟火三：火鐮〕
— **fadu** 火打鐵を入れるもの．〔24.巾帶：火鐮包〕
— **miyoocan** フリント銃．燧發銃〔9.軍器七：自來火鎗〕
Yatarambi 火打鐵で火をつける．火打金を打つ〔23.烟火三：打火〕
Yatuhan 樂器の名．普通の琴より小さく，十四柱〔7.樂器二：箏〕
Yaya 諸々の．凡ての．凡百の〔18.謙我二：諸凡〕
— **demun i oci okini** どうにでもなれ！なる樣になれ！〔業：要怎麼樣罷怎麼樣罷．與 Ainaci ainakini 同〕
— **hacin** 各種の．各樣の．凡ての種類の〔業：各項．各樣〕
Yayadambi 廻らぬ舌で喋る〔14.言論三：齩舌〕
Ye 家の中央の梁以外一切の梁の稱〔21.室家一：檁子〕
Yebcun moo 奇木の名．Omei 山の U mu 縣に出づ，二樹對生し，横枝連理，樹頂よく百人を覆ふ可し〔補3.異木：黃葛〕
Yebcungge 麗はしい．別嬪の．可愛い〔11.容貌二：麗〕
Yebe 少し好い．些さか好い．好い方の〔業：好些．稍痊〕
— **oho** (病氣が)好くなつた．大方愈つた〔19.醫治：好了〕
Yebecungge 好い．好い處の．好いもの〔業：好的〕
Yebelerakū 不機嫌な．不快な〔15.憎

嫌二：不悦〕

Yebeo 少し好いか．好い方か〔彙：好些麼〕

Yebešerakū Yebelerakū に同じ〔15. 悟嫌二：不悦〕

Yebihen 天井．化粧天井〔21. 室家一：頂隔〕

Yebkelembi 能くする．愛好する〔彙：能爲．愛好〕

Yebken 聰明果断の人〔11. 德藝：英俊〕

— **haha** 好漢．快男子〔彙：好漢子〕

— **morin** 〔彙：駿馬〕

Yece 鬼の名．其形死人の身に白毛生じたるが如く切れば血を出す〔19. 鬼怪：旱魃〕

— **hutu** Yece に同じ〔彙：旱魃〕

Yecuhe 1. 蠅の一種．普通の蠅より小さいもの〔32. 蟲三：小黑蠅〕2. はねあり．Ashangga yerhuwe に同じ〔32. 蟲四：飛螞蟻〕

Yedun 鹿を誘きよせるために使用する鹿の首形の被り物〔22. 打牲器用四：鹿套頭〕

Yehe 1. 冑の天邊の圓い鐵〔9. 軍器一：盔頂上托子〕2. 兩刃鐵の廣い部分と根本の部分との中間〔9. 製造軍器四：梅針箭鐵挺〕3. 麻を灰水に浸して練り白くしたもの〔23. 絨棉：練麻〕

— **hoton** 清初吉林地方にあつた城の名〔續2. 地輿：葉赫城〕

Yehere 磁器の類〔22. 貨財二：磁〕

— **fengse** 磁製の盆〔彙：磁盆子〕

Yeherengge 磁製の．磁器類の〔彙：磁的〕

Yehetun 磁器を焼く窯〔2. 地輿五：磁器窑〕

Yekembi 淫らな歌を歌ふ〔17. 淫穢：唱淫曲〕

Yekengge haha 德行度量人に越えたる者〔10. 人一：大丈夫〕

Yekerakū 無頼の徒．やくざもの〔18. 鄙瑣：行止壞〕

Yekeršembi からかう．弄りものにする〔14. 言論三：打趣〕

Yekeršeme becunuki 人をからかひ殴り合はうとする〔彙：惹人角口相鬧〕

Yekse 巫人が神を祭るとき被る帽〔6. 祭祀器用二：神帽〕

Yekserhen やもり〔32. 蟲三：壁虎子〕

Yelmen はいたか〔補4. 鳥四：鶻〕

Yelu 牡の豚〔31. 諸畜一：跑猪豚〕

— **baimbi** 牝豚が牡豚を尋ね鳴く〔31. 牲畜孳生：猪叫圈〕

Yemji 魑魅魍魎．妖怪〔19. 鬼怪：邪魅〕

Yemjiri gasha ふくろの別名〔補4. 鳥四：姑獲〕

Yemjitu dobi いさごむし〔32. 蟲一：短狐〕

Yen 羊腸の山道．山腹の峻路〔2. 地輿五：蹊道〕

Yendebumbi 火を燃え上らせる〔23. 烟火三：使旺〕興す．興起さす〔彙：使興〕

Yendebun 即興の詩〔7. 書二：興〕

Yendehe 家業が興つた．家業旺んになつた〔11. 富裕：興旺〕

Yendembi 火が燃え起る．火が旺んになる〔23. 烟火三：火旺〕興る．旺んになる〔彙：興旺允裕之興．興起之興〕

Yenden hoton 清朝發祥の地〔續2. 地輿：興京即赫圖阿拉〕

— **i ba** 興起の地．赫圖阿拉〔彙：發祥之處〕

Yendengge mudan 四聲中の上聲〔14. 聲音一：上聲〕

Yengge えびづる〔28. 果品三：稠李子〕

— **jase** 盛京東方の邊名〔續2. 地輿：英額邊〕

Yenggehe いんこ〔30. 鳥八：鸚哥〕

Yenggeheri 濃い朽黃色〔23. 采色二：鸚哥綠〕

Yengguhe おうむ〔30. 鳥八：鸚鵡〕

Yenghuhe いんこの雌〔30. 鳥八：木候〕

Yengsi 婚禮の宴〔6. 筵宴：筵席〕

Yenju Yen に同じ〔2. 地輿五：蹊道〕

Yenmanggi 煤．鍋すみ〔彙：鍋烟子〕

Yentu 1. Šentu（寬條子）より細く織つた紐．細紐〔24. 巾帶：窄縧子〕2. Hehe dethe（翅大翎）の大きの小羽〔30. 羽族肢體一：窩翅〕

— **cecike** ほほじろ．まみじろ〔30. 雀

二：白道眉〕

Yerhe 奇獣の名．虎に似て，黒く前足なし〔補4.異獣七：貔〕

Yerhuwe あり〔32.蟲四：螘蟻〕

Yertebumbi 愧ぢさす．辱しめる〔17.羞愧：使愧〕辱しめられる〔彙：受辱．被羞辱〕

Yertecuke 愧づ可き〔17.羞愧：可愧〕

Yertecun 慚愧．慚愧の〔17.羞愧：慚愧〕

— **girucun** 〔彙：恥辱〕

— **girucun aldangga ombi** 恥辱を遠ざけ行ふ．恥辱を遠ざける〔彙：遠恥辱也〕

Yertehe 愧ぢた〔17.羞愧：愧了〕

Yertembi 愧ぢる．赤面する〔17.羞愧：愧〕

Yertešembi 身の置き處もない程愧ぢ入る．穴あらば入りたいばかりに愧ぢる〔17.羞愧：羞愧〕

Yeru 穴．地穴〔2.地輿五：穴〕

Yesoro 奇果の名．杏に似，其木の葉は柳に似たり〔補3.異樣果品一：橘類〕

Yeye 1.話の執拗な（人）〔14.言論三：話黏〕2.うぢ．蛆蟲〔32.蟲四：蛆〕3.ねば泥．ねばり氣ある〔彙：膠泥．黏〕

— **bele** Yeye に同じ〔彙：即 Yeye handu bele 也〕

— **boihon** ねば泥．粘土〔2.地輿一：粘泥〕

— **handu** 糯米(もち)に似，粘り氣のある米〔28.米穀一：江米〕

— **ira** もちきび〔28.米穀一：黍子〕

— **seshun** 話が執拗で厭はしい〔彙：說話煩瑣胡纏迂俗可厭〕

— **šušu** 粘り氣のある高粱．色淡白く菓子に拵へて食ふもの〔28.米穀一：黏高粱〕

Yo 1.行け．共に行け〔15.去來：使行〕2.量目の單位．勺〔彙：黃米一千二百粒爲 Emu yo 十 yo 爲 emu g'o 十 g'o 爲 Emu moro．勺〕

Yobo 君子振り乍ら口先で人を揶揄して遊ぶ人．眞面目な顏して冗談をいふ人〔13.戲要：戲謔〕

— **maktambi** 冗談を云つて人を笑はす〔13.戲要：開笑〕

— **niyalma** いたずら好きの人．いたずら者〔彙：頑皮〕

Yobodobumbi 冗談を云はす．ざれごとを云はす〔13.戲要：使說戲話〕からかはれる〔彙：被戲謔〕

Yobodombi 冗談を云ふ．ざれごとを云ふ．からかふ〔13.戲要：說戲話〕

Yocambi 膿物がむづかゆい．からだを蟲が咬む〔16.疾病：瘙癢〕

Yodambi 手にひつさげる〔21.拉攜：手提溜着〕

Yodan 雨合羽〔彙：雨衣〕

Yoge sindambi 僧が經文を唱へ乍ら佛前に供へた菓子類を四方に撒く〔19.佛二：放施食〕

— **sindara karan** 僧侶が施食するために作つた高い臺〔19.佛二：施食臺〕

— **sindara mandal** 盂蘭盆の法要場〔補2.佛：盂蘭道場〕

Yohan 眞棉〔23.絨棉．綿子〕

— **suri** 眞綿織りの紬〔23.布帛三：綿紬〕

— **uksin** 木棉を厚く縫ひ刺した皮服〔9.軍器一：綿甲〕

Yohi 書の一部二部などの部〔7.書三：部〕缺けずに揃つた．一揃ひ全き．全てある〔25.諸物形狀一：全的〕

Yohibun 計謀を集め編みたる書〔7.書二：略〕

Yohindaraku 不遜な．人を見下した．高慢な〔17.驕矜．惡謔〕

Yohingga 完全に揃つたもの．全備全きもの〔25.諸物形狀一：成套〕

Yoho 卵の黃味〔31.牲畜孳生：蛋黃〕

Yohon 溝（水のある）〔2.地輿八：溝〕

Yohoron 山路の細くして窪んだ處〔2.地輿五：山溝〕溝．溝渠〔彙：溝．溝渠之渠〕

— **gocika** 馬がぶくぶくに肥えた〔彙：馬壯溝肥了〕

Yohoronome 割れ目が出來．ひゞが入り〔彙：有溝兒出來如墻不皮有溝兒也〕

Yojin 孔雀の別名〔補4.鳥二：孔鳥〕

Yojohosombi 膿物が耐えられぬ程むづ痒い．痒くてたまらぬ〔16.疾病：很

癡癡〕

Yokcin akū 身體が小さくて貧相な人〔11.容貌二：貌陋〕非常に小さい〔彙：很小之詞〕

Yokcingga 容貌大いによいといふではないが，大體風采のとゝのつた〔11.容貌二：相貌還好〕見かけのいゝ〔彙：凡物未曾大費事還好看〕

Yokidun しやこの別名〔補4.雀五：越雉〕

Yokto akū (行を失して) 羞づかしい．面白くない．味氣ない〔17.羞愧：沒趣〕

— **akū oho** 面白くなくなつた．味氣なくなつた〔彙：不好意思了．怎好意思．沒趣了〕

Yolo 1. いぬわし〔30.鳥三：狗頭鷲〕2. 西藏犬〔31.諸畜二：藏狗〕

— **jahūdai** 楫を舵床に捻りつけて淺瀬を漕ぐ船〔20.船一：搖羅船〕

— **yokto akū** Yokto akū に同じ〔17.羞愧：沒趣〕

Yoloju 奇獸の名．鹿吳山に出づ，西藏犬に似，角あり，人を食ふ〔補4.異獸一：鬼雕〕

Yolokto 美しい斑紋のある啄木鳥〔30.雀一：花啄木〕

Yolonggi 火焰の中から舞ひ上る灰，煤〔23.烟火四：燄頭飛煤〕

Yombi 行く．共に行く〔15.去來：同行〕

Yondombi 入る．しつくり入る〔25.盈虛：容得下〕

Yondorakū (衣服などが) 身に合はぬ．うまく入らぬ〔彙：衣服等物穿容不下身子之不容〕

Yong seme ぼんやりと．ぼかんと (呆痴の貌)〔17.愚昧：獃癡〕

Yonggadun hoošan 木器等を磨くに用ひる砂紙〔7.文學什物一：砂紙〕

Yonggaji niyehe Alhari niyehe の別名．しまがも〔補4.鳥七：沙鷸〕

Yonggan 砂〔2.地輿一：沙〕

— **aisin** 惡質の金．不純の金〔22.貨財一：潮金〕

— **cibin** うみつばめ〔30.雀二：沙燕〕

— **feteku** はぜ〔32.河魚三：穿沙魚〕

Yonggari りんごの類〔28.果品一：沙果〕

Yonggor seme 水滾々として〔2.地輿十一：接流不斷貌〕

Yongkiri coko くひなの別名〔補4.鳥六：庸渠〕

— **inenggi** せきれい．いしたゝき〔補4.雀四：雝渠〕

Yongkiyabumbi 完全ならしめる〔26.完成：使完全〕

Yongkiyambi 完全になる．缺けた處が無くなる．完備する〔26.完成：全備〕

Yongkiyan 全備．全備の．完備の〔26.完成：全〕

Yongsikū 痴語妄談する者〔17.愚昧：胥說獃話〕

Yongsoho Fushaha に同じ〔19.賭戲：輸淨〕

Yongsu 〔6.禮儀：禮儀〕

Yongturu 事に當つて怯れず邁進する〔12.勇健：不怯向前〕

Yoo 1. 腫物〔16.瘡腫一：瘡〕2. 燒き物の窯〔彙：窯乃燒磚瓦磁器物〕

— **de hatame dejimbi** 窯に火を入れる〔彙：燒窯乃磚瓦磁物燒窯也〕

Yoonambi 腫物が出來る〔16.瘡腫一：生瘡〕

Yooni 全く．悉く．數を盡して〔18.完全：全〕

— **beye** 全身〔彙：全體〕

— **wacihiyaha sere afaha fulgiyan temgetu afaha** 稅金の假受け取り (朱書せるもの)〔續2.事務：通關硃鈔〕

Yoose 錠前〔25.器用一：鎖〕

Yooselabumbi 錠を掛けさせる〔21.開閉：使鎖住〕

Yooselakū umiyesun 締め金のある帶〔24.巾帶：搭簽帶〕

Yooselambi 錠を掛ける〔21.開閉：鎖住〕

Yor seme ぞろぞろと (珠數つなぎになつて行く貌)〔14.行走四：魚貫連行〕

Yordobumbi 鏑矢を射込まれる〔彙：

被射骰頭墩〕鏑矢を射込ます〔彙：使射骰頭墩〕

Yordombi 鏑矢を射る．鏑矢で射る〔8.歩射一：射骰頭〕

Yoro 鏑矢の鏃〔9.軍器五：骰頭〕

— gisun 空談．諺言〔14.言論一：諺言〕

Yoso Doro に同じ〔5.政事：道〕

Yoto 愚昧なれど身分ある者〔17.愚昧：傻公子〕

Yoyo ようよう（人の無能を嘲笑する言葉）〔15.鄙薄：笑人無能〕

Yoyohobi 貧窮甚しい〔13.貧乏：窮甚〕

Yoyokobi （彼は）非常に窮乏してゐる．窮乏してゐる人のことを他人が話す場合に用ひる言葉〔13.貧乏：窮蹙類〕

Yuburšembi 蟲が動く．蟲が這ふ〔32.蟲動：蟲拱動〕首をひつこめて只管後ずさりする〔彙：頭縮入頸只管往後退〕

Yumbi 1. 事に夢中になる．惑溺する〔17.滛黷：溺〕2. 入る．丁度うまく入る．Yondombi に同じ〔25.盈虛：容得下〕

Yumbu seme 洋洋と（大水の緩やかに流れる貌）〔2.地輿十一：大水緩流貌〕

Yumbumbi 善に導き就かせる〔7.文教：使滋進〕欺いて惡に陷れる〔17.欺哄：誘哄〕融化する．浸潤する〔彙：融化之．浸潤〕

Yumk'a 五聲の一．宮商角徵羽の羽〔7.樂二：羽〕

Yumpi 夢中になつて．惑溺して〔17.滛黷：貪溺〕

Yun 轍(ᵍᵘⁱ)〔19.街道：車轍〕

Yungkebi 1. 夢中になつた．惑溺した〔17.滛黷：貪溺了〕2. 色が浸み透つた〔26.油漆：染透〕

Yungturu jangkū 背厚くして硬軟何れを切るにもよろしき刀．剛刀．太身の刀〔補1.軍器一：桪蒸刀〕

Yur seme ちよろちよろと（細流の休みなく流れる貌）〔2.地輿十一：細水長流貌〕

Yuryu 奇獸の名．磽山に出づ，馬に似て，四角，羊目，牛尾犀は犬の吠えるに似たり〔補4.異獸三：犀犀〕

Yutu 重量の單位名．Itele（模糊）の十分の一〔補3.衡量：逡巡〕

Yuwamboo 馬蹄銀〔彙：元寶〕

Yuwan 1. 硯〔7.文學什物二：硯〕2. さる〔彙：猿有黑白黃紅等色〕3. 大龜〔彙：龍〕

— aihūma 大龜〔彙：龍乃嶺類者生於江頭〕

Yuwanšuwai 官名〔彙：元帥〕

Yuyumbi 食絕え饑えきる〔13.饑饉：饑餓〕

Yuyun 饑饉〔13.饑饉：饉〕

Yuyure beyere 饑え凍へる．饑寒の〔彙：饑寒〕



滿和辭典

昭和47年７月15日　印刷
昭和47年７月20日　発行

定価 5,000円

編　者　羽田　亨
著作権者　羽田　明
発行者　緋本雪雄
発行所　国書刊行会
東京都豊島区北大塚１－11－19
電話（917）8287
印刷所　セイユウ写真印刷KK
製本所　今泉誠文社

落丁乱丁が有りましたらおとりかえいたします。